

ドイツ語 異邦人

DER FREMDE



2019/03/24～

2026/06/04

三浦 高志

参考文献等

参考文献等

ドイツ語版テキストはインターネットからダウンロード

<https://docplayer.org/21308194-Albert-camus-der-fremde-s-c-by-anybody.html>

(現在は、ダウンロードできない)

DER FREMDE s&c by anybody

ISBN 3 499 10432 6

フランス語原書 L'ÉTRANGER 1967 年 9 月 ガリマール社 出版番号 : 12784.

対訳 フランス語で読もう「異邦人」

2012 年 10 月 20 日初版発行 著者 アルベール・カミュ

訳注者 柳沢文昭 発行所 (有)第三書房

構文解析期間 2019/03/24～2026/06/04

三浦 高志 Takashi Miura



文の構成要素と構文解析の書式

文法書によると、日・伊・西・仏・独・英などの言語では異なる文法用語が使用されているが、この文書では英語の文法用語を基本として、独自解釈も交えて構文解析を行う。

「文」は「主語」、「動詞」、「目的語」、「補語」、「副詞」及び「形容詞」で構成される。また「接続詞」や「関係代名詞」などは「文」と「文」を接続してより複雑な文を構成するために使用される。

文の構成要素と単語の品詞についておおまかに説明する。

「名詞」は事物の名称・状態・性質・存在などの概念を表す単語である。

「形容詞」は事物の性質・状態、人間の感覚・感情などを表す語で「名詞」を修飾する。

「副詞」は事物の状態・性質・程度や時刻・場所などを表し、「動詞」を修飾したり、他の「副詞」や「形容詞」を修飾する。

「句」は2つ以上の単語が集まって「名詞」、「形容詞」、「副詞」あるいは「動詞」の役目をするもの。それぞれ「名詞句」、「形容詞句」...などと表す。例えば、
「名詞句」は「形容詞+名詞」、「名詞+名詞」などによって作られ、
「形容詞句」は「副詞+形容詞」、「前置詞+名詞」などによって作られ、
「副詞句」は「副詞+副詞」、「前置詞+名詞」などによって作られ、
「動詞句」は「動詞+前置詞」、「動詞+副詞」、「助動詞+動詞」によって作られる。

「節」は2つ以上の単語が集まって「主語」と「動詞」を含む文を構成して、全体の中で「名詞」、「形容詞」または「副詞」の役割をする。従属節と呼ばれる。それぞれ「名詞節」、「形容詞節」および「副詞節」と表す。

2つの節が対等に結合される場合は等位節と呼ぶ。(英語で **and** や **but** で結合)

「主語」は「動詞」の動作・作用の主体を表す「名詞・句・節」または「代名詞・句」。

「動詞」は事物の動作・作用・状態・存在などを表す。

「直接目的語」は動詞の表す動作の対象となる人・物を表す「名詞・句・節」。

「間接目的語」は動詞の表す動作によって動作主または「直接目的語」が移動または状態変化する場所または動作の目的・結果を表す「名詞・句・節」または「副詞・句・節」。

注意：英語の文法書では、「間接目的語」は「直接目的語」と共に用いられることになっているが、この文書では「間接目的語」が単独で用いられる場合がある。すなわち、「主語」「動詞」「直接目的語」と「主語」「動詞」「間接目的語」の構文がある。

「補語」は「主語」または「目的語」の性質・状態を表す「名詞」・「形容詞」・「副詞」。

名詞・性と数

「名詞」は人または事物の名称を表す語であり、文中で「主語」、「直接目的語」、「間接目的語」または「補語」として用いられる。時には、他の「名詞」を修飾する「形容詞」として利用されたり、「時」や「場所」に関する「副詞」として利用されることがある。

「名詞」が「動詞」のように利用されて「前進！」のような命令文が作られることもある。

さらに、「名詞」として辞書に載っている単語だけでなく、「動詞」や「形容詞」または「副詞」が「名詞」的に利用されることもあるので、「名詞」の出現頻度は高い。

「代名詞」は「名詞」の代わりをする語である。代名詞を利用することで、文中に同じ単語が何度も現れるのを防いで、文を明確化することができる。

「名詞句」や「名詞節」も文中で「名詞」と同様の機能として使われる。

「名詞」は数えられる名詞「可算名詞」と数えられない名詞「不可算名詞」に分けられ、可算名詞は「普通名詞」と「集合名詞」に、不可算名詞は「固有名詞」、「物質名詞」と「抽象名詞」に分けられる。

「普通名詞」は「本」、「猫」、「机」など同じ種類の個体を多数持っているものに与えられる名称で、単数か複数かという区別を必要とする。単数の場合は「不定冠詞」か「定冠詞」を付けるのが原則である。

「集合名詞」は「委員会」、「家族」、「警察」のように人・動物・物などの集合体を指す名詞である。

「固有名詞」は「富士山」、「パリ」、「ニュートン」などのように、人・場所・事物などに固有の名称である。本来一つしかないものなので不定冠詞をつけたり、複数形にすることは原則としてない。定冠詞を付ける場合と付けない場合がある。

「物質名詞」は「空気」、「水」、「ワイン」のように物質を表す名称で、一定の形を持たず、また特別な容器を用いない限り、個々には独立して存在しない。不可算名詞なので、不定冠詞は付かないし、複数形にもならない。

「抽象名詞」は「親切」、「愛」、「悲しみ」、「真理」のように、具体的な形を持たない抽象的な概念を示す名称である。抽象名詞も数えられないから、不定冠詞は付かないし、複数形にもならない。

イタリア語・スペイン語・フランス語・ドイツ語などでは、「名詞」に付属する冠詞・形容詞は名詞と性・数の一致が必要となり、「名詞」に関する「動詞」は名詞と数の一致が必要になる。

文の構成要素と構文解析の書式

「直接目的語」と「間接目的語」

「僕は君にこの本をあげる」という文は、「主語：僕（は）」、「間接目的語：君に」、「直接目的語：この本（を）」、「動詞：あげる」という構成要素から作られている。そして、「動詞：あげる」の動作において動作の主体が操作・加工する対象となるものが「直接目的語：この本（を）」である。「間接目的語：君に」は「直接目的語」（または「主語」）の移動先（抽象的な概念の場所も含む）を表しており、動作の主体が操作・加工する対象ではない。

「直接目的語」は動作の主体が操作・加工する対象を示すと考えると、「人」や「物」を表す「名詞」類が使用されることが分かる。

「間接目的語」は「直接目的語」または「話者自身」の移動先を示す場所であると考え、場所を表す「人」や「物」または「場所を表す空間」を表す「名詞」類または「副詞」類が使用されることが分かる。参考：「私は両親に従う。」の「両親」は「両親の希望・意見などの抽象的な概念の場所」を表す「間接目的語」である。「間接目的語」が名詞・代名詞ならこれを「主語」として受動文を作れるが、副詞類なら受動文を作れない。

注意：一般の文法書では、「自動詞+前置詞+名詞」の「名詞」を前置詞の「目的語」と説明しているが、この文書では「前置詞+名詞」または「前置詞+副詞」を「間接目的語」と解釈して構文解析を進める。この方が文章を理解しやすいと判断したからである。

この方法によると、「私は学校へ行く」は自動詞の「行く」と前置詞が付いた「学校へ」が使われており、「学校へ」が「間接目的語」と構文解析されることになる。

しかし、一般の文法書の解説とは異なるので、学校の試験などでは間違いとされる恐れがあることを注意する必要がある。しかし、フランス語の文法はこの解釈に近い。

まとめ：「直接目的語」は「名詞」類が使われる。「～を」

「間接目的語」は「名詞・副詞」類が使われる。「～の所へ、～のために、～にとって」

形容詞

「名詞」、「代名詞」を修飾・限定するものを「形容詞」という。「形容詞」は事物の性質・状態、人間の感覚・感情などを表す語で「名詞」を修飾する。

「形容詞」類の例示：

代名詞：「私の本」、「この本」、「数冊の本」、「どんな本」の下線を付けた語句。

冠詞：「一冊の本」、「その本」の下線を付けた語句。

分詞：「眠っている赤ん坊」、「失われた時間」の下線を付けた語句。

名詞：「空軍」、「石橋」のように「名詞」+「名詞」の語句。

形容詞句：「籠の中の鳥」の下線を付けた語句（前置詞で導かれる）。

形容詞節：「これはパリで買った指輪です」の下線を付けた語句（関係代名詞で導かれる）。

まとめ：「形容詞節」を含む「形容詞」類は「名詞」類の前後に使用される。

不定冠詞

「形容詞」類の一つである。様々な意味に使われる。

1. どれでもよい、不定の人や物の一つを指す。
2. ある具体的な一つの物（人）を指す。
3. 一つの～という意味をはっきり示す。
4. ～につきの意味を示す。
5. 或る～の意味で用いる。

話の中で初めて述べる「名詞」には不定冠詞を付けて内容を説明して、二度目以降では定冠詞を付けて使う。

定冠詞

「形容詞」類の一つである。加算名詞・不加算名詞を問わず、全ての名詞の前に付けることができ、その名詞が何らかの意味で特定されたものであることを示す。

1. 先に出た「不定冠詞+名詞」を指す場合。
2. すでに述べられた事柄に関連して特定される場合。
3. 周囲の状況からそれと分かる場合。
4. ただ一つしかないものを指す場合。
5. 最上級や唯一的な意味で限定された名詞に付ける。
6. 修飾語句によって限定される場合。
7. 楽器を代表的に指す場合

副詞

「副詞」は事物の状態・性質・程度や時刻・場所などを表し、「動詞」を修飾したり、他の「副詞」や「形容詞」を修飾する。しかし、名詞・代名詞、句や節または文全体を修飾・限定することもある。

まとめ：「副詞」類は修飾する語句の近くに置かれるので、「文頭」、「主語」の前後、「動詞」の前後、「補語」の前後、「文末」のように、文中いたる所に使われる。

比較

「形容詞」や「副詞」は性質・様態・数量などの程度を表すが、他の物との間の程度の違いを比較・表現する場合は語形を変えてそれを示す。この語形変化を比較といい、原級、比較級、最上級の語形と慣用句がある。

文の構成要素と構文解析の書式

補語

「補語」は文中で「主語」や「目的語」の性質・状態・動作を補足説明する語句である。

「彼は親切だ」、「私は学生だ」など「主語+動詞+補語」の形式で表される文では、下線部分の事を「補語」といって、「補語」は「主語」の性質・状態を補足説明している。

また、「私は彼が親切だと分かった」のように「主語+動詞+目的語+補語」の形式で表される文では、下線部分の事を「補語」というが、こちらは「主語」ではなく「目的語」（二重下線部分）を補足説明している。「補語」は主に「名詞」類または「形容詞」類が使われる。

しかし「彼はパリ出身だ」、「この本はカルロスのものだ」、「このテーブルは木製だ」などの文を「～である」を表す「動詞」を使って表現すると、下線部分は「副詞句」となる。

この「副詞句」も「主語」の性質・状態を補足説明しているので「補語」である。

参考：「私は彼が全力を尽くすことを期待している。」は「主語」「不完全他動詞」「目的語」「補語」の構文によって「補語」が「目的語」の動作を補足説明している。

「補語」が必要な「動詞」は「～である」、「～になる」、「～と感じる」、「～と思われる」などの意味の「動詞」である。

まとめ：「補語」は「動詞・名詞・形容詞・副詞」が使用され性質・状態・動作を補足する。

動詞

「動詞」は人や様々な事物の動きや状態を述べる語である。

「主語」は「動詞」の動きを実行する主体である。

「動詞」の種類について：

完全自動詞：「主語」が「動詞」の動作を実行する。

不完全自動詞：「動詞」と「補語」によって「主語」の性質・状態を補足説明する。

完全他動詞：「主語」が「直接目的語」に対して「動詞」の動作を実行する。

間接他動詞：「動詞」と「間接目的語」で「主語」の移動先を示す。（フランス語文法）

授与動詞：「主語」が「間接目的語」に対して「直接目的語」を与える。

不完全他動詞：「目的語」の性質・状態を「補語」によって「動詞」で表現したり、「補語」で示される動作を「目的語」に対して「動詞」で表現する。

助動詞

「助動詞」は「動詞」と結びついて可能「～する事が出来る」、推量「～するかもしれない」、義務「～しなければならない」など、話し手の判断や心理を表す表現を追加する「法助動詞」とそれ自身は特に意味を持たず現在分詞・過去分詞と結びついて進行形・受動態・完了形などの時制・態を形成する助動詞がある。

疑問詞

「誰」、「何」、「どこ（場所）」、「いつ（時）」、「どちら（選択）」など文を形成する要素の一部分を話し相手に質問する時に、質問の種類を知らせるための語を「疑問詞」という。

「疑問詞」は文の中で、「主語」、「目的語」、「補語」または「副詞」類として機能するが、どの場合でも文頭におかれて、最初に質問の種類を明らかにする役目を果たす。

「疑問代名詞」、「疑問形容詞」および「疑問副詞」の3種類がある。

接続詞

「接続詞」は文中の語・句・節を接続する。

「等位接続詞」は文法上の働きが対等の関係にある語・句・節を結び付ける。

「従属接続詞」主節の一部として、全体で一つの名詞または副詞の働きをする節を導く接続詞を従属接続詞と呼ぶ。

「従属接続詞」+「節」→「従属節」となり、「従属節」が「名詞節」または「副詞節」として働くことになる。

まとめ：「語・句・節」+「等位接続詞」+「語・句・節」の形式で使用される。

「主語」+「動詞」+「従属接続詞」+「節」の形式で使用される。

関係詞

文中の「主語」、「目的語」または「補語」に対して説明を加える場合に、それを「先行詞」として、説明に適当な「関係詞」に続いて説明の「節」を置くことで、説明の行き届いた文を作ることができる。「先行詞」は「節」の中で「主語」、「目的語」または「補語」として機能する。

まとめ：「関係代名詞」は「名詞」類を修飾する「形容詞節」を導く。

「関係副詞」は「時」や「場所」を修飾する「副詞節」を導く。

前置詞

「名詞」・「代名詞」の前に置いて、それらと共に全体として一つの品詞の働きをする語。前置詞と結びついた語句の品詞によって、「形容詞句」または「副詞句」として機能する。

「形容詞句」は「名詞」と結びついて「名詞句」を構成して、文中で「主語」、「目的語」または「補語」として機能する。

「副詞句」は文全体や「動詞」・「形容詞」を修飾したり、「間接目的語」として機能する。

文の構成要素と構文解析の書式

構文解析の書式

構文解析は文を構成要素ごとに区切りを付けて、「主語」、「動詞」、「目的語」、「補語」、「副詞」および「形容詞節」に分類して、文がどのように構成されているかを分かり易く示すことが目的である。

しかし「形容詞節」は「主語」、「目的語」などと一体化されて、「主語」または「目的語」として分類することが多い。（「形容詞節」は名詞句の一部になる）

「目的語」は必要に応じて「間接目的語」と「直接目的語」を明示する。

本文書では、日本語の文を最初に示してから、次の行に外国語の文を示す。そして、外国語の文の後ろまたは次の行に文全体の構成要素を示す。さらに、その次の行からは、各構成要素の語句ごとにその読み、語句の品詞（「動詞」の場合はその活用も表記）、日本語の意味、構成要素名を1行から3行程度のスペースを使用して表示する。

複数の語が集まって「主語」、「動詞」、「目的語」または「補語」が作られる場合には、それぞれの単語の読み、品詞、意味を表示する場合がある。この場合には、次の書式に従って表示する。

「語句」「読み」「品詞の記号」「意味」（「構成要素名」）

「品詞の記号」

名詞：男性名詞 n.m、女性名詞 n.f

代名詞：pron、pron.f.のように性別を追加することがある。

形容詞：男性形容詞 adj.m 女性形容詞 adj.f

複数：pl.（名詞、代名詞と形容詞の品詞記号の前または後ろに置く）

副詞：adv、「構成要素名：修飾する語句」の形式で説明を加える。

動詞：接続法・1人称単数現在なら接・1単現のように表記、自動詞 v.i、他動詞 v.t

動詞句：否定詞+動詞、助動詞+動詞、助動詞+過去分詞、動詞+不定詞など複数の動詞関連語句は、動詞としての機能と自動詞／他動詞の区別などを示す

注意：動詞の未来、過去または完了形の場合、<「原形」の形式で示すときは原形の意味を表示するが、「原形」を示さない場合は未来、過去または完了形の意味を表示する。

注意：ドイツ語は定動詞要素は文末に置かれるので、動詞句は文中と文末に置かれる。

接続詞：conj. 接続詞は単語そのものを表示する

前置詞：prep

複数の単語によって名詞句などが作られる場合には、複数の単語の品詞を表示してから、→「複数単語の語句」、品詞記号、意味、構成要素名の形式で表示する。

数字は読みのスペルをカッコ内に表記した。

構成要素には「主語」、「動詞」、「目的語」、「補語」、「副詞」、「形容詞」のように下線を追加した。「補語」、「副詞」および「形容詞」は同じ下線である。また、「間接目的語」と「直接目的語」も同じ下線である。「動詞句」は「動詞」と同じ下線である。

構文解析の例

2 週間の間、風邪のために喉が痛い。

Ich habe an den Schnupfen über zwei Wochen Halsschmerzen.

「主語」「動詞」「副詞句」「目的語」

habe ハーベ 1 単現 < haben v.t (痛みなどが) ある

「動詞」

an den Schnupfen アン・テン・シュヌッフ フェン adv. 風邪によって

über zwei Wochen ユーバー・ツヴァイ・ウー・オッヘン adv. 2 週間

→ an den Schnupfen über zwei Wochen 風のため 2 週間

「副詞句 : habe」

Halsschmerzen ハルスシュメルツェン n.m pl. 4 格 喉の痛み

「目的語」

今日はイタリア語とスペイン語で日記を書くために参考書を 2 冊買った。

Heute habe ich 2..(zwei)..Nachschlagebücher gekauft, damit ich in Italienische und in Spanische ein Tagebuch führe.

「副詞」「動詞句」「主語」「目的語」「動詞句」

, damit 「主語」「副詞句」「目的語」「動詞」

Heute ホテ adv. 今日、現代では

「副詞」

habe ... gekauft ハーベ ... ゲ・カフト 1 単現・完了形 買った

「動詞句」

ich イヒ pron 私は

「主語」

2 Nachschlagebücher ツヴァイ・ナーシュラーゲ・ビュヒャー n.n pl. 4 格 2 冊の参考書

「目的語」

damit ダミット conj. (定動詞は後置) ~するために

in Italienische und in Spanische イン・イタリエニッシェ・ウント・イン・シュパニッシェ

adv. イタリア語とスペイン語で

「副詞句 : führe」

ein Tagebuch アイン・ターゲブーフ n.n 4 格 日記を

「目的語」

führe フューレ 1 単現 < führen フューレン v.t (日記に) 記録する

「動詞」

山栗が 430g とナスが 2 本採れた。

Ich sammelte 430 (vierhundert dreissig) Gramm der wilden Kastanien und erntete 2 (zwei) Eierpflanzen.

「主語」「動詞」「目的語」 und 「動詞」「目的語」

sammelte サメルテ 1 単過 < sammeln v.t 収集する

「動詞」

430 g der wilden Kastanien フィーフンダート・トライスィヒ・グラム・デア・ウィルデ・ン・カスタンエン

n.f 山栗を 200g

「目的語」

und ウント conj. それから

erntete エルンテテ 1 単過 < ernten v.t 収穫する

「動詞」

2 Eierpflanzen ツヴァイ・アイアーフ・フランツェン n.f pl. 4 格 茄子を 2 個

「目的語」

文の構成要素と構文解析の書式—終わり

目次

参考文献等.....	2
文の構成要素と構文解析の書式.....	3
名詞・性と数	4
「直接目的語」と「間接目的語」	5
形容詞	5
不定冠詞	6
定冠詞.....	6
副詞	6
比較	6
補語	7
動詞	7
助動詞	7
疑問詞	8
接続詞	8
関係詞	8
前置詞	8
構文解析の書式.....	9
構文解析の例.....	10
文の構成要素と構文解析の書式－終わり	10
目次.....	11
Zu diesem Buch	17
ERSTER TEIL 第 1 部.....	19
I.....	20
フランス語の原文では :	21
マランゴ Marengo :	21
フランス語の原文では :	22
名詞の複数形 :	33
語尾 -erei.....	39
フランス語の原文では :	39
フランス語の原文では :	47
柩と棺 ひつぎ	48
フランス語の原文では :	53
was für ein ... ヴァス・フューア・アイン adj. どのような... ..	55
フランス語の原文では :	56

目次

フランス語の原文では :	75
フランス語の原文では :	114
同じ単語を避ける.....	115
虫の音 (むしのね) は虫の鳴き声のこと。	128
葉擦れ (はずれ)	128
II	147
うなじ.....	155
フランス語の原文では :	166
バルコニー、ベランダ、テラス.....	170
郊外	180
III.....	193
愛想 (あいそう、あいそ)	193
船荷証券.....	195
びっしり	205
疥癬症.....	208
フランス語の原文では :	211
フランス語の原文では :	226
ドイツ語 名詞の 3 格と 4 格.....	230
アンサンブル.....	240
名詞の格とその用法 :	240
思い切り	245
ぶちまける	245
ドイツ語の 3 格と 4 格.....	253
まぶだち	265
階段室.....	271
IV	273
愛嬌を振りまく	291
愛想を振りまく	291
フランス語の原文では :	299
間接話法.....	301
フランス語の原文では :	312
練兵場 れんぺいじょう.....	313
屋台 (やたい)	313
縄抜け名人	313
階段の踊り場.....	319
V.....	326

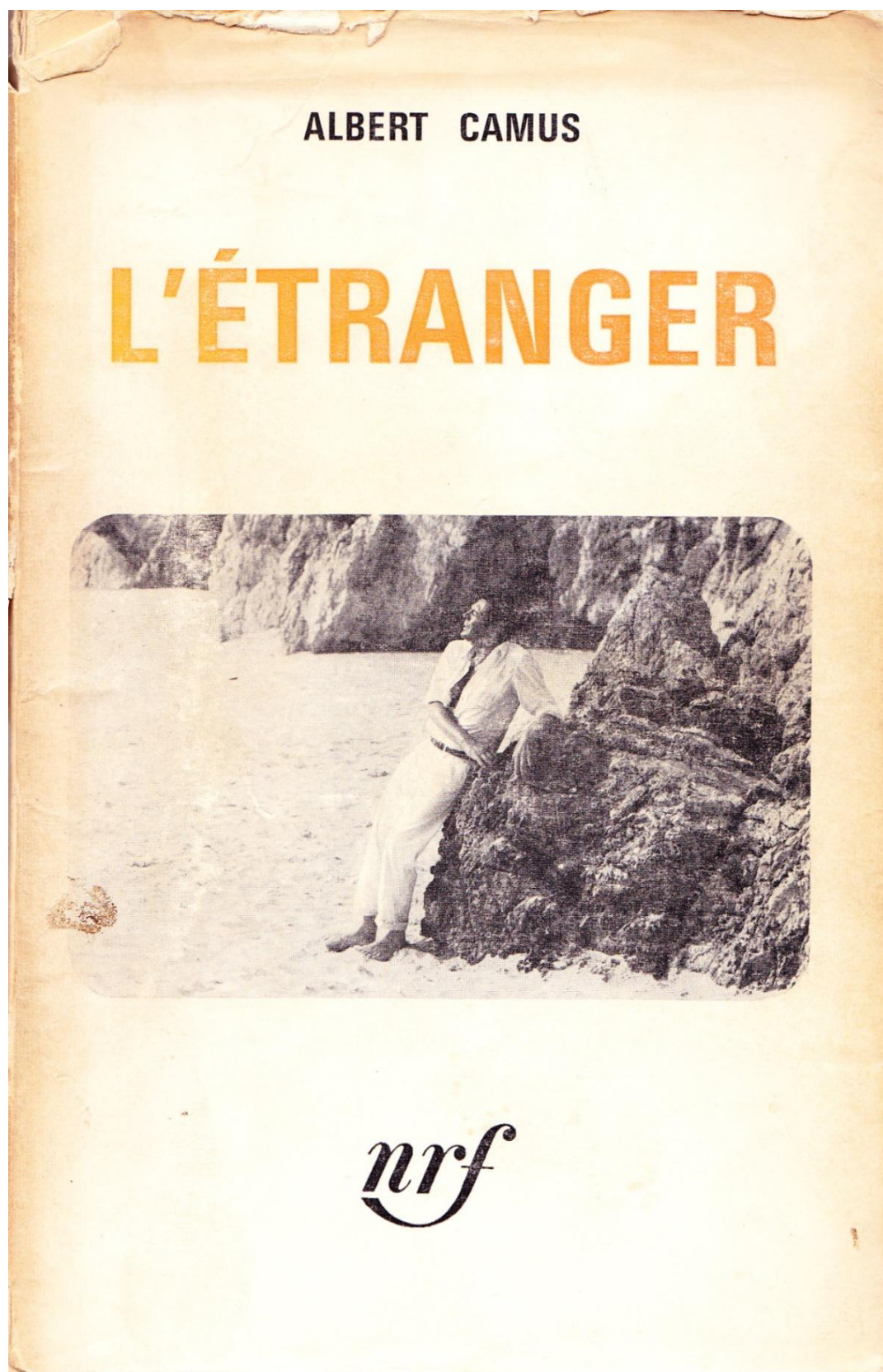
目次

フランス語の原文では :	330
kennen と wissen の違い.....	373
VI.....	378
前腕 (ぜんわん)	384
ほど近い	393
タマリスク	395
フランス語の原文では :	397
welch.....	398
フランス語の原文では :	399
フランス語の原文では :	446
フランス語の原文では :	462
フランス語の原文では :	466
フランス語の原文では :	470
ZWEITER TEIL 第2部	478
I.....	479
緞帳 どんちょう	484
カーテン	484
フランス語の原文では :	493
ボイルのカーテン.....	505
3 格支配動詞.....	511
フランス語の原文では :	536
II	544
フランス語の原文では :	566
フランス語の原文では :	581
フランス語の原文では :	583
III.....	617
sein+zu 不定詞.....	621
フランス語の原文では :	631
フランス語の原文では :	692
フランス語の原文では :	693
zu 不定句.....	699
IV	733
werden の過去分詞.....	744
moralisch	760
禁固刑と懲役刑	792
恩赦と上訴	795

目次

V.....	802
weigen 用法.....	802
ドイツ語 名詞 2 格の用法	829
Ende	916

注意：この文書は構文解析を用いて、外国語の文章を日本語に翻訳する方法を示して、外国語学習者の文法理解を多少なりとも支援するために作成した参考資料です。
翻訳は辞書に載っている単語や熟語などの意味と構文解析に基づいて、文章の意味を日本語に訳したものであり、文学作品の文章として翻訳している訳ではありません。



Albert Camus

DER FREMDE

Titel der französischen Originalausgabe «L'Etranger» Übertragen ins Deutsche von
Georg Goyert und Hans Georg Brenner

Umschlagentwurf Werner Rebhuhn

604.-631.Tausend September 1983

Veröffentlicht im Rowohlt Taschenbuch Verlag GmbH Reinbek bei Hamburg,
Juli 1961

Copyright © 1957 by Karl Rauch Verlag GmbH, Düsseldorf «L'Etranger» ©

Librairie Gallimard, Paris, 1953

Gesetzt aus der Linotype-Cornelia Gesamtherstellung Clausen & Bosse, Leck

Zu diesem Buch

Zu diesem Buch

Die hier vorliegende Erzählung entstand 1940. Das frühe Meisterwerk schildert in einer Sprache von kristallener Härte und Klarheit die Geschichte eines jungen Franzosen, der unter der unerbittlichen Sonne Algiers bar aller Bindung ohne Liebe und Teilnahme gleichgültig dahinlebt, bis ihn ein lächerlicher Zufall zum Mörder macht. Im Scheitern seiner scheinbar absolut freien Existenz erfährt er, daß Leben Miterleben heißt. Schon in diesem Werk zeigt sich Camus' geniale Gabe, mit einer äußerst geringfügigen Fabel ein In-der-Welt-Sein so zu umgreifen, daß das Einzelschicksal ins Symbolische erhöht wird.

1957 hatte Albert Camus den Nobelpreis erhalten. Am 4. Januar 1960 kam er bei einem Autounfall ums Leben. Sein Tod bedeutete das Verstummen einer der literarisch und moralisch gewichtigsten Stimmen Europas. Camus wurde am 7. November 1913 als Sohn einer Spanierin und eines Elsässers in Mondovi/Nordafrika in kärglichen Verhältnissen geboren. Als Werkstudent besuchte er die Universität Algier. In Algier gründete er auch eine einflußreiche Theatergruppe und ließ seine beiden ersten Essay-Bände «L'Envers et l'Endroit» (1937) und «Noces» (1938) erscheinen. Auf Reisen lernte er viele Länder Europas kennen. Während der deutschen Besetzung wirkte er an einer Schule in Oran und schrieb in der illegalen Widerstandspresse, um das Gewissen der Nation zu wecken. Sein zeitkritisches Denken und Handeln führte ihn in die Nähe Sartres und seines Existentialismus. Es entstand «Der Mythos von Sisyphos» (rde Bd. 90), in dem Camus' Vorstellung vom

«Menschen, der in einer absurden Welt auf sich selbst zurückgeworfen dennoch durchhalten müsse», philosophischen Ausdruck fand. Schon sein berühmter Roman «Die Pest» (rororo Nr. 15) zeigt einen deutlich konstruktiven Pessimismus, dem es um ethische Maßstäbe geht. Sein 1951 veröffentlichter großer Essay «Der Mensch in der Revolte» (rororo Nr. 1216), eine historische Analyse der Revolution, brachte ihn schließlich in schärfste Gegnerschaft zu Jean-Paul Sartre. Die 1956 erschienene Erzählung «Der Fall» (rororo Nr. 1044) und «Jonas oder Der Künstler bei der Arbeit. Gesammelte Erzählungen» zeigen Camus auf eigenem Weg zu einem nachchristlichen Selbstverständnis des Menschen, ein Weg, den er nicht mehr vollenden sollte. Auch in seinen Dramen «Das Mißverständnis», «Caligula», «Der Belagerungszustand», «Die Gerechten» und «Die Besessenen» (in: «Dramen») erfaßte Camus die widerspruchsvolle Absurdität des Daseins und suchte sie zu überwinden. Die beiden Bände «Fragen der Zeit» (rororo Nr. 4111) und «Literarische Essays» fassen die wichtigsten Essays von Camus zusammen. Ferner liegen vor:

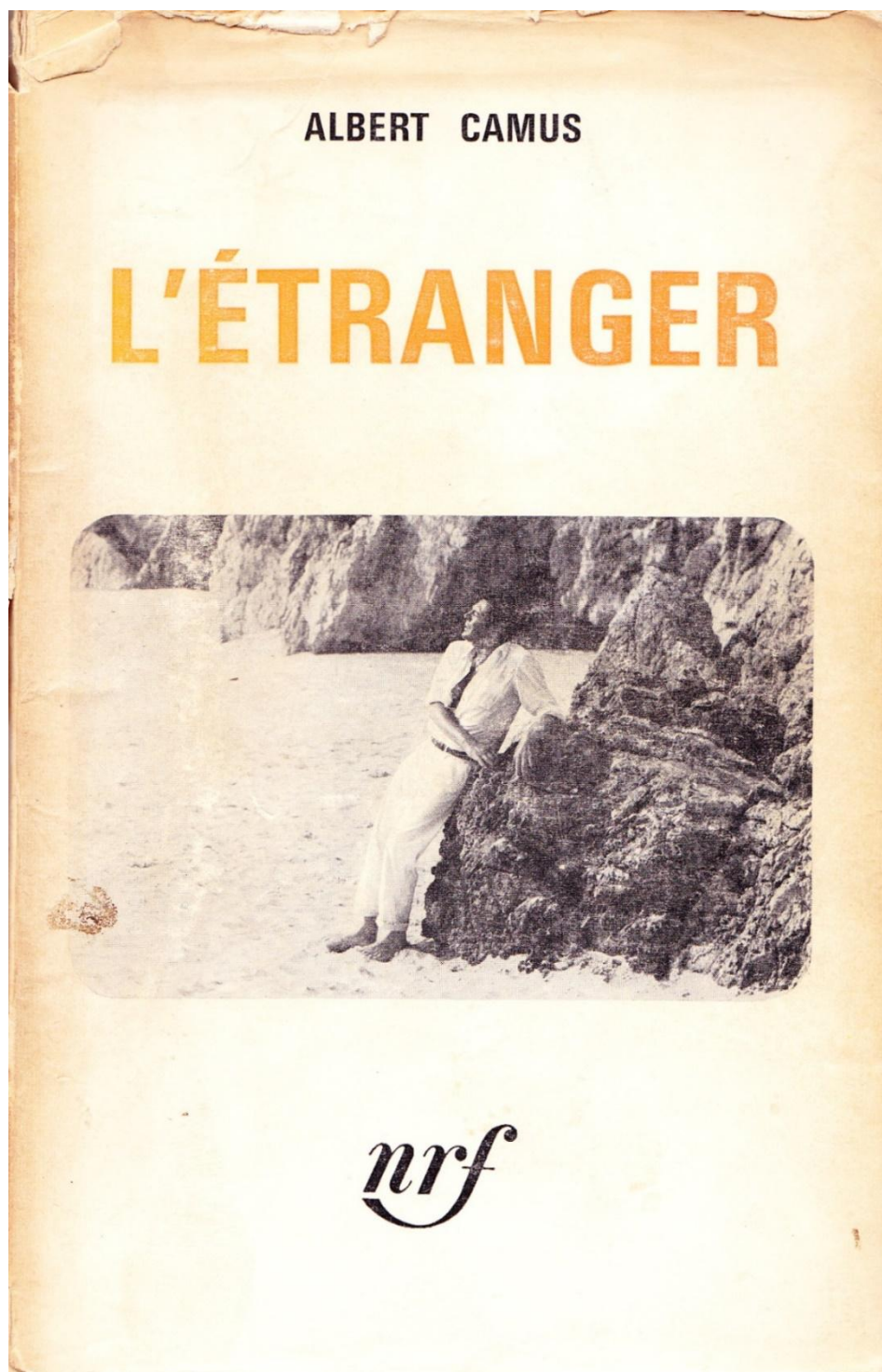
Zu diesem Buch

«Kleine Prosa» (rororo Nr. 411), «Verteidigung der Freiheit» (rororo Nr. 1096), «Tagebücher 1935-1951» (rororo Nr. 1474) und «Der glückliche Tod» (rororo 5152).

In der Reihe «rowohlts monographien» erschien als Band 50 eine Darstellung Albert Camus' in Selbstzeugnissen und Bilddokumenten von Morvan Lebesque, die eine ausführliche Bibliographie enthält.

ALBERT CAMUS
DER FREMDE

ERSTER TEIL 第1部



ERSTER TEIL 第1部

I

今日、母さんが死んだ。

Heute ist Mama gestorben. 「副詞」「動詞句」「主語」「動詞句」
 Heute ホイ adv. 今日 「副詞」
 ist ...gestorben. イスト...ゲシュトアベン 3 単現・完了形(sterben)v.i 死んだ 「動詞句」
 Mama ママ n.f 母さんが 「主語」

もしかしたら昨日かもしれないが、よく分からない。

Vielleicht auch gestern, ich weiß es nicht. 「副詞句」, 「主語」「動詞句」「目的語」「動詞句」
 Vielleicht フライヒト adv. もしかしたら、ひょっとしたら 「副詞」
 auch gestern, アウフ・ゲスターン adv. 昨日かも 「副詞句」
 ich イヒ pron 僕は 「主語」
 weiß ...nicht. ヴァイス...ニヒト 1 単現・否定(wissen)v.t 分からない、知らない 「動詞句」
 es エス pron それ 「目的語」

養老院から電報をもらった。

Aus dem Altersheim bekam ich ein Telegramm: 「副詞句」「動詞」「主語」「目的語」
 Aus アウス prep (3 格と)(起点) ~から 「副詞句」
 dem Altersheim デーム・アルターシャ임 n.n.3 格 老人ホーム 「目的語」
 bekam ベカム 1 単過(bekommen)v.t もらった 「動詞」
 ich イヒ pron 僕は 「主語」
 ein Telegramm: アイン・テレグラム n.n.4 格 電報を 「目的語」

「ハハウエゴセイキョ ソウギアス オクヤミモウシアゲル」

«Mutter verschieden. Beisetzung morgen. Vorzügliche Hochachtung.»
 «「主語」「補語」 | 「主語」「補語」 | 「挨拶」»
 «Mutter ムッター n.f 母上が 「主語」
 verschieden. フェアシーテン adj. 亡くなった 「補語」
 Beisetzung バイセツツング n.f 葬儀は、埋葬 「主語」
 morgen. モアゲン adv. 明日 「副詞」
 Vorzügliche フォアチュークリツヒエ adj.f.1 格 卓越した 「形容詞」
 Hochachtung. ホーホアハツング n.f.1 格 尊敬 「挨拶」

ERSTER TEIL 第1部

これでは何も分からない。たぶん、昨日だ。

Das besagt nichts. Vielleicht war es gestern.

「主語」「動詞」「目的語」 | 「副詞」「動詞」「主語」「副詞」

Das ダス pron これは 「主語」
 besagt ベザート 3 単現(besagen)v.t 述べている 「動詞」
 nichts. ニッツ pron 何も～ない 「目的語」
 Vielleicht フライヒト adv. たぶん、おそらく 「副詞」
 war ヴァール 3 単過(sein)v.i ～ だった 「動詞」
 es エス pron それは 「主語」
 gestern. ゲスターン adv. 昨日 「副詞」

養老院はアルジェから 40 キロ離れたマランゴにある。

Das Altersheim liegt in Marengo, vierzig Kilometer von Algier entfernt.

「主語」「動詞」「副詞句」

Das Altersheim ダス・アルターシャ임 n.n.1 格 老人ホームは 「主語」
 liegt リークト 3 単現(liegen)v.i (場所を示す語句と) (動かずに) ある 「動詞」
 in Marengo, イン・マレンゴ adv. (区域) マランゴに 「副詞句」
 vierzig Kilometer フィルツィヒ・キロメター pl.n.m.4 格 40 キロメーター 「副詞句」
 von Algier フォン・アルジェ adv. アルジェから 「副詞句」
 entfernt. エントフェアント adj. 離れた 「形容詞」

フランス語の原文では：

養老院はアルジェから 80 キロメートル離れたマランゴにある。

L'asile de vieillards est à Marengo, à quatre-vingts kilomètres d'Alger.

→ vierzig Kilometer は achtzig Kilometer が正解

マランゴ Marengo：

北アフリカのアルジェリアの町（「異邦人」が出版された頃はフランス領）。一方、イタリア北部ピエモンテ州アレッサンドリア近郊の町マレンゴ Marengo において、ナポレオンは 1800 年にオーストリア軍とのマレンゴの戦いで勝利を収めた。同名だが全く異なる町。

2 時のバスに乗ろう。そうすれば午後のうちに着くだろう。

Ich nehme den Zwei-Uhr-Omnibus und komme am Nachmittag an.

「主語」「動詞」「目的語」 und 「動詞句」「副詞句」「動詞句」

Ich イット pron 僕は 「主語」
 nehme ネーメ 1 単現・意思(nehmen)v.t (乗り物に) 乗ろう 「動詞」
 den Zwei-Uhr-Omnibus デン・ツヴァイ・ウーア・オムニバス n.m.4 格 2 時のバスに 「目的語」
 und ウント conj. そして

ERSTER TEIL 第1部

komme ...an. コメ...アン 1 単現・推量(an|kommen)v.i 着くだろう 「動詞句」
 am Nachmittag アム・ナハミターク adv. (時間) 午後 「副詞句」

そうすると、すべきことはすべてやって、明日の晩には戻ってこられるだろう。

So kann ich alles erledigen, und morgen abend bin ich wieder zurück.

「副詞」「動詞句」「主語」「目的語」「動詞句」,und「副詞句」「動詞」「主語」「副詞句」

Soゾー adv. そうすると 「副詞」

kann ...erledigen, カン...エアーレディゲン 1 単現・可能(können+不定詞)

v.t (仕事を) やり遂げられる 「動詞句」

ich イヒ pron 僕は 「主語」

alles アレス pron (すべきことは) すべてを 「目的語」

und ウント conj. そして

morgen abend モアゲン・アーベント adv. 明日の晩に 「副詞句」

bin ビン 1 単現・推量(sein)v.i ~だろう 「動詞」

ich イヒ pron 僕は 「主語」

wieder zurück. ヴィーダー・ツュック adv. (元の場所に) また戻って 「副詞句」

フランス語の原文では：

すると通夜の番も出来るし、明日の晩には戻ってこられるだろう。

Ainsi, je pourrai veiller et je rentrerai demain soir.

僕は社長に2日間の休暇を願い出た；こういう理由なので彼も断れなかった。

Ich habe meinen Chef um zwei Tage Urlaub gebeten; bei einem solchen Anlaß konnte er ihn mir nicht abschlagen.

「主語」「動詞句」「直接目的語」「間接目的語」「動詞句」；

「副詞句」「動詞句」「主語」「直接目的語」「間接目的語」「動詞句」

Ich イヒ pron 僕は 「主語」

habe ...gebeten; ハーベ...ゲベテン 1 単現・完了形(bitten)

v.t(j-4 um et-4) (人-4 に何-4 を) 願い出た 「動詞句」

meinen Chef マイネン・シェフ n.m.4 格 社長に 「直接目的語」

um zwei Tage Urlaub ウム・ツヴァイ・ターゲ・ウアーラウプ adv. 2日間の休暇について 「間接目的語」

bei バイ prep (3格と) (状況・条件) ~の場合には 「副詞句」

einem solchen Anlaß アイネム・ゾルヒエン・アンラース n.m.3 格 こういう原因 「目的語」

konnte ...nicht abschlagen. コンテ...ニヒト・アップ シュラーゲン 3 単過・可能・否定(können+不定詞)

v.t(j-3 et-4 人-3 の何-4 を) 断れなかった 「動詞句」

er エア pron 彼は 「主語」

ihn イン pron.4 格 (Urlaub の代用) それを 「直接目的語」

ERSTER TEIL 第1部

mir ミア pron.3 格 僕の

「間接目的語」

しかし、彼は納得していないように見えた。

Aber einverstanden war er nicht, das sah man.

Aber 「補語」「動詞句」「主語」「動詞句」, 「目的語」「動詞」「主語」

Aber アーバー conj. しかし

einverstanden アインフェアシュタンデソ adj. 同意した、了解した

「補語」

war ...nicht, ヴァール...ニヒト 3 単過・否定(sein)v.i 〜でなかった

「動詞句」

er エア pron 彼は

「主語」

das ダス pron それを

「目的語」

sah ザー 3 単過(sehen)v.t 見た

「動詞」

man. マン pron 人は

「主語」

man は ich の代用として用いられることがある

僕はさらに言った：「僕のせいじゃありません」

Ich sagte sogar: «Ich kann nichts dafür.»

「主語」「動詞」「副詞」: 《「主語」「動詞」「目的語」「副詞」》

Ich イヒ pron 僕は

「主語」

sagte ザーケ 1 単過(sagen)v.t 言った

「動詞」

sogar: ザーガー adv. そのうえさらに

「副詞」

«Ich イヒ pron 僕は

「主語」

kann カン 1 単現(können)v.t できる

「動詞」

nichts ニヒツ pron 何も〜ない

「目的語」

dafür.» ダファー adv. するために

「副詞」

Ich kann nichts dafür. 私にはその責任はない。

彼は何も返事をしなかった。それで僕は、そんなことは言うべきではなかったと思った。

Er gab keine Antwort. Da fiel mir ein, daß ich das nicht hätte sagen sollen.

「主語」「動詞」「目的語」 | 「副詞」「動詞句」「間接目的語」「動詞句」, 「主語」

Er エア pron 彼は

「主語」

gab ガーフ 3 単過(geben)v.t 与えた

「動詞」

keine Antwort. カイネ・アントゥワート n.f.4 格 なにも返事を〜ない

「目的語」

Da ダー adv. それで

「副詞」

fiel ...ein, フィール...アイン 1 単過(ein | fallen)v.i (j-3 人-3 の) 心に浮かんだ

「動詞句」

mir ミア pron 僕の

「間接目的語」

daß ダス conj. 〜ということが

「主語」

ERSTER TEIL 第1部

ich イッヒ pron 僕は 「主語」
 das ダス pron そのことを 「目的語」
 nicht hätte sagen sollen. ニヒト・ヘッテ・ザーゲン・ゾレン 接 II・1 単現・完了形・妥当・否定
 (sollen+不定詞)v.t 言うべきではなかった 「動詞句」

僕が弁解する必要さえなかったのだ。

Ich brauchte mich ja nicht zu entschuldigen. 「主語」「動詞句」
 Ich イッヒ pron 僕は 「主語」
 brauchte ...nicht ブラウフテ...ニヒト 1 単過・否定(brauchen)
 v.t(+zu 不定詞 ~する) 必要がなかった 「動詞句」
 mich ja ...zu entschuldigen. ミヒ・ヤー...ツァー・エントシュルディゲン zu 不定詞(sich-4 entschuldigen)
 v.pr 弁解することさえ 「動詞句」

むしろ、彼のほうが僕にお悔みを言うべきだったのだ。

Vielmehr hätte er mir kondolieren müssen.
 「副詞」「動詞句」「主語」「間接目的語」「動詞句」
 Vielmehr フィールメアー adv. むしろ逆に 「副詞」
 hätte ...kondolieren müssen. ヘッテ...コントラーレン・ミュッセン 接 II・3 単現・完了形・必要・推測
 (müssen+不定詞)v.i お悔みを言うべきだった 「動詞句」
 er エア pron 彼が 「主語」
 mir ミアー pron 僕に 「間接目的語」

だが、あさって僕が喪服を着ているのを見れば、きっと彼はお悔みを言うだろう。

Aber das tut er sicher erst übermorgen, wenn er mich in Trauer sieht.
 Aber 「目的語」「動詞」「主語」「副詞句」, 「副詞節」
 Aber アーバー conj. しかし
 das ダス pron それを (お悔みを) 「目的語」
 tut トゥート 3 単現(tun)v.t する 「動詞」
 er エア pron 彼は 「主語」
 sicher スィッヒヤー adv. きっと、確かに 「副詞」
 erst übermorgen, エアスト・ユハー・メルゲン adv. あさってにようやく 「副詞句」
 wenn ウェン conj. ~するとき 「副詞節」
 er エア pron 彼が 「主語」
 mich ミヒ pron 僕を 「目的語」
 in Trauer イン・トラウアー adv. 喪服を着た 「補語」
 sieht. シー 3 単現(sehen)v.t 見る 「動詞」

ERSTER TEIL 第1部

差し当たり、母さんはまだ死んでいないような状況だ。

Einstweilen ist es fast noch so, als wäre Mama nicht tot.

「副詞」「動詞」「主語」「補語」

Einstweilen アインストヴァイルン adv. 差し当たり、今のところ

「副詞」

ist イスト 3 単現(sein)v.i ~である

「動詞」

es エス pron それは

「主語」

fast noch so, ファスト・ノッホ・ゾー adv. ほとんどまだそんな～ない

「補語」

als アルス conj. ~のような

「副詞節」

wäre ...nicht ヲェーレ...ニヒト 接 II・3 単現・否定(sein)v.i ~でない

「動詞句」

Mama ママ n.f 母さんは

「主語」

tot. トート adj. 死んだ

「補語」

しかし葬儀が終われば、すべてが正当性を帯びて、公認された事実になるだろう。

Nach der Beerdigung aber wird alles seine Richtigkeit haben und einen offizielleren Anstrich bekommen.

「副詞句」 aber 「動詞句」「主語」「目的語」 und 「目的語」「動詞句」

Nach ナーハ prep (3 格と) ~の後で

「副詞句」

der Beerdigung デア・ベアデアイクング n.f.3 格 埋葬、葬儀

「目的語」

aber アーバー conj. しかし

wird ...haben ヲィルト...ハーベン 3 単未・推測(werden+不定詞)v.t 持つだろう

「動詞句」

alles アルス pron.1 格 (単数中性) すべてが

「主語」

seine Richtigkeit サイネ・リヒチカイト n.f.4 格 正当性

「目的語」

und ウント conj. そして

einen offizielleren Anstrich アイネ・オフィツィエレン・アンシュトリヒ n.m.4 格 公式の外見を

「目的語」

bekommen. ベコメン 3 単未・推測(werden+不定詞)

v.t (状態などを) 持つに至るだろう

「動詞句」

僕は2時のバスに乗った。ひどく暑かった。

Ich nahm den Zwei-Uhr-Omnibus. Es war sehr warm.

「主語」「動詞」「目的語」 | 「主語」「動詞」「補語」

Ich イヒ pron 僕は

「主語」

nahm ナム 1 単過(nehmen)v.t (乗り物に) 乗った、(乗り物を) 利用した

「動詞」

den Zwei-Uhr-Omnibus. デン・ツヴァイ・ウーア・オムニバス n.m.4 格 2 時のバス

「目的語」

Es エス pron (非人称) 天気は

「主語」

war ヲェアル 3 単過(sein)v.i ~ だった

「動詞」

ERSTER TEIL 第1部

sehr warm. ゼーア・ヴァム adj/ ひどく暑い

「補語」

僕はいつものようにセレステのレストランで食事をした。みんなは僕のことをとても気の毒がってくれた。セレステは言った：「母親は1人しかいないからな」

Ich aß wie gewöhnlich im Restaurant, bei Celeste. Ich tat allen sehr leid, und Celeste sagte: «Man hat nur eine Mutter.»

「主語」「動詞」「副詞句」 | 「主語」「動詞」「間接目的語」「補語」,
und 「主語」「動詞」:《「主語」「動詞」「目的語」》

Ich イッヒ pron 僕は 「主語」
 aß アス 1 単過(essen)v.i 食べた、食事をした 「動詞」
 wie gewöhnlich ヴィー・ゲ・ヴェーノヒ adv. いつものように 「副詞句」
 im Restaurant, イム・レストアウー adv. レストランで 「副詞句」
 bei Celeste. バイ・セステ adv. セレステの 「副詞句」
 Ich イッヒ pron 僕は 「主語」
 tat タート 1 単過(tun)v.t 振舞った、～した 「動詞」
 allen アレン pron.pl(all).3 格 みんなに 「間接目的語」
 sehr leid, ゼーア・ライト adj. 気の毒な 「補語」
 → みんなは僕をととても気の毒がった
 und ウント conj. そして
 Celeste セステ n.m セレステは 「主語」
 sagte: サークテ 3 単過(sagen)v.t 言った 「動詞」
 «Man マン pron 人は 「主語」
 hat ハット 3 単現(haben)v.t ～がいる 「動詞」
 nur eine Mutter.» ヌーア・アイネ・ムター n.f 1 人の母親しか 「目的語」

店を出るとき、みなが僕を戸口まで送ってくれた。

Als ich aufbrach, begleiteten mich alle bis an die Tür.

「副詞節」, 「動詞」「目的語」「主語」「副詞句」

Als アルス conj. ～したとき 「副詞節」
 ich イッヒ pron 僕が 「主語」
 aufbrach, アウフ・ブラーフ 1 単過(auf|brechen)v.i 出発した、出た 「動詞句」
 begleiteten ベグライテテン 3 複過(begleiten)v.t 送った 「動詞」
 mich ミット pron.4 格 僕を 「目的語」
 alle アレ pron.pl(all / aller).1 格 皆が 「主語」
 bis an die Tür. ビス・アン・デー・チャー adv. 戸口まで 「副詞句」

ERSTER TEIL 第1部

定冠詞類 aller アラー すべての	男性名詞・単数 2格に[e]s	女性名詞・単数 名詞は無変化	中性名詞・単数 2格に[e]s	複数名詞・性別なし 3格にn
1 格 は(が)	aller Student すべての学生は(が)	alle Bluse すべてのブラウスは(が)	alles Kind すべての子供は(が)	alle Studenten すべての学生達は(が)
2 格 の	alles Studenten すべての学生の	aller Bluse すべてのブラウスの	alles Kindes すべての子供の	aller Studenten すべての学生達の
3 格 に	allem Studenten すべての学生に	aller Bluse すべてのブラウスに	allem Kind すべての子供に	allen Studenten すべての学生達に
4 格 を	allen Studenten すべての学生を	alle Bluse すべてのブラウスを	alles Kind すべての子供を	alle Studenten すべての学生達を

僕は少し当惑した。というのは、僕はまだエマヌエルの所に行って、黒のネクタイと腕章を借りなければならなかったからだ。

Ich war ein bißchen verlegen, denn ich mußte noch zu Emmanuel, um mir seinen schwarzen Schlips und seinen Armflor zu leihen. 「主語」「動詞」「補語」「副詞節」

Ich イット pron 僕は 「主語」

war ヴァール 1 単過(sein)v.i ~ だった 「動詞」

ein bißchen アイン・ビッシェン adv. 少し 「副詞句」

verlegen, フェアレゲン adj. 当惑した、困惑した 「補語」

denn デン conj. なぜならば 「副詞節」

ich イット pron 僕は 「主語」

mußte ムステ 助動詞・1 単過・本動詞省略(müssen)

v.i ~ しなければならなかった 「動詞」

noch ノッホ adv. まだ、さらに 「副詞」

zu Emmanuel, ツー・エマヌエル adv. エマヌエルの所に (行く) 「間接目的語」

um +zu 不定詞 ム adv. (目的) ~するために 「副詞句」

mir ミア pron.3 格 自分のために 「間接目的語」

seinen schwarzen Schlips ザ イネン・シュヴァルツェン・シュリプス

n.m.4 格 黒のネクタイを 「直接目的語」

und ウント conj. そして

seinen Armflor ザ イネン・アルム・フロア n.m.4 格 腕章を 「直接目的語」

Arm アルム n.m 腕 Flor フローア n.m 喪章

zu leihen. ツー・ライエン zu 不定詞 v.t 借りる 「動詞句」

彼は数か月前に叔父さんを亡くしていたのだった。

Er hatte vor ein paar Monaten seinen Onkel verloren.

「主語」「動詞句」「副詞句」「目的語」「動詞句」

Er エア pron 彼は 「主語」

hatte ...verloren. ハッテ...フェアローレン 3 単過・完了形(verlieren)v.t 亡くしていた 「動詞句」

vor ein paar Monaten フォア・アイン・パール・モナテン adv. 数か月前に 「副詞句」

ERSTER TEIL 第1部

seinen Onkel ザイネン・オンケル n.m.4 格 叔父さんを

「目的語」

僕はバスに乗り遅れないように走った。

Ich lief, um den Autobus nicht zu verpassen.

「主語」「動詞」「副詞句」

Ich イッヒ pron 僕は

「主語」

lief, リーフ 1 単過(laufen)v.i 走った

「動詞」

um +zu 不定詞 ウム adv. (目的) ~するために

「副詞句」

den Autobus デン・アウトブス n.m.4 格 バスを

「目的語」

nicht zu verpassen. ニヒト・ツァー・フェアパッセン zu 不定詞・否定形

v.t 乗り遅れない

「動詞句」

急いで走ったことに加えて、バスの激しい揺れとガソリンの臭い、さらに道路と空からの
照り返しのせいだと思うが、僕は少しうたた寝をした。

Diese Hast und das Laufen, dazu das Stoßen des Wagens, der Benzingeruch und das
Blenden von Straße und Himmel hatten sicher schuld daran, daß ich einnickte.

「主語」「動詞」「副詞」「目的語」, daß 「主語」「動詞」

Diese Hast デーイーゼ・ハスト n.f この大急ぎ

「主語」

und ウント conj. そして

das Laufen, ダス・ラウフェン n.n 走ること

「主語」

dazu ダツァー adv. それに加えて

「副詞」

das Stoßen ダス・シュトーセン n.n 衝突

「主語」

des Wagens, デス・ヴァーゲンス n.m.2 格 バスの

「形容詞句」

der Benzingeruch デア・ベンツィーン・ゲルフ n.m ガソリンの臭い

「主語」

Benzin ベンツィーン n.n ガソリン Geruch ゲルフ n.m におい、香り

und ウント conj. そして

das Blenden ダス・ブレンデン n.n 照り返し

「主語」

von Straße und Himmel フォン・シュトラッセ・ウント・ヒメル

adv. 道路と空からの

「副詞句」

hatten ハッテン 3 複過(haben)v.t ~があった

「動詞」

sicher スィヒャー adv. きつと

「副詞」

schuld daran, シュルト・ダラン n.f それに責任が

「目的語」

daß ダス conj. (daran の内容) (結果として翻訳する)

ich イッヒ pron 僕は

「主語」

einnickte. アイン・ニッケ 1 単過(ein|nicken)v.i 居眠りした

「動詞」

ERSTER TEIL 第1部

僕はバスで移動中ほとんどずっと眠りこけていた。

Ich schlief fast die ganze Fahrt über.

「主語」「動詞句」「副詞句」「動詞句」

Ich イッヒ pron 僕は

「主語」

schlief ...über. シュリーフ...ユーバー 1 単過(über | schlafen)v.i 眠りこけていた

「動詞句」

分離前つづり über- ユーバー は、過剰を表す

fast ファスト adv. ほとんど

「副詞」

die ganze Fahrt デーイー・ガンスェ・ファート n.f.4 格 (乗り物の) 旅行中、移動中

「副詞句」

目を覚ました時、僕は一人の軍人にもたれかかっていた。彼は僕に微笑んで、遠くから来たのかと尋ねた。

Als ich wieder wach wurde, lehnte ich an einem Soldaten, der mich anlächelte und fragte, ob ich von weither käme.

「副詞節」, 「動詞」「主語」「間接目的語」, 「主語」「動詞」「目的語」

und 「動詞」「目的語」

Als アルス conj. ～したとき

「副詞節」

ich イッヒ pron 僕が

「主語」

wieder wach ヴィーダー・ヴァッハ adj. 再び目覚めている

「補語」

wurde, ヴァルテ 1 単過(werden)v.i ～になった

「動詞」

lehnte レンテ 1 単過(lehnen)v.i(an に) もたれていた

「動詞」

ich イッヒ pron 僕は

「主語」

an einem Soldaten, アン・アイネム・ゾルダテン adv. 一人の軍人に

「間接目的語」

der デア pron 彼は

「主語」

mich ミット pron 僕に

「目的語」

anlächelte アン・レヒェルテ 3 単過(an | lächeln)v.t(j-4 に) 微笑みかけた

「動詞句」

und ウント conj. そして

fragte, フラーケ 3 単過(fragen)v.t 尋ねた

「動詞」

ob オップ conj. ～かどうかということ

「目的語」

ich イッヒ pron 僕は

「主語」

von weither フォン・ヴァイアー adv. 遠くから

「副詞句」

käme. ケメ 接 II・1 単現(kommen)v.i 来た

「動詞」

僕は、いろいろ話さなくてもよいように、「ええ」とだけ答えた。

Ich sagte «ja», um nicht viel reden zu müssen.

「主語」「動詞」「応答」, 「副詞句」

Ich イッヒ pron 僕は

「主語」

sagte サークテ 1 単過(sagen)v.t 言った

「動詞」

«ja», ヤー adv. ええ

「応答」

ERSTER TEIL 第1部

um nicht ...reden zu müssen. ウム・ニヒト...レーデン・ツウ・ミュッセン um zu 不定句・目的・必要・否定

v.i 話す必要がないように 「副詞句」

viel フィール adv. たくさん 「副詞」

養老院は村から 2 キロ離れたところにある。

Das Altersheim liegt zwei Kilometer außerhalb des Dorfs. 「主語」「動詞」「副詞句」

Das Altersheim ダス・アルター・ス・ハイム n.n 養老院は 「主語」

liegt リークト 3 単現(liegen)v.i (ある場所に) いる 「動詞」

zwei Kilometer ツヴァイ・キロメーター adv. 2 キロのところに 「副詞句」

außerhalb アウサー・halb° prep (2 格と) 〜の外に 「副詞句」

des Dorfs. デス・ドーフス n.n.2 格 村の 「目的語」

そこまでは、歩いて行った。僕はすぐに母さんに会いたかった。

Ich ging zu Fuß dorthin. Ich wollte Mama sofort sehen.

「主語」「動詞」「副詞句」 | 「主語」「動詞句」「目的語」「副詞」「動詞句」

Ich イヒ pron 僕は 「主語」

ging キング° 1 単過(gehen)v.i 行った 「動詞」

zu Fuß ツーフス adv. 徒歩で 「副詞句」

dorthin. ドアトヒン adv. そこに 「副詞」

Ich イヒ pron 僕は 「主語」

wollte ...sehen. ヴォルテ...ゼーエン 1 単過・願望(wollen+不定詞)

v.t 会いたかった 「動詞句」

Mama ママ n.f 母さんに 「目的語」

sofort ソフォート adv. すぐに 「副詞」

しかし門衛は僕に、まず院長に会うようにと言った。

Aber der Pförtner sagte, ich müsse erst zum Direktor.

Aber 「主語」「動詞」, 「主語」「動詞句」「副詞」「間接目的語」

Aber アーバー conj. しかし

der Pförtner デア・プフェルトナー n.m 門衛は 「主語」

sagte, サークテ 3 単過(sagen)v.t 言った 「動詞」

ich イヒ pron 僕は 「主語」

müsse ミュッセ 接・1 単現・命令(müssen+不定詞省略)v.i 会う 「動詞句」

erst エスト adv. 最初に、まず 「副詞」

zum Direktor. ツーム・ディレクター adv. 院長に 「間接目的語」

ERSTER TEIL 第1部

院長は手が離せなかったので、僕はしばらく待った。

Da der zu tun hatte, wartete ich eine Weile. 「副詞節」, 「動詞」 「主語」 「副詞句」
 Da ダー conj. (理由) ~なので 「副詞節」
 der デア pron (Direktor の代用) 院長は 「主語」
 zu tun ツー・トゥン pron すること 「目的語」
 hatte, ハッテ 3 単過(haben)v.t あった 「動詞」
 wartete ヴァルテテ 1 単過(warten)v.i 待った 「動詞」
 ich イヒ pron 僕は 「主語」
 eine Weile. アイン・ヴァイル n.f.4 格 しばらくの間 「副詞句」

門衛はずっと話続けていた。それから僕は院長に会えることになった。

Der Pförtner redete in einem fort, und dann bekam ich den Direktor zu sehen:
 「主語」 「動詞」 「副詞句」, und 「副詞」 「動詞句」 「主語」 「目的語」 「動詞句」
 Der Pförtner デア・プォーアトナー n.m 門衛は 「主語」
 redete レーデテ 3 単過(reden)v.i 話していた 「動詞」
 in einem fort, イン・アイネ・フォアト adv. 途切れずに、ずっと 「副詞句」
 und ウント conj. そして
 dann ダン adv. それから 「副詞」
 bekam ...zu sehen: ベカム...ツェーエン 1 単過・変化(bekommen)v.t(j-4 zu+不定詞)
 v.t (人-4 に) 会うことができるようになった 「動詞句」
 ich イヒ pron 僕は 「主語」
 den Direktor デン・ディレクトール n.m.4 格 院長に 「目的語」

院長は僕を院長室へ迎え入れてくれた—レジオンドヌール勲章をつけた小柄な老人だった。

Er empfing mich in seinem Büro - ein kleiner alter Mann mit dem Bändchen der Ehrenlegion. 「主語」 「動詞」 「目的語」 「副詞句」 - 「主語」
 Er エア pron 彼は (院長は) 「主語」
 empfing エンプフィンク 3 単過(empfangen)v.t (賓客を) 迎え入れた 「動詞」
 mich ミヒ pron 僕を 「目的語」
 in seinem Büro - イン・ザイネ・ビュロー adv. 院長室へ、彼の事務室へ 「副詞句」
 ein kleiner alter Mann アイン・クライアー・アルター・マン n.m 小柄な老人が 「主語」
 mit dem Bändchen der Ehrenlegion. ミット・デーム・ベントヒェン・エーレンレギオン
 adv. レジオンドヌール勲章をつけた 「副詞句」
 das Band der Ehrenlegion レジオンドヌール勲章

ERSTER TEIL 第1部

彼は明るく澄んだ目で僕を見つめた。

Er sah mich mit seinen hellen Augen an. 「主語」「動詞句」「目的語」「副詞句」「動詞句」

Er エア pron 彼は 「主語」

sah ...an. サー...アン 3 単過(an | sehen)v.t 見つめた 「動詞句」

mich ミッヒ pron 僕を 「目的語」

mit seinen hellen Augen ミット・ザイネン・ヘレン・アウゲン adv. 明るく澄んだ目で 「副詞句」

hellen ヘレン adj(hell).pl.3 格 明るく輝く

それから彼は僕の手を握りしめたが、いつまでも手を離さないで、僕はどうやって手を戻したらよいか分からなかった。

Dann drückte er mir die Hand und hielt sie so lange fest, daß ich gar nicht wußte, wie ich sie wieder frei bekommen sollte.

「副詞」「動詞」「主語」「間接目的語」「直接目的語」 und

「動詞句」「目的語」「副詞句」「動詞句」, daß 「主語」「動詞句」「目的語」

Dann ダン adv. それから 「副詞」

drückte トゥルックテ 3 単過(drücken)v.t 握りしめた 「動詞」

er エア pron 彼は 「主語」

mir ミーア pron 僕の 「間接目的語」

die Hand デーイー・ハント n.f.4 格 手を 「直接目的語」

Hand ハント n.f 手 ([女複]Hände)

und ウント conj. そして

hielt ...fest, ヒールト...フェスト 3 単過(fest | halten)v.t 引き留めた 「動詞句」

sie ジー pron.f.4 格 (Hand の代用) それを 「目的語」

so lange ソー・ランゲ adv. (強調) 大変長く 「副詞句」

daß ダス conj. (so..., daß) それで～する

ich イッヒ pron 僕は 「主語」

gar nicht wußte, ガール・ニヒト・ウステ 1 単過・否定・強調(wissen+gar nicht)

v.t まったく分からなかった 「動詞句」

wie ヴァー conj. どのように～するかということを 「目的語」

ich イッヒ pron 僕は 「主語」

sie ジー pron それを 「目的語」

wieder frei ヴァーダー・フライ adj. 元通り自由な 「補語」

bekommen sollte. ベコメン・ゾルテ 1 単過・妥当(sollen+不定詞)

v.t 手に入れるのがよい 「動詞句」

ERSTER TEIL 第1部

名詞の複数形：

無語尾 der Onkel → die Onkel 伯父（叔父）

der Vater → die Väter 父

e 式 der Hund → die Hunde 犬

die Hand → die Hände 手

er 式 das Kind → die Kinder 子供

der Mann → die M"anner 男性、夫

(e)n 式 die Frau → die Frauen 女性、妻

die Tante → die Tanten 伯母（叔母）

s 式 das Auto → die Autos 自動車

彼は書類をざっと見てから言った：「ムルソーさんは三年前にこちらへ来られました。あなたは唯一の身内です」

Er blätterte in einer Akte und sagte: «Frau Meursault kam vor drei Jahren hierher. Sie waren ihre einzige Stütze.» 「主語」「動詞」「間接目的語」und「動詞」:

《「主語」「動詞」「副詞句」 | 「主語」「動詞」「補語」》

Er エア pron 彼は（院長） 「主語」

blätterte ブレツェアテ 3 単過(blättern)v.i(in et-3)（本を）パラパラとめくって見た 「動詞」

in einer Akte イン・アイアー・アクテ adv. 書類を 「間接目的語」

und ウント conj. そして

sagte: ザーケテ 3 単過(sagen)v.t 言った 「動詞」

«Frau Meursault フ라우・ムルソー n.f ムルソーさんは 「主語」

kam カム 3 単過(kommen)v.i 来られました 「動詞」

vor drei Jahren フォー・ドレイ・ヤーレン adv. 3 年前に 「副詞句」

hierher. ヒアーヘア adv. こちらへ 「副詞」

Sie ジー pron （二人称敬称単数・複数：動詞は三人称複数）あなたは 「主語」

waren ヴァレン 3 複過・時制の一致(sein)v.i ～である 「動詞」

ihre einzige Stütze.» イレ・アインツィゲ・シュトゥッツェ n.f 唯一の支柱（身内） 「補語」

彼が何か非難めいたことを言おうとしているように感じたので、僕は説明を始めた。

Ich glaubte, er wollte mir irgendwie Vorwürfe machen, und setzte zu einer Erklärung an. 「主語」「動詞」「目的語」,und「動詞句」「間接目的語」

Ich イット pron 僕は 「主語」

glaubte, グラウプテ 1 単過(glauben)v.t 思った 「動詞」

n. ～ということを 「目的語」

er エア pron 彼は 「主語」

ERSTER TEIL 第1部

wollte ...machen, ヲルテ...マヘン 3 単過・意志・時制の一致(wollen+不定詞)

v.t(j-3 et-4) (人-3 に何-4 を) 与えるつもりである 「動詞句」

mir ミーア pron 僕に 「間接目的語」

irgendwie Vorwürfe イルゲンツワイー・フォアヴルフ n.m なんらかの非難を 「直接目的語」

und ウント conj. そして

setzte ...an. セッツテ...アン 1 単過・開始(an|setzen)v.i (時間的に) 〜し始めた 「動詞句」

zu einer Erklärung ツー・アイナー・エアクレールンク adv. (時間的) 説明を、言い訳を 「間接目的語」

しかし彼は僕の話を選った：

Aber er unterbrach mich: Aber 「主語」「動詞」「目的語」

Aber アーバー conj. しかし

er エア pron 彼は 「主語」

unterbrach ウンターブラーフ 3 単過(unterbrechen)v.t(j-4) (人-4 の話を) 遮った 「動詞」

mich: ミヒ pron 僕の話 「目的語」

「弁解する必要はありません。母上の書類は確認しました」

«Sie brauchen sich nicht zu rechtfertigen, liebes Kind. Ich habe die Akte Ihrer Mutter gelesen.» 「主語」「動詞句」, 「呼びかけ」 | 「主語」「動詞句」「目的語」「動詞句」

«Sie ジー pron (二人称敬称単数・複数：動詞は三人称複数) あなたは 「主語」

brauchen sich nicht zu rechtfertigen, ブラウヘン・スィヒ・ニヒト・ツー・レヒトフェアチゲン

3 複現・必要・否定(brauchen+zu 不定詞 sich-4 rechtfertigen)

v.pr 弁解する必要はない 「動詞句」

brauchen+zu 不定詞・否定 「〜する必要がない、〜するには及ばない」

sich-4 rechtfertigen (自己の正当性に関して) 弁明する、弁解する

liebes Kind. リーベス・キント n.n いとし子よ 「呼びかけ」

Ich イヒ pron 私は 「主語」

habe ...gelesen. ハーベ...ゲレーゼン 1 単現・完了形(lesen)v.t 読んだ 「動詞句」

die Akte デー・アクテ n.f.4 格 書類を 「目的語」

Ihrer Mutter イーラー・ムター n.f.2 格 母上の 「形容詞句」

ERSTER TEIL 第1部

あなたは母上の面倒を見ることができなかった。母上には看護婦が必要でしたが、あなたの給料ではそれを賄えなかったのです。

Sie konnten nicht für sie sorgen. Sie brauchte eine Pflegerin. Ihr Gehalt ist bescheiden.

「主語」「動詞句」「間接目的語」 | 「主語」「動詞」「目的語」 | 「主語」「動詞」「補語」
 Sie ジー pron あなたは 「主語」
 konnten nicht ...sorgen. コンテン・ニヒト...ゾアゲン 3 複過・可能・否定(können+不定詞 sorgen) 「動詞句」
 für sie フェア・ジー adv. 母上の 「間接目的語」
 Sie ジー pron.f 彼女は 「主語」
 brauchte ブラウフテ 3 単過(brauchen)v.t 必要としていた、必要だった 「動詞」
 eine Pflegerin. アイネ・プフルーゲリン n.f.4 格 看護婦を 「目的語」
 Ihr Gehalt イア・ゲハルト n.n あなたの給料は 「主語」
 ist イスト 3 単現(sein)v.i ~である 「動詞」
 bescheiden. ベシヤイテン adj. つましい、少ない 「補語」

「それで、いろいろ考えると、お母様はここへ来て幸せだったのです」

Und alles in allem war sie hier schon glücklicher.»

《Und 「副詞句」「動詞」「主語」「補語」》

Und ウント conj. そして

alles in allem アレス・イン・アルム adv. 結局のところ、要するに 「副詞句」
 alles in allem gerechnet 何もかもひっくるめて、全部で
 war ヴァール 3 単過(sein)v.i ~ だった 「動詞」
 sie ジー pron.f お母様は 「主語」
 hier ヒア adv. ここで 「副詞」
 schon glücklicher. ショーン・グリュックリヒャー adj. (比較級) きっと幸せな 「補語」
 schon ショーン adv. (推測) きっと glücklich グリュックリヒ adj. 幸せな
 → ここに来なかった時と比較して、より幸せだっただろう

僕は言った：「そうですね、院長さん」

Ich sagte: «Ja, Herr Direktor.»

「主語」「動詞」：《「応答」「呼びかけ」》

Ich イヒ pron 僕は 「主語」
 sagte: サーゲ 1 単過(sagen)v.t 言った 「動詞」
 «Ja, ヤー adv. (問いに対する肯定の返事) そうですね、はい 「応答」
 Herr Direktor. ヘア・ディレクトール n.m 院長さん 「呼びかけ」

ERSTER TEIL 第1部

彼は付け足した：

Er fügte hinzu:

「主語」「動詞句」:

Er エア pron 彼は

「主語」

fügte hinzu: フュクテ・ヒンツァ 3 単過(hinzu | fügen)v.t 付け足した

「動詞句」

「お分かりの通り、お母様には同年代のお仲間がいました」

«Sie wissen, sie hatte Freunde. Leute in ihrem Alter.

《「主語」「動詞」, 「主語」「動詞」「目的語」》

«Sie ジー pron (二人称敬称、動詞は三人称複数形) あなたは

「主語」

wissen, ヴィッセン 3 複現 v.t 分かっている

「動詞」

sie ジー pron お母様は

「主語」

hatte ハッテ 3 単過(haben)v.t ~があった

「動詞」

Freunde, フロインデ pl(Freund).n.m.4 格 友達を、仲間を

「目的語」

Leute ロイテ pl.pron.4 格 人々を

「目的語」

in ihrem Alter. イン・イーレム・アルター adj. 同年代の

「形容詞句」

「皆さんは昔からの同じ趣味をお持ちでした。」

Sie hatten aus einer anderen Zeit her gemeinsame Interessen.

《「主語」「動詞」「目的語」》

Sie ジー pron.pl 皆さんは

「主語」

hatten ハッテン 3 複過(haben)v.t ~があった

「動詞」

aus einer anderen Zeit her アウス・アイナー・アンデレン・ツァイト・ヘア adj. 昔からの 「形容詞句」

aus 名詞 3 格 her → 「形容詞句」 einer anderen Zeit n.f.3 格 別の時代、昔
gemeinsame Interessen. ゲマインザーメ・インテレッセン

pl(Interesse).n.n.4 格 共通の趣味が、関心事

「目的語」

「あなたはお若いから、あなたと一緒にいると、お母様は退屈されたことでしょう」

Sie sind jung, da mußte sie sich ja bei Ihnen langweilen.»

《「主語」「動詞」「補語」, 「副詞」「動詞句」「主語」「動詞句」「副詞句」「動詞句」》

Sie ジー pron あなたは

「主語」

sind シント 3 複現・敬称(sein)v.i ~である

「動詞」

jung, ユング adj. 若い

「補語」

da ダー adv. それで

「副詞」

mußte ...sich ...langweilen.» ムステ...スィットヒ...ラングヴァイレン 3 単過・推量

(müssen+不定詞 sich-4 langweilen)v.pr 退屈したに違いない

「動詞句」

sie ジー pron.f お母様は

「主語」

ERSTER TEIL 第1部

ja bei Ihnen ヤー・バイ・イーネン adv. (近接) あなたと一緒にいると

「副詞句」

それは本当だった。まだ家にいた時、母さんは黙って僕を見守ることで時間を過ごしていた。

Das stimmte. Als Mama noch zu Haus war, verbrachte sie ihre Zeit damit, mich schweigend zu beobachten.

「主語」「動詞」 | 「副詞節」, 「動詞」「主語」「目的語」「副詞」

Das ダス pron それは

「主語」

stimmte. シュティムテ 3 単過(stimmen)v.i 本当だった

「動詞」

Als アルス conj. 何したとき

「副詞節」

Mama ママ n.f 母さんが

「主語」

noch ノッホ adv. まだ

「副詞」

zu Haus ツー・ハウス adv. 家に

「副詞句」

war, ヴァール 3 単過・存在(sein)v.i ~にいた

「動詞」

verbrachte フェアブラヒテ 3 単過(verbringen)v.t (時を) 過ごしていた

「動詞」

sie ジー pron 彼女は

「主語」

ihre Zeit イレ・ツァイト n.f.4 格 時間を

「目的語」

damit, ダミット adv. (手段) それによって

「副詞」

zu 不定詞 adj. (同格) ~すること

「形容詞句」

mich ミヒ pron 僕を

「目的語」

schweigend シュウヴァイゲント 現在分詞(schweigen)adv. 黙って

「副詞」

zu beobachten. ツー・ベオバーハテン zu 不定詞 v.t 見守る

「動詞句」

養老院に入ったばかりの頃、母さんはよく泣いていた。まだ慣れていなかったからだ。

In den ersten Tagen im Heim weinte sie oft. Sie hatte sich noch nicht eingewöhnt.

「副詞句」「動詞」「主語」「副詞」 | 「主語」「動詞句」

In den ersten Tagen イン・デーン・エアステン・ターゲン adv. (時期) 最初の頃に

「副詞句」

im Heim イム・ハイム adv. (場所) 養老院の

「副詞句」

weinte ヴェインテ 3 単過(weinen)v.i 泣いていた

「動詞」

sie ジー pron 母さんは

「主語」

oft. オフト adv. しばしば、よく

「副詞」

Sie ジー pron 彼女は

「主語」

hatte sich noch nicht eingewöhnt. ハッテ・ズィヒ・ノッホ・ニヒト・アインゲ・ヴァーエント

3 単過・完了形・否定(sich-4 ein | gewöhnen)

v.pr(in et-3 に) まだ慣れていなかった

「動詞句」

ERSTER TEIL 第 1 部

数か月経ってから、母さんを再び養老院から連れ出したとしたら、泣いたに違いない。

Ein paar Monate später hätte sie geweint, wenn man sie aus dem Heim wieder weggeholt hätte. 「副詞句」「動詞句」「主語」, 「副詞節」

Ein paar Monate später アイン・パール・モナテ・シュペーター adv. 数か月後に 「副詞句」

Monate モナテ pl(Monat).n.m (暦の) 月 später シュペーター adv. 後で、後には
hätte ...geweint, ハッテ...ゲウァイント 接 II・3 単現・完了形・推量(weinen)

v.i 泣いていただろう 「動詞句」

sie ジー pron 彼女は 「主語」

wenn +接続法 II ウェン conj. (非現実的な仮定) もし〜したならば 「副詞節」

man マン pron 人が 「主語」

sie ジー pron 彼女を 「目的語」

aus dem Heim アウス・テーム・ハイム adv. 養老院から外へ 「副詞句」

wieder ウィーター adv. 再び 「副詞」

weggeholt hätte. ウェクゲホルト・ハッテ 接 II・3 単現・完了形(weg|holen)

v.t 連れ出した 「動詞句」

それも同様に慣れのせいだ。実際そのために、最近の 1 年間は、ほとんど母さんを訪問していなかった。

Immer eine Sache der Gewohnheit. Eigentlich deswegen habe ich sie im letzten Jahr kaum noch besucht.

「副詞句」 | 「副詞句」「動詞句」「主語」「目的語」「副詞句」「動詞句」

Immer イマー adv. いつも、やはり、同様に 「副詞」

eine Sache アイン・ザッハ n.f.4 格.adv. 責任によって、ために 「副詞句」

der Gewohnheit. デア・ゲウァーンハイト n.f.2 格 慣れの、習慣の 「形容詞句」

Eigentlich deswegen アイゲントリッヒ・デスウエゲン adv. 実際それだから 「副詞句」

habe ... kaum noch besucht. ハーベ...カウム・ノッホ・ベズーフト 1 単現・完了形・否定

(besuchen+kaum noch)v.t ほとんど訪問していなかった 「動詞句」

kaum カウム adv.ほとんど〜ない noch ノッホ adv. いまだに

ich イヒ pron 僕は 「主語」

sie ジー pron.f 母さんを 「目的語」

im letzten Jahr イム・レッツテン・ヤール adv. 最後の 1 年には 「副詞句」

letzt レット adj. 最後の letzten Jahr レッツテン・ヤール n.n.3 格 最後の 1 年に

ERSTER TEIL 第1部

その上、訪問すると僕の日曜日をつぶすことになるからだ — バスのところまで行って、切符を買ったり、移動に2時間かかることは仕方ないとしても。

Außerdem kostete mich das einen Sonntag - ganz abgesehen von der Rennerei zum Autobus, vom Lösen der Fahrkarte und der zweistündigen Fahrt.

「副詞」「動詞」「間接目的語」「主語」「直接目的語」 - 「副詞句」

Außerdem アウサーデーム adv. その上、さらに

「副詞」

kostete コステテ 3 単過・時制の一致(kosten)

v.t(j-4 et-4) (人-4 に何-4 の) 出費がかかる

「動詞」

mich ミッヒ pron.4 格 僕に

「間接目的語」

das ダス pron. それは

「主語」

einen Sonntag アイネン・ゾンターク n.m.4 格 日曜日が

「直接目的語」

- ganz ガンツ adv. まったく

「副詞」

abgesehen アップゲゼーエン adv.(von et-3 は) 別として、除いて

「副詞句」

von der Rennerei フォン・デア・レンネライ adv. (対象) 駆け回ること

「間接目的語」

zum Autobus, ツーム・アウトブス adv. バスに

「間接目的語」

vom Lösen フォム・レーゼン フォム・レーゼン adv. (切符を) 購入すること

「間接目的語」

der Fahrkarte デア・ファールカルテ n.f.2 格 切符の

「形容詞句」

und ウント conj. そして

der zweistündigen デア・ツヴァイシュンティゲン

adj.f.2 格 2 時間の

「形容詞句」

Fahrt. ファールト n.f.3 格 ドライブ、移動

「間接目的語」

語尾 -erei

動詞の語幹につけて「反復、行動の場所や結果」を表す女性名詞を作る。

Rennerei n.f 駆け回ること Fragerei n.f 質問攻め Bäckerei n.f パン屋 Malerei n.f 絵画

フランス語の原文では：

それにここ来ると、僕の日曜日がつぶれてしまうからでもあった。——バス停に行き、切符を買って、2時間バスに乗るという手間は別にしてもである。

Et aussi parce que cela me prenait mon dimanche --- sans compter l'effort pour aller à l'autobus, prendre des tickets et faire deux heures de route.

院長はまた更に話を続けた。しかし僕は、もうほとんど彼の話を聞いていなかった。

Der Direktor redete immer noch. Aber ich hörte ihm kaum noch zu.

「主語」「動詞」「副詞句」 | Aber 「主語」「動詞句」「間接目的語」「副詞句」

Der Direktor デア・ディレクトール n.m 院長は

「主語」

redete レーデテ 3 単過(reden)v.i 話した

「動詞」

immer noch. イマー・ノッホ adv. さらにまた

「副詞句」

ERSTER TEIL 第1部

Aber アーバー conj. しかし
 ich イッヒ pron 僕は 「主語」
 hörte ...zu. ヘアテ...ツー 1 単過(zu|hören)v.i(j-3 人-3 の話を) 聴いていた 「動詞句」
 ihm イム pron 彼の話を 「間接目的語」
 kaum noch カム・ノッホ adv. もうほとんど～ない 「副詞句」

それから彼は言った:「きっと、お母様にご対面なさりたいでしょう」

Dann sagte er: «Vermutlich wollen Sie Ihre Mutter sehen.»

「副詞」「動詞」「主語」:《「副詞」「動詞句」「主語」「目的語」「動詞句」》

Dann ダン adv. それから 「副詞」
 sagte サーケ 3 単過(sagen)v.t 言った 「動詞」
 er: エア pron 彼は 「主語」
 «Vermutlich フェアムトリッヒ adv. きっと、おそらく 「副詞」
 wollen ...sehen.» ヲェレン...ゼーエン 3 複現・敬称・願望(wollen+不定詞)
 v.t 会いたい、対面したい 「動詞句」
 Sie ジー pron あなたは 「主語」
 Ihre Mutter イーレ・ムター n.f お母様に 「目的語」

僕が黙って立ち上がると、彼は僕の前をドアに向かって歩いて行った。

Ich stand wortlos auf, und er ging vor mir her, zur Tür.

「主語」「動詞句」「副詞」「動詞句」,

und 「主語」「動詞句」「副詞句」「動詞句」「間接目的語」

Ich イッヒ pron 僕は 「主語」
 stand ...auf, シュタント...アウフ 1 単過(auf|stehen)v.i (座った状態から) 立ち上がった 「動詞句」
 wortlos ヲェワトロス adv. 黙って 「副詞」
 und ウント conj. そして
 er エア pron 彼は 「主語」
 ging ...her, キング...ヘア 3 単過(her|gehen)v.i(vor ~の前を) 歩いて行った 「動詞句」
 vor mir フォーヘア・ミア adv. 僕の前を 「副詞句」
 zur Tür. ツーア・チュア adv. ドアのほうへ 「間接目的語」

ERSTER TEIL 第1部

階段を下りながら、院長は説明した：「お母様は、私どもの小さな霊安室にお移しました」

Auf der Treppe erklärte er: «Wir haben sie in unsere kleine Leichenhalle gebracht.

「副詞句」「動詞」「主語」：《「主語」「動詞句」「目的語」「副詞句」「動詞句」》

Auf der Treppe アウフ・デア・トレッペ adv. 階段の上で 「副詞句」

erklärte エアクレアテ 3 単過(erkennen)v.t 説明した 「動詞」

er: エア pron 彼は、院長は 「主語」

«Wir ウー・ア pron 私たちは 「主語」

haben ...gebracht. ハーベン...ゲブラハト 1 複現・完了形(bringen)

v.t 持って行った、移動した 「動詞句」

sie ジー pron 彼女を 「目的語」

in unsere kleine Leichenhalle イン・ウンゼレ・クライン・ライヒェンハレ

adv. 私どもの小さな霊安室に 「副詞句」

「ほかの方々が、不安にならないためです」

Damit die anderen sich nicht aufregen.

《Damit 「主語」「動詞句」》

Damit ダミット conj. ～するために

die anderen デー・アンデレン pl(ander).n 他の方々が 「主語」

sich nicht aufregen. スィヒ・ニヒト・アウフレゲン 3 複現・否定(sich-4 aufregen)

v.pr 不安にならない 「動詞句」

「誰か入寮者が亡くなるといつも、他の者たちは、2～3 日の間、神経過敏になるのです。」

Immer, wenn ein Heiminsasse stirbt, sind die anderen zwei bis drei Tage lang nervös.

《「副詞句」, 「動詞」「主語」「補語」》

Immer, イマー adv. いつも 「副詞」

wenn ウェン conj. ～すると 「副詞節」

ein Heiminsasse アイン・ハイム・インザッセ n.m.1 格 誰か入寮者が 「主語」

Heim ハイム n.n 寮、施設 insasse インザッセ n.m 入院者 → 養老院の入院者

stirbt, シュティアプト 3 単現(sterben)v.i 亡くなる 「動詞」

sind シント 3 複現・変化(sein)v.i ～になる 「動詞」

die anderen デー・アンデレン pl.n.1 格 他の者たちは 「主語」

zwei bis drei Tage lang ツヴァイ・ビス・ドライ・ターゲ・ラング adv. 2～3 日の間 「副詞句」

nervös. ネルヴ ェース adj. 神経質な 「補語」

ERSTER TEIL 第1部

「すると、業務が困難になるのです」

Und das erschwert die Arbeit.»

《Und 「主語」「動詞」「目的語」》

Und ウント conj. そして

das ダス pron それが

「主語」

erschwert エアシュヴァート 3 単現(erschweren)v.t 困難にする

「動詞」

die Arbeit.» テー・アルバイト n.f.4 格 仕事を、業務を

「目的語」

僕たちは、大勢の老人が、グループごとにおしゃべりをしている中庭を通り抜けた。

Wir gingen über einen Hof, auf dem viele alte Leute in kleinen Gruppen miteinander plauderten.

「主語」「動詞」「副詞句」

Wir ヴィーア pron 僕たちは

「主語」

gingen キンゲン 1 複過(gehen)v.i 歩いた、進んだ

「動詞」

über einen Hof, ユーバー・アイネン・ホフ adv. (経由) 中庭を通して

「副詞句」

auf dem アウフ・デーム adv. そこで～する

「形容詞節」

viele alte Leute フィーレ・アルテ・ロイテ pl.n 大勢の老人が

「目的語」

in kleinen Gruppen イン・クライネン・グルッペン

adv. (様態) いくつかの小さな集まりになって

「副詞句」

miteinander ミット・アインダー adv. 一緒に

「副詞」

plauderten. プラウダテン 3 複過(plaudern)v.i おしゃべりしていた 「動詞」

しかし僕たちが、彼らのそばを通りかかると、彼らは黙り込む。そして通り過ぎると、僕たちの後ろで、またおしゃべりが聞こえてくる。

Aber als wir an ihnen vorbeikamen, schwiegen sie. Hinter uns gingen die Unterhaltungen wieder weiter.

Aber 「副詞節」, 「動詞」「主語」 | 「副詞句」「動詞句」「主語」「副詞」「動詞句」

Aber アーバー conj. しかし

als アルス conj. ～すると

「副詞節」

wir ヴィーア pron 僕たちが

「主語」

an ihnen アン・イネン adv. 彼らのそばを

「副詞句」

vorbeikamen, フォアバイクメン 1 複過(vorbei | kommen)

v.i(an j-3 人-3 のそばを) 通りかかった

「動詞句」

schwiegen シュヴァーゲン 3 複過(schweigen)v.i 黙った

「動詞」

sie. シー pron.pl 彼らは

「主語」

Hinter ヒンター prep (3 格と) (空間的) ～の後ろで

「副詞句」

uns ウンス pron.3 格 僕たち

「目的語」

gingen ...weiter. キンゲン...グァイター 3 複過(weiter | gehen)v.i 続行される

「動詞句」

ERSTER TEIL 第1部

die Unterhaltungen デー・イー・ウンターハルトウング n.f.1 格 おしゃべりが 「主語」
wieder ヲイーダー adv. また、再び 「副詞」

まるで小声のインコのようなおしゃべり

Wie gedämpfte Papageien- Geplapper. 「副詞句」「主語」

Wie ヲイー conj. (例示) まるで～のような 「副詞句」

gedämpfte ゲデンプ フェス 過去分詞・受動(dämpfen)

adj.pl (音などが) 緩和された、小声の 「形容詞」

gedämpfte は、中性単数 1 格名詞に対する形容詞の活用で、複数名詞の活用でない

Papageien- パパガイェン pl(Papagei).n.m.1 格 オウム、インコ 「目的語」

Geplapper. ゲプラハ n.n おしゃべり 「主語」

→ まるでオウムのように、お互いに同じことを、小声で言い合う様

小さな建物の戸口で、院長は僕と別れた：

An der Tür eines kleinen Gebäudes verließ mich der Direktor:

「副詞句」「動詞」「目的語」「主語」

An der Tür アン・デア・チュアー adv. (接触) 戸口で 「副詞句」

eines kleinen Gebäudes アイネス・クライン・ゲボ イェス n.n.2 格 小さな建物の「形容詞句」

verließ フェアリース 3 単過(verlassen)v.t(j-4 から) 離れた、別れた 「動詞」

mich ミヒ pron 僕から 「目的語」

der Direktor: デア・ディレクトーア n.m 院長は 「主語」

「ムルソーさん、私は院長室に戻りますので、ご用があればなんなりと」

«Ich muß jetzt gehen, Herr Meursault. Ich stehe in meinem Büro zu Ihrer Verfügung.»

《「主語」「動詞句」「副詞」「動詞句」「呼びかけ」 | 「主語」「動詞」「副詞句」》

«Ich イヒ pron 私は 「主語」

muß ...gehen, ムス...ゲーエン 1 単現・必要(müssen+不定詞)v.i いかなければならない「動詞句」

jetzt イェツト adv. 今から 「副詞」

Herr Meursault. ヘア・ムルソー n.m ムルソーさん 「呼びかけ」

Ich イヒ pron 私は 「主語」

stehe シュテーエ 1 単現(stehen)v.i (ある場所に) いる 「動詞」

in meinem Büro イン・マイネム・ビュロー adv. 院長室に 「副詞句」

zu Ihrer Verfügung. ツー・イーラー・フェアフュグング adv. (目的) あなたの指示を待って「副詞句」

ERSTER TEIL 第1部

一応、葬儀は午前 10 時から行います。

Die Beerdigungen finden grundsätzlich zehn Uhr vormittags statt.

「主語」「動詞句」「副詞句」「動詞句」

Die Beerdigungen ティー・ベアディクシオン pl.n.f 葬儀は

「主語」

finden ...statt. フィンデン...シュタット 3 複現(statt|finden)v.i 行われる

「動詞句」

grundsätzlich グルトゼッツリヒ adv. 原則として、一応

「副詞」

zehn Uhr vormittags ツェーン・ウーア・フォーアマターク adv. 午前 10 時

「副詞句」

「そうすると、あなたはお通夜をすることが出来るでしょう」

So können Sie die Nacht über bei der Verblichenen wachen.

《「副詞」「動詞句」「主語」「副詞句」「動詞句」》

So ザー adv. そうすると

「副詞」

können ...wachen. ケネ...グァッヘン 3 複現・敬称・可能(können+不定詞 wachen)

v.i(über et-4) 眠らずに番ができる

「動詞句」

Sie ジー pron あなたは

「主語」

die Nacht über ティー・ナハト・ユーバー adv. 一晩中

「副詞句」

bei der Verblichenen バイ・デア・フェアビリシェン adv. 故人のそばで

「副詞句」

bei バイ prep (3 格と) ~のそばで der Verblichenen デア・フェアビリシェン n.f.3 格 故人

「最後に一つお伝えしておきます：どうやら、お母様はお仲間に対して何度も、教会の教
えに則って埋葬して欲しいという希望をおっしゃっていたようです」

Noch eins: Ihre Mutter hat, wie es scheint, ihren Gefährtinnen gegenüber oft den Wunsch geäußert, kirchlich beerdigt zu werden.

《「呼びかけ」：「主語」「動詞句」「副詞句」「間接目的語」

「副詞」「直接目的語」「動詞句」「直接目的語」》

Noch eins: ノッホ・アインス adv. もう一つ

「呼びかけ」

Ihre Mutter イーレ・ムター n.f お母様は

「主語」

hat, ...geäußert, ハット...ゲアウセアト 3 単現・完了形(äußern)v.t 言っていた

「動詞句」

wie es scheint, ヴィー・エス・シャイント adv. どうも、どうやら

「副詞句」

scheint シャイント 3 単現(scheinen)v.i ~であるように見える、思われる

ihren Gefährtinnen gegenüber イーレン・ゲフェアチネン・ゲーケンユーバー

adv. お仲間に対して

「間接目的語」

ihren Gefährtinnen イーレン・ゲフェアチネン pl.n.f.3 格 仲間に

gegenüber ゲーケンユーバー prep (3 格と ; しばしば後置) ~に対して、~と向かい合って

oft オフト adv. 何度も、しばしば

「副詞」

den Wunsch デン・フンシュ n.m.4 格 希望を

「直接目的語」

ERSTER TEIL 第1部

adj. (同格) ～という 「形容詞句」
 kirchlich キルヒリッヒ adv. 教会の教えに則って 「副詞」
 beerdigt zu werden. ベアディクト・ツァー・ヴァデン zu 不定詞・受動(werden+過去分詞 beerdigen)
 v.t 埋葬される 「動詞句」

「私のほうで必要なことはすべて指示をしましたが、そのことだけ、あなたにお知らせしておこうと思いましたので…」

Ich habe das Notwendige veranlaßt. Ich wollte Sie nur davon in Kenntnis setzen.»
 «「主語」「動詞句」「目的語」「動詞句」 | 「主語」「動詞句」「間接目的語」「動詞句」»
 Ich イッヒ pron 私は 「主語」
 habe ...veranlaßt. ハーベ ...フェアンラスト 1 単現・完了形(veranlassen)
 v.t(et-4 何-4 を行うように) 指示をした 「動詞句」
 das Notwendige ダス・ノトヴェンディゲ n.n.4 格 必要なこと 「目的語」
 形容詞 notwendig を中性名詞 4 格に活用
 Ich イッヒ pron 私は 「主語」
 wollte ...setzen. ヲルテ...ゼツェン 1 単過・願望(wollen+不定詞)
 v.t 知らせようと思った 「動詞句」
 in Kenntnis setzen 「知らせる」
 Sie ジー pron あなたに 「間接目的語」
 nur ノー adv. ただ～だけ 「副詞」
 davon ダフオン adv. それについて 「間接目的語」
 in Kenntnis イン・ケントニス adv. 知識の中に 「動詞句」

僕は彼に礼を言った。実際、母さんは無神論者ではなかったが、それでも存命中には、宗教については全く気にかけていなかった。

Ich bedankte mich bei ihm. Wenn Mama auch nicht gottlos war, so hatte sie sich zu ihren Lebzeiten doch nie viel um Religion gekümmert.
 「主語」「動詞句」「間接目的語」
 「副詞節」, 「副詞」「動詞句」「主語」「動詞句」「副詞句」「間接目的語」「動詞句」
 Ich イッヒ pron 私は 「主語」
 bedankte mich ベダントゥ・ミッヒ 1 単過(sich-4 bedanken)v.pr(bei j-3 に) 礼を言った 「動詞句」
 bei ihm. バイ・イム adv. 彼に 「間接目的語」
 Wenn ヲエン conj. (対比) ～であるが 「副詞節」
 Mama ママ n.f 母さんは 「主語」
 auch アウ adv. 実際、～も 「副詞」
 nicht gottlos ニヒト・ゴットロース adj. 無神論者でない 「補語」

ERSTER TEIL 第1部

war, ヲアル 3 単過(sein)v.i ~ だった	「動詞」
so ゾー adv. (譲歩) それでも、それほど	「副詞」
hatte ...sich ...gekümmert. ハッテ...ズィットヒ...ゲキュマート 3 単過・完了形(sich-4 kümmern)	
v.pr 気にかけていた	「動詞句」
sie ジー pron 彼女は	「主語」
zu ihren Lebzeiten ツー・イーレン・レープ ツァイテン adv. 存命中に	「副詞句」
doch ドッホ adv. しかし	「副詞」
nie viel um Religion ニー・フィール・ウム・レリギオン adv. 宗教に関して全く～ない	「間接目的語」

僕は中へ入った。そこはとても明るい部屋で、真っ白に漆喰を塗られ、屋根はガラス張りになっていた。

Ich ging hinein. Es war ein sehr heller, kalkweiß getünchter Raum mit einem Glasdach.

	「主語」「動詞句」 「主語」「動詞」「補語」
Ich イット pron 僕は	「主語」
ging hinein. ギング・ヒイン 1 単過(hinein gehen)v.i 中へ入っていった	「動詞句」
Es エス pron それは	「主語」
war ヲアル 3 単過(sein)v.i ~ だった	「動詞」
ein sehr heller, アイン・ゼーア・ヘー adj(hell).m.1 格 とても明るい	「形容詞句」
kalkweiß カルクヴァイス adv. 真っ白に	「副詞」
getünchter ゲトゥンヒター 過去分詞・受動(tünchen)	
adj(getüncht).m.1 格 漆喰を塗られた	「形容詞句」
Raum ラウム n.m.1 格 部屋	「補語」
mit einem Glasdach. ミット・アイネム・グラスダッハ	
adv. (様態) 屋根がガラス張りの	「副詞句」
Glas グラス n.n ガラス Dach ダッハ n.n 屋根 → Glasdach ガラス張りの屋根	

そこには、椅子と x 字型をした架台がそれぞれいくつかつあった。

Darin standen Stühle und x-förmige Böcke.

	「副詞」「動詞」「主語」
Darin ダリン adv. (場所) そこには	「副詞」
standen シュタンデン 3 複過・存在(stehen)v.i ~ があった	「動詞」
Stühle シュチュレ pl(Stuhl).n.m.1 格 椅子が	「主語」
und ウント conj. そして	
x-förmige イクス・フェルミット adj. x 字型をした	「形容詞」
-förmige フェルミット adj. ~の形をした	
Böcke. ベッケ pl(Bock).n.m.1 格 架台が	「主語」

ERSTER TEIL 第1部

中央に2つの架台があり、蓋の閉じられた棺を支えていた。

Zwei dieser Böcke standen in der Mitte und trugen einen Sarg, dessen Schraubdeckel geschlossen war. 「主語」「動詞」「副詞句」 und 「動詞」「目的語」, 「主語」「動詞句」
 Zwei dieser Böcke ツヴァイ・デァー・ベッケ pl.n.m 2つの架台は 「主語」
 standen シュタンデン 3 複過(stehen)v.i 〜にあった 「動詞」
 in der Mitte イン・デア・ミッテ adv. 中央に 「副詞句」
 und ウント conj. そして
 trugen トルゲン 3 複過(tragen)v.t 支えていた 「動詞」
 einen Sarg, アイン・ザーク n.m 棺を 「目的語」
 dessen Schraubdeckel デッセン・シュラウペ・デッケル n.m その蓋は 「主語」
 geschlossen war. ゲシュロッセン・ヴァール 3 単過・受動・状態(schließen)
 v.i 閉じられていた 「動詞句」

ぴかぴかのねじ釘が、栗色の板の上に仮止めされていることだけは確認できた。

Nur sah man, daß die blanken Schrauben an den nußbraunen Brettern kaum eingedreht waren. 「副詞」「動詞」「主語」「目的語」
 Nur ヌア adv. ただ〜だけ 「副詞」
 sah ザー 3 単過(sehen)v.t 見えた 「動詞」
 man, マン pron 人は 「主語」
 daß ダス conj. 〜ということ 「目的語」
 die blanken Schrauben ディー・ブランケン・シュラウベン
 pl.n.f ぴかぴかのねじくぎは 「主語」
 blank ブランク adj. ぴかぴかの Schraube シュラウベ n.f ねじ、くぎ
 an den nußbraunen Brettern アン・デン・ヌースブラウネン・ブレッテン
 adv. (接触) 栗色の板の上に 「副詞句」
 nußbraun ヌースブラウン adj. 栗色の Brett ブレット n.n 板
 kaum カム adv. だろうじて〜する 「副詞」
 eingedreht waren. アイン・ゲドレート・ヴァレン 3 複過・受動・状態(ein- +drehen)
 v.t ねじ込まれていた 「動詞句」
 前つづり ein- 「中の方向」

フランス語の原文では：

光るねじ釘が少しだけ締め付けられて、クルミ染料を塗られた柩の板の上に浮かび上がっているのだけが目を引いた。

On voyait seulement des vis brillantes, à peine enfoncées, se détacher sur les planches passées au brou de noix.

ERSTER TEIL 第1部

柩の傍に、白衣を着て、色鮮やかなスカーフをまとったアラブ人の看護婦が座っていた。

Bei dem Sarg saß eine arabische Krankenschwester in weißem Kittel und mit grellfarbenem Kopftuch. 「副詞句」「動詞」「主語」

Bei バイ prep (3格と) (近接) ~のそばに 「副詞句」

dem Sarg デーム・サーク n.m.3格 柩の 「目的語」

saß サース 3単過(sitzen)v.i 座っていた 「動詞」

eine arabische Krankenschwester アイン・アラビシェ・クランケンシュウェスター
n.f.1格 アラブ人の看護婦が 「主語」

in weißem Kittel イン・ヴァイセム・キッテル adv. (着用) 白い上っ張りを着て 「副詞句」

weiß ヴァイス adj. 白い

und ウント conj. そして

mit ミット prep (3格と) (着用) ~を身に着けて 「副詞句」

grellfarbenem Kopftuch. グレルファアーベネム・コプフトゥーフ

n.n.3格 色鮮やかなスカーフを 「目的語」

grell グレル adj. (色が) どぎつい Farben ファーベン pl(Farbe).n.f 色、色彩

柩と棺 ひつぎ

どちらも死体を入れるための箱を表す。

葬儀社では、棺は空の棺桶(かんおけ)を指し、柩は遺体の納められた棺桶を指す。

この時、僕の背後から門衛が入ってきた。彼はとても急いで来たように見えた。少し息苦しそうだった。

In diesem Augenblick kam hinter mir der Pförtner herein. Er schien sich sehr beeilt zu haben. Er rang ein bißchen nach Luft:

「副詞句」「動詞句」「副詞句」「主語」「動詞句」

「主語」「動詞句」 | 「主語」「動詞」「副詞句」「間接目的語」

In diesem Augenblick イン・ディエーゼム・アウゲンブリック adv. この瞬間に、このとき 「副詞句」

kam ...herein. カム...ヘライン 3単過(herein | kommen)v.i 入ってきた 「動詞句」

hinter mir ヒンター・ミーア adv. 僕の後ろから 「副詞句」

der Pförtner デア・フフェルトナー n.m 門衛が 「主語」

Er エア pron 彼は 「主語」

schien シン 3単過(scheinen)v.i(+zu 不定句) ~するように見えた 「動詞句」

sich sehr beeilt zu haben. スィットヒ・ゼアー・ベアイルト・ツウ・ハーベン zu 不定句・完了形

(sich-4 beeilen+sehr)v.pr とても急いできた 「動詞句」

Er エア pron 彼は 「主語」

rang ラング 3単過(ringen)v.i(nach et-3 何-3 を得ようと) 努力していた 「動詞」

ERSTER TEIL 第1部

ein bißchen アイン・ヒッシェン adv. 少し

「副詞句」

nach Luft: ナーハ・ルフト adv. 空気を、呼吸を

「間接目的語」

「柩は蓋をしてありますが、お母様とご対面できるように、すぐにねじを外しますので..」

«Der Sarg wurde geschlossen, aber ich brauche ihn nur aufzuschrauben, damit Sie sie sehen können.» 《「主語」「動詞句」, aber 「主語」「動詞句」「目的語」「副詞節」》

«Der Sarg デア・サルク n.m 柩は

「主語」

wurde geschlossen, ヴェルテ・ゲシュロッセン 3 単過・受動・時制の一致(schießen)

v.t (ネジくぎを) 打ち込まれている

「動詞句」

aber アーバー conj. しかし

ich イヒ pron 私は

「主語」

brauche ...nur aufzuschrauben, ブラウヘ...ヌーア・アフ・ツァー・シュライベン 1 単現・制限

(brauchen nur+zu 不定詞)v.t (ねじを) 外すだけでよい

「動詞句」

auf|schrauben アウフシュライベン v.t ねじって (ねじをゆるめて) 外す

ihn イン pron 柩を

「目的語」

damit ダミット conj. ~するために

「副詞節」

Sie シー pron あなたが

「主語」

sie シー pron お母様に

「目的語」

sehen können.» セーエン・ケネン 3 単現・可能(können+不定詞)v.t 会える

「動詞句」

彼は柩に近づいて行ったが、僕は彼を止めた。彼は言った：「ご対面、されないのですか？」僕は答えた：「いいえ、結構です」

Er näherte sich dem Sarg, aber ich hielt ihn zurück. Er sagte: «Sie wollen nicht?» Ich antwortete: «Nein.»

「主語」「動詞句」「間接目的語」, aber 「主語」「動詞句」「目的語」「動詞句」

「主語」「動詞」: 《「主語」「動詞句」》 | 「主語」「動詞」: 《「応答」》

Er エア pron 彼は

「主語」

näherte sich ネーアテ・スィヒ 3 単過(sich-4 nähern)v.pr 近づいた

「動詞句」

dem Sarg, デーム・サルク n.m.3 格 柩に

「間接目的語」

aber アーバー conj. しかし

ich イヒ pron 私は

「主語」

hielt ...zurück. ヒールト...ツリュック 1 単過(zurück|halten)v.t 止めた

「動詞句」

ihn イン pron 彼を

「目的語」

Er エア pron 彼は

「主語」

sagte: サークテ 3 単過(sagen)v.t 言った

「動詞」

«Sie シー pron あなたは

「主語」

ERSTER TEIL 第1部

wollen nicht?) ウォレン・ニヒト 3 複現・敬称・否定・疑問文 v.t 希望しないのですか? 「動詞句」
 Ich イヒ pron 僕は 「主語」
 antwortete: アントゥェ・オルテ 1 単過(antworten)v.i 答えた 「動詞」
 «Nein.» ナイン adv. (否定) いえ、結構です 「応答」

彼は動作を中断した。僕はあんなことを言うべきではなかったという思いで途方に暮れた。

Er unterbrach sich, und ich war verlegen, weil ich fühlte, daß ich das nicht hätte sagen sollen. 「主語」「動詞句」,und 「主語」「動詞」「補語」
 Er エア pron 彼は 「主語」
 unterbrach sich, ウンターブラーフ・ズ・イヒ 3 単過(sich-4 unterbrechen)v.pr 中断した 「動詞句」
 und ウント conj. そして
 ich イヒ pron 僕は 「主語」
 war ウァール 1 単過(sein)v.i ~ だった 「動詞」
 verlegen, フェアレゲン adj. 当惑した、途方に暮れた 「補語」
 weil ウァイル conj. ~なので 「副詞節」
 ich イヒ pron 僕は 「主語」
 fühlte, フュールテ 1 単過(fühlen)v.t 思った、感じた 「動詞」
 daß ダス conj. ~ということ 「目的語」
 ich イヒ pron 僕は 「主語」
 das ダス pron あれを 「目的語」
 nicht hätte sagen sollen. ニヒト・ヘッテ・ザーゲン・ゾレン 接 II・1 単現・完了形・義務・否定
 (sollen+不定詞)v.t 言うべきではなかった 「動詞句」

少ししてから、彼は僕を見つめて、尋ねた：「どうしてですか？」しかし、単に尋ねただけで、非難めいた様子はなかった。

Nach einer Weile sah er mich an und fragte: «Warum?» Aber ohne Vorwurf, als wollte er sich nur erkundigen. 「副詞句」「動詞句」「主語」「目的語」und 「動詞」:《質問》
 Aber 「副詞句」
 Nach einer Weile ナーハ・アイナー・ウァイレ adv. (時間) 少し後で、しばらく後で 「副詞句」
 sah ...an ザー...アン 3 単過(an|sehen)v.t 見つめた 「動詞句」
 er エア pron 彼は 「主語」
 mich ミヒ pron.4 格 僕を 「目的語」
 und ウント conj. そして
 fragte: フラーケ 3 単過(fragen)v.t 尋ねた 「動詞」
 «Warum?» ウァルム adv. なぜ?、どうして? 「質問」
 Aber アーバー conj. しかし

ERSTER TEIL 第1部

ohne Vorwurf, オーネ・フォアヴルフ adv. 非難なしで 「副詞句」
 als アルス conj. どのように 「副詞節」
 wollte ...sich nur erkundigen. ヲルテ...ズィヒ・ヌーア・エアクンディゲン
 3 単過・願望(wollen+不定詞 sich-4 erkundigen+nur)
 v.pr 単に尋ねただけである 「動詞句」
 er エア pron 彼は 「主語」

僕は言った：「分からない」

Ich sagte: «Ich weiß nicht.» 「主語」「動詞」：《「主語」「動詞句」》
 Ich イヒ pron 僕は 「主語」
 sagte: サークテ 1 単過(sagen)v.t 言った 「動詞」
 «Ich イヒ pron 僕は 「主語」
 weiß nicht.» ヲアイス・ニヒト 1 単現・否定(wissen)v.t 分からない 「動詞句」

すると彼は白い口髭をひねって、僕を見ないで言った：「分かります」

Da drehte er an seinem weißen Schnurrbart und meinte, ohne mich anzusehen: «Kann ich verstehen.» 「副詞」「動詞」「主語」「間接目的語」 und 「動詞」「副詞句」：
 《「動詞句」「主語」「動詞句」》
 Da ダー adv. そこで、すると 「副詞」
 drehte ドレーテ 3 単過(drehen)v.i(an et-3 を) ひねった 「動詞」
 er エア pron 彼は 「主語」
 an seinem weißen Schnurrbart アン・ザイネム・ウァイセン・シュヌルハート
 adv. 白い口髭を 「間接目的語」
 weißen ヲアイセン adj(weiß).m.3 格 白い Schnurrbart シュヌルハート n.m 口髭
 und ウント conj. そして
 meinte, マインテ 3 単過(meinen)v.t 言った 「動詞」
 ohne mich anzusehen: オーネ・ミヒ・アン・ツァー・ゼーエン adv. (ohne+不定句) 僕を見ないで 「副詞句」
 «Kann ...verstehen.» カン...フェアシュテューエン 1 単現・可能(können+不定詞)
 v.t 分かる 「動詞句」
 ich イヒ pron 私は 「主語」

ERSTER TEIL 第1部

彼は淡い青色のきれいな目をして、顔は少し赤みを帯びていた。

Er hatte schöne hellblaue Augen, und sein Gesicht war leicht gerötet.

「主語」「動詞」「目的語」,und「主語」「動詞」「補語」

Er エア pron 彼は

「主語」

hatte ハッテ 3 単過(haben)v.t (身体的特徴が) ~だった

「動詞」

schöne hellblaue Augen, シェーネ・ヘルブラウエ・アウゲン

pl(Auge).n.n.4 格 淡い青色のきれいな目

「目的語」

schöne シェーネ adj(schön).pl.4 格 美しい hellblaue ヘルブラウエ adj(hellblau).pl.4 格 淡青色の

und ウント conj. そして

sein Gesicht ザイン・ゲジヒト n.n 彼の顔は

「主語」

war ヴァール 3 単過(sein)v.i ~ だった

「動詞」

leicht gerötet. ライト・ゲレーテット 過去分詞(röten)adj. 軽く赤みを帯びた

「補語」

彼は僕に椅子を勧めてくれ、自分自身は僕の少し後ろに座った。

Er schob mir einen Stuhl hin und setzte sich selbst ein wenig weiter hinter mir.

「主語」「動詞句」「間接目的語」「直接目的語」「動詞句」

und「動詞句」「主語」「副詞句」

Er エア pron 彼は

「主語」

schob ...hin ショーブ ...ヒン 3 単過(hin|schieben)v.t ~を勧めた

「動詞句」

mir ミア pron 僕に

「間接目的語」

einen Stuhl アイネン・シュトゥール n.m (背もたれのある) 椅子を

「直接目的語」

und ウント conj. そして

setzte sich セッツテ・ズィヒ 3 単過(sich+4 setzen)v.pr 座った

「動詞句」

selbst セルフ・スト pron 自分自身は

「主語」

ein wenig アイン・ヴェーニツヒ adv. 少し

「副詞句」

weiter hinter mir. ヴァイター・ヒンター・ミア adv. 僕の後ろに

「副詞句」

看護婦は立ち上がり、戸口のほうへ歩いて行った。

Die Krankenschwester stand auf und ging zur Tür.

「主語」「動詞句」 und「動詞」「副詞句」

Die Krankenschwester デー・イー・クランケンシュウェスター n.f 看護婦は

「主語」

stand auf シュタント・アウフ 3 単過(auf|stehen)v.i(座った状態から) 立ち上がった

「動詞句」

und ウント conj. そして

ging キング 3 単過(gehen)v.i 歩いて行った

「動詞」

zur Tür. ツーア・チュア adv. 戸口のほうへ

「副詞句」

ERSTER TEIL 第1部

その時、門衛が僕に言った：「彼女は腫瘍があるんです」

Gleichzeitig sagte der Pförtner zu mir: «Sie hat Krebs.»

「副詞」「動詞」「主語」「間接目的語」：《「主語」「動詞」「目的語」》

Gleichzeitig グライツァイティヒ adv. 同時に

「副詞」

sagte サーケ 3 単過(sagen)v.t 言った

「動詞」

der Pförtner デア・フエルトナー n.m 門衛は

「主語」

zu mir: ツー・ミーア adv. 僕に

「間接目的語」

«Sie シー pron 彼女は

「主語」

hat ハット 3 単現(haben)v.t 〜がある

「動詞」

Krebs.» クレプス n.m 癌、腫瘍

「目的語」

フランス語の原文では：

その時、門番が僕に言った：「彼女は皮膚がただれているんですよ」

À ce moment, le concierge m'a dit: «C'est un **chancre** qu'elle a.»

僕は意味が分からなかったもので、もっとしっかりと看護婦を見つめた。そして、看護婦は目の下で包帯を頭の周りにぐるりと巻いているのが分かった。

Da ich ihn nicht verstand, sah ich mir die Schwester genauer an und bemerkte, daß sie unterhalb der Augen eine Binde um den Kopf trug.

「副詞節」, 「動詞句」「主語」「動詞句」「目的語」「副詞」「動詞句」

und 「動詞」「目的語」

Da ダー conj. (理由) 〜なので

「副詞節」

ich イヒ pron 僕は

「主語」

ihn イン pron それを

「目的語」

nicht verstand, ニヒト・フェアシュタント 1 単過・否定(verstehen)v.t 分からなかった 「動詞句」

sah ...mir...an サー...ミーア...アン 1 単過(an | sehen)

v.t(+sich・3 関心をもって) 見つめた

「動詞句」

ich イヒ pron 僕は

「主語」

die Schwester デー・イー・シュヴァーエスター n.f.4 格 看護婦を

「目的語」

genauer ゲナウアー adv(genau). (比較級) もっと詳細に

「副詞」

und ウント conj. そして

bemerkte, ベマアケ 1 単過(bemerken)v.t 気付いた

「動詞」

daß ダス conj. 〜ということを

「目的語」

sie シー pron 彼女は

「主語」

unterhalb ウンターハルプ prep (2 格と) 〜の下に

「副詞句」

der Augen デア・アウゲン pl(Auge).n.n.2 格 目

「目的語」

eine Binde アイン・ビンデ n.f.4 格 包帯を

「目的語」

ERSTER TEIL 第1部

um ウム prep (4格と) ~の周りに 「副詞句」
 den Kopf デン・コフ n.m.4格 頭 「目的語」
 trug. トルク 3単過(tragen)v.t 身に着けていた 「動詞」

鼻があるべき場所は、包帯が真っ平らだった。包帯の白さだけが、顔の中で目に付いた。

Wo die Nase sein sollte, war die Binde ganz flach. Nur das Weiß der Binde war in ihrem Gesicht zu sehen. 「副詞節」「動詞」「主語」「補語」 | 「主語」「動詞」「補語」

Wo ウォー adv. ~である場所は 「副詞節」
 die Nase デー・ナーセ n.f 鼻が 「主語」
 sein sollte, サイン・ゾルテ 3単現・義務(sollen+不定詞 sein)v.i 在るべき 「動詞句」
 war ウァール 3単過(sein)v.i ~ だった 「動詞」
 die Binde デー・ビンデ n.f 包帯は 「主語」
 ganz flach. ガンツ・フラッハ adj. まったく平らな 「補語」
 Nur das Weiß ヌア・ダス・ヴァイス n.n その白さだけが 「主語」
 der Binde デア・ビンデ n.f.2格 包帯の 「形容詞句」
 war ウァール 3単過(sein)v.i ~ だった 「動詞」
 in ihrem Gesicht イン・イーラム・ゲジヒト adv. 彼女の顔の中で 「副詞句」
 zu sehen. ツー・ゼーエン zu 不定詞・受動 adj. 見られる 「補語」
 sein+ zu 不定詞 「~されうる、~されるべきである」

看護婦が出ていくと、門衛が言った：「あなたをお一人にいたしましょう」

Als sie gegangen war, sagte der Pförtner: «Ich lasse Sie nun allein.»
 「副詞節」, 「動詞」「主語」: 《「主語」「動詞」「目的語」「補語」》
 Als アルス conj. ~したとき、~すると 「副詞節」
 sie ジー pron 看護婦が 「主語」
 gegangen war, ゲカンゲン・ウァール 3単過・完了形(gehen)
 v.i 行ってしまった 「動詞句」
 sagte サーケ 3単過(sagen)v.t 言った 「動詞」
 der Pförtner: デア・プフェルトナー n.m 門衛は 「主語」
 «Ich イット pron 私は 「主語」
 lasse ラッセ 1単現・放任(lassen)v.t ~にする 「動詞」
 Sie ジー pron あなたを 「目的語」
 nun allein. ヌン・アライン adj. 一人だけに 「補語」

ERSTER TEIL 第1部

僕がどんな仕草をしたのかは分からないが、とにかく、彼はそのまま僕の背後に居続けた。

Ich weiß nicht, was für eine Bewegung ich machte, jedenfalls blieb er hinter mir stehen.

「主語」「動詞句」「目的語」, 「副詞」「動詞句」「主語」「副詞句」

Ich イヒ pron 僕は

「主語」

weiß nicht, ヲァイス・ニヒト 1 単現・否定(wissen)v.t 分からない

「動詞句」

was für eine Bewegung ヲァス・フュア・アイネ・ヘ ヲァーゲング

n.f.4 格 どのような動きを～するかということが

「目的語」

ich イヒ pron 僕が

「主語」

machte, マハテ 1 単過(machen)v.t した

「動詞」

jedenfalls イェーテンファルス adv. いずれにしても、とにかく

「副詞」

blieb ...stehen. ブリーフ ...シュテーエン 3 単過(stehen | bleiben)v.i そのまま残っていた

「動詞句」

er エア pron 彼は

「主語」

hinter mir ヒンター・ミーア adv. 僕の背後に

「副詞句」

was für ein ... ヲァス・フュア・アイン adj. どのような...

背後の立会人は、僕には不快だった。部屋は午後の終わり頃の美しい光で溢れていた。

Dieser Zeuge in meinem Rücken war mir peinlich. Der Raum war voll von schönem Spätnachmittagslicht.

「主語」「動詞」「間接目的語」「補語」 | 「主語」「動詞」「補語」

Dieser Zeuge ディーザー・ツォイゲ n.m この立会人は

「主語」

in meinem Rücken イン・マイネム・リュッケン adv. 僕の背後の

「副詞句」

war ヲァール 3 単過(sein)v.i ～ だった

「動詞」

mir ミーア pron.3 格 僕にとって

「間接目的語」

peinlich. パインリヒ adj. 気まずい、不快な

「補語」

Der Raum デア・ラム n.m 部屋は

「主語」

war ヲァール 3 単過(sein)v.i ～ だった

「動詞」

voll フォル adj. 一杯の

「補語」

von フォン adv. (動作主) ～によって

「副詞句」

schönem Spätnachmittagslicht. シェーネム・シュペートナーハミッタークス・リヒト

n.n.3 格 午後の終わり頃の美しい光

「目的語」

Spätnachmittags シュペートナーハミッタークス n(Spätnachmittag).m.2 格 午後の終わり頃の

schönem シェーネム adj.n.3 格 美しい Licht リヒト n.n.3 格 光

ERSTER TEIL 第1部

2匹のスズメバチがブンブン飛び回り、ガラス屋根に衝突していた。僕は眠気を感じた。

Zwei Hummeln schlugen summend gegen das Glasdach. Ich fühlte, wie ich schläfrig wurde. 「主語」「動詞」「副詞句」 | 「主語」「動詞」「目的語」

Zwei Hummeln ツヴァイ・フメルン pl.n.f 2匹のマルハナバチが 「主語」

schlugen シュルゲン 3 複過(schlagen)v.i 打ち当たっていた 「動詞」

summend ズメント 現在分詞・同時(summen)

adv. ブーンと音を立てて飛びながら 「副詞句」

gegen ゲーゲン prep (4格と)(方向) へ 「副詞句」

das Glasdach. ダス・ガラス・ダッハ n.n.4格 ガラス屋根 「目的語」

Ich イヒ pron 僕は 「主語」

fühlte, フュールテ 1 単過(fühlen)v.t 感じた 「動詞」

wie ヴァー conj. へのようなことを 「目的語」

ich イヒ pron 僕は 「主語」

schläfrig シュレーフリヒ adj. 眠たい 「補語」

wurde. ヴァルデ 1 単過・変化(werden)v.i へになった 「動詞」

フランス語の原文では：

2匹のスズメバチがガラス張りの屋根に接触しながらぶんぶんいていた。

Deux **frelons** bourdonnaient contre la verrière.

僕は門衛のほうへ振り返らずに尋ねた：「ここはもう長いのですか？」

Ohne mich zu dem Pförtner umzuwenden, sagte ich: «Sind Sie schon lange hier?»

「副詞句」, 「動詞」「主語」: 《「副詞句」「動詞」「主語」》

Ohne +zu 不定詞 オーネ adv. へしないで 「副詞句」

mich ...umzuwenden, ミヒ...ウム・ツァー・ウエンテン zu 不定詞(sich-4 um | wenden)

v.pr 僕は振り返る 「動詞句」

zu dem Pförtner ツァー・デアム・プフェルトナー adv. 門衛のほうへ 「間接目的語」

sagte サーケ 1 単過(sagen)v.t 言った 「動詞」

ich: イヒ pron 僕は 「主語」

«Sind シント 3 複現・3 単敬称・疑問文(sein)v.i へですか? 「動詞」

Sie ジー pron あなたは 「主語」

schon lange ショーン・ランゲ adv. もう長い 「副詞句」

hier?» ヒア adv. ここは 「副詞」

ERSTER TEIL 第1部

彼は即座に答えた：「5 年になります」まるで僕のこの質問をずっと待っていたようだった。

Er antwortete sofort: «Fünf Jahre», als hätte er schon die ganze Zeit auf meine Frage gewartet.

Er エア pron 彼は 「主語」

antwortete アントワァテテ 3 単過(antworten)v.i 答えた 「動詞」

somit: ソムイト adv. すぐに、ただちに 「副詞」

«Fünf Jahre», フェンフ・ヤーレ pl(Jahr).n.n 5 年 「応答」

als +接続法 conj. あたかも～かのように 「副詞節」

hätte ...gewartet. ヘッテ...ゲ・ワァルテット 接 II・3 単現・完了形(warten)

v.i(auf et-4 ～を) 待っていた 「動詞句」

er エア pron 彼は 「主語」

schon ショーン adv. すでに 「副詞」

die ganze Zeit デーイー・ガンツェ・ツァイト adv. その間ずっと 「副詞句」

auf meine Frage アウフ・マイネ・フラーゲ adv. ぼくの質問を 「間接目的語」

それから彼は大いに話した。マレンゴの養老院の門衛として最後を迎えるとは夢にも思わなかっただろう。

Dann redete er viel. Er hätte es sich nicht träumen lassen, daß er einmal als Pförtner des Altersheims in Marengo enden würde.

「副詞」「動詞」「主語」「副詞」 | 「主語」「動詞」「目的語」「動詞句」, 「目的語」

Dann ダン adv. それから 「副詞」

redete レーデテ 3 単過(reden)v.i 話した 「動詞」

er エア pron 彼は 「主語」

viel. フィール adv. 大いに 「副詞」

Er エア pron 彼は 「主語」

hätte ...sich nicht träumen lassen, ヘッテ...ズィヒ・ニヒト・トラウメン・ラッセン 接 II・3 単現・完了形・否定

(sich et-3 nicht träumen lassen)v.pr 夢想だにしなかっただろう 「動詞句」

es エス pron (daß以降の先出) そのことを 「目的語」

daß ダス conj. ～ということを 「目的語」

er エア pron 彼は 「主語」

einmal アインマル adv. (将来) いつか 「副詞」

als アルス prep (資格) ～として 「副詞句」

Pförtner プフェルトナー n.m 門衛 「目的語」

des Altersheims デス・アルターズ・ハイムス n.n.2 格 養老院の「形容詞句」

in Marengo イン・マレンゴ adv. マレンゴの 「副詞句」

ERSTER TEIL 第1部

enden würde. エンデ^ン・ウル^テ 接 II・3 単未・推量(werden+不定詞)

v.i 終わるだろう

「動詞句」

彼は、64 歳でパリの出身である。

Er war vierundsechzig Jahre alt und stammte aus Paris.

「主語」「動詞」「補語」 und 「動詞」「副詞句」

Er エア pron 彼は

「主語」

war ヲ^{アル} 3 単過・時制の一致(sein)v.i ~ である

「動詞」

vierundsechzig Jahre alt フィーア^{ウント}ゼ^{ヒツ}ヒ^{・ヤ}レ^{・アル} adj. 64 歳の

「補語」

und ウント conj. そして

stammte シュタム^テ 3 単過・時制の一致(stammen)v.i(aus et-3 何-3 の) 出身である

「動詞」

aus Paris. アウス^{・パ}リス adv. パリの

「副詞句」

ここで僕は彼の話をお遮った：「ああ、あなたはここの出身ではないのですね？」

Hier unterbrach ich ihn: «Ach, Sie sind nicht von hier?»

「副詞」「動詞」「主語」「目的語」：「感嘆」「主語」「動詞」「補語」

Hier ヒア adv. ここで

「副詞」

unterbrach ウンターブラ^ハ 1 単過(unterbrechen)v.t (人の話を) 遮った

「動詞」

ich イッヒ pron 僕は

「主語」

ihn: イン pron.4 格 彼を、彼の話

「目的語」

«Ach, アッハ int. ああ

「感嘆」

Sie シー pron (三人称複数形・敬称) あなたは

「主語」

sind nicht シント^{・ニ}ヒト 3 複現・否定(sein)v.i ~ でない

「動詞」

von hier?» フォン^{・ヒア} adv. (出身) ここの出身

「補語」

そして、彼が僕を院長室へ連れていく前に、母さんのことを話していたことを思い出した。

Dann fiel mir ein, daß er mir, bevor er mich zum Direktor brachte, etwas über Mama gesagt hatte.

「副詞」「動詞句」「間接目的語」「主語」

Dann ダン adv. それから

「副詞」

fiel ...ein, フィール...アイン 3 単過(ein | fallen)

v.i(j-3) (人-3 の) 心に浮かんだ、(人-3 が) 思いついた

「動詞句」

mir ミア pron.3 格 僕の

「間接目的語」

daß ダス conj. ~ということが

「主語」

er エア pron 門衛は

「主語」

mir, ミア pron 僕に

「間接目的語」

bevor ベフォー conj. ~する前に

「副詞節」

ERSTER TEIL 第1部

er エア pron 門衛は	「主語」
mich ミヒ pron.4 格 僕を	「直接目的語」
zum Direktor ツー・ディレクトール adv. 院長に	「間接目的語」
brachte, ブラハテ 3 単過・時制の一致(bringen)v.t 連れていく	「動詞」
etwas エトワース pron 何かを	「直接目的語」
über Mama ユーバー・ママ adv. 母さんについて	「副詞句」
gesagt hatte. ゲザークト・ハッテ 3 単過・完了形(sagen)v.t 話していた	「動詞句」

平野部では、特にこの地方はとても暑いので、非常に急いで遺体を埋葬しなければなら
ないという話だった。

Daß man sie sehr schnell beerdigen müsse, weil es in der Ebene, besonders in dieser Gegend, so heiß sei. Daß 「主語」「目的語」「副詞句」「動詞句」, 「副詞節」

Daß ダス conj. ～ということ (話の内容について説明)

man マン pron 人は	「主語」
sie ジー pron.4 格 遺体を、母さんを	「目的語」
sehr schnell セーア・シュネル adv. 非常に急いで	「副詞句」
beerdigen müsse, ベアディゲン・ミュッセ 接 I・3 単現・必要(müssen+不定詞) v.t 埋葬しなければならない	「動詞句」
weil ウェイル conj. (理由) ～なので	「副詞節」
es エス pron 気候は	「主語」
in der Ebene, イン・デア・エーベネ adv. 平野では	「副詞句」
besonders ベゾンダース adv. 特に、とりわけ	「副詞」
in dieser Gegend, イン・デア・ゲグント adv. この地方では	「副詞」
so heiß ソー・ハイス adj. とても暑い	「補語」
sei. サイ 接 I・3 単現(sein)v.i ～である	「動詞」

この時、彼はパリで暮らしたことがあって、パリは忘れがたいと僕に話した。

Bei der Gelegenheit hatte er mir auch zu verstehen gegeben, daß er in Paris gelebt habe und Paris nur schwer vergessen könne.

「副詞句」, 「動詞句」「主語」「間接目的語」「動詞句」「直接目的語」

Bei バイ prep (時間) ～の時に	「副詞句」
der Gelegenheit デア・ゲレーゲンハイト n.f 機会、チャンス	「目的語」
hatte ...zu verstehen gegeben, ハッテ...ツーフェアシュテエン・ゲゲーベン 3 単過・使役 (j-3 et-4 zu+不定詞 verstehen +geben)v.t 分からせた、ほのめかした	「動詞句」
er エア pron 彼は	「主語」
mir auch ミー・アフ pron.3 格 僕に対しても	「間接目的語」

ERSTER TEIL 第1部

daß ^{ダス} conj. ～ということを	「直接目的語」
er ^{エア} pron 彼は	「主語」
in Paris ^{イン・パリ} adv. パリで	「副詞句」
gelebt habe ^{ゲレプト・ハーベ} 3 単現・完了形(leben)v.i 暮らしていた	「動詞句」
und ^{ウント} conj. そして	
Paris ^{パリ} n.n パリを	「目的語」
nur schwer ^{ヌーア・シュヴェア} adj. 難しく	「副詞句」
vergessen könne. ^{フェアゲッセン・ケネ} 接 I・3 単現・可能(können+不定詞)	
v.t 忘れられる	「動詞句」

パリでは、3 日間、時にはそれどころか、4 日間も死者とともに過ごす。

<u>In Paris bleibe man drei, manchmal sogar vier Tage mit dem Toten zusammen.</u>	
	「副詞句」, 「動詞句」「主語」「副詞句」「動詞句」
In Paris ^{イン・パリ} adv. パリでは	「副詞句」
bleibe ...zusammen. ^{ブライヘ ...ツァメン} 接 I・3 単現・推量(zusammen bleiben)	
v.i 一緒のままでいる	「動詞句」
man ^{マン} pron 人は	「主語」
drei, ^{ドライ} adj. 3 (日)	「副詞句」
manchmal sogar ^{マンヒマル・ゾガール} adv. 時にはそれどころか	「副詞句」
vier Tage ^{フィア・ターゲ} pl.n.m 4 日	「副詞句」
mit dem Toten ^{ミット・デーム・トテン} adv. 死者とともに	「副詞句」
dem Toten ^{デーム・トテン} n.n.3 格 死者	

ここでは全く時間がない。身内の死を受け入れて思い出に浸ることもほとんど出来ない内に、もう棺の後を走って追わねばならない。

<u>Hier habe man keine Zeit, man habe sich kaum an den Gedanken gewöhnt, und schon müsse man hinter dem Sarg herlaufen.</u>	
	「副詞」「動詞」「主語」「目的語」, 「主語」「動詞句」「副詞」「間接目的語」, und 「副詞」「動詞句」「主語」「副詞句」「動詞句」
Hier ^{ヒア} adv. ここでは	「副詞」
habe ^{ハーベ} 3 単現(haben)v.t ～がある	「動詞」
man ^{マン} pron 人は	「主語」
keine Zeit, ^{カイン・ツァイト} n.f.4 格 まったく時間が～ない	「目的語」
man ^{マン} pron 人は	「主語」
habe sich ...gewöhnt, ^{ハーベ・スィットヒ...ゲヴェント} 接 I・3 単現・完了形・推量	
(sich-4 an et-4 gewöhnen)v.pr (何-4 に) 慣れただろう	「動詞句」

ERSTER TEIL 第1部

kaum カム adv. ほとんど～ない	「副詞」
an den Gedanken アン・デン・ゲタンケン adv. 考えに → 少し翻訳を工夫した	「間接目的語」
und ウント conj. そして	
schon ショーン adv. もう	「副詞」
müsse ...herlaufen. ミュッセ...ヘアラウフェン 接 I・3 単現・必要・推量(müssen+不定詞) v.i ～について走って行かねばならないだろう	「動詞句」
man マン pron 人は	「主語」
hinter ヒンター prep (空間的) ～の後ろを	「副詞句」
dem Sarg デーム・サルグ n.m.3 格 棺	「目的語」

門衛の妻が話を遮った：「もう黙りなさい。この方にそんな話をする必要はないでしょう」

Seine Frau hatte ihn unterbrochen: «Sei doch still. So was brauchst du dem Herrn doch nicht zu erzählen.» 「主語」「動詞句」「目的語」「動詞句」:

《「動詞」「補語」 | 「直接目的語」「動詞句」「主語」「間接目的語」》

Seine Frau サイネ・フラウ n.f 門衛の妻が	「主語」
hatte ...unterbrochen: ハッテ...ウンターブロッヘン 3 単過・完了形(unterbrechen)v.t 遮った	「動詞句」
ihn イン pron 彼を、彼の話を	「目的語」
«Sei サイ 命・2 単現・状態(sein)v.i ～でいなさい	「動詞」
doch still. ドツホ・シュティル adj. さっさと黙った	「補語」
So was ザー・ヴァス pron そんなことを	「直接目的語」
brauchst ... doch nicht zu erzählen.» ブラウフスト...ドツホ・ニヒト・ツァー・エアツェレン 2 単現・必要・否定(brauchen zu+不定詞)v.t 語って聞かせる必要がない	「動詞句」
brauchen zu+不定詞 「～する必要がない」	
doch ドツホ adv. それでも	
du ドゥ pron あなたは	「主語」
dem Herrn デーム・ハーン adv. この方に	「間接目的語」

門衛は顔を赤らめて弁解した。

Der Alte war rot geworden und hatte sich entschuldigt.

「主語」「動詞句」「補語」「動詞句」 und 「動詞句」

Der Alte デア・アルテ n.m 老人は (門衛は)	「主語」
war ...geworden ガァール...ゲウァアデソ 3 単過・完了形・変化(werden)v.i ～になった	「動詞句」
rot ロート adj. 赤い	「補語」
und ウント conj. そして	
hatte sich entschuldigt. ハッテ・スィヒ・エントシュルディクト 3 単過・完了形(sich-4 entschuldigen)	

ERSTER TEIL 第1部

v.pr 弁解した

「動詞句」

それから僕は取りなして言った：「何も問題はありませんよ！」

Ich hatte dann vermittelnd gesagt: «Lassen Sie ihn doch!»

「主語」「動詞句」「副詞句」「動詞句」：《「目的語」「動詞」「主語」「副詞」》

Ich イッヒ pron 僕は

「主語」

hatte ...gesagt: ハッテ...ゲザークト 1 単過・完了形(sagen)v.t 言った

「動詞句」

dann ダン adv. それで、それから

「副詞」

vermittelnd フェアミッテルント 現在分詞・様態(vermitteln)adv. 取りなして (なだめて)

「副詞」

«Lassen ラッセン 命・3 単現 v.t そのままにしておいてください

「動詞」

Sie ジー pron あなたは

「主語」

ihn イン pron それを

「目的語」

doch! ドッホ adv. それでも

「副詞」

→ そのままでいいですよ → 何も問題はありませんよ！

彼が言ったことを、僕は正しくて、興味深いと思った。

Was er sagte, fand ich richtig und interessant.

「目的語」「動詞」「主語」「補語」

Was ヴァス pron ～することを

「目的語」

er エア pron 彼が

「主語」

sagte, サークテ 3 単過(sagen)v.t 言った

「動詞」

fand ファント 1 単過(finden)v.t 思っていた

「動詞」

ich イッヒ pron 僕は

「主語」

richtig リヒヒ adj. 正しい

「補語」

und ウント conj. そして

interessant. インテラサント adj. 興味深い

「補語」

その小さい霊安室で彼は、生活困窮者としてこの養老院に入ってきた、と語った。

In der kleinen Leichenhalle erzählte er mir, daß er als Bedürftiger in das Heim gekommen sei.

「副詞句」, 「動詞」「主語」「間接目的語」「直接目的語」

In der kleinen Leichenhalle イン・デア・クライネン・ライヒェンハレ

adv. (場所) その小さい霊安室で

「副詞句」

erzählte エアツェールテ 3 単過(erzählen)v.t 物語った

「動詞」

er エア pron 彼は

「主語」

mir, ミア pron 僕に

「間接目的語」

daß ダス conj. ～ということを

「直接目的語」

er エア pron 彼は

「主語」

ERSTER TEIL 第1部

als アルス conj. (資格) (1格と) ～として 「補語」
 Bedürftiger ベジ ユルフティゲ n.m.1 格 生活困窮者 「目的語」
 Bedürftig ベジ ユルフティヒ adj. 貧しい、困っている→ (男性・名詞化) 生活困窮者
 in das Heim イン・ダス・ハイム adv. この養老院に 「副詞句」
 gekommen sei. ゲコメン・ザイ 2 単現・完了形(kommen)v.i 入ってきた 「動詞句」

しかしそれから自分はまだ元気だと感じて、門衛の仕事を志願したのだった。

Da er sich aber noch kräftig fühle , habe er sich um die Pförtner-Stelle beworben.
 「副詞」「主語」「動詞句」 aber 「補語」「動詞句」,
 「動詞句」「主語」「動詞句」「間接目的語」「動詞句」
 Da ダー adv. それから、そこで 「副詞」
 er エア pron 彼は 「主語」
 sich ...fühle , スィットヒ ...フュレ 3 単現(sich-4 fühle)
 v.i 自分が～と感じる 「動詞句」
 aber アーバー conj. しかし
 noch ノッホ adv. まだ 「副詞」
 kräftig クレフティヒ adj. 元気な、丈夫な 「補語」
 habe ...sich ...beworben. ハーベ ...スィットヒ...ヘヴウ・ォアベン 3 単現・完了形(sich-4 beeworben)
 v.pr(um et-4) ～を志願した 「動詞句」
 er エア pron 彼は 「主語」
 um die Pförtner-Stelle ウム・デー・イー・プ・フォルトナー・シュテレ adv. 門衛の職を 「間接目的語」
 Pförtner プ・フォルトナー n.m 門番 Stelle シュテレ n.f 職、地位

僕は、それなら入寮者ですね、と付け加えて言った。彼はそれを否定した。

Ich bemerkte dazu, daß er demnach Heiminsasse sei. Er verneinte.
 「主語」「動詞」「副詞」「目的語」 | 「主語」「動詞」
 Ich イットヒ pron 僕は 「主語」
 bemerkte ベマクテ 1 単過(bemerken)v.t 述べた 「動詞」
 dazu, ダツァー adv. それに加えて 「副詞」
 daß ダス conj. ～ということを 「目的語」
 er エア pron 彼は 「主語」
 demnach テームナーハ adv. それなら 「副詞」
 Heiminsasse ハイム・インサッセ n.m.1 格 入寮者 「補語」
 sei. ザイ 接 I・3 単現(sein)v.i ～である 「動詞」
 Er エア pron 彼は 「主語」
 verneinte. フェアナインテ 3 単過(verneinen)v.t 否定した 「動詞」

ERSTER TEIL 第1部

彼が入寮者のことを、「彼ら」とか「他の連中」と呼んだり、時には自分よりも若い者が含まれていても「年寄りたち」と呼ぶ、その呼び方が僕はすでに気になっていた。

Mir war schon aufgefallen, daß er «sie» und «die anderen» sagte, manchmal auch «die Alten», womit er die Insassen meinte, von denen manche nicht älter waren als er.

「間接目的語」「動詞句」「主語」

Mir ミア pron 僕の

「間接目的語」

war schon aufgefallen, ヲアル・ショーン・アウフ・ゲ・ファレン 3 単過・完了形(auf | fallen)

v.i(j-3 人・3 の) 注意をすでにひいていた

「動詞句」

mir を主語にすると、「僕はすでに気になっていた」

daß ダス conj. ～ということが

「主語」

er エア pron 彼が

「主語」

«sie» シー pron.pl 「彼ら」

「目的語」

und ウント conj. そして

«die anderen» デー・アンデレン pl.n 「他の連中」

「目的語」

sagte, サークテ 3 単過(sagen)v.t 言った

「動詞」

manchmal マンヒマル adv. 時には

「副詞」

auch «die Alten», アウフ・デー・アルテン pl.n 「年寄りたち」とさえ

「目的語」

womit ヲオミット adv. それを使って～する時に

「副詞節」

er エア pron 彼が

「主語」

die Insassen デー・インザセン pl(Insasse).n.m 入寮者たちを

「目的語」

meinte, マイnte 3 単過(meinen)v.t 言う

「動詞」

von denen フォン・デーネン adv. (対象) 彼らについて

「副詞節」

manche マンヒェ pron(manich).pl いくつかの者は

「主語」

nicht älter ニヒト・エルター adj. 年上でない

「補語」

waren ヲアルン 3 複過・時制の一致(sein)v.i ～である

「動詞」

als er. アルス・エア adv. (比較) 彼よりも

「副詞句」

しかしそれは同じことではない。彼は門衛である。だから彼らを管理する立場にいる。

Aber das war natürlich nicht dasselbe. Er war Pförtner und stand in gewisser Weise über ihnen. Aber 「主語」「動詞」「補語」 | 「主語」「動詞」「補語」 und 「動詞」「補語」

Aber アーバー conj. しかし

das ダス pron それは

「主語」

war ヲアル 3 単過・時制の一致(sein)v.i ～である

「動詞」

natürlich ナチュアリヒ adv. もちろん、当然

「副詞」

nicht dasselbe. ニヒト・ダッセルベ pron 同じことではない

「補語」

ERSTER TEIL 第1部

Er エア pron 彼は	「主語」
war ヲアル 3 単過・時制の一致(sein)v.i ~ である	「動詞」
Pförtner フォルトナー n.m 門衛	「補語」
und ウント conj. そして	
stand シュタント 3 単過・時制の一致(stehen)v.i ~ にいる	「動詞」
in gewisser Weise イン・ゲウイッサー・ウァイゼ adv. ある意味	「副詞句」
über ihnen. ユーバー・イーネン adv. (優越) 彼らより上位に	「補語」

この時、看護婦が入ってきた。

In diesem Augenblick kam die Schwester herein.

「副詞句」「動詞句」「主語」「動詞句」

In diesem Augenblick イン・デューゼム・アウゲンブリック adv. この時	「副詞句」
kam ...herein. カム...ヘライン 3 単過(herein kommen)v.i 入ってきた	「動詞句」
die Schwester デュー・シュウェスター n.f 看護婦が	「主語」

あっという間に、日が暮れていた。急速に、夜が屋根のガラス窓の上に崩れ落ちてきた。

Plötzlich war es Abend geworden. Sehr schnell war über dem Glasdach die Nacht hereingebrochen.

「副詞」「動詞句」「主語」「補語」「動詞句」

「副詞句」「動詞句」「副詞句」「主語」「動詞句」

Plötzlich プレツリヒ adv. 急に、あっという間に	「副詞」
war ...geworden. ヲアル...ゲウオアデェン 3 単過・完了形・変化(werden)	
v.i ~ になっていた	「動詞句」
es エス pron 天候・気候・時は	「主語」
Abend アーベント n.m 日暮れ	「補語」
Sehr schnell ゼーア・シュネル adv. とても早く、急速に	「副詞句」
war ...hereingebrochen. ヲアル...ヘラインゲブロッヒェン 3 単過・完了形(herein brechen)	
v.i 崩れ落ちてきた	「動詞句」
über dem Glasdach ユーバー・デーム・グラスダッハ adv. 屋根のガラス窓の上に	「副詞句」
die Nacht デュー・ナハト n.f 夜が	「主語」

ERSTER TEIL 第1部

門衛がスイッチをひねると、突然ほとばしった光で僕の目は眩んだ。

Der Pförtner drehte am Schalter, und das plötzlich aufspritzende Licht blendete mich.

「主語」「動詞」「間接目的語」,und「主語」「動詞」「目的語」

Der Pförtner デア・フ・フェルトナー n.m 門衛は 「主語」

drehte ドレーテ 3 単過(drehen)v.i(an et-3 何-3 を) ひねった 「動詞」

am Schalter, アム・シャルター adv. スイッチを 「間接目的語」

und ウント conj. そして

das plötzlich ダス・プ・レツツリヒ adj.n.1 格 突然の 「形容詞句」

aufspritzende アウフ・シュプ・リツェンデ 現在分詞(auf- + spritzen)

adj.n.1 格 ほとばしる 「形容詞」

Licht リヒト n.n.1 格 光が 「主語」

blendete ブレンデテ 3 単過(blenden)v.t 目を眩ませた 「動詞」

mich. ミヒ pron 僕 (の目) を 「目的語」

彼は僕に、食堂へ行って食事をするようにと勧めた。

Er forderte mich auf, zum Essen in den Speisesaal zu gehen.

「主語」「動詞句」「目的語」「動詞句」,「補語」

Er エア pron 彼は 「主語」

forderte ...auf, フォアデアテ...アウフ 3 単過(auf|fordern)v.t(j-4 zu et-3) 勧めた 「動詞句」

mich ミヒ pron 僕に 「目的語」

zu 不定句・mich の動作 n. ～することを 「補語」

zum Essen ツーム・エッセン adv. 食事に 「間接目的語」

in den Speisesaal イン・デーン・シュハ 代ザール adv. 食堂へ 「副詞句」

zu gehen. ツー・ゲーエン zu 不定詞 v.i 行く 「動詞句」

だが僕は空腹ではなかった。すると彼は、カフェオレを持て来ようとして提案してくれた。

Aber ich hatte keinen Hunger. Da erbot er sich, mir eine Tasse Milchkaffee zu bringen.

Aber 「主語」「動詞」「目的語」

「副詞」「動詞句」「主語」「動詞句」「間接目的語」「動詞句」「直接目的語」

Aber アーバー conj. しかし

ich イヒ pron 僕は 「主語」

hatte ハッテ 1 単過(haben)v.t ～があった 「動詞」

keinen Hunger. カイネン・フンガー n.m 空腹が～ない 「目的語」

Da ダー adv. そこで 「副詞」

erbot ...sich, エアホート...スィヒ 3 単過(sich-4 er bieten)v.pr(zu 不定詞)

ERSTER TEIL 第1部

v.pr	～しようと申し出た	「動詞句」
er	エア pron 彼は	「主語」
mir	ミーア pron 僕に	「間接目的語」
zu	不定句 n. ～することを	「直接目的語」
eine Tasse Milchkafee	アイネ・タッセ・ミルカフェ	
n.m.4 格	カフェオレを 1 杯	「目的語」
zu bringen.	ツ・ブリンゲン zu 不定詞 v.t 持ってくる	「動詞句」

僕はカフェ・オレが大好きなので、彼の提案を受け入れた。するとしばらくして、彼は盆にのせて戻ってきた。僕はそれを飲んだ。

Weil ich Milchkafee sehr gern trinke, war ich einverstanden, und nach einer Weile kam er mit einem Tablett zurück. Ich trank.

	「副詞節」, 「動詞」「主語」「補語」,	
	und 「副詞句」「動詞句」「主語」「副詞句」「動詞句」	「主語」「動詞」
Weil	ヴァイル conj. (理由) ～なので	「副詞節」
ich	イヒ pron 僕は	「主語」
Milchkafee	ミルカフェ n.m.4 格 カフェ・オレを、ミルクコーヒーを	「目的語」
sehr gern	ゼーア・ゲアン adv. とても好んで	「副詞句」
trinke,	トリンク 1 単現(trinken)v.t 飲む	「動詞」
war	ヴァール 1 単過(sein)v.i ～ だった	「動詞」
ich	イヒ pron 僕は	「主語」
einverstanden,	アインフェアシュタンデーン adj. 同意した	「補語」
und	ウント conj. そして	
nach einer Weile	ナーハ・アイー・ヴァイル adv. (時間) しばらく後で	「副詞句」
kam ...zurück.	カム...ツリュック 3 単過(zurück kommen)v.i 戻ってきた	「動詞句」
er	エア pron 彼は	「主語」
mit einem Tablett	ミット・アイネム・タブレット adv. 盆にのせて	「副詞句」
Ich	イヒ pron 僕は	「主語」
trank.	トランク 1 単過(trinken)v.t 飲んだ	「動詞」

その後、僕はタバコを吸いたくなかった。しかし、母さんのいるところでタバコを吸ってもよいのかどうか分らなかったなので、ためらった。

Dann hatte ich Lust zu rauchen. Aber ich zögerte, weil ich nicht wußte, ob ich das in Mamas Gegenwart durfte.

	「副詞」「動詞」「主語」「目的語」	「Aber」「主語」「動詞」「副詞節」
Dann	ダン adv. そのあと	「副詞」

ERSTER TEIL 第1部

hatte ハッテ 1 単過(haben)v.t	～があった	「動詞」
ich イッヒ pron	僕は	「主語」
Lust ルスト n.f.4 格	気持ち	「目的語」
zu rauchen. ツー・ラウヘン zu	不定詞・同格 adj. タバコを吸いたいという	「形容詞句」
Aber アーバー conj.	しかし	
ich イッヒ pron	僕は	「主語」
zögerte, ツェーゲアテ 1 単過(zögern)v.i	ためらった	「動詞」
weil ヴェイル conj.	(理由) ～なので	「副詞節」
ich イッヒ pron	僕は	「主語」
nicht wußte, ニヒト・ヴステ 1 単過・否定(wissen)v.t	知らなかった	「動詞句」
ob オッパ conj.	～かどうかということ	「目的語」
ich イッヒ pron	僕は	「主語」
das ダス pron	(タバコを吸うこと) それを	「目的語」
in Mamas Gegenwart イン・ママス・ゲーゲンヴァルト		
adv.	母さんのいるところで	「副詞句」
durfte. ドゥールフテ [助](dürfen)	～していい	「動詞」

だがそれは本来多分無関係だと思い、僕は門衛にタバコを勧め、二人でタバコを吸った。

Aber eigentlich, war das wohl gleichgültig. Ich bot dem Pförtner eine Zigarette an, und wir rauchten.

Aber 「副詞」「動詞」「主語」「補語」

「主語」「動詞句」「間接目的語」「直接目的語」「動詞句」,und 「主語」「動詞」

Aber アーバー conj. しかし

eigentlich アイゲンツリヒ adv. 本来は、ところで 「副詞」

war ヴァール 3 単過(sein)v.i ～ だった 「動詞」

das ダス pron それは 「主語」

wohl gleichgültig. ヴォール・グライヒギュルティヒ adj. おそらく無関係な 「補語」

wohl ヴォール adv. (推量) たぶん、おそらく

Ich イッヒ pron 僕は 「主語」

bot ...an, ボート...アン 1 単過(an | bieten)v.t(j-3 et-4 人-3 に何-4 を) 勧めた 「動詞句」

dem Pförtner デーム・プフェルトナー n.m.3 格 門衛に 「間接目的語」

eine Zigarette アイネ・ツィガレッテ n.f.4 格 タバコを 「直接目的語」

und ウント conj. そして

wir ヴィーア pron 僕たちは 「主語」

rauchten. ラウフテン 1 複過(rauchen)v.i タバコを吸った 「動詞」

ERSTER TEIL 第1部

ある時、彼は僕に言った：

Irgendwann sagte er zu mir: 「副詞」「動詞」「主語」「間接目的語」
 Irgendwann イルゲンツヴァン adv. ある時 「副詞」
 sagte サーゲ 3 単過(sagen)v.t 言った 「動詞」
 er エア pron 彼は 「主語」
 zu mir: ツー・ミーア adv. 僕に 「間接目的語」

「あなたの母上のお友達も、お通夜にでることになっています」

«Übrigens werden die Freunde Ihrer Frau Mutter auch bei ihr wachen.»
 «「副詞」「動詞句」「主語」「副詞句」「動詞句」»
 «Übrigens ユーブ リゲンス adv. ところで 「副詞」
 werden ...wachen. ヲェアデッ...ヴァヘン 3 複未・予定(werden+不定詞)
 v.i 通夜をすることになっている 「動詞句」
 die Freunde デー・イー・フロインデ pl(Freund).n.m 友達は 「主語」
 Ihrer Frau Mutter イーラー・フラウ・ムター n.f.2 格 あなたの母上の 「形容詞句」
 auch アウフ adv. ～もまた 「副詞」
 bei ihr バイ・イーア adv. 母上のところに 「副詞句」

「そういう慣例なのです。私は椅子とブラックコーヒーを用意しなければなりません」

Das ist so üblich. Ich muß jetzt für Stühle und schwarzen Kaffee sorgen.»
 «「主語」「動詞」「補語」 | 「主語」「動詞句」「副詞」「間接目的語」「動詞句」»
 Das ダス pron それは 「主語」
 ist イスト 3 単現(sein)v.i ～である 「動詞」
 so üblich. ソー・ユーブ リヒ adj. そのような慣例の 「補語」
 Ich イヒ pron 私は 「主語」
 muß ...sorgen.» ムス...ゾアゲン 1 単現・必要(müssen+不定詞)
 v.i(für et-4 何-4 を) 用意しなければならない 「動詞句」
 jetzt イェツト adv. 今から、これから 「副詞」
 für フュア prep (4 格と) (目的) ～を 「間接目的語」
 Stühle シュトゥーレ pl(Stuhl).n.m 椅子 「目的語」
 und ウント conj. そして
 schwarzen Kaffee シュヴァルツェン・カフェ
 pl(Kaffee : 単複同形).n.m ブラックコーヒー 「目的語」

ERSTER TEIL 第1部

僕は彼に、電灯の1個を消すことは出来ないですか、と尋ねた。

Ich fragte ihn, ob man nicht eine der Lampen ausschalten könne.

「主語」「動詞」「間接目的語」, 「直接目的語」

Ich イッヒ pron 僕は

「主語」

fragte フラーゲ 1 単過(fragen)v.t(j-4 人-4 に) 尋ねた

「動詞」

ihn, イーン pron 彼に

「間接目的語」

ob オッパ conj. ～かどうかを

「直接目的語」

man マン pron (ü, 伊 hr, Sie の代用) あなたは

「主語」

nicht ...ausschalten könne. ニヒト...アウスシャルテン・ケネ 接・3 単現・可能・否定(können+不定詞)

v.t 消すことはできない

「動詞句」

fragen は、間接または直接疑問文(接続法)を「目的語」として持つことができる。

eine アイネ pron 1 つを

「目的語」

der Lampen デア・ランペン pl(Lampe)n.f.2 格 電灯の

「形容詞句」

この文のように、「直接目的語」が2つある文でも構わない。

白い壁に反射する目もくらむような強い光のせいで、僕はひどく疲れてしまった。

Das grelle Licht an den weißen Wänden machte mich ganz müde.

「主語」「動詞」「目的語」「補語」

Das grelle Licht ダス・グレル・リヒト n.n.1 格 眩しい光は

「主語」

grelle グレル adj.n.1 格 どぎつい、目もくらむ Licht リヒト n.n.1 格 光

an den weißen Wänden アン・デーン・ヴァイセン・ヴェンデン

adv. (接触) 白い壁に反射する

「形容詞句」

machte マハテ 3 単過(machen)v.t (様態を) ～に変えた

「動詞」

mich ミヒ pron 僕を

「目的語」

ganz müde. ガンツ・ミュテ adj. まったく疲れた

「補語」

彼は、電灯はそうに動作しないと言った。とにかく設備がそうなっているのだ：すべて点灯するかすべて消灯するか、どちらかなのだ。

Er sagte, das gehe nicht. Die Anlage sei nun einmal so: entweder alle oder keine.

「主語」「動詞」「目的語」 | 「主語」「動詞」「補語」: 「補語」

Er エア pron 彼は

「主語」

sagte, サーゲ 3 単過(sagen)v.t 言った

「動詞」

n. ～ということを

「目的語」

das ダス pron 電灯 (の設備) は

「主語」

gehe nicht. ゲーエ・ニヒト 3 単現・否定(gehen)

v.i (機械が) そのように動作しない

「動詞句」

ERSTER TEIL 第1部

Die Anlage ディー・アンラーグ n.f 設備は 「主語」
 sei ザイ 接・3 単現・理由(sein)v.i 〜である 「動詞」
 nun einmal so: ヌーン・アインマル・ゾー adv. とにかくそのような 「補語」
 entweder alle oder keine. エントワァーダー・アレ・オアダー・カイン pron すべて点灯するかすべて消灯するかどちらか 「補語」

僕は彼のことがあまり気にならなくなった。彼は外に出て行き、戻ってきて、椅子を並べた。

Ich habe mich nicht mehr viel um ihn gekümmert. Er ging hinaus, kam wieder und stellte die Stühle zurecht.

「主語」「動詞句」「副詞句」「間接目的語」「動詞句」

「主語」「動詞句」, 「動詞句」 und 「動詞句」「目的語」「動詞句」

Ich イヒ pron 僕は 「主語」

habe mich nicht ...gekümmert. ハーベ・ミヒ・ニヒト...ゲキュマート 1 単現・完了形・否定

(sich-4 kümmern)v.pr 気にしなくなっていた 「動詞句」

mehr viel メア・フィール adv. (否定文で) それほど〜ない、あまり 「副詞句」

um ihn ウム・イン adv. (関連) 彼のことを 「間接目的語」

Er エア pron 彼は 「主語」

ging hinaus, ギング・ヒナウス 3 単過(hinaus|gehen)v.i 外に出て行った 「動詞句」

kam wieder カム・ワァーダー 3 単過(wieder|kommen)v.i 戻ってきた 「動詞句」

und ウント conj. そして

stellte ...zurecht. シュテルテ...ツレヒト 3 単過(zurecht|stellen)v.t 正しい位置に置いた 「動詞句」

die Stühle ディー・シュトゥーレ pl(Stuhl).n.m 椅子を 「目的語」

彼は 1 つの椅子の上にコーヒーポットを置き、数個ずつ重ねたカップをその周りに並べた。

Auf einem Stuhl ordnete er Tassen um eine Kaffeekanne.

「副詞句」「動詞」「主語」「目的語」「副詞句」

Auf アフ prep (位置・接触) 〜の上に 「副詞句」

einem Stuhl アイネム・シュトゥール n.m 1 つの椅子 「目的語」

ordnete オルトネ 3 単過(ordnen)v.t 配列した 「動詞」

er エア pron 彼は 「主語」

Tassen タッセン pl(Tasse).n.f.4 格 数個のカップを 「目的語」

um ウム prep (4 格と) (空間的) 〜の周りに 「副詞句」

eine Kaffeekanne. アイン・カフェカネ n.f.4 格 コーヒーポット 「目的語」

ERSTER TEIL 第1部

それから彼は母さんの向こう側の、僕の真向かいに座った。

Dann setzte er sich mir gegenüber, auf die andere Seite von Mama.

「副詞」「動詞句」「主語」「副詞句」

Dann ダン adv. それから

「副詞」

setzte ...sich セッツテ...ズィット 3 単過(sich-4 setzen)v.pr 座った

「動詞句」

er エア pron 彼は

「主語」

mir gegenüber, ミー・ゲーゲンユーバー adv. 僕の正面に

「副詞句」

gegenüber ゲーゲンユーバー prep (3 格と; しばしば後置) への向かい側に、向かい合って

auf アウフ prep (位置) へに

「副詞句」

die andere Seite デー・アンデレ・ザイテ n.f.4 格 反対側、向こう側

「目的語」

von Mama. フォン・ママ adv. 母さんの

「副詞句」

看護婦は奥のほうで、僕たちに背を向けて座っていた。

Die Schwester saß mit dem Rücken zu uns im Hintergrund.

「主語」「動詞」「副詞句」

Die Schwester デー・シュヴァーエスター n.f 看護婦は

「主語」

saß サース 3 単過(sitzen)v.i 座っていた

「動詞」

mit dem Rücken zu uns ミット・デー・ム・リュッケン・ツウ・ウス

adv. (様態) 僕たちに背を向けて

「副詞句」

im Hintergrund. イム・ヒンターグランド adv. (場所) 奥のほうで、目立たない場所

「副詞句」

僕は彼女が何をしているか見えなかった。彼女の腕の動きから判断すれば、編み物をして
いたのだろう。心地の良い夜だった。

Ich sah nicht, was sie tat. Nach der Bewegung ihrer Arme zu urteilen, strickte sie. Es war gemütlich.

「主語」「動詞句」「目的語」 | 「副詞句」, 「動詞」「主語」 | 「主語」「動詞」「補語」

Ich イット pron 僕は

「主語」

sah nicht, サー・ニヒト 1 単現・否定(sehen)v.t 見えなかった

「動詞句」

was ヴァス pron (目的語) 何を~するかということ

「目的語」

sie ジー pron.f 彼女が

「主語」

tat. タート 3 単過・時制の一致(tun)v.t している

「動詞」

Nach ナハ prep (3 格と) (判断の基準) ~によって

「副詞句」

der Bewegung デア・ベヴァーグUNG n.f.3 格 動き、身振り

「目的語」

ihrer Arme イーラー・アルメ pl.n.2 格 彼女の腕の

「形容詞句」

zu urteilen, ツー・ウルツァイレン zu 不定詞・条件 v.i 判断

「動詞句」

strickte シュトリクテ 3 単過(stricken)v.i 編み物をしていた

「動詞」

sie. ジー pron 彼女は

「主語」

ERSTER TEIL 第1部

Es エス pron 気候は 「主語」
 war ヴァール 3 単過(sein)v.i ~ だった 「動詞」
 gemütlich. ゲミュートリヒ adj. 心地の良い 「補語」

コーヒーを飲んで、僕は元気が出た。開いた戸口からは、夜と花のいい香りが流れてきた。
 僕は少しばかりうとうとしたようだ。

Der Kaffee hatte mich belebt, und durch die offene Tür strömte ein Duft von Nacht und Blumen. Ein bißchen war ich wohl eingenickt.

「主語」「動詞」「目的語」「補語」, und 「副詞句」「動詞」「主語」
 「副詞句」「動詞」「主語」「補語」

Der Kaffee デア・カフエ n.m コーヒーは 「主語」
 hatte ハッテ 3 単現・変化(haben)v.t (状態を) 変えた 「動詞」
 mich ミット pron 僕を 「目的語」
 belebt, ベレブト adj. 活気のある 「補語」
 und ウント conj. そして
 durch ドゥルヒ prep (4 格と) (通過) ~を通して 「副詞句」
 die offene Tür デー・イー・オフエネ・チュア n.f.4 格 開いた戸口 「目的語」
 strömte シュトレームテ 3 単過(strömen)v.i 流れてきた 「動詞」
 ein Duft アイン・ドゥフト n.m 香りが、いい匂いが 「主語」
 von フォン prep (3 格と) (所属) ~の 「副詞句」
 Nacht und Blumen. ナハト・ウント・ブルーメン pl.n.f 夜と花 「目的語」
 Ein bißchen アイン・ビスシェン adv. 少しばかり、少々 「副詞句」
 war ヴァール 3 単過(sein)v.i ~ だった 「動詞」
 ich イット pron 僕は 「主語」
 wohl ヴォール adv. たぶん、おそらく 「副詞」
 eingenickt. アインゲニクト 過去分詞 adj. 居眠りした 「補語」

僕は、かさかさした音で目が覚めた。しばらく目を閉じていたので、部屋の白さがなおさらどぎつく感じられた。

Ein Rascheln weckte mich. Weil ich die Augen geschlossen hatte, kam mir das Weiß des Raumes jetzt noch viel greller vor.

「主語」「動詞」「目的語」
 「副詞節」, 「動詞句」「間接目的語」「主語」「補語」「動詞句」

Ein Rascheln アイン・ラシェルン n.n かさかさとした音が 「主語」
 rascheln ラシェルン v.i かさかさ音を立てる → Rascheln 中性名詞化
 weckte ヴェクテ 3 単過(wecken)v.t 目を覚まさせた 「動詞」

ERSTER TEIL 第1部

mich. ミッヒ pron 僕を	「目的語」
mich を主語として翻訳する。	
Weil ウェイル conj. (理由) ~なので	「副詞節」
ich イッヒ pron 僕は	「主語」
die Augen デーイー・アウゲン pl(Auge).n.n.4 格 目を	「目的語」
geschlossen hatte, ゲシュロッセン・ハッテ 1 単過・完了形(schließen)	
v.t 閉じていた	「動詞句」
kam ...vor. カム...フォア 3 単過(vor kommen)	
v.i (j-3+様態を示す語句) ~に思われた	「動詞句」
mir ミーア pron 僕にとって	「間接目的語」
das Weiß ダス・ヴァイス n.n その白さが	「主語」
des Raumes デス・ラウメス n.m.2 格 部屋の	「形容詞句」
jetzt noch viel greller イェツト・ノッホ・フィール・グレラー adj. (比較級) さらにずっとどぎつい「補語」	

1 つの影も僕の目に入らなかった。それぞれの物や、それぞれの角や、すべての曲線が、目を傷つける鋭利さを保持しながらくっきりと浮かび上がっていた。

Nicht einen Schatten sah ich, und jeder Gegenstand, jede Ecke, alle Linien zeichneten sich mit einer Schärfe ab, die das Auge verletzte.

「目的語」「動詞」「主語」,und「主語」「動詞句」「副詞句」「動詞句」「副詞句」	
Nicht einen Schatten ニヒト・アイネン・シャテン n.m.4 格 1 つの影も~ない	「目的語」
sah ザー 1 単過・否定文で(sehen)v.t 見えなかった	「動詞」
ich, イッヒ pron 僕は	「主語」
und ウント conj. そして	
jeder Gegenstand, イェーダー・ゲーゲンシュタント n.m それぞれの物は	「主語」
jede Ecke, イェーデ・エッケ n.f それぞれの角は	「主語」
alle Linien アル・リーニエン pl.n.f すべての曲線は	「主語」
zeichneten sich ...ab, ツァイヒネン・ズィッヒ...アッブ 3 複過(ab zeichnen)	
v.p (輪郭などが) くっきり浮かび上がっていた	「動詞句」
mit einer Schärfe ミット・アイナー・シェアフェ adv. 鋭利さをもって	「副詞句」
die デーイー pron (主語) ~する	「形容詞節」
das Auge ダス・アウゲ n.n.4 格 目を	「目的語」
verletzte. フェアレツツテ 3 単過・時制の一致(verletzen)v.t 傷つける	「動詞」

ERSTER TEIL 第1部

ちょうどその時、母さんの友人たちが入ってきた。彼らは全部で 10 人ほどだった。彼らは、この目もくらむような光の中を、摺り足で足音も立てずに入ってきた。

Ausgerechnet jetzt kamen Mamas Freunde herein. Alles in allem waren es etwa zehn, die schweigend in dieses blendende Licht hereingeschlurft kamen.

「副詞句」「動詞句」「主語」「動詞句」

「副詞句」「動詞」「主語」「補語」, 「主語」「副詞句」「動詞」

Ausgerechnet アウスゲレネット adv. によりによって、事もあろうに 「副詞」

jetzt イェット adv. (過去時制の文章で) その時、今や 「副詞」

kamen ...herein. カム...ヘライン 3 複過(herein | kommen)v.i 入ってきた 「動詞句」

Mamas マス n.f.2 格 母さんの 「形容詞」

Freunde フロインデ pl(Freund).n.m 友人たちが 「主語」

Alles in allem アレス・イン・アラム adv. 全部で、要するに 「副詞句」

waren ヴァーレン 3 複過(sein)v.i ~ だった 「動詞」

es エス pron それは (友人たちは) 「主語」

etwa zehn, エトヴァ・ツェーン pron およそ 10 人 「補語」

die デー pron.pl 彼らは 「主語」

schweigend シュヴァイゲント 現在分詞(schweigen)adv. 黙って、静かに 「副詞」

in dieses blendende Licht イン・デッセ・ス・ブレンデンデ・リヒト

adv. この目もくらむような光の中を 「副詞句」

hereingeschlurft ヘライン・ゲ・シュルフト 過去分詞(herein | schlurfen)

adv. 足を引きずって (外からこちらへ歩いて) 「副詞句」

kamen. カメン 3 複過(kommen)v.i 来た 「動詞」

彼らは着席したが、椅子をピクリとも動かさなかった。

Sie setzten sich, ohne auch nur einen Stuhl zu rücken. 「主語」「動詞句」「副詞句」

Sie ジー pron.pl 彼らは 「主語」

setzten sich, ゼッツェン・スイヒ 3 複過(sich-4 setzen)v.pr 座った、腰を下ろした 「動詞句」

ohne +zu 不定詞 オーネ zu 不定詞句・結果 adv. そして~しなかった 「副詞句」

auch nur einen Stuhl アウフ・ヌア・アイネン・シュトゥール

n.m.4 格 1つの椅子さえも~ない 「目的語」

zu rücken. ツー・リュッケン zu 不定詞 v.t 動かす 「動詞句」

フランス語の原文では :

彼らは、どの椅子もきしませることなく静かに着席した。

Ils se sont assis sans qu'aucune chaise grinçât.

ERSTER TEIL 第1部

僕は、今までに一度も人というものを見たことがないというほど熱心に彼らを見た、それで、彼らの顔や衣服のどんな細部までも残らず僕の目は捉えていた。

Ich sah sie, wie ich noch nie jemanden gesehen habe; keine Einzelheit ihrer Gesichter oder ihrer Kleidung entging mir.

「主語」「動詞」「目的語」「副詞節」; 「主語」「動詞」「間接目的語」

Ich イッヒ pron 僕は 「主語」
 sah ザー 1 単過(sehen)v.t (意図的に) 見た 「動詞」
 sie, シー pron.pl.4 格 彼らを 「目的語」
 wie ヴァー conj. (程度) ~というほど 「副詞節」
 ich イッヒ pron 僕は 「主語」
 noch nie jemanden ノッホ・ニー・イエーマンデーン
 pron.4 格 いまだかつて誰も~ない 「目的語」
 gesehen habe; ゲゼーエン・ハーベ 1 単現・完了形(sehen)v.t 見た 「動詞句」
 keine Einzelheit カイネ・アインツェルハイト n.f.1 格 どんな部分も~ない 「主語」
 ihrer Gesichter イーラー・ゲジヒター pl.n.n.2 格 彼らの顔の 「形容詞句」
 oder オダー conj. または
 ihrer Kleidung イーラー・クライトクング n.f.2 格 (集合的) 彼らの衣服の 「形容詞句」
 entging エントギング 3 単過(entgehen)
 v.i (否定文で) (j-3 人-3 を) 逃れなかった 「動詞」
 mir. ミア pron.3 格 僕の目を 「間接目的語」

ただ、彼らの声は聞こえず、僕は彼らを現実のものとして捉えることが出来なかった。

Nur waren sie nicht zu hören; ich konnte sie nur schwer für wirklich halten.

「副詞」「動詞句」「主語」「動詞句」;

「主語」「動詞句」「目的語」「補語」「動詞句」

Nur ヌア adv. ただ~だけ、~でしかない 「副詞」
 waren ...nicht zu hören; ヴァレン...ニヒト・ツァー・ヘレン 3 複過・可能・否定
 (sein...zu 不定詞)v.t 聞くことが出来なかった 「動詞句」
 sein...zu 不定詞 「~されることが出来る、~し得る、すべきである」
 sie シー pron.pl 彼らの声は、彼らは 「主語」
 ich イッヒ pron 僕は 「主語」
 konnte ...halten. コンテ...ハルテン 1 単過・可能(können+不定詞 halten)
 v.t 捉えることが出来た 「動詞句」
 sie シー pron.pl 彼らを 「目的語」
 nur schwer ヌア・シュヴァー adv. 困難に 「副詞句」
 für wirklich フュア・ヴィルクリヒ adv. 実在として、現実のものとして 「補語」

ERSTER TEIL 第1部

女たちはほとんど全員がエプロンとエプロン紐をしていた。そしてそのエプロン紐が彼女らの胴回りを締め付けて、その膨らんだ腹をなおさら激しく際立たせていた。

Fast alle Frauen trugen eine Schürze, und das Schürzenband, das ihre Taille einschnürte, ließ ihren aufgetriebenen Leib noch stärker hervortreten.

「主語」「動詞」「目的語」,und「目的語」「主語」「動詞句」,
「動詞句」「目的語」「副詞句」「動詞句」

Fast ファスト adv. ほとんど 「副詞」
alle Frauen アレ・フラウエン pl(Frau)n.f 全部の女たちは 「主語」
trugen トルゲン 3 複過(tragen)v.t 身に着けていた 「動詞」
eine Schürze, アイネ・シュルツェ n.f.4 格 エプロンを 「目的語」
und ウント conj. そして
das Schürzenband, ダス・シュルツェンバンド n.n.4 格 エプロン紐を 「目的語」
das ダス pron それ (エプロン紐が) 「主語」
ihre Taille イーレ・タイレ n.f.4 格 彼女らの腰を 「目的語」
einschnürte, アイン・シュアテ 3 単過(ein | schnü)v.t 締め付けていた 「動詞句」
ließ ...hervortreten. リース...ヘアフォーア・トレテン 3 単過・使役(lassen+不定詞 hervor | treten)
v.t ~を際立たせていた 「動詞句」
ihren aufgetriebenen Leib イレン・アフゲ・トリヘネ・ライプ
n.m.4 格 彼女らの膨らんだ腹を 「目的語」
aufgetriebenen アフゲ・トリヘネ 過去分詞(auf | treiben)adj.m.4 格 膨らんだ
noch stärker ノッホ・シュテーカー adv.(stark) (比較級) なおさら激しく 「副詞句」

年を取った女がどれ程太鼓腹になれるものなのかについて、僕はこれまで気にしたことがなかった。

Bisher war es mir nie so aufgefallen, wie dickbäuchig alte Frauen sein können.

「副詞」「動詞句」「間接目的語」「動詞句」「主語」

Bisher ビスヘア adv. 今まで、これまで 「副詞」
War ...nie so aufgefallen, ヴァール...ニー・ゾー・アフゲ・ファレン 3 単過(auf | fallen)
v.i(j-3 の) 注意をあまりひかなかった 「動詞句」
es エス pron 仮の主語 (真の主語は wie 以降)
mir ミア pron 僕の 「間接目的語」
n. ~ということは 「主語」
wie dickbäuchig ヴィー・ディックバウチグ adv. どれ程太鼓腹に 「副詞句」
alte Frauen アルテ・フラウエン pl.n.f 年を取った女が 「主語」
sein können. ザイン・ケネン 3 複現・可能・変化(können+不定詞)v.i ~になれる 「動詞句」

ERSTER TEIL 第1部

男たちはほとんど皆やせていて、手に杖を持っていた。

Die Männer waren fast alle hager und hielten Spazierstöcke in den Händen.

「主語」「動詞」「補語」 und 「動詞」「目的語」「副詞句」

Die Männer ディー・マー pl(Mann).n.m 男たちは 「主語」

waren ヴァレン 3 複過(sein).v.i ~ だった 「動詞」

fast alle hager ファスト・アレ・ハーゲ adj. ほとんど皆やせた 「補語」

und ウント conj. そして

hielten ヒールテン 3 複過(halten).v.t 持っていた 「動詞」

Spazierstöcke シュパ ツィアシュテッケ pl(Spazierstock).n.m ステッキを、杖を 「目的語」

in den Händen. イン・デーン・ハンデーン adv.(Hand) 手に 「副詞句」

彼らの顔について、彼らの目がみえず、その代わりに、しわだらけの顔の中にかすかにくすんだ光だけが見えたことに僕は注意をひかれた。

An ihren Gesichtern fiel mir besonders auf, daß ich ihre Augen nicht sah, sondern nur einen stumpfen Schimmer in einem Nest von Runzeln.

「副詞句」「動詞句」「間接目的語」「副詞」「動詞句」, 「主語」

An ihren Gesichtern アン・イーレン・ゲズィヒターン adv. (関連) 彼らの顔について 「副詞句」

fiel ...auf, フィール...アウフ 3 単過(auf | fallen).v.i(j-3 の) 注意をひいた 「動詞句」

mir ミーア pron 僕の 「間接目的語」

besonders ベゾントァース adv. 特に 「副詞」

daß ダス conj. ~ということが 「主語」

ich イヒ pron 僕は 「主語」

ihre Augen イレ・アウゲン pl.n.n.4 格 彼らの目が 「目的語」

nicht sah, ニヒト・ザー 1 単過・否定(sehen).v.t 見えなかった 「動詞句」

sondern ゾンターン conj. ~でなくて、その代わりに

nur einen stumpfen Schimmer ノーア・アイネン・シュトウプ フェン・シマー

n.m.4 格 かすかにくすんだ光だけが 「目的語」

stumpfen シトウプ フェン adj.m.4 格 鈍い、くすんだ Schimmer シマー n.m.4 格 かすかな光

in einem Nest イン・アイネム・ネスト adv. 巣の中に 「副詞句」

von Runzeln. フォン・ルンツェルン adj. しわの 「形容詞句」

von フォン prep (所属) ~の Runzeln ルンツェルン pl(Runzel).n.f しわ、小じわ

ERSTER TEIL 第1部

彼らが座った時、ほとんど全員が、歯の無い口の唇をすぼめて、困惑したように首を上下に振りながら僕を見つめた。僕はそれが挨拶なのか、それとも奇妙な癖なのか分からなかった。

Als sie sich setzten, sahen die meisten mich an und nickten verlegen; bei ihrem zahnlosen Mund und den eingefallenen Lippen wußte ich nicht, ob sie mich grüßten, oder ob es sich um einen Tick handelte.

「副詞節」, 「動詞句」 「主語」 「目的語」 「動詞句」 und 「動詞」 「副詞」 ; 「副詞句」	
「動詞句」 「主語」 「目的語」 oder 「目的語」	
Als アル conj. ～したとき	「副詞節」
sie シー pron.pl 彼らが	「主語」
sich setzten, スィット・セツテン 3 複過(sich-4 setzen)v.pr 座った	「動詞句」
sahe...an ザーエン...アン 3 複過(an せへ n)v.t 見つめた	「動詞句」
die meisten デー・マイステン pl.pron ほとんど全員が、大部分が	「主語」
mich ミット pron 僕を	「目的語」
und ウント conj. そして	
nickten ニックテン 3 複過(nicken)v.i うなづいた、首を上下に振った	「動詞」
verlegen; フェアレゲン adv. 当惑して、困惑して	「副詞」
bei ihrem zahnlosen Mund バイ・イーレム・ツァーンローゼン・ムント adv.(3 格と) 歯の無い口で	「副詞句」
und ウント conj. そして	
den eingefallenen Lippen デン・アインゲファレネン・リップペン	
pl(Lippe).n.f.3 格 くぼんだ唇で	「副詞句」
wußte ...nicht, ヴステ...ニヒト 1 単過・否定(wissen)v.t 分からなかった	「動詞句」
ich イット pron 僕は	「主語」
ob オップ conj. ～かどうかということ	「目的語」
sie シー pron.pl 彼らは	「主語」
mich ミット pron 僕に	「目的語」
grüßten, グリューステン 3 複過(grüßen)v.t 挨拶した	「動詞」
oder オダー conj. それとも	
ob オップ conj. ～かどうかということ	「目的語」
es エス pron それは	「主語」
sich ...handelte. スィット...ハントェルテ 3 単過(sich-4 handeln um et-4 何-4)	
v.pr ～のことだった	「動詞句」
um einen Tick ウム・アイン・チック adv. 奇妙な癖	「間接目的語」

ERSTER TEIL 第1部

しかし、彼らは僕に挨拶していたのだと思う。

Ich glaube aber, daß sie mich grüßten. 「主語」「動詞」 aber, 「目的語」
 Ich イッヒ pron 僕は 「主語」
 glaube グラウベ 1 単現(glauben)v.t 〜だと思う 「動詞」
 aber, アーバー conj. しかし
 daß ダス conj. 〜ということを 「目的語」
 sie ジー pron.pl 彼らは 「主語」
 mich ミッヒ pron 僕を 「目的語」
 grüßten. グリューステン 3 複過(grüßen)v.t(j-4 に) 挨拶していた 「動詞」

この時僕は気付いた。彼らは門衛を取り囲み、僕と向かい合わせに座って、頭を振っていた。

In diesem Augenblick bemerkte ich, daß sie alle, kopfwackelnd um den Pfortner gruppiert, mir gegenüber saßen. 「副詞句」「動詞」「主語」「目的語」
 In diesem Augenblick イン・デ・イーゼム・アウゲンブリック adv. その時 「副詞句」
 Augenblick アウゲンブリック n.m 瞬間、一瞬
 bemerkte ベ・マクテ 1 単過(bemerken)v.t 〜に気づいた 「動詞」
 ich, イッヒ pron 僕は 「主語」
 daß ダス conj. 〜ということを 「目的語」
 sie alle, ジー・アレ pron.pl 彼らは皆 「主語」
 kopfwackelnd コプ・フ・ワッケルン 現在分詞・同時(kopfwackeln)
 adv. 頭を振りながら 「副詞句」
 um den Pfortner gruppiert, ウム・デン・プフェルトナー・グルビート
 adv. (様態) 門衛の周りに並んで 「副詞句」
 um j-4 gruppiert sein 「人-4 の周りに並んでいる」
 mir ミー pron 僕に 「間接目的語」
 gegenüber saßen. ゲーゲンユーバーザーセン 接 II・3 複現(gegenüber | sitzen)
 v.i(j-3 に) 向かい合って座っていた 「動詞句」

ERSTER TEIL 第1部

一瞬僕は、彼らは僕を裁くためにそこに座っているのではないかという、奇妙な印象を受けた。そのすぐ後に、女の1人が泣き出した。

Vorübergehend hatte ich den lächerlichen Eindruck, sie saßen da über mich zu Gericht.
Kurz darauf fing eine Frau an zu weinen.

「副詞」「動詞」「主語」「目的語」,

「副詞句」「動詞句」「主語」

Vorübergehend フォルユバークーエント adv. 一瞬の間、少しの間 「副詞」

hatte ハッテ 1 単過(haben)v.t. ～があった、(印象を) 受けた 「動詞」

ich イヒ pron 僕は 「主語」

den lächerlichen Eindruck, デン・レヒャーリヒェン・アイントルック n.m.4 格 おかしな印象を 「目的語」

lächerlichen レヒャーリヒェン adj.m.4 格 おかしな(= Lacher 笑い + -lich されうる)

sie ジー pron.pl 彼らは 「主語」

saßen サーセン 接 II・3 複現・推測(sitzen)v.i 座っているのではないか 「動詞」

da ダー adv. そこに 「副詞」

über mich zu Gericht, ユーバー・ミヒ・ツウ・ゲリヒト adv.

(目的) 僕を裁くために

「副詞句」

Kurz darauf クルツ・ダラウフ adv. そのあとすぐに 「副詞句」

fing ...an zu weinen. フィング ...アン・ツウ・ヴァイネン 3 単過・開始(an | fangen+zu 不定詞)

v.i 泣き始めた

「動詞句」

eine Frau アイネ・フラウ n.f 1 人の女が 「主語」

彼女は2列目に座り、仲間の陰なっていたので、僕は彼女の姿が良く見えなかった。

Sie saß in der zweiten Reihe, hinter einer ihrer Gefährtinnen; ich konnte sie nur schlecht sehen.

「主語」「動詞」「副詞句」; 「主語」「動詞句」「目的語」「副詞句」「動詞句」

Sie ジー pron.f 彼女は 「主語」

saß サース 3 単過(sitzen)v.i 座っていた 「動詞」

in der zweiten Reihe, イン・デア・ツヴァイトェン・ライエ adv. 2 列目に 「副詞句」

hinter ヒンター prep (空間的) ～の後ろに 「副詞句」

einer ihrer Gefährtinnen; アイナー・イーラー・ゲフェアチネン

pron.3 格 女性仲間の1人

「目的語」

ich イヒ pron 僕は 「主語」

konnte ...sehen. コンテ...ゼーエン 1 単過・可能(können+不定詞 sehen)

v.t 見ることが出来た

「動詞句」

sie ジー pron.f 彼女を 「目的語」

nur schlecht ヌア・シュレヒト adv. 不完全にしか、あまり良く～ない 「副詞句」

ERSTER TEIL 第1部

彼女は泣いて、一定間隔で、小さな泣き声を発していたが、永久に終わりそうになかった。

Sie weinte und stieß dabei in regelmäßigen Abständen kurze Klageschreie aus, als wollte sie nie wieder aufhören.

	「主語」「動詞」 und 「動詞句」「副詞句」「目的語」「動詞句」, 「副詞節」
Sie ジー pron.f 彼女は	「主語」
weinte ヲァインテ 3 単過(weinen)v.i 泣いていた	「動詞」
und ウント conj. そして	
stieß ...aus, シュティース...アウス 3 単過(aus stoßen)v.t (声を) 発した	「動詞句」
dabei ダバイ adv. その時に	「副詞」
in regelmäßigen Abständen イン・レゲルメーシゲン・アップ シュテンデシオン adv. 一定の間隔で	「副詞句」
kurze Klageschreie クルツェ・クラージェ・シュライ pl.n.m.4 格 小さい悲鳴の泣き声を	「目的語」
als アルス conj. あたかも～であるかのように	「副詞節」
wollte ...nie wieder aufhören. ヲォルテ...ニエ・ワイター・アフレーレン 3 単過・意志・否定 (wollen+不定詞)v.i 二度と終わらない	「動詞句」
nie wieder ニエ・ワイター adv. 二度と～ない	
sie ジー pron.f 彼女は	「主語」

他の老人たちは、女の泣き声が耳に入らないようだった。彼らはうずくまり、そこに陰気に押し黙って座っていた。

Die anderen taten so, als hörten sie sie nicht. Sie saßen zusammengesunken und düster schweigend da.

	「主語」「動詞」「副詞句」 「主語」「動詞」「副詞句」
Die anderen デー・アンデレン pl(ander).n 他の人たちは、他の老人たちは	「主語」
taten タテン 3 複過(tun)v.t ～していた	「動詞」
so, ソー adv. そのように	「副詞句」
als アルス conj. ～のように	「副詞節」
hörten ...nicht. ヘアテン...ニヒト 3 複過・否定・時制の一致(hören) v.t 耳に入らない	「動詞句」
sie ジー pron.pl 彼らは	「主語」
sie ジー pron.f 女の声が	「目的語」
Sie ジー pron.pl 彼らは	「主語」
saßen サーセン 3 複過(sitzen)v.i 座っていた	「動詞」
zusammengesunken ツァメン・ゲ・ズンケン 過去分詞(zusammensinken) adv. うずくまって	「副詞」
und ウント conj. そして	
düster デュースター adv. 陰気に	「副詞」
schweigend シュヴァイゲント 現在分詞・同時 adv. 押し黙って	「副詞」

ERSTER TEIL 第1部

da. ダー adv. そこに

「副詞」

彼らは棺やその他のものを見つめていましたが、その物だけを見つめていました。

Sie blickten auf den Sarg oder auf sonst etwas, aber nur darauf.

「主語」「動詞」「間接目的語」, aber 「間接目的語」

Sie ジー pron.pl 彼らは

「主語」

blickten ブリックテン 3 複過(blicken)v.i(auf を) 見つめていた

「動詞」

auf den Sarg アウフ・デン・サルグ adv. 棺のほうを

「間接目的語」

oder オダー conj. または

auf sonst etwas, アウフ・ゾンスト・エトワス adv. 何か他の物を

「間接目的語」

aber アーバー conj. しかし

nur darauf. ヌア・ダラウフ adv. それだけを

「間接目的語」

あの女は相変わらず泣いていた。僕は女のことは知らなかったもので、とても驚いた。いい加減に泣き止んで欲しかった。

Die Frau weinte immer noch. Ich war darüber sehr erstaunt, denn ich kannte sie nicht.

Wenn sie doch endlich aufgehört hätte.

「主語」「動詞」「副詞句」 | 「主語」「動詞」「副詞」「補語」「副詞節」 | 「祈願」

Die Frau デー・フラウ n.f あの女は

「主語」

weinte ウァインテ 3 単過(weinen)v.i 泣いていた

「動詞」

immer noch. イマー・ノッホ adv. 相変わらず、いまだに

「副詞句」

Ich イヒ pron 僕は

「主語」

war ウァール 1 単過(sein)v.i ~ だった

「動詞」

darüber ダリュエーバー adv. そのことに関して

「副詞」

sehr erstaunt, セーア・エアシュタウント adj. とても驚いた

「補語」

denn デン conj. ~だから

「副詞節」

ich イヒ pron 僕は

「主語」

kannte ...nicht. カンテ...ニヒト 1 単過・否定(kennen)v.t 知らなかった

「動詞句」

sie ジー pron 彼女を

「目的語」

Wenn + 接続法 II ウェン conj. (願望) ~であればいいのに

「祈願」

sie ジー pron 彼女は

「主語」

doch endlich ドッホ・エンドリヒ adv. いいかげんに

「副詞句」

aufgehört hätte. アウフ・ゲ・ヘート・ヘッテ 接 II・3 単現・完了形・願望(aufhören)

v.i 泣き止んだら

「動詞句」

ERSTER TEIL 第1部

しかし、それを彼女に言うことは出来なかった。

Aber ich wagte nicht, es ihr zu sagen.

Aber 「主語」「動詞句」「目的語」

Aber アーバー conj. しかし

ich イッヒ pron 僕は

「主語」

wagte nicht, ヲアークテ・ニヒト 1 単過・否定・意志(wagen)

v.t(+zu 不定句) 思い切って～できなかった

「動詞句」

zu 不定句 n. ～することを

「目的語」

es エス pron それを

「直接目的語」

ihr イア pron.f.3 格 彼女に

「間接目的語」

zu sagen. ツー・ザーゲン zu 不定詞 v.t 言う

「動詞句」

門衛は女のほうへ身を屈めて彼女と話しをしたが、女は頭を振り、何かを口ごもって、再び相変わらずの規則正しさに泣き始めた。

Der Pförtner beugte sich zu ihr hinüber und sprach mit ihr, aber sie schüttelte den Kopf, stammelte etwas und weinte mit der gleichen Regelmäßigkeit weiter.

「主語」「動詞句」「副詞句」 und 「動詞」「間接目的語」,

aber 「主語」「動詞」「目的語」, 「動詞」「目的語」 und 「動詞」「副詞句」

Der Pförtner デア・フーフエルトナー n.m 門衛が

「主語」

beugte sich ボイクテ・ズィヒ 3 単過(sich-4 beugen)v.pr 身を屈めた

「動詞句」

zu ihr hinüber ツー・イア・ヒニューバー adv. (方向) 彼女のほうへ

「副詞句」

und ウント conj. そして

sprach シュプラーハ 3 単過(sprechen)v.i(mit と) 話した、話し合った

「動詞」

mit ihr, ミット・イア adv. 彼女と

「間接目的語」

aber アーバー conj. しかし

sie ジー pron 彼女は

「主語」

schüttelte シュツテルテ 3 単過(schütteln)v.t 振った

「動詞」

den Kopf, デン・コプフ n.m.4 格 頭を、首を

「目的語」

stammelte シュタメルテ 3 単過(stammeln)v.i 口ごもった

「動詞」

etwas エトワース pron 何かを

「目的語」

und ウント conj. そして

weinte ヲアインテ 3 単過(weinen)v.i 泣いた

「動詞」

mit der gleichen Regelmäßigkeit ミット・デア・グライヒェン・レーゲルメーシヒカイト

adv. 相変わらずの規則正しさに

「副詞句」

weiter. ヲアイター adv. さらに、また

「副詞」

ERSTER TEIL 第1部

それから門衛はこちらへやって来て、僕の隣に座った。

Dann kam der Pförtner zu mir herüber. Er setzte sich neben mich.

「副詞」「動詞」「主語」「副詞句」 | 「主語」「動詞句」「副詞句」

Dann ダン adv. それから

「副詞」

kam カム 3 単過(kommen)v.i 来た

「動詞」

der Pförtner デア・フ・フェルトナー n.m 門衛は

「主語」

zu mir herüber. ツー・ミー・ヘリェバー adv. 僕のほうへ、こちら側に

「副詞句」

Er エア pron 彼は

「主語」

setzte sich セッツテ・ズィツヒ 3 単過(sich-4 setzen)v.pr 座った

「動詞句」

neben mich. ネベン・ミツヒ adv. 僕の隣に

「副詞句」

かなり時間が経ってから、彼は僕を見ないで言った：

Nach ziemlich langer Zeit sagte er, ohne mich dabei anzusehen:

「副詞句」, 「動詞」「主語」「副詞句」

Nach ナハ prep (3 格と) (時間的) ~の後で

「副詞句」

ziemlich langer ツィームリヒ・ランガー adj(lang).f.3 格 かなり長い

「形容詞句」

Zeit ツァイト n.f.3 格 時間

「目的語」

sagte サークテ 3 単過(sagen)v.t 言った、話した

「動詞」

er, エア pron 彼は

「主語」

ohne +zu 不定句 オーネ adv. ~せずに

「副詞句」

mich ミツヒ pron 僕を

「目的語」

dabei ダバイ adv. その時に

「副詞」

anzusehen: アン・ツァー・ゼーエン zu 不定詞(an|sehen)v.t 見つめる

「動詞句」

「彼女はあなたのお母様ととても仲が良かったのです」

«Sie war mit Ihrer Mutter sehr befreundet.

《「主語」「動詞」「補語」》

«Sie シー pron.f 彼女は

「主語」

war ヴァール 3 単過(sein)v.i ~ だった

「動詞」

mit Ihrer Mutter ミット・イーラー・ムッター adv. (相手) あなたの母上と

「副詞句」

sehr befreundet. セーア・ヘフロインデット adj. とても仲の良い

「補語」

ERSTER TEIL 第1部

「ここでは、母上が彼女の唯一の友達だったのに、今では誰もいなくなったと言っています」

Sie sagt, sie sei hier ihre einzige Freundin gewesen, nun habe sie keinen Menschen mehr.»

《「主語」「動詞」「目的語」》

Sie シー pron.f 彼女は 「主語」

sagt, サート 3 単現(sagen)v.t 言っている 「動詞」

n. ～ということを 「目的語」

sie シー pron.f 母上は 「主語」

sei ...gewesen, サイ...ゲウェゼン 接・3 単現・完了形(sein)v.i ～ だった 「動詞句」

hier ヒア adv. ここでは 「副詞」

ihre einzige Freundin イレ・アイツィゲ・フロインデ イン n.f 彼女の唯一の友達 「補語」

nun ヌン adv. 今では 「副詞」

habe ハーベ 3 単現(haben)v.t ～がいる 「動詞」

sie シー pron 彼女は 「主語」

keinen Menschen mehr. カイン・メンシェン・メア n.m.4 格 誰も人が～ない 「目的語」

僕たちは長い間そんな風に並んで座っていた。女のむせび声とため息は弱まってきた。

Wir saßen lange so nebeneinander. Schluchzen und Seufzen der Frau ließen nach.

「主語」「動詞」「副詞句」 | 「主語」「動詞句」

Wir ウィア pron.pl 僕たちは 「主語」

saßen サーゼン 1 複過(sitzen)v.i 座っていた 「動詞」

lange ランゲ adv. 長い間 「副詞」

so nebeneinander. ソー・ネーベン・アインアンダー adv. そんな風に並んで 「副詞句」

Schluchzen und Seufzen シュルヒツェン・ウント・ゾイフツェン

pl.n.n むせび声とため息は 「主語」

schluchzen シュルヒツェン v.i むせび泣く → むせび声

seufzen ゾイフツェン v.i 溜息をつく → 溜息

der Frau デア・フラウ n.f.2 格 女の 「形容詞句」

ließen nach. リーゼン・ナーハ 3 複過(nach|lassen)v.i 弱まった 「動詞句」

ERSTER TEIL 第1部

女は激しくはなをすすり上げた。やっと静かになった。僕はもう眠くなかったが、疲れて、腰が痛かった。

Sie schnaubte arg. Endlich war sie still. Ich war nicht mehr schläfrig, aber ich war ermattet und hatte Kreuzschmerzen.

「主語」「動詞」「副詞」 | 「副詞」「動詞」「主語」「補語」

「主語」「動詞」「補語」, aber 「主語」「動詞」「補語」 und 「動詞」「目的語」

Sie	ジー pron.f	女は	「主語」
schnaubte	シュナウプテ	3 単過(schnauben)v.i	鼻を鳴らした、はなをすすり上げた
arg.	アーク adv.	ひどく	「副詞」
Endlich	エンドリヒ adv.	とうとう、ついに、やっと	「副詞」
war	ヴァール	3 単過・変化(sein)v.i	～ になった
sie	ジー pron.f	女は	「主語」
still.	シュティル adj.	静かな	「補語」
Ich	イヒ pron	僕は	「主語」
war	ヴァール	1 単過(sein)v.i	～ だった
nicht mehr schläfrig,	ニヒト・メア・シュレーフリヒ adj.	もう眠くない	「補語」
aber	アーバー conj.	しかし	
ich	イヒ pron	僕は	「主語」
war	ヴァール	1 単過(sein)v.i	～ だった
ermattet	エアマテット	過去分詞(ermatten)adj.	疲れた
und	ウント conj.	そして	
hatte	ハーベン	1 単過(haben)v.t	～ があった
Kreuzschmerzen.	クロイツシュメアツェン pl.n	腰痛	「目的語」

今は、ここにいる皆の沈黙が僕を憂鬱にさせる。

Jetzt bedrückte mich das Schweigen all dieser Menschen.

「副詞」「動詞」「目的語」「主語」

Jetzt	イエツト adv.	今は	「副詞」
bedrückte	ベドリュクテ	3 単過(bedrücken)v.t	憂鬱にさせる
mich	ミヒ pron	僕を	「目的語」
das Schweigen	ダス・シュウヴァイゲン n.n	沈黙が	「主語」
all dieser	アル・デューザー adj.n.pl.2 格	ここにいるすべての	「形容詞句」
Menschen.	メンシェン pl(Mensch).n.m.2 格	人々の	「目的語」

ERSTER TEIL 第1部

時々、奇妙な音だけは聞こえていたが、それがどこから来るのかは分からなかった。

Nur dann und wann vernahm ich ein seltsames Geräusch, aber ich wußte nicht, woher es kam. 「副詞句」「動詞」「主語」「目的語」, aber 「主語」「動詞句」「目的語」

Nur ヌア adv. ただ～だけ

「副詞」

dann und wann ダン・ウント・ヴァン adv. 時々

「副詞句」

vernahm フェアナム 1 単過(vernehmen)v.t 聞こえた

「動詞」

ich イヒ pron 僕は

「主語」

ein seltsames アイン・ゼルトザーメス adj.n.4 格 奇妙な

「形容詞句」

Geräusch, ゲロイシュ n.n.4 格 物音を

「目的語」

aber アーバー conj. しかし

ich イヒ pron 僕は

「主語」

wußte nicht, ヴステ・ニヒト 1 単過・否定(wissen)v.t 分からなかった

「動詞句」

woher ヴォヘア adv. どこから～するかということ

「目的語」

es エス pron それ

「主語」

kam. カム 3 単過(kommen)v.i 来た

「動詞」

やっと僕は、何人かの老人が自分の頬を吸い込んでこの奇妙な破裂音を出していたのだらうと気付いた。

Schließlich verfiel ich darauf, daß einige alte Leute die Wangen einsaugten und so dieses seltsame Knallen hervorriefen. 「副詞」「動詞」「主語」「間接目的語」

Schließlich シュリースリヒ adv. ついに、やっと

「副詞」

verfiel フェアフィール 1 単過(verfallen)v.i(auf et-4 を) 思いついた

「動詞」

ich イヒ pron 僕は

「主語」

darauf, ダラフ adv. それについて～と

「間接目的語」

daß ダス conj. (同格) ～という

「形容詞節」

einige alte Leute アインゲ・アルテ・ロイテ

pl([複] Leute).n 何人かの老人が

「主語」

die Wangen ティー・ヴァンゲン pl(Wange).n.f.4 格 頬を

「目的語」

einsaugten アイン・ザウグテン 3 複過(ein | saugen)

v.t 吸い込んだ

「動詞句」

und ウント conj. そして

so ソー adv. そして

「副詞」

dieses seltsame Knallen ティーゼス・ゼルトザーメ・クナレン

pl.n この奇妙な破裂音を

「目的語」

seltsame ゼルトザーメ adj(seltsam).pl.4 格 奇妙な Knallen クナレン pl(Knall).n.m.4 格 破裂音

hervorriefen. ヘアフォー・リーフェン 3 複過(hervor | rufen)

ERSTER TEIL 第1部

v.t 引き起こしていた

「動詞句」

彼らはそのことに全く気付いていなかったの、自分の思いに没頭していた。

Sie merkten das gar nicht, so sehr waren sie mit ihren Gedanken beschäftigt.

「主語」「動詞句」「目的語」,so「副詞」「動詞」「主語」「補語」

Sie ジー pron.pl 彼らは

「主語」

merkten ...gar nicht, マアケン...ガール・ニト 3 複過・否定(merken)

v.t 全く気付いていなかった

「動詞句」

das ダス pron そのことに

「目的語」

so ザー conj. それで

sehr ゼーア adv. とても

「副詞」

waren ヴァレン 3 複過(sein)v.i ~ だった

「動詞」

sie ジー pron.pl 彼らは

「主語」

mit ihren Gedanken ミット・イーレン・ゲダソケン adv. 自分の思いに

「間接目的語」

beschäftigt. ベシェフティクト adj. (mit et-3 に) 没頭した

「補語」

僕は、彼らの中央に横たわっているこの死者は、彼らにとって全く無意味なものに見えて
いるのではないかという印象さえ抱いた。

Ich hatte sogar den Eindruck, daß die Tote, die da in ihrer Mitte lag, ihnen nicht das Geringste bedeutete.

「主語」「動詞」「副詞」「目的語」

Ich イット pron 僕は

「主語」

hatte ハッテ 1 単過(haben)v.t ~があった

「動詞」

sogar ザーガー adv. ~さえも

「副詞」

den Eindruck, デン・アイントルック n.m.4 格 印象

「目的語」

daß ダス conj. (同格) ~という

「形容詞節」

die Tote, デー・トテ n.f.1 格 この死者は

「主語」

die デー pron (指示代名詞) ~する

「形容詞節」

da ダー adv. そこに

「副詞」

in ihrer Mitte イン・イーラー・ミッテ

adv. 彼らの中央に

「副詞句」

lag, ラク 3 単過・時制の一致(liegen)

v.i 横たわっている

「動詞」

ihnen イーネン pron.3 格 彼らにとって

「間接目的語」

nicht ...bedeutete. ニト...ベトイテ 接 II・3 単現・否定・推量(bedeutен)

v.t 意味しているのではないか

「動詞句」

das Geringste ダス・ゲリングステ n.n.4 格(gering の最高級)

ERSTER TEIL 第1部

無意味なものを 「直接目的語」

しかし今では、この印象は誤りだったと思う。

Aber jetzt glaube ich, daß dieser Eindruck falsch war.

Aber 「副詞」「動詞」「主語」「目的語」

Aber アーバー conj. しかし

jetzt イェツト adv. 今では

「副詞」

glaube グラウベ 1 単現(glauben)v.t(dass ～と) 思っている

「動詞」

ich, イヒ pron 僕は

「主語」

daß ダス conj. ～ということを

「目的語」

dieser Eindruck デーザー・アインツルック n.m この印象は

「主語」

falsch ファルシュ adj. 間違った、誤りの

「補語」

war. ヴァール 3 単過(sein)v.i ～ だった

「動詞」

僕たちはみな、門衛がいれてくれたコーヒーを飲んだ。

Wir tranken alle von dem Kaffee, den der Pförtner reichte.

「主語」「動詞」「主語」「間接目的語」

Wir ヴィア pron.pl 僕たちは

「主語」

tranken トランケン 1 複過(trinken)v.i 飲んだ

「動詞」

alle アレ pron みんな、全員

「主語」

von dem Kaffee, フォン・デーム・カフェ adv. コーヒーを

「間接目的語」

den デン pron (目的語) ～する

「形容詞節」

der Pförtner デア・フュルトナー n.m 門衛が

「主語」

reichte. ライヒテ 3 単過(reichen)v.t 差し出した、提供した

「動詞」

そのあと何が起こるか、もう分からなかった。夜が過ぎていった。

Was dann kam, weiß ich nicht mehr. Die Nacht verging.

「目的語」「動詞句」「主語」 | 「主語」「動詞」

Was ヴァス pron (主語) 何が～するというのを

「目的語」

dann ダン adv. それから、そのあと

「副詞」

kam, カム 3 単過・時制の一致(kommen)v.i 起こる

「動詞」

weiß ...nicht mehr. ヴァイス...ニヒト・メー 1 単現・否定(wissen)v.t もう分らない

「動詞句」

ich イヒ pron 僕は

「主語」

Die Nacht デー・ナハト n.f 夜が

「主語」

verging. フェアキング 3 単過(vergehen)v.i 過ぎていった

「動詞」

ERSTER TEIL 第1部

僕はいちど目を開けたことを覚えている。その時、老人たちが、体を丸めて眠っているのが見えた。しかし一人だけは、杖を支える両手の甲にあごをのせて、まるで僕が目覚めることだけを待っているようにじっと僕を見つめていた。

Ich erinnere mich, daß ich einmal die Augen öffnete und sah, daß die alten Leute in sich zusammengesunken schliefen. bis auf einen, der, das Kinn auf die Handrücken am Spazierstock gestützt, mich starr ansah, als warte er nur auf mein Erwachen.

「主語」「動詞句」「目的語」 und 「動詞」「目的語」,

「主語」「目的語」「副詞」「動詞句」「副詞節」

Ich	イッヒ pron	僕は	「主語」
erinnere mich,	エアレ・ミッヒ 1 単現(sich-4 erinnern)v.pr	〜を覚えている	「動詞句」
daß	ダス conj.	〜ということ	「目的語」
ich	イッヒ pron	僕は	「主語」
einmal	アインマル adv.	一度	「副詞」
die Augen	デー・アウゲン pl(Auge).n.n	両目を	「目的語」
öffnete	エフテ 1 単過(öffnen)v.t	開けた	「動詞」
und	ウント conj.	そして	
sah,	ザー 1 単過(sehen)v.t	見た	「動詞」
daß	ダス conj.	〜ということ	「目的語」
die alten Leute	デー・アルテン・ロイテ pl.n.1 格	老人たちが	「主語」
in sich zusammengesunken	イン・ズィヒ・ツサメンゲスンケン		
adv.	うずくまって		「副詞句」
schliefen,	シュリーフェン 3 複過(schlafen)v.i	眠っていた	「動詞」
bis auf einen,	ビス・アウフ・アイナー adv.	1 人を除いて	「副詞句」
der,	デア pron	彼は	「主語」
das Kinn	ダス・キン n.n.4 格	あごを	「目的語」
auf die Handrücken	アウフ・デー・ハントリュッケン adv.	手の甲の上に	「副詞句」
am Spazierstock	アム・シュパツィアシュトック adv.	杖に	「副詞句」
gestützt,	ゲシュトützt 過去分詞・受動(stützen)adj.	支えられた	「形容詞」
mich	ミッヒ pron	僕を	「目的語」
starr	シュター adv.	かたくなに、じっと	「副詞」
ansah,	アン・ザー 3 単過(an sehen)v.t	見つめていた	「動詞句」
als	アルス conj.	まるで〜のように	「副詞節」
warte	ヴァルテ 接・3 単現・推量(warten)v.i(auf を)	待っている	「動詞」
er	エア pron	彼は	「主語」
nur	ヌーア adv.	〜だけを	「副詞」
auf mein Erwachen.	アウフ・マイン・エアウァッヘン adv.	僕の目覚めを	「間接目的語」

ERSTER TEIL 第1部

それから僕はまた眠った。背中が痛みがひどくなってきて、僕は目覚めた。

Dann schlief ich wieder ein. Ich wurde wach, weil meine Rückenschmerzen immer ärger wurden.

「副詞」「動詞句」「主語」「副詞」「動詞句」 「主語」「動詞」「補語」, 「副詞節」	
Dann ダン adv. それから、その後	「副詞」
schlief ...ein. シュリーフ...アイン 1 単過(ein schlafen)v.i 眠り込んだ	「動詞句」
ich イヒ pron 僕は	「主語」
wieder ヴァーダー adv. また	「副詞」
Ich イヒ pron 僕は	「主語」
wurde ヴェルデ 1 単過・変化(werden)v.i 〜になった	「動詞」
wach, ヴァッハ adj. 目覚めている	「補語」
wach werden 「目を覚ます」	
weil ヴァイル conj. (理由) 〜なので	「副詞節」
meine Rückenschmerzen マイネ・リュッケン・シュメアツェン	
pl(Rücken+schmerz).n.m 背中が痛みが	「主語」
immer ärger イマー・エルガー adj(ärg). (比較級) ますます痛い、ひどい	「補語」
wurden. ヴェルデ 3 複過・変化(werden)v.i 〜になった	「動詞」

ガラス屋根の上には、朝日が射し始めていた。それからまもなく老人の一人が目覚めて、激しく咳き込んだ。

<u>Über dem Glasdach dämmerte es. Kurz darauf wurde einer der Greise wach und hustete fürchterlich.</u>	「副詞句」「動詞」 「副詞句」「動詞」「主語」「補語」 und 「動詞」「副詞」
Über ユーバー prep (空間的) 〜の上に	「副詞句」
dem Glasdach デーム・グラス・ダッハ n.n(Glas+Dach).3 格 ガラス屋根	「目的語」
dämmerte デメテ 3 単過・非人称(dämmern)v.h (朝日が) 始まっていた	「動詞」
es. エス pron 天候・気候	
Kurz darauf クルツ・ダラウフ adv. そのすぐ後で	「副詞句」
wurde ヴェルデ 1 単過・変化(werden)v.i 〜になった	「動詞」
einer der Greise アイナー・デア・グライセ pron(Greis) 老人たちの一人が	「主語」
wach ヴァッハ adj. 目覚めている	「補語」
und ウント conj. そして	
hustete フステテ 3 単過(husten)v.i 咳をした	「動詞」
fürchterlich. フュアヒターリヒ adv. すごい、恐ろしげに	「副詞」

ERSTER TEIL 第1部

彼は格子縞の大きなハンカチに痰を吐いていたが、その度に、肺から根こそぎ吐き出すのではないかというほどの音が聞こえた。

Er spuckte in ein großes kariertes Taschentuch, und jedesmal klang es so, als risse er sich den Auswurf aus der Lunge.

「主語」「動詞」「副詞句」,und「副詞」「動詞」「主語」「副詞句」

Er エア pron 彼は 「主語」

spuckte シュプクテ 3 単過(spucken)v.i (つばや痰を) 吐いた 「動詞」

in ein großes kariertes Taschentuch, イン・アイン・グロース・カリーアテス・タッシェントウフ

adv. 格子縞の大きなハンカチに 「副詞句」

kariert カリーアト adj. 格子縞の Taschentuch タッシェントウフ n.n ハンカチ

und アント conj. そして

jedesmal イェーデスマール adv. ～する度に 「副詞」

klang クラング 3 単過(klingen)v.i 鳴り響いていた 「動詞」

es エス pron 音が 「主語」

so, ソー adv. そんなに、それほど 「副詞句」

als +接続法アルス conj. (推測) まるで～のように 「副詞節」

risse ...sich リッセ...ズィヒ 接 II・3 単現(sich-4 reißen)

v.pr(auf から) 身をもぎ離す 「動詞句」

er エア pron 彼は 「主語」

den Auswurf デン・アウスワフ n.m.4 格 噴出を 「目的語」

aus der Lunge. アウス・デア・ルンゲ adv. 肺から 「副詞句」

彼のせいで他の老人たちも目を覚ました。それで門衛は、もう部屋に帰るようにと言った。彼らは立ち上がった。

Er weckte die anderen, und der Pförtner sagte, sie mußten jetzt gehen. Sie standen auf.

「主語」「動詞」「目的語」,und「主語」「動詞」「目的語」 | 「主語」「動詞句」

Er エア pron 彼は 「主語」

weckte ウェクテ 3 単過(wecken)v.t 起こした、目を覚まさせた 「動詞」

die anderen, デー・アンデレン pl(ander).n.4 格 他の老人たちを 「目的語」

und ウント conj. そして

der Pförtner デア・フエルトナー n.m 門衛は 「主語」

sagte, サークテ 3 単過(sagen)v.t 言った 「動詞」

n. ～ということを 「目的語」

sie ジー pron.pl 彼らは 「主語」

mußten ...gehen. ミュステン...ゲーエン 接 II・3 複現・指示(müssen+不定詞)

v.i (部屋に) 戻りなさい 「動詞句」

ERSTER TEIL 第1部

jetzt イェツト adv. 今から、もう 「副詞」
 Sie ジー pron.pl 彼らは 「主語」
 standen auf. シュタンデン・アウフ 3 複過(auf|stehen)v.i (座った状態から) 立ち上がった 「動詞句」

窮屈な姿勢で通夜を過ごした疲れから、彼らの顔は灰色に染まっていた。

Die unbequeme Nachtwache hatte ihre Gesichter grau gefärbt.

「主語」「動詞句」「目的語」「補語」

Die unbequeme Nachtwache デーイー・ウンベクワェーム・ナハトゥェアッヘ

n.f.1 格 窮屈な姿勢での徹夜の番は 「主語」

unbequem ウンベクワェーム adj. 窮屈な Nachtwache ナハトゥェアッヘ n.f 不寝番

hatte ...gefärbt. ハッテ...ゲフェールプト 3 単過・完了形(färben)v.t 染めた 「動詞句」

ihre Gesichter イーレ・ゲツジヒター pl(Gesicht).n.n.4 格 彼らの顔を 「目的語」

grau グラウ adj. 灰色 「補語」

彼らがホールを出る時、驚いたことに、全員が僕に手を差し出した。お互いに言葉を交わさなかったこの一夜が、まるで僕たちの親密さを増したという様子だった。

Als sie die Halle verließen, reichte mir zu meinem Erstaunen jeder die Hand, als hätte diese Nacht, in der wir kein Wort miteinander gewechselt hatten, unsere Bekanntschaft gefestigt. 「副詞節」, 「動詞」「間接目的語」「副詞句」「主語」「直接目的語」, 「副詞節」

Als アルス conj. ～する時 「副詞節」

sie ジー pron.pl 彼らが 「主語」

die Halle デーイー・ハレ n.f.4 格 ホールを、葬儀場を 「目的語」

verließen, フェアリーセン 3 複過(verlassen)v.t(et-4 から) 去る 「動詞」

reichte ライヒテ 3 単現(reichen)v.t(j-3 et-4) (人-3 に何-4 を) 差し出した 「動詞」

mir ミーア pron.3 格 僕に 「間接目的語」

zu meinem Erstaunen ツー・マイネム・エアシュタウネン adv. 驚いたことに 「副詞句」

jeder イェダー pron すべての人が 「主語」

die Hand, デーイー・ハント n.f.4 格 手を 「直接目的語」

als アルス conj. あたかも～のように 「副詞節」

hätte ...gefestigt. ヘッテ...ゲフェスチクト 接 II・3 単現・完了形・推量(festigen)

v.t 強固にした 「動詞句」

diese Nacht, デーイーゼ・ナハト n.f.1 格 この1夜が 「主語」

in der イン・デア adv. その間に～する 「副詞節」

wir ウィーア pron.pl 僕たちは 「主語」

kein Wort カイン・ヴァート n.n.4 格 1言も～ない 「目的語」

miteinander ミットアイナnder adv. お互いに 「副詞」

ERSTER TEIL 第1部

gewechselt hatten, ゲウ`ェלט・ハッテン 1 複過・完了形(wechseln)

v.t(mit j-3 et-4) 交わさなかった 「動詞句」

unsere Bekanntschaft ウンゼ`レ・ベ`カントシャフト n.f.4 格 僕たちの親密さ、面識 「目的語」

僕は疲れていた。門衛は僕を彼の部屋に連れて行ってくれた。そこで僕は、顔を洗って少しすっきりすることが出来た。

Ich war müde. Der Pförtner nahm mich mit in seine Wohnung, wo ich mich ein wenig frisch machen konnte.

「主語」「動詞」「補語」

「主語」「動詞句」「目的語」「副詞句」, 「副詞」「主語」「動詞句」「補語」

Ich イッヒ pron 僕は 「主語」

war ウ`ァール 1 単過(sein)v.i ~ だった 「動詞」

müde. ミューデ` adj. 疲れた 「補語」

Der Pförtner デ`ア・フ`ェルトナー n.m 門衛は 「主語」

nahm ...mit ナム...ミット 3 単過(mit | nehmen)v.t 連れて行った 「動詞句」

mich ミッヒ pron 僕を 「目的語」

in seine Wohnung, イン・ザ`イネ・ウ`ォンスク` adv. 彼の住まいへ 「副詞句」

wo ウ`ォ adv. そこで 「副詞」

ich イッヒ pron 僕は 「主語」

mich ...machen konnte. ミッヒ...マヘン・コネン 1 単過・可能・変化(können+不定詞 sich-4 machen)

v.pr (自分の体を) ~にできた 「動詞句」

ein wenig frisch アイン・ウ`ェニツヒ・フリッシュ adj. 少し清潔な、新鮮な 「補語」

sich-4 frisch machen 「顔を洗ってさっぱりする」

僕はまたカフェオレを飲んだ。とても美味しかった。

Ich habe noch einmal Milchkaffee getrunken, der sehr gut war.

「主語」「動詞句」「副詞句」「目的語」「動詞句」, 「主語」「動詞」「補語」

Ich イッヒ pron 僕は 「主語」

habe ...getrunken, ハーベ` ...ゲ`トウルンケン 1 単現・完了形(trinken)v.t 飲んだ 「動詞句」

noch einmal ノッホ・アインマル adv. もう一度 「副詞句」

Milchkaffee ミルヒカフェ n.m カフェ・オレを 「目的語」

der デ`ア pron.m それは 「主語」

sehr gut セ`アー・グート adj. とてもおいしい 「補語」

war. ウ`ァール 3 単過(sein)v.i ~ だった 「動詞」

ERSTER TEIL 第1部

外に出た時は、もう日差しが明るくなっていた。マランゴを海から隔てている丘の上空は、空がすっかり赤くなっていた。

Als ich hinausging, war es hellichter Tag. Über den Hügeln, die Marengo vom Meer trennen, war der Himmel über und über rot.

「副詞節」, 「動詞」 「主語」 「補語」 | 「副詞句」, 「動詞」 「主語」 「補語」
 Als アルス conj. (過去の時間) ~した時 「副詞節」
 ich イッヒ pron 僕が 「主語」
 hinausging, ヒナウス・ギング 1 単過(hinaus | gehen)v.i 外に出た 「動詞句」
 war ヴァール 3 単過(sein)v.i ~ だった 「動詞」
 es エス pron 時刻は 「主語」
 hellichter Tag. ヘル・リヒター・ターク n.m 真昼間、正午 「補語」
 Über den Hügeln, ユーバー・デーン・ヒューゲルン adv. (空間的) 丘の上空は 「副詞句」
 über ユーバー prep (3 格または 4 格と) ~の上方に
 den Hügeln デーン・ヒューゲルン pl(Hügel).n.m.3 格 丘
 die Marengo ディー・マレンゴ n.f マランゴを~する 「形容詞節」
 vom Meer フォム・メア adv. 海から 「副詞句」
 trennen, トレン 3 複現 v.t 切り離している、隔てる 「動詞」
 主語は Hügeln
 war ヴァール 3 単過(sein)v.i ~ だった 「動詞」
 der Himmel デア・ヒメル n.m.1 格 空は 「主語」
 über und über ユーバー・ウント・ユーバー adv. すっかり、完全に 「副詞句」
 rot. ロート adj. 赤色の 「補語」

そして、その丘の上空を吹き渡る風が潮の香りを運んできた。

Und der Wind, der über sie hinstrich, brachte Salzgeruch mit.

Und 「主語」, 「動詞句」 「目的語」 「動詞句」
 Und ウント conj. そして
 der Wind, デア・ヴァイント n.m 風が 「主語」
 der デア pron その風が~する 「形容詞節」
 über sie ユーバー・ジー adv. その丘の上を 「副詞句」
 sie は Hügeln の代用
 hinstrich, ヒン・シュトリッヒ 3 単過・時制の一致(hin | streichen)
 v.i (風が) 吹き渡る 「動詞句」
 brachte ...mit. ブラハテ...ミット 3 単過(mit | bringen)v.t 運んできた 「動詞句」
 Salzgeruch ザルツ・ゲルッフ n.m(= Salz+Geruch) 潮の香りを 「目的語」

ERSTER TEIL 第1部

良く晴れた1日になりそうだった。

Es versprach, ein schöner Tag zu werden.

「補語」「主語」

Es エス pron 仮の主語（真の主語は ein schöner 以降）

versprach, フェアシュプ^ラーハ 過去分詞・受動(versprechen)adj. 約束された、期待された 「補語」

n. ～ということは

「主語」

ein schöner Tag アイン・シェナー・ターク n.m 良く晴れた一日に

「補語」

zu werden. ツー・ウァーデ^ン zu 不定詞・変化 v.i ～になる

「動詞句」

僕はもう長い間田舎に来ていなかった。それで、もし母さんのことが無ければ、喜んで散歩をしていただろうと感じた。

Schon lange war ich nicht mehr auf dem Lande gewesen, und ich fühlte, wie gerne ich spazierengegangen wäre, wenn es hier nicht die Geschichte mit Mama gegeben hätte.

「副詞句」「動詞句」「主語」「副詞句」「間接目的語」「動詞句」,
und 「主語」「動詞」「目的語」

Schon lange ショーン・ランゲ^グ adv. すでに長い間

「副詞句」

war ...gewesen, ヲ^アール...ゲ^ウエーゼ^ン 1 単過・移動・完了形(sein)v.i 来ていなかった 「動詞句」

ich イッヒ pron 僕は

「主語」

nicht mehr ニヒト・メア^ア adv. もう～ない

「副詞句」

auf dem Lande アウフ・デー^ム・ランデ^グ adv. 田舎に

「間接目的語」

und ウント conj. そして

ich イッヒ pron 僕は

「主語」

fühlte, フュールテ 1 単過(fühlen)v.t 感じた

「動詞」

wie ヲ^イ conj. ～のようなことを

「目的語」

gerne ゲア^ネ adv. 喜んで

「副詞」

ich イッヒ pron 僕は

「主語」

spazierengegangen wäre. シュパ^ツイーレン・ゲガ^ンゲン・ウ^エレ 接 II・1 単現・移動・完了形・推量

(spazieren gehen)v.i 散歩していただろう

「動詞句」

wenn ウ^エン conj. (条件) もしも～ならば

「副詞節」

es エス pron 非人称

hier ヒア^ア adv. ここで

「副詞」

nicht ...gegeben hätte. ニヒト...ゲ^ゲーベン・ヘッテ 接 II・非人称・3 単現・完了形

(es geben et-4)v.h ～がなかったとする

「動詞句」

die Geschichte mit Mama デ^イ・ゲシヒテ・ミット・マ^マ

n.f.4 格 (理由) 母さんのこと

「目的語」

ERSTER TEIL 第1部

代わりに、僕は中庭のプラタナスの木の下で待った。

Statt dessen wartete ich im Hof unter einer Platane.

「副詞句」「動詞」「主語」「副詞句」

Statt シュタット prep (2格と) への代わりに

「副詞句」

dessen デッセン pron.n(das).2格 それ

「目的語」

wartete ウァルテ 1 単過(warten)v.i 待った

「動詞」

ich イヒ pron 僕は

「主語」

im Hof イム・ホフ adv. (空間的) 中庭で

「副詞句」

unter einer Platane. ウンター・アイナー・プラターネ adv. (空間的) プラタナスの木の下で

「副詞句」

さわやかな大地の香を吸い込むと、もう眠くなかった。

Ich atmete den Duft der frischen Erde und war nicht mehr müde.

「主語」「動詞」「目的語」 und 「動詞」「補語」

Ich イヒ pron 僕は

「主語」

atmete アートメ 1 単過(atmen)v.t ーを吸い込んだ

「動詞」

den Duft デン・ドゥフト n.m.4格 いいにおいを

「目的語」

der frischen Erde デア・フリッシェン・エアデ n.f.2格 さわやかな大地の

「形容詞句」

und ウント conj. そして

war ウァール 1 単過(sein)v.i ーだった

「動詞」

nicht mehr müde. ニヒト・メア・ミュデ adj. もう眠くない

「補語」

僕は会社の同僚のことを思い浮かべた。

Ich dachte an meine Kollegen im Büro.

「主語」「動詞」「間接目的語」

Ich イヒ pron 僕は

「主語」

dachte ダハテ 1 単過(denken)v.i(an j-4人-4のことを) 思い浮かべた

「動詞」

an meine Kollegen アン・マイネ・コレゲン adv. 同僚のことを

「間接目的語」

im Büro. イム・ビュロー adv. 会社の

「副詞句」

今頃は、皆仕事に行くために起きているだろう：僕には、いつも一番つらい時刻だ。

Jetzt standen sie auf, um an die Arbeit zu gehen: für mich war das immer die schwerste Stunde.

「副詞」「動詞句」「主語」「動詞句」「副詞句」: 「副詞句」「動詞」「主語」「補語」

Jetzt イェツト adv. 今は

「副詞」

standen ...auf, シュタンデン...アウフ 3 複過(auf|atehen)v.i 起床した

「動詞句」

sie ジー pron.pl 彼らは

「主語」

um ...zu gehen: ウム...ツァー・ゲーエン zu 不定句・目的 adv. ーに行くために

「副詞句」

an die Arbeit アン・デア・アールハイト adv. 仕事に

「間接目的語」

ERSTER TEIL 第1部

für mich フェア・ミッ	adv. 僕にとっては	「副詞句」
war ヲアル	3 単過(sein)v.i ~ だった	「動詞」
das ダス	pron.n それは	「主語」
immer イマー	adv. いつも	「副詞句」
die schwerste Stunde. デー・イー・シュウ・ェアステ・シュトウンデ	n.f.1 格 一番つらい時刻、時間	「補語」

僕はまだ少しそんなことを考えていたが、その時に建物の内部で鳴り響いた鐘の音によって気をそらされた。

Ich dachte noch ein wenig an diese Dinge, wurde dann aber von einer Glocke abgelenkt, die im Innern der Gebäude ertönte.

「主語」「動詞」「副詞句」「間接目的語」,		
「動詞句」「副詞」 aber 「副詞句」「動詞句」, 「形容詞節」		
Ich イッ	pron 僕は	「主語」
dachte ダハテ	1 単過(denken)v.i(an ~について) 考えていた	「動詞」
noch ノッホ	adv. さらに、まだ	「副詞」
ein wenig アイン・ウエニッヒ	adv. 少し	「副詞」
an diese Dinge, アン・デーゼ・デイング	adv. そのような事を	「間接目的語」
wurde ...abgelenkt, ヲルテ ...アップゲレンクト	1 単過・受動(werden+過去分詞 ab lenken)	
v.t	気をそらされた	「動詞句」
dann ダン	adv. そのときに	「副詞」
aber アーバー	conj. しかし	
von einer Glocke フォン・アイー・グロッケ	adv. (動作主) 鐘によって	「副詞句」
die デー	pron (Glocke の代用) それは~する	「形容詞節」
im Innern イム・イン	adv.(= in dem Innern) (Innere) 内部で	「副詞句」
der Gebäude デア・ゲボイデ	adj. 建物の	「形容詞句」
ertönte. エアテンテ	3 単過(ertönen)v.i 鳴り響いた	「動詞」

窓の向こう側が賑やかになったが、その後再び静まり返った。

Hinter den Fenstern wurde es lebendig, und dann war alles wieder still.

「副詞句」「動詞」「主語」「補語」, und 「副詞」「動詞」「主語」「補語」		
Hinter ヒンター	prep (空間的) ~の向こうで、~の後ろで	「副詞句」
den Fenstern デン・フェンスター	pl(Fenster).n.n.3 格 窓	「目的語」
wurde ヲルテ	3 単過・変化(werden)v.i ~になった	「動詞」
es エス	pron 非人称・環境	「主語」
lebendig, レベンディヒ	adj. 賑やかな、活気のある	「補語」
und ウント	conj. そして	

ERSTER TEIL 第1部

dann ダン adv. それから、そのあと	「副詞」
war ヲアル 3 単過・変化(sein)v.i ~ になった	「動詞」
alles アレス pron (単数扱い) すべてが	「主語」
wieder still. ヲイーダー・シュティル adj. また静かな	「補語」

太陽はさらに高く空に昇っており、僕の足を暖め始めた。

Die Sonne stand etwas höher am Himmel: sie begann meine Füße zu wärmen.

「主語」「動詞」「副詞句」: 「主語」「動詞句」「目的語」「動詞句」

Die Sonne デー・ゾネ n.f 太陽は	「主語」
stand シュタント 3 単過(stehen)v.i 昇っていた	「動詞」
etwas höher エトワース・ヘアー adv. いくらか高く	「副詞句」
am Himmel: アム・ヒメル adv. 空に	「副詞句」
sie ジー pron (Sonne の代用) それは	「主語」
begann ...zu wärmen. ベカント...ツォ・ウエアメン 3 単過・開始(beginnen zu+不定詞)	
v.t 暖め始めた	「動詞句」
meine Füße マイネ・フューセ pl(Fuß).n.m.4 格 僕の足を	「目的語」

門衛が中庭を横切ってやって来て、院長が僕と話したがっていると告げた。

Der Pförtner kam durch den Hof und sagte mir, der Direktor wünsche mich zu sprechen.

「主語」「動詞」「副詞句」 und 「動詞」「間接目的語」「直接目的語」

Der Pförtner デア・プフェルトナー n.m 門衛が	「主語」
kam カム 3 単過(kommen)v.i やって来た	「動詞」
durch ドゥルヒ prep (4 格と) (通過) ~を通り抜けて	「副詞句」
den Hof デン・ホフ n.m.4 格 中庭	「目的語」
und ウント conj. そして	
sagte サークテ 3 単過(sagen)v.t 告げた、伝えた	「動詞」
mir, ミー pron 僕に	「間接目的語」
der Direktor デア・ディレクトール zu 不定詞 (主語) 院長が~するということを	「直接目的語」
wünsche ...zu sprechen. ヲンシェ...ツォ・シュプレヒェン 接・3 単現・願望(wünschen+zu 不定詞)	
v.t (j-4 と) 話したがっている	「動詞句」
mich ミット pron 僕と	「目的語」

ERSTER TEIL 第1部

僕は院長室へ行った。院長は僕に色々な書類を差し出して、僕に署名させた。

Ich ging in sein Büro. Er gab mir allerlei Schriftstücke zum Unterschreiben.

「主語」「動詞」「副詞句」 | 「主語」「動詞」「間接目的語」「直接目的語」

Ich イッヒ pron 僕は

「主語」

ging キング 1 単過(gehen)v.i 行った

「動詞」

in sein Büro. イン・ザイン・ビュロー adv. 院長室に、執務室、仕事部屋

「副詞句」

Er エア pron 彼は

「主語」

gab ガーフ 3 単過(geben)v.t ~を差し出した

「動詞」

mir ミア pron 僕に

「間接目的語」

allerlei Schriftstücke アラーライ・シュリフトシュトッケ pl(Schriftstück)

n.n.4 格 様々な書類を

「直接目的語」

zum ツム prep (目的) それに~するための

「形容詞句」

Unterschreiben. ウンターシュライベン n.n 署名

「目的語」

geben+zu 不定詞 「~させる」

Das gibt mir zu denken. それが私には気がかりだ。

僕は院長が喪服を着て、縞のズボンを穿いているのが見えた。

Ich sah, daß er einen schwarzen Rock und eine gestreifte Hose anhatte.

「主語」「動詞」「目的語」

Ich イッヒ pron 僕は

「主語」

sah, サー 1 単過(sehen)v.t 分かった、見えた

「動詞」

daß ダス conj. ~ということが

「目的語」

er エア pron かれは

「主語」

einen schwarzen Rock アイン・シュワールツェン・ロック n.m.4 格 黒い上着、喪服

「目的語」

schwarzen シュワールツェン adj(schwarz).m.4 格 黒い、黒の

und ウント conj. そして

eine gestreifte Hose アイン・ゲシュトライフテ・ホーゼ n.f.4 格 縞のズボン

「目的語」

gestreifte ゲシュトライフテ adj(gestreift).f.4 格 縞の入った

anhatte. アン・ハッテ 3 単過・時制の一致(an|haben)v.t (服を) 着ている

「動詞句」

ERSTER TEIL 第1部

彼は受話器を手にとって、僕に言った：「葬儀社の者がちょうど着いたところです」

Er nahm den Telefonhörer auf und sagte zu mir: «Die Leute vom Beerdigungsinstitut sind eben gekommen. 「主語」「動詞句」「目的語」「動詞句」 und 「動詞」「間接目的語」:

《「主語」「副詞句」「動詞句」》

Er エア pron 彼は 「主語」
 nahm ...auf ナム...アフ 3 単過(auf|nehmen)v.t 持ち上げた、取り上げた 「動詞句」
 den Telefonhörer デン・テレフォンヘーラー n.m.4 格 受話器を 「目的語」
 und ウント conj. そして
 sagte サーケ 3 単過(sagen)v.t 言った 「動詞」
 zu mir: ツー・ミーア adv. (空間的) 僕に向かって 「間接目的語」
 «Die Leute デー・ロイテ pl.n 人々は 「主語」
 vom Beerdigungsinstitut フォム・ベアデイクングスインシュトゥット adv. 葬儀社から 「副詞句」
 sind eben gekommen. シント・エーベン・ゲコメン 3 複現・完了形(kommen)
 v.i ちょうど着いた 「動詞句」
 eben エーベン adv. ちょうど今、たった今しがた

「彼らに、棺を閉じるように言おうと思います。」

Ich will sie beauftragen, den Sarg zu schließen. 《「主語」「動詞句」「目的語」「補語」》

Ich イッヒ pron 私は 「主語」
 will ...beauftragen, ヴェイル...ベアフトラゲン 1 単現・意志(wollen+不定詞)
 v.t 依頼しようと思う 「動詞句」
 「命じる」を和らげて言っている
 sie ジー pron.pl 彼らに 「目的語」
 zu 不定句・sie の動作 n. ～することを、するように 「補語」
 den Sarg デン・サルグ n.m.4 格 棺を 「目的語」
 zu schließen. ツー・シュリーセン zu 不定詞 v.t 閉じる 「動詞句」

「その前に、お母様と最後のご対面をなさいますか？」と尋ねられたが、断った。

Wollen Sie Ihre Mutter vorher noch ein letztes Mal sehen?» Ich verneinte.

《「動詞句」「主語」「目的語」「副詞句」「動詞句」》「主語」「動詞」

Wollen ...sehen?» ヴォレン...ゼーエン 3 複現・願望・疑問文(wollen+不定詞)
 v.t 会いたいですか? 「動詞句」
 Sie ジー pron.pl (敬称) あなたは 「主語」
 Ihre Mutter イーレ・ムター n.f お母様に 「目的語」
 vorher フォアヘア adv. その前に、先に 「副詞」
 noch ein letztes Mal ノッホ・アイン・レッツテス・マル adv. 最後にもう一度 「副詞句」

ERSTER TEIL 第1部

Ich イッヒ pron 僕は 「主語」
 verneinte. フェアインテ 1 単過(verneinen)v.t 結構ですと答えた 「動詞」
 verneinen フェアインネン v.t (et-4 に対して) ノーと答える、否定する、拒否する

彼は電話口に向かって声を抑えて言った：「ジャック！皆に仕事を始めるように言ってくれ」

Mit gedämpfter Stimme sagte er ins Telefon: «Figeac, sagen Sie den Leuten, sie können alles fertigmachen.» 「副詞句」「動詞」「主語」「副詞句」:

《「呼びかけ」「動詞」「主語」「間接目的語」「直接目的語」》

Mit gedämpfter Stimme ミット・ゲデンプ フター・シュティメ adv.(手段) 囁くような声で 「副詞句」
 gedämpfter ゲデンプ フター adj(gedämpft).f.3 格 (音などを) やわらげた、暗い

sagte サークテ 3 単過(sagen)v.t 言った 「動詞」

er エア pron 彼は 「主語」

ins Telefon: インス・テレフォン adv. 電話口に向かって 「副詞句」

«Figeac, フィジャック n.m (人名) フィジャック 「呼びかけ」

sagen サーゲン 命・3 複現 v.t ~と言ってくれ 「動詞」

Sie ジー pron 君は 「主語」

den Leuten, デン・ロイテン pl.n 職員皆に 「間接目的語」

sie ジー pron 彼らは~であるということ 「直接目的語」

können ...fertigmachen.» ケネ...フェアチマヘン 3 複現・可能(können+不定詞)

v.t 仕上げてても構わない 「動詞句」

alles アレス pron すべてを 「目的語」

それから彼は、葬儀に参加するつもりだと言った。僕は彼に礼を言った。

Dann sagte er zu mir, er werde an dem Begräbnis teilnehmen, und ich dankte ihm.

「副詞」「動詞」「主語」「間接目的語」「直接目的語」,und 「主語」「動詞」「間接目的語」

Dann ダン adv. それから、次に 「副詞」

sagte サークテ 3 単過(sagen)v.t 言った 「動詞」

er エア pron 彼は 「主語」

zu mir, ツー・ミーア adv. 僕に 「間接目的語」

er エア pron 彼は~するというところを 「直接目的語」

werde ...teilnehmen, ヴェアデ ...タイル・ネーメン 接・3 単現・意志(werden+不定詞)

v.i 参加するつもりである 「動詞句」

an dem Begräbnis アン・デーム・ベグレーブニス adv. 葬儀に 「間接目的語」

und ウント conj. そして

ich イッヒ pron 僕は 「主語」

ERSTER TEIL 第1部

dankte ダンクテ 1 単過(danken)v.t(j-3 et-4 人-3 の何-4 に) 感謝した 「動詞」
ihm. イム pron.3 格 彼に (彼の好意に) 「間接目的語」

彼はデスクに座って、その短い脚を組んだ。

Er setzte sich an seinen Schreibtisch und schlug die kurzen Beine übereinander.

「主語」「動詞句」「副詞句」 und 「動詞」「目的語」「副詞」

Er エア pron 彼は 「主語」
setzte sich セッツテ・スィツヒ 3 単過(sich-4 setzen)v.pr 座った 「動詞句」
an seinen Schreibtisch アン・ザイネン・シュライプ ティシュ adv. 事務机に 「副詞句」
und ウント conj. そして
schlug シュルク 3 単過(schlagen)v.t かぶせた、重ねた 「動詞」
die kurzen Beine デー・イー・クルツェン・バィネ pl(Bein).n.n.4 格 短い脚を 「目的語」
kurzen クルツェン adj(kurz).pl.n.4 格 短い
übereinander. ユーバー・アイナンドー adv. 上下に 「副詞」

彼は、彼と当番の看護婦だけが僕と一緒に棺についていく予定だと説明してくれた。

Er erklärte, er und die Schwester vom Dienst würden mit mir als einzige dem Sarg folgen.

「主語」「動詞」「目的語」

Er エア pron 彼は 「主語」
erklärte, エアクレアテ 3 単過(erklären)v.t 説明した 「動詞」
n. ～ということを 「目的語」
er エア pron 彼は 「主語」
und ウント conj. そして
die Schwester デー・イー・シュウァスター n.f 看護婦は 「主語」
vom Dienst フォム・デー・イーンスト adv. 当直の、当番の 「副詞句」
würden ...folgen. ヲエルデン...フォルゲン 接・3 複現・推量(werden+不定詞)
v.i ついていくことになるだろう 「動詞句」
mit mir ミット・ミーア adv. 僕と一緒に 「副詞句」
als einzige アルス・アインツィゲ adv. 唯一のものとして 「副詞句」
dem Sarg デーム・サルク n.m.3 格 棺に 「間接目的語」

ERSTER TEIL 第1部

原則として、入寮者は葬儀に参加しないことになっている。

Die Heiminsassen nähmen grundsätzlich an keiner Beerdigung teil.

「主語」「動詞句」「副詞句」「間接目的語」「動詞句」

Die Heiminsassen デー・ハイム・インザセン pl(Heiminsasse).n.m 入寮者は 「主語」

Heim ハイム n.n ホーム、寮 Insasse インザセ n.m 入院者

nähmen ...teil. ネーメン...tail 接 II・3 複現(teil|nehmen)v.i 参加する 「動詞句」

grundsätzlich グルントゼッツリヒ adv. 原則として 「副詞句」

an keiner Beerdigung アン・カイアー・ベアデ・イグング adv. 一切の葬儀に〜ない 「間接目的語」

彼らにも、通夜だけは認めている。

Er gestattete ihnen nur die Totenwache. 「主語」「動詞」「間接目的語」「直接目的語」

Er エア pron 彼は 「主語」

gestattete ゲシュタッテ 3 単過(gestatten)v.t(j-3 et-4 人-3 に何-4 を) 許した 「動詞」

ihnen イーネン pron.3 格 彼らに 「間接目的語」

nur die Totenwache. ヌア・デー・イー・トテンウァッ n.f 通夜だけは 「直接目的語」

「それは人情の問題ですから」と、彼は言った。

«Das ist eine Frage der Menschlichkeit», bemerkte er.

《「主語」「動詞」「補語」》, 「動詞」「主語」

«Das ダス pron それは 「主語」

ist イスト 3 単現(sein)v.i 〜である 「動詞」

eine Frage アイン・フラーゲ n.f.1 格 問題 「補語」

der Menschlichkeit», デア・メンシュリヒカイト n.f.2 格 人情の 「形容詞句」

bemerkte ベマクテ 3 単過(bemerken)v.t 言った 「動詞」

er. エア pron 彼は 「主語」

しかし今回は、母さんの親友の《トーマス・ペレーズ》に、葬儀に参加する許可を与えた。

ここで院長は微笑んだ。

In diesem Fall aber habe er einem alten Freund von Mama erlaubt, an dem Begräbnis teilzunehmen: «Thomas Perez.» Hier lächelte der Direktor.

「副詞句」「動詞句」「主語」「間接目的語」「直接目的語」「動詞句」

「副詞」「動詞」「主語」

In diesem Fall イン・デー・ゼム・ファル adv. 今回は 「副詞句」

Fall ファル n.m 場合、事例

aber アーバー conj. しかしながら

habe ...erlaubt, ハーベ ...エラウト 接・3 単現・完了形(erlauben)

ERSTER TEIL 第1部

v.t(j)-3 et-4 人-3 に何-4 を) 許可した	「動詞句」
er エア pron 彼は	「主語」
einem alten Freund アイネム・アルテン・フロイント n.m.3 格 古くからの友人に	「間接目的語」
von Mama フォン・ママ adv. 母さんと	「副詞句」
zu 不定句 n. ～することを	「直接目的語」
an dem Begräbnis アン・デーム・ベグラープニス adv. 葬儀に	「間接目的語」
teilzunehmen: タイル・ツァー・ネーメン zu 不定詞 v.i 参加する、出席する	「動詞句」
«Thomas Perez.» トマス・ペレス n.m トーマス・ペレーズに	「間接目的語」
Hier ヒア adv. ここで	「副詞」
lächelte レヒェルテ 3 単過(lächeln)n. 微笑んだ	「動詞」
der Direktor. デア・ディレクトール n.m 院長は	「主語」

彼は言った：「お察しの通り、何とか子供じみた感情なんです。それでも、彼とお母様はほとんどいつも一緒にいらっしやいました」

Er sagte: «Sie verstehen, es ist ein etwas kindliches Gefühl. Aber er und Ihre Mutter waren fast immer zusammen.»

「主語」「動詞」：《「主語」「動詞」, 「主語」「動詞」「補語」

Aber 「主語」「動詞」「副詞句」》

Er エア pron 彼は	「主語」
sagte: サークテ 3 単過(sagen)v.t 言った	「動詞」
«Sie シー pron.pl (3 複敬称) あなたは	「主語」
verstehen, フェアシュテーン 3 複現 v.t 分かる	「動詞」
es エス pron それは	「主語」
ist イスト 3 単現(sein)v.i ～である	「動詞」
ein etwas kindliches Gefühl. アイン・エトヴァス・キントリッヒェス・ゲフェール	
n.n.1 格 何とか子供じみた感情	「補語」
kindliches キントリッヒェス adj.n.1 格 子供らしい Gefühl ゲフェール n.n 感覚、感情	
Aber アーバー conj. しかし	
er エア pron (Perez の代用) 彼は	「主語」
und ウント conj. そして	
Ihre Mutter イレ・ムター n.f お母様は	「主語」
waren ヴァレン 3 複過(sein)v.i ～にいた	「動詞」
fast ファスト adv. ほぼ、ほとんど	「副詞」
immer イマー adv. いつも	「副詞」
zusammen.» ツァメン adv. 一緒に	「副詞」

ERSTER TEIL 第1部

養老院ではみんな 2 人をからかって、ペレーズに対して「お前の許嫁だな」などと言っていました。彼は笑っていました。

Im Heim neckte man sie, und zu Perez sagte man: «Sie ist Ihre Braut.» Er lächelte.

「副詞句」「動詞」「主語」「目的語」,und「間接目的語」「動詞」「主語」:
 «「主語」「動詞」「補語」»「主語」「動詞」

Im Heim	イム・ハイム adv. 養老院では	「副詞句」
neckte	ネクテ 3 単過(necken)v.t からかっていた	「動詞」
man	マン pron 入寮者はみんな	「主語」
sie,	ジー pron.pl 2 人を	「目的語」
und	ウント conj. そして	
zu Perez	ツ・ペレス adv. ペレーズに対して	「間接目的語」
sagte	ザークテ 3 単過(sagen)v.t 言っていた	「動詞」
man:	マン pron 入寮者はみんな	「主語」
«Sie	ジー pron 彼女は	「主語」
ist	イスト 3 単現(sein)v.i ~である	「動詞」
Ihre Braut.»	イーレ・ブラウト n.f.1 格 お前の許嫁	「補語」
Er	エア pron 彼は	「主語」
lächelte.	レヒェルテ 3 単過(lächeln)v.i 笑っていた	「動詞」

「それが楽しみだったのです。とにかく、ムルソーさんの死は彼には大変な衝撃でした」

«Das machte ihnen Spaß. Jedenfalls ist ihm der Tod von Frau Meursault sehr nahegegangen.

«「主語」「動詞」「間接目的語」「直接目的語」
 「副詞」「動詞」「間接目的語」「主語」「補語」»

«Das	ダス pron それは	「主語」
machte	マハテ 3 単過(machen)v.t(j-3 et-4 人-3 に何-4 を) もたらした	「動詞」
ihnen	イーネン pron.3 格 彼らに	「間接目的語」
Spaß.	シュハース n.m 楽しみ、冗談	「直接目的語」
Jedenfalls	イエーデンファルス adv. いずれにせよ、少なくとも	「副詞」
ist	イスト 3 単現(sein)v.i ~である	「動詞」
ihm	イム pron.3 格 ペレーズにとって	「間接目的語」
der Tod von Frau Meursault	デア・トート・フォン・フラウ・ムルソー n.m ムルソーさんの死は	「主語」
sehr nahegegangen.	セーア・ナーエゲガンゲン 過去分詞(nahegehen)adj. 大変な衝撃	「補語」

ERSTER TEIL 第1部

「私はこの葬儀への参列を彼に許可しないことは考えられませんでした。」

Ich glaubte, ihm diese Erlaubnis nicht verweigern zu dürfen.

《「主語」「動詞句」「間接目的語」「直接目的語」「動詞句」》

Ich イッヒ pron 私は

「主語」

glaubte, ...nicht verweigern zu dürfen. ゲラウプテ...ニヒト・フェアウァイカース・ツー・ドゥルフェン

1 単過・思考・否定(glauben...zu 不定詞)v.t 断ることは考えられなかった

「動詞句」

verweigern フェアウァイカース v.t 断る dürfen ドゥルフェン[助] (許可) ~していい

ihm イム pron.3 格 彼に、彼の

「間接目的語」

diese Erlaubnis デーイーゼ・エアラウプニス n.f この許可を

「直接目的語」

しかし医師の助言に従って、私は彼に昨日の通夜を禁止しました。

Aber auf Anraten unseres Arztes hatte ich ihm die Totenwache gestern verboten.»

《Aber 「副詞句」「動詞句」「主語」「間接目的語」「直接目的語」「動詞句」》

Aber アーバー conj. しかし

auf Anraten アウフ・アンラーテン adv. (名詞化 an|raten) (手段・理由) 助言によって「副詞句」

unseres Arztes ウンゼレス・アルツテス n.m.2 格 医師の

「形容詞句」

hatte ...verboten. ハッテ...フェアホーテン 1 単過・完了形(verbieten)v.t 禁じた

「動詞句」

ich イッヒ pron 私は

「主語」

ihm イム pron 彼に

「間接目的語」

die Totenwache デーイー・トーンウァッヘ n.f.4 格 通夜を

「直接目的語」

gestern ゲスターン adv. 昨日の

「副詞」

僕たちはかなり長い間黙ったまま向き合って座っていた。

Wir saßen uns ziemlich lange schweigend gegenüber.

「主語」「動詞句」「間接目的語」「副詞句」「動詞句」

Wir ウーア pron.pl 僕たちは

「主語」

saßen ...gegenüber. サーゼン... ケーゲンユーバー 1 複過(gegenüber|sitzen)

v.pr(j-3 に) 向かい合って座っていた

「動詞句」

uns ウンス pron 互いに

「間接目的語」

ziemlich lange ツィームリヒ・ランゲ adv. かなり長い間

「副詞句」

schweigend シュウアイケント 現在分詞・同時(schweigen)adv. 黙って

「副詞」

ERSTER TEIL 第1部

それから院長は立ち上がり、部屋の窓から外を眺めた。

Dann stand der Direktor auf und blickte durch das Bürofenster.

「副詞」「動詞句」「主語」「動詞句」 und 「動詞」「副詞句」

Dann ダン adv. それから

「副詞」

stand ...auf シュタント...アウフ 3 単過(auf|stehen)v.i (座った状態から) 立ち上がった 「動詞句」

der Direktor デア・ディレクトール n.m 院長は

「主語」

und ウント conj. そして

blickte ブリクテ 3 単過(blicken)v.i 見た

「動詞」

durch ドゥルヒ prep (4 格と) (通過) ~を通して、~から

「副詞句」

das Bürofenster. ダス・ビュロー・フェンスター n.n.4 格 院長室の窓

「目的語」

彼は言った：「もうそこにマレンゴから司祭がいらしている。予定より早いな」

Er sagte: «Da ist schon der Pfarrer von Marengo. Er hat sich verfrüht.»

「主語」「動詞」：《「副詞」「動詞」「副詞」「主語」「副詞句」 | 「主語」「動詞句」》

Er エア pron 彼は

「主語」

sagte: サークテ 3 単過(sagen)v.t 言った

「動詞」

«Da ダー adv. そこに

「副詞」

ist イスト 3 単現・移動(sein)v.i ~に来ている

「動詞」

schon ショーン adv. もうすでに、はやくも

「副詞」

der Pfarrer デア・フファラー n.m (教区の) 司祭が

「主語」

von Marengo. フォン・マレンゴ adv. マレンゴから

「副詞句」

Er エア pron 彼は

「主語」

hat sich verfrüht.» ハット・ズィット・フェアフリュート 3 単現・完了形(sich-4 verfrühen)

v.pr (予定より) 早く到着した

「動詞句」

村の中にある教会への道のりは、45 分位になるだろうと彼は僕に言った。

Er sagte mir, der Weg zur Kirche, die im Dorf selbst liege, betrage dreiviertel Stunden.

「主語」「動詞」「間接目的語」「直接目的語」

Er エア pron 彼は

「主語」

sagte サークテ 3 単過(sagen)v.t 言った

「動詞」

mir, ミーア pron 僕に

「間接目的語」

n. ~ということ

「直接目的語」

der Weg デア・ヴェーク n.m 道路は

「主語」

zur Kirche, ツーア・キルヒェ adv. 教会に行く

「副詞句」

die デー pron (主語: Kirche の代用) ~する

「形容詞節」

im Dorf イム・ドーフ adv. 村の中に

「副詞句」

ERSTER TEIL 第1部

selbst セルフ スト pron それ自身が 「主語」
 liege, リーゲ 接・3 単現(liegen)
 v.i (場所に) ある 「動詞」
 betrage ベトラゲ 接・3 単現(betragen)v.i (距離・時間が) 〜である 「動詞」
 dreiviertel Stunden. ドライ・フィアテル・シュトウンテン pl.n.f 45 分 「補語」

僕たちが降りて行くと、建物の前に、司祭が2人の侍者と一緒に待っていた。

Wir gingen hinunter. Vor dem Gebäude stand der Pfarrer mit zwei Chorknaben.

「主語」「動詞句」 | 「副詞句」「動詞」「主語」「副詞句」
 Wir ウーア pron.pl 僕たちは 「主語」
 gingen hinunter. キンゲン・ヒンター 1 複過(hinunter|gehen)v.i 降りて行った 「動詞句」
 Vor フォア prep (空間的) 〜の前で 「副詞句」
 dem Gebäude デーム・ゲボイテ n.n.3 格 建物 「目的語」
 stand シュタント 3 単過(stehen)v.i 立っていた、待っていた 「動詞」
 der Pfarrer デア・プファラー n.m 司祭が 「主語」
 mit zwei Chorknaben. ミット・ツヴァイ・コークナーヘ adv. 2 人の侍者と一緒に 「副詞句」

侍者の1人が香炉を持ち、司祭は侍者の方へ身を屈めて、銀の鎖の長さを調整していた。

Der eine hielt einen Weihrauchkessel, und der Pfarrer beugte sich zu ihm, um die Länge der silbernen Ketten zu regeln.

「主語」「動詞」「目的語」,und「主語」「動詞句」「間接目的語」「副詞句」
 Der eine デア・アイネ pron 侍者の1人が 「主語」
 hielt ヒールト 3 単過(halten)v.t 持っていた 「動詞」
 einen Weihrauchkessel, アイン・ウァイラウフケッセル n.m 香炉を 「目的語」
 Weihrauch ウァイラウフ n.m 乳香 Kessel ケッセル n.m ケトル、深鍋
 und ウント conj. そして
 der Pfarrer デア・プファラー n.m 司祭は 「主語」
 beugte sich ボイクテ・スィッヒ 3 単過(sich-4 beugen)v.pr 身を屈めていた 「動詞句」
 zu ihm, ツー・イム adv. 侍者の方へ 「間接目的語」
 um ...zu regeln. ウム...ツー・レーゲルン zu 不定句 adv. (目的) 〜を調整するために 「副詞句」
 die Länge デー・レンゲ n.f.4 格 長さを 「目的語」
 der silbernen Ketten デア・シルバーネン・ケテン
 pl(Kette).n.f.2 格 銀の鎖の 「形容詞句」

ERSTER TEIL 第1部

僕たちが行くと、司祭はまた立ち上がった。

Als wir kamen, richtete der Pfarrer sich wieder auf.

「副詞節」, 「動詞句」 「主語」 「動詞句」

Als アルス conj. ～すると

「副詞節」

wir ヴィーア pron 僕たちが

「主語」

kamen, カメン 1 複過(kommen)v.i (目的地に) 行く

「動詞」

richtete ...sich wieder auf. リヒテ...スィヒ・ヴィーダー・アウフ 3 単過(sich-4 auf | richten+wieder)

v.pr また立ち上がった

「動詞句」

der Pfarrer デア・プファラー n.m 司祭は

「主語」

彼は僕のことを「我が子よ」と呼んで、一言二言話しかけてから、家に入って言った。僕は彼について行った。

Er nannte mich «mein Sohn» und sagte ein paar Worte. Dann ging er ins Haus, und ich folgte ihm.

「主語」 「動詞」 「目的語」 《「補語」》 und 「動詞」 「目的語」

「副詞」 「動詞」 「主語」 「副詞句」, ind 「主語」 「動詞」 「間接目的語」

Er エア pron 彼は

「主語」

nannte ナンテ 3 単過(nennen)v.t(j-4 et-4 人-4 を et-4 と) 呼んだ

「動詞」

mich ミヒ pron 僕を

「目的語」

«mein Sohn» マイン・ゾーン n.m 「我が子よ」

「補語」

und ウント conj. そして

sagte サークテ 3 単過(sagen)v.t 言った

「動詞」

ein paar Worte. アイン・パール・ヴォアテ n.n 一言二言

「目的語」

Dann ダン adv. それから

「副詞」

ging キング 3 単過(gehen)v.i 行った

「動詞」

er エア pron 彼は

「主語」

ins Haus, インス・ハウス adv. 家の中へ

「副詞句」

und ウント conj. そして

ich イヒ pron 僕は

「主語」

folgte フォルクテ 1 単過(folgen)v.i(j-3 に) ついて行った

「動詞」

ihm. イム pron.m.3 格 彼に

「間接目的語」

ERSTER TEIL 第1部

僕はすぐに、棺の釘がしっかりと締められていて、部屋には黒服の男が 4 人いるのが見えた。

Ich sah sofort, daß die Sargschrauben fest angezogen waren und daß vier schwarz gekleidete Männer im Raum waren. 「主語」「動詞」「副詞」「目的語」

Ich イッヒ pron 僕は 「主語」

sah ザー 1 単過(sehen)v.t 見えた 「動詞」

sofort, ソフォート adv. すぐに 「副詞」

daß ダス conj. ～ということを 「目的語」

die Sargschrauben テー・ザルク・シュラウベン pl(Sargschraube).n.f 棺の釘が 「主語」

Sarg ザルク n.m 棺 Schraube シュラウヘン n.f ねじ、釘

fest フェスト adv. しっかりと、固く 「副詞」

angezogen waren アン・ゲ・ツォーゲン・ワレン 3 複過・受動(an|ziehen)

v.t 締められていた 「動詞句」

und ウント conj. そして

daß ダス conj. ～ということを 「目的語」

vier schwarz gekleidete Männer フィーア・シュヴァールツ・ゲクライデテ・メー

pl(Mann).n.m 黒服の男が 4 人 「主語」

schwarz シュヴァールツ adj. 黒い gekleidete ゲクライデテ過去分詞(kleiden)adj. 着た

Männer メー pl(Mann).n.m 男たち

im Raum イム・ラウム adv. 部屋に 「副詞句」

waren. ワレン 3 複過(sein)v.i ～にいた 「動詞」

同時に、院長が僕に柩車が道で待っていると言う声が聞こえ、司祭が祈祷を始めた。

Gleichzeitig hörte ich den Direktor zu mir sagen, der Wagen warte auf der Straße, und der Priester begann mit seinen Gebeten.

「副詞」「動詞」「主語」「目的語」「補語」 und 「主語」「動詞」「間接目的語」

Gleichzeitig グライヒツァイティヒ adv. 同時に 「副詞」

hörte ヘアテ 1 単過・知覚動詞(hören)v.t (j-4+不定詞 人-4 が～するのが) 聞こえた 「動詞」

ich イッヒ pron 僕は 「主語」

den Direktor テン・ディレクトーア n.m.4 格 院長が 「目的語」

zu mir ツー・ミーア adv. 僕に 「間接目的語」

sagen, ザーゲン 不定詞・Direktor の動作 v.t 言う 「補語」

der Wagen テア・ヴァーゲン n. 車が～するということを 「直接目的語」

warte ワアルテ 接・3 単現(warten)v.i 待っている 「動詞」

auf der Straße, アウフ・デア・シュトラッセ adv. 道路で 「副詞句」

und ウント conj. そして

der Priester テア・プリースター n.m 司祭が 「主語」

ERSTER TEIL 第1部

begann ベガㇼ 3 単過・開始(beginnen)v.i(mit et-3 に) 取り掛かった 「動詞」
 mit seinen Gebeten. ミット・ザイネン・ゲベーテン adv.(Gebet) 祈祷、祈り 「間接目的語」

この瞬間から、すべてが急速に進んでいった。

Von diesem Augenblick an ging alles sehr schnell. 「副詞句」「動詞句」「主語」「副詞句」
 Von diesem Augenblick フォン・デー・ゼム・アウゲンブリック
 adv. (時間・起点) この瞬間から 「副詞句」
 an ging アン・ギング 3 単過(an|gehen)v.i (物事が) 進んだ、始まった 「動詞句」
 alles アレス pron (単数中性) すべてが 「主語」
 sehr schnell. セー・ア・シュネル adv. 非常にスピーディーに 「副詞句」

4 人の男たちは、覆い布を持って、棺に歩み寄った。

Die Männer näherten sich dem Sarg mit einem Tuch.
 「主語」「動詞句」「間接目的語」「副詞句」
 Die Männer デー・マー pl(Mann).n.m 4 人の男たちは 「主語」
 näherten sich ネー・アテン・スィヒ 3 複過(sich-4 nähern)v.pr 近づいた 「動詞句」
 dem Sarg デーム・ザルク n.m.3 格 棺に 「間接目的語」
 mit einem Tuch. ミット・アイネム・トゥーフ adv. 布を持って 「副詞句」

司祭と侍者たち、そして院長と僕は部屋を出た。

Der Pfarrer mit seinen Gehilfen, der Direktor und ich verließen den Raum.
 「主語」「動詞」「目的語」
 Der Pfarrer デア・プ・ファラー n.m 司祭は 「主語」
 mit seinen Gehilfen, ミット・ザイネン・ゲヒルフェン adv. 侍者と一緒に 「副詞句」
 Gehilfen ゲヒルフェン pl(Gehilfe).n.m 助手、侍者
 der Direktor und ich デア・ディレクトー・ウント・イヒ pl.n.m 院長と僕は 「主語」
 verließen フェアリーセン 1 複過(verlassen)v.t(et-4 から) 出た、去った 「動詞」
 den Raum. デン・ラウム n.m.4 格 部屋から 「目的語」

戸口の前に、僕の知らない女性が立っていた。「ムルソーさんです」と、院長が紹介した。

Vor der Tür stand eine Dame, die ich nicht kannte: «Herr Meursault», sagte der Direktor.
 「副詞句」「動詞」「主語」:《紹介》,「動詞」「主語」
 Vor der Tür フォア・デア・チュア adv. 戸口の前に 「副詞句」
 stand シュタント 3 単過(stehen)v.i 立っていた 「動詞」
 eine Dame, アイネ・ダメ n.f 婦人が、女性が 「主語」
 die デー pron (目的語) ~する 「形容詞節」

ERSTER TEIL 第1部

ich イヒ pron 僕は	「主語」
nicht kannte: ニヒ・カンテ 1 単過・否定・時制の一致(kennen)	
v.t 知らない	「動詞」
«Herr Meursault», ハア・ムルソー adv. ムルソーさんです	「紹介」
sagte サークテ 3 単過(sagen)v.t 言った	「動詞」
der Direktor. デア・ディレクトア n.m 院長は	「主語」

僕はその女性の名前を聞き取れなかったが、派遣の看護婦だということだけは分かった。

<u>Den Namen der Dame verstand ich nicht, ich begriff nur, daß sie die Schwester war, die an der Beerdigung teilnahm.</u>	「目的語」「動詞句」「主語」, 「主語」「動詞句」「目的語」
Den Namen デン・ナメン n.m.4 格 その名前を	「目的語」
der Dame デア・ダーメ n.f.2 格 その女性の	「形容詞句」
verstand ...nicht, フェアシュタント...ニヒ 1 単過・否定(verstehen)v.t 聞き取れなかった	「動詞句」
ich イヒ pron 僕は	「主語」
ich イヒ pron 僕は	「主語」
begriff nur, ベグリフ・ヌア 1 単過(begreifen+nur)v.t ~だけは分かった	「動詞句」
daß ダス conj. ~ということ	「目的語」
sie シー pron 彼女は	「主語」
die Schwester デー・イー・シュヴェスター n.f.1 格 看護婦	「補語」
war, ヴァール 3 単過・時制の一致(sein)v.i ~である	「動詞」
die デー・イー pron (主語) ~する	「形容詞節」
an der Beerdigung アン・デア・ベアディグUNG	
adv. 葬儀に	「間接目的語」
teilnahm. タイル・ナム 3 単過 (teil nehmen)v.i 参加した	「動詞」

フランス語の原文では：

その女性の名前は聞き取れなかったが、彼女が派遣の看護婦だということだけは分かった。

Je n'ai pas entendu le nom de cette dame et j'ai compris seulement qu'elle était **infirmière déléguée**.

彼女は、微笑むこともなく、角ばった長い顔を傾けて会釈した。

<u>Ohne ein Lächeln neigte sie ihr langes, knochiges Gesicht.</u>	「副詞句」, 「動詞」「主語」「目的語」
Ohne オーネ prep (欠如) ~なしに	「副詞句」
ein Lächeln アイン・レツヒェルン n.n.4 格 微笑み	「目的語」
neigte ナイクテ 3 単過(neigen)v.t 傾けた	「動詞」
sie シー pron 彼女は	「主語」

ERSTER TEIL 第1部

ihr langes, knochiges イーア・ランゲス・クノヒゲス

adj.n.4 格 彼女の角ばった長い

「形容詞句」

Gesicht. ゲズィヒト n.n.4 格 顔を

「目的語」

それから、僕たちは柩を通してやるために、脇へ寄った。

Dann traten wir zur Seite, um die Leiche vorbeizulassen.

「副詞」, 「動詞」 「主語」 「副詞句」

Dann ダン adv. それから、次に

「副詞」

traten トラーテン 1 複過(treten)v.i (方向を示す語句と) (〜へと) 歩んだ、進んだ

「動詞」

wir ヴィーア pron 僕たちは

「主語」

zur Seite, ツーア・ザイテ adv. 脇へ

「副詞句」

um ...vorbeizulassen. ウム...フォアバイ・ツー・ラッセン zu 不定詞・目的

adv. 〜を通してやるために

「副詞句」

die Leiche デーイー・ライヒェ n.f.4 格 死体を、柩を

「目的語」

僕たちは、柩を担いだ男たちについて行き、養老院を出た。

Wir folgten den Trägern und verließen das Heim.

「主語」 「動詞」 「間接目的語」 und 「動詞」 「目的語」

Wir ヴィーア pron 僕たちは

「主語」

folgten フォルクテン 1 複過(folgen)v.i(j-3 に) ついて行った

「動詞」

den Trägern デン・トレーゲアン pl(Träger).n.m.3 格 担ぎ手たちに

「間接目的語」

und ウント conj. そして

verließen フェアリーセン 1 複過(verlassen)v.t(et-4 から) 出た、去った

「動詞」

das Heim. ダス・ハイム n.n.4 格 施設から、養老院を

「目的語」

同じ単語を避ける

前の文の Leiche は Sarg の代わりに用いられ、この文の Heim は Altersheim (老人ホーム) の代わりに用いられて、同じ単語が連続して現れるのを避けている。

門の前に馬車が止まっていた。

Vor dem Tor stand der Wagen.

「副詞句」 「動詞」 「主語」

Vor フォア prep (位置) 〜の前に

「副詞句」

dem Tor デーム・トア n.n.3 格 門の

「目的語」

stand シュタント 3 単過(stehen)v.i 止まっていた

「動詞」

der Wagen. デア・ヴァーゲン n.m 車、馬車、霊柩車

「主語」

ERSTER TEIL 第1部

それはニスを塗られ、長方形で光沢があり、筆箱を思い起こさせた。

Lackiert, rechteckig und glänzend, erinnerte er an einen Federkasten.

「副詞句」, 「動詞」 「主語」 「間接目的語」

Lackiert, ラキート 過去分詞・受動(lackieren)adv. ニスを塗られた

「副詞」

馬車の様態を説明する

rechteckig レヒト・エキヒ adv. 長方形の

「副詞」

und ウント conj. そして

glänzend, グレンツェント adv. 光沢のある

「副詞」

erinnerte エイネレテ 3 単過(erinnern)

v.t(j-3 an et-4 人-3 に何-4 を)v.t 思い出させた

「動詞」

er エ pron (Wagen の代用) それは

「主語」

an einen Federkasten. アン・アイネン・フェーダーカステン adv. 筆箱を

「間接目的語」

彼の横に、おかしい服を着た小柄な世話係の男とぎこちない様子の老人がいた。

Neben ihm standen der Ordner, ein kleiner Mann in lächerlichem Habit, und ein Greis mit linkischem Benehmen.

「副詞句」, 「動詞」 「主語」

Neben ネーベン prep (空間・位置) ~の隣に、横に

「副詞句」

ihm イム pron.3 格 彼の

「目的語」

standen シュタンデン 3 複過(stehen)v.i (場所に) いた、立っていた

「動詞」

der Ordner, デア・オトナー n.m 世話係が

「主語」

ein kleiner Mann イン・クライナー・マン n.m (同格) 小柄な男

「形容詞句」

in lächerlichem Habit, イン・レヒャリヒェム・ハビート adv. おかしい服を着た 「副詞句」

lächerlich レヒャーリヒ adj. おかしい Habit ハビート n.n 制服、法服

und ウント conj. そして

ein Greis イン・グライス n.m 1 人の老人

「主語」

mit linkischem Benehmen. ミット・リンクシエム・ベネーメン adv. ぎこちない様子の

「副詞句」

linkisch リンキシュ adj. ぎこちない Benehmen ベネーメン n.n 態度、振舞い

僕はすぐにそれがペレーズ氏だと分かった。

Ich wußte gleich, das war Herr Perez.

「主語」 「動詞」 「副詞」 「目的語」

Ich イヒ pron 僕は

「主語」

wußte ヴーステ 1 単過(wissen)v.t 分かった

「動詞」

gleich, グライヒ adv. すぐに

「副詞」

das ダス conj. ~ということ

「目的語」

war ヴァール 3 単過・時制の一致(sein)v.i ~である

「動詞」

Herr Perez. ハア・ペレス n.m ペレーズ氏

「補語」

ERSTER TEIL 第1部

彼は丸天井でつば広のソフト帽を被っていた（柩が門を通過する時に、彼はそれを脱いだ）、背広を着ていたが、そのズボンは渦を巻くように靴の上に垂れ下がっていた。そして黒の蝶ネクタイは、大きな白のカラーのついたワイシャツに対して小さすぎた。

Er trug einen weichen Filzhut mit rundem Kopf und breitem Rand (er nahm ihn ab, als der Sarg das Tor passierte), einen Anzug, dessen Hose in Korkzieherfalten auf die Schuhe fiel, und einen schwarzen Schlips, dessen Knoten für sein Hemd mit dem großen weißen Kragen zu klein war.

「主語」「動詞」「目的語」（「主語」「動詞句」「目的語」「副詞節」）,

「副詞句」, 「主語」「副詞句」「動詞」, und 「主語」「副詞句」「補語」「動詞」

Er エア pron 彼は 「主語」

trug トゥルク 3 単過(tragen)v.t 身に着けていた、(帽子を) かぶっていた 「動詞」

einen weichen Filzhut アイン・ヴァイエン・フィルツフット n.m.4 格 ソフト帽を 「目的語」

weich ヴァイ adj. 柔らかい Filzhut フィルツフット n.m フェルトの帽子

mit rundem Kopf ミット・ルンデム・コップフ adj. 丸天井の 「形容詞句」

rund ルント adj. 丸い Kopf コップフ n.m 頭、頭部、帽子の天井

und ウント conj. そして

breitem Rand ブライテム・ラント adj. つば広の 「形容詞句」

breit ブライト adj. 幅の広い Rand ラント n.m 縁、へり、(帽子の) つば

(er エア pron 彼は 「主語」

nahm... ab, ナム...アッブ 3 単過(ab|nehmen)v.t 取り去った、脱いだ 「動詞句」

ihn イン pron.m.4 格 (Filzhut の代用) それを 「目的語」

als アルス conj. ~する時 「副詞節」

der Sarg デア・サルク n.m 柩が 「主語」

das Tor ダストア n.n.4 格 門を 「目的語」

passierte), パッシェアテ 3 単過・時制の一致(passieren)v.i 通過する 「動詞」

einen Anzug, アイン・アンツーク n.m.4 格 背広を着た 「副詞句」

dessen Hose デッセン・ホーゼ n.f.1 格 (背広の) ズボンは 「主語」

in Korkzieherfalten イン・コルクツイーハーファルテン

adv. (様態) コルク栓抜きのように、渦を巻くように 「副詞句」

auf die Schuhe アウフ・デー・イー・シューヘ adv. 靴の上に 「副詞句」

fiel, フィール 3 単過(fallen)v.i 垂れ下がっていた 「動詞」

und ウント conj. そして

einen schwarzen Schlips, アイン・シュヴァールツェン・シュリッス n.m 黒ネクタイ 「主語」

dessen Knoten デッセン・クノーテン n.m.2 格 蝶結びの 「形容詞句」

für フュア prep (目標) ~に対して 「副詞句」

ERSTER TEIL 第1部

sein Hemd ザ イン・ヘムト n.n ワイシャツ

「目的語」

mit dem großen weißen Kragen ミット・デーム・グ ローセン・ヴァイセン・クラークン

adv. (付属) 大きな白のカラーのついた

「副詞句」

zu klein ツー・クライン adj. 小さすぎる

「補語」

war. ヴァール 3 単過(sein)v.i ~ だった

「動詞」



彼の

唇は、黒ゴマのような毛穴が目立つ鼻の下で震えていた。

Seine Lippen zitterten unter einer schwarz gesprenkelten Nase.

「主語」「動詞」「副詞句」

Seine Lippen ザ イネ・リッペン pl(Lippe).n.f 彼の唇は

「主語」

zitterten ツィターテン 3 複過(zittern)v.i 震えていた

「動詞」

unter ウンター prep (空間的) ~の下で

「副詞句」

einer schwarz gesprenkelten アイナー・シュヴァルト・ゲシュプレンケルテン

adj.f.3 格 黒いまだらの

「形容詞句」

Nase. ナーセ n.f.3 格 鼻の

「目的語」

ERSTER TEIL 第1部

彼のかかなり薄い白髪は、縁が奇妙に腫れて垂れ下がった彼の彼の耳を露わにしていた。その耳の真っ赤な色が、彼の青白い顔の中で特に僕の注意を引いた。

Sein weißes, ziemlich schütteres Haar ließ seltsam hängende, gesäumte Ohren sehen, deren blutrote Farbe mir in diesem bleichen Gesicht ganz besonders auffiel.

「主語」「動詞」「目的語」「補語」, 「主語」「間接目的語」「副詞句」「動詞句」

Sein weißes, ザイン・ヴァイス adj.n.1 格 彼の白い

「形容詞句」

ziemlich schütteres ツィームリヒ・シュテレス adj.n.1 格 かなり薄い

「形容詞句」

ziemlich ツィームリヒ adv. かなり schütter シュター adj. 薄い

Haar ハール n.n 髪は

「主語」

ließ リース 3 単過・使役(lassen)v.t(O+不定詞) (O に) ~させていた

「動詞」

seltsam hängende, セルツァーム・ヘンゲンデン

adj.pl.4 格 奇妙に垂れ下がった

「形容詞句」

seltsam セルツァーム adj. 変わった hängend ヘンゲント 現在分詞(hängen)adj. 垂れ下がった

gesäumte ゲゾームテ 過去分詞(gesäumt)adj.pl.4 格 縁どられた

「形容詞」

Ohren オーレン pl(Ohr).n.n.4 格 耳を

「目的語」

sehen, セーエン 不定詞・Ohren の動作 v.i 見える

「補語」

deren blutrote Farbe デーレン・ブルトウロート・ファーベ n.f.1 格 耳の真っ赤な色は

「主語」

deren デーレン 指示代名詞 Ohren の代用 blutrote ブルトウロート adj. 真っ赤な

mir ミア pron 僕の

「間接目的語」

in diesem bleichen Gesicht イン・テューゼム・ブライヒェン・ゲジヒト adv. 青白い顔の中で

「副詞句」

ganz besonders ガンツ・ベゾントァース adv. 特に、格別

「副詞句」

auffiel. アウフ・フィール 3 単過(auf|fallen)v.i (j-3 人-3 の) 注意をひいた

「動詞句」

世話係が僕たちにそれぞれの位置を指示した。司祭は先頭に立って歩いた。

Der Ordner wies uns unsere Plätze an. Der Priester ging voran.

「主語」「動詞句」「間接目的語」「直接目的語」 | 「主語」「動詞句」

Der Ordner デア・オトナー n.m 世話係は

「主語」

wies ...an. ヴィース...アン 3 単過(an|weisen)

v.t (j-3 et-4 人-3 に何-4 を) 割り当てた、指定した

「動詞句」

uns ウンス pron.3 格 僕たちに

「間接目的語」

unsere Plätze ウンゼレ・プレツェ pl(Platz).n.m.4 格 位置を、場所を

「直接目的語」

Der Priester デア・プリースター n.m 司祭は

「主語」

ging voran. キング・フォラン 3 単過(voran|gehen)v.i 先頭に立って歩いた

「動詞句」

ERSTER TEIL 第1部

その後ろの位置に柩車が入り、柩車の左右には葬儀社の4人が入った。

Dann kam der Wagen, Links und rechts von ihm die vier Männer.

「副詞」「動詞」「主語」, 「副詞句」「主語」

Dann ダン adv. その後に

「副詞」

kam カム 3 単過(kommen)v.i 来た、(特定の場所に) 入った

「動詞」

der Wagen, デア・ヴァーゲン n.m 柩車が

「主語」

Links und rechts リンクス・ウント・レヒツ adv. 左右に

「副詞句」

von ihm フォン・イム adv. (空間的) 柩車の

「副詞句」

ihm は Wagen を指す

die vier Männer. デー・イー・フィーア・マー pl(Mann).n.m.1 格 4 人の男が

「主語」

この4人は葬儀社の職員

柩車の後ろには、院長と僕が入り、行列の最後には派遣の看護婦とペレーズ氏が入った。

Hinter ihm der Direktor, ich und als letzte im Zug die Schwester und Herr Perez.

「副詞句」「主語」 und 「副詞句」「主語」

Hinter ihm ヒンター・イム adv. 柩車の後ろに

「副詞句」

der Direktor, デア・ディレクトール n.m 院長が

「主語」

ich イヒ pron 僕が

「主語」

und ウント conj. そして

als letzte im Zug アルス・レッツテ・イム・ツーク adv. 行列の最後には

「副詞句」

die Schwester デー・イー・シュウェスター n.f 派遣の看護婦

「主語」

und ウント conj. そして

Herr Perez. ハア・ペレス n.m ペレーズ氏

「主語」

空は早くも晴れ渡っていた。

Der Himmel war schon ganz besonnt.

「主語」「動詞」「補語」

Der Himmel デア・ヒメル n.m 空は

「主語」

war ヴァール 3 単過(sein)v.i ~ だった

「動詞」

schon ショーン adv. もう、すでに、早くも

「副詞」

ganz besonnt. ガンツ・ベゾント adj. 快晴の、晴れ渡った

「補語」

ganz ガンツ adv. 完全に、まったく besonnt ベゾント adj. 日当たりの良い

ERSTER TEIL 第1部

空の熱気が地上に重くのしかかって来て、暑さが一気に高まった。

Er begann auf der Erde zu lasten, und die Hitze nahm rasch zu.

「主語」「動詞句」「副詞句」「動詞句」,und「主語」「動詞句」「副詞」「動詞句」

Er エア pron (Himmel の代用) それが

「主語」

begann ...zu lasten, ベガン...ツ-ラステン 3 単過・開始(beginnen zu+不定詞 lasten)

v.i 重くのしかかり始めた

「動詞句」

auf der Erde アウフ・デア・エーアデ adv. 地上に

「副詞句」

und ウント conj. そして

die Hitze デーイー・ヒツェ n.f 暑さが

「主語」

nahm ...zu. ナム...ツ- 3 単過(zu|nehmen)v.i 高まった、増大した

「動詞句」

rasch ラッシュ adv. 一気に、素早く

「副詞」

僕たちが動き始めるまでにはずいぶん待たされたが、どうしてなのか分からない。

Ich weiß nicht, weshalb wir so lange warteten, bis wir uns in Bewegung setzten.

「主語」「動詞句」「目的語」

Ich イヒ pron 僕は

「主語」

weiß nicht, ヴァイス・ニヒト 1 単現・否定(wissen)v.t 分からない

「動詞句」

weshalb ヴェスハルプ adv. どうして～なのかということ

「目的語」

wir ヴァーア pron 僕たちは

「主語」

so lange ソー・ランゲ adv. ずいぶん長く

「副詞句」

warteten, ヴァルテテン 1 複過(warten)v.i 待った

「動詞」

bis ビス conj. (時間的限界) ～するまで

「副詞節」

wir ヴァーア pron 僕たちが

「主語」

uns ...setzten. ウンス...ゼッツテン 1 複過・時制の一致(sich-4 setzen)

v.pr(+in に) 状況に入る、身を置く

「動詞句」

in Bewegung イン・ベベークング adv. 動き出す

「間接目的語」

sich-4 in ein Auto setzen 車に乗り込む

僕は喪服の内側に汗をかいた。

Ich schwitzte in meinem dunklen Zeug.

「主語」「動詞」「副詞句」

Ich イヒ pron 僕は

「主語」

schwitzte シュウィツテ 1 単過(schwitzen)v.i 汗をかいた

「動詞」

in イン prep (空間的) ～の中に

「副詞句」

meinem dunklen メインム・トウクレン

adj(dunkel).n.3 格 僕の黒っぽい

「形容詞句」

Zeug. ツォイク n.n.3 格 衣服

「目的語」

ERSTER TEIL 第1部

その小柄な老人は、また帽子をかぶっていたのだが、それをまた脱いだ。

Der kleine Alte, der seinen Hut wieder aufgesetzt hatte, nahm ihn wieder ab.

「主語」, 「副詞節」, 「動詞句」 「目的語」 「副詞」 「動詞句」

Der kleine Alte, デア・クライネ・アルテ n.m.1 格 その小柄な老人は 「主語」

kleine クライネ adj.m.1 格 小柄な、小さな Der Alte デア・アルテ n.m.1 格 老人

der デア pron (主語) 彼は～する 「副詞節」

seinen Hut ザイネン・フット n.m.4 格 帽子を 「目的語」

wieder ウィーダー adv. また 「副詞」

aufgesetzt hatte, アウフゲゼット・ハッテ 3 単過・完了形(auf|setzen)

v.t かぶっていた 「動詞句」

nahm ...ab. ナム...アッブ 3 単過(ab|nehmen)v.t (帽子を) 脱いだ 「動詞句」

ihn イン pron (Hut の代用) それを 「目的語」

wieder ウィーダー adv. また 「副詞」

名詞化した形容詞 格変化例 alte	男性名詞・単数	女性名詞・単数	複数名詞 性別なし
1 格 は (が)	der Alte	die Alte	die Alten
2 格 の	des Alten	der Alten	der Alten
3 格 に	dem Alten	der Alten	den Alten
4 格 を	den Alten	die Alte	die Alten

名詞化した形容詞 格変化例 alte	男性名詞・単数	女性名詞・単数	複数名詞 性別なし
1 格 は (が)	ein Alter	eine Alte	Alte
2 格 の	eines Alten	einer Alten	Alter
3 格 に	einem Alten	einer Alten	Alten
4 格 を	einen Alten	eine Alte	Alte

ERSTER TEIL 第1部

僕は少し彼の方を向いて、彼を見つめていた。その時、院長が彼について話してくれた。

Ich hatte mich ihm ein wenig zugewandt und betrachtete ihn, während der Direktor mir von ihm erzählte. 「主語」「動詞句」「間接目的語」「副詞句」 und 「動詞」「目的語」, während 「主語」「間接目的語」「間接目的語」「動詞」

Ich イヒ pron 僕は 「主語」

hatte mich ...zugewandt ハッテ・ミヒ...ツゲウァント 1 単過・完了形(zu | wenden)

v.pr (sich-4 j-3) (人-3 の方を) 向いていた 「動詞句」

ihm イム pron.3 格 彼のほうを 「間接目的語」

ein wenig アイン・ウエニヒ adv. 少し、わずかに 「副詞句」

und ウント conj. そして

betrachtete ベトラハテテ 1 単過(betrachten)v.t じっと見つめていた 「動詞」

ihn, イン pron.4 格 彼を 「目的語」

während ウェレント conj. (同時性) するとその時～する

der Direktor デア・ディレクトール n.m 院長が 「主語」

mir ミア pron.3 格 僕に 「間接目的語」

von ihm フォン・イム adv. (関連) 彼について 「間接目的語」

erzählte. エアツェルテ 3 単過(erzählen)v.t 語った、聞かせた 「動詞」

彼の話によると、母さんとペレーズ氏は、看護婦に付き添われて、夕方に村までしばしば散歩に出かけていたという話だ。

Er sagte mir, meine Mutter und Herr Perez seien abends in Begleitung einer Schwester oft bis zum Dorf gegangen.

「主語」「動詞」「間接目的語」, 「主語」「動詞句」「副詞句」「動詞句」

Er エア pron 彼は 「主語」

sagte サークテ 3 単過(sagen)v.t 言った 「動詞」

mir, ミア pron 僕に 「間接目的語」

meine Mutter マイネ・ムター n.f 母さんは 「主語」

und ウント conj. そして

Herr Perez ヘル・ペレス n.m ペレーズ氏は 「主語」

seien ...gegangen. サイエン...ゲカンゲン 接・3 複現・完了形(gehen)v.i ～に行っていた 「動詞句」

abends アーベンツ adv. 夕方に 「副詞」

in Begleitung イン・ベグライトゥング adv. 同伴で 「副詞句」

einer Schwester アイナー・シュウェスター n.f.2 格 看護婦の 「形容詞句」

oft オフト adv. しばしば 「副詞」

bis zum Dorf ビス・ツーム・ドーフ adv. (空間的) 村まで 「副詞句」

ERSTER TEIL 第1部

僕は自分の周りの田園風景をぐるりと見まわした。

Ich betrachtete die Landschaft rings um mich. 「主語」「動詞」「目的語」「副詞句」
 Ich イッヒ pron 僕は 「主語」
 betrachtete ベトラハテ 1 単過(betrachten)v.t じっと眺めた 「動詞」
 die Landschaft デーイー・ラントシャフト n.f.4 格 風景を 「目的語」
 前の文で「村」が話題になったので、「田園風景」でよいと思う
 rings リンクス adv. ぐるりと、周りを 「副詞」
 um mich. ウム・ミッヒ adv. (空間的) 自分の周りを 「副詞句」

地平線のかなたの丘へと続く糸杉の並木によって、そしてこの赤と緑色の大地やくっきりと際立つごくわずかな家々によって、僕は母さんを理解した。

Durch die Zypressen-Reihen, die zu den Hügeln am Horizont führten, durch diese rötliche und grüne Erde und die wenigen Häuser, die sich so deutlich abhoben, begriff ich Mama. 「副詞句」, 「副詞句」, 「動詞」「主語」「目的語」
 Durch トゥールヒ prep (4 格と) (仲介・手段) ~を通して、~によって 「副詞句」
 die Zypressen-Reihen, デーイー・ツィプ・レッシェン・ライエン pl.n.f.4 格 糸杉の列 「目的語」
 Zypressen ツィプ・レッシェン n.f (植物) 糸杉 Reihen ライエン pl(Reihe).n.f (縦・横の) 列、並び
 die デーイー pron.pl (主語) (Reihen の代用) ~する 「形容詞節」
 zu den Hügeln ツー・テン・ヒューゲルン
 adv. (目標) 丘へと 「間接目的語」
 am Horizont アム・ホリゾン
 adv. 水平線上の 「副詞句」
 führten, フューレン 3 複現 v.i (zu に) 続く 「動詞」
 durch トゥールヒ prep (4 格と) (仲介・手段) ~を通して、~によって 「副詞句」
 diese rötliche und grüne Erde デーイー・ゼー・ロートリッヒ・ウント・グリュネ・エアーデ
 n.f.4 格 この赤と緑色の大地 「目的語」
 rötlich ロートリッヒ adj. 赤っぽい grün グリュン adj. 緑色の
 und ウント conj. そして
 die wenigen Häuser, デーイー・ヴァーニッケン・ハイザー pl.n.n.4 格 わずかの家 「目的語」
 wenig ヴェーニツ adj. ごくわずかの Häuser ハイザー pl.n.n 家
 die デーイー pron (主語) (Häuser の代用) ~する 「形容詞節」
 sich ...abhoben, スィットヒ...アッブ・ホーベン 3 単過・時制の一致(sich-4 ab|heben)
 v.pr 際立つ、浮き出る 「動詞句」
 so deutlich ソー・トイトリッヒ adj. 非常にくっきりと 「副詞句」
 begriff ベグ黎フ 1 単過(begreifen)v.t 理解した 「動詞」

ERSTER TEIL 第1部

ich イッヒ pron 僕は 「主語」
Mama. ママ n.f 母さんを 「目的語」

この地方の夕暮れは、愁いを帯びた休息だったに違いない。

Der Abend in dieser Gegend mußte wie eine melancholische Rast sein.

「主語」「動詞句」「補語」
Der Abend デア・アーベント n.m 夕暮れは 「主語」
in dieser Gegend イン・ディザー・ゲーゲント adv. この地方の 「副詞句」
mußte ...sein. ムステ...ザイン 3 単過・推量(müssen+不定詞 sein)
v.i 〜だったに違いない 「動詞句」
wie ヴァー conj. (例示) 〜のような 「補語」
eine melancholische アィネ・メランコリッシェ
adj.f.1 格 わびしい、哀調を帯びた 「形容詞句」
Rast ラスト n.f.1 格 休憩、休息 「主語」

今日は、ぎらぎら照り付ける太陽が風景を光の点滅に変えてしまった。それで、風景は残忍で気の滅入るものに見えている。

Heute brachte die pralle Sonne die Landschaft zum Flimmern, so daß sie unmenschlich und niederdrückend wirkte.

「副詞」「動詞」「主語」「目的語」「補語」, so daß 「主語」「補語」「動詞」
Heute ホテ adv. 今日は 「副詞」
brachte ブラハテ 3 単過(bringen)v.t 〜をもたらす、(状態・様相に) 至らせた 「動詞」
die pralle Sonne ディー・プラレ・ゾネ n.f.1 格 ぎらぎら照り付ける太陽が 「主語」
prall プラル adj. ぎらぎら照り付ける
die Landschaft ディー・ラントシャフト n.f.4 格 風景を 「目的語」
zum Flimmern, ツム・フリマーン adv. 光の点滅に 「補語」
Flimmer フリマー n.m きらめく光、明滅する光
so daß ソー・ダス conj. その結果〜
sie ジー pron (Landschaft の代用) それは 「主語」
unmenschlich und niederdrückend ウンメンシュリヒ・ウント・ニータートルッケント
adj. 残忍で気の滅入る 「補語」
unmenschlich ウンメンシュリヒ adj. 残忍な
niederdrückend ニータートルッケント 現在分詞(niederdrücken)adj. 気の滅入る
wirkte. ヴァィルケ 3 単過・時制の一致(wirken)v.i 〜のように見える 「動詞」

ERSTER TEIL 第1部

僕たちは歩を進めた。この時、ペレーズが軽く足を引きずっていることに気付いた。

Wir machten uns auf den Weg. In diesem Augenblick bemerkte ich, daß Perez leicht hinkte. 「主語」「動詞句」「副詞句」 | 「副詞句」「動詞」「主語」「目的語」

Wir ヱィア pron 僕たちは

「主語」

machten uns マヘン・ウス 1 複過(sich-4 machen)

v.pr (方向を示す語句と) ~に向かった

「動詞句」

auf den Weg. アウフ・デン・ヴェーク adv. 自分たちの道のりに

「副詞句」

sich-4 auf den Weg machen 出発する

In diesem Augenblick イン・ディーゼム・アウゲンブリック adv. この時

「副詞句」

bemerkte ベマクテ 1 単過(bemerken)v.t 気付いた

「動詞」

ich, イヒ pron 僕は

「主語」

daß ダス conj. ~ということ

「目的語」

Perez ペレス n.m ペレーズが

「主語」

leicht ライト adv. 軽く、少し

「副詞」

hinkte. ヒンクテ 3 単過・時制の一致(hinken)

v.i 片足を引きずりながら歩いている

「動詞」

柩車は次第に速度を上げて行った。すると老人は遅れ始めた。

Allmählich fuhr der Wagen schneller, und der Alte blieb zurück.

「副詞」「動詞」「主語」「副詞」,und「主語」「動詞句」

Allmählich アルマーリヒ adv. 徐々に、次第に

「副詞」

fuhr フア 3 単過(fahren)v.i 走って行った、進んで行った

「動詞」

der Wagen デア・ヴァーゲン n.m 柩車は

「主語」

schneller, シュネラー adv(schnell). (比較級) より早く

「副詞」

und ウント conj. そして

der Alte デア・アルテ pron その老人は、ペレーズは

「主語」

blieb zurück. ブリープ ...ツルック 3 単過(zurück|bleiben)v.i 遅れて行った

「動詞句」

柩車の脇にいた男たちの一人も、ついていけなくなり、今では僕と同じ位置を歩いている。

Auch einer der Männer, die neben dem Wagen gingen, hatte sich abhängen lassen und ging jetzt auf einer Höhe mit mir. 「主語」「動詞句」 und 「動詞」「副詞句」

Auch アウフ adv. ~もまた

「副詞」

einer アイアー pron.m 誰か一人は

「主語」

der Männer, デア・マナー pl(Mann).n.m.2 格 男たちの

「形容詞句」

die ディー pron.pl (主語) ~する

「形容詞節」

neben ネベン prep (3 格と) ~の隣を

「副詞句」

ERSTER TEIL 第1部

dem Wagen デーム・ヴァーゲン n.m.3 格 枢車の	「目的語」
gingen, ギンゲン 3 複過(gehen)v.i 歩いていた	「動詞」
hatte sich abhängen lassen ハッテ・ズィッヒ・アッパヘン・ラッセン 3 単過・完了形・放任・再帰受動	
v.pr 切り離された、ついていけなくなった	「動詞句」
sich-4+不定詞+lassen ～されるままになっている	
und ウント conj. そして	
ging ギング 3 単過・時制の一致(gehen)v.i 歩いている	「動詞」
jetzt イェツト adv. 今では	「副詞句」
auf einer Höhe アウフ・アイネ・ホエ adv. 一つの位置を	「副詞句」
mit mir. ミット・ミーア adv. 僕と一緒に	「副詞句」

僕は、太陽が空に昇るその速さに驚いた。

Ich staunte über die Schnelligkeit, mit der die Sonne am Himmel stieg.

	「主語」「動詞」「間接目的語」
Ich イッヒ pron 僕は	「主語」
staunte シュタウンテ 1 単過(staunen)v.i (über に) 驚いた	「動詞」
über ユーバー prep (4 格と) (対象) ～に関して	「間接目的語」
die Schnelligkeit, デー・イー・シュネリヒカイト n.f.4 格 速さ	「目的語」
mit ミット prep (3 格と) (手段) ～によって	「副詞句」
der デア pron.3 格 (Schnelligkeit の代用)	
その速さで～する	「目的語」
die Sonne デー・ゾネ n.f 太陽が	「主語」
am Himmel アム・ヒメル adv. 空に	「副詞句」
stieg. シュテイク 3 単過・時制の一致(steigen)	
v.i のぼる	「動詞」

僕は、辺りの野原がだいぶ前から虫の音と葉擦れの音で溢れてきたことに気付いた。

Ich bemerkte, daß das Land schon lange vom Gesang der Insekten und vom Knistern des Grases voll war.

	「主語」「動詞句」「目的語」
Ich イッヒ pron 僕は	「主語」
bemerkte, ベマクテ 1 単過(bemerken)v.t 気付いた	「動詞」
daß ダス conj. ～ということを	「目的語」
das Land ダス・ラント n.n 田園が	「主語」
schon lange ショーン・ランゲ adv. 長いこと、だいぶ前から	「副詞句」
vom Gesang フォム・ゲザンク adv. (手段) 歌声によって	「副詞句」
der Insekten デア・インセクテン pl(Insekt)n.n.2 格 虫たちの	「形容詞句」

ERSTER TEIL 第1部

und ウント conj. そして

vom Knistern フォム・クニスターン adv. (手段) 擦れる音によって 「副詞句」

knistern クニスターン v.i (擦れる) 音を立てる

des Grases デス・グラーセス n(Gras).n.2 格 草の 「形容詞句」

voll フォル adj. いっぱいの 「補語」

war. ヴァール 3 単過・時制の一致(sein)v.i ~ である 「動詞」

虫の音 (むしのね) は虫の鳴き声のこと。

葉擦れ (はずれ)

草や木の葉が、風などで擦れあうこと。また、その音。

汗が僕の顔の上を流れ落ちた。

Der Schweiß lief mir über das Gesicht. 「主語」「動詞」「間接目的語」「副詞句」

Der Schweiß デア・シュヴァイス n.m 汗が 「主語」

lief リーフ 3 単過(laufen)v.i 走った、滑るように動いた 「動詞」

mir ミア pron 僕の 「間接目的語」

über das Gesicht. ユーバー・ダス・ゲズィヒト adv. 顔の上を 「副詞句」

僕は帽子を持っていなかったので、ハンカチで自分をあおいだ。

Da ich keinen Hut hatte, fächelte ich mir mit dem Taschentuch Luft zu.

「副詞節」, 「動詞句」「主語」「間接目的語」「副詞句」「直接目的語」「動詞句」

Da ダー conj. (理由) ~なので 「副詞節」

ich イヒ pron 僕は 「主語」

keinen Hut カイネン・フット n.m.4 格 帽子を~ない 「目的語」

hatte, ハッテ 1 単過(gaben)v.t 持っていた 「動詞」

fächelte ...zu. ファッセルテ...ツー 1 単過(zu | fächeln)v.t(j-3 et-4) あおいで送った 「動詞句」

ich イヒ pron 僕は 「主語」

mir ミア pron 自分に 「間接目的語」

mit dem Taschentuch ミット・デーム・タシントウフ adv. (手段) ハンカチで 「副詞句」

Luft ルフト n.f そよ風を 「直接目的語」

ERSTER TEIL 第1部

その時、葬儀社の職員が僕に何かを言ったのだが、それを僕は聞き取れなかった。

Der Mann vom Beerdigungsinstitut sagte mir dann etwas, das ich nicht verstand.

「主語」「動詞」「間接目的語」「副詞」「直接目的語」, 「目的語」「主語」「動詞句」
 Der Mann デア・マン n.m 職員が 「主語」
 vom Beerdigungsinstitut フォム・ベアデイングスインシュトゥート adj. 葬儀社の 「形容詞句」
 sagte サークテ 3 単過(sagen)v.t 言った 「動詞」
 mir ミア pron 僕に 「間接目的語」
 dann ダン adv. その時 「副詞」
 etwas, エトワス pron 何かを 「直接目的語」
 das ダス pron それを 「目的語」
 ich イヒ pron 僕は 「主語」
 nicht verstand. ニヒト・フェアシュタント 1 単過・否定(verstehen)v.t 聞き取れなかった 「動詞句」

その時彼は、右手で帽子の縁を少し持ち上げて、左手に持っていたハンカチで頭のとっぺんの汗をぬぐった。

Dabei wischte er sich mit dem Taschentuch, das er in seiner linken Hand hielt, den Schweiß vom Schädel, während die rechte den Mützenrand lüftete.

「副詞」「動詞」「主語」「間接目的語」「副詞句」「直接目的語」, 「副詞節」
 Dabei ダバイ adv. (時間的) その時に、(追加) その上、(譲歩) それなのに 「副詞」
 wischte ウィシュテ 3 単過(wischen)v.t(sich-3 自分の体を) 拭いた、拭った 「動詞」
 er エア pron 彼は 「主語」
 sich スイヒ pron 自分の 「間接目的語」
 mit dem Taschentuch, ミット・デアム・タッシャントウフ adv. (道具) ハンカチで 「副詞句」
 das ダス pron (目的語) それを~する 「形容詞節」
 er エア pron 彼は 「主語」
 in seiner linken Hand イン・ザイナ・リンケン・ハント adv. 左手に 「副詞句」
 hielt, ヒールト 3 単過(halten)v.t 持っていた 「動詞」
 den Schweiß デン・シュヴァイス n.m.4 格 汗を 「直接目的語」
 vom Schädel, フォム・シェーデル adv. 頭頂から吹き出た 「形容詞句」
 während ウェーレント conj. (同時) ~している間に、~しながら 「副詞節」
 die rechte デー・レヒテ pron(rechte Hand).f.4 格 (手段) 右手によって 「副詞句」
 den Mützenrand デン・ミュッツェン・ラント n.m.4 格 帽子の縁を 「目的語」
 Mützen ミュッツェン n(Mütze).m.3 格 帽子の Rand ラント n.m 縁、へり
 lüftete. リュフテテ 3 単過(lüften)v.t 少し持ち上げた 「動詞」

ERSTER TEIL 第1部

僕は尋ねた：「何ですって？」彼は、空を指し示し、繰り返して言った：「ギラつくね！」

Ich fragte: «Wie?» Er wiederholte, auf den Himmel deutend: «Das knallt!»

「主語」「動詞」：《「問いかけ」》 | 「主語」「動詞」, 「副詞句」：《「動詞」》

Ich イッヒ pron 僕は 「主語」

fragte: フラーゲ 1 単過(fragen)v.t 尋ねた 「動詞」

«Wie?» ヱー adv. 何ですか? 「問いかけ」

Er エア pron 彼は 「主語」

wiederholte, ヱーダーホルテ 3 単過(wiederholen)v.t 繰り返して言った 「動詞」

auf den Himmel アウフ・デーン・ヒメル adv. 空を 「間接目的語」

deutend: ドイェント 現在分詞・同時(deuten)v.i 指し示しながら 「副詞句」

«Das ダス pron.n 非人称・天候

knallt! クナルト 3 単現(knallen)v.i ぎらぎら照り返す 「動詞」

僕は答えた：「そうですね」

Ich sagte: «Ja!»

「主語」「動詞」：《「応答」》

Ich イッヒ pron 僕は 「主語」

sagte: サークテ 1 単過(sagen)v.t 言った 「動詞」

«Ja!» ヤー adv. そうですね 「応答」

彼はその後すぐに尋ねた：「これはおふくろさんかい？」僕はまた答えた：「ええ」「だいたい年だったのかい？」

Kurz darauf fragte er: «Ist das Ihre Mutter?» Ich sagte wieder: «Ja.» -«War sie alt?»

「副詞句」「動詞」「主語」：《「動詞」「主語」「補語」》

「主語」「動詞」「副詞」：《「応答」》《「動詞」「主語」「補語」》

Kurz darauf クルツ・ダラウフ adv. すぐその後で 「副詞句」

fragte フラーゲ 3 単過(fragen)v.t 尋ねた 「動詞」

er: エア pron 彼は 「主語」

«Ist イスト 3 単現・疑問文(sein)v.i ~なのか? 「動詞」

das ダス pron これは 「主語」

Ihre Mutter? イーレ・ムター n.f おふくろさん 「補語」

Ich イッヒ pron 僕は 「主語」

sagte サークテ 1 単過(sagen)v.t 言った 「動詞」

wieder: ヱーダー adv. また 「副詞」

«Ja.» ヤー adv. ええ 「応答」

-«War ヴァール 3 単過・疑問文(sein)v.i ~だったのか? 「動詞」

sie シー pron 彼女は 「主語」

ERSTER TEIL 第1部

alt?》アルト adj. 年老いた

「補語」

僕は正確な年齢を知らなかったので、「ええ、かなり」と答えた。

Ich antwortete «ziemlich», weil ich das genaue Alter nicht wußte.

「主語」「動詞」「《「応答」》, 「副詞節」

Ich イッヒ pron 僕は

「主語」

antwortete アントヴァアテテ 1 単過(antworten)v.i 答えた

「動詞」

«ziemlich», ツィーメルヒ adv. かなり、だいぶ

「応答」

weil ヴァイル conj. (理由) ~なので

「副詞節」

ich イッヒ pron 僕は

「主語」

das genaue ダス・ゲナウエ adj(genau).n.4 格 正確な

「形容詞句」

Alter アルター n.n.4 格 年齢を

「目的語」

nicht wußte. ニヒト・ブステ 1 単過・否定(wissen)v.t 知らなかった

「動詞句」

それから彼は口を閉じていた。僕が振り返ると、僕たちからおおよそ 50m 遅れた位置にペレーズ老人が見えた。

Dann schwieg er. Ich drehte mich um und sah den alten Perez etwa fünfzig Meter hinter uns.

「副詞」「動詞」「主語」 | 「主語」「動詞句」und 「動詞」「目的語」「副詞句」

Dann ダン adv. それから、その後

「副詞」

schwieg シュウィーク 3 単過(schweigen)v.i 黙っていた

「動詞」

er. エア pron 彼は

「主語」

Ich イッヒ pron 僕は

「主語」

drehte mich um ドレテ・ミッヒ・ウム 1 単過(sich-4 um | drehen)v.pr 振り返った

「動詞句」

und ウント conj. そして

sah ザー 1 単過(sehen)v.t 見えた

「動詞」

den alten デン・アルテン adj(alt).m.4 格 年老いた

「形容詞句」

Perez ペレス n.m.4 格 ペレーズが

「目的語」

etwa fünfzig Meter エトヴァ・フュンフツィヒ・メーター

pl(Meter).n.m.3 格 (位置) おおよそ 50m の位置に

「副詞句」

hinter uns. ヒンター・ウス adv. 僕たちの後ろに

「副詞句」

ERSTER TEIL 第1部

彼は手に持ったフェルト帽を勢いよく振りながら、急ぎ足で付いてきていた。

Er beeilte sich und schwang den Filzhut in der Hand.

「主語」「動詞句」 und 「動詞」「目的語」

Er エア pron 彼は

「主語」

beeilte sich ベアイルテ・スィヒ 3 単過(sich-4 beeilen)v.pr 急いで（歩いて）いた

「動詞句」

und ウント conj. そして

schwang シュヴァング 3 単過(schwingen)v.t (前後に) 振っていた

「動詞」

den Filzhut デン・フィルツフット n.m.4 格 フェルト帽を

「目的語」

in der Hand. イン・デア・ハント adv. (場所) 手に持った

「副詞句」

僕は院長の様子も確認した。

Ich betrachtete auch den Direktor.

「主語」「動詞」「目的語」

Ich イヒ pron 僕は

「主語」

betrachtete ベトラハテ 1 単過(betrachten)v.t 観察した

「動詞」

auch アウ adv. ～もまた

「副詞」

den Direktor. デン・ディレクタ n.m.4 格 院長を

「目的語」

彼は堂々と大股で歩き、無駄な動作は全くなかった。

Er schritt sehr würdevoll einher und machte keine unnütze Bewegung.

「主語」「動詞句」「副詞句」「動詞句」 und 「動詞」「目的語」

Er エア pron 彼は

「主語」

schritt ...einher シュリット...アインヘア 3 単過(einher | schreiten)v.i 大股で歩いていた

「動詞句」

einher- アインヘア 分離前つづり「悠々と」 schreiten シュライテン v.i 歩く

sehr würdevoll ゼーア・ウエルテフォル adv. 堂々と、威厳を持って

「副詞句」

und ウント conj. そして

machte マヘ 3 単過(machen)v.t (動作を) していた

「動詞」

keine unnütze カイネ・ウニツェ adj(unnütz).f.4 格 一つも無駄のない

「形容詞句」

Bewegung. ベウエーグンク n.f.4 格 動作を

「目的語」

いくらかの汗の滴が彼の額に浮かんでいたが、彼はそれらを拭わないでいた。

Ein paar Schweißtropfen perlten ihm auf der Stirn, aber er wischte sie nicht ab.

「主語」「動詞」「間接目的語」「副詞句」, aber 「主語」「動詞句」「目的語」「動詞句」

Ein paar アイン・パール adj.pl (無変化) .1 格 若干の

「形容詞句」

Schweißtropfen シュヴァイストロプフェン pl (不変) .n.m.1 格 汗のしずくが

「主語」

perlten ペアルテン 3 複過(perlen)v.i 玉のような滴になっていた

「動詞」

ihm イム pron.3 格 彼の

「間接目的語」

ERSTER TEIL 第1部

auf der Stirn, アウフ・デーン・シュティアン adv. (体の部位) 額に 「副詞句」
 aber アーバー conj. しかし
 er エア pron 彼は 「主語」
 wischte ...nicht ab. ヴァイシュテ...ニヒト・アップ 3単過・否定(ab|wischen)v.t 拭わなかった 「動詞句」
 sie ジー pron.pl.4格 (Schweißtropfen の代用) それらを 「目的語」

僕には、葬列が少し速めに進んでいるように思われた。

Es schien mir, als bewegte sich der Leichenzug ein wenig schneller.

「動詞」「間接目的語」「主語」

Es エス pron 非人称
 schien シーン 3単過(scheinen)v.i ~のように思われた 「動詞」
 mir, ミア pron 僕には 「間接目的語」
 als アルス conj. (具体例を示して) つまり~ということ 「主語」
 bewegte sich ベウーエーグテ・ズィヒ 3単過・時制の一致(sich+4 bewegen)
 v.pr 移動する、進む 「動詞句」
 der Leichenzug テア・ライエンツーク n.m 葬列が 「主語」
 ein wenig アイン・ウーニヒト adv. 少し 「副詞句」
 schneller. シュネラー adv. (比較級) より速く 「副詞句」

僕の周囲は、相変わらず、同じ太陽が照り付け、光が溢れた風景だった。

Um mich herum war immer noch die gleiche leuchtende, prall mit Sonne gefüllte Landschaft.

「副詞句」「動詞」「補語」

Um mich herum ウム・ミヒ・ヘルム adv. 僕の周囲は 「副詞句」
 war ヴァール 3単過(sein)v.i ~だった 「動詞」
 immer noch イマー・ノッホ adv. あいかわらず 「副詞句」
 die gleiche leuchtende, ティー・グライヒェ・ロイヒテンデ
 adj.f.1格 同じ輝いている 「形容詞句」
 prall プラル adj. (太陽が) 直射の、照り付ける 「形容詞」
 mit Sonne ミット・ゾネ adv. (手段) 太陽が 「副詞句」
 gefüllte ゲフルテ 過去分詞・受動(füllen)adj.f.1格 溢れた 「形容詞」
 Landschaft. ラントシャフト n.f.1格 地域、風景 「補語」

空のきらめきは耐えられないほどだった。

Der Glanz des Himmels war unerträglich.

「主語」「動詞」「補語」

Der Glanz テア・グランツ n.m 光は、輝き 「主語」
 des Himmels デス・ヒメルス n.m.2格 空の 「形容詞句」

ERSTER TEIL 第1部

war ヲアル 3 単過(sein)v.i ~ だった 「動詞」
 unerträglich. ウニアトレクリヒ adj. 耐えられない 「補語」

そのうち、最近道路が補修された場所にやって来た。アスファルトが熱でぬかるんでいた。

Einmal kamen wir über ein Stück Straße, das kürzlich ausgebessert worden war, Die Teerdecke war in der Sonne aufgeweicht.

「副詞」「動詞」「主語」「副詞句」, 「主語」「動詞句」「副詞句」
 Einmal アインマル adv. そのうち、かつて、一度 「副詞」
 kamen カメン 1 複過(kommen)v.i (地点へ) 来た、到着した 「動詞」
 wir ヲーア pron.pl 僕たちは 「主語」
 über ein Stück Straße, ユーバー・アイン・シュトクック・シュトラッセ adv. (空間的) 道路の部分に 「副詞句」
 das ダス pron (主語) ~する 「形容詞節」
 kürzlich キュルツリヒ adv. 最近 「副詞」
 ausgebessert worden war, アウス・ゲ・ゲツサート・ウ・ォアテン・ウ・アル 3 単過・受動(aus|bessern)
 v.t 補修された 「動詞句」
 Die Teerdecke テーイー・テアー・テック n.f アスファルトが、タールの覆いが 「主語」
 Teer テアー n.m タール Decke テック n.f 覆い → Teerdecke テアー・テック n.f アスファルト
 war ...aufgeweicht. ヲアル...アフ・ゲ・ウ・アーヒト 3 単過・完了形(auf|weichen)
 v.i 柔らかくなっていた、(道が) ぬかるんでいた 「動詞句」
 in der Sonne イン・デア・ゾネ adv. (原因) 太陽の熱で 「副詞句」

足がアスファルトにめり込み、深い傷口から、ギトギトした粘り気のある中身がはみ出した。

Die Füße versanken in ihr und rissen tiefe Wunden in ihr glänzendes Fleisch.

「主語」「動詞」「副詞句」 und 「動詞句」「目的語」「副詞句」
 Die Füße テーイー・フューセ pl(Fuß).n.m 足が 「主語」
 versanken フェアザンケン 3 複過(versinken)v.i 沈んだ 「動詞」
 in ihr イン・イーア adv. (Teerdecke の代用) アスファルトの中に 「副詞句」
 und ウント conj. そして
 rissen リエン 3 複過(reißen)
 v.t(et-4 〈A〉 in et-4 〈B〉) 〈B〉を引き裂いて 〈A〉を作った 「動詞句」
 tiefe Wunden テーイー・ヴェンテン pl(Wunde).n.f.4 格 深い傷口を 「目的語」
 in ihr glänzendes Fleisch. イン・イーア・グレンツェンデス・フライシュ adv. つやのある中身に 「副詞句」
 glänzendes グレンツェンデス adj(glänzend).n.4 格 光沢のある Fleisch フライシュ n.n 肉体

ERSTER TEIL 第1部

馬車の上の御者の艶のある革の帽子は、その黒く粘っこい物質で出来ているように見えた。

Über dem Wagen wirkte der blanke Lederhut des Kutschers, als wäre er aus diesem schwarzen Brei geformt. 「副詞句」, 「動詞」「主語」「補語」

Über dem Wagen ユーバー・デーム・ヴァーゲン adv. 柩車の上では 「副詞句」

wirkte ヴィルクテ 3 単過(wirken)v.i ~のように見えた 「動詞」

der blanke Lederhut デア・ブランケ・レーダーフット n.m.1 格 艶のある革の帽子は 「主語」

blank ブランケ adj.m.1 格 つやのある Lederhut レーダーフット n.m 革の帽子

des Kutschers, デス・クチェス n.m.2 格 (馬車の) 御者の 「形容詞句」

als アルス conj. ~のように 「補語」

wäre ...geformt. ヴェーレ...ゲフォルムト 接 II・3 単現・受動・想像(formen)

v.t 作られている 「動詞句」

er エア pron (Lederhut の代用) それが 「主語」

aus diesem schwarzen Brei アウス・ディーセム・シュヴァルツェン・ブライ

adv. (素材) その真っ黒な粘土で 「副詞句」

僕は、青と白のコントラストが際立つ空の色彩と、アスファルトの粘つくような黒や喪服のくすんだ黒や柩車の漆黒など単調な色彩との狭間に居て、少し自分を見失っていた。

Ich kam mir zwischen dem blauen und weißen Himmel und der Eintönigkeit dieser Farben, dem klebrigen Schwarz des Teers, dem stumpfen Schwarz der Trauerkleider und dem blanken Schwarz des Leichenwagens, ein wenig verloren vor.

「主語」「動詞句」「副詞句」「補語」

Ich イヒ pron 僕は 「主語」

kam mir... vor. カム・ミーア...フォア 1 単過(sich-3 vor | kommen)(+補語)

v.pr 自分には~に思われた 「動詞句」

zwischen ツヰッシェン prep (3 格と) (空間的) ~と~の間で 「副詞句」

dem blauen und weißen Himmel デーム・ブラウエン・ウント・ヴァイセン・ヒメル

n.m.3 格 青と白の空 「目的語」

und ウント conj. そして

der Eintönigkeit デア・アインテニヒイト n.f.3 格 単調さ 「目的語」

dieser Farben, ディーサー・ファーベン adj.pl これらの色彩の 「形容詞句」

dem klebrigen Schwarz デーム・クレプ・リهن・シュヴァルツ

n.n.3 格 ねばねばした黒色 「目的語」

色彩の例示

des Teers, デス・テアス n.m.2 格 アスファルトの 「形容詞句」

dem stumpfen Schwarz デーム・シュトウプ・フェン・シュヴァルツ

n.n.3 格 くすんだ黒色 「目的語」

ERSTER TEIL 第1部

der Trauerkleider デア・トラウアー・クライダー

pl(Trauerkleid).n.2 格 喪服の

「形容詞句」

und ウント conj. そして

dem blanken Schwarz デー・ム・ブランケン・シュヴァルツ n.n.3 格 全くの黒、漆黒 「目的語」

des Leichenwagens, デス・ライヒェン・ヴァーゲンス n.m.2 格 柩車の 「形容詞句」

ein wenig アイン・ヴェーニグ adv. 少し

「副詞句」

verloren フェアローレン adj. 見失った

「補語」

あのすべて、太陽や、柩車から出る馬糞やニスの匂いや、ニスと乳香の匂い、そして徹夜
 による疲れなどが重なって、僕の洞察力や思考力を鈍らせた。

Alles, die Sonne, der Geruch des Wagens nach Leder und Pferdemist, nach Lack und
Weihrauch und die Müdigkeit nach einer schlaflosen Nacht, trübten Blick und Gedanken.

「主語」「動詞」「目的語」

Alles, アレス pron すべてが

「主語」

die Sonne, デー・イー・ゾネ n.f.1 格 太陽が

「主語」

der Geruch デア・ゲルーフ n.m.1 格 匂いが

「主語」

des Wagens デス・ヴァーゲンス n.m.2 格 柩車の

「形容詞句」

nach ナハ prep (3格と) (発生源) ~からの、~による

「副詞句」

Leder レダー n.n.3 格 革

「目的語」

und ウント conj. そして

Pferdemist, プフェアデミスト n.m.3 格 馬糞

「目的語」

nach ナハ prep (3格と) (発生源) ~からの、~による

「副詞句」

Lack ラック n.m.3 格 ニス

「目的語」

und ウント conj. そして

Weihrauch ヴァイラウフ n.m.3 格 乳香

「目的語」

und ウント conj. そして

die Müdigkeit デー・イー・ミュデーヒカイト n.f.1 格 疲れが

「主語」

nach ナハ prep (3格と) (発生源) ~からの、~による

「副詞句」

einer schlaflosen Nacht, アイナー・シュラーフロゼン・ナハ

n.f.2 格 不眠の一夜の

「形容詞句」

trübten トリュプテン 3 複過(trüben)v.t 曇らせた

「動詞」

Blick ブリック n.m.4 格 視線を、洞察力を

「目的語」

und ウント conj. そして

Gedanken. ゲダンケン n.m.4 格 思考力を

「目的語」

ERSTER TEIL 第1部

僕はもう一度振り返った：ペレーズは陽炎に包まれてかなり遠くにいるように思われ、もはや姿は見えなかった。

Ich wandte mich noch einmal um: Perez schien sehr weit weg zu sein, verloren in einer Wolke von Hitze, dann sah ich ihn nicht mehr.

「主語」「動詞句」「副詞句」：「主語」「動詞句」「副詞句」「動詞句」,
「副詞」「動詞」「主語」「目的語」「副詞句」

Ich イッヒ pron 僕は 「主語」
wandte mich ...um: ヲァンテ・ミッヒ...ウム 1 単過(sich-4 um | wenden)v.pr 振り返った 「動詞句」
noch einmal ノッホ・アインマル adv. もう一度 「副詞句」
Perez ペレス n.m ペレーズは 「主語」
schien ...zu sein, シーン...ツァー・ザイン 3 単過・見えた・存在(scheinen+zu 不定詞)
v.i 〜にいるように見えた 「動詞句」
sehr weit weg セーア・ザイト・ヴェーク adv. かなり遠くに 「副詞句」
verloren フェアローレン 過去分詞(verlieren)adv. (理由・様態) 失われて、消えて 「副詞句」
in einer Wolke von Hitze, イン・アイー・ヴォルク・フォン・ヒッツェ
adv. 高温によるもやの中に、陽炎の中に 「副詞句」
dann ダン adv. そして、それで 「副詞」
sah ザー 1 単過(sehen)v.t 見えた 「動詞」
ich イッヒ pron 僕は 「主語」
ihn イーン pron 彼を 「目的語」
nicht mehr. ニヒト・メア adv. もはや〜ない 「副詞句」

僕は彼の方へ振り返って気付いた。彼は道路から出て、野原を横切って歩いていた。

Ich sah mich nach ihm um und gewährte, daß er die Straße verlassen hatte und querfeldein lief.

「主語」「動詞句」「副詞句」「動詞句」 und 「動詞」「目的語」

Ich イッヒ pron 僕は 「主語」
sah mich ...um ザー・ミッヒ...ウム 1 単過(sich-4 um | sehen)v.pr 振り返った 「動詞句」
nach ihm ナーハ・イム adv. 彼の方を 「副詞句」
und ウント conj. そして
gewährte, ゲヴァルテ 1 単過(gewahren)v.t 気付いた 「動詞」
daß ダス conj. 〜ということを 「目的語」
er エア pron 彼は 「主語」
die Straße デーイー・シュトラッセ n.f 道路を 「目的語」
verlassen hatte フェアラッセン・ハッテ 3 単過・完了形(verlassen)v.t 離れた 「動詞」
und ウント conj. そして
querfeldein クヴァェアフェルトアイン adv. (道路を通らずに) 野原を横切って 「副詞」

ERSTER TEIL 第1部

lief. リーフ 3 単過(laufen)v.i 歩いて行った

「動詞」

僕は、道路がこの先でカーブになっていることに気付いた。

Ich stellte fest, daß die Straße vor mir einen Bogen machte.

「主語」「動詞句」「目的語」

Ich イッヒ pron 僕は

「主語」

stellte fest, シュテルフェスト 1 単過(fest|stellen)v.t 気付いた

「動詞句」

daß ダス conj. ～ということを

「目的語」

die Straße デーイー・シュトラッセ n.f 道路が

「主語」

vor mir フォア・ミーア adv. (空間的) 僕の行く手で、前方で

「副詞句」

einen Bogen アイン・ボーゲン n.m.4 格 湾曲を、曲がり道を

「目的語」

machte. マハテ 3 単過・時制の一致(machen)v.t 作っている

「動詞」

僕は、土地勘のあるペレーズが、僕たちに追いつくために近道をしているのだと分かった。

Ich begriff, daß Perez, der die Gegend gut kannte, den Weg abschnitt, um uns einzuholen.

「主語」「動詞」「目的語」

Ich イッヒ pron 僕は

「主語」

begriff, ベグリフ 1 単過(begreifen)v.t 分かった

「動詞」

daß ダス conj. ～ということを

「目的語」

Perez, ペレス n.m ペレーズは

「主語」

der デア pron (主語) ～する

「形容詞節」

die Gegend デーイー・ゲーゲント n.f この地域を

「副詞句」

gut グート adv. 良く

「副詞」

kannte, カンテ 3 単過・時制の一致(kennen)v.t 知っている

「動詞」

den Weg デン・ヴェーク n.m.4 格 道を

「目的語」

abschnitt, アップ・シュニット 3 単過・時制の一致(ab|schneiden)

v.t 切り取る、近道をする

「動詞句」

um ...einzuholen. ウム...アイン・ツー・ホーレン um+zu 不定詞

adv. (目的) 追いつくために

「副詞句」

uns ウンス pron.4 格 僕たちに

「目的語」

ERSTER TEIL 第1部

カーブまで来ると、彼はまた僕たちと合流した。それから、また見えなくなった。

An der Biegung war er wieder bei uns. Dann verloren wir ihn wieder.

「副詞句」「動詞」「主語」「副詞句」	「副詞」「動詞」「主語」「目的語」「副詞」
An アン prep (接触) 〜に接して	「副詞句」
der Biegung デア・ビーグング n.f.3 格 カーブ	「目的語」
war ヴァール 3 単過・存在(sein)v.i 〜にいた	「動詞」
er エア pron 彼は	「主語」
wieder ヴィター adv. また	「副詞」
bei uns. バイ・ウス adv. 僕たちの所に	「副詞句」
Dann ダン adv. それから	「副詞」
verloren フェアローレン 1 複過(verlieren)v.t 見失った	「動詞」
wir ヴィア pron 僕たちは	「主語」
ihn イン pron 彼を	「目的語」
wieder. ヴィター adv. また	「副詞」

またもや彼は野原を横切って歩いて行った。そしてこれが何度も繰り返された。

Wieder lief er querfeldein, und immer wieder.

「副詞」「動詞」「主語」「副詞」	und 「副詞句」
Wieder ヴィター adv. またもや、再び	「副詞」
lief リーフ 3 単過(laufen)v.i 歩いて行った	「動詞」
er エア pron 彼は	「主語」
querfeldein, クァェアフェルトアイン adv. (道路を通らずに) 野原を横切って	「副詞」
und ウント conj. そして	
immer wieder. イマー・ヴィター adv. 繰り返して	「副詞句」

僕はこめかみで血が脈打つのを感じた。

Ich fühlte, wie mir das Blut in den Schläfen pochte.

「主語」「動詞」「目的語」	
Ich イヒ pron 僕は	「主語」
fühlte, フェールテ 1 単過(fühlen)v.t 感じた	「動詞」
wie ヴィー conj. (様態) 〜のように	「目的語」
mir ミア pron.3 格 (所有) 僕の	「形容詞」
das Blut ダス・ブルト n.n.1 格 血が	「主語」
in den Schläfen イン・テン・シュレーフェン adv. こめかみで	「副詞句」
pochte. ポー 3 単過・時制の一致(pochen)v.i 脈打つ	「動詞」

ERSTER TEIL 第1部

その後はすべてが迅速に、そして確実かつ自然に進んだので、僕はもう何も覚えていない。

Dann lief alles derart überstürzt, sicher und natürlich ab, daß ich mich an nichts mehr erinnere.

「副詞」「動詞句」「主語」「副詞句」, daß「主語」「動詞句」「間接目的語」「動詞句」
 Dann ダン adv. それから 「副詞」
 lief ...ab, リーフ...アップ 3 単過(ab|laufen)v.i (催事が) 進行した 「動詞句」
 alles アレス pron 「主語」
 derart デアラート adv. そのように 「副詞句」
 überstürzt, ユーバーシュチュルツ 過去分詞(überstürzen)adv. 迅速に 「副詞」
 sicher und natürlich スィッヒヤー・ウント・ナチュアリヒ adv. 確実かつ自然に 「副詞句」
 daß ダス conj. (結果) それで〜する
 ich イヒ pron 僕は 「主語」
 mich ...erinnere. ミヒ...エアインネ 1 単現(sich an et-4 erinnern)
 v.pr (何のことを) 覚えている 「動詞句」
 an nichts mehr アン・ニヒツ・メア adv. もはや何も〜ない 「間接目的語」

一つだけ覚えている：村の入口であの看護婦が僕に話しかけてきたことだ。

Nur an eins: am Dorfeingang sprach mich die Schwester an.

「副詞句」:「副詞句」「動詞句」「目的語」「主語」
 Nur ヌア adv. ただ〜だけ 「副詞」
 an アン prep (関連) 〜の点で 「副詞句」
 eins: アインス pron ある一つの事 「目的語」
 am アム prep (空間的) 〜のそばで 「副詞句」
 Dorfeingang ドアフ・アインガング n.m 村の入口 「目的語」
 Dorf ドアフ n.n 村、田舎 Eingang アインガング n.m 入口
 sprach ...an. シュプラーフ...アン 3 単過(an|sprechen)v.t (j-4 に) 話しかけてきた 「動詞句」
 mich ミヒ pron 僕に 「目的語」
 die Schwester テーイー・シュヴェスター n.f あの看護婦が 「主語」

ERSTER TEIL 第1部

彼女は、その顔に似合わない、歌うような、震えるような奇妙な声をしていた。

Sie hatte eine seltsame Stimme, die nicht zu ihrem Gesicht paßte, eine melodische, bebende Stimme. 「主語」「動詞」「目的語」

Sie ジー pron.f 彼女は 「主語」

hatte ハッテ 3 単過(haben)v.t (身体的特徴を) していた 「動詞」

eine seltsame Stimme, アイン・ゼ・ルツサー・メ・シュティメ n.f.4 格 奇妙な声 「目的語」

die デー pron.f (Stimme の代用) それは 「形容詞節」

nicht ...paßte, ニヒト...ハ・ステ 3 単過・否定・時制の一致(passen)

v.i(zu et-3 に) 似合わない 「動詞句」

zu ihrem Gesicht ツー・イー・レム・ゲ・ジヒト adv. 彼女の顔に 「副詞句」

eine melodische, bebende アイン・メロー・ディッシェ・ベー・ベンテ

adj.f.4 格 歌うような、震えるような 「形容詞句」

Stimme. シュティメ n.f.4 格 (同格) 声 「目的語」

彼女は僕に言った：「もしゆっくり歩くと、日射病の危険に晒されます」

Sie sagte zu mir: «Wenn man langsam geht, setzt man sich der Gefahr des Sonnenstichs aus. 「主語」「動詞」「間接目的語」:

《「副詞節」, 「動詞句」「主語」「動詞句」「間接目的語」「動詞句」》

Sie ジー pron.f 彼女は 「主語」

sagte サークテ 3 単過(sagen)v.t 言った 「動詞」

zu mir: ツー・ミーア adv. 僕に 「間接目的語」

«Wenn ウェン conj. (条件) もし〜すると 「副詞節」

man マン pron 人は 「主語」

langsam ランク・サーム adv. ゆっくりと 「副詞」

geht, ゲート 3 単現(gehen)v.i 歩く、進む 「動詞」

setzt ...sich ...aus. セッツト...ズ・ィヒ...アウス 3 単現(sich-4 aus | setzen)

v.pr (et-3 に) さらにされる 「動詞句」

man マン pron 人は 「主語」

der Gefahr デア・ゲファール n.f.3 格 危険に 「間接目的語」

des Sonnenstichs デス・ゾネンシュティヒス n.m.2 格 日射病の 「形容詞句」

ERSTER TEIL 第1部

「しかしあまり急いで歩くと、汗をかいて、教会の中で風邪をひいてしまいます」

Geht man aber zu schnell, dann schwitzt man, und in der Kirche erkältet man sich.»

《「副詞節」, 「副詞」「動詞」「主語」, und 「副詞句」「動詞句」「主語」》

Geht ゲ-ト 3 単現(Wenn geht の省略)(gehen)v.i もし歩くと 「副詞節」

man マン pron 人は 「主語」

aber ア-バー conj. しかし

zu schnell, ツ-・シュネル adv. あまりにも速く 「副詞句」

dann ダン adv. その時には 「副詞」

schwitzt シュヰット 3 単現(schwitzen)v.i 汗をかく 「動詞」

man, マン pron 人は 「主語」

und ウント conj. そして

in der Kirche イン・デア・キルヒェ adv. 教会の中で 「副詞句」

erkältet ...sich. エアケルテット...スィヒ 3 単現(sich-4 erkälten)v.pr 風邪をひく 「動詞句」

man マン pron 人は 「主語」

彼女の言う通りだ。どうしようと無駄なのだ。

Sie hatte recht. Da half nichts. 「主語」「動詞」「補語」 | Da 「動詞」「目的語」

Sie ジー pron.f 彼女は 「主語」

hatte ハッテ 3 単過・時制の一致(haben)v.t (心身状態) ~である 「動詞」

recht. レヒト adj. (名詞的 Recht) 「補語」

Da ダー conj. だから

half ハルフ 3 単過・時制の一致(helfen)v.t 助ける 「動詞」

nichts. ニヒツ pron 何も~ない 「目的語」

それからさらに、この日のいくつかの情景が僕の記憶に残っている：例えば、村に近付いて最後に僕たちに追いついた時のペレーズの顔だ。

Dann sind mir noch ein paar Bilder dieses Tages gegenwärtig: zum Beispiel Perez' Gesicht, als er uns zum letztenmal in der Nähe des Dorfes einholte.

「副詞」「動詞」「間接目的語」「副詞」「主語」「補語」: 「副詞句」「主語」

Dann ダン adv. それから 「副詞」

sind シント 3 複現(sein)v.i ~である 「動詞」

mir ミーア pron 僕にとって 「間接目的語」

noch ノッホ adv. まだ 「副詞」

ein paar Bilder dieses Tages アイン・パール・ビルダ-デーセ-ス・ターゲス

pl(Bild).n.n この日のいくつかの情景が 「主語」

gegenwärtig: ゲーゲンヴァーティヒ adj. 覚えている、記憶に残っている 「補語」

ERSTER TEIL 第1部

zum Beispiel ツム・ハイシュピール adv. 例えば	「副詞句」
Perez' Gesicht, ペレス・ゲシヒト n.n.1 格 ペレーズの顔が	「主語」
als アルス conj. ～した時	「副詞節」
er エア pron 彼が	「主語」
uns ウンス pron 僕たちに	「目的語」
zum letztenmal ツム・レッツテン・マル adv. 最後に	「副詞句」
in der Nähe イン・デア・ネーエ adv. 近くで	「副詞句」
des Dorfes デス・トアフェス n.n.2 格 村の	「形容詞句」
einholte. インホルテ 3 単過(ein holen)v.t 追いついた	「動詞句」

疲労と苦悩による大粒の涙が、彼の頬を流れ落ちた。

Dicke Tränen der Erschöpfung und des Kammers rollten ihm über die Backen.

	「主語」「動詞」「間接目的語」「副詞句」
Dicke Tränen ディッケ・トレネン pl(Träne)n.f.1 格 大粒の涙が	「主語」
dicke ディッケ adj(dick).pl.f 大きな、厚い、太った	
der Erschöpfung デア・エアシェッpfung	
n.f(erschöpfen+-ung).2 格 疲労の、枯渇	「形容詞句」
-ung ウング 動詞の語幹に付けて行為・状態・結果・行為の主体・機構を表す女性名詞を作る	
und ウント conj. そして	
des Kammers デス・クマース n.m.2 格 苦悩の	「形容詞句」
rollten ロルテン 3 複過(rollen)v.i 転がった、流れた	「動詞」
ihm イム pron 彼の	「間接目的語」
über die Backen. ユーバー・デア・バックェン adv. 頬の上を	「副詞句」

しかし、皺が邪魔して涙が流れ切らない。

Aber infolge der Runzeln flössen sie nicht ab.

	Aber 「副詞句」「動詞句」「主語」「動詞句」
Aber アーバー conj. しかし	
infolge インフォルゲ prep (2 格と) ～のために、～によって	「副詞句」
der Runzeln デア・ルンツェルン pl(Runzel).n.f.2 格 しわ	「目的語」
flössen ...nicht ab. フロッセン...ニヒト・アップ 3 複過・否定(ab fließen)v.i 流れ去らない	「動詞句」
sie ジー pl.pron(Tränen の代用) それらが	「主語」

ERSTER TEIL 第1部

涙は広がり、つながりあって、その崩れた顔の上に1枚の水の塗膜を形成した。

Sie breiteten sich aus, vereinten sich und bildeten einen wässrigen Lack auf diesem zerstörten Gesicht. 「主語」「動詞句」, 「動詞句」 und 「動詞」「目的語」「副詞句」

Sie ジー pl.pron(Tränen の代用) 涙は 「主語」

breiteten sich aus, ブライテン・スィヒ・アウス 3 複過(sich-4 aus | breiten)

v.pr 広がった

「動詞句」

vereinten sich フェア・インテン・スィヒ 3 複過(sich-4 vereinen)

v.pr 一つになった、まとまった

「動詞句」

und ウント conj. そして

bildeten ビルテン 3 複過(bilden)v.t 形成した

「動詞」

einen wässrigen Lack アイン・ヴェッサリゲン・ラック n.m 水の塗膜を

「目的語」

wässrigen ヴェッサリゲン adj(wässrig).m.4 格 水っぽい Lack ラック n.m ニス

auf アウフ prep (3 格と) ~の上に

「副詞句」

diesem zerstörten Gesicht. ディー・セム・ツェアシュテアテン・ゲスィヒト

n.n.3 格 その崩れた顔

「目的語」

zerstörten ツェアシュテアテン 過去分詞(zerstören)adj(zerstört).n.2 格 崩れた、壊れた

それから、思い出されるのは、教会と歩道の村人たち、墓地の墓の上の赤いゼラニウム、ペレーズの失神（まるで糸の切れた操り人形のように）、母さんの柩の上を転がる血のように赤い土、土の中に見える木の根の白い肉、それからまた、人々、人声、村。カフェの前での待ち時間。鳴りやまないエンジン音。そして、バスがアルジェの光の巣の中に入り、僕は、間もなくベッドに入って、12 時間は眠れるだろうと考えた時の、僕の喜び。

Dann die Kirche und die Dorfbewohner auf den Bürgersteigen, die roten Geranien auf den Gräbern des Friedhofs, Perez' Ohnmacht (als wäre ein Hampelmann zusammengeklappt), die blutrote Erde, die auf Mamas Sarg polterte, das weiße Fleisch der Wurzeln in der Erde, dann wieder Leute, Stimmen, das Dorf, das Warten vor einem Cafe, das andauernde Brummen des Motors und meine Freude, als der Autobus in das Lichter nest Algier einfuhr und ich daran dachte, daß ich gleich zu Bett gehen und zwölf Stunden schlafen würde. 「副詞」「主語」(列挙)

Dann ダン adv. それから

「副詞」

名詞を列挙することで回想する

die Kirche ディー・キルヒェ n.f 教会

「主語」

und ウント conj. そして

die Dorfbewohner ディー・ドーフ・ベウ・ォナー pl(Dorfbewohner).n.m 村人たち

「主語」

Dorf ドーフ n.n 村、田舎 Bewohner ベウ・ォナー n.m -s/- 住人、居住者

auf den Bürgersteigen, アウフ・テン・ヒュルカ・シュタイゲン adv. 歩道の上の

「副詞句」

ERSTER TEIL 第1部

Bürgersteigen	ビュルガ―シュタイゲン	pl(Bürgersteig).n.m.3 格 歩道の	
die roten Geranien	デー・イー・ローテン・ゲラーニエン	pl(Geranie).n.f 赤いゼラニウム	「主語」
roten	ローテン	adj(rot).pl.1 格 赤い、赤色の	
auf den Gräbern	アウフ・デン・グラーバーン	adv. 墓の上の	「副詞句」
Gräbern	グラーバーン	pl(Grab).n.n.3 格 墓の	
des Friedhofs,	デス・フリートホフス	n.m.2 格 墓地の	「形容詞句」
Perez'	ペレス	n.m.2 格 ペレーズの	「形容詞句」
Ohnmacht	オンマハト	n.f.1 格 失神、気絶	「主語」
(als	アルス	conj. ~のように	
wäre	ヴェーレ	接 II・3 単現(sein)v.i ~である	「動詞」
ein Hampelmann	アイン・ハンペルマン	n.m 操り人形	「補語」
zusammengeklappt),	ズザメン・ゲ・クラフト	過去分詞・受動(zusammen klappen)	
adj.	折りたたまれた、(使えない状態の) → 糸の切れた		「形容詞句」
die blutrote Erde,	デー・イー・ブルトローテ・エアデ	n.f.1 格 真っ赤な土、血のように赤い土	「主語」
die	デー	pron (主語) ~する	「形容詞節」
auf Mamas Sarg	アウフ・ママス・サルグ	adv. 母さんの柩の上で	「副詞句」
polterte,	ポルテテ	3 単過・時制の一致(poltern)	
v.i	ごろごろ音をたてる、転がる		「動詞」
das weiße Fleisch	ダス・ヴァイス・フライシュ	n.n.1 格 その白い肉	「主語」
der Wurzeln	デア・ヴェルツェルン	pl(Wurzel).n.f.2 格 根の	「形容詞句」
in der Erde,	イン・デア・エアデ	adv. 土の中の	「副詞句」
dann	ダン	adv. それから	「副詞」
wieder	ワイター	adv. また	「副詞」
Leute,	ロイテ	pl.n.m 人々	「主語」
Stimmen,	シュティメン	pl(Stimme).n.f 人声	「主語」
das Dorf,	ダス・ドーフ	n.n 村	「主語」
das Warten	ダス・ヴァルテン	n.n 待っていた時間	「主語」
vor einem Cafe,	フォーア・アイネム・カフェ	adv. カフェの前での	「副詞句」
das andauernde Brummen	ダス・アンダウアーンデ・ブルメン	n.n 鳴りやまない鈍い音	「主語」
andauernde	アンダウアーンデ	現在分詞(andauern)adj. いつまでも続く、止まない	
des Motors	デス・モートアス	n.m.2 格 エンジンの	「形容詞句」
und	ウント	conj. そして	
meine Freude,	マイネ・フロイデ	n.f 僕のうれしさ、僕の喜び	「主語」
als	アルス	conj. ~する時の	「副詞節」
der Autobus	デア・アウトブス	n.m バスが	「主語」
in das Lichternest	イン・ダス・リヒター・ネスト・アルジエ		

ERSTER TEIL 第1部

adv. アルジェの光の巣の中に	「副詞句」
einfuhr アイン・フア 3 単過(ein fahren)v.i (乗り物が) 入った	「動詞句」
und ウント conj. そして	
ich イヒ pron 僕が	「主語」
daran ダラン adv. それについて	「間接目的語」
dachte, ダハテ 1 単過(denken)v.t 考えた	「動詞」
daß ダス conj. ～ということを	「直接目的語」
ich イヒ pron 僕は	「主語」
gleich グライ化 adv. まもなく	「副詞」
zu Bett ツー・ベット adv. ベッドに	「副詞句」
gehen ゲーエン 接 II・1 単現・推量(werden+不定詞)	
v.i 行けるだろう	「動詞句」
und ウント conj. そして	
zwölf Stunden ツワ [°] ェルフ・シェトウンテン	
pl(Stunde).n.f 12 時間	「副詞句」
schlafen würde. シュラーフェン・ウ [°] ェルテ [°] 接 II・1 単現・推量(werden+不定詞)	
v.i 眠れるだろう	「動詞句」

ERSTER TEIL 第1部

II

目を覚ました時、僕が 2 日間の休暇を願い出た時に、どうして社長があんなに不機嫌そうだったのかがはっきり分かった：今日は土曜になのだ。

Als ich erwachte, wurde mir klar, weshalb mein Chef so unwirsch war, als ich ihn um zwei Tage Urlaub bat; heute ist Samstag.

	「副詞節」, 「動詞」 「間接目的語」 「補語」 「主語」: 「主語」 「動詞」 「補語」
Als アルス conj. ～する時	「副詞節」
ich イヒ pron 僕が	「主語」
erwachte, エアウ [°] アハテ 1 単過(erwachen)v.i 目を覚ました	「動詞」
wurde ウルテ [°] 3 単過・変化(werden)v.i ～になった	「動詞」
mir ミーア pron 僕にとって	「間接目的語」
klar, クラール adj. 明らかな	「補語」
weshalb ウェシャルプ [°] conj. (理由) どうして～かという事が	「主語」
mein Chef マイン・シェフ n.m 社長が、ボスが	「主語」
so unwirsch ソー・ウンウ [°] イルシュ adj. あれほどとげとげしい	「補語」
war, ウァール 3 単過(sein)v.i ～ だった	「動詞」
als アルス conj. ～する時	「副詞節」
ich イヒ pron 僕が	「主語」
ihn イン pron 彼に	「直接目的語」
um zwei Tage Urlaub ウム・ツウ [°] アイ・ターゲ [°] ・ウーアラウプ [°]	
adv. 2 日間の休暇について	「間接目的語」
bat: バート 1 単過(bitten)v.t 頼んだ、願い出た	「動詞」
heute ホテ n.m 今日	「主語」
ist イスト 3 単現(sein)v.i ～である	「動詞」
Samstag. サムスターク n.m 土曜日	「補語」

僕はそのことを忘れていたようだ。ところが、起きる時に、それが頭に浮かんだのだ。

Das hatte ich sozusagen vergessen, aber beim Aufstehen fiel es mir ein.

	「目的語」 「動詞句」 「主語」 「副詞」 「動詞句」,
aber	「副詞句」 「動詞句」 「主語」 「間接目的語」 「動詞句」
Das ダス pron そのことを	「目的語」
hatte ...vergessen, ハッテ...フェアゲッセン 1 単過・完了形(vergessen)v.t 忘れていた	「動詞句」
ich イヒ pron 僕は	「主語」
sozusagen ソー・ツァー・ゲン adv. いわば、どうも	「副詞」
aber アーバー conj. しかし	

ERSTER TEIL 第1部

beim Aufstehen バイム・アウフシュテヘン adv.(近接) 起床の時に 「副詞句」
 fiel ...ein. フィール...アイン 3 単過(ein | fallen)v.i(j-3 の) 心に浮かんだ 「動詞句」
 es エス pron それが 「主語」
 mir ミア pron 僕の 「間接目的語」

社長は当然、僕が4連休を取ると考えただろうし、それが嬉しいはずが無かったのだ。

Mein Chef hat natürlich gedacht, daß ich mit dem Sonntag vier freie Tage haben würde, und das konnte ihn unmöglich freuen.

「主語」「動詞句」「副詞」「動詞句」「目的語」,und「主語」「動詞句」「目的語」「動詞句」
 Mein Chef マイン・シェフ n.m 社長は 「主語」
 hat... gedacht, ハット...ゲダハット 3 単現・完了形(denken)v.t 思った、考えた 「動詞句」
 natürlich ナチュアリッヒ adv. 当然、もちろん 「副詞」
 daß ダス conj. 〜であると 「目的語」
 ich イヒ pron 僕は 「主語」
 mit dem Sonntag ミット・デーム・ゾンターク adv. (付属) 日曜日も含めて 「副詞句」
 vier freie Tage フィーア・フライ・ターゲ pl(Tag).n.m.4 格 4 日の休暇を 「目的語」
 freie フライ adj(frei).pl.4 格 勤めのない
 haben würde, ハーベン・ウルデ 接 II・1 単現・推量(werden+不定詞)
 v.t 取るだろう 「動詞句」
 und ウント conj. そして
 das ダス pron それは 「主語」
 konnte ... unmöglich freuen. コンテ...ウンメルヒ・フロイエン 3 単過・可能性・否定(können+不定詞)
 v.t 決して嬉しがらせない 「動詞句」
 unmöglich ウンメルヒ adv. ありえない、絶対に〜ない freuen フロイエン v.t 喜ばせる
 ihn イン pron.4 格 彼を 「目的語」

しかし一方では、葬儀が今日ではなく昨日だったのは僕のせいではないし、他方では、いずれにせよ僕は土曜日と日曜日は休めたのだ。

Aber einerseits ist es ja nicht meine Schuld, wenn man Mama gestern und nicht heute beerdigt hat, und andererseits hätte ich meinen Samstag und Sonntag sowieso gehabt.

Aber 「副詞」「動詞」「副詞」「補語」「主語」,
 und 「副詞」「動詞句」「主語」「目的語」「副詞」

Aber アーバー conj. しかし
 einerseits アーザー・イツ adv. 一方では 「副詞」
 ist イスト 3 単現(sein)v.i 〜である 「動詞」
 es エス pron 仮の主語 (真の主語は wenn 以降)

ERSTER TEIL 第1部

ja ヤー adv. その上、さらに	「副詞」
nicht meine Schuld, ニヒト・マイネ・シュルト adj. 僕の責任〜でない	「補語」
wenn ウェン conj. (事実の対比) 〜であるが、〜した事は... でない	「主語」
man マン pron 人は	「主語」
Mama ママ n.f 母さんを	「目的語」
gestern und nicht heute ゲスターン・ニヒト・ホテ adv. 今日ではなく昨日	「副詞句」
beerdigt hat, ベエアディヒト・ハット 3 単現・完了形(beerdigen)v.t 埋葬した	「動詞句」
und ウント conj. そして	
andererseits アンデラーザイツ adv. 他方では	「副詞」
hätte ...gehabt. ハッテ...ゲハプト 接 II・1 単現・完了形・推量(haben) v.t (休みを) 取れたはずだ	「動詞句」
ich イヒ pron 僕は	「主語」
meinen Samstag und Sonntag マイネン・ザムスターク・ウント・ゾンターク pl.n 土曜日と日曜日を	「目的語」
sowieso ソウイゾー adv. どっちみち、いずれにせよ	「副詞」

それでも、社長の気持ちはよく理解できる。

Trotzdem kann ich meinen Chef durchaus verstehen.

	「副詞」「動詞句」「主語」「目的語」「副詞」「動詞句」
Trotzdem トロッツデーム adv. それでも	「副詞」
kann ...verstehen. カン...フェアシュテーエン 1 単現・可能(können+不定詞)v.t 理解できる	「動詞句」
ich イヒ pron 僕は	「主語」
meinen Chef マイネン・シェフ n.m 社長を	「目的語」
durchaus ドゥアルヒアウス adv. よく、ぜひ	「副詞」

昨日はひどく疲れる一日だったので、起きるのが辛かった。

Ich fand nur schwer aus dem Bett, denn der gestrige Tag hatte mich sehr angestrengt.

	「主語」「動詞」「目的語」「副詞句」, 「副詞節」
Ich イヒ pron 僕は	「主語」
fand ファント 1 単過(finden)v.t 手に入れた	「動詞」
nur schwer ノーア・シュウアー n.n 困難だけを	「目的語」
aus dem Bett, アウス・テム・ベット adv. ベットから出るのに	「副詞句」
denn デン conj. なぜならば	「副詞節」
der gestrige Tag デア・ゲストリゲ・ターク n.m 昨日一日が	「主語」
hatte ...angestrengt. ハッテ...アンゲストレンクト 3 単過・完了形(an strengen) v.t 疲れさせた	「動詞句」

ERSTER TEIL 第1部

mich ミッヒ pron.4 格 僕を

「目的語」

sehr ゼーア adv. 非常に

「副詞」

髭剃りの間じゅう、僕は何をしようかと考えていた。そして、海水浴に行くことにした。
路面電車に乗って、港にある海水浴場に行った。

Während des Rasierens fragte ich mich, was ich unternehmen sollte, und ich beschloß, baden zu gehen. Ich nahm die Straßenbahn und fuhr zur Hafenbadeanstalt.

「副詞句」「動詞句」「主語」「動詞句」「目的語」,und「主語」「動詞」「目的語」

「主語」「動詞」「目的語」und「動詞」「間接目的語」

Während ヱェレント prep (3 格と)(期間) ~の間に、~の間じゅう

「副詞句」

des Rasierens テス・ラシエレンス n.n.3 格 髭剃り

「目的語」

rasieren ラシエレン v.t ひげをそる → 中性名詞化 → 3 格 に活用

fragte ...mich, フラーケ...ミッヒ 1 単過・再帰動詞(sich-4 fragen)

v.pr 自問していた、考えていた

「動詞句」

ich イッヒ pron 僕は

「主語」

was ヱァス pron ~をするかということ

「目的語」

ich イッヒ pron 自分は

「主語」

unternehmen sollte, ウンターネーメン・ゾルテ 1 単過・義務・時制の一致(sollen+不定詞)

v.t するべきである

「動詞句」

und ウント conj. そして

ich イッヒ pron 僕は

「主語」

beschloß, ベッシュロス 1 単過(beschließen)v.t 決めた、決心した

「動詞」

baden zu gehen. バーデン・ツァー・ゲーエン zu 不定詞(gehen+不定詞)

n. 海水浴に行くことを

「目的語」

Ich イッヒ pron 僕は

「主語」

nahm ナム 1 単過(nehmen)v.t (乗り物に) 乗った

「動詞」

die Straßenbahn ティー・シュトラッセンバーン n.f.4 格 路面電車に

「目的語」

und ウント conj. そして

fuhr フーア 1 単過(fahren)v.i 乗って行った

「動詞」

zur Hafenbadeanstalt. ツァー・ハーフェンバー・デア・アンシュタルト adv. 港の海水浴場に

「間接目的語」

Hafen ハーフェン n.m 港 Bad(e)バート n.n 海水浴 Anstalt アンシュタルト n.f 施設

ERSTER TEIL 第1部

泳いで、幅の狭い水路に入った。沢山の若者がいた。

Dort schwamm ich in der schmalen Fahrrinne. Viele junge Leute waren da.

「副詞」「動詞」「主語」「副詞句」 | 「主語」「動詞」「副詞句」

Dort ト^ア adv. そこで

「副詞」

schwamm シュ^ワアン 1 単過(schwimmen)v.i (泳いで) 行った

「動詞」

ich イッヒ pron 僕は

「主語」

in der schmalen Fahrrinne. イン・デア・シュマレン・ファールネ adv. 幅の狭い水路に

「副詞句」

schmal シュマル adj. 幅の狭い Fahrrinne ファールネ n.f 水路

Viele junge Leute フィーレ・ユンゲ・ロイテ pl.n たくさんの若者が

「主語」

waren 3 複過・存在(sein)v.i 〜がいた

「動詞」

da. ダー adv. そこに

「副詞」

海の中で、偶然マリーカルドナに出会った。彼女は僕の会社の元タイピストで、当時ぼくは彼女に惹かれていたが、多分彼女もその気があったと思う。

Im Wasser traf ich Maria Cardona, eine frühere Stenotypistin aus meinem Büro, auf die ich damals scharf gewesen war. Sie wohl auch auf mich.

「副詞句」「動詞」「主語」「目的語」, 「間接目的語」「主語」「副詞」「補語」「動詞」

「主語」「副詞句」

Im Wasser イム・ヴァッサー adv. 水の中で、海に入っている時に

「副詞句」

traf ト^{ラフ} 1 単過(treffen)v.t (偶然) 出会った

「動詞」

ich イッヒ pron 僕は

「主語」

Maria Cardona, マリア・カルト^ナ n.f マリー・カルドナに

「目的語」

eine frühere Stenotypistin アイネ・フューエレ・シュテナティヒ^{スチン}

n.f.1 格 (同格) 元タイピストに

「目的語」

Stenotypistin シュテナティヒ^{スチン} n.f 速記タイピスト

aus meinem Büro, アウス・マイネ・ビュロー adv. 僕の会社の

「副詞句」

auf die アウフ・デー^ケ adv. 彼女に対して

「間接目的語」

ich イッヒ pron 僕は

「主語」

damals ダー・マルス adv. 当時

「副詞」

scharf シャーフ adj. 気に入った、ひきつけられた

「補語」

Er ist sehr scharf auf sie. 彼は彼女にひどくご執心だ。

gewesen war. ゲ^ワエーゼン・ヴァール 1 単過・完了形(sein)v.i 〜だった

「動詞」

Sie ジー pron.f 彼女は

「主語」

wohl ヴォール adv. (推量) たぶん、おそらく

「副詞」

auch アウフ adv. 同様の、〜もまた

「副詞」

auf mich. アウフ・ミッヒ adv. 僕に対して

「副詞句」

ERSTER TEIL 第1部

だが、彼女は間もなく退社したので、その後は、僕たちの関係はそれ以上進展しなかった。

Aber sie kündigte bald, und später ist dann nichts mehr daraus geworden.

Aber 「主語」「動詞」「副詞」,und 「副詞」「動詞句」「副詞」「主語」「動詞句」

Aber アーバー conj. しかし

sie ジー pron.f 彼女は 「主語」

kündigte キュンディクテ 3 単過(kündigen)v.i 退職を願い出た、退職した 「動詞」

bald, バルト adv. まもなく、やがて 「副詞」

und ウント conj. そして

später シュペーター adv. その後は、その後は 「副詞」

ist ...geworden. イスト...ゲウォアデソ 3 単現・完了形・否定文(werden)

v.i 生じなかった、進展しなかった 「動詞句」

dann ダン adv. それから 「副詞」

nichts mehr ニヒツ・メア pron もう何も～ない 「主語」

daraus ダラウス adv. それについて 「副詞」

僕は、彼女がブイに上がる時に手を貸した。その時に、彼女の胸に軽く触れた。

Ich half ihr, als sie auf eine Boje klettern wollte, und streifte dabei ihre Brust.

「主語」「動詞」「間接目的語」「副詞節」,und 「動詞」「副詞」「目的語」

Ich イット pron 僕は 「主語」

half ハルフ 1 単過(helfen)v.i (j-3 に) 手を貸した 「動詞」

ihr, イーア pron.f.3 格 彼女に 「間接目的語」

als アルス conj. ～する時に 「副詞節」

sie ジー pron.f.1 格 彼女が 「主語」

auf eine Boje アウフ・アイネ・ボーエ adv. ブイの上に 「副詞句」

klettern wollte, クレッタン・ウォルテ 3 単過・意志(wollen+不定詞)

v.t よじ登ろうとしていた 「動詞句」

und ウント conj. そして

streifte シュトライフテ 1 単過(streifen)v.t 軽く触れた 「動詞」

dabei ダバイ adv. その時に 「副詞」

ihre Brust. イレ・ブルスト n.f 彼女の胸に 「目的語」

ERSTER TEIL 第1部

僕がまだ水の中にいる時に、彼女はもうすでにブイの上で腹ばいになっていた。

Ich war noch im Wasser, als sie schon bäuchlings auf der Boje lag.

「主語」「動詞」「副詞句」, 「副詞節」

Ich イッヒ pron 僕は

「主語」

war ヲアール 1 単過・存在(sein)v.i ~ にいた

「動詞」

noch im Wasser, ノッホ・イム・ウ・アッサー adv. まだ水の中に

「副詞句」

als アルス conj. その時~する

「副詞節」

sie ジー pron.f.1 格 彼女は

「主語」

schon ショーン adv. もう、早くも、すでに

「副詞」

bäuchlings ボイリングス adv. 腹ばいで、うつ伏せに

「副詞」

auf der Boje アウフ・デア・ボーエ adv. ブイの上で

「副詞句」

lag. ラーク 3 単過(liegen)v.i 横になっていた

「動詞」

彼女が僕の方へ振り返った。髪が顔にかかり、彼女は笑っていた。僕はブイの上の彼女の隣に這い上がった。

Sie wandte sich nach mir um. Das Haar hing ihr ins Gesicht, und sie lachte. Ich schwang mich neben sie auf die Boje.

「主語」「動詞句」「副詞句」 | 「主語」「動詞」「副詞句」, und 「主語」「動詞」

「主語」「動詞句」「副詞句」

Sie ジー pron.f 彼女が

「主語」

wandte sich ...um. ヲアンテ・ズイッヒ...ウム 3 単過(sich-4 um | wenden)v.pr 振り返った

「動詞句」

nach mir ナーハ・ミア adv. 僕の方へ

「副詞句」

Das Haar ダス・ハール n.n 髪が

「主語」

hing ヒンク 3 単過(hängen)v.i 掛かっていた

「動詞」

ihr イー pron.3 格 彼女の

「間接目的語」

ins Gesicht, インス・ゲズイヒト adv. 顔に

「副詞句」

und ウント conj. そして

sie ジー pron.f.1 格 彼女は

「主語」

lachte. ラハテ 3 単過(lachen)v.i 笑っていた

「動詞」

Ich イッヒ pron 僕は

「主語」

schwang mich シュウ・アंक・ミッヒ 1 単過(sich-4 schwingen)

v.pr (弾みをつけて) 体を振り動かした

「動詞句」

neben sie ネベン・ジー adv. 彼女の隣に

「副詞句」

auf die Boje. アウフ・ディー・ボーエ adv. ブイの上で

「副詞句」

ERSTER TEIL 第1部

気持ちよかった。僕は冗談で頭を後ろの方へずらして、彼女の腹の上に乘せた。

Es war herrlich, und zum Spaß lehnte ich den Kopf nach hinten und legte ihn auf ihren Bauch.

「主語」「動詞」「補語」,und「副詞句」「動詞」「主語」「目的語」「副詞句」
und「動詞」「目的語」「副詞句」

Es エス pron それは 「主語」
war ヴァール 3 単過(sein)v.i ~ だった 「動詞」
herrlich, ヘアリッヒ adj. 素晴らしい 「補語」
und ウント conj. そして
zum Spaß ツーム・シュパース adv. (条件・目的) 冗談で 「副詞句」
lehnte レンテ 1 単過(lehnen)v.t もたれさせた 「動詞」
ich イッヒ pron 僕は 「主語」
den Kopf デン・コプフ n.m 頭を 「目的語」
nach hinten ナーハ・ヒンテン adv. 後方へ 「副詞句」
und ウント conj. そして
legte レーケ 1 単過(legen)v.t 置いた、のせた 「動詞」
ihn イーン pron (Kopf の代用) それを 「目的語」
auf ihren Bauch. アウフ・イーレン・バウフ adv. 彼女の腹の上に 「副詞句」

彼女が何も言わなかったので、僕はその姿勢のままでいた。空全体が視界に入った。真っ青な空に太陽の金色が際立っていた。

Sie sagte nichts, und ich blieb so. Ich hatte den ganzen Himmel in den Augen, und der Himmel war golden und blau.

「主語」「動詞」「目的語」,und「主語」「動詞」「副詞」

「主語」「動詞」「目的語」「副詞句」,und「主語」「動詞」「補語」

Sie ジー pron.f 彼女は 「主語」
sagte サーケ 3 単過(sagen)v.t 言った 「動詞」
nichts, ニヒツ pron 何も～ない 「目的語」
und ウント conj. そして
ich イッヒ pron 僕は 「主語」
blieb ブリーフ 1 単過(bleiben)v.i (状態・維持) ~のままでいた 「動詞」
so. ゴー adv. (様態) そのような 「副詞」
Ich イッヒ pron 僕は 「主語」
hatte ハッテ 1 単過(haben)v.t 持った、～をとらえた 「動詞」
den ganzen Himmel デン・ガンツェン・ヒメル n.m.4 格 空全体を 「目的語」
仰向けなので、空全体が見える
in den Augen, イン・デン・アウゲン adv. 目の中に 「副詞句」

ERSTER TEIL 第1部

und ウント conj. そして

der Himmel デア・ヒメル n.m 空は

「主語」

war ヲアール 3 単過(sein)v.i ~ だった

「動詞」

golden und blau. ゴルデン・ウント・ブラウ adj. 金色と青色

「補語」

僕のうなじを通して、マリーの腹が脈打つのが感じられた。

In meinem Nacken fühlte ich das leise Pochen von Marias Leib.

「副詞句」「動詞」「主語」「目的語」

In meinem Nacken イン・マイネム・ナッケン adv. (空間的) 僕のうなじから

「副詞句」

fühlte フュルテ 1 単過(fühlen)v.t 感じた

「動詞」

ich イヒ pron 僕は

「主語」

das leise Pochen ダス・ライゼ・ポッヘン n.n.4 格 かすかな動悸を、鼓動を

「目的語」

von Marias Leib. フォン・マリアス・ライプ adv. (起点) マリーの腹から

「副詞句」

うなじ

首の後ろの下側、首と肩の接合部付近

僕たちは半睡状態で、ずっとブイの上で横になっていた。

Halb schlafend blieben wir lange auf der Boje liegen.

「副詞句」「動詞句」「主語」「副詞句」「動詞句」

Halb schlafend ハルプ・シュラーフェント 現在分詞・同時(schlafen)adv. 半睡状態で

「副詞句」

blieben ...liegen. ブリーヘン...リーゲン 1 複過・継続(bleiben+不定詞 liegen)

v.i ずっと横になっていた

「動詞句」

bleiben +(hängen, sitzen, stehen...)

「ぶら下がったままにいる、座ったままにいる、立ったままにいる...」

wir ヲィア pron.pl 僕たちは

「主語」

lange ランゲ adv. 長い間

「副詞句」

auf der Boje アウフ・デア・ボーイフェ adv. ブイの上に

「副詞句」

ERSTER TEIL 第1部

日差しが強烈になると、マリーは海に飛び込んだ。僕も後に続いた。彼女に迫り着き、僕は片手で彼女の腰をつかんで、二人で沖に向かって泳いだ。

Als die Sonne zu kräftig wurde, schwamm Maria fort, und ich folgte ihr. Ich holte sie ein, legte ihr den Arm um die Taille, und wir schwammen zusammen weiter.

「副詞節」, 「動詞句」 「主語」 「動詞句」, und 「主語」 「動詞」 「間接目的語」

「主語」 「動詞句」 「目的語」 「動詞句」, 「動詞」 「間接目的語」 「直接目的語」 「副詞句」, und 「主語」 「動詞」 「副詞句」

Als アルス conj. ～する時、～すると 「副詞節」

die Sonne デー・ゾネ n.f 日差しが、太陽が 「主語」

zu ツー adv. あまりに～すぎる 「副詞」

kräftig クレフティヒ adj. 強い、強烈な 「補語」

wurde, ヴァルテ 3 単過・変化(werden)v.i ～になった 「動詞」

schwamm ...fort, シュヴァム...フォート 3 単過(fort | schwimmen)

v.i (ブイから海へ) 飛び込んだ 「動詞句」

fort- 前つづり 「離脱、前進」

Maria マリア n.f マリーは 「主語」

und ウント conj. そして

ich イヒ pron 僕は 「主語」

folgte フォルクテ 1 単過(folgen)v.i 後に続いた 「動詞」

ihr. イア pron.f.3 格 彼女の 「間接目的語」

Ich イヒ pron 僕は 「主語」

holte ...ein, ホルテ...アイン 1 単過(ein | holen)v.t 追いついた 「動詞句」

sie ジー pron.f.4 格 彼女に 「目的語」

legte レーケテ 1 単過(legen)v.t あてがった、置いた 「動詞」

ihr イア pron.f.3 格 彼女の 「間接目的語」

den Arm デン・アルム n.m 僕の手を 「直接目的語」

um die Taille, ウム・デー・タエ adv. (位置) 腰あたりに 「副詞句」

und ウント conj. そして

wir ヴァー pronom.pl 僕たちは 「主語」

schwammen シュヴァメン 1 複過(schwimmen)v.i 泳いだ 「動詞」

zusammen ツァメン adv. 一緒に 「副詞」

weiter. ヴァイター adv. もっと先へ 「副詞」

ERSTER TEIL 第1部

彼女はずっと笑っていた。

Sie lachte dauernd.

「主語」「動詞」「副詞」

Sie ジー pron.f 彼女は

「主語」

lachte ラヘ 3 単過(lachen)v.i 笑っていた

「動詞」

dauernd. ダウ-ント adv. 絶え間なく、ずっと

「副詞」

埠頭に上がって体を拭いていると、彼女が僕に言った：「私の方が日焼けしているわ」

Als wir uns auf dem Kai abtrockneten, sagte sie zu mir: «Ich bin brauner als Sie.»

「副詞節」, 「動詞」「主語」「間接目的語」: 《「主語」「動詞」「補語」》

Als アルス conj. ～した時

「副詞節」

wir ウィア pron.pl 僕たちが

「主語」

uns ウンス pron.pl.3 格 自分の

「間接目的語」

auf dem Kai アウフ・デーム・カイ adv. 埠頭の上で

「副詞句」

abtrockneten, アップ・トロクネン 1 複過(ab | trocknen)

v.t(sich-3 体を) 拭いていた

「動詞句」

sagte サークテ 3 単過(sagen)v.t 言った

「動詞」

sie ジー pron 彼女が

「主語」

zu mir: ツー・ミーア adv. 僕に

「間接目的語」

«Ich イット pron 私は

「主語」

bin ビン 1 単現(sein)v.i ～である

「動詞」

brauner ブラウナー adj(braun). (比較級) もっと日焼けした

「補語」

als Sie.» アルス・ジー adv. (比較) あなたよりも

「副詞句」

僕は、夜一緒に映画に行かないかと、彼女を誘ってみた。

Ich fragte sie, ob sie am Abend mit ins Kino käme.

「主語」「動詞」「間接目的語」「直接目的語」

Ich イット pron 僕は

「主語」

fragte フラクテ 1 単過(fragen)v.t 尋ねた

「動詞」

sie, ジー pron 彼女に

「間接目的語」

ob オップ conj. ～かどうかということを

「直接目的語」

sie ジー pron 彼女は

「主語」

am Abend アム・アーベント adv. 夜に、夕方に

「副詞句」

mit ins Kino ミット・インス・キノ adv. 一緒に映画に

「副詞句」

käme. ケメ 接 II・3 単現・判断(kommen)v.i 来る

「動詞」

ERSTER TEIL 第1部

彼女はまた笑って、フェルナンデルの映画を見たいと言った。

Sie lachte wieder und sagte, sie sähe gern mal einen Film mit Fernandel.

「主語」「動詞」「副詞」 und 「動詞」「目的語」

Sie ジー pron.f 彼女は

「主語」

lachte ラヘ 3 単過(lachen)v.i 笑った

「動詞」

wieder ヲィター adv. また、再び

「副詞」

und ウント conj. そして

sagte, ザーケ 3 単過(sagen)v.t 言った

「動詞」

n. ～ということを

「目的語」

sie ジー pron.f 彼女は

「主語」

sähe セーエ 接 II・3 単現・意志(sehen)v.t 見る

「動詞」

gern mal ゲアン・マル adv. 喜んで

「副詞句」

einen Film アイネン・フィルム n.m 映画を

「目的語」

mit Fernandel. ミット・フェルナンデル

adv. (意味上の主語) フェルナンデル主演の

「副詞句」

僕たちが服を着終わると、彼女はひどく驚いていた。僕は黒のネクタイをしていたのだ。

彼女は僕に、何か不幸があったのかを尋ねた。

Als wir uns angezogen hatten, war sie sehr erstaunt, daß ich eine schwarze Krawatte trug; sie fragte mich, ob ich Trauer habe.

「副詞節」, 「動詞」「主語」「補語」, 「副詞節」;

「主語」「動詞」「間接目的語」「直接目的語」

Als アルス conj. ～した時

「副詞節」

wir ヲィア pron.pl 僕たちが

「主語」

uns angezogen hatten, ウンス・アン・ゲゾー・ゲン・ハッテン 1 複過・完了形(sich-4 an | ziehen)

v.pr 服を着た

「動詞句」

war ヲァール 3 単過(sein)v.i ～ だった

「動詞」

sie ジー pron.f 彼女は

「主語」

sehr erstaunt, セーア・エアシュタウト adj. とても驚いた

「補語」

daß ダス conj. (事実) ～なのだ

「副詞節」

ich イヒ pron 僕は

「主語」

eine schwarze Krawatte アイネ・シュヴァールツェ・クラヴァッテ

n.f.4 格 黒のネクタイを

「目的語」

schwarze シュヴァールツェ adj(schwarz).f.4 格 黒色の

trug; トゥルク 1 単過(tragen)v.t 着ていた、身に着けていた

「動詞」

sie ジー pron 彼女は

「主語」

ERSTER TEIL 第1部

fragte フラケ 3 単過(fragen)v.t 尋ねた	「動詞」
mich, ミッヒ pron.4 格 僕に	「間接目的語」
mich は 4 格だけれど、意味的には「間接目的語」	
ob オッパ conj. ～かどうかということ	「直接目的語」
こちらの方が「質問」の「直接目的語」と考えられる	
ich イッヒ pron 僕が	「主語」
Trauer トラウアー n.f.4 格 喪、喪服期間	「目的語」
habe. ハーベ 1 単現(haben)v.t (状況) ～である	「動詞」

僕は彼女に、母さんが死んだと言った。彼女がいつだったのか尋ねたので、昨日と答えた。

Ich sagte ihr, Mama sei tot. Als sie wissen wollte seit wann, antwortete ich: «Seit gestern.»

「主語」「動詞」「間接目的語」「直接目的語」 「副詞節」, 「動詞」「主語」「副詞句」	
Ich イッヒ pron 僕は	「主語」
sagte サークテ 1 単過(sagen)v.t 言った	「動詞」
ihr, イーア pron.f.3 格 彼女に	「間接目的語」
Mama ママ n.f 母さんが～ということ	「直接目的語」
sei サイ接・3 単現(sein)v.i ～である	「動詞」
tot. トット adj. 死んだ	「補語」
接続法は、真実かどうかを疑う気持ちが含まれる → 残念だが亡くなってしまった	
Als アルス conj. ～して、～した時	「副詞節」
sie ジー pron.f 彼女が	「主語」
wissen wollte ヴァッセン・ヴォルテ 3 単過・願望(wollen+不定詞)	
v.t 尋ねた、知りたがった	「動詞句」
seit wann, サイト・ヴァン adv. いつから、いつ	「副詞句」
antwortete アントヴテ 1 単過(antworten)v.i 答えた	「動詞」
ich: イッヒ pron 僕は	「主語」
«Seit gestern.» サイト・ゲスターン adv. 昨日から、昨日	「副詞句」

彼女は少し驚いたが、何も言わなかった。

Sie zuckte ein wenig zusammen, aber sie sagte nichts.

「主語」「動詞句」「副詞句」, aber 「主語」「動詞」「目的語」	
Sie ジー pron.f 彼女は	「主語」
zuckte ...zusammen, ツクテ...ツァメン 3 単過(zusammen zucken)v.i びっくりとした	「動詞句」
ein wenig アイン・ヴェニツィ adv. 少し	「副詞句」
aber アーバー conj. しかし	

ERSTER TEIL 第1部

sie シー pron.f 彼女は 「主語」
 sagte サークテ 3 単過(sagen)v.t 言った 「動詞」
 nichts. ニッツ pron 何も～ない 「目的語」

それは僕のせいではないと彼女に言おうと思ったが、すでに社長にそう言ったことを思い
 出して、何も言わなかった。

Ich wollte ihr eigentlich sagen, daß ich nichts dafür könnte, aber dann habe ich doch
nichts gesagt, weil mir einfiel, daß ich das schon meinem Chef gegenüber geäußert hatte.

「主語」「動詞句」「間接目的語」「副詞」「動詞句」「直接目的語」,
 aber 「副詞」「動詞句」「主語」 doch 「目的語」「動詞句」, 「副詞節」

Ich イッヒ pron 僕は 「主語」
 wollte ...sagen, ヴォルテ...サーゲン 1 単過・意志(wollen+不定詞)
 v.t(dass ～だと) 言おうとした 「動詞句」
 ihr イア pron.f.3 格 彼女に 「間接目的語」
 eigentlich アイゲンツリヒ adv. 実際は 「副詞」
 daß ダス conj. ～ということ 「直接目的語」
 ich イッヒ pron 僕は 「主語」
 nichts dafür ニッツ・ダフュア pron それについて何も～ない 「目的語」
 könnte, ケンテ 接 II・1 単現・本人の考え(können)
 v.t (否定文で) 責任はない 「動詞」

Ich kann nichts dafür. 「私にはその責任はない」
 aber アーバー conj. しかし
 dann ダン adv. それから 「副詞」
 habe ...gesagt, ハーベ...ゲザークト 1 単現・完了形(sagen)v.t 言った 「動詞句」
 ich イッヒ pron 僕は 「主語」
 doch ドツッ conj. しかし
 nichts ニッツ pron 何も～ない 「目的語」
 weil ヴァイル conj. ～なので 「副詞節」
 mir ミア ppron 私の 「間接目的語」
 einfiel, アイン・フィール 3 単過(ein | fallen)v.i 心に浮かんだ、思いついた 「動詞句」
 daß ダス conj. ～ということが 「主語」
 ich イッヒ pron 僕は 「主語」
 das ダス pron それを 「直接目的語」
 schon ショーン adv. もう、すでに 「副詞」
 meinem Chef メイン・シェフ n.m.3 格 社長に 「間接目的語」
 gegenüber ゲーゲンユーバー

ERSTER TEIL 第1部

prep (しばしば後置) 〜に対して 「副詞句」
 geäußert hatte. ゲオイサート・ハッテ 1 単過・完了形(äußern)
 v.t 述べていた 「動詞句」

その上、言っても何の意味もなかった。どうやら、いつでも少しは自分に責任がある。

Es besagte ja auch gar nichts. Irgendwie kann man immer ein bißchen dafür.

「主語」「動詞」「副詞」「目的語」 | 「副詞」「動詞句」「主語」「副詞句」「動詞句」
 Es エス pron それは 「主語」
 besagte ベザークテ 3 単過(besagen)v.t 意味した、述べた 「動詞」
 ja ヤー adv. その上 「副詞」
 auch gar nichts. アウフ・ガール・ニッツ pron 全く何も〜ない 「目的語」
 Irgendwie イルゲンツワイアー adv. 何らかの方法で、なんとなく 「副詞」
 kann ...dafür. カン...ダフアー 3 単現(dafür|können)v.t 責任がある 「動詞句」
 man マン pron 自分は 「主語」
 man は、ich, wir や du, ihr, Sie の代用として使われることがある
 immer イマー adv. いつでも 「副詞」
 ein bißchen アイン・ビッシェン adv. 少しは 「副詞句」

夜になると、マリーはみんな忘れていた。

Abends hatte Maria alles vergessen. 「副詞」「動詞句」「主語」「目的語」「動詞句」
 Abends アーベントツ adv. 夜に 「副詞」
 hatte ...vergessen. ハッテ...フェアゲッセン 3 単過・完了形(vergessen)v.t 忘れていた 「動詞句」
 Maria マリア n.f マリーは 「主語」
 alles アレス pron すべてを、みんな 「目的語」

映画は、ところどころ面白かったが、全体としては全くくだらなかった。

Der Film war stellenweise ganz lustig, aber im ganzen reichlich blöd.

「主語」「動詞」「補語」, aber 「補語」
 Der Film テア・フィルム n.m 映画は 「主語」
 war ヴァール 3 単過(sein)v.i 〜 だった 「動詞」
 stellenweise ganz lustig, シュテレンヴァイゼ・ガンツ・ルスティヒ adj. ところどころ面白い 「補語」
 stellenweise シュテレンヴァイゼ adv. ところどころ lustig ルスティヒ adj. 面白い
 aber アーバー conj. しかし
 im ganzen reichlich blöd. イム・ガンツェン・ライヒリヒ・ブレート
 adj. 全体的にまったくくだらない 「補語」
 ganzen ガンツェン adv. 全体に reichlich ライヒリヒ adv. かなり blöd ブレート adj. くだらない

ERSTER TEIL 第1部

マリーが脚を僕の脚に押し付けてきた。僕は彼女の胸を愛撫した。

Sie drückte ihr Bein gegen das meine. Ich streichelte ihre Brüste.

「主語」「動詞」「目的語」「副詞句」 | 「主語」「動詞」「目的語」

Sie シー pron 彼女は 「主語」
 drückte トリュッケテ 3 単過(drücken)v.t 押し付けてきた 「動詞」
 ihr Bein イー・バイン n.n.4 格 彼女の脚を 「目的語」
 gegen ゲーゲン prep (方向) への方へ 「副詞句」
 das meine. ダス・マイネ pron.n 僕の脚 「目的語」
 Ich イッヒ pron 僕は 「主語」
 streichelte シュトラヒェルテ 1 単過(streicheln)v.t 愛撫した 「動詞」
 ihre Brüste. イーレ・ブリュステ pl(Brust).n.f.4 格 彼女の胸を 「目的語」

映画の終わりごろに、僕は彼女にキスしたが、あまりうまくなかった。そのあとで、彼女は一緒に僕の部屋に来た。

Gegen Ende der Vorstellung küßte ich sie, aber es war nichts Ordentliches. Hinterher kam sie dann mit zu mir.

「副詞句」, 「動詞」「主語」「目的語」, aber 「主語」「動詞」「補語」

「副詞」「動詞」「主語」「副詞」「間接目的語」

Gegen ゲーゲン prep (4 格と) (時間的) 頃 「副詞句」
 Ende エンデ n.n.4 格 終わり 「目的語」
 der Vorstellung デア・フォアシュテルング adj. 上映の、映画の 「形容詞句」
 küßte キュステ 1 単過(küssen)v.t キスした 「動詞」
 ich イッヒ pron 僕は 「主語」
 sie, シー pron.f.4 格 彼女に 「目的語」
 aber アーバー conj. しかし
 es エス pron それは 「主語」
 war ヴァール 3 単過(sein)v.i だった 「動詞」
 nichts Ordentliches. ニヒツ・オアデントリッヒェス adj. とても出来の悪い 「補語」
 Hinterher ヒンターヘーア adv. その後 「副詞」
 kam カム 3 単過(kommen)v.i 来た 「動詞」
 sie シー pron 彼女は 「主語」
 dann ダン adv. それから 「副詞」
 mit zu mir. ミット・ツァー・ミーア adv. 一緒に僕の部屋に 「間接目的語」

ERSTER TEIL 第1部

目を覚ました時、マリーはもういなかった。叔母さんの家に行くと言っていたのだった。

Als ich wach wurde, war Maria schon fort. Sie hatte erklärt, sie müsse zu ihrer Tante.

「副詞節」, 「動詞」「主語」「補語」 | 「主語」「動詞句」「目的語」

Als アルス conj. ～した時

「副詞節」

ich イヒ pron 僕が

「主語」

wach ハッハ adj. 目覚めている

「補語」

wurde, ヴァルテ 1 単過・変化(werden)v.i ～になった

「動詞」

war ヴァール 3 単過(sein)v.i ～ だった

「動詞」

Maria マリア n.f マリーは

「主語」

schon fort. ショーン・フォート adj. もういなくなって

「補語」

Sie ジー pron.f 彼女は

「主語」

hatte erklärt, ハッテ・エクレアト 3 単過・完了形(erkennen)v.t 言っていた、説明していた「動詞句」

sie ジー pron 彼女は～ということを

「目的語」

müsse ミュッセ 接・3 単現(müssen)v.i (本動詞省略) 行かなければならない「動詞」

後続の単語から、本動詞を推測して翻訳する

zu ihrer Tante. ツー・イーラー・タンテ adv. 叔母の所へ

「間接目的語」

今日は日曜日だと、突然思いました。僕は腹が立った：僕は日曜日は好きではない。

Mir fiel ein, daß es Sonntag war, und das ärgerte mich: ich mag den Sonntag nicht.

「間接目的語」「動詞句」「主語」,

und 「主語」「動詞」「目的語」: 「主語」「動詞句」「目的語」

Mir ミーア pron 僕に、僕の～に

「間接目的語」

fiel ein, フィール・アイン 3 単過(ein | fallen)v.i (突然) 心に浮かんだ

「動詞句」

daß ダス conj. ～という事が

「主語」

es エス pron 日にち、曜日は

「主語」

Sonntag ソンターク n.m 日曜日

「補語」

war, ヴァール 3 単過(sein)v.i ～ だった

「動詞」

und ウント conj. そして

das ダス pron それは

「主語」

ärgerte エアゲルテ 3 単過(ärgern)v.t 怒らせた、苛立たせた

「動詞」

mich: ミヒ pron 僕を

「目的語」

ich イヒ pron 僕は

「主語」

mag ...nicht. マーク...ニヒト 1 単現・否定(mögen)v.t 好きではない

「動詞句」

mögen メーゲン [助] ～かもしれない、すればよい、[本動詞として] 好きである

den Sonntag デン・ソンターク n.m.4 格 日曜日を

「目的語」

ERSTER TEIL 第1部

僕は横になったまま、ベッドの上で体の向きを変えて、マリーの髪が残っていた潮の香りを枕の中を探した。それから10時まで眠った。

Ich legte mich auf die andere Seite und suchte im Kopfkissen den Salzduft, den Marias Haar dort hinterlassen hatte, und schlief bis zehn Uhr.

「主語」「動詞句」「副詞句」 und 「動詞」「副詞句」「目的語」
und 「動詞」「副詞句」

Ich	イッヒ pron	僕は	「主語」
legte mich	レークテ・ミッヒ	1 単過(sich-4 legen)v.pr	横になった
auf die andere Seite	アウフ・デー・イー・アンデレ・ザイテ	反対側に	「副詞句」
und	ウント conj.	そして	
suchte	スツッテ	1 単過(suchen)v.t	探した
im Kopfkissen	イム・コプ・フキッセン	adv.	枕の中を
den Salzduft,	デン・ザルツ・ドゥフト	n.m.4 格(Salz+Duft)	潮の匂いを
den	デン pron.m.4 格	それを	「目的語」
Marias Haar	マリ阿斯・ハール	n.n.1 格	マリーの髪が
dort	ドート adv.	そこに	「副詞」
hinterlassen hatte,	ヒンター・ラッセン・ハッテ	3 単過・完了形(hinterlassen)	
	v.t	(立ち去る際に) 後に残した	「動詞句」
und	ウント conj.	そして	
schlief	シュリーフ	1 単過(schlafen)v.i	眠った
bis zehn Uhr.	ビス・ツェーン・ウアー	adv.	10 時まで

僕はそれからさらにベッドに残って、正午まで何本もタバコを吸っていた。

Ich bin dann noch im Bett geblieben und habe bis Mittag Zigaretten geraucht.

	「主語」「動詞句」「副詞句」「動詞句」 und 「動詞句」「副詞句」「目的語」「動詞句」
Ich	イッヒ pron 僕は 「主語」
bin ...geblieben	ビン...ゲブリーベン 1 単現・完了形(bleiben)v.i 残っていた 「動詞句」
dann noch	ダン・ノッホ adv. それから もっと 「副詞句」
im Bett	イム・ベット adv. ベッドに 「副詞句」
und	ウント conj. そして
habe ...geraucht.	ハーベ...ゲラウフト 1 単現・完了形(rauchen)v.i タバコを吸った 「動詞句」
bis Mittag	ビス・ミターク adv. 正午まで 「副詞句」
Zigaretten	ツィガレッテン pl(Zigarette).n.f 何本もタバコを 「目的語」

ERSTER TEIL 第1部

僕はいつものようにセレステの店で食事をしたいと思わなかった。なぜなら、もし店に行
ったとしたら、皆が僕にあれこれ尋ねたに違いないし、僕はそういうのは嫌いだから。

Ich wollte nicht wie sonst bei Celeste essen, denn man hätte mich sicherlich allerlei
gefragt, und das mag ich nicht. 「主語」「動詞句」「副詞句」「動詞句」, 「副詞節」

Ich イッヒ pron 僕は 「主語」

wollte nicht ...essen, ヲォルテ・ニヒト...エッセン 1 単過・願望・否定(wollen+不定詞)

v.i 食べたくなかった 「動詞句」

wie sonst ヲィー・ゾnst adv. いつものように 「副詞句」

wie ヲィー conj. へのように sonst ゾnst adv. いつもは

bei Celeste バイ・セステ adv. (場所) セレステの店で 「副詞句」

denn デン conj. (理由) なぜならば 「副詞節」

man マン pron (店にいる人) 皆が 「主語」

hätte ...gefragt, ヘッテ...ゲフラークト 接 II・3 単現・完了形・假定(fragen)

v.t(j-4 に) 尋ねただろう 「動詞句」

mich ミッヒ pron.4 格 僕に 「目的語」

sicherlich スィヒャーリヒ adv. 確実に、必ず 「副詞」

allerlei アラライ adv. あれこれと 「副詞」

und ウント conj. そして

das ダス pron.4 格 それを 「目的語」

mag ...nicht. マク...ニヒト 1 単現・否定(mögen)v.t 好まない、好きでない 「動詞句」

ich イッヒ pron 僕は 「主語」

僕は自分で卵を焼き、フライパンから直にそれを取って、パン無しで食べた。

Ich habe mir Eier gebraten und aß sie ohne Brot aus der Pfanne.

「主語」「動詞句」「間接目的語」「直接目的語」 und 「動詞」「目的語」「副詞句」

Ich イッヒ pron 僕は 「主語」

habe ...gebraten ハーベ...ゲブラーテン 1 単現・完了形(braten)v.t 焼いた 「動詞句」

mir ミーア pron.3 格 自分のために、自分で 「間接目的語」

Eier アイアー pl(Ei).n.n.4 格 卵を 「直接目的語」

und ウント conj. そして

aß アース 1 単過(essen)v.t 食べた 「動詞」

sie ジー pron.pl.4 格 (性の区別なし) それらを 「目的語」

ohne Brot オーネ・ブロート adv. パン無しで 「副詞句」

aus der Pfanne. アウス・デア・プファネ adv. フライパンから直に (皿を使わず) 「副詞句」

ERSTER TEIL 第1部

もうパンは残っていなかったが、降りて、パンを買いに行く意欲も無かった。

Ich hatte keins mehr da und hatte auch keine Lust hinunterzugehen und welches zu kaufen. 「主語」「動詞」「目的語」「副詞」 und 「動詞」「副詞」「目的語」

Ich イッヒ pron 僕は 「主語」

hatte ハッテ 1 単過(haben)v.t 〜があった 「動詞」

keins mehr カインス・メーヤ pron もう何も〜ない 「目的語」

da ダー adv. そこに 「副詞」

und ウント conj. そして

hatte ハッテ 1 単過(haben)v.t 〜があった 「動詞」

auch アウフ adv. 〜も 「副詞」

keine Lust, カイネ・ルスト n.f 気持ちが〜ない、意欲が 「目的語」

hinunterzugehen ヒンター・ツァー・ゲーエン zu 不定詞・目的 adj. 行くための 「形容詞句」

und ウント conj. そして

welches ヴェルヒェス pron いくらかを 「目的語」

zu kaufen. ツァー・カフエン zu 不定詞・目的 adj. 買うための 「形容詞句」

昼食後、僕は少し退屈したので、部屋の中を歩き回った。

Nach dem Frühstück langweilte ich mich ein bißchen und ging in der Wohnung auf und ab. 「副詞句」「動詞句」「主語」「副詞句」 und 「動詞」「副詞句」

Nach ナーハ prep (時間的) 〜の後で 「副詞句」

dem Frühstück デーム・フリュシュトゥック n.n 朝食 「目的語」

langweilte ...mich ラングヴェイルテ...ミッヒ 1 単過(sich+4 langweilen)v.pr 退屈した 「動詞句」

ich イッヒ pron 僕は 「主語」

ein bißchen アイン・ビッシェン adv. 少し 「副詞句」

und ウント conj. そして

ging キング 1 単過(gehen)v.i 歩いた、行った 「動詞」

in der Wohnung イン・デア・ウォヌング adv. 部屋の中を 「副詞句」

auf und ab. アウフ・ウント・アプ adv. 行ったり来たり 「副詞句」

フランス語の原文では：

昼食後、僕は少し退屈になって、アパートマンの中を歩き回った。

Après le déjeuner, je me suis ennuyé un peu et j'ai erré dans l'appartement.

朝食は、petit déjeuner である

ERSTER TEIL 第1部

母さんがまだいた頃は、この部屋も居心地が良かった。

Sie war gemütlich gewesen, solange Mama noch da war.

「主語」「動詞句」「補語」「動詞句」, 「副詞節」

Sie シー pron (Wohnung の代用) 部屋は

「主語」

war ...gewesen, ヲアル...ゲウエゼン 3 単過・完了形(sein)v.i ~ だった

「動詞句」

gemütlich ゲミュートリヒ adj. 居心地の良い、くつろげる

「補語」

solange ソランゲ conj. ~する間は

「副詞節」

Mama ママ n.f 母さんが

「主語」

noch da ノッホ・ダー adv. まだそこに

「副詞句」

war. ヲアル 3 単過・存在(sein)v.i ~ にいた

「動詞」

今は僕には広すぎて、食堂のテーブルを僕の部屋に運び入れなければならなかった。

Nun ist sie für mich zu groß, und ich habe den Tisch aus dem Eßzimmer in, mein Zimmer stellen müssen.

「副詞」「動詞」「主語」「補語」, und 「主語」「動詞句」「目的語」「副詞句」「動詞句」

Nun ヌン adv. 今では、いまや

「副詞」

ist イスト 3 単現(sein)v.i ~である

「動詞」

sie シー pron (Wohnung の代用) 部屋は

「主語」

für mich フュア・ミヒ adv. 僕にとっては

「副詞句」

zu groß, ツー・グロース adj. 大きすぎる

「補語」

und ウント conj. そして

ich イヒ pron 僕は

「主語」

habe ...stellen müssen. ハーベ ...シュテレン・ミュッセン 1 単現・完了形・必要(müssen+不定詞 stellen)

v.t 置かなければならなかった

「動詞句」

den Tisch デン・ティッシュ n.m テーブルを

「目的語」

aus dem Eßzimmer in, mein Zimmer アウス・デーム・エスチマー・イン・マイン・ツィマー

adv. 食堂から出して僕の部屋の中に

「副詞句」

今ではもう、藁詰めの使い古した椅子があるこの部屋と、曇った姿見のついたダンスと、銅製のベッドと一体になった化粧台しか使っていない。

Ich benutze nur noch dieses Zimmer mit den etwas eingesessenen Strohstühlen, den Schrank mit dem blinden Spiegel, den Toilettetisch mit dem kupfernen Bett.

「主語」「動詞」「副詞句」「目的語」

Ich イヒ pron 僕は

「主語」

benutze ベヌツェ 1 単現(benutzen)v.t 使用している、利用している

「動詞」

nur noch ヌア・ノッホ adv. もう～だけ

「副詞句」

ERSTER TEIL 第1部

dieses Zimmer ディゼス・チマー n.n.4 格 この部屋 「目的語」
 mit den etwas eingesessenen Strohstühlen, ミット・デーン・エトワッス・アインゲゼッセン・シュトロー・シュトゥーレン
 adv. (部屋の備品) 長年使った座部に麦藁が詰まった椅子がある 「副詞句」
 eingesessenen アインゲゼッセン adj.n.3 格 (ずっと前から) 住み着いている
 Stroh シュトロー n.n 麦藁 Stühlen シュトゥーレン pl(Stuhl).n.n.3 格 (背もたれのある) 椅子
 Strohstühlen シュトロー・シュトゥーレン → 座部に麦藁が詰められた椅子
 den Schrank デーン・シュランク n.m.4 格 タンスを 「目的語」
 mit dem blinden Spiegel, ミット・デーム・ブリンドン・シュピゲル
 adv. (付属品) 曇った鏡のついた 「副詞句」
 den Toilettetisch デーン・トイレット・ティッシュ n.m.4 格 化粧台を 「目的語」
 mit dem kupfernen Bett. ミット・デーム・クープ フェアネン・ベット
 adv. (様態) 銅製のベッドと一体になった 「副詞句」

あとは全くほったらかしの状態だ。

Alles übrige ist völlig verwahrlost! 「主語」「動詞」「補語」
 Alles übrige アレス・ユーブリゲ pron 他のすべては 「主語」
 ist イスト 3 単現(sein)v.i ~である 「動詞」
 völlig フォリッヒ adv. 完全に、まったく 「副詞」
 verwahrlost! フェアヴァールロスト 過去分詞(verwahrlosen)
 adj. 放置された、ほったらかしの 「補語」

少し後で、何かしようと思い、古新聞を取って来て読んだ。

Nur um etwas zu tun, nahm ich später eine alte Zeitung und las.
 「副詞句」, 「動詞」「主語」「副詞」「目的語」 und 「動詞」
 Nur ヌア adv. (条件) ただ 「副詞句」
 um etwas ウム・エトワッス adv. 何かを 「間接目的語」
 zu tun, ツー・トゥン zu 不定詞・目的 v.i するために 「副詞句」
 nahm ナム 1 単過(nehmen)v.t 取って来た 「動詞」
 ich イヒ pron 僕は 「主語」
 später シュペーター adv. 後で 「副詞」
 eine alte Zeitung アイン・アルテ・ツァイトゥング n.f.4 格 古新聞を 「目的語」
 und ウント conj. そして
 las. ラース 1 単過(lesen)v.i 読んだ 「動詞」

ERSTER TEIL 第1部

その新聞から、僕はクリュシェン塩の広告を切り抜いて、面白そうな新聞記事を何でも貼っておくノートに貼り付けた。

Eine Annonce über Kruschen-Salz schnitt ich aus und klebte sie in ein altes Heft, in das ich alles tue, was mir in den Zeitungen Spaß macht.

「目的語」「動詞句」「主語」 und 「動詞」「目的語」「副詞句」
 Eine Annonce アイネ・アノンセ n.f.4 格 広告を 「目的語」
 über Kruschen-Salz ユーバー・クルシェン・サルツ
 adv. (関連) クリュシェン塩についての 「副詞句」
 schnitt ...aus シュニット...アウス 1 単過(aus | schneiden)v.t 切り抜いた 「動詞句」
 ich イヒ pron 僕は 「主語」
 und ウント conj. そして
 klebte クレプテ 1 単過(kleben)v.t 貼り付けた 「動詞」
 sie ジー pron.f (Annonce の代用) それを 「目的語」
 in ein altes Heft, イン・アイネ・アルテス・ヘフト adv. 古いノートに 「副詞句」
 in das イン・ダス adv. そこに～する 「副詞節」
 ich イヒ pron 僕は 「主語」
 alles アレス pron 何でも 「目的語」
 tue, チュエ 1 単現(tun)v.t (kleben の代用) 貼り付けている 「動詞」
 was ヴァス pron (主語) ～する 「形容詞節」
 mir ミーア pron 僕に 「間接目的語」
 in den Zeitungen イン・テン・ツァイトゥンゲン
 adv. 新聞の中で 「副詞句」
 Spaß シュパース
 n.m 楽しみを、面白み 「直接目的語」
 macht. マハト 3 単現(machen)v.t 与える 「動詞」

僕は手も洗って、結局は、バルコニーに出て腰を下ろした。

Ich wusch mir auch die Hände und setzte mich schließlich auf den Balkon.

「主語」「動詞句」「目的語」 und 「動詞句」「副詞句」
 Ich イヒ pron 僕は 「主語」
 wusch mir ヴーシュ・ミーア 1 単過(sich-3 waschen)v.pr (自分の体の) ～を洗った 「動詞句」
 auch アウフ adv. ～も 「副詞」
 die Hände テー・イー・ヘンデ pl(Hand).n.f.4 格 手を 「目的語」
 und ウント conj. そして
 setzte mich セッツテ・ミヒ 1 単過(sich-4 setzen)v.pr (場所を示す語句と) 座った 「動詞句」
 schließlich シュリースリヒ adv. 結局は 「副詞」

ERSTER TEIL 第1部

auf den Balkon. アウフ・デーン・バルコン adv. (上面で) バルコニーで 「副詞句」

バルコニー、ベランダ、テラス

バルコニー：2階以上の室外に張り出した屋根のない手すり付きの場所のこと。

ベランダ：建物の外に張り出した屋根付きの場所のこと。

テラス：建物の1階から突き出した部分のこと。

僕の部屋は、郊外の目抜き通りに面している。

Mein Zimmer geht auf die Hauptstraße der Vorstadt; hinaus.

「主語」「動詞」「間接目的語」

Mein Zimmer マイン・ツィマー n.n 僕の部屋は 「主語」

geht ゲート 3 単現(gehen)v.i (部屋が) 面している、向いている 「動詞」

auf die Hauptstraße アウフ・デー・ハプ トシュトラッセ adv. 大通りに、目抜き通りに 「間接目的語」

der Vorstadt; hinaus. デア・ウァー・オアシュタット・ヒナウス n.f.2 格 郊外の町の 「形容詞句」

良く晴れた午後だった。

Es war ein schöner Nachmittag.

「主語」「動詞」「補語」

Es エス pron 非人称・天候は 「主語」

war ヴァール 3 単過(sein)v.i ~ だった 「動詞」

ein schöner アイン・シェーナー adj.m.1 格 (天気が) 良く晴れた 「形容詞句」

Nachmittag. ナーハミッターク n.m.1 格 午後 「補語」

しかし舗道はアスファルトが溶けだして、通行人はほんのわずかで急ぎ足だった。最初に、散歩に行く一家がやって来た。2人の男の子はセーラー服を着て、ズボンは膝に達していた。糊のきいたスーツを着ていたために、動きがぎこちなかった。それと、大きなバラ色の蝶結びのリボンをつけて、黒のエナメル靴を履いた女の子がいた。

Aber das Pflaster war glitschig, und die wenigen Passanten hatten es eilig Vor allem waren es Familien, die spazierengingen, zwei kleine Jungen im Matrosenanzug, die Hose bis über da Knie reichend, ein bißchen unbeholfen in dem steifen Anzug, und ein kleines Mädchen mit einer großen rosafarbenen Schleife und schwarzen Lackschuhen.

Aber 「主語」「動詞」「補語」 und 「主語」「動詞句」 | 「副詞句」「動詞」「主語」,
「主語」「副詞句」, und 「主語」

Aber アーバー conj. しかし

das Pflaster ダース・プフラスター n.n 舗道は 「主語」

war ヴァール 3 単過(sein)v.i ~ だった 「動詞」

glitschig, グリツヒ adj. つるつるの、ぬるぬるした、ぎとぎとした 「補語」

und ウント conj. そして

ERSTER TEIL 第1部

die wenigen ディー・ヴェニゲン adj(wenig).m.pl.1 格 ほんのわずかの	「形容詞句」
Passanten パッサンテン pl(Passant)n.m.1 格 通行人は	「主語」
hatten es eilig ハッテン・エス・アイリヒ 3 複過(haben es eilig)v.i 急いでいた	「動詞句」
es eilig haben 「急いでいる」	
Vor allem フォア・アレム adv. 特に、何よりもまず、最初に	「副詞句」
waren ヴァレン 3 複過・移動(sein)v.i やって来た	「動詞」
es エス pron 非人称	
Familien, ファミエン pl.(Familie).n.f 家族が、一家が	「主語」
die ディー pron (主語) ～する	「形容詞節」
spazierengingen, シュパツィーレン・ギンゲン 3 複現(spazieren+gehen)	
v.i 散歩に行く	「動詞句」
一家の内訳を紹介する	
zwei kleine Jungen ツヴァイ・クライネ・ユンゲン	
pl(Junge).n.m 2 人の男の子	「主語」
im Matrosenanzug, イム・マトロゼンアンツーク	
adv. (様態) セーラー服を着た	「副詞句」
die Hose ディー・ホーゼ n.f ズボンは	「主語」
bis über da Knie ビス・ユーバー・ダ・クニー adv. 膝上まで	「副詞句」
reichend, ライヘント 現在分詞(reichen)adj. 達する、届く	「形容詞」
ein bißchen unbeholfen アイン・ヒスシェン・ウンベホルフェン	
adv. 少し動作がぎこちない	「副詞句」
in dem steifen Anzug, イン・デーム・シュタイフェン・アンツーク	
adv. (原因) ごわごわのスーツを着て	「副詞句」
und ウント conj. そして	
ein kleines Mädchen アイン・クライネス・メートヒェン n.f 女の子は、少女	「主語」
mit einer großen rosafarbenen Schleife ミット・アイナー・グローゼン・ローサファルベネン・シュライフェ	
adv. (様態) 大きなバラ色の蝶結びのリボンをつけて	「副詞句」
rosa ローサ adj. バラ色の Farbe ファルベ n.f 色 Schleife シュライフェ n.f 蝶結びのリボン	
und ウント conj. そして	
schwarzen Lackschuhen. シュヴァールツェン・ラックスシューエン	
pl(Lackschuh).n.m.3 格 黒のエナメル靴を履いて	「副詞句」
schwarzen シュヴァールツェン adj(schwarz).m.3 格 黒の、黒色の	

ERSTER TEIL 第1部

子供たちの後ろに、栗色の絹をドレスを着た大柄な母親と、小柄でかなりやせた顔見知りの父親が続いていた。

Hinter ihnen eine gewaltige Mutter in kastanienbraunem Seidenkleid und der Vater, ein kleiner, ziemlich schwächlicher Mann den ich vom Sehen kannte.

「副詞句」, 「主語」 und 「主語」

Hinter ヒンター prep (3・4 格と) (空間的) ~の後ろに

「副詞句」

ihnen イーネン pron.3 格 (3 人の子供たち) 彼ら

「目的語」

eine gewaltige アイネ・ゲヴァルチゲ adj.n.f.1 格 巨大な

「形容詞句」

Mutter ムター n.f 母親が

「主語」

in イン prep (3・4 格と) (着用) ~を着た

「副詞句」

kastanienbraunem カスターニエンブラウネム

adj(kastanienbraun).n.3 格 栗色の

「形容詞句」

Seidenkleid ザイテン・クライト n.n.3 格 絹のドレス

「目的語」

und ウント conj. そして

der Vater, デア・ファーター n.m 父親が

「主語」

ein kleiner, アイン・クライナー adj(klein).m.1 格 小柄な

「形容詞句」

ziemlich schwächlicher ツィームリヒ・シュメヒチガー

adj(schwächlich).m.1 格 かなりやせた

「形容詞句」

Mann マン n.m 男が

「主語」

den デン pron (目的語) ~する

「形容詞節」

ich イヒ pron 僕は

「主語」

vom Sehen フォム・ゼーエン

adv. (理由) 見ることで、見たことがある

「副詞句」

kannte. カンテ 1 単過(kennen)v.t 知っている

「動詞」

彼はカンカン帽を被り、蝶ネクタイをして、ステッキを手にはしていた。

Er trug einen Strohhut und eine Fliege und hatte einen Spazierstock in der Hand.

「主語」「動詞」「目的語」 und 「動詞」「目的語」「副詞句」

Er エア pron 彼は

「主語」

trug トゥルーク 3 単過(tragen)v.t 身に着けていた、持っていた

「動詞」

einen Strohhut アイン・シュトロフhut n.m カンカン帽、麦藁帽子

「目的語」

und ウント conj. そして

eine Fliege アイネ・フリーゲ n.f 蝶ネクタイ、(虫) ハエ

「目的語」

und ウント conj. そして

hatte ハッテ 3 単過(haben)v.t ~を持っていた

「動詞」

einen Spazierstock アイン・シュパツィアシュトック n.m 散歩用のステッキ

「目的語」

ERSTER TEIL 第1部

in der Hand. イン・デア・ハント adv. 手に

「副詞句」

彼が妻と一緒にいるのを見ると、どうして彼がこの界限で上品と呼ばれるのか分かる。

Als ich ihn mit seiner Frau sah, begriff ich, warum man ihn im Viertel «distinguiert» nannte.

「副詞節」, 「動詞」 「主語」 「目的語」

Als アルス conj. (条件) ~すると

「副詞節」

ich イヒ pron 僕は

「主語」

ihn イン pron.4 格 彼を

「目的語」

mit seiner Frau ミット・ザ・イー・フラウ adv. (様態) 妻と一緒にいる

「副詞句」

sah, ザー 1 単過(sehen)v.t 見た

「動詞」

begriff ベグリーフ 1 単過・時制の一致(begreifen)v.t 分かる

「動詞」

ich, イヒ pron 僕は

「主語」

warum ヲアルム adv. どうしてかということ

「目的語」

man マン pron 人は

「主語」

ihn イン pron.4 格 彼を

「目的語」

im Viertel イム・フィエルテル adv. この界限で

「副詞句」

«distinguiert» ディスチンギェルト adj. 特に上品な

「補語」

nannte. ナンテ 3 単過(nennen)v.t(j-4+形容詞) ~と呼ぶ

「動詞」

少しして、郊外から若者たちがやって来た。髪にポマードを塗り、赤いネクタイをして、肩パットの付いた上着に刺繍付きのハンカチを入れ、幅広で先のとがった靴を履いていた。

Etwas später kamen die jungen Leute der Vorstadt, Pomaden-Haar und roter Schlips, wattierte Schultern, besticktes Ziertuch und breitkappige Schuhe.

「副詞句」 「動詞」 「主語」

Etwas エトヴァス pron 少し、いくらか

「副詞句」

später シュペーター adv. 後で

「副詞句」

kamen カメン 3 複過(kommen)v.i やって来た

「動詞」

die jungen Leute ディー・ユンゲン・ロイテ pl.n.m.1 格 若者たちが

「主語」

der Vorstadt, デア・フォアシュタット adj. 郊外に住む

「形容詞句」

以下の副詞句は「主語」の様態を表わす

Pomaden-Haar ホ・マデーン・ハール adv. (様態) 髪にポマードを塗った

「副詞句」

und ウント conj. そして

roter Schlips, ローター・シュリップス n.m 赤いネクタイをして

「副詞句」

wattierte Schultern, ヲアッachelテ・シュルターン

pl(Schulter).n.f 肩パットの付いた上着を着て

「副詞句」

wattierte ヲアッachelテ 過去分詞・受動(wattieren)adj.pl 綿詰めされた

ERSTER TEIL 第1部

Schultern シュルターン pl(Schulter).n.f.4 格 肩
 besticktes Ziertuch ベシュティクテス・ツィアトウフ
 n.n.4 格 刺繍されたハンカツを入れて 「副詞句」
 bestickes(gestickes) 過去分詞・受動(sticken)adj.n.4 格 刺繍された
 Ziertuch ツィア・トウフ n.n.4 格 飾りハンカチ
 und ウント conj. そして
 breitkappige Schuhe. ブライト・カピゲ・シューエ
 pl(Schuh).n.m.4 格 幅広で先が尖った靴を履いて 「副詞句」
 breit ブライト adj. 幅の広い kantig カンティヒ adj. 角のある Schuh シュー n.m 靴

彼らは恐らく繁華街の映画館へ行くところだろう。

Sie gingen wohl zum Kino in der Stadt. 「主語」「動詞」「副詞」「間接目的語」
 Sie ジー pron.pl 彼らは 「主語」
 gingen キンゲン 3 複過(gehen)v.i 歩いて行った 「動詞」
 wohl ヴォール adv. (推量) おそらく 「副詞」
 zum Kino ツム・キノ adv. (目標・場所) 映画館に 「間接目的語」
 in der Stadt. イン・デア・シュタット adv. 街の、中心街の 「副詞句」

それだから、彼らはこんなに早く出てきて、笑いながら電車乗り場へ急いでいるのだ。

Deshalb waren sie so früh unterwegs und eilten lachend zur Straßenbahn.
 「副詞」「動詞」「主語」「補語」 und 「動詞」「副詞」「間接目的語」
 Deshalb デス・ハルプ adv. それだから 「副詞」
 waren ヴァレン 3 複過(sein)v.i ~ だった 「動詞」
 sie ジー pron.pl 彼らは 「主語」
 so früh ソー・フュー adv. (時間) こんなに早く 「副詞句」
 unterwegs ウンターヴェークス adv. 外出中で 「補語」
 und ウント conj. そして
 eilten アイルテン 3 複過(eilen)v.i 急いで行った 「動詞」
 lachend ラーヘント 現在分詞・同時(lachen)v.i 笑いながら 「副詞」
 zur Straßenbahn. ツーア・シュトラセンバーン adv. (目標) 電車の駅・乗り場へ 「間接目的語」

ERSTER TEIL 第1部

彼らが通り過ぎると、通りは次第に閑散となった。

Nach ihnen leerte die Straße sich allmählich.

「副詞句」「動詞句」「主語」「動詞句」「副詞」

Nach ihnen ナーハ・イーレン adv. 彼らの（行った・通り過ぎた）後

「副詞句」

leerte ...sich レエアテ...ズィット 3 単過(sich-4 leeren)v.pr 空になった

「動詞句」

die Straße デーイー・シュトラッセ n.f 通りは

「主語」

allmählich. アルメーリッヒ adv. 徐々に、しだいに

「副詞」

映画や芝居はすでにどこでも始まっていたのだろう。

Die Vorstellungen hatten wohl schon überall angefangen.

「主語」「動詞句」「副詞句」「動詞句」

Die Vorstellungen デーイー・フォアシュテルンゲン pl(Vorstellung).n.f (映画の) 上映は

「主語」

hatten ...angefangen. ハッテン...アングェファンゲン 3 複過・完了形(an | fangen)

v.i 始まっていた

「動詞句」

wohl schon ヴォール・ショーン adv. 多分すでに

「副詞句」

überall ユーバーアル adv. 至る所で、あらゆるところで

「副詞句」

通りには、いまや商店主と猫しかいなかった。

Auf der Straße waren nun bloß noch die Ladenbesitzer und die Katzen.

「副詞句」「動詞」「副詞句」「主語」

Auf der Straße アウフ・デア・シュトラッセ adv. 通りには

「副詞句」

waren ヴァレン 3 複過・存在(sein)v.i ～ がいた

「動詞」

nun ヌーン adv. 今や

「副詞」

bloß noch ブロース・ノッホ adv. ～しか... ない

「副詞句」

die Ladenbesitzer デーイー・ラーデテン・ベジッツァー pl(Ladenbesitzer).n.m 店主が

「主語」

und ウント conj. そして

die Katzen. デーイー・カッツェン pl(Katze).n.f 猫が

「主語」

通りを縁どるイチジク並木の上空は、澄んではいるが輝きのない空である。

Über den Feigenbäumen, die die Straße säumten, stand ein klarer, aber glanzloser Himmel.

「副詞句」, 「動詞」「補語」

Über ユーバー prep (空間的) ～の上方には

「副詞句」

den Feigenbäumen, デン・ファイゲン・ボイゲン

pl(Feigenbaum).n.m.4 格 イチジクの木

「目的語」

die デーイー pron (主語) ～する

「形容詞節」

die Straße デーイー・シュトラッセ n.f.4 格 通りを

「目的語」

ERSTER TEIL 第1部

säumten, ツァウムテン 3 複過(säumen)v.t 縁どる	「動詞」
stand シュタント 3 単過・時制の一致(stehen)v.i (〜の状態) である	「動詞」
ein klarer, アイン・クララー adj. (比較級) 澄んだ	「形容詞」
aber アーバー conj. しかし	
glanzloser グランツローサー adj. (比較級) くすんだ、輝きのない	「形容詞」
Himmel. ヒメル n.m 空	「補語」

向かい側では、タバコ屋が椅子をドアの前に持ってきて、椅子の背もたれに向かって馬乗りになり、その背もたれに両腕をのせてもたれかかっていた。

Der Tabakhändler von gegenüber holte einen Stuhl vor seine Tür, setzte sich rittlings darauf und legte die Arme auf die Lehne.

「主語」「副詞句」「動詞」「目的語」「副詞句」, 「動詞句」「副詞句」

und 「動詞」「目的語」「副詞句」

Der Tabakhändler デア・タバーク・ヘントラー n.m タバコ屋は	「主語」
von gegenüber フォン・ゲーゲンユーバー adv. 向かい側では	「副詞句」
holte ホルテ 3 単過(holen)v.t(物を) 取って来た	「動詞」
einen Stuhl アイン・シュトゥール n.m.4 格 椅子を	「目的語」
vor seine Tür, フォア・ザ・イン・チュア adv. (空間的) ドアの前に	「副詞句」
setzte sich セッツテ・ズィヒ 3 単過(sich-4 setzen)v.pr 腰を下ろしていた	「動詞句」
rittlings darauf リットリングス・ダラウフ adv. (様態) その上に馬乗りになって	「副詞句」
und ウント conj. そして	
legte レーケテ 3 単過(legen)v.t 置いていた	「動詞」
die Arme デー・アーメ pl(Arm).n.m.4 格 両腕を	「目的語」
auf die Lehne. アウフ・デー・レーネ adv. 背もたれの上に	「副詞句」

先程まで満員だった電車は、ほとんど空席になっていた。タバコ屋の隣の小さなカフェ「ピエロ」では、ウェイターが空の店内をおがくずで掃除をしていた。まさしく、日曜日だ。

Die eben noch vollbesetzten Straßenbahnen waren fast leer. In dem kleinen Cafe «Chez Pierrot» neben dem Tabakhändler fegte der Kellner in dem leeren Gastraum das Sägemehl zusammen. Es war wirklich Sonntag.

「主語」「動詞」「補語」 | 「副詞句」「動詞」「主語」「副詞句」「目的語」

「主語」「動詞」「補語」

Die eben noch vollbesetzten adj.pl.1 格 先ほどまで満員の	「形容詞句」
eben noch エベン・ノッホ adv. たった今まで voll- フォル adv. 完全に	
besetzt ベゼット adj. 満員の	

ERSTER TEIL 第1部

Straßenbahnen シュトラセーネン・バーネン pl(Straßenbahn).n.f 路面電車は	「主語」
waren ヲアレン 3 複過・変化(sein)v.i 〜になっていた	「動詞」
fast leer. ファスト・レーア adj. ほとんど空席の	「補語」
fast ファスト adv. ほとんど leer レーア adj. 空席の	
In dem kleinen Cafe イン・デーム・クライン・カフェ adv. (場所) 小さなカフェでは	「副詞句」
«Chez Pierrot» シェ・ピエロ adv. ピエロの店では	「副詞句」
neben dem Tabakhändler ネーベン・デーム・タバーク・ヘントラー	
adv. (場所) タバコ屋の隣にある	「副詞句」
fegte フェクテ 3 単過(fegen)v.t 掃いていた	「動詞」
der Kellner テア・ケルナー n.m ウェイターが	「主語」
in dem leeren イン・デーム・レーレン adv. (場所) 空の〜で	「副詞句」
Gastraum ガスト・ラウム n.m.3 格 客室、店内	「目的語」
das Sägemehl ダス・サーゲ・メル n.n.4 格 おがくずを	「目的語」
zusammen. ツァメン adv. 一緒に	「副詞」
Es エス pron それは	「主語」
war ヲアール 3 単過・時制の一致(sein)v.i 〜である	「動詞」
wirklich Sonntag. ヲイルクリッヒ・ゾンターク n.m.1 格 本当の日曜日	「補語」

僕は椅子を回転させて、タバコ屋の置き方を真似した。それが快適そうに思われたのだ。

Ich drehte meinen Stuhl um und stellte ihn so wie der Tabakhändler, weil ich das bequemer fand.

「主語」「動詞句」「目的語」 und 「動詞」「目的語」「副詞句」, 「副詞節」	
Ich イッヒ pron 僕は	「主語」
drehte ...um ドレテ...ウム 1 単過(um drehen)v.t (ぐると) 回転させた	「動詞句」
meinen Stuhl マイネン・シュトゥール n.m (背もたれのある) 椅子を	「目的語」
und ウント conj. そして	
stellte シュテルテ 1 単過 (stellen)v.t 置いた、据えた	「動詞」
ihn イン pron.m それを	「目的語」
so wie der Tabakhändler, ソー・ヴァー・テア・タバーク・ヘントラー	
adv. (様態) タバコ屋の椅子のように	「副詞句」
weil ヲアイル conj. (理由) 〜なので	「副詞節」
ich イッヒ pron 僕は	「主語」
das ダス pron それが	「目的語」
bequemer ベクヴァーマー adj. (比較級) より快適な	「補語」
fand. ファント 1 単過(finden)v.t 思った	「動詞」

ERSTER TEIL 第1部

僕はタバコを 2 本吸ってから、チョコレートを 1 かけら取りにまた部屋に行って、窓辺に戻ってそれを食べた。

Ich rauchte zwei Zigaretten, ging wieder ins Zimmer, um ein Stück Schokolade zu holen, das ich am Fenster aß.

「主語」「動詞」「目的語」, 「動詞」「副詞句」, 「目的語」「主語」「副詞句」「動詞」
 Ich イッヒ pron 僕は 「主語」
 rauchte ラウヒテ 1 単過(rauchen)v.t (タバコを) 吸った 「動詞」
 zwei Zigaretten, ツヴァイ・ツィガレッテン pl(Zigarette).n.f タバコを 2 本 「目的語」
 ging キング 1 単過(gehen)v.i 行った 「動詞」
 wieder ウィーダー adv. また 「副詞」
 ins Zimmer, イン・ツィマー adv. 部屋の中に 「副詞句」
 um ...zu holen, ウム・ツァー・ホルン um+zu 不定句 adv. (目的) 取って来るために 「副詞句」
 ein Stück Schokolade アイン・シュトク・ショコラーデ
 n.f チョコレートを 1 かけら 「目的語」
 das ダス pron それを 「目的語」
 ich イッヒ pron 僕は 「主語」
 am Fenster アム・フェンスター adv. 窓辺で 「副詞句」
 aß. アース 1 単過(essen)v.t 食べた 「動詞」

その直後、空が雲で覆われた。それで、これは夕立になりそうだ、と思った。

Kurz darauf bezog sich der Himmel, und ich glaubte, wir würden ein Sommergewitter bekommen.

「副詞句」, 「動詞句」「主語」, und 「主語」「動詞」「目的語」
 Kurz darauf クルツ・ダラウフ adv. すぐ後に、その直後に 「副詞句」
 kurz クルツ adv. (時間的に) 短い darauf ダラウフ adv. (順序) その次に、その後で
 bezog sich ベツォーク・ズィヒ 3 単過(sich-4 beziehen)v.pr (空が) 雲で覆われた 「動詞句」
 der Himmel, デー・イー・ヒメル n.m 空が 「主語」
 und ウント conj. そして
 ich イッヒ pron 僕は 「主語」
 glaubte, グラウプテ 1 単過(glauben)v.t 〜と思った 「動詞」
 n. 〜ということ 「目的語」
 wir ウィー pron.pl 私たちは 「主語」
 würden ...bekommen. ウェルデン... ベコメン 接 II・1 複現・推量(werden+不定詞)
 v.t 〜をもらうだろう 「動詞句」
 ein Sommergewitter アイン・ゾマー・ゲウイッター n.n.4 格 夏の夕立を、雷雨を 「目的語」

ERSTER TEIL 第1部

しかし、空はまた徐々に明るくなった。

Doch hellte es sich allmählich wieder auf.

「副詞」「動詞句」「主語」「動詞句」「副詞句」「動詞句」

Doch ドツホ adv. しかし

「副詞」

hellte ...sich ...auf. ヘルテ... スィヒト...アウフ 3 単過(sich-4 auf|hellen)

v.pr 明るくなった

「動詞句」

es エス pron 天気は

「主語」

allmählich wieder アルメーリヒ・ウィター adv. 徐々にまた

「副詞句」

しかし、通りかかった雲が、通りに言わば雨の前触れを落としていき、それによって通りは暗くなった。

Aber die vorbeiziehenden Wolken hatten auf der Straße gleichsam ein Regenversprechen zurückgelassen, das sie verdüsterte.

Aber 「主語」「動詞句」「副詞句」「目的語」, 「主語」「目的語」「動詞」

Aber アーバー conj. しかし

die vorbeiziehenden デーイー・フォーアバ イツイエンテン 現在分詞(vorbeiziehen)

adj.pl.1 格 通り過ぎる

「形容詞句」

Wolken ヴォルケン pl(Wolke).n.f.1 格 雲が

「主語」

hatten ...zurückgelassen, ハッテン...ツリュック・ゲ・ラッセン 3 複過・完了形(zurück|lassen)

v.t 後に残していった

「動詞句」

auf der Straße アウフ・デア・シュトラッセ adv. 通りの上に

「副詞句」

gleichsam グライヒザーム adv. いわば

「副詞」

ein Regenversprechen イン・レーゲン・フェアシュプレヒエン n.n.4 格 雨の前触れを

「目的語」

Regen レーゲン n.m 雨 Versprechen フェアシュプレヒエン n.n 約束 → 前触れ

das ダス pron それが (雨の前触れ)

「主語」

sie シー pron.f (Straße の代用) 通りを

「目的語」

verdüsterte. フェアトウステアテ 3 単過(verdüstern)v.t 暗くした

「動詞」

僕は長いこと空を眺めていた。

Lange Zeit beobachtete ich den Himmel.

「副詞句」「動詞」「主語」「目的語」

Lange Zeit ランゲ・ツァイト adv. 長いこと

「副詞句」

beobachtete ベーオーバハテ 1 単過(beobachten)v.t 観察していた、見守っていた

「動詞」

ich イヒ pron 僕は

「主語」

den Himmel. デン・ヒメル n.m.4 格 空を

「目的語」

ERSTER TEIL 第1部

5時になると、また路面電車の音が聞こえて来た。

Um fünf Uhr lärmten wieder die Straßenbahnen. 「副詞句」「動詞」「副詞」「主語」

Um fünf Uhr ウム・フュンフ・ウーア adv. (時間的) 5時に 「副詞句」

lärmten ラルムテン 3 複過(lärmen)v.i 音を立てた 「動詞」

wieder ウィーダー adv. また 「副詞」

die Straßenbahnen. デーイー・シュトラーセン・バーネン pl(Straßenbahn).n.f.1 格 路面電車が 「主語」

Straße シュトラーセ n.f 大通り bahnen バーネン pl(bahn).n.f 電車

その電車が、郊外の競技場から大勢の観客を運んできた。彼らは電車のステップや手すりにぶら下がっていた。

Aus dem Stadion vor der Stadt brachten sie Trauben von Zuschauern, die an Trittbrettern und Vordergestänge hingen.

「副詞句」, 「動詞」「主語」「目的語」, 「主語」「副詞句」「動詞」

Aus アウス prep (内から外へ) (3 格と) ~から 「副詞句」

dem Stadion デーム・スターデーション n.m.3 格 競技場、スタジアム 「目的語」

vor フォア prep (空間的) (3 格と) ~に面して 「副詞句」

der Stadt デア・シュタット n.f.3 格 都心 「目的語」

vor der Stadt フォア・デア・シュタット adv. 郊外にある

brachten ブラハテン 3 複過(bringen)v.t 連れてきた 「動詞」

sie ジー pron.f.pl (Straßenbahnen の代用) その電車が 「主語」

Trauben トラuben pl.n.f(Traube) 群衆を 「目的語」

von フォン prep (空間的) (3 格と) ~から 「副詞句」

Zuschauern, ツーシャウアーン pl.n.m.3 格 観客 「目的語」

die デーイー pron.f.pl (Zuschauern の代用) 彼らは 「主語」

an Trittbrettern und Vordergestänge アン・トリットブレターン・ウント・フォアダーゲステンゲ

adv. ステップと手すりに 「副詞句」

Trittbrett トリットブレット n.n (乗り物の) ステップ

Vordergestänge フォアダー・ゲステンゲ n.n 手すり

vorder フォアダー adj. 前の、表の Gestänge ゲステンゲ n.n 棒、柵

hingen. ヒンゲン 3 複過(hängen)v.i ぶら下がっていた 「動詞」

郊外

建物の密集する市街地に隣接した (田園) 地帯

ERSTER TEIL 第1部

すぐ次の電車が選手たちをのせてきたが、彼らの小さなバッグで見分けることができた。

Die nächsten Bahnen brachten die Spieler, die ich an ihren Kofferchen erkannte.

「主語」「動詞」「目的語」, 「目的語」「主語」「副詞句」「動詞」

Die nächsten Bahnen デー・ネー・ヒステン・バー・ネン pl(Bahn).n.f.1 格 すぐ後に続く電車が「主語」

nächsten ネー・ヒステン adj.(nächst).pl.1 格 (時間的に) すぐ後に続く Bahn バーン n.f 電車

brachten ブラハテン 3 複過(bringen)v.t 連れてきた 「動詞」

die Spieler, デー・イー・シュピラー pl(Spieler:不変).n.m.4 格 選手たちを 「目的語」

die デー・イー pron 彼らを 「目的語」

ich イッヒ pron 僕は 「主語」

an ihren Kofferchen アン・イーレン・コッフエアヒェン adv. (根拠) 小さなバッグによって 「副詞句」

Koffer コフファー n.m トランク、カバン -chen ヒェン 接尾辞「小さい、愛らしい」

erkannte. エカント 1 単過(erkennen)v.t 見分けられた 「動詞」

彼らは、「我がチームは不滅だ」と、声を限りに、叫び、歌っていた。

Sie brüllten und sangen aus vollem Halse, daß ihr Klub nicht untergehen würde.

「主語」「動詞句」「副詞句」「目的語」

Sie ジー pron 彼らは 「主語」

brüllten ブリュルテン 3 複過(brüllen)v.i 叫んだ、わめく 「動詞」

und ウント conj. そして

sangen ザンゲン 3 複過(singen)v.i 歌った 「動詞」

aus vollem Halse, アウス・フォルム・ハルセ adv. 声を限りに 「副詞句」

daß ダス conj. ～ということを 「目的語」

ihr Klub イア・クラブ n.m 彼らのチームは 「主語」

nicht untergehen würde. ニヒト・ウンター・ゲー・エン・ウエルテ 接 II・3 単現・否定(werden+不定詞)

v.i 決して消滅しない 「動詞句」

僕に合図をする者もいた。

Manche winkten mir.

「主語」「動詞」「間接目的語」

Manche マンヒェ pl(manich).pron 何人かは 「主語」

winkten ウィンクテン 3 複過(winken)v.i 合図を送って来た 「動詞」

mir. ミア pron 僕に 「間接目的語」

ERSTER TEIL 第1部

僕に「奴らをやっつけたぞ！」と叫ぶ者さえいた。僕は同意してうなずいた。

Einer rief mir sogar zu: «Verdroschen haben wir sie!» Ich nickte zustimmend.

「主語」「動詞句」「間接目的語」「副詞」「動詞句」:

《「動詞句」「主語」「目的語」》, 「主語」「動詞」「副詞」

Einer アイナー pron 1 人は

「主語」

rief ...zu: リーフ...ツ 3 単過(zu | rufen)v.t 大声で言った

「動詞句」

mir ミーア pron 僕に

「間接目的語」

sogar ソガール adv. ～とさえ、～すら

「副詞」

«Verdroschen haben フェアドロシェン・ハーベン 1 複現・完了形(verdreschen)

v.t やっつけた

「動詞句」

ver- 分離前つづり「破壊」や強調 dreschen ドレシェン v.t ぶん殴る

wir ウィーア pron 俺たちは

「主語」

sie! シー pron.pl 奴らを

「目的語」

Ich イット pron 僕は

「主語」

nickte ニクテ 1 単過(nicken)v.i うなずいた

「動詞」

zustimmend. ツーシュメント 現在分詞・同時(zustimmen)v.i 同意して

「副詞」

この頃からだろうか？大通りに勢いよく車が流れだした。

Von diesem Augenblick an? strömten die Autos durch die Straße.

「副詞句」, 「動詞」「主語」「副詞句」

Von ...an? prep (時間的・起点) ～から

「副詞句」

diesem Augenblick デーイーゼム・アウゲンブリック n.m この瞬間

「目的語」

strömten シュトロームテン 3 複過(strömen)v.i 勢いよく流れだした

「動詞」

die Autos デーイー・アウトス pl(Auto)n.n 車が

「主語」

durch ドゥルヒ prep (4 格と) (空間・通過) ～を通して

「副詞句」

die Straße. デーイー・シュトラッセ n.f.4 格 大通り

「目的語」

日がさらに違う様相に変わった。

Der Tag bekam wieder ein etwas anderes Gesicht.

「主語」「動詞」「目的語」

Der Tag デア・ターク n.m 日が

「主語」

bekam ベカム 3 単過(bekommen)v.t 授かった、得た

「動詞」

wieder ウィーダー adv. また、さらに

「副詞」

ein etwas anderes Gesicht. アイン・エトワース・アンデレス・ゲジヒト n.n どこか違う外観を 「目的語」

ERSTER TEIL 第1部

屋根の上空が赤く染まっていた。そして夕暮れが近づくとともに、大通りは活気づいてきた。徐々に、散歩をする人々が戻って来た。

Über den Dächern rötete sich der Himmel, und mit dem heraufziehenden Abend belebten sich die Straßen. Allmählich kamen die Spaziergänger zurück.

「副詞句」「動詞句」「主語」,und「副詞句」「動詞句」「主語」

「副詞」「動詞句」「主語」

Über ユーバー prep (3格と) (空間的) ~の上に 「副詞句」

den Dächern デン・デヒヤーン pl(Dach)n.n.3格 屋根 「目的語」

rötete sich レーテテ・ズィット 3単過(sich-4 röten)v.pr 赤く染まっていた 「動詞句」

der Himmel, デア・ヒメル n.m 空が 「主語」

und ウント conj. そして

mit ミット prep (同時) ~と同時に 「副詞句」

dem heraufziehenden Abend デーム・ヘラウフチーエンデン・アーベント

n.m.3格 近づく夕暮れ 「目的語」

belebten sich ベレプテン・ズィット 3複過(sich-4 beleben)v.pr 活気づいてきた 「動詞句」

die Straßen. デー・シュートラーセン pl.n.f.1格 大通りは 「主語」

Allmählich アルメーリッヒ adv. 徐々に 「副詞」

kamen... zurück. カメン...ツリュック 3複過(zurück|kommen)v.i 戻って来た 「動詞句」

die Spaziergänger デー・スパツィアゲンガー pl.n.m.1格 散歩をする人々が 「主語」

散歩をする人々の間に、僕はあの上品な紳士を見つけた。

Inmitten anderer erkannte ich den «distinguierten» Herrn.

「副詞句」「動詞」「主語」「目的語」

Inmitten インミテン prep (2格と) ~の真ん中に 「副詞句」

anderer アンデーラー pron.pl.2格 他の人々 (散歩する人々) 「目的語」

erkannte エカント 1単過(erkennen)v.t 見分けた、識別した 「動詞」

ich イット pron 僕は 「主語」

den «distinguierten» Herrn. デン・デイスチンギーアト・ヘアン n.m.4格 あの上品な紳士を 「目的語」

子供たちは泣いて立ち止まったり、引きずられて歩いたりしていた。

Die Kinder weinten oder ließen sich ziehen. 「主語」「動詞」 oder 「動詞句」

Die Kinder デー・キンデ pl(Kind).n.n 子供たちは 「主語」

weinten ウェインテン 3複過(weinen)v.i 泣いていた 「動詞」

oder オダー conj. または

ließen sich ziehen. リーセン・ズィット・ツィエン 3複過・使役・受動(sich-4+不定詞+lassen)

v.pr 引き摺られていた 「動詞句」

ERSTER TEIL 第1部

ほとんど同時に、界隈の映画館から、文字通り観客の波が通りに吐き出された。

Fast gleichzeitig spien die Kinos des Viertels eine wahre Flut von Zuschauern auf die Straßen. 「副詞句」「動詞」「主語」「目的語」「副詞句」

Fast ファスト adv. ほぼ、ほとんど 「副詞」

gleichzeitig グライツァイティヒ adv. 同時に 「副詞」

spien シュピ-ン 3 複過(speien)v.t 吐き出した 「動詞」

受動態に翻訳する

die Kinos デ-ィー・キノス pl(Kino).n.n 映画館が 「主語」

des Viertels デ-ス・フィアルス n.n.2 格 界隈の 「形容詞句」

eine wahre Flut アイネ・ヴァーレ・フルト n.f.4 格 文字通りの人波を 「目的語」

von Zuschauern フォン・ツァーシャウ-ン adv. (構成要素) 観客の 「副詞句」

auf die Straßen. アウフ・デ-ィー・シュトラ-セン adv. (上面) 路上に、通りに 「副詞句」

彼らの中で、若者たちは普段よりも決然とした様子に見えた。冒険映画を見たに違いない。

Die jungen Leute unter ihnen wirkten entschlossener als sonst, sie hatten sicher einen Abenteuerfilm gesehen. 「主語」「動詞」「補語」, 「主語」「動詞句」「目的語」「動詞句」

Die jungen Leute デ-ィー・ユング-ン・ロイテ pl.n.m 若者たちは 「主語」

unter ihnen ウンター・イーネン adv. 彼らの中で 「副詞句」

wirkten ヴェルクテン 3 複過(wirken)v.i ~のように見えた 「動詞」

entschlossener エントシュロッセナー adj.pl.1 格 (比較級) より決然とした 「補語」

als sonst, アルス・ゾンスト adv. (比較) 普段より、いつもより 「副詞句」

sie ジー pron.pl 彼らは 「主語」

hatten sicher ...gesehen. ハッテン・ズィッヒャー...ゲゼー-エン 3 複過・完了形・確信(sehen+ sicher)

v.t 見たに違いない 「動詞句」

einen Abenteuerfilm アイネン・アーベントイアー・フィルム n.n.4 格 冒険映画を 「目的語」

中心街の映画館から戻る人々は、少し遅れてやってきた。

Die Leute aus den Kinos in der Stadt kamen etwas später. 「主語」「動詞」「副詞句」

Die Leute デ-ィー・ロイテ pl.n.m 人々は 「主語」

aus den Kinos アウス・デ-ン・キノス adv. (内から外へ) 映画館からの 「副詞句」

in der Stadt イン・デア・シュタット adv. (場所) 街の、中心街の 「副詞句」

kamen カメン 3 複過(kommen)v.i やって来た 「動詞」

etwas später. エトワ-アス・シュペー-ター adv. 少し後に、少し遅れて 「副詞句」

ERSTER TEIL 第1部

彼らは少し真剣そうな印象だった。

Sie machten einen ernsteren Eindruck.

「主語」「動詞」「目的語」

Sie ジー pron.pl 彼らは

「主語」

machten マハテン 3 複過(machen)v.t していた

「動詞」

einen ernsteren アイネン・エソシュテルン adj (比較級) .m.4 格 少し真剣な 「形容詞句」

Eindruck. アイントゥルック n.m.4 格 印象を

「目的語」

それでも彼らは時々笑っていたが、どこか疲れて、夢見心地のように見えた。

Ab und zu lachten auch sie, aber sie wirkten doch müde und verträumt.

「副詞句」「動詞」「副詞」「主語」, aber 「主語」「動詞」「副詞」「補語」

Ab und zu アップ・ウント・ツウ adv. 時々

「副詞句」

lachten ラハテン 3 複過(lachen)v.i 笑っていた

「動詞」

auch アウフ adv. それでも

「副詞」

sie, ジー pron.pl 彼らは

「主語」

aber アーバー conj. しかし

sie ジー pron.pl 彼らは

「主語」

wirkten ヴィルクテン 3 複過(wirken)v.i ~のように見えた

「動詞」

doch ドツッホ adv. それでも

「副詞」

müde ミューデ adj. 疲れた

「補語」

und ウント conj. そして

verträumt. フェアトロイムト adj. 夢見心地の、夢想的な

「補語」

彼らは向かい側の歩道を行ったり来たりして、通りから先へ進まなかった。

Sie blieben in der Straße und gingen auf dem gegenüberliegenden Bürgersteig auf und ab.

「主語」「動詞」「副詞句」 und 「動詞」「副詞句」

Sie ジー pron.pl 彼らは

「主語」

blieben ブリーベン 3 複過(bleiben)v.i (場所に) とどまっていた

「動詞」

in der Straße イン・デア・シュトラッセ adv. 通りに

「副詞句」

und ウント conj. そして

gingen キンゲン 3 複現(gehen)v.i 歩いていた

「動詞」

auf dem gegenüberliegenden アウフ・デアム・ゲーゲーソウバーリーゲンテン

adv (上面) 向かい側の~の上を

「副詞句」

Bürgersteig ビュルガーシュタイク n.m 歩道

「目的語」

auf und ab. アウフ・ウント・アップ adv. 行ったり来たりして

「副詞句」

ERSTER TEIL 第1部

この地区の娘たちは、帽子を被らず、腕を組んで歩いていた。

Die jungen Mädchen des Viertels gingen ohne Hut und eingehakt.

「主語」「動詞」「副詞句」

Die jungen Mädchen デー・ユンゲン・メートヒェン pl(Mädchen : 不変).n.n 娘たちは 「主語」
 des Viertels デス・フィエルテルス n.n.2 格 この地区の、近隣の 「形容詞句」
 gingen キンゲン 3 複過(gehen)v.i 歩いていた 「動詞」
 ohne オーネ prep (4 格と) (様態・欠如) ~無しで 「副詞句」
 Hut フート n.m.4 格 (縁のある) 帽子 「目的語」
 und ウント conj. そして
 eingehakt. アイン・ゲハクト 過去分詞・様態(ein|haken)adv. 腕を組んで 「副詞句」

若者たちは娘たちに道を譲って擦れ違い、大声で娘たちに冗談を言った。それに対して、娘たちは顔を背けてくすくす笑った。

Die jungen Burschen hatten es so eingerichtet, daß sie ihren Weg kreuzten, sie riefen ihnen Scherzworte zu, über die die Mädchen mit abgewandtem Gesicht kicherten.

「主語」「動詞句」「間接目的語」「動詞句」, daß 「主語」「目的語」「動詞」,

「主語」「動詞句」「目的語」「動詞句」, 「副詞句」「主語」「副詞句」「動詞」

Die jungen Burschen デー・ユンゲン・ブルシェン pl(Bursche).n.m 若者たちは 「主語」
 hatten ...so eingerichtet, ハッテン...ゾー・アインゲリヒテット 3 複過・完了形(ein|richten)
 v.t やり繰りした、都合を付けた 「動詞句」
 → 道を譲った
 es エス pron (性・数に関係なく) 娘たちに、それに 「間接目的語」
 daß ダス conj.(so... daß) その結果～、そして～する
 sie ジー pron.pl 彼らは 「主語」
 ihren Weg イーレン・ヴェーク n.m 道を 「目的語」
 kreuzten, クロイツテン 3 複過(kreuzen)v.t 擦れ違った 「動詞」
 sie ジー pron.pl 彼らは 「主語」
 riefen ...zu, リーフェン...ツー 3 複過(zu|rufen) 大声で伝えた 「動詞句」
 ihnen Scherzworte イーネン・シェルツワールテ pl(Scherzwort).n.n.4 格 冗談を 「目的語」
 über die ユーバー・デー adv. それに対して 「副詞句」
 die Mädchen デー・メートヒェン pl(Mädchen : 不変).n.n 娘たちは 「主語」
 mit ミット prep (3 格と) (手段) ~によって 「副詞句」
 abgewandtem アップ・ゲヴァンテム 過去分詞(ab|wenden)
 adj..n.3 格 そらした 「形容詞」
 Gesicht ゲジヒト n.n.3 格 顔、顔つき 「目的語」
 kicherten. キッヒャーテン 3 複過(kichern)v.i くすくす笑った 「動詞」

ERSTER TEIL 第1部

僕の顔見知りの何人かの娘たちが、僕に合図を送って来た。

Mehrere, die ich kannte, winkten mir zu. 「主語」「動詞句」「間接目的語」「動詞句」
 Mehrere, メーレ pron 何人かが 「主語」
 die デー pron.pl (目的語) ～する 「形容詞節」
 ich イヒ pron 僕が 「主語」
 kannte, カンテ 1 単過・時制の一致(kennen)v.t 知っている 「動詞」
 winkten ...zu. ウィンクテン...ツェ 3 複過(zu|nken)v.i 合図を送って来た 「動詞句」
 mir ミーア pron 僕に 「間接目的語」

その時突然、街灯が輝き、夜に先駆けて昇っていた星たちを色あせさせた。

Dann flammten plötzlich die Straßenlaternen auf und ließen die ersten Sterne, die in die Nacht einzogen, verblassen.

「副詞」「動詞句」「副詞」「動詞句」「主語」 und 「動詞」「目的語」「補語」
 Dann ダン adv. その時、それから 「副詞」
 flammten ...auf フラムテン...アウフ 3 複過(auf|flammen)v.i ぱっと燃え上がった 「動詞句」
 plötzlich プレツリヒ adv. 突然、急に 「副詞」
 die Straßenlaternen デーイー・シュトラーセン・ラテルネ pl(Straßenlaterne).n.f 街灯が 「主語」
 Laterne ラテルネ n.f ランタン、提灯
 und ウント conj. そして
 ließen リーセン 3 複過・使役(lassen)v.t (SVO+不定詞) O に～させた 「動詞」
 die ersten Sterne, デーイー・エアステン・シュテルネ
 pl(Stern).n.m.4 格 最初の星たちを 「目的語」
 die デーイー pron.pl (主語) ～する 「形容詞節」
 in die Nacht イン・デーイー・ナハト adv. 夜に 「副詞句」
 einzogen, アイン・ツォーゲン 3 複過(ein|ziehen)v.i 入場してきた 「動詞句」
 verblassen. フェアブラッセン 不定詞・Sterne の動作 v.i 色あせる 「補語」

僕は、人々の行き交う歩道や光を眺めている間に、目が疲れたように感じた。

Ich fühlte, wie die Beobachtung der Bürgersteige mit ihrer Last aus Menschen und Licht meine Augen ermüdete. 「主語」「動詞」「目的語」

Ich イヒ pron 僕は 「主語」
 fühlte, フュールテ 1 単過(fühlen)v.t 感じた 「動詞」
 wie ヴァー conj. ～ということを 「目的語」
 die Beobachtung デーイー・ベオバハツング n.f (原因) 観察によって 「副詞句」
 der Bürgersteige デーア・ヒュルガー・シュタイ

ERSTER TEIL 第1部

pl(Bürgersteig).n.m.2 格 歩道の	「形容詞句」
mit ihrer Last ミット・イーラー・ラスト adv. 重荷のある	「副詞句」
aus アウス prep (原因) ~のために	「副詞句」
Menschen メンシェン	
pl(Mensch).n.m 人々	「目的語」
und ウント conj. そして	
Licht リヒト n.n 光	「目的語」
meine Augen マイネ・アウゲン pl(Auge).n.n.1 格 僕の目が	「主語」
ermüdete. エアミュデテ 過去分詞(ermüden).adj.pl.4 格 疲れた	「補語」

濡れた舗道は街灯の明かりを照り返していた。そして路面電車は、規則的な間隔で、人々のきらめく髪や、微笑みや、銀のブレスレットに前照灯の輝きを分け与えた。

Das feuchte Pflaster glänzte im Laternenlicht, und die Straßenbahnen warfen in regelmäßigen Abständen ihren Lichtschein auf glänzendes Haar, auf ein Lächeln oder auf ein silbernes Armband.

「主語」「動詞」「副詞句」,und「主語」「動詞」「副詞句」「目的語」

Das feuchte ダス・フォヒテ adj(feucht).n.1 格 湿った、濡れた	「形容詞句」
Pflaster プフラスター n.n.1 格 舗道は、歩道は	「主語」
glänzte グレンツテ 3 単過(glänzen)v.i 輝いていた	「動詞」
im Laternenlicht, イム・ラテナン・リヒト adv. 街灯の明かりで	「副詞句」
und ウント conj. そして	
die Straßenbahnen デー・イー・シュトラセナーン pl(Straßenbahn).n.f 路面電車が	「主語」
warfen ヴァーフェン 3 複過(werfen)v.t 投げた	「動詞」
in regelmäßigen Abständen イン・レゲルメーシゲン・アップ シュタンテン	
adv. (割合) 規則的な間隔で	「副詞句」
ihren Lichtschein イレン・リヒト・シャイン n.m.4 格 前照灯の輝きを	「目的語」
auf glänzendes Haar, アウフ・グレンツェンデス・ハール adv. きらめく髪の上に	「副詞句」
auf ein Lächeln アウフ・アイン・レッヒェルン adv. 微笑みの上に	「副詞句」
oder オーダー conj. あるいは	
auf ein silbernes Armband. アウフ・アイン・シルバーネス・アルムバン	
adv. 銀のブレスレットの上に	「副詞句」

ERSTER TEIL 第1部

間もなく、路面電車はさらにまばらになり、夜の闇が並木や街灯の上にかぶさってきた。そしてこの境界はいつの間にか空になり、再び閑散とした通りを一番目の猫がゆっくりさまようまでになった。僕は、何か食べなければならないと思った。

Bald wurden die Straßenbahnen seltener, die Nacht wurde schwärzer über den Bäumen und den Laternen, und das Viertel leerte sich unmerklich, bis die erste Katze langsam über die nun wieder stille Straße strich. Ich dachte, daß ich etwas essen mußte.

「副詞」「動詞」「主語」「補語」, 「主語」「動詞」「補語」,
und 「主語」「動詞句」「副詞句」 | 「主語」「動詞」「目的語」

Bald バルト adv. まもなく 「副詞」
wurden ウルデン 3 複過・変化(werden)v.i ~になった 「動詞」
die Straßenbahnen デー・イー・シュトラーセン・バーネン pl(Straßenbahn).n.f 路面電車は 「主語」
seltener, ゼルテナー adj. (比較級) さらにまばらな 「補語」
die Nacht デー・ナハト n.f 夜は、闇は 「主語」
wurde ウルデ 3 単過・変化(werden)v.i ~になった 「動詞」
schwärzer シュヴァーゼル adj. (比較級) より黒く、暗く 「補語」
über ユーバー prep (場所) ~の上で 「副詞句」
den Bäumen デン・ホイメン pl(Baum).n.m.3 格 木々、並木 「目的語」
Baum バウム n.m 木、([複] Bäume)
und ウント conj. そして
den Laternen, デン・ラテアレン pl(Laterne).n.f.3 格 街灯 「目的語」
und ウント conj. そして
das Viertel ダス・フィテル n.n この地区は、この境界は 「主語」
leerte sich レアテ・スィヒ 3 単過(sich-4 leeren)v.pr 空になった 「動詞句」
unmerklich, ウンマクリヒ adv. 気付かないうちに、いつのまにか 「副詞」
bis ビス conj. (空間的限界) ~するまで 「副詞節」
die erste Katze デー・イー・エASTE・カツェ n.f 最初の猫が 「主語」
langsam ラングザム adv. ゆっくりと 「副詞」
über ユーバー prep (3 格または 4 格と) ~の上を 「副詞句」
die nun wieder stille Straße デー・ヌン・ウィーダー・シュテイル・シュトラーセ
n.f.4 格 いまや再び静かになった通り 「目的語」
strich. シュトリヒ 3 単過(streichen)v.i さまよっていた 「動詞」
Ich イヒ pron 僕は 「主語」
dachte, ダハテ 1 単過(denken)v.t (daß ということ) 考えた、思った 「動詞」
daß ダス conj. ~ということ 「目的語」
ich イヒ pron 僕は 「主語」
etwas エトワース pron 何かを 「目的語」

ERSTER TEIL 第1部

essen müßte. エッセン・ムステ 1 単過・必要(müssen+不定詞 essen)

v.t 食べなければならない

「動詞句」

ずっと椅子の背にもたれかかっていたので、首筋が痛んだ。

Weil ich mich so lange auf die Stuhllehne gestützt hatte, tat mir der Hals weh.

「副詞節」, 「動詞」 「間接目的語」 「主語」 「補語」

Weil ウェイル conj. (理由) ~なので

「副詞節」

ich イヒ pron 僕は

「主語」

mich ...gestützt hatte, ミヒ...ゲシュトゥーツ・ハッテ 1 単過・完了形(sich-4 stützen)

v.pr(auf に) もたれかかっていた

「動詞句」

so lange ソーランゲ adv. ずっと、長いこと

「副詞句」

auf die Stuhllehne アウフ・デア・シュトゥール・レーネ adv. (接触) 椅子の背もたれに 「副詞句」

tat タート 3 単過(tun)v.i 作用をした

「動詞」

mir ミーア pron 僕にとって

「間接目的語」

der Hals デア・ハルス n.m 首筋が

「主語」

weh. ウェー adj. 痛い、痛む

「補語」

僕は下まで行って、パンとパスタを買って、調理して、立ったままで食べた。

Ich ging nach unten und kaufte Brot und Nudeln, kochte und aß im Stehen.

「主語」 「動詞」 「副詞句」 und 「動詞」 「目的語」, 「動詞」 und 「動詞」 「副詞句」

Ich イヒ pron 僕は

「主語」

ging キング 1 単過(gehen)v.i 行った

「動詞」

nach ナハ prep (方向) ~の方へ

「副詞句」

unten ウnten adv. (位置) (前置詞と) 下へ

「副詞」

von unten nach oben 「下から上に向かって」

und ウント conj. そして

kaufte カフテ 1 単過(kaufen)v.t ~を買った

「動詞」

Brot フロート n.n.4 格パンを

「目的語」

und ウント conj. そして

Nudeln, ヌーデルン pl(Nudel).n.f (複数で) ヌードルを、パスタを

「目的語」

kochte コخته 1 単過(kochen).v.i 調理した、煮た

「動詞」

und ウント conj. そして

aß アース 1 単過(essen)v.i 食べた

「動詞」

im イム prep(in+dem) (状態・様態) ~で

「副詞句」

Stehen. シテェン n.(stehen) 立っている

「目的語」

ERSTER TEIL 第1部

僕は窓辺でもう 1 本タバコを吸いたいと思ったが、もう外気は冷たくなっていて、僕は少し寒いと感じた。

Ich wollte am Fenster noch eine Zigarette rauchen, es war aber kühl geworden, und ich fror ein wenig. 「主語」「動詞句」「副詞句」「目的語」「動詞句」,

「主語」「動詞句」 aber 「補語」「動詞句」, und 「主語」「動詞」「副詞句」

Ich イッヒ pron 僕は 「主語」

wollte ...rauchen, ヲォルテ...ラウヘン 1 単過・願望(wollen+不定詞)

v.t (タバコを) 吸いたいと思った 「動詞句」

am Fenster アム・フェンスター adv. 窓辺で 「副詞句」

noch eine Zigarette ノッホ・アイネ・ツィガレツェ n.f.4 格 もう 1 本タバコを 「目的語」

es エス pron 天気が 「主語」

war ...geworden, ヲァール...ゲヲォルデテン 3 単過・変化(werden)v.i 〜になっていた 「動詞句」

aber アーバー conj. しかし

kühl キュール adj. 涼しい、冷たい 「補語」

und ウント conj. そして

Ich イッヒ pron 僕は 「主語」

fror フローア 1 単過(frieren)v.i 寒いと思った、感じた 「動詞」

ein wenig. アイン・ヴァーニツヒ adv. 少し 「副詞句」

窓を閉めて振り返ると、テーブルの上に残したパンの隣にアルコールランプがあるのが、鏡に映っているのが見えた。

Ich schloß die Fenster, und als ich mich umwandte, sah ich im Spiegel etwas von dem Tisch, auf dem mein Spirituskocher neben Brotresten stand.

「主語」「動詞」「目的語」, und 「副詞節」, 「動詞」「主語」「目的語」

Ich イッヒ pron 僕は 「主語」

schloß シュロース 1 単過(schliessen)v.t 〜を閉めた 「動詞」

die Fenster, ディー・フェンスター pl(Fenster:不変).n.n 窓を 「目的語」

und ウント conj. そして

als アルス conj. (過去のある時点で) 〜した時 「副詞節」

Ich イッヒ pron 僕が 「主語」

mich umwandte, ミッヒ・ウム・ヴァンテ 1 単過(sich-4 um | wenden)

v.pr 振り返った 「動詞句」

sah ザー 1 単過(sehen)v.t 〜が見えた 「動詞」

ich イッヒ pron 僕は 「主語」

n. 〜ということを 「目的語」

im Spiegel イム・シュビ°ーゲル adv. 鏡に (映って) 「副詞句」

ERSTER TEIL 第1部

etwas エトワ ^ス pron 何かが	「主語」
von dem Tisch, フォン・デー ^ム ・ティッシュ adv. テーブルから	「副詞句」
auf dem アウフ・デー ^ム prep その上に	「副詞句」
mein Spirituskocher マイン・シュビ ^ト リトウスコヒヤー	
n.m アルコールランプ	「目的語」
neben Brotresten ネヘン・ブ ^ロ ートレステン adv. 残ったパンの隣に	「副詞句」
stand. シュタント 3 単過・時制の一致(stehen)v.i ~がある	「動詞」

僕は思った。日曜日が過ぎ去って、今では母さんは埋葬されている。僕はまた仕事をする
ことになるのだ。結局、何も変わったものは無い。

Ich dachte, daß ein Sonntag vorbei und Mama nun begraben sei, daß ich wieder meine Arbeit tun würde und daß sich eigentlich nichts geändert habe.

「主語」「動詞」「目的語」, 「目的語」 und 「目的語」

Ich イッヒ pron 僕は	「主語」
dachte, ダ ^ハ テ 1 単過(denken)v.t 思った、考えた	「動詞」
daß ダ ^ス conj. ~ということを	「目的語」
ein Sonntag アイン・ゾンターク n.m 日曜日が	「副詞句」
vorbei フォーバイ adv. 過ぎ去って	「補語」
und ウント conj. そして	
Mama ママ n.f 母さんは	「主語」
nun ヌン adv. 今や	「副詞」
begraben sei, ベ ^グ ラベン・ザイ 接・3 単現・状態受動(sein+過去分詞 begraben)	
v.t 埋葬された	「動詞句」
daß ダ ^ス conj. ~ということを	「目的語」
ich イッヒ pron 僕は	「主語」
wieder ウィーダー adv. また	「副詞」
meine Arbeit マイネ・アルハ ^{イト} n.f.4 格 仕事を	「目的語」
tun würde トゥン・ビ ^ュ ルデ 接 II・1 単現・推量(werden+不定詞 tun)	
v.t することになるだろう	「動詞句」
und ウント conj. そして	
daß ダ ^ス conj. ~ということを	「目的語」
sich ...geändert haben. ス ^ィ ヒヒ...ゲ ^エ ンデ ^ア ト・ハーベン 3 複現・完了形(sich-4 ändern)	
v.pr 変わらなかった	「動詞句」
eigentlich アイゲン ^ト リヒ adv. 実際は	「副詞」
nichts ニヒツ pron(nichts:無変化).pl 何も~ない	「主語」

ERSTER TEIL 第1部

III

今日は会社で大いに働いた。社長は愛想が良かった。

Heute habe ich im Büro viel gearbeitet. Der Chef war liebenswürdig.

「副詞」「動詞句」「主語」「副詞句」「動詞句」 | 「主語」「動詞」「補語」

Heute ホテ adv. 今日は 「副詞」

habe ...gearbeitet. ハーベ...ゲアルハ イット 1 単現・完了形(arbeiten)v.i 働いた 「動詞句」

ich イヒ pron 僕は 「主語」

im Büro イム・ビュロー adv. (場所) 会社で、事務所で 「副詞句」

viel フィール adv. 大いに、よく、たくさん 「副詞」

Der Chef デア・シェフ n.m 社長は 「主語」

war ヴァール 3 単過(sein)v.i ~ だった 「動詞」

liebenswürdig. リーベンスヒュルディヒ adj. 愛想のいい 「補語」

愛想 (あいそう、あいそ)

人に接するときの態度。また、人当たりのいい態度。人に対する好意・信頼感。

彼は僕に、疲れていないかと気遣ってくれ、さらに、母さんは何歳だったのかと尋ねた。

Er fragte mich, ob ich nicht zu müde sei, und auch er wollte wissen, wie alt Mama geworden war.

「主語」「動詞」「直接目的語」「間接目的語」,und 「副詞」「主語」「動詞句」「目的語」

Er エア pron 彼は 「主語」

fragte フラクテ 3 単過(fragen)v.t(j-4 に) 尋ねた 「動詞」

mich, ミヒ pron.4 格 僕に 「直接目的語」

ob オフ conj. ~かどうかについて 「間接目的語」

ich イヒ pron 僕は 「主語」

nicht zu müde ニヒト・ツァー・ミュテ adj. 疲れすぎていない 「補語」

sei, サイ 接・1 単現・推量(sein)v.i ~ だろう 「動詞」

und ウント conj. そして

auch アウ adv. さらに、その上 「副詞」

er エア pron 彼は 「主語」

wollte wissen, ヴォルテ・ヴィッセン 3 単過・願望(wollen+不定詞 wissen)

v.t 尋ねた、知りたがった 「動詞句」

wie alt ヴァー・アルト adj. 何歳のということを 「目的語」

Mama ママ n.f 母さんが 「主語」

geworden war. ゲヴァーデン・ヴァール 3 単過・完了形・変化(werden)

v.i ~になった 「動詞句」

ERSTER TEIL 第1部

僕は間違えないように、「大体 60 です」と答えた。するとなぜか、彼はほっとしたように見えた。それから、この件は今や片付いたと思っているように見えた。

Um nichts Falsches zu sagen, antwortete ich: «So ungefähr sechzig», und ich weiß nicht, warum er erleichtert aussah und zu denken schien, daß das nun erledigt sei.

「副詞句」, 「動詞」「主語」: 《「応答」》, und 「主語」「動詞」「目的語」

Um +zu 不定詞 ウム zu 不定句・目的 adv. ～するために 「副詞句」

nichts Falsches ニヒツ・ファルシェス n.n.4 格 何も間違えた事を～ない 「目的語」

nichts ニヒツ pron(不定) 何も～ない falsches ファルシェス adj.n.4 格 (名詞化) 間違えた事

zu sagen, ツー・ザー・ゲン zu 不定詞 v.t 言う 「動詞句」

antwortete アントヴェ・ォアテテ 1 単過(antworten)v.i 答えた 「動詞」

ich: イヒ pron 僕は 「主語」

«So ungefähr ソー・ウンゲ・フェーア adv. 大体 「副詞句」

sechzig», セヒツヒ 数 60 歳の 「応答」

und ウント conj. そして

ich イヒ pron 僕は 「主語」

weiß nicht, ヴァイス・ニヒト 1 単現・否定(wissen)v.t 知らない 「動詞句」

warum ヴァウム adv. なぜかということ 「目的語」

er エア pron 彼は 「主語」

erleichtert エアライ化タート adv. ほっとして 「補語」

aussah アウス・サー 3 単過(aus | sehen)v.i ～のように見えた 「動詞句」

und ウント

zu denken schien, ツー・デンケン・シーン adj. 考えているような 「補語」

daß ダス conj. ～ということ 「目的語」

das ダス pron それは 「主語」

nun ヌーン adv. 今や 「副詞」

erledigt エア・レディクト 過去分詞(erledigen)

adj. 片付いた、処理された 「補語」

sei. サイ 接・3 単現(sein)v.i ～である 「動詞」

ERSTER TEIL 第1部

僕の机は船荷証券が山積みになっていて、僕はそのすべてを点検しなければならなかった。

Auf meinem Tisch häuften sich die Frachtbriefe, die ich alle zu prüfen hatte.

「副詞句」「動詞句」「主語」,「目的語」「主語」「動詞句」「目的語」

Auf アフ prep (3格と)(空間的広がり) ~の上には 「副詞句」

meinem Tisch マイネム・ティッシュ n.m.3格 僕の机 「目的語」

häuften sich ハフテン・ズィヒ 3複過(sich-4 häufen)v.pr 山積みになっていた 「動詞句」

die Frachtbriefe, デー・イー・フラフトブリーフェ pl(Frachtbrief).n.m 船荷証券、貨物運送状 「主語」

die デー pron.pl それらを 「目的語」

ich イヒ pron 僕は 「主語」

alle アル pron (付加語) すべてを 「目的語」

zu prüfen hatte. ツー・プリーフェン・ハッテ 1単過・必要(zu+不定詞 prüfen +heben)

v.t 点検しなければならなかった 「動詞句」

zu+不定詞+heben 「~しなければならない、~することが出来る」

船荷証券

貿易における船積書類のひとつ。船会社など運送業者が発行し、貨物の引き受けを証明し、当該貨物受け取りの際の依拠とする。英語では Bill of Lading、B/L と略す。船積書類のうち、もっとも重要な書類である。

僕は食事のために会社を出る前に、手を洗った。

Bevor ich das Büro verließ, um zum Essen zu gehen, wusch ich mir die Hände.

「副詞節」,「動詞」「主語」「目的語」

Bevor ベフォー conj. (時間的) ~する前に 「副詞節」

ich イヒ pron 僕が 「主語」

das Büro ダス・ビュロー n.n 会社を 「目的語」

verließ, フェアリース 1単過・時制の一致(verlassen)v.t(et-4 から) 去る、出る 「動詞」

um zum Essen zu gehen, ウム・ズム・エッセン・ツァー・ゲーエン um+zu 不定句・目的

adv. 食事に行くために 「副詞句」

wusch ウーシュ 1単過(waschen)v.t 洗った 「動詞」

ich イヒ pron 僕は 「主語」

mir die Hände. ミア・デー・ヘンデ pl(Hand).n.f 僕の手を 「目的語」

ERSTER TEIL 第1部

昼は僕にとって嬉しい時間だ。

Mittags ist das für mich ein angenehmer Augenblick. 「副詞」「動詞」「主語」「補語」
 Mittags ミッタークス adv. 昼には 「副詞」
 ist イスト 3 単現(sein)v.i ~である 「動詞」
 das ダス pron それは 「主語」
 für mich フェア・ミヒ adv. 僕にとって 「副詞句」
 ein angenehmer Augenblick. アイン・アンゲ・ネマー・アウゲンブリック n.m.1 格 嬉しい時間 「補語」

夕方には、その喜びはほとんどない。というのは、皆が一日中それを使うので、夕方になると回転タオルがまったく湿ってしまうからだ。

Abends habe ich weniger Freude daran, weil das Rollhandtuch dann ganz feucht ist: man hat es den ganzen Tag über benutzt.

「副詞」「動詞」「主語」「目的語」「副詞」, 「副詞節」:
 「主語」「動詞句」「目的語」「副詞句」

Abends アーベンツ adv. 夕方には 「副詞」
 habe ハーベ 1 単現(haben)v.t ~がある、持つ 「動詞」
 ich イヒ pron 僕は 「主語」
 weniger Freude ヴェニガー・フロイデ n.f ほとんど喜びが~ない 「目的語」
 daran, ダラン adv. それについて 「副詞」
 weil ヴァイル conj. (理由) ~なので 「副詞節」
 das Rollhandtuch ダス・ロル・ハントウーフ n.n 回転タオルが 「主語」
 dann ダン adv. その時には 「副詞」
 ganz feucht ガンツ・フォイト adj. まったく湿った 「補語」
 ist: イスト 3 単現(sein)v.i ~である 「動詞」
 man マン pron 人は 「主語」
 hat ...benutzt. ハット...ヘヌツト 3 単現・完了形(benutzen)v.t 使用した 「動詞句」
 es エス pron それを 「目的語」
 den ganzen Tag über デン・ガンツェン・ターク・ユーバー adv. 一日中 「副詞句」

ERSTER TEIL 第1部

いつだったか、そのことを社長に言ったことがある。社長は、遺憾には思うが取るに足らないことだという意見だった。

Das habe ich eines Tages dem Chef gesagt. Er meinte, es sei bedauerlich, aber unwichtig.

「直接目的語」「動詞句」「主語」「副詞句」「間接目的語」「動詞句」
「主語」「動詞」「目的語」

Das ^{ダス}pron そのことを 「直接目的語」
habe ...gesagt. ^{ハーベ...ゲザークト} 1 単現・完了形(sagen)v.t 言った 「動詞句」
ich ^{イチ}pron 僕は 「主語」
eines Tages ^{アイネス・ターゲス}adv. ある日のこと、いつだったか 「副詞句」
dem Chef ^{シェフ}n.m 社長に 「間接目的語」
Er ^{エア}pron 彼は 「主語」
meinte, ^{マインテ} 3 単過(meinen)v.t ~という意見だった 「動詞」
n. ~ということ 「目的語」
es ^{エス}pron それは 「主語」
sei ^{ザイ}接・3 単現(sein)v.i ~であると思う 「動詞」
bedauerlich, ^{ベダウアーリヒ}adj. 遺憾な 「補語」
aber ^{アーバー}conj. しかし
unwichtig. ^{ウンヴェヒチヒ}adj. 瑣末な 「補語」

少し遅めの 12 時半に、僕は配送部門で働いているエマヌエルと一緒に会社を出た。

Etwas spät, um halb eins, verließ ich mit Emmanuel, der in der Expedition arbeitet, das Büro.

「副詞句」, 「動詞」「副詞句」「目的語」

Etwas spät, ^{エトワース・シュペー}トadv. 少し遅めに 「副詞句」
etwas ^{エトワース}pron いくらか、少し spät ^{シュペー}トadv. 遅く
um ^{ウム}prep (時間的) (～時... 分) に 「副詞句」
halb eins, ^{ハルブ・アインス}adv. 1 時 30 分前、12 時半 「副詞句」
halb (vor) sechs 6 時の 30 分前→5 時半
verließ ^{フェアリース} 1 単過(verlassen)v.t(et-4 を) 出た 「動詞」
ich ^{イチ}pron 僕は 「主語」
mit Emmanuel, ^{ミット・エマヌエル}adv. エマヌエルと一緒に 「副詞句」
der ^{デア}pron (主語) ~する 「形容詞節」
in der Expedition ^{イン・デア・エクスぺディティオン}adv. 配送部門で 「副詞句」
arbeitet, ^{アルハイト} 3 単現(arbeiten)v.i 働いている 「動詞」
das Büro. ^{ダス・ビュロー}n.n.4 格 事務所、会社 「目的語」

ERSTER TEIL 第1部

会社は海に面している。僕たちは少し立ち止まって、日差しの強い港に停泊している貨物船をじっと眺めた。

Das Büro geht aufs Meer hinaus, und wir blieben einen Augenblick stehen und betrachteten die Frachtdampfer in dem sonnenheißen Hafen.

「主語」「動詞句」「間接目的語」「動詞句」,und「主語」「動詞句」「副詞句」「動詞句」
und「動詞」「目的語」「副詞句」

Das Büro ダス・ビュロー n.n オフィスは、会社は 「主語」
geht ...hinaus, ゲート...ヒナウス 3 単現(hinaus|gehen)v.i(auf et-4 に) 面している 「動詞句」
aufs Meer アウフス・メア adv.(auf+das) 海に 「間接目的語」
und ウント conj. そして
wir ヴァーイア pron.pl 僕たちは 「主語」
blieben ...stehen ブリーベン...シュテーエン 1 複過・状態の持続(bleiben+不定詞 stehen)
v.i 立ったままでいた 「動詞句」
einen Augenblick アイネン・アウゲンブリック adv. 少しの間 「副詞句」
und ウント conj. そして
betrachteten ベトラハテテン v.t じっと眺めていた 「動詞」
die Frachtdampfer デーイー・フラハトダンフ ファー pl(Frachtdampfer:不変).n.m 貨物船を 「目的語」
in dem sonnenheißen Hafen. イン・デーム・ソネンハイゼン・ハーフェン
adv. 日差しの強い港の中に 「副詞句」
sonnen ソネン v.pr(sich-4)日にあたる heißen ハイゼン adv(heiß)激しく Hafen ハーフェン n.m 港
sonnenheißen ソネンハイゼン adj.m.3 格 日差しの強い、激しく日の当たる

ちょうどこの時、がちゃがちゃ音を立て、エンジン音を轟かせて、トラックがやって来た。

In diesem Augenblick kam rasselnd, mit lärmendem Auspuff, ein Lastwagen heran.

「副詞句」,「動詞句」「副詞句」「主語」「動詞句」

In diesem Augenblick イン・デーゼム・アウゲンブリック adv. ちょうどこの時 「副詞句」
kam ...heran. カム...ヘラン 3 単過(heran|kommen)v.i 近づいてきた 「動詞句」
rasselnd, ラセルント 現在分詞・同時(rasseln+d)v.i がちゃがちゃ音を立てながら 「副詞句」
mit lärmendem Auspuff, ミット・ラルメンデーム・アウスプフ
adv. (様態) エンジン音を縦ながら 「副詞句」
ein Lastwagen アイン・ラストヴァーゲン n.m トラックが 「主語」

ERSTER TEIL 第1部

エマヌエルがトラックに乗り込もうと誘ったので、僕は走り出した。

Emmanuel fragte mich, ob wir mitfahren wollten, und ich fing an zu laufen.

「主語」「動詞」「直接目的語」「間接目的語」,und「主語」「動詞句」

Emmanuel エマヌエル n.m エマヌエルは

「主語」

fragte フラーゲ 3 単過(fragen)v.t(j-4 に) 尋ねた

「動詞」

mich, ミッヒ pron 僕に

「直接目的語」

ob オップ conj. (間接疑問文を導く) 〜かどうかということ

「間接目的語」

wir ヴィーア pron.pl 僕たちは

「主語」

mitfahren wollten, ミットファーレン・ヴォルテン 接 II・1 複現・勧誘(wollen+不定詞)

v.i 同乗しましょう

「動詞句」

und ウント conj. そして

ich イッヒ pron 僕は

「主語」

fing an zu laufen. フィンク・アン・ツウ・ラウフェン 1 単過・開始(an | fangen+zu 不定詞 laufen)

v.i 走り始めた

「動詞句」

Sie fing zu reden an. / Sie fing an zu reden. 彼女は話し始めた。

トラックが僕らの脇をかすめて通り過ぎて行っただけで、僕たちはその後を追って疾走した。

Der Lastwagen fuhr an uns vorbei, und wir rannten hinter ihm her.

「主語」「動詞」「副詞句」,und「主語」「動詞」「副詞句」

Der Lastwagen デア・ラストヴァーゲン n.m トラックは

「主語」

fuhr フーア 3 単過(fahren)v.i かすめて行っただけ

「動詞」

an uns vorbei, アン・ونس・フォーバイ adv. 僕らの脇を通り過ぎて

「副詞句」

und ウント conj. そして

wir ヴィーア pron.pl 僕たちは

「主語」

rannten ランテン 1 複過(rennen)v.i 疾走した

「動詞」

hinter ihm her. ヒンター・イム・ヘア adv. その後について

「副詞句」

ERSTER TEIL 第1部

僕は騒音と埃に包まれた。もう何も見えなかった。そして感じたのは、ウィンチと機械に
囲まれ、水平線の前でマストが踊り、僕らは船のすぐ脇を疾走したことだ。

Ich versank in Lärm und Staub. Ich sah nichts mehr und empfand nur diesen rasenden Lauf, inmitten von Winden und Maschinen, von Masten, die vor dem Horizont tanzten, und von Booten, an denen wir vorbeirannten.

「主語」「動詞」「副詞句」 | 「主語」「動詞」「目的語」 und 「動詞」「目的語」「副詞句」,
「副詞句」「主語」「動詞句」

Ich イッヒ pron 僕は 「主語」
versank フェアザンク 1 単過(versinken)v.i 埋まった 「動詞」
in Lärm und Staub. イン・レアム・ウント・シュタウプ adv. 騒音と埃の中に 「副詞句」
Lärm レアム n.m 騒音 Staub シュタウプ n.m 埃、粉塵
Ich イッヒ pron 僕は 「主語」
sah ザー 1 単過(sehen)v.t 見えた 「動詞」
nichts mehr ニヒツ・メア pron もう何も～ない 「目的語」
und ウント conj. そして
empfand エンプ ファント 1 単過(empfinden)v.t 感じた 「動詞」
nur diesen rasenden Lauf, ヌア・デーゼン・ラーゼンテン・ラウフ
n.m.4 格 あの猛烈な疾走しか～ない 「目的語」
inmitten von インミテン・フォン adv. ～に囲まれて、～の真ん中で 「副詞句」
Winden ウェインデン pl(Winde).n.m.3 格 ウィンチ 「目的語」
und ウント conj. そして
Maschinen, マシネン pl(Maschine).n.f.3 格 機械 「目的語」
von Masten, フォン・マステン adv. マストに、帆柱に 「副詞句」
die デー pl(der).n ～する 「形容詞節」
vor dem Horizont フォア・デーム・ホルツォント adv. 水平線の手前で 「副詞句」
tanzten, タンツテン 3 複過・時制の一致(tanzen)v.i 踊る 「動詞」
und ウント conj. そして
von Booten, フォン・ボーテン adv. 船の前で 「副詞句」
an denen アン・デーネン adv. それらのそばに 「副詞句」
wir ウィア pron.pl 僕らは 「主語」
vorbeirannten. フォアバイ・ランテン 1 複過(vorbei|rennten)v.i すぐ脇を疾走した 「動詞句」
vorbei- フォアバイ 前つづり 「的を外して」 非常に接近して

ERSTER TEIL 第1部

僕が先にトラックに追いついて、飛び乗った。

Ich erwischte den Wagen als erster und sprang auf.

「主語」「動詞」「目的語」「副詞句」 und 「動詞句」

Ich イッヒ pron 僕は

「主語」

erwischte エアウ^ニィシュテ 1 単過(erwischen)v.t 追いついた、とっ捕まえた

「動詞」

den Wagen デン・ヴァーゲン n.m.4 格 トラックに

「目的語」

als erster アル・エスター adv. (順序) 最初に、一番手として

「副詞句」

und ウント conj. そして

sprang auf. シュプ^ニ ランク^ニ・アウフ 1 単過(auf|springen)v.i 飛び乗った

「動詞句」

それからエマヌエルが乗り込むのを手伝った。

Dann half ich Emmanuel.

「副詞」「動詞」「主語」「目的語」

Dann ダン adv. (時間的継続) それから

「副詞」

half ハルフ 1 単過(helfen)v.t 手助けした

「動詞」

ich イッヒ pron 僕は

「主語」

Emmanuel. エマヌエル n.m エマヌエルを

「目的語」

僕たちは息を切らした。砂埃と日光が作る煙幕の中を、トラックは埠頭のでこぼこの舗装の上をがたがた音を立てて走った。

Wir waren außer Atem, der Lastwagen ratterte über das Holperpflaster des Kais, in einer Wolke von Staub und Sonne.

「主語」「動詞」「副詞句」, 「主語」「動詞」「副詞句」

Wir ヴァーア pron.pl 僕たちは

「主語」

waren ヴァーレン 1 複過(sein)v.i ~ だった

「動詞」

außer アウサー prep (様態) ~の無い状態に

「副詞句」

Atem, アーテム n.m 息、呼吸

「目的語」

der Lastwagen デア・ラストヴァーゲン n.m トラックは

「主語」

ratterte ラッターテ 3 単過(rattern)v.i がたがた音を立てて走った

「動詞」

über das Holperpflaster ユーバー・ダス・ホルパー・フラスター adv. でこぼこの舗道の上を

「副詞句」

hoprig ホルプリッヒ adj. でこぼこの Pflaster フラスター n.n 舗道、舗装、絆創膏

des Kais, デス・カイス n(Kai).n.2 格 波止場の、埠頭の

「形容詞句」

in einer Wolke イン・アイナー・ヴォルケ adv. 雲の中で

「副詞句」

von Staub und Sonne. フォン・スタウプ・ウント・ゾネ

adv. (素材) 埃と日光による

「副詞句」

ERSTER TEIL 第1部

エマヌエルは笑いが止まらなかった。

Emmanuel konnte sich vor Lachen nicht halten.

「主語」「動詞句」「間接目的語」「動詞句」

Emmanuel エマヌエル n.m エマヌエルは

「主語」

konnte sich ...nicht halten. コンテ・スィット...ニヒト・ハルテン 3 単過・可能・否定・維持

(können+不定詞 sich-4 halten)v.pr (感情などを) 抑えることが出来なかった 「動詞句」

vor Lachen フォーア・ラヘン adv. 笑いを

「間接目的語」

sich-4 vor Lachen nicht merh halten können 「笑いが止まらない」

汗びっしょりになって、僕たちはセレステの店に着いた。

Schweißgebadet kamen wir bei Celeste an.

「副詞」「動詞句」「主語」「間接目的語」「動詞句」

Schweißgebadet シュヴァイスゲバーデット adv. 汗びっしょりになって

「副詞」

kamen ...an. カメン...アン 1 複過(an | kommen)v.i 到着した、着いた

「動詞句」

wir ウィー pron.pl 僕たちは

「主語」

bei Celeste バイ・セステ adv. (場所に) セレステの店に

「間接目的語」

いつものように、太った腹にエプロンをかけて、白い口髭のセレステがいた。

Wie immer war er da, mit dickem Bauch, Schürze und weißem Schnurrbart.

「副詞句」「動詞」「主語」「副詞句」

Wie immer ウィー・イマー adv. (比較) いつものように

「副詞句」

war ウァール 3 単過・存在(sein)v.i 〜にいた

「動詞」

er エア pron セレステは

「主語」

da, ダー adv. そこに

「副詞」

mit ミット prep (様態) 〜の状態で

「副詞句」

dickem Bauch, ディッケム・バウフ n.m.3 格 太った腹

「目的語」

Schürze シュルツェ n.f.3 格 エプロン

「目的語」

und ウント conj. そして

weißem Schnurrbart. ウァイセム・シュヌルハート n.m.3 格 白い口髭

「目的語」

彼は僕に、「なんとか元気になっているか？」と尋ねた。

Er fragte mich, ob es mir einigermaßen ginge.

「主語」「動詞」「直接目的語」「間接目的語」

Er エア pron 彼は

「主語」

fragte フラクテ 3 単過(fragen)v.t 尋ねた

「動詞」

mich, ミヒ pron 僕に

「直接目的語」

ERSTER TEIL 第1部

ob オフ conj. ～かどうかということ	「間接目的語」
es エス pron それ	「主語」
mir ミア pron 僕にとって	「間接目的語」
einigermaßen アイニガーマーセン adv. いくらか、ある程度	「副詞句」
ginge. ギンゲ 接 II・3 単現(gehen)v.i (物事が) 進行している	「動詞」

僕は、元気だ、腹が減ったと答えた。

<u>Ich bejahte</u> und <u>sagte</u> , <u>daß ich Hunger hätte</u> .	「主語」「動詞」 und 「動詞」「目的語」
Ich イッヒ pron 僕は	「主語」
bejahte ベヤーテ 1 単過(bejahen)v.t 「はい」と答えた、同意した	「動詞」
und ウント conj. そして	
sagte, サークテ 1 単過(sagen)v.t 言った	「動詞」
daß ダス conj. ～ということ	「目的語」
間接話法 → 接続法第一式 (直接法と同じなら接続法第二式を用いる)	
ich イッヒ pron 僕は	「主語」
Hunger フンガー n. 空腹	「目的語」
hätte. ヘッテ 接 II・1 単現(haben)v.t ～がある	「動詞」

僕は大きくて食べ、コーヒーを飲んだ。

<u>Ich aß sehr schnell</u> und <u>trank eine Tasse Kaffee</u> .	「主語」「動詞」「副詞句」 und 「動詞」「目的語」
Ich イッヒ pron 僕は	「主語」
aß アース 1 単過(essen)v.i 食べた	「動詞」
sehr schnell セーア・シュネル adv. 大きくて	「副詞句」
und ウント conj. そして	
trank トランク 1 単過(trinken)v.t 飲んだ	「動詞」
eine Tasse Kaffee. アイネ・タッセ・カフフェ n.m コーヒーを 1 杯	「目的語」

ERSTER TEIL 第1部

それから、僕は家に戻った。ワインを飲み過ぎたので少し眠った。目が覚めると、タバコが吸いたくなった。

Dann ging ich nach Hause, schlief ein bißchen, weil ich zuviel Wein getrunken hatte, und als ich wach wurde, hatte ich Lust auf eine Zigarette.

「副詞」「動詞」「主語」「間接目的語」, 「動詞」「副詞句」,

und 「副詞節」「動詞」「主語」「目的語」

Dann	ダン adv. それから	「副詞」
ging	ギング 1 単過(gehen)v.i 歩いて行った	「動詞」
ich	イチ pron 僕は	「主語」
nach Hause,	ナーハ・ハウゼ adv. 家に	「間接目的語」
schlief	シュリーフ 1 単過(schlafen)v.i 眠った	「動詞」
ein bißchen,	アイン・ビッシェン adv. (量・時間) 少しの間	「副詞句」
weil	ヴァイル conj. (理由) ~なので	「副詞節」
ich	イチ pron 僕は	「主語」
zuviel Wein	ツヴァール・ヴァイン n.m.4 格 多すぎるワインを	「目的語」
getrunken hatte,	ゲトルンケン・ハッテ 1 単過・完了形(trinken) v.t 飲んでしまった	「動詞句」
und	ウント conj. そして	
als	アルス conj. ~した時	「副詞節」
ich	イチ pron 僕は	「主語」
wach	ヴァッハ adj. 目覚めた	「補語」
wurde,	ウルテ 1 単過・変化(werden)v.i ~になった	「動詞」
hatte	ハッテ 1 単過(haben)v.t ~があった	「動詞」
ich	イチ pron 僕は	「主語」
Lust	ルスト n.f.4 格 気持ち、願望	「目的語」
auf eine Zigarette.	アフ・アイネ・ツィガレッテ adv. (対象) タバコに対して	「副詞句」

もう遅れそうな時間になっていた。僕は電車に間に合うように走らねばならなかった。

Es war spät, und ich mußte laufen, um die Tram noch zu erwischen.

「主語」「動詞」「補語」, und 「主語」「動詞句」「副詞句」

Es	エス pron 時間は	「主語」
war	ヴァール 3 単過(sein)v.i ~ だった	「動詞」
spät,	シュペート adj. 遅い	「補語」
	午後の仕事に遅れそうだ	
und	ウント conj. そして	
ich	イチ pron 僕は	「主語」

ERSTER TEIL 第1部

mußte laufen, ムステ・ラウフェン 1 単過・必要(müssen+不定詞)

v.i 走らねばならなかった

「動詞句」

um ...zu erwischen. ウム...ツァー・エアウ`イッシェン um zu 不定句 adv. (電車) に乗るために「副詞句」

erwischen エアウ`イッシェン v.t 捕まえる

die Tram デー・イー・トラム n.m.4 格 路面電車

「目的語」

noch ノッホ adv. なんとか

「副詞」

午後はびっしり働いた。

Ich arbeitete den ganzen Nachmittag.

「主語」「動詞」「副詞句」

Ich イッヒ pron 僕は

「主語」

arbeitete アルバ`イテテ 1 単過(arbeiten)v.i 働いた

「動詞」

den ganzen デン・ガンツェン adj(ganz).m.4 格 すべての、全体の

「形容詞句」

Nachmittag. ナーハミターク n.m.4 格 午後

「副詞句」

びっしり

気を抜くことなく十分に行うさま。「一週間びっしり(と)働く」

会社はとても暑かった。夕方に家に帰る時、波止場をゆっくり歩いていると嬉しくなった。

Es war im Büro sehr heiß, und als ich abends nach Hause ging, freute ich mich, langsam über die Kais gehen zu können.

「動詞」「補語」, und 「副詞節」, 「動詞句」「主語」「動詞句」「副詞句」

Es エス pron 非人称・天気

war ヲ`アル (sein)v.i ~ だった

「動詞」

im Büro イム・ビ`ュロー adv. オフィスは

「副詞句」

sehr heiß, ゼーア`ハイス adj. とても暑い

「補語」

und ウント conj. そして

als アルス conj. ~した時

「副詞節」

ich イッヒ pron 僕が

「主語」

abends アーベンツ adv. 夕方に

「副詞」

nach Hause ナーハ`ハウゼ` adv. 家に向かって

「副詞句」

ging, キング` 1 単過(gehen)v.i 歩いていた

「動詞」

freute ...mich, フロイト...ミッヒ 1 単過(sich-4 freuen)v.pr 嬉しく思った

「動詞句」

ich イッヒ pron 僕は

「主語」

langsam ラング`ザーム adv. (様態) ゆっくりと

「副詞句」

über die Kais ユーバー・デー・カイス adv. 波止場を

「副詞句」

gehen zu können. ゲーエン・ツァー・ケネン zu 不定句 v.i 歩いている

「動詞句」

ERSTER TEIL 第1部

空は緑色だった。僕は幸せだと感じた。

Der Himmel war grün, und ich fühlte mich wohl.

「主語」「動詞」「補語」,und「主語」「動詞句」「補語」

Der Himmel デア・ヒメル n.m 空は

「主語」

war ヲアール 3 単過(sein)v.i ~ だった

「動詞」

grün, グリュン adj. 緑の

「補語」

und ウント conj. そして

ich イヒ pron 僕は

「主語」

fühlte mich フュルテ・ミヒ 1 単過(sich-4 fühlen)v.pr 自分を～だと感じた

「動詞句」

wohl. ヲール adv. 幸せな

「補語」

それでも、夕食用にジャガイモ炒めを作りたかったので、僕は真つすぐ家に戻った。

Trotzdem ging ich direkt nach Hause, weil ich mir zum Abendbrot Bratkartoffeln machen wollte.

「副詞」「動詞」「主語」「間接目的語」「副詞節」

Trotzdem トロツテーム adv. それでも

「副詞」

ging キング 1 単過(gehen)v.i 歩いた

「動詞」

ich イヒ pron 僕は

「主語」

direkt nach Hause, ディレクト・ナー・ハウゼ adv. 真つすぐ家に

「間接目的語」

weil ヲアイル conj. (理由) ~なので

「副詞節」

ich イヒ pron 僕は

「主語」

mir ミア pron 自分のために

「間接目的語」

zum Abendbrot ツーム・アーベントブロート adv. 夕食のために

「副詞句」

Bratkartoffeln ブラートカルフェルン pl.n. ジャガイモ炒めを

「目的語」

machen wollte. マヘン・ウオルテ 1 単過・願望(wollen+不定詞)

v.t 作りたかった

「動詞句」

階段をあがって行く途中で、同じ階に住むサラマノ老人に出会った。

Als ich die dunkle Treppe hinaufging, stieß ich mit dem alten Salamano meinem Flurnachbarn zusammen.

「副詞節」,「動詞」「主語」「間接目的語」

Als アルス conj. (時間) ~した時

「副詞節」

ich イヒ pron 僕が

「主語」

die dunkle Treppe トレッペ n.f.4 格 (副詞的) 暗い階段を

「副詞句」

dunkel トンケル adj. 暗い

hinaufging, ヒナウフ・キング 1 単過(hinauf|gehen)v.i 上っていた

「動詞句」

stieß シュティース 1 単過(stoßen)v.i (偶然) 出会った

「動詞」

ich イヒ pron 僕は

「主語」

ERSTER TEIL 第1部

mit dem alten Salamano, ミット・デー・ム・アルテン・サマノ adv. サラマノ老人と 「間接目的語」
 meinem Flurnachbarn, マイネム・フルア・ナハバーン adv. 同じ階の 「副詞句」
 zusammen. ツァメン adv. 一緒に 「副詞」

彼の脇には犬がいた。

Er hatte seinen Hund bei sich. 「主語」「動詞」「目的語」「副詞句」
 Er エア pron 彼は 「主語」
 hatte ハッテ 3 単過(haben)v.t ~があった、いた 「動詞」
 seinen Hund サイネン・フント n.m.4 格 犬 「目的語」
 bei sich. バイ・ズィッヒ adv. (近接) 自分のそばに、脇に 「副詞句」

8 年前から、この両者がいつも一緒にいるところを見かけるようになった。

Seit acht Jahren sieht man die beiden immer zusammen.
 「副詞句」, 「動詞」「主語」「目的語」「副詞句」
 Seit サイト prep (3 格と) (時間) ~前から 「副詞句」
 acht Jahren アハト・ヤーレン pl(Jahr).n.n.3 格 8 年 「目的語」
 sieht シーht 3 単現(sehen)v.t 見ている 「動詞」
 man マン pron 人は 「主語」
 die beiden デーイー・ハイトェン pl(bei).pron 両者を 「目的語」
 immer zusammen. イマー・ツァメン adv. いつも一緒に 「副詞句」

そのスペイン犬は、疥癬症だと思うが、皮膚病を患っており、ほとんどすべての毛を失い、褐色の腫物や瘡蓋で覆われていた。

Der Spaniel hat eine Hautkrankheit, ich glaube den Brand; er verliert dabei fast alle Haare und ist voll brauner Flecken und Schorf.

「主語」「動詞」「目的語」, 「主語」「動詞」「目的語」;
 「主語」「動詞」「副詞」「目的語」 und 「動詞」「補語」
 Der Spaniel デア・シュパニエル n.m そのスペイン犬は 「主語」
 hat ハット 3 単現(haben)v.t ~がある 「動詞」
 eine Hautkrankheit, アイン・ハウトクランクハイト n.f 皮膚病 「目的語」
 ich イッヒ pron 僕は 「主語」
 glaube グラウベ 1 単現(glauben)v.t ~と思っている 「動詞」
 den Brand; デン・ブランド n.m.4 格 (医) 壊疽、疥癬症 「目的語」
 er エア pron (Spaniel の代用) その犬は 「主語」
 verliert フェアリヒト 3 単現(verlieren)v.t 失っている 「動詞」
 dabei ダバイ adv. おまけに、そのうえ 「副詞」

ERSTER TEIL 第1部

fast alle ファスト・アレ adj. ほとんどすべての	「形容詞句」
Haare ハーレ pl(Haar).n.f.4 格 毛	「目的語」
und ウント conj. そして	
ist イスト 3 単現(sein)v.i ~である	「動詞」
voll フォル adj. ~でいっぱい	「補語」
brauner Flecken und Schorf. ブラウナー・フレン・ウント・ショルフ	
n.m 褐色のしみとかさぶた	「目的語」

疥癬症

犬の疥癬症（かいせんしょう）はヒゼンダニによる伝染する皮膚疾患で、激しいかゆみを引き起こします。感染部位には発疹がみられ、非常にかゆがり、かき壊した跡や脱毛が多数できます。犬からほかの動物へは簡単に感染し、人へも一時的に感染するので注意が必要です。

長い間この犬と老人は小さい部屋で暮らしているので、サラマノ老人は犬に似てきた。

<u>Weil die beiden dauernd in einem kleinen Zimmer zusammenhausen, sieht der alte Salamano aus wie sein Hund.</u>	「副詞節」, 「動詞句」「主語」「動詞句」「副詞句」
Weil ヲァイル conj. (理由) ~なので	「副詞節」
die beiden デーイー・ハ イェン pl(bei.de).pron この二人 (犬と老人) は	「主語」
dauernd ダウアーント adv. 永続的に、長い間	「副詞」
in einem kleinen Zimmer イン・アイネム・クライネン・ツィマー adv. 小さい部屋に	「副詞句」
zusammenhausen, ツァメン・ハウゼン 3 複現(zusammen hausen)	
v.i (劣悪な状態で) 暮らしている	「動詞句」
zusammen- ツァメン 分離前つづり「集合、共同」	
sieht ...aus シー ト...アウス 3 単現(aus sehen)v.i ~に見える	「動詞句」
der alte Salamano デア・アルテ・サラマノ n.m サラマノ老人は	「主語」
wie ヲァー conj. (比較) ~のように	「副詞句」
sein Hund. ザイン・フント n.m 自分の犬	「目的語」

老人は、顔に赤みがかった疱疹があり、毛は黄ばんでまばらだった。

<u>Er hat rötliche Flechten im Gesicht und schütteres gelbliches Haar.</u>	「主語」「動詞」「目的語」
Er エア pron 彼は	「主語」
hat ハット 3 単現(haben)v.t (特徴を) していた	「動詞」
rötliche Flechten レートリッヒェ・フレヒテン pl(Flechte).n.f.4 格 赤みがかった疱疹	「目的語」
rötliche レートリッヒェ adj.pl.4 格 赤みがかった Flechten フレヒテン pl(Flechte).n.f 疱疹	
im Gesicht イム・ゲジヒト adv. 顔に	「副詞句」

ERSTER TEIL 第1部

und ウント そして

schütteres gelbliches Haar. シュッテレス・ゲルプ[°] リッヒェス・ハール

n.n.4 格 黄ばんでまばらの毛

「目的語」

schütteres シュッテレス adj.n.4 格 まばらの gelbliches ゲルプ[°] リッヒェス adj.n.4 格 黄色がかった

一方、その犬は鼻づらと首筋を前に伸ばす事で、主人の前かがみの姿勢を受け継いでいた。

Der Hund wiederum hat von seinem Herrn dessen gebeugte Haltung angenommen, indem er Schnauze und Hals nach vorne streckt.

「主語」「副詞」「動詞句」「副詞句」「目的語」「動詞句」, 「副詞節」

Der Hund デア・フント n.m その犬は

「主語」

widerum ヴィーデルム adv. 一方

「副詞」

hat ...angenommen, ハット...アン・ゲノメン 3 単現・完了形(an|nehmen)

v.t ~を受け取っていた

「動詞句」

von seinem Herrn フォン・ザイネム・ヘアン adv. 主人から

「副詞句」

dessen gebeugte Haltung デッセン・ゲボイクテ・ハルトウング

n.f.4 格 主人の曲がった姿勢を

「目的語」

indem インデーム conj. (方法) ~することによって

「副詞節」

er エア pron その犬は

「主語」

Schnauze シュナウツェ n.f.4 格 鼻づらを

「目的語」

und ウント conj. そして

Hals ハルス n.m.4 格 首すじを、頭を

「目的語」

nach vorne ナーハ・ヴォーネ adv. 前方へ、前に

「副詞句」

streckt. シュトレクト 3 単現(strecken)v.t 伸ばす

「動詞」

彼らは同じ性質の者どうしのように見えるが、彼らは憎みあっている。

Sie scheinen ein und derselben Rasse anzugehören und können doch einander nicht ausstehen. 「主語」「動詞句」「補語」「動詞句」 und 「動詞句」 doch 「目的語」「動詞句」

Sie ジー pron.pl 彼らは

「主語」

scheinen シャイネン 3 複現 v.i (zu 不定詞 ~であるように) 見える

「動詞句」

ein アイン pron 同じ

「補語」

und ウント conj. そして

derselben Rasse デアゼルベン・ラッセ pl.n.3 格 同じ性質の者たち

「補語」

derselben デアゼルベン adj(derselbe).pl.3 格 同一の Rasse ラッセ(pl.)n.f 人種、性質

anzugehören アン・ツァー・ゲヘレン zu 不定詞(an|gehören)v.i (et-3 に) 所属する

「動詞句」

und ウント conj. そして

können ...nicht ausstehen. ケネン...ニヒト・アウスシュテーエン 3 複現・可能・否定(können+不定詞)

ERSTER TEIL 第1部

v.t 決して耐えられない、上手くやれない 「動詞句」
 doch ドッホ conj. しかしながら
 einander アインダー pron.4 格 (sich の代用) 互いを 「目的語」

毎日2回、11時と午後6時に老人は犬を散歩に連れて行く。

Zweimal täglich, um elf und um sechs Uhr, führt der Alte seinen Hund spazieren.

「副詞句」, 「動詞句」 「主語」 「目的語」 「動詞句」

Zweimal ツヴァイマル adv. 2度 「副詞句」

täglich, テークリヒ adv. 1日に 「副詞」

um elf und um sechs Uhr, ウム・エルフ・ウント・ウム・ゼックス・ウアー

adv.(時刻) 11時と午後6時に 「副詞句」

führt ...spazieren. フューアト...シュハッツイーレン 3 単現・連れて行く (führen+不定詞 spazieren)

v.t 散歩に連れて行く 「動詞句」

spazieren シュハッツイーレン v.i 散歩する

der Alte デア・アルテ n.m 老人は 「主語」

seinen Hund サイネン・フント n.m.4 格 犬を 「目的語」

8年前からずっと、彼らは同じコースを散歩している。

Seit acht Jahren machen sie immer den gleichen Weg.

「副詞句」 「動詞」 「主語」 「副詞」 「目的語」

Seit サイト prep (3 格と) (時間・起点) ~以来 「副詞句」

acht Jahren アハト・ヤーレン pl(Jahr).n.3 格 8年 「目的語」

machen マヘン 3 複現 v.t (動作名詞と) ~している 「動詞」

sie シー pron.pl 彼らは 「主語」

immer adv. いつも 「副詞」

den gleichen Weg. デン・グライヒェン・ウェーク n.m.4 格 同じ道筋で散歩を 「目的語」

gleichen グライヒェン adj(gleich).m.4 格 同じ

ERSTER TEIL 第1部

彼らがリオン街を散歩する所を見かけることが出来るかもしれない。犬が老人を引っ張り続け、やがてサ라마ノ老人はうんざりする。

Man kann sie in der Rue de Lyon sehen, wo der Hund den Mann so lange zieht, bis der alte Salamano es satt hat.

「主語」「動詞句」「目的語」「副詞句」

Man マン pron 人は

「主語」

kann ...sehen, カン...ゼーエン 3 単現・可能性(können+不定詞 sehen)

v.t ~を見かけるだろう

「動詞句」

sie ジー pron.4 格 彼らを

「目的語」

in der Rue de Lyon イン・デア・リュ・デ・リオン adv. リオン街で

「副詞句」

wo ウォー adv. そこで~する

「形容詞節」

der Hund デア・フント n.m 犬が

「主語」

den Mann デン・マン n.m.4 格 老人を

「目的語」

so lange ソーランゲ adv. 長く、ずっと

「副詞句」

zieht, ツィート 3 単現(ziehen)v.t 引っ張る

「動詞」

bis ビス conj.(so...bis) (結果) そして~する

der alte Salamano デア・アルテ・サ라마ノ n.m サ라마ノ老人が

「主語」

es エス pron それに

「目的語」

satt サット adj. 満腹の、うんざりした

「補語」

hat. ハット 3 単現・変化(haben)v.t ~になる

「動詞」

フランス語の原文では：

リオン街あたりで、彼らを見かけ、犬がサ라마ノ老人がつまづくまで引っ張るのを目撃することもあるだろう。

On peut les voir le long de la rue de Lyon, le chien tirant l'homme jusqu'à ce que le vieux Salamano bute.

すると彼は犬をさんざん殴り、罵る。

Dann schlägt er auf den Hund ein und beschimpft ihn.

「副詞」「動詞句」「主語」「間接目的語」「動詞句」 und 「動詞」「目的語」

Dann ダン adv. それから

「副詞」

schlägt ...ein シュレクト...アイン 3 単現(ein | schlagen)v.i(auf j-4 ~を) さんざん殴る

「動詞句」

er エア pron 彼は

「主語」

auf den Hund アウフ・デン・フント adv. 犬を

「間接目的語」

und ウント conj. そして

beschimpft ベシンプフト 3 単現(beschimpfen)v.t ののしって侮辱する

「動詞」

ihn. イン pron.4 格 (Hund の代用) 犬を

「目的語」

ERSTER TEIL 第1部

犬は恐怖におびえて這いつくばり、そのまま老人に引きずられていく。

Der Hund kriecht vor Angst und läßt sich nun von dem Alten ziehen.

「主語」「動詞」「副詞句」 und 「動詞句」「副詞句」

Der Hund デア・フント n.m 犬は

「主語」

kriecht クリーヒト 3 単現(kriechen)v.i 這いつくばる

「動詞」

vor フォア prep (原因) 〜のあまり

「副詞句」

Angst アングスト n.f 恐れ

「目的語」

und ウント conj. そして

läßt sich ...ziehen. レスト・スィヒト...ツイーエン 3 単現・放任・受動(sich-4 lassen+不定詞)

v.t 引っ張られるがままになる

「動詞句」

nun ヌン adv. もはや

「副詞」

von dem Alten フォン・デーム・アルテン adv. (受動の動作主) 老人によって

「副詞句」

犬は全てを忘れてしまうと、また主人を引っ張る。そしてまたもや殴られ、罵られる。

Hat der Hund alles vergessen, dann zieht er wieder seinen Herrn und wird wieder verprügelt und beschimpft.

「副詞節」, 「副詞」「動詞」「主語」「副詞」「目的語」

und 「動詞句」「副詞」「動詞句」

Hat ...vergessen, ハット...フェアゲッセン 3 単現・完了形・条件(vergessen)v.t 忘れた

「副詞節」

der Hund デア・フント n.m 犬が

「主語」

alles アレス pron.pl 全てを

「目的語」

dann ダン adv. すると、それから

「副詞」

zieht ツィート 3 単現(ziehen)v.t 引っ張る

「動詞」

er エア pron (Hund の代用) 犬が

「主語」

wieder ウィーダー adv. 再び

「副詞」

seinen Herrn サイネン・ヘン n.m.4 格 主人を

「目的語」

und ウント conj. そして

wird ...verprügelt und beschimpft. ヴィルト...フェアプリュゲルト・ウント・ベシンプフト

3 単現・受動(verprügeln / beschimpfen)v.t 殴られ、罵られる

「動詞句」

wieder ウィーダー adv. 再び、また

「副詞」

ERSTER TEIL 第1部

それから両者は歩道に立ち止まり、犬は恐怖におののき、老人は憎しみを露わにして、相手を見つめる。毎日、そのような事が繰り返される。

Dann bleiben beide auf dem Bürgersteig stehen und sehen einander an, der Hund voller Angst, der Alte voller Haß. So geht das jeden Tag.

「副詞」「動詞句」「主語」「副詞句」「動詞句」 und

「動詞句」「目的語」「動詞句」「主語」, 「主語」

「副詞」「動詞」「主語」「副詞句」

Dann ダン adv. (時間的継続) それから、そのあと

「副詞」

bleiben ...stehen ブライベン・シュテーエン 3 複現・継続(bleiben+不定詞)

v.i (場所に) 立ち止まる

「動詞句」

beide バイェ pron.pl 両者は

「主語」

auf dem Bürgersteig アウフ・デーム・ビュルグーシュタイク adv. (場所) 歩道に

「副詞句」

und ウント conj. そして

sehen ...an, セーエン...アン 3 複現(an|sehen)v.t 見つめる

「動詞句」

einander アイナナダー pron (相互) 互いを

「目的語」

der Hund デア・フント n.m (様態) 犬は

「主語」

voller Angst, フォラー・アングスト adj. 恐れに満ちた

「形容詞句」

der Alte デア・アルテ n.m (様態) 老人は

「主語」

voller Haß. フォラー・ハス adj. 憎しみに満ちた

「形容詞句」

So ザー adv. そんな風に

「副詞」

geht ゲート 3 単現(gehen)v.i 進行する

「動詞」

das ダス pron 物事は

「主語」

jeden Tag. イェーデン・ターク n.m.4 格 毎日

「副詞句」

犬が小便をしようとする、老人は犬にその暇を与えず、犬を無理やり引っ張る。その結果、犬は自分の後ろに小さな滴の痕跡を残しながら引き摺られていく。

Wenn der Hund Wasser lassen will, läßt der Alte ihm keine Zeit dazu und zerrt ihn weiter, so daß der Spaniel eine Fährte kleiner Tropfen hinter sich her sät.

「副詞節」, 「動詞」「主語」「間接目的語」「直接目的語」「副詞」, 「副詞節」

Wenn ウェン conj. (条件) ~すると

「副詞節」

der Hund デア・フント n.m 犬が

「主語」

Wasser ヴァッサー n.n.4 格 尿を

「目的語」

lassen will, ヴァイル・ラッセン 3 単現・意志・放任(derden+不定詞)

v.t 出させようとする

「動詞句」

läßt レスト 3 単現・使役(lassen)v.t ~させる

「動詞」

der Alte デア・アルテ n.m 老人は

「主語」

ERSTER TEIL 第1部

ihm イム pron. 犬に	「間接目的語」
keine Zeit カイネ・ツァイト n.f.4 格 時間を～ない	「直接目的語」
dazu ダツァー adv. そのために	「副詞」
und ウント conj. そして	
zerrt ツェルト 3 単現(zerren)v.t 無理やり引っ張る	「動詞」
ihn イン pron 犬を	「目的語」
weiter, ヴァイター adv. さらに	「副詞」
so daß ソー・ダース conj. その結果～する	「副詞節」
der Spaniel デア・シュパニエル n.m スパニエル犬は	「主語」
eine Fährte アイン・フェアテ n.f 足跡を	「目的語」
kleiner Tropfen クライナー・トロップフェン adj. 小さな滴の	「形容詞句」
hinter sich ヒンター・ズィヒ adv. 自分の後ろに	「副詞句」
her sät. ヘア・ゼート 3 単現(her säen)v.t まき散らす	「動詞句」

たまたま部屋の中であると、犬はまた殴られる。

Wenn der Hund zufällig einmal ins Zimmer macht, bekommt er wieder Prügel.

	「副詞節」, 「動詞」「主語」「副詞」「目的語」
Wenn ウェン conj. ～すると	「副詞節」
der Hund デア・フント n.m 犬が	「主語」
zufällig ツーフェリヒ adv. たまたま、偶然	「副詞」
einmal アインマル adv. ある時	「副詞」
ins Zimmer インス・ツィマー adv. 部屋の中で	「副詞句」
macht, マハト 3 単現(machen)v.t (動作を) する	「動詞」
bekommt ベコムト 3 単現(bekommen)v.t ～をもらう	「動詞」
er エア pron 犬は	「主語」
wieder ヴァイター adv. またもや、再び	「副詞」
Prügel. プリュェゲル n.m.4 格 殴打を	「目的語」

そのようにして、今ではもう 8 年になる。

So geht das nun schon acht Jahre lang.

	「副詞」「動詞」「主語」「副詞句」
So ソー adv. そのように	「副詞」
geht ゲート 3 単現(gehen)v.i 進行している	「動詞」
das ダース n.n その事は	「主語」
nun ヌン adv. 今では	「副詞」
schon acht Jahre lang. ショーン・アハト・ヤレ・ラング adv. もう 8 年も	「副詞句」

ERSTER TEIL 第1部

セレステは「悲劇だ」と言うが、根本的な事は誰にも分からない。

Celeste meint, das sei «eine wahre Tragödie», aber im Grunde weiß das niemand.

	「主語」「動詞」「目的語」, aber 「副詞句」「動詞」「目的語」「主語」
Celeste セレステ n.m セレステは	「主語」
meint, マイント 3 単現(meinen)v.t 言う	「動詞」
n. ～ということを	「目的語」
das ダス n.n それは	「主語」
sei サイ 接・3 単現・推量(sein)v.i ～である	「動詞」
«eine wahre Tragödie», アイン・ヴァーレ・トラゲーデー n.f 本当の悲劇	「補語」
aber アーバー conj. しかし	
im Grunde イム・グルンデ adv. 根本においては	「副詞句」
weiß ヴァイス 3 単現(wissen)v.t 知っている	「動詞」
das ダス n.n それを	「目的語」
niemand. ニーマント pron 誰も～ない	「主語」

僕が階段でサラマノ老人に出会った時、彼はちょうど犬を罵倒している所だった。

Als ich Salamano auf der Treppe begegnete, schimpfte er gerade seinen Hund aus.

	「副詞節」, 「動詞句」「主語」「副詞」「目的語」
Als アルス conj. ～した時	「副詞節」
ich イヒ pron 僕が	「主語」
Salamano サラマノ n.m サラマノ老人に	「目的語」
auf der Treppe アウフ・デア・トレッペ adv. (場所) 階段で	「副詞句」
begegnete, ベゲーゲネ 1 単過(bebeugen)v.t 出会った	「動詞」
schimpfte ...aus. シンプフテ...アウス 3 単過(aus schimpfen)	
v.t 罵倒していた、叱り飛ばしていた	「動詞句」
er エア pron 彼は	「主語」
gerade ゲラーデ adv. ちょうど、まさに	「副詞」
seinen Hund サイネン・フント n.m.4 格 犬を	「目的語」

彼は犬に向かって怒鳴っていた：「この死にぞこないのくそ野郎め！」すると犬は、悲しげにうめき声をあげるのだった。

Er sagte zu ihm: «Du Schwein, du Aas!» Und der Hund winselte.

	「主語」「動詞」「間接目的語」：《「呼びかけ」》 Und 「主語」「動詞」
Er エア pron 彼は	「主語」
sagte サークテ 3 単過(sagen)v.t 言っていた	「動詞」
zu ihm: ツー・イム adv. 犬に向かって	「間接目的語」

ERSTER TEIL 第1部

«Du Schwein, トゥ・シュヴァイン n.n くそ野郎! 「呼びかけ」
 du Aas! トゥ・アース n.n 死に損ない 「呼びかけ」
 Und ウント conj. そして
 der Hund デア・フント n.m 犬は 「主語」
 winselte. ウィンゼルト 3 単過(winseln)v.i (犬が) くくんないていた 「動詞」

僕は言った:「今晚は」、しかし老人はさらに罵り続けた。

Ich sagte: «Guten Abend», aber der Alte schimpfte weiter.
 「動詞句」「主語」:《「挨拶」》,aber「主語」「動詞」「副詞」
 Ich イッヒ pron 僕は 「主語」
 sagte: サーゲ 1 単過(sagen)v.t 言った 「動詞」
 «Guten Abend», グーテン・アーベント adv. 今晚は 「挨拶」
 aber アーバー conj. しかし
 der Alte デア・アルテ n.m 老人は 「主語」
 schimpfte シンプフェ 3 単過(schimpfen)v.i 罵っていた 「動詞」
 weiter. ヴァイター adv. さらに、引き続いて 「副詞」

そこで僕は、その犬が何をしたのか、と老人に尋ねた。

Da fragte ich ihn, was der Hund angestellt habe.
 「副詞」「動詞」「主語」「間接目的語」「直接目的語」
 Da ダー adv. そこで 「副詞」
 fragte フラーゲ 1 単過(fragen)v.t 尋ねた 「動詞」
 ich イッヒ pron 僕は 「主語」
 ihn, イン pron 彼に 「間接目的語」
 was ヴァス pron 何を~するかということを 「直接目的語」
 der Hund デア・フント n.m その犬が 「主語」
 angestellt habe. アン・ゲシュテルト・ハーベ 3 単現・完了形(an|stellen)
 v.t (行為を) した 「動詞句」

ERSTER TEIL 第1部

彼は僕に何も答えなかった。彼は「この死にぞこないめ！くそ野郎！」としか言わなかった。彼が犬の首輪をいじり始めたことに、僕はなんとなく気付いた。

Er gab mir keine Antwort, Er sagte nur: «Du Aas, du Schweinehund!» Ich ahnte es, denn er beugte sich über den Hund und machte sich am Halsband zu schaffen.

「主語」「動詞」「間接目的語」「直接目的語」, 「主語」「動詞句」: 《「罵倒」》

「主語」「動詞」「目的語」「副詞節」

Er エア pron 彼は 「主語」
gab ガーフ 3 単過(geben)v.t 与えた 「動詞」
mir ミア pron 僕に 「間接目的語」
keine Antwort, カイェ・アントゥォト n.f.4 格 返事をなにも～ない 「直接目的語」
Er エア pron 彼は 「主語」
sagte nur: サークテ・ヌア 3 単過(sagen)v.t ～というだけだった、～しか言わなかった 「動詞句」
«Du Aas, ドゥ・アース n.n この死にぞこないめ！ 「罵倒」
du Schweinehund!» ドゥ・シュヴァイネント n.m くそ野郎！ 「罵倒」
Ich イット pron 僕は 「主語」
ahnte アーンテ 1 単過(ahnen)v.t なんとなく分かった、気付いた 「動詞」
es, エス pron それを 「目的語」
denn デン conj. (理由) なぜならば 「副詞節」
er エア pron 彼は 「主語」
beugte sich ボイクテ・ズィット 3 単過・再帰動詞(sich-4 beugen)
v.pr 身を屈めた 「動詞句」
über den Hund ユーバー・デン・フント adv. (空間的) 犬の上に 「副詞句」
und ウント conj. そして
machte sich マハテ・ズィット 3 単過・再帰動詞(sich-4 machen)
v.pr ～に取り掛かった 「動詞句」
am Halsband アム・ハルスバンド adv. (対象) 犬の首輪 「間接目的語」
zu schaffen. ツー・シャフェン 不定詞 v.i ～をいじる 「動詞句」

僕はもっと大きな声で話しかけた。

Ich redete lauter. 「主語」「動詞」「副詞」

Ich イット pron 僕は 「主語」
redete レーデテ 1 単過(reden)v.i 話した 「動詞」
lauter. ラウター adv(laut). (手段) (比較級) もっと大きな声で 「副詞」

ERSTER TEIL 第1部

振り返らずに、激怒をやや抑えて、彼は僕に答えた。「そこから動こうとせん」

Ohne sich umzudrehen, antwortete er mir in verhaltener Wut: «Immerfort ist er da!»

「副詞句」, 「動詞」「主語」「間接目的語」「副詞句」: 《「副詞」「動詞」「主語」「副詞」》

Ohne +zu 不定詞 𐀀𐀁𐀃 prep (方法) 𐀀しないで

「副詞句」

sich umzudrehen, スィツヒ・ウム・ツ・ドレェン 不定詞(sich-4 um | drehen)

v.pr 振り返る

「動詞句」

antwortete アントヴ ァアテテ 3 単過(antworten)v.i 答えた

「動詞」

er エア pron 彼は

「主語」

mir ミーア pron 僕に

「間接目的語」

in verhaltener Wut: イン・フェアハルテナー・ウー ト adv. (様態) 少し激怒を抑えて

「副詞句」

«Immerfort インメルフォルト adv. ずっと、常に、いつも

「副詞」

ist イスト 3 単現・存在(sein)v.i 𐀀にいる

「動詞」

er エア pron こいつは

「主語」

da! 𐀃ー adv. そこに

「副詞」

それから老人は、犬を引っ張って出て行った。犬は 4 つ足で立ったまま引きずられ、か細いうめき声をあげていた。

Dann machte er sich auf den Weg und zog das Tier hinter sich her, das auf allen vieren rutschte und winselte.

「副詞」「動詞句」「主語」「間接目的語」「動詞句」

und 「動詞句」「目的語」「副詞句」「動詞句」, 「主語」「副詞句」「動詞」 und 「動詞」

Dann ダン adv. それから

「副詞」

machte ...sich マハテ...スィツヒ 3 単過(sich-4 machen)

v.pr (方向を表す語句と) 𐀀に向かった、𐀀に取り掛かった

「動詞句」

er エア pron 彼は

「主語」

auf den Weg アウフ・デーン・ヴェーク adv. 道に

「間接目的語」

sich-4 auf den Weg machen 「出発する」

und ウント conj. そして

zog ...sich her, ツォーク...スィツヒ・ヘア 3 単過(et-4 hinter sich-3 her | ziehen)

v.pr 何-4 を自分の後に引っ張って行った

「動詞句」

das Tier ダス・チア n.n.4 格 その犬を

「目的語」

hinter ヒンター adv. 後ろにして

「副詞」

das ダス pron.n その犬は

「主語」

auf allen vieren アウフ・アレン・フィエレン adv. (様態) 4 つ足の上で

「副詞句」

rutschte ルツヒテ 3 単過(rutschen)v.i 滑って行った、引きずられた

「動詞」

und ウント conj. そして

ERSTER TEIL 第1部

winselte. ウィンゼルテ 3 単過(winseln)v.i (犬が) くんくん鳴いた 「動詞」

丁度この時、同じ階のもう一人の隣人がアパートに入ってきた。

Gerade in diesem Augenblick kam mein zweiter Flurnachbar nach Hause.

「副詞句」, 「動詞」「主語」「副詞句」

Gerade ゲラーテ adv. (時間的) ちょうど 「副詞」

in diesem Augenblick イン・ディエゼム・アウゲンブリック adv. この時に 「副詞句」

kam カム 3 単過(kommen)v.i やってきた 「動詞」

mein zweiter Flurnachbar マイン・ツヴァイター・フルーア・ナッハバル

n.m 同じ階のもう一人の隣人が 「主語」

zweit ツヴァイト adj. もう一つの Nachbar ナッハバル n.m 隣人 Flur フルーア n.m 床、階

nach Hause. ナーハ・ハウゼ adv. アパートに 「副詞句」

近所では、彼は女で食っているという噂だ。

Im Viertel erzählt man sich, er lebe von Frauen.

「副詞句」「動詞句」「主語」「動詞句」「目的語」

Im Viertel イム・フィアテル adv. (場所) この近所では、この地区では 「副詞句」

erzählt ...sich, エアツェールト...ズィッヒ 3 単現(sich-3 erzählen)

v.pr お互いに話している、噂をしている 「動詞句」

man マン pron 人は 「主語」

er エア pron 彼は～ということを 「目的語」

lebe レーベ 接・3 単現・推量(leben)v.i(von ～で) 生活している 「動詞」

von Frauen. フォン・フロイエン adv. (手段) 女で 「副詞句」

彼に職業を尋ねると、「倉庫番」ということだ。

Fragt man ihn nach seinem Beruf, dann ist er «Magazinverwalter».

「副詞節」, 「副詞」「動詞」「主語」「補語」

Fragt フラクト 3 単現・条件 adv. ～を尋ねると 「副詞節」

man マン pron 人が 「主語」

ihn イン pron.4 格 彼に 「目的語」

nach seinem Beruf, ナーハ・ザイネム・ベルフ adv. 彼の職業について 「副詞句」

dann ダン adv. すると、その時 「副詞」

ist イスト 3 単現(sein)v.i ～である 「動詞」

er エア pron 彼は 「主語」

«Magazinverwalter». マガジンフェアヴァルター n.n 倉庫番、倉庫管理人 「補語」

ERSTER TEIL 第1部

大体において、彼はあまり人に好かれていない。

Im allgemeinen ist er wenig beliebt. 「副詞句」「動詞」「主語」「補語」
 Im allgemeinen イム・アルゲマイネン adv. 大体において、世間一般では 「副詞句」
 ist イスト 3 単現(sein)v.i 〜である 「動詞」
 er エア pron 彼は 「主語」
 wenig beliebt. ウェーニヒ・ベリプト adj. ほとんど人に好かれない 「補語」

しかし、彼はしばしば僕に話しかけて来るし、時には僕の部屋でしばらく過ごすこともある。それは僕が彼の話の聞いてやるからだ。

Aber er spricht mich oft an, und manchmal kommt er für ein paar Augenblicke in mein Zimmer, weil ich ihm zuhöre. Aber 「主語」「動詞句」「目的語」「副詞」「動詞句」,
 und 「副詞」「動詞」「主語」「副詞句」, 「副詞節」

Aber アーバー conj. しかし
 er エア pron 彼は 「主語」
 spricht ...an, シュプ[°]リヒト...アン 3 単現(an | sprechen)v.t 話しかけて来る 「動詞句」
 mich ミヒ pron 僕に 「目的語」
 oft オフト adv. しばしば 「副詞」
 und ウント conj. そして
 manchmal マンヒマル adv. 時には 「副詞」
 kommt コムト 3 単現(kommen)v.i 来る 「動詞」
 er エア pron 彼は 「主語」
 für ein paar Augenblicke フェーア・アイン・パー・アル・アウゲンブリッケ adv. しばらくの間 「副詞句」
 in mein Zimmer, イン・マイン・ツィマー adv. 僕の部屋に 「副詞句」
 weil ウェイル conj. (理由) 〜なので 「副詞節」
 ich イヒ pron 僕は 「主語」
 ihm イム pron.3 格 彼の話に 「間接目的語」
 zuhöre. ツー・ヘレ 1 単現(zu | hören)v.i 耳を傾ける 「動詞句」

彼の話は面白いと思う。

Was er sagt, finde ich immer interessant. 「目的語」「動詞」「主語」「補語」
 Was ウァス pron.4 格 〜することを 「目的語」
 er エア pron 彼が 「主語」
 sagt, サート 3 単現(sagen)v.t 話す 「動詞」
 finde フィンデ[°] 1 単現(finden)v.t(et-4+様態を示す語) 何-4 を〜と思う 「動詞」
 「目的語」が文頭に置かれたので、「動詞」「主語」の順になる
 ich イヒ pron 僕は 「主語」

ERSTER TEIL 第1部

immer interessant. イマー・インテレスント adj. いつも面白い

「補語」

さらに言えば、彼と話をしない理由がまったくない。

Übrigens habe ich gar keinen Grund, nicht mit ihm zu sprechen.

「副詞」「動詞」「主語」「目的語」

Übrigens ユーブリゲンズ adv. (話題を少し変えて) ついでに、ところで

「副詞」

habe ハーベ 1 単現(haben)v.t ~がある

「動詞」

ich イッヒ pron 僕は

「主語」

gar keinen Grund, ガール・カイネン・グルント n.m.4 格 まったく理由が~ない

「目的語」

nicht ...zu sprechen. ニヒト...ツー・シュプ レヒエン zu 不定句・目的

adv. 話をしないという

「副詞句」

mit ihm ミット・イム adv. 彼と

「間接目的語」

彼はレーモン・サンテスという名前だ。

Er heißt Raymond Sintes.

「主語」「動詞」「補語」

Er エア pron 彼は

「主語」

heißt ハイスト 3 単現(heißen)v.i ~と言う名前である

「動詞」

Raymond Sintes. レーモン・サンテス n.m (フランス語読み) レーモン・サンテス

「補語」

彼はかなり小柄で、肩幅が広く、鼻は潰れている。

Er ist ziemlich klein, hat breite Schultern und eine Boxernase.

「主語」「動詞」「補語」, 「動詞」「目的語」

Er エア pron 彼は

「主語」

ist イスト 3 単現(sein)v.i ~である

「動詞」

ziemlich klein, ツィーメルヒ・クライン adj. かなり小柄な

「補語」

hat ハット 3 単現(haben)v.t (身体的特徴) をしている

「動詞」

breite Schultern ブライテ・シュルターン pl(Schulter).n.f.4 格 広い肩を

「目的語」

breite ブライテ adj(breit).pl.4 格 広い

und ウント conj. そして

eine Boxernase. アイン・ボクサー・ナーゼ n.f.4 格 ボクサーの鼻、潰れた鼻

「目的語」

彼はいつもきちんとした身なりをしている。

Er ist immer sehr korrekt angezogen.

「主語」「動詞」「補語」

Er エア pron 彼は

「主語」

ist イスト 3 単現(sein)v.i ~である

「動詞」

immer イマー adv. いつも

「副詞」

ERSTER TEIL 第1部

sehr korrekt セーア・コレクト adv. とても礼儀正しく 「副詞句」
 angezogen. アン・ゲ・ツォーゲン 過去分詞(an | ziehen)adj. 身なりをした 「補語」

彼が僕にサラマノのことを話していた時、彼も言っていた：「まったく酷い話だ」

Als er mit mir über Salamano sprach, sagte er auch: «Es ist eine wahre Tragödie.»

「副詞節」, 「動詞」「主語」: «「主語」「動詞」「補語」»

Als アルス conj. ～した時 「副詞節」
 er エア pron 彼が 「主語」
 mit mir ミット・ミーア adv. 僕と 「副詞句」
 über Salamano ユーバー・サラマノ adv. サラマノの事で 「間接目的語」
 sprach, シュプ ラーハ 3 単過(sprechen)v.i 話した 「動詞」
 sagte サークテ 3 単過(sagen)v.t 言っていた 「動詞」
 er エア pron 彼は 「主語」
 auch: アウフ adv. ～も 「副詞」
 «Es エス pron それは 「主語」
 ist イスト 3 単現(sein)v.i ～である 「動詞」
 eine wahre Tragödie.» アイン・ヴァーレ・トラゲーデー n.f.1 格 全く悲劇 「補語」

彼は僕に、あれを見たら吐き気を催さないかと尋ねたので、僕はそんなことは無いと答えた。

Er fragte mich, ob mich das nicht anekelte, und ich verneinte.

「主語」「動詞」「直接目的語」「間接目的語」, und 「主語」「動詞」

Er エア pron 彼は 「主語」
 fragte フラクテ 3 単過(fragen)v.t 尋ねた 「動詞」
 mich, ミット pron.4 格 僕に 「直接目的語」
 ob オップ conj. ～かどうかについて 「間接目的語」
 mich ミット pron.4 格 僕を 「目的語」
 das ダス pron そのことは 「主語」
 nicht anekelte, ニヒト・アン・エケルテ 3 単過・否定・疑問文(an | ekeln)
 v.t (人に) 吐き気を模様させないか? 「動詞句」
 und ウント conj. そして
 ich イット pron 僕は 「主語」
 verneinte. フェアインテ 1 単過(verneinen)v.t そんなことは無いと答えた、否定した 「動詞」

ERSTER TEIL 第1部

僕たちは階段を登った。彼に別れを言おうとした時、彼が言った：「部屋に腸詰とワインがあるんだが、ちょっと一緒に一杯やりませんか？」

Wir gingen nach oben, und als ich mich von ihm trennen wollte, sagte er: «Ich habe Blutwurst und Wein. Wollen Sie nicht einen Happen bei mir essen?»

「主語」「動詞」「副詞句」,und「副詞節」,「動詞」「主語」:《「主語」「動詞」「目的語」「動詞句」「主語」「動詞句」「目的語」「動詞句」「副詞句」「動詞句」》

Wir ヱーア pron.pl 僕たちは 「主語」
gingen ギンゲン 1 複過(gehen)v.i 歩いて行った 「動詞」
nach oben, ナーハ・オーベン adv. (方向・場所) 上の方へ 「副詞句」
und ウント conj. そして
als アルス conj. ～した時 「副詞節」
ich イヒ pron 僕が 「主語」
mich ...trennen wollte, ミヒ...トレネン・ヴァルテ 1 単過・意志(wollen+不定詞 sich-4 trennen)
v.pr(von ～と) 別れようとした 「動詞句」
von ihm フォン・イム adv. 彼と 「間接目的語」
sagte サークテ 3 単過(sagen)v.t 言った 「動詞」
er: エア pron 彼が 「主語」
«Ich イヒ pron 俺は 「主語」
habe ハーベ 1 単現(haben)v.t ～がある 「動詞」
Blutwurst ブルトヴールスト n.f 腸詰、ソーセージ 「目的語」
und ウント conj. そして
Wein. ヴァイン n.m ワイン 「目的語」
Wollen ...nicht ...essen? ヴォレン...ニヒト...エッセン 3 複現・敬称・意志の確認・否定
(wollen+不定詞)v.t 食べませんか? 「動詞句」
Sie ジー pron (敬称) あなたは 「主語」
einen Happen アイネン・ハッペン n.m ちょっと一口 「目的語」
bei mir バイ・ミーア adv. 俺の部屋で 「副詞句」

僕は、そうすれば料理するの必要がなくなると思って、誘いに応じた。

Ich dachte, daß ich dann nicht zu kochen brauchte, und nahm die Einladung an.

「主語」「動詞」「目的語」,und「動詞句」「目的語」「動詞句」

Ich イヒ pron 僕は 「主語」
dachte, ダハテ 1 単過(denken)v.t 考えた 「動詞」
daß ダス conj. ～ということを 「目的語」
ich イヒ pron 僕は 「主語」
dann ダン adv. (状況) そうすれば 「副詞」

ERSTER TEIL 第1部

nicht zu kochen brauchte, ニヒト・ツ・コヘン・ブ ロヒテ 1 単過・必要・否定(brauchen zu 不定詞)

v.t 料理する必要が無い

「動詞句」

und ウント conj. そして

nahm ...an. ナム...アン 1 単過(an | nehmen)v.t 受け入れた

「動詞句」

die Einladung ディー・アインラートゥング n.f 誘いを、招待を

「目的語」

彼の所も、寝室が一つだけで窓のない台所だった。

Auch er hat nur ein Zimmer und eine fensterlose Küche. 「主語」「動詞」「目的語」

Auch アウフ adv. ～も

「副詞」

er エア pron 彼は

「主語」

hat ハット 3 単現(haben)v.t ～がある

「動詞」

nur ein Zimmer ヌア・アイン・ツィマー n.n.4 格 1 部屋だけ

「目的語」

und ウント conj. そして

eine fensterlose アイン・フェンスター・ロース adj(fensterlos).f 窓のない

「形容詞句」

fensterlos フェンスターロース adj. 窓のない -los ロース 接尾辞「～なしの」

Küche. キュッヒェ n.f.4 格 台所

「目的語」

ベッドの上方の壁には、ピンクと白の漆喰でできた天使像と、有名スポーツマンの写真や、
数枚の女性のヌード写真が掛かっている。

Über seinem Bett hängen ein Engel aus rosa und weißem Gips, Fotos von Sportkanonen
und zwei oder drei Bilder nackter Frauen. 「副詞句」, 「動詞」「主語」

Über seinem Bett ユーバー・ザイネン・ベット adv. ベットの上方に

「副詞句」

hängen ヘンゲン 3 複現 v.i 掛かっている

「動詞」

ein Engel アイン・エンゲル n.m 天使像が

「主語」

aus アウス prep (素材) ～で出来た

「副詞句」

rosa und weißem ローザ・ウント・ヴァイゼム adj. ピンクと白の

「形容詞句」

Gips, キプス n.m 石膏

「目的語」

Fotos フォトス pl(Foto)n.n 写真が

「主語」

von Sportkanonen フォン・シュポルト・カノネ adv. (所属) 有名スポーツマンの

「副詞句」

kanone カノネ n.f (スポーツの) エース、第一人者

und ウント conj. そして

zwei oder drei ツヴァイ・オーダー・ドライ adj. 2・3 の

「形容詞句」

Bilder ビルダー pl(Bild).n.n 写真が

「主語」

nackter Frauen. ナクター・フラウエン adj. ヌード女性の

「形容詞句」

ERSTER TEIL 第1部

部屋は汚くて、ベッドも乱れたままだった。

Das Zimmer war schmutzig und das Bett nicht gemacht.

「主語」「動詞」「補語」 und 「主語」「補語」

Das Zimmer ダス・ツィマー n.n 部屋は

「主語」

war ヲアール 3 単過(sein)v.i ~ だった

「動詞」

schmutzig シュムツツヒ adj. 汚い、汚れた

「補語」

und ウント conj. そして

das Bett ダス・ベット n.n ベッドは

「主語」

nicht gemacht. ニヒト・ゲマハト 過去分詞・受動・否定(machen)

adj. 整っていない、ベッドメイキングされていない

「補語」

彼はまず石油ランプに点火した。それから、かなり汚れた包帯をポケットから取り出して自分の腕に巻きつけた。

Zuerst zündete er die Petroleumlampe an, und dann zog er einen ziemlich fragwürdigen Verband aus der Tasche, den er um seine Hand wickelte.

「副詞」「動詞句」「主語」「目的語」「動詞句」,
und 「副詞」「動詞」「主語」「目的語」「副詞句」,
「直接目的語」「主語」「間接目的語」「動詞」

Zuerst ツ・エアースト adv. まず最初に

「副詞」

zündete ...an, ツンデテ...アン 3 単過(an | zünden)v.t 火をつけた

「動詞句」

er エア pron 彼は

「主語」

die Petroleumlampe デーイー・ペトロウムランパ n.f 石油ランプに

「目的語」

und ウント conj. そして

dann ダン adv. それから

「副詞」

zog ツォーク 3 単過(ziehen)v.t 取り出した

「動詞」

er エア pron 彼は

「主語」

einen ziemlich fragwürdigen Verband アイネン・ツィームリヒ・フラークヴァーユルデイゲン・フェアバン

n.m.4 格 かなり汚い包帯を

「目的語」

ziemlich ツィームリヒ adv. かなり fragwürdig フラークヴァーユルデイヒ adj. 怪しげな、汚れた

Verband フェアバン n.m 包帯

aus der Tasche, アウス・デア・タッシェ adv. ポケットから、カバンから

「副詞句」

den デン pron.4 格 それを

「直接目的語」

er エア pron 彼は

「主語」

um seine Hand ウム・ザイネ・ハント adv. (空間的) 腕の周りに

「間接目的語」

wickelte. ヲイッケルテ 3 単過(wickeln)v.t 巻いた

「動詞」

ERSTER TEIL 第1部

フランス語の原文では：

それからポケットからかなり薄汚い包帯を取り出して、**右手**をくるんだ。

puis il a sorti un pansement assez douteux de sa poche et a enveloppé **sa main droite**.

僕は彼に何があったのかと尋ねた。彼に喧嘩を売る奴と殴り合いになったと話してくれた。

Ich fragte ihn, was er habe. Er erzählte mir, er hätte mit einem Kerl der Handel mit ihm suchte, eine Schlägerei gehabt.

「主語」「動詞」「間接目的語」「直接目的語」

「主語」「動詞」「間接目的語」「直接目的語」

Ich イッ pron 僕は 「主語」

fragte フラケ 1 単過(fragen)v.t 尋ねた 「動詞」

ihn, イン pron.4 格 彼に 「間接目的語」

was er habe. ウェアス・エア・ハーベ n. 何があったのかと 「直接目的語」

Er エア pron 彼は 「主語」

erzählte エアツェルテ 3 単過(erzählen)v.t 話して聞かせた 「動詞」

mir, ミア pron.3 格 僕に 「間接目的語」

er エア pron 彼が～するというのを 「直接目的語」

hätte ...gehabt. ハッテ...ゲハプト 接 II・3 単現(haben)v.t ～があった 「動詞句」

mit einem Kerl, ミット・アイム・ケル adv. ある奴と 「間接目的語」

der デア pron そいつが～する 「形容詞節」

Handel ハンデル pl(Handel).n.m 喧嘩を 「直接目的語」

mit ihm ミット・イム adv. 彼に 「間接目的語」

suchte, スフテ 3 単過(suchen)v.t 求めた 「動詞」

mit j-3 Handel suchen 「人・3 に喧嘩を売る」

eine Schlägerei アイン・シュレヘゲライ

n.f.4 格 殴り合いを 「直接目的語」

「だって、ムルソーさん」と、彼は言った。「俺は悪人じゃないが、血の気が多いんだ」

«Ja, Herr Meursault», sagte er, «bösaartig bin ich nicht, aber sehr fix.

《「副詞」「呼びかけ」》, 「動詞」「主語」,

《「補語」「動詞句」「主語」「動詞句」, aber 「補語」》

«Ja, ヤー adv. (理由付け) だって 「副詞」

Herr Meursault», ハア・ムルソー n.m ムルソーさん 「呼びかけ」

sagte サークテ 3 単過(sagen)v.t 言った 「動詞」

er, エア pron 彼は 「主語」

«bösaartig ベサルティヒ adj. 意地の悪い、陰険な 「補語」

bin ...nicht, ビン...ニヒト 1 単現・否定(sein)v.i ～でない 「動詞句」

ERSTER TEIL 第1部

ich イッヒ pron 俺は 「主語」
 aber アーバー conj. そうではなくて
 sehr fix. セーア・フィクス adj. とても機敏な、血の気の多い 「補語」

「そいつが俺に、《男なら電車から降りろ！》と言ったんだ」

Sagte der andere zu mir: <Komm runter von der Elektrischen, wenn du ein Mann bist!>

《「動詞」「主語」「間接目的語」:”「動詞」「副詞句」”》

Sagte サークテ 3 単過(sagen)v.t 言った 「動詞」
 der andere デア・アンデレ n.m そいつが 「主語」
 zu mir: ツー・ミーア adv. 俺に 「間接目的語」
 <Komm コム 命・2 単現(kommen)v.i 来い 「動詞」
 runter ルンタ adv. 下に 「副詞」
 von der Elektrischen, フォン・デア・エレクトリシェン adv. (起点) 電車から 「副詞句」
 wenn ウェン conj. (条件) もし～ならば 「副詞節」
 du ドゥ pron お前が 「主語」
 ein Mann イン・マン n.m.1 格 男 「補語」
 bist!> ビスト 2 単現(sein)v.i ～である 「動詞」

「俺が《黙れ》と答えると、奴は、俺は男じゃないなんて言うんだ」

Ich antwortete: <Halt's Maul.> Da sagte er, ich wäre also kein Mann.

《「主語」「動詞」:”「応答」”,「副詞」「動詞」「主語」,「主語」「動詞」「補語」》

Ich イッヒ pron 俺は 「主語」
 antwortete: アントウテ 1 単過(antworten)v.t 答えた 「動詞」
 <Halt's Maul.> ハルツ・マウル adv. 黙れ! 「応答」
 Da ダー adv. すると 「副詞」
 sagte サークテ 3 単過(sagen)v.t 言った 「動詞」
 er, エア pron 彼が 「主語」
 ich イッヒ pron 俺は 「主語」
 wäre ウェレ 接 II・1 単現(sein)v.i ～である 「動詞」
 also アルゾー adv. それでは 「副詞」
 kein Mann. カイン・マン n.n.1 格 男～でない 「補語」

ERSTER TEIL 第1部

「それで俺は降りて、言った：《もうやめておけ！さもなければ身ぐるみ剥がされるぞ》」

Da stieg ich aus und sagte: <Jetzt aber Schluß, oder du stehst im Hemd da.>

《「副詞」「動詞句」「主語」「動詞句」 und 「動詞」:

“「副詞」 aber 「命令」, oder 「主語」「動詞句」「副詞句」 ”》

Da ダー adv. それで

「副詞」

stieg ...aus シュティーク...アウス 1 単過(aus | steigen)v.i (乗り物から) 降りた

「動詞句」

ich イヒ pron 俺は

「主語」

und ウント conj. そして

sagte: サークテ 1 単過(sagen)v.t 言った

「動詞」

<Jetzt イェツト adv. 今は

「副詞」

aber アーバー conj. しかし

Schluß, シュルス n.m 終わり

「命令」

oder オーダー conj. さもなければ

du ドゥ pron お前は

「主語」

stehst ...da.> シュテースト...ダー 2 単現(da | stehen)v.i じっと立っている

「動詞句」

im Hemd イム・ヘムト adv. (上着を着ないで) シャツのままで

「副詞句」

「奴は答えた。《何を偉そうに！》それで、一発食らわせたら、奴は倒れた」

Er antwortete: <Gib nicht so an!> Da verpaßte ich ihm eins. Er fiel hin.

《「主語」「動詞」: ” 「動詞句」「副詞」「動詞句」 ”

「副詞」「動詞」「主語」「間接目的語」「直接目的語」 | 「主語」「動詞句」》

Er エア pron 彼は

「主語」

antwortete: アントウゲ・アテテ 3 単過(antworten)v.i 答えた

「動詞」

<Gib nicht ...an!> キーブ・ニヒト...アン 命・2 単現・否定(an | gehben)v.i 威張るな！

「動詞句」

so ソー adv. そんな風に

「副詞」

Da ダー adv. そこで

「副詞」

verpaßte フェアパステ 1 単過(verpassen)v.t(j-3 eins) 人-3 に一発お見舞いした

「動詞」

ich イヒ pron 俺は

「主語」

ihm イム pron.3 格 奴に

「間接目的語」

eins. アインス pron 一発を、一つを

「直接目的語」

Er エア pron 奴は

「主語」

fiel hin. フィール...ヒン 3 単過(hin | fallen)v.i 転倒した

「動詞句」

ERSTER TEIL 第1部

「俺は起こそうとしたが、奴は転がった姿勢のまま狂ったように回し蹴りをいれてきた」

Ich wollte ihn aufheben, aber er trat wie wild um sich.

《「主語」「動詞句」「目的語」「動詞句」, aber 「主語」「動詞」「副詞句」》

Ich イッヒ pron 俺は

「主語」

wollte ...aufheben, ヲォルテ...アフハーベン 1 単過・意志(wollen+不定詞 auf|heben)

v.t 持ち上げようとした、起こそうとした

「動詞句」

ihn イン pron.4 格 奴を

「目的語」

aber アーバー conj. しかし

er エア pron 奴は

「主語」

trat トラート 3 単過(treten)v.t 蹴った

「動詞」

wie wild ヲィー・ヰィルト adv. (様態) 狂ったように

「副詞句」

um sich. ム・ズィッヒ adv. 自分の周りに

「副詞句」

um 「周りに」→回転するイメージがある

「そこで俺は、膝蹴りを1発とあごにパンチを2発お見舞いしてやったんだ」

Da verpaßte ich ihm eins mit dem Knie und zwei Kinnhaken.

《「副詞」「動詞」「主語」「間接目的語」「直接目的語」》

Da ダー adv. それで

「副詞」

verpaßte フェアパステ 1 単過(verpassen)v.t (相手の嫌がるものを) 与えた

「動詞」

ich イッヒ pron 俺は

「主語」

ihm イム pron.3 格 奴に

「間接目的語」

eins アインス pron.4 格 一発を

「直接目的語」

mit dem Knie ミット・デーム・クニー conj. (手段) 膝で

「副詞句」

und ウント conj. そして

zwei Kinnhaken. ツヴァイ・キンハーケン pl(Kinnhaken).n.m あごにフックを2発 「直接目的語」

「奴の顔は血だらけになった。それで、もう十分かって、聞いてやったんだ。」

Sein Gesicht blutete. Ich fragte ihn dann, ob er nun genug habe.

《「主語」「動詞」 | 「主語」「動詞」「間接目的語」「副詞」, 「直接目的語」》

Sein Gesicht サイン・ゲジヒト n.n 奴の顔は

「主語」

blutete. ブルテ 3 単過(bluten)v.i 出血した

「動詞」

Ich イッヒ pron 俺は

「主語」

fragte フラケ 1 単過(fragen)v.t 尋ねた、聞いた

「動詞」

ihn イン pron.4 格 奴に

「間接目的語」

dann, ダン adv. それで

「副詞」

ob オッフ conj. ～かどうかということ

「直接目的語」

ERSTER TEIL 第1部

er エア pron 彼は	「主語」
nun genug ヌン・ゲヌグ adv. もう十分	「副詞句」
habe. ハーベ 3 単現(haben)v.t 持っている、(状況) ある	「動詞」

ドイツ語 名詞の3格と4格

3 格は通常「～に」という「間接目的語」として利用されるが、「～を」という「直接目的語」として使われたり、「～から」という意味でも利用される。

4 格は通常「～を」という「直接目的語」として利用されるが、「～に」という「間接目的語」として使われたり、「～の」という意味でも利用される。

j-4 fragen 「人-4 に尋ねる」→ j-4 は「間接目的語」

「すると奴は、《ああ》と答えた」話している間中、サンテスは包帯を直していた。

Und er meinte: <Ja.> Während dieser ganzen Zeit war Sintes mit seinem Verband beschäftigt. 《Und 「主語」「動詞」: ” 「応答」 ”》 | 「副詞句」「動詞」「主語」「補語」

Und ウント conj. そして

er エア pron 奴は	「主語」
meinte: マイnte 3 単過(meinen)v.t 言った	「動詞」
<Ja.> やー adv. (肯定) ”ああ”	「応答」
Während ヲェーレント prep (2 格と) ～の間中	「副詞句」
dieser ganzen Zeit デーザー・ガツェン・ツァイト n.f.2 格 この時間全て	「目的語」
war ヲェール 3 単過(sein)v.i ～ だった	「動詞」
Sintes シンテス n.m サンテスは	「主語」
mit seinem Verband ニット・ザイネム・フェアバント adv. 彼の包帯で	「副詞句」
beschäftigt. ベシェフティクト adj.(mit et-3 で) 忙しい	「補語」

僕はベッドの上に座っていた。そして、彼が言った。「分かるでしょう？俺が始めた訳じゃない。あいつが俺を挑発したんだ」

Ich saß auf dem Bett. Er fuhr dann fort: «Sie sehen, ich habe nicht angefangen. Er hat mich herausgefordert.»

「主語」「動詞」「副詞句」 | 「主語」「動詞句」「副詞」「動詞句」:

《「主語」「動詞」, 「主語」「動詞」 | 「主語」「動詞句」「目的語」「動詞句」》

Ich イット pron 僕は	「主語」
saß サース 1 単過(sitzen)v.i 座っていた	「動詞」
auf アウフ prep (3 格と) (上面での接触) ～の上に	「副詞句」
dem Bett. デーム・ベット n.n.3 格 ベット	「目的語」
Er エア pron 彼は	「主語」
fuhr ...fort: フーア...フォルト 3 単過(fort fahren)v.i (話を) 続けた	「動詞句」

ERSTER TEIL 第1部

dann ダン adv. それから	「副詞」
«Sie シー pron (二人称敬称) 君は	「主語」
sehen, ゼーエン 3 複現・二人称敬称・同意確認 v.t 分かるでしょう？	「動詞」
ich イヒ pron 俺は	「主語」
habe nicht angefangen. ハーベ・ニヒト・アン・ゲ・ファンゲン 1 単現・完了形・否定(an anfangen)	
v.t (喧嘩を) 始めなかった	「動詞句」
Er エア pron 奴が	「主語」
hat ...herausgefordert.» ハット...ヘラウス・ゲ・フォルダート 3 単現・完了形(haraus fordern)	
v.t 挑発した	「動詞句」
mich ミヒ pron 俺を	「目的語」

それは確かだ。それで僕も同意した。

Das stimmte, und ich sagte das auch.

	「主語」「動詞」,und「主語」「動詞」「目的語」「副詞」
Das ダス n.n それは	「主語」
stimmte, シュティムテ 3 単過・時制の一致(stimmen)v.i 本当である	「動詞」
und ウント conj. そして	
ich イヒ pron 僕は	「主語」
sagte サークテ 1 単過(sagen)v.t 言った	「動詞」
das ダス pron それを	「目的語」
auch. アウフ adv. もまた	「副詞」

それから彼は僕に説明した。彼はその件で僕の助言を求めている、僕は世間を知っている
まともな男だ、僕なら彼を手助けできるだろう、そしてそうならば自分は兄弟分だと言っ
た。

Dann erklärte er mir, in eben dieser Geschichte wolle er einen Rat von mir, ich sei ein
ordentlicher Kerl, der das Leben kenne, ich könnte ihm helfen, und er wäre dann mein
Freund.

	「副詞」「動詞」「主語」「間接目的語」,「間接目的語」「動詞」「主語」「直接目的語」, 「主語」「動詞」「補語」,「主語」「動詞句」「間接目的語」und「主語」「動詞」「補語」
Dann ダン adv. それから	「副詞」
erklärte エアクレアテ 3 単過(erkären)v.t 説明した	「動詞」
er エア pron 彼は	「主語」
mir, ミー pron.3 格 僕に	「間接目的語」
in eben dieser Geschichte イン・エーベン・デァー・ゲシヒテ	
adv. (分野) まさしくこの出来事について	「間接目的語」

ERSTER TEIL 第1部

wolle ヲレ 接・3 単現(wollen)v.t 望む	「動詞」
er エ pron 彼は	「主語」
einen Rat アイン・ラート n.m 助言を	「直接目的語」
von mir, フォン・ミー adv. 僕から	「副詞句」
ich イヒ pron 僕は	「主語」
sei サイ 接・1 単現(sein)v.i 〜である	「動詞」
ein ordentlicher Kerl, アイン・オアデントリヒャー・ケアル n.m.1 格 きちんとした男	「補語」
ordentlicher オアデントリヒャー adj(ordentlich).m.1 格 きちんとした、まともな	
der デア pron (主語) 〜する	「形容詞節」
das Leben ダス・レーベン n.n.4 格 世間を、人生を	「目的語」
kenne, ケネ 接・3 単現(kennen)v.t 知っている	「動詞」
ich イヒ pron 僕は	「主語」
könnte ...helfen, ケテ...ヘルフェン 接 II・1 単現・推量(können+不定詞) v.i(j-3 を) 助けられるだろう	「動詞句」
ihm イム pron.3 格 彼を	「間接目的語」
und ウント conj. そして	
er エ pron 彼は	「主語」
wäre ヲーレ 接 II・3 単現・変化・推量(sein)v.i 〜になるだろう	「動詞」
dann ダン adv. そうすれば、その時	「副詞」
mein Freund. マイン・フロイント n.m.1 格 友達、兄弟分	「補語」

僕は何も返事をしなかった。すると彼は、兄弟分になりたいかどうかを尋ねた。

Ich gab keine Antwort, und er fragte mich ob ich sein Freund sein wolle.

	「主語」「動詞」「目的語」,und「主語」「動詞」「直接目的語」「間接目的語」
Ich イヒ pron 僕は	「主語」
gab ガーフ 1 単過(geben)v.t (相手に) 言った、答えた	「動詞」
keine Antwort, カイネ・アントゥォート n.f.4 格 何も返事を〜ない	「目的語」
und ウント conj. そして	
er エ pron 彼は	「主語」
fragte フラケ 3 単過(fragen)v.t 尋ねた	「動詞」
mich ミヒ pron.4 格 僕に	「直接目的語」
ob オッフ conj. 〜かどうかについて	「間接目的語」
ich イヒ pron 僕は	「主語」
sein Freund サイン・フロイント n.m.1 格 彼の兄弟分	「補語」
sein wolle. サイン・ヴォレ 接・1 単現・願望・変化(wollen+不定詞) v.i 〜になりたいと思う	「動詞句」

ERSTER TEIL 第1部

僕は、それはどちらでもいいと答えた；すると彼は満足したように見えた。

Ich antwortete, das sei mir einerlei; damit schien er einverstanden.

「主語」「動詞」, 「主語」「動詞」「間接目的語」「補語」; 「副詞」「動詞」「主語」「補語」	
Ich イッ pron 僕は	「主語」
antwortete, アントゥェアテ 1 単過(antworten)v.t 答えた	「動詞」
das ダス pron それは	「主語」
sei サイ 接・3 単現(sein)v.i ~である	「動詞」
mir ミア pron 僕にとって	「間接目的語」
einerlei; アイナーライ adj. 同一の、どちらでもよい	「補語」
damit ダミット adv. それを聞いて、すると	「副詞」
schien シーン 3 単過(scheinen)v.i ~であるように見えた	「動詞」
er エア pron 彼は	「主語」
einverstanden. アインフェアシュタンデッ adj. 好ましい、満足した	「補語」

それから彼は血のソーセージを取りに行き、それをフライパンで焼き、グラスと皿とナイフとフォークを取り出して、ワインを2瓶持って来た。

Dann holte er die Blutwurst, briet sie in der Pfanne, holte Gläser, Teller, Messer und Gabeln und zwei Flaschen Wein.

「副詞」「動詞」「主語」「目的語」, 「動詞」「目的語」「副詞句」,
「動詞」「目的語」und「目的語」

Dann ダン adv. それから	「副詞」
holte ホルテ 3 単過(holen)v.t (物を) 取って来た	「動詞」
er エア pron 彼は	「主語」
die Blutwurst, ディー・ブルットブルスト n.f.4 格 血のソーセージを	「目的語」
briet ブリート 3 単過(braten)v.t 焼いた、炙った	「動詞」
sie ジー pron.f それを	「目的語」
in der Pfanne, イン・デア・プファネ adv. フライパンで	「副詞句」
holte ホルテ 3 単過(holen)v.t (物を) 取り出した	「動詞」
Gläser, グレーサー pl(Glas).n.n.4 格 グラスを	「目的語」
Teller, テラー pl(Teller).n.m.4 格 皿	「目的語」
Messer メッサー pl(Messer).n.n.4 格 ナイフ	「目的語」
und ウント conj. そして	
Gabeln ガベルン pl(Gabel).n.f.4 格 フォーク	「目的語」
und ウント conj. そして	
zwei Flaschen Wein. ツヴァイ・フラッシェン・ヴァイン pl(Flasche).n.f.4 格 ワインを2瓶	「目的語」

ERSTER TEIL 第1部

彼はこの間じゅうずっと無言だった。それから、僕たちはテーブルについた。

Das alles ohne ein Wort. Dann setzten wir uns an den Tisch.

「副詞句」「補語」 | 「副詞」「動詞句」「主語」「動詞句」「副詞句」

Das alles ダス・アレス pron これらすべては、この間じゅうずっと 「副詞句」

ohne オネ prep 〜無しの 「補語」

ein Wort. アイン・ヴァート n.n 一言 「目的語」

Dann ダン adv. それから 「副詞」

setzten ...uns セッツェン...ウンス 1 複過(sich-4 setzen)v.pr 席に着いた、腰を下ろした 「動詞句」

wir ヴィー pron.pl 僕たちは 「主語」

an den Tisch. アン・デーン・ティッシュ adv. (接触) 食卓に 「副詞句」

食べながら、彼は事情を語り始めた。始めは、少しためらい気味だった。

Beim Essen begann er, mir seine Geschichte zu erzählen. Anfangs ein bißchen zögernd.

「副詞句」「動詞」「主語」「目的語」 | 「副詞」「補語」

Beim バイム prep(bei+dem) (同時) 〜しながら 「副詞句」

Essen エッセン n.n 食事 「目的語」

begann ベガン 3 単現・開始(beginnen)v.t 始めた 「動詞」

er, エア pron 彼は 「主語」

mir ミー pron 僕に〜することを 「目的語」

seine Geschichte ザイネ・ゲシヒテ n.f.4 格 彼の出来事、事情 「目的語」

zu erzählen. ツー・エアツェーレン zu 不定詞 v.t 物語る 「動詞句」

Anfangs アンファンクス adv. 初めは 「副詞」

ein bißchen アイン・ビッスェン adv. 少し 「副詞句」

zögernd. ツェーガント 現在分詞(zögern)adj. ためらった 「補語」

「付き合っている女がいて... いわば愛人なんだが...」

«Ich habe eine Frau gekannt... sie war sozusagen meine Geliebte ...»

«「主語」「動詞」「目的語」 | 「主語」「動詞」「副詞」「補語」»

«Ich イット pron 俺は 「主語」

habe ハーベ 1 単現(haben)v.t 〜がいる 「動詞」

eine Frau アイン・フラウ n.f 女 「目的語」

gekant... ゲカント 過去分詞(kennen)adj. 知り合った、付き合っている 「形容詞」

sie シー pron それは 「主語」

war ヴァール 3 単過・時制の一致(sein)v.i 〜である 「動詞」

sozusagen ソーツァーゲン adv. いわば、いわゆる 「副詞」

ERSTER TEIL 第1部

meine Geliebte ...» メイネ・ゲリープテ n.f 愛人

「補語」

彼が殴り合いをした相手の男は、その女の兄弟だった。彼は自分が女の生活の面倒を見ていたと僕に言った。

Der Mann, mit dem er die Schlägerei gehabt hatte, war der Bruder dieser Frau, Er erzählte mir, daß er sie ausgehalten habe.

「主語」「動詞」「補語」 | 「主語」「動詞」「間接目的語」「直接目的語」

Der Mann, デア・マン n.m その男は

「主語」

mit dem ミット・デーム adv. (間接目的語) それと～した

「形容詞節」

er エア pron レーモンが

「主語」

die Schlägerei デー・イー・シュレーゲライ n.f.4 格 殴り合い

「直接目的語」

gehabt hatte, ゲ・ハプ・テ・ハッテ 3 単過・完了形(haben)

v.t (行為を) した

「動詞句」

war ヴァール 3 単過(sein)v.i ～ だった

「動詞」

der Bruder デア・ブルダー n.m 兄弟

「補語」

dieser Frau, デー・ザー・フラウ n.f.2 格 この女の

「形容詞句」

Er エア pron 彼は

「主語」

erzählte エアツェルテ 3 単過(erzählen)v.t 語った

「動詞」

mir, ミーア pron.3 格 僕に

「間接目的語」

daß ダス conj. ～ということ

「直接目的語」

er エア pron 彼は

「主語」

sie シー pron.f 彼女を

「目的語」

ausgehalten habe. アウス・ゲ・ハルテン・ハーベ 接・3 単現・完了形(aus | halten)

v.t 世話をしてきた

「動詞句」

僕は何も答えなかった。それに対して彼はすぐに、近所の人々が彼について何と言っているか分かっているが、自分にやましい所はない。自分は倉庫の管理人だと言った。

Ich gab keine Antwort, auch nicht, als er gleich darauf sagte, er wisse, was man im Viertel über ihn rede, aber er brauche sich keine Vorwürfe zu machen, er sei Magazinverwalter.

「主語」「動詞」「目的語」, 「副詞句」「副詞節」, 「主語」「動詞」「目的語」

Ich イット pron 僕は

「主語」

gab ガーフ 1 単過(geben)v.t 与えた

「動詞」

keine Antwort, カイネ・アントワート n.f 何も答えを～ない

「目的語」

auch nicht, アウフ・ニヒト adv. もまたない

「副詞句」

als アルス conj. ～した時

「副詞節」

ERSTER TEIL 第1部

er エア pron 彼が	「主語」
gleich グライヒ adv. すぐに	「副詞」
darauf ダラウフ adv. それについて	「副詞」
sagte, サークテ 3 単過(sagen)v.t 言った	「動詞」
er エア pron 彼は	「主語」
wisse, ヴァイッセ 接・3 単現(wissen)v.t 知っている	「動詞」
was ヴァス pron (目的語) ～する	「目的語」
man マン pron 人が	「主語」
im Viertel イム・フィアテル adv. この地区の、近所の	「副詞句」
über ihn ユーバー・イン adv. 彼に関して	「間接目的語」
rede, レーデ 接・3 単現(reden)v.i 話している (だろう)	「動詞」
aber アーバー conj. しかし	
er エア pron 彼は	「主語」
brauche sich ...zu machen, ブラウヘ・ズィヒット...ツァー・マヘン 接・3 単現(sich-4 brauchen zu+不定詞) v.t 自分を～する必要がある	「動詞句」
keine Vorwürfe カイネ・フォアヴュルフェ pl(Vorwurf).n.m 何も叱責を～ない	「目的語」
er エア pron 彼は	「主語」
sei サイ 接・3 単現(sein)v.i ～である	「動詞」
Magazinverwalter. マガツィーン・フェアヴァルター n.m 倉庫の管理人	「補語」

「だが話を戻すと」と、彼は話を続けた。「俺は騙されていいと気付いたんだ」

«Aber zurück zu meiner Geschichte», fuhr er fort. «Ich kam bald dahinter, daß ich betrogen wurde.»

《Aber 「副詞句」, 「動詞句」「主語」「動詞句」, 《「主語」「動詞」「副詞句」「目的語」》

«Aber アーバー conj. しかし

zurück ツリュック adv. (元の場所に) 戻って 「副詞句」

zu ツァー prep (目標) ～へ 「副詞句」

meiner Geschichte», マイナー・ゲシヒテ n.f 俺の話 「目的語」

fuhr ...fort. フーア...フォルト 3 単過(fort|fahren)v.i 話を続けた 「動詞句」

er エア pron 彼は 「主語」

«Ich イヒ pron 俺は 「主語」

kam カム 1 単過(kommen)v.i (考えが) 浮かんだ 「動詞」

bald バルト adv. やがて 「副詞」

dahinter, ダヒンター adv. 裏で、後ろで 「副詞」

daß ダス conj. ～ということ 「目的語」

ich イヒ pron 俺は 「主語」

ERSTER TEIL 第1部

betrogen wurde.» ベトローゲン・ウルテ 1 単過・受動(werden+過去分詞 betrogen)

v.t 騙されていた

「動詞句」

彼は女に必要な生活費を与えていた。

Er gab ihr, was sie zum Leben brauchte. 「主語」「動詞」「間接目的語」「直接目的語」

Er エア pron 彼は

「主語」

gab ガーフ 3 単過(geben)v.t 与えていた

「動詞」

ihr, イア pron その女に

「間接目的語」

was ヴァス pron (目的語) ~するものを

「直接目的語」

sie シー pron 女が

「主語」

zum Leben ツム・レーベン adv. (目的) 生活のために

「副詞句」

brauchte. ブラウフテ 3 単過・時制の一致(brauchen)v.t 必要とする

「動詞」

彼は家賃を払ってやっていたし、飲食代として女に日に 20 フランを与えていた。

Er bezahlte die Zimmermiete und gab ihr zwanzig Francs pro Tag für Essen und Trinken.

「主語」「動詞」「目的語」 und 「動詞」「間接目的語」「直接目的語」「副詞句」

Er エア pron 彼は

「主語」

bezahlte ベツァールテ 3 単過(bezahlen)v.t 払っていた

「動詞」

die Zimmermiete デー・ツィマー・ミーテ n.f 家賃を

「目的語」

Zimmer ツィマー n.n 部屋 Miete ミーテ n.f 家賃

und ウント conj. そして

gab ガーフ 3 単過(geben)v.t 与えていた

「動詞」

ihr イア pron その女に

「間接目的語」

zwanzig Francs ツヴァンツィヒ・フラン pl(Franc).n.m.4 格 20 フラン

「直接目的語」

pro Tag プロ・ターク adv. 1 日ごとに、日に

「副詞句」

für Essen und Trinken. フューア・エッセン・ウント・トリンケン

adv. (目的) 飲食代として

「副詞句」

ERSTER TEIL 第1部

「家賃が 300 フラン、飲食代に 600 フラン、時々はストッキングを 1 足買ってやる。これで合計 1000 フランになる。そして奥様は働かない」

«Dreihundert Francs Miete, sechshundert Francs für Essen und Trinken, ab und zu ein Paar Strümpfe - das machte tausend Francs. Und die Gnädige tat keinen Schlag.

《「目的語」, 「目的語」, 「副詞句」 「目的語」

「主語」 「動詞」 「目的語」 | 「主語」 「動詞」 「目的語」》

«Dreihundert Francs ドライ・フンダート・フラン pl(Franc).n.m 300 フランの「形容詞句」

Miete, ミーテ n.f 家賃を 「目的語」

sechshundert Francs セックス・フンダート・フラン pl(Franc).n.m 600 フラン 「目的語」

für Essen und Trinken, フューア・エッセン・ウント・トリンケン adv. 飲食費として 「副詞句」

ab und zu アップ・ウント・ツァー adv. 時々 「副詞句」

ein Paar Strümpfe アイン・パール・シュトルプ n.m ストッキング 1 足 「目的語」

- das ダス pron これは 「主語」

machte マハテ 3 単過・時制の一致(machen)v.t 合計で～になる 「動詞」

tausend Francs. タゼント・フラン pl(Franc).n.m 1000 フラン 「目的語」

Und ウント conj. そして

die Gnädige デー・グネーディゲ n.f (形容詞の名詞化・丁寧な呼び方) 奥様は 「主語」

gnädig グネーディヒ adj. 慈悲深い、寛大な → gnädige Frau 奥様 meine Gnädige 奥様

tat タート 3 単過・時制の一致(tun)v.t (行為を) する 「動詞」

keinen Schlag. カイン・シュラク n.m 仕事を～ない、一打、手の一振り 「目的語」

女はそれについて無遠慮に、俺が渡している金ではやっていけないというんだ。おれはいつも言っているんだ：

Dafür sagte sie rundheraus, sie komme mit dem, was ich ihr gebe, nicht aus. Ich sagte zu ihr: 「副詞」 「動詞」 「主語」 「副詞」, 「目的語」 | 「主語」 「動詞」 「間接目的語」:

Dafür ダフューア adv. (関係) それに関して 「副詞」

sagte サークテ 3 単過・時制の一致(sagen)v.t 言う 「動詞」

sie ジー pron.f 女は 「主語」

rundheraus, ルントヘラウス adv. あけすけに、遠慮なしに 「副詞」

sie ジー pron.f 女は～することを 「目的語」

komme ...nicht aus. コメ...ニヒト・アウス 接・3 単現・否定(aus | kommen)

v.i(mit et-3 で) やり繰りできない 「動詞句」

mit dem, ミット・デーム adv. (手段) それでは 「間接目的語」

was ヴァス pron (目的語) ～する 「形容詞節」

ich イヒ pron おれが 「主語」

ihr イア pron.f.3 格 女に 「間接目的語」

ERSTER TEIL 第1部

gebe, ゲーベ 1 単現(geben)v.t 与える	「動詞」
Ich イッヒ pron おれは	「主語」
sagte サークテ 1 単過・時制の一致(sagen)v.t 言っている	「動詞」
zu ihr: ツー・イーア adv. 女に	「間接目的語」

「どうして半日だけでも働かないんだ？そうすれば、俺も少しは楽になるんだ」

<Warum arbeitest du nicht wenigstens halbtags? Eine Erleichterung wäre das schon für mich.

《「副詞」「動詞句」「主語」「動詞句」「副詞句」 | 「補語」「動詞」「主語」「副詞句」》

<Warum ヴァールム adv. どうして	「副詞」
arbeitest ...nicht アルベ イェスト...ニヒト 2 単現・否定・疑問文(arbeiten)v.i 働かないんだ？	「動詞句」
du ドゥ pron お前は	「主語」
wenigstens ヴェーニヒテンス adv. せめて	「副詞」
halbtags? ハルプ タークス adv. 半日の間	「副詞」
Eine Erleichterung アイン・エアライヒテルング n.f 軽減に	「補語」
wäre ヴェーレ 接 II・3 単現・推量(sein)v.i 〜になるだろう	「動詞」
das ダス pron それは	「主語」
schon ショーン adv. きっと	「副詞」
für mich. シュアー・ミッヒ adv. 俺にとって	「副詞句」

「今月は、お前にアンサンブルを1着買ってやった。それに1日に20フラン渡している。

お前の家賃も払ってやっている。それなのにあなたは、午後には友達とコーヒーを飲んでる」

Diesen Monat kaufte ich dir ein Komplet, ich zahle dir zwanzig Francs pro Tag, ich zahle dir die Miete, und du trinkst nachmittags mit deinen Freundinnen Kaffee.

《「副詞句」「動詞」「主語」「間接目的語」「間接目的語」,

「主語」「動詞」「間接目的語」「直接目的語」,

「主語」「動詞」「間接目的語」「直接目的語」,

und 「主語」「動詞」「副詞句」「目的語」》

Diesen Monat デーイーゼン・モナト n.m.4 格 今月は	「副詞句」
kaufte カウフテ 1 単過(kaufen)v.t 買った	「動詞」
ich イッヒ pron おれは	「主語」
dir ディア pron.3 格 お前に	「間接目的語」
ein Komplet, アイン・コンプレット	
n.n.4 格(= Ensemble) アンサンブルを、一揃いの婦人服	「直接目的語」
ich イッヒ pron おれは	「主語」
zahle ツァーレ 1 単現(zahlen)v.t 渡している、払っている	「動詞」

ERSTER TEIL 第1部

dir ディア pron.3 格 お前に	「間接目的語」
zwanzig Francs ツヴァンツィヒ・フラン pl(Franc).n.m 20 フラン	「直接目的語」
pro Tag, プロ・ターク adv. 1 日ごとに	「副詞句」
ich イヒ pron おれは	「主語」
zahle ツァーレ 1 単現(zahlen)v.t 渡している、払っている	「動詞」
dir ディア pron.3 格 お前に	「間接目的語」
die Miete, ディー・ミーテ n.f.4 格 家賃を	「直接目的語」
und ウント conj. そして	
du ドゥ pron お前は	「主語」
trinkst トリンクスト 2 単現(trinken)v.t 飲んでいる	「動詞」
nachmittags ナハミッタークス adv. 午後に	「副詞」
mit deinen Freundinnen ミット・ダイン・フロインディネン adv.(Freundin) 女友達と	「副詞句」
Kaffee. カフエー n.m.4 格 コーヒーを	「目的語」

アンサンブル

「上下一揃いの洋服」から「組み合わせて着る衣服」という意味に変化している。

名詞の格とその用法：

1 格 (Nominativ) の用法：主語になるほか、主格補語（英語の SVC の C にあたる名詞）になります。この他、呼び掛けの場合にも 1 格が使われます。

2 格 (Genitiv) の用法：

名詞を説明する付加語として「...の」という意味を表すのが基本です。他にも目的語として、あるいは副詞として（副詞的 2 格）使われることがあります。動詞や形容詞あるいは前置詞の目的語として用いられったり、補語や副詞として用いられることもあります。

3 格 (Dativ) の用法：

動詞・形容詞・前置詞の目的語として用いられます。

4 格 (Akkusativ) の用法：

他動詞の目的語になる他、形容詞や前置詞の目的語にもなります。また副詞としての用法もあります。英語の SVOC の C にあたる目的格補語でも使われます。

注意：目的格補語をとる受動態では、目的格補語は 4 格ではなく 1 格になります。.

ERSTER TEIL 第 1 部

「お前は彼らにコーヒーと砂糖をおごってやる。」

Du gibst ihnen Kaffee und Zucker. 《「主語」「動詞」「間接目的語」「直接目的語」》

Du トゥー pron お前は 「主語」

gibst きーフ ㅅ 2 単現(geben)v.t 与える 「動詞」

ihnen ｲｰﾝ pron.pl.3 格 彼らに 「間接目的語」

Kaffee カフェ n.m.4 格 コーヒーを 「直接目的語」

und ウント conj. そして

Zucker. ツッカー n.m 砂糖を 「直接目的語」

「そしてその金は俺がお前にやったものだ。俺はお前をずいぶん手厚く面倒を見てきたが、お前はそれに対してひどい返礼をしている」

Und ich gebe dir Geld. Ich habe dich anständig behandelt, und du vergiltst es mir schlecht.> 《Und 「主語」「動詞」「間接目的語」「直接目的語」

《Und 「主語」「動詞」「間接目的語」「直接目的語」》

「主語」「動詞句」「目的語」「副詞」「動詞句」,

und 「主語」「動詞」「直接目的語」「間接目的語」「副詞」》

Und ウント conj. そして

ich イッヒ pron 俺は 「主語」

gebe ゲ`-へ` 1 単現(geben)v.t やっている 「動詞」

dir ティア pron.3 格 お前に 「間接目的語」

Geld. ゲル n.n.4 格 金を 「直接目的語」

Ich イッヒ pron 俺は 「主語」

habe ...behandelt, ハーベ`...ヘ`ハンテ`ルト 1 単現・完了形(behandeln)v.t 処遇してきた 「動詞句」

dich ティッヒ pron. 4 格 お前を 「目的語」

anständig アンシュテンデ`ヒ adv. 相当に 「副詞」

und ウント conj. そして

du トゥ pron お前は 「主語」

vergiltst フェアジ^ルツ 2 単現(vergelten)v.t 返礼する 「動詞」

es エス pron それを 「直接目的語」

mir ミーア pron 俺に対して 「間接目的語」

schlecht.> シュレヒト adv. 悪く、ひどい 「副詞」

ERSTER TEIL 第1部

しかし女は働きもしないで、相変わらず「やっていけない」と言うだけだ。それで俺は、騙されていたと気付いたんだ。

Aber sie tat keinen Schlag, sie sagte nur immer, sie komme nicht aus, und so kam ich dahinter, daß ich betrogen wurde.»

Aber 「主語」「動詞」「目的語」, 「主語」「動詞」「副詞句」「目的語」,
und 「副詞」「動詞」「主語」「副詞」「目的語」

Aber アーバー conj. しかし

sie ジー pron.f 女は 「主語」

tat タート 3 単過・時制の一致(tun)v.t (動作を) する 「動詞」

keinen Schlag, カイン・シュラク n.m 一振りも〜ない、仕事を〜ない 「目的語」

sie ジー pron 女は 「主語」

sagte サークテ 3 単過・時制の一致(sagen)v.t 言う 「動詞」

nur immer, ヌア・イマー adv. あいかわらず〜だけ 「副詞句」

sie ジー pron 女は 「目的語」

komme nicht aus, コメ・ニト・アウス 3 単現・否定(aus | kommen)

v.i やり繰りできない 「動詞句」

und ウント conj. そして

so ザー adv. それで 「副詞」

kam カム 1 単過(kommen)v.i やってきた 「動詞」

ich イヒ pron おれは 「主語」

dahinter, ダヒンター adv. そのうしろへ 「副詞」

daß ダス conj. 〜ということ を 「目的語」

ich イヒ pron 俺は 「主語」

betrogen wurde.» ベトロゲン・ヴァルテ 1 単過・受動(werden+過去分詞 betrügen)

v.t 騙された 「動詞句」

さらに彼の話では、女のハンドバッグの中に宝くじの券を見つけたが、女はどうやってその支払いをしたのか説明出来なかったということだ。

Er erzählte weiter, er habe in ihrer Handtasche ein Lotterielos gefunden, und sie habe ihm nicht erklären können, wie sie es bezahlt hatte.

「主語」「動詞」「副詞」, 「主語」「動詞句」「副詞句」「目的語」「動詞句」,
und 「主語」「動詞句」「間接目的語」「直接目的語」

Er エア pron 彼は 「主語」

erzählte エアツェルテ 3 単過(erzählen)v.t 話した 「動詞」

weiter, ヴァイター adv. さらに 「副詞」

er エア pron 彼は 「主語」

ERSTER TEIL 第1部

habe ...gefunden, ハーベ...ゲフンデシ 3 単現・完了形(finden)v.t 見つけた	「動詞句」
in ihrer Handtasche イン・イーラー・ハントタッシェ adv. 女のハンドバッグの中に	「副詞句」
ein Lotterielos アイン・ロテリーロス n.n 宝くじの券を	「目的語」
und ウント conj. そして	
sie シー pron 女は	「主語」
habe ...nicht erklären können, ハーベ...ニヒト・エアクレレン・ケネ 3 単現・完了形・可能・否定 (können+不定詞 erklären)v.t 説明できなかった	「動詞句」
ihm イム pron.3 格 それについて	「間接目的語」
wie ヴァー conj. どのように〜するかということ	「直接目的語」
sie シー pron 女が	「主語」
es エス pron それを	「目的語」
bezahlt hatte. ベツァールト・ハッテ 3 単過・完了形(bezahlen)v.t 支払った	「動詞句」

また後日、女がブレスレットを2個質に入れた証拠となる質札を、女の部屋で見つけた。

Etwas später hatte er bei ihr einen Pfandschein gefunden, den Beweis dafür, daß sie zwei Armbänder versetzt hatte.

「副詞句」, 「動詞句」「主語」「副詞句」「目的語」「動詞句」, 「形容詞句」	
Etwas später エトワース・シュペーター adv. また後日に	「副詞句」
hatte ...gefunden, ハッテ...ゲフンデシ 3 単過・完了形(finden)v.t 見つけた	「動詞句」
er エア pron 彼は	「主語」
bei ihr バイ・イーア adv. (場所) 女の部屋で	「副詞句」
einen Pfandschein アイン・プファントシャイン n.m 質札を	「目的語」
den Beweis dafür, テン・ベヴァイス・ダフアー adj. 引き換え証明の	「形容詞句」
daß ダス conj. 〜という	「形容詞節」
sie シー pron 女が	「主語」
zwei Armbänder ツヴァイ・アルムバンダー	
pl(Armband).n.n.4 格 ブレスレットを2個	「目的語」
versetzt hatte. フェアゼツト・ハッテ 3 単過・完了形(versetzen) v.t (質に) 入れた	「動詞句」

ERSTER TEIL 第1部

その時まで彼は、このブレスレットの存在を全く知らなかった。

Bis dahin hatte er von der Existenz dieser Armbänder keine Ahnung gehabt.

「副詞句」「動詞句」「主語」「間接目的語」「直接目的語」「動詞句」

Bis dahin ビス・ダヒン adv. その時まで

「副詞句」

hatte ...gehabt, ハッテ...ゲハプト 3 単過・完了形(haben)v.t ~があった

「動詞句」

er エア pron 彼は

「主語」

von der Existenz フォン・デア・エクシステンツ adv. (関連) その存在について

「間接目的語」

dieser Armbänder ディーサー・アルムバンダー

pl(Armband).n.n.2 格 このブレスレットの

「形容詞句」

keine Ahnung カイネ・アヌング n.f.4 格 全く知識が～ない

「直接目的語」

「それで、おれは騙されていたことが分かった。だから、女とは別れた」

«Ich sah also, daß ich betrogen wurde. Da ließ ich sie laufen.

《「主語」「動詞」「副詞」「目的語」 | 「副詞」「動詞」「主語」「目的語」「補語」》

«Ich イヒ pron 俺は

「主語」

sah サー 1 単過(sehen)v.t 分かった

「動詞」

also, アルゾー adv. それで

「副詞」

daß ダス conj. ～ということを

「目的語」

ich イヒ pron 俺は

「主語」

betrogen wurde. ベトロゲン・ウルテ 1 単過・受動(werden+過去分詞 betrügen)

v.t 騙されていた、裏切られた

「動詞句」

Da ダー adv. それで

「副詞」

ließ リース 1 単過・使役(lassen)v.t(SVO+不定詞 O に) ～させた

「動詞」

ich イヒ pron 俺は

「主語」

sie ジー pron 女を

「目的語」

laufen. ラウフェン 不定詞・sie の動作 v.i 走る

「補語」

laufen lassen 「自由にする、逃がす」

「だがまず女を殴った。それから本当の事を思い切りぶちまけてやった」

Aber zuerst gab ich ihr eine Tracht Prügel. Und dann habe ich ihr gründlich die Wahrheit gesagt.

《Aber 「副詞」「動詞」「主語」「間接目的語」「直接目的語」

Und 「副詞」「動詞句」「主語」「間接目的語」「直接目的語」「動詞句」》

Aber アーバー conj. しかし

zuerst ツェアスト adv. まず最初に

「副詞」

gab ガーフ 1 単過(geben)v.t 与えた

「動詞」

ich イヒ pron おれは

「主語」

ERSTER TEIL 第1部

ihr イア pron.f.3 格 女に	「間接目的語」
eine Tracht Prügel. アイネ・トラハト・プリュゲル n.m.4 格 殴打を	「直接目的語」
Und ウント conj. そして	
dann ダン adv. それから	「副詞」
habe ...gesagt. ハーベ ...ゲザークト 1 単現・完了形(sagen)v.t 言った	「動詞句」
ich イヒ pron おれは	「主語」
ihr イア pron.f.3 格 女に	「間接目的語」
gründlich グルントリヒ adv. 徹底的に、非常に	「副詞」
die Wahrheit デー・イー・ヴァールハイト n.f 本当の事を	「直接目的語」
思い切り	
思う存分に、十分に	
ぶちまける	
それまで押さえていた気持ちなどを、包み隠さずすっかり口に出す。	

「俺は面と向かって言ってやった。お前は自分の何で楽しむことしか考えていない。それから最後に、もう一発殴ってやった」

Ich habe ihr ins Gesicht gesagt, daß sie sich nur immer mit ihrem Dings amüsieren will. Zum Schluß versetzte ich ihr noch:

《「主語」「動詞句」「間接目的語」「副詞句」「直接目的語」「動詞句」
「副詞句」「主語」「動詞」「間接目的語」「副詞」》

Ich イヒ pron おれは	「主語」
habe ...gesagt, ハーベ ...ゲザークト 1 単現・完了形(sagen)v.t 言った	「動詞句」
ihr イア pron.f.3 格 女に	「間接目的語」
ins Gesicht インス・ゲズィヒト adv. 面と向かって	「副詞句」
daß ダス conj. ～ということ	「直接目的語」
sie ジー pron お前は	「主語」
sich ...amüsieren will. スィ イヒ...アミュジールン・ウィル 3 単現・意志 (wollen+不定詞 sich-4 amüsieren)v.pr 楽しもうとしている	「動詞句」
nur immer mit ihrem Dings ヌアー・イマー・ミット・イーレム・ディンクス pron ただ自分の何を	「目的語」
Zum Schluß ツーム・シュルス adv. 最後に	「副詞句」
versetzte フェアゼットゥテ 1 単過(versetzen)v.t (打撃を) 与えた	「動詞」
ich イヒ pron 俺は	「主語」
ihr イア pron.f.3 格 女に	「間接目的語」
noch: ノッホ adv. (追加) さらに	「副詞」

ERSTER TEIL 第1部

「俺のおかげでお前が幸せでいられるのを皆がやきもちを焼いていることをまったく分かっていない。いずれ、自分がどれほど幸せだったかわかるだろう」

<Du merkst gar nicht, wie eifersüchtig alle auf das Glück sind, das du mir verdankst. Später wirst du sehen, was für ein Glück du hattest.>>

《「主語」「動詞」「副詞句」「目的語」 | 「副詞」「動詞句」「主語」「動詞句」「目的語」》

<Du トゥー pron お前は 「主語」
merkst マクスト 2 単現(merken)v.t 分かる、気付く 「動詞」
gar nicht, ガール・ニヒト adv. 全く～ない 「副詞句」
wie ヴァー conj. どれほどであるかという事を 「目的語」
eifersüchtig アイファージュスティヒ adj. どれほどやきもちやきの 「補語」
alle アル pron みんなが 「主語」
auf das Glück アウフ・ダス・グリュック adv. 幸運に対して 「副詞句」
sind, シント 3 複現(sein)v.i ～である 「動詞」
das ダス conj. (同格) ～という 「形容詞節」
du トゥー pron お前は 「主語」
mir ミー pron 俺の 「間接目的語」
verdankst. フェアダンクスト 2 単現(verdanken)
v.i ～のおかげである 「動詞」
Später シュペーター adv. あとで 「副詞」
wirst... sehen, ヴァイルスト...ゼーエン 2 単未(werden+不定詞 sehen)v.t 分かるだろう 「動詞句」
du トゥー pron お前は 「主語」
was für ein Glück ヴァスフューア・アイン・グリュック pron 何という幸運を 「目的語」
du トゥー pron お前は 「主語」
hattest.>> ハッテスト 2 単過(haben)v.t 持っていた、～だった 「動詞」

彼は女を殴って血まみれにした。以前は、女を殴ることは無かった。

Er hatte sie blutig geschlagen. Vorher hatte er sie nicht geschlagen.

「主語」「動詞句」「目的語」「補語」「動詞句」
「副詞」「動詞句」「主語」「目的語」「動詞句」

Er エア pron 彼は 「主語」
hatte ... geschlagen. ハッテ...ゲシュラーゲン 3 単過・完了形(schlagen)
v.t(SVOC) 殴って O を C にした 「動詞句」
sie ジー pron.f 女を 「目的語」
j-4 blutig schlagen 「人・4 を殴って血まみれにする」
blutig ブルティヒ adj. 血まみれに 「補語」
Vorher フォアヘア adv. (時) 以前は 「副詞」

ERSTER TEIL 第1部

hatte ...nicht geschlagen. ハッテ...ニヒト・ゲシュラーゲン 3 単過・完了形・否定(schlagen)

v.t 殴ったことはなかった

「動詞句」

er エア pron 彼は

「主語」

sie ジー pron.f 女を

「目的語」

「彼女は以前叩かれた事はあるが、いわば撫でる程度のものだ」

«Sie bekam schon mal eine geknallt, aber sozusagen in aller Zärtlichkeit.

《「主語」「動詞句」「副詞句」「目的語」「動詞句」, aber 「副詞句」》

«Sie ジー pron 彼女は

「主語」

bekam... geknallt, ベカム 3 単過(bekommen+過去分詞 knallen)v.t 〜された

「動詞句」

schon mal ショーン・マル adv. 以前

「副詞句」

eine アイン pron 一発、殴打を

「目的語」

aber アーバー conj. しかし

sozusagen ソーツァーゲン adv. いわば

「副詞」

in aller Zärtlichkeit. イン・アラー・ツェールリヒカイト adv. 撫でるような、愛情で

「副詞句」

「女は少しは泣いた。俺は錠戸を閉めた。結局はいつもの通りだ」

Sie heulte ein bißchen. Ich machte die Fensterladen zu, und es endete wie immer.

《「主語」「動詞」「副詞句」

「主語」「動詞句」「目的語」「動詞句」, und 「主語」「動詞」「副詞句」》

Sie ジー pron 女は

「主語」

heulte ホイルテ 3 単過(heulen)v.i 泣いた

「動詞」

ein bißchen. アイン・ビースェン adv. 多少は

「副詞句」

Ich イヒ pron 俺は

「主語」

machte ...zu, マハテ...ツ 1 単過(zu | machen)v.t 締めた、閉じた

「動詞句」

die Fensterladen ディー・テンスターラーテン n.f 錠戸を

「目的語」

und ウント conj. そして

es エス pron 物事は

「主語」

endete エンデテ 3 単過(enden)v.i 終わった、〜の結果になった

「動詞」

wie immer. ヴァー・イマー adv. いつものように

「副詞句」

ERSTER TEIL 第1部

「しかし、今回は本気だ。だから、今までとは違うやり方をしないと気が済まない」

Aber jetzt ist es ernst. Und ich muß es ihr noch ganz anders geben.»

《Aber 「副詞」「動詞」「主語」「補語」

Und 「主語」「動詞句」「直接目的語」「間接目的語」「副詞句」「動詞句」》

Aber アーバー conj. しかし

jetzt イェツト adv. 今は、今回は

「副詞」

ist イスト 3 単現(sein)v.i ~である

「動詞」

es エス pron それは

「主語」

ernst. エアnst adj. 本気の

「補語」

Und ウント conj. それで

ich イッヒ pron 俺は

「主語」

muß ...geben.》ムス...ゲーベン 1 単現・必要(müssen+不定詞 geben)

v.t 与えなければならない

「動詞句」

es エス pron 一撃を

「直接目的語」

ihr イーア pron.f.3 格 女に

「間接目的語」

noch ganz anders ノッホ・ガantz・アンデレス adv. さらに全く違った風に

「副詞句」

そして、まさにそのために助言が必要なんだと僕に言った。

Dann erklärte er mir, eben deswegen brauche er einen Rat.

「副詞」「動詞」「主語」「間接目的語」「直接目的語」

Dann ダン adv. その時に、すると、それで、それから

「副詞」

erklärte エアクレアテ 3 単過(erkennen)v.t 説明した

「動詞」

er エア pron 彼は

「主語」

mir, ミーア pron.3 格 僕に

「間接目的語」

eben deswegen エーベン・デスウェーゲン

adv. まさにそのために~するということを

「直接目的語」

brauche ブラウヘ 3 単現 3 単現(brauchen)v.t 必要としている

「動詞」

er エア pron 彼は

「主語」

einen Rat. アイン・ラート n.m.4 格 助言を

「目的語」

彼は話を中断して、燵り始めたランプの芯を調整した。

Er machte eine Pause und drehte an der Lampe, die zu qualmen anfang.

「主語」「動詞」「目的語」 und 「動詞」「間接目的語」

Er エア pron 彼は

「主語」

machte マハテ 3 単過(machen)v.t (動作を) した

「動詞」

eine Pause アイン・パウゼ n.f.4 格 中断

「目的語」

ERSTER TEIL 第1部

und ウント conj. そして

drehte トレーテ 3 単過(drehen)v.i (an et-3) (のつまみ) を回した 「動詞」

an der Lampe, アン・デア・ランペ° adv. ランプを 「間接目的語」

die デー n.f.2 格 ~の 「形容詞句」

zu qualmen anfang. ツー・クワルメン・アンフイング° zu 不定詞(qualmen)

v.i 燻り始めた 「副詞句」

僕はずっと彼の話聞いていた。僕はもうワインを 1 リットルほど飲んでいたので、頭が熱く火照っていた。

Ich hörte ihm immer noch zu. Ich hatte fast einen Liter Wein getrunken, und mir glühte der Kopf. 「主語」「動詞句」「間接目的語」「副詞句」「動詞句」

「主語」「動詞句」「目的語」「動詞句」,und 「間接目的語」「動詞」「主語」

Ich イヒ pron 僕は 「主語」

hörte ...zu. ヘアテ...ツー 1 単過(zu|hö れ n)v.i(j-3 の話を) 聞いていた 「動詞句」

ihm イム pron.3 格 彼の話 「間接目的語」

immer noch イマー・ノッホ adv. ずっと 「副詞句」

Ich イヒ pron 僕は 「主語」

hatte ...getrunken, ハッテ...ゲトルケン 1 単過・完了形(trinken)v.t 飲んだ 「動詞句」

fast ファスト adv. ほとんど、ほぼ 「副詞」

einen Liter Wein アイン・リター・ヴァイン n.m ワインを 1 リットル 「目的語」

und ウント conj. そして

mir ミーア pron ぼくの 「間接目的語」

glühte グルーテ 3 単過(glühen)v.i 灼熱していた 「動詞」

der Kopf. デア・コッフ° n.m 頭が 「主語」

僕は自分のタバコがもう切れていた、レーモンのを吸っていた。

Ich rauchte Raymonds Zigaretten, weil ich selber keine mehr hatte.

「主語」「動詞」「目的語」「副詞節」

Ich イヒ pron 僕は 「主語」

rauchte ラウフテ 1 単過(rauchen)v.t ~を吸っていた 「動詞」

Raymonds レーモンズ° n.m.2 格 レーモンの 「形容詞」

Zigaretten, ツィガレッテン pl(Zigarette).n.f タバコを 「目的語」

weil ヴァイル conj. (理由) ~なので 「副詞節」

ich selber イヒ・セルバー pron 僕自身は 「主語」

hatte. ハッテ 1 単過(haben)v.t ~があった 「動詞」

keine mehr カイネ・メーア pron もう何も~ない 「目的語」

ERSTER TEIL 第1部

最終まじかの路面電車が通過して、郊外の町の今は遠いざわめきを運び去った。

Die letzten Straßenbahnen fuhren vorbei und nahmen die nun fernen Geräusche der Vorstadt mit. 「主語」「動詞句」 und 「動詞句」「目的語」

Die letzten デー・レーツテン adj(letzt).pl.1 格 最終まじかの 「形容詞句」

最終の電車は1台に限定されるので、もうすぐ最終直前の複数の路面電車を表す

Straßenbahnen シトラーセンバーネン pl(Straßenbahn).n.f 路面電車が 「主語」

fuhren vorbei フーレン・フォーバイ 3 複過(vorbei|fahren)v.i 通過して行った 「動詞句」

und ウント conj. そして

nahmen ...mit. ナメン...ミット 3 複過(mit|nehmen)v.t 連れて行った、運んで行った 「動詞句」

die nun fernen デー・ヌン・フェアネン adj(fern).pl.4 格 今は遠い 「形容詞句」

nun ヌン adv. いまや fern フェアン adj. 遠い

Geräusche ゲロイシェ pl(Geräusch).n.n.4 格 ざわめきを、騒音を 「目的語」

der Vorstadt デア・フォアシュタット n.f.2 格 郊外の町の 「形容詞句」

レーモンは話を続けた。何よりも、自分自身に腹立たしいことは、いまだに女に欲情があることだった。それでも、彼は女を懲らしめてやりたかった。

Raymond fuhr fort. Vor allem ärgerte es ihn, daß er «immer noch scharf auf sie» war. Trotzdem wollte er sie strafen.

「主語」「動詞句」 | 「副詞句」「動詞」「目的語」「主語」

「副詞」「動詞句」「主語」「目的語」

Raymond レーモン n.m レーモンは 「主語」

fuhr fort. フー・フォルト 3 単過(fort|fahren)v.i (～を) 続行した、話を続けた 「動詞句」

Vor allem フォア・アレム adv. 何よりも、とりわけ 「副詞句」

ärgerte エアゲルテ 3 単過(ärgern)v.t 苛立たせた 「動詞」

es エス pron 仮の主語 (真の主語は daß 以降)

ihn, イン pron 彼を 「目的語」

daß ダス conj. ～ということが 「主語」

er エア pron 彼は 「主語」

«immer noch イマーノッホ adv. いまだに 「副詞句」

scharf シャルフ adj. 淫乱な 「補語」

auf sie アウフ・ジー adv. 女に 「副詞句」

auf j-4 scharf sein 「人-4 をしきりに欲しがっている」

war. ヴァール 3 単過(sein)v.i ～ だった 「動詞」

Trotzdem トロツデーム adv. それでも 「副詞」

wollte ...strafen. ヴォルテ...シュトラフェン 3 単過・願望(wollen+不定詞 strafen)

ERSTER TEIL 第1部

v.t 懲らしめたかった	「動詞句」
er エア pron 彼は	「主語」
sie ジー pron 女を	「目的語」

彼は最初、女をホテルに連れて行き、「風紀警察」を呼んで、ひと騒動を起こして、女を登録させようと考えた。

Er hatte zuerst daran gedacht, sie in ein Hotel mitzunehmen und dann «die Sitte» zu holen, um einen Skandal zu verursachen und sie registrieren zu lassen.

	「主語」「動詞句」「副詞句」「目的語」
Er エア pron 彼は	「主語」
hatte ...gedacht, ハッテ...ゲダハ 3 単過・完了形(denken)v.t 考えた	「動詞句」
zuerst ツ・エアースト adv. 最初	「副詞」
daran ダラン adv. それについて	「副詞」
zu 不定句 n. ～することを	「目的語」
sie ジー pron 女を	「目的語」
in ein Hotel イン・アイン・ホテル adv. ホテルに	「副詞句」
mitzunehmen ミット・ツ・ネムン zu 不定詞(mit nehmen)v.t 連れて行く	「動詞句」
und ウント conj. そして	
dann ダン adv. それから、そのあと	「副詞」
«die Sitte» ティー・ズィッテ n.f.4 格 風紀警察を	「目的語」
zu holen, ツー・ホレン zu 不定詞(holen)v.t 呼び寄せる	「動詞句」
um einen Skandal ウム・アイネン・スカンダール adv. (手段) ひと騒ぎによって	「副詞句」
zu verursachen ツー・フェアウーアザッヘン zu 不定詞(verursachen)	
v.t 引き起こす	「動詞句」
und ウント conj. そして	
sie ジー pron.f 女を	「目的語」
registrieren zu lassen. レジストリーレン・ツラッセン zu 不定詞・使役(lassen+不定詞)	
v.t 登録させる	「動詞句」

ERSTER TEIL 第1部

その後、彼は仲間に相談した。しかし、彼らは何も思いつかなかった

Dann hatte er sich an Freunde aus seinen Kreisen gewandt. Ihnen war aber nichts eingefallen.

「副詞」「動詞句」「主語」「動詞句」「間接目的語」「動詞句」

「間接目的語」「動詞句」 aber 「動詞句」

Dann ダン adv. その後

「副詞」

hatte ...sich ...gewandt. ハッテ...スィヒ...ゲヴァント 3 単過・完了形(sich-4 werden)

v.pr(an j-4 に) 相談した

「動詞句」

er エア pron 彼は

「主語」

an Freunde アン・フロインデ adv. 友人に

「間接目的語」

aus seinen Kreisen アウス・ザイネン・クライセン adv. 彼の仲間の

「副詞句」

Ihnen イネン pron.3 格 彼らには

「間接目的語」

war ...nichts eingefallen. ヴァール...ニヒツ・アイン・ゲファレン 3 単過・完了形・否定(ein | fallen)

v.i 思いつかなかった

「動詞句」

aber アーバー conj. しかし

レーモンは、彼の仲間がどれ程の値打ちがあるかを僕に語った。

Raymond gab mir zu verstehen, wieviel Wert er auf «seine Kreise» legte.

「主語」「動詞句」「間接目的語」「動詞句」「直接目的語」

Raymond レーモン n.m レーモンは

「主語」

gab ...zu verstehen, ガーフ ...ツァー・フェアシュテヘン 3 単過・使役(geben ...zu 不定詞)

v.t 分からせた、ほのめかした

「動詞句」

mir ミア pron.3 格 僕に

「間接目的語」

j-3 et-4 zu verstehen geben 「人-3 に何-4 をほのめかす、分からせる」

wieviel Wert ヴィーフィール・ヴァート

n.m.4 格 どれ程の価値を〜するかということ

「直接目的語」

er エア pron 彼は

「主語」

auf «seine Kreise» アフ・ザイネン・クライゼ adv. 彼の仲間に

「間接目的語」

legte. レクテ 3 単過・時制の一致(legen)v.t 置く

「動詞」

彼らに事の次第を語ると、「女に烙印を押すのはどうだろう？」と彼らは提案した。

Er hatte ihnen die Geschichte erzählt, und sie hatten ihm den Vorschlag gemacht, sie zu «zeichnen».

「主語」「動詞句」「間接目的語」「直接目的語」「動詞句」, und 「主語」「動詞句」「間接目的語」「直接目的語」「動詞句」, 「直接目的語」

Er エア pron 彼は

「主語」

hatte ...erzählt, ハッテ...エアツェールト 3 単過・完了形(erzählen)v.t 語った

「動詞句」

ihnen イネン pron.3 格 彼らに

「間接目的語」

ERSTER TEIL 第1部

die Geschichte デー・ゲシヒテ n.f 出来事、事の次第を 「直接目的語」
 und ウント conj. そして、すると
 sie ジー pron.pl 彼らは 「主語」
 hatten ...gemacht, ハッテン...ゲマハト 3 複過・完了形(machen)v.t (行為を) した 「動詞句」
 ihm イム pron 彼に、レーモンに 「間接目的語」
 den Vorschlag デーン・フォアシュラーク n.m.4 格 提案を 「直接目的語」
 sie ジー pron 女を～するという 「形容詞句」
 zu «zeichnen». ツー・ツァイトン zu 不定詞 v.t 烙印をおす 「動詞句」

しかし、彼はそれを望まなかった。彼はそれについてもっと考えたかった。しかし、まず最初に何か尋ねたかった。

Aber das wollte er nicht. Er wollte weiter darüber nachdenken. Zuerst aber wollte er mich etwas fragen. Aber 「目的語」「動詞句」「主語」「動詞句」

「主語」「動詞句」「副詞」「間接目的語」「動詞句」

「副詞」aber 「動詞句」「主語」「間接目的語」「直接目的語」「動詞句」

Aber アーバー conj. しかし

das ダス pron それを 「目的語」

wollte ...nicht. ヴォルテ...ニヒト 3 単過・否定(wollen)v.t 望まなかった 「動詞句」

er エア pron 彼は 「主語」

Er エア pron 彼は 「主語」

wollte ...nachdenken. ヴォルテ...ナーハデッケン 3 単過・願望(wollen+不定詞 nachdenken)
 v.i じっくり考えたいと思った 「動詞句」

weiter ヴァイター adv. さらに 「副詞」

darüber ダリュエバー adv. それについて 「間接目的語」

Zuerst ツエアースト adv. まず最初に 「副詞」

aber アーバー conj. しかし

wollte ...fragen. ヴォルテ...フラーゲン 3 単過・願望(wollen+不定詞 fragen)
 v.t 尋ねたいと思った 「動詞句」

er エア pron 彼は 「主語」

mich ミヒ pron.4 格 私から、私に 「間接目的語」

etwas エトワース pron.4 格 何かを 「直接目的語」

ドイツ語の3格と4格

<http://www.tufs.ac.jp/ts/personal/fujinawa/ms/talk04.pdf>

日本語の「～に」はドイツ語の「3 格」、日本語の「～を」はドイツ語の「4 格」に当る場合が多いが、fragenのようにドイツ語の「動詞」によっては逆になる事がある。

ERSTER TEIL 第1部

ところで彼は、自分が質問する前に、この話について僕がどう思うかを知りたがった。

Übrigens wollte er, bevor er mir die Frage stellte, wissen, was ich über die Geschichte dachte. 「副詞」, 「動詞句」 「主語」, 「副詞節」, 「動詞句」 「目的語」

Übrigens ユーブリゲンズ adv. (話題転換) ところで、それはそうと 「副詞」

wollte ...wissen, ヴォルテ...グアイッセン 3 単過・願望(wollen+不定詞 wissen)

v.t 知りたがった 「動詞句」

er, エア pron 彼は 「主語」

bevor ベフォー conj. ～する前に 「副詞節」

er エア pron 彼が 「主語」

mir ミア pron.3 格 僕に 「間接目的語」

die Frage デーイー・フラーゲ n.f 質問を 「直接目的語」

stellte, シュテルテ 3 単過・時制の一致(stellen)v.t (質問を) する 「動詞」

was ヴァス pron (目的語) 何を～するかということ 「目的語」

ich イヒ pron 僕は 「主語」

über die Geschichte ユーバー・デーイー・ゲシヒテ adv. その話に対して 「間接目的語」

dachte, ダハテ 1 単過・時制の一致(denken)v.t 思う、考える 「動詞」

僕は彼に、それについてはなんとも思わないが、興味深い話だと答えた。

Ich antwortete ihm, daß ich nichts über sie dachte, daß sie ganz interessant sei.

「主語」 「動詞」 「間接目的語」 「直接目的語」

Ich イヒ pron 僕は 「主語」

antwortete アントヴォアテテ 1 単過(antworten)v.t 答えた 「動詞」

ihm, イム pron.3 格 彼に 「間接目的語」

daß ダス conj. ～ということ 「直接目的語」

ich イヒ pron 僕は 「主語」

nichts ニヒツ pron 何も～ない 「目的語」

über sie ユーバー・ジエー adv. それについては 「副詞句」

dachte, デヒテ 接 II・3 単現・思考(denken)v.t (否定文で) 思わない 「動詞」

daß ダス conj. ～ということ 「直接目的語」

sie ジエー pron それは 「主語」

ganz interessant ガンツ・インテラサント adj. まったく興味深い 「補語」

sei. サイ 接・3 単現・思考(sein)v.i ～である 「動詞」

ERSTER TEIL 第1部

彼は、僕も彼が騙されたと思うのかどうか尋ねた。僕も彼が騙されていたと思うと答えた。それから、自分は女を懲らしめるべきなのかどうか、そして僕が彼の立場ならどうするかを尋ねた。それはどうすべきかはよく分からない、だが女を懲らしめたいと思う気持ちは理解できると答えた。

Er fragte mich, ob auch ich der Meinung sei, daß er betrogen wurde; und es schien mir tatsächlich so, daß er betrogen wurde; , ob ich finde, daß man sie bestrafen müsse, und was ich an seiner Stelle tun würde, und ich sagte ihm, daß man das nie wissen könne, ich verstehe es aber, daß er sie bestrafen wolle.

「主語」「動詞」「間接目的語」「直接目的語」

-und 「主語」「動詞」「間接目的語」「補語」 - 「直接目的語」,

und 「主語」「動詞」「間接目的語」「直接目的語」

Er	エア	pron	彼は	「主語」
fragte	フラーケ	3 単過(fragen)	v.t 尋ねた	「動詞」
mich,	ミッヒ	pron.4 格	僕に	「間接目的語」
ob	オッパ	conj.	～かどうかということ	「直接目的語」
auch ich	アウフ・イッヒ	pron	僕も	「主語」
der Meinung	デア・マイヌング	n.f	その意見	「補語」
sei,	ザイ	接・1 単現(sein)	v.i ～である	「動詞」
daß	ダス	conj.	(同格) ～という	「形容詞節」
er	エア	pron	彼は	「主語」
betrogen wurde	ベトローゲン・ウルテ	3 単過・受動(werden+過去分詞 betrügen)		
	v.t		騙された	「動詞句」
-und	ウント	conj.	そして	
es	エス	pron	それは	「主語」
schien	シーン	3 単過・時制の一致(scheinen)		
	v.i		～に思われる	「動詞」
mir	ミーア	pron	僕には	「間接目的語」
tatsächlich so,	タートセヒリヒ・ゾー	adj.	本当にそのような	「補語」
daß	ダス	conj.	(同格) ～という	「形容詞節」
er	エア	pron	彼は	「主語」
betrogen wurde-	ベトローゲン・ウルテ	3 単過・受動(werden+過去分詞 betrügen)		
	v.t		騙された	「動詞句」
ob	オッパ	conj.	～かどうかということ	「直接目的語」
ich	イッヒ	pron	僕は	「主語」
finde,	フィンテ	1 単現(finden)	v.t 思う	「動詞」
daß	ダス	conj.	～ということ	「目的語」

ERSTER TEIL 第1部

man マン pron 俺は	「主語」
sie ジー pron.f 女を	「目的語」
bestrafen müsse, ベシュトラーフエン・ミュッセ 接・3 単現・必然(müssen+不定詞 bestrafen)	
v.t 懲らしめるべきである	「動詞句」
und ウント conj. そして	
was ヴァス pron 何を	「目的語」
ich イヒ pron 僕は	「主語」
an seiner Stelle アン・ザイアー・シュテレ adv. 彼の立場なら	「副詞句」
tun würde, トウン・ウルデ 接 II・1 単現・推量(werden+不定詞 tun)	
v.t するだろう	「動詞句」
und ウント conj. そして	
ich イヒ pron 僕は	「主語」
sagte サークテ 1 単過(sagen)v.t 言った	「動詞」
ihm, イム pron 彼に	「間接目的語」
daß ダス conj. ～ということ	「直接目的語」
man マン pron 自分は	「主語」
das ダス pron それを	「目的語」
nie wissen könne, ニー・ヴィッセン・ケー 3 単過・可能・否定(können+不定詞 wissen)	
v.t 決して分らない	「動詞句」
ich イヒ pron 僕は	「主語」
verstünde フェアシュトウンデ 接 II・1 単現(verstehen)v.t 理解する、わかる	「動詞」
es エス pron 仮の目的語 (真の目的語は daß 以降)	
aber, アーバー conj. しかし	
daß ダス conj. ～ということ	「目的語」
er エア pron 彼は	「主語」
sie ジー pron.f 女を	「目的語」
bestrafen wolle, ベシュトラーフエン・ヴォレ 接・3 単現・意思(wollen+不定詞 bestrafen)	
v.t 懲らしめたいと思う	「動詞句」

ERSTER TEIL 第1部

僕はまた少しワインを飲んだ。彼は煙草に火をつけてから、自分の構想を僕に打ち明けた。

Ich trank noch ein bißchen Wein. Er steckte sich eine Zigarette an und eröffnete mir seinen Plan.

「主語」「動詞」「副詞」「目的語」

「主語」「動詞句」「目的語」「動詞句」und「動詞」「間接目的語」「直接目的語」

Ich イッヒ pron 僕は

「主語」

trank トランク 1 単過(trinken)v.t 飲んだ

「動詞」

noch ノッホ adv. また、さらに

「副詞」

ein bißchen Wein. アイン・ビースヒェン・ヴァイン n.m ワインを少し

「目的語」

Er エア pron 彼は

「主語」

steckte sich ...an シュテックテ・ズィッヒ...アン 3 単過(sich-4 an | stecken)

v.pr(et-4 に) 火をつけた

「動詞句」

eine Zigarette アイン・ツィガレッテ n.f タバコに

「目的語」

und ウント conj. そして

eröffnete エアエフネ 3 単過(eröffnen)v.t(j-3 et-4) (人-3 に何-4 を) 打ち明けた

「動詞」

mir ミア pron.3 格 僕に

「間接目的語」

seinen Plan. サイネン・プラン n.m/4 格 彼の構想を

「直接目的語」

「足蹴にするような言葉と同時に、女に後悔させる言葉」で、女に手紙を書きたかった。

Er wollte ihr einen Brief schreiben «mit Fußritten und gleichzeitig allerhand, um sie zur Reue zu bewegen».

「主語」「動詞句」「間接目的語」「直接目的語」「副詞句」

Er エア pron 彼は

「主語」

wollte ...schreiben ヴォルテ...シュライベン 3 単過・願望(wollen+不定詞 schreiben)

v.t 書きたかった

「動詞句」

ihr イア pron.3 格 女に

「間接目的語」

einen Brief アイン・ブリーフ n.m 手紙を

「直接目的語」

«mit ミット prep (3 格と) (内容) ~を含んだ

「副詞句」

Fußritten フーストリッテン pl(Fußtritt).n.m 足蹴にする言葉

「目的語」

und ウント conj. そして

gleichzeitig グライヒツァイトイヒ adv. 同時に

「副詞」

allerhand, アラーハント adj. 様々な

「形容詞」

um ...zu bewegen». ウム...ツー・ベグェーゲン um zu 不定句・目的

adv. 心を動かすための

「副詞句」

sie ジー pron 女に

「間接目的語」

zur Reue ツーア・ロイ n.f 後悔を

「直接目的語」

ERSTER TEIL 第1部

そのあとで女が彼のところへ戻ってきたら、彼は女と一緒に寝て、まさにその時になった
ら女の顔に唾を吐きかけて、外にたたき出してやるつもりだ。

Und wenn sie dann zu ihm zurückkehrte, würde er mit ihr ins Bett gehen, und «wenn es
soweit ist» - genau dann würde er ihr ins Gesicht spucken und sie rausschmeißen.

Und 「副詞節」, 「動詞句」 「主語」 「副詞句」,

und 「副詞句」 「動詞句」 「主語」 「間接目的語」 und 「目的語」 「動詞句」

Und ウント conj. そして

wenn ウェン conj. (仮定) ～したら 「副詞節」

sie ジー pron.f 女が 「主語」

dann ダン adv. その後 「副詞」

zu ihm ツー・イム adv. 彼のところへ 「副詞句」

zurückkehrte, ツリュック・ケアルテ 3 単過(zurück|kehren)v.i 戻ってきた 「動詞句」

würde ...gehen, ウェルテ ...ゲーエン 接 II・3 単現・意思・仮定の帰結(werden+不定詞 gehen)

v.i(ins に) 入る 「動詞句」

er エア pron 彼は 「主語」

mit ihr ミット・イーア adv. 女と一緒に 「副詞句」

ins Bett インス・ベット adv. ベッドに 「副詞句」

und ウント conj. そして

«wenn es soweit ist» ウェン・エス・ゾヴァイト・イスト adv. 時が来たら 「副詞節」

- genau dann ゲナウ・ダン adv. まさにその時に 「副詞句」

würde ...spucken, ウェルテ ...シュプツケン 接 II・3 単現・意思・仮定の帰結

(werden+不定詞 spucken)v.i 唾を吐いてやる 「動詞句」

er エア pron 彼は 「主語」

ihr イーア pron 女の 「間接目的語」

ins Gesicht インス・ゲジヒト adv. 顔に 「間接目的語」

und ウント conj. そして

sie ジー pron 女を 「目的語」

rausschmeißen. ラウスシュマイト 接 II・3 単現・意思・仮定の帰結

(werden+不定詞 rausschmeißen)v.t 外に投げ出してやる 「動詞句」

そうすれば、女にとっては相当な罰になるだろうと僕も思った。

Ich war auch der Meinung, daß das eine gute Strafe für sie wäre.

「主語」 「動詞」 「補語」

Ich イヒ pron 僕は 「主語」

war ウァール 1 単過(sein)v.i ～ だった 「動詞」

auch アウ adv. ～も 「副詞」

ERSTER TEIL 第1部

der Meinung, デア・マイヌグ n.f.2 格 意見の	「補語」
daß ダス conj. (同格) ～という	「形容詞節」
das ダス pron それは	「主語」
eine gute Strafe アイ・グーテ・シュトラフェ n.f.1 格 かなりの罰、苦痛	「補語」
für sie フェア・ジー adv. 女にとって	「間接目的語」
wäre. ヴェレ 接 II・3 単現(sein)v.i ～ になるだろう	「動詞」

しかしレーモンが言うには、自分では肝心なその手紙を書けない。そこで頭に浮かんだのが、僕なら手紙を書けるだろうということだった。

Aber Raymond meinte, er traue sich den nötigen Brief nicht zu und habe sich gedacht, daß ich ihn aufsetzen könnte.

Aber 「主語」「動詞」, 「主語」「動詞句」「目的語」「動詞句」 und 「動詞句」「目的語」	
Aber アベール conj. しかし	
Raymond レーモン n.m レーモンが	「主語」
meinte, マインテ 3 単過(meinen)v.t 言った	「動詞」
er エア pron 彼は	「主語」
traue sich ...nicht zu トラウエ・スィヒ...ニヒト・ツァ 接・3 単現・否定(sich-3 zu trauen)	
v.pr(et-4) (自分に) 何-4 ができると思わない	「動詞句」
den nötigen Brief デン・ネチゲン・ブリーフ n.m.4 格 肝心なその手紙を	「目的語」
nötig ネティヒ adj. 必要な、肝心な、なくてはならない	
und ウント conj. そして	
habe sich gedacht, ハーベ・スィヒ・ゲダハト 3 単現・完了形(sich-3 et-4 denken)	
v.pr 何-4 を心に思い浮かべた	「動詞句」
daß ダス conj. 何ということ	「目的語」
ich イヒ pron 僕は	「主語」
ihn イン pron.4 格 彼に	「目的語」
aufsetzen könnte. アウフ・ゼッツェン・ケンテ 接 II・3 単現・可能・推量(können+不定詞)	
v.t 文書にすることができるだろう	「動詞句」

ERSTER TEIL 第1部

そこで何も言わないでいると、彼は、今すぐ手紙を書いてもらうのは迷惑だろうかと僕に尋ねたので、迷惑ではないと答えた。

Da ich nichts sagte, fragte er, ob es mir lästig wäre, jetzt gleich den Brief aufzusetzen, und ich antwortete «nein».

「副詞」「主語」「目的語」「動詞」,

「動詞」「主語」「目的語」,und「主語」「動詞」「応答」

Da ダー adv. そこで

「副詞」

ich イッヒ pron 僕は

「主語」

nichts ニヒツ pron 何も～ない

「目的語」

sagte, サークテ 1 単過(sagen)v.t 言った

「動詞」

fragte フラークテ 3 単過(fragen)v.t 尋ねた

「動詞」

er, エア pron 彼は

「主語」

ob オップ conj. ～かどうかということ

「目的語」

es エス pron それは (zu 不定句の先出し)

「主語」

mir ミア pron.3 格 僕にとって

「間接目的語」

lästig レスティヒ adj. 迷惑な

「補語」

wäre, ヴェーレ 接 II・3 単現・推量(sein)v.i ～ だろう

「動詞」

zu 不定句 n. ～するということは

「主語」

jetzt gleich イェツト・グラヒヒ adv. 今すぐ

「副詞句」

den Brief デン・ブリーフ n.m.4 格 その手紙を

「目的語」

aufzusetzen, アウフ・ツェ・ゼッツェン zu 不定詞(auf|setzen)

v.t 文書にする

「動詞句」

und ウント conj. そして

ich イッヒ pron 僕は

「主語」

antwortete アントワ・ォアテ 1 単過(antworten)v.t(et-4 と) 答えた

「動詞」

«nein». ナイン adv. 迷惑ではない

「応答」

彼はワインをもう一杯飲んでから、立ち上がった。

Er trank noch ein Glas Wein und stand dann auf.

「主語」「動詞」「目的語」und「動詞句」「副詞」「動詞句」

Er エア pron 彼は

「主語」

trank トランク 3 単過(trinken)v.t 飲んだ

「動詞」

noch ノッホ adv. さらに

「副詞」

ein Glas Wein アイン・グラス・ヴァイン n.m.4 格 ワインを 1 杯

「目的語」

und ウント conj. そして

stand ...auf. シュタント...アウフ 3 単過(auf|stehen)v.i 立ち上がった

「動詞句」

dann ダン adv. それから、そのあと

「副詞」

ERSTER TEIL 第1部

彼は皿に残っていたわずかな冷えた腸詰をテーブルの脇へ押しやった。

Er schob die Teller beiseite und das bißchen kalte Blutwurst, das wir übriggelassen hatten. 「主語」「動詞」「目的語」「副詞」 und 「目的語」

Er エア pron 彼は 「主語」

schob ショプ 3 単過(schieben)v.t 押して動かした 「動詞」

die Teller ティー・テラー n.m.4 格 皿を 「目的語」

beiseite バイザイ adv. 脇へ 「副詞」

und ウント conj. そして

das bißchen kalte Blutwurst, ダス・ビッスヒェン・カルテ・ブルットブルスト

n.n.4 格 わずかの冷えた腸詰を 「目的語」

das bißchen... ダス・ビッスヒェン n.n. わずかな〜 bißchen は形容詞的→名詞化

das ダス pron (目的語) 〜する 「形容詞節」

wir ウィア pron.pl 僕たちが 「主語」

übriggelassen hatten. ユーフ・リヒ・ゲ・ラッセン・ハッテ 1 複過・完了形(übrig | lassen)

v.t 残していた 「動詞句」

übrig ユーフ・リヒ adj. 残りの → übrig lassen (übriglassen) v.t を残す

彼は食卓の蟬引きのテーブルクロスを念入りに拭った。

Er säuberte umständlich das Wachstuch des Tisches. 「主語」「動詞」「副詞」「目的語」

Er エア pron 彼は 「主語」

säuberte ザイバエテ 3 単過(säubern)v.t きれいにした 「動詞」

umständlich ウムシュテントリヒ adv. 丁寧に、念入りに 「副詞」

das Wachstuch ダス・ワクストゥーフ n.n.4 格 蟬引きのテーブルクロス 「目的語」

des Tisches. デス・テイシェス n.m.2 格 食卓の 「形容詞句」

彼はナイトテーブルの引き出しから、方眼紙を 1 枚と黄色の封筒、小さな赤いペン軸そして紫色のインクの入った四角いインクつぼを取って来た。

Aus der Schublade seines Nachttisches holte er einen Bogen kariertes Papier, einen gelben Umschlag, einen kleinen roten Federhalter und ein viereckiges Tintenfaß mit violetter Tinte. 「副詞句」, 「動詞」「主語」「目的語」

Aus アウス prep (3 格と) (内から外へ) 〜から 「副詞句」

der Schublade デア・シュープラーテ n.f 引き出し 「目的語」

seines Nachttisches ザイネス・ナハティシェス

n.m.2 格 ナイトテーブルの 「形容詞句」

holte ホルテ 3 単過(holen)v.t 取り出した、行って取って来た 「動詞」

ERSTER TEIL 第1部

er エア pron 彼は 「主語」
 einen Bogen kariertes Papier, アイネン・ホーゲン・カリエアテス・ハピアー
 n.m.4 格 方眼紙を 1 枚 「目的語」
 einen gelben Umschlag, アイネン・ゲルペン・ウムシュラーク n.m.4 格 黄色の封筒を 「目的語」
 einen kleinen roten Federhalter アイネン・クライネン・ローテン・フェーダー・ホルター
 n.m.4 格 小さな赤いペン軸 「目的語」
 und ウント conj. そして
 ein viereckiges Tintenfaß アイン・フィーアレクティヒ・チンテンファス n.n.4 格 四角いインクつぼを 「目的語」
 mit ミット prep (3 格と) (随伴状況) ~ の入った 「副詞句」
 violetter Tinte. ヴィオレッター・チンテ n.f.3 格 紫色のインク 「目的語」

彼が女の名前を言ったとき、僕は相手がモール人だと分かった。僕は手紙を書いた。

Als er den Namen der Frau nannte, wußte ich, daß es sich um eine Maurin handelte. Ich setzte den Brief auf.

「副詞節」, 「動詞」 「主語」 「目的語」 | 「主語」 「動詞句」 「目的語」
 Als アルス conj. ~ した時 「副詞節」
 er エア pron 彼が 「主語」
 den Namen テン・ナーメン n.m(Name).4 格 名前を 「目的語」
 der Frau テア・フラウ n.f.2 格 女の 「形容詞句」
 nannte, ナンテ 3 単過(nennen)v.t 言った、呼んだ 「動詞」
 wußte ヴステ 1 単過(wissen)v.t 分かった 「動詞」
 ich, イッヒ pron 僕は 「主語」
 daß ダス conj. ~ という ことを 「目的語」
 es sich ...handelte. エス・スィッヒ...ハントェルテ 非人称・3 単過・時制の一致
 (es handeln sich-4 um et-4)v.pr ~ の事である 「動詞句」
 um eine Maurin ウム・アイネ・マウリン adv.(Maure) モール人の事 「間接目的語」
 Ich イッヒ pron 僕は 「主語」
 setzte ...auf. セッツテ...アフ 1 単過(auf|setzen)v.t 起草した、文書にした 「動詞句」
 den Brief テン・ブリーフ n.m.4 格 手紙を 「目的語」

ERSTER TEIL 第1部

僕は少し思い付きで書いたが、それでもレーモンを満足させるように努力した。僕には彼を満足させない理由はなかったから。

Ich schrieb ein bißchen aufs Geratewohl, aber ich bemühte mich, Raymond zufriedenzustellen, weil ich keinen Grund hatte, ihn nicht zufriedenzustellen.

「主語」「動詞」「副詞句」, aber 「主語」「動詞句」「副詞句」, 「副詞節」

Ich イッヒ pron 僕は

「主語」

schrieb シュリープ 1 単過(schreiben)v.t 書いた

「動詞」

ein bißchen アイン・ビッスェン adv. 幾分、少し

「副詞句」

aufs Geratewohl, アウフス・ゲラーテヴァール adv. (様態) 思い付きで

「副詞句」

→ 運を天に任せて、よく考えずに、あてずっぽうに

aber アーバー conj. しかし

ich イッヒ pron 僕は

「主語」

bemühte mich, ベミューテ・ミッヒ 1 単過(sich-4 bemühen)v.pr 努力した

「動詞句」

zu 不定句 adv. (目的) ~するように

「副詞句」

Raymond レーモン n.m レーモンを

「目的語」

zufriedenzustellen, ツフリーテン・ツァー・シュテレン zu 不定詞(zufrieden | stellen)

v.t 満足させる

「動詞句」

weil ヴァイル conj. (理由) ~なので

「副詞節」

ich イッヒ pron 僕は

「主語」

keinen ...hatte, カイネン...ハッテ 1 単過・否定(haben)v.t ~が無かった

「動詞句」

Grund グルント n.m.4 格 理由が

「目的語」

zu 不定句 adv. (目的) ~するための

「形容詞句」

ihn イン pron.4 格 彼を

「目的語」

nicht zufriedenzustellen. ニヒト・ツフリーテン・ツァー・シュテレン zu 不定詞・否定(zufrieden | stellen)

v.t 満足させない

「動詞句」

それから僕はその手紙を大きな声で呼んで聞かせた。

Dann las ich den Brief laut vor. 「副詞」「動詞句」「主語」「目的語」「副詞」「動詞句」

Dann ダン adv. それから

「副詞」

las ...vor. ラース...フォア 1 単過(vor | lesen)v.t 読んで聞かせた

「動詞句」

ich イッヒ pron 僕は

「主語」

den Brief デン・ブリーフ n.m.4 格 その手紙を

「目的語」

laut ラウト adv. 大きな声で

「副詞」

ERSTER TEIL 第1部

煙草を吸ったり、うなずいたりしながら、彼は聞いていた。最後に彼は、もう一度読んでくれと僕にせがんだ。

Rauchend und kopfschüttelnd hörte er zu, schließlich bat er mich, ihn noch einmal zu lesen.

「副詞句」, 「動詞句」 「主語」 「動詞句」,

「副詞」 「動詞」 「主語」 「間接目的語」 「直接目的語」

Rauchend ラウヘント 現在分詞・同時(rauchen)v.i 煙草を吸いながら

「副詞」

und ウント conj. そして

kopfschüttelnd コプ フシュテルント 現在分詞・同時(kopfschütteln)v.i うなずきながら

「副詞」

hörte ...zu, ヘアテ...ツァー 3 単過(zu|hören)v.i 耳を傾けていた

「動詞句」

er エア pron 彼は

「主語」

schließlich シュリースリッヒ adv. 最後に

「副詞」

bat バート 3 単過(bitten)v.t 求めた

「動詞」

er エア pron 彼は

「主語」

mich, ミッヒ pron.4 格 僕に

「間接目的語」

zu 不定句 n. ~するということを

「直接目的語」

ihn イン pron.4 格 彼に

「間接目的語」

noch einmal ノッホ・アインマル adv. もう一度

「副詞句」

zu lesen. ツァー・レーゼン zu 不定詞 v.t 読む

「動詞句」

彼は大いに満足して、言った：「もちろん俺は分かっていたさ、お前さんは世間ってものを分かっている」

Er war vollkommen zufrieden. Er sagte: «Ich wußte doch, daß du das Leben kennst.»

「主語」 「動詞」 「補語」 | 「主語」 「動詞」 : « 「主語」 「動詞」 「副詞」 , 「目的語」 »

Er エア pron 彼は

「主語」

war ヴァール 3 単過(sein)v.i ~ だった

「動詞」

vollkommen フォルクメン adv. まったく

「副詞」

zufrieden. ツフリーデテン adj. 満足した

「補語」

Er エア pron 彼は

「主語」

sagte: サークテ 3 単過(sagen)v.t 言った

「動詞」

«Ich イッヒ pron 俺は

「主語」

wußte ヴーステ 1 単過(wissen)v.t 分かっていた

「動詞」

doch, ドッホ adv. もちろん

「副詞」

daß ダス conj. ~ということを

「目的語」

du ドゥ pron 君は、お前さんは

「主語」

das Leben ダス・レーベン n.n 世間を、人生を

「目的語」

kennst.» ケンスト 2 単現(kennen)v.t 知っている

「動詞」

ERSTER TEIL 第1部

僕は最初のうちは、彼が僕に親し気な話し方をしていることにまったく気が付かなかった。

Ich merkte zuerst gar nicht, daß er mich duzte.

「主語」「動詞句」「副詞」「動詞句」, 「目的語」

Ich イッ pron 僕は

「主語」

merkte ...gar nicht, マクテ...ガール・ニヒト 1 単過・否定・強調(merken)

v.t 全く気付かなかった

「動詞句」

zuerst ツェアースト adv. 最初のうちは

「副詞」

daß ダス conj. ～ということを

「目的語」

er エア pron 彼が

「主語」

mich ミッヒ pron 僕を

「目的語」

duzte. ドゥASTE 3 単過・時制の一致(duzen)v.t (j-4 を) 親し気に呼ぶ

「動詞」

彼が僕に、「これでお前さんはまぶだちだ」と言ったとき、僕は初めてそう思った。

Erst als er mir erklärte, «nun bist du mein richtiger Freund», fiel es mir auf.

「副詞節」, 「動詞句」「主語」「目的語」

Erst als エアスト・アルス conj. ～した時に初めて

「副詞節」

er エア pron 彼が

「主語」

mir ミア pron 僕に

「間接目的語」

erklärte, エアクレアテ 3 単過(erklären)v.t 言った

「動詞」

«nun ヌン adv. 今では

「副詞」

bist ビスト 2 単現(sein)v.i ～である

「動詞」

du ドゥ pron お前さんは

「主語」

mein richtiger Freund», マイン・リヒター・フロイント n.m 本当の友人、まぶだち

「補語」

fiel ...auf. フィール...アフ 3 単過(auf|fallen)v.i 落ちてきた

「動詞句」

es エス pron それが

「主語」

mir ミア pron 僕に

「間接目的語」

まぶだち

親友をいう俗語。「まぶ」は「本当」「真実」を表し、「だち」は「ともだち」の意味。

ERSTER TEIL 第1部

彼がその言葉を繰り返すので、僕は「まあそうだ」と答えた。彼と兄弟分かどうかということは、僕にとってはどうでもよかった。しかし彼は強く希望しているように思われた。

Er wiederholte diese Worte, und ich sagte: «Ja.» Mir war es gleichgültig, ob ich sein Freund war, er aber schien großen Wert darauf zu legen.

「主語」「動詞」「目的語」,und「主語」「動詞」:《「応答」》

「間接目的語」「動詞」「補語」「主語」,「主語」aber「動詞句」「目的語」

Er エア pron 彼は 「主語」
wiederholte ヱィーダーホルテ 3 単過(wiederholen)v.t 繰り返した 「動詞」
diese Worte, ディーゼ・ウォアテ pl(Wort).n.n.4 格 その言葉を 「目的語」
Wort ウォート n.n 言葉、単語、([複]Wörter、Worte はまれ)
und ウント conj. そして
ich イヒ pron 僕は 「主語」
sagte: サークテ 1 単過(sagen)v.t 言った 「動詞」
«Ja.» ヤー adv. (肯定) はい、そうです 「応答」
Mir ミア pron.3 格 僕にとっては 「間接目的語」
war ウァール 3 単過(sein)v.i ~ だった 「動詞」
es エス pron 仮の主語 (真の主語は ob 以降)
gleichgültig, グライヒギュルティヒ adj. どうでもよい 「補語」
ob オップ conj. ~かどうかということ 「主語」
ich イヒ pron 僕が 「主語」
sein Freund サイン・フロイント n.m 彼の友達、兄弟分 「補語」
war, ウァール 1 単過・時制の一致(sein)v.i ~である 「動詞」
er エア pron 彼は 「主語」
aber アーバー conj. しかし
schien ...zu legen. シーン...ツァー・レーゲン 3 単過・思われる(+zu 不定詞 legen)
v.i 置いているように見えた 「動詞句」
großen Wert グローゼン・ウェアト n.m 大きな価値を 「目的語」
darauf ダラウフ adv. それに対して 「副詞句」

彼が手紙を封筒に収めてから、僕たちはワインを飲み干した。

Er steckte den Brief in den Umschlag, und wir tranken den Wein aus.

「主語」「動詞」「目的語」「副詞句」,und「主語」「動詞句」「目的語」「動詞句」

Er エア pron 彼は 「主語」
steckte シュテクト 3 単過(stecken)v.t 押し込んだ 「動詞」
den Brief デン・ブリーフ n.m.4 格 手紙を 「目的語」
in den Umschlag, イン・デン・ウムシュラック adv. 封筒に 「副詞句」

ERSTER TEIL 第1部

und ウント conj. そして

wir ヴァーア pron 僕たちは

「主語」

tranken ...aus. トランケン...アウス 1 複過(aus | trinken)v.t 飲み干した

「動詞句」

den Wein デン・ヴァイン n.m.4 格 ワインを

「目的語」

それから、僕たちはしばらく無言でタバコを吸っていた。外は静まり返っていた。車が 1 台通り過ぎる音が聞こえた。

Dann rauchten wir noch eine Weile, ohne etwas zu sagen. Draußen war es ganz still, wir hörten ein Auto vorbeifahren.

「副詞」「動詞」「主語」「副詞句」

「副詞」「動詞」「主語」「補語」, 「主語」「動詞」「目的語」「補語」

Dann ダン adv. それから

「副詞」

rauchten ラウヒテン 1 複過(rauchen)v.i タバコを吸った

「動詞」

wir ヴァーア pron.pl 僕たちは

「主語」

noch eine Weile, ノッホ・アイネ・ヴァイレ adv. さらにしばらく

「副詞句」

ohne etwas オーネ・エトワース adv. 何も無しに

「副詞句」

zu sagen. ツー・サーゲン zu 不定詞・目的 adj. 話すべき

「形容詞句」

Draußen ドラウセン adv. 外は

「副詞」

war ヴァール 3 単過(sein)v.i ~ だった

「動詞」

es エス pron それは、天候など

「主語」

ganz still, ガンツ・シュティル adj. 静まり返った

「補語」

wir ヴァーア pron.pl 僕たちは

「主語」

hörten ヘアテン 1 複過・知覚動詞(hören)v.t (SVO+不定詞 O が~するのが) 聞こえた「動詞」

ein Auto アイン・アウト n.n.4 格 車が 1 台

「目的語」

vorbeifahren. フォアバイ・ファーレン 不定詞・Auto の動作 v.i 通過する

「補語」

僕は言った:「もう遅い」レーモンも同じ意見だった。

Ich sagte: «Es ist spät.» Raymond war der gleichen Meinung.

「主語」「動詞」:《「主語」「動詞」「補語」》 | 「主語」「動詞」「補語」

Ich イッヒ pron 僕は

「主語」

sagte: サークテ 1 単過(sagen)v.t 言った

「動詞」

«Es エス pron 時間は

「主語」

ist イスト 3 単現(sein)v.i ~ である

「動詞」

spät. シュペー ト adj. 遅い

「補語」

Raymond レーモン n.m レーモンは

「主語」

war ヴァール 3 単過(sein)v.i ~ だった

「動詞」

ERSTER TEIL 第1部

der gleichen デア・グライェン adj(gleich).f.2 格 同じ

「形容詞句」

Meinung. マイング n.f.2 格 意見の

「補語」

彼は「時間が経つのは速い」と言った。ある意味では、その通りだ。

Er bemerkte, die Zeit vergehe schnell, und in gewisser Hinsicht stimmte das.

「主語」「動詞」, 「主語」「動詞」「副詞」, und 「副詞句」「動詞」「主語」

Er エア pron 彼は

「主語」

bemerkte, ベマクテ 3 単過(bemerken)v.t 言った

「動詞」

die Zeit デー・ツァイト n.f 時間は

「主語」

vergehe フェアゲーエ 接・3 単現(vergehen)v.i (時が) 過ぎ去る

「動詞」

schnell, シュネル adv. 速く

「副詞」

und ウント conj. そして

in gewisser Hinsicht イン・ゲウィッサー・ヒンズィスト adv. ある意味では

「副詞句」

stimmte シュティムテ 3 単過(stimmen)v.i 本当だった

「動詞」

das. ダス pron それは

「主語」

僕は眠くなって、立ち上がるのも辛かった。

Ich war müde, aber das Aufstehen fiel mir schwer.

「主語」「動詞」「補語」, aber 「主語」「動詞」「間接目的語」「補語」

Ich イッヒ pron 僕は

「主語」

war ヴァール 1 単過(sein)v.i ~ だった

「動詞」

müde, ミューデ adj. 疲れた、(疲れて) 眠い

「補語」

aber アーバー conj. しかし

das Aufstehen ダス・アウフシュテエン n.n 立ち上がることは

「主語」

fiel フィール 3 単過(fallen)v.i ~ になった

「動詞」

mir ミーア pron 僕にとって

「間接目的語」

schwer. シュヴァー adj. 苦勞の多い、つらい、困難な

「補語」

ERSTER TEIL 第1部

僕は疲れ切って見えたのだろう。レーモンが、投げやりになってはいけないと言ったからだ。

Ich muß abgespannt ausgesehen haben, denn Raymond sagte, man dürfe sich nicht gehenlassen. 「主語」「動詞句」「補語」「動詞句」, 「副詞節」

Ich イッヒ pron 僕は 「主語」

muß ...ausgesehen haben, ムス...アウス・ゲ・セーエン・ハーベン 1 単現・必然・推量

(müssen+不定詞・完了形 aus | sehen)v.i 〜のように見えたに違いない 「動詞句」

abgespannt アッパゲシュパント adj. 疲れ切った 「補語」

denn デン conj. (理由) 〜だから 「副詞節」

Raymond レーモン n.m レーモンが 「主語」

sagte, サークテ 3 単過(sagen)v.t 言った 「動詞」

man マン pron 人は〜ということを 「目的語」

dürfe sich nicht gehenlassen. チュルフェ・ス・イッヒ・ニヒト・ゲーエンラッセン 接・3 単現・禁止

(dürfen +不定詞 sich-4 gehenlassen)

v.pr 成り行きに身を任せてはだめだ 「動詞句」

→ 投げやりになるな

最初、僕にはその意味が分からなかった。

Zuerst verstand ich das nicht. 「副詞」「動詞句」「主語」「目的語」「動詞句」

Zuerst ツ・エアースト adv. 最初は 「副詞」

verstand ...nicht. フェアシュタント...ニヒト 1 単現・否定(verstehen)v.t 理解できなかった 「動詞句」

ich イッヒ pron 僕は 「主語」

das ダス pron それを 「目的語」

それから彼は説明を付け加えて、母さんが亡くなったことを聞いたが、それはいずれにせよ考慮に入れておく必要のあることだと言った。それは、僕も同じ考えだった。

Dann erklärte er, er habe von Mamas Tod gehört, aber damit hätte ich ja rechnen müssen. Das war auch meine Ansicht.

「副詞」「動詞」「主語」「目的語」 | 「主語」「動詞」「補語」

Dann ダン adv. それから 「副詞」

erklärte エアクレアテ 3 単過(erkklären)v.t 説明した 「動詞」

er, エア pron 彼は 「主語」

n. 〜ということを 「目的語」

er エア pron 彼は 「主語」

habe ...gehört, ハーベ...ゲ・ヘアト 3 単現・完了形(hören)v.t 聞いた 「動詞句」

ERSTER TEIL 第1部

von フォン prep (関連) ～について	「間接目的語」
Mamas Tod マス・トット n.m.3 格 母さんの死	「目的語」
aber アーバー conj. しかし	
damit ダミット adv. そのことについて	「副詞」
hätte ...rechnen müssen. ハッテ...レヒネ・ミュッセン 接 II・1 単現・完了形・必要(müssen+不定詞)	
v.t 考慮にいれていなければならなかった	「動詞句」
ich イヒ pron 僕は	「主語」
ja ヤー adv. もちろん	「副詞」
Das ダス pron それは	「主語」
war ヴァール 3 単過(sein)v.i ～ だった	「動詞」
auch アウフ adv. ～もまた	「副詞」
meine Ansicht. マイネ・アンズィヒト n.f 僕の意見	「補語」

僕は立ち上がった。レーモンは僕の手を強く握って言った：男同士はいつも理解し合える。

Ich stand auf, Raymond drückte mir sehr kräftig die Hand und meinte, unter Männern verstehe man sich doch immer.

「主語」「動詞句」, 「主語」「動詞」「間接目的語」「副詞句」「直接目的語」

und 「動詞」, 「副詞句」「動詞句」「主語」「動詞句」「副詞句」

Ich イヒ pron 僕は	「主語」
stand auf, シュタント...アウフ 1 単過(auf stehen)v.i 立ち上がった	「動詞句」
Raymond レーモン n.m レーモンは	「主語」
drückte ドリュックテ 3 単過(drücken)v.t 握りしめた	「動詞」
mir ミーア pron.3 格 僕の	「間接目的語」
sehr kräftig セーア・クルフティヒ adv. とても強く	「副詞句」
die Hand デーイー・ハント n.f.4.格 手を	「直接目的語」
und ウント conj. そして	
meinte, マインテ 3 単過(meinen)v.t 言った	「動詞」
unter Männern ウンター・メネン adv. 男たちの中では、男どうしでは	「副詞句」
verstehe ...sich フェアシュテエ...ズィヒ 接・3 単現(sich-4 verstehen)	
v.pr (相互的) 理解し合う	「動詞句」
man マン pron 人は	「主語」
doch immer. ドッホ・イマー adv. いつでも	「副詞句」

ERSTER TEIL 第1部

彼の部屋を出ると、僕はドアを閉めて、しばらく階段の踊り場の暗がりに立ち止まっていた。

Als ich seine Wohnung verlassen hatte, schloß ich die Tür und blieb einen Augenblick im Dunkel, auf dem Treppenabsatz, stehen.

「副詞節」, 「動詞」 「主語」 「目的語」 und 「動詞句」 「副詞句」 「動詞句」

Als アルス conj. ～した時、～して

「副詞節」

ich イヒ pron 僕が

「主語」

seine Wohnung サ イネ・ウァーヌング n.f.4 格 彼の部屋を

「目的語」

verlassen hatte, フェアラッセン・ハッテ 1 単過・完了形(verlassen)

v.t 去った、出た

「動詞句」

schloß シュロース 1 単過(schließen)v.t 閉めた

「動詞」

ich イヒ pron 僕は

「主語」

die Tür デー・イー・チュアー n.f.4 格 ドアを

「目的語」

und ウント conj. そして

blieb ...stehen. ブリープ ...シュテーエン 1 単過・継続(bleiben)v.i 立ち留まっていた

「動詞句」

einen Augenblick アイン・アウゲンブリック adv. しばらく

「副詞句」

im Dunkel, イム・ドゥンケル adv. (場所) 暗がりに

「副詞句」

auf dem Treppenabsatz, アウフ・デー・ム・トレッペンアッパツ

adv. 階段の踊り場に

「副詞句」

アパートは静まり返っており、階段室の奥から、暗く湿った香りが昇って来た。

Das Haus war still, und aus der Tiefe des Treppenhauses stieg ein dunkler, feuchter Geruch herauf.

「主語」 「動詞」 「補語」, und 「副詞句」 「動詞句」 「主語」 「動詞句」

Das Haus ダス・ハウス n.n 家、住宅、アパート

「主語」

war ヴァール 3 単過(sein)v.i ～ だった

「動詞」

still, シュティル adj. 静かな

「補語」

und ウント conj. そして

aus der Tiefe アウス・デア・ティーフェ adv. その奥から

「副詞句」

des Treppenhauses デス・トレッペンハウゼス n.n.2 格 階段室の

「形容詞句」

stieg ...herauf. シュティーク...ヘラウフ 3 単過(herauf|steigen)v.i 上がって来た

「動詞句」

ein dunkler, feuchter アイン・ドゥンクラー・フォヒター adj.m.1 格 暗くそして湿った

「形容詞句」

Geruch ゲルフ n.m 匂いが

「主語」

階段室

複数住居建物（アパート・マンション）の「階段部分 + 廊下の共有スペース全て」を指す。

ERSTER TEIL 第1部

僕には、耳の中で鳴り響く血の脈打つ音しか聞こえなかった。

Ich hörte nur das Pochen meines Blutes, das mir in den Ohren dröhnte.

「主語」「動詞」「目的語」

Ich イッヒ pron 僕は

「主語」

hörte ヘアテ 1 単過(hören)v.t 聞こえた

「動詞」

nur ノー adv. ただ〜だけ

「副詞」

das Pochen ダス・ポッヘン n.n.4 格 鼓動の音

「目的語」

pochen ポッヘン v.i (心臓が) 鼓動する → 中性名詞化 Pochen n.n 鼓動やノックの音

meines Blutes, マイネス・ブルーテス n.n.2 格 僕の血液の

「形容詞句」

das ダス pron (主語) 〜する

「形容詞節」

mir ミーア pron 僕の

「間接目的語」

in den Ohren イン・デン・オーレン adv. 耳の中で

「副詞句」

dröhnte. ドレンテ 3 単過(dröhnen)v.i 鳴り響いた

「動詞」

僕は身動きしないでいた。しかし、サラマノ老人の部屋で犬が低く唸る声が聞こえた。

Ich rührte mich nicht. Aber im Zimmer des alten Salamano winselte dumpf der Hund.

「主語」「動詞句」 | Aber 「副詞句」「動詞」「副詞」「主語」

Ich イッヒ pron 僕は

「主語」

rührte mich nicht. ルーアテ・ミッヒ・ニヒト 1 単過・否定(sich-4 rühren)

v.pr 身動きしなかった

「動詞句」

Aber アーバー conj. しかし

im Zimmer イム・ツィマー adv. 部屋の中で

「副詞句」

des alten Salamano デス・アルテン・サラマノ adj. サラマノ老人の

「形容詞句」

winselte ヲインゼルテ 3 単過(winseln)v.i (犬が) くんくん鳴いた

「動詞」

dumpf トゥンプフ adv. 低く

「副詞」

der Hund. デア・フント n.m 犬が

「主語」

ERSTER TEIL 第1部

IV

僕は一週間しっかりと働いた。

Ich habe die ganze Woche über tüchtig gearbeitet.

「主語」「動詞句」「副詞句」「動詞句」

Ich イッヒ pron 僕は

「主語」

habe ...gearbeitet. ハーベ ...ゲアルハ イット 1 単現・完了形(arbeiten)v.i 働いた

「動詞句」

die ganze Woche デーイー・ガンスェ・ウオッヘ n.f.4 格 丸々1週間

「副詞句」

über tüchtig ユーバー・チュヒティヒ adv. しっかりと、一生懸命

「副詞句」

レーモンが僕の所へやって来て、あの手紙はもう発送したと報告していった。

Raymond kam zu mir und erzählte, er habe den Brief abgeschickt.

「主語」「動詞」「副詞句」 und 「動詞」「目的語」

Raymond レーモン n.m レーモンが

「主語」

kam カム 3 単過(kommen)v.i やって来た

「動詞」

zu mir ツー・ミーア adv. (空間的) 僕の所へ

「副詞句」

und ウント conj. そして

erzählte, エアツェールテ 3 単過(erzählen)v.t 報告した

「動詞」

n. ～ということを

「目的語」

er エア pron 彼は

「主語」

habe ...abgeschickt. ハーベ ...アップ・ゲ・シクト 3 単現・完了形(ab|schicken)

v.t 発送した

「動詞句」

den Brief デン・ブリーフ n.m.4 格 あの手紙を

「目的語」

僕はエマヌエルと一緒に映画を見に行った；彼は、しばしば、スクリーンの上で何が起きているか分からなくなる。

Zweimal war ich mit Emmanuel im Kino; er versteht nicht immer, was sich auf der Leinwand abspielt.

「副詞」「動詞」「主語」「副詞句」；「主語」「動詞」「副詞句」「目的語」

Zweimal ツヴァイマル adv. 2 度

「副詞」

war ヴァール 1 単過・移動(sein)v.i 行った

「動詞」

ich イッヒ pron 僕は

「主語」

mit Emmanuel ミット・エマヌエル adv. エマヌエルと一緒に

「副詞句」

im Kino; イム・キノ adv. 映画に

「副詞句」

er エア pron 彼は

「主語」

versteht フェアシュテート 3 単現(verstehen)v.t 分かる

「動詞」

ERSTER TEIL 第1部

nicht immer, ニヒト・イマー adv. いつも～ない	「副詞句」
was ヲアス pron (主語) 何が～するかということ	「目的語」
sich ...abspielt. ズィヒト...アッピ°・シュピ°ールト 3 単現(sich-4 ab spielen)	
v.pr 起こっている	「動詞句」
auf アウフ prep ～の上で	「副詞句」
der Leinwand デア・ラインヴァント n.f.3 格 (映画の) スクリーン	「目的語」

そんな時には、そのことを彼に説明してやらなければならない。

Ich muß es ihm dann erklären.

	「主語」「動詞句」「直接目的語」「間接目的語」「副詞」「動詞句」
Ich イヒ pron 僕は	「主語」
muß ...erklären. ヌス...エクレーレン 1 単現・必要(müssen+不定詞 erklären)	
v.t 説明しなければならない	「動詞句」
es エス pron それを	「直接目的語」
ihm イム pron.3 格 彼に	「間接目的語」
dann ダン adv. (時点) その時には	「副詞」

昨日、土曜日に、約束していた通りマリーがやって来た。

Gestern, am Samstag, kam Maria, wie wir es verabredet hatten.

	「副詞句」, 「動詞」「主語」「副詞節」
Gestern, ゲスタン adv. 昨日	「副詞」
am Samstag, アム・サムスターク adv. 土曜日に	「副詞句」
kam カム 3 単過(kommen)v.i やって来た	「動詞」
Maria, マリア n.f マリーが	「主語」
wie ヲイー conj. (比較) ～するように	「副詞節」
wir ヲイーア pron.pl 僕たちは	「主語」
es エス pron それを	「目的語」
verabredet hatten. フェアアッピ° レーデット・ハッテン 1 複過・完了形(verabreden)	
v.t 約束していた	「動詞句」

ERSTER TEIL 第1部

僕は彼女を見てすごく興奮した。彼女は白と赤の縞の入ったドレスに、革のサンダルを履いていたのですごくセクシーだったからだ。

Ich war sehr scharf auf sie, weil sie ein weiß und rot gestreiftes Kleid und Ledersandalen

trug.

「主語」「動詞」「補語」, 「副詞節」

Ich イッヒ pron 僕は

「主語」

war ヴァール 1 単過(sein)v.i ~ だった

「動詞」

sehr scharf ゼーア・シャルフ adj. とてもセクシーな

「補語」

auf sie, アウフ・ジー adv. 彼女に対して

「副詞句」

weil ヴァイル conj. (理由) ~なので

「副詞節」

sie ゴー pron 彼女は

「主語」

ein weiß und rot アイン・ヴァイス・ウント・ロート

adj.n.4 格 白と赤の

「形容詞句」

gestreiftes ゲシュトライフテス adj.n.4 格 縞の入った

「形容詞」

Kleid クライト n.n.4 格 ドレスを

「目的語」

und ウント conj. そして

Ledersandalen レーダー・サンダレン

pl(Ledersandale).n.f.4 格 革のサンダルを

「目的語」

trug. トゥルク 3 単過(tragen)v.t 身に着けていた、履いていた

「動詞」

僕は彼女の引き締まった胸を想像することができた。彼女の顔は日に焼けて花盛りだった。

Man ahnte ihre straffen Brüste, und ihr Gesicht blühte vor Sonnenbräune.

「主語」「動詞」「目的語」, und 「主語」「動詞」「副詞句」

Man マン pron 僕は

「主語」

ahnte アーンテ 3 単過(ahnen)v.t 予感した、感じられた

「動詞」

ihre straffen Brüste, イレ・シュトラッフェン・ブリュステ

pl(Brust).n.f 彼女の引き締まった胸を

「目的語」

und ウント conj. そして

ihr Gesicht イーア・ゲズィヒト n.n 彼女の顔は

「主語」

blühte ブリュエ 3 単過(blühen)v.i 花盛りだった

「動詞」

vor Sonnenbräune. フォーア・ゾネンブローネ adv. (原因) 褐色に日焼けして

「副詞句」

ERSTER TEIL 第1部

僕たちはアルジェから数キロ離れた、岩に囲まれ、葦に縁どられた砂浜へバスで行った。

Wir fuhren mit dem Autobus ein paar Kilometer aus Algier hinaus, an einen Strand, der von Felsblöcken umgeben und von Schilf eingefaßt ist.

「主語」「動詞句」「副詞句」「動詞句」「間接目的語」

Wir ヴィーア pron.pl 僕たちは 「主語」
 fahren ...hinaus, フーレン...ヒナウス 1 複過(hinaus|fahren)v.i (乗り物で) 出て行った 「動詞句」
 mit dem Autobus ミット・デーム・アウトバス adv. (手段) バスで 「副詞句」
 ein paar Kilometer アイン・パール・キロメートル adv. 数キロの 「副詞句」
 aus Algier アウス・アルジェ adv. アルジェから 「副詞句」
 an einen Strand, アン・アイネン・シュトランド adv. 砂浜に、浜に 「間接目的語」
 der デア pron (Strand の代用) (主語) それは 「形容詞節」
 von Felsblöcken フォン・フェルスブロッケン
 adv. (動作主) 岩によって 「副詞句」
 umgeben ウムゲーベン 過去分詞・受動(umgeben)
 adj. 囲まれた 「補語」
 und ウント conj. そして
 von Schilf フォン・シルフ adv. (動作主) アシによって 「副詞句」
 eingefaßt アインゲファスト 過去分詞・受動(ein|fassen)
 v.t 囲まれた、縁どられた 「補語」
 ist. イスト 3 単現(sein)v.i 〜である 「動詞」

午後4時の日差しはもうさほど熱くなかったが、けだるく打ち寄せる波は生温かった。

Die Nachmittagssonne - es war vier Uhr - brannte nicht mehr zu heiß, aber das Wasser mit seiner trägen Dünung war lauwarm.

「主語」「動詞」「副詞句」, aber 「主語」「動詞」「補語」

Die Nachmittagssonne ディー・ナハミターク・ゾネ n.f 午後の日差しは 「主語」
 - es エス pron 時刻は 「主語」
 war ヴァール 3 単過(sein)v.i 〜だった 「動詞」
 vier Uhr - フィーア・ウアー n.f 4時 「補語」
 brannte ブランテ 3 単過(brennen)v.i 燃えていた 「動詞」
 nicht mehr zu heiß, ニヒト・メア・ツァー・ハイス
 adv. (否定文) もうそれほど熱くなく 「副詞句」
 aber アーバー conj. しかし
 das Wasser ダス・ヴァッサー n.n 水は 「主語」
 mit seiner trägen ミット・ザイネー・トレーゲン adv(träge). (様態) 緩慢な〜 「副詞句」
 Dünung デュンスク n.f 波のうねり 「目的語」

ERSTER TEIL 第1部

war ヲアル 3 単過(sein)v.i ~ だった 「動詞」
lauwarm. ラウナルム adj. 生温い 「補語」

マリーが僕に遊びを1つ教えてくれた。

Maria brachte mir ein Spiel bei. 「主語」「動詞句」「間接目的語」「直接目的語」「動詞句」
Maria マリア n.f マリーは 「主語」
brachte ...bei. ブラハテ...バイ 3 単過(bei | bringen)v.t 教えた 「動詞句」
mir ミーア pron 僕に 「間接目的語」
ein Spiel アイン・シュピール n.n.4 格 遊びを 「直接目的語」

泳ぎながら波の泡を口に含んで溜め込む。次に仰向けになって、泡を空に噴き上げるのだ。

Beim Schwimmen mußte man den Schaum der Wellen trinken und im Mund sammeln,
dann mußte man sich auf den Rücken legen und den Schaum in den Himmel spritzen.

「副詞句」「動詞句」「主語」「目的語」「動詞句」 und 「副詞句」「動詞句」,
「副詞」「動詞句」「主語」「動詞句」「副詞句」「動詞句」 und 「目的語」「副詞句」「動詞句」
Beim バイム prep(bei+dem) (同時) ~しながら 「副詞句」
Schwimmen シュヴァイメン n.n 泳ぎ 「目的語」
mußte ...trinken ムステ...トリンケン 3 単過・必要・時制の一致(müssen+不定詞 trinken)
v.t ~を飲まなければならない 「動詞句」
man マン pron 人は 「主語」
den Schaum デン・シャウム n.m.4 格 泡を 「目的語」
der Wellen デア・ウェレン pl(Welle).n.f 波の 「形容詞句」
und ウント conj. そして
im Mund イム・ムント adv. 口の中に 「副詞句」
sammeln, サメルン 3 単過・必要・時制の一致(müssen+不定詞 sammeln)
v.t 蓄えなければならない 「動詞句」
dann ダン adv. それから 「副詞」
mußte ...sich ...legen ムステ...ズィッヒ...レーゲン 3 単過・必要・時制の一致
(müssen+不定詞 sich-4 legen)v.pr 横にならなければならない 「動詞句」
man マン pron 人は 「主語」
auf den Rücken アウフ・デン・リュッケン adv. 仰向けに 「副詞句」
→ 背中を下にして → 仰向けに
und ウント conj. そして
den Schaum デン・シャウム n.m.4 格 泡を 「目的語」
in den Himmel イン・デン・ヒメル adv. (空間的) 空に向かって 「副詞句」
spritzen. シュプリッツェン 3 単過・必要・時制の一致(müssen+不定詞 spritzen)

ERSTER TEIL 第1部

v.t 吹き付けなければならない

「動詞句」

するとそれは柔らかな光になり、空中で霧になって消えたり、ぬるい雨になって僕の顔に降りかかってきたりする。

So entstand ein weicher Strahl, der in der Luft zerstäubte oder mir als lauer Regen ins Gesicht fiel.

So 「動詞」「主語」, 「主語」「副詞句」「動詞」

oder 「間接目的語」「副詞句」「直接目的語」「動詞」

So ザー conj. それで、すると

entstand エントシュタント 3 単過(entstehen)v.i 生じる、生まれる

「動詞」

ein weicher アイン・ヴァイチャー adj(weich).m.1 格 やわらかい

「形容詞句」

Strahl, シュトラール n.m.1 格 光が

「主語」

der デア pron.m.1 格 それは

「主語」

in der Luft イン・デア・ルフト adv. 空中で

「副詞句」

zerstäubte ツェアシュトイプテ 3 単過・時制の一致(zerstäuben)v.t 霧を吹きかける

「動詞」

oder オダー conj. または

mir ミア pron 僕の

「間接目的語」

als アルス conj. (資格) ～として

「副詞句」

lauer ラウアー adj. (比較級) ぬるい

「形容詞」

Regen レーゲン n.m 雨

「目的語」

ins Gesicht インズ・ゲズ・ィヒト adv. 顔に

「間接目的語」

fiel. フィール 3 単過・時制の一致(fallen)v.i 降って来る

「動詞」

しかししばらくすると、塩の苦みのせいで口の中全体が焼けてしまった。

Aber nach einiger Zeit war mir der Mund von der Bitterkeit des Salzes ganz verbrannt.

Aber 「副詞句」, 「動詞」「主語」「補語」

Aber アーバー conj. しかし

nach einiger Zeit ナーハ・アイガー・ツァイト adv. しばらくすると

「副詞句」

war ヴァール 3 単過・変化(sein)v.i ～になった

「動詞」

mir ミア pron 僕の

「間接目的語」

der Mund デア・ムント n.m 口が

「主語」

von der Bitterkeit フォン・デア・ビターカイト adv. (原因) 苦さのために

「副詞句」

des Salzes デス・ザルツェス n.n.2 格 塩の

「形容詞句」

ganz ガンツ adv. まったく

「副詞」

verbrannt. フェアブラント 過去分詞(verbrennen).adj. 焼けた

「補語」

ERSTER TEIL 第1部

マリーが僕の方へ近寄って来て、水中で僕に密着してきた。

Maria kam danach zu mir und schmiegte sich im Wasser an mich.

「主語」「動詞」「副詞句」und「動詞句」「副詞句」「間接目的語」

Maria マリア n.f マリーが

「主語」

kam カム 3 単過(kommen)v.i 来た

「動詞」

danach zu mir ダナハ・ツ・ミア adv. 僕の方へ

「副詞句」

und ウント conj. そして

schmiegte sich シュミーグテ・ズィヒ 3 単過(sich-4 schmiegen)v.pr 寄り添った

「動詞句」

im Wasser イム・ヴァッサー adv. 水中で

「副詞句」

an mich. アン・ミヒ adv. (対象) 僕に

「間接目的語」

マリーは自分の口を僕の口に押し当てた。

Sie preßte ihren Mund auf den meinen.

「主語」「動詞」「直接目的語」「間接目的語」

Sie シー pron マリーは

「主語」

preßte プレステ 3 単過(pressen)v.t 押し付けた

「動詞」

ihren Mund イレン・ムント n.m.4 格 彼女の口を

「直接目的語」

auf den meinen. アUF・デーン・マイネン adv. 僕の口の上に

「間接目的語」

彼女の舌が僕の唇の痺れを静めてくれた。それから少しの間、僕たちは波の中を転げ回った。

Ihre Zunge erfrischte meine Lippen, und eine Weile wälzten wir uns in den Wellen.

「主語」「動詞」「目的語」,und「副詞句」「動詞句」「主語」「動詞句」「副詞句」

Ihre Zunge イレ・ツンゲ n.f 彼女の舌が

「主語」

erfrischte エアフリシュテ 3 単過(erfrischen)v.t 元気づけた

「動詞」

meine Lippen, マイネ・リッペン pl(Lippe).n.f 僕の唇を

「目的語」

und ウント conj. そして

eine Weile アイン・ヴァイレ adv. しばらくの間、少しの間

「副詞句」

wälzten ...uns ヴェルツテン...ウス 1 複過(sich-4 wälzen)v.pr 転がった

「動詞句」

wir ヴィーア pron.pl 僕たちは

「主語」

in den Wellen. イン・デーン・ヴェレン adv.(Welle) 波の中を

「副詞句」

ERSTER TEIL 第1部

浜に戻って服を着ていると、マリーがうるんだ目で僕を見つめていた。僕は彼女にキスした。

Als wir uns am Strand wieder anzogen, sah Maria mich mit blanken Augen an. Ich küßte sie.

「副詞節」, 「動詞句」「主語」「目的語」「副詞句」「動詞句」 | 「主語」「動詞」「目的語」
 Als アルス conj. ～する時に 「副詞節」
 wir ヴァー pron.pl 僕たちが 「主語」
 uns ...anzogen, ウンス...アン・ツォーゲン 1 複過(sich-4 an|ziehen)v.pr 服を着た 「動詞句」
 am Strand wieder アム・シュトラント・ヴァーダー adv. また浜に戻って 「副詞句」
 sah ...an. サー...アン 3 単過(an|sehen)v.t 見つめていた 「動詞句」
 Maria マリア n.f マリーは 「主語」
 mich ミッヒ pron 僕を 「目的語」
 mit blanken Augen ミット・ブランケン・アウゲン adv. うるんだ目で 「副詞句」
 blank ブランク adj. 光沢のある、きらきらした
 Ich イッヒ pron 僕は 「主語」
 küßte キュステ 1 単過(küßen)v.t キスした 「動詞」
 sie. シー pron.f 彼女に 「目的語」

その時から、僕たちはもう一言も話さなかった。

Von da an sprachen wir kein Wort mehr. 「副詞句」「動詞句」「主語」「目的語」「副詞」
 Von da フォン・ダー adv. (時間・起点) その時から 「副詞句」
 an sprachen アン・シュプ ラヘン 1 複過(an|sprechen)v.t 話した 「動詞句」
 wir ヴァー pron.pl 僕たちは 「主語」
 kein Wort カイン・ヴァルト n.n.4 格 一言も～ない 「目的語」
 mehr. メー adv. もはや～ない 「副詞」

僕はマリーを抱き寄せた。それから二人で大急ぎでバス停に戻り、バスで僕の部屋に行き、ベッドに飛び込んだ。

Ich drückte sie an mich, und wir hatten es sehr eilig, einen Autobus zu erreichen, zu mir nach Hause zu fahren und uns aufs Bett zu werfen.

「主語」「動詞」「目的語」「副詞句」,
 und 「主語」「動詞句」「副詞句」「目的語」「動詞句」,
 「間接目的語」「動詞句」 und 「動詞句」「副詞句」「動詞句」
 Ich イッヒ pron 僕は 「主語」
 drückte トリュクテ 1 単過(drücken)v.t 抱きしめた 「動詞」
 sie シー pron.f 彼女を 「目的語」

ERSTER TEIL 第1部

an mich, アン・ミヒ adv. 僕のそばに	「副詞句」
und ウント conj. そして	
wir ヴィー pron.pl 僕たちは	「主語」
hatten ...zu erreichen, ハッテン...ツェ・エアライエン 1 複過(zu 不定詞+haben)v.t 到着した	「動詞句」
zu 不定詞+haben 「～しなければならない、～する事ができる」 → 「～した」	
es エス pron 非人称	
sehr eilig, セーア・アイヒ adv. 太急ぎで	「副詞句」
einen Autobus アイン・アウトブス n.m.4 格 バス停に	「目的語」
zu mir nach Hause ツー・ミーア・ナーハ・ハウゼ adv. 僕の部屋に	「間接目的語」
zu fahren ツー・ファーレン 1 複過(zu 不定詞+haben)v.t (乗り物で) 行った	「動詞句」
und ウント conj. そして	
uns ...zu werfen. ウンス...ツェ・ヴェアフェン 1 複過(zu 不定詞+haben)v.pr 飛び込んだ	「動詞句」
aufs Bett アウフ・ベット adv. ベッドに	「副詞句」

窓を開けたままにしておいた。僕たちの日に焼けた体の上に夏の夜を感じて心地よかった。

Ich hatte ein Fenster offen gelassen, und es tat gut, die Sommernacht auf unseren braunen Körpern zu spüren.

「主語」「動詞句」「目的語」「補語」「動詞句」,und 「動詞」「副詞」「主語」	
Ich イヒ pron 僕は	「主語」
hatte ... gelassen, ハッテ...オフエン・ゲ・ラッセン 1 単過・完了形・放任(lassen)	
v.t (状態) ～のままにした	「動詞句」
offen lassen オフエンラッセン v.t 決めないでおく	
ein Fenster アイン・フェンスター n.n.4 格 窓を	「目的語」
offen オフエン adj. 開いた	「補語」
und ウント conj. そして	
es エス pron 仮の主語 (真の主語は die 以降の zu 不定句)	
tat タート 3 単過(tun)v.t (仕事を) した	「動詞」
gut, ゲート adv. よい	「副詞」
die Sommernacht デー・イー・ゾマーナハト n.f 夏の夜を	「目的語」
auf unseren braunen Körpern アウフ・ウンゼレン・ブラウネン・ケルペルン	
adv. 僕たちの日に焼けた体の上に	「副詞句」
zu spüren. ツェ・シュペーレン zu 不定詞 v.t 感じることは	「主語」

ERSTER TEIL 第1部

今朝は、マリーが帰らずにいたので、一緒に朝食を食べないかと彼女に尋ねた。

An diesem Morgen blieb Maria, und ich sagte ihr, wir wollten zusammen frühstücken.

「副詞句」「動詞」「主語」,und「主語」「動詞」「間接目的語」「直接目的語」

An diesem Morgen アン・デーゼム・モアゲン adv. 今朝は

「副詞句」

blieb ブリープ 3 単過(bleiben)v.i (場所に) 留まっていた、残っていた

「動詞」

Maria, マリア n.f マリーは

「主語」

und ウント conj. そして

ich イヒ pron 僕は

「主語」

sagte サークテ 1 単過(sagen)v.t 言った

「動詞」

ihr, イア pron.f.3 格 彼女に

「間接目的語」

wir ウィア pron.pl 僕たちは～するということを

「直接目的語」

wollten zusammen frühstücken. ウォルテン・ツァーメン・フリュースチュッケン 接 II・1 複現・勧誘

(wollen+不定詞)v.i 一緒に朝食を食べないか

「動詞句」

僕は肉を買うために降りた。

Ich ging nach unten, um Fleisch zu kaufen.

「主語」「動詞」「副詞句」

Ich イヒ pron 僕は

「主語」

ging キング 1 単過(gehen)v.i 歩いて行った

「動詞」

nach unten, ナーハ・ウンテン adv. (方向) 下の方へ

「副詞句」

um Fleisch ウム・フライシュ um+zu 不定句・目的 adv. 肉を～するために

「副詞句」

zu kaufen. ツー・カウフェン zu 不定詞 v.t 買う

「動詞句」

また上に戻って来た時、レーモンの部屋で女の声が聞こえた。

Als ich wieder nach oben kam, hörte ich in Raymonds Zimmer eine Frauenstimme.

「副詞節」,「動詞」「主語」「副詞句」「目的語」

Als アルス conj. ～した時

「副詞節」

ich イヒ pron 僕が

「主語」

wieder ウィーダー adv. また

「副詞」

nach oben ナーハ・オーベン adv. (方向) 上へ

「副詞句」

kam, カム 1 単過(kommen)v.i 戻って来た

「動詞」

hörte ハアテ 1 単過(hören)v.t 聞こえた

「動詞」

ich イヒ pron 僕は

「主語」

in Raymonds Zimmer イン・レーモンズ・ツィマー adv. レーモンの部屋で

「副詞句」

eine Frauenstimme. アイン・フラーネ・シュティメ n.f 女の声が

「目的語」

ERSTER TEIL 第1部

そのすぐ後で、サラマノ老人が犬を叱った。階段の木のステップで老人の靴底と犬の足の爪がたてる物音が聞こえた。それから：

Kurz darauf schimpfte der alte Salamano seinen Hund aus, wir hörten ein Geräusch von Sohlen und Krallen auf den Holzstufen der Treppe und dann:

「副詞句」「動詞句」「主語」「目的語」「動詞句」, 「主語」「動詞」「目的語」「副詞句」
 Kurz darauf クツ・ダラウフ adv. すぐその後で 「副詞句」
 schimpfte ...aus, シンプ フテ...アウス 3 単過(aus | schimpfen)v.t 叱った 「動詞句」
 der alte Salamano デア・アルテ・サラマノ n.m サラマノ老人が 「主語」
 seinen Hund サイネン・フント n.m.4 格 犬を 「目的語」
 wir ウィア pron.pl 僕たちは 「主語」
 hörten ハアテン 1 複過(hören)v.t 聞こえた 「動詞」
 ein Geräusch アイン・ゲロイシュ n.n.4 格 物音が 「目的語」
 von フォン prep(原因・起点) ~のために、~による 「副詞句」
 Sohlen ソーレン pl(Sohle).n.f 靴底 「目的語」
 und ウント conj. そして
 Krallen クラレン pl(Kralle).n.f (獣) かぎ爪 「目的語」
 auf den Holzstufen アウフ・デーン・ホルツ・シュトカーフェン adv. 木のステップの上で 「副詞句」
 der Treppe デア・トレッペ n.f.2 格 階段の 「形容詞句」
 und ウント conj. そして
 dann: ダン adv. それから 「副詞」

「死にぞこないの畜生め！」彼らは通りへ出て行った。

«Aas! Schweinehund!» Sie gingen auf die Straße.

《「間投」》, 「主語」「動詞」「間接目的語」
 «Aas! アース n.n (腐りかけた) 死骸、死にぞこないめ 「間投」
 Schweinehund!» シュヴァイネフント n.m (軽蔑的に) 豚野郎、畜生 「間投」
 Sie ジー pron.pl 彼らは 「主語」
 gingen キンゲン 3 複過(gehen)v.i 行った 「動詞」
 auf die Straße. アウフ・デイー・シュトラーセ adv. 通りへ 「間接目的語」

ERSTER TEIL 第1部

僕がマリーに老人のことを話してやると、彼女は笑った。彼女は僕のパジャマを着て、両袖をたくし上げていた。

Ich erzählte Maria die Geschichte von dem Alten, und sie lachte. Sie trug einen Pyjama von mir und hatte die Ärmel aufgekrempt.

「主語」「動詞」「間接目的語」「直接目的語」,und「主語」「動詞」

「主語」「動詞」「目的語」und「動詞句」「目的語」「動詞句」

Ich イッヒ pron 僕は 「主語」
 erzählte エアツェールテ 1 単過(erzählen)v.t 話した、語った 「動詞」
 Maria マリア n.f マリーに 「間接目的語」
 die Geschichte デー・イー・ゲシヒテ n.f 話を 「直接目的語」
 von dem Alten, フォン・デー・ム・アルテン adv. 老人の 「副詞句」
 und ウント conj. そして
 sie ジー pron.f 彼女は 「主語」
 lachte, ラハテ 3 単過(lachen)v.i 笑った 「動詞」
 Sie ジー pron.f 彼女は 「主語」
 trug トルク 3 単過(tragen)v.t 着ていた、身に着けていた 「動詞」
 einen Pyjama アイネン・ヒッ・ジャーマ n.m.4 格 パジャマを 「目的語」
 von mir フォン・ミーア adv. 僕の 「副詞句」
 und ウント conj. そして
 hatte ...aufgekrempt. ハッテ...アウフ・ゲ・クレムプルト 3 単過・完了形(auf|krempe)n
 v.t ～をまくっていた 「動詞句」
 die Ärmel デー・イー・エアメル pl(Ärmel).n.m.4 格 両袖を 「目的語」

それでマリーが笑ったとき、僕はまた彼女を抱きたくなった。

Als sie so lachte, wurde ich wieder scharf auf sie. 「副詞節」,「動詞」「主語」「補語」

Als アルス conj. ～した時 「副詞節」

sie ジー pron.f 彼女が 「主語」

so ソー adv. それで 「副詞」

lachte, ラハテ 3 単過(lachen)v.i 笑った 「動詞」

wurde ヴェルデ 1 単過・変化(werden)v.i ～になった 「動詞」

ich イッヒ pron 僕は 「主語」

wieder ヴァーダー adv. また、再び 「副詞」

scharf シャーフ adj. 淫乱な、セクシーな 「補語」

auf sie. アウフ・ジー adv. 彼女に対して 「間接目的語」

auf j-4 scharf sein 「人-4 をしきりに欲しがっている」

ERSTER TEIL 第1部

すぐそのあとで、マリーは僕が彼女を愛しているのかと尋ねた。

Kurz darauf fragte sie, ob ich sie liebe. 「副詞句」「動詞」「主語」「目的語」
 Kurz darauf クルツ・ダラウフ adv. すぐその後 「副詞句」
 fragte フラクテ 3 単過(fragen)v.t 尋ねた 「動詞」
 sie, シー pron 彼女は 「主語」
 ob オフ conj. ～かどうかということ 「目的語」
 ich イヒ pron 僕が 「主語」
 sie シー pron 彼女を 「目的語」
 liebe. リーヘ 1 単現(lieben)v.t 愛している 「動詞」

そんな事はなんの役にも立たないが、たぶん愛していないと答えた。彼女は悲しそうだった。

Ich antwortete, das spiele keine Rolle, höchstwahrscheinlich aber nicht. Sie wurde traurig. 「主語」「動詞」, 「主語」「動詞」「目的語」,
 「副詞」 aber 「副詞」「主語」「動詞」「補語」
 Ich イヒ pron 僕は 「主語」
 antwortete, アントウテ 1 単過(antworten)v.i 答えた 「動詞」
 das ダス pron それは 「主語」
 spiele シュピレ 接・3 単現・推量(spielen)v.t 役を演じる 「動詞」
 keine Rolle, カイネ・ロレ n.f なんの役も～ない 「目的語」
 höchstwahrscheinlich ホーヒストウァールシャインリヒ adv. まず間違いなく、ほぼ 「副詞」
 aber アーバー conj. しかし
 nicht. ニヒト adv. 愛していない 「副詞」
 Sie シー pron.f 彼女は 「主語」
 wurde ウルデ 1 単過・変化(werden)v.i ～になった 「動詞」
 traurig. ト라우リヒ adj. 悲し気な 「補語」

しかし朝食の準備をしていた時に、些細なことで、マリーはまたとても楽しそうに笑った。それで、僕は彼女にキスをした。

Aber als sie das Frühstück bereitete, lachte sie über eine Kleinigkeit schon wieder so lustig, daß ich sie küßte.

Aber 「副詞節」, 「動詞」「主語」「間接目的語」「副詞句」,
 daß 「主語」「目的語」「動詞」

Aber アーバー conj. しかし
 als アルス conj. ～する時 「副詞節」
 sie シー pron.f 彼女が 「主語」

ERSTER TEIL 第1部

das Frühstück ダス・フリュッシュトゥック n.n.4 格 朝食を	「目的語」
bereitete, ベライテテ 3 単過(bereiten)v.t 準備していた	「動詞」
lachte ラハテ 3 単過(lachen)v.i 笑った	「動詞」
sie シー pron.f 彼女は	「主語」
über ユーバー prep (関連) ～に関して	「間接目的語」
eine Kleinigkeit アイン・クラインヒカイト n.f 些細な事	「目的語」
schon wieder ショーン・ワイダー adv. またしても、また	「副詞句」
so lustig, ソー・ルスティヒ adv. とても楽しそうに	「副詞句」
daß ダス conj. (結果) それで、その結果	
ich イヒ pron 僕は	「主語」
sie シー pron.f 彼女に	「目的語」
küßte. キュステ 1 単過(küßen)v.t キスした	「動詞」

その時とつぜん、レーモンの部屋で騒動が起こった。

In dem Augenblick ging in Raymonds Zimmer der Krach los.

	「副詞句」「動詞句」「副詞句」「主語」「動詞句」
In dem Augenblick イン・デーム・アウゲンブリック adv. その瞬間	「副詞句」
ging ...los. キング ...ロス 3 単過(los gehen)v.i (騒ぎが) 起こった	「動詞句」
in Raymonds Zimmer イン・レーモンズ・ツィマー adv. レーモンの部屋で	「副詞句」
der Krach デア・クラッハ n.m 騒動が、喧嘩が	「主語」

最初に、女の甲高い声が聞こえて、その次に、レーモンがその声に向かって言った：

Zuerst hörte man eine schrille Frauenstimme und dann Raymond, der sagte:

	「副詞」「動詞」「主語」「目的語」 und 「副詞」「主語」「間接目的語」「動詞」
Zuerst ツェーアスト adv. 最初に	「副詞」
hörte ホアテ 3 単過(hören)v.t 聞こえた	「動詞」
man マン pron 人は	「主語」
eine schrille アイン・シュリレ adj(schrill).f.4 格 かん高い	「形容詞句」
Frauenstimme フラウエン・シュティメ n.f.4 格 女の声が	「目的語」
und ウント conj. そして	
dann ダン adv. (順序) その次に	「副詞」
Raymond, レーモン n. レーモンが	「主語」
der デア pron.3 格 (Frauenstimme) その声に向かって	「間接目的語」
sagte: サークテ 3 単過(sagen)v.t 言った	「動詞」

ERSTER TEIL 第1部

「お前は俺をだました！騙しやがって！俺を騙したらどうなるか、お前に教えてやる！」

«Du hast mich betrogen! Betrogen hast du mich! Ich will dir zeigen, was das heißt: mich betrügen!»

《「主語」「動詞句」「目的語」「動詞句」 | 「動詞句」「主語」「目的語」

「主語」「動詞句」「間接目的語」「直接目的語」》

«Du トゥ pron お前は 「主語」
hast ...betrogen! ハスト...ベトロゲン 2 単現・完了形(betrügen)v.t 騙した 「動詞句」
mich ミッヒ pron.4 格 俺を 「目的語」
Betrogen hast ベトロゲン・ハスト 2 単現・完了形(betrügen)v.t 騙した 「動詞句」
du トゥ pron お前は 「主語」
mich! ミッヒ pron.4 格 俺を 「目的語」
Ich イッヒ pron 俺は 「主語」
will ...zeigen, ヴィル...ツァイゲン 1 単現・意思(wollen+不定詞)v.t 教えてやる 「動詞句」
dir ディア pron.3 格 お前に 「間接目的語」
was ヴァス pron どんなことかを 「直接目的語」
das ダス pron 仮の主語（真の主語は mich betrügen）
heißt – ハイスト 3 単現(heißen)v.i (～という) ことである 「動詞」
mich betrügen! ミッヒ・ベトリュゲン 不定詞 n. 俺をだますことが 「主語」

それから鈍い打撃音が何度か聞こえて、女が叫んだ。しかしそれが余りにも激しかったので、階段の踊り場はすぐに人だかりができた。

Dann ein paar dumpfe Schläge, und die Frau heulte, aber so furchtbar, daß der Treppenabsatz gleich voller Leute war.

「副詞」「主語」,und「主語」「動詞」,aber「補語」,daß「主語」「補語」「動詞」

Dann ダン adv. それから 「副詞」
ein paar dumpfe アイン・パール・トンプフェ adj.pl いくつかの鈍い 「形容詞句」
Schläge, シュレーゲ pl(Schlag).n.m 打撃 「主語」
und
die Frau ディー・フラウ n.f 女が 「主語」
heulte, ホイルテ 3 単過(heulen)v.i 叫んだ 「動詞」
aber アーバー conj. しかし
so furchtbar, ソー・フルヒトバル adj. (原因) 余りに激しかった 「補語」
daß ダス conj. (so...daß) (あまりに～なので) その結果～する
der Treppenabsatz デア・トレペン・アツプ・ザッツ n.m 階段の踊り場は 「主語」
gleich グライヒ adv. すぐに、いきなり 「副詞」
voller Leute フォラー・ロイテ adj. 人々で一ぱいの 「補語」
war. ヴァール 3 単過・変化(sein)v.i ～になった 「動詞」

ERSTER TEIL 第1部

マリーと僕も外へ出てみた。

Maria und ich gingen auch hinaus. 「主語」「動詞句」「副詞」「動詞句」
 Maria und ich マリア・ウント・イッヒ pl.n マリーと僕は 「主語」
 gingen ...hinaus. ギンゲン...ヒウス 1 複過(hinaus | gehen)v.i 外へ出た 「動詞句」
 auch アウ adv. へも 「副詞」

女はまだ叫び続けており、レーモンはその女を殴り続けていた。

Die Frau schrie immer noch, und Raymond schlug immer noch auf sie ein.
 「主語」「動詞」「副詞句」,und 「主語」「動詞句」「副詞句」「間接目的語」「動詞句」
 Die Frau デー・イー・フラウ n.f 女は 「主語」
 schrie シュー 3 単過(schreien)v.i 叫んでいた 「動詞」
 immer noch, イマー・ノッホ adv. 相変わらず、まだ 「副詞句」
 und ウント conj. そして
 Raymond レーモン n.m レーモンは 「主語」
 schlug ...ein. シュルク...アイン 3 単過(ein | schlagen)v.i(auf j-4 を) さんざん殴っていた 「動詞句」
 immer noch イマー・ノッホ adv. まだ 「副詞句」
 auf sie アウフ・ジー adv. 女を 「間接目的語」

マリーはひどいと言ったが、僕は何も答えなかった。

Maria meinte, das sei ja fürchterlich, und ich gab keine Antwort.
 「主語」「動詞」「目的語」,und 「主語」「動詞」「目的語」
 Maria マリア n.f マリーは 「主語」
 meinte, マインテ 3 単過(meinen)v.t 言った 「動詞」
 das ダス pron それは～ということを 「目的語」
 sei サイ 接・3 単現・感想(sein)v.i ～だろう 「動詞」
 ja ヤー adv. 本当に 「副詞」
 fürchterlich, フュルヒターリヒ adj. ぞっとする 「補語」
 und ウント conj. そして
 ich イッヒ pron 僕は 「主語」
 gab ガーフ 1 単過(geben)v.t (相手に) 答えた 「動詞」
 keine Antwort. カイネ・アントゥアト n.f なんの答えも～ない 「目的語」

ERSTER TEIL 第1部

彼女は僕に警官を呼んで欲しいと言ったが、僕は警官が嫌いだと答えた。

Sie bat mich, einen Schutzmann zu holen, aber ich sagte ihr, daß ich Schutzleute nicht ausstehen könne.

「主語」「動詞」「間接目的語」「直接目的語」,

aber 「主語」「動詞」「間接目的語」「直接目的語」

Sie ジー pron.f 彼女は

「主語」

bat バート 3 単過(bitten)v.t(j-4 人-4 に) 求めた

「動詞」

mich, ミッヒ pron.4 格 僕に

「間接目的語」

zu 不定句 n. ～ということを

「直接目的語」

einen Schutzmann アイネン・シュッツマン n.m 警官を

「目的語」

zu holen, ツー・ホルン zu 不定詞 v.t 呼び寄せる

「動詞句」

aber アーバー conj. しかし

ich イッヒ pron 僕は

「主語」

sagte サークテ 1 単過(sagen)v.t 言った

「動詞」

ihr, イーア pron.f.3 格 彼女に

「間接目的語」

daß ダス conj. ～ということを

「直接目的語」

ich イッヒ pron 僕は

「主語」

Schutzleute シュッツロイテ n.m 警官が

「目的語」

nicht ausstehen könne. ニヒト・アウスステーエン・クンネ 接・1 単現・否定(können+不定詞 aus|stehen)

v.t 我慢できない

「動詞句」

j-4 nicht ausstehen könne 「人-4 をどうしても好きになれない」

しかしそれでもしばらくして警官が一人、3 階に住む配管工の住人と一緒にやって来た。

Dann kam aber doch einer mit dem Mieter aus dem zweiten Stock, einem Bleigießer.

「副詞」「動詞」 aber 「副詞」「主語」「副詞句」

Dann ダン adv. それから、その後

「副詞」

kam カム 3 単過(kommen)v.i やって来た

「動詞」

aber アーバー conj. しかし

doch ドッホ adv. それでも

「副詞」

einer アイアー pron 警官が一人

「主語」

mit dem Mieter ミット・デーム・ミター adv. 借家人と一緒に

「副詞句」

aus dem zweiten Stock, アウス・デーム・ツヴァイトェン・シュトック adv. 3 階に住む

「副詞句」

einem Bleigießer. アイネム・ブライギーサー n.m.3 格 (同格) 配管工

「目的語」

Blei ブライ n.n 鉛 Gießer ギーサー n.m 鋳物工 → 鉛製水道管の工事をする技術者

ERSTER TEIL 第1部

警官がドアを叩いたが、もう部屋の人声は聞こえなかった。

Er klopfte an die Tür, und man hörte nichts mehr.

「主語」「動詞」「間接目的語」,und「主語」「動詞」「目的語」

Er エア pron 警官は

「主語」

klopfte クロップ フテ 3 単過(klopfen)v.i (ドアを) ノックした、叩いた

「動詞」

an die Tür, アン・デー・イー・チュア adv. (接触) ドアを

「間接目的語」

und ウント conj. そして

man マン pron 人の声は

「主語」

hörte ハアテ 3 単過(hören)v.t 聞こえた

「動詞」

nichts mehr. ニヒツ・メア pron もうなにも～ない

「目的語」

警官がさらに強くドアを叩くと、少ししてまた女が泣き出し、レーモンがドアを開けた。

Er klopfte stärker, und kurz darauf weinte die Frau wieder, und Raymond öffnete.

「主語」「動詞」「副詞」,und「副詞句」「動詞」「主語」「副詞」,und「主語」「動詞」

Er エア pron 警官は

「主語」

klopfte クロップ フテ 3 単過(klopfen)v.i (ドアを) ノックした、叩いた

「動詞」

stärker, シュテアカー adv. (比較級) さらに強く

「副詞」

und ウント conj. そして

kurz darauf クルツ・ダラフ adv. すぐ後で、少しして

「副詞句」

weinte ウェインテ 3 単過(weinen)v.i 泣いた

「動詞」

die Frau デー・イー・フラウ n.f 女が

「主語」

wieder, ウェーダー adv. また

「副詞」

und ウント conj. そして

Raymond レーモン n.m レーモンが

「主語」

öffnete. エフネテ 3 単過(öffnen)v.t 開けた

「動詞」

彼はくわえタバコで、大げさに愛嬌を振りまいていた。

Er hatte eine Zigarette im Mund und machte ein übertrieben freundliches Gesicht.

「主語」「動詞」「目的語」「副詞句」 und 「動詞」「目的語」

Er エア pron 彼は

「主語」

hatte ハッテ 3 単過(haben)v.t ～があった

「動詞」

eine Zigarette アイネ・ツィガレッテ n.f 紙巻きタバコ

「目的語」

im Mund イム・ムント adv. (空間的) 口に

「副詞句」

und ウント conj. そして

machte マハテ 3 単過(machen)v.t (+動作名詞 を) していた

「動詞」

ein übertrieben freundliches アイン・ユーバートリーベン・フロイントリッシェス

ERSTER TEIL 第1部

adj. 過度に愛想のよい

「形容詞句」

übertrieben ユーバー・トリーベン過去分詞(übertreiben) adj. 過度の、adv. 過度に

freundliches フロイントリッシェス adj(freuntlich).n.4 格 愛想のよい

Gesicht. ゲズィヒト n.n.4 格 顔つき、表情

「目的語」

愛嬌を振りまく

周囲の人みんなに、明るくにこやかな態度をとること

愛想を振りまく

「愛嬌を振りまく」の誤用。無理をして、こびてなどといった趣が感じられるので要注意。

女がドアまで走り寄って来て、警官にレーモンが殴ったと告げた。

Das Mädchen stürzte zur Tür und sagte dem Schutzmann, Raymond habe es geschlagen.

「主語」「動詞」「間接目的語」 und 「動詞」「間接目的語」「直接目的語」

Das Mädchen ダス・メートヒェン n.n 女は

「主語」

stürzte シュトルツテ 3 単過(stürzen)v.i 突進した

「動詞」

zur Tür ツーア・チュア adv. (空間的) ドアに

「間接目的語」

und ウント conj. そして

sagte サーケテ 3 単過(sagen)v.t 言った

「動詞」

dem Schutzmann, デーム・シュツマン adv. 警官に

「間接目的語」

Raymond レーモント n.m レーモンが～するということを

「直接目的語」

habe ...geschlagen. ハーベ...ゲシュラーゲン 接・3 単現・完了形(schlagen)

v.t 殴った

「動詞句」

es エス pron (Mädchen の代用) 自分を

「目的語」

「名前は何？」と、警官が尋ねた。レーモンは自分の名前を名乗った。

«Wie heißt du?» fragte der Schutzmann, Raymond nannte seinen Namen.

《「副詞句」「動詞」「主語」》, 「動詞」「主語」 | 「主語」「動詞」「目的語」

«Wie ヴァー adv. どのように

「副詞句」

heißt ハイスト 2 単現・疑問文(heißen)v.i (～という) 名前であるのか?

「動詞」

du?» トゥ pron お前は

「主語」

fragte フラケテ 3 単過(fragen)v.t 尋ねた

「動詞」

der Schutzmann. デア・シュツマン n.m 警官が

「主語」

Raymond レーモン n.m レーモンが

「主語」

nannte ナンテ 3 単過(nennen)v.t (～の名を) 言った

「動詞」

seinen Namen. サイネン・ナメン n.m.4 格 自分の名前を

「目的語」

ERSTER TEIL 第1部

「私と話すときは、くわえ煙草はやめろ！」と、警官が言った。

«Nimm die Zigarette aus dem Mund, wenn du mit mir sprichst», sagte der Beamte.

《「動詞」「目的語」「副詞句」,「副詞節」》,「動詞」「主語」

«Nimm ニム 命・2 単現(nehmen)v.t ~を取れ!、取り去れ! 「動詞」

die Zigarette デー・ツィガレツェ n.f タバコを 「目的語」

aus dem Mund, アウス・デー・ムント adv. 口から adv. 「副詞句」

wenn ウェン conj. ~する時は 「副詞節」

du トゥ pron お前が 「主語」

mit mir ミット・ミーア adv. 私と 「間接目的語」

sprichst», シュプリヒスト 2 単現(sprechen)v.i 話す 「動詞」

sagte サークテ 3 単過(sagen)v.t 言った 「動詞」

der Beamte. デア・ベアムテ n.m 警官が、公務員 「主語」

レーモンは躊躇し、僕をじっと見つめ、そのまま煙草をくわえたままでいた。

Raymond zögerte, sah mich an und behielt die Zigarette im Mund.

「主語」「動詞」,「動詞句」「目的語」「動詞句」 und 「動詞」「目的語」「副詞句」

Raymond レーモン n.m レーモンは 「主語」

zögerte, ツェーゲルテ 3 単過(zögern)v.i 躊躇した、ためらった 「動詞」

sah ...an サー...アン 3 単過(an|sehen)v.t 見つめた 「動詞句」

mich ミヒ pron 僕を 「目的語」

und ウント conj. そして

behielt ベーヒールト 3 単過(behalten)v.t 持ち続けていた 「動詞」

die Zigarette デー・ツィガレツェ n.f タバコを 「目的語」

im Mund. イム・ムント adv. 口に 「副詞句」

その時突然、警官が彼に強烈な平手打ちを食らわせた。

Da gab der Schutzmann ihm unversehens eine kräftige Ohrfeige.

「副詞」「動詞」「主語」「間接目的語」「副詞」「直接目的語」

Da ダー adv. その時 「副詞」

gab ガーブ 3 単過(geben)v.t 与えた 「動詞」

der Schutzmann デア・シュッツマン n.m 警官が 「主語」

ihm イム pron.3 格 彼に 「間接目的語」

unversehens ウンフェアゼー・エンズ adv. 突然 「副詞」

eine kräftige アイン・クレフティゲ adj(kräftig).f.4 格 強烈な 「形容詞句」

Ohrfeige. オーフアイゲ n.f.4 格 (顔面への) 平手打ちを 「直接目的語」

ERSTER TEIL 第1部

煙草は数メートル先の床に落ちた。

Die Zigarette fiel ein paar Meter weiter zu Boden. 「主語」「動詞」「副詞句」
 Die Zigarette ディー・ツィガレッテ n.f タバコは 「主語」
 fiel フィール 3 単過(fallen)v.i 落ちた 「動詞」
 ein paar Meter weiter アイン・パール・メーター・ヴァイター adv. 数メートル先に 「副詞句」
 zu Boden. ツー・ボデーソン adv. (位置) 床に 「副詞句」

レーモンは急に顔色を変えたが、何も言わなかった。それからへり下った口調で吸い殻を拾い上げてよいかと尋ねた。

Raymond machte plötzlich ein ganz anderes Gesicht, sagte aber nichts mehr und fragte dann ganz bescheiden, ob er seinen Stummel aufheben dürfe.
 「主語」「動詞」「副詞」「目的語」,
 「動詞」aber「目的語」und「動詞」「副詞句」「目的語」
 Raymond レーモン n.m レーモンは 「主語」
 machte マハテ 3 単過(machen)v.t (動作を) した 「動詞」
 plötzlich プレツツヒ adv. 急に 「副詞」
 ein ganz anderes Gesicht, アイン・ガantz・アンデレス・ゲジヒト n.n 全く違う顔を 「目的語」
 sagte サークテ 3 単過(sagen)v.t 言った 「動詞」
 aber アーバー conj. しかし
 nichts mehr ニヒツ・メーア pron もう何も～ない 「目的語」
 und ウント conj. そして
 fragte フラクテ 2 単過(fragen)v.t 尋ねた 「動詞」
 dann ダン adv. それから 「副詞」
 ganz bescheiden, ガantz・ベシヤイデーソン adv. 全く控えめに 「副詞句」
 ob オップ conj. ～かどうかということ 「目的語」
 er エア pron 彼は 「主語」
 seinen Stummel サイネン・シュトゥメル n.m 彼の吸い殻を 「目的語」
 aufheben dürfe. アウフヘーベン・ドゥルフェ 接・3 単現・許可(dürfen+不定詞 aufheben)
 v.t 拾い上げてよい 「動詞句」

警官は許可して、付け加えた：「覚えておけ！次回は、警官は人形じゃないからな」

Der Schutzmann erlaubte es und fügte hinzu: «Merk dir fürs nächstemal, daß ein Schutzmann kein Popanz ist.» 「主語」「動詞」「目的語」und「動詞句」:
 《「動詞」「間接目的語」「副詞句」「直接目的語」》
 Der Schutzmann デア・シュッツマン n.m 警官は 「主語」
 erlaubte エアラウプテ 3 単過(erlauben)v.t 許可した 「動詞」

ERSTER TEIL 第1部

es エス pron それを（拾うこと）	「目的語」
und ウント conj. そして	
fügte hinzu: フェークテ・ヒンツ 3 単過(hinzu fügen)v.t 付け加えた	「動詞句」
«Merk メルク 命・2 単現(merken)v.t 覚えておけ！	「動詞」
dir ディア pron 自分のために	「間接目的語」
fürs nächstemal, フェアス・ネーヒステマル adv. 次回は	「副詞句」
daß ダス conj. ～ということ	「直接目的語」
ein Schutzmann アイン・シュッツマン n.m 警官は	「主語」
kein Popanz カイン・ポ・パンツ n.m 操り人形～でない	「補語」
ist.》 イスト 3 単現(sein)v.i ～である	「動詞」

その間、女は泣きながら繰り返し言っていた：

Währenddessen weinte das Mädchen und wiederholte:

	「副詞句」「動詞」「主語」 und 「動詞」
Währenddessen ヴァーレントデッセン adv.(= während dessen) その間	「副詞句」
weinte ヴァインテ 3 単過(weinen)v.i 泣いていた	「動詞」
das Mädchen ダス・メートヒェン n.n 女は	「主語」
und ウント conj. そして	
wiederholte: ヴァイダーホルテ 3 単過(wiederholen)v.t 繰り返していた	「動詞」

「こいつは私を殴った、こいつはひもなんだ」「お巡りさん！」と、レーモンが尋ねた。

「人のをひも呼ばわりするのは、法的に認められているんですか？」

«Er hat mich geschlagen! Er ist ein Zuhälter.» - «Herr Schutzmann», fragte Raymond,
«ist es gesetzlich erlaubt, einen Mann einen Zuhälter zu nennen?»

	《「主語」「動詞句」「目的語」「動詞句」 「主語」「動詞」「補語」》
	《「呼びかけ」》, 「動詞」「主語」, 《「動詞」「補語」「主語」》
«Er エア pron 彼は、こいつは	「主語」
hat ...geschlagen! ハット...ゲシュラーゲン 3 単現・完了形(schlagen)v.t 殴った	「動詞句」
mich ミット pron.4 格 私を	「目的語」
Er エア pron 彼は	「主語」
ist イスト 3 単現(sein)v.i ～である	「動詞」
ein Zuhälter.》 - アイン・ツヘルター n.m.1 格 (売春婦の) ひも	「補語」
«Herr Schutzmann», ヘア・シュッツマン n.m お巡りさん！	「呼びかけ」
fragte フラークテ 3 単過(fragen)v.t 尋ねた	「動詞」
Raymond, レーモン n.m レーモンは	「主語」
«ist イスト 3 単現・疑問文(sein)v.i ～ですか？	「動詞」

ERSTER TEIL 第1部

es エス pron 仮の主語（真の主語は einen Mann 以降）	
gesetzlich erlaubt, ゲゼッツリヒ・エアラウト adj. 法律上認められた	「補語」
zu 不定句 n. ～ということは	「主語」
einen Mann アイン・マン n.m.4 格 人を	「目的語」
einen Zuhälter アイン・ツヘルター n.m.4 格（売春婦の）ひも	「補語」
zu nennen? ツー・ネン zu 不定詞 v.t (j-4 et-4 人-4 を何-4) と呼ぶ	「動詞句」

しかし警官は彼に、「黙っている！」と命じた。

Aber der Schutzmann befahl ihm, «die Schnauze zu halten».

Aber 「主語」「動詞」「間接目的語」「直接目的語」

Aber アーバー conj. しかし	
der Schutzmann デア・シュッツマン n.m 警官は	「主語」
befahl ベファール 3 単過(befehlen)v.t 命じた	「動詞」
ihm, イム pron.3 格 彼に	「間接目的語」
zu 不定句 n. ～ということ、～しなさい	「直接目的語」
«die Schnauze デー・イー・シュナウゼ n.f.4 格 口を	「目的語」
zu halten». ツー・ハルテン zu 不定詞 v.t 漏らさない、阻止する	「動詞句」

レーモンは女の方を向いて言った：「だがお前、待ってろよ！俺たちはいずれまた会う」

Raymond wandte sich dem Mädchen zu und sagte: «Warte nur mein Kind, wir sprechen uns noch.»

「主語」「動詞句」「間接目的語」「動詞句」 und 「動詞」

《「呼びかけ」「主語」「動詞句」「副詞」》

Raymond レーモン n.m レーモンは	「主語」
wandte sich ...zu ヲァンテ・ス・ィッヒ...ツー 3 単過(zu wenden)	
v.pr (sich-4 j-3 人-3 の方を) 向いた	「動詞句」
dem Mädchen デーム・メートヒエン adv. 女の方を	「間接目的語」
und ウント conj. そして	
sagte: サークテ 3 単過(sagen)v.t 言った	「動詞」
«Warte ヲァルテ 命・2 単現(warten)v.i 待て！	「呼びかけ」
nur, ヌーア adv. だがしかし	「副詞」
mein Kind, マイン・キント n.n お前	「呼びかけ」
wir ヲィア pron 俺たちは	「主語」
sprechen uns シュプレヒエン・ウス 1 複現・相互(sich-4 sprechen)v.pr 会う	「動詞句」
noch. ノッホ adv. いつか、そのうち	「副詞」

ERSTER TEIL 第1部

警官は彼に余計なことは言うなと言ひ、女はすぐ帰るよう、またレーモンは警察署から出頭命令が来るまでは部屋にいるようにと指示をした。

Der Schutzmann forderte ihn wieder auf, die Schnauze zu halten, das Mädchen sollte sich nach Hause scheren, und Raymond sollte im Zimmer bleiben, bis er vom Kommissar vorgeladen würde. 「主語」「動詞句」「間接目的語」「直接目的語」, 「直接目的語」

Der Schutzmann デア・シュツマン n.m 警官は 「主語」

forderte ... auf, フォアデアテ...アウフ 3 単過(auf|fordern)v.t (j-4 人に) 要請した 「動詞句」

ihn イン pron.m.4 格 彼に 「間接目的語」

wieder ウィーダー adv. また 「副詞」

zu 不定句 ~ということ を 「直接目的語」

die Schnauze ディー・シュナウツェ n.f.4 格 (人間の) 口 「目的語」

zu halten, ツー・ハルテン zu 不定詞 v.t 止める 「動詞句」

das ダス pron ~ということ を 「直接目的語」

Mädchen メートヒェン n.n 女は 「主語」

sollte sich ...scheren, ソルテ・スィットヒ...シェレン 3 単過・妥当(sollen+不定詞 sich-4 scheren)

v.pr すぐに帰るのがよい 「動詞句」

nach Hause ナーハ・ハウス adv. 家に 「間接目的語」

und ウント conj. そして

Raymond レーモン n.m レーモンは 「主語」

sollte ...bleiben, ソルテ...ブライベン 3 単過・妥当(sollen+不定詞 bleiben)

v.i 留まるのが良い 「動詞句」

im Zimmer イン・ツィマー adv. 部屋に 「副詞句」

bis ビス conj. ~するまで 「副詞節」

er エア pron 彼が 「主語」

vom Kommissar フォム・コミサル adv. (動作主) 警察署から 「副詞句」

vorgeladen würde. フォア・ゲラーテン・ウルデ 接 II・3 単現・受動(werden+過去分詞 vor|laden)

v.t 出頭を命じられる 「動詞句」

ERSTER TEIL 第1部

レーモンは震えるほどひどく酔っぱらっていることを恥じるべきだと、警官は付け加えた。
それに対して、レーモンは釈明した：

Er fügte hinzu, Raymond solle sich schämen, so besoffen zu sein, daß er zitterte. Worauf Raymond ihm erklärte:
「主語」「動詞句」, 「主語」「動詞句」「目的語」
「副詞」「主語」「間接目的語」「動詞」

Er エア pron 彼は 「主語」
fügte hinzu, フュクテ・ヒンツァ 3 単過(hinzu | fügen)v.t 付け加えた 「動詞句」
Raymond レーモン n.m レーモンは 「主語」
solle sich schämen, ソル・ズィット・シェーモン 3 単現・義務(sollen+不定詞 sich-4 schämen)
v.pr 恥じるべきである 「動詞句」
zu 不定句 n. ～することを 「目的語」
so besoffen ザー・ベゾッフエン adj. そんなに酔っぱらった 「補語」
zu sein, ツー・ザイン zu 不定詞(sein)v.i ～である 「動詞句」
daß ダス conj. (so～, daß... ととも～で) その結果... 「副詞節」
so..., dass... 「... するくらい～だ; ととも～なので、その結果...」
Das Buch war so interessant, daß es jeder lesen wollte.
その本は誰しも読みたくなるほど面白かった。

er エア pron 彼は 「主語」
zitterte. ツィッターテ 3 単過・時制の一致(zittern)
v.i 震えている 「動詞」
Worauf ヴォラウフ adv. それに対して 「副詞」
Raymond レーモン n.m レーモンは 「主語」
ihm イム pron 彼に 「間接目的語」
erklärte: エアクレアテ 3 単過(erklären)v.t 釈明した 「動詞」

「酔っちゃあいけませんよ、お巡りさん。けれど、あんたの前では震えてしまって、何も出来なくなるんです」

«Ich bin nicht besoffen, Herr Schutzmann. Aber ich stehe vor Ihnen und zittere, dafür kann ich nichts.»

《「主語」「動詞」「補語」, 「呼びかけ」

Aber 「主語」「動詞」「副詞句」 und 「動詞」, 「副詞」「動詞」「主語」「目的語」》

«Ich イット pron 俺は 「主語」
bin ビン 1 単現(sein)v.i ～である 「動詞」
nicht besoffen, ニット・ベゾッフエン adj. 酔っていない 「補語」
Herr Schutzmann. ヘア・シュッツマン n.m お巡りさん 「呼びかけ」
Aber アーバー conj. しかし

ERSTER TEIL 第1部

ich イヒ pron 俺は	「主語」
stehe シュテエ 1 単現(stehen)v.i ~にいる	「動詞」
vor Ihnen フォア・イーネン adv. あんたの前に	「副詞句」
und ウント conj. そして	
zittere, ツィテレ 1 単現(zittern) v.i 震える	「動詞」
dafür ダフア adv. そのために	「副詞」
kann カン 1 単現・可能 v.t 出来る	「動詞」
ich イヒ pron 俺は	「主語」
nichts. ニヒツ pron 何も～ない	「目的語」

彼はドアを閉め、皆は立ち去った。僕はマリーと一緒に昼食を済ませた。しかし、マリーは食欲が無かったので、僕ひとりでほとんど全てを食べた。

Er schloß die Zimmertür, und alle gingen fort. Ich machte mit Maria das Frühstück fertig. Aber sie hatte keinen Hunger, ich habe fast alles allein gegessen.

「主語」「動詞」「目的語」, und 「主語」「動詞句」

「主語」「動詞句」「副詞句」「目的語」「動詞句」

Aber 「主語」「動詞」「目的語」, 「主語」「動詞句」「目的語」「副詞」「動詞句」

Er エア pron 彼は	「主語」
schloß シュロース 3 単過(schließen)v.t 閉じた、閉めた	「動詞」
die Zimmertür, テーイー・ツイマーチュア n.f.4 格 部屋の戸を	「目的語」
und ウント conj. そして	
alle アレ pron.pl 皆は	「主語」
gingen fort. キンゲン・フォート 3 複過(fort gehen)v.i 立ち去った	「動詞句」
Ich イヒ pron 僕は	「主語」
machte ...fertig. マヘ...フェアティヒ 1 単過(fertig machen)v.t 終えた	「動詞句」
mit Maria ミット・マリア adv. マリーと一緒に	「副詞句」
das Frühstück ダス・フリュッシュトクック n.n.4 格 朝食を、→ 昼食	「目的語」
Aber アーバー conj. しかし	
sie シー pron マリーは	「主語」
hatte ハッテ 3 単過(haben)v.t ~があった	「動詞」
keinen Hunger, カイネン・フンガー n.m.4 格 食欲が～ない	「目的語」
ich イヒ pron 僕が	「主語」
habe ...gegessen. ハーベ...ゲゲッセン 1 単現・完了形(essen)v.t 食べた	「動詞句」
fast alles ファスト・アレス pron ほとんど全部を	「目的語」
allein アライン adv. 一人で	「副詞」

ERSTER TEIL 第1部

フランス語の原文では：

マリーと僕は**昼食の支度を終えた**が、マリーは空腹ではなかったので、僕がほとんど全部食べた。

Marie et moi **avons fini de préparer le déjeuner**. Mais elle n'avait pas faim, j'ai presque tout mangé.

1時に彼女が帰ったので、僕は少し眠った。

Um ein Uhr ging sie, und ich schlief ein bißchen.

「副詞句」「動詞」「主語」,und「主語」「動詞」「副詞句」

Um ein Uhr ウム・アイン・ウアー adv. 1時に

「副詞句」

ging ギング 3 単過(gehen)v.i 帰った、立ち去った

「動詞」

sie, シー pron.f 彼女は

「主語」

und ウント conj. そして

ich イッヒ pron 僕は

「主語」

schlief シュリーフ 1 単過(schlafen)v.i 眠った

「動詞」

ein bißchen. アイン・ビッシェン adv. 少しの間

「副詞句」

3時頃に僕の部屋のドアがノックされると、レーモンが入って来た。

Gegen drei Uhr wurde an meine Tür geklopft, und Raymond trat ein.

「副詞句」「動詞句」「間接目的語」,und「主語」「動詞句」

Gegen ゲーゲン prep (時間的) ～頃に

「副詞句」

drei Uhr ドライ・ウアー n.f 3時

「目的語」

wurde ...geklopft, ウェルデ ...ゲクロフト 3 単過・受動(klopfen)v.t ノックされた

「動詞句」

an meine Tür アン・マイネ・チュアー adv. 僕の部屋のドアを

「間接目的語」

und ウント conj. そして

Raymond レーモン n.m レーモンが

「主語」

trat ein. トラート・アイン 3 単過(ein | treten)v.i 入って来た

「動詞句」

僕は横になったままだった。彼は僕のベッドの縁に腰掛けた。

Ich blieb liegen. Er setzte sich auf den Rand meines Bettes.

「主語」「動詞句」 | 「主語」「動詞句」「副詞句」

Ich イッヒ pron 僕は

「主語」

blieb liegen. ブリープ・リーゲン 1 単過・維持(bleiben+不定詞 liegen)

v.i 横になったままだった

「動詞句」

Er エア pron 彼は

「主語」

setzte sich ゼッツテ・スィッヒ 3 単過(sich-4 setzen)v.pr 腰かけた、腰を降ろした

「動詞句」

ERSTER TEIL 第1部

auf den Rand アウフ・デン・ラント adv. への縁に 「副詞句」
 meines Bettes. マイネス・ベッテス n.n.2 格 僕のベッドの 「形容詞句」

彼はしばらく何も言わなかったので、僕は彼にあの一件はどうなったのかと尋ねた。

Eine Weile sagte er nichts, und ich fragte ihn, wie seine Geschichte gegangen sei.

「副詞句」「動詞」「主語」「目的語」,und 「主語」「動詞」「間接目的語」「直接目的語」
 Eine Weile アイン・ヴァイル adv. しばらくの間 「副詞句」
 sagte サーゲ 3 単過(sagen)v.t 言った 「動詞」
 er エア pron 彼は 「主語」
 nichts, ニヒツ pron 何も～ない 「目的語」
 und ウント conj. そして
 ich イヒ pron 僕は 「主語」
 fragte フラゲ 1 単過(fragen)v.t 尋ねた 「動詞」
 ihn, イン pron.m.3 格 彼に 「間接目的語」
 wie ヴァー conj. どのようなであるかということ 「直接目的語」
 seine Geschichte サイネ・ゲシヒテ n.f 君の1件は 「主語」
 gegangen sei. ゲガンゲン・ザイ 3 単現・完了形(gehen)
 v.i (事柄が) 進行した 「動詞句」

彼は、自分が望んだとおりに出来たが、女が彼に平手打ちを食らわしたので、彼は女を相当殴ったと報告した。

Er erzählte mir, er habe getan, was er wollte, aber sie habe ihn geohrfeigt, und da habe er sie verprügelt.

「主語」「動詞」「間接目的語」「直接目的語」
 Er エア pron 彼は 「主語」
 erzählte エアツェルテ 3 単過(erzählen)v.t 報告した、語った 「動詞」
 mir, ミーア pron.3 格 僕に 「間接目的語」
 er エア pron 彼は～するということ 「直接目的語」
 habe getan, ハーベ・ゲタン 接・3 単現・完了形・間接話法(tun)
 v.t 果たした、やった 「動詞句」
 was ヴァス pron ～ということ 「直接目的語」
 er エア pron 彼が 「主語」
 wollte, ヴォルテ 3 単過(wollen)v.t 望んでいた 「動詞」
 aber アーバー conj. しかし
 sie シー pron.f 女が 「主語」
 habe ...geohrfeigt, ハーベ...ゲオーファイクト 接・3 単現・完了形(ohrfeigen)
 v.t(j-4 の) 横っ面を張った 「動詞句」

ERSTER TEIL 第1部

ihn イン pron.m.4 格 彼を	「目的語」
und ウント conj. そして	
da ダー adv. それで	「副詞」
habe ...verprügelt. ハーベ...グェアプリュェグェルト 接・3 単現・完了形(verprügeln)	
v.t さんさん殴った	「動詞句」
er エア pron 彼は	「主語」
sie ジー pron.f 女を	「目的語」

間接話法

他人の言葉を、間接に引用する話し方。引用符を使用しない。

間接話法では、原則として接続法第1式を用い、第1式が直説法と同形になるときには第2式を用います。

他の事は一応見て分かっている。

<u>Alles andere habe ich ja miterlebt.</u>	「目的語」「動詞句」「主語」「副詞」「動詞句」
Alles andere アレス・アンデレ pron.4 格 (単数中性) 他のすべてを	「目的語」
habe ...miterlebt. ハーベ...ミッターレープト 1 単現・完了形(mit erleben)	
v.t 身をもって体験した	「動詞句」
ich イヒ pron 僕は	「主語」
ja ヤー adv. 本当に、一応、まあまあ	「副詞」

僕の意見では、今では女も懲りたようだから、彼も満足できるだろうと言った。

<u>Ich sagte, meiner Meinung nach sei sie jetzt bestraft, und er könne zufrieden sein.</u>	
「主語」「動詞」, 「副詞句」, 「動詞句」「主語」「副詞」「動詞句」 und 「主語」「動詞句」「補語」「動詞句」	
Ich イヒ pron 僕は	「主語」
sagte, サークテ 1 単過(sagen)v.t 言った	「動詞」
meiner Meinung nach マイネー・マイヌング・ナハ adv. 僕の意見では	「副詞句」
= nach meiner Meinung	
sei ...bestraft, サイ...ベシュトラフト 3 単現・受動・状態(bestrafen)	
v.t 罰せられている、懲らしめられている	「動詞句」
sie ジー pron 女は	「主語」
jetzt イェツト adv. 今では	「副詞」
und ウント conj. そして	
er エア pron 彼は	「主語」
können ...sein. ケネ...ザイン 接・3 単現・可能・推量(können+不定詞)	
v.i (状態) ~でいられるだろう	「動詞句」

ERSTER TEIL 第1部

zufrieden ツフリーテン adj. 満足している

「補語」

それは彼も同じ意見だった。それからさらに付け加えた。警官が何をしようと、いずれにせよ女は殴られて思い知っただろう。

Das war auch seine Meinung, und dann meinte er noch, der Schutzmann könne machen, was er wolle, die Prügel habe sie jedenfalls weg.

「主語」「動詞」「補語」, und 「副詞」「動詞」「主語」「副詞」「目的語」

Das ダス pron それは

「主語」

war ヴァール 3 単過(sein)v.i ~ だった

「動詞」

auch アフ adv. ~も、~もまた

「副詞」

seine Meinung, サ イネ・マイヌング n.f 彼の意見

「補語」

und ウント conj. そして

dann ダン adv. それから

「副詞」

meinte マイnte 3 単過(meinen)v.t 言った

「動詞」

er エア pron 彼は

「主語」

noch, ノッホ adv. (追加) さらに

「副詞」

副詞節の挿入 (譲歩)

der Schutzmann テア・シュッツマン n.m 警官が~したとしても

「副詞節」

könne machen, ケンネ・マヘン 接・3 単現・推量(können+不定詞)

v.t するかもしれない

「動詞句」

was ヴァス pron ~するものを

「目的語」

er エア pron 彼が

「主語」

wolle, ヴォレ 接・3 単現・推量(wollen)v.t 望む

「動詞」

帰結の文

die Prügel テーイー・プリーゲル pl(Prügel).n.m.4 格 殴打を

「目的語」

habe ...weg. ハーベ...ヴェーク 接・3 単現・推量(weg|haben)

v.t 理解しているだろう

「動詞句」

sie シー pron 女は

「主語」

jedenfalls イェーテンファルス adv. いずれにせよ

「副詞句」

ERSTER TEIL 第1部

そこで彼は、警官というものはよく知っているし、彼らをどう扱えば良いかも分かっているつもりだ、と付け加えた。

Er sagte dann noch, er kenne die Schutzleute und wisse, wie man mit ihnen umzugehen habe. 「主語」「動詞」「副詞句」, 「主語」「動詞」「目的語」 und 「動詞」「目的語」
 Er エア pron 彼は 「主語」
 sagte サーケ 3 単過(sagen)v.t 言った 「動詞」
 dann noch, ダン・ノッホ adv. そこでさらに 「副詞句」
 er エア pron 彼は 「主語」
 kenne ケネ 接・3 単現(kennen)v.t 知っている 「動詞」
 die Schutzleute デー・シュツツロイテ pl.n 警官を 「目的語」
 und ウント conj. そして
 wisse, ヴァイツェ 接・3 単現(wissen)v.t 知っている 「動詞」
 wie ヴァー adv. どのように～するかということ 「目的語」
 man マン pron 人は 「主語」
 mit ihnen ミット・イーネン adv. 彼らを 「間接目的語」
 umzugehen habe. ウム・ツァー・ゲーエン・ハーベ 接・3 単現・必要(haben+zu 不定句)
 v.t 扱わなくてはならない 「動詞句」

それから彼は、警官のびんたに彼がやり返すことを期待したかと僕に尋ねた。

Dann fragte er mich, ob ich erwartet hätte, daß er dem Schutzmann die Ohrfeige heimzahlen würde. 「副詞」「動詞」「主語」「間接目的語」「直接目的語」
 Dann ダン adv. それから 「副詞」
 fragte フラーケ 3 単過(fragen)v.t(j-4 に) 尋ねた 「動詞」
 er エア pron 彼は 「主語」
 mich, ミット pron.4 格 僕に 「間接目的語」
 ob オッパ conj. ～かどうかということ 「直接目的語」
 ich イット pron 僕は 「主語」
 erwartet hätte, エアヴァアルテット・ヘッテ 接 II・1 単現・完了形(erwarten)
 v.t 期待した 「動詞句」
 daß ダス conj. ～ということ 「目的語」
 er エア pron 彼が 「主語」
 dem Schutzmann デーム・シュツツマン
 n.m.3 格 その警官に 「間接目的語」
 die Ohrfeige デー・オーファイク
 n.f.4 格 びんたを、平手打ちを 「直接目的語」
 heimzahlen würde. ハイムツァーレン・ウルテ 接 II・3 単現・推量(werden+不定詞)

ERSTER TEIL 第1部

v.t 仕返しするだろう

「動詞句」

僕は何も期待しなかったし、どっちにしても警官は嫌いだと答えた。

Ich antwortete, ich hätte nichts erwartet, im übrigen könne ich Schutzleute nicht ausstehen.

「主語」「動詞」「目的語」

Ich イッヒ pron 僕は

「主語」

antwortete, アントヴ^テォワテ 1 単過(antworten)v.t 答えた

「動詞」

n. ～ということ

「目的語」

ich イッヒ pron 僕は

「主語」

hätte ...erwartet, ヘッテ...エアウ^テアルテット 接 II・1 単現・完了形(erwarten)

v.t 期待しなかったと思う

「動詞句」

nichts ニヒツ pron 何も

「目的語」

im übrigen イム・ユーフ リゲン adv. それはそうとして

「副詞句」

können ...nicht ausstehen. ケンネ...ニヒト・アウス・シュテ-エン 接 II・1 単現・可能・否定

v.t 好きになれない、我慢できない

「動詞句」

ich イッヒ pron 僕は

「主語」

Schutzleute シュツツロイテ pl.n 警官を

「目的語」

彼は一緒に外に出ないか、と僕を誘った。

Er fragte mich, ob ich mit ihm ausgehen wolle.

「主語」「動詞」「間接目的語」「直接目的語」

Er エア pron 彼は

「主語」

fragte フラクテ 3 単過(fragen)v.t(j-4 に) 尋ねた

「動詞」

mich, ミヒ pron.4 格 僕に

「間接目的語」

ob オッフ conj. ～かどうかということ

「直接目的語」

ich イッヒ pron 僕は

「主語」

mit ihm ミット・イム adv. 彼と一緒に

「副詞句」

ausgehen wolle. アウス・ゲー-エン・ウ^レ 接・1 単現・意思(wollen+不定詞)

v.i 出かけるつもりである

「動詞句」

僕はベッドから起き上がって、髪を櫛でとかし始めた。

Ich stand auf und begann mich zu kämmen.

「主語」「動詞句」und「動詞句」

Ich イッヒ pron 僕は

「主語」

stand auf シュタント・アフ 1 単過(auf|stehen)v.i 立ち上がった

「動詞句」

und ウント conj. そして

began mich zu kämmen. ベガ^ン・ミヒ・ツ-・ケメン 1 単過・開始

ERSTER TEIL 第1部

(beginnen+zu 不定詞 sich-4 kämmen)v.t 髪を櫛でとかし始めた 「動詞句」

それから、証人として力を貸してくれないか、と僕に言った。

Dann sagte er, ich müsse ihm als Zeuge dienen. 「副詞」「動詞」「主語」「目的語」
 Dann ダン adv. それから 「副詞」
 sagte サークテ 3 単過(sagen)v.t 言った 「動詞」
 er, エア pron 彼は 「主語」
 n. ～ということを 「目的語」
 ich イヒ pron 僕は 「主語」
 müsse ...dienen. ミュッセ...デーネン 接・1 単現・必要・依頼・疑問(müssen+不定詞 dienen)
 v.i(j-3 (に) 力を貸してくれないだろうか 「動詞句」
 僕は力を貸さなければならないだろう
 ihm イム pron.3 格 彼に 「間接目的語」
 als Zeuge アルス・ツォイゲ adv. (資格) 証人として 「副詞句」

僕としてはそれはどちらでも良いが、何を証言すれば良いか分からない。

Mir war das einerlei, aber ich wußte nicht, was ich bezeugen sollte.
 「間接目的語」「動詞」「主語」「補語」, aber 「主語」「動詞句」「目的語」
 Mir ミア pron 僕としては 「間接目的語」
 war ヴァール 3 単過・時制の一致(sein)v.i ～である 「動詞」
 das ダス pron それは 「主語」
 einerlei, アイナライ adj. どちらでも良い 「補語」
 aber アーバー conj. しかし
 ich イヒ pron 僕は 「主語」
 wußte nicht, ヴーステ・ニヒト 1 単過・否定・時制の一致(wissen)v.t 知らない 「動詞句」
 was ヴァス pron 何を～するかということを 「目的語」
 ich イヒ pron 僕は 「主語」
 bezeugen, sollte. ベツォイゲン・ゾルテ 1 単過・義務・時制の一致(sollen+不定詞)
 v.t 証言すればよい 「動詞句」

ERSTER TEIL 第1部

レーモンの話では、僕はあの女が彼を馬鹿にしたと証言するだけで良いということだ。僕は証言することにした。

Nach Raymonds Ansicht brauchte ich nur zu erklären, daß das Mädchen ihn beleidigt habe. Ich war bereit, ihm das zu bezeugen.

「副詞句」「動詞句」「主語」「動詞句」「目的語」 | 「主語」「動詞句」「目的語」

Nach ナハ prep 〜によれば 「副詞句」

Raymonds Ansicht レーモンズ・アンズィクト n.f レーモンの意見、見解 「目的語」

brauchte ...nur zu erklären, ブラウフテ...ヌーア・ツァ・エクレレン 1 単過・制限・時制の一致

(brauchen nur+zu 不定詞 erklären)v. 〜を証言するだけで良い 「動詞句」

brauchen 否定+zu 不定詞 「〜するには及ばない、〜する必要がない」

ich イヒ pron 僕は 「主語」

daß ダス conj. 〜ということ を 「目的語」

das Mädchen ダス・メーデヒェン n.n あの女が 「主語」

ihn イン pron.4 格 彼を 「目的語」

beleidigt habe. ベライディクト・ハーベ 接・3 単現・完了形(beleidigen)

v.t 馬鹿にしたと思う 「動詞句」

Ich イヒ pron 僕は 「主語」

war bereit, ガァール・ベライト 1 単過・状態受動(bereiten)v.t 心構えをした 「動詞句」

ihm イム pron 彼に〜することを 「目的語」

das ダス pron それを 「目的語」

zu bezeugen. ツァ・ベツォイゲン zu 不定詞 v.t 証言する 「動詞句」

僕たちは外出した。レーモンがブランデーをおごってくれた。

Wir gingen aus, und Raymond lud mich zu einem Schnaps ein.

「主語」「動詞句」,und「主語」「動詞句」「目的語」「副詞句」「動詞句」

Wir ヴァー pron.pl 僕たちは 「主語」

gingen aus, ギンゲン・アウス 1 複過(aus | gehen)v.i 外出した 「動詞句」

und ウント conj. そして

Raymond レーモン n.m レーモンは 「主語」

lud ...ein. ルット ...イン 3 単過(ein | laden)v.t(j-4 を zu et-3 に) 招待した 「動詞句」

mich ミヒ pron 僕を 「目的語」

zu einem Schnaps ツァ・アイネム・シュナプス adv. シュナップスに 「副詞句」

Schnaps シュナプス n.m ブランデーなどアルコール度数の高い蒸留酒。アブサンはヨーロッパ各国で作られているニガヨモギ、アニス、ウイキョウなどハーブ、スパイスが主成分の薬草系リキュールで、1940 年頃は安くてアルコール度数が高い酒として愛飲されていた。

ERSTER TEIL 第1部

それから、ビリヤードを一勝負やろうということになり、もう少しの所で僕が負けた。

Dann wollte er eine Partie Billard spielen, die ich knapp verlor.

「副詞」「動詞句」「主語」「目的語」「動詞句」, 「目的語」「主語」「副詞」「動詞」

Dann ダン adv. それから

「副詞」

wollte ...spielen, ヲォルテ...シュピレン 3 単過・願望(wollen+不定詞 spielen)

v.t (ゲームを) やろうと言った

「動詞句」

er エア pron 彼は

「主語」

eine Partie Billard アイネ・パルティー・ビリヤール n.f ビリヤードを一勝負

「目的語」

die デー pron.f (Partie の代用) それを

「目的語」

ich イヒ pron 僕は

「主語」

knapp クナップ adv. ぎりぎりで

「副詞」

verlor. フェアロー 1 単過(verlieren)v.t (試合に) 負けた

「動詞」

それから彼は売春宿へ行こうと誘ったが、興味が無いので断った。

Darauf wollte er in ein Bordell, aber ich wollte nicht mit, weil mir das keinen Spaß macht.

「副詞」「動詞」「主語」「間接目的語」, aber 「主語」「動詞句」「副詞節」

Darauf ダラウフ adv. その次に

「副詞」

wollte ヲォルテ 3 単過・願望(wollen)[助] (本動詞省略) (in 中に) 入りがった

「動詞」

er エア pron 彼は

「主語」

in ein Bordell, イン・アイン・ボルテル adv. 売春宿へ

「間接目的語」

aber アーバー conj. しかし

ich イヒ pron 僕は

「主語」

wollte nicht mit, ヲォルテ・ニヒト・ミット 1 単過・否定(mit | wollen)

v.i 一緒に行こうとしなかった

「動詞句」

weil ヲァイル conj. (理由) ~なので

「副詞節」

mir ミア pron 僕にとって

「間接目的語」

das ダス pron それは

「主語」

keinen Spaß カイネン・シュハース n.m なんの楽しみも~ない

「目的語」

macht. マハ 3 単現(machen)v.t もたらさない

「動詞」

ERSTER TEIL 第1部

それから僕たちはゆっくりと家に戻って来た。彼は愛人を懲らしめることができてどんなに嬉しいか分からないとまた僕に言った。

Da gingen wir langsam nach Hause, und er sagte mir wieder, wie sehr er sich freue, seine Geliebte bestraft zu haben. 「副詞」「動詞」「主語」「副詞」「間接目的語」,und 「主語」「動詞」「間接目的語」「副詞」「直接目的語」

Da ダー adv. そこで、それから 「副詞」

gingen ギンゲン 1 複過(gehen)v.i 歩いて行った 「動詞」

wir ヴィア pron.pl 僕たちは 「主語」

langsam ラングザム adv. ゆっくりと 「副詞」

nach Hause, ナーハウス adv. (方向) 家に 「間接目的語」

und ウント conj. そして

er エア pron 彼は 「主語」

sagte サークテ 3 単過(sagen)v.t 言った 「動詞」

mir ミア pron 僕に 「間接目的語」

wieder, ヴィダー adv. また 「副詞」

wie sehr ヴィーセア adv. どれほど非常に～するかということ 「直接目的語」

er エア pron 彼は 「主語」

sich freue, スィヒ・フロエ 接・3 単現(sich-4 freuen)

v.pr 嬉しく思っているか分からない 「動詞句」

seine Geliebte サイネ・ゲリプテ n.f.4 格 愛人を～することを 「目的語」

bestraft zu haben. ベシュトラフト・ツー・ハーベン zu 不定詞・完了形(bestrafen)

v.t 罰した、懲らしめた 「動詞句」

彼は僕に対してとても優しくかったので、彼と一緒にいるのが楽しいと思った。

Er war sehr nett zu mir, und ich fand es ganz angenehm, mit ihm zusammen zu sein. 「主語」「動詞」「補語」,und 「主語」「動詞」「補語」「目的語」

Er エア pron 彼は 「主語」

war ヴァール 3 単過(sein)v.i ～だった 「動詞」

sehr nett セア・ネット adj. とても優しい 「補語」

zu mir, ツー・ミア adv. (対象) 僕に対して 「副詞句」

und ウント conj. そして

ich イヒ pron 僕は 「主語」

fand ファント 1 単過(finden)v.t 思った 「動詞」

es エス pron 仮の目的語 (真の目的語は mit ihm 以降)

ganz angenehm, ガンツ・アンゲネム adj. とても快い、楽しい 「補語」

zu 不定句 n. ～することは 「目的語」

ERSTER TEIL 第1部

mit ihm zusammen ミット・イム・ツァメン adv. 彼と一緒に 「副詞句」
zu sein. ツ・ザイン zu 不定詞 v.i いる 「動詞句」

遠くからでも、サラマノ老人がかなり興奮して玄関口に立っているのが見えた。

Schon von weitem sah ich den alten Salamano sehr aufgeregt in der Tür stehen.

「副詞句」「動詞」「主語」「目的語」「補語」
Schon ショーン adv. (強調) 〜でも 「副詞」
von weitem フォン・ヴァイテム adv. (起点) 遠くから 「副詞句」
sah ザー 1 単過・知覚動詞(sehen)v.t(SVO+不定詞 O が〜するのが) 見えた 「動詞」
ich イヒ pron 僕は 「主語」
den alten Salamano デン・アルテン・サマノ n.m.4 格 サラマノ老人を 「目的語」
sehr aufgeregt セーア・アウフゲレークト adj. とても興奮した 「形容詞句」
in der Tür イン・デア・チュア adv. (場所) 玄関口に、戸口に 「副詞句」
stehen. シュテーエン 不定詞・Salamano の動作 v.i 立っている 「補語」

僕たちがもっと近づくと、彼のそばに犬がいないことに気が付いた。

Als wir näher kamen, sah ich, daß er seinen Hund nicht bei sich hatte.

「副詞節」, 「動詞」「主語」「目的語」
Als アルス conj. 〜した時 「副詞節」
wir ウィア pron.pl 僕たちが 「主語」
näher ネアー adv. より近くに 「副詞」
kamen, カメン 1 複過(kommen)v.i 来た 「動詞」
sah ザー 1 単過(sehen)v.t 分かった 「動詞」
ich, イヒ pron 僕は 「主語」
daß ダス conj. 〜ということを 「目的語」
er エア pron 彼は 「主語」
seinen Hund サイネン・フント n.m.4 格 彼の犬が 「目的語」
nicht bei sich ニヒト・バイ・ズィヒ adv. 彼のそばに〜ない 「副詞句」
hatte. ハッテ 3 単過(haben)v.t 〜があった 「動詞」

ERSTER TEIL 第1部

彼はあちらこちらを見まわし、その場で向き直り、廊下の暗闇を透かして見て、支離滅裂な言葉を呟き、血走った小さい目で再び通りをくまなく探した。

Er blickte nach allen Seiten, drehte sich um sich selbst, versuchte, die Dunkelheit des Flures zu durchdringen, murmelte zusammenhanglose Worte und suchte wieder mit seinen kleinen roten Augen die Straße ab.

「主語」「動詞」「副詞句」, 「動詞句」「副詞句」, 「動詞句」「目的語」

und 「動詞句」「副詞句」「目的語」「動詞句」

Er エア pron 彼は 「主語」
 blickte ブリクテ 3 単過(blicken)v.t 見た、目を向けた 「動詞」
 nach ナハ prep (3 格と) (方向) への方へ 「副詞句」
 allen Seiten, アレン・ザイテン pl(Seite).n.f.3 格 あらゆる方角 「目的語」
 drehte sich ドレテ・スィヒ 3 単過(sich-4 drehen)v.pr 回転した 「動詞句」
 um sich selbst, ウム・ズィヒ・ゼルフ スト adv. 自分自身の周りを 「副詞句」
 versuchte, ...zu durchdringen, フェアス・フテ...ツァー・トゥルヒト・リンゲン 3 単過・試行
 (versuchen+zu 不定詞 durchdringen)v.t 突き抜けようとした 「動詞句」
 die Dunkelheit デー・イー・トゥンケルハイト n.f.4 格 暗闇を 「目的語」
 des Flures デス・フルス n(Flur).m.2 格 廊下の 「形容詞句」
 murmelte ムルメルテ 3 単過(murmeln)v.t 呟いた 「動詞」
 zusammenhanglose ツァ・メンハンゲ・ローゼ
 adj.pl.4 格 支離滅裂な 「形容詞」
 Worte ヴォアテ pl(Wort).n.n.4 格 言葉を 「目的語」
 und ウント conj. そして
 suchte ...ab. ス・フテ...アッパ 3 単過(ab|suchen)v.t (場所を) くまなく探した 「動詞句」
 wieder ヴァーダー adv. 再び 「副詞」
 mit seinen kleinen roten Augen ミット・ザイネン・クライネン・ローテン・アウゲン
 adv. (手段) 彼の血走った小さい目で 「副詞句」
 die Straße デー・イー・シュトラッセ n.f.4 格 通りを 「目的語」
 連続の動作が接続詞でなく「,」で区切られて、切羽詰まった動作が表現されている

レーモンが彼に一体どうしたのかと尋ねたが、サラマノはすぐに答えなかった。

Als Raymond ihn fragte, was er denn habe, antwortete er nicht gleich.

「副詞節」, 「動詞」「主語」「副詞句」

Als アルス conj. 似た時 「副詞節」
 Raymond レーモン n.m レーモンが 「主語」
 ihn イン pron.3 格 彼に 「間接目的語」
 fragte, フラクテ 3 単過(fragen)v.t 尋ねた 「動詞」

ERSTER TEIL 第1部

was ヲアス pron 何が～するかを	「直接目的語」
er エア pron 彼は	「主語」
denn デン adv. いったい	「副詞」
habe, ハーベ 接・3 単現(haben)v.t ～がある	「動詞」
antwortete アントヴ ァアテテ 3 単過(antworten)v.t 答えた	「動詞」
er エア pron 彼は	「主語」
nicht gleich. ニヒト・グラヒェ adv. すぐに～ない	「副詞句」

彼が「死にぞこないの畜生」と、不明瞭に呟くのが聞こえた。その後も、相変わらずあちらこちらへ体の向きを変えていた。

Ich hörte ihn undeutlich murmeln: «Schweinehund! Aas!» Und dann drehte er sich wieder überallhin um. 「主語」「動詞」「目的語」「補語」

Und 「副詞」「動詞句」「主語」「動詞句」「副詞句」「動詞句」

Ich イヒ pron 僕は	「主語」
hörte ハアテ 1 単過(hören)v.t(SVO+不定詞 O が～するのが) 聞こえた	「動詞」
ihn イン pron.4 格 彼が	「目的語」
undeutlich ウントイリヒ adv. 不明瞭に、曖昧に	「副詞」
murmeln: ムメルン 不定詞・ihn の動作 v.t つぶやく	「補語」
«Schweinehund! Aas!» シュヴァイネフント・アース int. 死にぞこないの畜生	「間投」
Schweinehund!» シュヴァイネフント n.m (軽蔑的に) 豚野郎、畜生	
Aas! アース n.n (腐りかけた) 死骸、死にぞこないめ	
Und ウント conj. そして	
dann ダン adv. それから	「副詞」
drehte ...sich ...um. ドレテ...ズイヒ...ウム 3 単過(sich-4 um drehen)	
v.pr 体の向きを変えた	「動詞句」
er エア pron 彼は	「主語」
wieder ヲイダー adv. 相変わらず	「副詞」
überallhin ユーバーアルヒン adv. あちらこちらへ	「副詞句」

ERSTER TEIL 第1部

犬はどこにいるのか、と僕は尋ねた。彼はぶっきらぼうに、いなくなった、と答えた。

Ich fragte ihn, wo sein Hund sei. Er antwortete brüsk, der sei fort.

「主語」「動詞」「間接目的語」「直接目的語」 | 「主語」「動詞」「副詞」「目的語」
 Ich イッヒ pron 僕は 「主語」
 fragte フラケ 1 単過(fragen)v.t(j-4 に) 尋ねた 「動詞」
 ihn, イーン pron.4 格 彼に 「間接目的語」
 wo ウォー adv. どこで～するかと 「直接目的語」
 sein Hund ザイン・フント n.m 彼の犬は 「主語」
 sei. ザイ 接・3 単現・存在(sein)v.i いる 「動詞」
 Er エア pron 彼は 「主語」
 antwortete アントヴァーテ 3 単過(antworten)v.t 答えた 「動詞」
 brüsk, ブリュスク adv. ぶっきらぼうに 「副詞」
 der デア pron.1 格 犬は～すると 「目的語」
 sei. ザイ 接・3 単現・状態(sein)v.i ～である 「動詞」
 fort. フォート adv. いなくなって 「補語」

そして突然、彼は自分から話し始めた。

Und dann kollerte es plötzlich aus ihm heraus: Und 「副詞」「動詞」「副詞句」
 Und ウント conj. そして
 dann ダン adv. それから 「副詞」
 kollerte コレアテ 非人称・3 単過(kollern)v.i (七面鳥が) ころころ鳴いた 「動詞」
 es エス pron 非人称主語
 plötzlich プレツリヒ adv. 突然 「副詞」
 aus ihm heraus: アウス・イーム・ヘラウス adv. (自分から) 進んで、自発的に 「副詞句」

「いつものように、私はあの犬と一緒に練兵場へ行きました」

«Wie sonst war ich mit ihm auf dem Champ de Manoeuvres.

《「副詞句」「動詞」「主語」「副詞句」「間接目的語」》

«Wie sonst ウィー・ゾンスト adv. いつものように 「副詞句」
 war ヴァール 1 単過・移動(sein)v.i ～へ行った 「動詞」
 ich イッヒ pron 私は 「主語」
 mit ihm ミット・イーム adv. 犬と一緒に 「副詞句」
 auf dem Champ de Manoeuvres. アウフ・デー・ム・デ・マノヴレス adv. (場所) 練兵場へ 「間接目的語」

フランス語の原文では：

「いつものように、あれを**軍事演習場**に連れて行きました」
 «Je l'ai emmené au **Champ de Manoeuvres**, comme d'habitude.

ERSTER TEIL 第1部

練兵場 れんぺいじょう

平時に、兵士に対して戦闘に必要な訓練をする場所

Exerzierplatz エクセルピ°エルプ°ラッツ n.m 練兵場

Der Truppenübungsplatz デア°トルッペ°ン°ユーベ°ンス°プ°ラッツ n.m 軍事演習場、練兵場

屋台のそばには、大勢の人がいた。

Bei den Jahrmarktsbuden waren viele Menschen.

「副詞句」「動詞」「主語」

Bei バイ prep (3格と) ~のそばに

「副詞句」

den Jahrmarktsbuden デン°ヤールマクツブ°ー°テン

pl(Jahrmarktsbude).n.f 市の屋台店

「目的語」

waren ヴァーレン 3 複過・存在(sein)v.i ~がいた

「動詞」

viele Menschen. フィーレ°メンシェン pl(Mensch).n.m.1 格 大勢の人が

「主語」

屋台 (やたい)

屋台は屋根が付いていて、移動可能で、飲食物や玩具などを売る店舗。

露店 (ろてん) は、露店は移動式とは限らず、歩道上に物を並べて販売したり、建物の 1 階の店先で物を売る店も含まれる。

私は立ち止まって、《縄抜け名人》を見ていた。

Ich blieb stehen, um mir den <König der Ausbrecher> anzusehen.

「主語」「動詞句」「目的語」「動詞句」

Ich イッヒ pron 私は

「主語」

blieb stehen, ブリープ°・シュテーエン 1 単過・継続(bleiben+不定詞)v.i 立ち止まっていた 「動詞句」

zu 不定句 adv. (目的・結果) そして~した

um mir ...anzusehen. ウム°ミーア°...アン°ツァ°セ°ー°エン zu 不定詞(um+sich-3 ansehen)

v.pr 見物する

「動詞句」

den <König der Ausbrecher> デン°ケーニッヒ°デア°アウスブ°レヒャー n.m.4 格 《縄抜け名人》「目的語」

König ケーニッヒ n.m 王、王者 Ausbrecher アウスブ°レヒャー n.m 脱走者

縄抜け名人

縁日で「縛られている者が、縄をはずして逃げる」技を見せる興行。

ERSTER TEIL 第1部

そして、私が行こうと思ったら、もういなかったんです。ずっと前から、もっと小さい首輪を買ってやろうと思っていたんですけど。

Und als ich weitergehen wollte, war er nicht mehr da. Schon immer wollte ich für ihn ein engeres Halsband kaufen.

Und 「副詞節」, 「動詞」「主語」「副詞句」

「副詞句」「動詞句」「主語」「間接目的語」「直接目的語」「動詞句」

Und ウント conj. そして

als アルス conj. ～する時

「副詞節」

ich イヒ pron 私

「主語」

weitergehen wollte, ヴァイター・ゲーエン・ヴォルテ 1 単過・意思(wollen+不定詞 weitergehen)

v.i 行こうと思った

「動詞句」

war ヴァール 3 単過・存在(sein)v.i ～にいた

「動詞」

er エア pron 犬は

「主語」

nicht mehr da. ニヒト・メア・ダー adv. もうそこに～ない

「副詞句」

Schon immer ショーン・イマー adv. ずっと

「副詞句」

wollte ...kaufen. ヴォルテ...カフエン 1 単過・意思(wollen+不定詞 kaufen)

v.t 買おうと思っていた

「動詞句」

ich イヒ pron 私は

「主語」

für フュア prep (4 格と) (利益) ～のために

「間接目的語」

ihn イン pron.4 格 犬に

「目的語」

ein engeres アイン・エンゲレス adj(eng) (比較級) .n.4 格 もっと小さい 「形容詞句」

eng エング adj. 狭い、窮屈な、親密な 比較級 enger 最高級 am engsten

Halsband ハルスパント n.n.4 格 (犬の) 首輪を

「直接目的語」

しかし、あの糞野郎がこんな風に逃げるなんて、思っていませんでした。

Aber daß sich das Miststück so davonschlich, hätte ich nicht für möglich gehalten.»

Aber 「目的語」, 「動詞句」「主語」「副詞句」「動詞句」

Aber アーバー conj. しかし

daß ダス conj. ～ということを

「目的語」

sich ...davonschlich, ダフォンシュリヒ 3 単過・時制の一致(sich-4 davon | schleichen)

v.pr そつと逃げ去る

「動詞句」

sich-4 davon | machen こっそり逃げ去る

das Miststück ダス・ミスト・シュトゥック n.n あの糞野郎が、死にぞこないが

「主語」

Mist ミスト n.m (家畜の) 糞 stück シュトゥック n.n かけら

so ザー adv. そんな風に

「副詞」

hätte ...gehalten.» ヘッテ...ゲハルテン 接 II・3 単現・完了形(halten)v.t 思った

「動詞句」

ERSTER TEIL 第1部

ich イッヒ pron 私は 「主語」
 nicht für möglich ニヒト・フューア・メーグリヒ adv. まさか起こりえないと 「副詞句」

そこでレーモンは、犬は道に迷ったのかもしれないから、そのうち戻って来るだろうとサラマノに声をかけた。

Raymond erklärte ihm dann, daß der Hund sich verirrt haben könne und schon wiederkommen würde. 「主語」「動詞」「間接目的語」「副詞」「直接目的語」
 Raymond レーモン n.m レーモンは 「主語」
 erklärte エアクレアテ 3 単過(erkennen)v.t 説明した 「動詞」
 ihm イム pron.3 格 彼に 「間接目的語」
 dann, ダン adv. そこで 「副詞」
 daß ダス conj. ～ということ 「直接目的語」
 der Hund デア・フント n.m 犬は 「主語」
 sich verirrt haben könne スィヒ・フエアイルト・ハーベン・ケンネ 接・3 単現・完了形・可能性
 (können+不定詞 sich・4 verirren・完了形)
 v.pr 道に迷ったのかもしれない 「動詞句」
 und ウント conj. そして
 schon ショーン adv. きっと、そのうち、まもなく 「副詞」
 wiederkommen würde. ウィーダー・コメン・ウルデ 接 II・3 単現・推量(werden+不定詞)
 v.i 戻って来るだろう 「動詞句」

レーモンは10キロ離れたところから歩いて主人のもとに戻って来た犬を話をしてやった。

Er erzählte ihm von Hunden, die zehn Kilometer weit gelaufen seien, um zu ihrem Herrn zurückzukehren. 「主語」「動詞」「間接目的語」
 Er エア pron レーモンは 「主語」
 erzählte エアツェルテ 3 単過(erzählen)v.t 語って聞かせた 「動詞」
 ihm イム pron.3 格 彼に 「間接目的語」
 von Hunden, フォン・フンデ 接 adv. 犬について 「間接目的語」
 die zehn Kilometer weit デー・イー・ツェーン・キロメター・ヴァイト
 adv. 10 キロ遠くから～する 「形容詞節」
 gelaufen seien, ゲラウフェン・ザイエン 接・3 複現・完了形(laufen)
 v.i 歩いてきた 「動詞句」
 um zu ihrem Herrn zurückzukehren. ウム・ツウ・イーレム・ヘアン・ツリェック・ツウ・ケーレン
 zu 不定句・目的(zurückkehren)
 adv. 主人のもとへ戻るために 「副詞句」
 目的 → 結果

ERSTER TEIL 第1部

それでも、老人は益々興奮してきた：

Trotzdem wurde der Alte immer aufgeregter: 「副詞」「動詞」「主語」「補語」
 Trotzdem トロツデーム adv. それでも 「副詞」
 wurde ヴェルデ 3 単過(werden)v.i 〜になった 「動詞」
 der Alte デア・アルテ n.m 老人は 「主語」
 immer イマー adv. いっそう、あいかわらず 「副詞」
 aufgeregter: アウフゲレクター adj. (比較級) さらに興奮した 「補語」

「きっとあれを私から奪い去るでしょう。誰かが面倒を見てくれたらよいのですが」

«Wegnehmen werden sie ihn mir. Ja, wenn sich jemand seiner annähme.»
 «「動詞句」「主語」「直接目的語」「間接目的語」
 「副詞」 wenn 「動詞句」「主語」「目的語」「動詞句」»
 «Wegnehmen werden ヱェックネーメン・ヴェアデェン 3 複現・推量(werden+不定詞 wegnehmen)
 v.t(j-3 et-4 人-3 から何-4 を) 奪うだろう 「動詞句」
 sie ジー pron.pl 彼らは 「主語」
 ihn イン pron 犬を 「直接目的語」
 mir. ミー pron 私から 「間接目的語」
 Ja, ヤー adv. きっと 「副詞」
 wenn ヱェン conj. (条件) もし〜ならば
 sich ... annähme. スィヒ...アンネーメ 接 II・3 単現(sich-4 an | nehmen)
 v.pr(et-2) 面倒をみたなら 「動詞句」
 jemand イェマント pron 誰かが 「主語」
 seiner ザーイアー pron.2 格 あれを、犬を 「目的語」

「しかし、それはあり得ません。どっちみち、あの瘡蓋を見ればみんな気味悪がりますよ」

Aber das ist ausgeschlossen, mit dem Ausschlag ekelt er jeden an.
 «Aber 「主語」「動詞」「補語」, 「副詞句」「動詞句」「主語」「副詞」「動詞句」»
 Aber アーバー conj. しかし
 das ダス pron それは 「主語」
 ist イスト 3 単現(sein)v.i 〜である 「動詞」
 ausgeschlossen, アウスゲシュロッセン adj. あり得ない 「補語」
 mit ミット prep (3 格と) (随伴状況・理由) 〜があるので 「副詞句」
 dem Ausschlag デーム・アウスシュラーク n.m.3 格 吹き出物、瘡蓋 「目的語」
 ekelt ...an. エケルト...アン 3 単現(an | ekeln)v.t 吐き気をもようさせる 「動詞句」
 er エア pron あの犬は 「主語」

ERSTER TEIL 第1部

jeden イェデン adv. どちらみち、それでも

「副詞」

「絶対、保健所に連れていかれますよ」

Die Schutzleute nehmen ihn todsicher mit.»

《「主語」「動詞句」「目的語」「副詞」「動詞句」》

Die Schutzleute デー・イー・シュツツ・ロイテ pl.n.m 保健所員が

「主語」

Schutz シュツツ n.m 保護 Leute ロイテ pl.n 人々、従業員 → 保健所 (員)

nehmen ...mit.» ネーメン...ミット 3 複現(mit | nehmen)v.t 連れていく

「動詞句」

ihn イン pron.4 格 あの犬を

「目的語」

todsicher トートズィヒヤー adv. 絶対に

「副詞」

僕は彼に野犬収容所へ行くのが一番良いと話した。いくらかの手数料と引き換えに犬を返してくれるはずだから。

Ich sagte ihm, am besten ginge er zum Pfandstall, wo man ihm den Hund gegen Erstattung irgendwelcher Gebühren zurückgäbe.

「主語」「動詞」「間接目的語」「直接目的語」

Ich イヒ pron 僕は

「主語」

sagte サーゲ 1 単過(sagen)v.t 言った

「動詞」

ihm, イム pron.3 格 彼に

「間接目的語」

n. ～ということを

「直接目的語」

am besten アム・ベステン adv. 一番良い

「副詞句」

ginge キンゲ 接 II・3 単現・話者の判断(gehen)v.i 行く

「動詞」

er エア pron 彼は

「主語」

zum Pfandstall, ツム・プファント・シュタル adv. 野犬収容所へ

「間接目的語」

Pfand プファント n.n 抵当、質草 stall シュタル n.m 家畜小屋

wo ウォ conj. (理由) ～だから

「副詞節」

man マン pron 人が

「主語」

ihm イム pron 彼に

「間接目的語」

den Hund デン・フント n.m.4 格 犬を

「直接目的語」

gegen ゲーゲン prep (交換) ～と引き換えに

「副詞句」

Erstattung エアスタツァンク n.f 支払い、払戻金

「目的語」

irgendwelcher イルクェントヴァーエルヒヤー

adj. いくらかの

「形容詞」

Gebühren ゲビューレン n.f.4 格 手数料

「目的語」

zurückgabe. ツュックゲーベ 接 II・3 単現(zurückgeben)

v.t 返してくれるだろう

「動詞」

ERSTER TEIL 第1部

彼は僕にその手数料は高いのかと尋ねた。それは僕には分からない。

Er fragte mich, ob die Gebühren hoch seien. Das wußte ich nicht.

「主語」「動詞」「直接目的語」「間接目的語」	「主語」「動詞句」「主語」「動詞句」
Er エア pron 彼は	「主語」
fragte フラケ 3 単過(fragen)v.t 尋ねた	「動詞」
mich, ミッヒ pron.4 格 僕に	「直接目的語」
ob オッフ conj. ～かどうかを	「間接目的語」
die Gebühren デー・ゲ・ビュレン pl(Gebühr).n.f その手数料は	「主語」
hoch ホーフ adj. 高い	「補語」
seien. サイエン 接・3 複現(sein)v.i ～である	「動詞」
Das ダス pron それを	「目的語」
wußte ...nicht. ヴステ...ニヒト 1 単過・否定・時制の一致(wissen)v.t 知らない	「動詞句」
ich イヒ pron 僕は	「主語」

すると彼は急に怒り出した：「あの糞野郎のために金を使うだって？ああ、いつそくたばればいいんだ」

Da packte ihn plötzlich die Wut: «Für das Mistvieh auch noch Geld ausgeben! Ach, soll er doch krepieren!»

「副詞」「動詞」「目的語」「副詞」「主語」:	
《「副詞句」「目的語」「動詞」 「間投」「動詞句」「主語」「動詞句」「副詞」》	
Da ダー adv. すると	「副詞」
packte パケ 3 単過(packen)v.t (感情が) 襲った	「動詞」
ihn イン pron.4 格 彼を	「目的語」
plötzlich プレツリヒ adv. 突然、急に	「副詞」
die Wut: デー・ウート n.f 怒りが	「主語」
«Für フュア prep (利益) ～のために	「副詞句」
das Mistvieh ダス・ミスト・フィー n.n.4 格 あの糞野郎	「目的語」
Mist ミスト n.m (家畜の) 糞 Vieh フィー n.n 家畜	
auch noch Geld アウフ・ノッホ・ゲルト n.n.4 格 さらに金を	「目的語」
ausgeben! アウスゲーベン 不定詞 v.t 使う	「動詞」
Ach, アッハ int. ああ	「間投」
soll ...krepieren! ゴル...クレピール 3 単現・話者の意思(sollen+不定詞 krepieren)	
v.i くたばればいいんだ	「動詞句」
er エア pron やつは	「主語」
doch ドッホ adv. それでも、いつそのこと	「副詞」

ERSTER TEIL 第1部

それから、彼はまた犬のことを罵った。

Und dann schimpfte er wieder auf den Hund.

Und 「副詞」「動詞」「主語」「副詞」「間接目的語」

Und ウント conj. そして

dann ダン adv. それから

「副詞」

schimpfte シンプ フテ 3 単過(schimpfen)v.i(auf を) 罵った

「動詞」

er エア pron 彼は

「主語」

wieder ウィーダー adv. また

「副詞」

auf den Hund. アウフ・デーン・フント adv. 犬のことを

「間接目的語」

レーモンは笑って、アパートの中へ入って行った。僕は彼の後に続いて入った。

Raymond lachte und ging ins Haus. Ich folgte ihm.

「主語」「動詞」 und 「動詞」「副詞句」 | 「主語」「動詞」「間接目的語」

Raymond レーモン n.m レーモンは

「主語」

lachte ラハテ 3 単過(lachen)v.i 笑った

「動詞」

und ウント conj. そして

ging キング 3 単過(gehen)v.i 行った

「動詞」

ins Haus. インス・ハウス adv. アパートの中へ入って

「副詞句」

Ich イット pron 僕は

「主語」

folgte フォルクテ 1 単過(folgen)v.i ついて行った

「動詞」

ihm. イム pron.3 格 彼に

「間接目的語」

僕たちは踊り場で別れた。

Auf dem Treppenflur trennten wir uns.

「副詞節」「動詞句」「主語」「動詞句」

Auf アウフ prep (3 格または 4 格と) ~の上で

「副詞句」

dem Treppenflur デーム・トレッペンフルーア n.m.3 格 階段の踊り場

「目的語」

trennten ...uns. トレンテン...ウンス 1 複過(sich-4 trennen).v.pr 別れた

「動詞句」

wir ウィアー pron 僕たちは

「主語」

階段の踊り場

Treppenflur Trepp'en・フルーア Treppe n.f 階段 + Flur n.m 廊下

複数住居建物の共有スペースである「階段 + 踊り場 + 廊下」の全体を指します。

Treppenhaus も同じ意味です。

ERSTER TEIL 第1部

すぐ後で、老人の足音が聞こえた。彼は僕の部屋のドアをノックした。

Einen Augenblick später hörte ich die Schritte des Alten, er klopfte an meine Tür.

「副詞句」「動詞」「主語」「目的語」, 「主語」「動詞」「間接目的語」

Einen Augenblick später アイン・アウゲンブリック・シュペーター adv. すぐ後で 「副詞句」

hörte ホアテ 1 単過(hören)v.t 聞こえた 「動詞」

ich イヒ pron 僕は 「主語」

die Schritte デー・イー・シュリッテ pl(Schritt).n.m 足音が 「目的語」

des Alten, デス・アルテン n.m(Alte).2 格 老人の 「形容詞句」

er エア pron 彼は 「主語」

klopfte クロップテ 3 単過(klopfen)v.i(an を) ノックした 「動詞」

an meine Tür. アン・マイネ・チュア adv. 僕の部屋のドアを 「間接目的語」

僕がドアを開けると、彼は一瞬戸口で立ち止まってから言った：「すみません」

Als ich öffnete, blieb er einen Augenblick auf der Schwelle stehen und sagte:
«Entschuldigen Sie!»

「副詞節」, 「動詞句」「主語」「副詞句」「動詞句」 und 「動詞」: 《「挨拶」》

Als アルス conj. ～する時 「副詞節」

ich イヒ pron 僕が 「主語」

öffnete, エフネテ 1 単過(öffnen)v.t 開けた 「動詞」

blieb ...stehen ブリープ ...シュテーエン 3 単過・持続(bleiben+不定詞 stehen)

v.i 立ったままでいた 「動詞句」

er エア pron 彼は 「主語」

einen Augenblick アイン・アウゲンブリック adv. 一瞬 「副詞句」

auf der Schwelle アウフ・デア・シュウェレ adv. 部屋の戸口で 「副詞句」

und ウント conj. そして

sagte: サークテ 3 単過(sagen)v.t 言った 「動詞」

«Entschuldigen Sie!» エントシュルディゲン・ズィヒ adv. すみません、許してください 「挨拶」

僕は部屋に入るように勧めたが、彼は入ろうとしなかった。

Ich forderte ihn auf einzutreten, aber das wollte er nicht.

「主語」「動詞」「目的語」「補語」, aber 「目的語」「動詞句」「主語」「動詞句」

Ich イヒ pron 僕は 「主語」

forderte フォアデアテ 1 単過(fordern)v.t 勧めた、要求した 「動詞」

ihn イン pron 彼に 「目的語」

auf einzutreten, アウフ・アイン・ツートレーテン zu 不定句・ihn の動作 v.i 中に入る 「補語」

aber アーバー conj. しかし

ERSTER TEIL 第1部

das ^{ダス}pron それを 「目的語」
 wollte ...nicht. ^{ヴォルテ...ニヒト} 3 単過・否定(wollen)v.t 望まなかった 「動詞句」
 er ^{エア}pron 彼は 「主語」

彼は視線を床に落とした。彼のかさぶただけの手が震えていた。

Er blickte zu Boden, und seine schorfigen Hände zitterten.

「主語」「動詞」「間接目的語」,und「主語」「動詞」
 Er ^{エア}pron 彼は 「主語」
 blickte ^{ブリクテ} 3 単過(blicken)v.i(zu に) 目を向けた 「動詞」
 zu Boden, ^{ツー・ボデーソン}adv. 床に 「間接目的語」
 und ^{ウント}conj. そして
 seine schorfigen Hände ^{ザイネ・ショルフイゲン・ヘンデ}
 pl(Hand).n.f.1 格 彼のかさぶただけの手が 「主語」
 schorfigen ^{ショルフイゲン}adj(schorfig).pl.1 格 かさぶただけの
 zitterten. ^{ツィターテン} 3 複過(zittern)v.i 震えていた 「動詞」

彼は、僕を見ないで尋ねた：

Ohne mich anzusehen fragte er:

「副詞句」「動詞」「主語」
 Ohne +zu 不定句 ^{オーネ}conj. ～しないで、～することなく 「副詞句」
 mich ^{ミヒ}pron.4 格 僕を 「目的語」
 anzusehen ^{アン・ツー・ゼーエン} zu 不定詞(an | sehen)v.t 見つめる 「動詞句」
 fragte ^{フラクテ} 3 単過(fragen)v.t 尋ねた 「動詞」
 er: ^{エア}pron 彼は 「主語」

「それでも、私からあれを取り上げたりしませんよね？ムルソーさん」

«Sie werden ihn mir doch nicht wegnehmen, Herr Meursault?»

《「主語」「動詞句」「直接目的語」「間接目的語」「副詞」「動詞句」,「呼びかけ」》
 «Sie ^{ジー}pron.pl 彼らは 「主語」
 werden ...nicht wegnehmen, ^{ヴェアデテン...ニヒト・ヴェークネーメン} 3 複現・推測・疑問文・確認
 v.t(j-3 et-4 人-3 から何-4 を) 取り上げないですよ 「動詞句」
 ihn ^{イン}pron.4 格 あの犬を 「直接目的語」
 mir ^{ミーア}pron.3 格 私から 「間接目的語」
 doch ^{ドツッホ}adv. それでも、しかし 「副詞」
 Herr Meursault? ^{ヘア・メルソー}n.m ムルソーさん 「呼びかけ」

ERSTER TEIL 第1部

「またあれを戻してくれますよね？そうでなければ、どうすればいいのでしょうか？」

Man gibt ihn mir doch wieder? Was soll denn sonst aus mir werden?»

《「主語」「動詞」「直接目的語」「間接目的語」「副詞句」

「目的語」「動詞句」「副詞句」「動詞句」》

Man マン pron 人は	「主語」
gibt ギーブト 3 単現・確認(geben)v.t 渡してくれるだろう	「動詞」
ihn イン pron.4 格 あの犬を	「直接目的語」
mir ミーア pron.3 格 私に	「間接目的語」
doch ドッホ adv. それでも、しかし	「副詞」
wieder? ウィーダー adv. また、再び	「副詞」
Was ヴァス pron 何を	「目的語」
soll ...werden?» ソル...ヴェアデン 1 単現・義務(sollen+不定詞 werden)	
v.t するべきである	「動詞句」
denn sonst デン・ゾンスト adv. そうでなければ	「副詞句」
aus mir アウス・ミーア adv. 私としては、私は	「副詞句」

僕は、野犬収容所では捕獲された犬を飼い主のために 3 日間預かるけれど、その後は、適切に処分されると彼に教えてやった。

Ich sagte ihm, der Pfandstall halte die eingefangenen Hunde drei Tage zur Verfügung der Eigentümer und tue dann mit den Tieren, was man für richtig halte.

「主語」「動詞」「間接目的語」, 「主語」「動詞」「目的語」「副詞句」 und

「動詞」「副詞」「間接目的語」, 「直接目的語」「主語」「副詞句」「動詞」

Ich イット pron 僕は	「主語」
sagte サークテ 3 単過(sagen)v.t 言った	「動詞」
ihm, イム pron.3 格 彼に	「間接目的語」
der Pfandstall デア・プファント・シュタル n.m 野犬収容所は	「主語」
Pfand プファント n.n 保証金 Stall シュタル n.m 家畜小屋 → Pfandstall 野犬収容所 → Tierheim ティアハイム n.n (捨て犬などの) 野犬収容施設	
halte ハルテ 接・3 単現・推量(halten)v.t 持っている、あずかる	「動詞」
die eingefangenen Hunde デー・インゲファンゲネ・フンデ pl(Hund).n.m.4 格 捕まえられた犬を	「目的語」
eingefangenen インゲファンゲネ 過去分詞・受動(einfangen)adj.pl.4 格 捕まえられた	
drei Tage ドライ・ターゲ pl(Tag).n.m.4 格 3 日間	「副詞句」
zur Verfügung ツー・アフェアヴェーグング adv. (目的) 自由のために	「副詞句」
der Eigentümer デア・アイゲンチューマー pl(Eigentümer).n.m.2 格 飼い主の「形容詞句」	
und ウント conj. そして	

ERSTER TEIL 第1部

tue トゥエ 接・3 単現・推量(tun)v.t するでしょう	「動詞」
dann ダン adv. それから	「副詞」
mit den Tieren, ミット・デーン・ティアーレン adv. 動物に	「間接目的語」
was ヴァス pron 何かを	「直接目的語」
man マン pron 人は	「主語」
für richtig フューア・リヒヒ adv. 適切に	「副詞句」
halte. ハルテ 接・3 単現・推量(halten)v.t 行なう、処置する	「動詞」

彼は黙って僕を見つめた。

<u>Er sah mich schweigend an.</u>	「主語」「動詞句」「目的語」「副詞」「動詞句」
Er エア pron 彼は	「主語」
sah ...an. サー...アン 3 単過(an sehen)v.t 見つめた	「動詞句」
mich ミヒ pron.4 格 僕を	「目的語」
schweigend シュヴァイゲント 現在分詞・同時(schweigen)adv. 黙って	「副詞」

それから、彼は言った：「お休みなさい！」彼は自分の部屋のドアを閉めた。彼が部屋の中を歩き回る音が聞こえた。彼のベッドがきしんだ。

Dann sagte er: «Guten Abend!» Er schloß seine Tür, und ich hörte ihn auf und ab gehen. Sein Bett krachte.

「副詞」「動詞」「主語」：《「挨拶」》

「主語」「動詞」「目的語」,und「主語」「動詞」「目的語」「補語」 | 「主語」「動詞」

Dann ダン adv. それから	「副詞」
sagte サークテ 3 単過(sagen)v.t 言った	「動詞」
er: エア pron 彼は	「主語」
«Guten Abend!» グーテン・アーベント adv. 今晚は！、お休みなさい！	「挨拶」
Er エア pron 彼は	「主語」
schloß シュロス 3 単過(schließen)v.t 閉めた	「動詞」
seine Tür, サイネ・チュアー n.f 彼の部屋の戸を	「目的語」
und ウント conj. そして	
ich イヒ pron 僕は	「主語」
hörte ホアテ 1 単線・知覚動詞(hören)v.t(SVO+不定詞 O が～するのが) 聞こえた	「動詞」
ihn イン pron.4 格 彼が	「目的語」
auf und ab アウフ・ウント・アップ adv. 行ったり来たり	「副詞句」
gehen. ゲーエン 不定詞・ihn の動作 v.i 歩く	「補語」
Sein Bett サイン・ベット n.n 彼のベッドが	「主語」
krachte. クラハテ 3 単過(krachen)v.i きしんだ、音を立てた	「動詞」

ERSTER TEIL 第1部

壁越しに聞こえてきた奇妙な小さな音で、僕は彼が泣いているのが分かった。なぜか分からないが、僕は母さんの事を考えた。

Das seltsame, kleine Geräusch, das ich durch die Wand hörte, verriet mir, daß er weinte. Ich weiß nicht, weshalb ich an Mama dachte.

「主語」「動詞」「間接目的語」「直接目的語」

「主語」「動詞句」「副詞」, 「主語」「間接目的語」「動詞」

Das seltsame, kleine ダス・セルツァー・クライ adj.n.1 格 奇妙な小さい 「形容詞句」

Geräusch, ゲロイシュ n.n 物音が 「主語」

das ダス pron (目的語) ～する 「形容詞節」

ich イヒ pron 僕が 「主語」

durch die Wand ドゥルヒ・デー・ヴァント adv. 壁を通して、壁越しに 「副詞句」

hörte, ヘアテ 1 単過(hören)v.t 聞こえた 「動詞」

verriet ヴェリート 3 単過(verraten)v.t 示していた 「動詞」

mir, ミーア pron 僕に 「間接目的語」

daß ダス conj. ～ということ 「直接目的語」

er エア pron 彼が 「主語」

weinte. ヴァインテ 3 単過・時制の一致(weinen)v.i 泣いている 「動詞」

Ich イヒ pron 僕は 「主語」

weiß nicht, ヴァイス・ニヒト 1 単現・否定(wissen)v.t 分からない 「動詞句」

weshalb ヴェスハルプ adv. なぜか、どうしてか 「副詞」

ich イヒ pron 僕は 「主語」

an Mama アン・ママ adv. 母さんの事を 「間接目的語」

dachte. ダハテ 1 単過(denken)v.i 考えた 「動詞」

しかし、明日の朝は早く起きなければならなかった。

Aber ich mußte am nächsten Morgen früh aufstehen.

Aber 「主語」「動詞句」「副詞句」「動詞句」

Aber アーバー conj. しかし

ich イヒ pron 僕は 「主語」

mußte ...aufstehen. ムステ...アフシュテェン 1 単過・必要(müssen+不定詞 aufstehen)

v.i 起きなければならなかった 「動詞句」

am nächsten Morgen アム・ネーヒステン・モアゲン adv. 明日の朝は 「副詞句」

früh フリュ adv. 早く 「副詞」

ERSTER TEIL 第1部

僕は腹が減っていなかったので、夕食は食べずに寝た。

Ich hatte keinen Hunger und ging, ohne Abendbrot gegessen zu haben, ins Bett.

「主語」「動詞」「目的語」 und 「動詞」「副詞句」「間接目的語」

Ich イッヒ pron 僕は

「主語」

hatte ハッテ 1 単過(haben)v.t 〜があった

「動詞」

keinen Hunger カイネン・フンガー n.m 空腹が〜ない

「目的語」

und ウント conj. そして

ging, ギング 1 単過(gehen)v.i 行った

「動詞」

ohne +zu 不定句 オーネ adv. 〜しないで

「副詞句」

Abendbrot アーベントブ ロート n.n 夕食を

「目的語」

gegessen zu haben, ゲゲッセン・ツー・ハーベン zu 不定句・完了形 v.t 食べた

「動詞句」

ins Bett. インス・ベット adv. ベッドに

「間接目的語」

ERSTER TEIL 第1部

V

レーモンが会社に電話してきた。

Raymond rief mich im Büro an. 「主語」「動詞句」「目的語」「副詞句」「動詞句」
 Raymond レーモン n.m レーモンが 「主語」
 rief ...an. リーフ...アン 3 単過(an | rufen)v.t(j-4 に) 電話をかけてきた 「動詞句」
 mich ミット pron.4 格 僕に 「目的語」
 im Büro イム・ビュロー adv. 会社に、オフィスに 「副詞句」

彼の話では、友人の一人が日曜日にアルジェの近くの彼の別荘に遊びに来るようにと僕を招待しているという事だった。

Er sagte, einer seiner Freunde (er hatte ihm von mir erzählt) habe mich eingeladen, den Sonntag in seinem Wochenendhaus in der Nähe von Algier zu verbringen.
 「主語」「動詞」,
 「主語」「(主語」「動詞句」「間接目的語)」「動詞句」「目的語」「動詞句」「副詞句」
 Er エア pron 彼は 「主語」
 sagte, サークテ 3 単過(sagen)v.t 言った 「動詞」
 einer seiner Freunde アイー・ザ イー・フロインデ pron 彼の友人の 1 人が 「主語」
 (er エア pron 彼は 「主語」
 hatte ...erzählt) ハッテ...エアツェールト 3 単過・完了形(erzählen)v.t 話していた 「動詞句」
 ihm イム pron 友人に 「間接目的語」
 von mir フォン・ミーア adv. 僕の事を 「間接目的語」
 habe ... eingeladen, ハーベ...アイン・ゲ・ラーテン 3 単現・完了形(einladen)
 v.t 招待している 「動詞句」
 mich ミット pron.4 格 僕を 「目的語」
 den Sonntag テン・ゾンターク adv. 日曜日に 「副詞句」
 in seinem Wochenendhaus イン・ザ イネム・ウヘンセントハウス adv. (週末用の) 別荘に 「副詞句」
 in der Nähe von Algier イン・デア・ネーエ・フォン・アルジェ adv. アルジェの近くの 「副詞句」
 zu verbringen. ツー・ブリンゲン zu 不定詞・目的 adv. 時を過ごしに、遊びに 「副詞句」

僕は、喜んで行きたいのだが、日曜日は女友達と約束があると答えた。

Ich antwortete, daß ich das gerne wollte, aber ich habe mich für Sonntag mit einer Freundin verabredet. 「主語」「動詞」「目的語」
 Ich イット pron 僕は 「主語」
 antwortete, アントウゲ オアテ 1 単過(antworten)v.t 答えた 「動詞」
 daß ダス conj. ～ということを 「目的語」

ERSTER TEIL 第1部

ich イッヒ pron 僕は	「主語」
das ダス pron それを	「目的語」
gerne ゲアネ adv. 喜んで	「副詞」
wollte, ヲォルテ 1 単過・時制の一致(wollen+不定詞・省略)v.i 行きたい	「動詞句」
aber アーバー conj. しかし	
ich イッヒ pron 僕は	「主語」
habe mich ...verabredet. ハーベ・ミヒ...フェアアッ プ レーテット 1 単現・完了形(sich-4 verabreden)	
v.pr 約束があった	「動詞句」
für Sonntag フェア・ゾンターク adv. 日曜日は	「副詞句」
mit einer Freundin ミット・アイナー・フロインデ イン adv. 女友達と	「副詞句」

レーモンはすぐに答えた。僕の女友達も大歓迎だ。

Raymond erklärte sofort, auch meine Freundin sei eingeladen.

	「主語」「動詞」「副詞」, 「主語」「動詞句」
Raymond レーモン n.m レーモンは	「主語」
erklärte エアクラテ 3 単過(erklären)v.t 説明した、宣言した	「動詞」
sofort, ソフォアト adv. すぐに	「副詞」
auch アウフ adv. ～もまた	「副詞」
meine Freundin マイネ・フロインデ イン n.f 僕の女友達は	「主語」
sei eingeladen. サイ・アイン・ゲ・ラーテン 接・3 単現・受動・推量(ein laden)	
v.t 招待される	「動詞句」

友人の奥さんは、男たちの間で一人きりにならないで済むから、とても喜ぶだろう。

Die Frau seines Freundes werde sich sehr freuen, mit den Männern nicht allein zu sein.

	「主語」「動詞句」「副詞」「動詞句」, 「副詞句」
Die Frau デー・フラウ n.f 奥さんは	「主語」
seines Freundes サイネス・フロインデス n.m.2 格 彼の友人の	「形容詞句」
werde sich ... freuen, ヲェアテ・スィヒ...フロイン 3 単未・推量(werden+不定詞 sich-4 freuen)	
v.pr 喜ぶだろう	「動詞句」
sehr ゼーア adv. とても	「副詞」
(mit zu 不定句 理由を表わす副詞句)	
mit den Männern ミット・テン・メアソ adv. 男たちの間で	「副詞句」
nicht allein ニヒト・アライン adj. 一人きりでない	「補語」
zu sein. ツー・ザイン 不定詞・状態(sein)v.i ～になる	「動詞」

ERSTER TEIL 第1部

社長は僕たちに私用電話がかかってくるのを喜ばないことは知っているのです、僕はすぐに電話を切ろうとした。

Ich wollte gleich wieder einhängen, weil ich weiß, daß der Chef es nicht gern hat, wenn wir aus der Stadt angerufen werden.

「主語」「動詞句」「副詞句」

Ich イッヒ pron 僕は

「主語」

wollte ...einhängen, ヲォルテ...アインヘンゲン 1 単過・願望(wollen+不定詞 einhängen)

v.t 電話を切ろうとした、受話器を置こうとした

「動詞句」

gleich wieder グライヒ・ヴィーダー adv. またすぐに

「副詞句」

weil ヲァイル conj. (理由) ~なので

「副詞節」

ich イッヒ pron 僕は

「主語」

weiß, ヲァイス 1 単現(wissen)v.t 知っている

「動詞」

daß ダス conj. ~ということ

「目的語」

der Chef デア・シェフ n.m 社長は

「主語」

es エス pron それを

「目的語」

nicht gern hat, ニヒト・ゲアン・ハット 3 単現・否定(gern haben)

v.t 喜ばない

「動詞句」

wenn ヲェン conj. ~すると

「副詞節」

wir ヲィア pron.pl 僕たちが

「主語」

aus der Stadt アウス・デア・シュタット adv. 街から、社外から

「副詞句」

angerufen werden. アン・ゲ・ルフェン・ヲァアデソ 1 複現・受動(werden+過去分詞 an | rufen)

v.t 電話をかけられる

「動詞句」

しかしレーモンは僕に待ってくれと頼んで言った。彼は招待の事は夜にでも伝えることは出来たのだが、それとは別の事を僕に知らせなければならなかったというのだ。

Aber Raymond bat mich zu warten und sagte, er hätte mir die Einladung auch am Abend übermitteln können, aber er müsse mir noch etwas anderes mitteilen.

Aber 「主語」「動詞」「目的語」「補語」 und 「動詞」,

「主語」「動詞句」「間接目的語」「直接目的語」「副詞句」「動詞句」,

aber 「主語」「動詞句」「間接目的語」「副詞」「直接目的語」「動詞句」

Aber アーバー conj. しかし

Raymond レーモン n.m レーモンは

「主語」

bat バート 3 単過(bitten)v.t 頼んだ

「動詞」

mich ミット pron 僕に

「目的語」

zu warten ツー・ヲァアルテン 不定詞・mich の動作 v.i 待つ

「補語」

und ウント conj. そして

sagte, サークテ 3 単過(sagen)v.t 言った

「動詞」

ERSTER TEIL 第1部

er エア pron 彼は	「主語」
hätte ...übermitteln können, ヘッテ...ユーバーミテルン・ケネ 接 II・3 単現・完了形・可能・推量	
(können+不定詞 übermitteln)v.t 伝えることは出来たのだが	「動詞句」
mir ミーア pron 僕に	「間接目的語」
die Einladung デーイー・インラートゥング n.f 招待を	「直接目的語」
auch am Abend アウフ・アム・アーベント adv. 夜にでも	「副詞句」
aber アーバー conj. しかし	
er エア pron 彼は	「主語」
müsse ...mitteilen. ムス...ミットタイレン 接 II・3 単現・必要(müssen+不定詞 mitteilen)	
v.t 知らせなければならない	「動詞句」
mir ミーア pron 僕に	「間接目的語」
noch ノッホ adv. さらに	「副詞」
etwas anderes エトワース・アンデレス pl(ander).n 別のことを	「直接目的語」

彼はアラブ人の一団に一日中あとを付けられたが、その中に彼の愛人の兄弟もいた。

Den ganzen Tag sei ihm eine Gruppe von Arabern, unter ihnen auch der Bruder seiner Geliebten, nicht von den Fersen gewichen.

「副詞句」「動詞句」「間接目的語」「主語」「動詞句」「副詞句」「動詞句」	
Den ganzen Tag デン・ガントゥェン・ターク n.m.4 格 一日中	「副詞句」
sei ... nicht ...gewichen. サイ...ニヒト...ゲウイッセン 接・3 単現・完了形・否定	
v.i 離れなかった	「動詞句」
ihm イム pron 彼の	「間接目的語」
eine Gruppe アイネ・グルーペ n.f 一団が	「主語」
von Arabern, フォン・アラバーン adj. アラブ人の	「形容詞句」
unter ウンター prep (3 格と) (混在) ~の中に	「副詞句」
ihnen イネン pron.3 格 彼ら	「目的語」
auch アウフ adv. ~も	「副詞」
der Bruder デア・ブルーダー n.m 兄弟が	「主語」
seiner Geliebten, ザイナール・ゲリーフェン n.f.2 格 彼の愛人の	「形容詞句」
von den Fersen フォン・デーン・フェアゼン adv. (足の) かかとから	「副詞句」
→ かかとから離れない → 跡を付けられた	

ERSTER TEIL 第1部

「今晚、家の近くでそいつを見かけたら、教えてくれ」

«Wenn du ihn heute abend in der Nähe unseres Hauses siehst, sag mir Bescheid.»

《「副詞節」, 「動詞」 「間接目的語」 「直接目的語」》

«Wenn ウェン conj. ~する時に 「副詞節」
 du ドゥ pron 君が 「主語」
 ihn イン pron 彼を 「目的語」
 heute abend ホテ・アーベント adv. 今晚 「副詞句」
 in イン prep (3格と) (空間) ~で 「副詞句」
 der Nähe デア・ネー n.f.3格 近く、付近 「目的語」
 unseres Hauses ウンゼレス・ハウゼス n.n.2格 君の家の 「形容詞句」
 siehst, シースト 2 単現・仮定(sehen)v.t 見る 「動詞」
 sag サーク 命・2 単現・依頼(sagen)v.t 言ってくれ 「動詞」
 mir ミーア pron 俺に 「間接目的語」
 Bescheid.》ベシヤイト n.m.4格 知らせを 「直接目的語」

フランス語の原文では：

次の文が続いている。

僕は、分かったと答えた。J'ai dit que c'était entendu.

そのすぐ後に、僕は社長に呼ばれた。そして一瞬、不安になった。社長にあまり電話をし
 ないで、仕事をするように言われると覚悟したからだ。だが、そうではなかった。

Kurz darauf ließ mich der Chef rufen, und einen Augenblick war ich ärgerlich, denn ich
rechnete damit, er würde mir sagen, daß ich weniger telefonieren und mehr arbeiten
solle. Aber das war es nicht.

「副詞句」「動詞句」「目的語」「主語」「動詞句」, und 「副詞句」「動詞」「主語」「補語」

Aber 「主語」「動詞句」「補語」

Kurz darauf クルス・ダラウフ adv. そのすぐ後に 「副詞句」
 ließ ...rufen, リース...ルーフェン 3 単過・使役(lassen+不定詞 rufen)v.t 呼ばせた 「動詞句」
 受動態に翻訳する
 mich ミット pron.4格 僕を 「目的語」
 der Chef デア・シェフ n.m 社長が 「主語」
 und ウント conj. そして
 einen Augenblick アイネン・アウゲンブリック n.m.4格 一瞬 「副詞句」
 war ヴァール 1 単過・変化(sein)v.i ~になった 「動詞」
 ich イット pron 僕は 「主語」
 ärgerlich, アルカリット adj. 不愉快な、不安な 「補語」
 denn デン conj. なぜなら 「副詞節」

ERSTER TEIL 第1部

ich イヒ pron 僕は	「主語」
rechnete レヒテ 1 単過(rechnen)v.i(mit et-3 を) 覚悟した	「動詞」
damit, ダミット adv. そのことを	「間接目的語」
er エア pron 彼は	「主語」
würde ...sagen, ウルデ ...ザーゲン 3 単過・推量・時制の一致(werden+不定詞 sagen)	
v.t 言うだろう	「動詞句」
mir ミーア pron.3 格 僕に	「間接目的語」
daß ダス conj. ～ということ	「直接目的語」
ich イヒ pron 僕は	「主語」
weniger telefonieren ヲニガー・テレフォニレン 接・1 単現・義務(sollen+不定詞 telefonieren)	
v.i あまり電話をするべきではない	「動詞句」
und ウント conj. そして	
mehr arbeiten solle. メーア・アルハ イテン・ゾレ 接・1 単現・義務(sollen+不定詞 arbeiten)	
v.i もっと働くべきだ	「動詞句」
Aber アーバー conj. しかし	
das ダス pron それは	「主語」
war ...nicht. ヲアル...ニヒト 3 単過・否定(sein)v.i ～でなかった	「動詞句」
es エス pron そうということ	「補語」

彼は、まだ確定していないある計画について僕と話し合いたいと説明した。

Er erklärte mir, er wolle mit mir einen noch nicht feststehenden Plan besprechen.

	「主語」「動詞」「間接目的語」「直接目的語」
Er エア pron 社長は	「主語」
erklärte エクラアテ 3 単過(erklären)v.t 説明した	「動詞」
mir, ミーア pron 僕に	「間接目的語」
er エア pron 彼は～ということ	「直接目的語」
wolle ...besprechen. ヲアレ...ベシュプレヒエン 接・3 単現・願望(wollen+不定詞 besprechen)	
v.t 話し合いたい	「動詞句」
mit mir ミット・ミーア adv. 僕と	「副詞句」
einen noch nicht feststehenden アイネン・ノッホ・ニヒト・フェストシュテエンデッ	
adj.m.4 格 まだ確定していない	「形容詞句」
Plan プラン n.m.4 格 計画を	「目的語」

ERSTER TEIL 第1部

彼はちょっと僕の意見を聞きたいと言った。

Er wollte nur meine Stellungnahme kennenlernen. 「主語」「動詞句」「目的語」

Er エア pron 彼は 「主語」

wolle ...kennenlernen. ヴォレ...ケネン・レアネ 接・3 単現・願望(wollen+不定詞 kennenlernen)

v.t(et-4 何-4 のことを) 尋ねた、知りたかった 「動詞句」

nur ノア adv. (程度) ちょっとだけ、少し 「副詞」

meine Stellungnahme マイネ・シュテルンゲ・ナーメ n.f.4 格 僕の意見を 「目的語」

社長にはパリに事務所を開設して、大企業と直接交渉したいというもくろみがあった。そこで、僕がその事務所の管理を引き受ける気持ちがあるかどうか知りたいのだ。

Er habe die Absicht, in Paris ein Büro aufzumachen, das direkt mit den großen Firmen verhandelte, und er möchte wissen, ob ich Lust hätte, die Leitung des Büros zu übernehmen. 「主語」「動詞」「目的語」,und 「主語」「動詞句」「目的語」

Er エア pron.m 彼は 「主語」

habe ハーベ 3 単現(haben)v.t 〜があった 「動詞」

die Absicht, デーイー・アプフ・ズエイト n.f 計画、もくろみ 「目的語」

in Paris イン・パリス adv. パリに 「副詞句」

ein Büro アイン・ビュロー n.n.4 格 事務所を 「目的語」

aufzumachen, アウフ・ツァー・マヘン zu 不定詞(auf| machen) 開設するという 「形容詞句」

das ダス pron その事務所が 「主語」

direkt デイレクト adv. 直接に 「副詞」

mit den großen Firmen ミット・デーン・グロゼン・フィルメン adv. 大企業と 「目的語」

verhandelte, フェアハントェルテ 接・3 単現・願望(verhandeln)v.t 交渉する 「動詞」

und ウント conj. そして

er エア pron 社長は 「主語」

möchte wissen, メヒテ・グアイッセン 3 単現・願望(möchte+不定詞 wissen)v.t 知りたい 「動詞句」

ob オッフ conj. 〜かどうかを 「目的語」

ich イヒ pron 僕は 「主語」

Lust ルスト n.f (〜したい) 気持ちが 「目的語」

hätte, ヘッテ 接 II・1 単現・推量(haben)v.t 〜があるだろう 「動詞」

「形容詞句」

die Leitung デーイー・ライトゥング n.f.4 格 管理を 「目的語」

des Büros デス・ビュロース n.n.2 格 事務所の 「形容詞句」

zu übernehmen. ツァー・ユーバーネーメン zu 不定詞 v.t 引き受ける 「動詞句」

ERSTER TEIL 第1部

そうになると僕はパリで暮らせ、年にある程度の期間は旅行もできるだろう。

Ich könnte dann in Paris wohnen und einen Teil des Jahres reisen.

「主語」「動詞句」「副詞句」「動詞句」 und 「副詞句」「動詞句」

Ich イッヒ pron 僕は

「主語」

könnte ...wohnen ケンテ...グォーネン 接 II・1 単現・可能・推量(können+不定詞 wohnen)

v.i 暮らせるだろう

「動詞句」

dann ダン adv. そうすると

「副詞」

in Paris イン・パリス adv. パリで

「副詞句」

und ウント conj. そして

einen Teil アイン・タイル n.m.4 格 一部分は

「副詞句」

des Jahres デス・ヤーレス n.n.2 格 年の

「形容詞句」

reisen. ライゼン 接 II・1 単現・可能・推量(können+不定詞 reisen)

v.i 旅行できるだろう

「動詞句」

「君は若い。そんな暮らしは君の気に入るに違いない」

«Sie sind jung, und so ein Leben müßte Ihnen doch Spaß machen.»

《「主語」「動詞」「補語」,

und 「主語」「動詞句」「間接目的語」「直接目的語」「動詞句」》

«Sie ジー pron (2 人称複数敬称) 君は

「主語」

sind シント 3 複現(sein)v.i ~である

「動詞」

jung, ユング adj. 若い

「補語」

und ウント conj. そして

so ein Leben ソー・アイン・レーベン n.n そのような暮らしは

「主語」

müßte ...machen. ムィステ...マヘン 接 II・3 単現・推量(müssen+不定詞 machen)

v.t 与えるに違いない

「動詞句」

Ihnen イネン pron.3 格 君に

「間接目的語」

doch Spaß トッホ・シュパース n.m.4 格 楽しみを

「直接目的語」

僕はいいそうですねと答えたが、しかし結局僕にはどうでも良いですと隠さずに言った。

Das bejahte ich, aber ich verschwieг nicht, daß es mir im Grunde ganz einerlei wäre.

「目的語」「動詞」「主語」, aber 「主語」「動詞句」「目的語」

Das ダス pron それを

「目的語」

bejahte ベジヤテ 1 単過(bejahren)v.t(et-4 何-4 に対して) はいと答えた

「動詞」

ich, イッヒ pron 僕は

「主語」

aber アーバー conj. しかし

ich, イッヒ pron 僕は

「主語」

ERSTER TEIL 第1部

verschwieг nicht, フェアシュヴァーク・ニヒト 1 単過・否定(verschweigen)

v.t 隠さずに言った、黙らなかった

「動詞句」

daß ダス conj. ～ということを

「目的語」

es エス pron それは

「主語」

mir ミア pron 僕にとって

「間接目的語」

im Grunde イム・グルンデ adv. 結局は

「副詞句」

ganz einerlei ガンツ・アイナーライ adj. まったくどうでも良い

「補語」

wäre. ヴェーレ 接 II・3 単現・評価(sein)v.i ～だろう

「動詞」

すると彼は僕に、生活を変えることに興味はないのかと尋ねた。

Da fragte er mich, ob mich ein Wechsel des Lebens nicht interessiere.

「副詞」「動詞」「主語」「間接目的語」「直接目的語」

Da ダー adv. そこで、すると

「副詞」

fragte フラクテ 3 単過(fragen)v.t 尋ねた

「動詞」

er エア pron 彼は

「主語」

mich, ミヒ pron.4 格 僕に

「間接目的語」

ob オップ conj. ～かどうかを

「直接目的語」

mich ...nicht interessiere. ミヒ ...ニヒト・インテレスィエ 1 単現・否定(sich-4 interessieren)

v.pr 興味を持たない

「動詞句」

ein Wechsel アイン・ヴェクセル n.m 変化に

「目的語」

des Lebens デス・レーベンス n.n.2 格 生活の

「形容詞句」

僕は、人は生活を変えようとしないうしろし、どんな生活も似たようなものだ。そして僕のここでの生活には満足している、と答えた。

Ich antwortete, man wechsele nie das Leben, eins sei so gut wie das andere, und mit meinem hier sei ich ganz zufrieden.

「主語」「動詞」「目的語」,「目的語」,und「目的語」

Ich イヒ pron 僕は

「主語」

antwortete, アントヴェアテ 1 単過(antworten)v.t(et-4 と) 答えた

「動詞」

n. ～と

「目的語」

man マン pron 人は

「主語」

wechsele nie ヴェクセル・ニー 接・3 単現・否定(wechseln)v.t 変えないだろう

「動詞」

das Leben, ダス・レーベン n.n.4 格 生活を

「目的語」

n. ～と

「目的語」

eins アインス pron ある生活は

「主語」

sei サイ 接・(sein)v.i ～だろう

「動詞」

ERSTER TEIL 第1部

so gut ザーグーアト adj. (比較) 同じくらい良い	「補語」
wie das andere, ヴィー・ダス・アンデレ adv. (比較) 他の生活と	「副詞句」
und ウント conj. そして	
n. ～と	「目的語」
mit meinem hier ミット・マイネム・ヒア adv. (関連) この僕の生活について	「副詞句」
sei ザイ 接・1 単現・評価(sein)v.i ～である	「動詞」
ich イヒ pron 僕は	「主語」
ganz zufrieden. ガンツ・ツフリーテソ adj. まったく満足した	「補語」

彼は不機嫌な顔をして、僕はいつも質問をはぐらかす、僕には野心がない、それはビジネスにとって命取りになると言った。

Er machte ein ungehaltenes Gesicht und meinte, ich antworte immer ausweichend und hätte keinen Ehrgeiz, und das sei für einen Kaufmann sehr vom Übel.

「主語」「動詞」「目的語」 und 「動詞」「目的語」, und 「主語」「動詞」「補語」	
Er エア pron 彼は	「主語」
machte マヘ 3 単過(machen)v.t 作った、した	「動詞」
ein ungehaltenes アイン・ウンゲ・ハルテネス adj..n.4 格 不機嫌な	「形容詞句」
Gesicht ゲジヒト n.n.4 格 顔を	「目的語」
und ウント conj. そして	
meinte, マインテ 3 単過(meinen)v.t ～と言った	「動詞」
n. ～ということを	「目的語」
ich イヒ pron 僕は	「主語」
antworte アントヴ・ォアテ 1 単現(antworten)v.i 答える	「動詞」
immer ausweichend イマー・アウスヴ・アイヒェント adv. いつもはぐらかして	「副詞句」
ausweichend antworten アウスヴ・アイヒェント・アントヴ・ォアテン 「質問をはぐらかす」	
und ウント conj. そして	
hätte ハッテ 接 II・1 単現(haben)v.t ～がある	「動詞」
keinen Ehrgeiz, カイネン・エーア・ガイツ n.m 野心が少しも～ない	「目的語」
und ウント conj. そして	
das ダス pron そのことは	「主語」
sei ザイ 接・3 単現・推量(sein)v.i ～になるだろう	「動詞」
für einen Kaufmann フュア・アイネン・カウフマン adv. ビジネスマンにとって	「副詞句」
sehr vom Übel. セーア・フォム・ユーベル adv. 非常に悪い	「補語」

ERSTER TEIL 第1部

そこで僕はまた仕事に戻った。

Dann kehrte ich zu meiner Arbeit zurück. 「副詞」「動詞」「主語」「間接目的語」「副詞」
 Dann ダン adv. そこで 「副詞」
 kehrte ケアテ 1 単過(kehren)v.i 戻った 「動詞」
 ich イヒ pron 僕は 「主語」
 zu meiner Arbeit ツー・マイナー・アルハイト adv. 仕事に 「間接目的語」
 zurück. ツリュック adv. もとの場所に 「副詞」

社長が僕に対して不満を抱いたことは悔やまれるが、僕が生活を変えるべきだという理由は何も見つからなかった。

Es tat mir leid, daß er unzufrieden mit mir war, aber ich sah nicht ein, weshalb ich hätte wechseln sollen. 「動詞」「間接目的語」「補語」「主語」, aber 「主語」「動詞」「目的語」
 Es エス pron 仮の主語（真の主語は daß er unzufrieden mit mir war）
 tat タート 3 単過(tun)v.i （様態を示す語と）作用をした 「動詞」
 mir ミア pron 僕にとって 「間接目的語」
 leid, ライト adj. 悔やまれる 「補語」
 daß ダス conj. ～ということは 「主語」
 er エア pron 彼は 「主語」
 unzufrieden mit mir ウンツフリーデן・ミット・ミーアー adj. 僕に対して不満な 「補語」
 war, ヴァール 3 単過・時制の一致(sein)v.i ～である 「動詞」
 aber アーバー conj. しかし
 ich イヒ pron 僕は 「主語」
 sah ザー 1 単過(sehen)v.t 見えた 「動詞」
 nicht ein, ニヒト・アイン pron 一つも～ない 「目的語」
 weshalb ヴェシャルプ adv. どうして～するか理由は 「形容詞節」
 ich イヒ pron 僕が 「主語」
 hätte wechseln sollen. ヘッテ・ヴェクセルン・ゾレン 接 II・1 単現・完了形・妥当・時制の一致
 (sollen+不定詞)v.t 変えるべきである 「動詞句」

良く考えると、僕は健康で幸せだ。

Wenn ich alles genau überlegte, fühlte ich mich ganz wohl und glücklich.
 「副詞節」, 「動詞句」「主語」「動詞句」「補語」
 Wenn ヴェン conj. ～すると 「副詞節」
 ich イヒ pron 僕が 「主語」
 alles アレス pron すべてを 「目的語」
 genau ゲナウ adv. 詳細に 「副詞」

ERSTER TEIL 第1部

überlegte, ユーバーレークテ 1 単過・時制の一致(überlegen)v.t 考える	「動詞」
fühlte ...mich フュールテ...ミッヒ 1 単過・時制の一致(sich-4 fühlen)	
v.pr 自分を～だと感じる	「動詞句」
ich イッヒ pron 僕は	「主語」
ganz wohl ガンツ・ウォール adj. まったく気分よく	「補語」
und ウント conj. そして	
glücklich. グリュックリヒ adj. 幸せな	「補語」

僕がまだ学生だった頃、この種の野心はたくさんあった。

Als ich noch Student war, hatte ich manchen Ehrgeiz dieser Art.	「副詞節」, 「動詞」 「主語」 「目的語」
Als アルス conj. ～した時	「副詞節」
ich イッヒ pron 僕が	「主語」
noch ノッホ adv. まだ	「副詞」
Student ストゥデント n.m.1 格 学生	「補語」
war, ヴァール 1 単過(sein)v.i ～ だった	「動詞」
hatte ハッテ 1 単過(haben)v.t ～があった	「動詞」
ich イッヒ pron 僕は	「主語」
manchen Ehrgeiz マンヒエン・エアガイ ス n.m.4 格 かなりの野心を	「目的語」
manch マンヒ pron (付加語) かなりの Ehrgeiz エアガイ ス n.m 野心	
dieser Art. ディーザー・アールト n.f.2 格 この種の	「形容詞句」

しかし、学業を断念しなければならなくなった時、そんな野心などはあまり重要ではないとすぐに分かった。

Aber als ich das Studium aufgeben mußte, wurde mir schnell klar, daß das alles nicht so wichtig ist.	Aber 「副詞節」, 「動詞」 「間接目的語」 「補語」 「主語」
Aber アーバー conj. しかし	
als アルス conj. ～した時	「副詞節」
ich イッヒ pron 僕が	「主語」
das Studium ダス・シュトゥディウム n.n.4 格 学業を	「目的語」
aufgeben mußte, アウフゲーベン・ムステ 1 単過・必要(müssen+不定詞 aufgeben)	
v.t 断念しなければならなくなった	「動詞句」
wurde ヴルデ 3 単過・変化(werden)v.i ～になった	「動詞」
mir ミーア pron 僕にとって	「間接目的語」
schnell シュネル adv. すぐに	「副詞」
klar, クラール adj. 明白な	「補語」

ERSTER TEIL 第1部

daß ^{ダス} conj. ～ということとは	「主語」
das alles ^{ダス・アレス} n.n そのようなことはみな	「主語」
nicht ...ist. ^{ニヒト...イスト} 3 単現・否定(sein)v.i ～でない	「動詞句」
so wichtig ^{ゾー・ウィヒティヒ} adj. (否定文で) あまり重要な～でない	「補語」

その晩、マリーが僕を迎えに来て、僕に結婚するつもりがあるのかと尋ねた。

Am Abend holte Maria mich ab und fragte mich, ob ich sie heiraten wolle.

「副詞句」「動詞句」「主語」「目的語」「動詞句」

und 「動詞」「間接目的語」「直接目的語」

Am Abend ^{アム・アーベント} adv. 夕方に、その晩に	「副詞句」
holte ...ab ^{ホルテ...アッブ} 3 単過(ab holen)v.t 迎えに来た	「動詞句」
Maria ^{マリア} n.f マリーが	「主語」
mich ^{ミヒ} pron.4 格 僕を	「目的語」
und ^{ウント} conj. そして	
fragte ^{フラーケ} 3 単過(fragen)v.t 尋ねた	「動詞」
mich, ^{ミヒ} pron.4 格 僕に	「間接目的語」
ob ^{オッブ} conj. ～かどうかを	「直接目的語」
ich ^{イヒ} pron 僕は	「主語」
sie ^{ジー} pron.4 格 彼女と	「目的語」
heiraten wolle. ^{ハイレーテン・ウレ} 1 単現・意思(wollen+不定詞 heiraten) v.t(j-4 と) 結婚するつもりだ	「動詞句」

僕はどちらでもいいが、彼女が望むなら、結婚してもいいと答えた。

Ich antwortete ihr, das wäre mir einerlei, aber wir könnten heiraten, wenn sie es wolle.

「主語」「動詞」「間接目的語」「直接目的語」, aber 「主語」「動詞句」「副詞節」

Ich ^{イヒ} pron 僕は	「主語」
antwortete ^{アントヴルテ} 1 単過(antworten)v.t 答えた	「動詞」
ihr, ^{イーア} pron.f.3 格 彼女に	「間接目的語」
das ^{ダス} conj. ～ということ	「直接目的語」
wäre ^{ヴェーレ} 接 II・3 単現・推量(sein)v.i ～だろう	「動詞」
mir ^{ミーア} pron 僕にとって	「間接目的語」
einerlei, ^{アイナーライ} adj. どちらでもよい	「補語」
aber ^{アーバー} conj. しかし	
wir ^{ウィア} pron.pl 僕たちは	「主語」
könnten heiraten, ^{ケンテン・ハイレーテン} 接 II・1 複現・許可(können+不定詞 heiraten) v.i 結婚してもいい	「動詞句」

ERSTER TEIL 第1部

wenn ヲン conj. (条件) ～するならば	「副詞節」
sie シー pron 彼女が	「主語」
es エス pron それを	「目的語」
wolle. ヲル 接・3 単現(wollen)v.t 望む	「動詞」

すると彼女は、僕が彼女を愛しているかどうか知りたかった。

<u>Da wollte sie wissen, ob ich sie liebe.</u>	「副詞」「動詞句」「主語」「動詞句」「目的語」
Da ダー adv. すると	「副詞」
wollte ...wissen, ヲルテ...ッセン 3 単過・願望(eollen+不定詞 wissen)	
v.t 知りたかった	「動詞句」
sie シー pron.f 彼女は	「主語」
ob オフ conj. ～かどうかを	「目的語」
ich イヒ pron 僕は	「主語」
sie シー pron.f.4 格 彼女を	「目的語」
liebe. リーヘ 1 単現(lieben)v.t 愛している	「動詞」

僕は前に一度言ったように、それはあまり重要ではないが、たぶん愛していないと答えた。

<u>Ich antwortete, wie ich schon einmal geantwortet hatte, daß das nicht so wichtig sei, daß ich sie aber zweifellos nicht liebe.</u>	「主語」「動詞」「副詞節」「目的語」
Ich イヒ pron 僕は	「主語」
antwortete, アントゥオルテ 1 単過(antworten)v.t 答えた	「動詞」
wie ヲー conj. (様態) ～のように	「副詞節」
ich イヒ pron 僕は	「主語」
schon ショーン adv. すでに	「副詞」
einmal アインマル adv. 一度	「副詞」
geantwortet hatte, ゲ・アントゥオルテット・ハッテ 1 単過・完了形(antworten)	
v.t 答えた	「動詞句」
daß ダス conj. ～ということを	「目的語」
das ダス pron それは	「主語」
nicht so wichtig ニヒト・ゾー・グィヒヒ adj. あまり重要でない	「補語」
sei, サイ 接・3 単現・価値判断(sein)v.i ～である	「動詞」
daß ダス conj. ～ということを	「目的語」
ich イヒ pron 僕は	「主語」
sie シー pron.f 彼女を	「目的語」
aber アーバー conj. しかし	
zweifellos ツァイフェロス adv. 明らかに、きっと	「副詞」

ERSTER TEIL 第1部

nicht liebe. ニヒト・リーヘ 1 単現・否定(lieben)v.t 愛していない 「動詞句」

「それじゃあどうして、私と結婚するの？」と、彼女は尋ねた。

«Warum willst du mich dann heiraten?» fragte sie.

《「副詞」「動詞句」「主語」「目的語」「副詞」「動詞句」》, 「動詞」「主語」

«Warum ウァルム adv. どうして 「副詞」

willst ...heiraten?» ウィルスト...ハイレーテン 2 単現・意思(wollen+不定詞 heiraten)

v.t 結婚しようとするの? 「動詞句」

du ドゥ pron あなたは 「主語」

mich ミヒ pron.4 格 私と 「目的語」

dann ダン adv. それじゃあ 「副詞」

fragte フラクテ 3 単過(fragen)v.t 尋ねた 「動詞」

sie. シー pron.f 彼女は 「主語」

僕は、理由なんて全く重要ではないが、彼女が望むなら結婚しようと彼女に説明した。

Ich erklärte ihr, das sei ganz unwichtig; wenn sie wolle, könnten wir heiraten.

「主語」「動詞」「間接目的語」「直接目的語」

Ich イヒ pron 僕は 「主語」

erklärte エアクレアテ 1 単過(erkennen)v.t 説明した 「動詞」

ihr, イーア pron.f.3 格 彼女に 「間接目的語」

das ダス conj. ～ということを 「直接目的語」

sei サイ 接・3 単現・評価(sein)v.i ～である 「動詞」

ganz unwichtig; ガンツ・ウンウィヒチヒ adj. 全く重要でない 「補語」

wenn ウェン conj. (条件) ～ならば 「副詞節」

sie シー pron.f 彼女が 「主語」

wolle, ウォレ 接・3 単現(wollen)v.t 望む 「動詞」

könnten ...heiraten. ケnten...ハイレーテン 接 II・1 複現・許可(können+不定詞 heiraten)

v.i 結婚しよう 「動詞句」

wir ウィーア pron.pl 僕たちは 「主語」

ERSTER TEIL 第1部

元はと言えば、彼女がそれを望んだ。一方、僕はそれに同意しただけだ。

Übrigens wollte sie es durchaus, während ich mich damit nur einverstanden erklärte.

「副詞」「動詞」「主語」「目的語」「副詞」,

während 「主語」「動詞句」「間接目的語」「補語」「動詞句」

Übrigens ユーブリゲンス adv. (話題を少し変えて) ところで、それはそうと 「副詞」

wollte ヴォルテ 3 単過(wollen)v.t 望んだ 「動詞」

sie シー pron.f 彼女は 「主語」

es エス pron それを、結婚を 「目的語」

durchaus, ドゥアルヒ・アウス adv. ぜひと、どうしても 「副詞」

während ヴェーレント conj. ~である一方で、その一方で

ich イッヒ pron 僕は 「主語」

mich ...erklärte. ニヒト...エアクレアテ 1 単過(sich-4 erklären)v.pr(für et-4)

v.pr 何-4 に (賛成の意を) 表明した 「動詞句」

damit ダミット adv. それに対して 「間接目的語」

nur ノーア adv. ~でしかない 「副詞」

einverstanden アインフェアシュタンテンス adj. 同意した 「補語」

彼女は、結婚というのはとても大事なことだ、と言った。

Sie meinte, die Ehe sei etwas sehr Ernstes. 「主語」「動詞」「目的語」

Sie シー pron.f 彼女は 「主語」

meinte, マインテ 3 単過(meinen)v.t 言った 「動詞」

n. ~ということ を 「目的語」

die Ehe デーイー・エーエ n.f 結婚は 「主語」

sei サイ 接・3 単現・評価(sein)v.i ~である 「動詞」

etwas エトワース pron 何か 「補語」

sehr Ernstes. ゼーア・エアンステス n.m.2 格 とても大事な 「形容詞句」

僕は「違う！」と答えた。彼女は少しの間黙り込み、僕を見つめて、また話した。

Ich antwortete: «Nein.» Sie schwieg eine Weile und sah mich an. Dann redete sie.

「主語」「動詞」《「応答」》 | 「主語」「動詞」「副詞句」

und 「動詞句」「目的語」「動詞句」 | 「副詞」「動詞」「主語」

Ich イッヒ pron 僕は 「主語」

antwortete: アントヴォアテ 1 単過(antworten)v.t 答えた 「動詞」

«Nein.» ナイン adv. 違う 「応答」

Sie シー pron.f 彼女は 「主語」

schwieg シュウィーク 3 単過(schwiegen)v.i 黙った 「動詞」

ERSTER TEIL 第1部

eine Weile アイネ・ヴァイレ adv. 少しの間	「副詞句」
und ウント conj. そして	
sah ...an. ザー...アン 3 単過(an sehen)v.t 見つめた	「動詞句」
mich ミッヒ pron.4 格 僕を	「目的語」
Dann ダン adv. それから	「副詞」
redete レーデテ 3 単過(reden)v.i 話した	「動詞」
sie. シー pron.f 彼女は	「主語」

彼女は、もし同じ関係にある別の女性から同じ申し出があつたら、僕はそれを受け入れたかどうかだけ知りたいと尋ねた。僕は、「もちろん受け入れたさ」と答えた。

Sie wollte nur wissen, ob ich denselben Vorschlag einer anderen Frau mit der ich auf die gleiche Weise verbunden wäre angenommen hätte. Ich antwortete «Selbstverständlich».

「主語」「動詞句」「副詞」「目的語」 | 「主語」「動詞」《「応答」》

Sie シー pron.f 彼女は	「主語」
wollte ...wissen, ヴォルテ...グアイッセン 3 単過・願望(wollen+不定詞 wissen)	
v.t 知ろうとした、尋ねた	「動詞句」
nur ノー adv. ～だけ	「副詞」
ob オフ conj. ～かどうかということ	「目的語」
ich イッヒ pron 僕は	「主語」
denselben Vorschlag デンゼンベルベン・フォーアシュレーク n.m.4 格 同じ提案を	「目的語」
einer anderen Frau, アイアー・アンデレン・フラウ n.f.2 格 他の女の	「形容詞句」
mit der ミット・デア adv. その女と～する	「形容詞節」
ich イッヒ pron 僕は	「主語」
auf die gleiche Weise アウフ・デア・グライヒ・ヴァイゼ	
adv. (状態) 同じ関係に	「副詞句」
verbunden wäre, フェアボンデレン・ヴァーレ 接 II・1 単現・状態受動・推量(verbinden)	
v.t 結ばれているだろう	「動詞句」
angenommen hätte アンゲノמן・ヘッテ 接 II・1 単現・完了形・推量(an nehmen)	
v.t 受け入れるだろう	「動詞句」
Ich イッヒ pron 僕は	「主語」
antwortete アントヴァーテ 1 単過(antworten)v.t 答えた	「動詞」
«Selbstverständlich». セルプ・ストフェアシュタントリヒ adv. (肯定) もちろん	「応答」

ERSTER TEIL 第1部

そこで彼女は僕を愛しているのだろうかと自問した。それについて、僕は何も言えない。

Sie fragte sich dann, ob sie mich liebte, und dazu konnte ich nichts sagen.

「主語」「動詞句」「副詞」「動詞句」「目的語」,und「副詞」「動詞句」「主語」「目的語」
 Sie ジー pron.f 彼女は 「主語」
 fragte sich フラクテ・ズィヒ 3 単過(sich-4 gragen)v.pr 自問した 「動詞句」
 dann, ダン adv. そこで 「副詞」
 ob オフ conj. ～かどうかということ 「目的語」
 sie ジー pron.f 彼女は (自分は) 「主語」
 mich ミヒ pron.4 格 僕を 「目的語」
 liebte, リーテ 3 単過・時制の一致(lieben)v.t 愛している 「動詞」
 und ウント conj. そして
 dazu ダツァー adv. (関連) それに関しては 「副詞」
 konnte ...sagen. コンテ...ザーゲン 1 単過・可能(können+不定詞)v.t 言えた 「動詞句」
 ich イヒ pron 僕は 「主語」
 nichts ニヒツ pron 何も～ない 「目的語」

彼女はまたしばらく黙り込んだ。それから、僕は変わっているそしてそれだから僕を愛しているのだろう、けれど同じ理由で僕の事を嫌いになるかもしれないと小声で言った。

Wieder schwieg sie eine Weile, dann sagte sie leise, ich sei ein seltsamer Mensch, und sie liebe mich gerade deswegen, aber vielleicht werde ich ihr eines Tages aus den gleichen Gründen ein Abscheu sein ...

「副詞」「動詞」「主語」「副詞句」,「副詞」「動詞」「主語」「副詞」「目的語」,
 und「主語」「動詞」「目的語」「副詞句」,
 aber「副詞」「動詞句」「主語」「間接目的語」「副詞句」「補語」「動詞句」
 Wieder ウィーダー adv. また、再び 「副詞」
 schwieg シュウィーク 3 単過(schweigen)v.i 黙り込んだ 「動詞」
 sie ジー pron.f 彼女は 「主語」
 eine Weile, アイン・ヴァイレ n.f.4 格 しばらくの間 「副詞句」
 dann ダン adv. それから 「副詞」
 sagte サークテ 3 単過(sagen)v.t 言った 「動詞」
 sie ジー pron.f 彼女は 「主語」
 leise, ライゼ adv. 小声で 「副詞」
 ich イヒ pron 僕は～ということ 「目的語」
 sei サイ 接・1 単現・評価(sein)v.i ～である 「動詞」
 ein seltsamer Mensch, アイン・ゼルトサーマー・メンシュ n.m.1 格 変わった人間 「補語」
 seltsam セルトサーム adj. 奇妙な、変わった

ERSTER TEIL 第1部

und ウント conj. そして	
sie シー pron.f 彼女は	「主語」
liebe リーベ 接・3 単現・推量(lieben)v.t 愛しているだろう	「動詞」
mich ミット pron.4 格 僕を	「目的語」
gerade deswegen, ゲラーテ・デスワェーゲン adv. まさにその理由で	「副詞句」
gerade ゲラーテ adv. まさに deswegen デスワェーゲン adv. (理由) それゆえに	
aber アーバー conj. しかし、だが	
vielleicht フライヒト adv. もしかすると、ひょっとしたら	「副詞」
werde ...sein ... ウェアデ ...ザイン 1 単未・変化・推量(sein)v.i ~になるかもしれない	「動詞句」
ich イット pron 僕は	「主語」
ihr イア pron.3 格 彼女にとって	「間接目的語」
eines Tages アイネス・ターゲス n.m.2 格 いつか	「副詞句」
aus アウス prep (動機) ~ゆえに、~のために	「副詞句」
den gleichen Gründen デン・グライヘン・グライヘン・グリュンデン pl(Grund)n.m.3 格 同じ理由	「目的語」
ein Abscheu アイン・アップショイ n.m.1 格 忌み嫌うこと	「補語」

僕は言うことが無いので黙っていた。

<u>Ich schwieg, weil ich nichts zu sagen hatte.</u>	「主語」「動詞」「副詞節」
Ich イット pron 僕は	「主語」
schwieg, シュウィーク 1 単過(schweigen)v.i 黙った、黙っていた	「動詞」
weil ウェイル conj. (理由) ~なので	「副詞節」
ich イット pron 僕は	「主語」
nichts zu sagen ニヒツ・ツァー・ザーゲン pron (目的) 言うべきことが何も~ない	「目的語」
hatte. ハッテ 1 単過(haben)v.t ~があった	「動詞」

その時、彼女は微笑みながら僕の腕を取り、僕と結婚したいとはっきり言った。

<u>Da nahm sie mich lachend beim Arm und erklärte, sie wolle mich heiraten.</u>	「副詞」「動詞」「主語」「直接目的語」「間接目的語」und「動詞句」「目的語」
Da ダー adv. その時、そこで	「副詞」
nahm ナム 3 単過(nehmen)v.t つかんだ、取った	「動詞」
sie シー pron.f 彼女は	「主語」
mich ミット pron.4 格 僕を	「直接目的語」
lachend ラハント adv. 嬉しそうに	「副詞」
beim Arm バイム・アルム adv. (接点・体の部分) 腕を	「間接目的語」
und ウント conj. そして	

ERSTER TEIL 第1部

erklärte, エアクレアテ 3 単過(erkklären)v.t はっきりと言った 「動詞」
 sie ジー pron.f 彼女は～ということ 「目的語」
 wollte ...heiraten. ヲェレ...ハイラテン 接・3 単現・願望(wollen+不定詞 heiraten)
 v.t 結婚したい 「動詞句」
 mich ミッヒ pron.4 格 僕と 「目的語」

僕は、彼女が望めばすぐにでも結婚すればよい、と答えた。

Ich antwortete, wir könnten es tun, sobald sie es wünsche.

「主語」「動詞」「目的語」「副詞節」
 Ich イッヒ pron 僕は 「主語」
 antwortete, アントヴォアテ 1 単過(antworten)v.t 答えた 「動詞」
 n. ～ということ 「目的語」
 wir ヲーア pron 僕たちは 「主語」
 könnten ...tun, ケンテン...トゥン 接 II・1 複現・許可(können+不定詞 tun)
 v.t しても良いだろう 「動詞句」
 es エス pron それを、結婚を 「目的語」
 sobald ソバルト conj. ～するとすぐに 「副詞節」
 sie ジー pron 彼女が 「主語」
 es エス pron それを、結婚を 「目的語」
 wünsche, ヲェンシェ 接・3 単現(wünschen)v.t 望む 「動詞」

それから僕は社長の申し出の事を彼女に話して聞かせた。すると、彼女は是非パリに行ってみたいと言った。

Dann erzählte ich ihr von dem Angebot des Chefs, und Maria meinte, sie würde Paris gern kennenlernen.

「副詞」「動詞」「主語」「間接目的語」,und「主語」「動詞」「目的語」
 Dann ダン adv. それから、その後 「副詞」
 erzählte エアツェールテ 1 単過(erzählen)v.t(von について) 語って聞かせた 「動詞」
 ich イッヒ pron 僕は 「主語」
 ihr イーア pron.f.3 格 彼女に 「間接目的語」
 von フォン prep (関連) ～について 「間接目的語」
 dem Angebot デーム・アンゲボート n.n.3 格 申し出、提案 「目的語」
 des Chefs, デス・シェフス n.m.2 格 社長の 「形容詞句」
 und ウント conj. そして
 Maria マリア n.f マリーは 「主語」
 meinte, マインテ 3 単過(meinen)v.t ～と言った 「動詞」

ERSTER TEIL 第1部

sie ジー pron.f 彼女は～だということを	「目的語」
würde ... kennenlernen. ヲ ^ル テ ^テ ...ケ ^ル ニア ^ル 接 II・3 単現・婉曲・願望(werden+不定詞)	
v.t 出来るなら行きたい	「動詞句」
Paris ハ ^リ ス n.n.4 格 パリに	「目的語」
gern ゲ ^ア ン adv. 喜んで、とても	「副詞」

僕は一時期パリに住んでいたことがあると彼女に話した。すると彼女はそこはどんなところなのかと尋ねた。

<u>Ich sagte ihr, daß ich eine Zeitlang in Paris gelebt habe, und sie fragte, wie es dort sei.</u>	
「主語」「動詞」「間接目的語」「直接目的語」,und「主語」「動詞」「目的語」	
Ich イッヒ pron 僕は	「主語」
sagte サ ^ー ケ 1 単過(sagen)v.t 言った	「動詞」
ihr, イ ^ー ア pron.f.3 格 彼女に	「間接目的語」
daß ダ ^ス conj. ～ということを	「直接目的語」
ich イッヒ pron 僕は	「主語」
eine Zeitlang アイネ・ツァイトラング ^ク adv. 一時期	「副詞句」
in Paris イン・パ ^リ ス adv. パリに	「副詞句」
gelebt habe, ゲ ^レ プト・ハ ^ー ベ 1 単現・完了形(leben)v.i 暮らしていた	「動詞句」
und ウント conj. そして	
sie ジー pron.f 彼女は	「主語」
fragte, フラ ^ー ケ 3 単過(fragen)v.t 尋ねた	「動詞」
wie ヲ ^イ ー adv. どのようなということを	「目的語」
es エス pron それは	「主語」
dort ト ^ア ト adv. そこは	「副詞」
sei. サ ^イ 3 単現(sein)v.i ～である	「動詞」

僕は言った：「汚い所だよ。ただ鳩が中庭にいて、人々は青白かった」

<u>Ich sagte: «Schmutzig, lauter Tauben und dunkle Höfe. Die Menschen sind alle ganz blaß.»</u>	
「主語」「動詞」:《「補語」「主語」 「主語」「動詞」「補語」》	
Ich イッヒ pron 僕は	「主語」
sagte: サ ^ー ケ 1 単過(sagen)v.t 言った	「動詞」
«Schmutzig, シュムツツィヒ adj. 汚い	「補語」
lauter ラウター adj. (付加語)(存在)ただ～だけ	「形容詞」
Tauben タ ^ウ ベン pl(Taube)n.f 鳩	「主語」
und ウント conj. そして	
dunkle Höfe. ト ^ウ ンクレ・ヘ ^ー フェ pl(Hof)n.m 暗い中庭	「主語」

ERSTER TEIL 第1部

dunkle ドゥンクレ adj(dunkel).pl.1 格 暗い
 Die Menschen デー・メンシェン pl(Mensch).m.pl 人々は 「主語」
 sind シント 3 複現(sein)v.i 〜である 「動詞」
 alle ganz blaß.」アレ・ガンツ・ブラッス adj. みんな真っ白い 「補語」

それから僕たちは街の大通りづたいに歩いた。

Dann sind wir durch die breiten Straßen der Stadt gegangen.

「副詞」「動詞句」「主語」「副詞句」「動詞句」
 Dann ダン adv. それから、その後 「副詞」
 sind ...gegangen. シント...ゲ・ガングェン 1 複現・完了形(gehen)v.i 歩いた 「動詞句」
 wir ウィア pron.pl 僕たちは 「主語」
 durch ドゥルヒ prep (4 格と) (通過) 〜を通過 「副詞句」
 die breiten Straßen デー・ブライテン・シュトラーセン pl(Straße).n.f.4 格 大通り 「目的語」
 breit ブライト adj. 幅の広い Straße シュトラーセ n.f 大通り
 der Stadt デア・シュタット n.f.2 格 街の 「形容詞句」

女たちがきれいだった。僕はマリーにそう思わないかと尋ねた。

Die Frauen waren schön, und ich fragte Maria, ob sie das auch sehe.

「主語」「動詞」「補語」,und「主語」「動詞」「間接目的語」「直接目的語」
 Die Frauen デー・フラウエン pl(Frau).n.f 女たちは 「主語」
 waren ウェーレン 3 複過(sein)v.i 〜だった 「動詞」
 schön, シェーン adj. きれいな 「補語」
 und ウント conj. そして
 ich イヒ pron 僕は 「主語」
 fragte フラケ 1 単過(fragen)v.t 尋ねた 「動詞」
 Maria, マリア n.f マリーに 「間接目的語」
 ob オッパ conj. 〜かどうかということ 「直接目的語」
 sie シー pron.f 彼女は 「主語」
 das ダス pron それを 「目的語」
 auch アウ adv. 〜もまた 「副詞」
 sehe. セーエ 接・3 単現(sehen)v.i 思う 「動詞」

ERSTER TEIL 第1部

彼女は同意して、僕の気持ちが分かる気がすると言った。

Sie bejahte und meinte, sie verstehe mich schon.

「主語」「動詞」 und 「動詞」「目的語」

Sie ジー pron.f 彼女は

「主語」

bejahte ベヤーテ 3 単過(bejahen)v.t 同意した

「動詞」

und ウント conj. そして

meinte, マインテ 3 単過(meinen)v.t 言った

「動詞」

sie ジー pron.f 彼女は～ということを

「目的語」

verstehe フェアシュテエ 接・3 単現・推量(verstehen)v.t 分かる気がする

「動詞」

mich ミヒ pron 僕のいうことを

「目的語」

schon. ショーン adv. 本当に、きっと

「副詞」

しばらくの間、僕たちは無言でいた。しかし僕は、彼女がそばにいて欲しかったので、セレステのレストランで食事をしないかと誘ってみた。

Eine Weile schwiegen wir. Ich wollte aber, daß sie bei mir blieb, und schlug ihr vor, bei Celeste zu essen.

「副詞句」「動詞」「主語」 | 「主語」「動詞」 aber, 「目的語」, und

「動詞句」「間接目的語」「直接目的語」

Eine Weile アイン・ヴァイル n.f.4 格 しばらくの間

「副詞句」

schwiegen シュウィーゲン 1 複過(schweigen)v.i 黙っていた、無言でいた

「動詞」

wir. ヴィーア pron 僕たちは

「主語」

Ich イヒ pron 僕は

「主語」

wollte ヴォルト 1 単過(wollen)v.t ～を望んだ

「動詞」

aber, アーバー conj. しかし

daß ダス conj. ～ということを

「目的語」

sie ジー pron.f 彼女が

「主語」

bei mir バイ・ミーア adv. 僕のそばに

「副詞句」

blieb, ブリープ 3 単過・時制の一致(bleiben)v.i 留まる、居る

「動詞」

und ウント conj. そして

schlug ...vor, シュルク...フォー 1 単過(vor|schlagen)v.t 提案した

「動詞句」

ihr イーア pron.3 格 彼女に

「間接目的語」

zu 不定句 n. ～することを

「直接目的語」

bei Celeste バイ・セステ adv. セレステのレストランで

「副詞句」

zu essen. ツー・エッセン zu 不定詞 v.t 食事する

「動詞句」

ERSTER TEIL 第1部

彼女はそうしたいと思っていたが、まだ用事があった。

Sie hatte große Lust, aber sie hatte noch zu tun.

「主語」「動詞」「目的語」, aber 「主語」「動詞」「副詞」「目的語」

Sie シー pron.f 彼女は

「主語」

hatte ハッテ 3 単過(haben)v.t ~があった

「動詞」

große Lust, グローセ・lust n.f.4 格 大きな意欲が

「目的語」

aber アーバー conj. しかし

sie シー pron 彼女は

「主語」

hatte ハッテ 3 単過(haben)v.t ~があった

「動詞」

noch ノッホ adv. まだ

「副詞」

zu tun. ユー・トゥン zu 不定詞 n. する事、用事

「目的語」

僕のアパートの近くまで来ていたので、僕は彼女にさよならと言った。

Wir waren in der Nähe meiner Wohnung, und ich verabschiedete mich von ihr.

「主語」「動詞」「副詞句」, und 「主語」「動詞句」「間接目的語」

Wir ウィア pron.pl 僕たちは

「主語」

waren ウァレン 1 複過・移動(sein)v.i ~に来ていた

「動詞」

in イン prep (3 格と) (空間的) ~に

「副詞句」

der Nähe デア・ネーエ n.f.3 格 近く

「目的語」

meiner Wohnung, マイナー・ウォヌング n.f.2 格 僕の住まいの

「形容詞句」

und ウント conj. そして

ich イヒ pron 僕は

「主語」

verabschiedete mich フェアアッブ シーテテ・ミヒ 1 単過(sich-4 verabschieden)

v.pr(von j-3 に) 別れを告げた

「動詞句」

von ihr. フォン・イア adv. 彼女に

「間接目的語」

彼女は僕を見つめた：「なんの用事か知りたくないの？」

Sie sah mich an: «Willst du nicht wissen, was ich zu tun habe?»

「主語」「動詞句」「目的語」「動詞句」: «「動詞句」「主語」「動詞句」「目的語」»

Sie シー pron.f 彼女は

「主語」

sah ...an: サー...アン 3 単過(an|sehen)v.t 見つめた

「動詞句」

mich ミヒ pron.4 格 僕を

「目的語」

«Willst ...nicht wissen, ウィルスト...ニヒト・ウァッセン 2 単現・意思・否定・疑問文(wollen+不定詞)

v.t 知りたいと思わないの？

「動詞句」

du ドゥ pron あなたは

「主語」

was ヴァス pron 何を

「目的語」

ERSTER TEIL 第1部

ich イヒ pron 私は 「主語」
 zu tun ツー・トゥン zu 不定詞・必要 adj. すべき 「形容詞句」
 habe? ハーベ 1 単現(haben)v.t ~がある 「動詞」

もちろん知りたい、しかしそれについて僕は考えていなかった。そして彼女は、そのこと
 で僕に腹を立てているようだった。

Natürlich wollte ich das wissen, aber ich hatte nicht daran gedacht, und das schien sie mir übel zu nehmen. 「副詞」「動詞句」「主語」「目的語」「動詞句」,

aber 「主語」「動詞句」「間接目的語」「動詞句」,

und 「直接目的語」「動詞句」「主語」「間接目的語」「動詞句」

Natürlich ナチュアリヒ adv. もちろん、当然 「副詞」

wollte ...wissen, ヲォルテ...グァイツェン 1 単過・願望(wollen+不定詞 wissen)

v.t 知りたかった 「動詞句」

ich イヒ pron 私は 「主語」

das ダス pron そのことを 「目的語」

aber アーバー conj. しかし

ich イヒ pron 私は 「主語」

hatte nicht ...gedacht, ハッテ・ニヒト...ゲダハト 1 単過・完了形・否定(denken)

v.i 考えていなかった 「動詞句」

daran ダラン adv. それについて 「間接目的語」

und ウント conj. そして

das ダス pron そのことを 「直接目的語」

schien シン 3 単過(scheinen)v.i (zu 不定句と) (～するように) 思われる 「動詞句」

sie ジー pron.f 彼女は 「主語」

mir ミー pron 僕に 「間接目的語」

übel zu nehmen. ユーベル・ツェ・ネーメン zu 不定詞(übel | nehmen)

v.t 腹を立てている 「動詞句」

彼女は僕の困った顔を見て、また笑い、僕をハグして唇を差し出した。

Als sie mein verlegenes Gesicht sah, lachte sie wieder und bot mir mit einer Bewegung des ganzen Körpers ihren Mund.

「副詞節」「動詞」「主語」「副詞」 und 「動詞」「間接目的語」「副詞句」「直接目的語」

Als アルス conj. ～した時、～して 「副詞節」

sie ジー pron.f 彼女は 「主語」

mein verlegenes マイン・フェアレゲネス adj.n.4 格 僕の困惑した 「形容詞句」

Gesicht ゲジヒト n.n.4 格 顔を 「目的語」

ERSTER TEIL 第1部

sah, サー 3 単過(sehen)v.t 見た	「動詞」
lachte ラヘ 3 単過(lachen) v.i 笑った	「動詞」
sie ジー pron.f 彼女は	「主語」
wieder ヱィター adv. また	「副詞」
und ウント conj. そして	
bot ボート 3 単過(bieten)v.t 差し出した	「動詞」
mir ミーア pron.3 格 僕に	「間接目的語」
mit einer Bewegung ミット・アイー・ベウエーグUNG adv. (様態・方法) ある動きで	「副詞句」
des ganzen Körpers デス・ガンツェン・ケルプース n.m.2 格 全身の	「形容詞句」
ihren Mund. イレン・ムント n.m.4 格 唇を	「直接目的語」

僕はセレステのレストランに食事に行った。僕がすでに食事を始めていると、小柄で奇妙な女がレストランに入ってきて、僕のテーブルに相席しても構わないかと尋ねた。

Ich aß bei Celeste. Ich hatte schon mit dem Essen begonnen, als eine kleine, seltsame Frau das Lokal betrat und mich fragte, ob sie sich an meinen Tisch setzen dürfe.

「主語」「動詞」「副詞句」 | 「主語」「動詞句」「副詞」「間接目的語」「副詞節」

und 「間接目的語」「動詞」「直接目的語」

Ich イット pron 僕は	「主語」
aß アース 1 単過(essen)v.i 食べた	「動詞」
bei Celeste. バイ・セレステ adv. (場所) セレステのレストランで	「副詞句」
Ich イット pron 僕は	「主語」
hatte ...begonnen, ハッテ...ベゴネン 1 単過・完了形(beginnen)v.i(mit を) 始めていた	「動詞句」
schon ショーン adv. すでに	「副詞」
mit dem Essen ミット・デーム・エッセン adv. 食事を	「間接目的語」
als アルス conj. その時～する、～した時	「副詞節」
eine kleine, seltsame アイネ・クライネ・ゼルトサーメ adj.f.1 格 小柄で奇妙な	「形容詞句」
Frau フ라우 n.f 女が、女性が	「主語」
das Lokal ダス・ロカル n.n.4 格 レストランに	「目的語」
betrat ベトラート 3 単過(betreteten)v.t 入ってきた、足を踏み入れた	「動詞」
und ウント conj. そして	
mich ミット pron.4 格 僕に	「間接目的語」
fragte, フラクテ 3 単過(fragen)v.t 尋ねた	「動詞」
ob オッフ conj. ～かどうかということ	「直接目的語」
sie ジー pron.f 彼女が	「主語」
sich ...setzen dürfe. スィット...ゼツェン・トクリュフェ 接・3 単現(dürfen+不定詞 sich-4 setzen)	
v.pr 座っても構わない	「動詞句」

ERSTER TEIL 第1部

an meinen Tisch アン・マイネン・ティッシュ

adv. (場所) 僕のテーブルに

「副詞句」

もちろん構わない。彼女はぎくしゃくした仕草で、小さいリンゴみたいな顔の中に目が光っていた。

Natürlich durfte sie das. Sie hatte abgehackte Bewegungen und blanke Augen in einem kleinen Apfelgesicht.

「副詞」「動詞句」「主語」「目的語」

「主語」「動詞」「目的語」 und 「目的語」「副詞句」

Natürlich ナチュアリヒ adv. もちろん、当然

「副詞」

durfte ドゥルフト 3 単過・時制の一致・本動詞省略(dürfen+不定詞)

v.t (相席して) 構わない

「動詞句」

sie シー pron.f 彼女は

「主語」

das. ダス pron 相席を

「目的語」

Sie シー pron.f 彼女は

「主語」

hatte ハッテ 3 単過(haben)v.t (特徴を) していた

「動詞」

abgehackte アップ・ゲ・ハクテン 過去分詞(ab|hacken)・受動

adj.pl.4 格 切り取られた

「形容詞句」

Bewegungen ベウエーグンゲン pl(Bewegung).n.f.4 格 仕草、身振り

「目的語」

→ 高速で点滅するストロボライトで撮影されたぎくしゃくした動きのような

und ウント conj. そして

blanke ブランケ adj(blank).pl.4 格 ピカピカ光る

「形容詞」

Augen アウゲン pl(Auge).n.n.4 格 目

「目的語」

in イン prep (3 格と) (空間的) ~の中に

「副詞句」

einem kleinen アイネム・クライネ adj(klein).n.3 格 小さい

「形容詞句」

Apfelgesicht. アップフェル・ゲシヒト

n(Apfel+Gesicht).n.3 格 リンゴみたいな顔

「目的語」

女はジャケットを脱いで腰を下ろすと、あわただしくメニューを調べた。

Sie legte ihr Jackett ab, setzte sich und studierte fieberhaft die Speisekarte.

「主語」「動詞句」「目的語」, 「動詞句」 und 「動詞」「副詞」「目的語」

Sie シー pron.f 彼女は

「主語」

legte ...ab, レクテ...アップ 3 単過(ab|legen)v.t (衣服を) 脱いだ

「動詞句」

ihr Jackett イーア・ジャケット n.n.4 格 ジャケットを、上着を

「目的語」

setzte sich セッツル・スィヒ 3 単過(sich+4 setzen)v.pr 座った、腰を下ろした

「動詞句」

und ウント conj. そして

studierte ストゥデーアテ 3 単過(studieren)v.t 調べた

「動詞」

ERSTER TEIL 第1部

fiieberhaft フィーバーハフト adv. せかせかと、忙しそうに、熱っぽく、あわただしく 「副詞」
die Speisekarte. ティー・シュハ 化 カルテ n.f.4 格 メニューを 「目的語」

それからセレステを呼ぶと、几帳面かつせわし気な口調ですべてを一気に注文した。

Dann rief sie Celeste und bestellte alles mit einer genauen und überstürzten Stimme.

「副詞」「動詞」「主語」「目的語」 und 「動詞」「目的語」「副詞句」

Dann ダン adv. それから 「副詞」

rief リーフ 3 単過(rufen)v.t 呼んだ 「動詞」

sie ジー pron.f 彼女は 「主語」

Celeste セルステ n.m セレステを 「目的語」

und ウント conj. そして

bestellte ベシュテルテ 3 単過(bestellen)v.t 注文した 「動詞」

alles アレス pron すべてを 「目的語」

mit ミット prep (3 格と)(手段)〜で 「副詞句」

einer genauen アイナー・ゲナウエン adj. 几帳面な 「形容詞句」

und ウント conj. そして

überstürzten ユーバー・シュトアツェン adj. あわてた、せわし気な 「形容詞」

Stimme. シュティメ n.f.3 格 声 「目的語」

前菜を待っている間に、女はハンドバッグを開けて紙と鉛筆を取り出し、支払わなければならない合計額を計算した。次にチップを含めて必要な金額を服のポケットから手に取って、それを自分の目の前に置いた。

Während sie auf die Vorspeise wartete, öffnete sie ihre Handtasche, entnahm ihr Papier und Bleistift und rechnete zusammen, was sie später zu zahlen hatte, nahm dann aus einer Seitentasche das notwendige Geld, einschließlich Trinkgeld, und legte es vor sich hin. 「副詞節」, 「動詞」「主語」「目的語」, 「動詞」「目的語」 und 「動詞句」「目的語」, 「動詞」「副詞句」「目的語」, und 「動詞」「目的語」「副詞句」

Während ヴェーレント conj. (同時性を示して)〜している間に 「副詞節」

sie ジー pron.f 女は 「主語」

auf die Vorspeise アウフ・ティー・フォーシュハ 化 adv. 前菜を 「間接目的語」

wartete, ヴァルテテ 3 単過(warten)v.i(auf et-4 〜を)待っていた 「動詞」

öffnete エフネテ 3 単過(öffnen)v.t 開けた 「動詞」

sie ジー pron.f 女は 「主語」

ihre Handtasche, イーレ・ハントタッシェ n.f.4 格 ハンドバッグを 「目的語」

entnahm エントナム 3 単過(entnehmen)v.t 取り出した 「動詞」

ihr Papier イーア・ハピアー n.n.4 格 紙を 「目的語」

ERSTER TEIL 第1部

und ウント conj. そして	
Bleistift ブライシュティフト n.m.4 格 鉛筆を	「目的語」
und ウント conj. そして	
rechnete zusammen, レヒネ・ツァムメン 3 単過(rechnen+ zusammen)v.i 合計を計算した「動詞句」	
zusammen ツァムメン adv. 合計して、まとめて、合わせて	
was ヴァス pron ものを	「目的語」
sie シー pron.f 彼女が	「主語」
später シュペーター adv. 次に	「副詞」
zu zahlen hatte, ツー・ツァーレン・ハッテ 3 単過・必要・時制の一致(zu 不定詞+haben)	
v.t 支払わなければならない	「動詞句」
nahm ナム 3 単過(nehmen)v.t 手に取った、つかんだ	「動詞」
dann ダン adv. それから	「副詞」
aus einer Seitentasche アウス・アイー・ザイテンタシェ adv. 服のポケットから	「副詞句」
das notwendige Geld, ダス・ノットヴエンディゲ・ゲルト n.n.4 格 必要な金額を	「目的語」
einschließlich アインシュリースリヒ prep (2 格と) ~を含めて	「副詞句」
Trinkgeld, トリンクゲルト n.n.2 格 チップ	「目的語」
und ウント conj. そして	
legte レクテ 3 単過(legen)v.t 置いた	「動詞」
es エス pron それを	「目的語」
vor sich hin. フォア・ズィヒ・イン adv. 自分の前に	「副詞句」

このとき前菜が運ばれてきた。女はそれを大急ぎで平らげた。

In diesem Augenblick brachte man die Vorspeise, die sie in aller Hast verschlang.

「副詞句」「動詞」「主語」「目的語」, 「目的語」「主語」「副詞句」「動詞」	
In diesem Augenblick イン・デューゼム・アウゲンブリック adv. この時	「副詞句」
brachte ブラハテ 3 単過(bringen)v.t 持ってきた	「動詞」
man マン pron レストランの給仕が	「主語」
受動態に翻訳する	
die Vorspeise, デュー・フォアシュペイセ n.f.4 格 前菜を	「目的語」
die デュー pron.f.4 格 それを	「目的語」
sie シー pron.f 女は	「主語」
in aller Hast イン・アラ・ハスト adv. 大急ぎで	「副詞句」
verschlang. フェアシュラング 3 単過(verschlingen)v.t 貪り食った	「動詞」

ERSTER TEIL 第1部

女は次の料理を待つ間、ハンドバッグから青鉛筆とその週のラジオの番組表を取り出した。

Während sie auf den nächsten Gang wartete, nahm sie aus der Handtasche einen Blaustift und das Rundfunkprogramm der Woche.

「副詞節」, 「動詞」 「主語」 「副詞句」 「目的語」

Während ウェーレント conj. ～する間

「副詞節」

sie ジー pron.f 女が

「主語」

auf den nächsten Gang アウフ・デーン・ネヒステン・ガンク

adv. (コースの中の) 次の一品を

「間接目的語」

wartete, ウァルテテ 3 単過・時制の一致(warten)v.i(auf et-4 何-4 を) 待つ

「動詞」

nahm ナム 3 単過(nehmen)v.t 手に取った

「動詞」

sie ジー pron.f 女は

「主語」

aus der Handtasche アウス・デア・ハントタッシェ adv. ハンドバッグから

「副詞句」

einen Blaustift アイネン・ブラウシュティフト n.m.4 格 青鉛筆

「目的語」

und ウント conj. そして

das Rundfunkprogramm ダース・ルントフンク プログラム n.n.4 格 ラジオの番組表

「目的語」

der Woche. デア・ウヴォッヘ n.f.2 格 その週の

「形容詞句」

女は非常に入念に、ほとんどすべての番組に下線を引いた。

Mit viel Sorgfalt strich sie fast alle Sendungen an.

「副詞句」 「動詞句」 「主語」 「目的語」 「動詞句」

Mit ミット prep (3 格と) (随伴) ～の状態で

「副詞句」

viel フィール adj. たくさんの

「形容詞」

Sorgfalt ザルクファルト n.f.3 格 入念、気配り

「目的語」

strich ...an. シュトリヒ...アン 3 単過(an | streichen)v.t 印をつけた、下線を引いた

「動詞句」

sie ジー pron.f 女は

「主語」

fast ファスト adv. ほとんど

「副詞」

alle Sendungen アル・ゼント・アンゲセン pl(Sendung).n.f.4 格 全ての番組

「目的語」

番組表は 12 ページほどあったので、女は食事中ずっとこの作業を続けていた。

Da das Programmheft etwa zwölf Seiten umfaßte, setzte sie diese Arbeit fast während der ganzen Mahlzeit fort.

「副詞節」, 「動詞句」 「主語」 「目的語」 「副詞句」 「動詞句」

Da ダー conj. (理由) ～だから、～なので

「副詞節」

das Programmheft ダース・プ ログラム・ヘフト n.n(Programm+Heft) 番組表は

「主語」

Programmheft プログラムヘフト n.n 番組の冊子、番組表

etwa zwölf Seiten エトヴァ・ツウエルフ・ザイテン

pl(Seite).n.f およそ 12 ページ、12 ページほど

「目的語」

ERSTER TEIL 第1部

umfaßte, ウムファステ 3 単過(umfassen)v.t 含んでいた	「動詞」
setzte ...fort. セツテ...フォート 3 単過(fort setzen)v.t 続けた	「動詞句」
sie ジー pron.f 女は	「主語」
diese Arbeit ディーセ・アルバイト n.f.4 格 この作業を	「目的語」
fast ファスト adv. ほとんど	「副詞」
während ヱェレント prep (2 格と) (期間) ~の間中	「副詞句」
der ganzen Mahlzeit デア・ガンツェン・マルツァイト n.f.2 格 食事すべて	「目的語」

僕はとつくに食事を終えていた。その時、女は相変わらずの熱心さで印をつけていた。

<u>Ich war schon längst mit dem Essen fertig, als sie immer noch mit dem gleichen Eifer strichelte.</u>	「主語」「動詞」「副詞句」「間接目的語」「補語」, 「副詞節」
Ich イヒ pron 僕は	「主語」
war ヱェール 1 単過(sein)v.i ~ だった	「動詞」
schon längst ショーン・レングスト adv. もうとつくに	「副詞句」
mit dem Essen ミット・デーム・エッセン adv. (関連) 食事を	「間接目的語」
fertig, フェアティヒ adj.(mit et-3 を) 終わった	「補語」
als アルス conj. その時~する	「副詞節」
sie ジー pron.f 女は	「主語」
immer noch イマー・ノッホ adv. 依然として、あいかわらず	「副詞句」
mit ミット prep (方法) ~で	「副詞句」
dem gleichen デーム・グライシェン adj(gleich).m.3 格 同じ	「形容詞句」
Eifer アイファー n.m.3 格 熱心さ	「目的語」
strichelte. シュトリシェLTE 3 単過(stricheln)v.t 線を書いていた、印をつけていた	「動詞」

それから女は立ち上がり、また例の機械のように正確な動作で上着を着て、レストランを出て行った。

<u>Dann stand sie auf, zog das Jackett mit den gleichen automatisch genauen Bewegungen wieder an, und verließ das Lokal.</u>	「副詞」「動詞句」「主語」「動詞句」, 「動詞句」「目的語」「副詞句」「動詞句」, und 「動詞」「目的語」
--	---

Dann ダン adv. それから、その後	「副詞」
stand ...auf, シュタント...アウフ 3 単過(auf stehen)v.i 立ち上がった	「動詞句」
sie ジー pron.f 女は	「主語」
zog ...an, ツォーク...アン 3 単過(an ziehen)v.t(et-4 を) 着た	「動詞句」
das Jackett ダス・ジャケット n.n.4 格 上着を	「目的語」
mit ミット prep (方法) ~によって	「副詞句」

ERSTER TEIL 第1部

den gleichen automatisch genauen デン・グライヒェン・アウトマティシュ・ゲナウエン

adj. 例の機械のように正確な

「形容詞句」

Bewegungen ベーバーグング n.f.3 格 動作

「目的語」

wieder ウィーダー adv. また、同様に

「副詞」

und ウント conj. そして

verließ フェアリース 3 単過(verlassen)v.t 出て行った

「動詞」

das Lokal. ダス・カール n.n.4 格 レストランを

「目的語」

することが無かったので、僕も立ち上がり、少しの間女について行った。

Da ich nichts zu tun hatte, stand auch ich auf und folgte ihr eine Weile.

「副詞節」, 「動詞句」「主語」「動詞句」 und 「動詞」「間接目的語」「副詞句」

Da ダー conj. (理由) 〜なので

「副詞節」

ich イヒ pron 僕は

「主語」

nichts ニヒツ pron 何も〜ない

「目的語」

zu tun ツー・トゥン 不定詞・目的 adj. するべき

「形容詞句」

hatte, ハッテ 1 単過(haben)v.t 〜があった

「動詞」

stand ...auf シュタント...アウフ 1 単過(auf|stehen)v.i 立ち上がった

「動詞句」

auch ich アウフ・イヒ pron 僕も

「主語」

und ウント conj. そして

folgte フォルクテ 1 単過(folgen)v.i(j-3 に) ついて行った

「動詞」

ihr イー pron.3 格 彼女に

「間接目的語」

eine Weile. アイン・ヴァイレ n.f.4 格 少しの間

「副詞句」

女は舗道の縁石の上を歩き、信じられない速度と確実性で、踏み外すことも振り向くこともなく進んで行った。

Sie ging auf dem Bordstein des Bürgersteigs und verfolgte mit unglaublicher Sicherheit und Schnelligkeit ihren Weg, ohne abzuweichen oder sich umzuwenden.

「主語」「動詞」「副詞句」 und 「動詞」「副詞句」「目的語」「副詞句」

Sie ジー pron.f 女は

「主語」

ging キング 3 単過(gehen)v.i 歩いて行った

「動詞」

auf dem Bordstein アウフ・デーム・ホルシュタイン adv. 縁石の上を

「副詞句」

des Bürgersteigs デス・ビュルゲルシュタイクス n.m.2 格 歩道の

「形容詞句」

und ウント conj. そして

verfolgte フェアフォルクテ 3 単過(verfolgen)v.t (道を) たどって行った

「動詞」

mit ミット prep (手段) 〜で

「副詞句」

unglaublicher Sicherheit ウンク・ラウフ・リヒャー・ジィヒャーハイト

ERSTER TEIL 第1部

n.f 信じられない確実性	「目的語」
und ウント conj. そして	
Schnelligkeit シュネリヒカイト n.f 速度	「目的語」
ihren Weg, イーレン・ヴェーク n.m.4 格 彼女の進路を、道を	「目的語」
ohne オーネ prep. ～なしに	「副詞句」
abzuweichen アップ・ツァー・ヴァイヘン zu 不定詞(ab weichen)v.i 踏み外す	「動詞句」
oder オーダー conj. または	
sich umzuwenden. スィヒ・ウム・ツァー・ヴェンデン zu 不定詞(sich-4 umwenden)	
v.pr 振り返る	「動詞句」

結局、僕は女を見失って、引き返した。

Schließlich verlor ich sie aus den Augen und kehrte um.

	「副詞」「動詞」「主語」「目的語」「副詞句」 und 「動詞句」
Schließlich シュルースリヒ adv. 最後に、ついに、結局は	「副詞」
verlor フェアロア 1 単過(verlieren)v.t 見失った	「動詞」
ich イヒ pron 僕は	「主語」
sie ジー pron.f 女を	「目的語」
aus アウス prep. ～の中から	「副詞句」
den Augen デン・アウゲン pl(Auge).n.n.3 格 視界、視線	「目的語」
und ウント conj. そして	
kehrte ...um. ケアテ...ウム 1 単過(um kehren)v.i 引き返した	「動詞句」

僕は変わった女だと思ったが、彼女の事はすぐに忘れた。

Ich dachte, wie seltsam sie war, vergaß sie aber ziemlich schnell.

	「主語」「動詞」「目的語」, 「動詞」「目的語」 aber 「副詞句」
Ich イヒ pron 僕は	「主語」
dachte, ダハテ 1 単過(denken)v.t 思った	「動詞」
wie ヴァイ conj. ～のように	「目的語」
seltsam セルツァーム adj. 奇妙な	「補語」
sie ジー pron.f 女は	「主語」
war, ヴァール 3 単過・時制の一致(sein)v.i ～である	「動詞」
vergaß フェアガース 1 単過(vergessen)v.t 忘れた	「動詞」
sie ジー pron.f 女のことを	「目的語」
aber アーバー conj. しかし	
ziemlich schnell. ツィームリヒ・シュネル adv. かなり早く	「副詞句」

ERSTER TEIL 第1部

僕の部屋の戸口にサラマノ老人が立っているのが見えた。

<u>An meiner Tür fand ich den alten Salamano.</u>	「副詞句」「動詞」「主語」「目的語」
An アン prep (3格と)(空間的) ~のそばに	「副詞句」
meiner Tür マイナー・チュア n.f 僕の部屋のドア	「目的語」
fand ファント 1 単過(finden)v.t 見えた	「動詞」
ich イヒ pron 僕は	「主語」
den alten デン・アルテン adj(alt).m 年老いた	「形容詞句」
Salamano. サラマノ n.m サラマノを	「目的語」

彼を部屋に入れると、犬はいなくなったようだと言った。野犬収容所では見つからなかったのだ。

<u>Ich ließ ihn eintreten, und er erzählte mir, sein Hund sei weg, im Pfandstall habe er ihn nicht gefunden.</u>	「主語」「動詞」「目的語」「補語」, und 「主語」「動詞」「間接目的語」「直接目的語」
Ich イヒ pron 僕は	「主語」
ließ リース 1 単過・使役(lassen).vt(SVO+不定詞) ~させた	「動詞」
ihn イン pron 彼に	「目的語」
eintreten, アイントレーテン 不定詞・ihn の動作 v.i 入る	「補語」
und ウント conj. そして	
er エア pron 彼は	「主語」
erzählte エアツェールテ 3 単過(erzählen)v.t 語った	「動詞」
mir, ミア pron 僕に	「間接目的語」
n. ~ということ	「直接目的語」
sein Hund サイン・フント n.m 彼の犬が	「主語」
sei サイ 接・3 単現(sein)v.i ~である	「動詞」
weg, ヴェーク adj. いなくなった	「補語」
im Pfandstall イム・プ ファントシュタル adv. 野犬収容所で	「副詞句」
habe ...nicht gefunden. ハーベ ...ニヒト・ゲフンデ 3 単現・完了形・否定(finden)	
v.t 見つけられなかった	「動詞句」
er エア pron 彼は	「主語」
ihn イン pron 犬を	「目的語」

ERSTER TEIL 第1部

野犬収容所の係員は、おそらく車に轢かれたのだろうと言った。

Die Beamten hatten gemeint, er sei vielleicht überfahren worden.

「主語」「動詞句」「目的語」

Die Beamten デー・ベームテン pl(Beamte).n.m 係員は、公務員

「主語」

hatten gemeint, ハッテン・ゲマイント 3 複現・完了形(meinen)v.t 言った

「動詞句」

n. ～ということを

「目的語」

er エア pron 犬は

「主語」

sei ...überfahren worden. サイ...ユーバーファレン・ウァアテン 接・3 単現・受動(werden+過去分詞)

v.t 車に轢かれたのだろう

「動詞句」

vielleicht フライヒト adv. おそらく、たぶん

「副詞」

サラマノは、犬が轢かれたかどうか警察署で確認できないだろうかと尋ねた。

Er hatte gefragt, ob man das nicht auf dem Kommissariat erfahren könne.

「主語」「動詞句」「目的語」

Er エア pron サラマノは

「主語」

hatte gefragt, ハッテ・ゲフラークト 3 単過・完了形(fragen)v.t 尋ねた

「動詞句」

ob オップ conj. ～かどうかということを

「目的語」

man マン pron 人が

「主語」

das ダス pron そのことを

「目的語」

nicht ...erfahren könne. ニヒト...エアファレン・ケネ 接・3 単現・可能・否定・疑問文

(können+不定詞 erfahren)v.t 確認することが出来ない

「動詞句」

auf dem Kommissariat アウフ・デーム・コミサリアート adv. (公共の建物) 警察署で

「副詞句」

そういうことは毎日起こるので、警察署ではそういう出来事をそれ以上調べないと答えた。

Man hatte ihm geantwortet, daß man derartige Vorkommnisse nicht weiter verfolge, weil sie alle Tage passierten.

「主語」「動詞句」「間接目的語」「動詞句」「直接目的語」

Man マン pron 職員は

「主語」

hatte ...geantwortet, ハッテ...ゲ・アントワァアテ 3 単過・完了形(antworten)

v.t ～と答えた

「動詞句」

ihm イム pron 彼に

「間接目的語」

daß ダス conj. ～ということを

「直接目的語」

man マン pron 職員は

「主語」

derartige Vorkommnisse デアアーチゲ・フォーアコムニセ

pl(Vorkommnis).n.n.4 格 そういう出来事を

「目的語」

derartig デアアーチヒ adj. そのような Vorkommnis フォアコムニス n.n 事件、出来事

ERSTER TEIL 第1部

nicht weiter verfolge, ニヒト・ヴァイター・フェアフォルグ 接・3 単現・否定(verfolgen+weiter)

v.t それ以上調べない 「動詞句」

weil ヲァイル conj. (理由) ~なので 「副詞節」

sie シー pron それは 「主語」

alle Tage アレ・ターゲ pl(Tag).n.m.4 格 毎日 「副詞句」

passierten. パシエルテン 接 II・3 複現(passieren)v.i 起こるだろう 「動詞」

僕はサラマノに別の犬を飼ったらいいですよと言ったが、彼は当然ながらあの犬に馴染んでいと答えた。

Ich sagte dem alten Salamano, er solle sich einen anderen Hund anschaffen, aber er erklärte mit Recht, daß er sich an diesen gewöhnt hatte.

「主語」「動詞」「間接目的語」「直接目的語」, aber 「主語」「動詞」「副詞句」「目的語」

Ich イヒ pron 僕は 「主語」

sagte サークテ 3 単過(sagen)v.t 言った 「動詞」

dem alten Salamano, デーム・アルテン・サラマノ adv. サラマノ老人に 「間接目的語」

n. ~ということ を 「直接目的語」

er エア pron 彼は 「主語」

solle sich ...anschaffen, ソレ・スィヒ...アンシャフェン 3 単現・妥当(sich・3 anschaffen)

v.pr 手に入れたら良い 「動詞句」

einen anderen Hund アイン・アンデルン・フント n.m.4 格 別の犬を 「目的語」

aber アーバー conj. しかし

er エア pron 彼は 「主語」

erklärte エアクレアテ 3 単過(erkennen)v.t 説明した 「動詞」

mit Recht, ミット・レヒト adv. 正当に、当然ながら 「副詞句」

daß ダス conj. ~ということ を 「目的語」

er エア pron 彼は 「主語」

sich ...gewöhnt hatte. スィヒ...ゲワエント・ハッテ 3 単過・完了形・時制の一致(sich・4 gewöhnen)

v.pr(an ~に) 馴染んでいる 「動詞句」

an diesen アン・デーゼン adv. あの犬に 「間接目的語」

僕はベッドの上にしゃがみ込み、サラマノはテーブルのそばの椅子に腰かけていた。

Ich hockte auf meinem Bett, und Salamano saß auf einem Stuhl am Tisch.

「主語」「動詞」「副詞句」, und 「主語」「動詞」「副詞句」

Ich イヒ pron 僕は 「主語」

hockte ホクテ 1 単過(hocken)v.i しゃがんだ 「動詞」

auf meinem Bett, アウフ・マイネム・ベット adv. ベッドの上に 「副詞句」

ERSTER TEIL 第1部

und ウント conj. そして

Salamano サラマノ n.m サラマノは 「主語」

saß サース 3 単過(sitzen)v.i 座った 「動詞」

auf einem Stuhl アウフ・アイネム・シュトウール adv. 椅子の上に 「副詞句」

am Tisch. アム・ティッシュ adv. テーブルのそばの 「副詞句」

彼は僕の向かい側に座って、両手は膝の上に置かれていた。

Er saß mir gegenüber, seine Hände lagen auf seinen Knien.

「主語」「動詞」「副詞句」, 「主語」「動詞」「副詞句」

Er エア pron 彼は 「主語」

saß サース 3 単過(sitzen)v.i 座った 「動詞」

mir gegenüber, ミーア・ゲーゲンユーバー adv. 僕の向かい側に 「副詞句」

seine Hände サ イネ・ヘンデ pl(Hand).n.f 彼の両手は 「主語」

lagen ラーゲン 3 複過・存在(liegen)v.i 〜にあった 「動詞」

auf seinen Knien. アウフ・ザ イネン・クニーエン adv. 膝の上に 「副詞句」

彼は古びたフェルト帽を被ったままでいた。

Er hatte den alten Filzhut aufbehalten. 「主語」「動詞句」「目的語」「動詞句」

Er エア pron 彼は 「主語」

hatte ...aufbehalten. ハッテ...アウフヘーハルテン 3 単過・完了形(aufbehalten)

v.t (帽子を) かぶったままでいた 「動詞句」

den alten デン・アルテン adj(alt).m.4 格 古い 「形容詞句」

Filzhut フィルツフット n.m.4 格 フェルト帽を 「目的語」

彼は黄ばんだ口髭の下に短い言葉を飲み込むように話した。

Unter seinem gelben Schnurrbart kaute er seine kurzen Sätze.

「副詞句」「動詞」「主語」「目的語」

Unter ウンター prep (空間的) 〜の下に 「副詞句」

seinem gelben サ イネム・ゲルベン adj(gelb).m.3 格 黄色い 「形容詞句」

Schnurrbart シュヌルハート n.m.3 格 口ひげ 「目的語」

kaute カテ 3 単過(kauen)v.t 噛んだ、飲み込んだ 「動詞」

er エア pron 彼は 「主語」

seine kurzen サ イネ・クルツェン adj(kurz).pl.4 格 短い 「形容詞句」

Sätze. ゼ ッツェ pl(Satz).n.m.4 格 言葉を 「目的語」

ERSTER TEIL 第1部

彼には少しうんざりしたが、何もすることが無かったし、眠くもなかった。

Er langweilte mich ein bißchen, aber ich hatte nichts zu tun, und müde war ich auch noch nicht.

「主語」「動詞」「目的語」「副詞句」,
aber 「主語」「動詞」「目的語」, und 「補語」「動詞」「主語」

Er エア pron 彼は 「主語」

langweilte ラングヴァイルテ 3 単過(langweilen)v.t 退屈させた 「動詞」

mich ミツ pron.4 格 僕を 「目的語」

ein bißchen, アイン・ビッシェン adv. 少し 「副詞句」

aber アーバー conj. しかし

ich イツ pron 僕は 「主語」

hatte ハッテ 1 単過(haben)v.t ～があった 「動詞」

nichts ニツ pron 何も～ない 「目的語」

zu tun, ツー・トゥン zu 不定詞・目的 adj. するべき 「形容詞句」

und ウント conj. そして

müde ミューデ adj. 眠い 「補語」

war ヴァール 1 単過(sein)v.i ～だった 「動詞」

ich イツ pron 僕は 「主語」

auch noch nicht. アウフ・ノッホ・ニヒト adv. ～もない 「副詞句」

何か言おうとして、彼に犬のことを質問した。

Um etwas zu sagen, fragte ich ihn nach seinem Hund.

「副詞句」, 「動詞」「主語」「直接目的語」「間接目的語」

Um ウム zu 不定句・目的 adv. ～するために、～しようとして 「副詞句」

etwas エトワース pron 何かを 「目的語」

zu sagen, ツー・ザーゲン zu 不定詞 v.t 言う 「動詞句」

fragte フラクテ 1 単過(fragen)v.t 質問した 「動詞」

ich イツ pron 僕は 「主語」

ihn イン pron.4 格 彼に 「直接目的語」

nach seinem Hund. ナーハ・ザイネム・フント adv. (関連) 犬について 「間接目的語」

彼は、奥さんが亡くなってからあの犬を飼い始めたのだと話してくれた。

Er erzählte, er habe ihn nach dem Tode seiner Frau angeschafft.

「主語」「動詞」「目的語」

Er エア pron 彼は 「主語」

erzählte, エアツェールテ 3 単過(erzählen)v.t 語った 「動詞」

n. ～ということを 「目的語」

ERSTER TEIL 第1部

er エア pron 彼は 「主語」
 habe ...angeschafft. ハーベ...アン・ゲ・シャフト 接・3 単現・完了形(an|schaffen)
 v.t 入手した 「動詞句」
 ihn イン pron.4 格 (Hund の代用) 犬を 「目的語」
 nach dem Tode ナーハ・デー・ム・ト・デー adv. (時) 死の後に 「副詞句」
 seiner Frau サイ・イー・フラウ n.f.2 格 奥さんの 「形容詞句」

結婚はかなり遅かった。

Er hatte ziemlich spät geheiratet. 「主語」「動詞句」「副詞句」「動詞句」
 Er エア pron 彼は 「主語」
 hatte ...geheiratet. ハッテ...ゲ・ハイラテット 3 単過・完了形(heiraten)v.t 結婚した 「動詞句」
 ziemlich spät ツィームリッヒ・シェー・ト adv. かなり遅くに 「副詞句」

若いころは役者になりたかった：軍隊時代には隊内の劇団で演じていた。

In seiner Jugend hatte er Schauspieler werden wollen: beim Regiment hatte er in den Soldatenstücken gespielt. 「副詞句」「動詞句」「主語」「補語」「動詞句」:
 「副詞句」「動詞句」「主語」「副詞句」「動詞句」
 In seiner Jugend イン・ザイ・ユークェント adv. (時・時期) 若いころには 「副詞句」
 hatte ...werden wollen: ハッテ...ウ・エアテン・ウ・ォレン 3 単過・完了形・願望・変化
 (wollen+不定詞 werden)v.i 〜になりたかった 「動詞句」
 er エア pron 彼は 「主語」
 Schauspieler シャウシェー・ラー n.m.4 格 役者、俳優 「補語」
 beim Regiment バイム・レギメント adv. 軍隊では 「副詞句」
 hatte ...gespielt. ハッテ...ゲ・シュピールト 3 単過・完了形(spielen)
 v.t (芝居で) 演技をしていた 「動詞句」
 er エア pron 彼は 「主語」
 in den Soldatenstücken イン・テン・ゾルダテン・シュトゥッケン adv. 軍隊内の劇団で 「副詞句」

しかし結局彼は鉄道員になった。そしてそのことを後悔していない。そのお陰で、今では
 わずかでも年金が貰えるのだから。

Aber schließlich war er Eisenbahner geworden, und das bereute er nicht, denn jetzt hatte er eine kleine Pension. Aber 「副詞」「動詞句」「主語」「補語」「動詞句」,
 und 「目的語」「動詞句」「主語」「動詞句」, 「副詞節」
 Aber アーバー conj. しかし
 schließlich シュリースリヒ adv. 結局は、最後に 「副詞」
 war ...geworden, ウ・アル...ゲ・ウ・ォアテン 3 単過・完了形・変化(werden)v.i 〜になった 「動詞句」

ERSTER TEIL 第1部

er エア pron 彼は	「主語」
Eisenbahner アイゼンバーナー n.m.1 格 鉄道員	「補語」
und ウント conj. そして	
das ダス pron それを	「目的語」
bereute ...nicht, ベロイテ...ニト 3 単過・否定・時制の一致(bereuen)v.t 後悔していない「動詞句」	
er エア pron 彼は	「主語」
denn デン conj. というのは～だから	「副詞節」
jetzt イェツト adv. 今では	「副詞」
hatte ハッテ 3 単過・時制の一致(haben)v.t ～がある	「動詞」
er エア pron 彼は	「主語」
eine kleine Pension. アイン・クライン・パーズィオン n.f わずかの年金が	「目的語」

結婚生活は幸せではなかった。それでも全体としては、彼は奥さんに良く馴染んでいた。

Mit seiner Frau war er nicht glücklich gewesen, aber alles in allem hatte er sich gut an sie gewöhnt. 「副詞句」「動詞句」「主語」「補語」「動詞句」,

aber 「副詞句」「動詞句」「主語」「動詞句」「間接目的語」「動詞句」

Mit seiner Frau ミット・ザイアー・フラウ adv. 妻との関係は	「副詞句」
war ...gewesen, ヴァール...ゲウァーゼン 3 単過・完了形(sein)v.i ～だった	「動詞句」
er エア pron 彼は	「主語」
nicht glücklich ニト・グリュックリヒ adj. 幸せな～でない	「補語」
aber アーバー conj. しかし	
alles in allem アレス・イン・アラム adv. 全体としては	「副詞句」
hatte ...sich ...gewöhnt. ハッテ...ズィヒヒ...ゲウァーント 3 単過・完了形(sich-4 an j-4 gewöhnen)	
v.pr ～に馴染んでいた	「動詞句」
er エア pron 彼は	「主語」
gut an sie グート・アン・ジー adv. 奥さんに良く	「間接目的語」

奥さんが亡くなった時、彼はとても寂しいと思った。

Als sie starb, war er sich sehr verlassen vorgekommen.

「副詞節」, 「動詞句」「主語」「動詞句」「補語」「動詞句」

Als アルス conj. ～した時	「副詞節」
sie ジー pron.f 奥さんが	「主語」
starb, シュターブ シュターフ 3 単過(sterben)v.i 亡くなった、死んだ	「動詞」
war ...sich ...vorgekommen. ヴァール...ズィヒヒ...フェア・ゲ・コメン 3 単過・完了形	
(sich-3 vorkommen)v.pr (自分自身が) ～と感じた	「動詞句」
er エア pron 彼は	「主語」

ERSTER TEIL 第1部

sehr verlassen セーア・フェアッセン adj. とても寂しい

「補語」

そこで彼は職場の同僚に犬のことを頼んで、生まれたばかりの子犬を貰うことにもなった。

Dann hatte er einen Arbeitskollegen um einen Hund gebeten und hatte auch einen jungen bekommen. 「副詞」「動詞句」「主語」「直接目的語」「間接目的語」「動詞句」
und 「動詞句」「副詞」「目的語」「動詞句」

Dann ダン adv. そこで

「副詞」

hatte ...gebeten ハッテ...ゲ・ゲベールテン 3 単過・完了形(bitten)v.t(j-4 um et-4) 頼んだ 「動詞句」

er エア pron 彼は

「主語」

einen Arbeitskollegen アイン・アールハ イツコレゲン n.m 職場の同僚に

「直接目的語」

um einen Hund ウム・アイン・フント adv. 犬のことを

「間接目的語」

und ウント conj. そして

hatte ...bekommen. ハッテ...ベコメン 3 単過・完了形(bekommen)v.t 貰った

「動詞句」

auch アウフ adv. ～もまた

「副詞」

einen jungen アイン・ユンゲン n.n.4 格 生まれたばかりの子犬を

「目的語」

サラマノは哺乳瓶を使って犬を育てていた。しかし、犬の寿命は人間より短いので、サラマノと犬はそろって年老いていった。

Mit der Flasche hatte er ihn großgezogen. Aber da ein Hund nicht so lange lebt wie ein Mensch, waren sie zusammen alt geworden.

「副詞句」「動詞句」「主語」「目的語」「動詞句」

Aber 「副詞節」, 「動詞句」「主語」「補語」「動詞句」

Mit ミット prep (手段) ～によって

「副詞句」

der Flasche テア・フラッシェ n.f.3 格 哺乳瓶

「目的語」

hatte ...großgezogen. ハッテ...グロース・ゲ・ツォーゲン 3 単過・完了形(groß|ziehen)

v.t 育てた

「動詞句」

er エア pron 彼は

「主語」

ihn イン pron 犬を

「目的語」

Aber アーバー conj. しかし

da ダー conj. (理由) ～なので

「副詞節」

ein Hund アイン・フント n.m 犬というものは

「主語」

nicht ...lebt ニヒト...レープト 3 単現・否定(leben)v.i 生きない

「動詞句」

so lange wie ザー・ランゲ・グアイー adv. ～程ながくは

「副詞句」

ein Mensch, アイン・メンシュ n.m 人間

「目的語」

waren ...geworden. ヴァレン...ゲヴァンテン 3 複過・完了形・変化(werden)

v.i ～になった

「動詞句」

ERSTER TEIL 第1部

sie ジー pron.pl	サラマノと犬は	「主語」
zusammen ツァメン adv.	一緒に、そろって	「副詞句」
alt アルト adj.	年老いた	「補語」

「あいつは性格が悪くて」と、サラマノが言った。

«Er hatte einen schlechten Charakter», sagte Salamano.

《「主語」「動詞」「目的語」》, 「動詞」「主語」

«Er エア pron	あの犬は	「主語」
hatte ハッテ 3 単過(haben)v.t	～があった	「動詞」
einen schlechten アイネン・シュレヒテン adj(schlecht).m.4 格	悪い	「形容詞句」
Charakter», カクター n.m.4 格	性格	「目的語」
sagte サークテ 3 単過(sagen)v.t	言った	「動詞」
Salamano. サラマノ n.m	サラマノが	「主語」

「時々喧嘩もしました。それでもあいつはいい犬でした」

«Ab und zu gerieten wir sehr aneinander. Trotzdem war es ein guter Hund.»

《「副詞句」「動詞」「主語」「副詞句」 | 「副詞」「動詞」「主語」「補語」》

«Ab und zu アップ・ウント・ツァー adv.	時々	「副詞句」
gerieten ゲリーテン 1 複過(geraten)v.i	～に陥った	「動詞」
wir ウィア pron.pl	私らは	「主語」
sehr セーア adv.	非常に、とても	「副詞」
aneinander. アナインダー adv.	互いに	「副詞」
Trotzdem トロツデーム adv.	それでも	「副詞」
war ウェアル 3 単過(sein)v.i	～だった	「動詞」
es エス pron	あの犬は	「主語」
ein guter Hund.»	アイン・グーター・フント n.m	「補語」

あれはとても血統の良い犬でしたねと言うと、サラマノはその言葉に喜んだ。

Ich sagte ihm, er wäre sehr rassig gewesen, und das freute Salamano.

「主語」「動詞」「間接目的語」「直接目的語」, und 「目的語」「動詞」「主語」

Ich イット pron	僕は	「主語」
sagte サークテ 3 単過(sagen)v.t	言った	「動詞」
ihm, イム pron	彼に	「間接目的語」
er エア pron	あの犬は～ということを	「直接目的語」
wäre ...gewesen, ウェーレ...ゲウェゼン 接 II・3 単現・完了形・状態(sein)		
v.i	～だった	「動詞句」

ERSTER TEIL 第1部

sehr rassig ゼーア・ラシ adj. とても血統の良い	「補語」
und ウント conj. そして	
das ダス pron それを	「目的語」
freute フロイテ 3 単過(freuen)v.t 喜んだ	「動詞」
Salamano. サラマノ n.m サラマノは	「主語」

「あの犬が病気になる前の姿を知らないと思いますが、毛並みが素晴らしかったんです」

«Sie hätten ihn nur mal vor seiner Krankheit sehen sollen. Besonders schön war sein Fell.»	《「主語」「動詞句」「目的語」「副詞句」「動詞句」 「補語」「動詞」「主語」》
«Sie ジー pron あなたは	「主語」
hätten ...sehen sollen. ヘッテン...ゼーエン・ゾレン 接 II・3 複現・完了形・義務(sollen+不定詞 sehen)	
v.t 見るべきだった、見たことがない	「動詞句」
ihn イン pron あの犬を	「目的語」
nur mal ヌーア・マル adv. 一度も～ない	「副詞句」
vor seiner Krankheit フォーア・ザ イー・クランクハイト adv. 病気の前に	「副詞句」
Besonders schön ベゾンダース・シェン adj. 非常に美しい	「補語」
war ヴァール 3 単過(sein)v.i ～ だった	「動詞」
sein Fell.» ザ イン・フェル n.n 毛は	「主語」

犬が病気になってからは、毎朝毎晩サラマノは犬に軟膏を塗ってやっていた。

Seit der Hund krank war schmierte Salamano ihn jeden Morgen und jeden Abend mit Salbe ein.	「副詞節」, 「動詞句」「主語」「直接目的語」「副詞句」「間接目的語」「動詞句」
Seit ザ イ conj. ～して以来	「副詞節」
der Hund デア・フント n.m 犬が	「主語」
krank クランク adj. 病気の	「補語」
war ヴァール 3 単過・変化(sein)v.i ～ になった	「動詞」
schmierte ...ein. シュミアテ...アイン 3 単過・習慣(ein schmieren)	
v.t (mit et・3) クリームを塗っていた	「動詞句」
Salamano サラマノ n.m サラマノは	「主語」
ihn イン pron 犬に	「直接目的語」
jeden Morgen イェーテン・モアゲン adv. 毎朝	「副詞句」
und ウント conj. そして	
jeden Abend イェーテン・アーベント adv. 毎晩	「副詞句」
mit Salbe ミット・サルベ adv. 軟膏を	「間接目的語」

ERSTER TEIL 第1部

しかし彼に言わせると、犬の本当の病気は「老い」だった。そして、老いに効く薬はない。

Aber seiner Meinung nach sei das Alter die wahre Krankheit des Hundes gewesen, und dagegen sei nun mal kein Kraut gewachsen.

Aber 「副詞句」「動詞句」「補語」「主語」「動詞句」,und 「副詞」「動詞」「主語」「補語」

Aber アーバー conj. しかし

seiner Meinung nach ザイナ・マイヌグ・ナハ adv. 彼の意見では、彼に言わせると 「副詞句」

sei ...gewesen, ザイ...ゲヴェーゼン 接・3 単現・完了形・推量(sein)

v.i ~ だった

「動詞句」

das Alter ダス・アルター n.n.1 格 老齢、古い

「補語」

die wahre Krankheit デー・ヴァーレ・クランクハイト n.f 本当の病気は

「主語」

des Hundes デス・フンデス n.m.2 格 犬の

「形容詞句」

und ウント conj. そして

dagegen ダ・ゲーゲン adv. それに対して

「副詞」

sei ザイ 接・3 単現・推量(sein)v.i ~ だろう

「動詞」

nun mal kein Kraut ヌン・マル・カイン・クラウト n.n もはやどんな薬も～ない

「主語」

gewachsen. ゲヴァクセン adj. 太刀打ちできない

「補語」

この時、僕があくびをすると、老人はそろそろ部屋に戻ろうと思いますと言った。

In diesem Augenblick gähnte ich, und der Alte meinte, er müsse jetzt gehen.

「副詞句」「動詞」「主語」,und 「主語」「動詞」, 「目的語」

In diesem Augenblick イン・デューゼム・アウゲンブリック adv. この時

「副詞句」

gähnte ゲーnte 1 単過(gähnen)v.i あくびをした

「動詞」

ich, イヒ pron 僕は

「主語」

und ウント conj. そして

der Alte デア・アルテ n.m 老人は

「主語」

meinte, マインテ 3 単過(meinen)v.t 言った

「動詞」

考えを告げる「動詞」に接続する文は接続法を用いる

er エア pron 彼は～ということを

「目的語」

müsse ...gehen. ミュッセ...ゲーエン 接・3 単現・意思(müssen+不定詞 gehen)

v.i 帰ろうと思う

「動詞句」

jetzt イェツト adv. もう、そろそろ

「副詞」

ERSTER TEIL 第1部

僕は言った。気にせずゆっくりしてってください。そしてあなたの犬がこんなことにな
って残念です。

Ich sagte, er könne ruhig bleiben, es tue mir sehr leid, daß seinem Hund das zugestoßen sei.
 「主語」「動詞」「目的語」
 Ich イッ pron 僕は 「主語」
 sagte, サ-クテ 3 単過(sagen)v.t 言った 「動詞」
 er エ pron 彼は～ということを 「目的語」
 könne ...bleiben, ケネ...ブライベン 接・3 単現・許可(können+不定詞 bleiben)
 v.i 居続けて構わない 「動詞句」
 ruhig ル-イッ adv. 気にせずに 「副詞」
 n. ～ということを 「目的語」
 es エス pron 仮の主語 (真の主語は daß 以降)
 tue トゥエ 接・3 単現(tun)v.i 作用をする 「動詞」
 mir ミア pron 僕にとって 「間接目的語」
 sehr leid, セ-ア・ライト adj. とても残念な、悔やまれる 「補語」
 daß ダス conj. ～ということは 「主語」
 seinem Hund ザイネム・フント n.m あなたの犬が 「主語」
 das ダス pron あのように 「補語」
 zugestoßen sei. ツ-ゲシュト-セン・ザイ 接・1 単現・完了形(zu | stoßen)
 v.i 起こった 「動詞句」

彼は礼を言って、母さんはあの犬をととても可愛がってくれたと付け加えた。

Er bedankte sich. Er sagte, Mama habe den Hund immer gern leiden mögen.

「主語」「動詞句」 | 「主語」「動詞」「目的語」
 Er エ pron 彼は 「主語」
 bedankte sich. ベ-ダンクテ・スィッ 3 単過(sich-4 bedanken)v.pr 礼を言った 「動詞句」
 sich-4 bei j-3 für et-4 bedanken 「人-3 に何-4 の礼を言う」
 Er エ pron 彼は 「主語」
 sagte, サ-クテ 3 単過(sagen)v.t 言った 「動詞」
 Mama ママ n.f 母さんは～ということを 「目的語」
 habe ...leiden mögen. ハ-...ライデン・メ-ゲン 3 単現・完了形(et-4 leiden mögen)
 v.t ～を可愛がっていた、愛していた 「動詞句」
 den Hund デン・フント n.m.4 格 あの犬を 「目的語」
 immer gern イマ-・ゲン adv. とても 「副詞句」

ERSTER TEIL 第1部

母さんの事を話すとき、彼はいつも母さんを「亡き母上」と呼んでいた。

Wenn er von ihr sprach, nannte er sie immer nur «Ihre arme Mutter».

「副詞節」, 「動詞」 「主語」 「目的語」 「補語」

Wenn ウェン conj. ～する時

「副詞節」

er エア pron 彼が

「主語」

von ihr フォン・イーア adv. (関連) 母さんについて

「間接目的語」

sprach, シュプ ラーハ 3 単過・時制の一致(sprechen)v.i 話す

「動詞」

nannte ナンテ 3 単過(nennen)v.t 呼んでいた

「動詞」

er エア pron 彼は

「主語」

sie シー pron.f.4 格 母さんを

「目的語」

immer nur イマー・ヌーア adv. いつも

「副詞句」

«Ihre arme Mutter». イーレ・アルメ・ムター n.f.4 格 亡き母上、可哀そうな母上

「補語」

彼は、母さんが亡くなってさぞやお辛いでしょと言った。

Er meinte, ich müsse doch sehr unglücklich sein, seit Mama tot sei;

「主語」 「動詞」 「目的語」

Er エア pron 彼は

「主語」

meinte, マインテ 3 単過(meinen)v.t 言った

「動詞」

ich イヒ pron 僕は～ということを

「目的語」

müsse ...sein, ミュッセ...ザイン 接・1 単現(müssen+不定詞 sein)

v.i ～だろう

「動詞句」

doch sehr unglücklich ドッホ・セーア・アンクグリュックリヒ adj. とても悲しい

「補語」

seit サイト conj. ～して以来

「副詞節」

Mama ママ n.f 母さんが

「主語」

tot トート adj. 死んだ

「補語」

sei; ザイ 接・3 単現(sein)v.i ～である

「動詞」

僕はそれに対して何も答えなかった。

ich habe nichts darauf geantwortet.

「主語」 「動詞句」 「目的語」 「副詞」 「動詞句」

ich イヒ pron 僕は

「主語」

habe ...geantwortet. ハーベ...ゲ・アントゥェアテット 1 単現・完了形(antworten)v.t 答えた

「動詞句」

nichts ニヒツ pron 何も～ない

「目的語」

darauf ダラウフ adv. それに対して

「副詞」

ERSTER TEIL 第1部

すると、彼はとても早口で決まり悪そうに言った。僕が母さんを養老院に入れたので、界限では僕の事をどう言っているかはよく知っている。しかし、彼は僕の事を知っているし、僕が母さんをとても愛していたことも知っている。

Dann sagte er sehr schnell und mit einer Art Verlegenheit, er wisse genau, was man über mich im Viertel rede, weil ich meine Mutter ins Altersheim gesteckt habe, aber er kenne mich und wisse, daß ich Mama sehr lieb gehabt habe.

「副詞」「動詞」「主語」「副詞句」 und 「副詞句」「主語」「動詞」「副詞」「目的語」, aber 「主語」「動詞」「目的語」 und 「動詞」「目的語」

Dann ダン adv. それで、すると 「副詞」
sagte サークテ 3 単過(sagen)v.t 言った 「動詞」
er エア pron 彼は 「主語」
sehr schnell ゼーア・シュネル adv. とても早口で 「副詞句」
und ウント conj. そして
mit einer Art Verlegenheit, ミット・アイナー・アルト・フェアレゲンハイト
adv. (様態) きまり悪そうに 「副詞句」
er エア pron 彼は 「主語」
wisse ヴァイツェ 接・3 単現(wissen)v.t 知っている 「動詞」
genau, ゲナウ adv. 正確に、よく 「副詞」
was ヴァス pron ~ということを 「目的語」
man マン pron 誰かが 「主語」
über mich ユーバー・ミヒ adv. 僕について 「副詞句」
im Viertel rede, イム・フィテル・レーデ adv. 近所の話で 「副詞句」
weil ヴァイル conj. ~なので 「副詞節」
ich イヒ pron 僕は 「主語」
meine Mutter マイネ・ムター n.f 母さんを 「目的語」
ins Altersheim インス・アルタースハイム adv. 養老院へ 「副詞句」
gesteckt habe, ゲ・シュテクト・ハーベ 1 単現・完了形(stecken)
v.t (無理やり) 入れた 「動詞句」
aber アーバー conj. しかし
er エア pron 彼は 「主語」
kenne ケネ 接・3 単現(kennen)v.t 知っている 「動詞」
mich ミヒ pron 僕を 「目的語」
und ウント conj. そして
wisse, ヴァイツェ 接・3 単現(wissen)v.t 知っている 「動詞」
daß ダス conj. ~ということを 「目的語」
ich イヒ pron 僕は 「主語」

ERSTER TEIL 第1部

Mama ママ n.f 母さんを	「目的語」
sehr ゼーア adv. とても	「副詞」
lieb リーフ adj. 愛する	「形容詞」
gehabt habe. ゲハプト・ハーベ 1 単現・完了形(haben)v.t 〜した	「動詞句」
j-4 lieb haben 「人・4 が好きである」	
kennen と wissen の違い	
kennen + 名詞・代名詞 (4 格)	

誰かや何かについて見たことがある・会ったことがある・聴いたことがある

Kennst du dieses Wort? この単語知ってる?

Ja, ich kenne es. うん知ってる。

Ich kenne es nicht. 知らない。

wissen + 副文(daß, ob, was, wie...)

kennen よりもう少し具体的なことを表現するときに使う

Weißt du, was dieses Wort bedeutet? この単語どういう意味か知ってる?

Ja, ich weiß es. うん知ってる。

Ich weiß es nicht. 知らない。

なぜか分からないが、とにかく、これまで界限で僕の事を悪く言っていることは全く知らなかったが、母さんに看護婦を付けられるほどの稼ぎがなかったので、養老院は僕にとっては全く自然な解決策だったと答えた。

Warum, das weiß ich nicht - jedenfalls entgegnete ich bisher hätte ich gar nicht gewußt, daß man mir in dies Hinsicht Vorwürfe mache, aber das Heim sei für mich eine ganz natürliche Lösung gewesen, weil ich nicht genug verdiene, um für Mama eine Pflegerin zu halten.

「副詞」, 「目的語」「動詞句」「主語」「動詞句」, 「副詞」「動詞」「主語」「副詞」

「動詞句」「主語」「動詞句」「目的語」

Warum, ウァルム adv. なぜか	「副詞」
das ダス pron それを	「目的語」
weiß ...nicht ウァイス...ニヒト 1 単現・否定(wissen)v.t 分からない	「動詞句」
ich イヒ pron 僕は	「主語」
- jedenfalls イェーデーンファルス adv. とにかく	「副詞」
entgegnete エントゲーグネ 1 単過(entgegen)v.t 答えた	「動詞」
ich イヒ pron 僕は	「主語」
bisher ビス・ヘア adv. 今まで、これまで	「副詞」
hätte ... gar nicht gewußt, ハッテ...カール・ニヒト・ゲウスト 接 II・1 単過・完了形・否定	

ERSTER TEIL 第1部

(wissen)v.t 全く知らなかった	「動詞句」
ich イヒ pron 僕は	「主語」
daß ダス conj. ～ということを	「目的語」
man マン pron 人が	「主語」
mir ミーア pron 僕に	「間接目的語」
in dies Hinsicht Vorwürfe イン・デース・ヒンズィスト・フォーアウルフ	
adv. 非難の様子で	「副詞句」
make, マヘ 接・3 単現(machen)v.t している	「動詞」
aber アーバー conj. しかし	
das Heim ダス・ハイム n.n 養老院は	「主語」
sei ...gewesen, サイ...ゲウェゼン 接・3 単現・完了形(sein)v.i ～だった	「動詞句」
für mich フェア・ミヒ adv. 僕にとって	「副詞句」
eine ganz natürliche Lösung アイン・ガンツ・ナチュアリッシェ・レーズンク	
n.f.1 格 全く自然な解決策	「補語」
weil ウェイル conj. (理由) ～なので	「副詞節」
ich イヒ pron 僕は	「主語」
nicht genug verdiene, ニヒト・ゲヌーク・フェアデイーネ 1 単現・否定(verdienen)	
v.t 十分に稼いでいない	「動詞句」
um für Mama eine Pflegerin zu halten. ウム・フェア・ママ・アイン・フー・フレゲリン・ツー・ハルテン	
zu 不定句・目的 adv. 母さんに看護婦を付けるために	「副詞句」

僕は付け加えて言った。「ずっと前から母さんは僕に話すことが無くて一人で退屈していました」。「ええ」と彼は答えた。「それに、養老院なら時期に仲間が見つかります」

«Übrigens fügte ich hinzu, «hatte Mama mir schon lange nichts mehr zu sagen und langweilte sich allein.» - »Ja», entgegnete er, «und in einem Heim findet man bald Freunde.»

「副詞」「動詞句」「主語」「動詞句」,	
《「動詞」「主語」「間接目的語」「副詞句」「直接目的語」 und 「動詞句」「副詞」》,	
《「応答」》, 「動詞」「主語」, 《und 「副詞句」「動詞」「主語」「副詞」「目的語」》	
«Übrigens ユーブリゲンス adv. (話題転換) ところで、それはそうと	「副詞」
fügte ...hinzu, フュクテ...ヒンツァ 1 単過(hinzu fügen)v.t 付け加えた	「動詞句」
ich イヒ pron 僕は	「主語」
«hatte ハッテ 3 単過(haben)v.t ～があった	「動詞」
Mama ママ n.f 母さんは	「主語」
mir ミーア pron 僕に	「間接目的語」
schon lange ショーン・ランゲ adv. ずっと前から	「副詞句」

ERSTER TEIL 第1部

nichts mehr zu sagen ニヒツ・メア・ツァー・ザーゲン pron 話すことがもう何も～ない 「直接目的語」
 und ウント conj. そして
 langweilte sich ラング・ヴァイルテ・ズィット 3 単過(sich-4 langweilen)v.pr 退屈していた 「動詞句」
 allein. アライン adv. ひとりで 「副詞」
 - »Ja», ヤー adv. (肯定) ええ 「応答」
 entgegnete エントゲー・ゲネ 3 単過(entgegen)v.t 答えた 「動詞」
 er, エア pron 彼は 「主語」
 «und ウント conj. そして
 in einem Heim イン・アイネ・ハ임 adv. 養老院では 「副詞句」
 findet フィンデット 3 単現(finden)v.t 見つける 「動詞」
 man マン pron 人は 「主語」
 bald バルト adv. じきに、すぐに 「副詞」
 Freunde. フロインデ pl(Freund).n.m 友達を、仲間を 「目的語」

それから彼は、失礼しますと言った。彼は眠りたかった。

Dann entschuldigte er sich. Er wollte schlafen.

「副詞」「動詞句」「主語」「動詞句」 | 「主語」「動詞句」

Dann ダン adv. それから、そして 「副詞」
 entschuldigte ...sich. エントシュルデ・イテ...ズィット 3 単過(sich-4 entschuldigen)
 v.pr 詫びた、失礼しますと言った 「動詞句」
 er エア pron 彼は 「主語」
 Er エア pron 彼は 「主語」
 wollte schlafen. ヴォルテ・シュラーフェン 3 単過・願望(wollen+不定詞 schlafen)
 v.i 眠りたかった 「動詞句」

今や彼の生活は全く変化してしまい、彼は何をすべきか良く分からなくなっていた。

Sein Leben sei jetzt ganz anders geworden, und er wisse nicht so recht was er tun solle.

「主語」「動詞句」「補語」,und 「主語」「動詞句」「副詞句」「目的語」

Sein Leben サイン・レーベン n.n 彼の生活は 「主語」
 sei ...geworden, サイ...ゲヴァアデテン 接・3 単現・完了形・変化・推量(werden)
 v.i ～になった 「動詞句」
 jetzt イェツト adv. 今では 「副詞」
 ganz anders ガンツ・アンダース adv. 全く違って 「補語」
 und ウント conj. そして
 er エア pron 彼は 「主語」
 wisse nicht ヴァイッセ・ニヒト 接・3 単現・否定(wissen)v.t 分からない 「動詞句」

ERSTER TEIL 第1部

so recht ザー・レヒト adv. (否定文で) 余りよく何ない 「副詞句」
 was ヲアス pron 何を～するということ 「目的語」
 er エア pron 彼は 「主語」
 tun solle. トゥン・ゾレ 3 単現・義務(sollen+不定詞 tun)v.t するべきである 「動詞句」

彼と知り合って以来初めて、彼は素早く僕に手を差し出した。僕は彼の皮膚が鱗のようだと感じた。

Zum erstenmal, seit ich ihn kenne, reichte er mir flüchtig die Hand, und ich fühlte seine schuppige Haut. 「副詞句」, 「動詞」 「主語」 「間接目的語」 「副詞」 「直接目的語」, und 「主語」 「動詞」 「目的語」

Zum erstenmal, ツーム・エアシュテン・マル adv.(Zum ersten Mal) 初めて 「副詞句」
 seit ザイト conj. ～して以来 「副詞節」
 ich イヒ pron 僕が 「主語」
 ihn イン pron 彼を 「目的語」
 kenne, ケネ 1 単現(kennen)v.t 知る 「動詞」
 reichte ライヒテ 3 単過(reichen)v.t 差し出した 「動詞」
 er エア pron 彼は 「主語」
 mir ミア pron 僕に 「間接目的語」
 flüchtig フリュヒティヒ adv. 素早く 「副詞」
 die Hand, デー・ハント n.f.4 手を 「直接目的語」
 und ウント conj. そして
 ich イヒ pron 僕は 「主語」
 fühlte フュールテ 1 単過(fühlen)v.t 感じた 「動詞」
 seine schuppige Haut. ザー・ネ・シュビゲ・ハント n.f.4 格 彼の鱗のような皮膚を 「目的語」

彼は少し微笑んで、部屋から出て行く前に言った：「今夜は犬たちが吠えなければいいんですが。その度に、うちの犬じゃないかと思ってしまうんです」

Er lächelte ein wenig, und ehe er das Zimmer verließ, sagte er: «Hoffentlich bellen die Hunde in dieser Nacht nicht. Ich denke immer, es ist meiner.»

「主語」 「動詞」 「副詞句」, und 「副詞節」 「動詞」 「主語」:

《「副詞」 「動詞句」 「主語」 「副詞句」 「動詞句」 | 「主語」 「動詞」 「副詞」 「目的語」》

Er エア pron 彼は 「主語」
 lächelte レヒェルテ 3 単過(lächeln)v.i 微笑んだ 「動詞」
 ein wenig, アイン・ヴァーニツヒ adv. 少し 「副詞句」
 und ウント conj. そして
 ehe エーエ conj. ～する前に 「副詞節」

ERSTER TEIL 第1部

er エア pron 彼が	「主語」
das Zimmer ダス・ツィマー n.n 部屋を	「目的語」
verließ, フェアリース 3 単過(verlassen)v.t ～から出る	「動詞」
sagte サークテ 3 単過(sagen)v.t 言った	「動詞」
er: エア pron 彼は	「主語」
«Hoffentlich ホッフェントリッヒ adv. ～だといいのだが	「副詞」
bellen ...nicht. ベレン...ニヒト 3 複現・否定(bellen)v.i 吠えない	「動詞句」
die Hunde デーイー・フンデ pl(Hund).n.m 犬が	「主語」
in dieser Nacht イン・デーザー・ナヒト adv. 今夜は	「副詞句」
Ich イヒ pron 私は	「主語」
denke デンケ 1 単現(denken)v.t 考える、思う	「動詞」
immer, イマー adv. いつも、その都度	「副詞」
es エス pron それは～ということを	「目的語」
ist イスト 3 単現(sein)v.i ～である	「動詞」
meiner.」 マイナー pron うちの犬	「補語」

VI

日曜日は、僕は全く目が覚めなかった；マリーが声をかけて、揺さぶらなければなかった。

Am Sonntag konnte ich nur schwer wach werden; Maria mußte mich anrufen und schütteln.

「副詞句」「動詞句」「主語」「補語」「動詞句」；

「主語」「動詞句」「目的語」「動詞句」 und 「動詞句」

Am Sonntag アム・ゾンターク adv. 日曜日には 「副詞句」

konnte ...werden; コンテ...ウ`ェアテン 1 単過・可能・変化(können+不定詞 werden)

v.i 〜になれなかった 「動詞句」

ich イヒ pron 僕は 「主語」

nur schwer ヌア・シュウ`ェア adv. 全く困難な 「副詞句」

wach ウ`アッハ adj. 目覚めた 「補語」

Maria マリア n.f マリーが 「主語」

mußte ...anrufen ムステ...アンルーフェン 3 単過・必要(müssen+不定詞 anrufen)

v.t 呼びかけなければならなかった 「動詞句」

mich ミヒ pron 僕を 「目的語」

und ウント conj. そして

schütteln. シュッテルン 3 単過・必要(müssen+不定詞 schütteln)

v.t 揺さぶらなければならなかった 「動詞句」

早く泳ぎたかったので、僕たちは朝食を取らなかった。

Wir frühstückten nicht, weil wir früh baden wollten.

「主語」「動詞句」「副詞節」

Wir ウ`ィア pron.pl 僕たちは 「主語」

frühstückten nicht, フリュシュトゥッケテン・ニヒト 1 複過・否定(frühstücken)

v.i 朝食を食べなかった 「動詞句」

weil ウ`ァイル conj. (理由) 〜なので 「副詞節」

wir ウ`ィア pron 僕たちは 「主語」

früh フリュ`ー adv. 早く 「副詞」

baden wollten. バ`ーテン・ウ`ォルテン 1 複過・願望(wollen+不定詞 baden)

v.i 泳ぎたかった 「動詞句」

僕は朦朧として、少し頭痛もした。

Ich hatte ein Gefühl der Leere und ein bißchen Kopfschmerzen.

「主語」「動詞」「目的語」 und 「目的語」

Ich イヒ pron 僕は 「主語」

hatte ハッテ 1 単過(haben)v.t 〜があった 「動詞」

ERSTER TEIL 第1部

ein Gefühl アイン・ゲフュール n.n.4 格 感覚 「目的語」
 der Leere デア・レーレ n.n.2 格 空の 「形容詞句」
 und ウント conj. そして
 ein bißchen アイン・ビッシェン adj.m.4 格 わずかな 「形容詞句」
 Kopfschmerzen. コップ フシュメアツェン n.m.4 格 頭痛 「目的語」

煙草は嫌な味がした。

Die Zigarette schmeckte nicht recht. 「主語」「動詞句」「補語」
 Die Zigarette デー・イー・ツィガレッテ n.f 煙草は 「主語」
 schmeckte nicht シュメクテ・ニヒト 3 単過・否定(schmecken)v.i 味がしなかった 「動詞句」
 recht. レヒト adj. まともな 「補語」

マリーは僕をからかって、僕が葬式みたいな顔をしていると言った。

Maria machte sich lustig über mich und meinte, ich...mache...ein richtiges
Leichenbittergesicht. 「主語」「動詞句」 und 「動詞」「目的語」
 Maria マリア n.f マリーは 「主語」
 machte sich lustig über mich マハテ・スィツヒ・ルスチヒ・ユーバー・ミツヒ
 3 単過(sich-4 über j-4 lustig machen)v.pr 僕をからかった 「動詞句」
 und ウント conj. そして
 meinte, マインテ 3 単過(meinen)v.t 言った 「動詞」
 ich イヒ pron 僕が～するということを 「目的語」
 mache マ 1 単現(machen)v.t 作っている 「動詞」
 ein richtiges アイン・リヒテケス adj.n.4 格 ふさわしい 「形容詞句」
 Leichenbittergesicht. ライヒェン・ビター・ゲジヒト n.n.4 格 葬式の顔 「目的語」

彼女は白いリネンのワンピースを着ていた。髪は束ねていなかった。

Sie hatte ein weißes Leinenkleid an und trug das Haar offen.
 「主語」「動詞句」「目的語」「動詞句」 und 「動詞」「目的語」
 Sie ジー pron 彼女は 「主語」
 hatte ...an ハッテ...アン 3 単過(an|haben)v.t 着ていた 「動詞句」
 ein weißes アイン・ヴァイス adj.n.4 格 白い 「形容詞句」
 Leinenkleid ライネン・クライト n.n 亜麻布のワンピースを 「目的語」
 und ウント conj. そして
 trug トルク 3 単過(tragen)v.t (様態を) していた、身につけていた 「動詞」
 das Haar ダス・ハール n.n.4 格 毛髪 「目的語」
 offen. オフエン adj. 束ねられていない 「形容詞」

ERSTER TEIL 第1部

マリーにきれいだと言うと、嬉しそうに笑った。

Ich sagte ihr, sie sei schön, und sie lachte vor Freude.

「主語」「動詞」「間接目的語」「直接目的語」,und「主語」「動詞」「副詞句」

Ich イッ pron 僕は

「主語」

sagte サークテ 3 単過(sagen)v.t 言った

「動詞」

ihr, イア pron 彼女に

「間接目的語」

sie sei schön, ジー・ザイ・シェン n. 彼女はきれいだと

「直接目的語」

und ウント conj. そして

sie ジー pron 彼女は

「主語」

lachte ラハテ 3 単過(lachen)v.i 笑った

「動詞」

vor Freude. フォア・フロイデ adv. (原因) 喜んで

「副詞句」

僕たちは出る時にレーモンのドアをノックした。

Beim Hinuntergehen klopfen wir an Raymonds Tür.

「副詞句」「動詞」「主語」「間接目的語」

Beim バイム prep ～する時に

「副詞句」

Hinuntergehen ヒンターゲーエン n.n 出る事、降りる事

「目的語」

klopfen クロプフェン 1 複過(klopfen)v.i(an を) 叩いた

「動詞」

wir ウィア pron 僕たちは

「主語」

an Raymonds Tür. アン・レーモンズ・チュア adv. レーモンのドアを

「間接目的語」

彼はすぐに行くと答えた。

Er antwortete, er komme gleich.

「主語」「動詞」「目的語」

Er エア pron 彼は

「主語」

antwortete, アントワータテ 3 単過(antworten)v.t 答えた

「動詞」

er エア pron 彼は～するという事を

「目的語」

komme コメ 接・3 単現・意思(kommen)v.i 来る

「動詞」

gleich. グライヒ adv. すぐに

「副詞」

通りへ出ると、強烈な日差しがまるで平手打ちのように僕を叩きつけた。

Auf der Straße traf mich das grelle Sonnenlicht wie eine Ohrfeige.

「副詞句」「動詞」「目的語」「主語」

Auf アウフ prep ～の上で

「副詞句」

der Straße デア・シュトラッセ n.f.3 格 通り、街路

「目的語」

traf トラフ 3 単過(treffen)v.t 当たった

「動詞」

ERSTER TEIL 第1部

mich ミッヒ pron 僕に 「目的語」
 das grelle Sonnenlicht ダス・グレル・ゾネリヒト n.n どぎつい日差しが 「主語」
 wie ヲー conj. (例示) ーのような 「形容詞句」
 eine Ohrfeige. アイネ・オーファイク n.f 平手打ち 「主語」

恐らく、僕がとても疲れていたためと、ずっとブラインドを開けないでいたせいだろう。

Sicher, weil ich so müde war und wir die Jalousien nicht geöffnet hatten.

Sicher, スィッヒヤー adv. きっと、恐らく 「副詞句」
 weil ヲアイル conj. (理由) ーなので 「副詞」
 ich イッヒ pron 僕は 「副詞節」
 so müde ソー・ミュデー adj. とても疲れた 「主語」
 war ヲアル 1 単過(sein)v.i ーだった 「補語」
 und ウント conj. そして 「動詞」
 wir ヲーア pron.pl 僕たちは 「主語」
 die Jalousien ディ・シヤルジーン
 pl(Jalousie).n.f.4 格 ベネチアンブラインドを、錠戸 「目的語」
 nicht geöffnet hatten. ニヒト・ゲエフネット・ハッテン 1 複過・完了形・否定(öffnen)
 v.t 開けないでいた 「動詞句」

マリーは喜んで小躍りし、「いい天気ね」と何度も言っていた。

Maria hüpfte vor Freude und sagte immer wieder, wie herrlich das Wetter sei.

「主語」「動詞」「副詞句」 und 「副詞句」「動詞句」「目的語」
 Maria マリア n.f マリーは 「主語」
 hüpfte フプフテ 3 単過(hüpfen)v.i 飛び跳ねていた 「動詞」
 vor Freude フォーア・フロイデ adv. (原因) 喜びで、喜んで 「副詞句」
 und ウント conj. そして
 sagte サークテ 3 単過(sagen)v.t 言った 「動詞」
 immer wieder, イマー・ウーダー adv. 何度も、繰り返し 「副詞句」
 wie ヲー conj. ーであることを 「目的語」
 herrlich ヘアリッヒ adj. すばらしい 「補語」
 評価は接続法
 das Wetter ダス・ウエッター n.n 天気は 「主語」
 sei. サイ 接・3 単現(sein)v.i ーである 「動詞」

ERSTER TEIL 第1部

僕はしだいに気分が良くなってきて、空腹なことに気付いた。

Ich fühlte mich langsam wohler und stellte fest, daß ich Hunger hatte.

「主語」「動詞句」「補語」 und 「動詞句」「目的語」

Ich イッヒ pron 僕は

「主語」

fühlte mich フュールテ・ミッヒ 1 単過(sich-4 fühlen)v.pr 感じた

「動詞句」

langsam ラング・ザーム adv. しだいに

「副詞」

wohler ヴォーラー adv. (比較級) より気分よく

「補語」

und ウント conj. そして

stellte fest, シュテルテ・フェスト 1 単過(fest|stellen)v.t 気付いた

「動詞句」

daß ダス conj. ～ということを

「目的語」

ich イッヒ pron 僕は

「主語」

Hunger フンガー n.m.4 格 空腹を

「目的語」

hatte. ハッテ 1 単過・時制の一致(haben)v.t (心身状態) ～である

「動詞」

僕がマリーにそう言うと、彼女は僕たちの水着とタオルの入った防水のバッグを指さした。

Ich sagte das Maria, die auf ihre Wachtuchtasche mit unseren Badeanzügen und einem Handtuch zeigte.

「主語」「動詞」「直接目的語」「間接目的語」, 「主語」「動詞句」「目的語」「動詞句」

Ich イッヒ pron 僕は

「主語」

sagte サークテ 1 単過(sagen)v.t 言った

「動詞」

das ダス pron そのことを

「直接目的語」

Maria, マリア n.f マリーに

「間接目的語」

die デー pron 彼女は

「主語」

auf ...zeigte. アフ...ツァイクテ 3 単過(auf|zeigen)v.t 指さした、示した

「動詞句」

ihre Wachtuchtasche イレ・ヴァクシューフ・タッシェ n.f.4 格 防水のバッグを

「目的語」

mit ミット prep (付属) ～の入った

「副詞句」

unseren Badeanzügen ウンゼレン・バデアンツェーゲン

pl(Badeanzug).n.m 僕たちの水着

「目的語」

und ウント conj. そして

einem Handtuch アイネム・ハントクーフ n.n タオル

「目的語」

食べ物を持ってきていないことを知らせた。

ERSTER TEIL 第1部

もはや待つしかなかった。レーモンが部屋のドアを閉める音が聞こえた。

Ich sollte nur noch warten. Wir hörten, wie Raymond seine Tür schloß.

「主語」「動詞句」「副詞句」「動詞句」 | 「主語」「動詞」「目的語」

Ich イッ pron 僕は

「主語」

sollte ...warten. ザルテ...ヴァルテン 1 単過・必要(sollen+不定詞 warten)

v.i 待たなければならなかった

「動詞句」

nur noch ヌア・ノッホ adv. もはや～しかない

「副詞句」

Wir ヱーア pron 僕たちは

「主語」

hörten, ヘアテン 1 複過・知覚動詞(hören)v.t 聞こえた

「動詞」

wie ヱー conj. ～するところを

「目的語」

Raymond レーモン n.m レーモンが

「主語」

seine Tür サイネ・チュア n.f.4 格 部屋のドアを

「目的語」

schloß. シュロス 3 単過(schließen)v.t 閉める

「動詞」

彼は青いズボンと半袖の白いシャツを身につけていた。

Er trug eine blaue Hose und ein weißes Hemd mit kurzen Ärmeln.

「主語」「動詞」「目的語」

Er エア pron 彼は

「主語」

trug トゥルク 3 単過(tragen)v.t 身につけていた

「動詞」

eine blaue Hose アイネ・ブラウネ・ホーゼ n.f.4 格 青いズボンを

「目的語」

und ウント conj. そして

ein weißes Hemd アイン・ヴァイス・ヘムト n.n.4 格 白いシャツを

「目的語」

mit kurzen Ärmeln. ミット・クルツェン・エアメルン adv. 半袖の

「形容詞句」

しかし、彼はかんかん帽を被っていた。それを見て、マリーはひどく笑った。そして、彼の前腕は黒い毛が生えているのに肌の白さが際立っていた。

Aber er hatte einen Strohhut aufgesetzt, worüber Maria viel lachte, und seine Unterarme waren unter den schwarzen Haaren weiß.

Aber 「主語」「動詞句」「目的語」「動詞句」, 「副詞」「主語」「副詞」「動詞」,
und 「主語」「動詞」「補語」

Aber アーバー conj. しかし

er エア pron 彼は

「主語」

hatte ...aufgesetzt, ハッテ...アフゲゼット 3 単過・完了形(auf|setzen)

v.t (帽子を) かぶっていた

「動詞句」

(sich-3) einen Hut(eine Brille) aufsetzen 帽子をかぶる (眼鏡をかける)

einen Strohhut アイン・シュトロフト n.m.4 格 かんかん帽を、麦藁帽

「目的語」

ERSTER TEIL 第1部

worüber	ワォリュバー	adv. それについて	「副詞」
Maria	マリア	n.f マリーは	「主語」
viel	フィール	adv. 大いに	「副詞」
lachte,	ラハテ	3 単過(lachen)v.i 笑った	「動詞」
und	ウント	conj. そして	
seine Unterarme	ザイネ・ウンターアルメ	pl(Unterarm).n.m 彼の前腕は	「主語」
waren	ワァレン	3 複過(sein)v.i ~ だった	「動詞」
unter	ウンター	prep (3 格と) (条件) ~のもとで	「副詞句」
den schwarzen Haaren	デーン・シュワァルツェン・ハーレン	pl(Haar).n.n.3 格 黒い髪	「目的語」
weiß.	ワァイス	adj. 白い	「補語」
前腕 (ぜんわん)			
腕のひじから手首までの部分。			

僕はそれを見て、少し気持ちが悪くなった。

Das	ダス	pron.3 格 それに	「間接目的語」
ekelte mich	エカルテ	3 単過(sich-4 ekeln)v.pr 吐き気を催した	「動詞句」
etwas.	エトワァス	pron いくらか、少し	「副詞」

彼は口笛を吹きながら階段を降りてきた。とても機嫌が良さそうだった。

Er	エア	pron 彼は	「主語」
kam	カム	...herunter 3 単過(herunter kommen)v.i 降りてきた	「動詞句」
pfeifend	プファイフェント	現在分詞・同時(pfeifen)adv. 口笛を吹きながら	「副詞」
die Treppe	ディー・トレッペ	n.f.4 格 階段を	「目的語」
und	ウント	conj. そして	
sah	サー	...aus. 3 単過(aus sehen)v.i ~のように見えた	「動詞句」
sehr zufrieden	セァ・ツフリーデーン	adj. とても上機嫌の	「補語」

「やあ、みんな」と彼は言い、マリーのことを「お嬢さん」と呼んだ。

Er	エア	pron 彼は	「主語」
sagte:	ザーケ	3 単過(sagen)v.t 言った	「動詞」

「主語」「動詞」:《「挨拶」》;「目的語」「動詞」「主語」《「補語」》

ERSTER TEIL 第1部

«Tag, ターク adv. (挨拶) こんにちは 「挨拶」
 mein Lieber»; マイン・リーバー adv. 愛する人よ 「呼びかけ」
 Maria マリア n.f.4 格 マリーを 「目的語」
 nannte ナンテ 3 単過(nennen)v.t(j-4 et-4) (人-4 を何-4 と) 呼んだ 「動詞」
 er エア pron 彼は 「主語」
 «gnädiges グネーディゲス adj(gnädig).n.4 格 慈悲深い 「形容詞」
 Fräulein». フロイリン n.n.4 格 お嬢さん 「補語」

前日の夕方に、僕たちは警察署に行き、僕はあの女がレーモンを騙していたと証言した。

Am Abend vorher waren wir auf dem Kommissariat gewesen, und ich hatte bezeugt, daß das Mädchen Raymond betrogen habe.

「副詞句」「動詞句」「主語」「間接目的語」「動詞句」,und「主語」「動詞句」「目的語」
 Am Abend vorher アム・アーベント・フォアヘア adv. 前日の夕方に 「副詞句」
 waren ...gewesen, ヲアレン...ゲウエゼン 1 複過・完了形(sein)v.i 行ってきた 「動詞句」
 wir ヲイーア pron.pl 僕たちは 「主語」
 auf dem Kommissariat アウフ・デーム・コミサリアート adv. (公共の施設に) 警察署に「間接目的語」
 und ウント conj. そして
 ich イヒ pron 僕は 「主語」
 hatte bezeugt, ハッテ・ベツォイクト 1 単過・完了形(bezeugen)v.t 証言した 「動詞句」
 daß ダス conj. ～ということを 「目的語」
 das Mädchen ダス・メートヒェン n.n れいの女が 「主語」
 Raymond レーモン n.m レーモンを 「目的語」
 betrogen habe. ベトローゲン・ハッテ 3 単過・完了形(betrügen)
 v.t 騙していた、裏切っていた 「動詞句」

レーモンは警告だけで済んだ。僕の証言はそれ以上検証されなかった。

Er kam mit einer Verwarnung davon. Meine Aussage wurde nicht weiter überprüft.

「主語」「動詞句」「副詞句」「動詞句」 | 「主語」「動詞句」「副詞」「動詞句」
 Er エア pron 彼は 「主語」
 kam ...davan. カム...ダフォン 3 単過(davon|kommen)
 v.i(mit ～だけで) (難を) 免れた 「動詞句」
 mit einer Verwarnung ミット・アイナー・フェアウアーヌング adv. 警告だけで 「副詞句」
 Meine Aussage マイネ・アウスザーゲ n.f 僕の証言は 「主語」
 wurde nicht ...überprüft. ウェルテ・ニヒト...ユーバープリーフト 3 単過・受動・否定
 (werden+過去分詞 überprüfen)v.t 検証されなかった 「動詞句」
 weiter ヲイター adv. それ以上 「副詞」

ERSTER TEIL 第1部

僕たちは玄関ドアの前でレーモンと話し合った。それから、バスで行くことに決めた。

Vor der Haustür besprachen wir uns mit Raymond, dann beschlossen wir, den Autobus zu nehmen.

「副詞句」「動詞句」「主語」「副詞句」, 「副詞」「動詞」「主語」「目的語」

Vor フォア prep (空間的) 〜の前で

「副詞句」

der Haustür デア・ハウスチュア n.f.3 格 玄関ドア

「目的語」

besprachen ...uns ベシュプ^ラヘン...ウンス 1 複過(sich-4 besprechen)

v.pr(mit j-3) 話し合った

「動詞句」

wir ウィア pron.pl 僕たちは

「主語」

mit Raymond, ミット・レーモン adv. レーモンと

「副詞句」

dann ダン adv. それから

「副詞」

beschlossen ベシュロッセン 1 複過(beschließen)v.t 決めた

「動詞」

wir, ウィア pron.pl 僕たちは

「主語」

zu 不定句 n. 〜することを

「目的語」

den Autobus デン・アウトバス n.m バスに

「目的語」

zu nehmen. ツー・ネーメン zy 不定詞 v.t (乗り物に) 乗る、利用する

「動詞句」

浜は遠くなかったが、バスの方が速いのだ。

Der Strand war nicht weit, aber so ging es schneller.

「主語」「動詞句」「補語」, aber 「副詞句」「主語」「補語」

Der Strand デア・シュトラント n.m 浜は

「主語」

war nicht ウァール・ニヒト 3 単過・否定(sein)v.i 〜でなかった

「動詞句」

weit, ヴァイト adj. 遠い

「補語」

aber アーバー conj. しかし

so ging ソー・ギング adv. (仮定) そうした方が

「副詞句」

es エス pron. それは

「主語」

schneller. シュネラー adj. (比較級) より速い

「補語」

レーモンは僕たちがこんなに早く着いたら、友人が喜ぶと考えていた。

Raymond meinte, sein Freund würde sich freuen, wenn wir so früh kämen.

「主語」「動詞」, 「主語」「動詞句」「副詞節」

Raymond レーモン n.m レーモンは

「主語」

meinte, マイnte 3 単過(meinen)v.t 考えていた

「動詞」

sein Freund ザイン・フロイント n.m 友人が

「主語」

würde sich freuen, ヴェルデ^スィヒ^ルイエン 接 II・3 単現・推量(werden+不定詞 sich-4 freuen)

ERSTER TEIL 第1部

v.pr 喜ぶだろう	「動詞句」
wenn ウェン conj. (仮定) ～したら	「副詞節」
wir ウィア pron.pl 僕たちが	「主語」
so früh ザー・フュー adv. こんなに早く	「副詞句」
kämen. ケメン 接 II・1 複現・仮定(kommen)v.i 着いたら	「動詞」

僕たちはまさにバスに乗るところだった。その時突然レーモンが僕に、向かい側の通りを見てくれないかと言った。

Wir wollten gerade einsteigen, als Raymond mir plötzlich bedeutete, ich solle zur gegenüberliegenden Straßenseite schauen.

「主語」「動詞句」「副詞」「動詞句」, als 「主語」「間接目的語」「副詞」「動詞」, 「主語」「動詞句」「副詞句」「動詞句」	
Wir ウィア pron.pl 僕たちは	「主語」
wollten ...einsteigen, ウォルテン...アインシュタイゲン 1 複現・近接未来(wollen+不定詞 einsteigen)	
v.t バスに乗ろうとしていた	「動詞句」
gerade ゲラーテ adv. まさに	「副詞」
als アルス conj. ～した時	
Raymond レーモン n.m レーモンは	「主語」
mir ミア pron.3 格 僕に	「間接目的語」
plötzlich プレツリヒ adv. 突然、急に	「副詞」
bedeutete, ベトイテ 3 単過(bedeutен)v.t 言った	「動詞」
ich イヒ pron 僕は	「主語」
solle ...schauen. ザレ...シャウエン 接・1 単現・依頼(sollen+不定詞 schauen)	
v.t 見て欲しい	「動詞句」
zur gegenüberliegenden Straßenseite ツーア・ゲーゲンユーバーリーゲンテソ・シュトラーゼンザイテ	
adv. (空間的・位置) 向かい側の通りを	「副詞句」

タバコ屋のショーウィンドーの前に、アラブ人の一団が見えた。

Vor der Auslage eines Tabakladens sah ich eine Gruppe Araber.

「副詞句」「動詞」「主語」「目的語」	
Vor フォア prep (空間的) ～の前に	「副詞句」
der Auslage テア・アウスラーゲ n.f.3 格 ショーウィンドー	「目的語」
eines Tabakladens アイネス・タバクラデンス n.m.2 格 タバコ屋の	「形容詞句」
Tabak + Laden タバコ屋	
sah ザー 1 単過(sehen)v.t 見えた	「動詞」
ich イヒ pron 僕は	「主語」

ERSTER TEIL 第1部

eine Gruppe Araber. アィネ・グルッペ・アーラー n.m アラブ人の一団が

「目的語」

彼らは無言で、しかし彼らのやり方で、まるで我々のことを石や枯れ木のように、それとなくじっと眺めていた。

Sie betrachteten uns schweigend, aber auf ihre Weise, nicht mehr oder weniger, als wären wir Steine oder tote Bäume.

「主語」「動詞」「目的語」「副詞句」

Sie ジー pron.pl 彼らは

「主語」

betrachteten ベトラハテテン 3 複過(betrachten)v.t じっと眺めていた

「動詞」

uns ウンス pron.pl.4 格 僕たちを

「目的語」

schweigend, シュヴァイゲン 現在分詞・同時 adv. 無言で

「副詞」

aber アーバー conj. しかし

auf アウフ prep (方法) 〜で

「副詞句」

ihre Weise, イレ・ヴァイゼ n.f.3 格 彼らのやり方

「目的語」

nicht mehr oder weniger, ニヒト・メア・オッター・ヴァーニヒ

adv. だいたいのところは、なんとなく

「副詞句」

als アルス conj. あたかも〜のように

「副詞節」

wären ヴァーレン 接 II・1 複現(sein)v.i 〜である

「動詞」

wir ヴァー pron.pl 僕たちが

「主語」

Steine シュタイン pl(Stein).n.m.1 格 石

「補語」

oder オッター conj. または

tote トーテ adj(tot).pl.1 格 (植物が) 枯れた

「形容詞」

Bäume. ホイメ pl(Baum).n.m.1 格 木

「補語」

レーモンは不安な様子で、僕に言った。左から 2 番目の男が喧嘩の相手だ。

Raymond war nicht sehr erfreut und sagte mir, der zweite von links sei sein Feind.

「主語」「動詞句」「補語」 und 「動詞」「間接目的語」「直接目的語」

Raymond レーモン n.m レーモンは

「主語」

war nicht ヴァール・ニヒト 3 単過・否定(sein)v.i 〜でなかった

「動詞句」

sehr erfreut セア・エフロイト adj. (否定文で) あまり嬉しくない

「補語」

und ウント conj. そして

sagte サークテ 3 単過(sagen)v.t 言った

「動詞」

mir, ミア pron 僕に

「間接目的語」

n. 〜ということ

「直接目的語」

der zweite テア・ツヴァイト n.m 2 番目の男が

「主語」

von links フォン・リンクス adv. 左から

「副詞句」

sei サイ 接・3 単現(sein)v.i 〜である

「動詞」

ERSTER TEIL 第1部

sein Feind. ザイン・ファイント n.m 彼の敵

「補語」

だが彼は、それはもう終わった事だと言った。

Trotzdem meinte er, die Geschichte sei nun erledigt. 「副詞」「動詞」「主語」「目的語」

Trotzdem トロツデーム adv. それにもかかわらず、だが 「副詞」

meinte マイnte 3 単過(meinen)v.t 言った、思った 「動詞」

er, エア pron 彼は 「主語」

n. ～ということを 「目的語」

die Geschichte デー・ゲシヒテ n.f その話は 「主語」

sei ザイ接・3 単現(sein)v.i ～である 「動詞」

nun ヌン adv. いまや、今では、もう 「副詞」

erledigt. エアレーテ イト 過去分詞・受動(erledigen)

adj. 片付けられた、処理された、終わった 「補語」

マリーはそれが分からなかったの、僕たちに何が起きているのかと尋ねた。

Maria verstand das nicht und fragte uns, was es gebe.

「主語」「動詞句」「目的語」 und 「動詞」「間接目的語」「直接目的語」

Maria マリア n.f マリーは 「主語」

verstand ...nicht フェアシュタント...ニト 3 単過(verstehen)v.t 理解できなかった 「動詞句」

das ダス pron それを 「目的語」

und ウント conj. そして

fragte フラクテ 3 単過(fragen)v.t 尋ねた 「動詞」

uns, ウンス pron.3 格 僕たちに 「間接目的語」

was ヴァス pron 何が～するかを 「直接目的語」

es gebe. エス・ゲーベ 非人称・接・3 単現(es geben et-4)v.h 起きている 「動詞句」

僕はマリーに、あのアラブ人たちはレーモンともめていると教えてやった。

Ich sagte ihr, die Araber hätten was mit Raymond.

「主語」「動詞」「間接目的語」「直接目的語」

Ich イッヒ pron 僕は 「主語」

sagte サークテ 3 単過(sagen)v.t 言った 「動詞」

ihr, イア pron.f.3 格 彼女に 「間接目的語」

die Araber デー・アラバー pl(Araber).n.m あのアラビア人は～すると 「直接目的語」

hätten ヘッテン 接 II・3 複現(haben)v.t ～がある 「動詞」

was ヴァス pron それを、もめ事を 「目的語」

mit Raymond. ミット・レーモン adv. レーモンと 「副詞句」

ERSTER TEIL 第1部

レーモンは伸びをしてから、さあ急ごうと言った。

Raymond reckte sich und meinte, wir sollten uns beeilen.

「主語」「動詞句」 und 「動詞」「目的語」

Raymond レーモン n.m レーモンは

「主語」

reckte sich レクテ・スィヒ 3 単過(sich-4 recken)v.pr 伸びをした

「動詞句」

und ウント conj. そして

meinte, マイネ 3 単過(meinen)v.t 考えた、言った

「動詞」

wir ヲーア pron.pl 僕たちは～すると

「目的語」

sollten uns beeilen. ソルテン...ウンス・ベアレン 1 複過・義務(sollen+不定詞 sich-4 beeilen)

v.pr 急ぐべきである

「動詞句」

そこで僕たちは少し離れた所にあるバス停に進んで行った。レーモンはそれについて注意深く、アラブ人が僕たちのあとをつけて来ないようだと僕に言った。

Wir gingen dann zur Haltestelle, die etwas weiter entfernt lag, und Raymond machte mich darauf aufmerksam, daß die Araber uns nicht folgten.

「主語」「動詞」「副詞」「間接目的語」,

und 「主語」「動詞」「間接目的語」「副詞」「直接目的語」

Wir ヲーア pron.pl 僕たちは

「主語」

gingen ギンゲン 1 複過(gehen)v.i 行った

「動詞」

dann ダン adv. それから、そこで

「副詞」

zur Haltestelle, ツーア・ハルトシュテレ adv. バス停へ

「間接目的語」

Haltestelle ツーア・ハルトシュテレ n.f (バス。路面電車の) 停留所

die デー pron.f ～する

「形容詞節」

etwas weiter entfernt エトワース・ヴァイター・エンフレント

adv. 少し離れた所に

「副詞句」

lag, ラーク 3 単過・存在・時制の一致(liegen)

v.i (ある場所に) ある

「動詞」

und ウント conj. そして

Raymond レーモン n.m レーモンは

「主語」

machte マハテ 3 単過(machen)v.t 言った

「動詞」

mich ミヒ pron.4 格 僕に

「間接目的語」

darauf ダラウフ adv. それについて

「間接目的語」

aufmerksam, アウフマクザーム adv. 注意深く

「副詞」

daß ダス conj. ～ということ

「直接目的語」

die Araber デー・アラバー pl(Araber).n.m アラブ人たちは

「主語」

ERSTER TEIL 第1部

uns ウス pron.pl.4 格 僕たちを 「目的語」
 nicht folgten. ニヒト・フォルグテン 3 複過・否定・時制の一致(folgen)
 v.t 後をつけていない 「動詞句」

僕は振り返った。彼らは相変わらず同じ場所に立っていて、同じ無関心な態度で僕たちが
 先程立ち去った場所をじっと見つめていた。

Ich wandte mich um. Sie standen immer noch an derselben Stelle und betrachteten mit derselben Gleichgültigkeit den Ort, den wir eben verlassen hatten.

「主語」「動詞句」 | 「主語」「動詞」「副詞句」 und 「動詞」「副詞句」「目的語」
 Ich イヒ pron 僕は 「主語」
 wandte mich um. ヴァンテ・ミヒ・ウム 1 単過(sich-4 um | wenden)v.pr 振り返った 「動詞句」
 Sie ジー pron.pl 彼らは 「主語」
 standen シュタンデン 3 複過(stehen)v.i 立っていた 「動詞」
 immer noch イマー・ノッホ adv. 相変わらず 「副詞句」
 an derselben Stelle アン・デアゼ ルベン・シュテレ adv. 同じ場所に 「副詞句」
 und ウント conj. そして
 betrachteten ベトラハテン 3 複過(betrachten)v.t じっと見つめていた 「動詞」
 mit derselben Gleichgültigkeit ミット・デアゼ ルベン・グライヒギュルティヒカイト
 adv. (方法) 同じ無関心な態度で 「副詞句」
 den Ort, デン・オート n.m.4 格 場所を 「目的語」
 den デン pron (目的語) ~する 「形容詞節」
 wir ヴィーア pron.pl 僕たちが 「主語」
 eben エーベン adv. まさに 「副詞」
 verlassen hatten. フェアラッセン・ハッテン 1 複現・完了形(verlassen)
 v.t 立ち去った 「動詞句」

僕たちはバスに乗った。

Wir stiegen in den Autobus. 「主語」「動詞」「間接目的語」
 Wir ヴィーア pron.pl 僕たちは 「主語」
 stiegen シュティエーゲン 1 複過(steigen)v.i(in に) 乗った 「動詞」
 in den Autobus. イン・デン・アウトブス adv. バスに 「間接目的語」

レーモンは、すっかり安心したと見え、マリーに冗談を言っていた。

Raymond, da sehr erleichtert schien, scherzte mit Maria. 「主語」「動詞」「間接目的語」
 Raymond, レーモン n.m レーモンは 「主語」
 da ダー conj. (原因) ~なので 「副詞節」

ERSTER TEIL 第1部

sehr erleichtert	セーア・エアライテート	adj. すっかり安心した	「補語」
schien,	シーン	3 単過(scheinen)v.i 〜に見えた	「動詞」
scherzte	シェアルツテ	3 単過(scherzen)v.i 冗談を言った	「動詞」
mit Maria.	ミット・マリア	adv. マリーに	「間接目的語」

僕は彼はマリーを気に入っているように感じたが、彼女はほとんど彼に答えなかった。ただ時々、笑いながら彼を見ていた。

Ich fühlte, daß sie ihm gefiel, aber sie antwortete ihm kaum. Nur ab und zu sah sie ihn lachend an.

「主語」「動詞」「目的語」, aber 「主語」「動詞」「間接目的語」「副詞」
「副詞句」「動詞句」「主語」「目的語」「副詞」「動詞句」

Ich	イッヒ	pron 僕は	「主語」
fühlte,	フュールテ	1 単過(fühlen)v.t 感じた	「動詞」
daß	ダス	conj. 〜ということを	「目的語」
sie	ジー	pron.f マリーは	「主語」
ihm	イム	pron.3 格 彼にとって	「間接目的語」
gefiel,	ゲフィール	3 単過(gefallen)v.i 気に入った	「動詞」
aber	アーバー	conj. しかし	
sie	ジー	pron.f 彼女は	「主語」
antwortete	アントヴ・ォアテテ	3 単過(antworten)v.i 答えた	「動詞」
ihm	イム	pron.3 格 彼に	「間接目的語」
kaum.	カウム	adv. ほとんど〜ない	「副詞」
Nur	ヌーア	adv. ただ	「副詞」
ab und zu	アプ・ウント・ツァー	adv. 時々	「副詞句」
sah ...an.	ザー...アン	3 単過(an sehen)v.t 見つめていた	「動詞句」
sie	ジー	pron.f 彼女は	「主語」
ihn	イン	pron.4 格 彼を	「目的語」
lachend	ラハント	現在分詞・同時(lachen)adv. 笑いながら	「副詞」

僕たちはアルジェの郊外でバスを降りた。

Draußen, vor der Stadt, stiegen wir aus.

Draußen, ドラウセン adv. 外で 「副詞」
vor der Stadt, フォーア・デア・シュタット adv. 郊外で 「副詞句」
stiegen ...aus. シュティエゲン...アウス 1 複過(aus|steigen)v.i 降りた 「動詞句」
wir ウィー pron.pl 僕たちは 「主語」

ERSTER TEIL 第1部

浜はバス停からほど近い。

Der Strand liegt nicht weit von der Haltestelle.

「主語」「動詞」「副詞句」

Der Strand デア・シュトラント n.m 浜は

「主語」

liegt リーグト 3 単現(liegen)v.i (場所に) ある

「動詞」

nicht weit ニヒト・ヴァイト adv. 遠くない場所に

「副詞句」

von der Haltestelle. フォン・デア・ハルテステレ adv. (起点) バス停から

「副詞句」

ほど近い

あまり遠くない、距離などの隔たりが少ないさま

しかし僕たちは、海を見下ろしそれから浜に向かって下る高台を越えなくてはならない。

Aber wir mußten über ein kleines Plateau, das das Meer beherrscht und dann zum Strand hin abfällt.

Aber 「主語」「動詞」「副詞句」

Aber アーバー conj. しかし

wir ヴァー pron.pl 僕たちは

「主語」

mußten ムステン 1 複過・必要(müssen)[助] ~しなければならない

「動詞」

über ユーバー prep (空間的) ~の上に

「副詞句」

ein kleines Plateau, アイン・クライネ・プラト n.n 高台

「目的語」

das ダス pron (Plateau の代用: 主語) ~する

「形容詞節」

das Meer ダス・メア n.n 海を

「目的語」

beherrscht ベーハシュト 3 単現(beherrschen)v.t 見下ろす

「動詞」

und ウント conj. そして

dann ダン adv. それから

「副詞」

zum Strand ツム・シュトラント adv. 浜へ

「副詞句」

hin ヒン adv. ~に向かって

「副詞」

abfällt. アップ・フェルト 3 単現(ab|fallen)

v.i (土地が) 下降する、降りてゆく

「動詞」

そこは黄色っぽい石と真っ青な空を背景にして咲く真っ白いアスフォデルに覆われていた。

Es war mit gelblichen Steinen und Asphodelen bedeckt, die vor dem kräftigen Blau des Himmels ganz weiß aussahen.

「主語」「動詞句」「副詞句」「動詞句」, 「形容詞節」

Es エス pron それは、そこは

「主語」

war ...bedeckt, ヴァール...ベデクト 3 単過・受動(sein)v.t(mit で) 覆われていた

「動詞句」

mit ミット prep (3 格と) (手段) ~によって

「副詞句」

gelblichen Steinen ミット・ゲルプ・リヒェン・シュタイネン

pl(Stein).n.m3 格 黄色っぽい石

「目的語」

und ウント conj. そして

ERSTER TEIL 第1部

Asphodelen アスフォデレン pl.n (花) アスフォデル 「目的語」

die テー pron (Asphodelen の代用) それらは～する 「形容詞節」

vor フォア prep (空間的) ～の前に 「副詞句」

dem kräftigen Blau テーム・クレフチゲン・ブラウ

n.n.3 格 濃い青 「目的語」

des Himmels デス・ヒメルス

n.m.2 格 空の 「形容詞句」

ganz weiß ガンツ・ヴァイス adj. 真っ白く 「補語」

aussahen. アウス・ザーエン 3 複過(aus | sehen)

v.i 見えていた 「動詞句」

マリーはビーチバッグで花を叩いて遊び始めた、それで花びらが激しく飛び散った。

Maria machte sich einen Spaß daraus, mit ihrer Wachstumstasche in die Blumen zu schlagen, daß die Blütenblätter nur so flogen.

「主語」「動詞句」「目的語」「副詞」, 「副詞句」, daß 「主語」「副詞句」「動詞」

Maria マリア n.f マリーは 「主語」

machte sich マハテ・スィット 3 単過・開始(sich-4 machen)v.pr (動作を) 始めた 「動詞句」

einen Spaß アイネン・シュパース n.m 冗談を、遊び 「目的語」

daraus, ダラウス adv. それに対して 「副詞」

mit ihrer Wachstumstasche ミット・イーラー・ヴァクストゥフタッシェ

adv. (道具) 彼女のビーチバッグで 「副詞句」

Wachstuch ヴァクストゥーフ n.n ろうびき布 Tasche タッシェ n.f バッグ → ビーチバッグ

in die Blumen イン・ディー・フルメン adv. その花に 「間接目的語」

zu schlagen, ツー・シュラーゲン zu 不定詞・手段 adv. 叩くことで 「副詞句」

daß ダス conj. その結果～

die Blütenblätter テー・ブリュテンブラター pl(Blütenblatt).n.n 花びらが 「主語」

nur so ノーア・ゾー adv. 激しく 「副詞句」

flogen. フローゲン 3 複過(fliegen)v.i 飛んだ、飛び散った 「動詞」

ERSTER TEIL 第1部

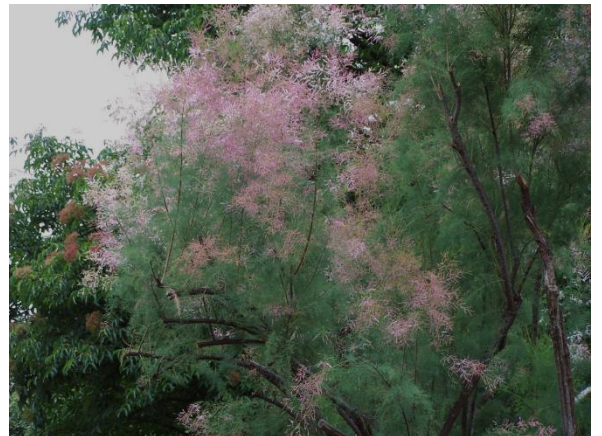
僕たちは緑や白の柵のある小さな別荘が並ぶ場所を通り過ぎた。それらの中には、タマリスクに埋もれて見えなくなっているものや、石ころだらけで飾り気のないものもあった。

Wir gingen an kleinen Villen mit grünen oder weißen Zäunen vorbei, von denen die einen mit ihren Veranden unter den Tamarisken verschwanden, während andere kahl mitten in den Steinen standen.

	「動詞句」「副詞句」	「主語」「副詞句」「動詞」	
Wir	ウーア	pron.pl	僕たちは
			「主語」
gingen ...vorbei,	ギンゲン...	フォアバイ 1 複過(vorbei gehen)v.i	通り過ぎた
			「動詞句」
an kleinen Villen	アン・クライネン・ヴァイルン	adv.	小さい別荘のそばを
			「副詞句」
mit	ミット	prep	(付属) ーのある
			「副詞句」
grünen oder weißen	グリュネン・オテール・ヴァイセン		
	adj.	緑や白の	「形容詞句」
Zäunen	ツォイネン	pl(Zaun).n.m	柵
			「目的語」
von denen die einen	フォン・デーネン・ディー・アイネン	pron	それらのあるものは
			「主語」
mit ihren Veranden	ミット・イーレン・ヴァェランデッセン	adv.	そのベランダと一緒に
			「副詞句」
unter den Tamarisken	ウンター・デッセン・タマリスケン	adv.	タマリスクの下に
			「副詞句」
verschwanden,	フェアシュヴァンデッセン	3 複過(verschwinden)v.i	消えた、見えなくなった
			「動詞」
während andere	ヴァェレント・アンデレ	adv.	その一方で
			「副詞句」
kahl	カール	adj.	飾りのない
			「補語」
mitten in den Steinen	ミッテン・イン・デッセン・シュタイネン	adv.	石ころの真ん中で
			「副詞句」
standen.	シュタンデッセン	3 複過(stehen)v.i	あった、立っていた
			「動詞」

タマリスク

中国原産のギョリュウ科の落葉小高木（5m 程まで成長する）。葉は小さい鱗片状で針葉樹のように見える。春と秋に枝先に桃色の 1mm ほどの小さい花をたくさん咲かせる。



ERSTER TEIL 第1部

高台の端に着く前に、波静かな海が見え、さらにその先には、澄んだ水の中に眠る岸壁が見えた。

Noch ehe wir den Rand des Plateaus erreichten, sahen wir das regungslose Meer und in weiterer Ferne ein verschlafenes Felsmassiv im klaren Wasser.

「副詞句」, 「動詞」「主語」「目的語」 und 「副詞句」「目的語」「副詞句」
 Noch ノッホ adv. さらに 「副詞句」
 ehe エーエ conj. ～する前に 「副詞節」
 wir ウィア pron.pl 僕たちが 「主語」
 den Rand デン・ラント n.m.4 格 縁に、端に 「目的語」
 des Plateaus デス・プラトース n.n.2 格 高台の 「形容詞句」
 erreichten, エライヒテン 1 複過・時制の一致(erreichen)
 v.t ～に到達する 「動詞」
 sahen ザーエン 1 複過(sehen)v.t 見えた 「動詞」
 wir ウィア pron.pl 僕たちは 「主語」
 das regungslose ダス・レーグンスローセ
 adj(regungslos).n.4 格 じっとしている 「形容詞句」
 Meer メア n.n.4 格 海が 「目的語」
 und ウント conj. そして
 in weiterer Ferne イン・ヴァイテラー・フェルネ adv. さらに先に、さらに遠くに 「副詞句」
 ein verschlafenes アイン・フェアシュラフェネス adj(verschlafen) 眠る 「形容詞句」
 Felsmassiv フェルスマシヴ n.n.4 格 岩塊が、岸壁が 「目的語」
 im klaren イム・クラレン adv.(klar).n.3 格 澄んだ～の中に 「副詞句」
 Wasser. ヴァッサー n.n.3 格 水 「目的語」

静かな大気の中を、軽やかなエンジン音が僕たちの所まで昇って来た。

Leichtes Motorengeräusch kam durch die ruhige Luft zu uns herauf.

「主語」「動詞」「副詞句」
 Leichtes ライヒテス adj(leicht).n.1 格 軽い 「形容詞」
 Motorengeräusch モトレン・ゲロイシュ n.n.1 格 エンジン音が 「主語」
 kam カム 3 単過(kommen)v.i やって来た 「動詞」
 durch ドゥルヒ prep (4 格と) ～を通して 「副詞句」
 die ruhige テーイー・ルーイゲ adj.f.4 格 静かな 「形容詞句」
 Luft ルフト n.f.4 格 空気、大気 「目的語」
 zu uns herauf. ツー・ウンス・ヘラフ adv. 僕たちの上へ 「副詞句」

ERSTER TEIL 第1部

そしてはるか彼方の輝く海の上に、小さい漁船がゆっくりと進んでいるのが見えた。

Und weit draußen sahen wir ein kleines Fischerboot, das sich unmerklich auf dem glitzernden Meer bewegte.

Und 「副詞句」「動詞」「主語」「目的語」, 「主語」「動詞句」「副詞句」

Und ウント conj. そして

weit draußen ヲァイト・ドゥラウセン adv. はるか遠くに 「副詞句」

sahe(n) ザーエン 1 複過(sehen)v.t 見えた 「動詞」

wir ヲィア pron.pl 僕たちは 「主語」

ein kleines Fischerboot, アイン・クライネス・フィッシャーボート n.n.4 格 小さい漁船が 「目的語」

das ダス pron.n それが 「主語」

sich ...bewegte. スィヒ...ベウエークテ 3 単過(sich-4 bewegen)v.pr 進んでいた 「動詞句」

unmerklich ウンメルクリヒ adv. かすかに 「副詞句」

auf アウフ prep (3 格と) ~の上に 「副詞句」

dem glitzernden テーム・グリツェンデ(n) adj(glitzernd).n.3 格 輝く「形容詞句」

Meer メア n.n.3 格 海 「目的語」

マリーは岩場に生えていたアイリスを摘んだ。

Maria pflückte ein paar Steinelilien. 「主語」「動詞」「目的語」

Maria マリア n.f マリーは 「主語」

pflückte プフリュクテ 3 単過(pflücken)v.t (花を) 摘んだ 「動詞」

ein paar Steinelilien. アイン・パール・シュタイン・リエン

pl(Steinelilie).n.n.4 格 岩場のアイリスを 「目的語」

Stein シュタイン n.m 石 Lilien リーリエン pl(Lilie).n.f アイリス、ユリ

フランス語の原文では：

マリーは岩場に生えていたアイリスを摘んだ。

Marie a cueilli quelques iris de roche.

海へと下る坂道から、もうすでに何人かが泳いでいるのが見えた。

Von dem Hang aus, der zum Meer abfiel, sahen wir, daß schon welche badeten.

「副詞句」, 「動詞」「主語」「目的語」

Von ...aus, フォン...アウス prep (3 格と：起点) ~から 「副詞句」

dem Hang テーム・ハンク n.m.3 格 斜面、傾斜、山腹 「目的語」

der デア pron (主語) ~する 「形容詞節」

zum Meer ツム・メア adv. (目標) 海へと 「副詞句」

abfiel, アップ・フィール 3 単現(ab|fallen)

v.i (土地が) 下降している 「動詞句」

ERSTER TEIL 第1部

sahen ザーエン 1 複過(sehen)v.t 見えた	「動詞」
wir, ヴィーア pron.pl 僕たちは	「主語」
daß ダス conj. ～ということが	「目的語」
schon ショーン adv. すでに、早くも	「副詞」
welche ヲェルヒェ pron 何人かが	「主語」
badeten. バーデテン 3 複過(baden)v.i 泳いでいた	「動詞」
welch	

いくらか、いくつか、何人か

Wenn du kein Geld mehr hast, kann ich dir welches leihen.

もし無一文ならいくらか貸してやれるよ。

レーモンの友人は、浜のはずれの小さい木造の別荘に住んでいた。

Raymonds Freund bewohnte ein kleines Holzhaus am Ende des Strandes.

	「主語」「動詞」「目的語」「副詞句」
Raymonds Freund ライモンツ・フロイント n.m レーモンの友人は	「主語」
bewohnte ベウオンテ 3 単過(bewohnen)v.t 住んでいた	「動詞」
ein kleines Holzhaus アイン・クライネス・ホルツハウス n.n.4 格 小さな木造家屋に	「目的語」
am Ende アム・エンデ adv. (位置) ～の端に	「副詞句」
des Strandes. デス・シュトランテス n.m.2 格 浜の	「形容詞句」

その別荘は岸壁にもたれかかるように建っていて、家の正面を支える杭は既に水に浸かっていた。

Das Haus lehnte am Felsen, und die Pfähle, auf denen es vorne ruhte, standen schon im Wasser.

	「主語」「動詞」「副詞句」,und 「主語」「動詞」「副詞句」
Das Haus ダス・ハウス n.n その家は、その別荘は	「主語」
lehnte レンテ 3 単過(lehnen)v.i(an に) もたれかかっていた	「動詞」
am Felsen, アム・フェルゼン adv. 岸壁に	「副詞句」
und ウント conj. そして	
die Pfähle, デー・イー・プ・フェーレ pl(Pfahl).n.m 支柱は、杭	「主語」
auf denen アウフ・デーネン adv. (その杭の) 上に～する	「形容詞節」
es エス pron それ、家が	「主語」
vorne フォアネ adv. 前方に	「副詞」
ruhte, ルーテ 3 単過(ruhen)v.i 乗っている	「動詞」
standen シュタンデン 3 複過(stehen)v.i ～にあった、立っていた	「動詞」
schon ショーン adv. すでに	「副詞」
im Wasser. イム・ヴァッサー adv. 水中に	「副詞句」

ERSTER TEIL 第1部

レーモンが僕たちを紹介した。

Raymond stellte uns vor. 「主語」「動詞句」「目的語」
 Raymond レーモン n.m レーモンは 「主語」
 stellte ... vor. シュテルテ...フォア 3 単過(vor|stellen)v.t(j-3 j-4) 紹介した 「動詞句」
 uns ウス pron.4 格 僕たちを 「目的語」

フランス語の原文では：

この文の後ろに、次の文が入っている。

彼の友人はマソンという名前だった。Son ami s'appelait Masson.

彼は大柄で小太りの肩幅の広い男だった。彼と一緒に、パリなまりの小柄で丸っこい人柄の良さそうな妻がいた。

Er war ein großer, dicker, breitschultriger Bursche mit einer kleinen, rundlichen, netten Frau, die pariserisch sprach. 「主語」「動詞」「補語」, 「副詞句」
 Er エア pron 彼は 「主語」
 war ヲアール 3 単過(sein)v.i 〜 だった 「動詞」
 ein großer, アイン・グローサー adj.m.1 格 大柄な 「形容詞句」
 dicker, ディカー adj.1 格 太った 「形容詞」
 breitschultriger ブライツシュリテリヒ adv. 肩幅の広い 「形容詞」
 Bursche ブルシェ n.m.1 格 青年、若者 「補語」
 mit ミット prep (3 格と) (様態) 〜と一緒にいる 「副詞句」
 einer kleinen, アイナー・クライネン adj.f.3 格 小柄な 「形容詞句」
 rundlichen, ルントリヒエン adj.f.3 格 丸っこい 「形容詞」
 netten ネットン adj.n.f.3 格 人柄の良い 「形容詞」
 Frau, フ라우 n.f.3 格 妻 「目的語」
 die ディー pron.f (主語) 〜する 「形容詞節」
 pariserisch パリゼリッシュ adv. パリっ子みたいに 「副詞」
 sprach. シュプラーヘ 3 単過・時制の一致(sprechen)v.t 話す 「動詞」

ERSTER TEIL 第1部

彼はすぐ僕たちにくつろいでくれと言って、彼が早朝に釣った魚のフライがあると云った。

Er forderte uns sofort auf, wir sollten es uns bequem machen, und verriet, daß es gebratene Fische gebe, die er in der Frühe gefangen habe.

「主語」「動詞句」「間接目的語」「副詞」「動詞句」「直接目的語」,und
「動詞」「目的語」

Er エア pron 彼は 「主語」
forderte ...auf, フォアルテ...アウフ 3 単過(auf|fordern)v.t (人に) 勧めた 「動詞句」
uns ウンス pron.3 格 僕たちに 「間接目的語」
sofort ソフォート adv. すぐに 「副詞」
n. ～ということを 「直接目的語」
wir ヴァーア pron.pl 僕たちは 「主語」
sollten ...machen, ソルテン...マヘン 1 複過・願望・時制の一致(sollen+不定詞 machen)
v.t ～してほしい 「動詞句」
es エス pron それを
uns ウンス pron.4 格 僕たちが 「目的語」
bequem ベクワーム adj. 気楽な 「補語」
und ウント conj. そして
verriet, フェアリート 3 単過(verraten)v.t 言った 「動詞」
daß ダス conj. ～ということを 「目的語」
es ...gebe, エス...ゲーベ 接・非人称・3 単現(es gibt e4-4)v.t ～がある 「動詞句」
gebratene Fische ゲブラーテネ・フィシェ pl(Fisch).n.m 魚のフライが 「目的語」
die デーア pron.pl (目的語) ～する 「形容詞節」
er エア pron 彼が 「主語」
in der Frühe イン・デア・フルーエ adv. 早朝に 「副詞句」
gefangen habe. ゲファンゲン・ハーベ 3 単現・完了形(fangen)
v.t 捕まえた、釣った 「動詞句」

僕は、彼の家がすごく気に入ったと伝えた。

Ich sagte ihm, wie sehr mir sein Haus gefiele.

「主語」「動詞」「間接目的語」「直接目的語」

Ich イット pron 僕は 「主語」
sagte サークテ 3 単過(sagen)v.t 言った 「動詞」
ihm, イム pron.3 格 彼に 「間接目的語」
wie sehr ヴァー・ゼーア conj. どれほど～するかということを 「直接目的語」
mir ミーア pron 僕にとって 「間接目的語」
sein Haus サイン・ハウス n.n 彼の家が 「主語」

ERSTER TEIL 第1部

gefiele. ゲフィーレ 接 II・3 単現(gefallen)v.i(j-3) の) 気に入る 「動詞」

彼は、土曜日と日曜日それに休日はいつでもここで過ごしていると答えた。

Er antwortete, er verbringe hier den Samstag, den Sonntag und alle seine freien Tage.

「主語」「動詞」「目的語」

Er エア pron 彼は 「主語」

antwortete, アントワァテテ 3 単過(antworten)v.t 答えた 「動詞」

n. ～ということを 「目的語」

er エア pron 彼は 「主語」

verbringe フェアブリンゲ 3 単現(verbringen)v.t (時を) 過ごしている 「動詞」

hier ヒア adv. ここで 「副詞」

den Samstag, デン・ザムスターク n.m.4 格 土曜日に 「副詞句」

den Sonntag デン・ゾンターク n.m.4 格 日曜日に 「副詞句」

und ウント conj. そして

alle seine freien Tage. アル・ザイネ・フライエン・ターゲ pl(Tag).n.m 休日はいつでも 「副詞句」

einen freien Tag haben 「仕事が休みである」

「妻は誰とでも気が合うんだ」と、マソンが付け加えた。

«Mit meiner Frau, wir verstehen uns gut», fügte er hinzu.

《「副詞句」「主語」「動詞句」「副詞」》, 「動詞句」「主語」「動詞句」

«Mit meiner Frau, ミット・マイナー・フラウ adv. 私の妻と 「副詞句」

wir ウィア pron.pl 私たちは 「主語」

verstehen uns フェアシュテーン・ウンス 1 複現(sich-4 verstehen)v.pr 気持ちが通じる 「動詞句」

gut», ゲート adv. 良く 「副詞」

fügte ...hinzu. フュクテ...ヒンツァ 3 単過(hinzu | fügen)v.t 付け加えた 「動詞句」

er エア pron マソンが 「主語」

ちょうど彼の妻がマリーと一緒に笑った。たぶんその時初めて、本気で結婚を考えた。

Seine Frau lachte gerade mit Maria. Vielleicht zum erstenmal dachte ich ernstlich daran, zu heiraten.

「主語」「動詞」「副詞句」 | 「副詞句」「動詞」「主語」「副詞」「間接目的語」

Seine Frau ザイネ・フラウ n.f 彼の妻が 「主語」

lachte ラハテ 3 単過(lachen)v.i 笑った 「動詞」

gerade ゲラーテ adv. ちょうど 「副詞」

mit Maria. ミット・マリア adv. マリーと一緒に 「副詞句」

Vielleicht フィライヒト adv. もしかしたら 「副詞」

ERSTER TEIL 第1部

zum erstenmal ツーム・エアシュテンマル adv. 初めて 「副詞句」
 zum ersten Mal 初めて
 dachte ダハテ 1 単過(denken)v.i 考えた 「動詞」
 ich イヒ pron 僕は 「主語」
 ernstlich エンシュトリヒ adv. 真剣に、本気で 「副詞」
 daran, +zu 不定詞 ダラン adv. ～することについて 「間接目的語」
 zu heiraten. ツー・ハイラーテン zu 不定詞 v.i 結婚する 「動詞句」

マソンは泳ぎたいと言ったが、彼の妻とレーモンは行きたがらなかった。

Masson wollte baden, aber seine Frau und Raymond wollten nicht mitkommen.
 「主語」「動詞句」, aber 「主語」「動詞句」
 Masson マソン n.m マソンは 「主語」
 wollte baden, ヴォルテ・バーデテン 3 単過・願望(wollen+不定詞 baden)v.i 泳ぎたがった 「動詞句」
 aber アーバー conj. しかし
 seine Frau und Raymond サイネ・フラウ・ウント・ライムント pl.n 彼の妻とレーモンは 「主語」
 wollten nicht mitkommen. ヴォルテン・ニヒト・ミットコメン 3 複過・願望(wollen+不定詞 mitkommen)
 v.i 一緒に行かないと言った 「動詞句」

僕たちは3人で降りていき、マリーはすぐに海に飛び込んだ。

Zu dritt gingen wir hinunter, und Maria stürzte sich sofort ins Wasser.
 「副詞句」「動詞句」「主語」, und 「主語」「動詞句」「副詞句」
 Zu dritt ツー・ドリット adv. 3人で 「副詞句」
 gingen ...hinunter, キンゲン...ヒンター 1 複過(hinunter|gehen)v.i 降りていった 「動詞句」
 wir ヴィア pron.pl 僕たちは 「主語」
 und ウント conj. そして
 Maria マリア n.f マリーは 「主語」
 stürzte sich シュトゥルツテ・ズィヒ 3 単過(sich-4 stürzen)v.pr 飛び込んだ 「動詞句」
 sofort ソフオット adv. すぐに 「副詞」
 ins Wasser. インス・ヴァッサー adv. 水に 「副詞句」

マソンと僕はもう少し待った。

Masson und ich warteten noch ein bißchen. 「主語」「動詞」「副詞句」
 Masson und ich マソン・ウント・イヒ pl.n マソンと僕は 「主語」
 warteten ヴァルテテン 1 複過(warten)v.i 待った 「動詞」
 noch ノッホ adv. (追加を表わして) さらに、まだ 「副詞句」
 ein bißchen. アイン・ヒッシェン pron.4 格 (副詞的) 少しの間 「副詞句」

ERSTER TEIL 第1部

彼はゆっくり話す。そして一番気になったことがある。彼は言った事全てに「その上」と言って補足するくせがある。時には、新しいことは何も追加されない事もある。

Er sprach langsam, und mir fiel auf, daß er alles, was er sagte, durch «ja sogar» vervollständigte, auch wenn damit im Grunde nichts Neues gesagt wurde.

「主語」「動詞」「副詞」,und「間接目的語」「動詞句」「主語」

Er	エア	pron	彼は		「主語」
sprach	シュプ	ラーハ	3 単過 (sprechen)v.i	話した	「動詞」
langsam,	ラングザム	adv.	ゆっくりと		「副詞」
und	ウント	conj.	そして		
mir	ミア	pron	僕に		「間接目的語」
fiel auf,	フィール・アウフ	3 単過 (auf fallen)v.i	目だった、注意を引いた		「動詞句」
daß	ダス	conj.	～ということは		「主語」
er	エア	pron	彼は		「主語」
alles,	アレス	pron	すべてを		「目的語」
was er sagte,	ヴァス・エア・ザークテ	adj.	彼が言った事		「形容詞節」
durch	ドゥルヒ	prep	(手段) ～によって		「副詞句」
«ja sogar»	ヤー・ゾーガー	adv.	その上、さらに		「副詞句」
vervollständigte,	フェアフォルシュテンテ	3 単過 (vervollständigen)v.t	補完した		「動詞」
auch wenn	アウフ・ウェン	conj.	～する時も		「副詞節」
damit	ダミット	adv.	それによって、そのことで		「副詞」
im Grunde	イム・グルンデ	adv.	根本においては		「副詞句」
nichts Neues	ニヒツ・ノイエス	pron	新しいものは何も～ない		「目的語」
gesagt wurde.	ゲザークト・ウルテ	3 単過・受動 (werden+過去分詞 sagen)			
		v.i	言われなかった		「動詞句」

彼はマリーについて言った：「彼女は素晴らしい、その上魅力的だ」

Über Maria sagte er: «Sie ist großartig, ja sogar reizend.»

「間接目的語」「動詞」「主語」：《「主語」「動詞」「補語」、「補語」》

Über Maria	ユーバー・マリア	adv.	(対象) マリーに関して、マリーのことを		「間接目的語」
sagte	ザークテ	3 単過 (sagen)v.t	言った		「動詞」
er:	エア	pron	彼は		「主語」
«Sie	ジー	pron.f	彼女は		「主語」
ist	イスト	3 単現 (sein)v.i	～である		「動詞」
großartig,	グロースアルティ	adj.	すばらしい		「補語」
ja sogar	ヤー・ゾーガー	adv.	その上さらに		「副詞句」

ERSTER TEIL 第1部

reizend.》ライツェント adj. 魅力的な

「補語」

その後はもうその癖が気にならなくなった。太陽があまりにも気持ちよかったからだ。

Dann achtete ich nicht weiter auf diese Angewohnheit, weil ich feststellte, wie gut mir die Sonne tat.

「副詞」「動詞句」「主語」「動詞句」「副詞句」「間接目的語」, 「副詞節」

Dann ダン adv. それから、その後

「副詞」

achtete ...nicht アハテ...ニヒト 1 単過・否定(achten)

v.i(auf に) 気を配らない、気にならない

「動詞句」

ich イヒ pron 僕は

「主語」

weiter ヴェァイター adv. もう～ない

「副詞句」

auf diese Angewohnheit, アウフ・デァー・ゼ・アンゲホーニハイト adv. この癖に

「間接目的語」

weil ヴェァイル conj. (理由) ～なので

「副詞節」

ich イヒ pron 僕は

「主語」

feststellte, フェスト・シュテルテ 1 単過(fest|Stellen)

v.t 気付いていた、確認していた

「動詞句」

wie gut ヴェー・グート adv. どれ程よく～するかを

「目的語」

mir ミア pron 僕に

「間接目的語」

die Sonne デァー・ゾネ n.f 太陽が

「主語」

tat. タト 3 単過・時制の一致(tun)v.t する

「動詞」

足下の砂が暖まってきた。

Der Sand unter den Füßen fing an, warm zu werden.

「主語」「副詞句」「動詞句」「補語」「動詞句」

Der Sand デァ・ザント n.m 砂が

「主語」

unter ウンター prep(空間的) ～の下で

「副詞句」

den Füßen デン・フューセン pl(Fuß).n.m.3 格 足

「目的語」

fing an, フィンク・アン 3 単過・開始(an|fangen)v.t(+zu 不定句) ～し始めていた

「動詞句」

warm ヴァルム adj. 暖かい、熱い

「補語」

zu werden. ツー・ヴェアデン zu 不定句・状態 v.i ～になる

「動詞句」

ERSTER TEIL 第1部

僕は水に入りたい気持ちをまだ少し抑えていたが、結局マソンを誘った：「行きませんか」

Ich zog meine Vorfreude auf das Wasser noch ein bißchen hinaus, aber schließlich fragte ich Masson: «Gehen wir rein?»

「主語」「動詞」「目的語」「副詞句」, aber 「副詞」「動詞」「主語」: 《「動詞句」「副詞」》
 Ich イッヒ pron 僕は 「主語」
 zog ツォク 1 単過(ziehen)v.t 引いた、引っ張った 「動詞」
 meine Vorfreude マイネ・フォーアフロイデ n.f 僕の楽しみな気持ちを 「目的語」
 auf das Wasser アウフ・ダス・ヴァッサー adv. (期待) 水を求める 「副詞句」
 noch ein bißchen hinaus, ノッホ・アイン・ヒスヒェン・ヒアウス adv. まだ少し外へ 「副詞句」
 aber アーバー conj. しかし
 schließlich シュリースリヒ adv. 結局は 「副詞」
 fragte フラーケ 1 単過(fragen)v.t 尋ねた、誘った 「動詞」
 ich イッヒ pron 僕は 「主語」
 Masson: マソン n.m マソンに 「目的語」
 «Gehen wir ゲーエン・ワイアー 命・1 複現・勧誘(gehen)v.i 行きませんか? 「動詞句」
 rein?» ライン adv. あちらへ、海へ 「副詞」

僕は飛び込んだ。彼は恐る恐る水に入って行き、足が地面に着かなくなってからやっと身を投げ出した。

Ich stürzte mich hinein. Er ging langsam ins Wasser und ließ sich erst fallen, als er keinen Boden mehr unter den Füßen hatte.

「主語」「動詞句」
 「主語」「動詞」「副詞句」 und 「主語」「動詞句」「補語」「動詞句」, 「副詞節」
 Ich イッヒ pron 僕は 「主語」
 stürzte mich hinein. シュトルツテ・ミッヒ・ヒアイン 1 単過(sich-4 hinein | stürzen)
 v.pr(in et-4 に) 飛び込んだ 「動詞句」
 Er エア pron 彼は 「主語」
 ging キング 3 単過(gehen)v.i 歩いて行った 「動詞」
 langsam ラングザーム adv. ゆっくりと 「副詞」
 ins Wasser インス・ヴァッサー adv. 水の中に 「副詞句」
 und ウント conj. そして
 ließ sich ...fallen, リース・ズィッヒ...ファレン 3 単過・使役(lassen+不定詞 fallen+sich)
 v.pr 倒れ込んだ、飛び込んだ 「動詞句」
 自分自身に倒れ込ませた sich は「目的語」 fallen は sich の動作を表わす 「補語」
 erst エアスト adv. 初めて、やっと 「副詞」
 als アルス conj. ～した時 「副詞節」

ERSTER TEIL 第1部

er エア pron 彼が	「主語」
keinen Boden カイン・ボーデン n.m 何も地面が～ない	「目的語」
mehr メア adv. もはや、もう	「副詞」
unter den Füßen ウンター・デーン・フューセン adv. 足の下に	「副詞句」
hatte. ハッテ 3 単過・時制の一致(haben)v.t ～がある	「動詞」

彼はかなり泳ぎが下手だった。僕は彼を一人残して、マリーの方へ泳いだ。

Er war kein guter Schwimmer, ich ließ ihn allein und schwamm hinter Maria her.

「主語」「動詞」「補語」, 「主語」「動詞」「目的語」「補語」 und 「動詞」「間接目的語」	
Er エア pron 彼は	「主語」
war ヴァール 3 単過(sein)v.i ～ だった	「動詞」
kein guter Schwimmer, カイン・グーター・シュヴァイマー n.m 下手な泳ぎ手	「補語」
ich イヒ pron 僕は	「主語」
ließ リース 1 単過(lassen)v.t ～のままにした、残した	「動詞」
ihn イーン pron 彼を	「目的語」
allein アライン adj. 一人の	「補語」
und ウント conj. そして	
schwamm シュヴァム 1 単過(schwimmen)v.i 泳いだ	「動詞」
hinter Maria her. ヒンター・マリア・ヘア adv. マリーの後を追って	「間接目的語」

水は冷たかった。僕は泳ぐことが出来て楽しかった。

Das Wasser war kalt, und ich freute mich, daß ich schwamm.

「主語」「動詞」「補語」, und 「主語」「動詞句」「副詞節」	
Das Wasser ダス・ヴァッサー n.n 水は	「主語」
war ヴァール 3 単過(sein)v.i ～ だった	「動詞」
kalt, カルト adj. 冷たい	「補語」
und ウント conj. そして	
ich イヒ pron 僕は	「主語」
freute mich, フロイテ・ミヒ 1 単過(sich-4 freuen)v.pr 楽しかった	「動詞句」
daß ダス conj. (原因) ～することで	「副詞節」
ich イヒ pron 僕が	「主語」
schwamm. シュヴァム 1 単過・時制の一致(schwimmen)v.i 泳いでいる	「動詞」

ERSTER TEIL 第1部

マリーと僕はさらに沖に向かって泳いだ。二人の動作と満足感でまったく一つになった。

Maria und ich schwammen weit hinaus, und wir waren völlig eins in unseren Bewegungen und in unserem Wohlbehagen.

「主語」「動詞」「副詞句」,und「主語」「動詞」「補語」

Maria und ich マリア・ウント・イヒ pl.n マリーと僕は 「主語」
 schwammen シュヴァメン 1 複過(schwimmen)v.i 泳いだ 「動詞」
 weit hinaus, ヴァイト・ヒアウス adv. さらに沖へ 「副詞句」
 und ウント conj. そして
 wir ヴァー pron.pl 僕たちは 「主語」
 waren ヴァーレン 1 複過・変化(sein)v.i ~ になった 「動詞」
 völlig eins フェリッヒ・アインス pron まったく一つ 「補語」
 in unseren Bewegungen イン・ウンゼレン・ベウェーゲンゲン
 adv. (手段) 二人の動作で 「副詞句」
 und ウント conj. そして
 in unserem Wohlbehagen. イン・ウンゼレン・ウァールヘーハーゲン
 adv. (手段) 満足感で 「副詞句」

沖に出てから、僕達は仰向けに横になった。すると空に向いた僕の顔から最後の水分を太陽が取り去り、それは僕の口に流れ込んできた。

Draußen legten wir uns auf den Rücken, und von meinem Gesicht, das dem Himmel zugewandt war, nahm die Sonne die letzte Nässe, die mir in den Mund floß.

「副詞」「動詞句」「主語」「動詞句」「副詞句」,

und「副詞句」,「動詞」「主語」「目的語」,「主語」「間接目的語」「副詞句」「動詞」

Draußen ドラウセン adv. 遠く離れて、沖に出てから 「副詞」
 legten ...uns レクテン...ウス 1 複過(sich-4 legen)v.pr 横になった 「動詞句」
 wir ヴァー pron.pl 僕たちは 「主語」
 auf den Rücken, アウフ・テン・リュッケン adv. 仰向けに、背中の上に 「副詞句」
 und ウント conj. そして
 von meinem Gesicht, フォン・マイネム・ゲジヒト adv. (起点) 僕の顔から 「副詞句」
 das ダス pron(Gesicht の代用：主語) ~する 「形容詞節」
 dem Himmel デーム・ヒメル adv. (方向) 空に 「副詞句」
 zugewandt ツー・ゲ・ウァント adj. (et-3 に) 向いた、向けられた 「補語」
 war, ヴァール 3 単過・時制の一致(sein)v.i ~である 「動詞」
 nahm ナム 3 単過(nehmen)v.t 取り去った 「動詞」
 die Sonne デー・ゾネ n.f 太陽が 「主語」
 die letzte デー・レツテ adj(letzt).f.4 格 最後の 「形容詞句」

ERSTER TEIL 第1部

Nässe, ネッセ n.f.4 格 水気、水分を	「目的語」
die デー pron.f(Nässe の代用) それが	「主語」
mir ミーア pron 僕の	「間接目的語」
in den Mund イン・デン・ムント adv. 口の中に	「副詞句」
floß. フロス 3 単過(fließen)v.i 流れ込んできた	「動詞」

僕達はマソンが岸まで泳いできて、日向で横になるのが見えた。

Wir sahen Masson ans Ufer schwimmen, wo er sich in die Sonne legte.

	「主語」「動詞」「目的語」「補語」
Wir ウーア pron.pl 僕たちは	「主語」
sahen サーエン 1 複過(sehen)v.t 見えた	「動詞」
Masson マソン n.m マソンが	「目的語」
ans Ufer アンス・ウファー adv. 岸に	「副詞句」
schwimmen, シュヴァイメン 不定詞・Masson の動作 v.i 泳いでいく	「補語」
wo ウォー adv. そこで	「副詞」
er エア pron 彼は	「主語」
sich ...legte. シッヒット...レーケ 3 単過(sich-4 legen)v.pr 横になった	「動詞句」
in die Sonne イン・デュー・ゾネ adv. 日向に	「副詞句」

遠く彼でも、彼はすごく大きく見えた。マリーは僕と一緒に泳ぎたいと言った。

Von weitem wirkte er riesengroß. Maria wollte, daß wir zusammen schwammen.

	「副詞句」「動詞」「主語」「補語」 「主語」「動詞」「目的語」
Von weitem フォン・ヴァイテム adv.(= Von Weitem) 遠くから	「副詞句」
wirkte ウィルクテ 3 単過(wirken)v.i ~のように見えた	「動詞」
er エア pron 彼は	「主語」
riesengroß. リーゼングロース adj. ものすごく大きい	「補語」
Maria マリア pron マリーは	「主語」
wollte, ウォルテ 3 単過(wollen)v.t 望んだ	「動詞」
daß ダス conj. ~ということ	「目的語」
wir ウーア pron 僕たちは	「主語」
zusammen ツァメン adv. 一緒に	「副詞」
schwammen. シュヴァメン 1 複過・時制の一致(schwimmen)v.i 泳ぐ	「動詞」

ERSTER TEIL 第1部

僕は彼女の腰をつかむために後ろに回って泳いだ。そして彼女は腕の動作、僕は足の動作をそれぞれ担当した。

Ich schwamm hinter sie, um ihre Taille fassen zu können, und sie machte die Arm- und ich die Beinbewegungen.

「主語」「動詞」「副詞句」,und「主語」「動詞」「目的語」und「主語」「目的語」
 Ich イッヒ pron 僕は 「主語」
 schwamm シュヴァム 1 単過(schwimmen)v.i 泳いだ 「動詞」
 hinter sie, ヒンター・ジー adv. 彼女の後について 「副詞句」
 um ihre Taille ウム・イーレ・タイレ zu 不定句・目的(um...zu 不定詞)
 adv. 彼女の腰の周りを～するために 「副詞句」
 fassen zu können, ファセン・ツウ・ケネン 不定詞・可能 v.t(können+不定詞 fassen)
 v.t つかめる 「動詞句」
 und ウント conj. そして
 sie ジー pron.f 彼女は 「主語」
 machte マハテ 3 単過(machen)v.t (動作を) した 「動詞」
 die Arm- デー・アルム n.f.4 格(Armbewegungen の省略) 腕の動作を 「目的語」
 und ウント conj. そして
 ich イッヒ pron 僕は 「主語」
 die Beinbewegungen. デー・イン・ベウ・ェーゲンゲン n.f 足の動作を 「目的語」

軽い水音が僕達についてきたが、やがて僕は疲れを感じた。

Das leichte Klatschen des Wassers begleitete uns, bis ich fühlte, daß ich müde wurde.

「主語」「動詞」「目的語」、「副詞節」
 Das leichte Klatschen ダス・ライヒテ・クラツェン n.n 軽い音が 「主語」
 des Wassers デス・ヴァッサーズ n.n.2 格 水の 「形容詞句」
 begleitete ベグライテテ 3 単過(begleiten)v.t 同行した、ついてきた 「動詞」
 uns, ウンス pron.pl 僕たちに 「目的語」
 bis ビス conj. ～するまで 「副詞節」
 ich イッヒ pron 僕が 「主語」
 fühlte, フュールテ 1 単過・時制の一致(fühlen)v.t 感じる 「動詞」
 daß ダス conj. ～ということを 「目的語」
 ich イッヒ pron 僕は 「主語」
 müde ミューデ adj. 疲れた 「補語」
 wurde. ウールテ 1 単過(werden)v.i ～になった 「動詞」

ERSTER TEIL 第1部

そこで僕はマリーから離れて、一定のペースで泳ぎ、深く呼吸しながら岸に戻った。浜に上がって、マソンの隣で腹ばいにて横になり、顔を砂に埋めた。

Da ließ ich Maria los und erreichte regelmäßig schwimmend und tief atmend das Ufer. An Strand legte ich mich bäuchlings neben Masson, das Gesicht im Sand.

「副詞」「動詞句」「主語」「目的語」「動詞句」und「動詞」「副詞句」「目的語」

「副詞句」「動詞句」「主語」「動詞句」「副詞句」,「主語」「副詞句」

Da ダー adv. それで、そこで 「副詞」
 ließ ...los リース...ロス 1 単過(los | lassen)v.t 離れた 「動詞句」
 ich イヒ pron 僕は 「主語」
 Maria マリア n.f マリーを 「目的語」
 und ウント conj. そして
 erreichte エアライヒテ 1 単過(erreichen)v.t 到着した 「動詞」
 regelmäßig schwimmend レーゲルメースィヒ・シュビメント 現在分詞(schwimmen)
 adv. (手段) 規則的に泳いで 「副詞句」
 und ウント conj. そして
 tief atmend チーフ・アートメント 現在分詞(atmen)adv. (手段) 深く呼吸をして 「副詞句」
 das Ufer. ダース・ウファー n.n.4 格 岸に 「目的語」
 An Strand アン・シュトラント adv. 浜で 「副詞句」
 legte ...mich レーケ...ミヒ 1 単過(sich-4 legen)v.pr 横になった 「動詞句」
 ich イヒ pron 僕は 「主語」
 bäuchlings ボイシュリングス adv. 腹ばいで 「副詞」
 neben Masson, ネーベン・マソン adv. マソンの隣へ 「副詞句」
 das Gesicht ダース・ゲジヒト n.n 顔は 「主語」
 im Sand. イム・ザント adv. 砂に埋めて 「副詞句」

彼に言った：「気持ちいいですね」と、彼も同じ意見だった。

Ich sagte zu ihm: «Das tut gut», und er war derselben Ansicht.

「主語」「動詞」「間接目的語」:《「主語」「動詞」「補語」》,「主語」「動詞」「補語」

Ich イヒ pron 僕は 「主語」
 sagte サーケ 3 単過(sagen)v.t 言った 「動詞」
 zu ihm: ツー・イム adv. 彼に 「間接目的語」
 «Das ダース pron 天気などが 「主語」
 tut トゥート 3 単現(tun)v.i 作用する 「動詞」
 gut, ゲート adj. 良い、元気な、好ましい 「補語」
 und ウント conj. そして
 er エア pron 彼は 「主語」

ERSTER TEIL 第1部

war ヲアール 3 単過(sein)v.i ~ だった 「動詞」
derselben Ansicht. デアゼルベン・アンズィヒト n.f 同じ意見 「補語」

すぐその後に、マリーがやって来た。

Kurz darauf kam Maria. 「副詞句」「動詞」「主語」
Kurz darauf クルツ・ダラウフ adv. そのすぐ後で 「副詞句」
kam カム 3 単過(kommen)v.i やって来た 「動詞」
Maria. マリア n.f マリーが 「主語」

僕はこちらへやって来る彼女を見ようとして振り返った。

Ich drehte mich auf den Rücken, um sie kommen zu sehen.
「主語」「動詞句」「間接目的語」「動詞句」「直接目的語」, 「副詞句」
Ich イヒ pron 僕は 「主語」
drehte ...auf ドレーテ...アウフ 1 単過(auf|drehen)v.t 回した 「動詞句」
mich ミヒ pron 僕の 「間接目的語」
den Rücken, デン・リュッケン n.m.4 格 背中を 「直接目的語」
um ...zu sehen. ウム...ツァー・ゼーエン 不定句 adv. (目的) ~するために 「副詞句」
sie ジー pron 彼女を 「目的語」
kommen コム 不定詞・sie の動作 v.i やって来る 「補語」

彼女は海水で全身べたべたになっていて、髪は後ろに撫でつけていた。

Sie war vom Salzwasser ganz klebrig und hielt ihr Haar nach hinten.
「主語」「動詞」「補語」 und 「動詞」「目的語」「副詞句」
Sie ジー pron.f 彼女は 「主語」
war ヲアール 3 単過(sein)v.i ~ だった 「動詞」
vom Salzwasser フォム・サルツヴァッサー adv. (原因) 海水で 「副詞句」
ganz klebrig ガンツ・クレーブリヒ adj. 全身がべたべたの 「補語」
und ウント conj. そして
hielt ヒールト 3 単過(halten)v.t 押さえていた 「動詞」
ihr Haar イーア・ハール n.n.4 格 髪を 「目的語」
nach hinten. ナーハ・ヒンテン adv. 後ろに 「副詞句」

ERSTER TEIL 第1部

彼女は僕とぴったりくっついて横になった。そして、マリーの体温と太陽の熱で僕は少し眠くなった。

Sie legte sich dicht neben mich, und ihre Körperwärme und die Wärme der Sonne schläfernten mich ein wenig ein.

	「主語」「動詞句」「副詞句」 und 「主語」「動詞句」「目的語」「副詞句」
Sie ジー pron.f 彼女は	「主語」
legte sich レクテ・ズィット 3 単過(sich-4 legen)v.pr 横になった	「動詞句」
dicht ディト adv. 密接して	「副詞」
neben mich, ネベン・ミット adv. 僕に	「副詞句」
und ウント conj. そして	
ihre Körperwärme イーレ・ケルペ ルヴェルメ n.f 彼女の体温が	「主語」
und ウント conj. そして	
die Wärme der Sonne デー・イー・ヴァーメ・デア・ゾネ n.f 太陽の暖かさが	「主語」
schläfernten ...ein. シュレーフェルテン...アイン 3 複過(ein schläfern)v.t 眠気を起こさせた	「動詞句」
mich ミット pron.4 僕に	「目的語」
ein wenig アイン・ヴェニグ adv. 少し	「副詞句」

マリーが僕を揺さぶって、マソンがもう先に行ったので、まもなく朝食だと言った。

Maria schüttelte mich und sagte, Masson sei schon vorgegangen, gleich werde gefrühstückt.

	「主語」「動詞」「目的語」 und
	「主語」「動詞句」「副詞句」「動詞句」, 「副詞」「動詞句」
Maria マリア n.f マリーが	「主語」
schüttelte シュッテルテ 3 単過(schütteln)v.t 揺さぶった	「動詞」
mich ミット prom.4 格 僕を	「目的語」
und ウント conj. そして	
sagte, サークテ 3 単過(sagen)v.t 言った	「動詞」
Masson マソン n.m マソンが	「主語」
sei ...vorgegangen, サイ...フォアゲガンゲン 接・1 単現・完了形(vor gehen)	
v.i 先に行った	「動詞句」
schon ショーン adv. もう	「副詞」
gleich グライヒ adv. まもなく	「副詞」
werde gefrühstückt. ヴェアデ・ゲフリュッシュトクト 接・3 単現・受動(frühstücken)	
v.t 朝食になるだろう	「動詞句」

ERSTER TEIL 第1部

僕は空腹だったのですぐに起き上がった。しかしマリーは、今朝はまだ一度もキスしてくれないと言った。

Ich stand sofort auf, weil ich Hunger hatte, aber Maria meinte, ich hätte sie den ganzen Morgen noch kein einziges Mal geküßt.

「主語」「動詞句」「副詞句」.aber「主語」「動詞」「目的語」

Ich イッヒ pron 僕は「主語」
 stand ...auf, シュタント...アウフ 1 単過(auf| stehen)v.i 立ち上がった「動詞句」
 sofort ソフオート adv. すぐに「副詞」
 weil ヴェイル conj. (理由) ~なので「副詞節」
 ich イッヒ pron 僕は「主語」
 Hunger フンガー n.m.4 格 空腹「目的語」
 hatte, ハッテ 1 単過(haben)v.t (状態が) ~だった「動詞」
 aber アーバー conj. しかし
 Maria マリア n.f マリーは「主語」
 meinte, マシテ 3 単過(meinen)v.t 言った「動詞」
 ich イッヒ pron 僕が~するという事を「目的語」
 hätte ...geküßt. ハッテ...ゲキュスト 接 II・3 単現・完了形(küssen)v.t キスした「動詞句」
 sie シー pron.f 彼女に「目的語」
 den ganzen Morgen デン・ガンツェン・モルゲン adv. 今朝は「副詞句」
 noch kein einziges Mal ノッホ・カイン・アインツィゲス・マル adv. まだ一度も「副詞句」

その通りだった。僕はそうしてもいいと思った。

Das stimmte, ich hatte auch großes Verlangen danach.

「主語」「動詞」, 「主語」「動詞」「目的語」

Das ダス pron「主語」
 stimmte, シュティムテ 3 単過(stimmen)v.i その通りだった「動詞」
 ich イッヒ pron 僕は「主語」
 hatte ハッテ 1 単過(haben)v.t ~があった「動詞」
 auch großes Verlangen アウフ・グロース・フェアランゲン n.n.4 格 要求も「目的語」
 danach. ダナーハ adv. それに対して「副詞」

ERSTER TEIL 第1部

「水の中に入って来て！」と、マリーが言った。僕たちは水辺で走り、小さい一番波に身を投じた。

«Komm ins Wasser», sagte sie. Wir liefen ans Wasser und legten uns in die ersten kleinen Wellen.

《「動詞」「副詞句」》, 「動詞」「主語」

「主語」「動詞」「副詞句」 und 「動詞句」「副詞句」

«Komm コム 命・2 単現(kommen)v.i 来て！

「動詞」

ins Wasser», インス・ヴァッサー adv. 水の中に

「副詞句」

sagte サークテ 3 単過(sagen)v.t 言った

「動詞」

sie. シー pron.f 彼女が

「主語」

Wir ヴァー pron/pl 僕たちは

「主語」

liefen リーフェン 1 複過(laufen)v.i 走った

「動詞」

ans Wasser アンス・ヴァッサー adv. 水辺で

「副詞句」

und ウント conj. そして

legten uns レクテン・ウス 1 複過(sich-4 legen)v.pr 横になった

「動詞句」

in die ersten kleinen Wellen. イン・デア・エーステン・クライン・ヴェレン adv. 小さい一番波に

「副詞句」

僕達は何度か水をかいて泳いだ。その時、マリーが僕にすり寄って来た。

Wir machten ein paar Stöße, und dann schmiegte sie sich an mich.

「主語」「動詞」「目的語」, und 「副詞」「動詞句」「主語」「間接目的語」

Wir ヴァー pron/pl 僕たちは

「主語」

machten マハテン 1 複過(machen)v.t (動作を) した

「動詞」

ein paar Stöße, アイン・パール・シュテーセ pl(Stoß).n.m.4 格 数度の水かきを

「目的語」

und ウント conj. そして

dann ダン adv. その時

「副詞」

schmiegte ...sich シュミーケ...スィッヒ 3 単過(sich-4 schmiegen)v.pr 寄り添った

「動詞句」

sie シー pron.f 彼女が

「主語」

an mich. アン・ミッヒ adv. 僕に

「間接目的語」

僕は彼女の脚が僕の脚に絡みつくのを感じて、彼女が欲しくなった。

Ich fühlte ihre Beine an meinen Beinen und hatte Verlangen nach ihr.

「主語」「動詞」「目的語」「副詞句」 und 「動詞」「目的語」「副詞句」

Ich イッヒ pron 僕は

「主語」

fühlte フュールテ 1 単過(fühlen)v.t 感じた

「動詞」

ihre Beine イレ・バイン pl(Bein).n.n.4 格 彼女の脚を

「目的語」

an meinen Beinen アン・マイネン・バイン adv. 僕の脚に接する

「副詞句」

meinen Beinen は 4 格なので「動き」を表わす

ERSTER TEIL 第1部

und ウント conj. そして

hatte ハッテ 1 単過(haben)v.t ~を持った

「動詞」

Verlangen フェランゲン n.n.4 格 欲望を

「目的語」

nach ihr. ナーハ・イーア adv. 彼女に

「副詞句」

浜辺に戻ると、もうマソンが僕たちを呼んでいた。

Als wir zurückkamen, rief Masson schon nach uns.

「副詞節」, 「動詞」 「主語」 「副詞」 「間接目的語」

Als アルス conj. ~した時

「副詞節」

wir ワー pron.pl 僕たちが

「主語」

zurückkamen, ツリュック・カメン 1 複過(zurück | kommen)v.i 戻った

「動詞句」

rief リーフ 3 単過(rufen)v.i(nach を) 呼んでいた

「動詞」

Masson マソン n.m マソンが

「主語」

schon ショーン adv. もう

「副詞」

nach uns. ナーハ・ウンス adv. 僕達を、僕達に向かって

「間接目的語」

僕は彼に腹ペコだと言った。すると彼はすぐ奥さんに、僕のことが気に入ったと言った。

Ich sagte zu ihm, ich hätte großen Hunger, und er sagte gleich zu seiner Frau, ich gefalle ihm.

「主語」 「動詞」 「間接目的語」 「直接目的語」 ,ind

「主語」 「動詞」 「副詞」 「間接目的語」 「直接目的語」

Ich イッヒ pron 僕は

「主語」

sagte サークテ 3 単過(sagen)v.t 言った

「動詞」

zu ihm, ツー・イム adv. 彼に

「間接目的語」

ich イッヒ n. 僕は~するというのを

「直接目的語」

hätte ハッテ 接 II・1 単現(haben)v.t ~がある

「動詞」

großen Hunger, グローセン・フンガー n.m すごい空腹

「目的語」

und ウント conj. そして

er エア pron 彼は

「主語」

sagte サークテ 3 単過(sagen)v.t 言った

「動詞」

gleich グライヒ adv. すぐに

「副詞」

zu seiner Frau, ツー・ザイアー・フラウ adv. 奥さんに

「間接目的語」

ich イッヒ n. 僕は~するというのを

「直接目的語」

gefallen ゲファレ 1 単現(gefallen)v.i 気に入る

「動詞」

ihm. イム pron 彼にとって

「間接目的語」

ERSTER TEIL 第1部

パンが旨かった。僕は自分の分の魚を貪り食った。

Das Brot war gut, und ich verschlang meine Portion Fisch.

「主語」「動詞」「補語」,und「主語」「動詞」「目的語」

Das Brot ダス・ブロー ト n.n パンが

「主語」

war ヲアール 3 単過(sein)v.i ~ だった

「動詞」

gut, ゲート adj. うまい

「補語」

und ウント conj. そして

ich イヒ pron 僕は

「主語」

verschlang フェアシュラング 1 単過(verschlingen)v.t 貪り食った

「動詞」

meine Portion Fisch. マイネ・ポ ルツイオン・フィッシュ n.m.4 格 自分の分の魚を

「目的語」

それから、肉とフライドポテトが出た。

Dann gab es Fleisch und pommes frites.

「副詞」「動詞句」「主語」

Dann ダン adv. それから

「副詞」

gab es ガーブ・エス 非人称 3 単過・存在(es gibt et-4)v.h ~があった

「動詞句」

Fleisch フライシュ n.n 肉が

「主語」

und ウント conj. そして

pommes frites. ポメス・フリテス pl.n フライドポテトが

「主語」

僕達は物も言わずに食べた。マソンはよく飲み、僕に何度も注いでくれた。コーヒーの頃には、僕は少し頭が重かった。僕は煙草もたくさん吸った。

Wir aßen alle wortlos. Masson trank oft Wein, und immer wieder schenkte er mir ein.

Beim Kaffee hatte ich einen ziemlich schweren Kopf, ich rauchte auch viel.

「主語」「動詞」「副詞句」 | 「主語」「動詞」「副詞」「目的語」 und

「副詞句」「動詞句」「主語」「間接目的語」「動詞句」

「副詞句」「動詞」「主語」「目的語」,「主語」「動詞」「副詞句」

Wir ヲイーア pron 僕たちは

「主語」

aßen アーセン 1 複過(essen)v.i 食べた

「動詞」

alle wortlos. アレ・ウァトロー ス adv. 全く無言で、物も言わずに

「副詞句」

Masson マソン n.m マソンは

「主語」

trank トランク 3 単過(trinken)v.t 飲んだ

「動詞」

oft オフト adv. 何度も、よく

「副詞」

Wein, ヲアイン n.m.4 格 ワインを

「目的語」

und ウント conj. そして

immer wieder イマー・ウァーダー adv. 何度も、繰り返し

「副詞句」

schenkte ...ein. シェンクテ...アイン 3 単過(ein | schenken)v.t (飲み物を) ついだ

「動詞句」

ERSTER TEIL 第1部

er エア pron 彼は	「主語」
mir ミーア pron 僕に	「間接目的語」
Beim Kaffee バイム・カフェ adv. コーヒーの頃には	「副詞句」
hatte ハッテ 1 単過(haben)v.t. ～があった	「動詞」
ich イッヒ pron 僕は	「主語」
einen ziemlich schweren Kopf, アイン・ツィームリッヒ・シュウェーレン・コプフ n.m 少し重い頭	「目的語」
ich イッヒ pron 僕は	「主語」
rauchte ラウヒテ 1 単過(rauchen)v.i. タバコを吸った	「動詞」
auch viel. アウフ・フィール adv. ～もたくさん	「副詞句」

それからマソンとレーモンと僕は、8月にお金を出し合って海で過ごそうと話し合った。

Masson, Raymond und ich sprachen dann davon, den Monat August auf gemeinsame Kosten am Meer zu verbringen.

Masson, Raymond und ich マソン・ライモント・ウント・イッヒ	
pl.n.m マソン、レーモンそして僕は	「主語」
sprachen シュプラーヘン 1 複過(sprechen)v.i. ～について話した	「動詞」
dann ダン adv. それから	「副詞」
davon, ダヴォン adv. ～について	「間接目的語」
den Monat August デン・モナト・アウグスト adv. 8月に	「副詞句」
auf gemeinsame Kosten アウフ・ゲマインザーメ・コステン	
adv. お金を出し合って	「副詞句」
am Meer アム・メーア adv. 海で	「副詞句」
zu verbringen. ツー・フェアブリンゲン zu 不定詞 v.i. 過ごす	「動詞句」

突然マリーが言った：「みんな、何時か知ってる？まだ11時半よ」

Plötzlich sagte Maria: «Wißt ihr auch, wieviel Uhr es ist? Halb zwölf.»

「副詞」「動詞」「主語」：《「動詞」「主語」「副詞」「目的語」 「補語」》	
Plötzlich プレツリッヒ adv. 急に、突然	「副詞」
sagte サークテ 3 単過(sagen)v.t. 言った	「動詞」
Maria: マリア n.f. マリーが	「主語」
«Wißt ウィスト 2 複現・疑問文(wissen)v.t. 知っていますか？	「動詞」
ihr イーア pron.pl. あなたたちは	「主語」
auch, アウフ adv. ～も	「副詞」
wieviel Uhr ウィーフィール・ウーア n.f. (補語) 何時ということ	「目的語」
es エス pron 時間は	「主語」
ist? イスト 3 単現(sein)v.i. ～である	「動詞」

ERSTER TEIL 第1部

Halb zwölf. ハルフ・ツウエルフ [数] 11時半

「補語」

僕達は皆驚いたが、マソンは言った。僕たちはずいぶん早く食事をしたが、それはまったく当たり前の事だろう。何時だろうと、腹が減った時が食事時なのだから。

Wir waren alle erstaunt, aber Masson meinte, wir hätten sehr früh gegessen, und das wäre ganz natürlich, denn Frühstücksstunde sei immer dann, wenn man Hunger habe.

「主語」「動詞」「補語」, aber 「主語」「動詞」「目的語」

Wir ヲーア pron.pl 僕たちは

「主語」

waren ヲーレン 1 複過・変化(sein)v.i 〜になった

「動詞」

alle erstaunt, アレ・エアシュタウト adj. みな驚いた

「補語」

aber アーバー conj. しかし

Masson マソン n.m マソンは

「主語」

meinte, マイnte 3 単過(meinen)v.t 言った

「動詞」

n. 〜ということを

「目的語」

wir ヲーア pron.pl 僕たちは

「主語」

hätten ...gegessen, ハッテン...ゲゲッセン 接 II・1 複現・完了形(essenn)

v.t 食べたかもしれない

「動詞句」

sehr früh セーア・フュー adv. とても早く

「副詞句」

und ウント conj. そして

das ダス pron そのことは

「主語」

wäre ヲーレ 接 II・3 単現(sein)v.i 〜だろう

「動詞」

ganz natürlich, ガンツ・ナチュアリヒ adj. まったく当たり前の

「補語」

denn デン conj. (理由) 〜だから

「副詞節」

Frühstücksstunde フリュシュチュックス・シュトウンテ n.f 食事の時間は

「主語」

Frühstücks フリュシュチュックス n.n.2 格 食事の Stunde シュトウンテ n.f 時間

sei サイ 3 単現(sein)v.i 〜である

「動詞」

immer dann, wenn イマー・ダン・ウエン adv. いつだって〜する時

「補語」

man マン pron 人が

「主語」

Hunger フンガー n.m.4 格 空腹を、食欲を

「目的語」

habe. ハーベ 3 単現(haben)v.t 〜がある

「動詞」

ERSTER TEIL 第1部

僕はどうしてマリーがそれを聞いて笑ったのか分からない。僕は彼女が少し飲み過ぎていたのだと思う。

Ich weiß nicht, weshalb Maria darüber lachte. Ich glaube, sie hatte etwas zuviel getrunken. 「主語」「動詞句」「目的語」 | 「主語」「動詞」「目的語」

Ich イッヒ pron 僕は 「主語」

weiß nicht, ヴァイス・ニヒト 1 単現・否定(wissen)v.t 分からない 「動詞句」

weshalb ヴェスハルプ adv.(conj.) どうして～するかが 「目的語」

Maria マリア n.f マリーが 「主語」

darüber ダリューバー adv. それに対して 「間接目的語」

lachte. ラハテ 3 単過(lachen)v.i 笑った 「動詞」

Ich イッヒ pron 僕は 「主語」

glaube, グラウベ 1 単現(glauben)v.t ～だと思う 「動詞」

n. ～ということを 「目的語」

sie シー pron.f 彼女は 「主語」

hatte ...getrunken. ハッテ...ゲトルンケン 3 単過・完了形(trinken)v.t 飲んだ 「動詞句」

etwas zuviel エトヴァス・ツフィール pron 過剰に何かを 「目的語」

そこでマソンと一緒に浜辺を散歩しませんかと僕を誘った。

Masson fragte mich dann, ob ich mit ihm am Strand Spazierengehen wolle.

「主語」「動詞」「間接目的語」「副詞」「直接目的語」

Masson マソン n.m マソンが 「主語」

fragte フラクテ 3 単過(fragen)v.t 尋ねた 「動詞」

mich ミッヒ pron.4 格 僕に 「間接目的語」

dann, ダン adv. そこで 「副詞」

ob オップ conj. ～かどうかということ 「直接目的語」

ich イッヒ pron 僕は 「主語」

mit ihm ミット・イム adv. 彼と 「副詞句」

am Strand Spazieren アム・シュトラント・シュパツィーレン adv. 浜辺に散歩 「間接目的語」

gehen wolle. ゲーエン・ウオレ 接・1 単現(wollen+不定詞 gehen)

v.t 行きたいと思う 「動詞句」

ERSTER TEIL 第1部

「妻はいつも食後に昼寝をするんだが、私は寝ない。歩かないと気が済まないんだ。いつも、健康に良いと言っているんだが、結局は妻が決める事だから」

«Meine Frau macht nach dem Essen immer ein Schläfchen. Ich nicht. Ich muß laufen. Ich sage immer wieder, wie gesund das ist. Aber schließlich ist es ihr gutes Recht.»

《「主語」「動詞」「副詞句」「目的語」 | 「主語」「動詞句」 | 「主語」「動詞句」

「主語」「動詞」「副詞句」「目的語」,Aber 「副詞」「動詞」「主語」「補語」》

«Meine Frau マINE・フラウ n.f 妻は 「主語」
macht マハ 3 単現(machen)v.t (行為を) する 「動詞」
nach dem Essen ナーハ・デーム・エッセン adv. 食後に 「副詞句」
immer イマー adv. いつも 「副詞」
ein Schläfchen. アイン・シュレーフシェン n.n.4 格 昼寝を、仮眠、うたた寝 「目的語」
Ich イヒ pron 私は 「主語」
nicht. ニヒト adv. しない 「動詞句」
Ich イヒ pron 私は 「主語」
muß laufen. ムス・ラウフェン 1 単現・必要(müssen+不定詞 laufen) 「動詞句」
v.i 歩かなければ気が済まない 「主語」
Ich イヒ pron 私は 「動詞」
sage サーゲ 1 単現(sagen)v.t 言っている 「副詞句」
immer wieder, イマー・ワイダー adv. いつも 「目的語」
wie ワイ conj. ～ということを 「補語」
gesund ゲズント adj. 健康に良い 「主語」
das ダス n.n 歩くことは 「動詞」
ist. イスト 3 単現(sein)v.i ～である 「副詞」
Aber アーバー conj. しかし 「動詞」
schließlich シュリースリヒ adv. 結局は 「主語」
ist イスト 3 単現(sein)v.i ～である 「主語」
es エス pron それは 「補語」
ihr gutes Recht.» イーア・ゲーテス・レヒト n.n.1 格 彼女の当然の権利

マリーは家に残って、マソンの奥さんの皿洗いの手伝いをしたいと言った。

Maria erklärte, sie wolle im Haus bleiben und Frau Masson beim Abwasch helfen.

「主語」「動詞」「目的語」

Maria マリア n.f マリーは 「主語」
erklärte, エクラアテ 3 単過(erklären)v.t 言った、宣言した 「動詞」
n. ～ということを 「目的語」
sie ジー pron.f 彼女は 「主語」

ERSTER TEIL 第1部

wolle ...bleiben ヲレ...ブライベン 接・3 単現・願望(wollen+不定詞 bleiben)

v.i 残りたい

「動詞句」

im Haus イム・ハウス adv. 家に

「副詞句」

und ウント conj. そして

Frau Masson フ라우・マツン n.f.4 格 マソンの奥さんを

「直接目的語」

beim Abwasch バイム・アップ ヲ アッシュ adv. (関連) 食器洗いについて

「間接目的語」

helfen. ヘルフェン 接・3 単現・願望(wollen+不定詞 helfen)v.t 手伝いたい

「動詞句」

それをするには男たちは邪魔になるだけだ、と小柄なパリジャンが言った。僕達 3 人は浜に向かって歩いた。

Die kleine Pariserin meinte, bei dieser Arbeit ständen Männer nur im Weg. Wir drei gingen an den Strand.

「主語」「動詞」「副詞句」「動詞」「主語」「副詞句」 | 「主語」「動詞」「副詞句」

Die kleine Pariserin デー・イー・クライネ・パリゼリン n.f 小柄なパリジャンは

「主語」

meinte, マインテ 3 単過(meinen)v.t 言った

「動詞」

bei dieser Arbeit バイ・デーザー・アルバート adv. (条件・目的) それをするためには「副詞句」

ständen シュテンデン 接 II・3 複現(stehen)v.i 立っている

「動詞」

Männer メー pl(Mann).n.m 男たちは

「主語」

nur im Weg. ノー・ア・イム・ヴェーク adv. ただ道の上に

「副詞句」

j-3 im Weg stehen 「人の邪魔になる、邪魔をする」

Wir drei ヲー・ア・ドライ pl.n.m 僕達 3 人は

「主語」

gingen キングェン 1 複過(gehen)v.i 行った、歩いた

「動詞」

an den Strand. アン・デン・シュトラント adv. 浜に向かって

「副詞句」

太陽は砂の上に真上から降り注ぎ、海面に反射するきらめきはほとんど耐えがたいほどだった。もう誰も浜にはいなかった。

Die Sonne fiel senkrecht auf den Sand, und ihr Flimmern auf dem Meer war fast unerträglich. Kein Mensch war mehr am Strand.

「主語」「動詞」「副詞句」,und「主語」「副詞句」「動詞」「補語」

「主語」「動詞」「副詞句」

Die Sonne デー・ゾネ n.f 太陽が

「主語」

fiel フィール 3 単過(fallen)v.i (光が) 差していた、降り注いでいた

「動詞」

senkrecht ゼンクレヒト adv. 垂直に、真上から

「副詞」

auf den Sand, アウフ・デン・ザント adv. 砂の上に

「副詞句」

und ウント conj. そして

ihr Flimmern イー・フリマーン n.m その輝きは

「主語」

ERSTER TEIL 第1部

auf dem Meer アウフ・デー・ム・メー adv. 海の上の	「副詞句」
war ヴァール 3 単過(sein)v.i ~ だった	「動詞」
fast unerträglich. ファスト・ウンエアトレークリヒ adj. ほとんど耐えがたい	「補語」
Kein Mensch ケイン・メンシュ n.m 人は誰も～ない	「主語」
war ヴァール 3 単過・存在・否定文で(sein)v.i いなかった	「動詞」
mehr am Strand. メー・アム・シュトラント adv. もう浜に	「副詞句」

海に面して高台を縁どって立ち並ぶ木造の別荘からは、食事時の皿と食器のカチャカチャという音が聞こえてきた。

Aus den Holzhäusern am Rande des Plateaus und am Meer drangen das Klappern von Tellern und das Klirren von Geschirr.

	「副詞句」「動詞」「主語」
Aus den Holzhäusern アウス・デン・ホルツハイザーン	
adv. (内から外へ) 木造家屋から、別荘から	「副詞句」
am Rande アム・ランデ adv. (位置) 縁にある	「副詞句」
des Plateaus デス・プラトース n.n.2 格 高台の	「形容詞句」
und ウント conj. そして	
am Meer アム・メー adv. (対象) 海に	「副詞句」
drangen ドランゲン 3 複過(dringen)v.i 突き抜けていた	「動詞」
das Klappern ダス・クラパーン n.n カチャカチャいう音が	「主語」
von Tellern フォン・テラーン adv. (起点) 皿から	「副詞句」
und ウント conj. そして	
das Klirren ダス・クリレン n.n (陶器が) ガチャガチャ鳴る音が	「主語」
von Geschirr. フォン・ゲシール adv. (起点) 食器から	「副詞句」

地面から立ち昇る乾いた熱気のために、息をするのも困難だった。

In der trockenen Hitze, die vom Boden aufstieg, konnte man kaum atmen.

	「副詞句」「動詞句」「主語」「副詞」「動詞句」
In der trockenen Hitze, イン・デア・トロッケネン・ヒッツェ adv. 乾いた熱気の中で	「副詞句」
trocken トロッケン adj. 乾いた Hitze ヒッツェ n.f 熱、暑さ	
die デー pron (主語) ～する	「形容詞節」
vom Boden フォム・ボーデン adv. 地面から	「副詞句」
aufstieg, アウフ・シュタイク 3 単過(auf steigen)v.i 立ち昇る	「動詞句」
konnte ...atmen. コンテ...アトメン 3 単過・可能・否定(können+不定詞 atmen)	
v.i 息が出来なかった	「動詞句」
man マン pron 人は	「主語」

ERSTER TEIL 第1部

kaum カム adv. ほとんど～ない

「副詞」

レーモンとマソンは僕が知らない事柄や人々について話し合っていた。

Raymond und Masson unterhielten sich über Dinge und Menschen, die ich nicht kannte.

「主語」「動詞句」「間接目的語」

Raymond und Masson レーモン・ウト・マソン pl.n.m レーモンとマソンは

「主語」

unterhielten sich ウンターヒルテン・ズィヒ 3 複過(sich-4 unterhalten)v.pr 話していた 「動詞句」

über ユーバー prep (対象) ～に関して

「間接目的語」

Dinge ディンゲ pl(Ding).n.n 物事

「目的語」

und ウント conj. そして

Menschen, メンシェン pl(Mensch).n.m 人々

「目的語」

die デー pron.pl (目的語) ～する

「形容詞節」

ich イヒ pron 僕は

「主語」

nicht kannte. ニヒ・カンテ 1 単過・否定・時制の一致(kennen)

v.t 知らない

「動詞句」

彼らの付き合いは長くて、一時期は一緒に暮らしていたという事も分かった。

Mir wurde klar, daß sie sich schon lange kannten und vorübergehend sogar zusammen gewohnt hatten.

「間接目的語」「動詞」「補語」「主語」

Mir ミア pron 僕にとって

「間接目的語」

wurde ウルデ 3 単過・変化(werden)v.i ～になった

「動詞」

klar, クラール adj. 明らかな、はっきりした

「補語」

daß ダス pron ～ということが

「主語」

sie シー pron.pl 彼らは

「主語」

sich ... kannten スィヒ...カンテン 3 複過(sich-4 kennen)

v.pr 互いに知り合っていた

「動詞句」

schon lange ショーン・ランゲ adv. もう長い間

「副詞句」

und

vorübergehend フォリュバーゲーエント adv. 一時期は

「副詞」

sogar ソーガー adv. さらに、～すら

「副詞」

zusammen ツアメン adv. 一緒に

「副詞」

gewohnt hatten. ゲウハント・ハッテン 3 複過・完了形(wohnen)v.i 暮らしていた 「動詞句」

ERSTER TEIL 第1部

僕達は水際まで行き、海沿いを歩いた。時々、波長の長い波が僕らのズック靴を濡らした。

Wir gingen ans Wasser und dann am Wasser entlang. Ab und zu näßte eine kleine Welle, die länger war als die anderen, unsere Segeltuchschuhe.

「主語」「動詞」「間接目的語」 und 「副詞句」 | 「副詞句」「動詞」「主語」
 Wir ヱーア pron.pl 僕たちは 「主語」
 gingen キンゲン 1 複過(gehen)v.i 行った、歩いた 「動詞」
 ans Wasser アンス・ウァッサー adv. 水際に 「間接目的語」
 und ウント conj. そして
 dann ダン adv. それから 「副詞」
 am Wasser entlang. アム・ウァッサー・エントラング adv. 海に沿って 「副詞句」
 Ab und zu アップ・ウント・ツウ adv. 時々 「副詞句」
 näßte ネステ 3 単過(nässen)v.t 濡らした 「動詞」
 eine kleine Welle, アイネ・クライネ・ウェレ n.f 小さい波が 「主語」
 die デー pron.f (主語) ～する 「形容詞節」
 länger レンガー adj. (比較級) (lang) 長い 「補語」
 war ウェール 3 単過・時制の一致(sein)v.i ～である 「動詞」
 als die anderen, アルス・デー・アンデレン conj. (比較) 他よりも 「副詞句」
 unsere Segeltuchschuhe. ウンゼレ・ゼゲルトゥーフ・シューエ pl(Schuh).n.m ズック靴を 「目的語」
 Segeltuch ゼゲルトゥーフ n.n ズック、麻布

太陽が僕の頭に直撃したので眠くなり、何も考えられなくなった、

Ich dachte an nichts, denn die Sonne, die meinen Kopf traf, schläferete mich ein.

「主語」「動詞」「間接目的語」, 「副詞節」, 「動詞句」
 Ich イット pron 僕は 「主語」
 dachte ダハテ 1 単過(denken)v.i(an のことを) 考えた 「動詞」
 an nichts, アン・ニヒツ adv. 何のことも～ない 「間接目的語」
 denn デン conj. (理由) ～なので 「副詞節」
 die Sonne, デー・ゾネ n.f 太陽が 「主語」
 die デー pron.f(Sonne の代用) それが 「主語」
 meinen Kopf マイネン・コフ n.m.4 格 僕の頭を 「目的語」
 traf, トラフ 3 単過(treffen)v.t 命中した、当てた 「動詞」
 schläferete mich ein. シュレフェアテ・ミヒ・アイン 1 単過(sich-4 ein | schläfern)
 v.pr 眠くなった、眠った 「動詞句」

ERSTER TEIL 第1部

この時、マソンがレーモンに何か言ったのだが、僕はそれをまったく聞き取れなかった。

In diesem Augenblick sagte Masson etwas zu Raymond, das ich nicht ganz verstand.

「副詞句」「主語」「動詞」「直接目的語」「間接目的語」,

「目的語」「主語」「副詞句」「動詞」

In diesem Augenblick イン・デューゼム・アウゲンブリック adv. (時点) この時 「副詞句」

sagte サーケ 3 単過(sagen)v.t 言った 「動詞」

Masson マソン n.m マソンが 「主語」

etwas エトヴァス pron 何かを 「直接目的語」

zu Raymond, ツー・ライメント adv. レーモンに 「間接目的語」

das ダス pron それを 「目的語」

ich イヒ pron 僕は 「主語」

nicht ganz ニヒト・ガント adv. まったく～ない 「副詞句」

verstand. フェアシュタント 1 単過(verstehen)v.t 聞き取れた 「動詞」

しかし同時に、浜のはずれの僕達からかなり離れた所から、2 人のアラブ人が僕たちに向
かって来るのが見えた。

Aber gleichzeitig sah ich am Ende des Strandes, ziemlich weit von uns entfernt, zwei Araber in blauen Arbeiteranzügen auf uns zukommen.

Aber 「副詞」「動詞」「主語」「副詞句」「目的語」

Aber アーバー conj. しかし

gleichzeitig グライツァイトイヒ adv. 同時に 「副詞」

sah サー 1 単過(sehen)v.t 見えた 「動詞」

ich イヒ pron 僕は 「主語」

am Ende des Strandes, アム・エンデ・デス・シュランデス adv. (位置) 浜のはずれに 「副詞句」

ziemlich weit チームリヒ・グァイト adv. かなり遠くに 「副詞句」

von uns entfernt, フォン・ウンス・エントフェアント adv. 僕達から離れた 「副詞句」

zu 不定句 n. ～することを 「目的語」

zwei Araber ツヴァイ・アーラーバー pl(Araber).n.m 2 人のアラブ人が 「主語」

in blauen Arbeiteranzügen イン・ブラウエン・アルバーイター・アンツェーゲン

adv. 菜っ葉服を着た、青い作業服を着た 「形容詞句」

auf ...zukommen. アウフ...ツークommen zu 不定詞(auf| kommen)

v.i 差を詰めてくる、近づいて来る 「動詞句」

uns ウンス pron.3 格 僕たちに 「間接目的語」

ERSTER TEIL 第1部

僕はレーモンを見つめた。すると彼は言った：「あいつだ！」僕たちは静かに前進した。

Ich sah Raymond an, und er sagte: «Er ist es.» Wir gingen ruhig weiter.

「主語」「動詞句」「目的語」, und 「主語」「動詞」:

《「感嘆」》, 「主語」「動詞」「副詞句」

Ich イッヒ pron 僕は

「主語」

sah ...an, サー...アン 1 単過(an|sehen)v.t 見つめた

「動詞句」

Raymond ライメント n.m レーモンを

「目的語」

und ウント conj. そして

er エア pron 彼は

「主語」

sagte: サークテ 3 単過(sagen)v.t 言った

「動詞」

«Er ist es.» エア・イスト・エス adv. (それは) 彼だ、あいつだ

「感嘆」

Wir ヴァー pron.pl 僕たちは

「主語」

gingen キンゲン 1 複過(gehen)v.i 歩いた

「動詞」

ruhig weiter. ルーイヒ・ヴァイター adv. 静かに前に

「副詞句」

彼らはどうやってここまで僕たちについて来ることができたんだろう、とマソンが尋ねた。

Masson fragte, wie sie uns bis hierher hätten folgen können.

「主語」「動詞」「目的語」

Masson マソン n.m マソンは

「主語」

fragte, フラクテ 3 単過(fragen)v.t 尋ねた、質問した

「動詞」

wie ヴァー adv. どうやって～するかという事を

「目的語」

sie ジー pron.pl 彼らは

「主語」

uns ウンス pron.pl.3 格 僕達に

「間接目的語」

bis hierher ビス・ヒアヘア adv. ここまで

「副詞句」

hätten folgen können. ヘッテン・フォルゲン・ケnnen 接 II・3 複現・完了形・可能(können+不定詞 folgen)

v.i ついて来ることが出来た

「動詞句」

彼らは僕たちがビーチバッグを持ってバスに乗るところを見たのだろうと僕は思ったが、何も言わなかった。

Ich dachte: sie hatten uns mit der Badetasche in den Autobus steigen sehen, aber ich sagte nichts.

「主語」「動詞」: 「主語」「動詞句」「目的語」「補語」「動詞句」,

aber 「主語」「動詞」「目的語」

Ich イッヒ pron 僕は

「主語」

dachte: ダハテ 1 単過(denken)v.i 思った、考えた

「動詞」

sie ジー pron.pl 彼らは

「主語」

hatten ...sehen, ハッテン...ゼーエン 3 複現・完了形(sehen)v.t 見た

「動詞句」

ERSTER TEIL 第1部

uns ウンス pron.pl 僕たちを	「目的語」
mit der Badetasche ミット・デア・バデタシェ adv. ビーチバッグを持って	「副詞句」
Bad バート n.n 海水浴 Tasche タッシェ n.f バッグ	
in den Autobus イン・デン・アウトブス adv. バスに	「副詞句」
steigen シュタイゲン 不定詞・uns の動作 v.i (乗り物に) 乗る	「補語」
aber アーバー conj. しかし	
ich イヒ pron 僕は	「主語」
sagte サークテ 1 単過(sagen)v.t 言った	「動詞」
nichts. ニヒツ pron 何も～なに	「目的語」

アラブ人たちはゆっくり僕たちに近づいてきた。そして、すでにかなり近くまで来ていた。

Die Araber kamen langsam auf uns zu und waren schon bedeutend näher.

「主語」「動詞句」「副詞」「間接目的語」「動詞句」und「動詞」「副詞句」	
Die Araber デー・アラバー pl(Araber).n.m アラブ人たちは	「主語」
kamen ...zu カメン...ツ 3 複過(zu kommen)v.i(auf j-4 に) 近づいてきた	「動詞句」
langsam ラングザーム adv. ゆっくりと	「副詞」
auf uns アウフ・ウンス adv. 僕たちに	「間接目的語」
und ウント conj. そして	
waren ヴァレン 3 複過・存在(sein)v.i ～に来ていた	「動詞」
schon ショーン adv. すでに	「副詞」
bedeutend näher. ベト・イェント・ネアー adv. かなり近くに	「副詞句」

僕達は歩調を早めなかったが、レーモンが言った：「もし殴り合いになったら、マソン、君は2番目の奴を引き受けてくれ」

Wir gingen nicht schneller, aber Raymond sagte: «Wenn's zur Keilerei kommt, dann übernimmst du Masson, den zweiten.

「主語」「動詞」「副詞句」,aber「主語」「動詞」:	
《「副詞節」,「副詞」「動詞」「主語」「目的語」》	
Wir ヴェーア pron.pl 僕たちは	「主語」
gingen キンゲン 1 複過(gehen)v.i 歩いた	「動詞」
nicht schneller, ニヒト・シュネラー adv. (比較級) より早く～ない	「副詞句」
aber アーバー conj. しかし	
Raymond レーモン n.m レーモンが	「主語」
sagte: サークテ 3 単過(sagen)v.t 言った	「動詞」
«Wenn ヴェン conj. (条件) もし～したら	「副詞節」
's エス pron 状況が、事態が	「主語」

ERSTER TEIL 第1部

zur Keilerei ツァ・カイレイ adv. 殴り合いに 「補語」
 kommt, コムト 3 単現(kommen)v.i (ある状態に) なる 「動詞」
 dann ダン adv. その時は 「副詞」
 übernimmst ユーバーニムスト 2 単現・依頼(übernehmen)v.t (任務を) 引き受けてくれ 「動詞」
 du, Masson, ドゥ・マソン n.m マソン、君は 「主語」
 den zweiten. デン・ツヴァイトン pron 2 番目の男を 「目的語」

「俺は、例の奴を引き受ける。そして 3 人目が現れたら、そいつはムルソー、君に任せる」

Ich nehme meinen vor. Und wenn noch ein dritter auftaucht, der ist für dich, Meursault.»

《「主語」「動詞句」「目的語」 | Und 「副詞節」, 「主語」「動詞」「補語」》

Ich イッヒ pron 俺は 「主語」
 nehme ...vor. ネーメ...フォー 1 単現(vor|nehmen)v.t 相手にする、取り組む 「動詞句」
 meinen マイネン pron.4 格 自分の相手を 「目的語」
 Und ウント conj. そして
 wenn ヴェン conj. ～する時は 「副詞節」
 noch ノッホ adv. さらに、まだ 「副詞」
 ein dritter アイン・ドリッター pron 三人目が 「主語」
 auftaucht, アウフ・タウト 3 単現(auf|tauchen)v.i 現れる 「動詞句」
 der デア pron そいつは 「主語」
 ist イスト 3 単現(sein)v.i ～である 「動詞」
 für dich, フェア・ディッヒ adv. 君の相手 「補語」
 Meursault.» ムルソー n.m ムルソー 「呼びかけ」

僕は答えた：「わかった」それから、マソンは両手をポケットに突っ込んだ。熱せられた砂が今や僕には真っ赤に見えた。

Ich antwortete: «Ja», und Masson steckte die Hände in die Tasche. Der überhitzte Sand kam mir jetzt rot vor.

「主語」「動詞」：《「応答」》, und 「主語」「動詞」「目的語」「副詞句」

「主語」「動詞」「間接目的語」「補語」

Ich イッヒ pron 僕は 「主語」
 antwortete: アントヴォアテ 1 単過(antworten)v.i 答えた 「動詞」
 «Ja», ヤー adv. 分かった、了解 「応答」
 und ウント conj. そして
 Masson マソン n.m マソンは 「主語」
 steckte シュテケ 3 単過(stecken)v.t 突っ込んだ 「動詞」
 stecken ステッケン v.t 突っ込む (過去形は、stak シュターク または steckte シュテケ)

ERSTER TEIL 第1部

die Hände テー・イー・ヘンデ pl(Hand).n.f 両手を	「目的語」
in die Tasche. イン・デー・イー・タッシェ adv. ポケットに	「副詞句」
Der überhitzte Sand テア・ユーバー・イツテ・ザント n.m 熱せられた砂が	「主語」
überhitzte ユーバー・イツテ 過去分詞・受動(überhitzen)adj.m.1 格 過熱された	
kam ...vor. カム...フォー 3 単過(vor kommen)v.i ~のように思われた	「動詞句」
mir ミーア pron 僕には	「間接目的語」
jetzt rot イェツト・ロート adj. 今や赤い	「補語」

僕達は同じ歩調でアラブ人たちの方へ近づいて行った。

Mit gleichmäßigen Schritten gingen wir auf die Araber zu.

	「副詞句」「動詞句」「主語」「副詞句」「動詞句」
Mit ミット prep (手段・状況) ~によって	「副詞句」
gleichmäßigen グライヒメーシゲン adj(gleichmäßig).pl.3 格 一定の「形容詞」	
Schritten シュリッテン pl(Schritt).n.m.3 格 歩み、歩調	「目的語」
gingen ...zu. ギンゲン...ツ 1 複過(zu gehen)v.i (auf j-4 に) 近づいて行った	「動詞句」
wir ウィーア pron.pl 僕たちは	「主語」
auf アウフ prep (方向を示すときは4格と) ~の方へ	「副詞句」
die Araber テー・アラバー pl(Araber).n.m.4 格 アラブ人たち	「目的語」

両者間の距離はますます接近した。

Die Entfernung zwischen uns wurde immer kleiner.

	「主語」「動詞」「補語」
Die Entfernung テー・エントフェアヌング n.f 距離は、間隔は	「主語」
zwischen ツウィッシェン prep (空間的) ~の間の	「副詞句」
uns ウンス pron.pl 両者、僕達とアラブ人	「目的語」
wurde ウルデ 3 単過・変化(werden)v.i ~になった	「動詞」
immer kleiner. イマー・クライナー adj. (比較級) ますます短い、近い	「補語」

お互いにあと数歩の距離まで来た時、アラブ人たちは立ち止まった。マソンと僕は歩調を緩めて進み続けた。

Als wir nur noch ein paar Schritte voneinander getrennt waren, blieben die Araber stehen. Masson und ich wurden jetzt langsamer.

	「副詞節」, 「動詞句」「主語」「動詞句」 「主語」「動詞」「補語」
Als アルス conj. ~する時	「副詞節」
wir ウィーア pron.pl 僕たちが	「主語」
nur noch ein paar Schritte ヌーア・ノッホ・アイン・パール・シュリッテ	

ERSTER TEIL 第1部

adv. (空間的) あと数歩の所に	「副詞句」
voneinander getrennt フォンアイツダー・ゲトレント	
adj. お互いに離れた	「形容詞句」
waren, ヴァレン 1 複過・移動(sein)v.i 〜に来た	「動詞」
blieben ...stehen. ブリーヘン...シュテーエン 3 複過(bleiben+不定詞 stehen)	
v.i 立ち止まった	「動詞句」
die Araber デー・アラバー pl(Araber).n.m アラブ人たちが	「主語」
Masson und ich マソン・ウント・イヒ pl.n.m マソンと僕は	「主語」
wurden ヴルデン 1 複過・変化(werden)v.i 〜になった	「動詞」
jetzt langsamer. イェツト・ラングザマー adj.(比較級) 少し遅く	「補語」

レーモンはまっすぐ自分の相手の方へ向かって行った。彼が相手に何を言ったのかは、僕には聞こえなかった。しかし相手は、彼に殴りかかりそうに思われた。

Raymond ging direkt auf seinen Gegner zu. Was er ihm sagte, konnte ich nicht hören, aber der andere wollte ihm eins versetzen.

「主語」「動詞句」「副詞句」「動詞句」 「目的語」「動詞句」「主語」「動詞句」,	
aber 「主語」「動詞句」「間接目的語」「直接目的語」「動詞句」	
Raymond レーモン n.m レーモンは	「主語」
ging ...zu. キング...ツ 3 単過(zu gehen)v.i(方向: auf j-4 に) 向かって行った	「動詞句」
direkt auf seinen Gegner デイレクト・アウフ・ザイネン・ゲーグナー	
adv. まっすぐ自分の相手の方へ	「副詞句」
Was ヴァス pron 〜する何かを	「目的語」
er エア pron レーモンが	「主語」
ihm イム pron 相手に	「間接目的語」
sagte, サークテ 3 単過(sagen)v.t 言った	「動詞」
konnte ...nicht hören, コンテ...ニヒト・ヘレン 1 単過・可能・否定(können+不定詞 hören)	
v.t 聞こえなかった	「動詞句」
ich イヒ pron 僕は	「主語」
aber アーバー conj. しかし	
der andere デア・アンデレ pron 相手は	「主語」
wollte ...versetzen. ヴォルテ...フェアゼツェン 接 II・3 単現・気配・推量(wollen+不定詞 versetzen)	
v.t (打撃を) 与えそうだった	「動詞句」
ihm イム pron.3 格 彼に	「間接目的語」
eins アインス pron 打撃を、殴打を	「直接目的語」

ERSTER TEIL 第1部

そこでレーモンがまず最初に殴り、またすぐにマソンを呼んだ。

Da schlug Raymond als erster zu und rief auch sofort Masson.

	「副詞」「動詞句」「主語」「副詞句」「動詞句」	und 「動詞」「副詞句」「目的語」
Da ダー adv. その時に、そこで		「副詞」
schlug... zu シュルク...ツ- 3 単過(zu schlagen)v.t 殴った		「動詞句」
Raymond レーモン n.m レーモンが		「主語」
als erster アルス・エーステル adv. 最初に		「副詞句」
und ウント conj. そして		
rief リーフ 3 単過(rufen)v.t 呼んだ		「動詞」
auch アウ adv. また		「副詞」
sofort ソフォート adv. すぐに		「副詞」
Masson. マソン n.m マソンを		「目的語」

マソンは自分に任された相手の方へ向かって行き、力の限り 2 度殴った。

Masson ging auf den zu, der ihm bezeichnet worden war, und schlug zweimal mit aller Kraft zu.

	「主語」「動詞句」「副詞句」「動詞句」「形容詞節」	,und 「動詞句」「副詞句」「動詞句」
Masson マソン n.m マソンは		「主語」
ging ...zu, ギング...ツ- 3 単過(zu gehen)v.i 向かって行った		「動詞句」
auf den アウフ・デシ adv. (方向) 男のほうへ		「副詞句」
der デア pron (主語) ～する		「形容詞節」
ihm イム pron 彼に		「間接目的語」
bezeichnet worden war, ベツァイヒネト・ウ・ォアデシ・ウ・ァール 3 単過・受動(werden+過去分詞)		
v.t 指示された		「動詞句」
und ウント conj. そして		
schlug ...zu, シュルク...ツ- 3 単過(zu schlaagen)v.t 殴った		「動詞句」
zweimal スヰウ・アイマル adv. 2 度		「副詞句」
mit aller Kraft ミット・アラー・クラフト adv. 力いっぱい		「副詞句」

ERSTER TEIL 第1部

そのアラブ人は顔から水中に倒れ込み、数秒間そのまま横たわっていた。彼の頭の周りから泡が立ち昇り、弾けた。

Der Araber fiel mit dem Gesicht ins Wasser und blieb so ein paar Sekunden liegen, während rund um seinen Schädel Blasen aufstiegen und platzten.

「主語」「動詞」「副詞句」 und 「動詞句」「副詞句」「動詞句」

「副詞句」「主語」「動詞句」 und 「動詞」

Der Araber デア・アラバー n.m そのアラブ人は 「主語」
 fiel フィール 3 単過(fallen)v.i 倒れた 「動詞」
 mit dem Gesicht ミットデームゲジヒト adv. 顔で 「副詞句」
 ins Wasser インス・ウァッサー adv. 水中に 「副詞句」
 und ウント conj. そして
 blieb ...liegen, ブリーフ ...リーゲン 3 単過・継続(bleiben+不定詞 liegen)
 v.i 横たわったままでいた 「動詞句」
 so ソー adv. そのように 「副詞」
 ein paar Sekunden アイン・パール・ゼクンデテン adv. 数秒間 「副詞句」
 während rund um seinen Schädel ウェーレント・ルント・ウム・ザイネン・シェーデル
 adv. 彼の頭の周りで 「副詞句」
 Blasen ブラゼン pl(Blase).n.f 泡が 「主語」
 aufstiegen アウフ・シュティエゲン 3 複過(auf|steigen)v.i 立ち昇った 「動詞句」
 und ウント conj. そして
 platzten. プラッツテン 3 複過(platzen)v.i 弾けた 「動詞」

その間レーモンも殴り続けていたので、相手の顔を血まみれだった。

Unterdessen schlug auch Raymond wieder zu, und der andere blutete im Gesicht.

「副詞」「動詞句」「主語」「副詞」「動詞句」, und 「主語」「動詞」「副詞句」

Unterdessen ウンターデーセン adv. その間 「副詞」
 schlug ...zu, シュルク...ツー 3 単過(zu|schlagen)v.i 殴っていた 「動詞」
 auch Raymond アウフ・レーモン n.m レーモンも 「主語」
 wieder ウィーダー adv. また 「副詞」
 und ウント conj. そして
 der andere デア・アンデレ pron 相手は 「主語」
 blutete ブルテテ 3 単過(bluten)v.i 出血していた 「動詞」
 im Gesicht. イム・ゲジヒト adv. 顔に 「副詞句」

ERSTER TEIL 第1部

レーモンは僕の方へ振り返り、言った：「これから、ちょっとした事を経験するぞ！」

Raymond wandte sich zu mir um und sagte: «Jetzt sollst du mal was erleben!」

「主語」「動詞句」「副詞句」「動詞句」und「動詞」:

《「副詞」「動詞句」「主語」「目的語」「動詞句」》

Raymond レーモン n.m レーモンは

「主語」

wandte sich ...um ヲァンテ・ズィツヒ...ツ 3 単過(sich-4 um | wenden)v.pr 振り返った「動詞句」

zu mir ツー・ミーア adv. 僕の方へ

「副詞句」

und ウント conj. そして

sagte: サークテ 3 単過(sagen)v.t 言った

「動詞」

«Jetzt イェツト adv. 今から

「副詞」

sollst ...erleben! ザルスト...エアーベーン 2 単現・予定(sollen+不定詞 erleben)

v.t 経験することになる

「動詞句」

du ドゥ pron 君は

「主語」

mal was マル・ヴァス pron 何かを、ちょっとしたことを

「目的語」

僕は大声で彼に伝えた：「気を付けろ！奴はナイフを持っているぞ」だが、レーモンはすでに腕を刺され、唇も切られていた。

Ich rief ihm zu: «Achtung! Er hat ein Messer.» Aber schon hatte Raymond einen Stich im Arm und eine gespaltene Lippe.

「主語」「動詞句」「間接目的語」「動詞句」:

《「注意喚起」,「主語」「動詞」「目的語」》,

Aber 「副詞」「動詞句」「目的語」「副詞句」und「目的語」

Ich イヒ pron 僕は

「主語」

rief ...zu: リーフ...ツ 1 単過(zu | rufen)v.t 大声で伝えた

「動詞句」

ihm イム pron.3 格 彼に

「間接目的語」

«Achtung! アハツング n.f・命令 気を付けろ

「注意喚起」

Er エア pron 奴は

「主語」

hat ハット 3 単現(haben)v.t 持っている

「動詞」

ein Messer. アイン・メッサー n.n.4 格 ナイフを

「目的語」

Aber アーバー conj. しかし

schon ショーン adv. すでに

「副詞」

hatte ハッテ 3 単過(haben)v.t ~があった

「動詞」

Raymond レーモン n.m レーモンは

「主語」

einen Stich シュティツヒ n.m.4 格 刺し傷を

「目的語」

im Arm イム・アルム adv. 腕に

「副詞句」

und ウント conj. そして

ERSTER TEIL 第1部

eine gespaltene アイネ・ゲシュパ^ルテネ 過去分詞・受動(spalten).

adj.f.4 格 切り裂かれた

「形容詞句」

Lippe. リッペ^ス n.f.4 格 唇

「目的語」

マソンは飛び出して行った。しかし別のアラブ人はまた立ち上がっていて、ナイフを持った男の後ろに隠れた。

Masson sprang vor. Aber der andere Araber war wieder hochgekommen und stellte sich hinter den Mann mit dem Messer.

「主語」「動詞句」 | 「主語」「動詞句」「副詞」「動詞句」

und 「動詞句」「副詞句」

Masson マソン n.m マソンは

「主語」

sprang vor. シュプ^ランク^ス ...フォア 3 単過(vor | springen)v.i 前へ飛び出した

「動詞句」

Aber アーバー conj. しかし

der andere Araber デア・アンデレ・アーラーバー n.m 別のアラブ人は

「主語」

war ...hochgekommen ウ^アール...ホ^ホ・ゲ^ス・コメン 3 単過・完了形(hoch | kommen)

v.i 立ち上がっていた

「動詞句」

wieder ウ^イター adv. また、再び

「副詞」

und ウント conj. そして

stellte sich シュテルテ^ス・ズ^イツヒ 3 単過(sich-4 syellen)v.pr 身を置いた、隠れた

「動詞句」

hinter den Mann ヒンター・テン・マン adv. (位置) 男の後ろに

「副詞句」

mit dem Messer. ミット・デーム・メッサー adj. (随伴状況) ナイフを持った 「形容詞句」

僕達は動くことが出来なかった。彼らは僕達から目を離さずゆっくりと後ずさった。それから、ナイフで僕たちを威嚇した。

Wir wagten uns nicht zu rühren. Sie wichen langsam zurück, ohne uns aus den Augen zu lassen, und hielten uns mit dem Messer in Schach.

「主語」「動詞句」 | 「主語」「動詞句」「副詞」「動詞句」「副詞節」,

und 「動詞」「目的語」「補語」

Wir ウ^イア pron.pl 僕たちは

「主語」

wagten uns nicht バ^ーゲンウンス・ニヒト 1 複過・否定(sich-4 wagen+zu 不定詞)

v.pr ~する勇気がなかった、敢えて~できなかった

「動詞句」

zu rühren. ツ^ー・ルーレン zu 不定詞 v.i 動く

「動詞句」

Sie ジ^ー pron.pl 彼らは

「主語」

wichen ...zurück, ウ^イシエン ...ツリェック 3 複過(zurück | weichen)v.i 後ずさった

「動詞句」

langsam ランク^サーム adv. ゆっくり

「副詞」

ohne オ^ーネ conj.(+不定詞) ~しないで

「副詞節」

ERSTER TEIL 第1部

uns ウス pron.pl.4 格 我々を	「目的語」
aus den Augen アウス・デン・アウゲン adv. 視界の外に	「副詞句」
zu lassen, ツー・ラッセン 不定詞・放任 v.t させる	「動詞句」
und ウント conj. そして	
hielten ヒールテン 3 複過(halten)v.t 保っていた	「動詞」
uns ウス pron.pl.4 格 僕たちを	「目的語」
mit dem Messer ミット・デーム・メッサー adv. (手段) ナイフで	「副詞句」
in Schach. イン・シャッハ adv. 王手の状態に	「補語」
j-4 in Schach halten 「人-4 を制圧する」	

彼らは僕達との間に十分な距離が出来ると、土埃を上げて逃げ去った。一方で、僕達はまるで釘付けされたように太陽の下に立っていた。レーモンは自分の腕を押さえていたが、腕から血が滴っていた。

Als sie zwischen sich und uns genug Raum gebracht hatten, machten sie sich aus dem Staub, während wir wie angewurzelt in der Sonne standen und Raymond sich den Arm hielt, aus dem das Blut tropfte.

	「副詞節」, 「動詞句」 「主語」 「動詞句」 「副詞節」 und
	「主語」 「動詞句」 「目的語」 「動詞句」, 「副詞句」 「主語」 「動詞」
Als アルス conj. ～した時	「副詞節」
sie ジー pron.pl 彼らは	「主語」
zwischen ツウ・イェン prep (空間的) ～の間に	「副詞句」
sich スィット pron 彼ら	「目的語」
und ウント conj. そして	
uns ウス pron 我々	「目的語」
genug Raum ゲヌーク・ラウム n.m 十分な空間、距離	「目的語」
gebracht hatten, ゲブラハト・ハッテン 3 複過・完了形(bringen)	
v.t 手に入れた、取った	「動詞句」
machten ...sich aus dem Staub, マハテン...スィット・アウス・デーム・アユタウプ 3 複過	
(sich-4 machen aus dem Staub)v.pr 埃に紛れて逃げ出した	「動詞句」
sie ジー pron.pl 彼らは	「主語」
während ヴェーレント prep (対比を示して) その一方で	「副詞節」
wir ウィー pron.pl 僕たちは	「主語」
wie angewurzelt ウィー・アンゲウルツェルト adv. まるで釘付けされたように	「副詞句」
in der Sonne イン・デア・ゾネ adv. 太陽の下に	「副詞句」
standen シュタンデン 1 複過(stehen)v.i 立っていた	「動詞」
und ウント conj. そして	

ERSTER TEIL 第1部

Raymond レーモン n.m	レーモンは	「主語」
sich ...hielt, スィット...ヒルト 3 単過(sich-4 halten)v.pr	自分の体を支えていた	「動詞句」
den Arm デン・アルム n.m.4 格	腕を	「目的語」
aus dem アウス・デーム adv.	腕から	「副詞句」
das Blut ダス・ブルト n.n	血が	「主語」
tropfte. トロップ・フテ 3 単過(tropften)v.i	滴っていた	「動詞」

マソンがすぐに言った。日曜日にやって来て高台で過ごす医者を知っているというのだ。

Masson sagte gleich, er kenne einen Arzt, der seine Sonntage auf dem Plateau verbringe.

	「主語」「動詞」「副詞」, 「主語」「動詞」「目的語」
Masson マツン n.m マソンが	「主語」
sagte サークテ 3 単過(sagen)v.t 言った	「動詞」
gleich, グライヒ adv. すぐに	「副詞」
er エア pron 彼は	「主語」
kenne ケネ 接・3 単現(kennen)v.t 知っている	「動詞」
einen Arzt, アイネン・アルツト n.m.4 格 ある医者を	「目的語」
der seine Sonntage デア・ザイネ・ゾンターゲ pl(Sonntag).n.m.4 格 日曜日を	「副詞句」
auf dem Plateau アウフ・デーム・プラトー adv. 高台で	「副詞句」
verbringe. フェアブリング 接・3 単現(verbringen)v.i 過ごす	「動詞」

レーモンはすぐに医者の方へ行きたがった。彼が喋る度に、口の中の血が泡になった。

Raymond wollte sofort zu ihm. Wenn er sprach, bildete das Blut in seinem Mund Blasen.

	「主語」「動詞」「副詞句」 「副詞節」, 「動詞」「主語」「目的語」
Raymond レーモン n.m レーモンは	「主語」
wollte ヲルテ 3 単過(wollen)v.t (+不定詞) 望んだ	「動詞」
sofort ソフォート adv. すぐに	「副詞」
zu ihm. ツー・イム adv. 医者の方に	「副詞句」
Wenn ウェン conj. (反復) ~するたびに	「副詞節」
er エア pron 彼が	「主語」
sprach, シュプラーフ 3 単過・時制の一致(sprechen)v.i 話す、喋る	「動詞」
bildete ビルデテ 3 単過(bilden)v.t 作った	「動詞」
das Blut ダス・ブルト n.n 血が	「主語」
in seinem Mund イン・ザイネム・ムント adv. 口の中で	「副詞句」
Blasen. ブラセン pl(Blase).n.f.4 格 泡を	「目的語」

ERSTER TEIL 第1部

僕達は彼の体を支えて、出来るだけ早く別荘へ戻った。

Wir stützten ihn und kehrten so schnell wie möglich in das Holzhaus zurück.

「主語」「動詞」「目的語」 und 「動詞」「副詞句」

Wir ヲーア pron.pl 僕たちは

「主語」

stützten シュトツテン 1 複過(stützen)v.t 支えた

「動詞」

ihn イン pron.4 格 彼を

「目的語」

und ウント conj. そして

kehrten ケアテン 1 複過(kehren)v.i 戻った

「動詞」

so schnell ザー・シュネル adv. すぐに

「副詞句」

wie möglich ヲー・メクリヒ adv. 出来るだけ

「副詞句」

in das Holzhaus イン・ダス・ホルツハウス adv. 別荘へ

「副詞句」

zurück. ツュック adv. 戻って、元の場所へ

「副詞」

そこでレーモンは、傷は大したことが無いから、自分一人で医者の方へ行けると言った。

Dort meinte Raymond, seine Wunden seien nicht so schlimm, er könne zum Arzt gehen.

「副詞」「動詞」「主語」「目的語」

Dort ドアト adv. そこで

「副詞」

meinte マインテ 3 単過(meinen)v.t 言った、思った

「動詞」

Raymond, レモン n.m レーモンは

「主語」

n. ～ということを

「目的語」

seine Wunden サイネ・ワンテン pl(Wunde).n.f 彼の傷は

「主語」

seien サイエン 接・3 単現・推量(sein)v.i ～である

「動詞」

nicht so schlimm, ニヒト・ゾー・シュリム adj. あまり酷くない

「補語」

er エア pron 彼は

「主語」

können ...gehen. ケンネ...ゲーエン 接・3 単現・可能(können+不定詞 gehen)

v.i 行ける

「動詞句」

zum Arzt ツーム・アルツト adv. 医者の方へ

「間接目的語」

彼はマソンと一緒に出かけに行った。僕は残って、何が起こったのかを女たちに話して聞かせた。

Er machte sich mit Masson auf den Weg, und ich blieb zurück und erzählte den Frauen, was passiert war.

「主語」「動詞句」「副詞句」「動詞句」,

und 「主語」「動詞句」 und 「動詞」「間接目的語」「直接目的語」

Er エア pron 彼は

「主語」

machte sich ...auf den Weg, マハテ・スィッヒ...アフ・テン・ワエーク 3 単過 v.pr 出発した

「動詞句」

ERSTER TEIL 第1部

sich-4 auf den Weg machen	「出発する」
mit Masson ミット・マソン adv. マソンと	「副詞句」
und ウント conj. そして	
ich イヒ pron 僕は	「主語」
blieb zurück ブリーフ° ...ツェック 1 単過(zurück bleiben)v.i 残った	「動詞句」
und ウント conj. そして	
erzählte エアツェールテ 1 単過(erzählen)v.t 語って聞かせた	「動詞」
den Frauen, デン・フラウエン pron.f.pl 女たちに	「間接目的語」
was ヲアス pron (主語) ~する事を	「直接目的語」
passiert パシーアト 過去分詞(passieren)adj. 起きている	「補語」
war. ヲアール 3 単過(sein)v.i ~だった	「動詞」

マソンの奥さんは泣き、マリーは真っ青になった。

Frau Masson weinte, und Maria war sehr blaß.

	「主語」「動詞」,ind「主語」「動詞」「補語」
Frau Masson フ라우・マソン n.f マソンの妻は	「主語」
weinte, ヲアインテ 3 単過(weinen)v.i 泣いた	「動詞」
und ウント conj. そして	
Maria マリア nn.f マリーは	「主語」
war ヲアール 3 複過・変化(sein)v.i ~になった	「動詞」
sehr blaß. ゼーア・プラス adj. 真っ青な	「補語」

僕は説明することに退屈し、しまいに黙り込んで、煙草に火をつけて海を眺めた。

Die Erklärungen langweilten mich, Schließlich sagte ich nichts mehr, steckte mir eine Zigarette an und sah aufs Meer hinaus.

	「主語」「動詞」「目的語」, 「副詞」「動詞」「主語」「目的語」, 「動詞句」「目的語」「動詞句」 und 「動詞」「副詞句」
Die Erklärungen テーイー・エアクレールンゲン pl(Erklärung)n.f 説明は	「主語」
langweilten ランク・ウァイルテン 3 複過(langweilen)v.t 退屈させた	「動詞」
mich, ミヒ pron.4 格 僕を	「目的語」
Schließlich シュリースリッヒ adv. 最後に、しまいに	「副詞」
sagte サークテ 3 単過(sagen)v.t 言った	「動詞」
ich イヒ pron 僕は	「主語」
nichts mehr, ニヒツ・メア pron もう何も~ない	「目的語」
steckte ...an シュテックテ...アン 1 単過(an stecken)v.t 火をつけた	「動詞句」
mir eine Zigarette ミーア・アイネ・ツィガレッテ n.f.4 格 自分のタバコに	「目的語」

ERSTER TEIL 第1部

und ウント conj. そして

sah ザー 1 単過(sehen)v.i 眺めた

「動詞」

aufs Meer hinaus. アウス・メー・ヒナウス adv. (方向) 海の方を

「副詞句」

1 時半頃にレーモンとマソンが返って来た。レーモンは腕に包帯を巻き、口元には絆創膏を貼っていた。

Gegen halb zwei kamen Raymond und Masson zurück Raymond hatte den Arm verbunden und ein Pflaster im Mundwinkel.

「副詞句」「動詞句」「主語」「動詞句」,

「主語」「動詞句」「目的語」「動詞句」 und 「目的語」「副詞句」

Gegen halb zwei ゲーゲン・halb・ツヴァイ adv. 1 時半頃に

「副詞句」

gegen ゲーゲン prep (時間) 〜時頃に halb zwei halb・ツヴァイ adv. 1 時半、2 時まで 30 分

kamen ...zurück カメン...ツュック 3 複過(kommen)v.i 帰って来た、戻って来た 「動詞句」

Raymond und Masson レーモン・ウント・マソン pl.n.m レーモンとマソンが

「主語」

Raymond レーモン n.m レーモンは

「主語」

hatte ...verbunden ハッテ...フェアブンデン 3 単過・完了形(verbinden)

v.t(et-4 に) 包帯をしていた

「動詞句」

den Arm デン・アルム n.m 4 格 腕に

「目的語」

und ウント conj. そして

ein Pflaster アイン・プ フラスター n.n. 4 格 絆創膏を

「目的語」

im Mundwinkel. イム・ムントウ・インケル adv. 口元に

「副詞句」

医者は大した傷ではないと言っていたが、レーモンは非常に暗い表情だった。

Der Arzt hatte gesagt, es sei nicht weiter gefährlich, aber Raymond machte einen sehr düsteren Eindruck.

「主語」「動詞句」「目的語」, aber 「主語」「動詞」「目的語」

Der Arzt デア・アールツト n.m 医者

「主語」

hatte gesagt, ハッテ・ゲザークト 3 単過・完了形(sagen)v.t 言っていた

「動詞句」

n. 〜ということを

「目的語」

es エス pron それは

「主語」

sei ザイ 接・3 単現・推量(sein)v.i 〜だろう

「動詞」

nicht weiter gefährlich, ニヒト・ウァイター・ゲフェアリヒ

adj. あまり大げさで〜ない

「補語」

aber アーバー conj. しかし

Raymond レーモン n.m レーモンは

「主語」

machte マハテ 3 単過(machen)v.t (動作を) した

「動詞」

ERSTER TEIL 第1部

einen sehr düsteren Eindruck. アイン・セーア・デューステン・アイント・ルック

n.m.4 格 非常に暗い表情を

「目的語」

マソンは彼の気持ちを切り替えさせようとした。しかし彼は一言も話さなかった。その後、
 彼が浜に行きたいと言った時、僕は彼にどこに行くのかと尋ねた。

Masson versuchte, ihn aufzuheitern. Aber er sprach kein Wort. Als er dann sagte, er
 wolle an den Strand, fragte ich ihn, wohin.

「主語」「動詞句」 | Aber 「主語」「動詞」「目的語」

「副詞節」, 「動詞」「主語」「間接目的語」「副詞」

Masson マソン n.m マソンは

「主語」

versuchte, フェアズテ 3 単過(versuchen)v.t(zu 不定詞と) ~しようとした

「動詞句」

ihn aufzuheitern. イン・アフ・ツェ・ハイテン zu 不定句 v.t 彼を晴れやかにする 「動詞句」

Aber アーバー conj. しかし

er エア pron レーモンは

「主語」

sprach シュプラーハ 3 単過(sprechen)v.t 話した

「動詞」

kein Wort. カイン・ヴァート n.n.4 格 一言も~ない

「目的語」

Als アルス conj. (時) ~した時

「副詞節」

er エア pron 彼が

「主語」

dann ダン adv. その後、それから

「副詞」

sagte, サークテ 3 単過(sagen)v.t 言った

「動詞」

n. ~という事を

「目的語」

er エア pron 彼は 「主語」

wolle ヴォレ 接・3 単現・願望(wollen+不定詞・省略)v.i ~したい

「動詞」

an den Strand, アン・テン・シュトラント adv. 浜に (行く)

「間接目的語」

fragte フラクテ 1 単過(fragen)v.t 尋ねた

「動詞」

ich イヒ pron 僕は

「主語」

ihn, イン pron.4 格 彼に

「間接目的語」

wohin. ヴォヒン adv. どこへ

「副詞」

マソンはちょっと空気を吸いたいと答えた。マソンと僕は彼と一緒にいきたいと言った。

Er antwortete, er wolle ein wenig Luft schöpfen. Masson und ich sagten, wir wollten ihn
 begleiten.

「主語」「動詞」「目的語」 | 「主語」「動詞」「目的語」

Er エア pron 彼は

「主語」

antwortete, アントヴァーテ 3 単過(antworten)v.t 答えた

「動詞」

n. ~ということ

「目的語」

er エア pron 彼は

「主語」

ERSTER TEIL 第1部

wolle ...schöpfen. ウォレ... シェッフ フェン 接・3 単現・願望(wollen+不定詞 schöpfen)	
v.i 吸いたい	「動詞句」
ein wenig Luft アイン・ウエニッヒ・ルフト n.f 少しの空気を	「目的語」
Masson und ich マソン・ウント・イヒ pl.n.m マソンと僕は	「主語」
sagten, サークテン 1 複過(sagen)v.t 言った	「動詞」
n. ～ということを	「目的語」
wir ウーア pron.pl 僕たちは	「主語」
wollten ...begleiten. ウォルテン...ベグライテン 接・1 複現・願望(wollen+不定詞 begleiten)	
v.t 同行したい	「動詞句」
ihn イン pron.4 格 彼に	「目的語」

すると彼は怒り狂って僕達を罵倒した。マソンは彼を刺激するなどと言った。それでも僕は彼の後について行った。

Da wurde er wütend und beschimpfte uns. Masson meinte, man solle ihn nicht reizen. Aber ich ging trotzdem hinter ihm her.

	「副詞」「動詞」「主語」「補語」 und 「動詞」「目的語」
	「主語」「動詞」「目的語」 Aber 「主語」「動詞句」「副詞句」
Da ダー adv. すると	「副詞」
wurde ウルデ 3 単過・変化(werden)v.i ～になった	「動詞」
er エア pron 彼は	「主語」
wütend ウェーテント adj. 怒り狂った	「補語」
und ウント conj. そして	
beschimpfte ベシンプ フテ 3 単過(beschimpfen)v.t 罵った	「動詞」
uns. ウンス pron.pl 僕たちを	「目的語」
Masson マソン n.m マソンは	「主語」
meinte, マイnte 3 単過(meinen)v.t 言った	「動詞」
n. ～ということを	「目的語」
man マン pron 人は	「主語」
solle ...nicht reizen. ソル...ニヒト・ライゼン 接・3 単現・義務・否定(sollen+不定詞 reizen)	
v.t 刺激してはならない	「動詞句」
ihn イン pron.4 格 彼を	「目的語」
Aber アーバー conj. しかし	
ich イヒ pron 僕は	「主語」
ging ...her. キング...ヘア 1 単過(her gehen)v.i ついていった	「動詞句」
trotzdem トロツデーム adv. それでも	「副詞」
hinter ihm ヒンター・イム adv. 彼の後ろを	「副詞句」

ERSTER TEIL 第1部

僕達は砂浜に沿ってずっと歩いた。今や太陽は重苦しい暑さになっていた。

Wir gingen lange den Strand entlang. Die Sonne war jetzt drückend heiß.

「主語」「動詞」「副詞句」 | 「主語」「動詞」「補語」

Wir ヲーア pron.pl 僕たちは

「主語」

gingen キンゲン 1 複過(gehen)v.i 歩いた

「動詞」

lange ランゲ adv. ながく

「副詞」

den Strand デン・シュトラント n.m.4 格 砂浜を

「目的語」

entlang. エントラング prep (4 格と ; ふつう後置) ~に沿って

「副詞句」

Die Sonne デー・ゾネ n.f 太陽は

「主語」

war ヲーアル 3 単過(sein)v.i ~ だった

「動詞」

jetzt イェツト adv. 今や

「副詞」

drückend ドリュェクント adv. 圧迫するほど、重苦しい

「副詞」

heiß. ハイス adj. 熱い

「補語」

日差しは砂や海に降り注ぐと砕け散った。僕はレーモンは何処に行くのか分かっているという印象を持っていたが、それは明らかに間違いだった。

Sie brach sich auf dem Sand und auf dem Meer. Ich hatte den Eindruck. Raymond wisse genau, wohin er ging, aber das war zweifellos falsch.

「主語」「動詞句」「副詞句」 | 「主語」「動詞」「目的語」, aber 「主語」「動詞」「補語」

Sie ジー pron.f (Sonne の代用) 太陽は

「主語」

brach sich ブラーフ・スィッヒ 3 単過(sich-4 brechen)

v.pr(an et-3 何-3 に当たって) 砕けた

「動詞句」

auf dem Sand アウフ・デーム・ザント adv. 砂の上で

「副詞句」

und ウント conj. そして

auf dem Meer. アウフ・デーム・メーア adv. 海の上で

「副詞句」

Ich イヒ pron 僕は

「主語」

hatte ハッテ 1 単過(haben)v.t 持った

「動詞」

den Eindruck, デン・アインツルック n.m.4 格 印象を

「目的語」

Raymond レーモン n.m レーモンは

「主語」

wisse ヲーイツェ 接・3 単現・推量(wissen)v.t 知っている

「動詞」

genau, 正確に

「副詞」

wohin ヲーヒン adv. どこへ〜するかということを

「目的語」

er エア pron 彼は

「主語」

ging, キング 3 単過・時制の一致(gehen)v.i 行く

「動詞」

aber アーバー conj. しかし

ERSTER TEIL 第1部

das ダス pron	それは	「主語」
war ヲール 3 単過(sein)v.i	～ だった	「動詞」
zweifellos ツァイフェロス adv.	明らかに	「副詞」
falsch. ファルシュ adj.	間違った、誤りの	「補語」

浜辺の端で、僕達は結局、大きな岩の陰から湧き上がって海に注いでいる小さな泉にたどり着いた。ここで、僕達は 2 人のアラブ人に出くわした。彼らは脂ぎった作業服を着て砂浜に寝転がっていた。

Am Ende des Strandes erreichten wir schließlich eine kleine Quelle, die hinter einem Felsblock ins Meer floß. Hier stießen wir auf unsere beiden Araber. Sie lagen in ihren öligen Arbeiteranzügen im Sand.

「副詞句」「動詞」「主語」「副詞」「目的語」

「副詞」「動詞」「主語」「間接目的語」 | 「主語」「動詞」「副詞句」

Am Ende アム・エンデ adv.	(空間的) 終わりで、端で	「副詞句」
des Strandes デス・シュトランデス n.m.2 格	浜の	「形容詞句」
erreichten エアライテン 1 複過(erreichen)v.t(et-4 に)	到着した	「動詞」
wir ヲィア pron.pl	僕たちは	「主語」
schließlich シュリースリヒ adv.	結局は、やっと	「副詞」
eine kleine Quelle, アイン・クライネ・クヴェ n.f.4 格	小さな泉に	「目的語」
die ディー pron	(主語) ～する	「形容詞節」
hinter ヒンター prep	(位置) ～の後ろに、～の陰に	「副詞句」
einem Felsblock アインム・フェルスブ ロック		
n.m.3 格	岩塊、大きな岩	「目的語」
ins Meer インス・メア adv.	海に	「副詞句」
floß. フロス 3 単過・時制の一致(fließen)v.i	流れている	「動詞」
Hier ヒア adv.	ここで	「副詞」
stießen シュティイゼン 1 複過(stoßen)v.i	出会った	「動詞」
wir ヲィア pron.pl	僕たちは	「主語」
auf unsere beiden Araber. アウフ・ウンゼレ・ベ イデン・アラバー adv.	2 人のアラブ人に	「間接目的語」
Sie ジー pron.pl	彼らは	「主語」
lagen ラーゲン 3 複過(liegen)v.i	横たわっていた、寝ころんでいた	「動詞」
in ihren öligen Arbeiteranzügen イン・イーレン・オーリヘン・アールハ イテン・アンツーゲン		
adv.	脂ぎった作業服を着て	「副詞句」
im Sand. イム・ザント adv.	砂浜に	「副詞句」

ERSTER TEIL 第1部

彼らはまったく落ち着き払って、ほとんど満ち足りた様子に見えた。

Sie machten einen ganz ruhigen, fast zufriedenen Eindruck.

「主語」「動詞」「目的語」

Sie ジー pron.pl 彼らは

「主語」

machten マヘン 3 複過(machen)v.t (動作を) していた

「動詞」

einen ganz ruhigen, アイン・ガンツ・ルーイゲン

adj(ruhig).m.4 格 まったく落ち着いた

「形容詞句」

fast ファスト adv. ほとんど

「副詞」

zufriedenen ツフリーデネン adj(zufrieden).m.4 格 満ち足りた、満足した

「形容詞」

Eindruck. アイントルック n.m.4 格 印象、様子

「目的語」

僕らが現れても、彼らの様子は何も変わらなかった。レーモンを刺したほうの男は、無言で彼を見つめていた。

Unser Kommen änderte nichts daran. Der, der Raymond mit dem Messer gestochen hatte, sah ihn wortlos an.

「主語」「動詞」「目的語」「副詞」 | 「主語」「動詞句」「目的語」「副詞」

Unser Kommen ウンザー・コメン n.n 我々の登場は

「主語」

änderte エンデアテ 3 単過(ändern)v.t 変えなかった

「動詞」

nichts ニッツ pron 何も～ない

「目的語」

daran. ダラン adv. それによって、そのことで

「副詞」

Der, デア pron その男は

「主語」

der デア pron (主語) ～する

「形容詞節」

Raymond レーモン n.m.4 格 レーモンを

「目的語」

mit dem Messer ミット・デーム・メッサー adv. (道具) ナイフで

「副詞句」

gestochen hatte, ゲシュトヘン・ハッテ 3 単過・完了形(stechen)

v.t 刺した

「動詞句」

sah ...an. サー...アン 3 単過(an|sehen)v.t 見つめていた

「動詞句」

ihn イン pron.4 格 彼を

「目的語」

wortlos ヴォアトローズ adv. 無言で

「副詞」

ERSTER TEIL 第1部

もう一方の男は小さな葦笛を吹いていた。そして僕らを横目で窺いながら、その笛で出せる3つの音を絶え間なく繰り返していた。

Der andere blies auf einer kleinen Rohrflöte und wiederholte, uns von der Seite beobachtend, fortwährend die drei Töne, die er aus seinem Instrument herausbekam.

「主語」「動詞」「間接目的語」 und 「動詞」「副詞句」, 「副詞」「目的語」
 Der andere デア・アンデレ pron.m もう一方の男は 「主語」
 blies ブリス 3 単過(blasen)v.i(auf を) 吹いていた 「動詞」
 auf einer kleinen Rohrflöte アフ・アイナー・クライネー・ローア・フレーテ adv. 小さな葦笛を 「間接目的語」
 und ウント conj. そして
 wiederholte, ヴィーダーホルテ 3 単過(wiederholen)v.v.t 繰り返していた 「動詞」
 現在分詞句・同時 「副詞句」
 uns ウンス pron.pl 僕達を 「目的語」
 von der Seite フォン・デア・ザイテ adv. 脇から 「副詞句」
 beobachtend, ベオバハtent 現在分詞・同時(beobachten)v.t 見ながら 「動詞」
 fortwährend フォルトヴ ェーレント adv. 休みなく、絶え間なく 「副詞」
 die drei Töne, ディーフォライ・テーネ pl(Ton).n.m.4 格 3つの音を 「目的語」
 die ディー pron.pl (目的語) ~する 「形容詞節」
 er エア pron 彼が 「主語」
 aus seinem Instrument アウス・ザイネム・インストルメント adv. その笛で 「副詞句」
 herausbekam. ヘラウスベカム 3 単過・時制の一致(heraus|bekommen)
 v.t 取り出す 「動詞」

この間じゅう、そこにはただ太陽と静寂が居座り、それに加えて、泉の騒めきと葦笛の3つの音色が聞こえていた。

Während dieser ganzen Zeit waren nur die Sonne da und dieses Schweigen, dazu das Murmeln der Quelle und die drei Flötentöne.

「副詞句」「動詞」「主語」「副詞」 und 「主語」, 「副詞」「主語」 und 「主語」
 Während ヴ ェーレント prep (2 格と) ~の間に 「副詞句」
 dieser ganzen Zeit ディーザー・ガンツェン・ツァイト n.f.2 格 この間中 「目的語」
 waren ヴ ェーレン 3 複過・存在(sein)v.i ~があった 「動詞」
 nur die Sonne ノーア・ディー・ゾネ n.f ただ太陽が 「主語」
 da ダー adv. そこに 「副詞」
 und ウント conj. そして
 dieses Schweigen, ディーゼス・シュヴァイゲン n.f 静寂が 「主語」
 dazu ダツァー adv. (付加) それに加えて 「副詞」
 das Murmeln ダス・ムルメルン n.n ざわめきが 「主語」

ERSTER TEIL 第1部

der Quelle デア・クワ^エ n.f.2 格 泉の

「形容詞句」

und ウント conj. そして

die drei Flötentöne. ディー・ドライ・フレーテントネ^ス pl(Flötenton).n.m 葦笛の3つの音色が「主語」

そこでレーモンは尻ポケットに手を伸ばした。しかし相手の男は身動きせず、彼らはそのまま睨み合った。僕は、葦笛を吹く男の足の指と指の間隔がやけに広いことに気付いた。

Da griff Raymond nach der Revolvertasche, aber der andere rührte sich nicht, sie sahen einander nur immer an. Ich bemerkte, daß der Flötenbläser weit auseinanderstehende Zehen hatte.

「副詞」「動詞」「主語」「副詞句」, aber 「主語」「動詞句」,

「主語」「動詞句」「目的語」「副詞句」「動詞句」 | 「主語」「動詞」「目的語」

Da ダー adv. そこで

「副詞」

griff グリフ 3 単過(greifen)v.i (方向を示す語句と) ~へ手を伸ばした

「動詞」

Raymond レーモン n.m レーモンは

「主語」

nach der Revolvertasche, ナーハ・デア・レウ^{オルグ}・エル・タッシェ

adv. (方向) ホルスターの方へ → 尻ポケットに

「副詞句」

aber アーバー conj. しかし

der andere デア・アンデレ pron もう一方の男は

「主語」

rührte sich nicht, ルーテ・スィッヒ・ニヒト 3 単過・否定(sich-4 rühren)

v.pr 身動きしなかった

「動詞句」

sie ジー pron.pl 彼らは

「主語」

sahen ...an. サーエン...アン 3 複過(an | sehen)v.t 見つめた

「動詞句」

einander アインダー pron 互いに

「目的語」

nur immer ノア・イマー adv. そのまま

「副詞句」

Ich イヒ pron 僕は

「主語」

bemerkte, ベマクテ 1 単過(bemerken)v.t 気が付いた

「動詞」

daß ダス conj. ~ということ

「目的語」

der Flötenbläser デア・フローテンブレセル n.m 葦笛を吹く男が

「主語」

weit ヴァイト adv. 広く

「副詞」

auseinanderstehende アウスアインダー・シュテーエンテ

adj(auseinander+stehend).pl.n.4 格 離れた位置にある 「形容詞句」

auseinander アウスアインダー adv. 離れた stehend シュテーエント adj. ~の位置にある

Zehen ツェーエン pl(Zeh).n.m.4 格 足指を

「目的語」

hatte. ハッテ 3 単過(haben)v.t (特徴) をしている

「動詞」

フランス語の原文では :

それからレーモンは尻ポケットに手をやった。だが相手は身動きせず、二人はそのまま睨

ERSTER TEIL 第1部

みあった。

Puis Raymond a porté la main à **sa poche revolver**, mais l' autre n' a pas bougé et ils se regardaient toujours.

「尻ポケットに」はドイツ語では「nach der Gesäßtasche」が適当だと思う。

自分の相手から目を離さずに、レーモンが僕に尋ねた：「俺が奴を撃ってしまおうか？」

Ohne seinen Gegner aus dem Auge zu lassen, fragte Raymond mich: «Soll ich ihn abknallen?»

「副詞句」、「動詞」「主語」「間接目的語」：「動詞句」「主語」「目的語」

Ohne オネ prep (4格と) ～なしに 「副詞句」

seinen Gegner サイネン・ゲーグナー n.m.4格 彼の相手、敵 「目的語」

aus dem Auge アウス・デーム・アウゲ adv. 目から 「副詞句」

zu lassen, ツー・ラッセン zu 不定詞 v.t 離す 「動詞句」

fragte フラкте 3単過(fragen)v.t(j-4に) 尋ねた 「動詞」

Raymond レーモン n.m レーモンが 「主語」

mich: ミヒ pron.4格 僕に 「間接目的語」

«Soll ...abknallen?» ソル ...アップ・クナレン 1単現・意向確認・疑問文(sollen+不定詞 ab|knallen)

v.t (銃を) ぶっぱなしたほうがいいか? 「動詞句」

ich イヒ pron 俺が 「主語」

ihn イン pron.4格 奴を 「目的語」

僕は、もし彼にやめろと言え、彼は興奮してきつと撃つだろうと考えた。

Ich dachte, wenn ich ihm abriete, würde er sich selber aufreizen und bestimmt schießen.

「主語」「動詞」, 「副詞節」, 「動詞句」「主語」「動詞句」 und 「副詞」「動詞句」

Ich イヒ pron 僕は 「主語」

dachte, ダハテ 1単過(denken)v.t 考えた 「動詞」

wenn ウェン conj. (仮定) もし～ならば 「副詞節」

ich イヒ pron 僕が 「主語」

ihm イム pron.3格 彼に 「間接目的語」

abriete, アッブ・リーテ 接 II・1単現(ab|raten)

v.i 忠告して思いとどまらせたら 「動詞」

würde ...sich selber aufreizen ウェルテ ...スイヒッ・セルバー・アフフライツェン 接 II・3単現・推量

(werden+不定詞 sich-4 aufreizen+ selber)v.pr 興奮するだろう 「動詞句」

er エア pron 彼は 「主語」

und ウント conj. そして

bestimmt ベストムト adv. きつと 「副詞」

ERSTER TEIL 第1部

schießen. シェン 接 II・3 単現・推量

(werden+不定詞 schießen)v.i 撃つだろう

「動詞句」

それで僕は、「相手はまだ何も言っていない。そんなに簡単に彼を撃てば、卑怯者と言われるだろう」とだけ言った。

So sagte ich nur: «Er hat noch kein Wort gesprochen. Es wäre gemein, ihn so einfach über den Haufen zu schießen.»

So 「動詞」「主語」「副詞」:

《「主語」「動詞句」「副詞」「目的語」「動詞句」 | 「動詞」「補語」「主語」》

So ゴー conj. それで、それだから

sagte サークテ 3 単過(sagen)v.t 言った

「動詞」

ich イヒ pron 僕は

「主語」

nur: ヌーア adv. ただ〜だけ

「副詞」

«Er エア pron 奴は、相手は

「主語」

hat ...gesprochen. ハット...ゲシュプ ロヘン 3 単現・完了形(sprechen)v.t 言った、話した 「動詞句」

noch ノッホ adv. まだ

「副詞」

kein Wort カイン・ウァルト n.n.4 格 一言も〜ない

「目的語」

Es エス pron 仮の主語 (真の主語は ihn 以降)

wäre ヴェレ 接 II・3 単現・推量(sein)v.i 〜になるだろう

「動詞」

gemein, ゲマイン adj. 卑怯な

「補語」

ihn イン zu 不定句 n. 彼を〜することは

「主語」

so einfach ゴー・アインファッハ adv. そんなに簡単に

「副詞句」

über den Haufen zu schießen.» ユーバー・デ・ン・ハウフェン・ツウ・シュリーセン zu 不定詞(schießen)

v.t 撃ち倒す

「動詞句」

j-4 über den Haufen schießen 「人-4 を撃ち倒す」

沈黙と暑さの中で、僕はまたしても水のかすかな騒めきと葦笛の音が聞こえた。

Wieder hörte ich nur das leise Geräusch des Wassers und die Flöte inmitten des Schweigens und der Hitze.

「副詞」「動詞」「主語」「副詞」「目的語」「副詞句」

Wieder ヴィーダー adv. またもや

「副詞」

hörte ヘアテ 1 単過(hören)v.t 聞こえた

「動詞」

ich イヒ pron 僕は

「主語」

nur ヌーア adv. 〜だけ

「副詞」

das leise Geräusch ダス・ライゼ・ゲロイシュ n.n.4 格 かすかな騒めきが

「目的語」

des Wassers デス・ウァッサース n.n.2 格 水の

「形容詞句」

ERSTER TEIL 第1部

und ウント conj. そして	
die Flöte デーイー・フレーテ n.f.4 格 葦笛の音を	「目的語」
inmitten インミテン prep (2 格と) 〜の中で	「副詞句」
des Schweigens デス・シュヴァイゲンス n.n.2 格 沈黙	「目的語」
und ウント conj. そして	
der Hitze. デア・ヒッツェ n.f.2 格 暑さ	「目的語」

するとレーモンが言った：「それじゃあ俺が奴を侮辱してやる。そして奴が何か言ったら、殴り倒してやる」

Dann sagte Raymond: «Ich werde ihn also beleidigen, und wenn er dann antwortet, knalle ich ihn nieder.»

「副詞」「動詞」「主語」:

《「主語」「動詞句」「目的語」「副詞」「動詞句」

und 「副詞節」, 「動詞」「主語」「目的語」「副詞」》

Dann ダン adv. それから	「副詞」
sagte サークテ 3 単過(sagen)v.t 言った	「動詞」
Raymond: レーモン n.m レーモンが	「主語」
«Ich イット pron 俺が	「主語」
werde ... beleidigen, ヴェアデ ...ベライデイゲン 1 単現・意思(werden+不定詞 beleidigen)	
v.t 侮辱してやる	「動詞句」
ihn イン pron.4 格 奴を	「目的語」
also アルゾー adv. それじゃあ	「副詞」
und ウント conj. そして	
wenn ヴェン conj. (仮定) 〜したら	「副詞句」
er エア pron 奴が	「主語」
dann ダン adv. それから	「副詞」
antwortet, アントワテット 3 単現(antworten)v.t 答える、応答する	「動詞」
knalle クレ 1 単現(knallen)v.t 殴る、(銃を) ぶっぱなす	「動詞」
ich イット pron 俺は	「主語」
ihn イン pron.4 格 奴を	「目的語」
nieder.» ニーダー adv. 下へ	「副詞」

ERSTER TEIL 第1部

僕は答えた：「それでよい。だが、相手がナイフを抜かなかったら、撃ってはならない」

Ich antwortete: «Gut. Aber wenn er nicht das Messer zieht, kannst du nicht schießen.»

「主語」「動詞」：《「応答」 | Aber 「副詞節」, 「動詞句」「主語」》

Ich イッヒ pron 僕は

「主語」

antwortete: アントゥェアテ 1 単過(antworten)v.i 答えた

「動詞」

«Gut. グート adv. それが良い、それで良い

「応答」

Aber アーバー conj. しかし

wenn ウェン conj. (条件) もし～ならば

「副詞節」

er エア pron 相手が

「主語」

nicht ...zieht, ニヒト...ツィート 3 単現・否定(ziehen)

v.t 引き抜かない、抜き出さない

「動詞句」

das Messer ダス・メッサー n.n.4 格 ナイフを

「目的語」

kannst ...nicht schießen.» カnst...ニヒト・シーゼン 2 単現・許可・否定(können+不定詞 schießen)

v.t 撃ってはならない

「動詞句」

du ドゥ pron 君は

「主語」

レーモンは少し苛ついてきた。もう一人の相手は、相変わらず葦笛を吹いていた。そして二人ともレーモンの動きを見守っていた。

Raymond kam allmählich in Wut. Der andere blies noch immer auf der Flöte, und beide beobachteten jede Bewegung Raymonds.

「主語」「動詞」「補語」 | 「主語」「動詞」「副詞句」「間接目的語」

und 「主語」「動詞」「目的語」

Raymond レーモン n.m レーモンは

「主語」

kam カム 3 単過・変化(kommen)v.i(in の状態に) なった

「動詞」

allmählich アルメーリッヒ adv. 徐々に

「副詞」

in Wut. イン・グート adv. 怒りに

「補語」

Der andere デア・アンデレ pron もう一人は

「主語」

blies ブリース 3 単過(blasen)v.i(auf を) 吹いていた

「動詞」

noch immer ノッホ・イマー adv. 相変わらず

「副詞句」

auf der Flöte, アウフ・デア・フレーテ adv. 葦笛を

「間接目的語」

und ウント conj. そして

beide バイェ pron 二人は

「主語」

beobachteten ベーオバーハテテン 3 複過(beobachten)v.t 見守っていた

「動詞」

jede Bewegung イェーデ・ベウエグング n.f.4 格 各仕草を

「目的語」

Raymonds. レーモンズ n.m.2 格 adj. レーモンの

「形容詞」

ERSTER TEIL 第1部

「いや、だめだ」と、僕はレーモンに言った。「素手で一对一で殴り合え、それから僕にその拳銃をよこせ」

«Nein», sagte ich zu Raymond. «Schlag dich mit ihm von Mann zu Mann, und gib mir den Revolver.

《「応答」, 「動詞」「主語」「間接目的語」

《「動詞句」「間接目的語」「副詞句」 und 「動詞」「間接目的語」「直接目的語」》

«Nein», ナイン adv. いやちがう、だめだ 「応答」
 sagte サークテ 1 単過(sagen)v.t 言った 「動詞」
 ich イヒ pron 僕は 「主語」
 zu Raymond. ツー・レーモン adv. (相手) レーモンに 「間接目的語」
 «Schlag dich シュラーグ・ディヒ 命・2 単現(sich-4 schlagen)v.pr 殴り合え 「動詞句」
 mit ihm ミット・イム adv. 相手と 「間接目的語」
 von Mann zu Mann, フォン・マン・ツーマン adv. (手段) 素手で一对一で 「副詞句」
 und ウント conj. そして
 gib キーブ 命・2 単現(geben)v.t よこせ 「動詞」
 mir ミーア pron.3 格 僕に 「間接目的語」
 den Revolver. デン・レヴオルヴェール n.m.4 格 リボルバーを、拳銃を 「直接目的語」

「もしもう一人が加勢したり、ナイフを引き抜いたら、僕が撃ち倒す」

Wenn der andere sich einmischt oder das Messer zieht, knalle ich ihn nieder.»

《「副詞節」, 「動詞」「主語」「目的語」「副詞」》

Wenn ウェン conj. (条件) もし～ならば 「副詞節」
 der andere デア・アンデレ pron もう一人が 「主語」
 sich einmischt スィヒ・アイン・ミシュト 3 単現(sich-4 ein | mischen)v.pr 加勢する 「動詞句」
 oder オーダー conj. または
 das Messer ダス・メッサー n.n.4 格 ナイフを 「目的語」
 zieht, ツィート 3 単現(ziehen)v.t 引き抜く 「動詞」
 knalle クナレ 1 単現・意思(knallen)v.t (銃を) 撃つ 「動詞」
 ich イヒ pron 僕が 「主語」
 ihn イン pron そいつを 「目的語」
 nieder. ニーダー adv. 下へ 「副詞」

ERSTER TEIL 第1部

レーモンが僕に拳銃を渡した時、太陽の日差しがそれを煌めかせた。

Als Raymond mir seinen Revolver gab, glitt die Sonne über ihn hin.

「副詞節」, 「動詞句」 「主語」 「副詞句」 「動詞句」

Als アルス conj. ～した時

「副詞節」

Raymond レーモン n.m レーモンが

「主語」

mir ミーア pron.3 格 僕に

「間接目的語」

seinen Revolver ザイネン・レヴオルヴェール n.m.4 格 拳銃を

「直接目的語」

gab, ガーブ 3 単過(geben)v.t 渡した

「動詞」

glitt ...hin. グリット...ヒン 3 単過(gleiten+hin-)v.i ～に向かって滑った

「動詞句」

die Sonne デーイー・ゾネ n.f 日差しが

「主語」

über ihn ユーバー・イン adv. その上を

「副詞句」

僕達はまるで完全に包囲されたかのように、まだ身動き出来なかった。

Wir rührten uns noch immer nicht, als wären wir ganz eingekreist.

「主語」 「動詞句」 「副詞句」 「動詞句」, 「副詞節」

Wir ウェーア pron.pl 僕たちは

「主語」

rührten uns ...nicht, リュアテン・ウンス...ニヒト 1 複過(sich-4 rühren)

v.pr 身動きしなかった

「動詞句」

noch immer ノッホ・イマー adv. まだ、依然として、相変わらず

「副詞句」

als アルス conj. (様態) あかも～であるかのように

「副詞節」

wären ...eingekreist. ヴェレン...アイン・ゲ・クライスト 接 II・1 複現・状態受動

(sein+過去分詞 ein | kreisen)v.t 包囲された

「動詞句」

wir ウェーア pron.pl 我々は

「主語」

ganz ガンツ adv. 完全に、まったく

「副詞」

僕達は視線を落とさずに見つめ合った。ここにあるすべてが、海、砂そして太陽、さらに葦笛と水の2重の静寂の中で動きを止めた。

Wir sahen einander an, ohne den Blick zu senken, und alles hier wurde unbeweglich zwischen Meer, Sand und Sonne: das zwiefache Schweigen von Flöte und Wasser.

「主語」 「動詞句」 「目的語」 「副詞句」, und 「主語」 「動詞」 「補語」

Wir ウェーア pron.pl 僕たちは

「主語」

sahe ...an, セーエン...アン 1 複過(an | sehen)v.t 見つめた

「動詞句」

einander アイナナダー pron お互いに

「目的語」

ohne オーネ prep ～無しに

「副詞句」

den Blick デン・ブリック n.m.4 格 視線を

「目的語」

zu senken, ツー・ゼンケン zu 不定詞 v.t 下げる

「動詞句」

ERSTER TEIL 第1部

und ウント conj. そして

alles hier アレス・ヒーア pron この全ては

「主語」

wurde ヴルデ 3 単過・変化(werden)v.i 〜になった

「動詞」

unbeweglich ウンベヴェークリヒ adj. 動かない

「補語」

zwischen ツヴィシェン prep 〜の間で

「副詞句」

Meer, Sand und Sonne: メーア・ザント・ウント・ゾネ

pl.n 海、砂そして太陽

「目的語」

das zwiefache Schweigen ダス・ツワイファハ・シュヴァイゲン

n.n 2 重の静寂

「目的語」

von Flöte und Wasser. フォン・フレーテ・ウント・ヴァッサー

adv. 葦笛と水の

「副詞句」

その瞬間、僕は思った。これは撃つことになるか、撃たないで済むか五分五分の状況だ。

In diesem Augenblick dachte ich, es sei ganz einerlei, ob man schießt oder nicht.

「副詞句」「動詞」「主語」, 「動詞」「補語」「主語」

In diesem Augenblick イン・デューゼム・アウゲンブリック adv. その瞬間

「副詞句」

dachte ダハテ 1 単過(denken)v.t 思った

「動詞」

ich, イヒ pron 僕は

「主語」

es エス pron 仮の主語 (真の主語は ob 以降)

sei サイ 接・3 単現・変化・推量(sein)v.i 〜になるかもしれない

「動詞」

ganz einerlei, ガンツ・アイナーライ adj. まったくどちらでも良い

「補語」

ob オッフ conj. 〜するかどうかということは

「主語」

man マン pron 誰かが

「主語」

schießt シースト 3 単現(schießen)v.i 撃つ

「動詞」

oder オーダー conj. または

nicht. ニヒト 1 単現・否定(schießen)v.i 撃たない

「動詞句」

しかし、急にアラブ人たちは岩陰に後ずさって行った。

Aber plötzlich krochen die Araber rückwärts hinter den Felsen.

Aber 「動詞」「主語」「副詞句」

Aber アーバー conj. しかし

plötzlich プレツツリヒ adv. 急に、突然

「副詞」

krochen クロッヘン 3 複過(kriechen)v.i 這うように進んだ

「動詞」

die Araber デーイー・アラバー pl(Araber).n.m アラブ人たちは

「主語」

rückwärts リュックワース adv. 後ろへ

「副詞」

hinter ヒンター prep (3 格または 4 格と) 〜の後ろへ

「副詞句」

ERSTER TEIL 第1部

den Felsen. デン・フェルゼン n.m.4 格 岩

「目的語」

レーモンと僕は引き返した。

Raymond und ich kehrten um.

「主語」動詞句」

Raymond und ich レーモン・ウント・イヒ pl.n.m レーモンと僕は

「主語」

kehrten um. ケアテン・ウム 1 複過(um | kehren)v.i 引き返した

「動詞句」

彼はとても気が楽になったようで、帰りのバスのことを話した。

Er schien sehr erleichtert und redete von dem Autobus, mit dem wir später zurückfahren wollten.

「主語」「動詞」「補語」und「動詞」「間接目的語」

Er エア pron 彼は

「主語」

schien シーン 3 単過(scheinen)v.i ~のように見えた

「動詞」

sehr erleichtert セーア・エアライヒタート adj. とても気が楽になった

「補語」

und ウント conj. そして

redete レーデテ 3 単過(reden)v.i(von について) 話した

「動詞」

von dem Autobus, フォン・デーム・アウトバス adv. バスについて

「間接目的語」

mit dem ミット・デーム adv. それで~する

「形容詞節」

wir ウィア pron 僕たちが

「主語」

später シュペーター adv. 後で

「副詞」

zurückfahren wollten. ツェックファーレン・ウァールテン 1 複過・予定(wollen+不定詞 zurückfahren)

v.i 帰ろうと思っている

「動詞句」

僕は別荘まで彼に付き添って行った。それから彼が木の階段をのぼって行く間、僕は最初
の段の前で立ち止まっていた。Ich begleitete ihn bis zum Holzhaus, und während er die Holzterre hinaufging, blieb ich vor der ersten Stufe stehen.

「主語」「動詞」「目的語」「副詞句」,

und「副詞節」,「動詞句」「主語」「副詞句」「動詞句」

Ich イヒ pron 僕は

「主語」

begleitete ベグライテテ 1 単過(begleiten)v.t 付き添った

「動詞」

ihn イン pron.4 格 彼に

「目的語」

bis zum Holzhaus, ビス・ツーム・ホルツハウス adv. (空間的) 別荘まで

「副詞句」

und ウント conj. そして

während ヴェレント conj. ~している間に

「副詞節」

er エア pron 彼が

「主語」

die Holzterre デー・ホルツ・トレッペ n.f 木の階段を

「目的語」

ERSTER TEIL 第1部

hinaufging, ヒナウフ・ギンク 3 単過・時制の一致(hinauf|gehen)v.i のぼる 「動詞句」

blieb ...stehen. ブリーフ ...シュテーエン 1 単過・継続(bleiben+不定詞 stehen)

v.i 立ち止まっていた 「動詞句」

ich イヒ pron 僕は 「主語」

vor der ersten Stufe フォア・デア・エーステン・シュトゥーフェ adv. 一段目の前で 「副詞句」

太陽のせいで頭はガンガン鳴っていた。それに、階段をのぼってまた女たちと話さなければならぬのはうんざりだった。

Der Kopf dröhnte mir von der Sonne, und mir graute vor der Anstrengung, die Treppe hinaufgehen und wieder mit den Frauen reden zu müssen.

「主語」「動詞」「間接目的語」「副詞句」,und「動詞句」「間接目的語」

Der Kopf デア・コフ n.m 頭は 「主語」

dröhnte ドロント 3 単過(dröhnen)v.i 鳴り響いていた 「動詞」

mir ミア pron 僕に 「間接目的語」

von der Sonne, フォン・デア・ゾネ adv. (原因) 太陽のせいで 「副詞句」

und ウント conj. そして

mir graute ミア・グラウテ 1 単過(sich-3 grauen)v.pr(vor を) 恐れていた 「動詞句」

vor der Anstrengung, フォア・デア・アンシュトレンクング adv. 骨折りを 「間接目的語」

n. (同格) ～という 「形容詞句」

die Treppe デー・トレッペ n.f.4 階段を 「目的語」

hinaufgehen ヒナウフゲーエン v.i のぼる 「動詞」

und ウント conj. そして

wieder ウーアーダー adv. また 「副詞」

mit den Frauen ミット・テン・フラウエン adv. 女たちと 「副詞句」

reden zu müssen. レーデン・ツウ・ミュッセン 不定詞・必要

v.i 話さなければならない 「動詞句」

だが暑さは、空から降り注ぐまばゆい雨の中でじっとしている事と同様の苦痛であった。留まろうが立ち去ろうが結局は同じ事だった。

Aber die Hitze war derart, daß es ebenso qualvoll war, in dem blendenden Regen dazustehen, der vom Himmel fiel. Bleiben oder gehen - es kam auf dasselbe hinaus.

Aber「主語」「動詞」「補語」 | 「主語」「動詞句」「補語」

Aber アーバー conj. しかし

die Hitze デー・ヒッツェ n.f 暑さは 「主語」

war ウーアル 3 単過(sein)v.i ～ だった 「動詞」

derart, デアルート adv. それ程 「補語」

ERSTER TEIL 第1部

daß ^{ダス} conj. (同格) ～という	「形容詞節」
es ^{エス} pron それは	「主語」
ebenso qualvoll ^{エベンゾー・クワールフォル} adj. 同様に苦痛に満ちた	「補語」
war, ^{ワール} 3 単過(sein)v.i ～ だった	「動詞」
in dem blendenden Regen ^{イン・デーム・ブレンデンテン・レーゲン}	
adv. まばゆい雨の中で	「副詞句」
dazustehen, ^{ダ・ツー・シュテーエン} zu 不定詞(da stehen)	
v.i じっとしている	「動詞句」
der ^{デア} pron それ (雨) が～する	「主語」
vom Himmel ^{フォム・ヒメル} adv. 空から	「副詞句」
fiel. ^{フィール} 3 単過・時制の一致(fallen)v.i 落ちる	「動詞」
Bleiben oder gehen ^{ブライベン・オーダー・ゲーエン} n. 留まることも立ち去ることも	「主語」
- es ^{エス} pron それは	「主語」
kam ...hinaus. ^{カム...ヒナウス} 3 単過(hinaus kommen)	
v.i (auf et-4 という) 結果になる	「動詞句」
auf dasselbe ^{アウフ・ダッセルヘ} adv. 同じ事	「補語」

その後すぐに僕は浜辺に戻り、歩き始めた。相変わらず強烈な赤い日差しだった。

Kurz darauf ging ich zum Strand zurück und nahm die Wanderung wieder auf. Immer noch dasselbe grellrote Leuchten.

	「副詞句」「動詞句」「主語」「間接目的語」「動詞句」
und	「動詞句」「目的語」「副詞」「動詞句」 「副詞句」「主語」
Kurz darauf ^{クルツ・ダラウフ} adv. その後すぐに	「副詞句」
ging ...zurück ^{ギング} ... ^{ツリュック} 1 単過(zurück gehen)v.i 戻った	「動詞句」
ich ^{イヒ} pron 私は	「主語」
zum Strand ^{ツーム・シュトラント} adv. 浜へ	「間接目的語」
und ^{ウント} conj. そして	
nahm ...auf. ^{ナム...アウフ} 1 単過(auf nehmen)v.t (活動を) 開始した	「動詞句」
die Wanderung ^{デーイー・ヴァンデルング} n.f.4 格 歩行を	「目的語」
wieder ^{ワイター} adv. 再び、また	「副詞」
Immer noch ^{イマー・ノッホ} adv. 依然として	「副詞句」
dasselbe grellrote ^{ダッセルヘ・グレル・ローテ} adj. 同じどぎつく赤い	「形容詞句」
Leuchten. ^{ロヒテン} n.n.1 格 光	「主語」

ERSTER TEIL 第1部

砂の上には、小さい波の短く抑制された海の息吹が届いていた。

Auf dem Sand der Atem des Meeres mit den kurzen, verhaltenen Zügen seiner kleinen Wellen.

「副詞句」「主語」

Auf アフ prep 〜の上で

「副詞句」

dem Sand デーム・ザント n.m.3 格 砂

「目的語」

der Atem デア・アーテム n.m 息が、呼吸

「主語」

des Meeres デス・メレス n.n.2 格 海の

「形容詞句」

mit ミット prep (3 格と) (様態) 〜する

「副詞句」

den kurzen, verhaltenen デン・クルツェン・フェアハルテネン

adj.pl.3 格 短く抑制された

「形容詞句」

Zügen ツューゲン pl(Zug).n.m.3 格 ストローク、ひと掻き 「目的語」

seiner kleinen Wellen. サイアー・クライン・ヴェレン

pl(Welle).n.f.2 格 小さい波の

「形容詞句」

僕はゆっくり岩へ向かって進んだ。僕の額が太陽に照らされて膨らんだように感じた。太陽の熱が一気に僕に覆いかぶさり、僕にのしかかって来た。

Ich ging langsam auf die Felsen zu und fühlte, wie mir die Stirn unter der Sonne anschwell. Die Hitze legte sich mit ihrem ganzen Gewicht auf mich und stemmte sich mir entgegen.

「主語」「動詞句」「副詞句」「目的語」「動詞句」 und 「動詞」「副詞句」

「主語」「動詞句」「副詞句」 und 「動詞句」「副詞句」

Ich イヒ pron 僕は

「主語」

ging ...zu キング ...ツー 1 単過(zu | gehen)v.i 向かって行った

「動詞句」

langsam ラングザーム adv. ゆっくりと

「副詞」

auf die Felsen アフ・デー・フェルゼン adv. 岩へ

「間接目的語」

und ウント conj. そして

fühlte, フュールテ 1 単過(fühlen)v.t 感じた

「動詞」

wie ヴァー conj. 〜のように

「副詞節」

mir ミーア pron.3 格 僕の

「間接目的語」

die Stirn デー・シュティルン n.f 額が

「主語」

unter der Sonne ウンター・デア・ゾネ adv. 太陽の下で

「副詞句」

anschwell. アン・シュヴェル 3 単過(an | schwellen)v.i 膨らんだ

「動詞句」

Die Hitze デー・ヒツェ n.f 熱が

「主語」

legte sich レクテ・ズイヒ 3 単過(sich-4 legen)v.pr 覆った

「動詞句」

mit ihrem ganzen Gewicht ミット・イーレム・ガンツェン・ゲヴァイト adv. いっきに、全力で 「副詞句」

auf mich アフ・ミヒ adv. 僕に

「副詞句」

ERSTER TEIL 第1部

und ウント conj. そして

stemmte sich シュテムテ・ズィヒ 3 単過(sich-4 stemmen)v.pr 押し付けてきた 「動詞句」

mir entgegen. ミー・エントゲーゲン adv. 僕に向かって 「副詞句」

そして太陽の熱い息を顔の上に感じる度に、僕は歯を食いしばり、ズボンのポケットの中で拳を握り締め、太陽とそれが僕に注ぎかける暗い眩暈に打ち勝つために身を引き締めた。

Und jedesmal, wenn ich ihren heißen Atem auf dem Gesicht fühlte, biß ich die Zähne aufeinander, ballte die Fäuste in den Hosentaschen und spannte mich, um über die Sonne und den dunklen Rausch, den sie über mich ergoß, zu triumphieren.

Und 「副詞句」, 「動詞」「主語」「目的語」「副詞」,
「動詞」「目的語」「副詞句」und 「動詞句」「副詞句」

Und ウント conj. そして

jedesmal, イェテスマル adv. その度に 「副詞句」

wenn ウェン conj. ～する時 「副詞節」

ich イヒ pron 僕が 「主語」

ihren heißen Atem イレン・ハイゼン・アーテム n.m 太陽の熱い息を 「目的語」

auf dem Gesicht アウフ・デーム・ゲジヒト adv. 顔の上に 「副詞句」

fühlte, フュールテ 1 単過(fühlen)v.t 感じた 「動詞」

biß ビス 1 単過(beißen)v.t 噛んだ、噛み締めた 「動詞」

ich イヒ pron 僕は 「主語」

die Zähne デー・イー・ツェーネ pl(Zahn).n.m 歯を 「目的語」

aufeinander, アウファインダー adv. 互いに 「副詞」

ballte バルテ 1 単過(ballen)v.t 丸く固めた 「動詞」

die Fäuste デー・イー・フォイスト pl(Faust).n.f 拳を、握り拳を 「目的語」

in den Hosentaschen イン・デーン・ホーゼンタッシェ adv. ズボンのポケットの中で 「副詞句」

und ウント conj. そして

spannte mich, スパンテ・ミヒ 1 単過(sich-4 spannen)v.pr 身を引き締めた 「動詞句」

um ...zu triumphieren. ウム...ツール・トリウムフィーレン zu 不定詞・目的

adv.(über et-4 に) 勝つために 「副詞句」

über die Sonne und den dunklen Rausch, ユーバー・デー・イー・ゾーネ・ウント・デーン・ドゥンクレン・ラウシェ

adv. 太陽と暗いめまいに 「間接目的語」

den デン pron (目的語) ～する 「形容詞節」

sie ジー pron 太陽が 「主語」

über mich ユーバー・ミヒ adv. 僕に 「間接目的語」

ergoß, エアゴス 3 単過・時制の一致(ergießen)

v.t 注ぎかける 「動詞」

ERSTER TEIL 第1部

砂から、漂白された貝殻から、またはガラスの破片から、光の槍が噴出する度に、僕のあごは引きつった。僕は長い道のりを歩いた。

Bei jedem Lichtspeer, der aus dem Sand, aus einer gebleichten Muschel oder aus einer Glasscherbe aufschloß, verkrampften sich meine Kiefer. Es war ein langer Weg.

「副詞句」, 「動詞句」「主語」 | 「主語」「動詞」「補語」

Bei バイ prep (条件) ~の場合に 「副詞句」

jedem Lichtspeer, イェーデム・リヒト・シュペアー n.m 全ての槍 「目的語」

der デア pron (主語) ~する 「形容詞節」

aus dem Sand, アウス・デーム・ザント adv. 砂から 「副詞句」

aus einer gebleichten Muschel アウス・アイナー・ゲブライヒテン・ムシェル

adv. 漂白された貝殻から 「副詞句」

oder オーダー conj. または

aus einer Glasscherbe アウス・アイナー・グラスシェルベ

adv. ガラスの破片から 「副詞句」

aufschloß, アウフ・ショス 3 単過(auf|schießen)

v.i 噴出した 「動詞句」

verkrampften sich フェアクランプ・フテン・ズィヒ 3 複過(sich-4 verkrampfen)

v.pr ひきつった 「動詞句」

meine Kiefer. マイネ・キファー pl(Kiefer).n.m 僕の顎は 「主語」

Es エス pron それは 「主語」

war ヴァール 3 単過(sein)v.i ~ だった 「動詞」

ein langer アイン・ランガー adj(lang).1 格 長い 「形容詞句」

Weg. ヴェーク n.m.1 格 道 「補語」

遠くに暗くて小さい岩塊が見え、その周りには光と波しぶきに包まれた眩い中庭があった。

In der Ferne sah ich das dunkle, kleine Felsmassiv und ringsum einen blendenden Hof aus Licht und Meeresstaub.

「副詞句」「動詞」「目的語」「主語」「目的語」 und 「副詞」「目的語」「副詞句」

In der Ferne イン・デア・フェルネ adv.(空間的) 遠くに 「副詞句」

sah ザー 1 単過(sehen)v.t 見えた 「動詞」

ich イヒ pron 僕は 「主語」

das dunkle, kleine ダース・トウンクレ・クライネ adj.n 4 格 暗くて小さい 「形容詞句」

Felsmassiv フェルス・マシーフ n.n(Fels+Massiv).4 格 岩の塊、岩塊 「目的語」

und ウント conj. そして

ringsum リングスーム adv. 周りに 「副詞」

ERSTER TEIL 第1部

einen blendenden	アイネン・ブレンデンテン	adj(blendend).m.4 格 まばゆい	「形容詞句」
Hof	ホフ	n.m.4 格 中庭	「目的語」
aus	アウス	prep 〜の中から	「副詞句」
Licht	n.n	光	「目的語」
und	ウント	conj. そして	
Meeresstaub.	メーアレスシュタウプ	n.n 波しぶき	「目的語」

僕は岩の向こう側の冷たい泉のことを思い浮かべた。

Ich dachte an die kühle Quelle hinter dem Felsen.

			「主語」「動詞」「間接目的語」
Ich	イッヒ	pron 僕は	「主語」
dachte	ダハテ	1 単過(denken)v.i(an et-4 のことを) 思い浮かべた	「動詞」
an die kühle Quelle	アン・デー・イー・キューレ・クウェレ	adv. あの冷たい泉のことを	「間接目的語」
hinter dem Felsen.	ヒンター・デー・ム・フェルゼン	adv. 岩の向こうの	「副詞句」

僕は泉の水の騒めきに憧れ、太陽から、全ての努力から、全ての女の涙から逃れたかった。

そして再び日陰とその静寂を楽しみたかった。

Ich sehnte mich nach dem Gemurmeln ihres Wassers, wollte der Sonne entfliehen, aller Anstrengung und allen Frauentränen, wollte den Schatten wieder genießen und seine Ruhe.

			「主語」「動詞句」「間接目的語」,
			「動詞句」「目的語」「動詞句」, 「目的語」 und 「目的語」,
			「動詞句」「目的語」「副詞」「動詞句」 und 「目的語」
Ich	イッヒ	pron 僕は	「主語」
sehnte mich	ゼンテ・ミッヒ	1 単過(sich-4 sehnen nach j-3 を)v.pr 憧れた	「動詞句」
nach dem Gemurmeln	ナーハ・デー・ム・ゲムルメル	adv. 騒めきに	「間接目的語」
ihres Wassers,	イーレス・ヴァッサーズ	adj. 泉の水の	「形容詞句」
wollte ... entfliehen,	ヴォルテ...エントフリーエン	3 単過・願望(wollen+不定詞 entfliehen)	
v.t	逃れたかった		「動詞句」
der Sonne	デア・ゾネ	n.f 太陽から	「目的語」
aller Anstrengung	アラー・アンストレンゲンク	n.f 全ての努力から	「目的語」
und	ウント	conj. そして	
allen Frauentränen,	アレン・フラウエントレーネン	pl(Frauenträne).n.f 全ての女の涙から	「目的語」
wollte ... genießen	ヴォルテ...ゲニーゼン	1 単過・願望(wollen)v.t 楽しみたかった	「動詞句」
den Schatten	デン・シャッテン	n.m.4 格 日陰を	「目的語」
wieder	ワイター	adv. 再び、また	「副詞」

ERSTER TEIL 第1部

und ウント conj. そして

seine Ruhe. ザイネ・ルーエ n.f.4 格 その静けさを

「目的語」

しかし、さらに近づくと、レーモンの相手が戻っていたことに気が付いた。

Aber als ich näher kam, sah ich, daß Raymonds Gegner zurückgekommen war.

Aber 「副詞節」, 「動詞」「主語」「目的語」

Aber アーバー conj. しかし

als アルス conj. ～する時

「副詞節」

ich イヒ pron 僕が

「主語」

näher ネアー adv. より近く

「副詞」

kam, カム 1 単過(kommen)v.i やって来た

「動詞」

sah ザー 1 単過(sehen)v.t 見えた

「動詞」

ich, イヒ pron 僕は

「主語」

daß ダス conj. ～ということが

「目的語」

Raymonds Gegner ライモンズ・ゲーグナー n.m レーモンの相手が

「主語」

zurückgekommen war. ツリュック・ゲ・コメン・ガール 3 単過・完了形(zurückkommen)

v.i 戻って来ていた

「動詞句」

彼は一人だけだった。彼は、両手を首の下に置き、額は岩の陰に入れ、体は日差しの中に置いて、仰向けに横たわっていた。

Er war allein. Er lag auf dem Rücken, die Hände im Nacken, die Stirn im Schatten des Felsens, den Körper in der Sonne.

「主語」「動詞」「補語」 | 「主語」「動詞」「副詞句」, 「副詞句」

Er エア pron 彼は

「主語」

war ヴァール 3 単過(sein)v.i ～ だった

「動詞」

allein. アライン adj. 一人だけの

「補語」

Er エア pron 彼は

「主語」

lag ラーク 3 単過(liegen)v.i 横たわっていた

「動詞」

auf dem Rücken, アウフ・デーム・リュッケン adv. (様態) 仰向けに、背中の上に

「副詞句」

die Hände デー・イー・ヘンテ pl(Hand).n.f (様態) 両手を～して

「副詞句」

im Nacken, イム・ナッケン adv. (場所) 首の下に置いて

「副詞句」

die Stirn デー・イー・シュティルン n.f (様態) 額を～して

「副詞句」

im Schatten des Felsens, イム・シャッテン・デス・フェルゼン

adv. (場所) 岩の影の中に入れて

「副詞句」

den Körper デン・ケルパー n.m.4 格 (様態) 体を～して

「副詞句」

in der Sonne. イン・デア・ゾネ adv. 日差しの中に置いて

「副詞句」

ERSTER TEIL 第1部

彼の青いスーツは暑さで湯気を立てていた。僕は少し驚いた。

Sein blauer Anzug dampfte in der Hitze. Ich war etwas überrascht.

「主語」「動詞」「副詞句」 | 「主語」「動詞」「補語」

Sein blauer Anzug ザイン・ブラウアー・アンツーク n.m 彼の青いスーツは

「主語」

dampfte ダンプ・フテ 3 単過(dampfen)v.i 湯気を立てていた

「動詞」

in der Hitze. イン・デア・ヒッツェ adv. (状態) 暑さで

「副詞句」

Ich イヒ pron 僕は

「主語」

war ヴァール 3 単過(sein)v.i ~ だった

「動詞」

etwas überrascht. エトワース・ユーバーラッシュト adj. 少し驚いた

「補語」

フランス語の原文では：

彼の菜っ葉服は暑さで湯気を立てていた。僕は少し意表を突かれた。

Son bleu de chauffe fumait dans la chaleur. J'ai été un peu surpris.

僕にとって、あの話は片付いたことだった。僕はそのことは何も考えずにここに来ていた。

Für mich war die Geschichte erledigt, ich war ohne einen Gedanken an sie hierhergekommen.

「副詞句」「動詞句」「主語」「動詞句」 | 「主語」「動詞句」「副詞句」「動詞句」

Für mich フュア・ミヒ adv. 僕にとって

「副詞句」

war ...erledigt, ヴァール...エアレディクト 3 単過・状態受動(sein)

v.i 終わっていた、片付いていた

「動詞句」

die Geschichte デー・ゲシヒテ n.f あの話は

「主語」

ich イヒ pron 僕は

「主語」

war ...hierhergekommen. ヴァール...ヒアア・ゲ・コメン 1 単過・完了形・移動(kommen)

v.i ここに来ていた

「動詞句」

ohne einen Gedanken オネ・アイネン・ゲダנקェン adv. 何の考えもなく

「副詞句」

an sie アン・ジー adv. それについて

「副詞句」

僕に気が付くと、彼は少し起き上がって、ポケットに手を突っ込んだ。

Als er mich sah, richtete er sich ein bißchen auf und steckte die Hand in die Tasche.

「副詞節」, 「動詞句」「主語」「動詞句」「副詞句」「動詞句」

und 「動詞」「目的語」「副詞句」

Als アルス conj. ~する時

「副詞節」

er エア pron 彼が

「主語」

mich ミヒ pron.4 格 僕を

「目的語」

sah, サー 3 単過(sehen)v.t 見た

「動詞」

ERSTER TEIL 第1部

richtete ...sich ...auf リヒテ...スィヒ...アウフ 3 単過(sich-4 auf|richten)

v.pr 起き上がった

「動詞句」

er エア pron 彼は

「主語」

ein bißchen アイン・ビッシェン adv. 少し

「副詞句」

und ウント conj. そして

steckte シュテックテ 3 単過(stecken)v.t 突っ込んだ

「動詞」

die Hand デー・ハント n.f.4 格 手を

「目的語」

in die Tasche. イン・デー・タッシェ adv. ポケットに

「副詞句」

当然僕は、上着のポケットに入れたレーモンのリボルバーに手を伸ばした。

Ich griff natürlich nach Raymonds Revolver in der Rocktasche.

「主語」「動詞」「副詞」「間接目的語」「副詞句」

Ich イヒ pron 僕は

「主語」

griff グリフ 1 単過(greifen)v.i(nach に) 手を伸ばした

「動詞」

natürlich ナチュアリヒ adv. 当然

「副詞」

nach Raymonds Revolver ナーハ・ライモンズ・レウオルヴァー

adv. レーモンのリボルバーに

「間接目的語」

in der Rocktasche. イン・デア・ロックタッシェ adv. 上着のポケットの

「副詞句」

それから、彼はまた仰向けに倒れ込んだ。しかし手はポケット入れたままだった。

Dann ließ er sich wieder zurücksinken, aber ohne die Hand aus der Tasche zu nehmen.

「副詞」「動詞句」「主語」「動詞句」「副詞」「動詞句」, aber 「副詞句」

Dann ダン adv. それから

「副詞」

ließ ...sich ...zurücksinken, リース...スィヒ...ツュックシンケン 3 単過・使役・自己

(lassen+不定詞 zurücksinken+sich-4)v.pr 倒れ込んだ

「動詞句」

er エア pron 彼は

「主語」

wieder ウィーダー adv. 再び

「副詞」

aber アーバー conj. しかし

ohne ...zu nehmen. オーネ...ツェ・ネメン prep 出さずに

「副詞句」

die Hand デー・ハント n.f 手を

「目的語」

aus der Tasche アウス・デア・タッシェ adv. ポケットから

「副詞句」

ERSTER TEIL 第1部

僕はまだ彼からかなり遠く、約 10 メートル離れていた。

Ich war noch ziemlich weit von ihm entfernt, etwa zehn Meter.

「主語」「動詞」「副詞句」

Ich イッヒ pron 僕は

「主語」

war ヴァール 1 単過。存在(sein)v.i ～ にいた

「動詞」

noch ノッホ adv. まだ

「副詞」

ziemlich weit ツィムリッヒ・ヴァイト adv. かなり遠くに

「副詞句」

von ihm entfernt, フォン・イム・エントフェアント adv. 彼から離れな

「副詞句」

etwa zehn Meter. エトヴァ・ツェン・メーター n.n 約 10 メートル

「副詞句」

時折、彼の半開きの瞼の隙間から、彼の視線をうかがう事が出来た。

Hin und wieder erriet ich seinen Blick durch seine halbgeschlossenen Lider.

「副詞句」「動詞」「主語」「目的語」「副詞句」

Hin und wieder ヒン・ウント・ヴァーダー adv. 時折

「副詞句」

erriet エアリート 1 単過(erraten)v.t 察知した、気が付いた

「動詞」

ich イッヒ pron 僕は

「主語」

seinen Blick サイネン・ブリック n.m.4 格 彼の視線

「目的語」

durch ドゥルヒ prep (4 格と) ～を通して

「副詞句」

seine halbgeschlossenen Lider. サイネ・ハルプ・ゲ・シュロッセネン・リーダー

pl(Lid).n.n4 格 彼の半分閉じた瞼

「目的語」

しかし、かれの姿は目の前の熱気の中で踊るように揺れ動いていた。

Aber meist tanzte sein Bild in der glühenden Luft vor mir.

Aber 「副詞」「動詞」「主語」「副詞句」

Aber アーバー conj. しかし

meist マイスト adv. ほとんど

「副詞」

tanzte タンツテ 3 単過(tanzen)v.i 踊っていた

「動詞」

sein Bild サイン・ビルト n.n 彼の姿は

「主語」

in イン prep (空間的) ～の中で

「副詞句」

der glühenden Luft デア・グリュエンデネン・ルフト n.f.3 格 灼熱の大气

「目的語」

vor mir. フォア・ミーア adv. (位置) 僕の前

「副詞句」

ERSTER TEIL 第1部

打ち寄せる波は、正午に比べると、さらに緩慢で穏やかになっていた。

Das Klatschen der Wellen war noch träger, noch verhaltener als mittags.

「主語」「動詞」「補語」

Das Klatschen ダ`ス・クラツェン n.n 叩きつける音は

「主語」

der Wellen デア・ウェレン pl(Welle).n.f.2 格 波の

「形容詞句」

war ヲアール 3 単過(sein)v.i ~ だった

「動詞」

noch träger, ノッホ・トレガー adj(träge). (比較級) さらに緩慢な

「補語」

noch verhaltener ノッホ・フェアルテナー adj(verhalten). (比較級) さらに穏やかな

「補語」

als mittags. アルス・ミッタークス conj. (比較) 正午に比べて

「副詞句」

同じ太陽、同じ砂の上に同じ光が、ここ一面に広がっていた。

Es war dieselbe Sonne, dasselbe Licht auf demselben Sand, der sich hier weithin erstreckte.

「主語」「動詞」「補語」, 「主語」「動詞句」「副詞句」

Es エス pron 気候などは

「主語」

war ヲアール 3 単過(sein)v.i ~ だった

「動詞」

dieselbe Sonne, ディーゼルベ・ゾネ n.f.1 格 同じ太陽

「補語」

dasselbe Licht ダセルベ・リヒト n.n.1 格 同じ光

「補語」

auf demselben Sand, アウフ・デムゼルベン・ザント adv. 同じ砂の上に

「副詞句」

der デア pron それが

「主語」

sich ...erstreckte. スィヒ...エアシュトレクテ 3 単過(sich-4 erstrecken)v.pr 広がっていた

「動詞句」

hier weithin ヒア・ヴァイトヒン adv. ここ一面に

「副詞句」

もう 2 時間前から、昼間は止まっているようだった。2 時間前から、昼間は沸騰する金属の海に停泊していたのだ。

Schon seit zwei Stunden schien der Tag stillzustehen, seit zwei Stunden war er in einem Ozean aus kochendem Metall vor Anker gegangen.

「副詞句」「動詞」「主語」「補語」,

「副詞句」「動詞句」「主語」「副詞句」「動詞句」

Schon ショーン adv. もう、すでに

「副詞」

seit ザイト prep (時間・起点) ~以来、~前から

「副詞句」

zwei Stunden ツヴァイ・シュトゥンデン pl(Stunde).n.f 2 時間

「目的語」

schien シン 3 単過(scheinen)v.i (+zu 不定詞 ~であるように) 思われた

「動詞」

der Tag デア・ターク n.m 昼間は

「主語」

stillzustehen, シュティル・ツァー・シュテヘン zu 不定詞(still|stehen)adv. 止まっている

「補語」

seit zwei Stunden ザイト・ツヴァイ・シュトゥンデン adv.(時間・起点) 2 時間前から

「副詞句」

war ...gegangen. ヲアール...ゲガンゲン 3 単過・完了形・移動(gehen)v.i 来ていた

「動詞句」

ERSTER TEIL 第1部

er エア pron (Tag の代用) 昼は	「主語」
in einem Ozean イン・アイネム・オーツェアン adv. 海に	「副詞句」
aus kochendem Metall アウス・コヘンデム・メタル adv. (材質) 沸騰する金属でできた	「副詞句」
vor Anker フォア・アンカー adv. (様態) 錨を降ろして	「副詞句」
vor Anker liegen 「停泊している」 → war ...vor Anker gegangen 「停泊していた」	

水平線上を小さい汽船が通り過ぎた。ぼくはアラブ人を観察するのを止めていたから、その黒い点を視野の端で捉えることができた。

Am Horizont zog ein kleiner Dampfer vorbei, ich erriet seinen schwarzen Fleck am Rand meines Blickfeldes, denn ich hatte aufgehört, den Araber zu beobachten.

「副詞句」「動詞句」「主語」「動詞句」,
「主語」「動詞」「目的語」「副詞句」, 「副詞節」

Am Horizont アム・ホリツォント adv. 水平線を	「副詞句」
zog ...vorbei, ツォーク...フォアバイ 1 単過(vorbei ziehen)v.i(an の傍らを) 通り過ぎた	「動詞句」
ein kleiner Dampfer アイン・クライトー・ダンフ・ファー n.m 小さい汽船が	「主語」
ich イヒ pron 僕は	「主語」
erriet エリート 1 単過(erraten)v.t 察知した	「動詞」
seinen schwarzen ザ イネン・シュヴァルツェン adj.m.4 格 その黒い	「形容詞句」
Fleck フレック n.m.4 格 点 (のように小さいもの)	「目的語」
am Rand アム・ラント adv. 縁に、ふちに	「副詞句」
meines Blickfeldes, マイネス・ブリックフェルデス n.n.2 格 自分の視野の	「形容詞句」
denn デン conj. (理由) ~なので	「副詞節」
ich イヒ pron 僕は	「主語」
hatte aufgehört, ハッテ・アウフ・ゲ・ヘアト 1 単過・完了形(auf hören) v.t 止めていた	「動詞句」
zu 不定句 n. ~することを	「目的語」
den Araber デン・アーラーバー n.m.4 格 アラブ人を	「目的語」
zu beobachten. ツー・ベ・オーバ・ハテン zu 不定詞 v.t 観察する	「動詞句」

フランス語の原文では :

水平線のかなたを、小さな汽船が通り過ぎた。僕は汽船の小さな黒い点を視界の片隅で捉えていた、なぜなら、僕はアラブ人から目を離さずにいたから。

À l'horizon, un petit vapeur est passé et j'en ai deviné la tache noire au bord de mon regard, **parce que je n'avais pas cessé de regarder l'Arabe.**

ERSTER TEIL 第1部

僕は思った。僕は来た道に振り返るだけで良い、そうすればすべてが終わる。

Ich dachte, ich brauchte nur eine halbe Wendung zu machen und alles wäre zu Ende.

「主語」「動詞」, 「目的語」

Ich イッヒ pron 僕は

「主語」

dachte, ダハテ 1 単過(denken)v.t 考えた

「動詞」

n. ～という事を

「目的語」

ich イッヒ pron 僕は

「主語」

brauchte nur ...zu machen ブラウフテ・ヌーア... ツー・マヘン 1 単過・時制の一致

(brauchen nur ...zu 不定詞 machen) v.t ～しさえすればよい

「動詞句」

eine halbe Wendung アイン・ハルベ・ウァェント・ウング n.f.4 格 半回転

「目的語」

und ウント conj. そして

alles アレス pron 全ては

「主語」

wäre ヴァーレ 接 II・3 単現・変化(sein)v.i ～になる

「動詞」

zu Ende. ツー・エンデ adv. (結果) 終わりに

「補語」

しかし、太陽の熱にに震える砂浜が、背後から僕を押した。

Aber mich drängte im Rücken ein vor Sonne bebender Strand.

Aber 「目的語」「動詞句」「副詞句」「動詞句」「主語」

Aber アーバー conj. しかし

mich ミッヒ pron 僕を

「目的語」

drängte ...ein ドレンクテ...アイン 3 単過(ein | drängen)v.t 押し込んだ

「動詞句」

im Rücken イム・リュッケン adv. 背後で

「副詞句」

vor Sonne フォーア・ゾネ adv. 太陽の前で

「副詞句」

bebender ベーベンダー 現在分詞(beben)adj.m.1 格 震える、揺れる

「形容詞」

Strand. シュトラント n.m.1 格 砂浜が

「主語」

僕は泉に向かって数歩進んだ。

Ich machte ein paar Schritte auf die Quelle zu.

「主語」「動詞」「目的語」「副詞句」

Ich イッヒ pron 僕は

「主語」

machte マハテ 1 単過(machen)v.t (動作を) した

「動詞」

ein paar Schritte アイン・パール・シュリッテ pl(Schritt).n.m 数歩

「目的語」

auf die Quelle zu. アウフ・デア・クヴァーレ・ツウ adv. (方向) 泉に向かって

「副詞句」

ERSTER TEIL 第1部

アラブ人は動かなかった。それでも、彼との距離はまだ十分にあった。

Der Araber rührte sich nicht. Trotz allem war er noch ziemlich weit entfernt.

「主語」「動詞句」 | 「副詞句」「動詞」「主語」「副詞句」

Der Araber デア・アーラーバー n.m アラブ人は

「主語」

rührte sich nicht. ルーアテ・スィット・ニト 3 単過・否定(sich-4 rühren)

v.pr 動かなかった

「動詞句」

Trotz allem トロツ・アルム adv. それにもかかわらず

「副詞句」

war ヴァール 3 単過・存在(sein)v.i ~ にいた

「動詞」

er エア pron 彼は

「主語」

noch ノッホ adv. まだ

「副詞」

ziemlich weit entfernt. ツィムリヒ・ヴァイト・エントフェアント adv. かなり遠くに

「副詞句」

彼が笑っていると思ったのは、もしかすると、彼の顔の影のせいだったかもしれない。

Vielleicht waren die Schatten auf seinem Gesicht schuld daran, daß ich meinte, er lachte.

「副詞」「動詞」「主語」「補語」

Vielleicht フライヒト adv. もしかすると

「副詞」

waren 3 複過(sein)v.i ~ だった

「動詞」

die Schatten デーイー・シャテン pl(Schatten).n.m 影が

「主語」

auf seinem Gesicht アウフ・ザイネム・ゲジヒト adv. 顔の上の

「副詞句」

schuld daran, シュルト・ダラン adj. それについて責任がある

「補語」

daß ダス conj. ~ということは

「主語」

ich イヒ pron 僕が

「主語」

meinte, マインテ 1 単過(meinen)v.t 思った

「動詞」

er エア pron 彼が~するということを

「目的語」

lachte. ラハテ 3 単過・時制の一致(lachen)v.i 笑っている

「動詞」

僕は待った。頬に日焼けが目立つようになり、汗のしずくが眉毛に溜るのを感じた。

Ich wartete. Sonnenbrand machte sich auf meinen Backen bemerkbar, und ich fühlte, wie die Schweißtropfen sich in meinen Brauen sammelten.

「主語」「動詞」 | 「主語」「動詞句」「補語」,und「主語」「動詞」「目的語」

Ich イヒ pron 僕は

「主語」

wartete. ヴァアルテテ 1 単過(warten)v.i 待った

「動詞」

Sonnenbrand ゾネンブラント n.m 日焼けが

「主語」

machte sich マハテ・スィット 3 単過・変化(sich-4 machen)

v.pr(状態) ~になった

「動詞句」

auf meinen Backen アウフ・マイネン・バックェン adv. 頬に

「副詞句」

ERSTER TEIL 第1部

bemerkbar, ^{ベメルクハール} adj.	目につく、目立つ	「補語」
und ^{ウント} conj.	そして	
ich ^{イヒ} pron	僕は	「主語」
fühlte, ^{フールテ} 1 単過(^{fühlen})v.t	感じた	「動詞」
wie ^{ヴィー} conj.	～のように、～ということを	「目的語」
die Schweißtropfen ^{デイー・シュヴィグアイストロップ} フェン		
pl(Schweißtropfen).n.m	汗のしずくが	「主語」
sich ...sammelten. ^{ズィヒヒ...ザムelten} 3 単過・時制の一致(sich-4 sammeln)		
v.pr	集まって来る	「動詞句」
in meinen Brauen ^{イン・マイネン・ブラウエン} adv.	眉毛に	「副詞句」

母さんを埋葬した日と同じ太陽だった。あの日のように額が特に痛かった。そして額の全ての血管が皮膚の下で一斉に脈打った。

Es war dieselbe Sonne wie an dem Tag, an dem ich Mama beerdigte, und wie damals tat mir besonders die Stirn weh, und alle Adern pochten gleichzeitig unter der Haut.

「主語」「動詞」「補語」,

und 「副詞句」「動詞」「間接目的語」「副詞」「主語」「補語」,

und 「主語」「動詞」「副詞句」

Es ^{エス} pron	それは	「主語」
war ^{ヴァール} 3 単過(sein)v.i	～ だった	「動詞」
dieselbe Sonne ^{デイーゼルベ・ゾネ} n.f	同じ太陽	「補語」
wie ^{ヴィー} conj.	(比較) ～と	「副詞句」
an dem Tag, ^{アン・デーム・タク} adv.	あの日	「間接目的語」
an dem ^{アン・デーム} adv.	その日に～する	「形容詞節」
ich ^{イヒ} pron	僕が	「主語」
Mama ^{ママ} n.f	母さんを	「目的語」
beerdigte, ^{ベエアディクテ} 1 単過(beerdigen)		
v.t	埋葬した	「動詞」
und ^{ウント} conj.	そして	
wie damals ^{ヴィー・ダーマルス} adv.	(同等比較) あの時のように	「副詞句」
tat ^{タート} 3 単過(tun)v.i	(作用を) した	「動詞」
mir ^{ミーア} pron	僕に、僕の	「間接目的語」
besonders ^{ベゾンダース} adv.	特に	「副詞」
die Stirn ^{デイー・シュティアン} n.f	額が	「主語」
weh, ^{ヴェー} adj.	痛い	「補語」
und ^{ウント} conj.	そして	

ERSTER TEIL 第1部

alle Adern アレ・アーデアン pl(Ader).n.f 全ての血管が	「主語」
pochten ポ・ポテン 3 複過(pochen)v.i 脈打った	「動詞」
gleichzeitig グライツァイトイヒ adv. 一斉に、同時に	「副詞」
unter der Haut. ウンター・デア・ハウト adv. (空間的) 皮膚の下で	「副詞句」

フランス語の原文では：

「額のすべての血管」と特定している

それは僕が母さんを埋葬した日と同じ太陽だった。そしてあの日と同じように、とりわけ額が痛んで、**額のすべての血管が**皮膚の下で同時に脈打っていた。

C'était le même soleil que le jour où j'avais enterré maman et, comme alors, le front surtout me faisait mal et **toutes ses veines** battaient ensemble sous la peau.

この日焼けに耐えられず、僕は前進した。

Wegen dieses Brennens, das ich nicht mehr ertragen konnte, machte ich eine Bewegung nach vorn.

「副詞句」, 「目的語」「主語」「動詞句」, 「動詞」「主語」「目的語」「副詞句」

Wegen ウェーゲン prep (2 格と) (理由) ~のために 「副詞句」

dieses Brennens, デーゼス・ブレネス

pl(Brennen).n.n.2 格 この日焼け、火傷 「目的語」

das ダス pron それを 「目的語」

ich イヒ pron 僕は 「主語」

nicht mehr ertragen konnte, ニヒト・メア・エトラーゲン・コンテ 1 単過・可能・否定

v.t もう耐えられなかった 「動詞句」

machte マハテ 1 単過(machen)v.t (動作を) した 「動詞」

ich イヒ pron 僕は 「主語」

eine Bewegung アイン・ベウ・ェーゲン・グ n.f.4 格 移動を 「目的語」

nach vorn. ナーハ・ヴォン adv. 前方へ 「副詞句」

一歩進んだところで、それは愚かな事で、太陽から逃げることはできないと分かっていた。

Ich wußte, daß dumm war, daß ich die Sonne nicht los würde, wenn ich einen Schritt weiter ginge.

「主語」「動詞」「目的語」, 「目的語」, 「副詞節」

Ich イヒ pron 僕は 「主語」

wußte, ウステ 1 単過(wissen)v.t 知っていた 「動詞」

daß ダス conj. ~ということ を 「目的語」

dumm トゥム adj. 愚かな 「補語」

war, ヴァール 3 単過・時制の一致(sein)v.i ~である 「動詞」

ERSTER TEIL 第1部

daß ^{ダス} conj. ～ということは	「目的語」
ich ^{イチ} pron 僕が	「主語」
die Sonne ^{デー・ゾネ} n.f.4 格 太陽を	「目的語」
nicht ...würde, ^{ニト...ウルデ} 接 II・1 単現・推量・変化・否定(werden)	
v.i ～にならないだろう	「動詞句」
los ^{ロス} adj. 外れた	「補語」
wenn ^{ウェン} conj. (仮定・条件) もし～しても	「副詞節」
ich ^{イチ} pron 僕が	「主語」
einen Schritt weiter ^{アイネン・シュリット・ウァイター}	
adv. 1 歩先へ	「副詞句」
ginge. ^{ギンゲ} 接 II・1 単現(gehen)v.i 進む	「動詞」

しかし僕は1歩、1歩だけ前進した。

Aber ich tat einen Schritt, einen einzigen Schritt nach vorn.

Aber 「主語」「動詞」「目的語」, 「目的語」「副詞句」

Aber ^{アーバー} conj. しかし	
ich ^{イチ} pron 僕は	「主語」
tat ^{タート} 1 単過(tun)v.t (動作を) した	「動詞」
einen Schritt, ^{アイネン・シュリット} n.m.4 格 1 歩	「目的語」
einen einzigen Schritt ^{アイネン・アインツイゲン・シュリット} n.m.4 格 1 歩だけ	「目的語」
nach vorn. ^{ナーハ・フォアン} adv. 前に	「副詞句」

そしてアラブ人は、今度は立ち上らずに、ナイフを引き抜いて太陽の下で泳がせた。

Und diesesmal zog der Araber, ohne aufzustehen, sein Messer und ließ es in der Sonne spielen.

Und 「副詞」「動詞」「主語」, 「副詞句」, 「目的語」

und 「動詞句」「目的語」「動詞句」「副詞句」

Und ^{ウント} conj. そして	
diesesmal ^{デー・ゼスマル} adv. (dieses Mal) 今回は、今度は	「副詞」
zog ^{ツォク} 3 単過(ziehen)v.t 引き抜いた	「動詞」
der Araber, ^{デア・アーラー} n.m アラブ人は	「主語」
ohne +zu 不定詞 オネ adv. ～せずに	「副詞句」
aufzustehen, ^{アウフ・ツァー・シュテーエン} zu 不定詞(auf stehen)v.i 立ち上がる	「動詞句」
sein Messer ^{ザイン・メッサー} n.n.4 格 ナイフを	「目的語」
und ^{ウント} conj. そして	
ließ ...spielen. ^{リース...シュビールン} 3 単過・使役(lassen+不定詞 spielen)	

ERSTER TEIL 第1部

v.t 遊ばせた	「動詞句」
es エス pron それを	「目的語」
in der Sonne イン・デア・ゾネ adv. 太陽のもとで	「副詞句」

鋼から光が飛び出した。それは輝く長い刃になって、僕の額を突き刺した。

Licht sprang aus dem Stahl, und es war wie eine lange, funkelnde Klinge, die mich an der Stirn traf.

「主語」「動詞」「副詞句」,und「主語」「動詞」「補語」,
「主語」「目的語」「副詞句」「動詞」

Licht リヒト n.n 光が	「主語」
sprang シュプ ラング 3 単過(springen)v.i 飛び出した	「動詞」
aus dem Stahl, アウス・デア・ム・シュタル adv. (内から外へ) 鋼から	「副詞句」
und ウント conj. そして	
es エス pron それは	「主語」
war ヴァール 3 単過(sein)v.i ~ だった	「動詞」
wie ヴァー conj. ~のような	「補語」
eine lange, funkelnde アイネ・ランゲ・フンケルンデ adj.f 輝く長い	「形容詞句」
Klinge, クリンゲ n.f.1 格 刃	「目的語」
die デー pron (Klinge の代用) それが	「主語」
mich ミヒ pron.4 格 僕を	「目的語」
an der Stirn アン・デア・シュチルン adv. (部位) 額を	「副詞句」
traf. トラフ 3 単過(traffen)v.t 突き刺した	「動詞」

その瞬間、僕の眉に溜っていた汗が瞼の上を流れ、瞼は生温く分厚いベールで覆われた。

Im selben Augenblick rann mir der Schweiß, der sich in meinen Brauen gesammelt hatte, auf die Lider und bedeckte sie mit einem lauen, dichten Schleier.

「副詞句」「動詞」「間接目的語」「主語」「副詞句」

und「動詞」「目的語」「副詞句」

Im selben Augenblick イム・ゼルベン・アウゲンブリック adv. (時点) その瞬間	「副詞句」
rann ラン 3 単過(rinnen)v.i 流れた	「動詞」
mir ミーア pron.3 格 僕の	「間接目的語」
der Schweiß, デア・シュヴァイス n.m 汗が	「主語」
der デア pron (主語) ~する	「形容詞節」
sich ... gesammelt hatte, ズィヒ...ゲザメルト・ハッテ 3 単過・完了形(sich-4 sammeln)	
v.pr 溜った	「動詞句」
in meinen Brauen イン・マイネン・ブラウエン	

ERSTER TEIL 第1部

adv.(Braue) 僕の眉の中に 「副詞句」
auf アウフ prep (3格または4格) ーの上を 「副詞句」
die Lider ティー・リーダー pl(Lid).n.4格 (動きのある時) まぶた 「目的語」
und ウント conj. そして
bedeckte ベデッケ 3単過(bedecken)v.t 覆った 「動詞」
sie シー pron.f.pl (Lider の代用) それを 「目的語」
mit ミット prep (3格と) (手段) ーで 「副詞句」
einem lauen, dichten アイネ・ラウエン・ディヒテン
adj.m.3格 生温く分厚い 「形容詞句」
lauen ラウエン adj(lau).m.3格 ぬるい dichten ディヒテン adj(dicht).m.3格 密集した
Schleier. シュライアー n.m.3格 ベール 「目的語」

僕の目は、涙と塩のカーテンの裏側になって、まったく見えなくなった。

Meine Augen waren hinter diesem Vorhang aus Tränen und Salz geblendet.

「主語」「動詞句」「副詞句」「動詞句」
Meine Augen マイネ・アウゲン pl(Auge)n.n 僕の目は 「主語」
waren ...geblendet. ヲアレン...ゲ・フレンデット 3複過・状態受動(sein+過去分詞 blenden)
v.t 盲目になった 「動詞句」
hinter diesem Vorhang ヒンター・ディゼム・フォーハング adv. カーテンの裏側で 「副詞句」
aus アウス prep (3格と) (素材) ーでできた 「副詞句」
Tränen トレーネン pl(Träne)n.f.3格 涙 「目的語」
und ウント conj. そして
Salz サルツ n.n.3格 塩 「目的語」

僕はもう、額に打ち付ける太陽のシンバルと目の前のナイフから飛び出したぼんやり輝く
剣しか感じなかった。

Ich fühlte nur noch die Zymbeln der Sonne auf meiner Stirn und undeutlich das
leuchtende Schwert, das dem Messer vor mir entsprang.

「主語」「動詞」「副詞句」「目的語」「副詞句」 und 「副詞」「目的語」
Ich イット pron 僕は 「主語」
fühlte フュールテ 1単過(fühlen)v.t 感じた 「動詞」
nur noch ヌア・ノッホ adv. もはや～しかない 「副詞句」
die Zymbeln ティー・ジンベルン pl(Zymbel).n.f.4格 (Zimbel) シンバル 「目的語」
der Sonne テア・ゾネ n.f.2格 太陽の 「形容詞句」
auf meiner Stirn アウフ・マイナー・シュティルン adv. 額に 「副詞句」
und ウント conj. そして

ERSTER TEIL 第1部

undeutlich ウント ^イ トリヒ adv. ぼんやりと、不明瞭に	「副詞」
das leuchtende ダス・ロイヒテンデ ^テ adj(leuchtend).n.4 格 輝く	「形容詞句」
Schwert, シュヴァ ^エ ート n.n.4 格 剣	「目的語」
das ダス pron (主語) ～する	「形容詞節」
dem Messer デーム・メッサー n.n.3 格 (起点) ナイフから	「副詞句」
vor mir フォー・ミーア adv. 僕の目の前で	「副詞句」
entsprang. エントシュプ ^ラ ング 3 単過(entspringen)v.i 発した	「動詞」

この燃える剣は僕の睫毛を掻きまわし、痛む目を突き抜けた。そして全てが揺れ出した。

Dieses glühende Schwert wühlte in meinen Wimpern und bohrte sich in meine schmerzenden Augen. Da geriet alles ins Wanken.

「主語」「動詞」「間接目的語」 und 「動詞句」「間接目的語」

「副詞」「動詞」「主語」「補語」

Dieses glühende デイ ^セ ス・グリュエンデス ^ス adj.n.1 格 この燃える	「形容詞句」
Schwert シュヴァ ^エ ート n.n.1 格 剣は	「主語」
wühlte ヴュールテ 3 単過(wühlen)v.i 掻きまわした	「動詞」
in meinen Wimpern イン・メイネン・ヴァンペ ^{アン} adv. 僕の睫毛を	「間接目的語」
und ウント conj. そして	
bohrte sich ボーアテ・ス ^イ ツヒ 3 単過(sich-4 bohren)v.pr 突き抜けた	「動詞句」
in meine schmerzenden Augen. イン・マイネ・シュメルツェンデ ^ン ・アウゲ ^ン adv. 痛む目を	「間接目的語」
Da ダー adv. そして	「副詞」
geriet ゲリート 3 単過(geraten)v.i(in et-4) (不都合な状態に) 陥った	「動詞」
alles アレス pron すべてが	「主語」
ins Wanken. インス・ヴァンケン ^ン adv. 揺れる	「補語」

海から激しく燃え盛る吐息が流れてきた。まるで空全体が開き、今にも雨を降らせかと思われた。

Vom Meer kam ein starker, glühender Hauch. Mir war, als öffnete sich der Himmel in seiner ganzen Weite, um Feuer regnen zu lassen.

「副詞句」「動詞」「主語」 | 「間接目的語」「動詞」「補語」

Vom Meer フォム・メーア adv. (起点) 海から	「副詞句」
kam カム 3 単過(kommen)v.i やって来た	「動詞」
ein starker, glühender アイン・シュターカー・グリュエンダー ^ー adj.m.1 格 強く燃える	「形容詞句」
Hauch. ハフ n.m.1 格 息が	「主語」
Mir ミーア pron.3 僕にとって	「間接目的語」
war, ヴァール 3 単過(sein)v.i ～ だった	「動詞」

ERSTER TEIL 第1部

als アルス conj. まるで～のように 「補語」
 öffnete sich オフネテ・スィヒ 3 単過(sich-4 öffnen)v.pr 開いた 「動詞句」
 der Himmel デア・ヒメル n.m 空が 「主語」
 in seiner ganzen Weite, イン・ザ イー・ガンツェン・ヴァイテ adv. 全体が 「副詞句」
 um ...regnen zu lassen. ウム...レーゲネン・ツウ・ラッセン um zu 不定句・使役・目的
 adv. 降らせるために 「副詞句」
 Feuer フォイアー n.n.4 格 雨を 「目的語」

僕はすっかり興奮し、僕の手はリボルバーを握り締めていた。

Ich war ganz und gar angespannt, und meine Hand umkrallte den Revolver.
 「主語」「動詞」「補語」,und「主語」「動詞句」「目的語」
 Ich イヒ pron 僕は 「主語」
 war ヴァール 1 単過(sein)v.i ～ だった 「動詞」
 ganz und gar ガンツ・ウント・ガール adv. まったく、すっかり 「副詞句」
 angespannt, アン・ゲ・スパント 過去分詞(an|spannen)adj. 緊張した 「補語」
 und ウント conj. そして
 meine Hand メイネ・ハント n.f 僕の手は 「主語」
 umkrallte ウム・クラルテ 3 単過(um|krallen)v.t 握り締めた 「動詞句」
 um・ウム 分離前つづり 「包囲」 krallen クラレン v.t さっとつかむ
 den Revolver. デン・レボルバー n.m.4 格 リボルバーを 「目的語」

撃鉄が外れ、僕が銃床に触れると、鋭く、耳を聳する騒音と共にすべてが始まった。

Der Hahn löste sich, ich berührte den Kolben, und mit hartem, betäubendem Krachen nahm alles seinen Anfang.
 「主語」「動詞句」,「主語」「動詞」「目的語」,und「副詞句」「動詞」「目的語」
 Der Hahn デア・ハーン n.m 撃鉄が 「主語」
 löste sich, レステ・スィヒ 3 単過(sich-4 lösen)v.pr 外れた 「動詞句」
 ich イヒ pron 僕は 「主語」
 berührte ベリュアテ 1 単過(berühren)v.t 触れた 「動詞」
 den Kolben, デン・コルベン n.m.4 格 (銃の) 銃の握りに、床尾に 「目的語」
 und ウント conj. そして
 mit ミット prep (3 格と) (不随) ～と共に 「副詞句」
 hartem, betäubendem ハテム・ベトイベンデム
 adj(hart, betäubend)m.3 格 硬く、耳を聳する 「形容詞句」
 Krachen クラヘン n.m.3 格 騒音 「目的語」
 nahm ナム 3 単過(nehmen)v.t (動作を) 起こした 「動詞」

ERSTER TEIL 第1部

alles seinen Anfang. アレス・ザ・イネン・アンファング n.m.4 格 全ての始まりを

「目的語」

僕は汗と太陽を振り払った。そして僕は理解した。僕は一日の均衡を、幸せだった渚の特別な静寂を破壊したのだ。

Ich schüttelte Schweiß und Sonne ab. Ich begriff, daß ich das Gleichgewicht des Tages, das ungewöhnliche Schweigen eines Strandes zerstört hatte, an dem ich glücklich gewesen war.

「主語」「動詞句」「目的語」 | 「主語」「動詞」「目的語」

Ich イッヒ pron 僕は

「主語」

schüttelte ...ab. シュッテルテ...アッブ 1 単過(ab|schütteln)v.t 振り払った

「動詞句」

Schweiß シュヴァイス n.m.4 格 汗を

「目的語」

und ウント conj. そして

Sonne ゾネ n.f.4 格 太陽を

「目的語」

Ich イッヒ pron 僕は

「主語」

begriff, ベグリフ 1 単過(begreifen)v.t 理解した、気づいた

「動詞」

daß ダス conj. ～ということ

「目的語」

ich イッヒ pron 僕は

「主語」

das Gleichgewicht ダス・グライヘゲウァイト n.n.4 格 均衡を

「目的語」

des Tages, デス・ターゲス n.m.2 格 一日の

「形容詞句」

das ungewöhnliche ダス・ウンゲウァーノリヒエ adj.n.4 格 普通ではない「形容詞句」

Schweigen シュヴァイゲン n.n.4 格 静寂、沈黙

「目的語」

eines Strandes アイネス・シュトランデス n.m.2 格 渚の、浜辺の

「形容詞句」

zerstört hatte, ツェアシュエート・ハッテ 1 単過・完了形(zerstören)v.t 破壊した

「動詞句」

an dem アン・デーム adv. そこで～する

「副詞節」

Strand 渚を修飾する

ich イッヒ pron 僕は

「主語」

glücklich グリュックリヒ adj. 幸せな

「補語」

gewesen war. ケウァーゼン・ウァール 1 単過・完了形(sein)

v.i ～だった

「動詞句」

それから、僕はさらに4発死体に向けて撃ったが、弾は痕跡も残さず体に吸い込まれた。

Dann schoß ich noch viermal auf einen leblosen Körper, in den die Kugeln eindrangen, ohne daß man es sah.

「副詞」「動詞」「主語」「副詞句」「間接目的語」, 「副詞節」

Dann ダン adv. それから

「副詞」

schoß ショス 1 単過(schießen)v.t 撃った

「動詞」

ERSTER TEIL 第1部

ich イッヒ pron 僕は	「主語」
noch viermal ノッホ・フィフアーマル adv. さらに 4 回	「副詞句」
auf einen leblosen Körper, アウフ・アイネン・レープ ローゼン・ケルハー adv. 死体に	「間接目的語」
in den イン・デーン adv. (結果) その体に～する	「副詞節」
die Kugeln デー・イー・クーゲルン pl(Kugel).n.f 弾は	「主語」
eindringen, イン・ドランゲン 3 複過(ein dringen)	
v.i 吸い込まれた、浸透した	「動詞句」
ohne daß オーネ・ダス conj. ～することなく	「副詞節」
man マン pron 人が	「主語」
es エス pron それを	「目的語」
sah. ザー 3 単過・時制の一致(sehen)v.t 見る	「動詞」

そしてそれは、いわば、僕が不幸の扉を 4 回連打した音だったように思われる。

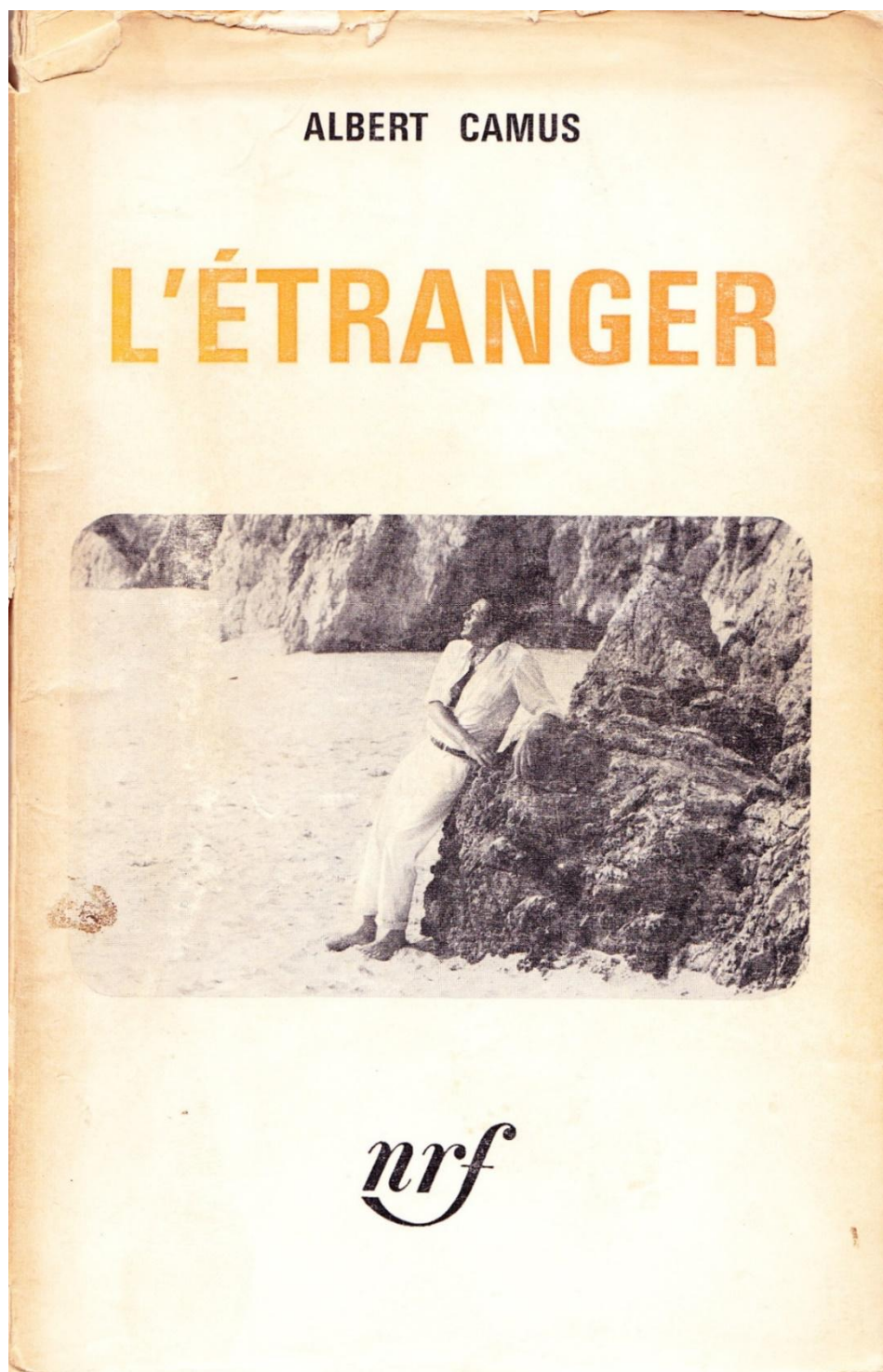
Und es waren gleichsam vier kurze Schläge an das Tor des Unheils.

Und 「主語」「動詞」「補語」

Und ウント conj. そして	
es エス pron (性・数に関係なく) それは	「主語」
waren ヴァレン 3 複過(sein)v.i ～ だった	「動詞」
gleichsam グライヒザーム adv. いわば	「副詞」
vier kurze ヴィーア・クルツェ adj.pl.1 格 4 つの短い	「形容詞句」
Schläge シュレーゲ pl(Schlag).n.m.1 格 打撃、打撃音	「補語」
an das Tor アン・ダス・トーア adv. 扉への	「副詞句」
des Unheils. デス・ウンハイルス n.n.2 格 不幸の	「形容詞句」

ALBERT CAMUS
DER FREMDE

ZWEITER TEIL 第2部



ZWEITER TEIL 第2部

I

逮捕されるとすぐ、僕は何度か尋問を受けた。

Gleich nach meiner Verhaftung wurde ich mehrmals vernommen.

「副詞句」「動詞句」「主語」「副詞」「動詞句」

Gleich nach グライヒ・ナハ prep. 今のすぐ後で

「副詞句」

meiner Verhaftung マイナー・フェアハフトゥング n.f.3 格 僕の逮捕

「目的語」

wurde ...vernommen. ヴェルデ ...フェアノム 1 単過・受動(werden+過去分詞 vernehmen)

v.t 尋問を受けた

「動詞句」

ich イヒ pron 僕は

「主語」

mehrmals メアマルス adv. 何度か、何度も

「副詞」

しかし、それは人定尋問だったので、長くはかからなかった。

Aber es handelte sich nur um Fragen der Identität; das dauerte nicht lange.

Aber 「動詞句」「補語」; 「主語」「動詞句」「副詞」

Aber アーバー conj. しかし

es handelte sich エス・ハンデルテ・ズィヒ 非人称・3 単過(es handelt sich-4)

v.pr(um et-4) (何-4 の) ことであつた

「動詞句」

nur um Fragen ヌア・ウム・フラゲン adv. ただの質問

「補語」

der Identität; デア・イデンチテート n.f.2 格 身元の

「形容詞句」

Fragen der Identität フラゲン・デア・イデンチテート pl(Frage).n.f 人定尋問

das ダス pron それは

「主語」

dauerte nicht ダウエルテ・ニヒト 3 単過・否定(dauern)v.i 続かなかつた

「動詞句」

lange. ランゲ adv. 長く

「副詞」

最初警察では、僕の事件は誰の興味も引かないと思われた。

Anfänglich schien mein Fall niemandem beim Kommissariat zu interessieren.

「副詞」「動詞句」「主語」「間接目的語」「副詞句」「動詞句」

Anfänglich アンフェンク・リヒ adv. 最初は

「副詞」

schien ... zu interessieren. シーン...ツァー・インテレスィレン 3 単過(scheinen+zu 不定詞 interessieren)

v.i 興味を引くように思われた

「動詞句」

mein Fall マイン・ファル n.m 僕の事件は

「主語」

niemandem ニーマンデム pron.3 格 誰の～ない

「間接目的語」

beim Kommissariat バイム・コミサariat adv. 警察では

「副詞句」

ZWEITER TEIL 第2部

しかし8日後、予審判事は好奇の目で僕をじろじろ見つめた。

Doch acht Tage später musterte der Untersuchungsrichter mich neugierig.

Doch 「副詞句」「動詞」「主語」「目的語」「副詞句」

Doch ドッホ conj. しかし

acht Tage später アハト・ターゲ・シュペーター adv. 8 日後に

「副詞句」

musterte ムステアテ 3 単過(mustern)v.t じろじろ見た

「動詞」

der Untersuchungsrichter テア・ウンターズーフングス・リヒター n.m 予審判事が

「主語」

mich ミヒ pron.4 格 僕を

「目的語」

neugierig. ノヒエリヒ adv. 好奇の目で

「副詞句」

しかし取り敢えず彼は僕に、住所、名前、職業、生年月日、そして出生地だけ尋ねた。

Aber er fragte mich vorläufig nur nach Adresse, Namen, Beruf, Geburtsdatum und Geburtsort.

Aber 「主語」「動詞」「間接目的語」「副詞」「直接目的語」

Aber アーバー conj. しかし

er エア pron. 彼は

「主語」

fragte フラクテ 3 単過(fragen)v.t(j-4 に) 尋ねた

「動詞」

mich ミヒ pron.4 格 僕に

「間接目的語」

vorläufig フォアロイフヒヒ adv. 取り敢えず、暫定的に

「副詞」

nur nach ヌア・ナーハ prep (3 格と) ~ などだけ

「直接目的語」

Adresse, アドレス n.f.3 格 住所

「目的語」

Namen, ナーメン n.m(Name).3 格 名前

「目的語」

Beruf, ベルーフ n.m.3 格 職業

「目的語」

Geburtsdatum ゲブルツダートゥム n.n.3 格 生年月日

「目的語」

und ウント conj. そして

Geburtsort. ゲブルツオर्ट n.m.3 格 出生地

「目的語」

それから彼は、僕が弁護士を選んだかどうかを尋ねた。

Dann wollte er wissen, ob ich mir einen Anwalt genommen habe.

「副詞」「動詞句」「主語」「動詞句」「目的語」

Dann ダン adv. それから

「副詞」

wollte ...wissen, ヲルテ...ウイッセン 3 単過・願望(wollen+不定詞 wissen)

v.t 尋ねた、知りたがった

「動詞句」

er エア pron 彼は

「主語」

ob オッフ conj. ~かどうかということを

「目的語」

ich イヒ pron 僕が

「主語」

ZWEITER TEIL 第2部

mir ミア pron.3 格 自分の (ために) 「間接目的語」
 einen Anwalt アイン・アウガルト n.m.4 格 弁護士を 「直接目的語」
 genommen habe. ゲ・ノメン・ハーベ 1 単現・完了形(nehmen)v.t 選んだ 「動詞句」

僕はノーと答えてから、絶対に弁護士を雇わなければならないのかと彼に尋ねた。

Ich verneinte und fragte ihn, ob es unbedingt nötig sei, einen Anwalt zu haben.

「主語」「動詞」 und 「動詞」「間接目的語」「直接目的語」

Ich イッヒ pron 僕は 「主語」
 verneinte フェアインテ 1 単過(verneinen)v.t ノーと答えた 「動詞」
 und ウント conj. そして
 fragte フラケ 1 単過(fragen)v.t(j-4 に) 尋ねた 「動詞」
 ihn, イン pron.4 格 彼に 「間接目的語」
 ob オッパ conj. ～かどうかということ 「直接目的語」
 es エス pron 仮の主語 (真の主語は einen Anwalt 以降)
 unbedingt nötig ウンベテ インクト・ネテヒ adj. 絶対に必要な 「補語」
 sei, サイ 接・(sein)v.i ～である 「動詞」
 zu 不定句 n. ～することは 「主語」
 einen Anwalt アイン・アウガルト n.m.4 格 弁護士を 「目的語」
 zu haben. ツー・ハーベン zu 不定詞 v.t 持つ 「動詞句」

「どうしてですか？」と、彼は言った。僕の事件は全く単純に思われるからと答えた。

«Wieso?» sagte er. Ich entgegnete, mein Fall liege doch denkbar einfach.

《「応答」》, 「動詞」「主語」 | 「主語」「動詞」「目的語」

«Wieso?» ウィゾー adv. どうして 「応答」
 sagte サーケ 3 単過(sagen)v.t 言った 「動詞」
 er. エア pron 彼は 「主語」
 Ich イッヒ pron 僕は 「主語」
 entgegnete, エントゲーゲネ 1 単過(entgegen)v.t 答えた 「動詞」
 n. ～ということ 「目的語」
 mein Fall マイン・ファル n.m 僕の事件は 「主語」
 liege リーゲ 接・3 単現・推量(liegen)v.i (状態が) ～である 「動詞」
 doch ドツッ conj. それでも
 denkbar デンクハール adv. 極めて 「副詞」
 einfach. アインファッハ adj. 単純な 「補語」

ZWEITER TEIL 第2部

彼は笑顔で答えた：「それはあなたの意見ですが、私たちには法律があります」

Er erwiderte lächelnd: «Das ist Ihre Ansicht. Wir aber haben das Gesetz.

「主語」「動詞」「副詞」：《「主語」「動詞」「補語」 | 「主語」 aber 「動詞」「目的語」》

Er エア pron 彼は

「主語」

erwiderte エアウーデーアテ 3 単過(erwidern)v.t 答えた、返事をした

「動詞」

lächelnd: レヒェルト 現在分詞(lächeln)・同時 adv. 笑って

「副詞」

«Das ダス pron それは

「主語」

ist イスト 3 単現(sein)v.i 〜である

「動詞」

Ihre Ansicht. イア・アンズィヒト n.f あなたの意見

「補語」

Wir ウーア pron.pl 私たちは

「主語」

aber アーバー conj. しかし

haben ハーベン 1 複現(haben)v.t 〜がある

「動詞」

das Gesetz. ダス・ゲゼッツ n.n.4 格 法律

「目的語」

「もしあなたが弁護士を選ばないのなら、こちらで国選弁護人を任命します」

Wenn Sie sich keinen Anwalt nehmen, bestimmen wir einen Oficialverteidiger.»

《「副詞節」, 「動詞」「主語」「目的語」》

Wenn ウェン conj. (条件) もし〜ならば

「副詞節」

Sie ジー pron あなたが

「主語」

sich ...nehmen, スィヒ...ネーメン 3 複現(sich-3 nehmen)

v.pr 自分のために選ぶ

「動詞句」

keinen Anwalt カイン・アンヴァルト n.m.4 格 弁護士を〜ない

「目的語」

bestimmen ベスチメン 1 複現・意思 v.t 任命する

「動詞」

wir ウーア pron 私たちは

「主語」

einen Oficialverteidiger.» アイネン・オフィツィアルタテイガー n.m.4 格 国選弁護人を

「目的語」

僕は、司法当局がこう言った細部にまで関わることはとても便利だと思った。

Ich fand es sehr bequem, daß die Justiz sich mit diesen Einzelheiten befaßte.

「主語」「動詞」「補語」「目的語」

Ich イヒ pron 僕は

「主語」

fand ファント 1 単過(finden)v.t(et-4+様態を示す語句 を) 〜と思う

「動詞」

es エス pron 仮の目的語 (真の目的語は daß 以降)

sehr bequem, ゼーア・ベクヴェム adj. とても便利な、快適な

「補語」

daß ダス conj. 〜ということを

「目的語」

die Justiz デー・ジュステイス n.f 司法当局が

「主語」

sich ...befaßte. スィヒ...ベファステ 接 II・3 単現(sich-4 befassen)

ZWEITER TEIL 第2部

v.pr(mit et-3) 何-3 に取り組む 「動詞句」
 mit ミット prep 〜に 「間接目的語」
 diesen Einzelheiten デーイーゼン・アインツエルハイテン
 pl(Einzelheit)n.f.3 格 こういった細部 「目的語」

僕はそのことを彼にも伝えた。彼は僕に同意して、法律は良く出来ていると答えた。

Das sagte ich ihm auch. Er stimmte mir zu und meinte, das Gesetz sei schon sehr gut.

「直接目的語」「動詞」「主語」「間接目的語」

「主語」「動詞句」「間接目的語」「動詞句」und「動詞」「目的語」

Das ダス pron そのことを 「直接目的語」
 sagte サークテ 1 単過(sagen)v.t 言った 「動詞」
 ich イッヒ pron 僕は 「主語」
 ihm イーム pron.3 格 彼に 「間接目的語」
 auch. アウフ adv. 〜も 「副詞」
 Er エア pron 彼は 「主語」
 stimmte ...zu シュティムテ...ツ 3 単過(zu | stimmen)v.i(j-3 に) 同意した 「動詞句」
 mir ミーア pron.3 格 僕に 「間接目的語」
 und ウント
 meinte, マインテ 3 単過(meinen)v.t 言った 「動詞」
 das Gesetz ダス・ゲゼッツ n.n 法律は〜ということ 「目的語」
 sei サイ 3 単現(sein)v.i 〜である 「動詞」
 schon sehr gut. ショーン・ゼーア・グート adj. もう非常に良い 「補語」

最初は、僕は彼の事を真剣に受け止めていなかった。

Anfangs nahm ich ihn gar nicht ernst.

「副詞」「動詞」「主語」「目的語」「副詞句」

Anfangs アンファンクス adv. 最初は 「副詞」
 nahm ナム 1 単過(nehmen)v.t 受け取っていた 「動詞」
 ich イッヒ pron 僕は 「主語」
 ihn イーン pron.4 格 彼を 「目的語」
 gar nicht ernst. ガール・ニヒト・エアンスト adv. まったく真剣に〜ない 「副詞句」

ZWEITER TEIL 第2部

彼は緞帳を降ろした部屋で僕を迎えた。

Er empfing mich in einem Zimmer mit geschlossenen Vorhängen.

「主語」「動詞」「目的語」「副詞句」

Er エア pron 彼は

「主語」

empfang エンプ・フイング 3 単過(empfangen)v.t (客を) 迎えた

「動詞」

mich ミット pron 僕を

「目的語」

in イン prep (3 格) 〜の中で、(4 格) 〜の中へ

「副詞句」

einem Zimmer アイネム・ツィマー n.n.3 格 部屋

「目的語」

mit ミット prep (3 格と) (随伴状況)

「副詞句」

geschlossenen ゲシュロッセネン adj.pl.3 格 閉じられた「形容詞」

Vorhängen. フォーアヘンゲン pl(Vorhang).n.m 緞帳

「目的語」

緞帳 どんちょう

厚手の生地で作られた布で、劇場などの舞台と観客席を区切る上下に開閉する幕のこと。
布が厚いので、カーテンよりも遮光性能が高い。

カーテン

遮光、防音、間仕切り、覗き見防止などを目的として、窓や部屋の出入り口、玄関などに
吊り下げて水平方向に開け閉めする布製家具。厚手の生地のカートンをドレープカーテン
といい、ドレープカーテンの中に取り付ける半透明のカートンをレースカーテンという。

机の上にはランプがあり、その光が肘掛椅子を照らしていた。彼はそこに僕を座らせた。

一方で、彼は暗がりの中に留まっていた。

Auf seinem Schreibtisch stand eine Lampe, deren Licht fiel auf den Sessel, in dem er mich Platz nehmen ließ, während er im Dunkeln blieb.

「副詞句」「動詞」「主語」, 「主語」「動詞」「副詞句」,

「主語」「間接目的語」「直接目的語」「動詞句」, 「副詞節」

Auf seinem Schreibtisch アウフ・ザイネム・シュライプ・ティッシュ adv. 彼の事務机の上に

「副詞句」

stand シュタント 3 単過・存在(stehen)v.t あった

「動詞」

eine Lampe, アイネ・ランペ n.f ランプが

「主語」

deren Licht デーレン・リヒト n.n その光が

「主語」

fiel フィール 3 単過(fallen)v.i 落ちた

「動詞」

auf den Sessel, アウフ・デーン・ゼッセル adv. 肘掛椅子の上に

「副詞句」

in dem イン・デーム adv. そこに

「副詞句」

er エア pron 彼は

「主語」

mich ミット pron.4 格 僕に

「間接目的語」

Platz プラッツ n.m.4 格 席を

「直接目的語」

nehmen ließ, ネーメン・リース 3 単過・使役(lassen+不定詞 nehmen)v.t 取らせた

「動詞句」

ZWEITER TEIL 第2部

während ヲェレント conj. (対比) ～である一方で	「副詞節」
er エア pron 彼は	「主語」
im Dunkeln イム・トウンケルン adv. 暗がりの中に	「副詞句」
blieb. ブリープ 3 単過・時制の一致(bleiben)v.i 留まっている	「動詞」

似たような記述を本で読んだことがあったが、どれも僕にはゲームのように思われた。

Eine ähnliche Beschreibung hatte ich schon in Büchern gelesen, und alles kam mir wie ein Spiel vor.

「目的語」「動詞句」「主語」「副詞句」,und「主語」「動詞句」「間接目的語」「補語」	
Eine ähnliche アイネ・エーンリッヒェ adj(ähnlich).f.4 格 似たような	「形容詞句」
Beschreibung ベシュライブング n.f.4 格 記述を	「目的語」
hatte ...gelesen, ハッテ...ゲレーゼン 1 単過・完了形(lesen)v.t 読んだことがある	「動詞句」
ich イヒ pron 僕は	「主語」
schon ショーン adv. すでに、以前に	「副詞」
in Büchern イン・ビュヒェルン adv. 本で	「副詞句」
und ウント conj. そして	
alles アレス pron すべてが	「主語」
kam ...vor. カム...フォア 3 単過(vor kommen)v.i(j-3+様態) ～のように思われた	「動詞句」
mir ミア pron.3 格 僕にとって	「間接目的語」
wie ヲー conj. (比喩) ～のような	「補語」
ein Spiel アイン・シュピール n.n.1 格 ゲーム	「目的語」

しかし、僕は会話の後で彼を見て、繊細な顔立ちで、窪んだ青い目の長身で、灰色の長い口髭に、ほとんど白い豊かな髪 of 男だと分かった。

Aber nach unserer Unterhaltung betrachtete ich ihn und sah einen Mann mit feinen Zügen, tiefliegenden blauen Augen, groß, mit langem grauem Schnurrbart und üppigem, fast weißem Haar.

Aber 「副詞句」「動詞」「主語」「目的語」 und 「動詞」「補語」	
Aber アーバー conj. しかし	
nach ナハ prep(時間) ～のあとで	「副詞句」
unserer Unterhaltung ウンゼラー・ウンターハルトUNG n.f.3 格 僕たちの会話	「目的語」
betrachtete ベトラハテ 1 単過(betrachten)v.t 見た	「動詞」
ich イヒ pron 僕は	「主語」
ihn イン pron.4 格 彼を	「目的語」
und ウント conj. そして	
sah ザー 1 単過(sehen)v.t ～と分かった	「動詞」

ZWEITER TEIL 第2部

einen Mann	アイネン・マン	n.m.1 格 男	「補語」
mit	ミット	prep (3 格と) (付帯状況) ~をした	「副詞句」
feinen Zügen,	ファイネン・ツューゲン	pl(Zug)n.m.3 格 繊細な顔立ち	「目的語」
tiefliegenden blauen	チーフリーゲンデン・ブラウエン		
	adj.pl.3 格 窪んだ青い		「形容詞句」
Augen,	アウゲン	pl(Auge).n.n.3 格 目	「目的語」
groß,	グロース	adj. 長身の	「形容詞」
mit langem grauem	ミット・ランゲム・グ라우エム		
	adv. (様態) 灰色の長い		「副詞句」
Schnurrbart	シュヌルハート	n.m.3 格 口髭	「目的語」
und	ウント	conj. そして	
üppigem,	ウピヘム	adj.n.3 格 豊かな	「形容詞」
fast weißem	ファスト・ヴァイセム		
	adj(weiß).n.3 格 ほとんど白い		「形容詞句」
Haar.	ハール	n.n.3 格 髪	「目的語」

彼は、僕としてはとても理性的に見えた。そして口の周りが神経質にひきつることを含め
ても交換の持てる人間だった。

Er schien mir sehr vernünftig und war mir trotz des nervösen Zuckens um den Mund im Grunde nicht unsympathisch.

	「主語」「動詞」「間接目的語」「補語」	und	「動詞」「間接目的語」「副詞句」
Er	エア	pron 彼は	「主語」
schien	シーン	1 単過(scheinen)v.i (～のように) 見えた	「動詞」
mir	ミア	pron 僕には	「間接目的語」
sehr vernünftig	セーア・フェアニユンフティヒ	adj. とても理性的な	「補語」
und	ウント	conj. そして	
war	ヴァール	3 単過(sein)v.i ~ だった	「動詞」
mir	ミア	pron 僕には	「間接目的語」
trotz	トロツ	prep (2 格と) ~にもかかわらず	「副詞句」
des nervösen	デス・ネルヴェーゼン	adj(nervös).m.2 格 神経性の	「形容詞句」
Zuckens	ツケン	n.m.2 格 瞬間的な動き、ひきつり	「目的語」
um	ウム	prep (4 格と) ~の周りで	「副詞句」
den Mund	デン・ムント	n.m.4 格 口	「目的語」
im Grunde	イム・グルンデ	adv. 根本においては	「副詞句」
nicht unsympathisch.	ニヒト・ウンツインパティッシュ	adj. (2 重否定) 好感の持てる	「補語」

ZWEITER TEIL 第2部

彼が部屋を出る時、僕は危うく彼に手を差し出すところだったが、すんでのところで、自分は人を殺していたことが頭に浮かんだ。

Beim Hinausgehen hätte ich ihm fast die Hand gegeben, aber mir fiel noch rechtzeitig ein, daß ich ja einen Menschen getötet hatte.

「副詞句」「動詞句」「主語」「間接目的語」「直接目的語」「動詞句」,

aber 「副詞句」「動詞句」「目的語」

Beim バイム prep (3格と) ~の時に 「副詞句」

Hinausgehen ヒナウスゲーエン n.n.3格 退出 「目的語」

hätte ...gegeben, ハッテ...ゲゲーベン 接 II・1 単現・完了形・推量(geben)

v.t 差し出したかもしれない 「動詞句」

ich イヒ pron 僕は 「主語」

ihm イム pron.3格 彼に 「間接目的語」

fast ファスト adv. 危うく、ほとんど 「副詞」

die Hand デー・ハント n.f.4格 手を 「直接目的語」

aber アーバー conj. しかし

mir fiel ...ein, ミー・フィーリ...アイン 1 単現(sich・3 ein | fallen)v.pr 心に浮かんだ 「動詞句」

noch rechtzeitig ノッホ・レヒツァイティヒ adv. ぎりぎり間に合って、すんでの所で 「副詞句」

daß ダス conj. ~ということ を 「目的語」

ich イヒ pron 自分は 「主語」

ja ヤー adv. だって、はい 「副詞」

einen Menschen アイネン・メンシェン n.m.4格 人を 「目的語」

getötet hatte. ゲテテット・ハッテ 1 単過・完了形(töten)v.t 殺していた 「動詞句」

翌日、弁護士が刑務所に僕を訪ねてきた。

Am nächsten Tag besuchte mich ein Anwalt im Gefängnis.

「副詞句」「動詞」「目的語」「主語」「副詞句」

Am nächsten Tag アム・ネーヒステン・ターク adv. 次の日、翌日 「副詞句」

besuchte ベズ`フテ 3 単過(besuchen)v.t 訪れた、訪ねてきた 「動詞」

mich ミヒ pron.4格 僕を 「目的語」

ein Anwalt アイン・アンヴァルト n.m 弁護士が 「主語」

im Gefängnis. イム・ゲフェンク`ニス and. 刑務所に 「副詞句」

ZWEITER TEIL 第2部

彼は小柄で、小太りで、かなり若く、入念に髪をとかしていた。

Er war klein und rundlich, ziemlich jung, mit sorgfältig gebürstetem Haar.

「主語」「動詞」「補語」

Er エア pron 彼は

「主語」

war ヴァール 3 単過(sein)v.i ~ だった

「動詞」

klein クライン adj. 小柄の

「補語」

und ウント conj. そして

rundlich, ルントリヒ adj. 丸っこい、小太りの

「補語」

ziemlich jung, ツィムリヒ・ユング adj. かなり若い

「補語」

mit ミット prep (3 格と) (付帯状況) ~の

「副詞句」

sorgfältig gebürstetem ザアクフェルティヒ・ゲブルシュテテム 過去分詞(bürsten)・受動

adj.n.3 格 入念にブラシをかけられた

「形容詞句」

Haar. ハール n.n.3 格 髪

「目的語」

暑さにも関わらず (僕は上着を脱いでいた)、彼は黒っぽい背広に詰襟と幅広の黒と白のストライプのおかしなネクタイを身につけていた。

Trotz der Hitze (ich war in Hemdsärmeln) trug er einen dunklen Anzug, einen Stehkragen und eine seltsame Krawatte mit breiten schwarzen und weißen Streifen.

「副詞句」「(主語」「動詞」「補語)」「動詞」「主語」「目的語」

Trotz トロツツ prep (2 格と) ~にもかかわらず

「副詞句」

der Hitze デア・ヒッツェ n.f.2 格 暑さ

「目的語」

(ich イヒ pron 僕は

「主語」

war ヴァール 1 単過(sein)v.i ~ だった

「動詞」

in Hemdsärmeln) イン・ヘムツエルメルン adv. ワイシャツだけで、上着を脱いで

「補語」

trug トルク 3 単過(tragen)v.t 身につけていた

「動詞」

er エア pron 彼は

「主語」

einen dunklen Anzug, アイン・ドゥンケルン・アンツーク n.m.4 格 黒っぽい背広を

「目的語」

einen Stehkragen アイン・シュテークラーゲン n.m スタンドカラー、詰襟

「目的語」

und ウント conj. そして

eine seltsame Krawatte アイン・ゼルトサーメ・クラヴァッテ n.f 奇妙なネクタイを

「目的語」

mit ミット prep (付帯状況) ~の

「副詞句」

breiten schwarzen und weißen ブライテン・シュヴァルツェン・ウント・ヴァイゼン

adj.pl.3 格 幅広の黒と白の

「形容詞句」

Streifen. ショトライフェン pl(Streifen).m.3 格 縞、ストライプ

「目的語」

ZWEITER TEIL 第2部

彼は小脇に抱えていた書類カバンを僕のベッドの上に置き、自己紹介してから、僕の書類を確認しましたと言った。

Er legte die Aktentasche, die er unter dem Arm trug, auf mein Bett, stellte sich vor und sagte, er habe meine Akte studiert.

「主語」「動詞」「目的語」, 「動詞句」 und 「動詞」「目的語」

Er エア pron 彼は 「主語」
 legte レーケ 3 単過(legen)v.t 置いた 「動詞」
 die Aktentasche, ティー・アクテンタシェ n.f.4 格 書類カバンを 「目的語」
 die ティー pron (目的語) ～する 「形容詞節」
 er エア pron 彼が 「主語」
 unter dem Arm ウンター・デー・アム adv. 手の下に 「副詞句」
 trug, トルク 3 単過(tragen)v.t 持っていた 「動詞」
 auf mein Bett, アウフ・マイン・ベット adv. 僕のベッドの上に 「副詞句」
 stellte sich vor シュテルテ・ズィヒ・フォー 3 単過(sich-4 vor | stellen)v.pr 自己紹介した 「動詞句」
 und ウント conj. そして
 sagte, サーケ 3 単過(sagen)v.t 言った 「動詞」
 n. ～ということを 「目的語」
 er エア pron 彼は 「主語」
 habe ...studiert. ハーベ ...シュツテ イト 3 単現・完了形(studieren)
 v.t 詳しく調べた 「動詞句」
 meine Akte マイネ・アクテ n.f.4 格 僕の書類を 「目的語」

この事件は微妙なものだが、僕の信頼さえ得られれば成功は間違いないと考えている。

Der Fall sei heikel, aber er zweifle nicht am Erfolg, wenn ich nur Vertrauen zu ihm hätte.

「主語」「動詞」「補語」, aber 「主語」「動詞句」「間接目的語」「副詞節」

Der Fall デア・ファル n.m この事件は 「主語」
 sei サイ 接・3 単現・評価(sein)v.i ～である 「動詞」
 heikel, ハイケル adv. 微妙な、デリケートな 「補語」
 aber アーバー conj. しかし
 er エア pron 彼は 「主語」
 zweifle nicht ツヴァイフル・ニヒト 接・3 単現・否定(zweifeln)v.i(an et-3 を) 疑わない 「動詞句」
 am Erfolg, アム・エアフォルク adv. 成功を 「間接目的語」
 wenn ウェン conj. (条件) ～するなら 「副詞節」
 ich イヒ pron 僕が 「主語」
 nur ヌーア adv. ～だけ 「副詞」
 Vertrauen フェアトラウエン n.n.4 格 信頼を 「直接目的語」

ZWEITER TEIL 第2部

zu ihm ツー・イム adv. 彼に対して

「間接目的語」

hätte. ハッテ 接 II・1 単現(haben)v.t 持つ

「動詞」

僕が彼に礼を言うと、彼は言った：「それでは、始めましょう」

Ich dankte ihm, und er sagte: «Dann also los.»

「主語」「動詞」「間接目的語」,und「主語」「動詞」:《「副詞句」》

Ich イッヒ pron 僕は

「主語」

dankte ダンクテ 1 単過(danken)v.i(j-3 に) 礼を言った

「動詞」

ihm, イム pron.3 格 彼に

「間接目的語」

und ウント conj. そして

er 彼は

「主語」

sagte: サークテ 3 単過(sagen)v.t 言った

「動詞」

«Dann ダン adv. それでは

「副詞」

also アルゾー adv. じゃあ

「副詞」

los.» ロース adv. (促しを表わして) とりかかりましょう

「副詞」

彼はベッドに腰を降ろして、当局は僕の私生活に関して調査を終えたと僕に説明した。

Er setzte sich auf das Bett und erklärte mir, man habe über mein Privatleben
Erkundigungen eingezogen.

「主語」「動詞句」「副詞句」und「動詞」「間接目的語」「直接目的語」

Er エア pron 彼は

「主語」

setzte sich セッツテ・スィッヒ 3 単過(sich-4 setzen)v.pr 腰を降ろした

「動詞句」

auf das Bett アウフ・ダス・ベット adv. ベッドに

「副詞句」

und ウント conj. そして

erklärte エアクレルテ 3 単過(erklären)v.t 説明した

「動詞」

mir, ミー pron.3 格 僕に

「間接目的語」

n. ～ということを

「直接目的語」

man マン pron 人は

「主語」

habe... eingezogen. ハーベ...アイン・ゲ・ツォーゲン 3 単現・完了形(ein | ziehen)

v.t (情報を) 収集した

「動詞句」

über ユーバー prep (対象) ～に関して

「間接目的語」

mein Privatleben マイン・フロヴァートレーベン

n.n.3 格 僕の私生活

「目的語」

Erkundigungen エアクンティゲンゲン

pl(Erkundigung).n.f.4 格 情報を

「直接目的語」

ZWEITER TEIL 第2部

当局は、僕の母さんが最近養老院で死んだことを確認した。

Man habe festgestellt, daß meine Mutter kürzlich im Altersheim gestorben sei.

「主語」「動詞句」「目的語」

Man マン pron 当局は

「主語」

habe festgestellt, ハーベ・フェストゲシュテルト 3 単現・完了形(fest | stellen)

v.t 確認した

「動詞句」

daß ダス conj. ～ということを

「目的語」

meine Mutter マイネ・ムター n.f 僕の母さんが

「主語」

kürzlich キュルツリヒ adv. 最近

「副詞」

im Altersheim イム・アルターズハイム adv. 養老院で

「副詞句」

gestorben sei. ゲシュトーベン・ザイ 接・3 単現・完了形(sterben)v.i 死んだ

「動詞句」

そこで当局はマレンゴで調査を行って、担当職員は僕が母さんの葬儀の日に「冷淡な一面」
を見せたことを知った。

Dann habe man in Marengo nachgefragt, Die hiermit beauftragten Beamten hätten erfahren, daß ich am Tage von Mamas Beerdigung «Gefühllosigkeit» gezeigt hätte.

「副詞」「動詞句」「主語」「副詞句」「動詞句」, 「主語」「動詞句」「目的語」

Dann ダン adv. そこで、それで

「副詞」

habe ...nachgefragt, ハーベ ...ナーハ・ゲ・フラークト 3 単現・完了形(nach | fragen)

v.i 問い合わせた、調査した

「動詞句」

man マン pron 当局は

「主語」

in Marengo イン・マレンゴ adv. (場所) マレンゴで

「副詞句」

Die hiermit beauftragten デー・イー・ヒアミット・ベアフトラーケン

adj.pl.1 格 これを委任された

「形容詞句」

Hiermit ヒアミット adv. このことに関する beauftragten ベアフトラーケン pl.n 委任された人

Beamten ベアムテン pl(Beamte).n.m 公務員は

「主語」

hätten erfahren, ハッテン・エアファーレン 接 II・3 複現・完了形(erfahren)v.t 知った

「動詞句」

daß ダス conj. ～ということを

「目的語」

ich イヒ pron 僕は

「主語」

am Tage アム・ターゲ adv. その日に

「副詞句」

von Mamas Beerdigung フォン・ママス・ベアデアイグUNG

adv. 母さんの葬儀の

「副詞句」

«Gefühllosigkeit» ゲ・フューローツィカイト n.f 冷淡を

「目的語」

gezeigt hätte. ゲツァイト・ヘッテ 接 II・1 単現・完了形(zeigen)v.t 見せた

「動詞句」

ZWEITER TEIL 第2部

「私がその事を訊ねるのは心苦しいと分かって頂けるとと思いますが、重要なことなのです」

«Sie können sich vorstellen, daß ich Sie nicht gern danach frage. Aber es ist sehr wichtig.

《「主語」「動詞句」「目的語」 | Aber 「主語」「動詞」「補語」》

«Sie ジー pron あなたは

「主語」

können sich vorstellen, ケネン・ズィット・フォアシュテルン 3 複現・可能

(können+不定詞 sich-4 vorstellen)v.pr 想像出来る

「動詞句」

daß ダス conj. ～ということを

「目的語」

ich イット pron 私が

「主語」

Sie ジー pron.4 格 あなたに

「直接目的語」

nicht gern ニヒト・ゲアン adv. 好んで～ない

「副詞句」

danach ダナハ adv. それについて

「間接目的語」

frage. フラーゲ 接・1 単現(fragen)v.t 尋ねる、訊ねる

「動詞」

Aber アーバー conj. しかし

es エス pron それは

「主語」

ist イスト 3 単現(sein)v.i ～である

「動詞」

sehr wichtig. セーア・ウァヒティヒ adj. 非常に重要な

「補語」

「私がそれについて何も反論できなければ、検察側にとって強力な論拠になるでしょう」

Es wird ein starkes Argument für die Anklage sein, wenn ich dem nichts entgegenzuhalten habe.»

《「主語」「動詞句」「補語」, 「副詞節」》

Es エス pron それは

「主語」

wird ...sein, ヴァィルト...ザィン 3 単現・推量・変化(werden+不定詞 sein)

v.i ～になるだろう

「動詞句」

ein starkes Argument アイン・シュタルク・アルグメント n.n.1 格 強力な論拠

「補語」

für die Anklage フュア・デー・アンクラゲ adv. 検察側にとって

「副詞句」

wenn ウェン conj. (条件) もしも～ならば

「副詞節」

ich イット pron 私が

「主語」

dem デーム pron.3 格 それについて

「間接目的語」

nichts ニッツ pron.4 格 何も～ない

「直接目的語」

entgegenzuhalten habe. エントゲー・ケンツァーハルテン・ハーベ 1 単現・完了形(entgegenzuhalten)

v.t 反論した

「動詞句」

ZWEITER TEIL 第2部

彼は僕の協力を望んでいた。彼は僕に、その時はとても悲しかったかと尋ねた。

Ich sollte ihm helfen. Er fragte mich, ob ich damals sehr traurig gewesen sei.

「主語」「動詞句」「間接目的語」「動詞句」

「主語」「動詞」「間接目的語」「直接目的語」

Ich イッヒ pron 僕は

「主語」

sollte ...helfen. ソルテ...ヘルフェン 1 単過・義務(sollen+不定詞 helfen)

v.i (j-3 を) 手伝わなければならなかった

「動詞句」

ihm イム pron.3 格 彼を

「間接目的語」

Er エア pron 彼は

「主語」

fragte フラクテ 3 単過(fragen)v.t(j-4 に) 尋ねた

「動詞」

mich, ミット pron.4 格 僕に

「間接目的語」

ob オップ conj. ～かどうかを

「直接目的語」

ich イッヒ pron 僕は

「主語」

damals ダーマルス adv. その時

「副詞」

sehr traurig ゼア・トラウリヒ adj. とても悲しい

「補語」

gewesen sei. サイ・ゲウェゼン 接・1 単現・完了形・状態(sein)

v.i ～だった

「動詞句」

フランス語の原文では：

彼は、僕の協力を望んでいた。彼は僕に、あの日は辛かったか、と尋ねた。

Il voulait que je l'aide. Il m'a demandé si j'avais eu de la peine ce jour-là.

この質問を聞いて僕はとても驚いた。そして、もし僕がその質問をしなければならなかったとしたら、とても心苦しかっただろうと思った。

Diese Frage verwunderte mich sehr, und es wollte mir scheinen, daß es mir sehr peinlich gewesen wäre, wenn ich sie hätte stellen müssen.

「主語」「動詞」「目的語」「副詞」,

und 「主語」「動詞句」「間接目的語」「動詞句」「補語」

Diese Frage ディーゼ・フラゲ n.f この質問は

「主語」

verwunderte フェアウンテアテ 3 単過(verwundern)v.t 驚かせた

「動詞」

mich ミット pron.4 格 僕を

「目的語」

sehr, ゼア adv. 非常に

「副詞」

und ウント conj. そして

es エス pron それは

「主語」

wollte ...scheinen, ヴォルテ...シャイン 3 単過・気配(wollen+不定詞 scheinen)

v.i ～に思われただろう

「動詞句」

ZWEITER TEIL 第2部

mir ミア pron.3 格 僕には	「間接目的語」
daß ダス conj. ～ということ	「補語」
es エス pron それ	「主語」
mir ミア pron.3 格 僕には	「間接目的語」
sehr peinlich セーア・ペ インリヒ adj. とても心苦しい	「補語」
gewesen wäre, ゲウエーゼン・ウエーレ 3 単過・完了形・状態(sein)v.i ～ だった	「動詞句」
wenn ウェン conj. (条件) もし～ならば	「副詞節」
ich イヒ pron 僕が	「主語」
sie ジー pron (Frage の代用) その質問を	「目的語」
hätte stellen müssen. ハッテ・シュテルン・ミュッセン 接 II・1 単現・完了形・必要	
v.t しなければならなかった	「動詞句」

僕はもう自分自身のことを深く考えることはないので、あまり答えられないと言った。

Ich antwortete, daß ich mich nicht mehr viel beobachte und ihm deswegen kaum Auskunft geben könne.

	「主語」「動詞」「目的語」
Ich イヒ pron 僕は	「主語」
antwortete, アントウァテ 1 単過(antworten)v.t(et-4 と) 答えた	「動詞」
daß ダス conj. ～ということを	「目的語」
ich イヒ pron 僕は	「主語」
mich ミヒ pron.4 格 自分自身を	「目的語」
nicht mehr viel beobachte ニヒト・メア・フィール・ベオバハテ 1 単現・否定(beobachten)	
v.t もうあまり観察しない	「動詞句」
und ウント conj. そして	
ihm イム pron.3 格 彼に	「間接目的語」
deswegen デスヴェーゲン adv. それゆえ	「副詞」
kaum カム adv. ほとんど～ない	「副詞」
Auskunft アウスクンフト n.f.4 格 情報を、回答を	「直接目的語」
geben könne. ゲーベン・ケンネ 接 II・可能(können+不定詞 geben)	
v.t 与えられないだろう	「動詞句」

もちろん僕は母さんをととても愛していた。だが、そんなことは何の意味も無い。

Natürlich mochte ich Mama sehr gern, aber das besagte ja nichts.

	「副詞」「動詞」「主語」「目的語」「副詞句」, aber 「主語」「動詞」「副詞」「目的語」
Natürlich ナチュアリヒ adv. もちろん、当然	「副詞」
mochte モヒテ 1 単過(mögen)v.t 愛していた	「動詞」

ZWEITER TEIL 第2部

ich イヒ pron 僕は	「主語」
Mama ママ n.f 母さんを	「目的語」
sehr gern, ゼーア・ゲアン adv. とても	「副詞句」
aber アーバー conj. しかし	
das ダス pron それは	「主語」
besagte ベザグテ 3 単過・時制の一致(besagen)v.t 意味する	「動詞」
ja ヤー adv. (強調) 絶対に	「副詞」
nichts. ニヒツ pron.4 格 何も～ない	「目的語」

健全な人なら、多かれ少なかれ、愛する人の死を望んだことがあるはずだ。

Alle gesunden Menschen wünschten mehr oder weniger den Tod derer, die sie liebten.

	「主語」「動詞」「副詞句」「目的語」
Alle gesunden アレ・ゲズンデテン adj(gesund).pl 全ての健全な	「形容詞句」
Menschen メンシェン pl(Mensch).n.m 人は	「主語」
wünschten ヲンシュテン 接 II・3 単過・推量(wünschen)v.t 望んでいただろう	「動詞」
mehr oder weniger メーア・オーダー・ヴェーニガー adv. 多かれ少なかれ	「副詞句」
den Tod テン・トット n.m.4 格 死を	「目的語」
derer, デーラー pron.2 格 人の	「形容詞」
die デーイー pron (目的語) ～する	「形容詞節」
sie シー pron.pl 彼らが	「主語」
liebten. リーブテン 3 複過・時制の一致(lieben)v.t 愛する	「動詞」

ここで弁護士が僕の話を書った。彼はとても興奮しているようだった。

Hier unterbrach mich der Anwalt; er schien sehr erregt.

	「副詞」「動詞」「目的語」「主語」; 「主語」「動詞」「補語」
Hier ヒア adv. ここで	「副詞」
unterbrach ウンターブラハ 3 単過(unterbrechen)v.t(j-4 の話を) 遮った	「動詞」
mich ミヒ pron.4 格 僕の話	「目的語」
der Anwalt; デア・アンヴァルト n.m 僕の弁護士が	「主語」
er エア pron 彼は	「主語」
schien シン 3 単過(scheinen)v.i (～のように) 見えた	「動詞」
sehr erregt. ゼーア・エレークト adj. とても興奮した	「補語」

ZWEITER TEIL 第2部

僕は彼に、公判でも予審判事の前でも二度とそのような事を言わないと約束しなければならなかった。

Ich mußte ihm versprechen, so etwas nie wieder zu sagen, weder in der Verhandlung noch vor dem Untersuchungsrichter.

「主語」「動詞句」「間接目的語」「動詞句」「直接目的語」

Ich イッヒ pron 僕は

「主語」

mußte ...versprechen, ムステ...フェアシュプ レヒェン 1 単過・必要(müssen+不定詞 versprechen)

v.t 約束しなければならなかった

「動詞句」

ihm イム pron.3 格 彼に

「間接目的語」

zu 不定句 n. ～することを

「直接目的語」

so etwas ザー・エトワース pron.4 格 そのような事を

「目的語」

nie wieder ニー・ワイダー adv. もう二度と～ない

「副詞句」

zu sagen, ツー・ザーゲン zu 不定詞 v.t 言う

「動詞句」

weder ヴェダー conj. (weder A noch B) A でも B でも～ない

「副詞句」

in der Verhandlung イン・デア・フェアハントルング adv. 公判で

「副詞句」

noch vor dem Untersuchungsrichter. ノッホ・フォー・デア・ウンターズーフウングスリヒター

adv. 予審判事の前でも

「副詞句」

僕は彼に、自分は肉体的な欲求が感情を押しよけることがよくある人間だと釈明した。

Ich erklärte ihm, bei mir sei es nun einmal so, daß meine körperlichen Bedürfnisse oft meine Gefühle verdrängten.

「主語」「動詞」「間接目的語」「直接目的語」

Ich イッヒ pron 僕は

「主語」

erklärte エークラテ 1 単過(erkennen)v.t 説明した、釈明した

「動詞」

ihm, イム pron.3 格 彼に

「間接目的語」

n. ～ということ

「直接目的語」

bei mir バイ・ミー adv. 僕にとって

「副詞句」

sei サイ 接・3 単現(sein)v.i ～である

「動詞」

es エス pron 仮の主語 (真の主語は daß 以降)

nun einmal so, ヌン・アインマル・ゾー adv. まさにその通りの

「補語」

Es ist nun einmal so. しよせんそういうことなのだ。

Ich bin nun einmal so. 私はそういう人間なのだ。

daß ダス conj. ～ということは

「主語」

meine körperlichen マイネ・ケルパ ーリヒェン

adj(körperlich).pl.1 格 肉体的な

「形容詞句」

Bedürfnisse ベートルフニッセ pl(Bedürfnis).n.n.1 格 欲求が

「主語」

ZWEITER TEIL 第2部

oft オフト adv. しばしば、頻繁に	「副詞」
meine Gefühle マイネ・ゲフューレ	
pl(Gefühl).n.n.4 格 自分の感情を	「目的語」
verdrängen. フェアトレンケン 3 複過・時制の一致(verdrängen)	
v.t 押しのける	「動詞」

母さんの葬儀の日、僕はとても疲れていて、その上眠かった。それで、何が起こったのか説明出来なかった。

An dem Tag von Mamas Beerdigung sei ich so erschöpft und müde gewesen, daß ich mir über das, was geschah, keine Rechenschaft habe geben können.

「副詞句」「動詞句」「主語」「補語」「動詞句」,

daß 「主語」「間接目的語」「副詞句」「直接目的語」「動詞句」

An dem Tag アン・デー・ターク adv. その日	「副詞句」
von Mamas Beerdigung フォン・ママス・ベアディグング adv. 母さんの葬儀の	「副詞句」
sei ...gewesen, サイ...ゲウェゼン 接・1 単現・完了形・状態受動(sein)v.i 〜だった	「動詞句」
ich イヒ pron 僕は	「主語」
so erschöpft ソー・エアショプ フト adj. 非常に疲れた	「補語」
und ウント conj. そして	
müde ミューデ adj. (疲れて) 眠い	「補語」
daß ダス conj. (結果) それで〜する	
ich イヒ pron 僕は	「主語」
mir ミーア pron 自分にとって	「間接目的語」
über das, ユーバー・ダス adv. それについて	「副詞句」
was ヴァス pron 何が	「主語」
geschah, ゲシャ 3 単過(geschehen)v.i 起こった	「動詞」
keine Rechenschaft カイネ・レチェンシャフト n.f 何も説明〜ない	「直接目的語」
habe geben können. ハーベ・ゲーベン・ケネ 1 単現・完了形・可能(können+不定詞 geben)	
v.t (否定文で) 示すことが出来なかった	「動詞句」

だが一つだけ、僕は確実に言える。母さんが死ななかつたほうが良かったと。

Eins aber könne ich mit Bestimmtheit sagen, daß es mir lieber gewesen wäre, Mama wäre nicht gestorben.

「目的語」「動詞句」「主語」「副詞句」「動詞句」, 「目的語」

Eins aber アインス・アーバー pron しかし一つ	「目的語」
können ...sagen, ケネ...サーゲン 接・1 単現・可能・推量(können+不定詞 sagen)	
v.t 言えるだろう	「動詞句」

ZWEITER TEIL 第2部

ich イッヒ pron 僕は	「主語」
mit Bestimmtheit ミット・ベスチムトハイト adv. 確実に	「副詞句」
daß ダス conj. ～ということを	「目的語」
es エス pron 仮の主語（真の主語は Mama 以降）	
mir ミーア pron.3 格 僕にとって	「間接目的語」
lieber リーバー adj. ～のほうがよい	「補語」
gewesen wäre, ゲベーゼン・ヴァーレ 接 II・3 単現・完了形(sein)	
v.i ～だったろう	「動詞句」
Mama ママ n.f 母さんが	「主語」
wäre nicht gestorben. ヴァーレ・ニヒト・ゲシュトヘン 接 II・3 単現・完了形・否定(sterben)	
v.i 死ななかった	「動詞句」

しかし、僕の弁護士は満足しているように見えなかった。彼は言った：「それでは十分ではない」

Aber mein Anwalt schien nicht sonderlich zufrieden zu sein. Er sagte: «Das genügt nicht.»

Aber 「主語」「動詞句」「補語」 | 「主語」「動詞」：《「主語」「動詞句」》

Aber アーバー conj. しかし	
mein Anwalt マイン・アンヴァルト n.m 僕の弁護士は	「主語」
schien nicht スーン・ニヒト 3 単過・否定(scheinen)v.i ～に見えなかった	「動詞句」
sonderlich zufrieden ゾンダー・リヒ・ツフリーデーン adj. (否定文で) あまり満足した～ない	「補語」
zu sein. ツー・ザイン 不定詞・状態 adv. ～である	「副詞句」
Er エア pron 彼は	「主語」
sagte: サークテ 3 単過(sagen)v.t 言った	「動詞」
«Das ダス pron それは	「主語」
genügt nicht.» ゲニュークト・ニヒト 3 単現・否定(genügen)v.i 十分でない	「動詞句」

彼は考え込んだ。それから、あの日僕は非常に感情を抑え込んでいたと言っても良いのではないだろうかと言った。僕に訊ねた。

Er überlegte. Er fragte mich, ob er er sagen dürfe. ich hätte mich damals sehr zusammengenommen.

「主語」「動詞」 | 「主語」「動詞」「間接目的語」「直接目的語」

Er エア pron 彼は	「主語」
überlegte. ユーバー・レークテ 3 単過(überlegen)v.t よく考えた、熟慮した	「動詞」
Er エア pron 彼は	「主語」
fragte フラクテ 3 単過(fragen)v.t(j-4 に) 尋ねた	「動詞」

ZWEITER TEIL 第2部

mich, ミッヒ pron.4 格 僕に	「間接目的語」
ob オフ conj. ～かどうかということ	「直接目的語」
er エア pron 彼は	「主語」
sagen dürfe, サーゲン・デュルフェ 接・3 単現・許可(dürfen+不定詞 sagen)	
v.t 言っても構わない	「動詞句」
ich イヒ pron 僕が～すると	「目的語」
hätte mich ...zusammengenommen. ハッテ・ミッヒ・ツァ・メンゲノメン 接 II・1 単現・完了形 (sich-4 zusammen nehmen)	
v.pr 自制していた、抑制していた	「動詞句」
damals ダマルス adv. あの日は	「副詞」
sehr セーア adv. 非常に	「副詞」

僕は答えた：「いいえ、それは真実ではない」

Ich entgegnete: «Nein, das entspricht nicht der Wahrheit.»

「主語」「動詞」：《「応答」, 「主語」「動詞句」「補語」》

Ich イヒ pron 僕は	「主語」
entgegnete: エントゲーゲ 祈 1 単過(entgegen)v.t 答えた	「動詞」
«Nein, ナイン adv. いいえ	「応答」
das ダス pron それは	「主語」
entspricht nicht エントシュプ・リヒト・ニヒト 3 単現・否定(entsprechen)	
v.i(et-3 に) 即していない	「動詞句」
der Wahrheit.» テア・ヴァールハイト n.f.3 格 真実	「補語」

彼は少し僕を嫌っているかのように、不思議そうに僕を見つめた。

Er sah mich ganz seltsam an, als verabscheute er mich ein bißchen.

「主語」「動詞句」「目的語」「副詞句」「動詞句」, 「副詞節」

Er エア pron 彼は	「主語」
sah ...an, サー...アン 3 単過(an sehen)v.t 見つめた、凝視した	「動詞句」
mich ミッヒ pron.4 格 僕を	「目的語」
ganz seltsam ゼルトサーム adv. まったく不思議そうに	「副詞句」
als アルス conj. まるで～するように	「副詞節」
verabscheute フェアラプ・ショイテ 3 単過・時制の一致(verabscheuen)v.t 忌み嫌う	「動詞」
er エア pron 彼は	「主語」
mich ミッヒ pron.4 格 僕を	「目的語」
ein bißchen. アイン・ヒースェン adv. 少し	「副詞句」

ZWEITER TEIL 第2部

彼はほとんど怒ったように、いずれにせよ養老院の院長と職員は証人として尋問されるだろう。それは「私にとって悪い結果」になるかもしれない。

Fast böse sagte er, auf alle Fälle würden der Direktor und das Personal des Heims als Zeugen vernommen werden, und das könnte «böse für mich ausgehen».

「副詞句」「動詞」「主語」, 「副詞句」「動詞句」「主語」「副詞句」「動詞句」
und 「主語」「動詞句」「補語」「動詞句」
Fast böse ファスト・ベーゼ adv. ほとんど怒ったように 「副詞句」
sagte サークテ 3 単過(sagen)v.t 言った 「動詞」
er, エア pron 彼は 「主語」
auf alle Fälle アウフ・アレ・フェレ adv. いずれにせよ 「副詞句」
würden ...vernommen werden, ヴェルンメン...フェアノメン・ヴェアテン 接 II・3 複現・受動
(werden+不定詞・受動形 vernommen werden)v.t 尋問されるだろう 「動詞句」
der Direktor デア・ディレクトール n.m 施設長は 「主語」
und ウント conj. そして
das Personal ダス・ペルソナル n.n 職員は 「主語」
des Heims デス・ハイムス n.n.2 格 養老院の、施設の 「形容詞句」
als Zeugen アルス・ツォイゲン adv. (資格) 証人として 「副詞句」
und ウント conj. そして
das ダス n.n それは 「主語」
könnte ...ausgehen». ケンテ...アウスゲーエン 接 II・3 単現・推量(können+不定詞 ausgehen)
v.i ~の結果になるかもしれない 「動詞句」
«böse ベーゼ adj. 悪い 「補語」
für mich フェア・ミヒ adv. 私にとって 「副詞句」

僕は彼にそれは僕の事件とは何も関係がないと指摘した。それに対して彼は、僕が明らかに裁判に関わった事がないだろうとだけ答えた。

Ich machte ihn darauf aufmerksam, daß das alles mit meinem Fall nichts zu tun habe, worauf er nur antwortete, offensichtlich hätte ich noch nie etwas mit dem Gericht zu tun gehabt.

「主語」「動詞」「目的語」「補語」, 「副詞」「主語」「動詞句」,
「副詞」「動詞句」「主語」「副詞」「目的語」「動詞句」
Ich イヒ pron 僕は 「主語」
machte マハテ 1 単過(machen)v.t ~をした 「動詞」
j-4 auf et-4 aufmerksam machen 「人-4 に何-4 を気付かせる」
ihn イン pron.4 格 彼を 「目的語」
darauf aufmerksam, ダラウフ・アウフメルクザーム adj. それについて気付いた 「補語」

ZWEITER TEIL 第2部

daß ^{ダス} conj. ～ということを	「目的語」
das alles ^{ダス・アレス} pron そのすべては	「主語」
mit meinem Fall ^{ミット・マイネン・ファル} adv. (関連) 僕の事件と	「副詞句」
nichts zu tun ^{ニヒツ・ツ・トゥン} pron するものが何も～ない	「目的語」
habe, ^{ハーベ} 3 単現(haben)v.t (否定文で) ～がない	「動詞」
worauf ^{ワラウフ} adv. それに対して	「副詞」
er ^{エア} pron 彼は	「主語」
nur antwortete, ^{ヌーア・アントウ・アテ} 3 単過(antworten)v.t ～とだけ答えた	「動詞句」
offensichtlich ^{オフエンズ・ヒトリヒ} adv. 明らかに	「副詞」
hätte ...gehabt. ^{ハッテ...ゲ・ハプト} 接 II・1 単現・完了形・推量(haben) v.t (否定文で) 持ったことがないだろう	「動詞句」
ich ^{イヒ} pron 僕は	「主語」
noch ^{ノッホ} adv. まだ	「副詞」
nie etwas ^{ニー・エトワ・アス} pron 何も～ない	「目的語」
mit dem Gericht ^{ミット・デーム・ゲリヒト} adv. 裁判と	「副詞句」
zu tun ^{ツ・トゥン} 不定詞・目的 adv. するべき	「副詞句」

彼は怒った顔をして、僕のもとを立ち去った。出来れば、彼を引き留めて彼の好意が必要なのだとさえ言えば良かったかもしれない。うまく弁護してもらうためではなく、言ってみれば、まったく自然な感情からだ。

Mit bösem Gesicht verließ er mich. Am liebsten hätte ich ihn zurückgehalten und ihm gesagt, daß mir viel an seiner Sympathie liege, nicht etwa, um besser verteidigt zu werden, sondern aus ganz natürlichen Gründen, wenn ich es so ausdrücken dürfe.

「副詞句」「動詞」「主語」「目的語」 | 「副詞句」「動詞句」「主語」「目的語」「動詞句」
und 「間接目的語」「動詞句」「直接目的語」, 「副詞句」

Mit bösem Gesicht ^{ミット・ベーセム・ゲジヒト} adv. (様態) 怒った顔で	「副詞句」
verließ ^{フェアリース} 3 単過(verlassen)v.t(j-4 のもとを) 離れた	「動詞」
er ^{エア} pron 彼は	「主語」
mich. ^{ミヒ} pron 僕のもとを	「目的語」
Am liebsten ^{アム・リープ・ステン} adv. 出来れば	「副詞句」
hätte ...zurückgehalten ^{ハッテ...ツリュック・ゲ・ハルテン} 接 II・1 単現・完了形・推量(zurück halten) v.t 引き留めるべきだった (がしなかった)	「動詞句」
ich ^{イヒ} pron 僕は	「主語」
ihn ^{イン} pron.4 格 彼を	「目的語」
und ^{ウント} conj. そして	
ihm ^{イム} pron.3 格 彼に	「間接目的語」

ZWEITER TEIL 第2部

gesagt, ゲザート 接 II・1 単現・完了形・推量(sagen)

v.t 言うべきだった (がしなかった) 「動詞句」

daß ダス conj. ～ということ 「直接目的語」

mir ミア pron 僕にとって 「間接目的語」

viel フィール adv. 大いに 「副詞」

an seiner Sympathie アン・ザ イー・ジムパティー adv. 彼の好感が 「副詞句」

liege, リーゲ 1 単現(liegen)v.i(viel an et-3 が) 大変重要である 「動詞」

Mir liegt viel an seiner Mitarbeit. 私には彼の協力がとても大切なのだ。

nicht etwa, ニヒト・エトワァ adv. ～ではなく 「副詞句」

um besser verteidigt zu werden, ウム・ベッサー・フェアタイディクト 過去分詞・受動・目的

adv. より良く弁護してもらうため 「副詞句」

sondern ゾンダーン adv. そうではなく 「副詞」

aus ganz natürlichen Gründen, アウス・ガンツ・ナチュアリヒエン・グリュンデッ

adv. まったく自然な理由から 「副詞句」

wenn ウェン conj. ～する時 「副詞節」

ich イヒ pron 僕が 「主語」

es エス pron それを 「目的語」

so ゾー adv. そのように 「副詞句」

ausdrücken dürfe. アウスドリュッケン・トゥリュフェ 接・1 単現・許可(dürfen+不定詞 ausdrücken)

v.t 言ってよい 「動詞句」

何よりも、彼が全く僕の返答に同意していないことに気付いた。

Vor allem merkte ich, daß er mit mir nicht ganz einverstanden war.

「副詞句」, 「動詞」「主語」「目的語」

Vor allem フォーア・アレム adv. 何よりも、とりわけ 「副詞句」

merkte メアクテ 1 単過(merken)v.t 気付いた 「動詞」

ich, イヒ pron 僕は 「主語」

daß ダス conj. ～ということ 「目的語」

er エア pron 彼が 「主語」

mit mir ミット・ミア adv. 僕に 「間接目的語」

nicht ganz ニヒト・ガンツ adv. まったく～ない 「副詞句」

einverstanden アインフェアシュタンデッ adj. 同意した 「補語」

war. ヴァール 3 単過・時制の一致(sein)v.i ～である 「動詞」

ZWEITER TEIL 第2部

彼は僕の事を理解できなくて、ちょっと怒っていた。

Er verstand mich nicht und war irgendwie böse auf mich.

「主語」「動詞句」「目的語」 und 「動詞」「補語」

Er エア pron 彼は

「主語」

verstand ...nicht フェアシュタント...ニト 3 単過・否定(verstehen)v.t 理解できなかった 「動詞句」

mich ミッヒ pron.4 格 僕のことを

「目的語」

und ウント conj. そして

war ヴァール 3 単過(sein)v.i ~ だった

「動詞」

irgendwie böse イルゲントワイー・ベーゼ adj. なんとなく怒った

「補語」

auf mich. アフ・ミッヒ adv. 僕に

「副詞句」

僕は彼にはっきり言うべきだった。僕は他のみんなと同じだ、まったく同じだと。

Ich hätte ihm gern versichert, daß ich genauso sei wie jeder andere, ganz genauso.

「主語」「動詞句」「間接目的語」「動詞句」, 「直接目的語」

Ich イッヒ pron 僕は

「主語」

hätte ...gern versichert, ハッテ...ゲアン・フェアズィヒヤート 接 II・1 単現・完了形(versichern)

v.t はっきり言うべきだった

「動詞句」

ihm イム pron.3 格 彼に

「間接目的語」

daß ダス conj. ~ということ

「直接目的語」

ich イッヒ pron 僕は

「主語」

genauso ゲナウ adv. 同じような

「補語」

sei サイ 接・1 単現(sein)v.i ~である

「動詞」

wie ヴァー conj.(比較) ~と

「副詞句」

jeder andere, イェダー・アンデレ pron ほかのみんな

「目的語」

ganz genauso. ガンツ・ゲナウ adj. まったく同じな

「補語」

しかし基本的に、何をやってもあまり意味が無い。面倒くさくなり放っておいた。

Aber im Grunde genommen hatte das alles nicht viel Sinn, und aus Trägheit verzichtete ich darauf.

Aber 「副詞句」「動詞」「主語」「目的語」, und 「副詞句」「動詞」「主語」「間接目的語」

Aber アーバー conj. しかし

im Grunde genommen イム・グルンデ・ゲノメン adv. 基本的には、根本においては

「副詞句」

hatte ハッテ 3 単過(haben)v.t ~があった

「動詞」

das alles ダス・アレス pron 全ては

「主語」

nicht viel Sinn, ニヒト・フィール・ズィン n.m.4 格 あまり意味が~ない

「目的語」

und ウント conj. そして

ZWEITER TEIL 第2部

aus Trägheit アウス・トレークハイト adv. (根拠) 怠惰から 「副詞句」
 verzichtete フェアツヒテテ 1 単過(verzichten)v.i 放棄した 「動詞」
 ich イヒ pron 僕は 「主語」
 darauf. ダラウフ adv. それについて 「間接目的語」

その後すぐに、僕はまた予審判事の前に連れて行かれた。

Bald danach wurde ich wieder dem Untersuchungsrichter vorgeführt.

「副詞句」「動詞句」「主語」「副詞句」「動詞句」

Bald バルト adv. まもなく、やがて 「副詞句」
 danach ダナハ adv. そのあとで 「副詞」
 wurde ...vorgeführt. ウルテ ...フォーア・ゲ・フェアト 1 単過・受動(werden+過去分詞 vorführen)
 v.t(j-3 人-3 の前に) 連れて行かれた 「動詞句」
 ich イヒ pron 僕は 「主語」
 wieder ウィーダー adv. また 「副詞」
 dem Untersuchungsrichter デーム・ウンターズ・フンクスリヒター n.m.3 格 予審判事の前に 「副詞句」

時刻は午後 2 時だった。今回は、彼の執務室は、ボイルのカーテン越しにほとんど和らげられずに光で溢れていた。

Es war zwei Uhr nachmittags, und dieses Mal war sein Zimmer voller Licht, das kaum durch einen Voile-Vorhang gedämpft wurde.

「主語」「動詞」「補語」,und「副詞句」「動詞」「主語」「補語」,
 「主語」「副詞句」「動詞句」

Es エス pron 時刻は 「主語」
 war ウェアル 3 単過(sein)v.i ~ だった 「動詞」
 zwei Uhr ツヴァイ・ウーア n.f 2 時 「補語」
 nachmittags, ナハミッタークス adv. 午後の 「副詞」
 und ウント conj. そして
 dieses Mal デーイーゼス・マール n.n.4 格 今回は 「副詞句」
 war ウェアル 3 単過(sein)v.i ~ だった 「動詞」
 sein Zimmer サイン・ツィマー n.n 彼の執務室は 「主語」
 voller Licht, フォラー・リヒト adj. 光で一杯の 「補語」
 das ダス pron (Zimmer の代用) 部屋は 「主語」
 kaum カウム adv. ほとんど〜ない 「副詞」
 durch einen Voile-Vorhang ドウルヒ・アイネ・ウォイル・フォアハング
 adv. ボイルカーテンを通して 「副詞句」
 gedämpft wurde. ゲテンプフト・ウルテ 3 単過・受動・否定文(werden+過去分詞 dämpfen)

ZWEITER TEIL 第2部

v.t 緩和されない

「動詞句」

ボイルのカーテン

極細の糸で織り上げられた生地で作られたカーテンのこと。ボイル生地は編んで作られたレース生地よりも薄くて、均等で程よい透け感がある。

ひどく暑かった。彼は僕を座らせてから、非常に丁寧に、僕の弁護士が「都合が悪」くな
って来られないと説明した。

Es war sehr heiß. Er ließ mich Platz nehmen und erklärte mir sehr höflich, mein Anwalt
wäre «leider verhindert» und könnte nicht kommen.

「主語」「動詞」「補語」

「主語」「動詞」「目的語」「補語」 und 「動詞」「間接目的語」「副詞句」「直接目的語」

Es エス pron 天気が

「主語」

war ヲァール 3 単過(sein)v.i ~ だった

「動詞」

sehr heiß. ゼーア・ハイス adj. とても暑い

「補語」

Er エア pron 彼は

「主語」

ließ リース 3 単過・使役(lassen)v.t(j-4+不定詞 人-4 に~を) させた

「動詞」

mich ミヒ pron.4 格 僕を

「目的語」

Platz プラツ n.m.4 格 座席を

「目的語」

nehmen ネメン 不定詞・mich の動作 v.t 取る、(席に) 座る

「補語」

und ウント conj. そして

erklärte エアクレアテ 3 単過(erklären)v.t 説明した

「動詞」

mir ミア pron.3 格 僕に

「間接目的語」

sehr höflich, ゼーア・ヘフリヒ adv. 非常に丁寧に

「副詞句」

n. ~ということ

「直接目的語」

mein Anwalt マイン・アンヴァルト n.m 僕の弁護士が

「主語」

wäre ヲェレ 接 II・3 単現・推量(sein)v.i ~である

「動詞」

«leider verhindert» ライダー・フェヒンダート 過去分詞(verhindern)・受動・原因

adv. あいにく都合がつかない

「補語」

und ウント conj. そして

könnte nicht kommen. ケンテ・ニヒト・コメン 接 II・3 単現・可能・否定(können+不定詞 kommen)

v.i 来られない

「動詞句」

ZWEITER TEIL 第2部

しかし僕には判事の質問に答えず、弁護士が僕に助言可能になるまで待つ権利がある。

Aber ich hätte das Recht, seine Fragen nicht zu beantworten und zu warten, bis mein Anwalt mir beistehen könnte.

Aber 「主語」「動詞」「目的語」

Aber アーバー conj. しかし

ich イッヒ pron 僕は

「主語」

hätte ヘッテ 接 II・1 単現(haben)v.t 〜がある

「動詞」

das Recht, ダス・レヒト n.n.4 格 権利が

「目的語」

zu 不定句・同格 adj. 〜という

「形容詞句」

seine Fragen サ イネ・フラーゲン pl(Frage).n.f 判事の質問に

「目的語」

nicht zu beantworten ニヒト・ツァー・ベアントゥェアテン zu 不定詞・否定(beantworten)

v.t 答えない

「動詞句」

und ウント conj. そして

zu warten, ツァー・ヴァルテン zu 不定詞・同格(warten)v.i 待つ

「動詞句」

bis ビス prep (時間的) 〜まで

「副詞節」

mein Anwalt マイン・アンヴァルト n.m 僕の弁護士が

「主語」

mir ミア pron 僕を

「間接目的語」

beistehen könnte. バイシュテエン・ケンテ 接 II・3 単現・可能(können+不定詞 beistehen)

v.i(j-3 を) 助けられる

「動詞句」

僕は一人だけで答えられると言った。彼は机の上のボタンに指で触れた。

Ich sagte, ich könne allein antworten. Er berührte mit dem Finger einen Knopf auf dem Schreibtisch.

「主語」「動詞」「目的語」 | 「主語」「動詞」「副詞句」「目的語」

Ich イッヒ pron 僕は

「主語」

sagte, サークテ 3 単過(sagen)v.t 言った

「動詞」

n. 〜ということ

「目的語」

ich イッヒ pron 僕は

「主語」

können ...antworten. ケネ...アントゥェアテン 接・1 単現・可能(können+不定詞 antworten)

v.t 答えられる

「動詞句」

allein アライン adv. 一人で

「副詞」

Er エア pron 彼は

「主語」

berührte ベルアテ 3 単過(berühren)v.t 触れた

「動詞」

mit dem Finger ミット・デー・フィンガー adv. (手段) 指で

「副詞句」

einen Knopf アイネ・クノッフ n.m.4 格 ボタンに

「目的語」

auf dem Schreibtisch. アウフ・デー・シュライフトィッシュ adv. 机の上の

「副詞句」

ZWEITER TEIL 第2部

若い書記が現れて、僕のほぼ真後ろに座った。

Ein junger Schreiber erschien und setzte sich fast genau hinter mich.

「主語」「動詞」 und 「動詞句」「副詞句」

Ein junger Schreiber イン・ユンガー・シュライバー n.m 若い書記が

「主語」

erschien エアシェン 3 単過(erscheinen)v.i 現れた

「動詞」

und ウント conj. そして

setzte sich セッツテ・ズィヒ 3 単過(sich-4 setzen)v.pr 座った

「動詞句」

fast genau hinter mich. ファスト・ゲナウ・ヒンター・ミヒ adv. 僕のほぼ真後ろに

「副詞句」

僕達は二人とも肘掛椅子でくつろいだ。

Wir machten es uns beide in unseren Sesseln bequem.

「主語」「動詞」「目的語」「副詞句」

Wir ヴァーイア pron.pl 僕たちは

「主語」

machten マハテン 1 複過(machen)v.t (動作を) した

「動詞」

es エス pron それを

「目的語」

uns beide ウンス・バイデ adv. 二人で

「副詞句」

in unseren Sesseln イン・ウンゼレン・セッセルン adv. 肘掛椅子で

「副詞句」

bequem. ベクヴァーム adv. 快適に、楽に

「副詞」

尋問が始まった。彼は僕に、世間では僕の事を秘密主義で無口な人間と思っている、そして彼はそれに対して僕がどのように対処するのかを知りたがっていた。

Das Verhör begann. Er sagte mir, man halte mich für einen verschwiegenen und verschlossenen Menschen, und er wolle wissen, wie ich mich dazu stelle.

「主語」「動詞」 | 「主語」「動詞」「間接目的語」「直接目的語」,

und 「主語」「動詞句」「目的語」

Das Verhör ダス・フェアフォア n.n 尋問が

「主語」

begann. ベガン 3 単過(beginnen)v.i 始まった

「動詞」

Er エア pron 彼は

「主語」

sagte サークテ 3 単過(sagen)v.t 言った

「動詞」

mir, ミア pron.3 格 僕に

「間接目的語」

n. ～ということを

「直接目的語」

man マン pron 人は

「主語」

halte ハルテ 接・3 単現(halten)v.t 思っている、持っている

「動詞」

mich ミヒ pron.4 格 僕を

「目的語」

für フェア prep (判断) ～として

「補語」

einen verschwiegenen フェア・アイネン・フェアシュヴァーゲネン

ZWEITER TEIL 第2部

pron.4 格 秘密主義の男	「目的語」
und ウント conj. そして	
verschlossenen Menschen, フェアシュロッセネン・メンシェン	
n.m.4 格 無口な人間	「目的語」
und ウント conj. そして	
er エア pron 彼は	「主語」
wolle wissen, ヴォル・ヴィッセン 接・3 単現・願望(wollen+不定詞 wissen)	
v.t 知りたがっている	「動詞句」
wie ヴァイ adv. どのように～するかということ	「目的語」
ich イヒ pron 僕は	「主語」
mich ...stelle. ミヒ...シュテレ 1 単現(sich-4 stellen)	
v.pr(zu et-3 ...に対して) ～の態度をとる	「動詞句」
dazu ダツァー adv. それに	「間接目的語」

僕は答えた：「話すことは無い。ともかく、黙っています」

Ich entgegnete: «Ich habe nie viel zu sagen. Da halte ich eben den Mund.»

「主語」「動詞」：

《「主語」「動詞」「目的語」 | 「副詞」「動詞」「主語」「副詞」「目的語」》

Ich イヒ pron 僕は	「主語」
entgegnete: エントゲーゲネテ 1 単過(entgegenen)v.t 答えた	「動詞」
«Ich イヒ pron 僕は	「主語」
habe ハーベ 1 単現(haben)v.t ～がある	「動詞」
nie viel ニー・フィール pron 沢山～ない	「目的語」
zu sagen. ツー・サーゲン 不定詞・目的 adj. 話すべき	「形容詞句」
Da ダー adv. それで	「副詞」
halte ハルテ 1 単現(halten)v.t 維持する	「動詞」
den Mund halten 黙る	
ich イヒ pron 僕は	「主語」
eben エーベン adv. ともかく	「副詞」
den Mund.» デン・ムント n.m.4 格 口を	「目的語」

ZWEITER TEIL 第2部

彼は最初の時のように微笑み、それは素晴らしい理由だと認めて、付け加えた：「ところで、それもあまり重要ではありません」

Er lächelte wie beim erstenmal, gab zu, daß das ein ganz ausgezeichneter Grund sei, und fügte hinzu: «Übrigens ist das auch ganz unwesentlich.»

「主語」「動詞」「副詞句」, 「動詞句」, 「目的語」, und 「動詞句」:
《「副詞」「動詞」「主語」「補語」》

Er エア pron 彼は 「主語」
 lächelte レヒェルテ 3 単過(lächeln)v.i 微笑んだ 「動詞」
 wie beim erstenmal, ヲー・バイム・エアステンマル adv. 最初の時のように 「副詞句」
 gab zu, ガーフ・ツー 3 単過(zu | geben)v.t 認めた 「動詞句」
 daß ダス conj. ～ということを 「目的語」
 das ダス pron それは 「主語」
 ein ganz ausgezeichneter アイン・ガント・アウスゲツァイケネー
 adj.m.1 格 非常に優れた 「形容詞句」
 Grund グルト n.m.1 格 理由 「補語」
 sei, サイ 接・3 単現(sein)v.i ～である 「動詞」
 und ウント conj. そして
 fügte hinzu: フュークテ...ヒンツ 3 単過(hinzu | fügen)v.t 付け加えた 「動詞句」
 «Übrigens ユーブ・リゲンス adv. ところで、ちなみに 「副詞」
 ist イスト 3 単現(sein)v.i ～である 「動詞」
 das auch ダス・アフ pron それも 「主語」
 ganz unwesentlich.» ガント・ウンヴェゼントリッヒ adj. あまり重要ではない 「補語」

それから彼は黙って僕を見つめ、突然起き上がって早口で言った：「私が興味があるのはあなたです」

Dann schwieg er, sah mich an, richtete sich plötzlich auf und sagte rasch: «Was mich interessiert, das sind Sie.»

「副詞」「動詞」「主語」, 「動詞句」「目的語」「動詞句」,
「動詞句」「副詞」「動詞句」 und 「動詞」「副詞」: 《「主語」「動詞」「補語」》

Dann ダン adv. それから 「副詞」
 schwieg シュヰーク 3 単過(schweigen)v.i 黙り込んだ 「動詞」
 er, エア pron 彼は 「主語」
 sah ...an, サー...アン 3 単過(an | sehen)v.t 見つめた 「動詞句」
 mich ミット pron.3 格 僕を 「目的語」
 richtete sich ...auf リヒテ・スィット...アフ 3 単過(sich-4 auf | richten)v.pr 起き上がった 「動詞句」
 plötzlich プレツツリッヒ adv. 突然、急に 「副詞」

ZWEITER TEIL 第2部

und ウント conj. そして	
sagte サークテ 3 単過(sagen)v.t 言った	「動詞」
rasch: ラッシュ adv. 早口で	「副詞」
«Was ヴァス pron 〜するものは	「主語」
mich ミッヒ pron.4 格 私の	「目的語」
interessiert, インテレエルト 3 単現(interessieren)v.t 興味をひく	「動詞」
das ダス pron それは	「主語」
sind シント 3 複現(sein)v.i 〜である	「動詞」
Sie. シー pron.1 格 あなた	「補語」

僕は彼が言った事がよく理解できなかったの、答えられなかった。

Ich verstand nicht recht, was er damit meinte, und antwortete nicht.

	「主語」「動詞句」「副詞」「目的語」,und「動詞句」
Ich イッヒ pron 僕は	「主語」
verstand nicht フェアシュタント・ニヒト 1 単過・否定(verstehen)v.t 理解できなかった	「動詞句」
recht, レヒト adv. 正しく、よく	「副詞」
was ヴァス pron 〜するものを	「目的語」
er エア pron 彼が	「主語」
damit ダミット adv. それによって	「副詞」
meinte, マイnte 3 単過(meinen)v.t 意味していた	「動詞」
und ウント conj. そして	
antwortete nicht. アントワァアテ・ニヒト 1 単過・否定(antworten)v.i 答えられなかった	「動詞句」

「あなたには何かがあります」と、彼は話を続けた。「私には理解できないのです。あなたはきっと私がそれを理解するのを手伝ってくれるでしょう」

«An Ihnen ist etwas», fuhr er fort, «das ich nicht zu fassen bekomme. Sie werden mir sicherlich helfen, es zu begreifen.»

	《「副詞句」「動詞」「主語」》,「動詞句」「主語」「動詞句」,
	《「形容詞節」 「主語」「動詞句」「間接目的語」「副詞」「動詞句」「補語」》
«An Ihnen アン・イーネン adv. あなたには	「副詞句」
ist イスト 3 単現・存在(sein)v.i 〜がある	「動詞」
etwas, エトヴァス pron 何か	「主語」
fuhr ...fort, フーア...フォート 3 単過(fort fahren)v.i (話を) 続けた	「動詞句」
er エア pron 彼は	「主語」
«das ダス pron (目的語) 〜する	「形容詞節」
ich イッヒ pron 私は	「主語」

ZWEITER TEIL 第2部

nicht zu fassen bekomme. ニヒト・ツァー・ファッセン・ベ・コメ 1 単過・否定(bekommen zu+不定詞 fassen)

v.t 理解できない

「動詞句」

et-4 zu 不定詞 bekommen 「何-4 を～できるようになる」

fassen ファッセン v.t 理解する

Sie ジー pron あなたは

「主語」

werden ...helfen, ヴァー・ヘルフェン 3 複未・推量(werden+不定詞 helfen)

v.i(j-3 を) 手伝うだろう

「動詞句」

mir ミー・ア pron.3 格 私を

「間接目的語」

sicherlich シュィー・リヒ adv. 必ず、きっと

「副詞」

zu 不定句・mir の動作

「補語」

es エス pron それを

「目的語」

zu begreifen. ツァー・ベ・グライフェン zu 不定詞 v.t 理解する

「動詞句」

3 格支配動詞

helfen (手伝う)、gefallen (気に入る)、gehören (～のもの)、danken (感謝する) などの動詞では、後ろに置く冠詞や人称代名詞などは必ず「3 格」にしなければならない。

Ich helfe meiner Mutter. (私は母を手伝う)

Die Jacke gefällt mir. (この上着を気に入りました)

Das Auto gehört mir. (この車は私のものです)

僕は、それは全てまったく単純なことだと言った。彼は僕にその日の出来事を説明するように求めた。

Ich sagte, es sei doch alles ganz einfach. Er forderte mich auf, die Ereignisse jenes Tages zu schildern.

「主語」「動詞」「目的語」 | 「主語」「動詞句」「間接目的語」「動詞句」「補語」

Ich イヒ pron 僕は

「主語」

sagte, サークテ 3 単過(sagen)v.t 言った

「動詞」

n. ～ということを

「目的語」

es エス pron それは

「主語」

sei サイ接・3 単現(sein)v.i ～である

「動詞」

doch alles ganz einfach. ドツホ・アレス・ガンツ・アインファッハ adj. まったく単純な

「補語」

Er エア pron 彼は

「主語」

forderte ...auf, フォールテ・アテ...アウフ 3 単過(auf|fordern)

v.t(j-4 zu et-3 人-4 に何-3 を) 要求した

「動詞句」

mich ミヒ pron.4 格 僕に

「間接目的語」

die Ereignisse デー・イー・エアイク・ニッセ pl(Ereignis).n.n.3 格 その事件を

「目的語」

jenes Tages イェネス・ターゲス adv. その日の「副詞句」

ZWEITER TEIL 第2部

zu schildern. ツー・シルダㇼン zu 不定詞・mich の動作 v.t 語る、説明する

「補語」

僕は以前に話したように説明した：レーモンのこと、浜辺、海水浴、殴り合い、ふたたび
浜辺、小さい泉、太陽そして 5 発の銃声。

Das tat ich, wie ich es schon einmal getan hatte: Raymond, der Strand, das Bad, der Streit, wieder der Strand, die kleine Quelle, die Sonne und die fünf Schüsse.

「目的語」「動詞」「主語」, 「副詞節」: 「目的語」

Das ダス pron.4 格 説明を、それを

「目的語」

tat タート 1 単過(tun)v.t (動作を) した

「動詞」

ich, イヒ pron 僕は

「主語」

wie ヲㇼ conj. どのように

「副詞節」

ich イヒ pron 僕が

「主語」

es エス pron それを「目的語」

schon einmal ショㇼン・アイマル adv. すでに一度

「副詞句」

getan hatte: ゲタン・ハッテ 1 単過・完了形(tun)v.t すでにした

「動詞句」

Raymond, レイモン n.m.4 格 レーモンのこと

「目的語」

der Strand, デア・シュトラント n.m.4 格 浜辺

「目的語」

das Bad, ダス・バート n.n.4 格 海水浴

「目的語」

der Streit, デア・シュトライト n.m.4 格 喧嘩、殴り合い

「目的語」

wieder ヲㇼター adv. 再び

「副詞」

der Strand, デア・シュトラント n.m.4 格 浜辺

「目的語」

die kleine Quelle, デㇼイー・クライネ・クヴェ n.f.4 格 小さい泉

「目的語」

die Sonne デㇼイー・ゾネ n.f.4 格 太陽

「目的語」

und ウント conj. そして

die fünf Schüsse. デㇼイー・フュフ・シュッセ pl(Schuss).n.m.4 格 5 発の銃声、5 回の発砲「目的語」

一区切りごとに、彼は言った：「よし、よし」それから僕が死体のことを話すと、彼はまた
頷いて言った：「よろしい！」

Bei jedem Satz sagte er: «Gut, gut.» Als ich dann von der Leiche sprach, sagte er wieder zustimmend: «Gut.»

「副詞句」「動詞」「主語」: 《「応答」》「副詞節」, 「動詞」「主語」「副詞句」: 《「応答」》

Bei バイ prep (同時) ーの際に

「副詞句」

jedem Satz イェーテム・ザッツ n.m.3 格 それぞれの文

「目的語」

sagte サㇼケ 3 単過(sagen)v.t 言った

「動詞」

er: エア pron 彼は

「主語」

«Gut, gut.» ゲㇼト・ゲㇼト adv. よしよし

「応答」

ZWEITER TEIL 第2部

Als アルス conj. ～した時	「副詞節」
ich イッヒ pron 僕が	「主語」
dann ダン adv. それから	「副詞」
von フォン prep (対象) ～について	「間接目的語」
der Leiche デア・ライヒェ n.f.3 格 死体	「目的語」
sprach, シュプ ラーハ 1 単過(sprechen)v.i 話した	「動詞」
sagte サークテ 3 単過(sagen)v.t 言った	「動詞」
er エア pron 彼は	「主語」
wieder ウィーダー adv. 再び	「副詞」
zustimmend: ツー・シュティメント現在分詞・同時 adv. うなずいて、同意して	「副詞句」
«Gut.» ゲート adv. よろしい	「応答」

僕は何度も同じ話をすることにうんざりした。そして、こんなにたくさん話したことは一度も無かったと思う。

Ich war es leid, immer wieder dieselbe Geschichte zu erzählen, und glaubte, noch nie soviel geredet zu haben.

「主語」「動詞」「間接目的語」「補語」, 「間接目的語」, und 「動詞」「目的語」	
Ich イッヒ pron 僕は	「主語」
war ヴァール 1 単過(sein)v.i ～ だった	「動詞」
es エス pron.4 格 それに (immer wieder 以降)	「間接目的語」
leid, ライト adj.(et-4) にうんざりした	「補語」
zu 不定句・同格 adj. ～ということ	「形容詞句」
immer wieder イマー・ウィーダー adv. しょっちゅう、何度も	「副詞句」
dieselbe Geschichte ディーゼルベ・ゲシヒテ n.f.4 格 同じ話を	「目的語」
zu erzählen, ツー・エアツェレン zu 不定詞 v.t 話す	「動詞句」
und ウント conj. そして	
glaubte, グラウプテ 1 単過・時制の一致(glauben)v.t 思う	「動詞」
zu 不定句 n. ～ということを	「目的語」
noch nie ノッホ・ニー adv. いまだかつて一度も～ない	「副詞句」
soviel ソ・フィール adv. そんなに、たくさん	「副詞」
geredet zu haben. ゲレーデット・ツー・ハーベン zu 不定詞・完了形 v.i 話した	「動詞句」

ZWEITER TEIL 第2部

短い沈黙の後で、彼は立ち上がって、言った。僕の手助けをしたい、僕は彼の興味を引く、そして神の助けによって僕のために何かをしたい。

Nach kurzem Schweigen stand er auf und sagte, er wolle mir helfen, ich interessiere ihn, und mit Gottes Hilfe wolle er etwas für mich tun.

「副詞句」「動詞句」「主語」「動詞句」 und 「動詞」, 「目的語」

Nach ナハ prep (時間的) ~の後で 「副詞句」

kurzem Schweigen クルツェム・シュヴァイゲン n.n.3 格 短い沈黙 「目的語」

stand ...auf シュタント...アウフ 3 単過(auf|stehen)v.i 立ち上がった 「動詞句」

er エア pron 彼は 「主語」

und ウント conj. そして

sagte, サークテ 3 単過(sagen)v.t 言った 「動詞」

n. ~ということ を 「目的語」

er エア pron 彼は 「主語」

wolle ...helfen, ヴォレ...ヘルフェン 接・3 単現・願望(wollen+不定詞 helfen)

v.t(j-3 を) 手助けしたい 「動詞句」

mir ミア pron.3 格 僕を 「間接目的語」

ich イヒ pron 僕は 「主語」

interessiere インテレスィーレ 1 単現(interessieren)v.t(j-4 の) 興味を引く 「動詞」

ihn, イン pron.4 格 彼の 「目的語」

und ウント conj. そして

mit Gottes Hilfe ミット・ゴッテス・ヒルフェ adv. 神の助けにより 「副詞句」

wolle ...tun. ヴォレ...トゥン 接・3 単現・願望(wollen+不定詞 tun)v.t したい 「動詞句」

er エア pron 彼は 「主語」

etwas für mich エとヴあす・フュア・ミヒ pron 僕のために何かを 「目的語」

しかしその前に、まだいくつか質問をしたいと言う。突然、彼は僕に、母さんを愛しているかと尋ねた。

Vorher aber wolle er mir noch ein paar Fragen stellen. Ganz unvermittelt fragte er mich, ob ich Mama liebe.

「副詞句」「動詞句」「主語」「間接目的語」「直接目的語」「動詞句」

「副詞句」「動詞」「主語」「間接目的語」「直接目的語」

Vorher aber フォアヘア・アーバー adv. しかしその前に 「副詞句」

wolle ...stellen. ヴォレ...シュテルン 接・3 単現・願望(wollen+不定詞 stellen)

v.t (質問を) したい 「動詞句」

er エア pron 彼は 「主語」

mir ミア pron.3 格 僕に 「間接目的語」

ZWEITER TEIL 第2部

noch ein paar Fragen ノッホ・アイン・パール・フラーゲン

pl(Frage).n.f.4 格 まだいくつかの質問を

「直接目的語」

Ganz unvermittelt ガンツ・ウンフェアミッテルト adv. 全く突然に

「副詞句」

fragte フラクテ 3 単過(fragen)v.t(j-4 に) 尋ねた

「動詞」

er エア pron 彼は

「主語」

mich, ミッヒ pron.4 格 僕に

「間接目的語」

ob オッパ conj. へかどうかを

「直接目的語」

ich イッヒ pron 僕は

「主語」

Mama ママ n.f 母さんを

「目的語」

liebe. リーベ 接・1 単現(lieben)v.t 愛している

「動詞」

僕は答えた：「はい、他の人と同じです」すると、それまで規則正しくタイプを打っていた
 書記がその瞬間に打ち間違えたに違いない。なぜなら、急に打てなくなったから。

Ich antwortete: «Ja, wie jeder andere auch», und der Schreiber, der sonst ganz
 regelmäßig Maschine schrieb, mußte sich in diesem Augenblick vertippt haben, denn er
 kam auf einmal nicht mehr mit.

「主語」「動詞句」：《「応答」「副詞句」》,und 「主語」「動詞句」「副詞句」「動詞句」,
 denn 「主語」「動詞句」「副詞句」「動詞句」

Ich イッヒ pron 僕は

「主語」

antwortete: アントウエ・オアテテ 1 単過(antworten)v.i 答えた

「動詞」

«Ja, ヤー adv. はい

「応答」

wie ウィー conj. へのように

「副詞句」

jeder andere イェーダー・アンデレ pron 他の人

「目的語」

auch», アウフ adv. へもまた

「副詞」

und ウント conj. そして

der Schreiber, デア・シュライバー n.m 書記は

「主語」

der デア pron (主語) へする

「形容詞節」

sonst ゴンスト adv. それまで、いつもは

「副詞」

ganz regelmäßig ガンツ・レーゲルメーシヒ adv. 全く規則正しく

「副詞句」

Maschine マシーネ n.f.4 格 タイプライターを

「目的語」

schrieb, シュリープ 3 単過(schreiben)

v.t 書いていた、(タイプを) 打っていた

「動詞」

mußte sich ...vertippt haben, ムステ・スィヒ...フェアティプト・ハーベン 3 単過・推量

(müssen+不定詞・完了形 sich-4 vertippen)v.pr 打ち間違えたに違いない

「動詞句」

in diesem Augenblick イン・デューゼム・アウゲンブリック adv. その瞬間に

「副詞句」

denn デン conj. なぜなら

ZWEITER TEIL 第2部

er エア pron 彼は	「主語」
kam ...mit. カム...ミット 3 単過(mit kommen)v.i ついていけなくなった	「動詞句」
auf einmal アウフ・アインマル adv. 急に	「副詞句」
nicht mehr ニヒト・メア adv. もう～ない	「副詞句」

何の脈絡も無しに、判事は僕に 5 発を続けざまに発射したのかと尋ねた。僕はよく考えてから、最初に 1 発を発射して、数秒後に他の 4 発を発射したと説明した。

Anscheinend gegen alle Logik fragte der Richter mich dann, ob ich die fünf Schüsse gleich hintereinander abgegeben hätte. Ich überlegte und erklärte dann, ich hätte zuerst einen Schuß abgegeben und nach einigen Sekunden die vier anderen.

「副詞句」「動詞」「主語」「間接目的語」「副詞」「直接目的語」

「主語」「動詞句」「副詞」「目的語」und「副詞句」「目的語」

Anscheinend アンシャイネント adv. (どうも) ～らしい	「副詞」
gegen alle Logik ゲーゲン・アレ・ローギク adv. 全ての首尾一貫性に反して	「副詞句」
fragte フラクテ 3 単過(fragen)v.t(j-4 に) 尋ねた	「動詞」
der Richter デア・リヒター n.m 判事は	「主語」
mich ミヒ pron.4 格 僕に	「間接目的語」
dann, ダン adv. そこで、その時	「副詞」
ob オップ conj. ～かどうかということ	「直接目的語」
ich イヒ pron 僕は	「主語」
die fünf Schüsse デー・イー・フュンフ・シュッセ pl(Schuss).n.m.4 格 5 発を	「目的語」
gleich hintereinander グライヒ・ヒンター・アインンダー adv. すぐ続けて	「副詞句」
abgegeben hätte. アップ・ゲ・ゲーベン・ヘッテ 接 II・1 単現・完了形(ab geben)	
v.t 発射した	「動詞句」
Ich イヒ pron 僕は	「主語」
überlegte ユーバー・レークテ 1 単過(überlegen)v.t よく考えた	「動詞」
und ウント conj. そして	
erklärte エアクレアテ 1 単過(erklären)v.t 説明した	「動詞」
dann, ダン adv. それから	「副詞」
ich イヒ pron 僕は	「主語」
hätte... abgegeben ヘッテ...アップ・ゲ・ゲーベン 接 II・1 単現・完了形(ab geben)	
v.t 発射した	「動詞句」
zuerst ツ・エアースト adv. 最初に	「副詞」
einen Schuß アイネン・シュス n.m.4 格 1 発を	「目的語」
und ウント conj. そして	
nach einigen Sekunden ナーハ・アイニゲン・セクンデテン adv. 数秒後に	「副詞句」

ZWEITER TEIL 第2部

die vier anderen. デーイーファー・アンデレン pl(andere).pron.4 格 他の4発を 「目的語」

「どうしてあなたは1発目から2発目の間に待ったのですか？」と、それから彼は尋ねた。

«Weshalb haben Sie zwischen dem ersten und dem zweiten Schuß gewartet?» fragte er dann.

《「副詞」「動詞句」「主語」「副詞句」「動詞句」》, 「動詞」「主語」

«Weshalb ヲェスハルフ adv. どうして 「副詞」

haben ...gewartet? ハーベン...ゲ・ヴァルテット 3 複現・完了形・疑問文(warten)

v.i 待ったのか? 「動詞句」

Sie シー pron あなたは 「主語」

zwischen ツヰッシェン prep (3 格と) ~の間に 「副詞句」

dem ersten デーム・エアステン adj(erst).m.3 格 第1の 「形容詞句」

und ウント conj. そして

dem zweiten デーム・ツヰァイテン adj(zweit).m.3 格 第1の 「形容詞句」

Schuß シュス n.m.3 格 発砲 「目的語」

fragte フラクテ 3 単過(fragen)v.t 尋ねた 「動詞」

er エア pron 彼は 「主語」

dann. ダン adv. それから 「副詞」

またしてもあの赤い砂浜が見えて、燃えるような太陽の熱を額に感じた。

Wieder sah ich den roten Strand, und ich spürte das Brennen der Sonne auf meiner Stirn.

「副詞」「動詞」「主語」「目的語」, und 「主語」「動詞」「目的語」「副詞句」

Wieder ヲィダー adv. またもや、またしても 「副詞」

sah ザー 1 単過(sehen)v.t 見えた 「動詞」

ich イッヒ pron 僕は 「主語」

den roten Strand, デン・ローテン・シュトラント n.m.4 格 赤い砂浜が 「目的語」

und ウント conj. そして

ich イッヒ pron 僕は 「主語」

spürte シュビ°ユルテ 1 単過(spüren)v.t 感じた 「動詞」

das Brennen ダス・ブレネン n.n.4 格 燃焼、焼け付き 「目的語」

der Sonne デア・ゾネ n.f.2 格 太陽の 「形容詞句」

auf meiner Stirn. アウフ・マイナー・シュティルン adv. 額の上に 「副詞句」

ZWEITER TEIL 第2部

しかし、今回は答えなかった。

Aber dieses Mal antwortete ich nicht.

Aber 「副詞句」「動詞句」「主語」「動詞句」

Aber アーバー conj. しかし

dieses Mal デーイーゼス・マル n.n.4 格 今回は

「副詞句」

antwortete ...nicht. アントゥェ・アテテ...ニヒト 1 単過・否定(antworten)v.t 答えなかった

「動詞句」

Ich イヒ pron 僕は

「主語」

その後に続いた沈黙の間中、判事はますます興奮しているように見えた。

Während des Schweigens, das darauf folgte, schien der Richter immer aufgerechter zu werden.

「副詞句」, 「動詞」「主語」「補語」

Während ヲェーレント prep (2 格と) ~の間じゅう

「副詞句」

des Schweigens, デス・シュヰァイゲンス n.n.2 格 沈黙

「目的語」

das ダス pron (主語) ~する

「形容詞節」

darauf ダラウフ adv. その後に

「副詞」

folgte, フォルゲテ 3 単過(folgen)v.i 続いた

「動詞」

schien シーン 3 単過(scheinen)v.i ~のように見えた

「動詞」

der Richter デアー・リヒター n.m 判事は

「主語」

immer aufgerechter イマー・アウフゲレーグター adj. ますます興奮した

「補語」

zu werden. ツー・ウェアデテン 不定詞・変化(werden)v.i ~になる

「動詞句」

彼は座って、髪を掻きむしり、机に肘をついた。それから奇妙な顔つきで僕のほうに屈みこんだ。

Er setzte sich, wühlte in seinem Haar, stemmte die Ellbogen auf den Schreibtisch und beugte sich dann mit seltsamem Gesichtsausdruck zu mir:

「主語」「動詞句」, 「動詞」「間接目的語」, 「動詞」「目的語」「副詞句」 und
「動詞句」「副詞句」

Er エア pron 彼は

「主語」

setzte sich, セッツテ・スィヒ 3 単過(sich-4 setzen)v.pr 座った

「動詞句」

wühlte ヲェールテ 3 単過(wühlen)v.i(in を) (髪などを) かきむしった

「動詞」

in seinem Haar, イン・ザイネム・ハール adv. 髪を

「間接目的語」

stemmte シュテムテ 3 単過(stemmen)v.t 強く押し当てた

「動詞」

die Ellbogen デイー・エルボヘーゲン pl(Ellbogen).n.m 肘を

「目的語」

auf den Schreibtisch アウフ・デーン・シュライプ・ティッシュ adv. 机の上に

「副詞句」

und ウント conj. そして

ZWEITER TEIL 第2部

beugte sich ^{ボイテ・スィヒ} 3 単過(sich-4 beugen)v.pr 屈みこんだ 「動詞句」
dann ^{ダン} adv. それから 「副詞」
mit seltsamem Gesichtsausdruck ^{ミット・セルトサーメン・ゲジヒツアウストルック}
adv. 奇妙な顔つきで 「副詞句」
zu mir: ツー・ミーア adv. 僕のほうへ 「副詞句」

「どうして、どうしてあなたは地面に横たわる死体に向けて撃ったのですか？」それに対しても、僕はどんな答えも出来なかった。

«Warum, warum haben Sie auf die Leiche am Boden geschossen?» Auch darauf wußte ich keine Antwort.

《「副詞句」, 「動詞句」「主語」「間接目的語」「動詞句」》,
「間接目的語」「動詞」「主語」「直接目的語」

«Warum, warum ^{ワアルム・ワアルム} adv. なぜ、どうして 「副詞句」
haben ...geschossen?» ^{ハーベン...ゲショッセン} 3 複現・完了形・疑問文(schießen)
v.i 撃ったのですか? 「動詞句」
Sie ^{ジー} pron あなたは 「主語」
auf die Leiche ^{アウフ・デー・ライヒェ} adv. 死体に向けて 「間接目的語」
am Boden ^{アム・ボーテン} adv. 地面にある 「副詞句」
Auch darauf ^{アウフ・ダラウフ} adv. それについても 「間接目的語」
wußte ^{ヴステ} 1 単過(wissen)v.t 分かった 「動詞」
ich ^{イヒ} pron 僕は 「主語」
keine Antwort. ^{カイン・アントゥォト} n.f どんな答えもない 「直接目的語」

判事は額に手をあて、少し大きな声でその質問を繰り返した。

Der Richter strich sich mit den Händen über die Stirn und wiederholte seine Frage etwas lauter.

「主語」「動詞」「間接目的語」「副詞句」「間接目的語」 und
「動詞」「目的語」「副詞句」

Der Richter ^{デア・リヒター} n.m 判事は 「主語」
strich ^{シュトリヒ} 3 単過(streichen)v.i(j-3 über et-4) (人-3 の何-4 を) なでた 「動詞」
sich ^{スィヒ} pron.3 格 自分の 「間接目的語」
mit den Händen ^{ミット・テン・ヘンデン} adv. 手で 「副詞句」
über die Stirn ^{ユーバー・デー・シュティルン} adv. 額を 「間接目的語」
und ^{ウント} conj. そして
wiederholte ^{ワイダーホルテ} 3 単過(wiederholen)v.t 繰り返した 「動詞」
seine Frage ^{ザイネ・フラーゲ} n.f.4 格 彼の質問を 「目的語」

ZWEITER TEIL 第2部

etwas lauter. エトワ^ス・ラウター adv. 少し大きな声で

「副詞句」

「どうして？それを私に話してください。どうして？」僕は相変わらず黙っていた。

«Warum? Das müssen Sie mir sagen! Warum?» Ich schwieg immer noch.

《「副詞」 | 「直接目的語」「動詞句」「主語」「間接目的語」「動詞句」》,
「主語」「動詞」「副詞句」«Warum? ウ^{アルム} adv. なぜ、どうして

「副詞」

Das ダス pron それを

「直接目的語」

müssen ...sagen! ミュッセン...ザーゲン 3 複現・必要・依頼(müssen+不定詞 sagen)

v.t 言って下さい！

「動詞句」

Sie ジー pron あなたは

「主語」

mir ミーア pron.3 格 私に

「間接目的語」

Warum?» ウ^{アルム} adv. なぜ、どうして

「副詞」

Ich イヒ pron 僕は

「主語」

schwieg シュウ^{イク} 1 単過(schweigen)v.i 黙っていた

「動詞」

immer noch. イマー・ノッホ adv. 相変わらず

「副詞句」

突然、彼は立ち上がり、大股で執務室の端まで進むと、書類戸棚の引き出しを開けた。

Plötzlich stand er auf, ging mit großen Schritten an das Ende seines Arbeitszimmers
und öffnete die Schublade eines Aktenschrankes.「副詞」「動詞句」「主語」「動詞句」, 「動詞」「副詞句」「間接目的語」
und 「動詞」「目的語」Plötzlich プ^{レツリヒ} adv. 突然

「副詞」

stand ...auf, シュタント...アフ 3 単過(auf|stehen)v.i 立ち上がった

「動詞句」

er エア pron 彼は

「主語」

ging キング^グ 3 単過(gehen)v.i 進んだ

「動詞」

mit großen Schritten ミット・グ^{ローセン}・シュリッテン adv. (手段) 大股で、大きな歩幅で 「副詞句」an das Ende アン・ダス・エンデ^グ adv. (方向) 端のほうへ

「間接目的語」

seines Arbeitszimmers サ^{イネス}・アルハ^{イツイマース} adj. 執務室の

「形容詞句」

und ウント conj. そして

öffnete エフネテ 3 単過(öffnen)v.t 開けた

「動詞」

die Schublade テ^{イー}・シュプ^{ラーテ} n.f.4 格 引き出しを

「目的語」

eines Aktenschrankes. アイネス・アクテンシュランケス adj. 書類戸棚の

「形容詞句」

ZWEITER TEIL 第2部

彼は中から銀の十字架を取り出した。それから僕の目の前にそれを突き出した。

Er holte ein silbernes Kruzifix heraus, das er mir dann vorhielt.

「主語」「動詞」「目的語」「副詞」,

「直接目的語」「主語」「間接目的語」「副詞」「動詞句」

Er エア pron 彼は

「主語」

holte ホルテ 3 単過(holen)v.t 取り出した

「動詞」

ein silbernes Kruzifix アイン・ズィルベルネス・クルツィフィクス n.n.4 格 銀の十字架を

「目的語」

heraus, ヘラウス adv. 中から

「副詞」

das ダス pron.4 格 それを

「直接目的語」

er エア pron 枯葉

「主語」

mir ミーア pron.3 格 僕に

「間接目的語」

dann ダン adv. それから

「副詞」

vorhielt. フォーア・ヒールト 3 単過(vor|halten)v.t (人の前に) 差し出した

「動詞句」

彼はまるで人が変わったような震える声で叫んだ：「あなたはこの人を知っていますか？」

僕は言った：「ええ、もちろんです」

Mit ganz veränderter, fast bebender Stimme rief er: «Kennen Sie den?» Ich sagte: «Ja, natürlich.»

「副詞句」「動詞」「主語」：《「動詞」「主語」「目的語」》

「主語」「動詞」：《「応答」》

Mit ミット prep (手段) 〜で

「副詞句」

ganz veränderter, ガンツ・フェアエンデター 過去分詞

adj. 全く変わった

「形容詞句」

fast bebender Stimme ファスト・ベベンダー・シュティメ adv. ほとんど震える声

「目的語」

rief リーフ 3 単過(rufen)v.i 叫んだ

「動詞」

er: エア pron 彼は

「主語」

«Kennen ケネ 3 複現・疑問文(kennen)v.t 知っていますか

「動詞」

Sie ジー pron あなたは

「主語」

den?» デン pron.4 格 この人を

「目的語」

Ich イット pron 僕は

「主語」

sagte: サークテ 3 単過(sagen)v.t 言った

「動詞」

«Ja, ヤー adv. はい

「応答」

natürlich.» ナチュアリヒ adv. もちろん

「応答」

ZWEITER TEIL 第2部

すると彼は早口で情熱的な口調で言った。彼は神を信じている。彼の確信によると、誰も神が許さない程罪深くはない。ただそのためには、人は改悛によって心が純粋で、全てを受け入れる準備ができた子供のようにならなければならない。

Dann sagte er hastig und leidenschaftlich, er glaube an Gott, seiner Überzeugung nach sei niemand so schuldig, daß Gott ihm nicht verzeihe, nur müsse dazu der Mensch durch seine Reue wie ein Kind werden, dessen Seele rein ist und bereit, alles aufzunehmen.

「副詞」「主語」「動詞」「副詞句」, 「主語」「動詞」「間接目的語」,

「副詞句」「動詞」「主語」「補語」, 「副詞」「動詞句」「副詞」「主語」「補語」「動詞句」

Dann	ダン adv. すると	「副詞」
sagte	サーケ 3 単過(sagen)v.t 言った	「動詞」
er	エア pron 彼は	「主語」
hastig	アステヒ adv. 急いで	「副詞」
und	ウント conj. そして	
leidenschaftlich,	ライテンシャフトリヒ adv. 情熱的に	「副詞」
er	エア pron 彼は	「主語」
glaube	グラウベ 3 単現(glauben)v.i(an の存在を) 信じている	「動詞」
an Gott,	アン・ゴット adv. 神を	「間接目的語」
seiner Überzeugung nach	ザイナール・ユーバーツォイグング・ナハ adv. 彼の確信によると	「副詞句」
sei	ザイ 接・3 単現・推量(sein)v.i だろう	「動詞」
niemand	ニーマント pron 誰も～ない	「主語」
so schuldig,	ゾー・シュルディヒ adj. それ程罪深い	「補語」
daß	ダス conj.(so...daß) ～するほど	「副詞節」
Gott	ゴット n.m 神が	「主語」
ihm	イム pron 彼を	「目的語」
nicht verzeihe,	ニヒト・フェアツァイヒ 接・3 単現・否定(verzeihen) v.t 許さない	「動詞句」
nur	ヌア adv. ただ	「副詞」
müsse ...werden,	ミュッセ...ヴェアデレン 接・3 単現・必要(müssen+不定詞 werden) v.i ～にならなければならない	「動詞句」
dazu	ダツァー adv. そのためには	「副詞」
der Mensch	デア・メンシュ n.m 人は	「主語」
durch seine Reue	ドゥアルヒ・ザイネ・ロエ adv. (手段) 改悛によって	「副詞句」
wie ein Kind	ヴィー・アイン・キント adv. 子供のように	「補語」
dessen Seele	デーゼン・セーレ n.f その魂は	「形容詞節」
rein	ライン adj. 純粋な	「補語」
ist	イスト 3 単現(sein)v.i ～である	「動詞」

ZWEITER TEIL 第2部

und ウント conj. そして

bereit, ベライト adj. 準備のできた

「補語」

alles aufzunehmen. アレス・アウフ・ツァー・ネーメン zu 不定句

adv. 全てを受け入れる

「副詞句」

彼は上半身全体で机に覆いかぶさり、ほとんど僕の頭上でその十字架を振り回した。

Er neigte den Oberkörper weit über den Tisch. Er schwang das Kruzifix fast über mir.

「主語」「動詞」「目的語」「副詞句」 | 「主語」「動詞」「目的語」「副詞句」

Er エア pron 彼は

「主語」

neigte ナイクテ 3 単過(neigen)v.t 傾けた

「動詞」

den Oberkörper デン・オーベル・ケアル・ペル n.m.4 格 上半身を

「目的語」

weit ヲァイト adv. 幅広く

「副詞」

über den Tisch. ユーバー・デン・ティッシュ adv. 机の上に

「副詞句」

Er エア pron 彼は

「主語」

schwang シュヴァンク 3 単過(schwingen)v.t 振り回した

「動詞」

das Kruzifix ダス・クルツィフィックス n.n.4 格 その十字架を

「目的語」

fast über mir. ファスト・ユーパー・ミア adv. ほとんど僕の頭上で

「副詞句」

正直に言うと、僕は彼の話に全くついていけなかった。なぜなら、第一に暑すぎたから。

それに、彼の部屋には大きなハエがいて、僕の顔にとまったから。それから、僕は少し彼が怖かったから。

Offen gestanden war ich seinen Bekenntnissen sehr schlecht gefolgt - einmal, weil mir zu heiß war und dicke Fliegen in seinem Zimmer waren, die sich auf mein Gesicht setzten, und dann, weil ich etwas Angst vor ihm hatte.

「副詞句」「動詞句」「主語」「目的語」「副詞句」 - 「副詞」「副詞節」, und 「副詞節」

Offen gestanden オフフェン・ゲシュタンデン adv. 正直に言うと

「副詞句」

war ...gefolgt ヲァール...ゲフォルクト 1 単過・完了形(folgen)v.i ついて行った

「動詞句」

ich イヒ pron 僕は

「主語」

seinen Bekenntnissen ザイン・ベケントニッセン n.n.4 格 彼の話を

「目的語」

sehr schlecht セーア・シュレヒト adv. とてもひどく～ない

「副詞句」

- einmal, アインマル adv. ある時は、一つには

「副詞」

weil ヲァイル conj. (理由) ～なので

「副詞節」

mir ミア pron 僕にとって

「間接目的語」

zu heiß ツァー・ハイス adj. 暑すぎる

「補語」

war ヲァール 3 単過(sein)v.i ～だった

「動詞」

und ウント conj. そして

ZWEITER TEIL 第2部

dicke Fliegen ディッケ・フリーゲン pl(Fliege).n.f 大きなハエが	「主語」
in seinem Zimmer イン・ザ・イネム・ツィマー adv. 彼の部屋に	「副詞句」
waren, ヴァレン 3 複過(sein)v.i (存在) 〜がいた	「動詞」
die デー pron.f.pl それが	「主語」
sich ...setzen, スィヒ...ゼッツェン 3 複過(sich-4 setzen)v.pr とまった	「動詞句」
auf mein Gesicht アウフ・マイン・ゲジヒト adv. 僕の顔の上に	「副詞句」
und ウント conj. そして	
dann, ダン adv. それから	「副詞」
weil ヴァイル conj. (理由) 〜だから	「副詞節」
ich イヒ pron 僕は	「主語」
etwas Angst エトワ・アス・アングスト n.f.4 格 少しの恐れを	「目的語」
vor ihm フォア・イム adv. 彼に対して	「副詞句」
hatte. ハッテ 1 単過(haben)v.t 持っていた	「動詞」

それに、結局のところ犯罪者は僕なのだから、それは馬鹿げていると思った。しかし、彼は話し続けた。

Außerdem fand ich das einfach lächerlich, weil schließlich ich der Verbrecher war. Aber er redete weiter.

「副詞」「動詞」「主語」「目的語」「補語」 Aber 「主語」「動詞」「副詞」	
Außerdem アウサーデーム adv. さらに、その上	「副詞」
fand ファント 1 単過(finden)v.t 思った	「動詞」
ich イヒ pron 僕は	「主語」
das ダス pron それを	「目的語」
einfach lächerlich, アインファハ・レツヒヤールヒ adj. まったく馬鹿げた	「補語」
weil ヴァイル conj. (理由) 〜なので	「副詞節」
schließlich シュリースリヒ adv. 結局は	「副詞」
ich イヒ pron 僕は	「主語」
der Verbrecher デア・フェアブレッヒヤー n.m 犯罪者	「補語」
war. ヴァール 1 単過・時制の一致(sein)v.i 〜である	「動詞」
Aber アーバー conj. しかし	
er エア pron 彼は	「主語」
redete レーデテ 3 単過(reden)v.i 話した	「動詞」
weiter. ヴァイター adv. さらに、引き続いて	「副詞」

ZWEITER TEIL 第2部

僕は少しずつ分かって来た。彼の意見では、僕の自白には一つだけ不明なところがあるというのだ：僕が 2 発目を少しためらったという事実だ。それ以外は整然としていた。だが彼はそこだけ理解できなかった。

Allmählich wurde mir klar, daß seiner Meinung nach mein Geständnis nur einen dunklen Punkt enthielt: die Tatsache, daß ich mit dem zweiten Schuß etwas gezögert hatte. Alles andere war in Ordnung, nur das konnte er nicht verstehen.

「副詞」「動詞」「間接目的語」「補語」「主語」：「補語」

「主語」「動詞」「補語」, 「目的語」「動詞句」「主語」

Allmählich アルマーヒ adv. 徐々に

「副詞」

wurde ウルデ 3 単過・変化(werden)v.i ~ になった

「動詞」

mir ミア pron.3 格 僕にとって

「間接目的語」

klar, クラール adj. 明白な

「補語」

daß ダス conj. ~ ということが

「主語」

seiner Meinung nach ザイアー・マイヌング・ナハ adv. 彼の意見によると

「副詞句」

mein Geständnis ナーハ・マイン・ゲシュタントニス n.n 僕の自白は

「主語」

nur einen dunklen Punkt ノーア・アイネン・トウンクレン・プンクト

n.m.4 格 1 点だけ不明な部分を

「目的語」

enthielt: エントヒールト 3 単過・時制の一致(enthaltен)v.t 含んでいる

「動詞」

die Tatsache, ディー・タートザヘ n.f 事実

「補語」

daß ダス conj. (同格) ~ という

「形容詞節」

ich イヒ pron 僕は

「主語」

mit dem zweiten Schuß ミット・デーム・ツヴァイテン・シュス adv. 2 発目に

「副詞句」

etwas エトワース adv. 少し、いづらか

「副詞」

gezögert hatte. ゲツォーゲアト・ハッテ 1 単過・完了形(zögern)

v.i 躊躇した、ためらった

「動詞句」

Alles andere アレス・アンデレ pron それ以外は全て

「主語」

war ウァール 3 単過(sein)v.i ~ だった

「動詞」

in Ordnung, イン・オルトスング adj. 整然とした

「補語」

nur ノーア adv. ただ~だけ

「副詞」

das ダス pron それを

「目的語」

konnte ...nicht verstehen. コンテ...ニヒト・フェアシュテエン 3 単過・可能・否定

(können+不定詞 verstehen)v.t 理解できなかった

「動詞句」

er エア pron 彼は

「主語」

ZWEITER TEIL 第2部

僕はそれについてこだわるべきではない、この点はそれ程重要でないと言いたかった。

Ich wollte ihm sagen, daß er nicht darauf bestehen sollte: dieser Punkt sei gar nicht so wichtig.

「主語」「動詞句」「間接目的語」「動詞句」「直接目的語」

Ich イッ pron 僕は

「主語」

wollte ...sagen, ヲォルテ...ザーゲン 1 単現・願望(wollen+不定詞 sagen)

v.t 言いたかった

「動詞句」

ihm イム pron.3 格 彼に

「間接目的語」

daß ダス conj. ～ということを

「直接目的語」

er エア pron 彼は

「主語」

nicht ...bestehen sollte: ニヒト...ベシュテエン・ゾルテ 3 単過・義務・否定(sollen+不定詞 bestehen)

v.i(auf et-3 を) 固執すべきではなかった

「動詞句」

darauf ダラウフ adv. それについて

「間接目的語」

dieser Punkt ディーサー・プンクト n.m この点は

「主語」

sei サイ 接・3 単現・主観(sein)v.i ～である

「動詞」

gar nicht so wichtig. ガール・ニヒト・ゾー・ウヒティヒ adj. それ程重要でない「補語」

しかし、彼は僕の話を通り、全身で立ち上がり、最後に僕に警告して、神を信じるかと尋ねた。僕は信じないと答えた。

Aber er schnitt mir das Wort ab, und zu seiner ganzen Länge aufgerichtet, ermahnte er mich zum letztenmal und fragte, ob ich an Gott glaube. Ich verneinte.

Aber 「主語」「動詞句」「間接目的語」「直接目的語」「動詞句」,

und 「副詞句」, 「動詞」「主語」「目的語」「副詞句」

und 「動詞」「目的語」 | 「主語」「動詞句」

Aber アーバー conj. しかし

er エア pron 彼は

「主語」

schnitt ...ab, シュニット...アッ 3 単過(ab|schneiden)v.t(j-3 et-4 人-3 の何-4 を) 遮った「動詞句」

mir ミア pron.3 格 僕の

「間接目的語」

das Wort ダス・ウァート n.n.4 格 言葉を、話を

「直接目的語」

und ウント conj. そして

zu seiner ganzen Länge ツー・ザ・イアー・ガンツェン・レンゲ adv. (様態) 全身で

「副詞句」

aufgerichtet, アウフゲリヒテット 過去分詞(auf|richten)adj. 立ち上がった

「形容詞」

ermahnte エアマンテ 3 単過(ermahnen)v.t 忠告した

「動詞」

er エア pron 彼は

「主語」

mich ミヒ pron.4 格 僕を

「目的語」

zum letztenmal ツーム・レツツテンマル adv. 最後に

「副詞句」

ZWEITER TEIL 第2部

und ウント conj. そして	
fragte, フラクテ 3 単過(fragen)v.t 尋ねた	「動詞」
ob オップ conj. ～かどうかということ	「目的語」
ich イヒ pron 僕は	「主語」
an Gott アン・ゴット adv. 神を	「間接目的語」
glaube, グラウベ 1 単現(glauben)v.i(an j-4 の存在を) 信じる	「動詞」
Ich イヒ pron 僕は	「主語」
verneinte, フェアインテ 1 単過(verneinen)v.t ノーと答えた	「動詞」

彼は憤慨して座った。彼は言った。そんなことはあり得ない。人は皆、彼から顔をそむけた人でさえ、神を信じている。

Empört setzte er sich. Er sagte, das sei unmöglich, alle Menschen glaubten an Gott, auch die die sich von ihm abwandten.

「副詞」「動詞句」「主語」「動詞句」	
「主語」「動詞」, 「主語」「動詞」「補語」, 「主語」「動詞」「間接目的語」, 「主語」	
Empört エムペーアト adv. 怒って、憤慨して	「副詞」
setzte ...sich. セッツテ...ズイヒ 3 単過(sich-4 setzen)v.pr 座った	「動詞句」
er エア pron 彼は	「主語」
Er エア pron 彼は	「主語」
sagte, サークテ 3 単過(sagen)v.t 言った	「動詞」
das ダス pron それは	「主語」
sei サイ 接・3 単現(sein)v.i ～である	「動詞」
unmöglich, ウンメルクヒ adj. ありえない、不可能な	「補語」
alle Menschen アル・メンシェン pl(Mensch).n.m すべての人は	「主語」
glaubten グラウプテン 接 II・3 複現(glauben)v.i(an j-4 を) 信じている	「動詞」
an Gott, アン・ゴット adv. 神を	「間接目的語」
auch die アウフ・デー adv. 人でさえ	「主語」
die デー pron (主語) ～する	「形容詞節」
sich ...abwandten. スイヒ...アッパウアンテン 3 複過(sich-4 ab wenden)	
v.pr 顔をそむけた	「動詞句」
von ihm フォン・イム adv. 彼から	「副詞句」

ZWEITER TEIL 第2部

それが彼の信念であり、彼がいつかそれを疑わなければならないとしたら、その時、彼の人生はもはや何の意味も持たなくなるだろう。

Das sei seine Überzeugung, und müßte er jemals daran zweifeln, dann hätte sein Leben keinen Sinn mehr.

「主語」「動詞」「補語」,und「動詞句」「主語」「間接目的語」「動詞句」,
「副詞」「動詞」「主語」「目的語」「副詞」

Das ダス pron. それが 「主語」
sei サイ 接・3 単現・推量(sein)v.i ~である 「動詞」
seine Überzeugung, サイネ・ユヴァツォイクング n.f.1 格 彼の信念 「補語」
und ウント conj. そして
müßte... zweifeln, ムステ...ツヴァイフェルン 接 II・3 単現・必要・推量(müssen+不定詞 zweifeln)
v.i(an et-3 を) 疑わなければならない 「動詞句」
er エア pron. 彼は 「主語」
jemals イェーマルス adv. いつか 「副詞」
daran ダラン adv. それについて 「間接目的語」
dann ダン adv. その時 「副詞」
hätte ヘッテ 接 II・3 単現・推量(haben)v.t ~があるだろう 「動詞」
sein Leben サイン・レーベン n.n 彼の人生は 「主語」
keinen Sinn カイネン・シン n.m.4 格 何の意味も~ない 「目的語」
mehr. メア adv. もはや~ない 「副詞」

「あなたは望むのですか？」と、彼は叫んだ。「私の人生が無意味になることを」

«Wollen Sie», schrie er, «daß mein Leben keinen Sinn hat?»

《「動詞」「主語」》,「動詞」「主語」,《「目的語」》

«Wollen ウォレン 3 複現・疑問文(wollen)v.t 望むのですか? 「動詞」
Sie», ジー pron. あなたは 「主語」
schrie シュリー 3 単過(schreien)v.i 叫んだ 「動詞」
er, エア pron. 彼は 「主語」
«daß ダス conj. ~ということ を 「目的語」
mein Leben マイン・レーベン n.n 私の人生が 「主語」
keinen Sinn カイネン・シン n.m.4 格 何の意味も~ない 「目的語」
hat?» ハット 3 単現(haben)v.t ~がある 「動詞」

ZWEITER TEIL 第2部

僕の考えでは、それは僕とは関係ない事だったので、彼にもそう言った。

Meiner Meinung nach ging mich das nichts an, und das sagte ich ihm auch.

「副詞句」, 「動詞句」 「間接目的語」 「主語」 「直接目的語」 「動詞句」, und

「直接目的語」 「動詞」 「主語」 「間接目的語」

Meiner Meinung nach マイナー・マイヌング・ナーハ adv. 僕の考えでは

「副詞句」

Nach meiner Meinung も使われる

ging ...an, キング ...アン 3 単過(an | gehen)v.t(j-4 人-4 に) 関係した

「動詞句」

mich ミッヒ pron.4 格 僕に

「間接目的語」

das ダス pron それは

「主語」

nichts ニッツ pron.4 格 何も〜ない

「直接目的語」

und ウント conj. そして

das ダス pron それを

「直接目的語」

sagte サークテ 1 単過(sagen)v.t 言った

「動詞」

ich イッヒ pron 僕は

「主語」

ihm イム pron.3 格 彼に

「間接目的語」

auch. アウフ adv. 〜も

「副詞」

しかし、すでにテーブルの向こうから、彼は再びキリスト像を僕の鼻先へかざして、憑かれたように叫んでいた。

Aber über den Tisch hinweg hielt er mir schon wieder den Christus vor die Nase und schrie wie besessen:

Aber 「副詞句」, 「動詞」 「主語」 「間接目的語」 「副詞句」 「直接目的語」 「副詞句」

und 「動詞」 「副詞句」

Aber アーバー conj. しかし

über ユーバー prep (空間的) 〜を越えて、〜の向こうから

「副詞句」

den Tisch デン・ティッシュ n.m.4 格 テーブル

「目的語」

hinweg ヒンヴェック adv. 〜を越えて

「副詞」

über et-4 hinweg 「何-4 を越えて」

hielt ヒールト 3 単過(halten)v.t かざした

「動詞」

er エア pron 彼は

「主語」

mir ミーア pron.3 格 僕に

「間接目的語」

schon ショーン adv. もう、早くも

「副詞」

wieder ウィーダー adv. 再び

「副詞」

den Christus デン・クリストゥス n.m.4 格 キリスト像を

「直接目的語」

vor die Nase フォア・デイー・ナーセ adv. 鼻先へ

「副詞句」

und ウント conj. そして

ZWEITER TEIL 第2部

schrie シェリー 3 単過(schreien)v.i 叫んでいた

「動詞」

wie besessen: ヲィー・ベゼッセン adv. 憑かれたように

「副詞句」

「私はキリスト教徒です。私はこの人にあなたの過ちの許しを請います。どうしてあなたは、この人があなたの代理として苦しんだことが信じられないのですか」

«Ich bin Christ. Ich bitte den hier um Vergebung deiner Sünden. Wie kannst du nicht glauben, daß er auch für dich gelitten hat?»

《「主語」「動詞」「補語」 | 「主語」「動詞」「間接目的語」「直接目的語」
「副詞」「動詞句」「主語」「動詞句」「目的語」》

«Ich イッヒ pron 私は

「主語」

bin ビン 1 単現(sein)v.i 〜である

「動詞」

Christ. クリスト n.m キリスト教徒

「補語」

Ich イッヒ pron 私は

「主語」

bitte ビッテ 1 単現(bitten)v.t(j-4 um et-4 人-4 に何-4 を) 請う、求める

「動詞」

den hier デン・ヒア pron.4 格 この人に

「間接目的語」

um Vergebung ウム・フェアゲーブング adv. 赦しを

「直接目的語」

deiner Sünden. ダイアー・ズンデン pl(Sünde).n.f.2 格 あなたの過ちの「形容詞句」

Wie ヲィー conj. (理由) どうして〜する

「副詞」

kannst ...nicht glauben, カnst...ニヒト・グラウベン 2 単現・可能・否定(können+不定詞 glauben)

v.t 信じられない

「動詞句」

du ドゥ pron 君は

「主語」

daß ダス conj. 〜ということを

「目的語」

er エア pron 彼が

「主語」

auch für dich アウフ・フュア・ディッヒ adv. 君のためにも、君の代理として

「副詞句」

gelitten hat?» ゲリッテン・ハット 3 単現・完了形(leiden)v.i 苦しんだ

「動詞句」

僕は彼が僕に対して親し気な口の利き方をしていることに気が付いた。もう沢山だった。

Ich merkte, daß er mich duzte, und hatte nun genug.

「主語」「動詞」「目的語」,und 「動詞」「副詞句」

Ich イッヒ pron 僕は

「主語」

merkte, 1 単過(merken)v.t 気付いた

「動詞」

daß ダス conj. 〜ということを

「目的語」

er エア pron 彼は

「主語」

mich ミヒ pron.4 格 僕を

「目的語」

duzte, ドゥッツテ 3 単過・時制の一致(duzen)v.t 親しそうに話しかける

「動詞」

und ウント conj. そして

ZWEITER TEIL 第2部

hatte ハッテ 1 単過・時制の一致(haben)v.t 〜がある	「動詞」
nun ヌン adv. もう	「副詞」
genug. ゲヌク adv. 十分に	「副詞」

暑さがさらに酷くなってきた。ほとんど話を聞かない相手を厄介払いしたい時にいつもするように、僕は同意したふりをした。

Die Hitze wurde immer ärger. Wie stets, wenn ich jemanden loswerden will, dem ich kaum zuhøre, tat ich so, als stimmte ich zu.

「主語」「動詞」「補語」 | 「副詞句」, 「動詞」「主語」「副詞句」

Die Hitze デー・ヒツェ n.f 暑さが	「主語」
wurde ウルデ 3 単過・変化(werden)v.i 〜になった	「動詞」
immer ärger. イマー・エアグー adj. さらに酷い	「補語」
Wie stets, ヴァー・ステツ adv. いつものように	「副詞句」
wenn ウェン conj. 〜するとき	「副詞節」
ich イヒ pron 僕が	「主語」
jemanden イェマンテン pron.4 格 誰かを	「目的語」
loswerden will, ロース・ヴァーデン・ヴァイル 1 単現・願望(wollen+不定詞 loswerden) v.t 厄介払いしたい	「動詞句」
dem デーム pron その人の話を	「形容詞節」
ich イヒ pron 僕は	「主語」
kaum カム adv. ほとんど〜ない	「副詞」
zuhøre, ツー・ヘレ 1 単現(zuhören) v.i 耳を傾ける	「動詞」
tat タート 1 単過(tun)v.t (動作を) した	「動詞」
ich イヒ pron 僕は	「主語」
so, ソー adv. そのように	「副詞」
als アル conj. あたかも〜であるかのように	「副詞節」
stimmte ...zu. シュティムテ...ツ 1 単過(zu stimmen)v.i 同意した	「動詞句」
ich イヒ pron 僕は	「主語」

ZWEITER TEIL 第2部

驚いたことに、彼は勝ち誇った：「ほら見なさい！ほら見なさい！これで君も信じて、彼に心中を打ち明けるだろう？」

Zu meiner Überraschung triumphierte er: «Siehst du, siehst du! Du glaubst also, und du wirst dich ihm anvertrauen?»

「副詞句」「動詞」「主語」：《「呼びかけ」

「主語」「動詞」「副詞」,und「主語」「動詞句」「直接目的語」「間接目的語」》

Zu ツー prep (手段) ～ことに 「副詞句」

meiner Überraschung マイナー・ユーバーラシク n.f.3 格 私の驚き 「目的語」

triumphierte トリumpfイェルテ 3 単過(triumphieren)v.i 勝ち誇った 「動詞」

er: エア pron 彼は 「主語」

«Siehst du, シー・スト・トゥ adv. ほら見なさい 「呼びかけ」

siehst du! シー・スト・トゥ adv. ほら見なさい 「呼びかけ」

Du トゥ pron あなたは 「主語」

glaubst グラウプ・スト 2 単現(glauben)v.i 信じる 「動詞」

also, アルゾー adv. それでは 「副詞」

und ウント conj. そして

du トゥ pron あなたは 「主語」

wirst ...anvertrauen? ウィルスト...アンフェルトラウエン 2 単末(werden+不定詞 anvertrauen)

v.pr(sich-4 j-3 人-3 に自分のことを) 打ち明ける 「動詞句」

dich ディヒ pron.4 格 自分の心中を 「直接目的語」

ihm イム pron.3 格 彼に 「間接目的語」

僕はまたきっちり否定した。彼は肘掛椅子に倒れ込んだ。

Das habe ich wohl wieder verneint. Er ließ sich in den Sessel zurückfallen.

「目的語」「動詞句」「主語」「副詞句」「動詞句」 | 「主語」「動詞」「目的語」「補語」

Das ダス pron それを 「目的語」

habe ...verneint. ハーベ...フェアナイト 1 単現・完了形(verneinen)v.t 否定した 「動詞句」

ich イヒ pron 僕は 「主語」

wohl ヴォール adv. しっかり 「副詞」

wieder ヴィーダー adv. また 「副詞」

Er エア pron 彼は 「主語」

ließ リース 3 単過・使役(lassen)v.t ～させた 「動詞」

sich スィヒ pron.4 格 自分自身を 「目的語」

in den Sessel イン・デン・ゼッセル adv. 肘掛椅子に 「副詞句」

zurückfallen. ツェックファレン 不定詞・sich の動作 v.i 倒れる 「補語」

ZWEITER TEIL 第2部

彼はひどく疲れているように見えた。彼はしばらく黙り込んだ。その間、会話について来
ていたタイプライターは最後の文を打ち続けていた。

Er sah sehr müde aus. Er schwieg eine Weile, während die Maschine, die dem Gespräch
gefolgt war, die letzten Sätze nachholte.

「主語」「動詞句」「補語」「動詞句」 「主語」「動詞」「副詞句」, 「副詞節」	
Er エア pron 彼は	「主語」
sah ...aus. サー...アウス 3 単過(aus sehen)v.i ~のように見えた	「動詞句」
sehr müde セーア・ミュデ adj. ひどく疲れた	「補語」
Er エア pron 彼は	「主語」
schwieг シュウィーク 3 単過(schweigen)v.i 無言でいた	「動詞」
eine Weile, アイネ・ヴァイレ n.f.4 格 しばらくの間	「副詞句」
während ヴェーレント conj. ~している間	「副詞節」
die Maschine, デーイー・マシーネ n.f タイプライターが	「主語」
die デーイー pron (主語) ~する	「形容詞節」
dem Gespräch デーム・ゲシュプ レーヒ adv. 会話を	「間接目的語」
gefolgt war, ゲフォルクト・ヴァール 3 単過・完了形(folgen)	
v.i(j-3 を) 追っていた	「動詞句」
die letzten Sätze デーイー・レッツテン・セッツェ pl(Satz).n.m.4 格 最後の文を	「目的語」
nachholte. ナーハ・オルテ 3 単過(nach holen)v.t 遅れを取り戻していた	「動詞句」

それから彼は注意深くそして少し悲しそうに僕を見つめた。彼は呟いた：「私はあなたほ
ど頑固な人を見たことはありません。ここで私の前に立った犯罪者はいつも、この苦痛の
姿を見ると泣き崩れました」

Dann sah er mich aufmerksam und etwas traurig an. Er murmelte: «Noch nie habe
ich einen so verstockten Menschen erlebt wie Sie. Die Verbrecher, die hier vor mir
gestanden haben, sind vor diesem Bild des Schmerzes immer in Tränen ausgebrochen.»

「副詞」「動詞句」「主語」「目的語」「副詞」「動詞句」 「主語」「動詞」:	
《「動詞句」「主語」「目的語」「動詞句」「副詞句」 「主語」「動詞句」「副詞句」》	
Dann ダン adv. それから	「副詞」
sah ...an. サー 3 単過(an sehen)v.t 見つめた	「動詞句」
er エア pron 彼は	「主語」
mich ミヒ pron.4 格 僕を	「目的語」
aufmerksam アウフマアクザーム adv. 注意深く	「副詞句」
und ウント conj. そして	
etwas traurig エトヴァス・トラウリヒ adv. 少し悲しそうに	「副詞句」
Er エア pron 彼は	「主語」

ZWEITER TEIL 第2部

murmelte: ムルメルテ 3 単過(murmeln)v.t 呟いた	「動詞」
«Noch nie habe ...erlebt ノッホ・ニー・ハーベ ...エアレプ ト 1 単現・完了形・否定(erleben)	
v.t 一度も体験したことがない	「動詞句」
ich イヒ pron 私は	「主語」
einen so verstockten Menschen アイネンゾー・フェアシュトクテン・メンシェン n.m.4 格 頑固な人を「目的語」	
wie Sie. ヲイー・ジー conj. あなたのように	「副詞句」
Die Verbrecher, デーイー・フェアブレイヤー n.m 犯罪者は	「主語」
die デーイー pron (主語) ～する	「形容詞節」
hier ヒアー adv. ここで	「副詞」
vor mir フォア・ミーア adv. 私の前で	「副詞句」
gestanden haben, ゲシュタンデン・ハーベン 3 複現・完了形(stehen)	
v.i 立った	「動詞句」
sind ...ausgebrochen. シント...アウス・ゲ・ブ ロヘン 3 複現・完了形(aus brechen)	
v.i(in ～で) 感情を爆発させた	「動詞句」
vor diesem Bild フォア・デーゼム・ビルト adv. この姿の前で	「副詞句」
des Schmerzes デス・シュメルツェス n.m.2 格 苦痛の	「形容詞句」
immer イマー adv. いつも	「副詞」
in Tränen イン・トレネン adv. 涙を流して	「副詞句」

僕は答えようとした：それはまさに彼らが犯罪者だからだ。

Ich wollte antworten: eben weil es sich um Verbrecher gehandelt habe.

「主語」「動詞句」：「副詞節」

Ich イヒ pron 私は	「主語」
wollte antworten: ヲォルテ・アントゥォルテン 1 単過・願望(wollen+不定詞 antworten)	
v.t 答えようとした、答えたかった	「動詞句」
eben weil エーベン・ヴァイレ conj. (理由) まさに～だから	「副詞節」
es エス pron それは	「主語」
sich スィヒ pron.pl 彼らは	「目的語」
um Verbrecher ウム・フェアブレイヤー adv. 犯罪者	「補語」
gehandelt habe. ゲハントェルト・ハーベ 3 単現・完了形(handeln)	
v.i ～の話である	「動詞句」
es handelt sich-4 um et-4 「何-4 のことである」	

ZWEITER TEIL 第2部

しかし、僕も犯罪者の 1 人だということが頭に浮かんだ。僕はこの考えを受け入れることが出来なかった。

Aber mir fiel ein, daß ich ja auch einer war. Mit diesem Gedanken konnte ich nicht fertig werden.

Aber 「間接目的語」「動詞」「主語」 | 「間接目的語」「動詞句」「主語」「補語」「動詞句」

Aber アーバー conj. しかし

mir ミーア pron.3 格 僕に

「間接目的語」

fiel ein, フィール・アイン 1 単過(ein | fallen)v.i(j-3 に) 心に浮かんだ

「動詞句」

daß ダス conj. ～ということが

「主語」

ich イット pron 僕は

「主語」

ja ヤー adv. そうだ

「副詞」

auch einer アウフ・アイナー pron ～もその一人

「補語」

war. ヴァール 1 単過(sein)v.i ～ だった

「動詞」

Mit diesem Gedanken ミット・ディエセム・ゲダソケン adv. この考えに

「間接目的語」

konnte ...werden. コンテ...グェアデソ 1 単過・可能・変化(kennen+不定詞 werden)

v.i ～になれなかった

「動詞句」

ich イット pron 僕は

「主語」

nicht fertig ニヒト・フェアティヒ adj. 克服した～ない

「補語」

それから判事は立ち上がったが、あたかも審問はもう終わったと僕に知らせるようだった。

Dann stand der Richter auf, als wollte er mir zu verstehen geben, daß das Verhör beendet sei.

「副詞」「動詞句」「主語」「動詞句」, 「副詞節」

Dann ダソ adv. それから

「副詞」

stand ...auf, シュタント...アウフ 3 単過(auf | stehen)v.i 立ち上がった

「動詞句」

der Richter デア・リジター n.m 判事は

「主語」

als アルス conj. あたかも～であるかのように

「副詞節」

wollte ...geben, ヴォルテ...ゲーベン 3 単過・願望(wollen+不定詞 geben)

v.t 言いたかった

「動詞句」

er エア pron 彼は

「主語」

mir ミーア pron.3 格 僕に

「間接目的語」

zu verstehen ツー・フェアシュテエン 不定詞 mir の動作 v.t 理解する、分かる

「補語」

daß ダス conj. ～ということを

「目的語」

das Verhör ダス・フェアヘア n.n. 審問は

「主語」

beendet sei. ベエンデット・ザイ 接・3 単現・完了形(beenden)

v.t 終わった

「動詞句」

ZWEITER TEIL 第2部

ただ彼は同じように少し疲れた顔で、自分のしたことを後悔しているかと僕に尋ねた。

Er fragte mich nur noch mit demselben etwas müden Gesicht, ob ich meine Tat bereue.

「主語」「動詞」「間接目的語」「副詞句」, 「直接目的語」

Er エア pron 彼は

「主語」

fragte フラクテ 3 単過(fragen)v.t(j-4 に) 尋ねた

「動詞」

mich ミッヒ pron.4 格 僕に

「間接目的語」

nur noch ヌーア・ノッホ adv. ただ

「副詞句」

mit ミット prep (手段) 〜で

「副詞句」

demselben etwas müden Gesicht, デームゼェルベン・エトワァス・ミューデェン・ゲジヒト

n.n.3 格 同じように少し疲れた顔

「目的語」

ob オッパ conj. 〜かどうかということ

「直接目的語」

ich イッヒ pron 僕は

「主語」

meine Tat マイネ・タート n.f.4 格 自分の行為を

「目的語」

bereue. ベロエ 1 単現(bereuen)v.t 後悔している

「動詞」

僕はよく考え、後悔するというよりむしろ面倒なことになったと感じていると言った。

Ich überlegte und sagte, daß ich eher als echte Reue eine gewisse Langeweile empfände.

「動詞」「主語」 und 「動詞」「目的語」

Ich イッヒ pron 僕は

「主語」

überlegte ウーバーレークテ 1 単過(überlegen)v.t よく考えた

「動詞」

und ウント conj. そして

sagte, サークテ 1 単過(sagen)v.t 言った

「動詞」

daß ダス conj. 〜ということ

「目的語」

ich イッヒ pron 僕は

「主語」

eher エアー adv. むしろ

「副詞」

als アルス conj. (比較) 〜よりも

「副詞句」

echte Reue エヒテ・ロエ n.f 本当の後悔

「目的語」

eine gewisse Langeweile アイネ・ゲウイッセ・ランゲウァイレ

n.f.4 格 ある種の面倒を

「目的語」

empfände. エンプフェンデ 接 II・1 単現(empfinden)v.i 感じている

「動詞」

フランス語の原文では :

僕はよく考えて、まったく後悔しているというよりはむしろ、なにか面倒なことになったと感じていると答えた。

J'ai réfléchi et j'ai dit que, plutôt que du regret véritable, j'éprouvais un certain ennui.

ZWEITER TEIL 第2部

彼は僕を理解していないようだった。しかし、この日はこれ以上何も起こらなかった。

Ich hatte den Eindruck, daß er mich nicht verstand. Aber weiter geschah an diesem Tage nichts.

	「主語」「動詞」「目的語」		Aber	「副詞」「動詞」「副詞句」「主語」
Ich	イッヒ pron 僕は			「主語」
hatte	ハッテ 1 単過(haben)v.t 持った			「動詞」
den Eindruck,	デン・アイントルック n.m.4 格 印象を			「目的語」
daß	ダス conj. (同格) ~という			「形容詞節」
er	エア pron 彼は			「主語」
mich	ミッヒ pron.4 格 僕を			「目的語」
nicht verstand.	ニヒト・フェアシュタント 3 単過・否定・時制の一致(verstehen)			
	v.t 理解していない			「動詞句」
Aber	アーバー conj. しかし			
weiter	ヴァイター adv. これ以上			「副詞」
geschah	ゲシャー 3 単過(geschehen)v.i 起こった			「動詞」
an diesem Tage	アン・デァーゼム・ターゲ adv. この日は			「副詞句」
nichts.	ニッツ pron 何も~ない			「主語」

その後、僕はしばしば予審判事に会った。ただ、いつも弁護士を同伴していた。

Später sah ich den Untersuchungsrichter oft wieder. Nur begleitete mich jedesmal mein Anwalt.

	「副詞」「動詞」「主語」「目的語」「副詞句」			「副詞」「動詞句」「副詞」「目的語」
Später	シュペーター adv. その後			「副詞」
sah	ザー 1 単過(sehen)v.t 会った			「動詞」
ich	イッヒ pron 僕は			「主語」
den Untersuchungsrichter	デン・ウンターズーフングスリヒター n.m.4 格 予審判事に			「目的語」
oft	オフト adv. しばしば			「副詞」
wieder.	ヴァイダー adv. 再び			「副詞」
Nur	ヌア adv. ただ			「副詞」
begleitete mich	ベクレイテ・ミッヒ 1 単過(sich-4 begleiten)v.pr 同伴した			「動詞句」
jedesmal	エァーテスマル adv. 毎回、いつも			「副詞」
mein Anwalt.	マイン・アンヴァルト n.m.4 格 弁護士を			「目的語」

ZWEITER TEIL 第2部

僕はいままでの供述のある点についてただ意見を述べただけだった。

Ich mußte mich bloß zu bestimmten Punkten meiner bisherigen Aussagen äußern.

「主語」「動詞句」「副詞」「間接目的語」「動詞句」

Ich イッヒ pron 僕は

「主語」

mußte mich ...äußern. ムステ・ミッヒ...オイザーン 1 単過・必要(müssen+不定詞 sich-4 äußern)

v.pr 意見を述べなければならなかった

「動詞句」

bloß ブロース adv. ただ

「副詞」

zu bestimmten Punkten ツー・ヘストムテン・プンクテン adv. (関連) ある点について 「間接目的語」

meiner bisherigen Aussagen マイナー・ヒッシュェーリゲン・アウスサーゲン

pl(Aussage).n.f.2 格 自分のいままでの供述の

「形容詞句」

あるいはまた、判事は弁護士と証拠について話し合っていた。

Oder der Richter besprach mit dem Anwalt das Belastungsmaterial.

Oder 「主語」「動詞」「副詞句」「目的語」

Oder オーダー conj. あるいは

der Richter デア・リヒター n.m 判事は

「主語」

besprach ベシュプラーハ 3 単過(besprechen)v.t 話し合っていた

「動詞」

mit dem Anwalt ミット・デアム・アンヴァルト adv. 弁護士と

「副詞句」

das Belastungsmaterial. ダス・ベラストアンゲスマテリアル n.n.4 格 有罪の証拠資料を

「目的語」

しかし実際には、彼らが話し合いの中に僕を含めることは一度もなかった。

Aber in Wirklichkeit befaßten sie sich da niemals mit mir.

Aber 「副詞句」「動詞句」「主語」「副詞句」

Aber アーバー conj. しかし

in Wirklichkeit イン・ヴァイルクリヒカイト adv. 実際には

「副詞句」

befaßten ...sich ベファステン...ズィッヒ 3 複過(sich-4 befassen)v.pr 取り組んでいた

「動詞句」

sie ジー pron.pl 彼らは

「主語」

da ダー adv. そこに

「副詞」

niemals ニーマルス adv. 一度も〜ない

「副詞句」

mit mir. ミット・ミーア adv. 僕と一緒に

「副詞句」

いずれにしても、尋問の口調は徐々に変化していった。

Auf alle Fälle wurde der Ton der Verhöre langsam anders.

「副詞句」「動詞」「主語」「補語」

Auf alle Fälle アウフ・アレ・フェレ adv. いずれにしても

「副詞句」

wurde ウルデ 3 単過・変化(werden)v.i 〜になった

「動詞」

ZWEITER TEIL 第2部

der Ton テア・トーン n.m	口調が	「主語」
der Verhöre テア・フェアフェレ n.f.2 格	尋問の	「形容詞句」
langsam ラングザム adv.	ゆっくりと、徐々に	「副詞」
anders. アンダース adv.	違った風に	「補語」

判事はもう僕の事件には興味がなく、僕の事件を適当に整理したように見えた。

Der Richter schien sich nicht mehr für mich zu interessieren und meinen Fall irgendwie eingeordnet zu haben.

「主語」「動詞句」「間接目的語」「動詞句」 und 「目的語」「副詞句」「動詞句」	
Der Richter テア・リヒター n.m 判事は	「主語」
schien sich ...zu interessieren シーン・ズィット...ツァー・インテレスィレン 3 単過・～するよう見える	
(scheinen+zu 不定詞 sich-4 interessieren)v.pr 関心があるように見えた	「動詞句」
nicht mehr für mich ニヒト・メア・フュア・ミット adv. もう僕に～ない	「間接目的語」
und ウント conj. そして	
meinen Fall マイネン・ファル n.m.4 格 僕の事件を	「目的語」
irgendwie イルゲントヴァイ adv. なんとなく、適当に	「副詞」
eingeordnet zu haben. アイン・ゲ・オルトネット・ツァー・ハーベレン 3 単過・～するよう見える	
(scheinen+zu 不定詞・完了形 einordnen)v.pr 整理したように見えた	「動詞句」

彼はもう神について語らず、僕も彼の傍で最初の日の興奮を味わうことも無くなった。

Er sprach nicht mehr von Gott, und ich erlebte bei ihm auch nicht mehr die Erregung jenes ersten Tages.

	「主語」「動詞」「副詞句」「間接目的語」,und
	「主語」「動詞」「副詞句」「目的語」
Er エア pron 彼は	「主語」
sprach シュプ ^ラ ハ 3 単過(sprechen)v.i(von et-3 ～について) 話した	「動詞」
nicht mehr ニヒト・メア adv. もはや～ない	「副詞句」
von Gott, フォン・ゴット adv. 神について	「間接目的語」
und ウント conj. そして	
ich イット pron 僕は	「主語」
erlebte エアレープ ^テ 1 単過(erleben)v.t 味わった	「動詞」
bei ihm バイ・イム adv. 彼の傍で	「副詞句」
auch アウフ adv. ～も	「副詞」
nicht mehr ニヒト・メア adv. もう～ない	「副詞句」
die Erregung テ ^ィ ー・エアレーグ ^ン グ n.f.4 格 興奮を	「目的語」
jenes ersten Tages. イェーネス・エアステン・ターゲス adv. 最初の日の	「形容詞句」

ZWEITER TEIL 第2部

結果的に、僕達の会話はより和やかになった。

Das Ergebnis war, daß unsere Unterhaltungen herzlicher wurden.

「主語」「動詞」「補語」

Das Ergebnis ダス・エアゲーブニス n.n 結果は

「主語」

war, ヲアール 3 単過(sein)v.i ~ だった

「動詞」

daß ダス conj. ~ということ

「補語」

unsere Unterhaltungen ウンゼレ・ウンターハルトウングテン

pl(Unterhaltung).n.f 僕たちの会話は

「主語」

herzlicher ヘアツリヒヤー adj. (比較級) より和やかな

「補語」

wurden. ウルデン 3 複過・変化(werden)v.i ~になった

「動詞」

いくつかの質問と弁護士との短い会話、それで尋問は終わった。

Ein paar Fragen, ein kurzes Gespräch mit meinem Anwalt, und die Verhöre waren zu Ende.

「副詞句」, 「主語」「動詞」「補語」

Ein paar Fragen, アイン・パール・フラーゲン pl(Frage).n.f いくつかの質問

「副詞句」

ein kurzes Gespräch アイン・クルツェス・ゲシュプ レーヒ n.n 短い会話は

「副詞句」

mit meinem Anwalt, ミット・マイネム・アンヴァルト adv. 弁護士との

「副詞句」

und ウント conj. そして

die Verhöre テーイー・フェアヘーレ pl(Verhör).n.n 尋問が

「主語」

waren ヲアレ 3 複過・変化(sein)v.i ~ になった

「動詞」

zu Ende. ツー・エンデ adv. 終わり

「補語」

zu Ende sein 「終わりである」

僕の事件は、判事が言ったように、成り行き任せだった。

Meine Sache nahm «ihren Lauf», wie der Richter sich ausdrückte.

「主語」「動詞」「目的語」「副詞節」

Meine Sache マイネ・ザッハ n.f 僕の事件は

「主語」

nahm ナム 3 単過(nehmen)v.t 受け入れた

「動詞」

«ihren Lauf», イレン・ラフ n.m.4 格 その成り行きを

「目的語」

wie ヲイー conj. ~のように

「副詞節」

der Richter テア・リヒター n.m 判事が

「主語」

sich ausdrückte. スィッヒ・アウストゥルックテ 3 単過(sich-4 ausdrücken)

v.pr 述べた

「動詞句」

ZWEITER TEIL 第2部

時々、話が世間話になると、僕は会話に引っ張り込まれた。

Manchmal, wenn das Gespräch allgemeiner wurde, zog man mich hinein.

「副詞」, 「副詞節」, 「動詞句」 「主語」 「目的語」 「動詞句」

Manchmal, マンヒマル adv. 時には

「副詞」

wenn ウェン conj. ~する時に

「副詞節」

das Gespräch ダス・ゲシュプ レーヒ n.n 会話が

「主語」

allgemeiner アルゲマイナー adj. 世間一般の

「補語」

wurde, ウルデ 3 単過・変化(werden)v.i ~になった

「動詞」

zog ...hinein. ツォーク...ヒイン 3 単過(hinein | ziehen)v.t 引っ張り入れた

「動詞句」

man マン pron 人は

「主語」

mich ミッヒ pron.4 格 僕を

「目的語」

僕は息がつけるようになった。その時は、誰も僕に腹を立てなかった。

Ich begann aufzuatmen. In jenen Stunden war niemand böse mit mir.

「主語」 「動詞句」 | 「副詞句」 「動詞」 「主語」 「補語」

Ich イッヒ pron 僕は

「主語」

begann aufzuatmen. ベーガン・アウフ・ツァー・アトメン 1 単過・開始(beginnen+zu 不定詞 auf | atmen)

v.i 息をつき始めた

「動詞句」

In jenen Stunden イン・イエネン・スツデネン adv. その時間、その時

「副詞句」

war ウァール 3 単過(sein)v.i ~ だった

「動詞」

niemand ニーマント pron 誰も~ない

「主語」

böse ベーゼ adj. 悪意のある、怒った

「補語」

mit mir. ミット・ミーア adv. 僕に対して

「副詞句」

全てがとても自然で、整っておりきちんと進行したので、僕は「家族の一員」であるかのような馬鹿げた印象を持った。

Alles war so natürlich, so geregelt und wurde so sauber gespielt, daß ich den lächerlichen Eindruck hatte, «zur Familie zu gehören».

「主語」 「動詞」 「補語」 und 「動詞句」 「副詞句」 「動詞句」,

daß 「主語」 「目的語」 「動詞」 「副詞句」

Alles アレス pron すべてが

「主語」

war ウァール 3 単過(sein)v.i ~ だった

「動詞」

so natürlich, ソー・ナチュアリッヒ adj. とても自然な

「補語」

so geregelt ソー・ゲレーゲルト adj. とても整った

「補語」

und ウント conj. そして

wurde ...gespielt, ウルデ ...ゲシュピールト 3 単過・受動(werden+過去分詞 spielen)

ZWEITER TEIL 第2部

v.t (物事が) 実行された、進んだ	「動詞句」
so sauber ツー・ザウバー adv. きちんと	「副詞句」
daß ダス conj.(so...daß) その結果～する	
ich イヒ pron 僕は	「主語」
den lächerlichen Eindruck デン・レヒャーリヒェン・アイントルック n.m.4 格 馬鹿げた印象を	「目的語」
hatte, ハッテ 1 単過(haben)v.t 持った	「動詞」
«zur Familie ツー・ファミリーエ adv. 家族の一員	「補語」
zu gehören». ツー・ゲヘレン zu 不定詞 v.i ～であるという	「副詞句」

そして、予審が 11 か月続いた後で、僕はほとんど驚いたと言うことが出来る。判事が僕を執務室のドアまで付き添って来て、僕の肩を叩き、優しく言ったあの稀な瞬間よりも喜んだことはない：「今日は、終わりにしましょう、反キリスト君」

Und nach den elf Monaten, die die Voruntersuchung dauerte, kann ich sagen, daß ich fast erstaunt war, mich jemals über etwas anderes gefreut zu haben als über die seltenen Augenblicke, wenn der Untersuchungsrichter mich an die Tür seines Zimmers geleitete, mir auf die Schulter klopfte und herzlich sagte: «Für heute sind wir fertig, Herr Antichrist.»

Und 「副詞句」, 「動詞句」 「主語」 「目的語」:

《「副詞句」 「動詞」 「主語」 「補語」, 「呼びかけ」》

Und ウント conj. そして	
nach ナハ prep(3 格と) ～の後で	「副詞句」
den elf Monaten, デンエルフ・モナーテン pl(Monat).n.m.3 格 11 か月	「目的語」
die デー pron.4 格 ～する	「副詞節」
die Voruntersuchung デー・フォーウンタースフング n.f 予審が	「主語」
dauerte, ダウエアテ 3 単過(dauern)v.i 続いた	「動詞」
kann ...sagen, カン...サーゲン 1 単現・可能(können+不定詞 sagen)v.t 言える	「動詞句」
ich イヒ pron 僕は	「主語」
daß ダス conj. ～ということ	「目的語」
ich イヒ pron 僕は	「主語」
fast erstaunt ファスト・エस्ताウント adj. ほとんど驚いた	「補語」
war, ヴァール 1 単過(sein)v.i ～ だった	「動詞」
mich ...gefremt zu haben ミヒ...ゲフロイト・ツー・ハーベン zu 不定句(sich-4 über et-4 freuen)	
v.pr 喜んだ	「動詞句」
jemals イェマルス adv. かつて～ない、いつか	「副詞」
über etwas anderes ユーバー・エトヴァス・アンデレス adv. 他の事で	「間接目的語」
als アルス conj. (比較) ～よりも	「副詞句」

ZWEITER TEIL 第2部

über die seltenen Augenblicke, アルス・ユーバー・デー・イー・セ・ルテネン・アウゲンブリック	
adv. (時) あの稀な瞬間	「副詞句」
wenn ウェン conj. ～する時	「副詞節」
der Untersuchungsrichter テア・ウンターズ・フング・スリヒター	
n.m 判事が	「主語」
mich ミッヒ pron.4 格 僕を	「目的語」
an die Tür アン・デー・イー・チュア adv. ドアまで	「副詞句」
seines Zimmers サ・イネス・ツィマース	
n.n.2 格 執務室の	「形容詞句」
geleitete, ゲライテテ 3 単過(geleiten)v.t ゲライテテ 3 単過(geleiten)	
v.t 付き添った	「動詞」
mir ミア pron.3 格 僕の	「間接目的語」
auf die Schulter アウフ・デー・イー・シュルター adv. 肩の上を	「間接目的語」
klopfte クロプ・フテ 3 単過(klopfen)	
v.i(j-3 auf die Schulter) 叩いた	「動詞」
und ウント conj. そして	
herzlich ヘアツリッヒ adv. 温かく	「副詞」
sagte: サークテ 3 単過(sagen)v.t 言った	「動詞」
«Für heute フェア・ホテ adv. (関連) 今日については	「副詞句」
sind シント 1 複現(sein)v.i ～である	「動詞」
wir ウィア pron 私たちは	「主語」
fertig, フェアティヒ・フェアティヒ adj. 終わった	「補語」
Herr Antichrist.» ヘア・アンチクリスト n.m 反キリスト君	「呼びかけ」

それから、僕はまた警察に引き渡された。

Dann übergab man mich wieder den Gendarmen.

「副詞」「動詞」「主語」「直接目的語」「副詞」「間接目的語」

Dann ダン adv. それから	「副詞」
übergab ユーバー・ガーブ 3 単過(übergeben)v.t 引き渡した	「動詞」
受動態に翻訳する	
man マン pron 廷吏が	「主語」
mich ミッヒ pron 僕を	「直接目的語」
wieder ウィーダー adv. 再び、また	「副詞」
den Gendarmen. デン・ジェンダルメン pl(Gendarm).n.m.3 格 警察官に	「間接目的語」

ZWEITER TEIL 第2部

II

決して話したくない事がある。

Es gibt Dinge, über die ich nie gern gesprochen habe.

「動詞句」「目的語」

Es gibt エス・ギブト 非人称・3 単現・存在(Es gibt +et-4 /j-4)v.t ~がある

「動詞句」

「目的語」は単数・複数が可能。英語の There is... と同じ意味だが、Tere are は無い。

Dinge, ディンゲ pl(Ding).n.n.4 格 事が

「目的語」

über die ユーバー・デー adv. (関連) それについて~する

「形容詞節」

ich イヒ pron 僕は

「主語」

nie gern ニー・ゲアン adv. 決してしたくない

「副詞句」

gesprochen habe. ゲシュプ ロツヒェン・ハーベ 1 単現・完了形(sprechen)

v.i 話した

「動詞句」

僕が刑務所に来た時、数日後には、僕の人生のこの時期については決して話したくないだろうと気が付いた。

Als ich ins Gefängnis kam, war mir nach ein paar Tagen klar, daß ich über diesen Abschnitt meines Lebens nicht gern sprechen würde.

「副詞節」, 「動詞」「間接目的語」「補語」「主語」

Als ウス conj. ~したとき

「副詞節」

ich イヒ pron 僕が

「主語」

ins Gefängnis インス・ゲフェンゲニス adv. 刑務所に

「副詞句」

kam, カム 1 単過(kommen)v.i 来た

「動詞」

war ウェアル 3 単過(sein)v.i ~ だった

「動詞」

mir ミーア pron.3 格 僕にとって

「間接目的語」

nach ein paar Tagen ナーハ・アイン・パール・ターゲン adv. 数日後に

「副詞句」

klar, クラール adj. 明らかな

「補語」

daß ダス conj. ~することは

「主語」

ich イヒ pron 僕が

「主語」

über diesen Abschnitt ユーバー・デーゼン・アップ シュニット

adv. (関連) この時期について

「間接目的語」

meines Lebens マイネス・レーベンス n.n.2 格 僕の人生の

「形容詞句」

nicht gern ニヒト・ゲアン adv. 決してしたくない

「副詞句」

sprechen würde. シュプ レシエン・ウルデ 1 単過・推量(werden+不定詞 sprechen)

v.i 話すだろう

「動詞句」

ZWEITER TEIL 第2部

その後、僕はもうこの嫌悪感を重要視しなくなった。

Später legte ich diesem Widerwillen keine Bedeutung mehr bei.

「副詞」「動詞句」「主語」「間接目的語」「直接目的語」「副詞」「動詞句」

Später シュペーター adv. その後

「副詞」

legte ...bei. レーゲ...バイ 1 単過(bei | legen) v.t (意味を) 付加した

「動詞句」

ich イッヒ pron 僕は

「主語」

diesem Widerwillen デーゼム・ウィーダーウィレン n.m.3 格 この嫌悪感に

「間接目的語」

keine Bedeutung カイネ・ベドイtung n.f.4 格 いかなる重要性も～ない

「直接目的語」

mehr メア adv. (否定文で) もう～ない

「副詞」

実際、最初の数日間は実際に刑務所に居なかった感じだ：僕はなんとなく、新しい出来事を待っていた。

Tatsächlich war ich während der ersten Tage nicht wirklich im Gefängnis: irgendwie wartete ich auf ein neues Ereignis.

「副詞」「動詞」「主語」「副詞句」：「副詞」「動詞」「主語」「間接目的語」

Tatsächlich タートゼヒリヒ adv. 実際に

「副詞」

war ウェール 1 単過・存在(sein) v.i ～に居た

「動詞」

ich イッヒ pron 僕は

「主語」

während ウェーレント prep (2 格と) (時間) ～の間

「副詞句」

der ersten Tage デア・エーステン・ターゲ pl(Tag) n.m.2 格 最初の数日

「目的語」

nicht wirklich ニヒト・ウィルクリヒ adv. 実際に～ない

「副詞句」

im Gefängnis: イム・ゲフェンクニス adv. 刑務所に

「副詞句」

irgendwie イルゲントワイー adv. なんとなく

「副詞」

wartete ウェアルテ 1 単過(warten) v.i (auf を) 待っていた

「動詞」

ich イッヒ pron 僕は

「主語」

auf ein neues Ereignis. アウフ・アイン・ノイエス・エアイクニス adv. 新しい出来事を

「間接目的語」

マリーが最初で最後の訪問に来た後で初めて、全てが始まった。

Erst nach dem ersten und einzigen Besuch Marias fing alles an.

「副詞句」「動詞句」「目的語」「動詞句」「主語」

Erst nach エーアスト・ナーハ prep (3 格と) ～の後に初めて

「副詞句」

dem ersten und einzigen Besuch デーム・エーステン・ウント・アインツィゲン・ベスーフ

n.m.3 格 最初で最後の訪問

「目的語」

Marias マリアス n.f(Maria).2 格 マリーの

「形容詞」

fing ...an. フィング...アン 3 単過(an | fangen) v.i 始まった

「動詞句」

alles アレス pron 全てが

「主語」

ZWEITER TEIL 第2部

彼女の手紙を受け取った日から（彼女は僕の妻ではないので、もう二度と来ることは許され
ないだろうと書いていた）、その日から、僕はこの独房で生活を始め、僕の人生はここで
終わるのだろうと感じた。

Von dem Tage an, als ich ihren Brief erhielt (sie schrieb mir, daß sie nicht mehr kommen
dürfe, weil sie nicht meine Frau sei), von dem Tag an fühlte ich, daß ich in meiner Zelle
zu Hause war und daß mein Leben hier stillstand.

「副詞句」「主語」「動詞」「間接目的語」「直接目的語」,

「副詞句」「動詞」「主語」「目的語」

Von dem Tage an, フォン・デー・ムターゲ・アン adv. その日から	「副詞句」
als アルス conj. ～した	「形容詞節」
ich イヒ pron 僕が	「主語」
ihren Brief イーレン・ブリーフ n.m.4 格 彼女の手紙を	「目的語」
erhielt エアイルト 1 単過(erhalten)v.t 受け取った	「動詞」
(sie シー pron.f 彼女は	「主語」
schrieb シュリープ 3 単過(schreiben)v.t 書いた	「動詞」
mir, ミー pron.3 格	「間接目的語」
daß ダス conj. ～ということ	「直接目的語」
sie シー pron 彼女は	「主語」
nicht mehr ニヒト・メー adv. 二度と～ない	「副詞句」
kommen dürfe, コメン・ドゥルフェ 接・3 単現・許可・推量(dürfen+不定詞 kommen)	
v.i (否定文) 来ることは許されないだろう	「動詞句」
weil ウェイル conj. (理由) ～なので	「副詞節」
sie シー pron 彼女は	「主語」
nicht meine Frau ニヒト・マイネ・フラウ n.f.1 格 僕の妻でない	「補語」
sei), サイ 3 単現(sein)v.i ～である	「動詞」
von dem Tag an フォン・デー・ムターゲ・アン adv. その日から	「副詞句」
fühlte フュールテ 1 単過(fühlen)v.t 感じた	「動詞」
ich, イヒ pron 僕は	「主語」
daß ダス conj. ～ということ	「目的語」
ich イヒ pron 僕は	「主語」
in meiner Zelle イン・マイナー・ツェレ adv. 僕の独房に	「副詞句」
zu Hause war ツー・ハウゼ・ヴァール 1 単過・存在・時制の一致(zu Hause sein)	
v.i 居る	「動詞句」
zu Hause sein 「在宅である」	
und ウント conj. そして	

ZWEITER TEIL 第2部

daß ^{ダス} conj. ～ということを 「目的語」
 mein Leben ^{マイン・レーベン} n.n 僕の人生は 「主語」
 hier ^{ヒア} adv. ここで 「副詞」
 stillstand. ^{シュティルシュタント} 3 単過・時制の一致(still|stehen)v.i 止まる 「動詞句」

僕は逮捕された日、取り敢えず、既に数人の囚人が（ほとんどはアラブ人）すでに入っている小部屋に入れられた。

Am Tag meiner Verhaftung sperrte man mich zunächst in eine Zelle, in der schon mehrere Gefangene, in der Hauptsache Araber, steckten.

「副詞句」「動詞」「主語」「目的語」「副詞句」
 Am Tag ^{アム・ターク} adv. 日に 「副詞句」
 meiner Verhaftung ^{マイナー・フェアハフトゥング} n.f.2 格 僕の逮捕の 「形容詞句」
 sperrte ^{シュペ・アテ} 3 単過(sperren)v.t(j-4 in et-4 人-4 を何-4 に) 閉じ込めた 「動詞」
 man ^{マン} pron ひと 「主語」
 受動態に翻訳する
 mich ^{ミット} pron.4 格 僕を 「目的語」
 zunächst ^{ツネーヒスト} adv. 最初は、さしあたり 「副詞」
 in eine Zelle, ^{イン・アイネ・ツェレ} adv. 小部屋に 「副詞句」
 in der ^{イン・デア} adv. その中には 「副詞句」
 schon ^{ショーン} adv. すでに 「副詞」
 mehrere Gefangene, ^{メルレー・ゲファンゲネ} n.m 数人の囚人が 「主語」
 in der ^{イン・デア} adv. その中で 「副詞句」
 Hauptsache Araber, ^{ハプツァー・トザッヘ・アーラバー}
 n.m ほとんどアラブ人 「目的語」
 steckten. ^{シュテケン} 3 複現(stecken)v.i 入っている 「動詞」

彼らは僕を見て笑った。それから僕に何をしでかしたんだと尋ねた。

Als sie mich sahen, lachten sie. Dann fragten sie mich, was ich verbrochen hätte.

「副詞節」, 「動詞」「主語」 | 「副詞」「動詞」「主語」「間接目的語」「直接目的語」
 Als ^{アルス} conj. ～をして、～した時 「副詞節」
 sie ^{ジー} pron.pl 彼らは 「主語」
 mich ^{ミット} pron.4 格 僕を 「目的語」
 sahen, ^{ザー・エン} 3 複過(sehen)v.t 見た 「動詞」
 lachten ^{ラヘン} 3 複過(lachen)v.i 笑った 「動詞」
 sie. ^{ジー} pron.pl 彼らは 「主語」
 Dann ^{ダン} adv. それから 「副詞」

ZWEITER TEIL 第2部

fragten フラクテン 3 複過(fragen)v.t(j-4 に) 尋ねた 「動詞」
 sie ジー pron.pl 彼らは 「主語」
 mich, ミッヒ pron.4 格 僕に 「間接目的語」
 was ヴァス pron ーをしたのかということ 「直接目的語」
 ich イッヒ pron 僕は 「主語」
 verbrochen hätte. フェアブ^テ ロッヘン・ヘッテ 接 II・1 単現・完了形(verbrechen)
 v.t しでかした 「動詞句」

僕がアラブ人を殺したと言うと、彼らは黙り込んだ。

Ich sagte, ich hätte einen Araber getötet, und sie schwiegen.

「主語」「動詞」, 「主語」「動詞句」「目的語」, und 「主語」「動詞」
 Ich イッヒ pron 僕は 「主語」
 sagte, サークテ 1 単過(sagen)v.t 言った 「動詞」
 ich イッヒ pron 僕は 「主語」
 hätte ...getötet, ヘッテ...ゲテカーテット 接 II・1 単現・完了形(töteten)v.t 殺した 「動詞句」
 einen Araber アイネン・アーラバー n.m アラブ人を 「目的語」
 und ウント conj. そして
 sie ジー pron.pl 彼らは 「主語」
 schwiegen. シュヴィーゲン 3 複過(schweigen)v.i 黙り込んだ 「動詞」

しかし、しばらくすると日が暮れた。

Aber eine Weile später brach der Abend herein.

Aber 「副詞句」「動詞句」「主語」「動詞句」
 Aber アーバー conj. しかし
 eine Weile später アイネ・ヴァイル・シュペー^タ adv. しばらくしてから 「副詞句」
 brach ...herein. ブラハ...ヘライン 3 単過(herein|brechen)
 v.i (日が) 降って来た、暮れた 「動詞句」
 der Abend デア・アーベント n.m 夕方が 「主語」

彼らは僕にマットの使い方を教えてくれた。僕はそれを敷いて寝なければならないのだ。

Sie zeigten mir, wie ich mit der Matte umgehen müsse, auf der ich schlafen sollte.

「主語」「動詞」「間接目的語」「直接目的語」, 「副詞句」「主語」「動詞句」
 Sie ジー pron.pl 彼らは 「主語」
 zeigten ツアイクテン 3 複過(zeigen)v.t(j-3 et-4 人-3 に何-4 を) 教えた 「動詞」
 mir, ミー^ア pron.3 格 僕に 「間接目的語」
 wie ヴァー conj. どのように〜するかを 「直接目的語」

ZWEITER TEIL 第2部

ich イヒ pron 僕は	「主語」
mit der Matte ミット・デア・マッテ adv. マットを	「間接目的語」
umgehen müsse, ウムゲー・エン・ミュッセ 接・1 単現・必要(müssen+不定詞 um gehen)	
v.i(mit et-3 を) 扱うべきである	「動詞句」
auf der アウフ・デア adv. マットの上で	「副詞句」
ich イヒ pron 僕は	「主語」
schlafen sollte. シュラーフェン・ゾルテ 1 単過・義務(sollen+不定詞 schlafen)	
v.i 眠らなければならない	「動詞句」

マットの一端を巻けば、枕の代用になるのだ。

Wenn man das eine Ende einrollte, bekam man eine Art Kopfkissen.

	「副詞節」, 「動詞」 「主語」 「目的語」
Wenn conj. ～すると	「副詞節」
man マン pron 人が、自分が	「主語」
das eine Ende ダス・アイネ・エンデ n.n.4 格 1 端を	「目的語」
einrollte, アイン・ロルテ 3 単過(ein rollen)v.t 巻いた	「動詞句」
bekam ベカム 3 単過(bekommen)v.t 獲得した、手に入れた	「動詞」
man マン pron 人は	「主語」
eine Art Kopfkissen. アイネ・アルト・コフ・フキッセン n.f.4 格 枕のようなものを	「目的語」

一晩中、南京虫が僕の顔の上を這いまわっていた。

Während der ganzen Nacht liefen mir Wanzen über das Gesicht.

	「副詞句」 「動詞」 「間接目的語」 「主語」 「副詞句」
Während ウェーレント prep (2 格と) ～の間中	「副詞句」
der ganzen Nacht デア・ガンツェン・ナハト n.f.2 格 夜の全て	「目的語」
liefen リーフェン 3 複過(kaufen)v.i 歩いた	「動詞」
mir ミーア pron 僕の	「間接目的語」
Wanzen ウァンツェン pl(Wanze).n.f 南京虫が	「主語」
über das Gesicht. ユーバー・ダス・ゲジヒト adv. 顔の上を	「副詞句」

数日後、僕は独房に連れて行かれた。そこで僕は木製のベッドに寝た。

Ein paar Tage später wurde ich in eine Einzelzelle gebracht, dort schlief ich auf einer hölzernen Pritsche.

	「副詞句」 「動詞句」 「主語」 「副詞句」 「動詞句」, 「副詞」 「動詞」 「主語」 「副詞句」
Ein paar Tage später アイン・パール・ターゲ・シュペーター adv. 数日後	「副詞句」
wurde ...gebracht, ウルデ ...ゲブラハト 1 単過・受動(werden +過去分詞 bringen)	

ZWEITER TEIL 第2部

v.t 連れて行かれた	「動詞句」
ich イッヒ pron 僕は	「主語」
in eine Einzelzelle イン・アイネ・アインツェルツェレ adv. 独房に	「副詞句」
dort ドアト adv. そこで	「副詞」
schlief シュリーフ 1 単過(schlafen)v.i 寝た	「動詞」
ich イッヒ pron 僕は	「主語」
auf アウフ prep (3 格と) ~の上に	「副詞句」
einer hölzernen Pritsche. アイナー・ヘルツァーネン・プリーチェ n.f.3 格 木製ベッド	「目的語」

部屋の隅に、便器用のバケツと鉄の洗面器があった。

In der Ecke standen der bekannte Eimer und ein eisernes Waschgestell.

	「副詞句」「動詞」「主語」 und 「主語」
In der Ecke イン・デア・エッケ adv. 部屋の隅に	「副詞句」
standen シュタンデン 3 複過・存在(stehen)v.i ~があった	「動詞」
der bekannte Eimer デア・ベカンテ・アイマー	
n.m 良く知られたバケツが、便器用のバケツが	「主語」
und ウント conj. そして	
ein eisernes Waschgestell. アイン・アイゼアネス・ウァッッシュゲシュテル n.n 鉄の洗面器が	「主語」

刑務所は街の小高い所にあり、小さな窓から海が見えた。

Das Gefängnis lag oben in der Stadt, und durch ein kleines Fenster konnte ich das Meer sehen.

	「主語」「動詞」「副詞句」, und 「副詞句」「動詞句」「主語」「目的語」「動詞句」
Das Gefängnis ダス・ゲフェンギニス n.n 刑務所は	「主語」
lag ラーク 3 単過(liegen)v.i (場所を示す語句と) あった	「動詞」
oben in der Stadt, オーベン・イン・デア・シュタット adv. 街の小高い所に、上の方に	「副詞句」
und ウント conj. そして	
durch ドゥルヒ prep (4 格と) (手段) ~を通して、~により	「副詞句」
ein kleines Fenster アイン・クライネス・フェンスター n.n.4 格 小さい窓	「目的語」
konnte ...sehen. コンテ...セーエン 1 単過・可能(können+不定詞 sehen)	
v.t 見ることが出来た	「動詞句」
ich イッヒ pron 僕は	「主語」
das Meer ダス・メーア n.n.4 海を	「目的語」

ZWEITER TEIL 第2部

ある日、鉄格子に体を持ち上げて顔を光に向けていると、看守がやって来て、面会人がいると僕に言った。僕はマリーだろうと思った。やはり彼女だった。

Als ich mich eines Tages an den Gitterstäben hochgezogen und mein Gesicht dem Licht zugewandt hatte, kam ein Wärter und sagte mir, ich hätte Besuch. Ich dachte, daß es Maria wäre. Sie war es auch.

「副詞節」, 「動詞」「主語」 und 「動詞」「間接目的語」「直接目的語」

「主語」「動詞」「目的語」 | 「主語」「動詞」「補語」

Als	アルス conj. ～した時	「副詞節」
ich	イヒ pron 僕が	「主語」
mich	ミヒ pron 自分自身を	「目的語」
eines Tages	アイネス・ターゲス n.m.4 格 ある日	「副詞句」
an den Gitterstäben	アン・デン・ジッター・シュテーベン adv. (対象) 鉄格子に	「副詞句」
hochgezogen	ホーホ・ゲツォーゲン 1 単現・完了形(hoch ziehen)	
	v.t 引き上げていた	「動詞句」
hatte	は次の文と共有	
und	ウント conj. そして	
mein Gesicht	マイン・ゲジヒト n.n.4 格 自分の顔を	「目的語」
dem Licht	デーム・リヒト adv. 光に	「副詞句」
zugewandt hatte	ツェーゲ・ヴァント・ハッテ 1 単現・完了形(zu wenden)	
	v.t 向けていた	「動詞句」
kam	カム 3 単過(kommen)v.i やって来た	「動詞」
ein Wärter	アイン・ヴァルター n.m 看守が	「主語」
und	ウント conj. そして	
sagte	ザーゲ 3 単過(sagen)v.t 言った	「動詞」
mir	ミーア pron.3 格 僕に	「間接目的語」
ich	イヒ pron 僕は～すると	「直接目的語」
hätte	ハッテ 接 II・1 単現(haben)v.t ～がある	「動詞」
Besuch	ベズーフ n.m.4 格 訪問者、面会者	「目的語」
Ich	イヒ pron 僕は	「主語」
dachte	ダハテ 1 単過(denken)v.t 考えた	「動詞」
daß	ダス conj. ～ということ	「目的語」
es	エス pron それは	「主語」
Maria	マリア n.f マリー	「補語」
wäre	ヴァーレ 接 II・3 単現・推量(sein)v.i ～だろう	「動詞」
Sie	ジー pron 彼女は	「主語」
war	ヴァール 3 単過(sein)v.i ～だった	「動詞」

ZWEITER TEIL 第2部

es エス pron それ 「補語」
 auch. アウフ adv. 本当に、やはり 「副詞」

面会所へ行くのに、僕は長い廊下を通り、次に階段、そして最後にまた廊下を進んだ。

Um das Sprechzimmer zu erreichen, mußte ich durch einen langen Gang, dann über eine Treppe und schließlich wieder durch einen Gang.

「副詞句」, 「動詞」 「主語」 「副詞句」, 「副詞句」 und 「副詞句」
 Um +zu 不定詞 ウム zu 不定句・目的 adv. ～するために 「副詞句」
 das Sprechzimmer ダス・シュプレツィマー n.n.4 格 面会室に、面会所に 「目的語」
 zu erreichen, ツー・エアライエン v.t 到達する 「動詞句」
 mußte ムステ 1 単過(müssen)助動詞・本動詞省略 v.t 行かなければならなかった 「動詞」
 ich イヒ pron 僕は 「主語」
 durch ドゥアルヒ prep (4 格と) (空間的) ～を通して 「副詞句」
 einen langen Gang, アイン・ランゲン・ガンク n.m.4 格 長い廊下を 「目的語」
 dann ダン adv. それから 「副詞」
 über eine Treppe ユーバー・アイネ・トレッペ adv. 階段を 「副詞句」
 und ウント conj. そして
 schließlich シュリースリヒ adv. 最後に 「副詞」
 wieder ヴァーダー adv. また、再び 「副詞」
 durch einen Gang, ドゥアルヒ・アイン・ガンク adv. 廊下を 1 つ通って 「副詞句」

僕は、幅の広い窓から光が差し込むとても広い部屋に入った。

Ich kam in einen sehr großen Saal, den ein breites Fenster erhellte.

「主語」 「動詞」 「間接目的語」
 Ich イヒ pron 僕は 「主語」
 kam カム 1 単過(kommen)v.i やって来た 「動詞」
 in einen sehr großen Saal, イン・アインゼーア・グロセン・ザール adv. とても広い部屋に 「間接目的語」
 den デン pron (目的語) ～する 「形容詞節」
 ein breites Fenster アイン・ブライテス・フェンスター n.n 幅の広い窓が 「主語」
 erhellte. エアヘルテ 3 単過・時制の一致(erhellen)v.t 照らす 「動詞」

部屋は大きな縦長の鉄格子によって 3 つの部分に分割されていた。

Der Saal war durch zwei große Längsgitter in drei Teile geteilt.

「主語」 「動詞句」 「補語」
 Der Saal デア・ザール n.m 部屋は 「主語」
 war ...geteilt. ヴァール...ゲタイルト 3 単過・・・状態受動(teilen)v.t 分割されていた 「動詞句」

ZWEITER TEIL 第2部

durch zwei große Längsgitter ドゥアルヒ・ツヴァイ・グロセ・レングスジター

adv. (手段) 縦長の鉄格子によって

「副詞句」

in drei Teile イン・ドライ・タイル adv. 3つの部分に

「補語」

二つの鉄格子の間には、8 から 10 メートルの空間があり、それが面会人を囚人から遠ざけていた。

Zwischen den beiden Gittern lag ein Raum von acht bis zehn Metern, der die Besucher von den Gefangenen trennte.

「副詞句」「動詞」「主語」, 「主語」「目的語」「副詞句」「動詞」

Zwischen ツヴィッシェン prep (3格と) 〜の間に

「副詞句」

den beiden Gittern デン・バイ・イェン・ジターン pl(Gitter).n.n.3格 二つの鉄格子「目的語」

lag ラーク 3 単過(liegen)v.i あった

「動詞」

ein Raum アイン・ラウム n.n.1 格 空間が

「主語」

von acht bis zehn Metern, フォン・アハト・ヒス・ツェーン・メア

adv. 8 から 10 メートルの

「副詞句」

der デア pron その鉄格子が

「主語」

die Besucher デー・イェ・ベズーハー pl(Besucher).n.m.4 格 面会人を

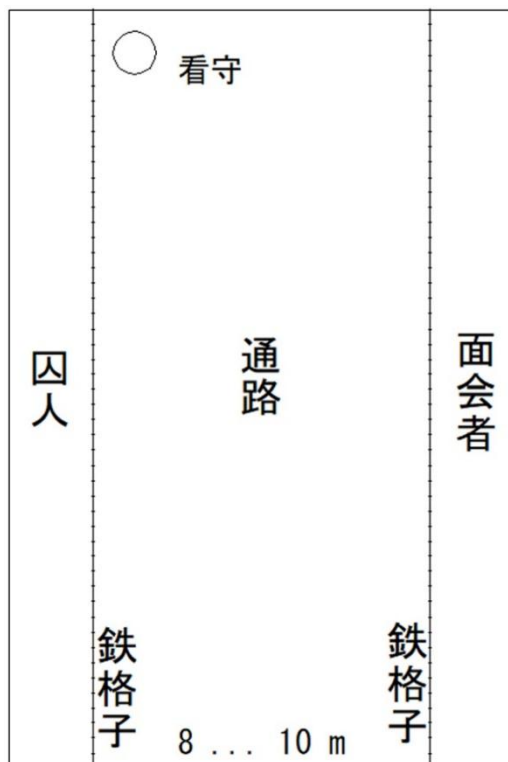
「目的語」

von den Gefangenen フォン・デン・ゲファンゲネン adv. 囚人から

「副詞句」

trennte. トレンテ 3 単過(trennen)v.t 遠ざけていた

「動詞」



面会所の想像図

ここまでの説明をまとめると、面会所の構造は左図のように、部屋を縦方向に、囚人のいる細長い通路、看守のいる幅広い通路、そして面会者のいる細長い通路という、3つの部分に仕切っている。

面会者と囚人は、2つの鉄格子によって8~10メートル離れており、面会者が囚人に不審な物を手渡しすることが出来ない構造になっている。また、大きな声で話す必要があるので、逃亡など秘密の会話を防ぐ狙いもあると思われる。

看守はただっ広い空間にいたので、不審な行為などは即座に発見することが出来るだろう。

ZWEITER TEIL 第2部

マリーはストライプのドレスを着て、日焼けした顔で僕の正面に立っていた。

Maria stand mir gegenüber in ihrem gestreiften Kleid, mit gebräuntem Gesicht.

「主語」「動詞」「副詞句」

Maria マリア n.f マリーは

「主語」

stand シュタント 3 単過(stehen)v.i 立っていた

「動詞」

mir gegenüber ミーア・ゲーゲンユーバー adv. 僕の向かい側に

「副詞句」

in ihrem gestreiften Kleid, イン・イーレム・ゲシュトライフテン・クライト

adv. ストライプのドレスを着て

「副詞句」

mit gebräuntem Gesicht. ミット・ゲブローインテム・ゲジヒト adv. (様態) 日に焼けた顔で

「副詞句」

gegenüber 前置詞 (しばしば後置)

～の向かい側に、～と向かい合って

僕の側の通路には、10 人ほどの囚人がいて、ほとんどがアラブ人だった。

Auf meiner Seite standen etwa zehn Gefangene, meistens Araber.

「副詞句」「動詞」「主語」

Auf アウフ prep(場所) ～では

「副詞句」

meiner Seite マイナーザイテ n.f 僕の側の通路

「目的語」

standen シュタンデテン 3 複過・存在(stehen)v.i いた

「動詞」

etwa zehn Gefangene, エトワ・ア・ツェーン・ゲファンゲネ pl.n.m 10 人ほどの囚人が

「主語」

meistens Araber. マイステンス・アーラバー n.m ほとんどアラブ人が

「主語」

マリーはムーア人の女性に囲まれて、二人の面会人の間に立っていた。一人はしっかりと唇を閉じて黒衣を着た小柄な老婆で、もう一人はジェスチャーをしながら大声で話す帽子を被っていない太った女だった。

Maria war von Maurinnen umgeben und stand zwischen zwei Besucherinnen, einer kleinen, schwarz gekleideten Alten mit zusammengepreßten Lippen und einer dicken Frau mit bloßem Kopf, die laut gestikulierend sprach.

「主語」「動詞句」「副詞句」「動詞句」und「動詞」「副詞句」

Maria マリア n.f マリーは

「主語」

war ...umgeben 3 単過・状態受動(umgeben)v.t 囲まれていた

「動詞句」

von Maurinnen フォン・マウリネン adv.(Maure) (動作主) ムーア人の女性たちに

「副詞句」

und ウント conj. そして

stand シュタント 3 単過(stehen)v.i 立っていた

「動詞」

zwischen ツウィッシェン prep (空間的) ～の間に

「副詞句」

zwei Besucherinnen, ツヴァイ・ベズーヘリネ pl(Besuch).n.f 二人の面会者

「目的語」

einer アイナー pron 一人は～する

「形容詞句」

ZWEITER TEIL 第2部

kleinen, クライネン	adj. 小柄な	「形容詞」
schwarz gekleideten	シュワ ^ツ ・ゲ ^ク ・クライデ ^テ ・テン	
adj. 黒衣を着た		「形容詞句」
Alten	アルテン	pron 老婆
mit	ミット	prep (様態) ~の様子をした
zusammengepreßten	ツサ ^メ ・メンゲ ^プ ・レス ^テ ・ン	
adj. 圧迫された		「形容詞」
Lippen	リップペン	pl(Lippe).n.f 唇
und	ウント	conj. そして
einer	アイナー	pron もう一人は~する
dicken Frau	ディッケン・フラウ	n.f 太った女
mit bloßem Kopf,	ミット・ブロ ^セ ム・コッ ^プ ・フ	
adv. (様態) 帽子をかぶっていない		「副詞句」
die	ディー	pron.f その女は
laut	ラウト	adv. 大声で
gestikulierend	ゲシュトゥクラーレ ^{ント}	現在分詞・同時
adv. ジェスチャーしながら		「副詞句」
sprach.	シュプ ^ラ ・ハ 3 単過(sprechen)v.i 話した	「動詞」

2 つの鉄格子間の距離のために、面会人と囚人はかなり大声で話さなければならなかった。

Wegen der Entfernung zwischen den Gittern mußten Besucher und Gefangene sehr laut sprechen.

		「副詞句」「動詞句」「主語」「副詞句」「動詞句」
Wegen	ヴェーゲン	prep (2 格と) (理由) ~のために
der Entfernung	デア [・] エントフェア ^ヌ ング	n.f.2 格 (2 点間の) 距離
zwischen	ツワイ ^{シェ} ン	prep (3 格) (～の) 間の
den Gittern	デ ^ン ・ギター ^ン	pl(Gitter).n.n.3 格 鉄格子
mußten ...sprechen.	ムステ ^ン ...シュプ ^レ ヒエ ^ン	3 複過・必要(müssen+不定詞 sprechen)
v.i 話さなければならなかった		「動詞句」
Besucher und Gefangene	ベズー ^{ハー} ・ウント [・] ゲファン ^ゲ ・ネ	pl.n.m 面会人と囚人は
sehr laut	ゼー ^ア ・ラウト	adv. 非常に大声で
		「副詞句」

ZWEITER TEIL 第2部

面会所に入ると、剥き出しの高い壁に反響する騒めき声と、窓からガラス窓に降り注ぎ部屋全体に広がるどぎつい光のために少し眩暈がした。

Als ich in den Saal kam, schwindelte mir etwas bei dem Lärm der Stimmen, die sich an den hohen, kahlen Wänden brachen, und bei dem grellen Licht, das vom Himmel über die Scheiben floß und in den Saal zurückfiel.

「副詞節」, 「動詞句」 「副詞句」 und 「副詞句」

Als アルス conj. ～した時

「副詞節」

ich イッヒ pron 僕が

「主語」

in den Saal イン・テン・サール adv. 面会所に、部屋に

「間接目的語」

kam, カム 1 単過(kommen)v.i 来た、入った

「動詞」

schwindelte mir シュヴァンデルテ・ミーア 1 単過(sich-3 schwindeln)v.pr 眩暈がした

「動詞句」

etwas エツァス adv. いくらか、少し

「副詞」

bei バイ prep (3 格と) (原因) ～のために

「副詞句」

dem Lärm der Stimmen, デーム・レアム・デア・」シュチメン n.m.3 格 騒めき声

「目的語」

die デー pron (主語) ～する

「形容詞節」

sich ...brachen, スィッヒ...ブラヘン 3 複過・時制の一致(sich-4 brechen)

v.pr (音が) 反響する

「動詞句」

an den hohen, kahlen Wänden アン・テン・ホレン・カレン・ヴァン・エン・テン

adv. 剥き出しの高い壁に

「間接目的語」

und ウント conj. そして

bei バイ prep (3 格と) (原因) ～のために

「副詞句」

dem grellen Licht, デーム・グレルン・リヒト n.n.3 格 どぎつい光

「目的語」

das ダス pron (主語) ～する

「形容詞節」

vom Himmel フォム・ヒメル adv. 空から

「副詞句」

über die Scheiben ユーバー・デー・シャイベン

adv. ガラス窓に

「間接目的語」

floß フロス 3 単過・時制の一致(fließen)v.i 降り注ぐ

「動詞」

und ウント conj. そして

in den Saal イン・テン・サール adv. 部屋に

「間接目的語」

zurückfiel. ツリュック・フィール 3 単過・時制の一致(zurück | fallen)

v.i 落ちて来る

「動詞句」

ZWEITER TEIL 第2部

僕の独房はもっと静かで暗かった。

Meine Zelle war ruhiger und dunkler.

「主語」「動詞」「補語」

Meine Zelle マイネ・ツェレ n.f 僕の独房は

「主語」

war ヴァール 3 単過 (sein)v.i 〜である

「動詞」

ruhiger ルーヒャー adj(ruhig). (比較級) もっと静かな

「補語」

und ウント conj. そして

dunkler. ドンクレ adj(dunkel). (比較級) もっと暗い

「補語」

それに慣れるのに数秒かかった。

Ich brauchte ein paar Sekunden, um mich daran zu gewöhnen.

「主語」「動詞」「目的語」「副詞句」

Ich イッヒ pron 僕は

「主語」

brauchte ブラウフテ 1 単過(brauchen)v.t 必要とした、要した

「動詞」

ein paar Sekunden, アイン・パール・ゼクンテン pl(Sekunde).n.f.4 格 数秒

「目的語」

um mich daran zu gewöhnen. ウム・ミッヒ・ダラン・ツウ・ゲヴエーネン zu 不定句・目的

(um zu+不定詞 sich-4 gewöhnen+ daran)adv. それに慣れるために

「副詞句」

しかし、僕はやっと明るい光の中にくっきりと浮かび上がったそれぞれの顔を見分けられるようになった。

Schließlich aber erkannte ich jedes Gesicht, das sich in dem hellen Licht klar und deutlich abzeichnete.

「副詞」 aber 「動詞」「主語」「目的語」

Schließlich シュリースリッヒ adv. ついに、やっと、結局は

「副詞」

aber アーバー conj. しかし

erkannte エカント 1 単過(erkennen)v.t 見分けた、識別した

「動詞」

ich イッヒ pron 僕は

「主語」

jedes Gesicht, イェーデス・ゲズイヒト n.n.4 格 すべての顔を

「目的語」

das ダス pron (主語) 〜する

「形容詞節」

sich ...abzeichnete. スィッヒ...アップ ツァイヒネ 3 単過(sich-4 ab|zeichnen)

v.pr 浮かび上がった

「動詞句」

in dem hellen Licht イン・デーム・ヘレン・リヒト adv. 明るい光の中に

「副詞句」

klar und deutlich クール・ウント・ドイトリッヒ adj. くっきりと

「補語」

ZWEITER TEIL 第2部

2つの鉄格子に挟まれた通路の端に、看守が座っているのが見えた。

Am Ende des Ganges, zwischen den beiden Gittern, sah ich einen Wärter sitzen.

「副詞句」, 「動詞」「主語」「目的語」「補語」

Am Ende des Ganges, アム・エンデ・デス・ガンゲス adv. 通路の端に 「副詞句」

zwischen ツウィッシェン prep (空間的) 〜の間の 「副詞句」

den beiden Gittern, デン・ヘイデン・ギッター pl(Gitter).n.3 格 2つの鉄格子 「目的語」

sah ザー 1 単過・知覚動詞(sehen)v.t 見えた 「動詞」

ich イヒ pron 僕は 「主語」

einen Wärter アイネン・ウェルター n.m 看守を 「目的語」

sitzen. シッツェン 不定詞・Wärter の動作 v.i 座っている 「補語」

大部分のアラブ人の囚人は家族と同じように床にしゃがみ込んでいた。彼らは大声で話さなかった。

Die meisten arabischen Gefangenen hatten sich, wie ihre Familien, auf den Boden gehockt. Sie schrien nicht.

「主語」「動詞句」「副詞句」「動詞句」 | 「主語」「動詞句」

Die meisten arabischen Gefangenen デー・イー・マイステン・アラビシェン・ゲファンゲネン

pl(Gefangene).n.m 大部分のアラブ人の囚人は 「主語」

hatten sich... gehockt. ハッテン・スィヒ...ゲホクト 3 複過・完了形(sich-4 hocken)

v.pr しゃがんでいた 「動詞句」

, wie ヴァー conj. (比較) 〜のように 「副詞句」

ihre Familien, イレ・ファミリーエン pl(Familie).n.f.1 格 彼らの家族 「目的語」

auf den Boden アウフ・デン・ボーデッセン adv. 床の上に 「副詞句」

Sie ジー pron.pl 彼らは 「主語」

schrien nicht. シュリエン・ニヒト 3 複過・否定(schreien)v.t 大声で話さなかった 「動詞句」

騒音のなかでも、彼らは静かに意思の疎通が出来た。

Trotz des Lärms brachten sie es fertig, sich leise zu verständigen.

「副詞句」, 「動詞」「主語」「補語」「目的語」

Trotz トロツツ pron (2 格と) 〜にもかかわらず 「副詞句」

des Lärms デス・レアムス n.m(Lärm).2 格 騒音 「目的語」

brachten ブラハテン 3 複過(bringen)v.t もたらした 「動詞」

sie ジー pron.pl 彼らは 「主語」

es エス pron 仮の目的語 (真の目的語は sich 以降)

fertig, フェアティヒ adj. 完成された 「補語」

sich leise zu verständigen. スィヒ・ライゼ・ツァー・フェアシュテンデ イゲン

ZWEITER TEIL 第2部

zu 不定句(sich-4 ...verständigen)v.pr(相互) 静かに意思を疎通することを 「目的語」

彼らの籠った眩きは、彼らの頭上を飛び交う会話にいわば通奏低音を与えていた。

Ihr dumpfes Gemurmeln da unten bildete gleichsam den Baß zu den Unterhaltungen, die über ihnen durcheinanderschwirrten.

「主語」「副詞句」「動詞」「目的語」「副詞句」

Ihr dumpfes Gemurmeln イーア・ドムプ°フェス・ゲムルメル n.n 彼らのこもった眩きは 「主語」

da ダー adv. そこに 「副詞」

unten ウンテン adv. 下の方に 「副詞」

bildete ビルテ°テ 3 単過(bilden)v.t 形成した 「動詞」

gleichsam グライヒザム adv. いわば 「副詞」

den Baß デン・ハス n.m.4 格 低音部 「目的語」

zu den Unterhaltungen, ツー・デッ・ウンターハルトウング° adv. 会話に対して 「副詞句」

die デー pron.f (主語: Unterhaltungen の代用) ~する 「形容詞節」

über ihnen ユーバー・イーネン adv. 彼らの上で 「副詞句」

durcheinanderschwirrten. ドゥールヒアインダー・シュウ°イルテン 3 単過

(durcheinanderschwirren)・時制の一致

v.i 入り乱れて飛び回る 「動詞句」

僕はマリーに向かって進みながら、すぐにこれらの事に気が付いた。

Das alles erkannte ich sehr schnell, während ich auf Maria zuing.

「目的語」「動詞」「主語」「副詞句」, 「副詞節」

Das alles ダス・アレス pron.4 格 その全てを 「目的語」

erkannte エアカンテ 1 単過(erkennen)v.t 気付いた 「動詞」

ich イヒ pron 僕は 「主語」

sehr schnell, セーア・シュネル adv. すぐに 「副詞句」

während ウェーレント conj. ~しながら 「副詞節」

ich イヒ pron 僕は 「主語」

auf Maria アウフ・マリア adv. マリーの方へ 「間接目的語」

zing. ツ・ギング° 1 単過(zu | gehen)v.i(auf j-4 に) 向かって行く 「動詞句」

ZWEITER TEIL 第2部

彼女はすでに鉄格子にへばり付いて、精一杯微笑んでいた。僕は彼女がすごく美しいと思
 ったが、それを彼女に伝えることは出来なかった。

Sie hatte sich schon ans Gitter gedrückt und lächelte angestrengt. Ich fand sie sehr schön, aber ich wußte es ihr nicht zu sagen.

「主語」「動詞句」「副詞」「間接目的語」「動詞句」und「動詞」「副詞」

「主語」「動詞」「目的語」「補語」,

aber「主語」「動詞句」「直接目的語」「間接目的語」「動詞句」

Sie ジー pron.f 彼女は 「主語」

hatte sich ...gedrückt ハッテ・スィッヒ...ゲドリュックト 3 単過・完了形(sich-4 drücken)

v.pr 自分自身を押し付けていた、～にへばり付いていた 「動詞句」

schon ショーン adv. すでに 「副詞」

ans Gitter アンス・ギター adv. 鉄格子に 「間接目的語」

und ウント conj. そして

lächelte レヒェルテ 3 単過(lächeln)v.i 微笑んでいた 「動詞」

angestrengt. アンゲシュトレンクト 過去分詞(anstrengen)adv. 努力して、精一杯 「副詞」

Ich イヒ pron 僕は 「主語」

fand ファント 1 単過(finden)v.t ～と思った 「動詞」

sie ジー pron.f 彼女を 「目的語」

sehr schön, セーア・シェン adj. とても美しい 「補語」

aber アーバー conj. しかし

ich イヒ pron 僕は 「主語」

wußte ...nicht zu sagen. ウステ...ニヒト・ツァー・ザーゲン 1 単過・可能・否定(wissen zu+不定詞 sagen)

v.t 言うことができなかった 「動詞句」

es エス pron それを 「直接目的語」

ihr イア pron.3 格 彼女に 「間接目的語」

「それでどうなの？」と、彼女は大きな声で言った。

«Nun?» sagte sie sehr laut.

《「呼びかけ」》, 「動詞」「主語」「副詞句」

«Nun?» ヌン adv. それでどうなの? 「呼びかけ」

sagte サークテ 3 単過(sagen)v.t 言った 「動詞」

sie ジー pron.f 彼女は 「主語」

sehr laut. セーア・ラウト adv. 大きな声で 「副詞句」

ZWEITER TEIL 第2部

「まあまあだよ」

«Na ja.» -

《「応答」》

«Na ja.» - ナ・ヤ int. まあまあだよ

「応答」

「大丈夫なの？必要な物は全てあるの？」

«Geht es dir gut? Hast du alles, was du brauchst?» -

《「動詞句」「間接目的語」「補語」 | 「動詞」「主語」「目的語」》

«Geht es ゲート・エス 非人称・3 単現・疑問文(es geht)v.h 進んでいるの？

「動詞句」

dir ディール pron あなたにとって

「間接目的語」

gut? ゲート adj. よい

「補語」

Hast ハスト 2 単現・疑問文(haben)v.t もっているの、あるの？

「動詞」

du ドゥ pron あなたは

「主語」

alles, アレス pron すべてを

「目的語」

was ヴァス pron (目的語) ~する

「形容詞節」

du ドゥ pron あなたが

「主語」

brauchst?» - ブラウフスト 2 単現(brauchen)v.t 必要とする

「動詞」

「ああ、全部ある」

«Ja, alles.»

《「応答」, 「目的語」》

«Ja, ヤー adv. ああ

「応答」

alles.» アレス prpn 全て

「目的語」

それから僕たちは黙り込んだ。それでもマリーは微笑んでいた。

Dann schwiegen wir. Maria lächelte immer noch.

「副詞」「動詞」「主語」 | 「主語」「動詞」「副詞句」

Dann ダン adv. それから

「副詞」

schwiegen 1 複過(schweigen)v.i 黙り込んだ

「動詞」

wir. ヴィーア pron.pl 僕たちは

「主語」

Maria マリア n.f マリーは

「主語」

lächelte レヒェルテ 3 単過(lächeln)v.i 微笑んだ

「動詞」

immer noch. イマー・ノッホ adv. 依然として、それでも

「副詞句」

ZWEITER TEIL 第2部

その太った女は、恐らく女の夫と思われる開けっ広げな顔をした長身で金髪の僕の隣人に
向こうから大声で叫んだ。

Die dicke Frau brüllte zu meinem Nachbarn herüber, zweifellos ihrem Mann, einem großen, blonden Kerl mit offenem Gesicht.

「主語」「動詞」「間接目的語」「副詞句」

Die dicke Frau ディー・ディッケ・フラウ n.f その太った女性は 「主語」
brüllte ブリュルテ 3 単過(brüllen)v.t 大声で叫んだ 「動詞」
zu meinem Nachbarn ツー・マイネ・ナッハー・ン adv. 僕の隣人に 「間接目的語」
herüber, ヘリュバー adv. 向こうからこちらへ 「副詞」
zweifellos ツヴァイフェルロス adv. 明らかに 「副詞句」
ihrem Mann, イーレム・マン n.m 彼女の夫 「目的語」
einem großen, blonden Kerl アイネム・グロセン・ブロンデン・ケル
n.m(同格) 長身で金髪の男 「目的語」
mit offenem Gesicht. ミット・オフエネム・ゲシヒト
adv. (様態) 開けっ広げな顔をした 「副詞句」

それは以前からしていた会話の続きだった。

Es war die Fortsetzung eines bereits begonnenen Gesprächs.

「主語」「動詞」「補語」

Es エス pron それは 「主語」
war ヴァール 3 単過(sein)v.i ~ だった 「動詞」
die Fortsetzung ディー・フォルトゼツツング n.f.1 格 続き 「補語」
eines bereits begonnenen アイネス・ベライツ・ベゴネーネ
adj.2 格 始まっていた 「形容詞句」
Gesprächs. ゲシュプレーヒス n.n.2 格 会話の 「形容詞」

「ジャンヌがあれを引き取ろうとしないわ」と、女は大声で叫んだ。

«Jeanne wollte es nicht nehmen», schrie sie aus vollem Hals.

《「主語」「動詞句」「目的語」「動詞句」》, 「動詞」「主語」「副詞句」

«Jeanne ジャンヌ pron ジャンヌは 「主語」
wollte ...nicht nehmen», ヴォルテ...ニヒト・ネーメン 3 単過・願望・否定・時制の一致
(wollen+不定詞 nehmen)v.t 引き取ろうとしない 「動詞句」
es エス pron あれを 「目的語」
schrie シュリー 3 単過(schreien)v.i 叫んだ 「動詞」
sie ジー pron 彼女は 「主語」
aus vollem Hals. アウス・フォルム・ハルス adv. 声を限りに 「副詞句」

ZWEITER TEIL 第2部

「ああ、そうだろうな」と、男は答えた。「私はあんたが出てきたら、あれを迎えに行くと言ったけれど、それでも引き取ろうとしないんだよ」

«Ja, ja», sagte der Mann. «Ich hab ihr gesagt, du wirst es abholen, wenn du rauskommst, aber sie wollte es nicht nehmen.»

《「応答」》, 「動詞」「主語」,

《「主語」「動詞句」「間接目的語」「動詞句」「直接目的語」,

aber 「主語」「動詞句」「目的語」「動詞句」》

«Ja, ja», ヤー・ヤー adv. ああ、そうか 「応答」
 sagte サークテ 3 単過(sagen)v.t 言った 「動詞」
 der Mann. デア・マン n.m 男が 「主語」
 «Ich イヒ pron 私は 「主語」
 hab ...gesagt, ハブ° ...ゲザークト 1 単現・完了形(sagen)v.t 言った 「動詞句」
 hab ...gesagt 会話では、「habe ...gesagt」が使われる。
 ihr イア pron.3 格 彼女に 「間接目的語」
 n. 〜という事を 「直接目的語」
 du トゥ pron あんたが 「主語」
 wirst ...abholen, ヴィルスト...アップ・ホレン 2 単末(werden+不定詞 abholen)
 v.t 迎えに行く、引き取りに行く 「動詞句」
 es エス pron あれを 「目的語」
 wenn ヴェン conj. (条件) 〜したら 「副詞節」
 du トゥ pron あんたが 「主語」
 rauskommst, ラウスコムスト 2 単現(raus+kommen)v.i 外に出る 「動詞句」
 aber アーバー conj. しかし
 sie シー pron 彼女は 「主語」
 wollte ...nicht nehmen.» ヴォルテ...ニヒトネーメン 3 単過・願望・否定・時制の一致
 (wollen+不定詞 nehmen)v.t 引き取ろうとしない 「動詞句」
 es エス pron あれを 「目的語」

レーモンがよろしくと言っているとマリーが叫んだ。それで僕は言った：

Maria schrie, Raymond lasse mich grüßen, und ich sagte:

「主語」「動詞」「目的語」, und 「主語」「動詞」

Maria マリア n.f マリーは 「主語」
 schrie, シュリー 3 単過(schreien)v.t 〜と大声で言った 「動詞」
 n. 〜ということを 「目的語」
 Raymond レーモン n.m レーモンが 「主語」

ZWEITER TEIL 第2部

lasse ラッセ 3 単現・使役(lassen)v.t	させている	「動詞」
mich ミッヒ pron	私を	「目的語」
grüßen, グリュェーセン	不定詞・mich の動作 v.t 挨拶する、よろしくと伝える	「補語」
und ウント conj.	そして	
ich イッヒ pron	僕は	「主語」
sagte: サーゲ 3 単過(sagen)v.t	言った	「動詞」

「有難う」しかし僕の声は、「元気にしているか？」と尋ねる隣人の声でかき消された。

«Danke.» Aber meine Stimme wurde von meinem Nachbarn übertönt; der fragte, ob es gutgehe.

《「応答」》 Aber 「主語」「動詞句」「副詞句」「動詞句」		
«Danke.» ダンケ adv.	有難う	「応答」
Aber アーバー conj.	しかし	
meine Stimme マイネ・シュチメ n.f	僕の声は	「主語」
wurde ...übertönt; ヴェルテ° ...ユーバーテント 3 単過・受動(werden+過去分詞 übertönen)		
v.t	聞こえなくされた、圧倒された	「動詞句」
von meinem Nachbarn フォン・メイネ・ナッハバーン adv.	(動作主) 隣人によって	「副詞句」
der デア pron	(主語) ～する	「形容詞節」
fragte, フラゲ 3 単過(fragen)v.t	尋ねた	「動詞」
ob オップ conj.	～かどうかということ	「目的語」
es エス pron	物事は	「主語」
gutgehe. グート・ゲーエ 3 単現(gehen gut)		
v.i	うまく進んでいる	「動詞句」

彼の妻は笑いながら答えた。こんなに元気だったことはない。

Seine Frau antwortete lachend, es sei noch nie so gutgegangen.

「主語」「動詞」「副詞」, 「主語」「動詞句」「副詞句」「動詞句」		
Seine Frau サイネ・フラウ n.f	彼の妻は	「主語」
antwortete アントヴァーテ 3 単過(antworten)v.t	答えた	「動詞」
lachend, ラーヘント 現在分詞(lachen)・同時 adv.	笑いながら	「副詞」
es エス pron	それは	「主語」
sei ...gutgegangen. サイ...グートゲガンゲン 接・3 単現・完了形・推量(sein)		
v.i	元気にしていた、うまく～進行した	「動詞句」
noch nie so ノッホ・ニー・ゾー adv.	いまだにそんなに～ない	「副詞句」

ZWEITER TEIL 第2部

僕の左隣の小柄で華奢な手をした若者は何も話さなかった。

Mein Nachbar zur Linken, ein kleiner junger Mann mit zarten Händen, sagte nichts.

「主語」「動詞」「目的語」

Mein Nachbar マイン・ナッハバー n.m 僕の隣人は

「主語」

zur Linken, ツー・リンクェン adv. 左側の

「副詞句」

ein kleiner junger Mann アイン・クライナー・ユンガー・マン n.m 小柄な若者は

「主語」

mit ミット prep (付属) ～を持った

「副詞句」

zarten Händen, ツアルテン・ヘンデレン pl(Hand).n.f か細い手

「目的語」

sagte サー・ケ 3 単過(sagen)v.t 言った

「動詞」

nichts. ニヒツ pron 何も～ない

「目的語」

僕は、彼が小柄な老婆と向かい合っていて、お互いに見つめ合っていることに気付いた。

Ich sah, daß er der kleinen Alten gegenüberstand und daß beide sich anstarrten.

「主語」「動詞」, 「目的語」 und 「目的語」

Ich イヒ pron 僕は

「主語」

sah, サー 1 単過(sehen)v.t 見えた、気づいた、分かった

「動詞」

daß ダス conj. ～ということを

「目的語」

er エア pron 彼は「主語」

der kleinen Alten デア・クライン・アルテン pron.f.3 格 小柄な老婆と

「間接目的語」

gegenüberstand ゲー・ゲンユーバー・シュタント 3 単過(gegenüber | stehen)

v.i(j-3 と) 向かい合っていた

「動詞句」

und ウント conj. そして

daß ダス conj. ～ということを

「目的語」

beide バイェ pron 両者は

「主語」

sich anstarrten. ズィヒ・アン・シュタルテン 3 複過(sichh-4 an | starren)

v.pr (相互) 互いに見つめ合っていた

「動詞句」

しかし、彼らをこれ以上観察する時間は無かった。マリーが希望を持たなければだめ、と叫んだからだ。

Aber ich hatte keine Zeit, sie länger zu beobachten, weil Maria mir zurief, ich solle weiter hoffen.

Aber 「主語」「動詞」「目的語」, 「副詞節」

Aber アーバー conj. しかし

ich イヒ pron 僕は

「主語」

hatte ハッテ 1 単過(haben)v.t ～があった

「動詞」

keine Zeit, カイネ・ツァイト n.f 時間が～ない

「目的語」

ZWEITER TEIL 第2部

zu 不定句・目的 adv. ～するには	「副詞句」
sie シー pron.pl 彼らを	「目的語」
länger レンガー adv. これ以上	「副詞」
zu beobachten, ツー・ベ・オバー・ハテン zu 不定詞 v.t 観察する、見守る	「動詞句」
weil ヴェイル conj. (原因) ～なので	「副詞節」
Maria マリア n.f マリーが	「主語」
mir ミーア pron.3 格 僕に	「間接目的語」
zurief, ツー・リーフ 3 単過(zu rufen)v.t 叫んだ	「動詞句」
n. ～ということを	「直接目的語」
ich イッヒ pron 僕は	「主語」
solle ...hoffen. ソル...ホフエン 1 単現・義務(sollen+不定詞 hoffen)	
v.i 希望を持たなければならない	「動詞句」
weiter ヴェイター adv. 引き続いて、ずっと	「副詞」

僕は、「わかった」と答えた。その時、僕は彼女を見つめ、彼女の肩に触れたいと思った。

Ich sagte: «Ja.» Dabei sah ich sie an und hatte nicht übel Lust, ihre Schulter zu berühren.

「主語」「動詞」:《「応答」》 「副詞」「動詞句」「主語」「目的語」 und 「動詞」「目的語」	
Ich イッヒ pron 僕は	「主語」
sagte: サークテ 3 単過(sagen)v.t 言った	「動詞」
«Ja.» ヤー adv. (肯定) わかった	「応答」
Dabei ダバイ adv. その時	「副詞」
sah ...an サー...アン 1 単過(an sehen)v.t 見つめた	「動詞句」
ich イッヒ pron 僕は	「主語」
sie シー pron.f.4 格 彼女を	「目的語」
und ウント conj. そして	
hatte ハッテ 1 単過(haben)v.t ～があった	「動詞」
nicht übel Lust, ニヒト・ユーベル・ルスト n.f.4 格 悪くない気持ち	「目的語」
zu 不定句 adj. ～するという	「形容詞句」
ihre Schulter イーレ・シュルター n.f.4 格 彼女の肩に	「目的語」
zu berühren. ツー・ベ・リュレン zu 不定詞 v.t 触れる	「動詞句」

フランス語の原文では：

同時に、僕は彼女を見つめ、ドレスの上から彼女の肩を抱きしめたいと思った。

En même temps, je la regardais et j'avais envie de serrer son épaule par-dessus sa robe.

ZWEITER TEIL 第2部

僕は彼女を覆う布地を欲した。そして、その他に何を望むべきかよく分からなかった。

Ich hatte Verlangen nach dem feinen Gewebe, daß sie bedeckte, und wußte nicht recht, was ich außer ihm erhoffen sollte.

「主語」「動詞」「目的語」「副詞句」, und 「動詞句」「副詞」「目的語」

Ich イッヒ pron 僕は 「主語」
 hatte ハッテ 1 単過(haben)v.t ~があった 「動詞」
 Verlangen フェランゲン n.n.4 格 欲望 「目的語」
 nach ナハ prep (対象)(3 格と) ~を求めて 「副詞句」
 dem feinen Gewebe, テーム・ファイネン・ゲウェヘ n.n.3 格 薄い布地 「目的語」
 daß ダス conj. (主語として) ~する 「形容詞節」
 sie シー pron.f 彼女を 「目的語」
 bedeckte, ベデクテ 3 単過・時制の一致(bedecken)
 v.t 覆う 「動詞」
 und ウント conj. そして
 wußte nicht ウステ・ニヒト 1 単過・否定(wissen)v.t 知らなかった、分からなかった 「動詞句」
 recht, レヒト adv. (否定文で) あまりよく~ない 「副詞」
 was ヴァス pron ~をすることが 「目的語」
 ich イッヒ pron 僕は 「主語」
 außer ihm アウサー・イム adv. その他 「副詞句」
 erhoffen sollte. エアホッフェン・ゾルテ 1 単過・義務・時制の一致(sollen+不定詞 erhoffen)
 v.t 期待すべきである 「動詞句」

しかし、間違いなくマリーはそう言っていた。なぜなら彼女はまだ微笑んでいたから。

Aber das meinte Maria zweifellos, denn sie lächelte immer noch.

Aber 「目的語」「動詞」「主語」「副詞」, 「副詞節」

Aber アーバー conj. しかし
 das ダス pron.4 格 それを 「目的語」
 meinte マインテ 3 単過(meinen)v.t 言っていた 「動詞」
 Maria マリア n.f マリーは 「主語」
 zweifellos, ツヴァイフェルロス adv. 間違いなく 「副詞」
 denn デン conj. なぜならば 「副詞節」
 sie シー pron.f 彼女は 「主語」
 lächelte レヒェルテ 3 単過(lächeln)v.i 微笑んでいた 「動詞」
 immer noch. イマー・ノッホ adv. 相変わらず 「副詞句」

ZWEITER TEIL 第2部

僕にはもうマリーの歯と目元の小さなしわしか見えなかった。

Ich sah nur noch ihre Zähne und die Fältchen um ihre Augen.

「主語」「動詞」「副詞句」「目的語」

Ich イッヒ pron 僕は

「主語」

sah サー 1 単過(sehen)v.t 見た

「動詞」

nur noch ヌアー・ノッホ adv. もう～しか...ない

「副詞句」

ihre Zähne イーレ・ツェーネ pl(Zahn).n.m.4 格 歯

「目的語」

und ウント conj. そして

die Fältchen デーイー・フェルトヒェン pl(Falte+ -chen).n.f 小さなしわ

「目的語」

um ウム prep (4 格と) (空間的) ～の周りの

「副詞句」

ihre Augen. イーレ・アウゲン n.n.4 格 目

「目的語」

そこで彼女はもう一度叫んだ：「あなたが出てきたら、私たちは結婚するのよ！」

Da rief sie wieder: «Du kommst bald raus, und dann heiraten wir.»

「副詞」「動詞」「主語」「副詞」：

《「主語」「動詞句」「副詞」「動詞句」,und「副詞」「動詞」「主語」》

Da ダー adv. そこで

「副詞」

rief リーフ 3 単過(rufen)v.i 叫んだ

「動詞」

sie ジー pron.f 彼女は

「主語」

wieder: ヴェーダー adv. もう一度、再び

「副詞」

«Du トゥ pron あなたが

「主語」

kommst... raus, コムスト...ラウス 2 単現(raus|kommen)v.i 出て来る

「動詞句」

bald バルト adv. やがて

「副詞」

und ウント conj. そして

dann ダン adv. その時に

「副詞」

heiraten ハイレーテン 1 複現・意思(heiraten)v.i 結婚する

「動詞」

wir.» ヴェーア pron 私たちは

「主語」

僕は答えた：「君はそう思っているのか？」しかし、単に何か言わなければならないと思
ってそう言っただけだ。

Ich entgegnete: «Meinst du?» Aber das sagte ich nur, um etwas zu sagen.

「主語」「動詞」：《「動詞」「主語」》

Aber 「目的語」「動詞」「主語」「副詞句」

Ich イッヒ pron 僕は

「主語」

entgegnete: エントゲーゲネ 1 単過(entgegen)v.t 答えた

「動詞」

«Meinst マインスト 2 単現・疑問文(meinen)v.t 思っているのか？

「動詞」

ZWEITER TEIL 第2部

du?》ドゥ pron 君は	「主語」
Aber アーバー conj. しかし	
das ダス pron それを	「目的語」
sagte サークテ 3 単過(sagen)v.t 言った	「動詞」
ich イヒ pron 僕は	「主語」
nur, ノー adv. ただ、単に	「副詞」
um... zu 不定句・目的 adv. ～するために	「副詞句」
zu sagen. ツー・サーゲン zu 不定詞 v.t 言う	「動詞句」
etwas エトワース pron 何かを	「目的語」

それから彼女は非常に早口で相変わらず大声で言った「思っているわ」そして「僕は無罪になる。そうしたら私たちはまた海水浴に行くのよ」

Dann sagte sie sehr hastig und immer noch sehr laut «ja», und ich würde freigesprochen, und dann gingen wir wieder zum Baden.

	「副詞」「動詞」「主語」「副詞句」「応答」
	,und 「主語」「動詞句」,und 「副詞」「動詞」「主語」「副詞」「間接目的語」
Dann ダン adv. すると、それから	「副詞」
sagte サークテ 3 単過(sagen)v.t 言った	「動詞」
sie ジー pron.f 彼女は	「主語」
sehr hastig ゼーア・ハステヒ adv. 非常に早口で	「副詞句」
und ウント conj. そして	
immer noch イマー・ノッホ adv. 相変わらず	「副詞句」
sehr laut ゼーア・ラウト adv. 大声で	「副詞句」
«ja», ヤー adv. 『思っているわ』	「応答」
und ウント conj. そして	
ich イヒ pron 僕は	「主語」
würde freigesprochen, ヴェルテ・フライゲシュプ ロヒェン 接 II・1 単現・受動・推量(werden+過去分詞)	
v.t 無罪を言い渡されるだろう、無罪になるだろう	「動詞句」
und ウント conj. そして	
dann ダン adv. それから	「副詞」
gingen キンゲン 1 複過・時制の一致(gehen)v.i 行く	「動詞」
wir ヴィー pron.pl 私たちは	「主語」
wieder ヴィーダー adv. また	「副詞」
zum Baden. ツム・ハーデン adv. 海水浴に	「間接目的語」

ZWEITER TEIL 第2部

しかしマリーの隣の女が大声で叫び、事務所にかごを預けてきたと言った。

Aber die Frau neben ihr brüllte los und sagte, sie habe in der Schreibstube einen Korb abgegeben.

Aber 「主語」「動詞句」 und 「動詞」「目的語」

Aber アーバー conj. しかし

die Frau ディー・フラウ n.f 女が 「主語」

neben ネーベン prep (3格と) 「副詞句」

ihr イア pron.3格 彼女 「目的語」

brüllte los ブリュルテ・ロース 3単過(los | brüllen)v.i 大声で叫んだ 「動詞句」

und ウント conj. そして

sagte, サークテ 3単過(sagen)v.t 言った 「動詞」

n. ～ということを 「目的語」

sie ジー pron.f 彼女は 「主語」

habe ...abgegeben. ハーベ ...アッパゲゲーベン 3単現・完了形(ab | geben)

v.t 手渡した、預けてきた 「動詞句」

in der Schreibstube イン・デア・シュライプ・シュトゥーベ adv. 事務室に 「副詞句」

einen Korb アイネン・コープ n.m.4格 かごを 「目的語」

彼女は中に入れた物を列挙した。どれも大金がかかったから、よく確認する必要がある。

Sie zählte auf, was darin war. Er sollte genau nachprüfen, denn das alles habe viel Geld gekostet.

「主語」「動詞句」「目的語」 | 「主語」「動詞句」「副詞句」

Sie ジー pron.f 彼女は 「主語」

zählte auf, ツェルテ...アウフ 3単過(auf | zählen)v.t 数え上げた 「動詞句」

was ヴァス pron ～する物を 「目的語」

darin ダリン adv. その中に 「副詞」

war. ヴァール 3単過・時制の一致・存在(sein)v.i ある 「動詞」

Er エア pron 彼は 「主語」

sollte ...nachprüfen, ソルテ...ナーハプリューフェン 3単過・時制の一致・義務(sollen+不定詞)

v.t 確認しなければならない 「動詞句」

genau ゲナウ adv. しっかりと 「副詞」

denn デン conj. ～だから 「副詞節」

das alles ダス・アレス pron.pl 全ての物は 「主語」

habe ...gekostet. ハーベ ...ゲコステット 3複現・完了形(kosten)

v.t 出費がかかった 「動詞句」

viel Geld フィール・ゲルト n.n.4格 大金が 「目的語」

ZWEITER TEIL 第2部

隣の若者とその母親はいまだに見つめ合っていた。

Mein junger Nachbar und seine Mutter starrten sich immer noch an.

「主語」「動詞句」「副詞句」「動詞句」

Mein junger Nachbar マイン・ユンガー・ナッハバー n.m 隣の若者は

「主語」

und ウント conj. そして

seine Mutter サイネ・ムター n.f 彼の母親は

「主語」

starrten sich ...an. スタルテン・スィヒ...アン 3 複過・相互(sich-4 an | starren)

v.pr 見つめ合っていた

「動詞句」

immer noch イマー・ノッホ adv. 相変わらず

「副詞句」

足元ではアラブ人の呟きが続いていた。外では、光が窓に迫って来るように見えた。

Das Gemurmel der Araber unter uns dauerte fort. Draußen schien das Licht sich gegen das Fenster zu blähen.

「主語」「動詞句」 | 「副詞」「動詞」「主語」

Das Gemurmel ダス・ゲムメル n.n 呟きは

「主語」

der Araber デア・アーラーバー adj. アラブ人の

「形容詞句」

unter uns ウンター・ウス adv. (位置) 僕たちの足元の

「副詞句」

dauerte fort. ダウエルテ・フォルト 3 単過(fort | dauern)v.i 続いていた

「動詞句」

Draußen ドラウセン adv. 外では

「副詞」

schien シン 3 単過(scheinen)v.i(zu 不定詞と) ~に思われた

「動詞」

zu 不定句 n. ~ということが

「主語」

das Licht ダス・リヒト n.n 光が

「主語」

sich ... zu blähen. スィヒ...ツァー・ブレエン zu 不定詞(sich-4 blähen)

v.pr 膨らんでいる

「動詞句」

gegen das Fenster ゲーゲン・ダス・フェンスター adv. 窓に向かって

「副詞句」

僕は少し具合が悪くなり、出来る事なら立ち去りたくなった。騒音が耳障りだった。

Mir war etwas schlecht, und ich wäre am liebsten gegangen. Der Lärm ging mir auf die Nerven.

「間接目的語」「動詞」「補語」,und「主語」「動詞句」「副詞句」「動詞句」

「主語」「動詞」「間接目的語」

Mir ミーア pron.3 格 僕にとって

「間接目的語」

war ヴァール 3 単過(sein)v.i ~ だった

「動詞」

etwas schlecht, エトヴァス・シュレヒト adj. 少し気分が悪い

「補語」

und ウント conj. そして

ZWEITER TEIL 第2部

ich イヒ pron 僕は	「主語」
wäre ...gegangen. ヲェレ...ゲガンゲン 接 II・1 単現・完了形・願望(gehen)	
v.i 立ち去りたかった	「動詞句」
am liebsten アム・リープ・ステン adv. 出来る事なら	「副詞句」
Der Lärm デア・レアム n.m 騒音が	「主語」
ging キング 3 単過(gehen)v.i 達した	「動詞」
mir ミア pron.3 格 僕の	「間接目的語」
auf die Nerven. アウフ・ディー・ネルヴエン adv. 耳に	「間接目的語」

しかしその一方で、マリーの姿を見ることを諦めたくはなかった。

Aber andererseits wollte ich auf Marias Gegenwart nicht verzichten.

Aber 「副詞」「動詞句」「主語」「間接目的語」「動詞句」

Aber アーバー conj. しかし	
andererseits アンデラーザイツ adv. 一方では	「副詞」
wollte ...nicht verzichten. ヲオルテ...ニヒト・フェアズィヒテン 1 単過・願望・否定	
(wollen+不定詞 verzichten)v.i(auf et-4 を) 諦めたくはなかった	「動詞句」
ich イヒ pron 僕は	「主語」
auf Marias Gegenwart アウフ・マリアス・ゲーゲンヴァルト adv. マリーが居合わせる事	「間接目的語」

もうどれ程の時間が経ったのか分からない。マリーは自分の仕事について話して、ずっと笑っていた。

Ich weiß nicht, wieviel Zeit noch verging. Maria erzählte von ihrer Arbeit und lächelte unaufhörlich.

「主語」「動詞句」「目的語」 「主語」「動詞」「間接目的語」 und 「動詞」「副詞」	
Ich イヒ pron 僕は	「主語」
weiß nicht, ヲァイス・ヒヒト 1 単現・否定(wissen)v.t 分からない	「動詞句」
n. ～ということが	「目的語」
wieviel Zeit ヲィーフイー・ツァイト n.f どれ程の時間が	「主語」
noch ノッホ adv. もう、すでに	「副詞」
verging. フェアキング 3 単過(vergehen)v.i(時が) 過ぎ去った、経った	「動詞」
Maria マリア n.f マリーは	「主語」
erzählte エアツェルテ 3 単過(erzählen)v.i(von について) 話した	「動詞」
von ihrer Arbeit フォン・イーラー・アルバイト adv. 彼女の仕事を	「間接目的語」
und ウント conj. そして	
lächelte レーヒェルテ 3 単過(lächeln)v.i 笑っていた	「動詞」
unaufhörlich. ウンアウフハーアリヒ adv. 絶え間なく	「副詞」

ZWEITER TEIL 第2部

眩きと叫びと会話が無秩序に交わされていた。

Das Murmeln, die Schreie, die Gespräche liefen durcheinander.

	「主語」「動詞」「副詞」
Das Murmeln, ダス・ムルメルン n.n(murmeln) (動詞の名詞化) 眩きが	「主語」
die Schreie, デー・イー・シュライエ pl(Schrei).n.m 叫びが	「主語」
die Gespräche デー・イー・ゲシュプ・レーヒエ pl(Gespräch).n.n 会話が	「主語」
liefen リーフエン 3 複過(laufen)v.i 走っていた	「動詞」
durcheinander. トゥールヒアインタダー adv. 入り乱れて	「副詞」

小柄な若者と老婆がじっと見つめ合っている僕の隣は唯一の沈黙の小島だった。

Die einzige Insel des Schweigens waren neben mir der kleine junge Mann und die Alte, die einander anstarrten.

	「主語」「動詞」「補語」
Die einzige Insel デー・イー・アインツィゲ・インセル n.f 唯一の島は	「主語」
des Schweigens デス・シュヴァイゲンス n.n(Schweigen).2 格 沈黙の	「形容詞句」
waren ヴァーレン 3 複過(sein)v.i ~ だった	「動詞」
neben mir ネヘン・ミーア adv. 僕の隣の	「副詞句」
der kleine junge Mann デア・クライネ・ユンゲ・マン n.m 小柄な若者	「補語」
und ウント conj. そして	
die Alte, デー・イー・アルテ n.f 老婆	「補語」
die デー・イー pron.pl 彼らは	「主語」
einander アインタダー adv. お互いに	「副詞」
anstarrten. アン・スタルテン 3 複過(an starrren)v.t じっと見つめていた	「動詞句」

それからアラブ人たちは次々に連れ出された。最初の一人が面会所を出ると、ほとんど全員が黙り込んだ。

Dann wurden die Araber nacheinander hinausgeführt. Fast alle schwiegen, als der erste den Saal verließ.

	「副詞」「動詞句」「主語」「副詞」「動詞句」 「主語」「動詞」「副詞節」
Dann ダン adv. それから	「副詞」
wurden ...hinausgeführt. ヴァルデン...ヒナウス・ゲ・フュアト 3 複過・受動	
(werden+過去分詞 hinaus führen)v.t 連れ出された	「動詞句」
die Araber デー・イー・アラバー pl(Araber).n.m アラブ人たちは	「主語」
nacheinander ナハアインタダー adv. 次々に	「副詞」
Fast alle ファスト・アレ pron ほとんど全員が	「主語」

ZWEITER TEIL 第2部

schwiegen, シュヴァーゲン 3 複過(schweigen)v.i 沈黙した	「動詞」
als アルス conj. ～する時	「副詞節」
der erste デア・エアステ pron 最初の一人が	「主語」
den Saal デン・サル n.m.4 格 面会所を	「目的語」
verließ. フェアリス 3 単過(verlassen)v.t(et-4 から) 出た	「動詞」

小さな老婆が鉄格子に近づくと同時に、看守が彼女の息子に合図をした。

Die kleine Alte näherte sich den Gitterstäben, und in demselben Augenblick gab der Wärter ihrem Sohn ein Zeichen.

	「主語」「動詞句」「間接目的語」,
	und 「副詞句」「動詞」「主語」「間接目的語」「直接目的語」
Die kleine Alte デー・クライン・アルテ n.f 小柄な老婆が	「主語」
näherte sich ネーアテ・スィヒ 3 単過(sich-4 nähern)v.pr(et-3 に) 近づいた	「動詞句」
den Gitterstäben, デン・ギッター・シュテヘン pl(Gitterstab).n.m.3 格 鉄格子に	「間接目的語」
und ウント conj. そして	
in demselben Augenblick イン・デムセルベン・アウゲンブリック adv. 同時に	「副詞句」
gab ガーフ 3 単過(geben)v.t (相手に) 示した	「動詞」
der Wärter デア・ワールター n.m 看守が	「主語」
ihrem Sohn イレム・ゾン n.m.3 格 息子に	「間接目的語」
ein Zeichen. アイン・ツァイヘン n.n.4 格 合図を	「直接目的語」

息子は言った：「さよなら お母さん」、すると老婆は 2 本の鉄格子の間から手を差し出して、息子にゆっくりと時間をかけて小さく合図をした。

Er sagte: «Auf Wiedersehen, Mama», und sie streckte die Hand zwischen zwei Stäbe hindurch, um ihm ein kleines, langsames und lang anhaltendes Zeichen zu geben.

	「主語」「動詞」：《「呼びかけ」》, und 「主語」「動詞」「目的語」「副詞句」
	「動詞句」「間接目的語」「直接目的語」「動詞句」
Er エア pron 息子は	「主語」
sagte: サークテ 3 単過(sagen)v.t 言った	「動詞」
«Auf Wiedersehen, Mama», アウフ・ヴァーダーゼーエン・ママ adv. 「さよなら お母さん」「呼びかけ」	
und ウント conj. そして	
sie シー pron.f 彼女は	「主語」
streckte シュトレクテ 3 単過(strecken)v.t 伸ばした	「動詞」
die Hand デー・ハント n.f.4 格 手を	「目的語」
zwischen ...hindurch, ツウィッシェン...ヒントゥルヒ prep (空間的) ～の間を通して	「副詞句」
zwei Stäbe ツヴァイ・シュテヘ pl(Stab).n.m 2 本の棒	「目的語」

ZWEITER TEIL 第2部

um +zu ム 不定句・目的・結果 adv. そして～した	「動詞句」
ihm イム pron.3 格 彼に	「間接目的語」
ein kleines, langsames und lang anhaltendes アイン・クライネス・ラング・ザーメス・ウント・ラング・アンハルテンデス adj. 小さくゆっくりと時間をかけた	「形容詞句」
Zeichen ツァイヘン n.n.4 格 合図を	「直接目的語」
zu geben. ツー・ゲーベン zu 不定詞 v.t 与えた	「動詞句」

老婆が立ち去ると、帽子を手に持った男が入って来て、彼女がいた場所についた。

Sie ging, während ein Mann, den Hut in der Hand, ein trat und ihren Platz einnahm.

「主語」「動詞」, 「副詞」「主語」「動詞句」, und 「目的語」「動詞句」	
Sie ジー pron.f 老婆は	「主語」
ging, ギング 3 単過(gehen)v.i 立ち去った	「動詞」
während ヱーレント conj. その一方で...	「副詞」
ein Mann, アイン・マン n.m 男が	「主語」
den Hut デン・フット n.m.4 格 adv. 帽子を持った	「副詞句」
in der Hand, イン・デア・ハント adv. 手に	「副詞句」
ein trat アイン・トラート 3 単過(ein treten)v.i 入って来た	「動詞句」
und ウント conj. そして	
ihren Platz イレン・プラッツ n.m.4 格 彼女の場所を	「目的語」
einnahm. アインナム 3 単過(ein nehmen)v.t (場所に) ついた	「動詞句」

囚人が一人面会所に連れて来られ、入って来た男と二人で活発に話し合ったが、部屋が再び静かになっていたので小声で話していた。

Man führte einen Gefangenen in den Saal, und die beiden unterhielten sich lebhaft, aber halblaut, weil es im Raum wieder still geworden war.

「主語」「動詞」「目的語」「副詞句」, und 「主語」「動詞句」「副詞句」	
Man マン n.m 男が	「主語」
führte フェーアテ 3 単過(führen)v.t 連れてきた	「動詞」
einen Gefangenen アイン・ゲファンゲネン n.m.4 格 一人の囚人を	「目的語」
in den Saal, イン・テン・ザール adv. 面会所に	「副詞句」
und ウント conj. そして	
die beiden デー・イー・バ イェン pl(bei de).pron 二人は	「主語」
unterhielten sich ウンターヒールテン・ズィッヒ 3 複過・相互(sich-4 unterhalten) v.pr 語り合った	「動詞句」
lebhaft, レーブ・ハフト adv. 活発に	「副詞」
aber アーバー conj. しかし	

ZWEITER TEIL 第2部

halblaut, ハルプ ^{ラウト} adv. 小声で	「副詞」
weil ウェイル conj. (理由) ~なので	「副詞節」
es エス pron それは	「主語」
im Raum イン・ラウム adv. 部屋の中は	「副詞句」
wieder ウィーダー adv. 再び	「副詞」
still シュティル adj. 静かな	「補語」
geworden war. ゲウ ^ア デ ^ン ・ウ ^ア ール 3 単過・完了形・変化(werden)	
v.i ~になっていた	「動詞句」

看守が僕の右隣の男を連れに来た。するとその妻は、もう叫ぶ必要が無くなった事に気が付かないかのように声を下げずに彼に言った：「気を付けてね、何も起こらないように」

Man holte meinen Nachbarn zur Rechten, und seine Frau sagte zu ihm, ohne die Stimme zu senken, als hätte sie gar nicht bemerkt, daß sie nicht mehr zu schreien brauchte: «Paß auf, daß dir nichts passiert.»

「主語」「動詞」「目的語」,und「主語」「動詞」「間接目的語」「副詞句」:
 《「動詞句」,「間接目的語」》

Man マン pron 看守が、人が	「主語」
holte ホルテ 3 単過(holen)v.t ~を連れに来た	「動詞」
meinen Nachbarn マイネン・ナッハバーン n.m.4 格 僕の隣人を	「目的語」
zur Rechten, ツー・レヒテン adv. 右側の	「副詞句」
und ウント conj. そして	
seine Frau サイネ・フラウ n.f その妻は	「主語」
sagte サークテ 3 単過(sagen)v.t 言った	「動詞」
zu ihm, ツー・イム adv. 彼に	「間接目的語」
ohne+zu 不定句 オネ adv. ~せずに	「副詞句」
die Stimme デー・イ・シュティメ n.f.4 格 声を	「目的語」
zu senken, ツー・ゼンケン zu 不定詞 v.t 下げる	「動詞句」
als アルス conj. まるで~のように	「副詞節」
hätte ...gar nicht bemerkt, ヘッテ...ガール・ニヒト・ヘ ^メ アクト 接 II・3 単現・完了形・否定(bemerken)	
v.t 全く気付いていない	「動詞句」
sie ジー pron.f 彼女は	「主語」
daß ダス conj. ~ということ	「目的語」
sie ジー pron.f 彼女は	「主語」
nicht mehr zu schreien brauchte: ニヒト・メア・ツー・シュライエン・ブラウフテ 3 単過・必要・否定	
(brauchen zu 不定詞)v.t もう叫ぶ必要がない	「動詞句」
«Paß auf, パス・アフ 命・2 単現(auf passen)v.i(et-4 に) 気を付けて	「動詞句」

ZWEITER TEIL 第2部

daß ^{ダス} pron. ～という事に	「間接目的語」
dir ^{デア} pron.3 格 あなたに	「間接目的語」
niichts ^{ニツ} pron 何も～ない	「主語」
passiert. ^{パシエルト} 3 単現(passieren)v.i 起こる	「動詞」

それから僕の番になった。マリーはハグをするような動きをした。

Dann war ich an der Reihe. Maria machte eine Bewegung, die eine Umarmung andeuten sollte.

「副詞」「動詞」「主語」「補語」 | 「主語」「動詞」「目的語」

Dann ^{ダン} adv. それから	「副詞」
war ^{ヴァール} 1 単過・変化(sein)v.i (状態に) なった	「動詞」
ich ^{イヒ} pron 僕は	「主語」
an der Reihe. ^{アン・デア・ライエ} adv. 順番に	「補語」
Maria ^{マリア} n.f マリーは	「主語」
machte ^{マハテ} 3 単過(machen)v.t (動作を) した	「動詞」
eine Bewegung. ^{アイネ・ベウェグUNG} n.f.4 格 動きを、動作を	「目的語」
die ^{デー} pron.f (主語) ～する	「形容詞節」
eine Umarmung ^{アイネ・ウムアルムUNG} n.f.4 格 抱擁を、ハグを	「目的語」
andeuten sollte. ^{アンド・イテン・ゾルテ} 3 単過・予定(sollen+不定詞 andeuten) v.t 暗示する	「動詞句」

僕はもう一度彼女のほうを見回した。彼女は同じく引き裂かれてひきつった微笑みで顔を鉄格子に押し当ててじっとしていた。

Ich sah mich noch einmal nach ihr um. Sie stand regungslos da, das Gesicht gegen das Gitter gepreßt, mit dem gleichen gevierteilten, krampfhaften Lächeln.

「主語」「動詞句」「副詞句」「動詞句」 | 「主語」「動詞句」「補語」「動詞句」「補語」

Ich ^{イヒ} pron 僕は	「主語」
sah mich ...um. ^{サー・ミヒ...ウム} 1 単過(sich+4 um sehen)v.pr 見回した	「動詞句」
noch einmal ^{ノッホ・アインマル} adv. もう一度	「副詞句」
nach ihr ^{ナハ・イア} adv. 彼女のほうを	「副詞句」
Sie ^{ジー} pron.f 彼女は	「主語」
stand ...da, ^{シュタント...ダー} 3 単過(da stehen)v.i ～の状態だった	「動詞句」
regungslos ^{レグUNGスロース} adj. じっとしている	「補語」
das Gesicht ^{ダス・ゲジヒト} n.n (様態) 顔は～で	「副詞句」
gegen ^{ゲーゲン} prep (空間的) ～の方へ	「副詞句」
das Gitter ^{ダス・ギター} n.n.4 格 鉄格子	「目的語」

ZWEITER TEIL 第2部

gepreßt, ゲプ レスト adj. 押し当てられた 「形容詞」
 mit ミット prep (付属) ~の状態 「副詞句」
 dem gleichen gevierteilten, krampfhaften テーム・グライヒェン・ゲフイエルトイルテン・クランフ フアフテン
 adj. 同じ引き裂かれてひきつった 「形容詞句」
 Lächeln. レッヒェルン n.n.3 格 微笑み 「目的語」

すぐその後で、彼女は僕に手紙を送ってくれた。そして今度は、僕が決して話したくない
 事が始まった。

Kurz darauf schrieb sie mir. Und nun begann das, wovon ich nie gern gesprochen habe.
 「副詞句」「動詞」「主語」「間接目的語」 | Und 「副詞」「動詞」「主語」
 Kurz darauf クルツ・ダラウフ adv. すぐその後 「副詞句」
 schrieb シュリープ 3 単過(schreiben)v.t (手紙を) 書いた 「動詞」
 sie シー pron.f 彼女は 「主語」
 mir. ミー pron.3 格 僕宛に 「間接目的語」
 Und ウント conj. そして
 nun ヌン adv. 今度は 「副詞」
 begann ベガン 3 単過(beginnen)v.i 始まった 「動詞」
 das, ダス pron それ 「主語」
 wovon ヴォフオン adv. それについて~する 「形容詞節」
 ich イヒ pron 僕は 「主語」
 nie gern gesprochen habe. ニー・ゲアン・ゲシュプ ロヒェン・ハーベ 1 単現・完了形・否定・時制の一致
 (sprechen)v.t 決して話したくない 「動詞句」

とにかく何事も誇張するべきではないし、それは僕にとって他の囚人よりも楽だった。

Man soll jedenfalls nichts übertreiben, und das fiel mir leichter als den anderen.
 「主語」「動詞句」「副詞句」「目的語」「動詞句」, und
 「主語」「動詞」「間接目的語」「補語」
 Man マン n.m 人は 「主語」
 soll ...übertreiben, ソル...ユーバートライベン 3 単現・義務(sollen+不定詞)
 v.t 誇張するべきである 「動詞句」
 jedenfalls イェーデンスファルス adv. とにかく、少なくとも 「副詞」
 nichts ニヒツ pron 何も~ない 「目的語」
 und ウント conj. そして
 das ダス pron それは 「主語」
 fiel フィール 3 単過(fallen)v.i ~になった 「動詞」
 mir ミー pron 僕にとって 「間接目的語」

ZWEITER TEIL 第2部

leichter ライヒター adj(leicht). (比較級) より簡単な 「補語」
 als den anderen. アルス・デン・アンデレン adv. (比較) 他の囚人よりも 「副詞句」

僕が拘留された当初は、そしてそれが一番つらかったのだが、僕は自由な人間の考え方を
 続けていた。

Zu Beginn meiner Haft - und das war das Härteste - dachte ich die Gedanken eines freien Menschen.

「副詞句」 -und 「主語」「動詞」「補語」 - 「動詞」「主語」「目的語」
 Zu ツー prep (3格と) (時間的) 〜の時に 「副詞句」
 Beginn ベギン n.m.3格 最初 「目的語」
 meiner Haft マイアー・ハフト n.f.2格 僕の拘留の 「形容詞句」
 - und ウント conj. そして
 das ダス n.n それが 「主語」
 war ヴァール 3単過(sein)v.i 〜だった 「動詞」
 das Härteste - ダス・ヘアテステ n.n.1格 最も困難な事 「補語」
 dachte ダハテ 1単過(denken)v.t 考えた 「動詞」
 ich イヒ pron 僕は 「主語」
 die Gedanken テー・ゲタンゲン n.m.4格 考えを 「目的語」
 eines freien Menschen. アイネス・フライエン・メンシェン n.m.2格 自由な人間の 「形容詞句」

それで例えば、浜辺に行つて海に降りていきたいと言う願望があった。

So hatte ich zum Beispiel das Verlangen am Strand zu sein und zum Meer hinunterzugehen.

So ソー adv. それで 「副詞」
 hatte ハッテ 1単過(haben)v.t 〜があった 「動詞」
 ich イヒ pron 僕は 「主語」
 zum Beispiel ツム・ハイシュピール adv. 例えば 「副詞句」
 das Verlangen, ダス・フェアランゲン n.n.4格 願望、欲求 「目的語」
 am Strand アム・シュトラント adv. 浜辺に 「間接目的語」
 zu sein ツー・ザイン zu 不定句 v.i 行くという 「形容詞句」
 und ウント conj. そして
 zum Meer ツム・メアー adv. 海に 「間接目的語」
 hinunterzugehen. ヒムンター・ツー・ゲーエン zu 不定句 v.i 降りていくという 「形容詞句」
 zu 不定句は「〜すること」の他に、「〜することの」とか「〜すべき」、「〜という」などの意味になって名詞を修飾することがあります。

ZWEITER TEIL 第2部

僕の足元に最初の波しぶきの騒めきを想像したり、どんなふうに僕の体が水の中に滑り込んだのか、そしてそれが僕にとってどれほどの解放感だったのかを想像すると、僕は突然気付いた。僕の独房の壁はなんと狭苦しかったことか。

Wenn ich mir das erste Wellengeplätscher an meinen Füßen vorstellte oder wie mein Körper ins Wasser glitt und welche Befreiung das für mich war, dann kam mir plötzlich zum Bewußtsein, wie viel enger meine Gefängnismauern geworden waren.

「副詞節」, 「副詞」 「動詞」 「間接目的語」 「副詞」 「間接目的語」,
「補語」 「主語」 「動詞句」

Wenn ウェン conj. ～すると

「副詞節」

ich イヒ pron 僕は

「主語」

mir ...vorstellte ミーア...フォアシュテルテ 1 単過(sich-3 vor|stellen)

v.pr 想像した

「動詞句」

das erste Wellengeplätscher ダス・エASTE・ウエルン・ゲプレチャー

n(Welle+Geplätscher).n.4 格 最初の波しぶきの騒めき

「目的語」

an meinen Füßen アン・マイネン・フーセン adv. 僕の足元で

「副詞句」

oder オーダー conj. または

wie ウィー adv. どのように

「副詞」

mein Körper マイン・ケルパー n.m 僕の体が

「主語」

ins Wasser インス・ウァッサー adv. 水の中に

「副詞句」

glitt グリット 1 単過(gleiten)v.i 滑り込んだ

「動詞」

und ウント conj. そして

welche Befreiung ウェルヒエ・ヘフライウング n.f.1 格 どれだほどの解放

「補語」

das ダス pron それが

「主語」

für mich フューア・ミヒ adv. 僕にとって

「副詞句」

war, ウァール 3 単過(sein)v.i ～ だった

「動詞」

dann ダン adv. それから

「副詞」

kam カム 3 単過(kommen)v.i やって来た

「動詞」

mir ミーア pron 僕に

「間接目的語」

plötzlich プレツリヒ adv. 突然に

「副詞」

zum Bewußtsein, ツーム・ベウストザイン adv. 意識に

「間接目的語」

wie viel enger ウィー・フィール・エンガー adj(eng). (比較級) どれほど狭苦しい

「補語」

meine Gefängnismauern マイネ・ゲフェングニス・マウアーン

n.f(Gefängnis+Mauern) 僕の牢獄の壁は

「主語」

geworden waren. ゲウァーデテン・ウァーレン 3 単過・完了形(werden)v.i ～ だった

「動詞句」

ZWEITER TEIL 第2部

フランス語の原文では：

足裏から伝わる一番波の振動や、体ごと水につかることや、そこで僕が味わう解放感などを想像すると、突然、獄舎の壁がどれほど息苦しく迫っているかを思い知ることになる。

À imaginer le bruit des premières vagues sous la plante de mes pieds, l'entrée du corps dans l'eau et la délivrance que j'y trouvais, je sentais tout d'un coup combien les murs de ma prison étaient rapprochés.

しかしそれは数か月しか続かなかった。それからは囚人の考え方しかしなくなった。

Aber das dauerte nur ein paar Monate. Dann dachte ich nur die Gedanken eines Gefangenen.

Aber 「主語」「動詞」「副詞句」 | 「副詞」「動詞」「主語」「副詞」「目的語」

Aber アーバー conj. しかし

das ダス pron それは 「主語」

dauerte ダウエルテ 3 単過(dauern)v.i (時間的に) 続いた 「動詞」

nur ノー adv. ～しか 「副詞」

ein paar Monate. イーン・パール・モナテ pl(Monat).n.m 数か月 「副詞句」

Dann ダン adv. それから 「副詞」

dachte ダハテ 1 単過(denken)v.t 考えた 「動詞」

ich イッヒ pron 僕は 「主語」

nur ノー adv. ただ～だけ、～しか... ない 「副詞」

die Gedanken デーイー・ゲダンケン pl(Gedanke).n.m 考えを 「目的語」

eines Gefangenen. アイネス・ゲファンゲネン n.n.2 格 囚人の 「形容詞句」

僕は刑務所の中庭での毎日の散歩や弁護士の面会を待つようになった。

Ich wartete auf den täglichen Rundgang im Gefängnishof oder auf den Besuch meines Anwalts.

「主語」「動詞」「間接目的語」 oder 「間接目的語」

Ich イッヒ pron 僕は 「主語」

wartete ウアルテテ 1 単過(warten)v.i(auf を) 待った 「動詞」

auf den täglichen Rundgang アウフ・テン・テークリヒェン・ルトカング adv. 毎日の巡回を 「間接目的語」

im Gefängnishof イム・ゲフェンゲニス・ホフ

adv.(Gefängnis+Hof) 刑務所の中庭の 「副詞句」

oder オダー conj. または

auf den Besuch アウフ・テン・ベスー adv. 訪問を、面会を 「間接目的語」

meines Anwalts. マイネス・アンヴァルト n(Anwalt).n.2 格 弁護士の 「形容詞句」

ZWEITER TEIL 第2部

残りの時間とも、上手く折り合いが付くようになった。

Mit dem Rest meiner Zeit kam ich ganz gut zurecht.

「副詞句」「動詞句」「主語」「副詞句」「動詞句」

Mit dem Rest meiner Zeit ミット・デーム・レスト・マイナー・ツァイト adv. 残りの時間と 「副詞句」

kam ...zurecht. カム...ツレヒト 1 単過(zurecht|kommen)

v.i 折り合いが付いた、上手くやりくりした 「動詞句」

ich イヒ pron 僕は 「主語」

ganz gut ガンツ・グート adv. とてもよく 「副詞句」

当時、僕はよく考えた：もし僕が切り株の空洞に住むことになって、頭上の空を眺めるしか出来なくなったとしても、僕はやがてそれに慣れて言っただろう。

Damals dachte ich oft: hätte ich in einem hohlen Baumstumpf hausen und nur immer den Himmel über mir betrachten müssen, ich hätte mich langsam auch daran gewöhnt.

「副詞」「動詞」「主語」「副詞」：「動詞句」「主語」「副詞句」「動詞句」

und 「目的語」「動詞句」, 「主語」「動詞句」「副詞」「間接目的語」「動詞句」

Damals ダーマルス adv. その頃、当時 「副詞」

dachte ダハテ 1 単過(denken)v.i 考えていた 「動詞」

ich イヒ pron 僕は 「主語」

oft オフト adv. よく、何度も 「副詞」

hätte ...hausen ヘッテ...ハウゼン 接 II・1 単現・仮定(haben+不定詞 hausen)

v.i 住むことになっている 「動詞句」

ich イヒ pron 僕は 「主語」

in einem hohlen Baumstumpf イン・アイネム・ホーレン・バウムシュトumpf adv. 切り株の空洞に 「副詞句」

und ウント conj. そして

nur immer ノーア・イマー adv. ただ〜だけ 「副詞句」

den Himmel デン・ヒメル n.m.4 格 空を 「目的語」

über mir ユーバー・ミーア adv. 頭上の 「副詞句」

betrachten müssen, ベトラヘテン・ミュッセン 接 II・1 単現・仮定

(haben+不定詞 müssen+不定詞 betrachten)

v.t 眺めなければならないことになっている 「動詞句」

ich イヒ pron 僕は 「主語」

hätte mich ...gewöhnt. ヘッテ・ミヒ...ゲウオント 接 II・1 単現・完了形・推量(sich-4 gewöhnen)

v.pr 慣れただろ 「動詞句」

langsam ラングザーム adv. しだいに、やがて 「副詞」

auch daran アウフ・ダラン adv. それに 「間接目的語」

ZWEITER TEIL 第2部

フランス語の原文では：

僕がその頃よく考えたのは、もし仮に、枯木の幹の中で、頭上の花の形をした空を見ることしか暇つぶしをしないで暮らすように、と誰かに強制されたとしても、僕は少しづつそれに慣れていっただろうということだ。

J'ai souvent pensé alors que si l'on m'avait fait vivre dans un tronc d'arbre sec, sans autre occupation que de regarder la fleur du ciel au-dessus de ma tête, je m'y serais peu à peu habitué.

僕は通り過ぎる鳥や雲を待っただろう、ここで弁護士の奇妙なネクタイを待ったり、別の世界では、マリーの体を抱きしめるために辛抱強く土曜日を待ったように。

Ich hätte auf vorbeifliegende Vögel oder auf vorüberziehende Wolken gewartet, wie ich hier auf die seltsamen Krawatten meines Anwalts und, in einer anderen Welt, geduldig auf den Samstag wartete, um Marias Körper in die Arme zu schließen.

「主語」「動詞句」「目的語」「動詞句」, 「副詞節」

Ich イッヒ pron 僕は

「主語」

hätte ...gewartet, ヘッテ...ゲウアルテット 接 II・1 単現・完了形・推量(warten)

v.i(auf j-4 を) 待っただろう

「動詞句」

auf vorbeifliegende Vögel アウフ・フォアバイ・フリーゲンデ・ゲーゲル adv. 通り過ぎる鳥を「間接目的語」

oder オーダー conj. それとも、または

auf vorüberziehende Wolken アウフ・フォリュハー・ツイエンデ・フォルケン

adv. 通り過ぎる雲を

「間接目的語」

wie ヴァー conj. ~のように

「副詞節」

ich イッヒ pron 僕は

「主語」

hier ヒア adv. ここで

「副詞」

auf die seltsamen Krawatten アウフ・デー・セルツァーメン・クラウアッソ

adv. 奇妙なネクタイを

「間接目的語」

meines Anwalts マイネス・アンヴァルト n.n.2 格 僕の弁護士の「形容詞句」

und, ウント conj. そして

in einer anderen Welt, イン・アイナー・アンデルン・ヴェルト adv. 別の世界では 「副詞句」

geduldig ゲトウルトイッヒ adv. 辛抱強く

「副詞」

auf den Samstag アウフ・デン・ザムスターク adv. 土曜日を

「間接目的語」

wartete, ヴアルテテ 1 単過(warten)v.t 待った

「動詞」

um ム zu 不定句 adv. (目的) ~するために

「副詞句」

Marias Körper マリアス・ケルパー n.m.4 格 マリーの体を

「目的語」

in die Arme イン・デー・アルメ adv. 両腕に

「副詞句」

zu schließen. ツー・シュリーセン zu 不定詞 v.t 抱きしめる

「動詞句」

ZWEITER TEIL 第2部

しかし厳密に言えば、僕は枯木のほこらに居るわけではない。

Nun war ich aber, genaugenommen, nicht in einem hohlen Baum.

「副詞」「動詞」「主語」 aber, 「副詞句」

Nun ヌン adv. (話題転換) ところで

「副詞」

war ヲアール 1 単過・存在・時制の一致(sein)v.i (存在) ～にいる

「動詞」

ich イッヒ pron 僕は

「主語」

aber, アーバー conj. しかし

genaugenommen, ゲナウ・ゲノメン adv. 厳密に言えば

「副詞句」

nicht in einem hohlen Baum. ニヒト・イン・アイネム・ホレン・baum

adv. 木のほこらに～ではない

「副詞句」

僕よりも不幸な人々がいる。ところでこれは母さんの考えだが；人は結局はどんな事にも慣れるものだといつも言っていた。

Es gab Unglücklichere als mich. Übrigens war das ein Gedanke von Mama; sie sagte immer wieder, am Ende gewöhne man sich an alles.

「動詞句」「主語」 | 「副詞」「動詞」「主語」「補語」；

「主語」「動詞」「副詞句」, 「副詞句」「動詞句」「主語」「動詞句」「間接目的語」

Es gab エス・ガーブ 非人称・3 単過・存在・時制の一致(es geben j-4)v.h ～がいる 「動詞句」

Unglücklichere ウングレックリッヒエレ pl(Unglücklich).n.n (比較級) より不幸な人が 「主語」

als mich. アルス・ミッヒ adv. (比較) 僕よりも

「副詞句」

Übrigens ユーブリゲンス adv. ところで、それはそうと

「副詞」

war ヲアール 3 単過(sein)v.i ～ だった

「動詞」

das ダス pron それは

「主語」

ein Gedanke アイン・ゲダンク n.n.1 格 考え

「補語」

von Mama; フォン・ママ adv. 母さんの

「副詞句」

sie ジー pron.f 彼女は

「主語」

sagte サークテ 3 単過(sagen)v.t 言っていた

「動詞」

immer wieder, イマー・ワイダー adv. いつも、なんども

「副詞句」

am Ende アム・エンデ adv. 結局は

「副詞句」

gewöhne ...sich ゲウエーネ...スィッヒ 接・3 単現(sich-4 gewöhnen)v.pr 慣れる

「動詞句」

man マン pron 人は

「主語」

an alles. アン・アレス adv. なんにでも

「間接目的語」

ZWEITER TEIL 第2部

普通はそれほど深く考えなかった。最初の数か月は辛かった。しかし、まさに僕がしなければならなかった努力がそれらを克服する助けになった

Im allgemeinen dachte ich gar nicht so weit. Die ersten Monate waren hart. Aber gerade die Anstrengung, die ich machen mußte, half mir, sie zu überwinden.

「副詞句」「動詞」「主語」「副詞句」 | 「主語」「動詞」「補語」

Aber 「主語」「動詞」「補語」

Im allgemeinen イム・アルゲマイネン adv. 一般に、大体は 「副詞句」
 dachte ダハテ 1 単過(denken)v.i 考えた 「動詞」
 ich イヒ pron 僕は 「主語」
 gar nicht so weit. ガール・ニヒト・ゾー・ヴァイト adv. そんなに先の～ない 「副詞句」
 Die ersten Monate デー・エアステン・モナテ pl(Monat).n.m 最初の数か月は 「主語」
 waren ヴァレン 3 複過(sein)v.i ～ だった 「動詞」
 hart. ハート adj. 困難な、辛い 「補語」
 Aber アーバー conj. しかし
 gerade ゲラーデ adv. まさに... 「副詞」
 die Anstrengung, デー・アンストレングング n.f 骨折りが、努力が 「主語」
 die デー pron (目的語) ～する 「形容詞節」
 ich イヒ pron 僕が 「主語」
 machen mußte, マヘン・ムステ 1 単過・必要(müssen+不定詞 machen)
 v.t しなければならなかった 「動詞句」
 half ハルフ 3 単過(helfen)v.i(j-3) を) 助けた 「動詞」
 mir, ミー pron.3 格 僕を 「間接目的語」
 sie zu überwinden. シー・ツー・ユバー・ウー・インテン zu 不定句(überwinden)・mir の動作
 v.t それらを克服する 「補語」

それで例えば、女に対する欲望には苦しんだ。僕は若いのだから、当たり前だ。

So peinigte mich beispielsweise das Verlangen nach einer Frau. Das war natürlich, denn ich war jung.

「副詞」「動詞」「目的語」「副詞句」「主語」 | 「主語」「動詞」「補語」

So ゾー conj. だから、それで 「副詞」
 peinigte パインクテ 3 単過(peinigen)v.t 苦しめた 「動詞」
 mich ミヒ pron.4 格 僕を 「目的語」
 beispielsweise バイシェールズヴァイレ adv. 例えば 「副詞」
 das Verlangen ダス・フェアランゲン n.n 欲望が 「主語」
 nach einer Frau. ナー・ハ・アイアー・フラウ adv. (対象) 女に対する 「副詞句」
 Das ダス pron それは 「主語」

ZWEITER TEIL 第2部

war ヲァール 3 単過・時制の一致(sein)v.i 〜である	「動詞」
natürlich, ナチュアリヒ adj. 当然の	「補語」
denn デン conj. (理由) 〜なのだから	「副詞節」
ich イヒ pron 僕は	「主語」
war ヲァール 3 単過・時制の一致(sein)v.i 〜である	「動詞」
jung. ユング adj. 若い	「補語」

特にマリーのことを考えていたのではない。

Ich dachte dabei nicht besonders an Maria.

	「主語」「動詞」「間接目的語」
Ich イヒ pron 僕は	「主語」
dachte ダハテ 1 単過(denken)v.t 考えた	「動詞」
dabei ダバイ adv. それについて	「副詞」
nicht besonders an Maria. ニヒト・ベゾントース・アン・マリ	
adv. 特にマリーについて〜ではない	「間接目的語」

そうではなく、ある女について、女性たちについて、僕が関係したことのある女について、僕が女たちを愛した時の全ての状況についてあまりにも考えすぎたので、僕の独房は騒々しい顔と僕のあらゆる欲望でいっぱいになった。

Aber ich dachte so sehr an eine Frau, an Frauen, an alle, die ich gekannt, an alle Umstände, unter denen ich sie geliebt hatte, daß meine Zelle sich mit lauter Gesichtern und mit all meinem Verlangen füllte.

Aber 「主語」「動詞」「副詞句」「目的語」, daß 「主語」「動詞句」「副詞句」「動詞句」	
Aber アーバー conj. しかし	
ich イヒ pron 僕は	「主語」
dachte ダハテ 1 単過(denken)v.i 考えた	「動詞」
so sehr ソーゼーア adv. あまりにも	「副詞句」
an eine Frau, アン・アイネ・フラウ adv. ある女について	「間接目的語」
an Frauen, アン・フラウエン adv. 女性たちについて	「間接目的語」
an alle, アン・アレ adv. すべての女について	「間接目的語」
die デー pron.f (目的語) 〜する	「形容詞節」
ich イヒ pron 僕が	「主語」
gekannt, ゲカント 1 単現・完了形・省略形(kennen)	
v.t 通じた事のある	「動詞句」
an alle Umstände, アン・アレ・ウムシュテンデ adv. すべての状況について	「間接目的語」
unter denen ウンター・デーネン adv. その時〜する	「形容詞節」

ZWEITER TEIL 第2部

ich イヒ pron 僕が	「主語」
sie シー pron.f.pl 女たちを	「目的語」
geliebt hatte, ゲリフト・ハッテ 1 単過・完了形(lieben)	
v.t 愛した	「動詞句」
daß ダス conj. その結果～	
meine Zelle マイン・ツェレ n.f 僕の独房は	「主語」
sich ...füllte. スイヒ...フルテ 3 単過(sich-4 füllen)v.pr いっぱいになった	「動詞句」
mit lauter Gesichtern ミット・ラウター・ゲズィヒターン adv. 騒々しい顔で	「副詞句」
und ウント conj. そして	
mit all meinem Verlangen ミット・アル・マイネム・フェアランゲン adv. 僕の全ての欲望で	「副詞句」

一方で、それは僕の心の平静を乱した。

Einerseits brachte mich das aus dem Gleichgewicht.

	「副詞」「動詞」「間接目的語」「主語」「間接目的語」
Einerseits アイナーザイツ adv. 一方では	「副詞」
brachte ブラハテ 3 単過(bringen)v.t もたらした	「動詞」
mich ミヒ pron.4 格 僕に	「間接目的語」
das ダス pron それは	「主語」
aus dem Gleichgewicht. アウス・デーム・グライヒゲウイヒト adv. 心の平静が崩れた	「間接目的語」

しかし一方では、僕は時間が出来た。

Andererseits aber vertrieb mir das die Zeit.

	「副詞」	aber	「動詞」「間接目的語」「主語」「直接目的語」
Andererseits アンデラーザイツ adv. 一方では			「副詞」
aber アーバー conj. しかし			
vertrieb フェアトリープ 3 単過(vertreiben)v.t 追い払った、時間をつぶした			「動詞」
sich-3 mit et-3 die Zeit vertreiben		何-3 で時間をつぶす	
mir ミーア pron 僕の			「間接目的語」
das ダス pron それは			「主語」
die Zeit. デー・ツァイト n.f.4 格 時間を			「直接目的語」

ZWEITER TEIL 第2部

僕はやっと食事時間に賄い係に同行してくる看守長の好意を得ることが出来た。

Ich hatte schließlich die Zuneigung des ersten Wärters gewonnen, der bei den Mahlzeiten den Küchenjungen begleitete.

「主語」「動詞句」「副詞」「目的語」

Ich イッヒ pron 僕は

「主語」

hatte ...gewonnen, ハッテ...ゲヴァン 1 単過・完了形(gewinnen)v.t 獲得した

「動詞句」

schließlich シュリースリヒ adv. やつと、ついに

「副詞」

die Zuneigung ディー・ツナイクング n.f 好意を

「目的語」

des ersten Wärters デス・エアステン・ワールタース n.m.2 格 看守長の

「形容詞句」

der デア pron (主語) ～する

「形容詞節」

bei バイ prep ～の際に

「副詞句」

den Mahlzeiten デン・マルツァイテン

pl(Mahlzeit).n.f 食事時間

「目的語」

den Küchenjungen デン・キュヒェンジンゲン

n.m.4 格 厨房係に

「目的語」

begleitete. ベグライテテ 3 単過(gebleiten)

v.t 付き添った、同行した

「動詞」

看守長が僕に女のことを話し始めた。他の囚人たちも、まず第一にそれについて文句を言う
と彼は言っていた。

Er fing damit an, mit mir über Frauen zu sprechen. Er sagte, darüber klagten in erster Linie auch die anderen.

「主語」「動詞句」「副詞」「動詞句」「間接目的語」「動詞句」

「主語」「動詞」「目的語」

Er エア pron 彼は

「主語」

fing ...an, ...zu sprechen. フィング...アン...ツァー・シュプレヒエン 3 単過・開始

(an|fangen+zu 不定詞 sprechen)v.i 話はじめた

「動詞句」

damit ダミット adv. それについて

「副詞」

mit mir ミット・ミーア adv. 僕に

「間接目的語」

über Frauen ユーバー・フラウエン adv. 女のことを

「間接目的語」

Er エア pron 彼は

「主語」

sagte, サークテ 3 単過(sagen)v.t 言っていた

「動詞」

n. ～ということを

「目的語」

darüber ダリューパー adv. それについて

「副詞」

klagten クラーケン 3 複過・時制の一致(klagen)v.i 苦情を言う

「動詞」

in erster Linie イン・エアスター・リニエ adv. まず第一に

「副詞句」

ZWEITER TEIL 第2部

auch die anderen. アウフ・デー・アンデレン pl(ander).pron 他の囚人も 「主語」

僕もそう思うし、そのような待遇は非常に不公平だと思うと言った。

Ich sagte, mir gehe es ebenso, und ich hielte eine solche Behandlung für sehr ungerecht.

「主語」「動詞」, 「間接目的語」「動詞句」「補語」 und 「主語」「動詞」「目的語」「補語」

Ich イッヒ pron 僕は 「主語」

sagte, サークテ 1 単過(sagen)v.t 言った 「動詞」

mir ミーア pron.3 格 僕にとって 「間接目的語」

gehe es ゲーエ・エス 非人称(es gehen)v.h それは〜である 「動詞句」

ebenso, エベンソ adv. 同じように 「補語」

und ウント conj. そして

ich イッヒ pron 僕は 「主語」

hielte ヒールテ 接 II・1 単現(halten)v.t 見なしている、持っている 「動詞」

eine solche Behandlung アイン・ゾルヒェ・ベハントルング n.f.4 格 そのような待遇 「目的語」

für sehr ungerecht. フーア・ゼーア・ウンゲレヒト adj. 非常に不公平として 「補語」

「しかし」と、彼は言った。「だから囚人は監禁されているんだ」「どうしてですか？」

「自由のためさ。君たちの自由を奪うのさ」

«Aber», sagte er, «deswegen sperrt man euch doch ein.» - «Wieso deswegen?» - «Das ist doch die Freiheit. Man nimmt euch die Freiheit.»

«Aber», 「動詞」「主語」, «「副詞」「動詞句」「主語」「動詞句」»

- «「応答」» - «「主語」「動詞」「補語」 | 「主語」「動詞」「間接目的語」「直接目的語」»

«Aber», アーバー conj. しかし

sagte サークテ 3 単過(sagen)v.t 言った 「動詞」

er, エア pron 彼は 「主語」

«deswegen デスヴエーゲン adv. それだから 「副詞」

sperrt ...euch doch ein.» スペルト...オイヒ・ドッホ・アイン 3 単現・再帰受動(sich-4 ein | sperren)

v.t 監禁されている 「動詞句」

man マン pron 囚人は 「主語」

- «Wieso deswegen?» ウィゾー・デスヴエーゲン adv. どうしてそうなんですか 「応答」

- «Das ダス pron それは 「主語」

ist イスト 3 単現(sein)v.i 〜である 「動詞」

doch ドッホ conj. (理由) 〜だから 「副詞」

die Freiheit. デー・フライヒト n.f.1 格 自由 「補語」

Man マン pron 人は 「主語」

nimmt ニムト 3 単現(nehmen)v.t 奪う 「動詞」

ZWEITER TEIL 第2部

euch オイ pron.pl.3 格 君たちの 「間接目的語」
 die Freiheit. ヲー・フライイト n.f.4 格 自由を 「直接目的語」

そんなことは考えたことも無かった。

Dieser Gedanke war mir noch gar nicht gekommen.

「主語」「動詞句」「間接目的語」「副詞句」「動詞句」
 Dieser Gedanke ヲーザー・ゲダンケ n.m この考えは 「主語」
 war ...nicht gekommen. ヲール...ニヒト・ゲコメン 3 単過・完了形・否定(kommen)
 v.i (考えが) 浮かんだことがない 「動詞句」
 mir ミア pron 僕に 「間接目的語」
 noch gar ノッホール adv. まったく～ない 「副詞句」

僕は彼に同意した：「その通りだ、さもないと、それはもはや罪ではない」「そうだ、お前さんは物事を理解している。他の囚人たちはそうではない。結局は自分で処理する」

Ich stimmte ihm zu: «Das ist richtig, sonst wäre es ja keine Strafe.» - «Ja, Sie verstehen die Dinge. Das tun die anderen nicht. Schließlich befriedigen sie sich selbst.»

「主語」「動詞句」「間接目的語」「動詞句」：
 《「主語」「動詞」「補語」, 「副詞」「動詞」「主語」「補語」》
 - 《「応答」, 「主語」「動詞」「目的語」 | 「目的語」「動詞句」「主語」「動詞句」
 「副詞」「動詞句」「主語」「動詞句」》

Ich イヒ pron 僕は 「主語」
 stimmte ...zu: シュティムテ...ツ 1 単過(zu | stimmen)v.i(j-3 人-3 に) 同意した 「動詞句」
 ihm イム pron.3 格 彼に 「間接目的語」
 «Das ダス pron それは 「主語」
 ist イスト 3 単現(sein)v.i ～である 「動詞」
 richtig, リヒティヒ adj. 正しい 「補語」
 sonst ゴンスト adv. さもないと 「副詞」
 wäre ヲール 接 II・3 単現・推量(sein)v.i ～だろう 「動詞」
 es エス pron それは 「主語」
 ja ヤー adv. それどころか、もう 「副詞」
 keine Strafe. カイネ・シュトラフェ n.f 罪～でない 「補語」
 «Ja, ヤー adv. そうです 「応答」
 Sie ジー pron あなたは 「主語」
 verstehen フェアシュテーン 3 複現 v.t 理解している 「動詞」
 die Dinge. ヲー・ディンゲ pl(Ding).n.n.4 格 物事を 「目的語」
 Das ダス pron それを 「目的語」

ZWEITER TEIL 第2部

tun ...nicht. トゥン...ニヒト 3 複現・否定(tun)v.t しない	「動詞句」
die anderen デー・アンデレン pl(ander).pron.1 格 他の方は	「主語」
Schließlich シュリースリヒ adv. 結局は	「副詞」
befriedigen ...sich selbst. ヲ フリーデ・イグゼン...スィヒ・ゼ・ルプ スト 3 複現(sich-4 selbst befriedigen) v.pr 自分自身を満足させる	「動詞句」
sie ジー pron.pl 彼らは	「主語」

それから、看守長は僕を一人残して戻っていった。

Dann ließ der Wärter mich allein.

「副詞」「動詞」「主語」「目的語」「補語」

Dann ダン adv. それから	「副詞」
ließ リース 3 単過(lassen)v.t(j-4 人を) ~の状態のままにした	「動詞」
der Wärter デア・ヴェルター n.m 看守長は	「主語」
mich ミヒ pron.4 格 僕を	「目的語」
allein. アライン adj. 一人の	「補語」

そしてタバコ。僕が刑務所へ入れられた時、ベルト、靴紐、タバコ、ポケットに入れていたものすべて、そして何よりもタバコを取り上げられた。

Und dann die Zigaretten. Als ich ins Gefängnis eingeliefert wurde, nahm man mir meinen Riemen, meine Schnürbänder, meine Zigaretten und alles, was ich in den Taschen hatte, vor allem die Zigaretten.

「副詞句」「主語」

「副詞節」, 「動詞」「主語」「間接目的語」「直接目的語」, 「副詞句」「直接目的語」

Und dann ウント・ダン adv. そしてそれから	「副詞句」
die Zigaretten. デー・ツィガレット pl(Zigarette).n.f.1 格 タバコ	「主語」
Als アルス conj. ~した時	「副詞節」
ich イヒ pron 僕が	「主語」
ins Gefängnis インス・ゲ・フェンゲニス adv. 刑務所に	「副詞句」
eingeliefert wurde, アインゲ・リーフェルト・ヴァルテ 1 単過・受動(werden+過去分詞 ein liefern) v.t ~へ引き渡された、~に入れられた	「動詞句」
nahm ナム 3 単過(nehmen)v.t 奪った	「動詞」
man マン pron 人は	「主語」
受動態に翻訳する	
mir ミーア pron.3 格 僕の	「間接目的語」
meinen Riemen, マイネ・リーメン n.m.4 格 ベルトを、靴紐を	「直接目的語」
meine Schnürbänder, マイネ・シュニユアベンダー pl(Schnürband).n.n.4 格 靴紐を	「直接目的語」

ZWEITER TEIL 第2部

meine Zigaretten	マイネ・ツィガレッテン pl(Zigarette).n.f.4 格	タバコを	「直接目的語」
und	ウント conj.	そして	
alles,	アレス pron	すべてを	「直接目的語」
was	ヴァス pron(目的語) ～する		「形容詞節」
ich	イヒ pron	僕が	「主語」
in den Taschen	イン・デン・タッシェン adv.	ポケットの中に	「副詞句」
hatte,	ハッテ 1 単過(haben)v.t	持っていた	「動詞」
vor allem	フォア・アラム adv.	何よりも	「副詞句」
die Zigaretten.	デー・ツィガレッテン pl(Zigarette).n.f.4 格	タバコを	「直接目的語」

独房にいた時、タバコを返してくれと頼んだことがある。しかし、それは禁じられていると言われた。

Als ich in der Zelle war, bat ich darum, sie mir wiederzugeben. Aber man sagte mir, das sei verboten.

			「副詞節」, 「動詞」 「主語」 「間接目的語」 「直接目的語」
	Aber		「主語」 「動詞」 「間接目的語」 「直接目的語」
Als	アルス conj.	～した時	「副詞節」
ich	イヒ pron	僕が	「主語」
in der Zelle	イン・デア・ツェレ adv.	独房に	「副詞句」
war,	ヴァール 1 単過・存在(sein)v.i	～にいた	「動詞」
bat	バート 1 単過(bitten)v.t	頼んだ	「動詞」
ich	イヒ pron	僕は	「主語」
darum,	adv.	それについて	「間接目的語」
sie	ジー pron	彼が～することを	「直接目的語」
mir	ミーア pron		「間接目的語」
wiederzugeben.	ウィーダー・ツェー・ゲーベン zu	不定詞 v.t 返す	「動詞句」
Aber	アーバー conj.	しかし	
man	マン pron	看守は	「主語」
sagte	サー・ケ 3 単過(sagen)v.t	言った	「動詞」
mir,	ミーア pron.3 格	僕に	「間接目的語」
das	ダス pron	それは～ということを	「直接目的語」
sei	ザイ 接・3 単現(sein)v.i	～である	「動詞」
verboten.	フェアボテン adj.	禁じられた	「補語」

ZWEITER TEIL 第2部

最初の数日はとても辛かった。恐らく、それが僕の痛いところを突いたのだろう。

Die ersten Tage waren sehr schwer. Vielleicht hat mich das ganz besonders getroffen.

「主語」「動詞」「補語」 | 「副詞」「動詞句」「目的語」「主語」「副詞句」「動詞句」
 Die ersten Tage デーイー・エーステン・ターゲ pl(Tag)n.m 最初の数日は 「主語」
 waren ヴァーレン 3 複過(sein)v.i ~ だった 「動詞」
 sehr schwer. ゼーア・シュヴェアー adj. とても辛い 「補語」
 Vielleicht フライヒト adv. おそらく 「副詞」
 hat ...getroffen. ハット...ゲトロフェン 3 単現・完了形(treffen)v.t 命中した 「動詞句」
 mich ミット pron.4 格 僕に 「目的語」
 das ダス pron それが 「主語」
 ganz besonders カンツ・ベゾントース adv. 特に 「副詞句」

僕は、ベッドから剥ぎ取った木の木っ端をかじった。

Ich kaute an Holzstückchen, die ich von der Pritsche riß.

「主語」「動詞」「間接目的語」
 Ich イット pron 僕は 「主語」
 kaute カテ 1 単過(kauen)v.i(an et-3 を) かじった 「動詞」
 an Holzstückchen, アン・ホルツシュトクヒェン adv. 木の木っ端を 「間接目的語」
 die デーイー pron (目的語) ~する 「形容詞節」
 ich イット pron 僕が 「主語」
 von der Pritsche フォン・デア・フリツシェ
 adv. (起点) ベッドから 「副詞句」
 riß. リス 1 単過(reißen)v.t 剥ぎ取った 「動詞」

僕は一日中吐き気がした。僕は理解できなかった。どうして誰の害にもならない物を奪われるのだろう。

Den ganzen Tag über hatte ich ein Gefühl von Übelkeit. Ich begriff nicht, weshalb man mir etwas nahm, das keinem schadete.

「副詞句」「動詞」「主語」「目的語」
 「主語」「動詞句」, 「副詞」「主語」「間接目的語」「直接目的語」「動詞」
 Den ganzen Tag über デン・ガンツェン・ターク・ユーバー adv. 一日中 「副詞句」
 hatte ハッテ 1 単過(haben)v.t ~があった 「動詞」
 ich イット pron 僕は 「主語」
 ein Gefühl ゲフュール n.n.4 格 感覚 「目的語」
 von Übelkeit. フォン・ユーベルカイト adv. (動作主) 吐き気による 「副詞句」
 Ich イット pron 僕は 「主語」

ZWEITER TEIL 第2部

begriff nicht, ベグリフ・ニヒト 1 単過・否定(begreifen)v.t 理解できなかった	「動詞句」
weshalb ウェスハルプ adv. どうして	「副詞」
man マン pron 人は	「主語」
受動態に翻訳する	
mir ミーア pron 僕の	「間接目的語」
etwas エトヴァス pron 何かを	「直接目的語」
nahm, ナム 3 単過・時制の一致(nehmen)v.t 奪う	「動詞」
das ダス pron (主語) ～する	「形容詞節」
keinem カイン pron.3 格 誰にも～ない	「間接目的語」
schadete. シャーテテ 3 単過・時制の一致(schaden)v.i 害になる	「動詞」

後になって、それも罰の一部だと理解した。

Später begriff ich, daß auch das ein Teil der Strafe war.

	「副詞」「動詞」「主語」「目的語」
Später シュペーター adv. 後で、のちに	「副詞」
begriff ベグリフ 1 単過(begreifen)v.t 理解した、分かった	「動詞」
ich, イヒ pron 僕は	「主語」
daß ダス conj. ～ということ	「目的語」
auch das アウフ・ダス pron それも	「主語」
ein Teil アイン・タイル n.m.1 格 一部	「補語」
der Strafe デア・シュトラフェ n.f.2 格 罰の	「形容詞句」
war. ヴァール 3 単過・時制の一致(sein)v.i ～である	「動詞」

だがその頃には、もう禁煙に慣れていたので、この罰は僕にとってはもう罰でなかった。

Aber da hatte ich mich schon daran gewöhnt, nicht mehr zu rauchen, und diese Strafe war für mich keine Strafe mehr.

Aber 「副詞」「動詞句」「主語」「動詞句」「副詞」「間接目的語」「動詞句」,
und 「主語」「動詞」「副詞句」「補語」

Aber アーバー conj. しかし	
da ダー adv. その時には	「副詞」
hatte ...mich ...gewöhnt, ハッテ...ミヒ...ゲヴァント 1 単過・完了形(sich-4 gewöhnen)	
v.pr 慣れていた	「動詞句」
ich イヒ pron 僕は	「主語」
schon ショーン adv. すでに	「副詞」
daran ダラン adv. それに対して	「間接目的語」
nicht mehr zu rauchen, ニヒト・メア・ツァー・ラクヘン zu 不定句・目的	

ZWEITER TEIL 第2部

adv. もう禁煙のために	「副詞句」
und ウント conj. そして	
diese Strafe デーイーゼ・シュトラフェ n.f この罰は	「主語」
war ヴァール 3 単過(sein)v.i ~ だった	「動詞」
für mich フュア・ミヒ adv. 僕にとって	「副詞句」
keine Strafe mehr. カイネ・シュトラフェ・メア n.f.1 格 もはや何の罰〜でない	「補語」

それを除けば、それほど悪くなかった。主な仕事は、まともや時間を潰すことだった。

Abgesehen davon, ging es mir nicht gerade schlecht. Die Hauptsache war immer wieder die Zeit totzuschlagen.

「副詞句」, 「動詞句」 「間接目的語」 「補語」 「主語」 「動詞」 「補語」	
Abgesehen アップ・ゲゼーエン adv.(von et-3) 別として	「副詞句」
davon, ダフォン adv. それについては	「間接目的語」
ging es キング・エス 非人称・3 単過(es geht j-3+形容詞)v.h ~ だった	「動詞句」
mir ミア pron 僕にとって	「間接目的語」
nicht gerade schlecht. ニヒト・ゲラーデ・シュレヒト adj. それほど悪い〜ない	「補語」
Die Hauptsache デーイーハプツァッハ n.f 主な仕事は	「主語」
war ヴァール 3 単過(sein)v.i ~ だった	「動詞」
immer wieder, イマー・ヴィーダー adv. またもや	「副詞句」
zu 不定句 n. ~すること	「補語」
die Zeit デーイー・ツァイト n.f 時間を	「目的語」
totzuschlagen. トート・ツァー・シュラーゲン zu 不定詞 v.t (時間を) つぶす	「動詞句」

思い出すことを覚えてからは、もう退屈しなくなった。

Sobald ich lernte, mich zu erinnern, kannte ich keine Langeweile mehr.

「副詞節」, 「動詞」 「主語」 「目的語」 「副詞」	
Sobald ソバルト conj. ~するとすぐに	「副詞節」
ich イヒ pron 僕は	「主語」
lernte, レアンテ 1 単過(lernen)v.t 覚えた	「動詞」
mich zu erinnern, ミヒ・ツァー・エアヤーン zu 不定句 n. 思い出すことを	「目的語」
kannte カンテ 1 単過(kennen)v.t 知った	「動詞」
ich イヒ pron 僕は	「主語」
keine Langeweile カイネ・ランゲヴァイレ n.f 退屈を〜ない	「目的語」
mehr. メア adv. もはや〜ない	「副詞」

ZWEITER TEIL 第2部

時々、僕は自分の部屋について考え、想像の中で歩いた。ある片隅から別の片隅まで歩き、また戻り、その途中で出会ったものを全て頭の中に列挙した。

Manchmal dachte ich an mein Zimmer, und in der Phantasie ging ich von einer Ecke in die andere und wieder zurück und zählte im Geiste alles auf, dem ich auf diesem Weg begegnete.

「副詞」「動詞」「主語」「間接目的語」,und
「副詞句」「主語」「副詞句」und「副詞句」
und「動詞句」「副詞句」「目的語」「動詞句」

Manchmal マンシュマル adv. 時々、時には 「副詞」
dachte ダハテ 1 単過(denken)v.i(an のことを) 考えた 「動詞」
ich イヒ pron 僕は 「主語」
an mein Zimmer, アン・マイン・ツィマー adv. 僕の部屋について 「間接目的語」
und ウント conj. そして
in der Phantasie イン・ツェア・ファンタジー adv. 想像の中で 「副詞句」
ging キング 1 単過(gehen)v.i 歩いた 「動詞」
ich イヒ pron 僕は 「主語」
von einer Ecke フォン・アイナー・エッケ adv. (起点) ある片隅から 「副詞句」
in die andere イン・デア・アンデレ adv. 別の片隅に 「副詞句」
und ウント conj. そして
wieder zurück ウィーダー・ツュック adv. また戻り 「副詞句」
und ウント conj. そして
zählte ...auf, ツェールテ...アウフ 1 単過(auf|zählen)v.t 列挙した 「動詞句」
im Geiste イム・ガイステ adv. 頭の中で 「副詞句」
alles アレス pron 全てを 「目的語」
dem デーム pron (間接目的語) ～する 「形容詞節」
ich イヒ pron 僕が 「主語」
auf diesem Weg アウフ・デューゼム・ヴェーク adv. その途中で 「副詞句」
begegnete. ベゲゲーネ 1 単過(begegnen)v.i 出会った 「動詞」

最初はすぐに終わった。しかし、それをやる度に、少しずつ長く続くようになった。

Anfangs war ich schnell damit fertig. Aber immer wenn ich damit anfang, dauerte es etwas länger.

「副詞」「動詞」「主語」「補語」 | Aber 「副詞句」「動詞」「主語」「副詞句」
Anfangs アンファングス adv. 初めは 「副詞」
war ヴァール 1 単過(sein)v.i ～ だった 「動詞」
ich イヒ pron 僕は 「主語」

ZWEITER TEIL 第2部

schnell シュネル adv. すぐに	「副詞」
damit ダミット adv. それを	「間接目的語」
fertig. フェアティヒ adj.(mit et-3 を、が) 終わった	「補語」
Aber アーバー conj. しかし	
immer, イマー adv. その都度	「副詞句」
wenn ウェン conj. ～するとき	「副詞節」
ich イヒ pron 僕が	「主語」
damit ダミット adv. それを	「間接目的語」
anfang, アンフینگ 1 単過(an fangen)v.i 始めた	「動詞句」
dauerte ダウエア 3 単過(dauern)v.i 続いた	「動詞」
es エス pron それは	「主語」
etwas länger. エトワース・レンガー adv. 少し長く	「副詞句」

というのは、僕は1つ1つの家具を思い浮かべると、次に、その上にある1つ1つの物を思い浮かべる、そしてそれぞれの物の全ての細部そして、細部のさらに細部のひび割れや、縁の欠けや、その色や、その構造を思い浮かべていたからだ。

Denn ich erinnerte mich jedes Möbelstücks und jedes Gegenstandes, der sich darauf befand, und bei jedem Gegenstand aller Einzelheiten und bei den Einzelheiten wieder einer Einlegearbeit, eines Risses oder eines ausgebrochenen Randes, ihrer Farbe und ihrer Struktur.

Denn 「主語」「動詞」「目的語」 und 「目的語」 und 「目的語」 oder 「目的語」

Denn デン conj. なぜならば、というのは～だから

ich イヒ pron 僕は 「主語」

erinnerte mich エイネアテ・ミヒ 1 単過(sich-4 et-2 erinnern)

v.pr 思い出していた、覚えていた 「動詞句」

jedes Möbelstücks イェテース・メーベルシュトゥック n.n.2 格 それぞれの家具を 「目的語」

und ウント conj. そして、それから

jedes Gegenstandes, イェテース・ゲーゲンシュタンテス n.m.2 格 それぞれの物を 「目的語」

der テア pron (主語) ～する 「形容詞節」

sich ...befand, スイヒ...ヘファント 3 単過(sich-4 befinden)

v.pr ～にあった 「動詞句」

darauf ダラウフ adv. その上に 「副詞」

und ウント conj. そして

bei jedem Gegenstand バイ・イェテム・ゲーゲンシュタント adv. それぞれの物の 「副詞句」

aller Einzelheiten アラー・アインツェルハイト n.f.2 格 全ての細部 「目的語」

und ウント conj. そして

ZWEITER TEIL 第2部

bei den Einzelheiten wieder einer Einlegearbeit,

ハイ・テン・アインツェルハイトン・ウィター・アイナー・アインレーゲアルハイト

adv. 細部のさらに細部の

「副詞句」

eines Risses アインス・リセス n.m.2 格 ひび割れを

「目的語」

oder オーダー conj. または

eines ausgebrochenen Randes, アインス・アウスゲブロッヘネス・ランデス n.m.2 格 縁の欠けを 「目的語」

ihrer Farbe イーラー・ファルベ n.f.2 格 その色

「目的語」

und ウント conj. そして

ihrer Struktur. イーラー・シュトルクチャー n.f.2 格 その構造を

「目的語」

同時に、僕は自分の目録の繋がりを失わずに、完全な配置を作成することを心掛けた。

Gleichzeitig versuchte ich, den Faden meiner Inventur nicht zu verlieren und eine vollständige Aufstellung zu machen.

「副詞」「動詞」「主語」「目的語」 und 「目的語」

Gleichzeitig グライツァイティヒ adv. 同時に

「副詞」

versuchte フェアズフテ 1 単過(versuchen) 試みた

「動詞」

ich, イヒ pron 僕は

「主語」

zu 不定句 n. ～することを

「目的語」

den Faden テン・ファーテン n.m.4 格 道筋を、繋がりを

「目的語」

meiner Inventur マイナー・インヴェントゥア n.f.2 格 自分の目録の

「形容詞句」

nicht zu verlieren ニヒト・ツァー・フェアリーレン zu 不定詞・否定 v.t 失わない

「動詞句」

und ウント conj. そして

zu 不定句 n. ～することを

「目的語」

eine vollständige Aufstellung アイン・フォルシュテテンデ・イクゲ・アウフシュテルンク

n.f.4 格 完全な配置を

「目的語」

zu machen. ツァ・マヘン zu 不定詞 v.t 作る

「動詞句」

それで、数週間後には、自分の部屋にある物を列挙することで多くの時間を過ごす事が出来るようになった。

So konnte ich nach ein paar Wochen ganze Stunden damit verbringen, das aufzuzählen, was sich in meinem Zimmer befand.

So 「動詞句」「主語」「副詞句」「直接目的語」「間接目的語」「動詞句」, 「間接目的語」

So ザー conj. それで

konnte ...verbringen, コンテ...フェアブリンゲン 1 単過・可能(können+不定詞 verbringen)

v.t (時を) 過ごせた

「動詞句」

ich イヒ pron 僕は

「主語」

ZWEITER TEIL 第2部

nach ein paar Wochen アーハ・アイン・パール・ウ・オッヘン adv. 数週間後	「副詞句」
ganze Stunden ガンツェ・シュトゥンデン pl(Stunde).n.f.4 格 多くの時間を	「直接目的語」
damit ダミット adv. それに	「間接目的語」
zu 不定句 n. (同格: damit の説明) 〜ということに	「間接目的語」
das ダス pron それを	「目的語」
aufzuzählen, アウフ・ツェ・ツェーレン zu 不定詞 v.t 列挙する	「動詞句」
was ヴァス pron 〜するものを	「目的語」
sich ...befand. スィヒ...ヘファント 3 単過・時制の一致(sich-4 befinden)	
v.pr ある	「動詞句」
in meinem Zimmer イン・マイネム・ツィマー adv. 自分の部屋に	「副詞句」

考えれば考える程、誤認したり忘れていた物をより多く自分の記憶の中から掘り出すことが出来た。

Je mehr ich nachdachte, um so mehr verkannte und vergessene Dinge kramte ich aus meiner Erinnerung hervor.

	「副詞節」, 「副詞句」「目的語」「動詞句」「主語」「副詞句」「動詞句」
Je mehr イェー・メア conj. 〜すればするほど	「副詞節」
ich イヒ pron 僕が	「主語」
nachdachte, ナーハ・ダハテ 1 単過(nach denken)v.i じっくり考える	「動詞句」
um so mehr ウム・ゾー・メア adv. それだけ多く	「副詞句」
verkannte フェアカンテ 過去分詞・受動(verkennen)adj.pl 誤認された	「形容詞」
und ウント conj. そして	
vergessene フェアゲッセネ 過去分詞・受動(vergessen)adj.pl 忘れられた	「形容詞」
Dinge ディンゲ pl(Ding).n.n.4 格 物を	「目的語」
kramte ...hervor. クラムテ...ヘアフォー 1 単過(hervor kramen)v.t 掘り出した	「動詞句」
ich イヒ pron 僕は	「主語」
aus meiner Erinnerung アウス・マイナー・エアネルク adv. 記憶から	「副詞句」

それで僕は、たった1日だけ生きた人間でも、簡単に牢獄で100年暮らせると思った。

So erfuhr ich, daß ein Mensch, der nur einen einzigen Tag erlebt hat, mühelos hundert Jahre in einem Gefängnis leben könnte.

	So 「動詞」「主語」「目的語」
So ゾー conj. それで	
erfuhr エアフォー 1 単過(erfahren)v.t 知った、分かった	「動詞」
ich, イヒ pron 僕は	「主語」
daß ダス conj. 〜ということ	「目的語」

ZWEITER TEIL 第2部

ein Mensch, アイン・メンシュ n.m 人間は	「主語」
der デア pron (主語) ～する	「形容詞節」
nur einen einzigen Tag ヌーア・アイネン・アインツィゲン・ターク	
adv. たった 1 日しか	「副詞句」
erlebt hat, エアレプ ^ト ・ハット 3 単現・完了形(erleben)	
v.t 体験した	「動詞句」
müheless ムーエロース adv. 簡単に	「副詞」
hundert Jahre フンダート・ヤーレ pl(Jahr).n.n.4 格 100 年を	「目的語」
in einem Gefängnis イン・アイネム・ゲ・フェンゲン・ニス adv. 牢獄で	「副詞句」
leben könnte. レーベン・コンテ 3 単過・可能・時制の一致(können+不定詞 leben)	
v.i 暮らせる	「動詞句」

彼は退屈しないだけの十分な記憶を持っているはずだ。ある意味、これは強味だった。

Er hätte genug Erinnerungen, um sich nicht zu langweilen. In einer Hinsicht war das ein Vorteil.

「主語」「動詞」「目的語」 | 「副詞句」「動詞」「主語」「補語」

Er エア pron 彼は	「主語」
hätte ハッテ 接 II・3 単現・推量(haben)v.t 持っているはずだ	「動詞」
genug Erinnerungen, ゲ・ヌーク・エアネルンゲン pl(Erinnerung).n.f 十分な記憶を	「目的語」
um sich nicht zu langweilen. ウム・ズィヒ・ニヒト・ツァー・ラングヴァイレン umzu 不定句	
(sich-4 langweilen)adv. 退屈しないために	「副詞句」
In einer Hinsicht イン・アイナー・ヒンジスト adv. ある意味では	「副詞句」
war ヴァール 3 単過(sein)v.i ～ だった	「動詞」
das ダス pron これは	「主語」
ein Vorteil.アイン・フォアタイル n.m 利点、強味	「補語」

それから睡眠のことだ。最初の内、夜はあまり眠れず、昼間は全く眠れなかった。

Und dann der Schlaf. Zuerst schlief ich nachts schlecht und am Tage überhaupt nicht.

Und 「副詞」「主語」 | 「副詞」「動詞」「主語」「副詞句」 und 「副詞句」

Und ウント conj. そして	
dann ダン adv. さらに、それから	「副詞」
der Schlaf. デア・シュラーフ n.m 睡眠	「主語」
Zuerst ツェアースト adv. 初めの内は	「副詞」
schlief シュリーフ 1 単過(schlafen)v.i 眠った	「動詞」
ich イヒ pron 僕は	「主語」
nachts ナハツ adv. 夜に	「副詞」

ZWEITER TEIL 第2部

schlecht シュレヒト adv. 不十分に 「副詞」

und ウント conj. そして

am Tage アム・ターゲ adv. 日中は、昼間は 「副詞句」

überhaupt nicht. ユーバーハウプト・ニヒト adv. 全くだめな 「副詞句」

少しずつ夜はよく眠れるようになり、その後、昼間も眠れるようになった。

Allmählich wurden meine Nächte besser, und ich konnte auch am Tage schlafen.

「副詞」「動詞」「主語」「補語」,und「主語」「動詞句」「副詞句」

Allmählich アルマーリッヒ adv. 次第に、徐々に 「副詞」

wurden ウルデン 3 単過・変化(werden)v.i ~になった 「動詞」

meine Nächte マイネ・ネヒテ pl(Nacht).n.f 夜は 「主語」

besser, ベッサー adj.(gut の比較級) よく 「補語」

und ウント conj. そして

ich イヒ pron 僕は 「主語」

konnte... schlafen. コンテ...シュラーフェン 1 単過・可能(können+不定詞 schlafen)

v.i 眠れた 「動詞句」

auch アウフ adv. もまた 「副詞」

am Tage アム・ターゲ adv. 昼間に 「副詞句」

最後の数か月は1日に16時間から18時間は寝ていたと言えるだろう。

Ich kann wohl sagen, daß ich während der letzten Monate sechzehn bis achtzehn Stunden täglich geschlafen habe.

「主語」「動詞句」「副詞」「動詞句」「目的語」

Ich イヒ pron 僕は 「主語」

kann ...sagen, カン...サーゲン 1 単現・可能(können+不定詞 sagen)v.t 言える 「動詞句」

wohl ヴォール adv. 恐らく、たぶん 「副詞」

daß ダス conj. ~ということ を 「目的語」

ich イヒ pron 僕は 「主語」

während ヴェーレント prep (2格と)(期間) ~の間 「副詞句」

der letzten Monate テア・レツテン・モナーテ

pl(Monat).n.m.2格 最後の数か月 「目的語」

sechzehn bis achtzehn Stunden セヒツェーン・ヒス・アハツェーン・シュトウンテン

adv. 16時間から18時間 「副詞句」

täglich テークリッヒ adv. 1日に 「副詞」

geschlafen habe. ゲシュラーフェン・ハーベ 1 単現・完了形(schlafen)v.i 眠った 「動詞句」

ZWEITER TEIL 第2部

それで僕は残りの 6 時間を、食事や自然の欲求や記憶ゲームやチェコスロヴァキアの話で時間を潰した。

So brauchte ich nur noch sechs Stunden mit Mahlzeiten, natürlichen Bedürfnissen und Erinnerungen und mit der Geschichte des Tschechoslowaken totzuschlagen.

So 「動詞」「主語」「目的語」「副詞句」 und 「副詞句」

So ザー conj. それで、それだから

brauchte ブラウフテ 1 単過(brauchen)v.t 使った 「動詞」

ich イヒ pron 僕は 「主語」

nur noch sechs Stunden ヌア・ノホ・セックス・シュトゥンテン

pl(Stunde).n.f.4 格 残りの 6 時間を 「目的語」

mit ミット prep (3 格と) (手段) 〜によって 「副詞句」

Mahlzeiten, マールツァイテン pl(Mahlzeit).n.f.3 格 食事 「目的語」

natürlichen Bedürfnissen ナチュアリッヒェン・ベートルフニッセン

pl(Bedürfnis).n.n.3 格 自然の欲求 「目的語」

und ウント conj. そして

Erinnerungen エアイネルンゲン pl(Erinnerung).n.f.3 格 記憶 「目的語」

und ウント conj. そして

mit ...totschlagen. ミット...トート・ツァー・シュラーゲン

adv. (mit+不定詞 totschlagen) (3 格と) (手段) 〜で時間を潰すことで 「副詞句」

der Geschichte デア・ゲシヒテ n.f.3 格 話 「目的語」

des Tschechoslowaken デス・チェコスロウァケン

adj. チェコスロヴァキアの 「形容詞句」

つまり、僕は藁布団と板張りの簡易ベッドの間に古い新聞の切れ端を見つけたのだ。それは布団の布地にしっかりと貼り付いて透けていた。

Zwischen Strohsack und Pritsche hatte ich nämlich ein altes Stück Zeitung gefunden, das fest an dem Stoff klebte und vergilbt und durchsichtig war.

「副詞句」「動詞句」「主語」「副詞」「目的語」「動詞句」「目的語」

Zwischen ツヴァイッシェン prep (3 格と) (空間的) 間に 「副詞句」

Strohsack シュトロサーック n.m.3 格 藁布団 「目的語」

und ウント conj. そして

Pritsche プリチェ n.f.3 格 板張りの簡易ベッド 「目的語」

hatte... gefunden, ハッテ...ゲフンデン 1 単過・完了形(finden)v.t 見つけた 「動詞句」

ich イヒ pron 僕は 「主語」

nämlich ネムリヒ adv. つまり 「副詞」

ein altes Stück Zeitung アイン・アルテス・シュトゥック・ツァイトウング

ZWEITER TEIL 第2部

n.n(Stück).4 格 古い新聞の切れ端を	「目的語」
das ダス pron (主語) ～する	「形容詞節」
fest フェスト adv. しっかりと	「副詞」
an dem Stoff アン・デーム・シュトッフ adv. 布地に	「間接目的語」
klebte クレプテ 3 単過(kleben)v.i 貼り付いていた	「動詞」
und ウント conj. そして	
vergilbt フェギルト adj. 黄ばんだ	「補語」
und ウント conj. そして	
durchsichtig トルヒツィヒティヒ adj. 透けた	「補語」
war. ヴァール 3 単過(sein)v.i ～ だった	「動詞」

それは、冒頭は欠けていたが、チェコスロヴァキアで起こったに違いないある事件について報じていた。

Es berichtete von einem Ereignis – der Anfang fehlte -, das sich in der Tschechoslowakei zugetragen haben mußte.

「主語」「動詞」「間接目的語」 - 「主語」「動詞」 - 「主語」「動詞句」「副詞句」「動詞句」	
Es エス pron それは	「主語」
berichtete ベリヒテテ 3 単過(berichten)v.i(von について) 報告していた	「動詞」
von einem Ereignis フォン・アイネム・エアイクニス adv. ある事件について	「間接目的語」
- der Anfang デア・アンファンク n.m その冒頭は	「主語」
fehlte -, フェルテ 3 単過(fehlen)v.i 欠けていた	「動詞」
das ダス pron その事件は	「主語」
sich ...zugetragen haben mußte. スィットヒ...ツァー・ゲ・トラーゲン・ハーベン・ムステ	
3 単過・推量・完了形(müssen+不定詞・完了形 sich-4 zu tragen)	
v.pr 起こったに違いない	「動詞句」
in der Tschechoslowakei イン・デア・チェコスロヴァキア adv. チェコスロヴァキアで	「副詞句」

ある男が成功するためにチェコの村を離れた。

Ein Mann hatte sein tschechisches Dorf verlassen, um sein Glück zu machen.

「主語」「動詞句」「目的語」「動詞句」, 「副詞句」	
Ein Mann アイン・マン n.m ある男が	「主語」
hatte ...verlassen, ハッテ...フェアラッセン 3 単過・完了形(verlassen)v.t 離れた	「動詞句」
sein tschechisches Dorf サイン・チェティシエス・トーフ n.n.4 格 チェコの村を	「目的語」
um ... zu machen. ウム...ツァー・マヘン umzu 不定詞・目的 adv. ～をするために	「副詞句」
sein Glück サイン・グリュック n.n.4 格 成功を	「目的語」

ZWEITER TEIL 第2部

25年後、金持ちになった彼は妻と子供を連れて戻って来た。

Nach fünfundzwanzig Jahren war er als reicher Mann mit Frau und Kind zurückgekommen.

「副詞句」「動詞句」「主語」「副詞句」「動詞句」

Nach ナハ prep (3格と)(時間的に)～後に 「副詞句」

fünfundzwanzig Jahren フュンフウントツヴァンツィヒ・ヤーレン pl(Jahr).n.n4格 25年「目的語」

war ...zurückgekommen. ヲアール...ツリュック・ゲ・コメン 3単過・完了形(zurück|kommen)

v.i 戻って来た 「動詞句」

er エア pron 彼は 「主語」

als アルス prep (資格)～として 「副詞句」

reicher Mann ライヒャーマン n.m 裕福な男 「目的語」

mit ミット prep (不随状況)～を伴って 「副詞句」

Frau フ라우 n.f 妻 「目的語」

und ウント conj. そして

Kind キント n.n 子供 「目的語」

母親は彼の妹と一緒に故郷の村で旅館を営んでいた。

Seine Mutter betrieb mit seiner Schwester in seinem Heimatdorf einen Gasthof.

「主語」「動詞」「副詞句」「目的語」

Seine Mutter サイネ・ムッター n.f 彼の母親は 「主語」

betrieb ベトリプ 3単過(betreiben)v.t 営んでいた 「動詞」

mit seiner Schwester ミット・サイナー・シュウェスター adv. 彼の妹と一緒に 「副詞句」

in seinem Heimatdorf イン・サイネム・ドーフ adv. 故郷の村で 「副詞句」

einen Gasthof. アイネン・カストフ n.m.4格 旅館を 「目的語」

彼らを驚かすために、彼は妻と子供を別の旅館に泊めて、母親の所へ行ったが、母親は彼に気付かなかった。

Um sie zu überraschen, hatte er Frau und Kind in einem anderen Gasthaus untergebracht und war zu seiner Mutter gegangen, die ihn nicht erkannte.

「副詞句」,「動詞句」「主語」「目的語」「副詞句」「動詞句」

und 「動詞句」「間接目的語」「動詞句」,「主語」「目的語」「動詞句」

Um sie zu überraschen, ウム・ジー・ツァー・ユーバーラッシェン umzu 不定句・目的

adv. 彼らを驚かせるために 「副詞句」

hatte ...untergebracht ハッテ...ウンター・ゲ・ブラハト 3単過・完了形(unter|bringen)

v.t 宿泊させた 「動詞句」

er エア pron 彼は 「主語」

ZWEITER TEIL 第2部

Frau und Kind	フラウ・ウント・キント pl.n	妻と子供を	「目的語」
in einem anderen Gasthaus	イン・アイネム・アンデレン・ガストハウス adv.	別の旅館に	「副詞句」
und	ウント conj.	そして	
war ...gegangen,	ヴァール...ゲカンゲン 3 単過・完了形(gehen)v.i(zu に)	行った	「動詞句」
zu seiner Mutter	ツァー・ザァー・ムター adv.	母親の所へ	「間接目的語」
die	デー pron	母親は	「主語」
ihn	イン pron.4 格	彼を	「目的語」
nicht erkannte.	ニヒト・エアカンテ 3 単過・否定(erkennen)v.t	気付かなかった	「動詞句」

彼は、冗談で、その旅館で1部屋借りることを思いついた。

Aus Jux verfiel er auf den Gedanken, in dem Gasthaus ein Zimmer zu mieten.

「副詞句」「動詞」「主語」「間接目的語」「直接目的語」

Aus Jux	アウス・ジュクス adv.	冗談で	「副詞句」
verfiel	フェアフィール 3 単過(verfallen)v.i(auf et-4 ～を)	思いついた	「動詞」
er	エア pron	彼は	「主語」
auf den Gedanken,	アウフ・デン・ゲタンケン adv.	考えを	「間接目的語」
zu	不定句 n. ～することを		「直接目的語」
in dem Gasthaus	イン・デーム・ガストハウス adv.	その旅館で	「副詞句」
ein Zimmer	アイン・ツィマー n.n.4 格	1 部屋を	「目的語」
zu mieten.	ツァー・ミーテン zu 不定詞 v.t	借りる	「動詞句」

彼は所持金を見せた。

Er hatte sein Geld gezeigt.

「主語」「動詞句」「目的語」「動詞句」

Er	エア pron	彼は	「主語」
hatte ...gezeigt.	ハッテ...ゲツァイクト 3 単過・完了形(zeigen)v.t	見せた	「動詞句」
sein Geld	ザイン・ゲルト n.n.4 格	自分の金を	「目的語」

その夜の間に、母親と妹は彼の持ち物を奪い取るためにハンマーで彼を殺して、死体を川に投げ込んだ。

In der Nacht hatten Mutter und Schwester ihn mit Hammerschlägen ermordet, um ihn auszurauben, und hatten die Leiche in den Fluß geworfen.

「副詞句」「主語」「動詞句」「目的語」「副詞句」「動詞句」「副詞句」,und

「動詞句」「目的語」「副詞句」「動詞句」

In der Nacht	イン・デア・ナハト adv.	その夜の間に	「副詞句」
hatten ...ermordet,	ハッテン...エアモルデット 3 複過・完了形(ermorden)v.t	殺した	「動詞句」

ZWEITER TEIL 第2部

Mutter und Schwester	ムッター・ウント・シュウェスター pl.n,f 母親と妹が	「主語」
ihn	イン pron.4 格 彼を	「目的語」
mit Hammerschlägen	ミット・ハンマーシュレーゲン adv. (手段) ハンマーによる打撃で	「副詞句」
um ihn auszurauben,	ウム・イン・アウス・ツ・ラウベン umzu 不定句・目的	
adv. 彼の持ち物を奪い取るために		「副詞句」
und	ウント conj. そして	
hatten ...geworfen.	ハッテン...ゲウァアフェン 3 複過・完了形(werfen)v.t 投げた	「動詞句」
die Leiche	デー・イー・ライヒェ n.f.4 格 死体を	「目的語」
in den Fluß	イン・デン・フルス adv. 川の中に	「副詞句」

朝になると男の妻がやって来て、その旅行者が誰なのかを何気なく告げた。

Am Morgen war die Frau gekommen und hatte ganz ohne Absicht verraten, wer der Reisende war.

「副詞句」「動詞句」「主語」「動詞句」 und 「動詞句」「副詞句」「動詞句」「目的語」	
Am Morgen アム・モアゲン adv. 朝になると	「副詞句」
war ...gekommen ヲァール...ゲコメン 3 単過・完了形(kommen)v.i やって来た	「動詞句」
die Frau デー・イー・フラウ n.f 男の妻が	「主語」
und ウント conj. そして	
hatte ...verraten, ハッテ...フェアラーテン 3 単過・完了形(verraten)v.t 告げた、話した	「動詞句」
ganz ohne Absicht ガンツ・オーネ・アップ・ズ・イヒト adv. なにげなく	「副詞句」
n. ～ということを	「目的語」
wer ヲァ pron 誰	「補語」
der Reisende デア・ライゼンデ n.m その旅行者が	「主語」
war. ヲァール 3 単過(sein)v.i ～ だった	「動詞」

男の母親は首を吊って死んだ。男の妹は井戸に身を投げた。

Die Mutter hatte sich erhängt. Die Schwester hatte sich in einen Brunnen gestürzt.

「主語」「動詞句」 「主語」「動詞句」「副詞句」「動詞句」		
Die Mutter	デー・イー・ムター n.f 男の母親は	「主語」
hatte sich erhängt.	ハッテ・ズ・イッヒ・エアヘンクト 3 単過・完了形(sich-4 erhängen)	
v.pr	首を吊って死んだ	「動詞句」
Die Schwester	デー・イー・シュウェスター n.f 男の妹は	「主語」
hatte sich ...gestürzt.	ハッテ・ズ・イッヒ...ゲシュテュルツト 3 単過・完了形(sich-4 stürzen)	
v.pr	身を投げた	「動詞句」
in einen Brunnen	イン・アイネム・ブルネン adv. 井戸に	「副詞句」

ZWEITER TEIL 第2部

僕はこの事件の記事を何千回も読んだと思う。ある面では、この話はある得ない。しかし別の面では、全く当然の話だ。

Ich las die...Geschichte wohl tausendmal. Einerseits war sie unwahrscheinlich, andererseits aber ganz natürlich.

「主語」「動詞」「目的語」「副詞句」

「副詞」「動詞」「主語」「補語」, 「副詞」 **aber** 「補語」

Ich	イッヒ	pron	僕は	「主語」
las	ラス	1 単過(lesen)v.t	読んだ	「動詞」
die Geschichte	デー・イー・ゲシヒテ	n.f	この事件を	「目的語」
wohl	ヴォール	adv.	おそらく	「副詞」
tausendmal.	タウゼントマル	adv.	何度も、何千回も	「副詞句」
Einerseits	アイナーザイツ	adv.	ある面では	「副詞」
war	ヴァール	3 単過・時制の一致(sein)v.i	〜である	「動詞」
sie	ジー	pron (Geschichte の代用)	この話は	「主語」
unwahrscheinlich,	ウンヴァールシャインリッヒ	adj.	ありえない、不可能な	「補語」
andererseits	アンデラーザイツ	adv.	他方では	「副詞」
aber	アーバー	conj.	しかし	
ganz natürlich.	ガンツ・ナチュアリッヒ	adj.	全く当然の	「補語」

いずれにせよ、僕はその旅行者はある意味で自分の運命にふさわしいという意見に同意する;なぜなら、このような悪ふざけをするべきではないのだから。

Jedenfalls war ich der Meinung, daß der Reisende sein Los in gewisser Weise verdient hatte; denn solche Scherze macht man nicht.

「副詞」「動詞」「主語」「補語」; 「副詞節」

Jedenfalls	イエーテンファルス	adv.	いずれにせよ	「副詞」
war	ヴァール	1 単過(sein)v.i	〜だった	「動詞」
ich	イッヒ	pron	僕は	「主語」
der Meinung,	デア・マイヌング	n.f.2 格	その意見の	「補語」
daß	ダス	conj.	(同格) 〜という	「形容詞節」
der Reisende	デア・ライゼンテ	n.m	その旅行者は	「主語」
sein Los	ザイン・ロース	n.n.4 格	自分の運命を	「目的語」
in gewisser Weise	イン・ゲウイッサー・ヴァイゼ	adv.	ある意味で	「副詞句」
verdient hatte;	フェアデ・イェント・ハッテ	3 単過・完了形・時制の一致(verdienen)		
	v.t(et-4)		にふさわしい	「動詞句」
denn	デーン	conj.	なぜなら〜だから	「副詞節」
solche Scherze	ゾルヒエ・シェルツ	n.m.4 格	こんな冗談を、悪ふざけを	「目的語」

ZWEITER TEIL 第2部

macht ...nicht. マハト...ニヒト 3 単現・否定・義務(machen)v.t しない 「動詞句」
 man マン n.m 人は 「主語」

このように、何時間もの眠りや、記憶の呼び出し、この記事の読書そして光と闇の交代で時間が過ぎ去った。

So verging die Zeit mit stundenlangem Schlaf, mit Erinnerungen, mit der Lektüre dieser Geschichte und mit dem Wechsel von Hell und Dunkel.

「副詞」「動詞」「主語」, 「副詞句」

So ザー adv. そのように 「副詞」

verging フェアギンク 3 単過(vergehen)v.i 過ぎ去った 「動詞」

die Zeit テーイー・ツァイト n.f 時が、時間が 「主語」

mit stundenlangem Schlaf, ミット・シュトウナンテンランゲム・シュラーフ

adv. (付随) 何時間もの眠りで 「副詞句」

mit Erinnerungen, ミット・エアィネアルンゲン adv. 記憶の呼び出しで 「副詞句」

mit der Lektüre dieser Geschichte ミット・デア・レクチュレ・テーイーザー・ゲジヒテ

adv. この記事の読書で 「副詞句」

und ウント conj. そして

mit dem Wechsel ミット・デアム・ヴァェクセル adv. 入れ替わりで 「副詞句」

von Hell und Dunkel. フォン・ヘル・ウント・ヘル adv. 光から闇への 「副詞句」

刑務所では人はゆやがて時間の感覚を失うと、読んだことがある。

Ich hatte gelesen, daß man im Gefängnis schließlich jedes Gefühl für die Zeit verliert.

「主語」「動詞句」「目的語」

Ich イヒ pron 僕は 「主語」

hatte gelesen, ハッテ・ゲレーゼン 1 単過・完了形(lesen)v.t 読んだことがある 「動詞句」

daß ダス conj. ～ということを 「目的語」

man マン pron 人は 「主語」

im Gefängnis イム・ゲフェンクニス adv. 刑務所では 「副詞句」

schließlich シュリースリヒ adv. 最終的に、やがて 「副詞」

jedes Gefühl イェーデス・ゲフュール n.n.4 格 各自の感覚を 「目的語」

für die Zeit フュアー・テーイー・ツァイト adv. 時間に対する 「副詞句」

verliert. フェアリェト 3 単現(verlieren)v.t 失う 「動詞」

ZWEITER TEIL 第2部

それは僕にはほとんど当てはまらなかった。僕は、1 日と言うものがどの程度まで長くそして同時に短くなれるものなのか分からなかった。

Für mich traf das kaum zu. Ich begriff es nicht, bis zu welchem Grade diese Tage lang und kurz zugleich sein konnten.

	「副詞句」「動詞句」「主語」「副詞」「動詞句」
	「主語」「動詞句」 es 「動詞句」, 「目的語」
Für mich フア・ミッ adv. (関連) 僕にとっては、僕の場合は	「副詞句」
traf ...zu. トラフ...ツ 1 単過(zu treffen)v.i 当てはまった	「動詞句」
das ダス pron それは	「主語」
kaum adv. ほとんど〜ない	「副詞」
Ich イッ pron 僕は	「主語」
begriff ...nicht, ベグリフ...ニト 1 単過(begreifen)v.t 分からなかった	「動詞句」
es エス pron 仮の目的語 (真の目的語は bis zu...以降)	
bis zu welchem Grade ビス・ツ・ヴェルヘルム・グラーデ adv. どの程度まで	「目的語」
diese Tage ディーセ・ターゲ pl(Tag).n.m 1 日と言うものが	「主語」
lang ランク adj. 長く	「補語」
und ウント conj. そして	
kurz クルツ adj. 短く	「補語」
zugleich ツグラヒ adv. 同時に	「副詞」
sein konnten. ザイン・コンテン 3 複現・可能・変化(können+不定詞 sein)	
v.i 〜になることが出来る	「動詞句」

生きるには間違いなく長い、しかしそんなに長く伸ばされると、日々はお互いの中に侵入する。それで、日々は名前を失う。

Zweifellos lang zu leben, aber derart in die Länge gezogen, daß sie schließlich ineinander übergriffen. Dabei verloren sie ihre Namen.

	「補語」, aber 「副詞句」, 「副詞節」 「副詞」「動詞」「主語」「目的語」
Zweifellos ツヴァイフェロス adv. 間違いなく、明らかに	「副詞」
lang ランク adj. 長い	「補語」
zu leben, ツ・レーベン zu 不定詞・目的 adv. 生きるためには	「副詞句」
aber アーバー conj. しかし	
derart デーアールト adv. そのように	「副詞」
in die Länge イン・ディ・レンゲ adv. その長さに	「副詞句」
gezogen, ゲ・ツォーゲン 過去分詞(ziehen)・受動 adj. 伸ばされた	「副詞句」
daß ダス conj. (結果) それで〜する	「副詞節」
sie シー pron.pl(Tage の代用) 日々は	「主語」

ZWEITER TEIL 第2部

schließlich シュリースリヒ adv. ついに	「副詞」
ineinander インェンダー adv. お互いの中に	「副詞」
übergriffen. ユーバーグリーフェン 3 複過・時制の一致(über greiffen)v.i 侵入する	「動詞句」
Dabei ダバイ adv. その過程で、それで	「副詞」
verloren フェアローレン 3 複過・時制の一致(verlieren)v.t 失う	「動詞」
sie ジー pron.pl 日々は	「主語」
ihre Namen. イーレ・ナーメン pl(Name).n.m 名前を	「目的語」

「昨日」や「今日」という言葉が、僕にとって意味のある唯一のものになった。

Die Wörter «gestern» und «heute» waren die einzigen, die noch einen Sinn für mich hatten.

	「主語」「動詞」「補語」
Die Wörter デーイー・ヴェルター pl(Wort).n.n 言葉が	「主語」
«gestern» und «heute» ゲスターン・ウント・ホイテ adj. 「昨日」や「今日」という「形容詞句」	
waren ヴァレン 3 単過・変化(sein)v.i 〜になった	「動詞」
die einzigen, デーイー・アインツィゲン pron 唯一の物	「補語」
die デーイー pron.pl (主語) 〜する	「形容詞節」
noch ノッホ adv. まだ	「副詞」
einen Sinn アイン・ジン n.m 意味を	「目的語」
für mich フェア・ミッヒ adv. 僕にとって	「副詞句」
hatten. ハッテン 3 複過・時制の一致(haben)v.t 持つ	「動詞」

ある日看守が僕に、刑務所に入って 5 か月になると言った時、僕はその通りだと思った。

しかし、その言葉の意味は理解できなかった。

Als der Wärter mir eines Tages sagte, ich sei nun fünf Monate im Gefängnis, glaubte ich es, aber ich begriff es nicht.

	「副詞節」, 「動詞」「主語」「目的語」, aber 「主語」「動詞句」「目的語」「動詞句」
Als アルス conj. 〜した時	「副詞節」
der Wärter デア・ヴェルター n.m 看守が	「主語」
mir ミーア pron 僕に	「間接目的語」
eines Tages アインス・ターゲス n.m.2 格 ある日	「副詞句」
sagte, サークテ 3 単過(sagen)v.t 言った	「動詞」
n. 〜ということ	「直接目的語」
ich イッヒ pron 僕は	「主語」
sei サイ 接・1 単現・存在(sein)v.i 〜にいる	「動詞」
nun ヌン adv. 今では	「副詞」

ZWEITER TEIL 第2部

fünf Monate フュフ・モナテ adv. 5 か月間	「副詞句」
im Gefängnis, イム・ゲフェンギス adv. 刑務所に	「副詞句」
glaubte グラウプテ 1 単過(glauben)v.t 本当だと思った	「動詞」
ich イヒ pron 僕は	「主語」
es, エス pron それを	「目的語」
aber アーバー conj. しかし	
ich イヒ pron 僕は	「主語」
begriff ...nicht. ベグリフ...ニヒト 1 単過・否定(begreifen)v.t 理解できなかった	「動詞句」
es エス pron それを	「目的語」

僕にとって、それは僕の独房に流れ込むいつも変わらぬ一日であり、僕が没頭していた同じ仕事だった。

Für mich war es immer derselbe Tag, der in meine Zelle strömte, dieselbe Arbeit, der ich nachging.

	「副詞句」「動詞」「主語」「補語」, 「補語」
Für mich フュア・ミヒ adv. 僕にとって	「副詞句」
war ヲアール 3 単過(sein)v.i ~ だった	「動詞」
es エス pron それは	「主語」
immer derselbe Tag, イマー・デアゼルベ・タク n.m.1 格 絶えず同じ一日	「補語」
der デア pron (Tag の代用) それは~する	「形容詞節」
in meine Zelle イン・マイネ・ツェレ adv. 僕の独房に	「副詞句」
strömte, シュトレムテ 3 単過(strömen)v.i(in に) 流れ込んできた	「動詞」
dieselbe Arbeit, ディーゼルベ・アールハイト n.f.1 格 同じ仕事	「補語」
der デア pron (Arbeit の代用.3 格) ~する	「形容詞節」
ich イヒ pron 僕が	「主語」
nachging. ナハギンク 1 単過(nach gehen)	
v.i(et-3) (仕事などに) 没頭した	「動詞」

その日、看守長が立ち去ってから、僕はブリキの茶碗をじっと覗き込んだ。

Als der Wärter an jenem Tag gegangen war, betrachtete ich mich in meinem Blechnapf.

	「副詞節」, 「動詞句」「主語」「動詞句」「間接目的語」
Als アルス conj. ~した時	「副詞節」
der Wärter デア・ウエルター n.m 看守長が	「主語」
an jenem Tag アン・イエネム・タク adv. その日	「副詞句」
gegangen war, ゲゲンゲン・ウアール 3 単過・完了形(gehen)v.i 立ち去った	「動詞句」
betrachtete ...mich ベトラハテ...ミヒ 1 単過(sich-4 betrachten)v.pr じっと眺めた	「動詞句」

ZWEITER TEIL 第2部

ich イッヒ pron 僕は 「主語」
 in meinem Blechnapf. イン・マイネム・ブレ・ナプフ adv. ブリキの茶碗の中を 「間接目的語」

僕がそれに微笑みかけようとしていたにもかかわらず、僕の顔は真剣なままのようだという印象を受けた。

Ich hatte den Eindruck, als bliebe mein Bild ernst, obwohl ich ihm zuzulächeln versuchte.

「主語」「動詞」「目的語」「副詞節」

Ich イッヒ pron 僕は 「主語」
 hatte ハッテ 1 単過(haben)v.t 持った 「動詞」
 den Eindruck, デン・アインツルック n.m.4 格 印象を 「目的語」
 als アルス conj. 〜した時 「副詞節」
 bliebe ブリーヘ 接 II・3 単現(bleiben)v.i のままである 「動詞」
 mein Bild マイン・ビルト n.n 僕の顔は 「主語」
 ernst, エアンスト adj. 真剣な 「補語」
 obwohl オップウオール conj. 〜にもかかわらず 「副詞節」
 ich イッヒ pron 僕が 「主語」
 ihm イム pron(Blechnapf の代用).3 格 それに 「間接目的語」
 zuzulächeln versuchte. ツー・ツレヒェルン・フェアズフェ 1 単過(versuchen+zu 不定詞 zuzulächeln)
 v.t 微笑みかけようとした 「動詞句」

僕は茶碗を揺り動かした。僕は微笑んだ。しかしその顔は相変わらず厳しく悲し気な表情のままだった。

Ich bewegte es hin und her. Ich lächelte, aber es behielt den selben strengen, traurigen Ausdruck.

「主語」「動詞」「目的語」「副詞句」 | 「動詞」「主語」, aber 「主語」「動詞」「目的語」

Ich イッヒ pron 僕は 「主語」
 bewegte ベグェクテ 1 単過(bewegen)v.t 動かした 「動詞」
 es エス pron (Blechnapf の代用) それを 「目的語」
 hin und her. ヒン・ウント・ヘア adv. 前後左右に 「副詞句」
 Ich イッヒ pron 僕は 「主語」
 lächelte, レヒェルテ 1 単過(lächeln)v.i 微笑んだ 「動詞」
 aber アーバー conj. しかし
 es エス pron (Bild の代用) それは 「主語」
 behielt ベヒールト 3 単過(behalten)v.t 保っていた 「動詞」
 den selben strengen, traurigen デン・セルベン・シュトレンゲン・トラウリゲン

ZWEITER TEIL 第2部

adj.m.4 格 相変わらず厳しく悲し気な 「形容詞句」
 Ausdruck. アウスド^ツクリック n.m.4 格 表情を 「目的語」

一日が終わった。それは僕が決して話したくない時刻だ。監獄のあらゆる階から夕暮れの
 騒めきが沈黙の列になって立ち昇って来る、名前の無い時刻だ。

Der Tag ging zu Ende, und es war die Stunde, von der ich nicht sprechen mag, die namenlose Stunde, in welcher die Geräusche des Abends aus allen Stockwerken des Gefängnisses in einem Trauerzug des Schweigens aufstiegen.

「主語」「動詞」「副詞句」,und「主語」「動詞」「補語」,「補語」

Der Tag テア[・]ターク n.m 一日が 「主語」
 ging キング[°] 3 単過(gehen)v.i 進んだ 「動詞」
 zu Ende, ツー[・]エンテ[°] adv. 終わりに 「副詞句」
 und ウント conj. そして
 es エス pron それは 「主語」
 war ヴァール 3 単過(sein)v.i ~ だった 「動詞」
 die Stunde, テー[・]ストウンテ[°] n.f.1 格 時刻 「補語」
 von der フォン[・]デア[°] adv. (関連) それについて~する 「形容詞節」
 ich イヒ pron 僕は 「主語」
 nicht sprechen mag, ニヒト[・]シュプ[°]レヒェン[・]マーク 1 単現・否定・願望(mögen+不定詞 sprechen)
 v.t 話したくない 「動詞句」
 die namenlose Stunde, テー[・]ナーメンローゼ[・]シュトウンテ[°] n.f.1 格 名前の無い時刻 「補語」
 in welcher die Geräusche イン[・]ヴェルヒヤー[・]テー[・]イー[・]ゲロイシェ[°] adv. どの騒めきも 「副詞句」
 des Abends テス[・]アーベント adj. 夕暮れの 「形容詞句」
 aus allen Stockwerken アウス[・]アレ[・]ン[・]シュトックヴァ[°]エアケン[°] adv. 全ての階から 「副詞句」
 des Gefängnisses テス[・]ゲフェング[°]ニセス n.n.2 格 監獄の 「形容詞句」
 in einem Trauerzug イン[・]アイネム[・]トラウアツーク[°] adv. 列になって 「副詞句」
 des Schweigens テス[・]シュヴァイゲ[°]ンズ n.n.2 格 沈黙の 「形容詞句」
 aufstiegen. アウフ[・]シュタイゲン[°] 3 複過・時制の一致(auf|steigen)v.i 立ち昇る 「動詞句」

僕は窓に歩み寄り、最後の光の中でもう一度、茶碗の中に映った自分の顔をじっと眺めた。

Ich trat ans Fenster, und im letzten Licht betrachtete ich noch einmal mein Bild.

「主語」「動詞」「間接目的語」,und「副詞句」「動詞」「主語」「副詞句」「目的語」

Ich イヒ pron 僕は 「主語」
 trat トラート 1 単過(treten)v.i(ans に) 歩み寄った 「動詞」
 ans Fenster, アンス[・]フェンスター[°] adv. 窓に 「間接目的語」
 und ウント conj. そして

ZWEITER TEIL 第2部

im letzten Licht	イム・レツテン・リヒト	adv. 最後の光の中で	「副詞句」
betrachtete	ベトラハテ	1 単過(betrachten)v.t じっと眺めた	「動詞」
ich	イヒ	pron 僕は	「主語」
noch einmal	ノッホ・アインマル	adv. もう一度	「副詞句」
mein Bild.	マイン・ビルト	n.n.4 格 自分の顔を（茶碗の水に映った）	「目的語」

その顔は真剣だったが、それは当たり前だ。その時、僕は本当に真剣だったのだから。

Es war immer noch ernst, und das war gewiß nicht erstaunlich, denn in diesem Augenblick war ich wirklich ernst.

「主語」「動詞」「補語」,und「主語」「動詞」「補語」,「副詞節」

Es	エス	pron それは	「主語」
war	ワール	3 単過(sein)v.i ~ だった	「動詞」
immer noch ernst,	イマー・ノッホ・エアンスト	adj. 相変わらず真剣な	「補語」
und	ウント	conj. そして	
das	ダス	pron それは	「主語」
war	ワール	3 単過(sein)v.i ~ だった	「動詞」
gewiß nicht erstaunlich,	ゲウイス・ニヒト・エアシュンリヒ	adj. 全く妙ではない、当たりの	「補語」
denn	デン	conj. なぜなら	「副詞節」
in diesem Augenblick	イン・デイーゼム・アウゲンブリック	adv. この時	「副詞句」
war	ワール	1 単過(sein)v.i ~ だった	「動詞」
ich	イヒ	pron 僕は	「主語」
wirklich ernst.	ウィルクリヒ・エアンスト	adj. 本当に真剣な	「補語」

しかし同時に、僕は数か月ぶりに自分の声色をはっきりと聞いた。

Aber zur gleichen Zeit und zum erstenmal seit Monaten hörte ich deutlich den Klang meiner Stimme.

Aber「副詞句」「動詞」「主語」「副詞」「目的語」

Aber	アーバー	conj. しかし	
zur gleichen Zeit	ツァー・グライヒェン・ツァイト	adv. 同時に	「副詞句」
und	ウント	conj. そして	
zum erstenmal seit Monaten	ツーム・エアステンマル・ザイト・モナテン	adv. 数か月ぶりに	「副詞句」
hörte	ハテ	1 単過(hören)v.t 聞いた、聞こえた	「動詞」
ich	イヒ	pron 僕は	「主語」
deutlich	ドイリヒ	adv. はっきりと	「副詞」
den Klang	デン・クラング	n.m.4 格 響きを	「目的語」
meiner Stimme.	マイナー・シュティメ	n.f.2 格 自分の声の	「形容詞句」

ZWEITER TEIL 第2部

僕はそれがすでに何日も前から僕の耳の中で鳴り響いていた声だと気づき、僕はずっと独り言を言っていたのだと分かった。

Ich erkannte sie als die wieder, die schon tagelang in meinem Ohr klang, und ich begriff, daß ich die ganze Zeit über mit mir selbst gesprochen hatte.

「主語」「動詞」「目的語」「補語」,und「主語」「動詞」「目的語」

Ich イッヒ pron 僕は 「主語」
 erkannte エアカンテ 1 単過(erkennen)v.t 気付いた 「動詞」
 sie ジー pron.f それを 「目的語」
 als アルス prep (資格) ～として、～であることを 「補語」
 die wieder, die schon tagelang テーイー・ヴァー・デーイー・ショーン・ターゲラング
 pron.f すでに何日も前からの声 「目的語」
 in meinem Ohr イン・マイネム・オー adv. 私の耳の中で 「副詞句」
 klang, クラング 3 単過(klangen)v.i 鳴り響いていた 「動詞」
 und ウント conj. そして
 ich イッヒ pron 僕は 「主語」
 begriff, ベグリフ 1 単過(begreifen)v.t 理解した 「動詞」
 daß ダス conj. ～ということを 「目的語」
 ich イッヒ pron 僕は 「主語」
 die テーイー pron.f それを 「目的語」
 ganze Zeit ガンツェ・ツァイト adv. (時間) ずっと 「副詞句」
 über mit mir selbst gesprochen hatte. ユーバー・ミット・ミーア・ゼルブ・スト・ゲシュプ ロッペン・ハッテ
 1 単過・完了形(sich-3 sprechen)
 v.i 独り言を言っていた、自分に話していた 「動詞句」

その時僕は、母さんの葬儀で看護婦が言った事を思い出した。

Da erinnerte ich mich an das, was die Schwester bei Mamas Beerdigung gesagt hatte.

「副詞」「動詞句」「主語」「動詞句」「間接目的語」

Da ダー adv. その時 「副詞」
 erinnerte ...mich エアイネアテ...ミッヒ 1 単過(sich-4 erinnern)v.pr(an et-4 を) 思い出した 「動詞句」
 ich イッヒ pron 僕は 「主語」
 an das, アン・ダス adv. そのことを 「間接目的語」
 was ヴァス pron ～する 「形容詞節」
 die Schwester テーイー・シュヴァーエスター n.f 看護婦が 「主語」
 bei Mamas Beerdigung バイ・ママス・ベアアテイクンク
 adv. 母さんの葬儀で 「副詞句」

ZWEITER TEIL 第2部

gesagt hatte. ゲザート・ハッテ 3 単過・完了形(sagen)v.t 言った 「動詞句」

いや、逃げ道はない。監獄の夜がどんなものか、誰も想像できない。

Nein, es gab keinen Ausweg, und niemand kann sich vorstellen, was die Abende im Gefängnis sind.

「感嘆」, 「主語」 「動詞」 「目的語」, und 「主語」 「動詞句」 「目的語」

Nein, ナイン adv. いや、だめだ 「感嘆」

es エス pron それは 「主語」

gab ガーフ 3 単過・時制の一致(geben)v.t 与える 「動詞」

keinen Ausweg, カイネン・アウスグェーク n.m.4 格 逃げ道を～ない 「目的語」

und ウント conj. そして

niemand ニーマント pron 誰も～ない 「主語」

kann sich vorstellen, カン・スィッヒ・フォアシュテルン 3 単現・可能(sich-3 können+不定詞 vorstellen)

v.pr(et-4 を) 想像出来る 「動詞句」

was ヴァス pron どのような物という事を 「目的語」

die Abende デーイー・アーベンデ pl(Abend).n.m 夜が 「主語」

im Gefängnis イム・ゲフェングニス adv. 監獄の 「副詞句」

sind. シント 3 複現(sein)v.i ～である 「動詞」

ZWEITER TEIL 第2部

III

結局、すぐに夏に戻ったと言える。

Ich kann sagen, daß es im Grunde sehr schnell wieder Sommer wurde.

「主語」「動詞句」「目的語」

Ich イッヒ pron 僕は

「主語」

kann sagen, カン・サーゲン 1 単現・可能(können+不定詞 sagen)v.t. ～と言える

「動詞句」

daß ダス conj. ～ということを

「目的語」

es エス pron 季節は

「主語」

im Grunde イム・グルンデ adv. 結局のところ、根本的には

「副詞句」

sehr schnell ゼーア・シュネル adv. 非常に速く、すぐに

「副詞句」

wieder ウィーダー adv. また

「副詞」

Sommer ソマー n.m.1 格 夏

「補語」

wurde. ウルテ 3 単過・変化(werdown)v.i. ～になった

「動詞」

僕は、最初の暑さと共に、僕にとって何か新しいことが始まると分かっていた。

Ich wußte, mit der ersten Hitze würde für mich etwas Neues beginnen.

「主語」「動詞」, 「副詞句」「動詞句」「主語」「動詞句」

Ich イッヒ pron 僕は

「主語」

wußte, ウステ 1 単過(wissen)v.t. 知っていた、分かっていた

「動詞」

mit ミット prep. ～と一緒に

「副詞句」

der ersten Hitze デア・エアステン・ヒツェ n.f.3 格 最初の暑さ

「目的語」

würde ...beginnen. ウルテ ...ベギネ 接 II・3 単現・推量(werden+不定詞 beginnen)

v.i. 始まるだろう

「動詞句」

für mich フュア・ミッヒ adv. 僕にとって

「副詞句」

etwas Neues エウアス・ノイエス n.n.1 格 何か新しいことが

「主語」

僕の事件は陪審裁判所の最後の時期に審理され、6 月に終わる予定だ

Mein Fall sollte in der letzten Schwurgerichtsperiode verhandelt werden, und die endete mit dem Monat Juni.

「主語」「動詞句」「副詞句」, und 「主語」「動詞」「副詞句」

Mein Fall マイン・ファル n.m 僕の事件は

「主語」

sollte ...verhandelt werden, ソルテ...フェアハントルト・ウエアテン 3 単過・予定・時制の一致

(sollen+不定詞・受動 werden+過去分詞 verhandeln)v.t. 審理される予定だ 「動詞句」

in der letzten Schwurgerichtsperiode イン・デア・レツツテン・シュウーアゲリツ・ペリオデ

adv. 陪審裁判所の最後の時期に

「副詞句」

ZWEITER TEIL 第2部

und ウント conj. そして

die デー pron(periode の代用) それは 「主語」

endete エンデテ 3 単過・時制の一致(enden)v.i(mit et-3 に) 終わる 「動詞」

mit dem Monat Juni. ミット・デー・ム・モナト・ユニ adv. 6 月に 「副詞句」

外は太陽が明るく輝く中で、審理は始まった。

Die Verhandlung begann, während draußen hell die Sonne schien.

「主語」「動詞」, 「副詞節」

Die Verhandlung デー・フェアハント・ルンゲ n.f 審理が 「主語」

begann, ベガン 3 単過(beginnen)v.i 始まった 「動詞」

während ウェーレント conj. ～している間に 「副詞節」

draußen ドラウセン adv. 外は 「副詞」

hell ヘル adv. 明るく 「副詞」

die Sonne デー・ゾネ n.f 太陽が 「主語」

schien. シーン 3 単過・時制の一致(scheinen)v.i 輝く 「動詞」

弁護士は、せいぜい 2～3 日で審理は終わるだろうと断言した。

Mein Anwalt hatte mir versichert, sie würde höchstens zwei bis drei Tage dauern.

「主語」「動詞句」「間接目的語」「動詞句」, 「主語」「動詞句」「副詞句」「動詞句」

Mein Anwalt マイン・アンワルト n.m 僕の弁護士は 「主語」

hatte ...versichert, ハッテ...フェアズ・イハヤト 3 単過・完了形(versichern)v.t 断言した 「動詞句」

mir ミーア pron.3 格 僕に 「間接目的語」

sie ジー pron(Verhandlung の代用) それは 「主語」

würde ... dauern. ウルテ...ダウアーン 接 II・3 単現・推量(werden+不定詞 dauern)

v.i 続くだろう 「動詞句」

höchstens ヘーヒテンス adv. せいぜい、たかだか 「副詞」

zwei bis drei Tage ツヴァイ・ビス・ドライ・ターゲ pl(Tag).n.m 2～3 日 「副詞句」

「その上」と、彼は付け加えた。「あなたの事件はこの期間に最も重要なものではないので、法廷は急いでいます。このあとすぐに父親殺しが審理されますから」

«Außerdem», hatte er hinzugefügt, «hat das Gericht es eilig, denn Ihr Fall ist nicht der wichtigste der Periode. Unmittelbar danach wird ein Vätermord verhandelt.»

《「応答」》, 「動詞句」「主語」「動詞句」,

《「動詞」「主語」「目的語」, 「副詞節」 | 「副詞句」「動詞句」「主語」》

«Außerdem», アウサーデーム adv. その上 「応答」

hatte ...hinzugefügt, ハッテ...ヒンツウ・ゲ・フュークト 3 単過・完了形(hinzu|fügen)

ZWEITER TEIL 第2部

v.t 付け加えた	「動詞句」
er エア pron 彼は	「主語」
«hat ハット 3 単現(haben)v.t 〜がある	「動詞」
das Gericht ダス・ゲリヒト n.n 法廷は	「主語」
es エス pron それ	「目的語」
eilig, アイリヒ adj. 急いだ	「形容詞」
denn デン conj. なぜならば、〜だから	「副詞節」
Ihr Fall イー・ファル n.m あなたの事件は	「主語」
ist nicht イスト・ニヒト 3 単現・否定(sein)v.i 〜でない	「動詞句」
der wichtigste デア・ウイヒティヒステ adj(wichtig). (最高級) 最も重要な	「補語」
der Periode. デア・ペリオデ n.f.2 格 この時期の	「形容詞句」
Unmittelbar danach ウンミッテルハール・ダナーハ adv. すぐ後に	「副詞句」
wird ...verhandelt. ヴィルト...フェアハンデルト 3 単現・受動(verhandeln)v.t 審理される	「動詞句」
ein Vätermord アイン・ファーターモート n.m 父親殺しが	「主語」

朝 7 時半に迎えがやって来た；護送車で裁判所に連れて行かれた。

Um halb acht Uhr morgens wurde ich abgeholt; der Gefangenenwagen brachte mich zum Gerichtsgebäude.

「副詞句」「動詞句」「主語」「動詞句」；「主語」「動詞」「目的語」「副詞句」	
Um halb acht Uhr morgens ウム・ハルプ・アハト・ウーア・モエゲンス adv. 朝 7 時半に	「副詞句」
halb acht 7 時半 (8 時に向かって 30 分進んでいる)	
wurde ...abgeholt; ヴァルデ...アップ・ゲ・ホルト 1 単過・受動(ab holen)	
v.t 迎えがやって来た	「動詞句」
誰かを「主語」にして能動態に翻訳する	
ich イヒ pron 僕は	「主語」
der Gefangenenwagen デア・ゲファンゲネン・ヴァーゲン n.m 護送車が	「主語」
brachte ブラハテ 3 単過(bringen)v.t 連れて行った	「動詞」
mich を「主語」にして受動態に翻訳する	
mich ミヒ pron 僕を	「目的語」
zum Gerichtsgebäude. ツム・ゲリヒツゲボイデ adv. 裁判所まで	「副詞句」

ZWEITER TEIL 第2部

警官 2 人が僕を暗闇の匂いのする小部屋に連れて行った。

Die beiden Gendarmen führten mich in ein kleines Zimmer, in dem es nach Dunkelheit roch.

「主語」「動詞」「目的語」「副詞句」

Die beiden Gendarmen デー・イー・バイデン・ジヤンダルメン pl(Gendarm).n.m 警官 2 人が 「主語」
führten フューアテン 3 複過(führen)v.t 連れて行った、案内した 「動詞」
mich ミット pron.4 格 僕を 「目的語」
in ein kleines Zimmer, イン・アイン・クライネス・ツィマー adv. 小さい部屋に 「副詞句」
in dem イン・デーム adv. その中が～する 「形容詞節」
es エス pron それは 「主語」
nach Dunkelheit ナーハ・ドゥンケルハイト adv. (類似) 暗闇のように 「副詞句」
roch. ローホ 3 単過(riechen)v.i 匂いがした 「動詞」

僕たちはドアの近くで座って待った。ドアの奥から、話し声や人を呼ぶ声、椅子を動かす音そして様々な無秩序な音が聞こえてきた。それは僕にこの地区のお祭りを連想させた。そこでは、コンサートの後でダンスをするためにホールが片付けられていたものだ。

Wir warteten, in der Nähe einer Tür sitzend, hinter der Stimmen, Rufe, Stuhlrücken und das ganze Durcheinander zu hören waren, das mich an die Feste im Viertel erinnerte, bei denen nach dem Konzert der Saal zum Tanz ausgeräumt wird.

「主語」「動詞」「副詞句」, 「副詞句」「主語」「動詞句」,

「主語」「間接目的語」「直接目的語」「動詞」, 「副詞句」「主語」「副詞句」「動詞句」

Wir ヴェーア pron 僕たちは 「主語」
warteten, ヴァアルテテン 1 複過(warten)v.i 待った 「動詞」
in der Nähe イン・デア・ネーエ adv. 近くで 「副詞句」
einer Tür アイナー・チュア n.f.2 格 ドアの 「形容詞句」
sitzend, シツェント 現在分詞・同時 adv. 座って 「副詞」
hinter ヒンター prep (3 格と) ～の奥では 「副詞句」
der デア pron.3 格(Tür の代用) ドア 「目的語」
Stimmen, シュチメン pl(Stimme).n.f 話し声が 「主語」
Rufe, ルーフェ pl(Ruf).n.m 叫び声が、呼び声 「主語」
Stuhlrücken シュトワール・リュケン pl(rück).n.n 椅子の動く音が 「主語」
und ウント conj. そして
das ganze Durcheinander ダース・ガントゥェ・トワール・アイツァンダー n.n 全ての混乱が 「主語」
zu hören waren, ツー・ヘレン・ヴァレン 3 複過・受動(sein+zu 不定詞 hören)
v.t 聞こえた 「動詞句」
das ダス pron それは 「主語」

ZWEITER TEIL 第2部

mich ミヒ pron 僕に 「間接目的語」
 an die Feste im Viertel アン・デー・フェステ・イム・フィアテル adv. この地区のお祭りを 「直接目的語」
 erinnerte, エイネルテ 3 単過(erinnern)v.t(j-4 an et-4 人-4 に物-4 を) 思い出させた 「動詞」
 bei denen バイ・デネン adv. そこでは 「副詞句」
 nach dem Konzert ナーハ・デーム・コンツェルト adv. コンサートの後で 「副詞句」
 der Saal デア・サル n.m ホールが 「主語」
 zum Tanz ツム・タンツ adv. (目的) ダンスのために 「副詞句」
 ausgeräumt wird. アウスゲ・ロイムト・ウィルト 3 単現・受動(ausräumen)v.t 片付けられる 「動詞句」

sein+zu 不定詞

助動詞 können, müssen および sollen と同等な機能がある。

「…されうる、…されるべきだ」(受動的な意味で同時に可能も表わす)

「…されねばならない」(受動と義務の意味を表わす)

Das Problem ist leicht zu lösen. 「その問題は簡単に解かれうる」

Die Pflicht ist immer zu tun. 「義務はつねに果たされねばならない」

警官が開廷を待たなければならぬと僕に言って、警官の一人が僕にタバコを差し出したが、僕はそれを断った。

Die Gendarmen sagten mir, wir müßten auf den Gerichtshof warten, und einer von ihnen bot mir eine Zigarette an, die ich ablehnte.

「主語」「動詞」「間接目的語」, 「直接目的語」, und

「主語」「動詞句」「間接目的語」「直接目的語」「動詞句」, 「主語」「目的語」「動詞句」

Die Gendarmen デー・ジョナルメン pl(Gendarm).n.m 警官たちは 「主語」

sagten サークテン 3 複過(sagen)v.t 言った 「動詞」

mir, ミア pron.3 格 僕に 「間接目的語」

n.~ということ を 「直接目的語」

wir ウィア pron.pl 僕たちは 「主語」

müßten ...warten, ムステン...ヴァルテン 接 II・1 複現・推量(müssen+不定詞 warten)

v.i 待たなければならぬだろう 「動詞句」

auf den Gerichtshof アウフ・テン・ゲリヒツホフ adv. 法廷を 「間接目的語」

und ウント conj. そして

einer von ihnen アイナ・フォン・イーネン pron 警官の一人が 「主語」

bot ...an, ボート...アン 3 単過(an | bieten)v.t 差し出した 「動詞句」

mir ミア pron.3 格 僕に 「間接目的語」

eine Zigarette アイネ・ツィガレッテ n.f タバコを 「直接目的語」

die デー pron.f それを 「目的語」

ich イヒ pron 僕は 「主語」

ZWEITER TEIL 第2部

ablehnte. アッフ・レーンテ 1 単過(ab|lehnen)v.t 断った

「動詞句」

その後すぐに、彼は『恐れているのか』と僕に尋ねた。僕はそんなことは無いと答えた。
ある点では、裁判を体験することに興味があった。

Kurz darauf fragte er, ob ich «Manschetten» hätte. Ich verneinte. In gewisser Hinsicht interessierte es mich, einen Prozeß mitzuerleben.

「副詞句」「動詞」「主語」「目的語」

「主語」「動詞」 | 「副詞句」「動詞」「目的語」「主語」

Kurz darauf クツ・ダラーフ adv. その後すぐに

「副詞句」

fragte フラクテ 3 単過(fragen)v.t 尋ねた

「動詞」

er, エア pron 彼は

「主語」

ob オッフ conj. へかどうかを

「目的語」

ich イヒ pron 僕は

「主語」

«Manschetten» マンシェッテン n.f.4 格 恐れ、袖口

「目的語」

hätte. ハッテ 接 II・1 単現(haben)v.t へがある

「動詞」

vor j-3 / et-3 Manschetten haben 人-3 / 何-3 を怖がる

Ich イヒ pron 僕は

「主語」

verneinte. フェアインテ 1 単過(verneinen)v.t(et-4 に対して) ノーと答えた

「動詞」

In gewisser Hinsicht イン・ゲウ・ィッサー・ヒンズ・ィヒト adv. ある点では

「副詞句」

interessierte インテレィエルテ 3 単過・時制の一致(interessieren)v.t(j-4 の) 興味を引く

「動詞」

es エス pron 仮の主語 (真の主語は einen Prozeß 以降)

mich, ミヒ pron.4 格 僕

「目的語」

einen Prozeß アイネン・プ ロツェス zu 不定句 n. 裁判をへすることは

「主語」

mitzuerleben. ミット・ツァー・エアレーベン zu 不定詞 v.t 身をもって体験する

「動詞句」

それに、これまでにこんな機会は一度もなかった。

Dazu hatte ich bisher noch nie Gelegenheit gehabt.

「副詞」「動詞句」「主語」「副詞句」「目的語」「動詞句」

Dazu ダツァー adv. その上、それに

「副詞」

hatte ...gehabt. ハッテ...ゲ ハーフト 1 単過・完了形(haben)v.t 持ったことがある

「動詞句」

ich イヒ pron 僕は

「主語」

bisher noch ヒッシャー・ノッホ adv. まだこれまで

「副詞句」

nie Gelegenheit ニー・ゲレーゲンハイト n.f.4 格 機会をへない

「目的語」

ZWEITER TEIL 第2部

「まあね」と、二人目の警官が言った。「しかし、結局はそれさえも退屈になる」

«Ja», sagte der zweite Gendarm, «aber auf die Dauer wird auch das langweilig»

《「応答」》, 「動詞」「主語」, 《aber 「副詞句」「動詞」「主語」「補語」》

«Ja», ヤー adv. まあね 「応答」

sagte サークテ 3 単過(sagen)v.t 言った 「動詞」

der zweite Gendarm, デア・ツヴァイト・ジ・ョントアルム n.m 二人目の警官が 「主語」

«aber アーバー conj. しかし

auf die Dauer アウフ・デュー・ダウアー adv. 結局は、長い間には 「副詞句」

wird ヴィルト 3 単現・変化(werden)v.i 〜になる 「動詞」

auch das アウフ・ダス pron それさえも 「主語」

langweilig. ラングヴァイリヒ adj. 退屈な 「補語」

その直後、部屋の中で小さい鐘が鳴った。警官が僕の手錠を外した。

Kurz darauf läutete eine kleine Glocke im Zimmer. Sie nahmen mir die Handschellen ab.

「副詞句」「動詞」「主語」「副詞句」

「主語」「動詞句」「間接目的語」「直接目的語」「動詞句」

Kurz darauf クルツ・ダラーフ adv. その直後 「副詞句」

läutete ロイテテ 3 単過(läuten)v.i (鐘が) 鳴った 「動詞」

eine kleine Glocke アイン・クライン・グロック n.f 小さい鐘が 「主語」

im Zimmer. イム・ツィマー adv. 部屋の中で 「副詞句」

Sie ジー pron.pl(Gendarmen の代用) 警官が 「主語」

nahmen ...ab. ナーメン...アップ 3 複過(ab|nehmen)v.t 取り外した 「動詞句」

mir ミーア pron.3 格 僕の 「間接目的語」

die Handschellen デー・ハントシェレン pl(Handschelle).n.f 手錠を 「直接目的語」

彼らは扉を開けて、僕を被告人席へ連れて行った。法廷は超満員だった。

Sie öffneten die Tür und führten mich auf die Anklagebank. Der Saal war brechend voll.

「主語」「動詞」「目的語」 und 「動詞」「直接目的語」「間接目的語」

「主語」「動詞」「補語」

Sie ジー pron.pl 彼らは 「主語」

öffneten エフネテン 3 複過(öffnen)v.t 開けた 「動詞」

die Tür デー・チュア n.f.4 格 扉を 「目的語」

und ウント conj. そして

führten フューアテン 3 複過(führen)v.t 連れて行った 「動詞」

mich ミヒ pron.4 格 僕を 「直接目的語」

ZWEITER TEIL 第2部

auf die Anklagebank. アウフ・デー・アンケラーグ・バンク adv. 被告人席へ 「間接目的語」
 Der Saal デア・サル n.m 法廷は 「主語」
 war ヴァール 3 単過(sein)v.i ~ だった 「動詞」
 brechend voll. ブレヒェント・フォル adj. 超満員の 「補語」
 現在分詞 brechend (壊れる程) は「副詞」として voll (満員) を修飾している
 brechen ブレヒェン v.t 折る、割る、砕く、裂く

カーテンを降ろした拘わらず、あちこちから日差しが差し込み、空気は既に息苦しかった。

Trotz der Vorhänge drang die Sonne an manchen Stellen durch, und die Luft war bereits zum Ersticken.

「副詞句」「動詞」「主語」「副詞句」,und「主語」「動詞」「補語」
 Trotz トロツツ prep (2 格と) ~にも拘わらず 「副詞句」
 der Vorhänge デア・フォアヘンゲ pl(Vorhang).n.m.2 格 カーテン 「目的語」
 drang ドラング 3 単過(dringen)v.i 突き抜けてきた 「動詞」
 die Sonne デー・ゾネ n.f 日差しが 「主語」
 an manchen Stellen durch, アン・マンシェン・シュテルン・ドゥルヒ adv. あちこちから 「副詞句」
 und ウント conj. そして
 die Luft デー・ルフト n.f 空気は 「主語」
 war ヴァール 3 単過(sein)v.i ~ だった 「動詞」
 bereits デライツ adv. すでに 「副詞」
 zum Ersticken. ツム・エアシュティッケン adj. 息がつまるほどの 「補語」

窓は閉まったままだった。

Man hatte die Fenster geschlossen gelassen.

「主語」「動詞句」「目的語」「補語」「動詞句」
 Man マン pron 人は 「主語」
 hatte ...gelassen. ハッテ...ゲシュロッセン・ゲラッセン 3 単過・放任(lassen)v.t ~のままにした 「動詞句」
 die Fenster デー・フェンスター pl(Fenster)n.f.4 格 窓を 「目的語」
 geschlossen ゲシュロッセン adj. 閉じた、閉まった 「補語」

僕は両側を警官に囲まれて座った。

Ich setzte mich, von den Gendarmen flankiert.

「主語」「動詞句」「副詞句」
 Ich イヒ pron 僕は 「主語」
 setzte mich, セッツテ・ミヒ 1 単過(sich+4 setzen)v.pr 座った 「動詞句」
 von フォン prep (3 格と) (空間) ~に 「副詞句」

ZWEITER TEIL 第2部

den Gendarmen デン・ジエンダルメン pl(Gendarmen).n.m.3 格 警官 「目的語」

flankiert. フランキエルト 過去分詞・受動(flankieren)

adj. 両側に立たれた 「形容詞」

その瞬間、目の前に一列に並んだ顔が見えた。彼らはじっと僕を見つめていた：僕は、それが陪審員だと気が付いた。

In diesem Augenblick sah ich eine Reihe Gesichter vor mir. Sie sahen mich alle an: ich begriff, das waren die Geschworenen.

「副詞句」「動詞」「主語」「目的語」「副詞句」 | 「主語」「動詞句」「目的語」「動詞句」：
「主語」「動詞」, 「主語」「動詞」「補語」

In diesem Augenblick イン・ディゼム・アウゲンブリック adv. その瞬間 「副詞句」

sah サー 1 単過(sehen)v.t 見えた 「動詞」

ich イヒ pron 僕は 「主語」

eine Reihe Gesichter アイン・ライヘ・ゲズィヒター n.f 顔の列 「目的語」

vor mir. フォア・ミーア adv. 目の前に 「副詞句」

Sie シー pron.pl 彼らは 「主語」

sahen ...alle an: サーエン...アレ・アン 3 複過(an | sehen)v.t 皆見つめた 「動詞句」

mich ミヒ pron.4 格 僕を 「目的語」

ich イヒ pron 僕は 「主語」

begriff, ベグリフ 1 単過(begreifen)v.t 理解した、分かった、気づいた 「動詞」

das ダス pron.pl (Reihe の代用) それは 「主語」

waren ヴァレン 3 複過・時制の一致(sein)v.i ~である 「動詞」

die Geschworenen. デー・ゲシュウオレネン pl(Geschworen).n 陪審員 「補語」

しかし、どうやって彼らをそれぞれ見分けることが出来るか、僕には分からない。

Aber was sie voneinander unterschied, kann ich nicht sagen.

Aber 「目的語」「動詞句」「主語」「動詞句」

Aber アーバー conj. しかし

was ヴァス pron 何が~するということを 「目的語」

sie シー pron.pl 彼らを 「目的語」

voneinander フォンアインダー adv. お互いに 「副詞」

unterschied, ウンターシット 3 単過・時制の一致(unterscheiden)

v.t 見分ける、区別する 「動詞」

kann ...nicht sagen. カン...ニヒト・サーゲン 1 単現・可能・否定(können+不定詞 sagen)

v.t いう事が出来ない 「動詞句」

ich イヒ pron 僕は 「主語」

ZWEITER TEIL 第2部

僕はある印象しかなかった：僕は路面電車の座席の前にいた。するとその名もない乗客全員が、この新参者の可笑しな所を見つけようとじろじろと見つめているのだ。

Ich hatte nur den einen Eindruck: ich stand vor der Bank einer Straßenbahn, und alle diese namenlosen Fahrgäste musterten den Neuankömmling, um etwas Lächerliches an ihm zu entdecken.

「主語」「動詞」「目的語」:

「主語」「動詞」「副詞句」, 「主語」「動詞」「目的語」「副詞句」

Ich	イッヒ	pron	僕は		「主語」
hatte	ハッテ	1 単過(haben)	v.t	～があった	「動詞」
nur	ヌーア	adv.	ただ～だけ、しか～ない		「副詞」
den einen Eindruck:	デーン・アイネン・アイントルック	n.m.4 格	ある印象		「目的語」
ich	イッヒ	pron	僕は		「主語」
stand	シュタント	1 単過(stehen)	v.i	～にいた、立っていた	「動詞」
vor der Bank	フォア・デア・バンク	adv.	座席の前に、ベンチの前に		「副詞句」
einer Straßenbahn,	アイナー・シュトラセンバーン	n.f.2 格	路面電車の		「形容詞句」
und	ウント	conj.	そして		
alle diese namenlosen Fahrgäste	アレ・デー・イーゼ・ナメンローゼン・ファールガステ				
pl(Fahrgast).	n.m		名もない乗客全員が		「主語」
musterten	ムステアテン	3 複過(mustern)	v.t	じろじろ見つめた	「動詞」
den Neuankömmling,	デーン・ノイアンケームリング	n.m.4 格	この新参者を		「目的語」
um ...zu entdecken.	ウム...ツー・エントデッケン	um zu	不定句 adv. (目的) 見つけるために		「副詞句」
etwas Lächerliches	エトワ・アス・レヒヤールヒェス	pron	何か可笑しな所を		「目的語」
an ihm	adv.		彼の		「副詞句」

これが愚かな考えだということは十分に分かっている。なぜなら、ここで彼らが探しているのは可笑しなことではなく、僕の犯罪なのだから。

Ich weiß wohl, daß das ein alberner Gedanke war, denn hier suchten sie nicht das Lächerliche, sondern das Verbrechen.

「主語」「動詞」「副詞」「目的語」, 「副詞節」

Ich	イッヒ	pron	僕は		「主語」
weiß	ヴァイス	1 単現(wissen)	v.t	分かっている	「動詞」
wohl,	ヴォール	adv.	十分に		「副詞」
daß	ダス	conj.	～ということを		「目的語」
das	ダス	pron	これは		「主語」
ein alberner Gedanke	アイン・アルベアーナー・ゲダンケ	n.m.1 格	愚かな考え		「補語」

ZWEITER TEIL 第2部

war, ヴァール 3 単過・時制の一致(sein)v.i ~である	「動詞」
denn デン conj. なぜなら	「副詞節」
hier ヒア adv. ここで	「副詞」
suchten ステン 3 複過(suchen)v.t 探していた	「動詞」
sie シー pron.pl 彼らは	「主語」
nicht das Lächerliche, ニヒト・ダス・レツヒヤーリヒェ pl(Lächerlich).n.4 格 おかしなこと〜でない	「目的語」
sondern ソンダーアン conj. 〜ではなくて	
das Verbrechen. ダス・フェアブレッヒェン n.n.4 格 罪を、犯罪を	「目的語」

しかし、それは恐らく大きな相違ではないが、とにかくこの考えが頭に浮かんだのだ。

Aber das ist wohl kein großer Unterschied, jedenfalls kam mir dieser Gedanke.

Aber 「主語」「動詞」「補語」, 「副詞」「動詞」「間接目的語」「主語」	
Aber アーバー conj. しかし	
das ダス pron それは	「主語」
ist イスト 3 単現(sein)v.i ~である	「動詞」
wohl ヴォール adv. たぶん	「副詞」
kein großer Unterschied, カイン・グロサー・ウンターシット n.m.1 格 大きな相違〜でない	「補語」
jedenfalls イェーテンファルス adv. とにかく、少なくとも	「副詞」
kam カム 3 単過(kommen)v.i(頭に) 浮かんだ	「動詞」
mir ミーア pron 僕に	「間接目的語」
dieser Gedanke. デーイーザー・ゲダanke n.m この考えが	「主語」

僕もまたこの締め切った部屋にいる全ての人に少し混乱した。

Ich war auch ein wenig verwirrt wegen all der Menschen in diesem geschlossenen Saal.

	「主語」「動詞」「補語」
Ich イヒ pron 僕は	「主語」
war ヴァール 1 単過(sein)v.i ~ だった	「動詞」
auch アウフ adv. 〜も	「副詞」
ein wenig verwirrt アイン・ヴィーニヒ・フェアヴィアと adj. 少し混乱した	「補語」
wegen ヴェーゲン prep (2 格と) (原因) ~のために	「副詞句」
all der Menschen アル・デア・メンシェン pl(Mensch).n.m.2 格 全ての人	「目的語」
in diesem geschlossenen Saal. イン・デイーゼム・ゲシュロッセネン・ザール adv. この締め切った部屋にいる	「副詞句」

ZWEITER TEIL 第2部

僕はもう一度傍聴人席を見たが、顔を見分けられなかった。

Ich sah noch einmal in den Zuhörerraum, erkannte aber kein Gesicht.

「主語」「動詞」「副詞句」, 「動詞」 aber 「目的語」

Ich イッヒ pron 僕は

「主語」

sah ザー 1 単過(sehen)v.t 見た

「動詞」

noch einmal ノッホ・アインマル adv. もう一度

「副詞句」

in den Zuhörerraum, イン・デーン・ツェー・アラム adv. 傍聴人席を

「副詞句」

erkannte エカント 1 単過(erkennen)v.t 見分けた

「動詞」

aber アーバー conj. しかし

kein Gesicht. カイン・ゲジヒト n.n.4 格 顔を〜ない

「目的語」

最初は、これら全ての人々が僕を見るためだけにここに来たなどということは、全く頭に浮かばなかった。

Ich glaube, es kam mir zunächst gar nicht zum Bewußtsein, daß alle diese Menschen nur hier waren, um mich zu sehen.

「主語」「動詞」, 「動詞」「間接目的語」「副詞」「間接目的語」「主語」

Ich イッヒ pron 僕は

「主語」

glaube, グラウベ 1 単現(glauben)v.t 思う

「動詞」

es エス pron 仮の主語 (真の主語は daß 以降)

kam カム 3 単過(kommen)v.t 頭に浮かんだ

「動詞」

mir ミーア pron 僕の

「間接目的語」

zunächst ツネーヒスト adv. 最初の頃は

「副詞」

gar nicht zum Bewußtsein, ガール・ニヒト・ツーム・ベウストザイン

adv. 全く意識に〜ない

「間接目的語」

daß ダス pron 〜ということは

「主語」

alle diese Menschen アレ・デイーゼ・メンシェン

pl(Mensch)n.m これら全ての人々が

「主語」

nur hier ヌアー・ヒーア adv. ただここに

「副詞句」

waren, ヴァレン 3 複過・時制の一致(sein)v.i 〜にいる

「動詞」

um mich zu sehen. ウム・ミヒ・ツェー・ゼーエン um zu 不定句・目的

adv. 僕を見るために

「副詞句」

Es kam mir bald zu(m) Bewusstsein, daß meine Methode falsch war.

まもなく私は自分の方法が間違っていたことを悟った。

ZWEITER TEIL 第2部

何か理由が無ければ、人々は僕に興味を持たない。

Sonst beschäftigten sich die Menschen nicht mit mir.

「副詞」「動詞句」「主語」「動詞句」「間接目的語」

Sonst ソンスト adv. さもないと

「副詞」

beschäftigten sich ...nicht ベシェフティクテン・ズィヒト...ニヒト 3 複過・否定・時制の一致

(sich-4 beschäftigen)v.pr 関わらないだろう

「動詞句」

die Menschen デーイー・メンシェン pl(Mensch).n.m 人々は

「主語」

mit mir. ミット・ミーア adv. 僕と

「間接目的語」

この全ての騒ぎの原因が自分だったと理解するには、努力が必要だった。

Es bedurfte einer Anstrengung, um zu begreifen, daß ich die Ursache all dieser Erregung war.

「動詞」「間接目的語」「主語」

Es エス pron 仮の主語 (真の主語は um zu begreifen 以降)

bedurfte ベドゥールフテ 3 単過(bedürfen)v.i(et-2 を) 必要とした

「動詞」

einer Anstrengung, アイナー・アンストレングング n.f.2 格 努力を

「間接目的語」

um zu begreifen, ウム・ツゥ・ベグライフェン um zu 不定句 adv. (目的) 理解するためには「主語」

daß ダス conj. ～ということ

「目的語」

ich イヒ pron 僕が

「主語」

die Ursache デーイー・ウーザツハ n.f.1 格 原因

「補語」

all dieser Erregung アル・デーイーザー・エアレーグング

n.f.2 格 この全ての騒ぎの

「形容詞句」

war. ヴァール 1 単過・時制の一致(sein)v.i ～である

「動詞」

僕は警官に言った：「なんという人数だ！」

Ich sagte zu dem Gendarmen: «Wieviel Leute!»

「主語」「動詞」「間接目的語」：《「感嘆」》

Ich イヒ pron 僕は

「主語」

sagte サークテ 3 単過(sagen)v.t 言った

「動詞」

zu dem Gendarmen: ツゥ・デーーム・ヘンタルメン adv. 警官に

「間接目的語」

«Wieviel Leute!» ヴィーフィール・ロイテ int. なんという人数だ！

「感嘆」

wie viel (感嘆)「何と沢山の」

ZWEITER TEIL 第2部

彼は答えた：「新聞のせいだよ」、それから陪審員席の下の机の近くに陣取っている一団を指し示した。

Er antwortete: wegen der Zeitungen, und er zeigte dabei auf eine Gruppe in der Nähe des Tisches unterhalb der Geschworenenbank.

「主語」「動詞」「副詞句」,und「主語」「動詞」「間接目的語」「副詞句」

Er エア pron 彼は

「主語」

antwortete: アントワァテテ 3 単過(antworten)v.i 答えた

「動詞」

wegen ヲェゲン prep (2 格と) (理由) ~のために、~のせいで

「副詞句」

der Zeitungen, デア・ツァイツンゲン pl(Zeitung).n.f.2 格 新聞

「目的語」

und ウント conj. そして

er エア pron 彼は

「主語」

zeigte ツァイクテ 3 単過(zeigen)v.t(auf et-4 ~の方を) 指し示した

「動詞」

dabei ダバイ adv. そのそばに

「副詞」

auf eine Gruppe アウフ・アイネ・グルッペ adv. 一団を

「間接目的語」

in der Nähe イン・デア・ネーヘ adv. 近くに

「副詞句」

des Tisches デス・ティシェス n.m.2 格 机の

「形容詞句」

unterhalb ウンターハルフ prep (2 格と) ~下に

「副詞句」

der Geschworenenbank. デア・ゲシュワァレネンバンク

n.f.2 格 陪審員席の

「形容詞句」

宣誓した人達の座席

彼は僕に言った：「あれが彼らだ」僕は尋ねた：「誰？」すると彼はもう一度言った：「新聞だ」

Er sagte zu mir: «Das sind sie.» Ich fragte: «Wer?» Und er wiederholte: «Die Zeitungen.»

「主語」「動詞」「間接目的語」：《「主語」「動詞」「補語」》

「主語」「動詞」：《「補語」》 Und 「主語」「動詞」：《「補語」》

Er エア pron 彼は

「主語」

sagte サークテ 3 単過(sagen)v.t 言った

「動詞」

zu mir: ツー・ミーア adv. 僕に

「間接目的語」

«Das ダス pron あれが

「主語」

sind シント 3 複現(sein)v.i ~である

「動詞」

sie.» ジー pron.pl 彼ら

「補語」

Ich イット pron 僕は

「主語」

fragte: フラクテ 1 単過(fraagen)v.t 尋ねた

「動詞」

«Wer?» ヲェア pron 誰？

「補語」

Und ウント conj. そして

ZWEITER TEIL 第2部

er エア pron 彼は 「主語」
 wiederholte: ヴィーダーホルテ 3 単過(wiederholen)v.t もう一度言った 「動詞」
 «Die Zeitungen.» ディー・ツァイトゥンゲン pl(Zeitung).n.f.1 格 新聞 「補語」

彼は、その時彼を見つけて僕たちの方へやって来た記者と面識があった。

Er kannte einen Journalisten, der ihn in diesem Augenblick sah und auf uns zukam.

「主語」「動詞」「目的語」

Er エア pron 彼は 「主語」
 kannte カンテ 3 単過(kennen)v.t 面識があった、知っていた 「動詞」
 einen Journalisten, アイン・ジュルナリステン n.m.4 格 記者を 「目的語」
 der デア pron (主語) ~する 「形容詞節」
 ihn イン pron.4 格 彼を 「目的語」
 in diesem Augenblick イン・ディーゼム・アウゲンブリック adv. その時 「副詞」
 sah ザー 3 単過(sehen)v.t 見た、見つけた 「動詞」
 und ウント conj. そして
 auf uns アウフ・ウンス adv. (場所・方向) 僕たちの方へ 「副詞句」
 zukam. ツ・カム 3 単過(zu|kommen)v.i やって来た 「動詞句」

それはかなりの高齢で、いつも少ししかめっ面をした好感が持てる男だった。

Es war ein recht betagter, sympathischer Mann, der immer ein bißchen grinste.

「主語」「動詞」「補語」

Es エス pron それは、彼は 「主語」
 war ヴァール 3 単過(sein)v.i ~ だった 「動詞」
 ein recht betagter, アイン・レヒト・ベタクター pron.1 格 かなりの高齢 「補語」
 recht レヒト adv. かなり、相当
 sympathischer Mann, シュムパティシヤー・マン n.m.1 格 好感が持てる男 「補語」
 der デア pron (主語) ~する 「形容詞節」
 immer イマー adv. いつも 「副詞」
 ein bißchen アイン・ビッスヘン adv. 少し 「副詞句」
 grinste. グリンステ 3 単過・時制の一致(grinsen)v.i にやっと笑う 「動詞」

フランス語の原文では：

それはもう年配で、好感の持てる、ちょっとしかめっ面の男だった。

C'était un homme déjà âgé, sympathique, avec un visage un peu grimaçant.

→ ドイツ語では、**verzog**(verziehen) (顔を) ゆがめる

ZWEITER TEIL 第2部

彼は警官としっかり握手した。

Mit viel Herzlichkeit drückte er dem Gendarmen die Hand.

「副詞句」「動詞」「主語」「間接目的語」「直接目的語」

Mit ミット prep (随伴状況) 〜で

「副詞句」

viel Herzlichkeit フィール・ヘアツリヒ・カイト n.f 沢山の暖かさ

「目的語」

-keit 形容詞から女性名詞を作る接尾詞

drückte トゥリッケテ 3 単過(drücken)v.t(j-3 die Hand) 握り締めた

「動詞」

er エア pron 彼は

「主語」

dem Gendarmen デーム・ジェンダルメン n.m.3 格 警官の

「間接目的語」

die Hand. デー・ハント n.f.4 格 手を

「直接目的語」

この時、再び同じ世界の人と過ごして楽しむクラブのように、ここでは人は出会い、話しかけ、会話をしていることに、僕は気付いた。

In diesem Augenblick begriff ich, daß man sich hier traf, ansprach und unterhielt wie in einem Klub, wo man sich freut, wieder unter seinesgleichen zu sein.

「副詞句」「動詞」「主語」「目的語」

In diesem Augenblick イン・デューゼム・アウゲンブリック adv. この時

「副詞句」

begriff ベグリフ 1 単過(begreifen)v.t 気付いた、理解した

「動詞」

ich, イヒ pron 僕は

「主語」

daß ダス conj. 〜ということ

「目的語」

man マン pron 人が

「主語」

sich ...traf, スィット...トラフ 3 単過・相互・時制の一致(sich-4 treffen)

v.pr 出会う

「動詞句」

hier ヒア adv. ここで

「副詞」

ansprach アンシュプラーハ 3 単過・時制の一致(an | sprechen)

v.t (人に) 話しかける

「動詞」

und ウント conj. そして

unterhielt ウンターヒールト 3 単過・時制の一致(unterhalten)v.t 話し相手をする

「動詞」

wie in einem Klub, ヴィー・イン・アイネム・クラブ adv. クラブのように

「副詞句」

wo ヴォー adv. そこで〜する

「副詞節」

man マン pron 人が

「主語」

sich freut, スィット・フロイト 3 単現(sich-4 freuen)

v.pr 楽しむ

「動詞句」

wieder ヴィーダー adv. 再び

「副詞」

unter seinesgleichen zu sein. ウンター・ザ・イネスグライヘン・ツウ・ザイン

adv. 同じ世界の人と過ごして

「副詞句」

ZWEITER TEIL 第2部

それはまた、僕はここではまるで不都合な侵入者だというような奇妙な感情を起こした。

Das erklärte mir auch das seltsame Gefühl, als wäre ich hier ungelegen, gleichsam ein Eindringling.

「主語」「動詞」「間接目的語」「副詞」「直接目的語」, 「副詞節」

Das ^{ダス} pron それは 「主語」
 erklärte ^{エークレアテ} 3 単過(erkennen)v.t 説明した 「動詞」
 mir ^{ミーア} pron 僕に 「間接目的語」
 auch ^{アウフ} adv. ～もまた 「副詞」
 das seltsame Gefühl, ^{ダス・セルツァーメ・ゲフュール} n.n.4 格 奇妙な感情を、気持ち 「直接目的語」
 als ^{アルス} conj. まるで～のように 「副詞節」
 wäre ^{ヴェーレ} 接 II・1 単現(sein)v.i ～である 「動詞」
 ich ^{イチ} pron 僕は 「主語」
 hier ^{ヒーア} adv. ここでは 「副詞」
 ungelegen, ^{ウンゲレーゲン} adj. 不都合な 「形容詞」
 gleichsam ^{グライヒザム} adv. いわば 「副詞」
 ein Eindringling. ^{アイン・アイトリンクリング} n.m 侵入者 「補語」

しかしその記者は笑顔で僕の方に振り向いた。

Aber der Journalist wandte sich lächelnd an mich.

Aber 「主語」「動詞句」「副詞句」

Aber ^{アーバー} conj. しかし
 der Journalist ^{デア・ジュルナリスト} n.m その記者は 「主語」
 wandte sich ^{ヴァンテ・ズィヒ} 3 単過(sich・4 wenden)v.pr 振り向いた 「動詞句」
 lächelnd ^{レヒェルト} 現在分詞・同時 adv. 微笑んで 「副詞」
 an mich. ^{アン・ミヒ} adv. 僕の方へ 「副詞句」

彼は、僕にとって全てがうまく進みますようにと言った。

Er sagte, hoffentlich laufe alles gut für mich ab.

「主語」「動詞」, 「副詞」「動詞句」「主語」「副詞句」「動詞句」

Er ^{エア} pron 彼は 「主語」
 sagte, ^{ザーケ} 3 単過(sagen)v.t 言った 「動詞」
 hoffentlich ^{ホッフェントリヒ} adv. (祈願) 願わくば 「副詞」
 laufe ...ab. ^{ラウフェ...アッ} 接・3 単現・祈願(ab|laufen)v.i 進みますように 「動詞句」
 alles ^{アルス} pron すべてが 「主語」
 gut ^{グート} adv. うまく 「副詞」

ZWEITER TEIL 第2部

für mich フュア・ミッヒ adv. 僕にとって

「副詞句」

僕が彼に礼を言うと、彼は付け加えて言った：

Ich danke ihm, und er fügte hinzu:

「主語」「動詞」「間接目的語」,und「主語」「動詞句」

Ich イッヒ pron 僕は

「主語」

danke ダンケ 1 単過(danken)v.i(j-3 に) 礼を言った

「動詞」

ihm, イム pron.3 格 彼に

「間接目的語」

und ウント conj. そして

er エア pron 彼は

「主語」

fügte hinzu: フュクテ...ヒンツァ 3 単過(hinzu | fügen)v.t 付け加えた

「動詞句」

「私たちはあなたの事件をかなり派手に報道しました。夏は新聞にとって記事の無い時期
 なんです。あなたの事件と父親殺しだけが、ある程度興味を引きそうだったのです」

«Wir haben Ihren Fall ziemlich groß aufgemacht. Der Sommer ist für die Zeitungen die
 Sauregurkenzeit. Nur Ihr Fall und der des Vtermörders sind halbwegs interessant.»

《「主語」「動詞句」「目的語」「副詞句」「動詞句」

「主語」「動詞」「補語」 | 「主語」「動詞」「補語」》

«Wir ウィア pron 私たちは

「主語」

haben ...aufgemacht. ハーベン...アウフゲマハ 1 複現・完了形(auf | machen)

v.t (文書を) 作成した

「動詞句」

Ihren Fall イレン・ファル n.m.4 格 あなたの事件を

「目的語」

ziemlich groß ツィーリヒ・グロース adv. かなり派手に、かなり大きく

「副詞句」

Der Sommer デア・ゾマー n.m 夏は

「主語」

ist イスト 3 単現(sein)v.i ~である

「動詞」

für die Zeitungen フュア・デー・ツァイトウンゲン adv. 新聞にとって

「副詞句」

die Sauregurkenzeit. デー・ザ イレゲルケンツァイト n.f.1 格 夏枯れ時

「補語」

→ 活気のない時期

Nur ヌア adv. ~だけ

「副詞」

Ihr Fall イア・ファル n.m あなたの事件は

「主語」

und ウント conj. そして

der デア pron(Fall の代用) 事件は

「主語」

des Vtermörders デス・ファーターメルダー n.m.2 格 父親殺しの

「形容詞句」

sind シント 3 複現(sein)v.i ~である

「動詞」

halbwegs ハルプ・ヴェークス adv. いくらか、ある程度

「副詞」

interessant.» インテレサント adj. 興味を引く

「補語」

ZWEITER TEIL 第2部

それから彼は、今離れてきた 1 団の中から、太ったイタチみたいな小柄な男を僕に指し示した。

Dann zeigte er mir in der Gruppe, die er verlassen hatte, einen kleinen Mann, der wie ein fettes Wiesel aussah.

「副詞」「動詞」「主語」「間接目的語」「副詞句」「直接目的語」

Dann ダン adv. それから 「副詞」
 zeigte ツァイクテ 3 単過(zeigen)v.t 指し示した 「動詞」
 er エア pron 彼は 「主語」
 mir ミーア pron.3 格 僕に 「間接目的語」
 in der Gruppe, イン・デア・グルッペ° adv. 1 団の中から 「副詞句」
 die デーイー pron.(Gruppe の代用) (目的語) ～する 「形容詞節」
 er エア pron 彼が 「主語」
 verlassen hatte, フェアラッセン・ハッテ 3 単過・完了形(verlassen)
 v.t 離れた 「動詞句」
 einen kleinen Mann, アイン・クライネン・マン n.m 小柄な男を 「直接目的語」
 der デア pron (主語) ～する 「形容詞節」
 wie ヴァー adv. ～のように 「副詞」
 ein fettes Wiesel アイン・フェッテス・ヴァーゼル
 n.n.1 格 太ったイタチ 「補語」
 aussah. アウス・ザー 3 単過・時制の一致(aus|sehen)
 v.i 見える 「動詞句」

彼は黒縁の大きな眼鏡を掛けていた。彼は、記者が言った、パリのある新聞社の特派員だ。

Er trug eine große schwarze Hornbrille. Der, sagte er, sei der Sonderberichterstatter einer Pariser Zeitung.

「主語」「動詞」「目的語」 | 「主語」, 「動詞」「主語」, 「動詞」「補語」

Er エア pron 彼は 「主語」
 trug トクルーク 3 単過(tragen)v.t 身につけていた 「動詞」
 eine große schwarze アイン・グロセ・シュヴァルツェ
 adj(schwarz).f.4 格 黒い大きな 「形容詞句」
 Hornbrille. ホン・ブリレ n.f.4 格 角縁の眼鏡を 「目的語」
 Der, デア pron 彼は、あれは 「主語」
 sagte サークテ 3 単過(sagen)v.t 言った 「動詞」
 er, エア pron 彼が (記者) 「主語」
 sei サイ接・3 単現(sein)v.i ～である 「動詞」

ZWEITER TEIL 第2部

der Sonderberichterstatte^{テア・ゾンター・ベリヒターシュタター} n.m.1 格 特派員 「補語」
 sinder^{ゾンター} 特別の...

einer Pariser Zeitung. ^{アイナー・パリゼ・ツァイトング} n.f.2 格 パリの新聞社の 「形容詞句」

「ところで、彼はあなたの件で来たのではありません。彼は父親殺しについて報告することになっていますが、その時にあなたの件も書いてくれと頼まれたのです」

«Ihretwegen ist er übrigens nicht gekommen. Er soll über den Vatermörder berichten, und da hat man ihn gebeten, gleich auch über Ihre Sache zu schreiben.»

《「副詞」「動詞句」「主語」「副詞句」「動詞句」

「主語」「動詞句」「間接目的語」「動詞句」、

und 「副詞」「動詞句」「主語」「間接目的語」「動詞句」》

«Ihretwegen ^{イーレットヴェーゲン} adv. あなたのために 「副詞」

ist ...nicht gekommen. ^{イスト...ニヒト・ゲコメン} 3 単現・完了形・否定(kommen)

v.i 来なかった 「動詞句」

er ^{エア} pron 彼は 「主語」

übrigens ^{ユーブリゲンス} adv. ところで 「副詞」

Er ^{エア} pron 彼は 「主語」

soll ...berichten, ^{ゾル...ベリヒテン} 3 単現・必要(sollen+不定詞 berichten)

v.t 報告しなければならない 「動詞句」

über den Vatermörder ^{ユーバー・デレン・ファーターメルデル} adv. 父親殺しについて 「間接目的語」

und ^{ウント} conj. そして

da ^{ダー} adv. その時 「副詞」

hat ...gebeten, ^{ハット...ゲベーテン} 3 単現・完了形(bitten)v.t 頼んだ 「動詞句」

受動態に翻訳する

man ^{マン} pron 人は 「主語」

ihn ^{イン} pron 彼に 「間接目的語」

gleich auch über ^{グライヒ・アウフ・ユーバー} adv. ～についても同様に 「副詞句」

Ihre Sache ^{イーレ・ザッ} n.f あなたの事件 「目的語」

zu schreiben.» ^{ツー・シュライベン} zu 不定詞 v.t 書く 「動詞句」

僕はまた彼に礼を言いそうになった。しかし、それは馬鹿げていると思って止めた。

Beinahe hätte ich ihm wieder gedankt. Aber ich dachte, daß das wohl lächerlich wäre.

「副詞」「動詞句」「主語」「間接目的語」「副詞」「動詞句」

Aber 「主語」「動詞」「目的語」

Beinahe ^{バイナーエ} adv. ほとんど 「副詞」

hätte ...gedankt. ^{ヘッテ...ゲダント} 接 II・1 単現・完了形・寸前(danken)v.i 礼を言った 「動詞句」

ZWEITER TEIL 第2部

ich イッヒ pron 僕は	「主語」
ihm イム pron.3 格 彼に	「間接目的語」
wieder ヲイーダー adv. 再び	「副詞」
Aber アーバー conj. しかし	
ich イッヒ pron 僕は	「主語」
dachte, ダハテ 1 単過(denken)v.t 考えた	「動詞」
daß ダス conj. ～ということを	「目的語」
das ダス pron それは	「主語」
wohl lächerlich ヲール・レヒャーリヒ adj. まったくおかしい	「補語」
wäre. ヲェーレ 接 II・3 単現・推量(sein)v.i ～だろう	「動詞」

彼は僕に手を振って挨拶して、僕達のもとを離れた。僕たちはさらに数分待った。

Er winkte mir herzlich zu und verließ uns. Wir warteten noch ein paar Minuten.

「主語」「動詞句」「間接目的語」「副詞」「動詞句」 und 「動詞」「目的語」
「主語」「動詞」「副詞句」

Er エア pron 彼は	「主語」
winkte ...zu ヲインクテ...ツァー 3 単過(zu winken)v.i(j-3 に) (手を振って) 挨拶した	「動詞句」
mir ミア pron.3 格 僕に	「間接目的語」
herzlich ヘアツリヒ adv. 心から	「副詞」
und ウント conj. そして	
verließ フェアリース 3 単過(verlassen)v.t (j-4 のもとを) 離れた	「動詞」
uns. ウンス pron.pl 私たちから	「目的語」
Wir ヲイーア pron.pl 僕たちは	「主語」
warteten ヲアルテテン 1 複過(warten)v.i 待った	「動詞」
noch ein paar Minuten. ノッホ・アイン・パール・ミヌーテン adv. さらに数分	「副詞句」

それから、僕の弁護士が法服を着て、大勢の同僚に囲まれてやって来た。

Dann kam mein Anwalt, in Robe, von vielen Kollegen umgeben.

「副詞」「動詞」「主語」「副詞句」

Dann ダン adv. それから	「副詞」
kam カム 3 単過(kommen)v.i やって来た	「動詞」
mein Anwalt, マイン・アンウァルト n.m 僕の弁護士が	「主語」
in Robe, イン・ローベ adv. (様態) 法服を着て	「副詞句」
von vielen Kollegen フォン・フィレン・コレーゲン adv. (動作主) 沢山の同僚に	「副詞句」
umgeben. ヲムゲーベン 過去分詞(umgeben)・受動 adv. (様態) 囲まれて	「副詞句」

ZWEITER TEIL 第2部

彼は記者たちの方へ向かって行き、握手を求めた。

Er ging auf die Journalisten zu und reichte ihnen die Hand.

「主語」「動詞句」「間接目的語」「動詞句」und「動詞」「間接目的語」「直接目的語」
 Er エア pron 彼は 「主語」
 ging ...zu キング ...ツ 3 単過(zu | gehen)v.i(auf j-4 人-4 の方に) 向かって行った 「動詞句」
 auf die Journalisten アウフ・デー・ジュールナリステン adv. 記者たちの方へ 「間接目的語」
 und ウント conj. そして
 reichte ライヒテ 3 単過(reichen)v.t(j-3 et-4 人-3 に何-4 を) 差し出した 「動詞」
 ihnen イーネン pron.3 格 彼らに 「間接目的語」
 die Hand. デー・ハント n.f.4 格 手を 「直接目的語」

彼らは法廷内でベルが鳴るまで、冗談を言ったり、笑ったりして快適に過ごしていた。

Sie scherzten, lachten und schienen sich sehr wohl zu fühlen, bis die Klingel im Zuhörerraum rasselte.

「主語」「動詞句」, 「副詞節」
 Sie ジー pron.pl 彼らは 「主語」
 scherzten, シェルツテン 3 複過(scherzen)v.i 冗談を言った 「動詞」
 lachten ラヘン 3 複過(lachen)v.i 笑った 「動詞」
 und ウント conj. そして
 schienen シーネン 3 複過(scheinen)v.i(+zu 不定句 ~であるように) 見えた 「動詞句」
 sich sehr wohl zu fühlen, スィットヒ・セーア・ヴァーホル・ツー・フューレン zu 不定句(sich-4 fühlen+ wohl)
 v.pr とても快適に感じている 「動詞句」
 bis ビス conj. ~するまで 「副詞節」
 die Klingel デー・クリンゲル n.f ベルが 「主語」
 im Zuhörerraum イム・ツアーヘーアウラム adv. 法廷内で 「副詞句」
 rasselte. ラッセルテ 3 単過・時制の一致(rasseln)v.i 音を立てる 「動詞」

みんな自分の席に戻った。

Jeder begab sich auf seinen Platz.

「主語」「動詞句」「間接目的語」
 Jeder イェダー pron おのおのが、みんなは 「主語」
 begab sich ベカープ・スィットヒ 3 単過(sich-4 begeben)v.pr(auf に) 行った 「動詞句」
 auf seinen Platz. アウフ・ザイネン・プラッツ adv. 自分の席に 「間接目的語」

ZWEITER TEIL 第2部

弁護士が僕の所へやって来て、握手をして、僕に助言した。聞かれた質問には簡潔に答え、自発的な言動は行わず、それ以外は全て彼に任せるようにということだ。

Mein Anwalt kam zu mir, drückte mir die Hand und riet mir, die an mich gerichteten Fragen kurz zu beantworten, keinerlei Initiative zu ergreifen und alles andere ihm zu überlassen.

「主語」「動詞」「間接目的語」, 「動詞」「間接目的語」「直接目的語」

und 「動詞」「間接目的語」「直接目的語」

Mein Anwalt	マイン・アンスワルト n.m	僕の弁護士が	「主語」
kam	カム 3 単過(kommen)v.i	やって来た	「動詞」
zu mir,	ツー・ミーア adv.	僕のところへ	「間接目的語」
drückte	ドリュクテ 3 単過(drücken)v.t	握り締めた	「動詞」
mir	ミーア pron.3 格	僕の	「間接目的語」
die Hand	デー・ハント n.f.4 格	手を	「直接目的語」
und	ウント conj.	そして	
riet	リート 3 単過(raten)v.t	助言した	「動詞」
mir,	ミーア pron.3 格	僕に	「間接目的語」
zu	不定句 n.	～することを	「直接目的語」
die an mich gerichteten Fragen	デー・アン・ミヒ・ゲリヒテテン・フラーゲン		
pl(Frage).	n.f.4 格	僕に向けられた質問に	「目的語」
kurz	クルツ adv.	手短に	「副詞」
zu beantworten,	ツー・ベアントゥェアテン zu 不定詞 v.t	答える	「動詞句」
keinerlei Initiative	カイアーライ・イニツィアティーヴェ		
n.f	どんな主導権も～ない		「目的語」
zu ergreifen	ツー・エアグライフェン zu 不定詞 v.t	つかむ、とる	「動詞句」
und	ウント conj.	そして	
alles andere	アレス・アンデレ pron.4 格	それ以外は全て	「直接目的語」
ihm	イム pron.3 格	彼に	「間接目的語」
zu überlassen.	ツー・ユーバーラッセン zu 不定詞 v.t	任せる	「動詞句」

僕の左側で椅子の動く音が聞こえ、赤い法服を着た背が高く痩せた男が見えた。

Links von mir hörte ich das Rücken eines Stuhles, und ich sah einen großen, hageren Mann in roter Robe.

「副詞句」「動詞」「主語」「目的語」, und 「主語」「動詞」「目的語」「副詞句」

Links von mir	リンクス・フォン・ミーア adv.	僕の左側で	「副詞句」
hörte	ヘアテ 1 単過(hören)v.t	聞こえた	「動詞」
ich	イチ pron	僕は	「主語」

ZWEITER TEIL 第2部

das Rücken ダス・リュッケン n.n.4 格(rücken を中性名詞化) 動く音を 「目的語」
 もし「Rücken リュッケン n.m.4 格 椅子の背もたれ」ならば、den Rücken のはずである
 eines Stuhles, アイネス・シュトゥーレス n.m.2 格 椅子の 「形容詞句」
 und ウント conj. そして
 ich イヒ pron 僕は 「主語」
 sah ザー 1 単過(sehen)v.t 見えた 「動詞」
 einen großen, hageren Mann アイネス・グーローゼン・ハーゲレン・マン
 n.m.4 格 背が高く痩せた男が 「目的語」
 in roter Robe. イン・ローター・ローベ adv. (様態) 赤い法服を着た 「副詞句」

彼は鼻眼鏡をかけていた。法服の折り目が乱れないように気を付けて座った。

Er trug einen Kneifer und legte beim Niedersitzen sorgfältig die Falten seiner Robe zurecht.

「主語」「動詞」「目的語」 und 「動詞」「副詞句」「副詞」「目的語」「補語」
 Er エア pron 彼は 「主語」
 trug トルク 3 単過(tragen)v.t 身につけていた 「動詞」
 einen Kneifer アイネス・クナイフェ n.m 鼻眼鏡を 「目的語」
 und ウント conj. そして
 legte レークテ 3 単過(legen)v.t 折りたたんだ 「動詞」
 beim バイム prep (同時) ～しながら 「副詞句」
 Niedersitzen ニーダー・ジッツェン n.n(Niedersetzen) 着席 「目的語」
 sorgfältig ソアクフェアティヒ adv. 入念に 「副詞」
 die Falten デー・イー・ラルテン pl(Falte).n.f 折り目を 「目的語」
 seiner Robe ザー・イナー・ローベ n.f.2 格 法服の 「形容詞句」
 zurecht. ツレヒト adj. 正しく 「補語」

それが検事だった。廷吏が裁判官の入廷を告げた。

Es war der Staatsanwalt. Ein Gerichtsdienner meldete den Gerichtshof.

「主語」「動詞」「補語」 | 「主語」「動詞」「目的語」
 Es エス pron それが 「主語」
 war ヴァール 3 単過(sein)v.i ～ だった 「動詞」
 der Staatsanwalt. デア・シュターツァンワルト n.m.1 格 検事 「補語」
 Ein Gerichtsdienner アイン・ゲリヒツデーナー n.m 廷吏が 「主語」
 meldete メルデテ 3 単過(melden)v.t 報告した、告げた 「動詞」
 den Gerichtshof. デン・ゲリヒツホフ n.m.4 格 全裁判官 (の入廷) を 「目的語」

ZWEITER TEIL 第2部

同時に、2 台の大型の扇風機がぶんぶん唸り始めた。

Im selben Augenblick begannen zwei große Ventilatoren zu summen.

「副詞句」「動詞句」「主語」「動詞句」

Im selben Augenblick イム・セルベン・アウゲンブリック adv. 同時に

「副詞句」

begannen ...zu summen. ベガネン...ツェ・ズーメン 3 複過・開始(beginnen zu+不定詞 summen)

v.i ぶんぶん唸り始めた

「動詞句」

zwei große Ventilatoren ツヴァイ・グロセ・ヴェンチラトレン

pl(Ventilator).n.m 2 台の大型の扇風機が

「主語」

3 人の裁判官 (2 人は黒服で、1 人は赤服) が書類を抱えて入廷し、足早に法廷を見下ろす裁判官席に進んだ。

Drei Richter, zwei in Schwarz, einer in Rot, betraten, Akten im Arm, den Saal und gingen rasch auf das Podium, das den Raum beherrschte.

「主語」, (「主語」「副詞句」, 「主語」「副詞句」), 「動詞」「副詞句」「目的語」

und 「動詞」「副詞」「間接目的語」

Drei Richter, ドライ・リヒター n.m 3 人の裁判官が

「主語」

zwei ツヴァイ pron 2 人は

「主語」

in Schwarz, イン・シュヴァルツ adv. (様態) 黒服を着た

「副詞句」

einer アイナー pron 一人は

「主語」

in Rot, イン・ロート adv. (様態) 赤服を着た

「副詞句」

betraten, ベトラーテン 3 複過(betreteten)v.t(et-4 に) 入った

「動詞」

Akten アクテン pl(Akte).n.f 書類を

「目的語」

im Arm, イム・アルム adv. (様態) 手に

「副詞句」

den Saal デン・サール n.m.4 格 法廷に

「目的語」

und ウント conj. そして

gingen キンゲン 3 複過(gehen)v.i 進んだ

「動詞」

rasch ラッシュ adv. 足早に

「副詞」

auf das Podium, アウフ・ダース・ポディウム adv. 裁判官席へ

「間接目的語」

das ダース pron (主語) ~する

「形容詞節」

den Raum デン・ラウム n.m.4 格 部屋を

「目的語」

beherrschte. ベヘアシュテ 3 単過(beherrschen)v.t 見下ろす

「動詞」

ZWEITER TEIL 第2部

赤服の男は真ん中の椅子に座り、自分の前にツバ無し帽を置き、小さな禿げた頭をハンカチで拭いてから、開廷を宣言した。

Der Mann in der roten Robe setzte sich auf den mittleren Sessel, legte sein Barett vor sich, wischte sich mit einem Taschentuch über den kleinen, kahlen Schädel und erklärte die Sitzung für eröffnet.

「主語」「動詞句」「副詞句」, 「動詞」「目的語」「副詞句」,
「動詞句」「副詞句」「間接目的語」 und 「動詞」「目的語」「補語」

Der Mann デア・マン n.m 男は 「主語」
in der roten Robe イン・デア・ローテン・ローベ adv. (様態) 赤服を着た 「副詞句」
setzte sich セッツテ・スィツヒ 3 単過(sich-4 setzen)v.pr 座った 「動詞句」
auf den mittleren Sessel, アウフ・テン・ミッテルン・ゼッセル adv. 真ん中の椅子に 「副詞句」
legte レークテ 3 単過(legen)v.t 置いた 「動詞」
sein Barett ザイン・バレット n.n.4 格 ツバ無し帽を 「目的語」
vor sich, フォア・スィツヒ adv. 自分の前に 「副詞句」
wischte sich ヴィシュテ・スィツヒ 3 単過(sich-4 wischen)v.t 拭いた 「動詞句」
mit einem Taschentuch ミット・アイネム・タッシェントウフ adv. (手段) ハンカチで 「副詞句」
über den kleinen, kahlen Schädel ユーバー・テン・クライネン・カーレン・シェーデル
adv. 小さな禿げた頭を 「間接目的語」
und ウント conj. そして
erklärte エアクレアテ 3 単過(erklären)v.t 宣言した 「動詞」
die Sitzung デー・イー・スィツツング n.f.4 格 公判を 「目的語」
für フュア prep (理由) 〜のことで 「補語」
eröffnet. エアエフネット 過去分詞(eröffnen)・受動 adv. 始められた 「副詞」

記者たちはすでに万年筆を取り出していた。

Die Journalisten hatten schon die Füllhalter gezückt.

「主語」「動詞句」「副詞」「目的語」「動詞句」

Die Journalisten デー・イー・ジョアリステン pl(Journalist).n.m 記者たちは 「主語」
hatten ... gezückt. ハッテン...ゲツクト 3 単過・完了形(zücken)v.t 取り出していた 「動詞句」
schon ショーン adv. すでに、もう 「副詞」
die Füllhalter デー・イー・フルhalter pl(Füllhalter).n.m.4 格 万年筆を 「目的語」

ZWEITER TEIL 第2部

彼らはみな、同様に退屈そうでどこか見下すような表情をしていた。

Sie machten alle das gleiche gelangweilte, etwas hochnäsige Gesicht.

「主語」「動詞」「主語」「目的語」

Sie ジー pron.pl 彼らは

「主語」

machten マヘン 3 複過(machen)v.t (様子を) していた

「動詞」

alle アル pron みな

「主語」

das gleiche gelangweilte, ダス・グライヒェ・ゲランゲウァイルテ

adj. 同じ退屈した

「形容詞句」

etwas hochnäsige エトワース・ホーホネジゲ adj. どこか見下すような

「形容詞句」

Gesicht. ゲジヒト n.n.4 格 顔を、表情を

「目的語」

一人だけが、(他の記者よりもかなり若くて、グレーのフランネルのスーツを着て青いネクタイをした)、万年筆をテーブルの上に置いたままにして、僕を見つめていた。

Nur einer, der viel jünger war als die anderen und einen grauen Flanellanzug und eine blaue Krawatte trug, hatte seinen Halter auf dem Tisch liegen lassen und sah mich an.

「主語」, (「主語」「補語」「動詞」「副詞句」 und 「目的語」「動詞」),

「動詞句」「目的語」「副詞句」「動詞句」 und 「動詞句」「目的語」「動詞句」

Nur einer, ヌア・アイナー pron 一人だけが

「主語」

der デア pron 彼は

「主語」

viel jünger フィール・ユンガー adj. かなり若い

「補語」

war ヴァール 3 単過(sein)v.i ~ だった

「動詞」

als die anderen アルス・デー・アンデレン aadv. (比較) 他の人よりも

「副詞句」

und ウント conj. そして

einen grauen Flanellanzug アイネン・グラウエン・フランネルアンツーク

n.m.4 格 グレーのフランネルのスーツを

「目的語」

und ウント conj. そして

eine blaue Krawatte アイネ・ブラウエ・クラウァッテ n.f.4 格 青いネクタイを

「目的語」

trug, トルク 3 単過(tragen)v.t 身につけた

「動詞」

hatte ...liegen lassen ハッテ...リーゲン・ハッテ 3 単過・完了形・放任(lassen+不定詞 liegen)

v.t 横たわったままにした

「動詞句」

seinen Halter サイネン・ハルター n.m.4 格 万年筆を

「目的語」

auf dem Tisch アウフ・デッセン・ティッシュ adv. テーブルの上に

「副詞句」

und ウント conj. そして

sah ...an. サー...アン 3 単過(an|sehen)v.t 見つめていた

「動詞句」

mich ミット pron.4 格 僕を

「目的語」

ZWEITER TEIL 第2部

彼の少しいびつな顔の中には、特に明確な感情を表わすことなく注意深く僕を見つめる非常に澄んだ2つの目だけが見えた。

In seinem etwas unregelmäßigen Gesicht sah ich nur zwei sehr helle Augen, die mich aufmerksam musterten, ohne etwas Bestimmtes zu verraten.

「副詞句」「動詞」「主語」「目的語」

In イン prep (空間的) 〜の中に

「副詞句」

seinem etwas unregelmäßigen サ イネム・エトワ^ス・ウンレーゲルメーシゲン

adj. 彼の少しいびつな

「形容詞句」

Gesicht ゲジヒト n.n.3 格 顔

「目的語」

sah サー 1 単過(sehen)v.t 見えた

「動詞」

ich イヒ pron 僕は

「主語」

nur zwei sehr helle ヌア・ツワ^{アイ}・セーア・ヘレ

adj. 非常に澄んだ2つの〜だけ

「形容詞句」

Augen, アウゲン pl(Auge)n.n.4 格 目

「目的語」

die デー pron.pl (主語) 〜する

「形容詞節」

mich ミヒ pron.4 格 僕を

「目的語」

aufmerksam アウフマクザーム adv. 注意深く

「副詞」

musterten, ムステアテン 3 複過(mustern)v.t 見つめていた

「動詞」

ohne ...zu verraten. オネ...ツァー・フェアレーテン adv. 表わさずに

「副詞句」

etwas Bestimmtes エトワ^ス・ベシユティムテス

pron 何か明確なことを

「目的語」

まるで自分自身に見つめられているような奇妙な印象を抱いた。

Ich hatte den seltsamen Eindruck, als würde ich von mir selbst gemustert.

「主語」「動詞」「目的語」「副詞節」

Ich イヒ pron 僕は

「主語」

hatte ハッテ 1 単過(haben)v.t 持った

「動詞」

den seltsamen デン・セルトザーメン adj.m.4 格 奇妙な

「形容詞句」

Eindruck, アイントルック n.m.4 格 印象を

「目的語」

als アル conj. 〜のような

「副詞節」

würde ...gemustert. ウルデ...ゲムスタート 1 単過・受動・時制の一致(mustern)

v.t じろじろ見られている

「動詞句」

ich イヒ pron 僕が

「主語」

von mir selbst フォン・ミーア・ゼルプ スト adv. (動作主) 自分自身に

「副詞句」

ZWEITER TEIL 第2部

もしかするとそのせいなのか、それともすべてが僕にとって未知だったせいなのか、その後
に起こった全てのことが理解できなかった。陪審員のくじ引きや、弁護士や検事や陪審
員への裁判長の質問（その度に陪審員の顔が同時に裁判官席の方へ向けられた）や、聞き
覚えのある地名や人名が出て来る起訴状の早口の朗読や、さらに僕の弁護士への質問など。

Deswegen vielleicht und weil mir alles so fremd war, verstand ich nicht alles, was dann geschah, die Verlosung der Geschworenen, die Fragen des Vorsitzenden an den Anwalt, an den Staatsanwalt und an die Geschworenen (jedesmal wandten die Köpfe der Geschworenen sich gleichzeitig dem Gerichtshof zu), die schnelle Vorlesung der Anklageschrift, bei der ich bekannte Orts- und Personennamen hörte, und wieder Fragen an meinen Anwalt.

「副詞句」 und 「副詞節」, 「動詞句」「主語」「動詞句」「目的語」,

「目的語」, 「目的語」(「副詞」「動詞句」「主語」「動詞句」「副詞句」「動詞句」),

「目的語」, und 「副詞」「目的語」

Deswegen vielleicht テスガェゲン・フライヒト adv. もしかするとそのせいで 「副詞句」

und ウント conj. そして

weil ウェイル conj. (理由) ~なので 「副詞節」

mir ミア pron.3 格 僕にとって 「間接目的語」

alles アレス pron 全てが 「主語」

so fremd ザー・フレムト adj. とても未知の 「補語」

war, ウェアル 3 単過(sein)v.i ~ だった 「動詞」

verstand ...nicht フェアシュタント...ニヒト 1 単過・否定(verstehen)v.t 理解できなかった 「動詞句」

ich イヒ pron 僕は 「主語」

alles, アレス pron 何一つもない 「目的語」

was ウェアス pron (主語) ~する 「形容詞節」

dann ダン adv. その後に 「副詞」

geschah, ゲシャ 3 単過 (geschehen)v.i 起こった 「動詞」

die Verlosung der Geschworenen, デー・フェアロズング・デア・ゲシュウーレネン

n.f 陪審員のくじ引きを 「目的語」

die Fragen デー・フラーゲン pl(Frage).n.f.4 格 質問を 「目的語」

des Vorsitzenden テス・フォーアス イツェンデテン n.m.2 格 裁判長から 「形容詞句」

an den Anwalt, アン・テン・アンウァルト adv. 弁護士へ 「副詞句」

an den Staatsanwalt アン・テン・スターツアンウァルト adv. 検事へ 「副詞句」

und ウント conj. そして

an die Geschworenen アン・デー・ゲシュウーレネン adv. 陪審員へ 「副詞句」

(jedesmal イェーテスマル adv. (jedes Mal) その度に 「副詞」

wandten ...sich ...zu), ウェアンテン...スィヒ...ツ 3 複過(sich-4 zu | wenden)

ZWEITER TEIL 第2部

v.pr 向きを変えた	「動詞句」
die Köpfe ティー・ケフ フェ pl(Kopf).n.m 頭が	「主語」
der Geschworenen テア・ゲシュウレネン pl(Geschworen).n.2 格 陪審員の	「形容詞句」
gleichzeitig グライツァイティヒ adv. 同時に	「副詞」
dem Gerichtshof テーム・ゲリヒツホーフ adv. 裁判官へ、裁判官席のほうへ	「副詞句」
die schnelle Vorlesung ティー・シュネル・フォアレスング n.f.4 格 早口の朗読	「目的語」
der Anklageschrift, テア・アンクラーゲシュリヒト n.f.2 格 起訴状の	「形容詞句」
bei der バイ・デア adv. その中で～する	「形容詞節」
ich イヒ pron 僕は	「主語」
bekannte Orts- und Personennamen ベカンテ・オアツ・ウント・ペルゾーネンナメン pl.n.4 格 既知の地名を人名を	「目的語」
hörte, ヘアテ 1 単過(hören)v.t 聞いた	「動詞」
und ウント conj. そして	
wieder ウィーダー adv. さらに、また	「副詞」
Fragen フラーゲン pl(Frage).n.f.4 格 質問を	「目的語」
an meinen Anwalt. アン・マイネム・アンワルト adv. 僕の弁護士への	「副詞句」

それから裁判長は、これから証人の呼名を行うと言った。

Dann sagte der Vorsitzende, er wolle nun die Zeugen aufrufen.

「副詞」「動詞」「主語」, 「主語」「動詞句」「副詞」「目的語」「動詞句」	
Dann ダン adv. それから	「副詞」
sagte サークテ 3 単過(sagen)v.t 言った	「動詞」
der Vorsitzende, テア・フォアズィツエンテ n.m 裁判長が	「主語」
er エア pron 彼は	「主語」
wolle ...aufrufen. ウォレ...アウフルフェン 接・3 単現・願望・意思(wollen+不定詞 auf rufen) v.t (名前を) 呼ぶつもりだ	「動詞句」
nun ヌン adv. いまや、これから	「副詞」
die Zeugen ティー・ツォイゲン pl(Zeuge).n.m.4 格 証人を	「目的語」

廷吏が僕の注意を引いた名前を読み上げた。

Der Gerichtsdienner verlas Namen, die meine Aufmerksamkeit erregten.

「主語」「動詞」「目的語」	
Der Gerichtsdienner テア・ゲリヒツディエナー n.m 廷吏が	「主語」
verlas フェラス 3 単過(verlesen)v.t 読み上げた	「動詞」
Namen, ナメン pl(Name).n.m.4 格 名前を	「目的語」
die ティー pron.pl(主語) ～する	「形容詞節」

ZWEITER TEIL 第2部

meine Aufmerksamkeit マイネ・アウフメアクザームカイト

n.f.4 格 僕の注意を

「目的語」

erregten. エアレークテン 3 複過(erregen)v.t 引き付けた

「動詞」

まだ形がない傍聴人の一団のなかから、老人ホームの院長と門衛、トーマス・ペレーズ老人、レーモン、マゾン、さらまのとしてマリーが順に立ち上がり、脇の扉から消えていくのが見えた。

Aus dem eben noch Gestaltlosen dieses Publikums sah ich sie nacheinander aufstehen und durch die Seitentür verschwinden: den Direktor und den Pfortner des Altersheims, den alten Thomas Perez, Raymond, Masson, Salamano, Maria.

「副詞句」「動詞」「主語」「目的語」「補語」 und 「補語」: 「目的語」

Aus アウス prep 〜から

「副詞句」

dem eben noch Gestaltlosen デーム・エーベノ・ノッホ・ゲシュタルトローゼン

pron.3 格 まだ形が無い一団

「目的語」

dieses Publikums ディーゼス・プブリクムス n.n.2 格 その傍聴人の「形容詞句」

sah ザー 1 単過(sehen)v.t 見えた

「動詞」

ich イッヒ pron 僕は

「主語」

sie ジー pron.pl 彼らを (den Direktor 以降)

「目的語」

nacheinander ナーハイツンダー adv. 順に

「副詞」

aufstehen アウフシュテーエン 不定詞・sie の動作 v.i 立ち上がる

「補語」

und ウント conj. そして

durch ドゥルヒ prep 〜を通して

「副詞句」

die Seitentür ディー・ザイテントアー n.f.4 格 脇の扉

「目的語」

verschwinden: フェアシュウ インデッ 不定詞・sie の動作 v.i 消えていく

「補語」

den Direktor und den Pfortner デン・ディレクトール・ウント・デン・プフェルトナー

n.m.4 格 院長と門衛を

「目的語」

des Altersheims, デス・アルターシャ임ス n.n.2 格 老人ホームの

「形容詞句」

den alten Thomas Perez, デンアルテン・トーマス・ペレス

n.m.4 格 トーマス・ペレーズ老人を

「目的語」

Raymond, ライモン n.m.4 格 レーモンを

「目的語」

Masson, マソン n.m.4 格 マソンを

「目的語」

Salamano, サラマノ n.m.4 格 サラマノを

「目的語」

Maria, マリア n.f.4 格 マリーを

「目的語」

ZWEITER TEIL 第2部

マリーは僕に不安そうに小さな仕草を見せた。

Sie machte mir ein kleines, angstvolles Zeichen.

「主語」「動詞」「間接目的語」「直接目的語」

Sie ジー pron (Maria の代用) マリーは

「主語」

machte マヘ 3 単過(machen)v.t (動作を) した

「動詞」

mir ミーア pron.3 格 僕に

「間接目的語」

ein kleines, angstvolles アイン・クライネス・アンシュトゥェオス

adj.n.4 格 不安そうに小さな

「形容詞句」

Zeichen. ツァイヘン n.n.4 格 仕草を

「直接目的語」

最後の証人セレステが名前を呼ばれて立ち上がった時、僕はもっと早く彼ら全員に気が付かなかったことにまだ驚いていた。

Ich wunderte mich noch, sie alle nicht früher gesehen zu haben, als sich der letzte Zeuge beim Aufruf seines Namens erhob - Celeste.

「主語」「動詞句」「副詞」「目的語」, 「副詞節」

Ich イッヒ pron 僕は

「主語」

wunderte mich ウンデアテ・ミッヒ 1 単過(sich-4 wundern)

v.pr 驚いた、不思議に思った

「動詞句」

noch, ノッホ adv. まだ

「副詞」

zu 不定句 n. ～という事を

「目的語」

sie alle ジー・アレ pron 彼ら全員を

「目的語」

nicht früher gesehen zu haben, ニヒト・フリュアー・ゲゼーエン・ツー・ハベン zu 不定句・否定

v.t もっと早く気付かなかった

「動詞句」

als アルス conj. ～する時

「副詞節」

sich ...erhob スィッヒ...エアホフ 3 単過(sich-4 erheben)v.pr 立ち上がった

「動詞句」

der letzte Zeuge デア・レッツテ・ツォイゲ n.m 最後の証人が

「主語」

beim Aufruf バイム・アウフルフ adv. 呼名によって

「副詞句」

seines Namens - Celeste. サイネス・ナメンス・セステ

n.m.4 格 彼の名前セレステを

「目的語」

彼の隣に、ジャケットを着て明らかに決然とした顔をしたレストランにいた小柄な女が見えた。

Neben ihm erkannte ich die kleine Frau aus dem Restaurant, mit ihrem Jackett und dem klaren und entschlossenen Gesicht.

「副詞句」「動詞」「主語」「目的語」

Neben ihm ネーベン adv. 彼の隣に

「副詞句」

ZWEITER TEIL 第2部

erkannte エカント 1 単過(erkennen)v.t 認識した、見えた 「動詞」
 ich イヒ pron 僕は 「主語」
 die kleine Frau デー・クライネ・フラウ n.f 小柄な女を 「目的語」
 aus dem Restaurant, アウス・デー・ム・レストランテ adv. レストランにいた 「副詞句」
 mit ミット prep (様態) ～を着た 「副詞句」
 ihrem Jackett イー・レム・ジャケット n.n.3 格 ジャケット 「目的語」
 und ウント conj. そして
 dem klaren und entschlossenen デー・ム・クラレン・ウント・エントシュロッセネン adj.n.3 格 明らかに決然とし
 た 「形容詞句」
 Gesicht. ゲジヒト n.n.3 格 顔 「目的語」

彼女は興味深そうにじっと僕を見つめていた。しかし、裁判長が発言したので、そのことを考える時間は無かった。

Sie sah mich gespannt an. Aber ich hatte keine Zeit, darüber nachzudenken, denn der Vorsitzende ergriff das Wort.

「主語」「動詞句」「目的語」「副詞」「動詞句」
 Aber 「主語」「動詞」「目的語」, 「副詞節」
 Sie シー pron(kleine Frau の代用) 彼女は 「主語」
 sah ...an. ザー...アン 3 単過(an|sehen)v.t じっと見つめていた 「動詞句」
 mich ミヒ pron.4 格 僕を 「目的語」
 gespannt ゲシュパント adv. 期待を込めて 「副詞」
 Aber アーバー conj. しかし
 ich イヒ pron 僕は 「主語」
 hatte ハッテ 1 単過(haben)v.t ～があった 「動詞」
 keine Zeit, カイネ・ツァイト n.f.4 格 時間が～ない 「目的語」
 darüber nachzudenken, ダリューバー・ナーハ・ツァー・デッケン
 adv. それについて考える 「副詞句」
 denn デン conj. というのは 「副詞節」
 der Vorsitzende デア・フォーアジツツェンデ n.m 裁判長が 「主語」
 ergriff das Wort. エアグリフ・ダス・ウァート 3 単過(das Wort ergreifen)
 v.t 発言した 「動詞句」

ZWEITER TEIL 第2部

裁判長は、これから実際の審理が始まるが、傍聴人に静粛を求める必要はないものと信じていると述べた。

Er sagte, die eigentliche Verhandlung beginne jetzt und er halte es für unnötig, das Publikum zur Ruhe zu ermahnen.

「主語」「動詞」「目的語」 und 「主語」「動詞」「補語」「目的語」

Er エア pron (Vorsitzende の代用) 彼は

「主語」

sagte, ザーゲ 3 単過(sagen)v.t 言った

「動詞」

n. ～ということを

「目的語」

die eigentliche Verhandlung デー・アイゲントリッヒェ・フェアハントルンク

n.f 実際の審理が

「主語」

beginne ベギネ 接・3 単現(beginnen)v.i 始まる

「動詞」

jetzt イェツト adv. これから、今から

「副詞」

und ウント conj. そして

er エア pron 彼は

「主語」

halte ハルテ 接・3 単現(halten)v.t(et-4 es für...) ～であると思っている

「動詞」

es エス pron 仮の目的語 (真の目的語は das Publikum 以降)

für unnötig, フュ 7-ア・ウンネーティヒ adj. 不必要な

「補語」

das Publikum ダス・プブリクム n.m.4 格 傍聴人に～することは

「目的語」

zur Ruhe ツー・ルーエ adv. 静粛を

「補語」

zu ermahnen. ツー・エマーネン zu 不定詞 v.t 求める

「動詞句」

彼は十分な客観性をもって考察したい事件の取り扱いを公平に指揮するためにそこに居るのである。

Er sei dazu da, unparteiisch die Behandlung eines Falles zu leiten, den er mit aller Objektivität betrachten wolle.

「主語」「動詞」「副詞句」

Er エア pron 彼は

「主語」

sei サイ 接・3 単現・存在(sein)v.i ～にいる

「動詞」

dazu da, ダツ・ダー adv. そのためにそこに

「副詞句」

unparteiisch ウンパルタイイッシュ zu 不定句 adv. 公平に～するために

「副詞句」

die Behandlung デー・ヘハントルンク n.f.4 格 取扱を

「目的語」

eines Falles アイネス・ファレス n.m.2 格 事件の

「形容詞句」

zu leiten, ツー・ライテン zu 不定詞 v.t 指揮する

「動詞句」

den デン pron (目的語) ～する

「形容詞節」

er エア pron 彼は

「主語」

mit aller Objektivität ミット・アラー・オブジェクティヴィエーテ

ZWEITER TEIL 第2部

adv. 十分な客観性をもって 「副詞句」
 betrachten wolle. ベトラハテン・ヴォレ 接・3 単現・願望(wollen+不定詞 betrachten)
 v.t 考察したい 「動詞句」

陪審による判決は正義の精神に基づいて下されるものである。そして、傍聴人は些細な事でも退廷を命じられるであろう。

Das von den Geschworenen gefällte Urteil werde im Sinne der Gerechtigkeit fällen, und er werde bei dem geringsten Vorkommnis den Saal räumen lassen.

「主語」「動詞句」「副詞句」,und 「主語」「動詞句」「副詞句」「目的語」「動詞句」
 Das von den Geschworenen gefällte ダス・フォン・テン・ゲシュウ・オレネン・ゲフェルテ
 adj.n.1 格 陪審によって下された 「形容詞句」
 Urteil ウァタイル n.n 判決は 「主語」
 werde ...fällen, ヴェアテ...フェレン 接・3 単現・受動(werden+不定詞 fällen)
 v.t(判定を) 下されるだろう 「動詞句」
 im Sinne イム・ジン adv. 精神で 「副詞句」
 der Gerechtigkeit テア・ゲレヒティカイト n.f.2 格 正義の 「形容詞句」
 und ウント conj. そして
 er エア pron (Publikum の代用) 傍聴人は 「主語」
 werde ...räumen lassen. ヴェアテ...ロイメン・ラッセン 接・3 単未・使役
 (werden+不定詞・使役 lassen+不定詞 räumen)v.t 出されるだろう 「動詞句」
 bei dem geringsten Vorkommnis バイ・デー・ム・ゲリクストン・フォアコムニス
 adv. (条件) 些細な事でも 「副詞句」
 den Saal テン・サール n.m.4 格 法廷を 「目的語」

暑さはますます激しくなっていた。法廷内の傍聴人が新聞紙で扇いでいるのが見えた。

Die Hitze wurde immer ärger, und ich sah, wie sich die Zuhörer im Saal mit Zeitungen Luft zufächelten.

「主語」「動詞」「補語」,und 「主語」「動詞」「目的語」
 Die Hitze ディー・ヒツェ n.f 暑さが 「主語」
 wurde ヴルデ 3 単過・変化(werden)v.i 〜になった 「動詞」
 immer ärger, イマー・エルガー adj. ますますひどい 「補語」
 und ウント conj. そして
 ich イヒ pron 僕は 「主語」
 sah, サー 1 単過(sehen)v.t 見えた 「動詞」
 wie ヴィ conj. (知覚動詞の後で) 〜するさまを 「目的語」
 sich... zufächelten. スィヒ...ツーフェシエルテン 3 複過・時制の一致(sich-4 fächeln)

ZWEITER TEIL 第2部

v.pr 自分をあおぐ	「動詞句」
die Zuhörer デー・イー・ツェー・ハー・ラー pl(Zuhörer).n.m 傍聴人が	「主語」
im Saal イム・ザール adv. 法廷内の	「副詞句」
mit Zeitungen ミット・ツァイトゥンゲン adv. (手段) 新聞紙で	「副詞句」
Luft ルフト n.f.4 格 空気を	「目的語」

それが、新聞が折れ曲がる時に絶え間なく物音を発生していた。

Das verursachte dauernd ein Geräusch, als würde Papier zerknittert.

	「主語」「動詞」「副詞」「目的語」, 「副詞節」
Das ダス pron それ	「主語」
verursachte フェアウザハテ 3 単過(verursachen)v.t 引き起こしていた	「動詞」
dauernd ダウアーント adv. 絶え間なく	「副詞」
ein Geräusch, アイン・ゲ・ロイシュ n.n.4 格 物音を	「目的語」
als アルス conj. ～する時に	「副詞節」
würde ...zerknittert. ウェルテ ...ツェアクニッター 接 II・3 単現・受動(werden+過去分詞 zerknittern)	
v.t くしゃくしゃにされる	「動詞句」
Papier ハピアー n.n 新聞紙が	「主語」

裁判長が合図をすると、廷吏が藁で編んだうちわを 3 個持ってきた。それを 3 人の裁判官はすぐに使った。

Der Vorsitzende gab ein Zeichen, und der Gerichtsdienner brachte drei strohgeflochtene Fächer, deren sich die drei Richter sofort bedienten.

	「主語」「動詞」「目的語」, und
	「主語」「動詞」「目的語」, 「目的語」「動詞句」「主語」「副詞」「動詞句」
Der Vorsitzende デア・フォアジツェンテ n.m 裁判長が	「主語」
gab ガーブ 3 単過(geben)v.t 与えた	「動詞」
ein Zeichen, アイン・ツァイヘン n.n.4 格 合図を	「目的語」
und ウント conj. そして	
der Gerichtsdienner デア・ゲリヒツディナー n.m 廷吏が	「主語」
brachte ブラハテ 3 単過(bringen)v.t 持ってきた	「動詞」
drei strohgeflochtene Fächer, ドライ・シュトローク・フロフテネ・フェシェ	
pl(Fächer).n.m.4 格 藁で編んだうちわ 3 個を	「目的語」
deren デレン pron.pl.4 格 それを	「目的語」
sich ...bedienten. ズィヒ...ベディエン 3 複過(sich-4 bedienen)v.pr 使った	「動詞句」
die drei Richter デー・ドライ・リヒター pl(Richter).n.m 3 人の裁判官は	「主語」
sofort ソフォルト adv. すぐに	「副詞」

ZWEITER TEIL 第2部

その直後に僕の尋問が始まった。裁判長が僕に穏やかに質問したが、僕には確かな温かみのあるように思われた。

Gleich darauf begann mein Verhör. Der Vorsitzende fragte mich in aller Ruhe und, wie mir schien, mit einer gewissen Herzlichkeit.

「副詞句」「動詞」「主語」 | 「主語」「動詞」「間接目的語」「副詞句」 und,
「副詞」「間接目的語」「動詞」「補語」

Gleich darauf グライヒ・ダラウフ adv. その直後に 「副詞句」
begannt ベガント 3 単過(gegnen)v.i 始まった 「動詞」
mein Verhör. マイン・フェアヘア n.n 僕の尋問が 「主語」
Der Vorsitzende デア・フォアジツェンデ n.m 裁判長が 「主語」
fragte フラクテ 3 単過(fragen)v.t(j-4 に) 尋ねた 「動詞」
mich ミヒ pron.4 格 僕に 「間接目的語」
in aller Ruhe イン・アラールエ adv. 穏やかに 「副詞句」
und, ウント conj. そして
wie ヴァー conj. ~のように 「副詞」
mir ミーア pron.3 格 僕には 「間接目的語」
schien, シーン 3 単過(scheinen)v.i ~に思われた 「動詞」
mit einer gewissen Herzlichkeit. ミット・アイナー・ゲウイッセン・ヘアツリヒカイト
adv. 確かな温かみのある 「補語」

またしても、僕は名前や住所を述べさせられた。それで腹が立ったが、僕は考えた。それはまったく当たり前なのだ、もし違う人が有罪の判決を受けたら恐ろしいことになるから。

Wieder mußte ich meine Personalien herleiern, und trotz meines Ärgers dachte ich, daß das im Grunde ganz natürlich sei, denn es wäre doch furchtbar wenn ein Falscher verurteilt würde.

「副詞」「動詞句」「主語」「目的語」「動詞句」, und
「副詞句」「動詞」「主語」「目的語」, 「副詞節」

Wieder ヴァーダー adv. またもや 「副詞」
mußte ... herleiern, ムステ...ヘアライエルン 1 単過・必要(müssen+不定詞 her|leiern)
v.t 述べなければなかった 「動詞句」
ich イヒ pron 僕は 「主語」
meine Personalien マイン・ペルソナリエン pl(Personalie).n.f 自分の名前や住所を 「目的語」
und ウント conj. そして
trotz トロツ prep (2 格と) ~にもかかわらず 「副詞句」
meines Ärgers マインス・エアガース n.m.2 格 僕の立腹 「目的語」

ZWEITER TEIL 第2部

dachte ダハテ 1 単過(denken)v.t 考えた	「動詞」
ich, イヒ pron 僕は	「主語」
daß ダス conj. ～ということを	「目的語」
das ダス pron それは	「主語」
im Grunde イム・グルンデ adv. 基本的に	「副詞句」
ganz natürlich ガンツ・ナチュアリヒ adj. まったく当たり前の	「補語」
sei, サイ 接・3 単現(sein)v.i ～である	「動詞」
denn デン conj. なぜならば	「副詞節」
es エス pron それは	「主語」
wäre ヴェーレ 接 II・3 単現・変化・推量(sein)v.i ～になるだろう	「動詞」
doch furchtbar ドッホフルヒトバール adj. 恐ろしいこと	「補語」
wenn ウェン conj. (仮定) ～すると	「副詞節」
ein Falscher アイン・ファルシャー n.n.4 格 間違えた人が	「主語」
verurteilt würde. フェアウルタイルト・ヴェルテ 接 II・3 単現・受動(werden+過去分詞 ver urteilen)	
v.t 有罪の判決を下される	「動詞句」

それから裁判長は僕の犯行の経過を語り始め、段落ごとに僕に尋ねた。「これで間違いはありませんか？」

Dann begann der Vorsitzende den Hergang meiner Tat zu erzählen, wobei er mich nach jedem dritten Satz fragte: «Stimmt das?»

「副詞」「動詞句」「主語」「目的語」「動詞句」,

「副詞」「主語」「間接目的語」「副詞句」「動詞」:《「動詞」「主語」》

Dann ダン adv. それから 「副詞」

begann ...zu erzählen, ベガーン...ツァー・エツェーレン 3 単過・開始(beginnen zu+不定詞 erzählen)

v.t 語り始めた 「動詞句」

der Vorsitzende デア・フォアジツツェンデ n.m 裁判長は 「主語」

den Hergang デン・ヘアガンク n.m.4 格 経過を 「目的語」

meiner Tat マイナー・タート n.f.2 格 僕の犯行の 「形容詞句」

wobei ウォハイ adv. その時 「副詞」

er エア pron 彼は 「主語」

mich ミヒ pron.4 格 僕に 「間接目的語」

nach jedem dritten Satz ナーハ・イエーデム・ドリュッテン・ザッツ adv. 段落ごとに 「副詞句」

fragte: フラクテ 3 単過(fragen)v.t(j・4 に) 尋ねた 「動詞」

«Stimmt シュティムト 3 単現・疑問文(stimmen)v.i 合っていますか、本当ですか 「動詞」

das? ダス pron これは 「主語」

ZWEITER TEIL 第2部

僕はその度に、弁護士に勧められたように、「はい、その通りです。裁判長殿」と答えた。

Ich antwortete jedesmal: «Ja, Herr Präsident», wie es mein Anwalt empfohlen hatte.

「主語」「動詞」「副詞」:《「応答」》,「副詞節」

Ich イッヒ pron 僕は

「主語」

antwortete アントワァテ 1 単過(antworten)v.t 答えた

「動詞」

jedesmal: イェテスマル adv. その度に

「副詞」

«Ja, Herr Präsident», ヤー・ヘア・ヘ・レシデント adv. はい、その通りです。裁判長殿

「応答」

wie ワイ conj. ~のように

「副詞節」

es エス pron それを

「目的語」

mein Anwalt マイン・アンワルト n.m 僕の弁護士が

「主語」

empfohlen hatte. エンプ・フォーレン・ハッテ 3 単過・完了形(empfehlen)v.t 勧めた

「動詞句」

裁判長は事細かに話を進めたので、これは時間がかかった。

Das dauerte lange, weil der Vorsitzende peinlich genau vorging.

「主語」「動詞」「副詞」,「副詞節」

Das ダス pron これは

「主語」

dauerte ダウエルテ 3 単過(dauern)v.i 続いた

「動詞」

lange, ランゲ adv. 長く

「副詞」

weil ワイル conj. (理由) ~なので

「副詞節」

der Vorsitzende デア・フォアジツツェンデ n.m 裁判長は

「主語」

peinlich genau ペインリヒ・ゲナウ adv. 非常に詳細に

「副詞句」

vorging. フォア・ギンゲ 3 単過(vor|gehen)v.i 進んだ

「動詞句」

記者たちは全てを熱心に書き留めていた。僕はその中で一番若い記者の視線を感じていた。

Die Journalisten schrieben alles fleißig mit. Ich spürte die Blicke des jüngsten von ihnen.

「主語」「動詞句」「目的語」「副詞」「動詞句」 | 「主語」「動詞」「目的語」

Die Journalisten デー・ジャーナリステン pl(Journalist).n.m 記者たちは

「主語」

schrieben ...mit. シュリーベン...ミット 3 複過(mit|schreiben)v.t 書き留めた

「動詞句」

alles アレス pron.4 格 すべてを

「目的語」

fleißig フライシヒ adv. 熱心に

「副詞」

Ich イッヒ pron 僕は

「主語」

spürte シュピュルテ 1 単過(spüren)v.t 感じた

「動詞」

die Blicke デー・ブリッケ pl(Blick).n.m.4 格 視線を

「目的語」

des jüngsten デス・ユングステン adj. 最年少記者の

「形容詞句」

von ihnen. フォン・イネン adv. 彼らの中から

「副詞句」

ZWEITER TEIL 第2部

路面電車のベンチ全員が裁判長の方を向いた。

Die ganze Straßenbahnbank wandte sich dem Vorsitzenden zu.

「主語」「動詞句」「間接目的語」「動詞句」

Die ganze Straßenbahnbank ティー・ガンツ・シュトラセンバーン・バンク

n.f.(Straßenbahn+Bank) 路面電車のベンチ全員が

「主語」

wandte sich ...zu. ヴァンテ・ズィヒ...ツ 3 単過(sich-4 zu | wenden)

v.pr(j-3 の方を) 振り向いた

「動詞句」

dem Vorsitzenden テーム・フォーアジツツェンデ n.m.3 格 裁判長

「間接目的語」

裁判長は咳払いをし、書類をばらばらめくり、うちわを使った。それからまた僕の方へ向き直った。

Der hustete, blätterte in seinen Akten, fächelte sich Luft zu und wandte sich dann wieder an mich.

「主語」「動詞」, 「動詞」「間接目的語」,

「動詞句」「間接目的語」「直接目的語」「動詞句」 und 「動詞句」「副詞句」

Der デア pron(Vorsitzenden の代用) 彼は

「主語」

hustete, フステ 3 単過(husten)v.i 咳払いをした

「動詞」

blätterte ブレテ 3 単過(blättern)v.i(in et3 を) (本などを) ばらばらめくった

「動詞」

in seinen Akten, イン・ザイネン・アクテン adv. 彼の書類を

「間接目的語」

fächelte ...zu フェシェルテ...ツ 3 単過(zu | fächeln)

v.t(j-3 et-4 人-3 に何-4 を) あおいで送った

「動詞句」

sich スィヒ pron.3 格 自分に

「間接目的語」

Luft ルフト n.f.4 格 風を

「直接目的語」

und ウント conj. そして

wandte sich ヴァンテ・ズィヒ 3 単過(sich-4 wenden)v.pr 向きを変えた、向き直った 「動詞句」

dann wieder ダン・ウィーダー adv. それからまた

「副詞句」

an mich. アン・ミヒ adv. 僕の方へ

「副詞句」

彼は、どうもこの事件自体とは関係が無いようであるが、それでも全体的な判断のためには非常に重要ないくつかの質問をこれからしなければならない、と言った。

Er sagte, er müsse jetzt einige Fragen stellen, die anscheinend mit der Sache selbst nichts zu tun hätten, für die Gesamtbeurteilung aber doch sehr wichtig seien.

「主語」「動詞」, 「主語」「動詞句」「副詞」「目的語」「動詞句」, 「形容詞節」

Er エア pron 彼は

「主語」

sagte, サークテ 3 単過(sagen)v.t 言った

「動詞」

er エア pron 彼は

「主語」

ZWEITER TEIL 第2部

müsse ...stellen, ミステ...シュテルン 接 II・3 単現・必要(müssen+不定詞 stellen)

v.t (動作を) しなければならない 「動詞句」

jetzt イェツト adv. これから 「副詞」

einige Fragen アイニゲ・フラーゲン pl(Frage).n.f.4 格 いくつかの質問を 「目的語」

die デー pron (主語) ～する 「形容詞節」

anscheinend アンシャイネント adv. どうも～らしい 「副詞」

mit der Sache selbst ミット・デア・ザッハ・ゼルフ スト

adv. この事件自体と 「副詞句」

niichts ニヒツ pron 何も～ない 「目的語」

zu tun hätten, ツー・トゥン・ヘッテン 接 II・3 複現(zu tun haben)

v.t することがある 「動詞句」

für フュー prep (4 格と) ～のために 「副詞句」

die Gesamtbeurteilung デー・ゲザムト・ヘウルタイルング

n.f.4 格 全体的な判断 「目的語」

aber アーバー conj. しかし

doch ドツホ adv. でも 「副詞」

sehr wichtig ゼーア・ウーヒヒ adj. 非常に重要な 「補語」

seien. ザイエン 接・3 複現(sein)v.i ～である 「動詞」

彼が母さんのことを話そうとしていることはすぐに分かり、なんと不快なことかと感じた。

Ich wußte gleich, daß er von Mama sprechen würde, und fühlte, wie lästig mir das war.

「主語」「動詞」「副詞」「目的語」,und「動詞」「目的語」

Ich イヒ pron 僕は 「主語」

wußte ヴーステ 1 単過(wissen)v.t 分かった 「動詞」

gleich, グラヒ adj. すぐに 「副詞」

daß ダス conj. ～ということを 「目的語」

er エア pron 彼は 「主語」

von Mama フォン・ママ adv. 母さんについて 「間接目的語」

sprechen würde, シュプレヒェン・ウルデ 接 II・3 単現・意思・推量(werden+不定詞 sprechen)

v.i(von j-3 について) 話すつもりだろう 「動詞句」

und ウント conj. そして

fühlte, フュルテ 1 単過(fühlen)v.t 感じた 「動詞」

wie lästig ヴー・レステヒ adj. どれほど不快かということ 「目的語」

mir ミア pron.3 格 僕にとって 「間接目的語」

das ダス pron それは 「主語」

war. ヴァール 3 単過・時制の一致(sein)v.i ～である 「動詞」

ZWEITER TEIL 第2部

彼は僕に、どうして母さんを養老院へ入れたのかと尋ねた。僕は、母さんに看護婦をつけるだけの十分なお金がなかったからだと答えた。

Er fragte mich, weshalb ich Mama in das Heim gebracht habe. Ich antwortete, weil ich nicht genug Geld hatte, um eine Pflegerin für sie zu halten.

「主語」「動詞」「間接目的語」「直接目的語」 | 「主語」「動詞」「目的語」

Er	エア	pron	彼は		「主語」
fragte	フラクテ	3 単過(fragen)	v.t	尋ねた	「動詞」
mich,	ミヒ	pron.4 格	僕に		「間接目的語」
weshalb	ウェスハルプ	conj.	どうして～なのかということを		「直接目的語」
ich	イヒ	pron	僕は		「主語」
Mama	ママ	n.f.4 格	母さんを		「目的語」
in das Heim	イン・ダス・ハイム	adv.	養老院に		「副詞句」
gebracht habe.	ゲブラハト・ハーベ	1 単現・完了形(bringen)			
	v.t	連れてきた			「動詞句」
Ich	イヒ	pron	僕は		「主語」
antwortete,	アントウ・ォアテ	1 単過(antworten)	v.t(et-4 と)	答えた	「動詞」
weil	ウェアイル	conj.	～であるからと		「目的語」
ich	イヒ	pron	僕は		「主語」
nicht genug Geld	ニヒ・ゲヌク・ゲルト	n.n.4 格	十分な金が～ない		「目的語」
hatte,	ハッテ	1 単過(haben)	v.t	～があった	「動詞」
um ...zu halten.	ウム...ツ-・ハルテン	um tu	不定句・目的	adv.	あてがうために「副詞句」
eine Pflegerin	アイネ・プ・フレゲリン	n.f.4 格	看護婦を		「直接目的語」
für sie	フュ-ア・ジー	adv.	母さんに		「間接目的語」

彼は僕にそれは僕にとって辛い事だったかと尋ねた。それに対して僕は、もはや母さんも僕もお互いに、さらには他の誰も当てにしていない、そして二人ともそれぞれの新しい生活に馴染んでいると答えた。

Er fragte mich, ob mir das schwergefallen sei, worauf ich zur Antwort gab, daß Mama und ich nichts mehr voneinander oder von einem anderen erwarteten und daß wir beide uns an unser neues Leben gewöhnt hätten.

「主語」「動詞」「間接目的語」「直接目的語」,

「副詞」「間接目的語」「動詞」「直接目的語」und「直接目的語」

Er	エア	pron	彼は		「主語」
fragte	フラクテ	3 単過(fragen)	v.t	尋ねた	「動詞」
mich,	ミヒ	pron.4 格	僕に		「間接目的語」

ZWEITER TEIL 第2部

ob オッフ conj. へかどうかということ	「直接目的語」
mir ミア pron.3 格 僕にとって	「間接目的語」
das ダス pron それは	「主語」
schwergefallen シュヴァー・ゲ・ファレン adj. 辛い	「補語」
sei, サイ 接・3 単現・推量(sein)v.i へなのだろう	「動詞」
worauf ヴォラウフ adv. それに対して	「副詞」
ich イヒ pron 僕は	「主語」
zur Antwort ツー・アントゥー・アト adv. 返事を	「間接目的語」
gab, ガー・ブ 1 単過(geben)v.t 答えた	「動詞」
daß ダス conj. へということ	「直接目的語」
Mama und ich ママ・ウント・イヒ pron 母さんも僕も	「主語」
nichts mehr ニヒツ・メア adv. もはやへない	「副詞句」
voneinander フォン・アイン・アンダー adv. お互いを	「間接目的語」
oder オーダー conj. または、あるいは	
von einem anderen フォン・アイネ・アンデレン adv. 他の誰も	「間接目的語」
erwarteten エアヴァルテテン 1 複過・否定文(erwarten)	
v.t(von j-3 を) あてにしなかった	「動詞」
und ウント conj. そして	
daß ダス conj. へということ	「直接目的語」
wir beide ヴィー・ア・バイデ・ウンス pron.pl 母さんと僕は二人とも	「主語」
uns ...gewöhnt hätten. ゲウエント・ヘッテン 接 II・1 複現・完了形(sich-4 gewöhnen)	
v.t 馴染んだ	「動詞句」
an unser neues Leben アン・ウンザー・ノイエス・レーベン	
adv. それぞれの新しい生活に	「間接目的語」

それから裁判長は、その点にこだわるつもりは無いと言い、検事に僕に対する質問があるかと尋ねた。

Der Vorsitzende meinte dann, er wolle diesen Punkt fallenlassen, und fragte den Staatsanwalt, ob er Fragen an mich zu stellen habe.

「主語」「動詞」「副詞」, 「主語」「動詞句」「目的語」

und 「動詞」「間接目的語」「直接目的語」

Der Vorsitzende テア・フォアジツツェンテ n.m 裁判長は	「主語」
meinte マイnte 3 単過(meinen)v.t 言った	「動詞」
dann, ダン adv. それから、そして	「副詞」
er エア pron 彼は	「主語」
wolle ...fallenlassen, ヴォレ...ファレンラッセン 接・3 単現・意思(wollen+不定詞 fallenlassen)	

ZWEITER TEIL 第2部

v.t 放棄するつもりだ、特にこだわらない	「動詞句」
diesen Punkt ティーゼン・プンクト n.m.4 格 この点に	「目的語」
und ウント conj. そして	
fragte フラゲ 3 単過(fragen)v.t(j-4 に) 尋ねた	「動詞」
den Staatsanwalt, デン・シュターツァンワルト n.m.4 格 検事に	「間接目的語」
ob オップ conj. へかどうかを	「直接目的語」
er エア pron 彼は	「主語」
Fragen フラーゲン pl(Frage).n.f 質問を	「目的語」
an mich アン・ミヒ adv. 僕に対して	「副詞句」
zu stellen ツー・シュテルン 不定詞・目的 adj. 聞くべき 「形容詞句」	
habe. ハーベ 3 単現(haben)v.t へがある	「動詞」

検事は僕に背中を半分向け、僕を見ないで、裁判長の許可を得て、僕がアラブ人を殺すつもりで一人で泉に戻ったのかをぜひ知りたいと言った。

Der wandte mir halb den Rücken zu und, ohne mich anzusehen, erklärte er, mit Erlaubnis des Vorsitzenden möchte er gern wissen, ob ich in der Absicht, den Araber zu töten, allein zu der Quelle zurückgekehrt sei.

「主語」「動詞句」「間接目的語」「直接目的語」「動詞句」 und,	
「副詞句」, 「動詞」「主語」, 「副詞句」「動詞句」「主語」「動詞句」, 「目的語」	
Der デア pron(Staatsanwalt の代用) 彼は	「主語」
wandte ... zu ヴァンテ...ツ 3 単過(zu wenden)v.t(j-3 et-4 人-3 に何-4 を) 向けた 「動詞句」	
mir ミーア pron.3 格 僕に	「間接目的語」
halb den Rücken ハルブ・デン・リュッケン n.m.4 格 背中を半分	「直接目的語」
und, ウント conj. そして	
ohne mich anzusehen, オネ・ミヒ・アン・ツ・セーエン ohne zu 不定句 adv. 僕を見ないで 「副詞句」	
erklärte エクラエテ 3 単過(erkennen)v.t 言った	「動詞」
er, エア pron 彼は	「主語」
mit Erlaubnis ミット・エアラウブニス adv. 許可を得て	「副詞句」
des Vorsitzenden デス・フォーアジツェンデン n.m.2 格 裁判長の	「形容詞句」
möchte ...gern wissen, メヒテ...ゲアン・ウィッセン 3 単現・願望(möchte+不定詞 wissen+ gern)	
v.t ぜひ知りたい	「動詞句」
er エア pron 彼は	「主語」
ob オップ conj. へかどうかを	「目的語」
ich イヒ pron 僕は	「主語」
in der Absicht, イン・デア・アプツィヒト adv.(+zu 不定句) へするつもりで 「副詞句」	
den Araber デン・アーラー n.m アラブ人を	「目的語」

ZWEITER TEIL 第2部

zu töten, ツー・テェン zu 不定詞 v.t 殺す	「動詞句」
allein アイン adv. 一人で	「副詞」
zu der Quelle ツー・デア・クェレ adv. 泉に	「間接目的語」
zurückgekehrt sei. ツェック・ゲ・ケート・ザイ 接・3 単現・完了形(zurück kehren)	
v.i 戻った	「動詞句」

「違います」と、僕は答えた。「しかし、一体どうして武器をもってしかもよりによってそこに戻らなければならなかったのか？」

«Nein», antwortete ich. «Aber weshalb war er denn bewaffnet und warum mußte er ausgerechnet dorthin zurückkehren?»

《「応答」》, 「動詞」「主語」

《Aber 「副詞」「動詞」「主語」「副詞」「補語」

und 「副詞」「動詞句」「主語」「間接目的語」「動詞句」》

«Nein», ナイン adv. いいえ、違います	「応答」
antwortete アントヴェアテ 1 単過(antworten)v.i 答えた	「動詞」
ich. イヒ pron 僕は	「主語」
«Aber アーバー conj. しかし	
weshalb ヴェshallプ adv. どうして	「副詞」
war ヴァール 3 単過・疑問文(sein)v.i ~ だったのか?	「動詞」
er エア pron 彼は	「主語」
denn デン adv. いったい	「副詞」
bewaffnet ベヴァフネト adj. 武装した、武器を持った	「補語」
und ウント conj. そして	
warum ヴァルム adv. どうして	「副詞」
mußte ...zurückkehren?» ムステ...ツェックケレン 3 単過・必要・疑問文	
(müssen+不定詞 zurückkehren)v.i 戻らなければならなかったのか?	「動詞句」
er エア pron 彼は	「主語」
ausgerechnet dorthin アウスゲレヒネット・ドアヒン adv. よりによってそこに	「間接目的語」

それはまったくの偶然だと僕は答えた。

Ich antwortete, es sei der reinste Zufall gewesen.

「主語」「動詞」, 「主語」「動詞」「補語」

Ich イヒ pron 僕は	「主語」
antwortete, アントヴェアテ 1 単過(antworten)v.i 答えた	「動詞」
es エス pron それは	「主語」
sei ...gewesen. サイ 接・3 単現・完了形・推量・時制の一致(sein)v.i ~である	「動詞」

ZWEITER TEIL 第2部

der reinste デア・ラインステ adj(rein).(最上級) まったくの

「形容詞句」

Zufall ツーファル n.m.1 格 偶然

「補語」

怒った口調で検事は言った：「とりあえず、これがすべてです」それから、僕の感覚では全てがかなり混乱して進行した。

Mit bösem Unterton sagte der Staatsanwalt: «Das wäre vorläufig alles.» Dann ging alles ziemlich durcheinander, wenigstens für mein Gefühl.

「副詞句」「主語」「動詞」：《「主語」「動詞」「補語」》「副詞」「動詞」「主語」「副詞句」

Mit ミット prep (手段) ～によって

「副詞句」

bösem Unterton ベーゼム・ウントーン n.m.3 格 怒った口調

「目的語」

sagte サークテ 3 単過(sagen)v.t 言った

「動詞」

der Staatsanwalt: デア・シュターツァンワルト n.m 検事は

「主語」

«Das ダス pron それは

「主語」

wäre ヴェーレ 接 II・3 単現(sein)v.i ～である

「動詞」

vorläufig alles.» フォーロイフ・アレス adj. すべて暫定的な

「補語」

Dann ダン adv. それから

「副詞」

ging キング 3 単過(gehen)v.i 進行した

「動詞」

alles アレス pron 全てが

「主語」

ziemlich durcheinander, ツィームリッヒ・トールビヤインダー adv. かなり混乱して

「副詞句」

wenigstens ヴェーニヒステンズ adv. 少なくとも

「副詞」

für mein Gefühl. フェア・ミーア・ゲフュール adv. 僕の感覚では

「副詞句」

短い審議の後で、裁判長は公判を中断して午後まで休会して、それから証人尋問を行うと宣言した。

Nach kurzer Beratung erklärte der Vorsitzende die Verhandlung für unterbrochen und auf den Nachmittag vertagt; dann sollten die Zeugen vernommen werden.

「副詞句」「動詞」「主語」「目的語」

Nach ナハ prep ～の後で

「副詞句」

kurzer Beratung クルツァー・ベラートゥング n.f.3 格 短い審議

「目的語」

erklärte エアクレアテ 3 単過(erklären)v.t 説明した、宣言した

「動詞」

der Vorsitzende デア・フォアジツツェンデ n.m 裁判長は

「主語」

die Verhandlung デー・イー・フェアハントルング n.f.4 格 公判を

「目的語」

für unterbrochen フェア・ウンターブローヘン adv. (目的) 中断されるために

「副詞句」

und ウント conj. そして

auf den Nachmittag アウフ・デーン・ナーハミターク adv. 午後に

「副詞句」

vertagt; フェアタークト 過去分詞(vertagen)・受動・目的

ZWEITER TEIL 第2部

adv. 休会されるために 「副詞句」
dann ダン adv. それから 「副詞」
sollten ...vernommen werden. ソルテン...フェアノメンウァアテン 3 複過・義務・受動
(sollen+不定詞・受動 vernehmen)v.t 尋問されるべきだ 「動詞句」
die Zeugen デーイー・ツォイゲン pl(Zeuge).n.m 証人は 「主語」

僕には考えている時間は無かった。

Ich hatte keine Zeit zum Überlegen.

「主語」「動詞」「目的語」
Ich イッヒ pron 僕は 「主語」
hatte ハッテ 1 単過(haben)v.t 〜があった 「動詞」
keine Zeit カイネ・ツァイト n.f.4 格 時間が〜ない 「目的語」
zum Überlegen. ツム・ユーバーレーゲン adv. (目的) 考慮のために 「副詞句」

僕は連行され、護送車で刑務所に連れて行かれた、そこで食事をした。

Man führte mich ab, brachte mich in den Wagen und ins Gefängnis, wo ich zu essen bekam.

「主語」「動詞句」「目的語」「動詞句」, 「動詞」「目的語」「副詞句」 und 「間接目的語」,
「主語」「動詞句」
Man マン pron 人は 「主語」
受動態に翻訳する
führte ... ab, フュールテ...アッブ 3 単過(ab|führen)v.t 連れ去った 「動詞句」
mich ミッヒ pron.4 格 僕を 「目的語」
brachte ブラハテ 3 単過(bringen)v.t 連れて行った 「動詞」
mich ミッヒ pron.4 格 僕を 「目的語」
in den Wagen イン・デン・ヴァーゲン adv. 護送車にのせて 「副詞句」
und ウント conj. そして
ins Gefängnis, イン・ゲフエンギニス adv. 刑務所に 「間接目的語」
wo ヴォー adv. そこで 「副詞」
ich イッヒ pron 僕は 「主語」
zu essen bekam. ツー・エッセン・ヘカム 1 単過・可能(zu 不定詞 bekommen)
v.i 食べられるようになった 「動詞句」

ZWEITER TEIL 第2部

その直後―僕はひどく疲れていることに気付いた―僕はまた連れて行かれた；すべてが改めて始まった、そして同じ法廷で同じ顔ぶれに向き合っている自分に気が付いた。

Kurz darauf - ich war mir gerade klar darüber geworden, daß ich sehr abgespannt war - holte man mich wieder ab; alles fing von neuem an, und ich sah mich in demselben Saal, denselben Gesichtern gegenüber.

「副詞句」, 「主語」「動詞句」「補語」「目的語」

「動詞句」「主語」「目的語」「副詞」「動詞句」;

「主語」「動詞句」「副詞句」「動詞句」 und 「主語」「動詞」「目的語」「副詞句」

Kurz darauf クルツ・ダラウフ adv. その直後 「副詞句」
 ich イヒ pron 僕は 「主語」
 war ...geworden, ヲアル...ゲウオアデ 3 単過・完了形・変化(werden)v.i 〜になった 「動詞句」
 mir ミア pron.3 格 僕にとって 「間接目的語」
 gerade klar ゲラーテ・クラール adj. 明らかな 「補語」
 darüber ダリュバー adv. それについて 「副詞句」
 daß ダス conj. 〜ということを 「目的語」
 ich イヒ pron 僕は 「主語」
 sehr abgespannt セーア・アッパゲシュパント adj. 非常に疲れた 「補語」
 war ヲアル 1 単過(sein)v.i 〜だった 「動詞」
 - holte ...ab; ホルテ...アッパ 3 単過(ab|holen)v.t 連れに來た 「動詞句」
 man マン pron 人は 「主語」
 受動態に翻訳する
 mich ミヒ pron.4 格 僕を 「目的語」
 wieder ヲイダー adv. また、再び 「副詞」
 alles アレス pron 全てが 「主語」
 fing ...an, フィング...アン 3 単過(an|fangen)v.i 始まった 「動詞句」
 von neuem フォン・ノイム adv. 初めから、改めて 「副詞句」
 und ウント conj. そして
 ich イヒ pron 僕は 「主語」
 sah ザー 1 単過(sehen)v.t 見えた 「動詞」
 mich ミヒ pron.4 格 僕を 「目的語」
 in demselben Saal, イン・デームセルベン・ザール adv. 同じ法廷に 「副詞句」
 denselben Gesichtern デンセルベン・ゲズィヒターン
 pl(Gesicht).n.n.3 格 同じ顔ぶれ 「目的語」
 gegenüber. ゲーゲンユーバー prep (3 格と ; しばしば後置) と向かい合って 「副詞句」

ZWEITER TEIL 第2部

ただ暑さはさらに激しかった。そしてまるで奇跡のように、陪審員、僕の弁護士さらに何人かの記者たちも麦藁のうちわを持っていた。

Nur war die Hitze viel größer, und wie durch ein Wunder hatten die Geschworenen, mein Anwalt und einige Journalisten ebenfalls Strohfächer.

「副詞」「動詞」「主語」「補語」,und「副詞句」「動詞」「主語」「目的語」

Nur ヌア adv. ただ 「副詞」
 war ヲアール 3 単過(sein)v.i ~ だった 「動詞」
 die Hitze デーイー・ヒッツェ n.f 暑さは 「主語」
 viel größer, フィール・グレーサー adj. もっと激しい 「補語」
 und ウント conj. そして
 wie durch ein Wunder ヲイー・ドゥアルヒ・アイン・ウンター adv. まるで奇跡のように 「副詞句」
 hatten ハッテン 3 複過(haben)v.t ~を持っていた 「動詞」
 die Geschworenen, デーイー・ゲシュウオーレネン pl(Geschworene).n.m 陪審員たちは 「主語」
 mein Anwalt マイン・アンヴァルト n.m 僕の弁護士 「主語」
 und ウント conj. そして
 einige Journalisten アイニゲ・ジュルナリステン pl(Journalist).n.m 何人かの記者たち 「主語」
 ebenfalls エーベンファルス adv. 同様に 「副詞」
 Strohfächer. シュトロフエシェ pl(Strohfächer).n.m 麦藁のうちわを 「目的語」

若い記者と小柄な女はまだそこに居た。しかし彼らは弱いでいなかった。彼らはまた僕を見つめたが、何も言わなかった。

Der junge Journalist und die kleine Frau waren immer noch da. Aber sie fächelten sich keine Luft zu. Sie sahen mich wieder an und redeten kein Wort.

「主語」「動詞句」「目的語」「動詞句」

「主語」「動詞句」「目的語」「副詞」「動詞句」und「動詞」「目的語」

Der junge Journalist デア・ユンゲ・ジュルナリスト n.m 若い記者は 「主語」
 und ウント conj. そして
 die kleine Frau デーイー・クライネ・フラウ n.f 小柄な女は 「主語」
 waren ヲアレ 3 複過・存在(sein)v.i ~ にいた 「動詞」
 immer noch da. イマー・ノッホ・ダー adv. まだそこに 「副詞句」
 Aber アーバー conj. しかし
 sie ジー pron.pl 彼らは 「主語」
 fächelten sich ...zu. フェシェルテン・ズィツヒ...ツァー 3 単過(sich-4 zu | fächeln)
 v.pr 自分に~を送っていた 「動詞句」
 keine Luft カイネ・ルト n.f 空気を~ない 「目的語」
 Sie ジー pron.pl 彼らは 「主語」

ZWEITER TEIL 第2部

sahen ...an サ-エン...アン 3 複過(an sehen)v.t 見つめた	「動詞句」
mich ミッ pron.4 格 僕を	「目的語」
wieder ヲ-イター adv. また	「副詞」
und ウント conj. そして	
redeten レ-デテン 3 複過(reden)v.i 話した	「動詞」
kein Wort. カイン・ウ-ォト n.n.4 格 言葉を～ない	「目的語」

僕は顔の汗を拭い、老人ホームの院長が呼ばれるのを聞いて、この場所を認識して、改めて我に返った。

Ich wischte mir den Schweiß vom Gesicht und wurde mir des Orts und meiner selbst erst wieder bewußt, als ich hörte, daß der Direktor des Altersheims aufgerufen wurde.

「主語」「動詞」「間接目的語」「直接目的語」

und 「動詞」「間接目的語」und 「補語」, 「副詞節」

Ich イッヒ pron 僕は	「主語」
wischte ヲ-ィシュテ 1 単過(wischen)v.t 拭った	「動詞」
mir ミーア pron.3 格 僕の	「間接目的語」
den Schweiß テン・シュウ-ァイス n.m.4 格 汗を	「直接目的語」
vom Gesicht フォム・ゲジヒト adv. (所属) 顔の	「副詞句」
und ウント conj. そして	
wurde ウ-ルテ 1 単過・変化(werden)v.i ～になった	「動詞」
mir ミーア pron.3 格 僕に	「間接目的語」
des Orts テス・オ-ツ n.m.2 格 場所の	「形容詞句」
und ウント conj. そして	
meiner selbst マイナ-・ゼ-ルプ-スト pron 僕自身	「補語」
erst wieder エ-アスト・ウ-イター adv. 改めて	「副詞句」
bewußt, ベ-ウ-スト adj. 意識した、自覚した	「形容詞」
als アルス conj. ～した時に	「副詞節」
ich イッヒ pron 僕が	「主語」
hörte, ヘ-アテ 1 単過(hören)v.t 聞いた	「動詞」
daß ダ-ス conj. ～ということを	「目的語」
der Direktor テ-ア・テ-イレクトール n.m 院長が	「主語」
des Altersheims テス・アルター-スハイムス n.n.2 格 老人ホームの	「形容詞句」
aufgerufen wurde. アウスゲ-ル-フェン・ウ-ルテ 3 単過・受動(aufrufen) v.t 呼ばれた	「動詞句」

ZWEITER TEIL 第2部

母さんは僕のことについて愚痴をこぼしていたかと、院長は尋ねられた。

Man fragte ihn, ob Mama sich über mich beklagt hätte.

「主語」「動詞」「間接目的語」「直接目的語」

Man マン pron 人は

「主語」

受動態に翻訳する

fragte フラクテ 3 単過(fragen)v.t(j-4 に) 尋ねた

「動詞」

ihn, イーン pron.4 格 (Direktor の代用) 院長に

「間接目的語」

ob オップ conj. ～かどうかを

「直接目的語」

Mama ママ n.f 母さんは

「主語」

sich ...beklagt hätte. スィット...ベクラクト・ヘッテ 接 II・3 単現・完了形(sich-4 beklagen)

v.pr 愚痴をこぼしていた

「動詞句」

über mich ユーバー・ミット adv. (対象) 僕について

「副詞句」

彼は「はい」と答えたが、入寮者というものはいつでも自分の身内について愚痴をこぼすものだと言った。

Das bejahte er, aber er fügte hinzu, daß seine Pensionäre sich immer über ihre Angehörigen beklagten.

「目的語」「動詞」「主語」, aber 「主語」「動詞句」「目的語」

Das ダス pron.4 格 それに

「目的語」

bejahte ベヤーテ 3 単過(bejahen)v.t(et-4 に対して) 肯定的に答えた

「動詞」

er, エア pron 彼は

「主語」

aber アーバー conj. しかし

er エア pron 彼は

「主語」

fügte hinzu, フュクテ・ヒンツ 3 単過(hinzu | fügen)v.t 付け加えた

「動詞句」

daß ダス conj. ～ということを

「目的語」

seine Pensionäre サイネ・ペンジォネーレ pl(Pensionär).n.m 入寮者たちは

「主語」

sich ...beklagten. スィット...ベクラクテン 3 複過・時制の一致(sich-4 beklagen)

v.pr 愚痴をこぼす

「動詞句」

immer イマー adv. いつでも

「副詞」

über ihre Angehörigen ユーバー・イーレ・アンゲヘーリゲン

adv. 自分の身内について

「副詞句」

ZWEITER TEIL 第2部

裁判長は、僕が養老院へ入れたことで母さんは僕を責めていたかと尋ねたが、院長はまた「はい」と答えた。

Der Vorsitzende wollte Genaueres wissen, ob sie mir einen Vorwurf daraus gemacht habe, daß ich sie ins Heim gebracht hatte, was der Direktor wieder bejahte.

「主語」「動詞句」「目的語」「動詞句」, 「目的語」「主語」「副詞」「動詞」

Der Vorsitzende デア・フォーアジツェンテ n.m 裁判長は 「主語」

wollte ...wissen, ヴォルテ...ヴィッセン 3 単過・願望(wollen+不定詞 wissen)

v.t 知りたがった、尋ねた 「動詞句」

Genaueres ゲナウエレス pl.n.n4 格(形容詞 genau の名詞化) 詳細を 「目的語」

ob オフ conj. へかどうか 「目的語」

sie シー pron(Mama の代用) 母さんは 「主語」

mir ミア pron.3 格 「間接目的語」

einen Vorwurf アイネン・フォーアウルフ n.m 非難を、叱責を 「直接目的語」

daraus ダラウス adv. (内容は daß 以降) そのことで 「副詞」

gemacht habe, ゲマハト・ハーベ 3 単現・完了形(machen)v.t へをした 「動詞句」

daß ダス conj. (同格) へという 「形容詞節」

ich イヒ pron 僕が 「主語」

sie シー pron(Mama の代用) 母さんを 「目的語」

ins Heim インス・ハイム adv. 養老院へ 「副詞句」

gebracht hatte, ゲブラハト・ハッテ 1 単過・完了形(bringen)

v.t 入れた 「動詞句」

was ヴァス pron.4 格 それを 「目的語」

der Direktor デア・ディレクトール n.m 院長は 「主語」

wieder ヴィーダー adv. また 「副詞」

bejahte. ベヤーテ 3 単過(bejahen)v.t はいと答えた。 「動詞」

しかし今回は何も付け加えなかった。別の質問に対して、葬式の日 of 僕の冷静さに驚いたと答えた。

Aber diesmal fügte er nichts hinzu. Auf eine andere Frage antwortete er, meine Ruhe am Begräbnistag habe ihn überrascht.

Aber 「副詞」「動詞句」「主語」「目的語」「動詞句」

「副詞句」「動詞」「主語」, 「主語」「動詞句」「目的語」「動詞句」

Aber アーバー conj. しかし

diesmal ディースマル adv. 今回は 「副詞」

fügte ...hinzu. フュクテ...ヒンツ 3 単過(hinzu|fügen)v.t 付け加えた 「動詞句」

er エア pron 彼は 「主語」

ZWEITER TEIL 第2部

nichts ニヒツ pron 何も～ない	「目的語」
Auf eine andere Frage アウフ・アイネ・アンデレ・フラーゲ adv. 別の質問に際して	「副詞句」
antwortete アントワテ オアテテ 3 単過(antworten)v.t 答えた	「動詞」
er, エア pron 彼は	「主語」
meine Ruhe マイネ・ルーエ n.f 僕の落ち着きは、冷静さ	「主語」
am Begräbnistag アム・ベグレプニスターク adv. (時間的) 葬式の日における	「副詞句」
habe ...überrascht. ハーベ ...ユーバーラシュト 1 単現・完了形(überraschen)v.t 驚かせた	「動詞句」
ihn イン pron.4 格 彼を	「目的語」

彼は何を持って冷静だと思ったのかと尋ねられた。

Man fragte ihn, was er unter «Ruhe» verstehe.

	「主語」「動詞」「間接目的語」「直接目的語」
Man マン pron 人は	「主語」
受動態に翻訳する	
fragte フラケテ 3 単過(fragen)v.t(j-4 に) 質問した	「動詞」
ihn, イン pron.4 格 彼に	「間接目的語」
was ヴァス pron 何が～するということ	「直接目的語」
er エア pron 彼は	「主語」
unter «Ruhe» ウンター・ルーエ adv. (状態) 冷静な	「補語」
verstehe. フェアシュテーエ 接・3 単現(verstehen)v.t ～だと思う	「動詞」

院長は靴の先端を見つめてから、言った。僕はただの一度も母さんに会いたがらず、葬儀の後には墓前に留まる敬虔な態度を示さず、すぐに立ち去ったと。

Der Direktor betrachtete darauf seine Stiefelspitzen und sagte, ich hätte Mama nicht noch einmal sehen wollen und sei gleich nach der Beerdigung weggegangen, ohne andächtig am Grab zu verweilen.

	「主語」「動詞」「間接目的語」 und 「動詞」,
	「主語」「動詞句」「目的語」「動詞句」「副詞句」「動詞句」 und
	「動詞句」「副詞句」「動詞句」, 「副詞句」
Der Direktor デア・ディレクトール n.m 院長は	「主語」
betrachtete ベトラハテテ 3 単過(betrachten)v.t 見つめた	「動詞」
darauf seine Stiefelspitzen ダラウフ・ザイネ・シュティーフェル・シュピッツェン adv. 靴の先端を	「間接目的語」
und ウント conj. そして	
sagte, サークテ 3 単過(sagen)v.t 言った	「動詞」
ich イヒ pron 僕は	「主語」
hätte ...nicht ...sehen wollen ヘッテ...ニヒト...ゼーエン・ウァレン 接 II・1 単現・完了形・否定・願望	

ZWEITER TEIL 第2部

v.t 会いたがらなかった	「動詞句」
Mama ママ n.f 母さんに	「目的語」
noch einmal ノッホ・アイン adv. (否定文で) ただの一度も	「副詞句」
und ウント conj. そして	
sei ...weggegangen, ザイ...ウエーク・ゲ・カンゲン 接・1 単現・完了形(weg gehen)	
v.i 立ち去った	「動詞句」
gleich nach der Beerdigung グライヒ・ナハ・デア・ベアデアイクング adv. 葬儀の後すぐに	「副詞句」
ohne andächtig オーネ・アンデヒティヒ adv. 敬虔な態度無しに	「副詞句」
am Grab アム・グラフ adv. 墓前で	「副詞句」
zu verweilen. ツー・フェアヴァイルン 不定詞・目的 adv. 留まるために	「動詞句」

そしてもう一つ驚かされたことがあると言った：葬儀社の社員が彼に、僕が母さんの年齢を知らなかったと言っていたことだ。

Und noch etwas habe ihn überrascht: ein Angestellter des Beerdigungsinstituts habe ihm gesagt, ich hätte nicht gewußt, wie alt Mama war.

Und 「主語」「動詞句」「目的語」「動詞句」:

「主語」「動詞句」「間接目的語」「動詞句」「直接目的語」

Und ウント conj. そして	
noch etwas ノッホ・エトワース pron 他にも一つ	「主語」
habe ... überrascht: ハーベ...ユーバーラシュト 3 単現・完了形(überraschen)v.t 驚かせた	「動詞句」
ihn イン pron 彼を	「目的語」
ein Angestellter アイン・アンゲシュテルテ n.m 社員が、従業員が	「主語」
des Beerdigungsinstituts デス・ベアデアイクングス・インスティトゥツ adj. 葬儀社の	「形容詞句」
habe ... gesagt, ハーベ...ゲザークト 3 単現・完了形(sagen)v.t 言った	「動詞句」
ihm イム pron 院長に	「間接目的語」
ich イヒ pron 僕は～ということを	「直接目的語」
hätte nicht gewußt, ヘッテ・ニヒト・ゲラースト 接 II・1 単現・完了形・否定(wissen)	
v.t 知らなかった	「動詞句」
wie alt ヴァー・アルト adj. どれ程年を取ったという事を	「目的語」
Mama ママ n.f 母さんが	「主語」
war. ヴァール 3 単過(sein)v.i ～ だった	「動詞」

ZWEITER TEIL 第2部

しばらく沈黙が続いた後で、裁判長が院長に尋ねた。その葬儀社の社員は本当に僕のことを指して言ったのか？

Eine Weile herrschte Schweigen, und der Vorsitzende fragte ihn, ob der Betreffende wirklich mich gemeint habe.

「副詞句」「動詞」「主語」,und「主語」「間接目的語」「動詞句」「直接目的語」
 Eine Weile アイレ。ヴァイレ n.f.4 格 しばらくの間 「副詞句」
 herrschte ヘアシュテ 3 単過(herrschen)v.i 支配した 「動詞」
 Schweigen, シュヴァイクェン n.n 沈黙が 「主語」
 und ウント conj. そして
 der Vorsitzende デア・フォーアジツェンテ n.m 裁判長は 「主語」
 fragte フラクテ 3 単過(fragen)v.t(j-4 に) 尋ねた 「動詞」
 ihn, イン pron.4 格 彼に 「間接目的語」
 ob オッ conj. へかどうかを 「直接目的語」
 der Betreffende デア・ベトレフェンデ n.m その当事者は、葬儀社の社員は 「主語」
 wirklich ヴァルクリッヒ adv. 本当に 「副詞」
 mich ミヒ pron.4 格 僕のことを 「目的語」
 gemeint habe. ゲマイント・ハーベ 3 単現・完了形(meinen)
 v.t (j-4 を指して) 言った 「動詞句」

その時院長はその質問が理解できなかった。それで裁判長は彼に言った：「それが規則になっていますので」それから裁判長は検事に、証人に何か質問はありますかと尋ねた。

Da der Direktor die Frage nicht verstand, sagte er zu ihm: «So ist es Brauch.» Dann fragte der Vorsitzende den Staatsanwalt, ob er irgendwelche Fragen an den Zeugen zu stellen habe.

「副詞」「主語」「目的語」「動詞句」,「動詞」「主語」「間接目的語」:
 «「副詞」「動詞」「主語」「補語」»「副詞」「動詞」「主語」「間接目的語」「直接目的語」
 Da ダー adv. その時、そこで 「副詞」
 der Direktor デア・ディレクトール n.m 院長は 「主語」
 die Frage ディー・フラゲ n.f.4 格 その質問を 「目的語」
 nicht verstand, ニヒト・フェアシュタント 3 単過・否定(verstehen)v.t 理解できなかった 「動詞句」
 sagte サークテ 3 単過(sagen)v.t 言った 「動詞」
 er エア pron 裁判長は 「主語」
 zu ihm: ツー・イム adv. 彼に 「間接目的語」
 «So ソー adv. そのように 「副詞」
 ist イスト 3 単現(sein)v.i ~である 「動詞」
 es エス pron それは 「主語」

ZWEITER TEIL 第2部

Brauch.» ブラウフ n.m	習慣	「補語」
Dann ダン adv.	それから	「副詞」
fragte フラケ 3 単過(fragen)v.t(j-4 に)	尋ねた	「動詞」
der Vorsitzende テア・フォーアジツツェンテ n.m	裁判長は	「主語」
den Staatsanwalt, デン・シュターツアンワルト n.m.4 格	検事に	「間接目的語」
ob オッフ conj.	〜かどうかを	「直接目的語」
er エア pron	彼は	「主語」
irgendwelche Fragen イルゲントウェルヒエ・フラーゲン		
n.n.4 格	何か質問が	「直接目的語」
an den Zeugen アン・デーン・ツォイゲン adv.	証人に	「間接目的語」
zu stellen ツー・シュテレン 不定詞・目的 adv.	聞くべき	「副詞句」
habe. ハーベ 3 単現(haben)v.t	〜がある	「動詞」

検事は大声で答えた：「いえ、ありません！これで十分です！」

Der Staatsanwalt schrie: «O nein! Das genügt.»

「主語」「動詞」：《「応答」「主語」「補語」》

Der Staatsanwalt テア・シュターツアンワルト n.m	検事は	「主語」
schrie: シュリー 3 単過(schreien)v.i	大声で言った	「動詞」
«O nein! オ・ナイン adv.	いえ、ありません！	「応答」
Das ダス pron	それは	「主語」
genügt.» ゲニュークト 過去分詞(genügen)adj.	十分な	「補語」

彼は大声で僕に勝ち誇ったような視線で答えたので、僕はこの人たちがどれほど僕を嫌っているかを思い知って、愚かにも何年かぶりに泣きたい気分になった。

Er schrie so laut und mit einem triumphierenden Blick zu mir hin, daß ich zum erstenmal seit vielen Jahren ganz blöd hätte weinen mögen, weil ich fühlte, wie sehr diese Menschen mich verabscheuten.

「主語」「動詞」「副詞句」, daß 「副詞句」「動詞句」「副詞節」

Er エア pron	彼は	「主語」
schrie シュリー 3 単過(schreien)v.i	大声で答えた	「動詞」
so laut ザー・ラウト adv.	非常に大声で	「副詞句」
und ウント conj.	そして	
mit einem triumphierenden Blick zu mir hin, ミット・アイネム・トリウムフィエレンデ・ン・ツー・ミーア・ヒン		
adv.	勝ち誇ったような視線で僕に	「副詞句」
daß ダス conj.	(結果 so...dass) それで〜する	
ich イヒ pron	僕は	「主語」

ZWEITER TEIL 第2部

zum erstenmal seit vielen Jahren ツーム・エアステンマル・ザイト・フィレン・ヤレン

adv. 数年来初めて、数年ぶりに

「副詞句」

ganz blöd ガンツ・ブレート adv. 愚かにも

「副詞句」

hätte weinen mögen, ヘッテ・ウァイネン・メーゲン 接 II・1 単現・完了形・願望(mögen+不定詞 weinen)

v.i 泣きたいほどだった

「動詞句」

hätte +不定詞 mögen 実現しなかった願望を表わす

weil ウァイル conj. (理由) ~なので

「副詞節」

ich イヒ pron 僕は

「主語」

fühlte, フュールテ 1 単過(fühlen)v.t 感じた

「動詞」

wie sehr ウァー・セーア adv. どんなに、どれほど

「副詞句」

diese Menschen デー・イー・ゼー・メンシェン pl(Mensch).n.m この人たちは

「主語」

mich ミヒ pron.4 格 僕を

「目的語」

verabscheuten. フェアアップ° ショイテン 3 複過・時制の一致(verabscheuen)

v.t 嫌っている

「動詞」

裁判長は陪審員と僕の弁護士に、他に質問があるかと尋ねてから、門衛に質問した。

Nachdem der Vorsitzende die Geschworenen und meinen Anwalt gefragt hatte, ob sie noch Fragen zu stellen hätten, vernahm er den Pförtner.

「副詞節」, 「動詞」「主語」「目的語」

Nachdem ナーハデーム conj. ~した後で

「副詞節」

der Vorsitzende デア・フォアジツツェンデ n.m 裁判長は

「主語」

die Geschworenen デー・イー・ゲシュワレネン 過去分詞(schwören)・名詞化

pl(Geschworen).n 陪審員たちに

「間接目的語」

und ウント conj. そして

meinen Anwalt マイネン・アンヴァルト n.m 僕の弁護士に

「間接目的語」

gefragt hatte, ゲフラクト・ハッテ 3 単過・完了形(fragen)v.t(j-4 に) 尋ねた

「動詞句」

ob オップ° conj. ~かどうかを

「直接目的語」

sie ジー pron.pl 彼らは

「主語」

noch Fragen ノッホ・フラゲン pl(Frage).n.f さらに質問を

「目的語」

zu stellen ツー・シュテレン 不定詞・目的 adj. 聞くべき 「形容詞句」

hätten, ヘッテン 接 II・3 複現(haben)v.t 持っている、ある

「動詞」

vernahm フェアナム 3 単過(vernahmen)v.t 聞いた、質問した

「動詞」

er エア pron 彼は

「主語」

den Pförtner. デン・プフェルトナー n.m.4 格 門衛に

「目的語」

ZWEITER TEIL 第2部

他の証人の場合と同様に、彼に対しても同じ儀式が繰り返された。

Wie bei allen anderen wiederholte sich auch bei ihm die gleiche Zeremonie.

「副詞句」「動詞句」「間接目的語」「直接目的語」

Wie ^{ヴィー} conj. どのように

「副詞句」

bei allen anderen ^{バイ・アレン・アンデレン} adv. 他の皆の場合と

「副詞句」

wiederholte sich ^{ヴィーターホルテ・ズィヒ} 3 単過(sich-4 wiederholen)

v.pr 同じことを繰り返して言った

「動詞句」

auch bei ihm ^{アウフ・バイ・イム} adv. 彼に対しても

「間接目的語」

die gleiche Zeremonie. ^{デイー・グライヒェ・ツェレモニー} n.f.4 格 同じ儀式を

「直接目的語」

門衛は前に進み出て僕を見つめ、それから目をそらした。

Als der Pförtner vortrat, sah er mich an und wandte dann die Augen ab.

「副詞節」, 「動詞句」「主語」「目的語」「動詞句」 und
「動詞句」「副詞」「目的語」「動詞句」

Als ^{アルス} conj. ーした時

「副詞節」

der Pförtner ^{デア・プフェルトナー} n.m 門衛が

「主語」

vortrat, ^{フォーア・トラート} 3 単過(vor | treten)v.i 前に出た

「動詞句」

sah ...an ^{ザー...アン} 3 単過(an | sehen)v.t 見つめた

「動詞句」

er ^{エア} pron 彼は

「主語」

mich ^{ミヒ} pron.4 格 僕を

「目的語」

und ^{ウント} conj. そして

wandte ...ab. ^{ヴァンテ...アップ} 3 単過(ab | wenden)v.t そらした

「動詞句」

dann ^{ダン} adv. それから

「副詞」

die Augen ^{デイー・アウゲン} pl(Auge).n 目を

「目的語」

彼は聞かれた質問に答えた。

Er beantwortete die Fragen, die an ihn gerichtet wurden.

「主語」「動詞」「目的語」

Er ^{エア} pron 彼は

「主語」

beantwortete ^{ベアントゥェアテ} 3 単過(beantworten)v.t(et-4 に) 答えた

「動詞」

die Fragen, ^{デイー・フラーゲン} pl(Frage).n.f.4 格 質問に

「目的語」

die ^{デイー} pron.pl(主語) ーする

「形容詞節」

an ihn ^{アン・イン} adv. 彼に

「間接目的語」

gerichtet wurden. ^{ゲリヒテット・ウルテン} 3 単過・受動(werden+過去分詞 richten)

v.t 質問された、向けられた

「動詞句」

ZWEITER TEIL 第2部

彼は僕が母さんに会いたがらず、タバコを吸い、眠り、カフェオレを飲んだと証言した。

Er sagte, ich hätte Mama nicht sehen wollen, hätte geraucht und geschlafen und Milchkaffee getrunken.

「主語」「動詞」, 「主語」「動詞句」「目的語」「動詞句」, 「動詞句」

Und 「動詞句」 und 「目的語」「動詞句」

Er エア pron 彼は 「主語」

sagte, サークテ 3 単過(sagen)v.t 言った 「動詞」

ich イヒ pron 僕は 「主語」

hätte ... nicht sehen wollen, ハッテ...ニヒト・ゼーエン・ウォレン 接 II・1 単現・完了形・願望・否定

(wollen+不定詞 sehen)v.t 会いたがらなかった 「動詞句」

Mama ママ n.f 母さんに 「目的語」

hätte geraucht ハッテ・ゲラウヒト 接 II・1 単現・完了形(rauchen)v.i タバコを吸った 「動詞句」

und ウント conj. そして

geschlafen ゲシュラーフェン 接 II・1 単現・完了形(schlafen)v.i 眠っていた 「動詞句」

und ウント conj. そして

Milchkaffee ミルヒカフェ n.m カフェオレを 「目的語」

getrunken. ゲトルンケン 接 II・1 単現・完了形(trinken)v.t 飲んだ 「動詞句」

その時、僕は怒りが法廷全体を駆け抜けるのを感じた。そして初めて自分は有罪だと理解した。

Da fühlte ich, daß es wie Empörung durch den Saal ging, und ich begriff zum erstenmal, daß ich schuldig war.

「副詞」「動詞」「主語」「目的語」, und 「主語」「動詞」「副詞句」「目的語」

Da ダー adv. その時 「副詞」

fühlte フュールテ 1 単過(fühlen)v.t 感じた 「動詞」

ich, イヒ pron 僕は 「主語」

daß ダス conj. ～ということを 「目的語」

es エス pron それは 「主語」

wie ヴァー conj. ～のように 「補語」

Empörung エンペールンク n.f 怒りが 「主語」

durch den Saal トルヒ・テン・ザール adv. 法廷全体に 「副詞」

ging, ギンク 3 単過(gehen)v.t 駆け抜けた 「動詞」

und ウント conj. そして

ich イヒ pron 僕は 「主語」

begriff ベグリーフ 1 単過(begreifen)v.t 理解した 「動詞」

zum erstenmal, ツーム・エアステンマル adv. 初めて 「副詞句」

ZWEITER TEIL 第2部

daß ^{ダス} conj. ～ということを	「目的語」
ich ^{イチ} pron 僕は	「主語」
schuldig ^{シュルディヒ} adj. 有罪の	「補語」
war. ^{ヴァール} 1 単過・時制の一致(sein)v.i ～である	「動詞」

門衛はカフェオレと煙草に関する話をもう一度話さなければならなかった。

Der Pförtner mußte die Geschichte von dem Milchkaffee und von der Zigarette wiederholen.

「主語」「動詞句」「目的語」「動詞句」

Der Pförtner ^{デア・プ フェルトナー} n.m 門衛は	「主語」
mußte ...wiederholen. ^{ムステ...ウイダーホーレン} 3 単過・必要(müssen+不定詞 wiederholen)	
v.t 繰り返さなければならなかった	「動詞句」
die Geschichte ^{デー・ゲシヒテ} n.f.4 格 話を	「目的語」
von dem Milchkaffee ^{フォン・デーム・ミルヒカフェ}	
adv. (関連) カフェオレについての	「副詞句」
und ^{ウント} conj. そして	
von der Zigarette ^{フォン・デア・ツイガレッテ} adv. (関連) タバコについての	「副詞句」

検事は皮肉っぽく僕を睨みつけた。

Der Staatsanwalt funkelte mich ironisch an.

「主語」「動詞句」「目的語」「副詞」「動詞句」

Der Staatsanwalt ^{デア・シュターツァンヴァルト} n.m 検事は	「主語」
funkelte ...an. ^{フンケルテ...アン} 3 単過(an funkeln)v.t 睨みつけた	「動詞句」
mich ^{ミヒ} pron.4 格 僕を	「目的語」
ironisch ^{イローニッシュ} adv. 皮肉っぽく	「副詞」

この瞬間、僕の弁護士が門衛に、彼も僕と一緒にタバコを吸わなかったのですかと質問した。しかし、検事はこの質問に対して激しく抗議した。

In diesem Augenblick fragte mein Anwalt den Pförtner, ob er nicht mit mir zusammen geraucht habe. Aber der Staatsanwalt protestierte heftig gegen diese Frage:

「副詞句」「動詞」「主語」「間接目的語」「直接目的語」

Aber 「主語」「動詞」「副詞」「間接目的語」

In diesem Augenblick ^{イン・デーゼム・アウゲンブリック} adv. この瞬間	「副詞句」
fragte ^{フラクテ} 3 単過(fragen)v.t(j-4 に) 尋ねた	「動詞」
mein Anwalt ^{マイン・アンヴァルト} n.m 僕の弁護士が	「主語」
den Pförtner, ^{デーン・プフェルトナー} n.m.4 格 門衛に	「間接目的語」

ZWEITER TEIL 第2部

ob オフ conj. ～かどうかを	「直接目的語」
er エア pron 彼は	「主語」
nicht ...geraucht habe. ニヒト...ゲラウヒト・ハーベ 3 単現・完了形・否定(rauchen)	
v.i タバコを吸わなかった	「動詞句」
mit mir zusammen ミット・ミーア・ツサメン adv. 僕と一緒に	「副詞句」
Aber アーバー conj. しかし	
der Staatsanwalt テア・シュターツァンワルト n.m 検事は	「主語」
protestierte プロテステルテ 3 単過(protestieren)v.i 抗議した	「動詞」
heftig ヘフティヒ adv. 激しく	「副詞」
gegen diese Frage: ゲーゲン・デーゼ・フラーゲ adv. この質問に対して	「間接目的語」

「ここでは誰が犯罪者なのか！そして検察側の証人を汚して、重要性を失わないものを矮小化しようとするとはなんというやり方なのだ！」

«Wer ist hier der Verbrecher, und was sind das für Methoden, die die Zeugen der Anklage verunglimpfen, um Aussagen zu bagatellisieren, die deswegen nicht an Gewicht verlieren!»

《「主語」「動詞」「補語」,und「主語」「動詞」「補語」》

«Wer ウェア pron 誰が	「主語」
ist イスト 3 単現(sein)v.i ～である	「動詞」
hier ヒア adv. ここでは	「副詞」
der Verbrecher, テア・フェアブレッヒャー n.m 犯罪者	「補語」
und ウント conj. そして	
was ウァス pron 何が	「主語」
sind シント 3 複現(sein)v.i ～である	「動詞」
das für Methoden, ダス・フュア・メーテレン pron その方法	「補語」
die デー pron (主語) ～する	「形容詞節」
die Zeugen デー・ツォイゲン pl(Zeuge)n.m 証人を	「目的語」
der Anklage テア・アンクラーゲ n.f.2 格 検察側の	「形容詞句」
verunglimpfen, フェアウングリンプフェン 3 複現 v.t 非難する、汚す	「動詞」
um Aussagen zu bagatellisieren, ウム・アウスサーゲン・ツウ・バガテルシエレン 不定詞・目的	
adv. 軽視するために述べるために	「副詞句」
die デー pron (主語) ～する	「形容詞節」
deswegen デスウエーゲン adv. それゆえ	「副詞」
nicht ... verlieren!» ニヒト...フェアリーレン 3 複現・否定(verlieren)	
v.i(an et-3 を) 失わない	「動詞句」
an Gewicht アン・ゲウイト adv. 重要性を	「間接目的語」

ZWEITER TEIL 第2部

それにもかかわらず、裁判長は門衛に質問に答えさせた。

Trotzdem veranlaßte der Vorsitzende den Pförtner, die Frage zu beantworten.

「副詞句」「動詞」「主語」「間接目的語」「直接目的語」

Trotzdem トロツデーム adv. それにもかかわらず 「副詞句」

veranlaßte フェアンラステ 3 単過(ver|anlassen)v.t (j-4 zu et-3 人-4 に何-3 を) させた 「動詞」

der Vorsitzende デア・フォジツェンデ n.m 裁判長は 「主語」

den Pförtner, デン・プフェルトナー n.m.4 格 門衛に 「間接目的語」

die Frage デー・フラゲ zu 不定句 n. 質問に～することを 「直接目的語」

zu beantworten. ツー・ベアントゥェアテン zu 不定詞 v.t 答える 「動詞句」

老人は困惑して言った：「私が良くない事をしたのは分かっています。でも、この方が勧めてくれたタバコを断る勇気がなかったんです」

Der Alte sagte verlegen: «Ich weiß, daß es nicht recht war. Aber ich wagte es nicht, die Zigarette abzuschlagen, die der Herr mir anbot.»

「主語」「動詞」「副詞」:

《「主語」「動詞」「目的語」 | Aber 「主語」「動詞句」「目的語」「動詞句」「目的語」》

Der Alte デア・アルテ n.m 老人は 「主語」

sagte サーケ 3 単過(sagen)v.t 言った 「動詞」

verlegen: フェアレゲン adv. 困惑して 「副詞」

«Ich イヒ pron 私は 「主語」

weiß, ヴァイス 1 単現(wissen)v.t 分かっている 「動詞」

daß ダス conj. ～ということを 「目的語」

es エス pron それは 「主語」

nicht recht ニヒト・レヒト adj. 良くない 「補語」

war. ヴァール 3 単過(sein)v.i ～だった 「動詞」

Aber アーバー conj. しかし

ich イヒ pron 私は 「主語」

wagte... nicht, ヴァークテ...ニヒト 1 単過・否定(wagen)

v.t 敢えて出来なかった、～する勇気が無かった 「動詞句」

es エス pron それを 「目的語」

die Zigarette abzuschlagen, デー・ツィガレッテ・アップ・ツー・シュラーゲン zu 不定句

n. タバコを断ることを 「目的語」

die デー pron (目的語) ～する 「形容詞節」

der Herr デア・ヘア n.m その方が 「主語」

mir ミーア pron 私に 「間接目的語」

ZWEITER TEIL 第2部

anbot.》 アン・ボート 3 単過(an | bieten)v.t 勧めてくれた 「動詞句」

最後に、何か付け加えることはあるかと尋ねられた。

Schließlich wurde ich gefragt, ob ich nichts hinzuzufügen hätte.

「副詞」「動詞句」「主語」「動詞句」「目的語」

Schließlich シュリースリヒ adv. 最後に

「副詞」

wurde ... gefragt, ヴルテ°...ゲフラクト 1 単過・受動(werden+過去分詞 fragen)

v.t 尋ねられた

「動詞句」

ich イヒ pron 僕は

「主語」

ob オプ conj. 〜かどうかを

「目的語」

ich イヒ pron 僕は

「主語」

nichts ニツ pron 何も〜ない

「目的語」

hinzuzufügen ヒンツ-ツ-フューゲン 不定詞・目的

adj. 付け加えるべき

「形容詞句」

hätte. ヘッテ 接 II・1 単現(haben)v.t ある

「動詞」

「何もしません」と、僕は答えた。「証人が正しいという事だけです。僕が彼にタバコを勧めました」

«Nichts», antwortete ich, «nur daß der Zeuge recht hat. Ich habe ihm eine Zigarette angeboten.»

《「応答」》, 「動詞」「主語」,

《「応答」 | 「主語」「動詞句」「間接目的語」「直接目的語」「動詞句」》

«Nichts», ニツ pron 何もしません

「応答」

antwortete アントヴ°ォアテテ 1 単過(antworten)v.i 答えた

「動詞」

ich, イヒ pron 僕は

「主語」

«nur daß ヌア°ダ°ス pron 〜ということだけです

「応答」

der Zeuge テア°ツォイゲ° n.m 証人は

「主語」

recht レヒト n.n.4 格 正当性を

「目的語」

hat. ハット 3 単現(haben)v.t 〜がある

「動詞」

Ich イヒ pron 僕が

「主語」

habe ...angeboten.》 ハーベ°...アン°ケ°・ホーテン 1 単現・完了形(an | bieten)

v.t 勧めた

「動詞句」

ihm イム pron.3 格 彼に

「間接目的語」

eine Zigarette アイネ°ツィガ°レツェ n.f タバコを

「直接目的語」

ZWEITER TEIL 第2部

門衛は少し驚いたように、感謝の気持ちを表すかのように僕を見つめた。

Der Pförtner sah mich ein wenig erstaunt und irgendwie dankbar an.

「主語」「動詞句」「目的語」「副詞句」 und 「副詞句」「動詞句」

Der Pförtner デア・フ・フェルトナー n.m 門衛は

「主語」

sah ...an. サー...アン 3 単過(an|sehen)v.t 見つめた

「動詞句」

mich ミッヒ pron.4 格 僕を

「目的語」

ein wenig erstaunt アイン・ヴィンニヒ・エアシュタウト adv. 少し驚いて

「副詞句」

und ウント conj. そして

irgendwie dankbar イルゲントワイ・ダンクハール adv. なんとなく感謝している

「副詞句」

彼はためらってから、ミルクコーヒーを僕に勧めたのは自分だと言った。

Er zögerte, dann sagte er, den Milchkaffee habe er mir angeboten.

「主語」「動詞」, 「副詞」「動詞」「主語」「目的語」

Er エア pron 彼は

「主語」

zögerte, ツェーゲアテ 3 単過(zögern)v.i ためらった

「動詞」

dann ダン adv. それから

「副詞」

sagte サーケテ 3 単過(sagen)v.t 言った

「動詞」

er, エア pron 彼は

「主語」

den Milchkaffee デン・ミルヒカフェ n.m.4 格 ミルクコーヒーを～することを

「目的語」

habe ...angeboten. ハーベ...アン・ゲ・ボーテン 3 単現・完了形(anbieten)

v.t 勧めた

「動詞句」

er エア pron 彼は

「主語」

mir ミア pron.3 格 僕に

「間接目的語」

僕の弁護士は大声を出して勝ち誇り、言った。陪審員たちはこの証言をきっと正しく評価するだろう。

Mein Anwalt triumphierte laut und meinte, die Herren Geschworenen würden diese Aussage schon richtig bewerten.

「主語」「動詞」「副詞」 und 「動詞」, 「主語」「動詞句」「目的語」「副詞句」

Mein Anwalt マイン・アンヴァルト n.m 僕の弁護士は

「主語」

triumphierte トリウンフィエルテ 3 単過(triumphieren)v.i 勝ち誇った

「動詞」

laut ラウト adv. 大声で

「副詞」

und ウント conj. そして

meinte, マインテ 3 単過(meinen)v.t 言った

「動詞」

die Herren Geschworenen デー・ヘレン・ゲシュワオレン pl(Geschworen).n 陪審員たちは

「主語」

ZWEITER TEIL 第2部

würden ...bewerten. ウルテン...ベウエテン 接 II・3 複過・推量(werden+不定詞 bewerten)

v.t 評価するだろう

「動詞句」

diese Aussage デーセ・アウスサーゲ n.f この証言を

「目的語」

schon richtig ショーン・リヒヒ adv. きっと正しく

「副詞句」

しかし、検事は僕たちの頭越しに怒鳴った：「ええ、陪審員の皆さんはきっとそうするでしょう」

Aber der Staatsanwalt donnerte über unsere Köpfe hinweg: «Ja, das werden die Herren Geschworenen bestimmt tun.

Aber 「主語」「動詞」「副詞句」:

《「応答」 | 「目的語」「動詞句」「主語」「副詞」「動詞句」》

Aber アーバー conj. しかし

der Staatsanwalt デア・シュターツァンワルト n.m 検事は

「主語」

donnerte トネテ 3 単過(donnern)v.i 怒鳴った

「動詞」

über unsere Köpfe hinweg: ユーバー・ウンゼレ・ケプフェ adv. 僕たちの頭越しに

「副詞句」

über et-4 hinweg 「何-4 を越えて、何-4 の向こうへ」

j-4 über die Zeitung hinweg beobachten 人-4 を新聞越しに観察する

«Ja, ya adv. はい、ええ

「応答」

das ダス pron.4 格 それを

「目的語」

werden ...tun. ウェアテン...トゥン 3 複未・推量(werden+不定詞 tun)v.t するだろう

「動詞句」

die Herren Geschworenen デー・ヘレン・ゲシュワレネン

pl(Geschworen).n 陪審員の皆さんは

「主語」

bestimmt ベシュティムト adv. きっと

「副詞」

「そして陪審員の皆さんは、他人であればコーヒーを勧めることは構わないが、自分を産んでくれた人の棺の前ではそれを断るべきだったという結論に達するだろう」

Und sie werden zu dem Schluß kommen, daß wohl ein Fremder eine Tasse Kaffee anbieten konnte, daß aber der Sohn sie abschlagen mußte, als er an der Bahre derer stand, die ihm das Leben geschenkt hatte.»

《Und 「主語」「動詞句」「間接目的語」「動詞句」, 「形容詞節」》

Und ウント conj. そして

sie シー pron (Geschworen の代用) 彼らは

「主語」

werden ...kommen, ウェアテン...コメン 3 複未・推量(werden+不定詞 kommen)

v.i (状態に) なるだろう、達するだろう

「動詞句」

zu dem Schluß ズー・デー・ム・シュルス adv. 結論に

「間接目的語」

daß ダス conj. (同格) ~という

「形容詞節」

ZWEITER TEIL 第2部

wohl ヲール adv. おそらく	「副詞」
ein Fremder アイン・フルムダー n.m 他人は	「主語」
eine Tasse Kaffee アイネ・タッセ・カフェ n.m.4 格 コーヒーを	「目的語」
anbieten konnte, アンビエテン・コンテ 3 単過・可能(können+不定詞 anbieten)	
v.t すすめることが出来ただろう	「動詞句」
daß ダス conj. (同格) ～という	「形容詞節」
aber アーバー conj. しかし	
der Sohn テア・ゾーン n.m 息子は	「主語」
sie ジー pron(Tasse の代用) それを	「目的語」
abschlagen mußte, アップ・シュラーゲン・ムステ 3 単過・必要(müssen+不定詞 abschlagen)	
v.t 断るべきだった	「動詞句」
als アルス conj. ～した時には	「副詞節」
er エア pron 彼は	「主語」
an der Bahre derer アン・デア・バーレ・デレ	
adv. 棺のそばに	「副詞句」
stand, シュタント 3 単過(stehen)v.i 立っていた	「動詞」
die デー pron (主語) ～する	「形容詞節」
ihm イム pron.3 格 彼に	「間接目的語」
das Leben ダス・レーベン	
n.n.4 格 命を	「直接目的語」
geschenkt hatte. ケシェント・ハッテ 3 単過・完了形(schenken)	
v.t 与えてくれた	「動詞句」

門衛は自分の席に戻った。

Der Pförtner ging an seinen Platz zurück.

	「主語」「動詞句」「間接目的語」「動詞句」
Der Pförtner テア・プ・フェルトナー n.m 門衛は	「主語」
ging ...zurück. キング ...ツリュック 3 単過(zurück gehen)v.i 戻った	「動詞句」
an seinen Platz アン・ザイネン・プラッツ adv. 自分の席に	「間接目的語」

トーマス・ペレーズが召喚されると、廷吏は証人席まで彼に付き添わなければならなかった。

Als Thomas Perez aufgerufen wurde, mußte ein Gerichtsdienner ihn bis zum Zeugenstand begleiten.

	「副詞節」, 「動詞句」「主語」「目的語」「副詞句」「動詞句」
Als アルス conj. ～した時	「副詞節」

ZWEITER TEIL 第2部

Thomas Perez トマス・ペレス n.m トーマス ペレーズが	「主語」
aufgerufen wurde, アウフ・ゲ・ルフェン・ウルテ 3 単過・受動(werden+過去分詞 auf rufen)	
v.t 召喚された	「動詞句」
mußte ...begleiten. ムステ...ベグライテン 3 単過・必要(müssen+不定詞 begleiten)	
v.t 付き添わなければならなかった	「動詞句」
ein Gerichtsdienner アイン・ゲリヒツ・ディナー n.m(Gerichts+Diener) 廷吏が	「主語」
ihn イン pron.4 格 彼に	「目的語」
bis zum Zeugenstand ビス・ツーム・ツォイゲンシュタント adv. 証人席まで	「副詞句」

ペレーズは、母さんとは特に親しかったが、僕には葬儀の日に 1 度会っただけだと言った。

Perez sagte, er habe vor allem meine Mutter gekannt und mich nur ein einziges Mal, am Tage des Begräbnisses, gesehen.

	「主語」「動詞」, 「主語」「動詞句」「副詞句」「目的語」「動詞句」 und
	「目的語」「副詞句」, 「動詞句」
Perez ペレス n.m ペレーズは	「主語」
sagte, サークテ 3 単過(sagen)v.t 言った	「動詞」
er エア pron 彼は	「主語」
habe ...gekannt ハベ...ゲカント 3 単現・完了形(kennen)v.t 知っていた	「動詞句」
vor allem フォア・アレム adv. 特に	「副詞句」
meine Mutter マイネ・ムター n.f 母さんを	「目的語」
und ウント conj. そして	
mich ミヒ pron 僕を	「目的語」
nur ein einziges Mal, ヌア・アイン・アインツイケス・マル adv.1 度だけ	「副詞句」
am Tage des Begräbnisses, アム・ターゲ・デス・ベグレープ・ニセス adv. 葬儀の日に	「副詞句」
gesehen. ゲゼーエン 3 単現・完了形(sehen)v.t 会った	「動詞句」

彼は、その日僕は何をしていたのかを聞かれて、次のように答えた。

Man fragte ihn, was ich an jenem Tage getan hätte, und er antwortete:

	「主語」「動詞」「間接目的語」, 「目的語」「主語」「副詞句」「動詞句」 und
	「主語」「動詞」
Man マン pron 人は	「主語」
受動態に翻訳する	
fragte フラケ 3 単過(fragen)v.t(j-4 に) 尋ねた	「動詞」
ihn, イン pron.4 格 彼に	「間接目的語」
was ヴァス pron 何を	「目的語」
ich イヒ pron 僕は	「主語」

ZWEITER TEIL 第2部

an jenem Tage アン・イエネム・ターゲ adv. その日に 「副詞句」
 getan hätte, ゲタン・ハッテ 接 II・1 単現・完了形(tun)v.t していた 「動詞句」
 und ウント conj. そして
 er エア pron 彼は 「主語」
 antwortete: アントウ・ォアテ 3 単過(antworten)v.i 答えた 「動詞」

「私はとても悲しかった。それで何も見えなかったし聞こえなかった。悲しみのあまり何も見えなかったのです」

«Ich war so bekümmert, daß ich nichts sah und hörte. Vor lauter Kummer sah ich nichts.
 》「主語」「動詞」「補語」, daß 「主語」「目的語」「動詞」 und 「動詞」
 「副詞句」「動詞句」「主語」「目的語」»

«Ich イヒ pron 私は 「主語」
 war ヴァール 1 単過(sein)v.i ～ だった 「動詞」
 so bekümmert, ソー・ベキュマート adj. とても悲しい 「補語」
 daß ダス conj. (結果) その結果～
 ich イヒ pron 私は 「主語」
 nichts ニヒツ pron 何も～ない 「目的語」
 sah ザー 1 単過(sehen)v.t (否定文で) 見えなかった 「動詞」
 und ウント conj. そして
 hörte. ヘアテ 1 単過(hören)v.t (否定文で) 聞こえなかった 「動詞」
 Vor lauter Kummer フォア・ラウター・クマー adv. (原因) 悲しみのあまり 「副詞句」
 sah ザー 1 単過(sehen)v.t 見えた 「動詞句」
 ich イヒ pron 私は 「主語」
 nichts. ニヒツ pron 何も～ない 「目的語」

「それは私にとって非常に大きな悲しみでした。そしてその時私は気絶までしました。だから、私はこの方を見ることが出来ませんでした」

Es war für mich ein sehr großer Kummer. Und dann bin ich auch noch ohnmächtig geworden. Da habe ich den Herrn nicht sehen können.»

«「主語」「動詞」「補語」 | Und 「副詞」「動詞句」「主語」「補語」「動詞句」
 Da 「動詞句」「主語」「目的語」「動詞句」»

Es エス pron それは 「主語」
 war ヴァール 3 単過(sein)v.i ～ だった 「動詞」
 für mich フュア・ミヒ adv. 私にとって 「副詞句」
 ein sehr großer Kummer. アイン・ゼーア・グロサー・クマー n.m.1 格 非常に大きな悲しみ 「補語」
 Und ウント conj. そして

ZWEITER TEIL 第2部

dann ダン adv. その時	「副詞」
bin ...geworden. ビン...ゲワオルデ 1 単現・完了形(werden)v.i 〜になった	「動詞句」
ich イヒ pron 私	「主語」
auch noch アウフ・ノッホ adv. さらに	「副詞句」
ohnmächtig オンメルティヒ adj. 気絶した	「補語」
Da ダー conj. だから	
habe ...nicht sehen können. ハーベ...ニヒト・ゼーエン・ケン 1 単現・完了形・可能・否定 (können+不定詞 sehen)v.t 見ることが出来なかった	「動詞句」
ich イヒ pron 私	「主語」
den Herrn デン・ヘン n.m この方を	「目的語」

検事は彼に、少なくとも僕が泣いているのを見たことがありますかと尋ねた。

Der Staatsanwalt fragte ihn, ob er mich wenigstens habe weinen sehen.

	「主語」「動詞」「間接目的語」「直接目的語」
Der Staatsanwalt デア・シュタツァンヴァルト n.m 検事は	「主語」
fragte フラクテ 3 単過(fragen)v.t(j-4 に) 尋ねた	「動詞」
ihn, イン pron.4 格 彼に	「間接目的語」
ob オッフ conj. 〜かどうかを	「直接目的語」
er エア pron 彼は	「主語」
mich ミヒ pron.4 格 僕を	「目的語」
wenigstens ヴェニヒシュテンス adv. 少なくとも	「副詞」
habe ...sehen. ハーベ...ゼーエン 接・3 単現・完了形・知覚動詞(sehen) v.t 見た、見たことがある	「動詞句」
weinen ヴァイネン 不定詞・mich の動作 v.i 泣いている	「補語」

ペレーズは見たことは無いと答えた。

Das verneinte Perez.

	「目的語」「動詞」「主語」
Das ダス pron それを	「目的語」
verneinte フェアインテ 3 単過(verneinen)v.t 否定した	「動詞」
Perez. ペレス n.m ペレーズは	「主語」

ZWEITER TEIL 第2部

そこで次に、検事は言った：「陪審員の皆さんはこの証言を評価するでしょう」

Da sagte nun der Staatsanwalt: «Der Herren Geschworenen werden diese Aussage zu bewerten wissen.»

「副詞」「動詞」「副詞」「主語」：《「主語」「動詞句」「目的語」「動詞句」》

Da ダー adv. そこで 「副詞」

sagte サークテ 3 単過(sagen)v.t 言った 「動詞」

nun ヌン adv. 今度は、次に 「副詞」

der Staatsanwalt: デア・シュターツアンワルト n.m 検事は 「主語」

«Der Herren Geschworenen デア・ヘアレン・ゲシュワレネン

pl(Geschworen).n.m 陪審員の皆さんは 「主語」

werden ...zu bewerten wissen.» ウェアデレン...ツェ・ベヴァエアデレン・ウィッセン 3 複未・推量・可能

(werden+不定詞 wissen+zu 不定詞 bewerten)v.t 評価するだろう 「動詞句」

diese Aussage デーイーゼ・アウスザーゲ n.f.4 格 この証言を 「目的語」

しかし僕の弁護士は怒り狂った。

Aber mein Anwalt wurde wütend.

Aber 「主語」「動詞」「補語」

Aber アーバー conj. しかし

mein Anwalt マイン・アンワルト n.m 僕の弁護士は 「主語」

wurde ウルデ 3 単過・変化(werden)v.i 〜になった 「動詞」

wütend. ヴューテント adj. 怒り狂った 「補語」

僕には大袈裟に思われる口調で、僕の弁護士はペレーズに、僕が泣いていないのを見たのかと尋ねた。

In einem Ton, der mir übertrieben vorkam, fragte er Perez, ob er gesehen hätte, daß ich nicht geweint habe.

「副詞句」, 「動詞」「主語」「間接目的語」「直接目的語」

In einem Ton, イン・アイネム・トーン adv. (手段) ある口調で 「副詞句」

der デア pron (主語) 〜する 「形容詞節」

mir ミーア pron.3 格 僕には 「間接目的語」

übertrieben ユーバー・トリーベン adj. 大げさな 「補語」

vorkam, フォア・カム 3 単過・時制の一致(vor | kommen)

v.i 〜のように思われる 「動詞句」

fragte フルクテ 3 単過(fragen)v.t(j-4 に) 尋ねた 「動詞」

er エア pron 彼は 「主語」

Perez, ペレス n.m.4 格 ペレーズに 「間接目的語」

ZWEITER TEIL 第2部

ob オフ conj. ～かどうかを	「直接目的語」
er エア pron (Perez の代用) 彼は	「主語」
gesehen hätte, ゲシェン・ヘッテ 接 II・3 単現・完了形(sehen)v.t 見た	「動詞句」
daß ダス conj. ～ということを	「目的語」
ich イヒ pron 僕が	「主語」
nicht geweint habe. ニヒ・ゲウァイント・ハーベ 1 単現・完了形・否定・時制の一致(weinen) v.i 泣いていない	「動詞句」

ペレーズは答えた：「見ていません」傍聴者は笑った。

Perez sagte: «Nein.» Das Publikum lachte.

	「主語」「動詞」：《「応答」》「主語」「動詞」
Perez ペレス n.m ペレーズは	「主語」
sagte: サークテ 3 単過(sagen)v.t 言った	「動詞」
«Nein.» ナイン adv. 見ていません	「応答」
Das Publikum ダス・プーブリクム n.n 傍聴者は	「主語」
lachte. ラハテ 3 単過(lachen)v.i 笑った	「動詞」

そこで僕の弁護士は法服の片袖をたくし上げて、きっぱりと言った：「この裁判はこんな
ものです。全てが真実であり、同時に何一つとして真実ではないのです」

Da schob mein Anwalt einen Ärmel seiner Robe hoch und sagte bestimmt: «So sieht
dieser Prozeß aus. Alles ist wahr, und nichts ist wahr.»

	「副詞」「動詞句」「主語」「目的語」「動詞句」und「動詞」「副詞」：
	《「補語」「動詞句」「主語」「動詞句」
	「主語」「動詞」「補語」,und「主語」「動詞」「補語」》
Da ダー adv. すると	「副詞」
schob ...hoch ショーフ ...ホーホ 3 単過(schieben+hoch)v.t たくし上げた	「動詞句」
mein Anwalt マイン・アンヴァルト n.m 僕の弁護士は	「主語」
einen Ärmel アイン・エアメル n.m 片袖を	「目的語」
seiner Robe サイアー・ローベ n.f.2 格 法服の	「形容詞句」
und ウント conj. そして	
sagte サークテ 3 単過(sagen)v.t 言った	「動詞」
bestimmt: ベシュティムト adv. 断固として、きっぱりと	「副詞」
«So ソー adv. そんな風に	「補語」
sieht ...aus. シート...アウス 3 単現(aus sehen)v.i ～に見える	「動詞句」
dieser Prozeß デーザー・プロセス n.m この裁判は	「主語」
Alles アレス pron 全てが	「主語」

ZWEITER TEIL 第2部

ist イスト 3 単現(sein)v.i 〜である	「動詞」
wahr, ヲァール adj. 真実の	「補語」
und ウント conj. そして	
nichts ニヒツ pron 何も〜ない	「主語」
ist イスト 3 単現(sein)v.i 〜である	「動詞」
wahr. ヲァール adj. 真実の	「補語」

検事は表情を変えずに、書類の見出しに鉛筆を突き立てた。

Der Staatsanwalt machte ein verschlossenes Gesicht und stach mit dem Bleistift in die Aufschrift seiner Akten.

	「主語」「動詞」「目的語」 und 「動詞」「副詞句」「間接目的語」
Der Staatsanwalt テア・シュターツアンワルト n.m 検事は	「主語」
machte マハテ 3 単過(machen)v.t (動作を) した	「動詞」
ein verschlossenes Gesicht アイン・フェアシュロッセネン・ゲジヒト n.n.4 格 無表情を	「目的語」
und ウント conj. そして	
stach シターフ 3 単過(stechen)v.t 突き刺した	「動詞」
mit dem Bleistift ミット・デーム・ブライシュティフト adv. (手段) 鉛筆で	「副詞句」
in die Aufschrift イン・デー・イー・アウフシュリフト adv. 見出しに	「間接目的語」
seiner Akten. ザイナー・アクテン pl(Akte).n.f.2 格 書類の	「形容詞句」

5 分間の休廷の後で、僕の弁護士が全て順調に進んでいると僕に話していると、セレステが弁護側の証人として尋問された。僕の証人として。

Nach fünf Minuten Pause, während der mein Anwalt mir sagte, alles stehe zum Besten, wurde Celeste als Zeuge der Verteidigung vernommen. Als mein Zeuge.

	「副詞句」, 「動詞句」「主語」「副詞句」「動詞句」 「副詞句」
Nach fünf Minuten Pause, ナーフ・フュンフ・ミヌーテン・パウゼ adv. 5 分間の宮廷の後で	「副詞句」
während ヲェーレント conj. (同時進行を表わす) 〜している間に	「副詞節」
der mein Anwalt テア・マイン・アンワルト n.m 僕の弁護士が	「主語」
mir ミーア pron.3 格 僕に	「間接目的語」
sagte, ザーケテ 3 単過(sagen)v.t 言った	「動詞」
alles アレス pron すべてが	「主語」
stehe シテエ 3 単現(stehen)v.i (〜の状態) である	「動詞」
zum Besten, ツーム・ベステン adv. 順調に	「補語」
wurde ...vernommen. ヲールテ ...フェアノーメン 3 単過・受動(werden+過去分詞 vernehmen)	
v.t 尋問された	「動詞句」
Celeste セステ n.m セレステが	「主語」

ZWEITER TEIL 第2部

als アルス prep (資格) ～として	「副詞句」
Zeuge ツォイゲ n.m 証人	「目的語」
der Verteidigung デア。フェアタイディグUNG n.f.2 格 弁護側の	「形容詞句」
Als アルス prep (資格) ～として	「副詞句」
mein Zeuge. マイン・ツォイゲ n.m 僕の証人	「目的語」

セレステは時々僕に視線を向けて、パナマ帽を両手で回していた。

Ab und zu warf Celeste einen Blick auf mich und drehte seinen Panama in der Händen.

「副詞句」「動詞」「主語」「目的語」「副詞句」 und 「動詞」「目的語」「副詞句」	
Ab und zu アップ・ウント・ツウ adv. 時々	「副詞句」
warf ヲアルフ 3 単過(werfen)v.t 投げた	「動詞」
Celeste セレステ n.m セレステは	「主語」
einen Blick アイン・ブリック n.m.4 格 視線を	「目的語」
auf mich アウフ・ミヒ adv. 僕に	「副詞句」
und ウント conj. そして	
drehte ドレテ 3 単過(drehen)v.t 回した	「動詞」
seinen Panama サイン・パナマ n.n.4 格 パナマ帽を	「目的語」
in der Händen. イン・デア・ヘンデン adv. 両手で	「副詞句」

彼は日曜日に僕と一緒に競馬に行く時に着るスーツを新調して着ていた。

Er hatte den neuen Anzug an, in dem er sonntags mit mir zum Rennen ging.

「主語」「動詞句」「目的語」	
Er エア pron 彼は	「主語」
hatte ...an, ハッテ...アン 3 単過(an haben)v.t 着ていた	「動詞句」
den neuen Anzug デン・ノイエン・ソツク n.m.4 格 新しいスーツを	「目的語」
in dem イン・デーム adv. (様態) それを着て～する	「副詞節」
er エア pron 彼は	「主語」
sonntags ソンタークス adv. 日曜日に	「副詞」
mit mir ミット・ミーア adv. 僕と一緒に	「副詞句」
zum Rennen ツーム・レンネン adv. 競馬に	「間接目的語」
ging. ギング 3 単過(gehen)v.i 行った	「動詞」

ZWEITER TEIL 第2部

しかし、彼は襟をしっかりと留められなかったのだと思う。というのは、銅のボタン 1 個だけでシャツの前を留めていたからだ。

Aber er war wohl mit dem Kragen nicht fertig geworden, weil nur ein Kupferknopf das Hemd vorne zusammenhielt.

Aber 「主語」「動詞句」「副詞」「間接目的語」「補語」, 「副詞節」

Aber アーバー conj. しかし

er エア pron 彼は 「主語」

war ...geworden, ヲール...ゲウオルテン 3 単過・完了形(werden)v.i 〜になった 「動詞句」

mit et-3 fertig werden 「何-3 を片付ける、終える」

wohl ヲール adv. しっかり 「副詞」

mit dem Kragen ミット・デーム・クラーゲン adv. 襟を 「間接目的語」

nicht fertig ニヒト・フェアチヒ adj. 完成した〜ない 「補語」

weil ヲァイル conj. (理由) 〜なので 「副詞節」

nur ein Kupferknopf ノー・アイン・クッフ・ファー・クノッフ

n.m 銅のボタン 1 つだけが 「主語」

das Hemd vorne ダス・ヘムト・フォルネ n.n.4 格 シャツの前を 「目的語」

zusammenhielt. ツァ・メンヒールト 3 単過(zusammen | halten)v.t 留めていた 「動詞句」

僕は彼の客だったのかと、彼は尋ねられた。それで彼は答えた：「そうです、でも友人でもあります」

Man fragte ihn, ob ich sein Kunde sei, und er antwortete: «Ja, aber er ist auch mein Freund.»

「主語」「動詞」「間接目的語」「直接目的語」, und 「主語」「動詞」:

《「応答」, aber 「主語」「動詞」「補語」》

Man マン pron 人は 「主語」

受動態に翻訳する

fragte フラケ 3 単過(fragen)v.t (j-4 に) 尋ねた 「動詞」

ihn, イン pron.4 格 彼に 「間接目的語」

ob オッフ conj. 〜かどうかを 「直接目的語」

ich イヒ pron 僕は 「主語」

sein Kunde サイン・クンデ n.m 彼の客 「補語」

sei, サイ 接・1 単現(sein)v.i 〜である 「動詞」

und ウント conj. そして

er エア pron 彼は 「主語」

antwortete: アントウ・アデテ 3 単過(antworten)v.t 答えた 「動詞」

«Ja, ヤー adv. そうです 「応答」

ZWEITER TEIL 第2部

aber アーバー conj. しかし

er エア pron 彼は

「主語」

ist イスト 3 単現(sein)v.i ~である

「動詞」

auch アウ adv. ~もまた

「副詞」

mein Freund. » マイン・フロイント n.m.1 格 友人

「補語」

僕についてどのように思っていますか？彼は答えた、僕は本当の男だ。

Was er über mich denke? Er antwortete, ich sei ein ganzer Kerl.

「目的語」「主語」「副詞句」「動詞」 | 「主語」「動詞」, 「主語」「動詞」「補語」

Was ヴァス pron どのようなことを

「目的語」

er エア pron 彼は

「主語」

über mich ユーバー・ミヒ adv. 僕について

「副詞句」

denke? デンケ 3 単現(denken)v.t 思う

「動詞」

Er エア pron 彼は

「主語」

antwortete, アントヴェアテ 3 単過(antworten)v.t 答えた

「動詞」

ich イヒ pron 僕は

「主語」

sei サイ 接・1 単現(sein)v.i ~である

「動詞」

ein ganzer Kerl. アイン・ガンザー・カール n.m 本物の男

「補語」

それはどういう意味ですか？彼は答えた、そのことは誰でも知っている。僕が非常に無口なことに、彼は気付かなかったのだろうか？

Was er damit meine? Er sagte, das wisse doch jeder. Ob er nicht bemerkt habe, daß ich sehr verschlossen sei?

「目的語」「主語」「副詞」「動詞」 | 「主語」「動詞」, 「目的語」「動詞」「主語」

Ob 「主語」「動詞句」「目的語」

Was ヴァス pron 何を

「目的語」

er エア pron 彼は

「主語」

damit ダミット adv. (手段) そのことで

「副詞」

meine? マイネ 3 単現(meinen)v.t 言う、意味する

「動詞」

Er エア pron 彼は

「主語」

sagte, サークテ 3 単過(sagen)v.t 言った

「動詞」

das ダス pron それを

「目的語」

wisse ヴァイツェ 接・3 単現(wissen)v.t 分かる

「動詞」

doch jeder. ドツホ・イエーダ- pron 誰でも

「主語」

Ob オップ conj. ~だろうか

er エア pron 彼は

「主語」

ZWEITER TEIL 第2部

nicht bemerkt habe, ニヒト・ヘ マクト・ハーベ 3 単現・完了形・否定(bemerken)

v.t 気付いていなかった

「動詞句」

daß ダス conj. ～ということを

「目的語」

ich イヒ pron 僕は

「主語」

sehr verschlossen セーア・フェアシュロッセン adj. 非常に無口な

「補語」

sei? 接・1 単現(sein)v.i ～である

「動詞」

僕は話すことが無ければ話さないという事は、彼も認めた。

Er gab zu, daß ich nicht spräche, wenn ich nichts zu sagen hätte.

「主語」「動詞句」「目的語」

Er エア pron 彼は

「主語」

gab zu, ガーフ・ツー 3 単過(zu | geben)v.t 認めた

「動詞句」

daß ダス conj. ～ということを

「目的語」

ich イヒ pron 僕は

「主語」

nicht spräche, ニヒト・シュプ° レーヒエ 接 II・1 単現・否定(sprechen)v.i 話さない

「動詞句」

wenn ウェン conj. ～する時に

「副詞節」

ich イヒ pron 僕が

「主語」

nichts ニツ pron 何も～ない

「目的語」

zu sagen ツー・ザーゲン 不定詞・目的 adj. 話すべき

「形容詞句」

hätte. ヘッテ 接 II・1 単現(haben)v.t ～がある

「動詞」

検事は、僕が食事代をきちんを払っているかと彼に尋ねた。

Der Rechtsanwalt fragte ihn, ob ich meine Pension regelmäßig bezahle.

「主語」「動詞」「間接目的語」「直接目的語」

Der Rechtsanwalt デア・レヒツアンワルト n.m 弁護士は

「主語」

fragte フラクテ 3 単過(fragen)v.t(j-4 に) 尋ねた

「動詞」

ihn, イン pron.4 格 彼に

「間接目的語」

ob オッフ° conj. ～かどうかを

「直接目的語」

ich イヒ pron 僕は

「主語」

meine Pension マイネ・ペンシオン n.f 食事代を

「目的語」

regelmäßig レーゲルメーシヒ adv. いつも、規則正しく

「副詞」

bezahle. ベツァーレ 接・1 単現(bezahlen)v.t 支払う

「動詞」

フランス語の原文では：

検事は彼に、僕が食事代をきちんと払っていたか、と尋ねた。

L'avocat général lui a demandé si je payais régulièrement ma pension.

ZWEITER TEIL 第2部

セレステは笑って、言った：「それは我々には些細なことだ」

Celeste lachte und erklärte: «Das machen wir unter uns aus.»

「主語」「動詞」und「動詞」：《「目的語」「動詞」「主語」「副詞句」》

Celeste セルステ n.m セレステは 「主語」

lachte ラハテ 3 単過(lachen)v.i 笑った 「動詞」

und ウント conj. そして

erklärte: エアクレアテ 3 単過(erkklären)v.t 説明した 「動詞」

«Das ダス pron.4 格 それを 「目的語」

machen マヘン 1 複現 v.t やる 「動詞」

wir ヴァー pron 我々は 「主語」

unter uns aus.» ウンター・ウス・アウス adv. 我々の間で 「副詞句」

フランス語の原文では：

セレステは笑みを浮かべて、きっぱりと言った：「そんな事は、我々には些細なことだ」

Céleste a ri et il a déclaré: «C'étaient des détails entre nous.»

それから検事は、僕の犯罪についてどう思うかとさらに彼に尋ねた。

Dann fragte man ihn noch, wie er über mein Verbrechen denke.

「副詞」「動詞」「主語」「間接目的語」「副詞」「直接目的語」

Dann ダン adv. そして、それから 「副詞」

fragte フラケ 3 単過(fragen)v.t 尋ねた 「動詞」

man マン pron 検事は 「主語」

ihn イン pron.4 格 彼に 「間接目的語」

noch, ノッホ adv. さらに 「副詞」

wie ヴァー adv. どのように～するかを 「直接目的語」

er エア pron 彼は 「主語」

über mein Verbrechen ユーバー・マイン・フェアブレヒェン

adv. 僕の犯罪について

「間接目的語」

denke. デンケ 接・3 単現(denken)v.i 思う 「動詞」

彼は証言席の柵に両手を置いた。彼が何かを準備してきたように思われた。

Er legte die Hände auf das Geländer des Zeugenstandes, und man sah, daß er etwas vorbereitet hatte.

「主語」「動詞」「目的語」「副詞句」,und「主語」「動詞」「目的語」

Er エア pron 彼は 「主語」

legte レーケ 3 単過(legen)v.t 置いた 「動詞」

ZWEITER TEIL 第2部

die Hände テー・ヘンデ pl(Hand).n.f 両手を	「目的語」
auf das Geländer アウフ・ダス・ゲレンダー adv. 柵の上に、手すりの上に	「副詞句」
des Zeugenstandes, デス・オイゲンシュタンデス n.m.2 格 証言席の	「形容詞句」
und ウント conj. そして	
man マン pron 人は	「主語」
sah, サー 3 単過(sehen)v.t 思った、分かった	「動詞」
daß ダス conj. ～ということが	「目的語」
er エア pron 彼は	「主語」
etwas エトワース pron 何かを	「目的語」
vorbereitet hatte. フォアベライテット・ハッテ 3 単過・完了形(vorbereiten)	
v.t 準備していた	「動詞句」

セレステは言った：「私にとって、それは不運です。誰でも、不運が何かを分かっています。それに対して、人は成す術がないのです。そうです、私にとってそれは不運なのです」

Er sagte: «Für mich ist es ein Unglück. Jeder weiß, was ein Unglück ist. Dagegen ist man machtlos. Ja, für mich ist es ein Unglück.»

「主語」「動詞」：《「副詞句」「動詞」「主語」「補語」 | 「主語」「動詞」「目的語」「副詞」「動詞」「主語」「補語」 | 「副詞句」「動詞」「主語」「補語」》

Er エア pron セレステは	「主語」
sagte: サークテ 3 単過(sagen)v.t 言った	「動詞」
«Für mich フェア・ミヒ adv. 私にとって	「副詞句」
ist イスト 3 単現(sein)v.i ～である	「動詞」
es エス pron それは	「主語」
ein Unglück. アイン・ウングリュック n.n.1 格 不運	「補語」
Jeder イェダー pron 誰もが、誰でも	「主語」
weiß, ヴァイス 3 単現(wissen)v.t 知っている	「動詞」
was ヴァス pron 何が～するかを	「目的語」
ein Unglück アイン・ウングリュック n.n.1 格 不運	「補語」
ist. イスト 3 単現(sein)v.i ～である	「動詞」
Dagegen ダゲーゲン adv. それに対して	「副詞」
ist イスト 3 単現(sein)v.i ～である	「動詞」
man マン pron 人間は	「主語」
machtlos. マハトロス adj. 無力な	「補語」
Ja, ヤー adv. そうです	「副詞」
für mich フェア・ミヒ adv. 私にとって	「副詞句」
ist イスト 3 単現(sein)v.i ～である	「動詞」

ZWEITER TEIL 第2部

es エス pron それは 「主語」
 ein Unglück. » アイン・ウンク・リェック n.n.1 格 不運 「補語」

セレステはまだ話しかかったが、裁判長が十分ですと言って、かれに感謝を伝えた。

Er wollte weitersprechen, aber der Vorsitzende meinte, das..genüge, und dankte ihm.

「主語」「動詞句」, aber 「主語」「動詞」「目的語」, und 「動詞」「間接目的語」

Er エア pron 彼は 「主語」

wollte weitersprechen, ヲォルテ・ウァイター・シェフ・レヒェン 3 単過・願望

(wollen+不定詞 weiter | sprechen)v.i 話し続けたかった 「動詞句」

aber アーバー conj. しかし

der Vorsitzende デア・フォーアジツェンテ n.m 裁判長は 「主語」

meinte, マインテ 3 単過(meinen)v.t 言った 「動詞」

das ダス pron それは〜と 「目的語」

genüge, ゲニューゲ 接・3 単現(genügen)v.i 十分である 「動詞」

und ウント conj. そして

dankte ダンクテ 3 単過(danken)v.i 感謝した 「動詞」

ihm. イム pron.3 格 彼に 「間接目的語」

セレステは少し茫然とした。しかし、彼はまだ話したいことがあると主張した。

Celeste war etwas verduzt. Er erklärte, er hätte noch allerlei zu sagen.

「主語」「動詞」「補語」 | 「主語」「動詞」「目的語」

Celeste セステ n.m セレステは 「主語」

war ヲァール 3 単過(sein)v.i 〜だった 「動詞」

etwas verduzt. エトワァス・フェアト・ウツト adj. 少し茫然とした 「補語」

Er エア pron 彼は 「主語」

erklärte, エアクレアテ 3 単過(erklären)v.t 宣言した 「動詞」

er エア pron 彼は〜することを 「目的語」

hätte ヘッテ 接 II・3 単現(haben)v.t 〜がある 「動詞」

noch allerlei ノッホ・アラーライ pron まだ何か 「目的語」

zu sagen. ツー・サーゲン 不定詞・目的 adj. 言うべき 「形容詞句」

ZWEITER TEIL 第2部

彼は手短に述べるように求められた。彼は再び、あれは不運だったと言った。

Man forderte ihn auf, sich kurz zu fassen. Er sagte noch einmal, daß es sich um ein Unglück handele.

「主語」「動詞句」「間接目的語」 | 「主語」「動詞」「副詞句」「目的語」

Man マン pron 人は

「主語」

受動態に翻訳する

forderte ...auf, フォアデ`アテ...アウフ 3 単過(auf|fordern)v.t(j-4 zu et-3) 要求した 「動詞句」

ihn イン pron.4 格 彼に 「間接目的語」

sich ...zu fassen. ス`ィツヒ...ツ-ファッセン 不定詞・ihn の動作(sich-4 zu fassen)v.pr 述べる 「補語」

kurz クルツ adv. 手短に 「副詞」

Er エア pron 彼は 「主語」

sagte サ-クテ 3 単過(sagen)v.t 言った 「動詞」

noch einmal, ノッホ・アインマル adv. またもや、再び 「副詞句」

daß ダス conj. 〜ということを 「目的語」

es エス pron それは 「主語」

sich ...handele. ス`ィツヒ...ハンデレ 接・3 単現・問題(es handelt sich-4 um et-4)

v.pr 〜の問題である 「動詞句」

um ein Unglück ウム・アイン・ウング`リュック adv. 不運の 「副詞句」

裁判長は返事をした：「はい、あなたのおっしゃる通りです。しかし、そのような不運を判断するために、私たちはここにいます。有難うございました」

Der Vorsitzende erwiderte: «Ja, da haben Sie recht. Aber wir sind dazu da, über diese Art Unglück zu richten. Wir danken Ihnen.»

「主語」「動詞」：《「応答」, 「副詞」「動詞」「主語」「目的語」

Aber 「主語」「動詞」「副詞句」 | 「主語」「動詞」「間接目的語」》

Der Vorsitzende デア・フォアジツツェンテ` n.m 裁判長は 「主語」

erwiderte: エアウ`イーデ`アテ 3 単過(erwidern)v.t 返事した、答えた 「動詞」

«Ja, ヤー adv. はい 「応答」

da ダー adv. そこに 「副詞」

haben ハーベン 3 複現 v.t 〜がある 「動詞」

Sie ジー pron あなたは 「主語」

recht. レヒト n.n.4 格 正当性 「目的語」

Aber アーバー conj. しかし

wir ウ`ィア pron.pl 我々は 「主語」

sind シント 1 複現・存在(sein)v.i いる 「動詞」

dazu da, ダツ-ダー adv. そのためここに 「副詞句」

ZWEITER TEIL 第2部

über diese Art Unglück ユーバー・デー・イーゼ・アールト・ウンク・リュック

adv. このような不運について

「間接目的語」

zu richten ツー・リヒテン zu 不定詞 v.i 判断を下す

「動詞句」

Wir ヴェーア pron.pl 我々は

「主語」

danken ダンケン 1 複現 v.i(j-3 に) 礼を言う

「動詞」

Ihnen. » イーネン pron あなたに

「間接目的語」

セレステは、まるで知恵も知識も尽き果てたというように、僕の方を向いた。

Celeste wandte sich mir zu, als wäre er mit seiner Weisheit und mit seinem guten Wissen am Ende.

「主語」「動詞句」「間接目的語」「動詞句」, 「副詞節」

Celeste セレステ n.m セレステは

「主語」

wandte sich ...zu, ヴァンテ・ズィヒ...ツァー 3 単過(sich-4 j-3 zu | wenden 人-3 の方を)

v.pr 向いた

「動詞句」

mir ミーア pron.3 格 僕のほうを

「間接目的語」

als +接続法 アルス conj. あたかも～かのように

「副詞節」

wäre ヴェーレ 接 II・3 単現・変化(sein)v.i ～になった、～に來た

「動詞」

er エア pron 彼は

「主語」

mit seiner Weisheit ミット・ザ・イアー・ヴァイスハイト adv. 自分の知恵に関して

「副詞句」

und ウント conj. そして

mit seinem guten Wissen ミット・ザ・イネム・グーテン・ヴァッセン adv. 知識に関して

「副詞句」

am Ende. アム・エンデ adv. 終わりに

「副詞句」

mit et-3 am Ende sein 何-3 が尽きている

僕には、まるで彼の目が潤み、唇は震えているように見えた。

Es erschien mir, als ob seine Augen feucht schimmerten, und seine Lippen zitterten.

「動詞」「間接目的語」「主語」

Es エス pron 仮の主語 (真の主語は als ob 以降)

erschien エアシン 3 単過(erscheinen)v.i ～のように見えた

「動詞」

mir, ミーア pron.3 格 僕には

「間接目的語」

als ob アルス・オブ conj. まるで～ということが

「主語」

seine Augen ザ・イネ・アウゲン pl(Auge).n.n 彼の目が

「主語」

feucht フォイト adv. 湿って

「副詞」

schimmerten, シマアテン 3 複過・時制の一致(schimmern)v.i 光っている

「動詞」

und ウント conj. そして

seine Lippen ザ・イネ・リッペン pl(Lippe).n.f 彼の唇が

「主語」

ZWEITER TEIL 第2部

zitterten. ツィーテレン 3 複過・時制の一致(zittern)v.i 震えている

「動詞」

彼が僕のために、他に何が出来るかと問いかけているように思われた。

Es sah so aus, als fragte er mich, was er noch für mich tun könne.

「動詞句」「主語」

Es エス pron 仮の主語（真の主語は als 以降）

sah so aus, ザー・ゾー・アウス 3 単過(aus | sehen+so)v.i そのように見えた

「動詞句」

als アルス conj. まるで～することが

「主語」

fragte フラクテ 3 単過(fragen)v.t(j-4 に) 尋ねた

「動詞」

er エア pron 彼は

「主語」

mich, ミッヒ pron.4 格 僕に

「間接目的語」

was ヴァス pron 何を～するかを

「直接目的語」

er エア pron 彼は

「主語」

noch ノッホ adv. さらに、他に

「副詞」

für mich フューア・ミッヒ adv. 僕のために

「副詞句」

tun könne. トゥン・ケンネ 接・3 単現・可能(können+不定詞 tun)

v.t できる

「動詞句」

僕は何も言わなかったし、どんな身振りもしなかった。しかし人生で初めて、一人の男を抱きしめたいと思った。

Ich sagte nichts, ich machte auch keine Bewegung, aber zum erstenmal in meinem Leben hatte ich das Verlangen, einen Mann zu umarmen.「主語」「動詞」「目的語」, 「主語」「動詞」「目的語」,
aber 「副詞句」「動詞」「主語」「目的語」

Ich イッヒ pron 僕は

「主語」

sagte ザークテ 3 単過(sagen)v.t 言った

「動詞」

nichts, ニヒツ pron.4 格 何も～ない

「目的語」

ich イッヒ pron 僕は

「主語」

machte マハテ 1 単過(machen)v.t (動作を) した

「動詞」

auch アウフ adv. ～も

「副詞」

keine Bewegung, カイネ・ベヴエーグUNG n.f.4 格 どんな身振りも～ない

「目的語」

aber アーバー conj. しかし

zum erstenmal ツーム・エアステン・マル adv. 初めて

「副詞句」

in meinem Leben イン・マイネム・レーベン adv. 人生で

「副詞句」

hatte ハッテ 1 単過(haben)v.t ～を持った

「動詞」

ich イッヒ pron 僕は

「主語」

ZWEITER TEIL 第2部

das Verlangen, ダス・フェアランゲン n.n.4 格 願望を、要求を 「目的語」
einen Mann zu umarmen. アイネン・マン・ツウ・ウムアルメン zu 不定句(同格)

adj. 一人の男を抱きしめるという 「形容詞句」

zu 不定句

名詞句として「～すること」の他に、形容詞句として「～することの」とか「～すべき」、
「～という」などの意味になって名詞を規定することがあります。

Er hatte keinen Mut, ihr die Wahrheit zu sagen.

彼は彼女に本当のことを言う勇気がなかった。

Sein Wunsch, Medizin zu studieren, hat sich endlich erfüllt.

医学を研究しようという彼の望みは、とうとう実現した。

Seine Behauptung, davon nichts gewußt zu haben, ist unglaublich.

それについては何も知らなかったという彼の主張は、疑わしい。

裁判長は再び彼に証人席から離れるようにと、求めた。

Der Vorsitzende forderte ihn noch einmal auf, den Zeugenstand zu verlassen.

「主語」「動詞句」「間接目的語」「副詞句」「動詞句」, 「直接目的語」

Der Vorsitzende デア・フォアジツェンテ n.m 裁判長は 「主語」

forderte ...auf, フォア デアテ...アウフ 3 単過(auf| firdern)v.t(j-4 zu et-4) 求めた 「動詞句」

ihn イン pron.4 格 彼に 「間接目的語」

noch einmal ノッホ・アインマル adv. 再び 「副詞句」

zu 不定句 ～することを 「直接目的語」

den Zeugenstand デン・ツォイゲンシュタント n.m.4 格 証人席から 「副詞句」

zu verlassen. ツー・フェアラッセン zu 不定詞 v.t(et-4 から) 去る 「動詞句」

セレステは再び傍聴席へ戻った。

Celeste begab sich wieder in den Zuschauerraum.

「主語」「動詞句」「副詞」「間接目的語」

Celeste セステ n.m セレステは 「主語」

begab sich ベカ-プ・スィッヒ 3 単過(sich-4 begeben)v.pr ～へ行った、戻った 「動詞句」

wieder ウィーダー adv. 再び 「副詞」

in den Zuschauerraum. イン・デン・ツァウエラウム adv. 傍聴席へ 「間接目的語」

ZWEITER TEIL 第2部

裁判の間中ずっと、彼は少し前屈みになり、肘を膝に載せ、両手にパナマ帽を持って、何が話されるのかを注意深く聞いていた。

Während der ganzen Verhandlung blieb er da, ein wenig nach vorn geneigt, die Ellbogen auf den Knien, den Panama in den Händen, und hörte genau zu, was gesagt wurde.

「副詞句」「動詞句」「主語」「動詞句」,「副詞句」,und
「動詞句」「副詞」「動詞句」「間接目的語」

Während ウェーレント prep(2格と) ~の間中 「副詞句」
der ganzen Verhandlung デア・ガントヴェン・フェアハントルンク n.f.2格 裁判 「目的語」
blieb ...da, ブリープ ...ダー 3単過(da|bleiben)v.i 立ち去らずにいた 「動詞句」
er エア pron 彼は 「主語」
ein wenig アイン・ウーニヒ adv. 少し 「副詞句」
nach vorn ナーハ・フォアン adv. 前に 「副詞句」
geneigt, ゲナイクト adv. (様態) 傾いて 「副詞句」
die Ellbogen デー・エルボヘン pl.pron.4格 (様態) 肘を 「目的語」
auf den Knien, アウフ・デーン・クニーン adv. 膝の上に 「副詞句」
den Panama デン・パナマ n.m.4格 パナマ帽を 「目的語」
in den Händen, イン・デーン・ハンデーン adv. 手に持って 「副詞句」
und ウント conj. そして
hörte ...zu, ヘアテ...ツ 3単過(zu|hören)v.i 耳を傾けていた 「動詞句」
genau ゲナウ adv. しっかりと 「副詞」
was ウアス pron 何が~するかを 「間接目的語」
gesagt wurde. ゲザート・ウルテ 3単過・受動(werden+過去分詞 sagen)
v.t 話される 「動詞句」

その時、マリーが現れた。彼女は帽子をかぶっていて、相変わらず美しかった。それでもどちらかと言えば、帽子を被っていないほうが好きだ。

Dann kam Maria. Sie trug einen Hut und war immer noch schön. Aber ohne Hut mochte ich sie lieber.

「副詞」「動詞」「主語」 | 「主語」「動詞」「目的語」 und 「動詞」「補語」

Aber 「副詞句」「動詞」「主語」「目的語」「副詞」

Dann ダン adv. その時 「副詞」
kam カム 3単過(kommen)v.i 現れた、やって来た 「動詞」
Maria. マリア n.f マリーが 「主語」
Sie ジー pron.f 彼女は 「主語」
trug トゥルク 3単過(tragen)v.t 身につけていた 「動詞」
einen Hut アイネン・フット n.m.4格 帽子 「目的語」

ZWEITER TEIL 第2部

und	ウント conj.	そして	
war	ヴァール 3 単過(sein)v.i	～ だった	「動詞」
immer noch schön.	イマー・ノッホ・シェン adj.	相変わらず美しい	「補語」
Aber	アーバー conj.	しかし	
ohne Hut	オーネ・フート adv.(様態)	帽子を被っていない	「副詞句」
mochte	モッテ 1 単過・時制の一致(mögen)v.t	好きである	「動詞」
ich	イッヒ pron	僕は	「主語」
sie	ジー pron.4 格	彼女を	「目的語」
lieber.	リーバー adv.	むしろ	「副詞」

僕の座席から、彼女の胸の微かな重みを窺う事が出来た。そしていつも少し腫れ気味の下唇にも気づいた。

Von meinem Platz aus ahnte ich das leichte Gewicht ihrer Brüste, und ich erkannte ihre immer etwas geschwollene Unterlippe.

「副詞句」「動詞」「主語」「目的語」, und 「主語」「動詞」「目的語」

Von meinem Platz aus	フォン・マイネム・プラッツ・アウス adv.	僕の座席から	「副詞句」
ahnte	アーンテ 1 単過(ahnen)v.t	窺う事が出来た、予感した	「動詞」
ich	イッヒ pron	僕は	「主語」
das leichte Gewicht	ダス・ライヒテ・ゲウィヒト n.n.4 格	かすかな重さを	「目的語」
ihrer Brüste,	イーナー・ブルステ pl(Brust)n.f.2 格	彼女の胸の	「形容詞句」
und	ウント conj.	そして	
ich	イッヒ pron	僕は	「主語」
erkannte	エアカンテ 1 単過(erkennen)v.t	見分けられた。気付いた	「動詞」
ihre immer etwas geschwollene	イーレ・イマー・エトワ・アス・ゲ・シュワ・ォレーネ adj(geschwollen).f	いつも少し腫れ気味の	「形容詞句」
Unterlippe.	ウンテルリペ n.f.4 格	下唇	「目的語」

彼女は非常に神経質になっているように見えた。彼女はすぐに、僕とはいつ知り合ったのかと尋ねられた。

Sie schien sehr nervös. Man fragte sie gleich, seit wann sie mich kenne.

「主語」「動詞」「補語」 | 「主語」「動詞」「間接目的語」「副詞」, 「直接目的語」

Sie	ジー pron.f	彼女は	「主語」
schien	シェン 3 単過(scheinen)v.i	(状態が) ～のように見えた	「動詞」
sehr nervös.	ゼーア・ネルヴ・ォース adj.	非常に神経質な	「補語」
Man	マン pron	人は	「主語」
受動態に翻訳する			

ZWEITER TEIL 第2部

fragte フラケ 3 単過(fragen)v.t(j-4 に) 尋ねた	「動詞」
sie ジー pron.f.4 格 彼女に	「間接目的語」
gleich, グライ化 adv. すぐに	「副詞」
seit wann ザイト・ヴァン adv. いつから～するかを	「直接目的語」
sie ジー pron.1 格 彼女は	「主語」
mich ミッヒ pron.4 格 僕を	「目的語」
kenne. ケネ 接・3 単現(kennen)v.t 知っている	「動詞」

彼女は僕たちの会社で働いていた時の事を話した。裁判長は僕たちの関係についての詳細を尋ねた。

Sie nannte die Zeit, als sie bei uns arbeitete. Der Vorsitzende wollte Genaueres über unsere Beziehungen wissen.

	「主語」「動詞」「目的語」 「主語」「動詞句」「目的語」「副詞句」
Sie ジー pron.f 彼女は	「主語」
nannte ナンテ 3 単過(nennen)v.t 言った	「動詞」
die Zeit, ディー・ツァイト n.f.4 格 その時を	「目的語」
als アルス conj. ～した	「副詞節」
sie ジー pron 彼女が	「主語」
bei バイ prep (3 格と) ～の傍で	「副詞句」
uns ウンス pron.3 格 僕たち	「目的語」
arbeitete. アルバ イテ 3 単過(arbeiten)v.i 働いていた	「動詞」
Der Vorsitzende デア・フォーアジツェンテ n.m 裁判長は	「主語」
wollte ...wissen. ヴォルテ...ヴォッセン 3 単過・願望(wollen+不定詞 wissen)	
v.t 知りたがった、尋ねた	「動詞句」
Genaueres ゲナウエレス pron(genau の比較級を名詞化) 詳細を	「目的語」
über unsere Beziehungen ユーバー・ウンゼレ・ベジークンゲン adv. 僕たちの関係について	「副詞句」

彼女は、僕の友人だと答えた。別の質問には、僕たちが結婚するつもりだったというのは本当ですと答えた。

Sie antwortete, sie sei meine Freundin. Auf eine andere Frage antwortete sie, es sei richtig, wir wollten heiraten.

	「主語」「動詞」, 「主語」「動詞」「補語」
	「副詞句」「動詞」「主語」「動詞」「補語」「主語」
Sie ジー pron.f 彼女は	「主語」
antwortete, アントヴ ァテ 3 単過(antworten)v.t 答えた	「動詞」
sie ジー pron.f 彼女は	「主語」

ZWEITER TEIL 第2部

sei ザイ 接・3 単現(sein)v.i ~である	「動詞」
meine Freundin. マイネ・フロインデイン n.f 僕の友人	「補語」
Auf eine andere Frage アウフ・アイネ・アンデレ・フラーゲ adv. 別の質問に対して	「副詞句」
antwortete アントワァテテ 3 単過(antworten)v.t 答えた	「動詞」
sie, シー pron.f 彼女は	「主語」
es エス pron 仮の主語 (真の主語は wir 以降)	
sei ザイ 接・3 単現(sein)v.i ~である	「動詞」
richtig, リヒヒ adj. 本当の	「補語」
wir ヲィア pron.pl 僕たちが~することは	「主語」
wollten heiraten. ヲォルテン・ハイラテン 1 複過・意思(wollen+不定詞 heiraten)	
v.t 結婚するつもりだった	「動詞句」

書類に目を通していた検事が突然彼女に、僕たちはいつから友人なのかと尋ねた。

Der Staatsanwalt, der in seinen Akten blätterte, fragte sie plötzlich, seit wann wir miteinander befreundet seien.

	「主語」「動詞」「間接目的語」「副詞」, 「副詞句」「主語」「補語」「動詞」
Der Staatsanwalt, デア・シュターツアンワァルト n.m 検事は	「主語」
der デア pron(主語) ~する	「形容詞節」
in seinen Akten イン・ザイネン・アクテン adv. 書類を	「間接目的語」
blätterte, ブレッターテ 3 単過(blättern)	
v.i(inet-3 を) ぱらぱらとめくっていた	「動詞」
fragte フラケ 3 単過(fragen)v.t(j-4 に) 尋ねた	「動詞」
sie シー pron.f.4 格 彼女に	「間接目的語」
plötzlich, プレツツヒ adv. 突然	「副詞」
seit wann ザイト・ヴァン adv. いつから	「副詞句」
wir ヲィア pron.pl 僕たちは	「主語」
miteinander befreundet ミットアインダー・ベフロインデット adj. お互いに親しい	「補語」
seien. ザイエン 接・1 複現(sein)v.i ~である	「動詞」

彼女はその日付を答えた。検事は、何気ない顔つきで、それは母さんが死んだ翌日のようだが、と確認した。

Sie nannte das Datum. Der Staatsanwalt stellte mit gleichgültigem Gesicht fest, das sei doch wohl der Tag nach Mamas Tod.

	「主語」「動詞」「目的語」 「主語」「動詞句」「副詞句」「目的語」
Sie シー pron.f 彼女は	「主語」
nannte ナンテ 3 単過(nennen)v.t 言った	「動詞」

ZWEITER TEIL 第2部

das Datum. ダス・ダーツム n.n.4 格 その日付を	「目的語」
Der Staatsanwalt デア・シュターツァンワルト n.m 検事は	「主語」
stellte ...fest, シュテルテ...フェスト 3 単過(fest stellen)v.t 確認した	「動詞句」
mit gleichgültigem Gesicht ミットグライヒグライヒグリュチゲン・ゲジヒト adv. (手段) 無関心な表情で	「副詞句」
das ダス conj. ～ということを	「目的語」
sei サイ 接・3 単現(sein)v.i ～である	「動詞」
doch wohl ドッホ・ウォール adv. しかし恐らく	「副詞句」
der Tag デア・ターク n.m その日	「補語」
nach Mamas Tod. ナハ・ママス・トット adv. 母さんの死の次の	「副詞句」

それから彼は皮肉っぽく、これ以上デリケートな事にこだわりたくない、マリーのためらいは理解できる、しかし（ここで彼の声が一段と厳しくなった）あらゆる礼儀を乗り越えることが自分の義務であると、言った。

Dann sagte er ziemlich ironisch, er möchte bei den delikaten Dingen nicht länger verweilen und verstehe durchaus Marias Skrupel, aber (hier wurde seine Stimme härter) es sei seine Pflicht, sich über alle Schicklichkeit hinwegzusetzen.

「副詞」「動詞」「主語」「副詞句」,

「主語」「動詞句」「間接目的語」「副詞句」「動詞句」

und 「動詞」「副詞」「目的語」, aber (「副詞」「動詞」「主語」「補語」)

「動詞」「補語」「主語」

Dann ダン adv. それから	「副詞」
sagte サークテ 3 単過(sagen)v.t 言った	「動詞」
er エア pron 彼は	「主語」
ziemlich ironisch, ツィームリヒ・イローニッシュ adv. かなり皮肉っぽく	「副詞句」
er エア pron 彼は	「主語」
möchte ...verweilen メヒテ...フェアヴァイレン 接 II・3 単現・願望・否定(mögen+不定詞 verweilen) v.i(bei に) こだわりたくない	「動詞句」
bei den delikaten Dingen バイ・デテン・デリカテン・ディンゲン adv. デリケートな事に「間接目的語」	
nicht länger ニヒト・レンガー adv. これ以上～ない	「副詞句」
und ウント conj. そして	
verstehe フェアシュテエ 接・3 単現(verstehen)v.t 理解する	「動詞」
durchaus ドゥアルヒアウス adv. 十分に	「副詞」
Marias Skrupel, マリアス・スクルペル n.m.4 格 マリーのためらいを	「目的語」
aber アーバー conj. しかし	
(hier ヒア adv. ここで	「副詞」

ZWEITER TEIL 第2部

wurde ^{ウルデ} 3 単過・変化(werden)v.i 〜になった	「動詞」
seine Stimme ^{ザイネ・シュティメ} n.f 彼の声が	「主語」
härter) ^{ヘルター} adj. (比較級) より厳しく	「補語」
es ^{エス} pron 仮の主語 (真の主語は sich 以降)	
sei ^{ザイ} 接・1 単現(sein)v.i 〜である	「動詞」
seine Pflicht, ^{ザイネ・プフリヒト} n.f.1 格 彼の義務	「補語」
sich ...hinwegzusetzen. ^{ズィヒヒ...ヒンウエーク・ツェ・ゼッツェン} zu 不定詞(sich-4 hinweg setzen)	
n. 飛び越える事は	「主語」
über alle Schicklichkeit ^{ユーバー・アレ・シックリヒカイト} adv. 礼儀の上に	「副詞句」

そこで彼は、僕がマリーと知り合った日のことを正確に述べるように求めた。

Er forderte also Maria auf, den Tag, an dem ich sie kennenlernte, genau zu schildern.

「主語」「動詞句」「副詞」「目的語」「動詞句」, 「補語」

Er ^{エア} pron 彼は	「主語」
forderte ...auf, ^{フォアテアテ...アウフ} 3 単過(auf fordern)v.t 要請した、求めた	「動詞句」
also ^{アルゾー} adv. そこで	「副詞」
Maria ^{マリア} n.f.4 格マリーに	「目的語」
den Tag, ^{デーン・ターク} n.m.4 格 その日の事を	「目的語」
schildern の「目的語」	
an dem ^{アン・デーム} adv. その時に〜する	「副詞節」
ich ^{イヒ} pron 僕が	「主語」
sie ^{ジー} pron.f 彼女と	「目的語」
kennenlernte, ^{ケネン・レアンテ} 1 単過(kennen lernen)	
v.t(j-4 と) 知り合った	「動詞句」
genau zu schildern. ^{ゲナウ・ツェ・シルダーン} zu 不定句・Maria の動作	
v.t 正確に述べる	「補語」

マリーは話そうとしなかったが、検事が彼女に強く求めた結果、やっと彼女は海水浴に行った事、映画館に行った事、そして僕の部屋に戻ったことなどを話した。

Maria wollte nicht sprechen, aber der Staatsanwalt drang derart in sie, daß sie schließlich über unser Bad, den Besuch im Kino und die Heimkehr zu mir berichtete.

「主語」「動詞句」, aber 「主語」「動詞句」「間接目的語」,

daß 「主語」「副詞」「間接目的語」「動詞」

Maria ^{マリア} n.f マリーは	「主語」
wollte nicht sprechen, ^{ヴォルテ・ニヒト・シュプレッヒェン} 3 単過・願望・否定(wollen+不定詞 sprechen)	
v.i 話しながらなかった	「動詞句」

ZWEITER TEIL 第2部

aber アーバー conj. しかし	
der Staatsanwalt デア・シュターツァンハルト n.m 検事は	「主語」
drang derart ドラング・デアラート 3 単過(dringen+ derart)v.i(in j-4 に) 厳しく求めた	「動詞句」
in sie, イン・シー adv. 彼女に	「間接目的語」
daß ダス conj. (結果) その結果～	
sie シー pron.f 彼女は	「主語」
schließlich シュリースリヒ adv. やっと	「副詞」
über ユーバー prep (対象) (3 格または 4 格と) ～について	「間接目的語」
unser Bad, ウンザー・バート n.n.4 格 (移動) 海水浴に行った	「目的語」
den Besuch デン・ベズーフ n.m.4 格 行ったこと	「目的語」
im Kino イム・キノ adv. 映画館に	「副詞句」
und ウント conj. そして	
die Heimkehr デー・ハイムケル n.f.4 格 帰宅	「目的語」
zu mir ツー・ミーア adv. 僕の部屋に	「副詞句」
berichtete. ベリヒテテ 3 単過(berichten)v.i 話した	「動詞」

検事は、予審判事に対するマリーの供述に基づいて、問題の日の映画館のプログラムにざっと目を通したと述べた。

Der Staatsanwalt bemerkte, er habe auf Grund von Marias Aussagen vor dem Untersuchungsrichter die Kinoprogramme an dem fraglichen Tag durchgesehen.

	「主語」「動詞」, 「主語」「動詞句」「副詞句」「目的語」「動詞句」
Der Staatsanwalt デア・シュターツァンハルト n.m 検事は	「主語」
bemerkte, ベマクテ 3 単過(bemerken)v.t 述べた	「動詞」
er エア pron 彼は	「主語」
habe... durchgesehen. ハーベ...トウルヒ・ゲ・セーエン 3 単現・完了形(durch sehen)	
v.t ざっと目を通した	「動詞句」
auf Grund アウフ・グント adv.(+von et-3 何-3 に) 基づいて	「副詞句」
von Marias Aussagen フォン・マリアス・アウスザーゲン adv. マリーの供述	「間接目的語」
vor dem Untersuchungsrichter フォア・デーム・ウンターズーフンクスリヒター	
adv. (対象) 予審判事に対して	「副詞句」
die Kinoprogramme デー・キノプログラム	
pl(Kinoprogramm).n.n.4 格 映画のプログラムを	「目的語」
an dem fraglichen Tag アン・デーム・フラークリヒェン・ターク adv. 問題の日の	「副詞句」

ZWEITER TEIL 第2部

彼は付け加えた。その時僕たちがどんな映画を見たかを、マリー自身が話して欲しい。ほとんど抑揚のない声で、それはフェルナンデルが出演する映画だったと彼女は漏らした。

Er fügte hinzu, Maria solle nun selber sagen, welchen Film wir damals gesehen haben. Fast tonlos verriet sie, es sei ein Film mit Fernandel gewesen.

「主語」「動詞句」, 「主語」「動詞句」「副詞句」「目的語」「動詞句」,

「目的語」「主語」「副詞」「動詞句」

「副詞句」「動詞」「主語」, 「主語」「動詞句」「補語」

Er エア pron 彼は 「主語」
 fügte hinzu, フュクテ・ヒンツァ 3 単過(hinzu | fügen)v.t 付け加えた 「動詞句」
 Maria マリア n.f マリーが 「主語」
 solle ...sagen, ソレ...ザーゲン 接・3 単現・話者の意思(sollen+不定詞 sagen)
 v.t 言って欲しい 「動詞句」
 nun selber ヌン・ゼルバー adv. 自分自身で 「副詞句」
 welchen Film ヴェルヘン・フィルム n.m どんな映画を 「目的語」
 wir ヴィア pron 僕たちが 「主語」
 damals ダーマルス adv. その時 「副詞」
 gesehen haben. ゲゼーエン・ハーベン 1 複現・完了形(sehen)v.t 見た 「動詞句」
 Fast tonlos ファスト・トンロース adv.(手段) ほとんど抑揚のない声で 「副詞句」
 verriet ヴェリート 3 単過(vwrratenv.t)v.t 漏らした 「動詞」
 sie, シー pron.f 彼女は 「主語」
 es エス pron それは 「主語」
 sei ...gewesen. サイ...ゲウェゼン 接・3 単現・完了形(sein)v.i 〜だった 「動詞句」
 ein Film イン・フィルム n.m 映画 「補語」
 mit Fernandel ミットフェルナンデル adv. フェルナンデルの出演する 「副詞句」

彼女が発言を終えると、法廷内には深い沈黙が広まっていた。

Als sie mit ihrer Aussage fertig war, herrschte tiefe Stille im Saal.

「副詞節」, 「動詞」「主語」「副詞句」

Als アルス conj. 〜した時 「副詞節」
 sie シー pron 彼女が 「主語」
 mit ihrer Aussage ミット・イーラー・アウスザーゲ adv. 彼女の発言が 「間接目的語」
 fertig フェアティヒ adj.(mit et-3 が) 終わった 「補語」
 war, ヴァール 3 単過(sein)v.i 〜だった 「動詞」
 herrschte ヘアシュテ 3 単過(herrschen)v.i 蔓延した、支配した 「動詞」
 tiefe Stille ティーフェ・シュティレ n.f 深い沈黙が 「主語」
 im Saal. イム・ザール adv. 法廷内は 「副詞句」

ZWEITER TEIL 第2部

ここで検事はとても真剣な表情で立ち上がり、僕を指差し、僕には感極まったと思われる声で、ゆっくりとそしてはっきりと言った：

Sehr ernst erhob sich jetzt der Staatsanwalt, und mit einer Stimme, in der ich echte Erregung spürte, sagte er, wobei er mit dem Finger auf mich zeigte, langsam und deutlich:

	「副詞句」「動詞句」「副詞」「主語」,und「副詞句」,
	「動詞」「主語」,「副詞」「主語」「副詞句」「動詞」,「副詞句」
Sehr ernst	ゼーア・エ Ernst adv. とても真剣に 「副詞句」
erhob sich	エーホフ・ス イヒ 3 単過(sich-4 erheben)v.pr 立ち上がった 「動詞句」
jetzt	イエツト adv. 今、ここで 「副詞」
der Staatsanwalt,	デア・シュターツァンワルト n.m 検事が 「主語」
und	ウント conj. そして
mit einer Stimme,	ミット・アイー・シュティメ adv. (手段) 声で 「副詞句」
in der	イン・デア adv. その中に～する 「形容詞節」
ich	イヒ pron 僕は 「主語」
echte Erregung	エヒテ・エルゲング n.f 本当の興奮 「目的語」
spürte,	シュビ ュアテ 1 単過(spüren)v.t 感じた 「動詞」
sagte	サーケテ 3 単過(sagen)v.t 言った 「動詞」
er,	エ pron 彼は 「主語」
wobei	ウーバイ adv. そこで 「副詞」
er	エ pron 彼は 「主語」
mit dem Finger	ミット・デーム・フィンガー adv. (手段) 指で 「副詞句」
auf mich	アウフ・ミヒ adv. 僕に 「副詞句」
zeigte,	ツァイケテ 3 単過(zeigen)v.t 指し示した 「動詞」
langsam	ラングザーム adv. ゆっくりと 「副詞」
und	ウント conj. そして
deutlich:	ドイトリヒ adv. はっきりと 「副詞」

ZWEITER TEIL 第2部

「陪審員のみなさん、この男は、母親の死の翌日に海水浴に行き、恋愛関係を開始して、映画館で喜劇映画を見て笑っていたのです。それに、付け加える事は何もありません」

«Meine Herren Geschworenen, am Tage nach dem Tod seiner Mutter ging dieser Mann zum Baden, fing eine Liebschaft an und lachte im Kino über einen lustigen Film. Dem habe ich nichts hinzuzufügen.»

《「呼びかけ」, 「副詞句」「動詞」「主語」「間接目的語」 und

「動詞」「副詞句」「間接目的語」 | 「間接目的語」「動詞」「主語」「直接目的語」》

«Meine Herren Geschworenen, マイネ・ヘアレン・ゲ・シュウ・オレネン

pl(Geschworen)n. 陪審員の皆さん

「呼びかけ」

am Tage アム・ターゲ adv. ある日に

「副詞句」

nach dem Tod ナーハ・デー・ム・ト adv. 死の後の

「副詞句」

seiner Mutter サイ・アー・ムター adj. 母親の

「形容詞句」

ging キング 3 単過(gehen)v.i 行った

「動詞」

dieser Mann デイ・サー・マン n.m この男は

「主語」

zum Baden, ツム・ハー・テン adv. 海水浴に

「間接目的語」

fing ...an フィング ...アン 3 単過(an|fangen)v.t 始めた

「動詞句」

eine Liebschaft アイネ・リープ・シャフト n .f 恋愛関係を

「目的語」

und ウント conj. そして

lachte ラハテ 3 単過(lachen)v.i 笑った

「動詞」

im Kino イムキノ adv. 映画館で

「副詞句」

über einen lustigen Film. ユーバー・アイネ・ルスチゲン・フィルム

adv. 面白い映画について

「間接目的語」

Dem デーム pron.3 格 それに

「間接目的語」

habe ハーベ 1 単現(haben)v.t 〜がある

「動詞」

ich イッヒ pron 私

「主語」

nichts ニヒツ pron.4 格 何も〜ない

「直接目的語」

hinzuzufügen.» ヒンツウツー・フュゲン zu 不定詞(hinzu|fügen)・目的

adj. 付け加えるべき

「形容詞句」

ZWEITER TEIL 第2部

彼は座った。法廷内は相変わらず深い静寂に包まれていた。しかし、突然マリーがすすり泣きを始めて、言った。全く違う、そうじゃない全く違うことだ。言いたい事や考えていることとは反対のことを言わせようとしている。自分は僕のことをよく知っている。僕は悪いことは何もしていない。

Er setzte sich, im Saal herrschte immer noch tiefe Stille. Aber plötzlich schluchzte Maria auf und sagte, das sei es ja gar nicht, sondern etwas ganz anderes, man zwingt sie, das Gegenteil von dem zu sagen, was sie denke, sie kenne mich genau, und ich hätte nichts Böses getan.

「主語」「動詞句」、「副詞句」「動詞」「副詞句」「主語」

Aber 「副詞」「動詞句」「主語」 und 「動詞」「目的語」

Er	エア pron	彼は	「主語」	
setzte sich,	ゼッツテ・スィツヒ	3 単過(sich-4 setzen)v.pr	座った	「動詞句」
im Saal	イム・ザール	adv.	法廷内は	「副詞句」
herrschte	ヘアーシュテ	3 単過(herrschen)v.i	蔓延していた	「動詞」
immer noch	イマー・ノッホ	adv.	相変わらず	「副詞句」
tiefe Stille.	ティーフェ・シュティレ	n.f	深い静寂が	「主語」
Aber	アーバー	conj.	しかし	
plötzlich	プ レッツヒ	adv.	突然	「副詞」
schluchzte ...auf	シュルフツテ...アウフ	3 単過(auf schluchzen)v.i	すすり泣いた	「動詞句」
Maria	マリア	n.f	マリーが	「主語」
und	ウント	conj.	そして	
sagte,	ザークテ	3 単過(sagen)v.t	言った	「動詞」
das	ダス	conj.	～ということ	「目的語」
sei	ザイ	接・3 単現(sein)v.i	～である	「動詞」
es	エス	pron	それは	「主語」
ja gar nicht,	ヤー・ガール・ニヒト	adv.	全く違う	「補語」
sondern	ゾンダーン	conj.	～ではなくて	
etwas ganz anderes,	エトワース・ガンツ・アンデレス	pron	全く違うもの	「補語」
man	マン	pron	人が	「主語」
zwingt	ツィンゲ	接・3 単現(zwingen)v.t	強要する	「動詞」
sie,	ジー	pron	彼女に	「間接目的語」
das Gegenteil	ダス・ゲーゲンタイル	n.n	反対の事を	「直接目的語」
von dem	フォン・デーム	adv.	それとは	「副詞句」
zu sagen,	ツァー・ザーゲン	不定詞・目的	言うべき	「副詞句」
was	ワース	pron	(目的語) ～する	「形容詞節」
sie	ジー	pron	彼女が	「主語」

ZWEITER TEIL 第2部

denke, デンク 接・3 単現(denken)v.t 考える	「動詞」
sie ジー pron.f 彼女は	「主語」
kenne ケネ 接・3 単現(kennen)v.t 知っている	「動詞」
mich ミッヒ pron.4 格 僕を	「目的語」
genau, ゲナウ adv. よく	「副詞」
und ウント conj. そして	
ich イッヒ pron 僕は	「主語」
hätte ...getan. ヘッテ...ゲタン 接 II・1 単現・完了形(tun)v.t した	「動詞句」
nichts Böses ニヒツ・ベーゼス n.n.4 格 何も悪い事を～ない	「目的語」

しかし裁判長の合図で、廷吏が彼女を席へ連れて行き、審理は続行された。

Aber auf ein Zeichen des Vorsitzenden führte ein Gerichtsdieners sie an ihren Platz, und die Verhandlung nahm ihren Fortgang.

Aber 「副詞句」 「動詞」 「主語」 「目的語」 「副詞句」 und 「主語」 「動詞」 「目的語」	
Aber アーバー conj. しかし	
auf アウフ prep (対応) (4 格と) ～によって	「副詞句」
ein Zeichen アイン・ツァイヘン n.n.4 格 合図	「目的語」
des Vorsitzenden デス・フォアジツツェンデス n.m.2 格 裁判長の	「形容詞句」
führte フェアテ 3 単過(führen)v.t 連れて行った	「動詞」
ein Gerichtsdieners アイン・ゲリヒツ・デーナー n.m.(Gericht+Diener) 廷吏が	「主語」
sie ジー pron.f 彼女を	「目的語」
an ihren Platz, アン・イーレン・プラッツ adv. 彼女の席へ	「副詞句」
und ウント conj. そして	
die Verhandlung デー・イー・フェアハントルング n.f 審理は	「主語」
nahm ナム 3 単過(nehmen)v.t つかんだ	「動詞」
ihren Fortgang. イーレン・フォアトガング n.m.4 格 続行	「目的語」

マソンの発言はほとんど注目されなかった。彼は、僕はまともな人間、いやそれどころか良い人間だと宣言した。

Massons Aussagen wurden kaum beachtet. Er erklärte, ich sei ein anständiger, ja sogar netter Kerl.

	「主語」 「動詞句」 「副詞」 「動詞句」
	「主語」 「動詞」, 「主語」 「動詞」 「補語」, 「補語」
Massons Aussagen マソンス・アウスサーゲン pl(Aussage).n.f マソンの発言は	「主語」
wurden ...beachtet. ヴァルテン...ヘアハテット 3 複過・受動(werden+過去分詞 beachten)	
v.t 注目された	「動詞句」

ZWEITER TEIL 第2部

kaum カム adv. ほとんど～ない	「副詞」
Er エ pron 彼は	「主語」
erklärte, エクレアテ 3 単過(erkklären)v.t 宣言した	「動詞」
ich イヒ pron 僕は	「主語」
sei サイ 接・1 単現(sein)v.i ～である	「動詞」
ein anständiger, アイン・アンシュテンデ`イガー pron.1 格 まともな人間	「補語」
ja ヤー adv. はい	「副詞」
sogar ザーガー adv. それどころか	「副詞」
netter Kerl. ネター・カール n.m.1 格 良い人間	「補語」

サラマノ老人が、僕が彼の犬に親切だったと説明した時や、母さんと僕に関する質問に答える時に、僕は母さんに話すことが何も無かった、そしてこの理由で僕は母さんを養老院に連れてきたのだと説明した時も、同様にほとんど誰も聞いていなかった。

Man hörte ebensowenig zu, als Salamano erklärte, ich sei zu seinem Hund gut gewesen, und als er auf eine Frage über meine Mutter und mich zur Antwort gab, ich hätte Mama nichts mehr zu sagen gehabt und sie aus diesem Grunde ins Heim gebracht.

「主語」「動詞句」「副詞句」「副詞節」und「副詞節」

Man マン pron 人は	「主語」
hörte ...zu, ヘアテ...ツ 3 単過(zu hören)v.i 聞いた	「動詞句」
ebensowenig エーベンゾ`ー・ウ`ェーニヒ adv. 同様にほとんど～ない	「副詞句」
als アルス conj. ～した時	「副詞節」
Salamano サラマノ n.m サラマノ老人が	「主語」
erklärte, エクレアテ 3 単過(erkklären)v.t 説明した	「動詞」
ich イヒ pron 僕は	「主語」
sei ...gewesen, サイ...グ`ウ`ェーゼン 接・1 単現・完了形(sein)v.i ～ だった	「動詞」
zu seinem Hund ツー・ザイネム・フント adv. 彼の犬に対して	「間接目的語」
gut グート adj. 親切的な、やさしい	「補語」
und ウント con j. そして	
als アルス conj. ～した時	「副詞節」
er エ pron 彼が	「主語」
auf アウフ prep (4 格と) (対応) ～に対して	「副詞句」
eine Frage アイン・フラゲ` n.f.4 格 質問	「目的語」
über meine Mutter und mich ユーバー・マイネ・ムター・ウント・ミヒ	
adv. 母さんと僕に関する	「副詞句」
zur Antwort ツーア・アントウ`ォアト n.f.4 格 返事を	「目的語」
gab, ガブ` 3 単過(geben)v.t (返事を) した	「動詞」

ZWEITER TEIL 第2部

ich イヒ pron 僕は	「主語」
Mama ママ n.f 母さんに	「間接目的語」
nichts mehr zu sagen ニヒツ・メーア・ツァーザーゲン	
pron 話すことが何も～ない	「直接目的語」
hätte ...gehabt ヘッテ...ゲハプト 接 II・1 単現・完了形(haben)	
v.t ～があった	「動詞句」
und ウント conj. そして	
sie シー pron.f 彼女を	「目的語」
aus diesem Grunde アウス・デ・イーゼム・グルンデ adv. この理由で	「副詞句」
ins Heim インス・ハイム adv. 養老院へ	「副詞句」
gebracht. ゲブラフト 接 II・1 単現・完了形(bringen)v.t 連れてきた	「動詞句」

サラマノが言った：「事情を理解してあげなくては、ちゃんと理解しなければいけません」
しかし、誰も理解したように見えなかった。彼は自分の席に連れ戻された。

«Man muß das verstehen», sagte Salamano, «nur richtig verstehen!» Aber niemand schien das zu verstehen. Man führte ihn an seinen Platz zurück.

《「主語」「動詞句」「目的語」「動詞句」》, 「動詞」「主語」, 《「動詞句」》

Aber 「主語」「動詞句」「目的語」「動詞句」

「主語」「動詞句」「目的語」「副詞句」「動詞句」

«Man マン pron 人は	「主語」
muß ...verstehen», ムス...フェアシュテーン 3 単現・必要(müssen+不定詞 verstehen)	
v.t 理解しなければならない	「動詞句」
das ダス pron そのことを	「目的語」
sagte ザーケ 3 単過(sagen)v.t 言った	「動詞」
Salamano, サラマノ n.m サラマノ老人が	「主語」
«nur richtig verstehen!» ヌアー・リヒヒ・フェアシュテーン adv. ちゃんと理解しなければ!	「動詞句」
Aber アーバー conj. しかし	
niemand ニーマント pron 誰も～ない	「主語」
schien ...zu verstehen. シーン...ツァーフェアシュテーン 3 単過・見える(scheinen zu+不定詞 verstehen)	
v.t 理解しているように見えた	「動詞句」
das ダス pron それを	「目的語」
Man マン pron 人が	「主語」
受動態に翻訳する	
führte ...zurück. フュアーテ...ツリュック 3 単過(zurück führen)v.t 連れ戻した	「動詞句」
ihn イン pron.4 彼を	「目的語」
an seinen Platz アン・ザイネン・プラッツ adv. 彼の席へ	「副詞句」

ZWEITER TEIL 第2部

最後の証人としてレーモンが尋問された。レーモンは僕に会釈すると、すぐに僕は無罪だと言った。

Als letzter Zeuge wurde Raymond vernommen. Raymond nickte mir zu und sagte gleich, ich sei unschuldig.

「副詞句」「動詞句」「主語」「動詞句」 | 「主語」「動詞句」「間接目的語」「動詞句」
und 「副詞」「動詞」, 「主語」「動詞」「補語」
Als アル conj. (資格) ～として 「副詞句」
letzter Zeuge レッター・ツォイゲ n.m 最後の証人 「目的語」
wurde ... vernommen. ヴァルデ ... フェアノモン 3 単過・受動(werden+過去分詞 vernehmen)
v.t 尋問された 「動詞句」
Raymond ライモン n.m レーモンが 「主語」
Raymond ライモン n.m レーモンは 「主語」
nickte ... zu ニクテ...ツァ 3 単過(zu | nicken)v.i(j-3 に) 会釈した 「動詞句」
mir ミア pron.3 格 僕に 「間接目的語」
und ウント conj. そして
sagte サークテ 3 単過(sagen)v.t 言った 「動詞」
gleich, グライヒ adv. すぐに、いきなり 「副詞」
ich イヒ pron 僕は 「主語」
sei サイ 接・1 単現(sein)v.i ～である 「動詞」
unschuldig. ウンシュルディヒ adj. 無罪の 「補語」

しかし裁判長は、証人からは個人的な評価ではなく事実を聞きたいと言った。

Aber der Vorsitzende meinte, er wolle von ihm keine Werturteile, sondern Tatsachen hören.

Aber 「主語」「動詞」, 「主語」「動詞句」「副詞句」「目的語」「動詞句」
Aber アーバー conj. しかし
der Vorsitzende デア・フォアジツツェンデ n.m 裁判長は 「主語」
meinte, マインテ 3 単過(meinen)v.t 言った 「動詞」
er エア pron 彼は 「主語」
wolle ...hören. ヴォレ...ヘレン 接・3 単現・願望(wollen+不定詞 hören)
v.t 聞きたい 「動詞句」
von ihm フォン・イム adv. 彼から 「副詞句」
keine Werturteile, カイネ・ヴァートゥルタイレ n.n.4 格 価値判断を～ない 「目的語」
sondern ゾンダーン conj. そうではなくて
Tatsachen タートザッハ n.f.4 格 事実を 「目的語」

ZWEITER TEIL 第2部

裁判長は彼に、聞かれたことだけに答えるようにと要請した。

Er forderte ihn auf, nur das zu beantworten, was er gefragt wurde.

「主語」「動詞句」「間接目的語」「動詞句」「補語」

Er エア pron 彼は

「主語」

forderte ...auf, フォアデ`アテ...アウフ 3 単過(auf|fordern)

v.t(j-4 zu et-3 人-4 に何-3 を) 要請した

「動詞句」

ihn イン pron.3 格 彼に

「間接目的語」

nur ...zu beantworten, ヌア...ツ-・ヘ`アントガ`ォアテン 不定詞・ihn の動作

v.t ~にだけ答える

「補語」

das ダス pron それに

「目的語」

was ヲ`アス pron (目的語) ~する

「形容詞節」

er エア pron 彼が

「主語」

gefragt wurde. ゲ`フラクト・ウルデ` 3 単過・受動(werden+過去分詞 fragen)

v.t 尋ねられた

「動詞句」

彼は被害者との関係を話すことになった。

Er solle seine Beziehungen zu dem Opfer schildern.

「主語」「動詞句」「目的語」「動詞句」

Er エア pron 彼は

「主語」

solle ...schildern. ソレ...シルダ`ー 接・3 単現・第三者の意思(sollen+不定詞)

v.t 語るようにとのことだった

「動詞句」

seine Beziehungen サ`イネ・ヘ`ツィ-ウ`ンゲン pl(Beziehung).n.f 関係を

「目的語」

zu dem Opfer ツ-・デ`ーム・オブ`ファ- adv. 被害者に対する

「副詞句」

レーモンはこの機会を利用して、彼が被害者の妹を殴って以来、被害者は憎しみ露わにして彼に付きまといたと説明した。

Raymond benutzte diese Gelegenheit, darauf hinzuweisen, daß das Opfer ihn mit seinem Haß verfolgte, seit er dessen Schwester verprügelt hatte.

「主語」「動詞」「目的語」「副詞句」

Raymond ライメント` n.m レーモンは

「主語」

benutzte ベ`ヌツテ 3 単過(benutzen)v.t 利用した

「動詞」

diese Gelegenheit, デ`ィ-ゼ`・ゲレ`ゲ`ンハイト n.f.4 格 この機会を

「目的語」

darauf hinzuweisen, ダ`ラウフ・ヒン・ツ-・ウ`アイゼ`ン adv. (目的) 説明するために

「副詞句」

daß ダス conj. ~ということ

「目的語」

das Opfer ダ`ス・オブ`ファ- n.n 被害者が

「主語」

ZWEITER TEIL 第2部

ihn イーン pron 彼を	「目的語」
mit seinem Haß ミット・ザイネム・ハス adv. 憎しみを込めて	「副詞句」
verfolgte, フェアフォルクテ 3 単過(verfolgen)v.t 付きまとった	「動詞」
seit サイト conj. ～して以来	「副詞節」
er エア pron レーモンが	「主語」
dessen Schwester デッセン・シュウェスター	
n.f.4 格 被害者の妹を	「目的語」
verprügelt hatte. フェアプ リュゲルト・ハッテ 3 単過・完了形(verprügeln)	
v.t 殴った	「動詞句」

裁判長は彼に、被害者にも僕を憎む理由がなかったのかどうかを尋ねた。

Der Vorsitzende fragte ihn, ob das Opfer nicht auch Grund gehabt hätte, mich zu hassen.

	「主語」「動詞」「間接目的語」, 「直接目的語」
Der Vorsitzende デア・フォアジツツエンテ n.m 裁判長は	「主語」
fragte フラクテ 3 単過(fragen)v.t(j-3 に) 尋ねた	「動詞」
ihn, イーン pron.4 格 彼に	「間接目的語」
ob オッパ conj. ～かどうかを	「直接目的語」
das Opfer ダス・オフ・ファー n.n 被害者は	「主語」
nicht ...gehabt hätte, ニヒト...ゲハプト・ヘッテ 接 II・3 単現・完了形・否定(haben)	
v.t ～がなかった	「動詞句」
auch アウフ adv. ～も	「副詞」
Grund グルント n.m.4 格 理由を	「目的語」
mich zu hassen. ミヒ・ツァー・ハッセン zu 不定詞・目的	
adv. 僕を憎む	「副詞句」

レーモンは、僕がああ浜辺にいたのは全くの偶然だと説明した。

Raymond erklärte, meine Anwesenheit am Strand sei rein zufällig gewesen.

	「主語」「動詞」「主語」「動詞句」「補語」
Raymond ライモント n.m レーモンは	「主語」
erklärte, エアクレアテ 3 単過(erklären)v.t 説明した	「動詞」
meine Anwesenheit マイネ・アンヴェゼンハイト n.f 僕がその場にいたことは	「主語」
am Strand アム・シュトランド adv. 浜辺に	「副詞句」
sei ...gewesen. サイト...ゲヴェゼン 接・3 単現・完了形・時制の一致(sein)	
v.i ～である	「動詞句」
rein zufällig ライン・ツァーフェリッヒ adj. 全くの偶然	「補語」

ZWEITER TEIL 第2部

検事は、どうして事件の発端となったあの手紙は僕によって書かれたのかと彼に尋ねた。

Der Staatsanwalt fragte ihn, wieso denn der Brief, mit dem das Drama begann, von mir geschrieben sei.

	「主語」「動詞」「間接目的語」, 「副詞句」「主語」「副詞句」「動詞句」
Der Staatsanwalt	デア・シュタツアンヴァルト n.m 検事は 「主語」
fragte	フラクテ 3 単過(fragen)v.t(j-3 に) 尋ねた 「動詞」
ihn,	イー ン pron.4 格 彼に 「間接目的語」
wieso denn	ヴィエツ・デ ン adv. どうして 「副詞句」
der Brief,	デア・ブリーフ n.m その手紙は 「主語」
mit dem	ミット・デーム adv. それによって 「副詞句」
das Drama	ダス・ドラマ n.n 事件が 「主語」
begann,	ベガン 3 単過(beginnen)v.i 始まった 「動詞」
von mir	フォン・ミー adv. (動作主) 僕によって 「副詞句」
geschrieben sei.	ゲシュリーベン・ザイ 接・3 単現・受動(schreiben)v.t 書かれた 「動詞句」

レーモンはそれも偶然だと説明した。検事は、この事件では偶然が既に様々の罪を犯していると言った。

Auch das erklärte Raymond als Zufall. Der Staatsanwalt meinte, der Zufall habe in dieser Geschichte schon allerlei auf dem Gewissen.

	「目的語」「動詞」「主語」「補語」 「主語」「動詞」, 「主語」「動詞」「副詞句」「補語」
Auch das	アウフ・ダス pron それも 「目的語」
erklärte,	エアクレアテ 3 単過(erkären)v.t 説明した 「動詞」
Raymond	ライモン ト n.m レーモンは 「主語」
als Zufall.	アルス・ツーフアル n.m (資格) 偶然として 「補語」
Der Staatsanwalt	デア・シュタツアンヴァルト n.m 検事は 「主語」
meinte,	マインテ 3 単過(meinen)v.t 言った 「動詞」
der Zufall	デア・ツーフアル n.m 偶然は 「主語」
habe	ハーベ 3 単現(haben)v.t 〜がある 「動詞」
in dieser Geschichte	イン・デイーザー・ゲシヒテ adv. この事件では 「副詞句」
schon allerlei	ショーン・アラーライ adj. 既にさまざまな 「目的語」
auf dem Gewissen.	アウフ・デーム・ゲウイッセン adv. 良心に 「副詞句」
et-4 auf dem Gewissen haben	何-4 の罪を犯している

ZWEITER TEIL 第2部

検事は尋ねた。レーモンが愛人を殴った時に僕が介入しなかったことも偶然なのか？警察署での僕の証言も偶然だったのか？そして、僕の証言が親切心からの作り話と判明したのも偶然だったのか？

Er wollte wissen, ob es auch Zufall gewesen sei, daß ich nicht eingriff, als Raymond seine Geliebte verprügelte, ob meine Aussagen auf dem Kommissariat etwa auch zufällig gewesen seien, und ob es auch Zufall gewesen sei, daß meine Erklärungen damals sich als Gefälligkeit erwiesen hätten.

「主語」「動詞句」「目的語」,「目的語」,und「目的語」

Er エア pron 検事は

「主語」

wollte wissen, ヲォルテ・ウィッセン 3 単過・願望(wollen+不定詞 wissen)

v.t 知りたがっていた

「動詞句」

ob オッフ conj. ～かどうかということ

「目的語」

es エス pron 仮の主語（真の主語は daß 以降）

auch Zufall アウフ・ツーフアル n.m それも偶然

「補語」

gewesen sei, ゲウエーゼン・ザイ 接・3 単過・完了形(sein)v.i ～だった

「動詞句」

daß ダス conj. ～ということは

「主語」

ich イヒ pron 僕が

「主語」

nicht eingriff, ニヒト・アイン・グリフ 1 単過・否定(ein | greifen)

v.i 介入しなかった

「動詞句」

als アルス conj. ～した時

「副詞節」

Raymond ライモント n.m レーモンが

「主語」

seine Geliebte サイネ・ゲリープテ n.f.4 格 愛人を

「目的語」

verprügelte, フェアプリーゲルテ 3 単過(verprügeln)v.t 殴った

「動詞」

ob オッフ conj. ～かどうかということ

「目的語」

meine Aussagen マイネ・アウスサーゲン pl(Aussage).n.f 僕の供述は

「主語」

auf dem Kommissariat アウフ・デーム・コミサariat adv. 警察署での

「副詞句」

etwa エトワァ adv. まさか

「副詞」

auch zufällig アウフ・ツーフエーリヒ adj. これも偶然の

「補語」

gewesen seien, ゲウエーゼン・ザイエン 接・3 複現・完了形(sein)v.i ～だった

「動詞句」

und ウント conj. そして

ob オッフ conj. ～かどうかということ

「目的語」

es エス pron 仮の主語（真の主語は daß 以降）

auch Zufall アウフ・ツーフアル n.m それも偶然

「補語」

gewesen sei, ゲウエーゼン・ザイ 接・3 複現・完了形(sein)v.i ～だった

「動詞句」

daß ダス conj. ～ということは

「主語」

meine Erklärungen マイネ・エアクレールン n.f 僕の説明は

「主語」

ZWEITER TEIL 第2部

damals ダーマルス adv. その時 「副詞」
 sich ...erwiesen hätten. スィットヒ...エアウイーゼン・ヘッテン 接 II・3 複現・完了形(sich-4 erweisen)
 v.pr(als と) 判明した 「動詞句」
 als Gefälligkeit アルス・ゲフェリヒカイト adv. (資格) 親切として 「補語」

最後に検事はレーモンに何で生計を立てているのかを尋ねた。彼が倉庫番だと答えると、
 検事は、この証人がひも稼業をしていることは周知の事実だと言った。

Zum Schluß fragte er Raymond, wovon er lebe, und als dieser antwortete, er sei
Magazinverwalter, erklärte der Staatsanwalt den Geschworenen, es sei allgemein
bekannt, daß der Zeuge Zuhälter sei.

「副詞句」「動詞」「主語」「間接目的語」, 「副詞」「主語」「動詞」, und
 「副詞節」, 「動詞」「主語」, 「動詞句」「補語」「動詞句」, 「主語」
 Zum Schluß ツム・シュルス adv. 最後に 「副詞句」
 fragte フラクテ 3 単過(fragen)v.t(j-4 に) 尋ねた 「動詞」
 er エア pron 検事は 「主語」
 Raymond, ライモンツ n.m レーモンに 「間接目的語」
 wovon ウォフオン adv.(von+was) 何から 「副詞」
 er エア pron 彼は 「主語」
 lebe, レーヴェ 3 単現(leben)v.i(von et-3 何-3 から) 食べて生きている 「動詞」
 und ウント conj. そして
 als アルス conj. ～した時 「副詞節」
 dieser デーザー pron レーモンが 「主語」
 antwortete, アントウエアテ 3 単過(antworten)v.i 答えた 「動詞」
 er エア pron 彼は 「主語」
 sei サイ 接・3 単現(sein)v.i ～である 「動詞」
 Magazinverwalter, マガツィーン・フェアヴァルター n.m 倉庫の管理人 「補語」
 erklärte エアクレアテ 3 単過(erkennen)v.t はっきり言った 「動詞」
 der Staatsanwalt den Geschworenen, デア・シュタツァンウァルト・テン・ゲシュウァルネン
 n.m 検事は 「主語」
 es エス pron 仮の主語 (真の主語は daß 以降)
 sei ...bekannt, サイ...ベカント 接・3 単現・受動(bekennen)v.t 認められた 「動詞句」
 allgemein アルゲマイン adj. 一般的な 「補語」
 daß ダス conj. ～ということは 「主語」
 der Zeuge デア・ツォイゲ n.m 証人は 「主語」
 Zuhälter ツーヘルテ n.m ひも 「補語」
 sei. サイ 接・3 単現(sein)v.i ～である 「動詞」

ZWEITER TEIL 第2部

僕は彼の共犯者であり仲間だと言うのだ。

Ich sei sein Komplize und sein Freund.

「主語」「動詞」「補語」 und 「補語」

Ich イッヒ pron 僕は

「主語」

sei ザイ 接・(sein)v.i ~である

「動詞」

sein Komplize ザイン・ツコンプ リセ n.m(Komplize) 相棒、共犯者

「補語」

und ウント conj. そして

sein Freund. ザイン・フロント n.m 友人、仲間

「補語」

それは全く普通の犯罪である。それは道徳的な怪物を内包する人が居るに違いないという事実により、更に困難になる。

Es handle sich um ein ganz gemeines Verbrechen, das durch die Tatsache, daß man es mit einem moralischen Ungeheuer zu tun habe, noch schwerer werde.

「主語」「動詞句」「補語」, 「主語」「副詞句」「動詞」「補語」

Es エス pron それは

「主語」

handle sich ハンデレ・スィヒ 接・3 単現(sich-4 handeln)

v.i(um et-4 何-4) のことである

「動詞句」

um ein ganz gemeines Verbrechen, ウム・アイン・ガントツ・ゲマイネス・フェアブレイヘン

adv. 全く普通の犯罪の

「補語」

das ダス pron それは

「主語」

durch die Tatsache, ダス・トウルヒ・デァー・タートザッハ adj. 事実による

「副詞句」

daß ダス conj. (同格) ~という

「形容詞節」

man マン pron 人が

「主語」

es エス pron それに

「間接目的語」

mit einem moralischen Ungeheuer ミット・アイネム・モラリシェン・ウンゲホアー

adv.(付属) 道徳的な怪物を内包する

「副詞句」

zu tun habe, ツー・トゥン・ハーベ zu 不定句・必要

adv. ~に違いない、しなければならない 「副詞句」

noch schwerer ノッホ・シュヴァーア adj.(比較級) 更に困難な

「補語」

werde. ヲアデ 3 単現(werden)v.i ~になる

「動詞」

ZWEITER TEIL 第2部

レーモンは弁明を希望し、僕の弁護士は抗議したが、どちらも検事の話を遮らないように求められた。

Raymond wollte sich verteidigen, und mein Anwalt protestierte, aber man forderte beide auf, den Staatsanwalt nicht zu unterbrechen.

「主語」「動詞句」,und「主語」「動詞」, aber

「主語」「動詞句」「間接目的語」「動詞句」,「直接目的語」

Raymond ライモン^ト n.m レーモンは

「主語」

wollte sich verteidigen, ヲ^ルテ・ズ^ィヒ・フェ^アタイ^テイ^クン 3 単過・願望

(wollen+不定詞 sich-4 verteidigen)v.pr 弁明しようとした

「動詞句」

und ウント conj. そして

mein Anwalt マイン・アンワ^ルルト n.m 僕の弁護士は

「主語」

protestierte, プ^ロテ^スチエル^テ 3 単過(protestieren)v.i 抗議した

「動詞」

aber アーバー conj. しかし

man マン pron 人は

「主語」

受動態に翻訳する

forderte ...auf, フォア^テア^テ...アフ 3 単過(auf|fordern)v.t 要求した

「動詞句」

beide バイ^テ pron.3 格 両方ともに

「間接目的語」

zu 不定句 n. ～することを

「直接目的語」

den Staatsanwalt テン・シュターツアンワ^ルルト n.m 検事を

「目的語」

nicht zu unterbrechen. ニヒト・ツー・ウンターブレ^ヒェン zu 不定詞・否定

v.t 遮らない

「動詞句」

検事は言った：「少しだけ付け加えることができます...被告はあなたの友人でしたか？」

Der sagte: «Ich habe nur wenig hinzuzufügen... War er Ihr Freund?»

「主語」「動詞」：《「主語」「動詞」「目的語」 | 「動詞」「主語」「補語」》

Der デア pron 検事は

「主語」

sagte: サーク^テ 3 単過(sagen)v.t 言った

「動詞」

«Ich イッヒ pron 私は

「主語」

habe ハーベ¹ 1 単現(haben)v.t ～がある

「動詞」

nur wenig ヌア[・]ウ^エニッヒ pron ほんの少しを

「目的語」

hinzuzufügen... ヒンツーフューゲ^ン 不定詞・目的 adj. 付け加えるべき

「形容詞」

War ウアル 3 単過・疑問文(sein)v.i ～ でしたか？

「動詞」

er エア pron 彼は

「主語」

Ihr Freund? イア[・]フロイント n.m あなたの友人

「補語」

ZWEITER TEIL 第2部

「はい」と、レーモンは答えた。「彼は私の相棒です」

«Ja», antwortete dieser, «er war mein Kamerad!»

《「応答」》, 「動詞」「主語」, 《「主語」「動詞」「補語」》

«Ja», ヤー adv. はい

「応答」

antwortete アントヴェアテテ 3 単過(antworten)v.i 答えた

「動詞」

dieser, デーザー pron レーモンは

「主語」

«er エア pron 彼は

「主語」

war ヴァール 3 単過・時制の一致(sein)v.i 〜である

「動詞」

mein Kamerad! マイン・カメラート n.m 相棒、仲間

「補語」

それから検事は、僕に同じ質問をした。

Dann richtete der Staatsanwalt die gleiche Frage an mich.

「副詞」「動詞」「主語」「直接目的語」「間接目的語」

Dann ダン adv. それから

「副詞」

richtete リヒテテ 3 単過(richten)v.t (質問を) した、向けた

「動詞」

der Staatsanwalt デア・シュターツァンヴァルト n.m 検事は

「主語」

die gleiche Frage デー・グライヒェ・フラーゲ n.f.4 格 同じ質問を

「直接目的語」

an mich. アン・ミヒ adv. 僕に

「間接目的語」

僕は彼を見つめた。彼は僕から視線をそらさなかった。

Ich sah Raymond an, der den Blick nicht von mir wandte.

「主語」「動詞句」「目的語」「動詞句」, 「主語」「目的語」「動詞句」「副詞句」「動詞句」

Ich イヒ pron 僕は

「主語」

sah ...an, サー...アン 1 単過(an|sehen)v.t 見つめた

「動詞句」

Raymond ライメント n.m レーモンを

「目的語」

der デア pron 彼は

「主語」

den Blick デン・ブリック n.m.4 格 視線を

「目的語」

nicht ...wandte. ニヒト...ヴァンテ 3 単過・否定(wenden)

v.t (異なる方向へ) 向けなかった

「動詞句」

von mir フォン・ミーア adv. 僕から

「副詞句」

ZWEITER TEIL 第2部

僕は答えた：「はい」

Ich antwortete: «Ja.»

「主語」「動詞」：《「応答」》

Ich イッヒ pron 僕は

「主語」

antwortete: アントウエ オアテ 1 単過(antworten)v.i 答えた

「動詞」

«Ja.» ヤー adv. はい

「応答」

それから検事は、陪審たちのほうに向き直り、はっきり言った：

Der Staatsanwalt wandte sich dann den Geschworenen zu und erklärte:

「主語」「動詞句」「副詞」「間接目的語」「動詞句」 und 「動詞」

Der Staatsanwalt テア。シュターツアンワルト n.m 検事は

「主語」

wandte sich ...zu ヲアンテ・ズィット・ツ 3 単過(sich-4 j-3 人-3 の方を)v.pr 向いた

「動詞句」

dann ダン adv. それから

「副詞」

den Geschworenen テン・ゲシュワオーレンン pron.pl.3 格 陪審員たちの方を

「間接目的語」

und ウント conj. そして

erklärte: エアクレアテ 3 単過(erkären)v.t 説明した、はっきり言った

「動詞」

「母親が亡くなった翌日に最も卑劣な放蕩に耽った同じ男が、取るに足らない理由で、不道德な行為を消し去る目的だけで殺人を犯したのです」

«Derselbe Mann, der sich am Tag nach dem Tod seiner Mutter der gemeinsten Ausschweifung hingab, hat aus nichtigen Gründen, nur um eine unqualifizierbare Schweinerei zu liquidieren, getötet.»

《「主語」「動詞句」「副詞句」「動詞句」》

«Derselbe Mann, テアセルベ・マン n.m その同じ男が

「主語」

der テア pron (主語) ～する

「形容詞節」

sich ...hingab, スィットヒン・ガープ 3 単過(sich-4 et-3 何-3 に)

v.pr 没頭した

「動詞句」

am Tag nach dem Tod seiner Mutter アム・ターク・ナーハ・デーム・トート・ザオナー・ムター

adv. 自分の母親の死の翌日に

「副詞句」

der gemeinsten Ausschweifung テア・ゲマインシュテン・アウスシュヴァイフング

n(Ausschweifung).f.3 格 最も卑劣な放蕩に

「間接目的語」

hat ...getötet. ハット...ゲテート 3 単現・完了形(töten)v.t 殺した

「動詞句」

aus nichtigen Gründen, アウス・ニヒゲン・グレンデン

adv. (起点) とるに足らない理由で

「副詞句」

nur um ヌア・ウム adv. (目的) ただ～を求めて

「副詞句」

eine unqualifizierbare Schweinerei アィネ・シュヴァィネライ

ZWEITER TEIL 第2部

n.f 不道德な行為を 「目的語」
 zu liquidieren, ツー・リキディエレン zu 不定詞 n. 抹殺すること、消し去る 「動詞句」

それから彼は着席した。しかし、我慢の限界に達した僕の弁護士は腕を上げて叫んだ。その時、法服の袖がずり落ちて、糊の利いたシャツの襷が露わになった。

Dann setzte er sich. Aber mein Anwalt, der mit seiner Geduld am Ende war, rief mit erhobenen Armen, wobei die Ärmel seiner Robe verrutschten und die Falten seines gestärkten Hemdes sichtbar wurden:

「副詞」「動詞句」「主語」「動詞句」 | Aber 「主語」「動詞」「副詞句」,
 「副詞」「主語」「動詞」 und 「主語」「補語」「動詞」

Dann ダン adv. それから 「副詞」
 setzte ...sich. セッツテ...ズィッヒ 3 単過(sich-4 setzen)v.pr 座った 「動詞句」
 er エア pron 彼は 「主語」
 Aber アーバー conj. しかし
 mein Anwalt, マイン・アンヴァルト n.m 僕の弁護士は 「主語」
 der デア pron (主語) ～する 「形容詞節」
 mit seiner Geduld am Ende ミット・ザ イナー・ゲトウルト・アム・エンデ
 adv. (状況) 我慢の限界に 「補語」
 war, ヴァール 3 単過・変化(sein)v.i ～になった 「動詞」
 rief リーフ 3 単過(rufen)v.i 叫んだ 「動詞」
 mit erhobenen Armen, ミット・エアホーベネン・アルメン adv. 腕をあげて 「副詞句」
 wobei ヴォハイ adv. その際に 「副詞」
 die Ärmel デー・イー・エアメル pl(Ärmel).n.m 袖が 「主語」
 seiner Robe サ イナー・ローベ n.f.2 格 法服の 「形容詞句」
 verrutschten フェアルツヒテン 3 複過(verrutschen)v.i ずり落ちた 「動詞」
 und ウント conj. そして
 die Falten デー・イー・ファルテン pl(Falte).n.f 襷が 「主語」
 seines gestärkten Hemdes サ イネス・ゲシュテアルクテン・ヘムデス
 n.n.2 格 糊の利いたシャツの 「形容詞句」
 sichtbar スィヒトバール adj. 可視の 「補語」
 wurden: ウルデン 3 複過・変化(werden)v.I ～になった 「動詞」

ZWEITER TEIL 第2部

「被告は、自分の母親を埋葬したことで起訴されたのでしょうか、それとも、人を殺したからなのでしょうか？」

«Klagt man den Mann an, seine Mutter beerdigt oder einen Mann umgebracht zu haben?»

《「動詞句」「主語」「直接目的語」「動詞句」,「間接目的語」 oder 「間接目的語」》

«Klagt ... an, クラクト...アン 3 単現・疑問文(an | klagen)

v.t(j-4 et-4 人-4 を何-4 のかどで) 起訴しているのですか? 「動詞句」

受動態に翻訳する

man マン pron 人は 「主語」

den Mann デン・マン n.m.4 格 その男を 「直接目的語」

seine Mutter beerdigt サ イネ・ムター・ベアディクト n.f.4 格 埋葬された母親で 「間接目的語」

oder オーダー conj. または

einen Mann umgebracht zu haben?» ア イネン・マン・ウンゲブラハト・ツァー・ハーベン

zu 不定句 n.4 格 人を殺したことで 「間接目的語」

聴衆は笑った。

Das Publikum lachte.

「主語」「動詞」

Das Publikum ダ ス・プーブリクム n.n 聴衆は、傍聴者 「主語」

lachte. ラハテ 3 単過(lachen)v.i 笑った 「動詞」

しかし検事はまた立ち上がって、法服をたくし上げて宣言した。これら 2 つの事実の間に深く本質的な関係があると感じないためには、この弁護人殿のように全く無邪気でなければならない。

Aber der Staatsanwalt erhob sich wieder, raffte seine Robe zusammen und erklärte, man müsse schon so harmlos wie der Herr Verteidiger sein, um nicht zu fühlen, daß zwischen diesen beiden Tatsachen eine tiefe, wesentliche Beziehung bestehe.

Aber 「主語」「動詞句」「副詞」,「動詞句」「目的語」「動詞句」 und 「動詞」,
「主語」「動詞句」「補語」「動詞句」,「副詞句」

Aber アーバー conj. しかし

der Staatsanwalt テア・シュターツァンワルト n.m 検事は 「主語」

erhob sich エアホプ・スィヒ 3 単過(sich-4 erheben)v.pr 立ち上がった 「動詞句」

wieder, ヴァイダー adv. 再び、また 「副詞」

raffte ...zusammen ラフテ...ツァメン 3 単過(zusammen | raffen)

v.t (裾などを) たくし上げた 「動詞句」

seine Robe サ イネ・ローベ n.f.4 格 法服を 「目的語」

ZWEITER TEIL 第2部

und ウント conj. そして	
erklärte, エクレアテ 3 単過(erkklären)v.t 宣言した	「動詞」
man マン pron 人は	「主語」
müsse ...sein, ミュッセ...ザイン 接・3 単現・必要(müssen+不定詞 sein)	
v.i 〜でなければならない	「動詞句」
schon so harmlos ショーン・ゾー・ハームロース adj. それほど無邪気な	「補語」
wie ヴァー coni. (比較) 〜のように	「副詞句」
der Herr Verteidiger テア・ヘア・フェアタイゲ n.m 弁護人殿	「目的語」
um nicht zu fühlen, ウム・ニヒト・ツァー・フューレン zu 不定句・目的 adv. 感じないためには	「副詞句」
daß ダス conj. 〜ということ	「目的語」
zwischen diesen beiden Tatsachen ツヴァー・イツシェン・デー・イーゼン・ハ・イゼン・タートザッヘン	
adv. これら 2 つの事実の間に	「副詞句」
eine tiefe, wesentliche アイネ・ティーフエ・ヴァー・ゼントリッヒエ	
adj.f.1 格 深く本質的な	「形容詞句」
Beziehung ベツィーウング n.f.1 格 関係が	「主語」
bestehe. ベシュテアエ 3 単現(bestehen)v.i 存在する	「動詞」

「はい」と、彼は叫んだ。「私はこの男を、犯罪者の心を持って自分の母親を埋葬したことで告発します」

«Ja», schrie er, «ich klage diesen Mann an, mit dem Herzen eines Verbrechers seine Mutter beerdigt zu haben.»

《「応答」》「動詞」「主語」, 《「主語」「動詞」「目的語」「副詞句」》

«Ja», ヤー adv. はい	「応答」
schrie シュリー・シュリー 3 単過(schreien)v.i 叫んだ	「動詞」
er, エア pron 彼は	「主語」
«ich イヒ pron 私は	「主語」
klage ...an, クラーゲ...アン 1 単現(an klagen)v.t 告発する	「動詞句」
diesen Mann デー・イーゼン・マン n.m この男を	「目的語」
mit dem Herzen ミット・デー・ム・ヘアツェン mit+zu 不定句・理由	
adv. (付属) 心を持って	「副詞句」
eines Verbrechers アイネス・フェアブレッヒヤース n.m.2 格 犯罪者の	「形容詞句」
seine Mutter ザー・イー・ムター n.f.4 格 自分の母親を	「目的語」
beerdigt zu haben.» ベアデイクト・ツァー・ハーベン zu 不定句・完了形(beerdigen)	
v.t 埋葬した	「動詞句」

ZWEITER TEIL 第2部

これらの言葉は、傍聴者たちに深い印象を与えたようだ。

Diese Worte schienen auf die Zuhörer tiefen Eindruck zu machen.

「主語」「動詞句」「間接目的語」「直接目的語」「動詞句」

Diese Worte デー・イー・ゼ・ウ・ォ・ア・テ pl(Wort).n.m この言葉は

「主語」

schienen ...zu machen. シーネン...ツ・マヘン 3 複過(scheinen+zu 不定詞 machen)

v.t 生み出すように見えた

「動詞句」

auf die Zuhörer アウフ・デー・イー・ツ・ハーラー adv. 傍聴者に

「間接目的語」

tiefen Eindruck チーフェン・アイント・ルック n.m.4 格 深い印象を

「直接目的語」

僕の弁護士は肩をすくめて、額の汗を拭った。

Mein Anwalt zuckte mit den Schultern und wischte sich den Schweiß von der Stirn.

「主語」「動詞」「間接目的語」 und 「動詞句」「目的語」「副詞句」

Mein Anwalt マイン・アンヴァルト n.m 僕の弁護士は

「主語」

zuckte ツクテ 3 単過(zucken)v.i (mit を) ひきつらせた

「動詞」

mit den Schultern ミット・デーン・シュルターン adv. 肩を

「間接目的語」

und ウント conj. そして

wischte sich ヴィシュテ・ズ・イッヒ 3 単過(sich-4 wischen)v.pr 拭った

「動詞句」

den Schweiß デーン・シュヴァイス n.m.4 格 汗を

「目的語」

von der Stirn. フォン・デア・シュティアン adv. 額から

「副詞句」

しかし、弁護士もショックを受けたように見えたので、僕にとって状況は良くない事を悟った。

Aber auch er schien erschüttert, und ich begriff, daß es gar nicht gut für mich stand.

Aber 「主語」「動詞」「補語」,und 「主語」「動詞」「目的語」

Aber アーバー conj. しかし

auch er アウフ・エア pron 彼も、弁護士も

「主語」

schien シーン 3 単過(scheinen)v.i (～のように) 見えた

「動詞」

erschüttert, エアシュタート 過去分詞・受動 adj. 衝撃を受けた

「補語」

und ウント conj. そして

ich イッヒ pron 僕は

「主語」

begriff, ベグリフ 1 単過(begreifen)v.t 理解した

「動詞」

daß ダス conj. ～ということ

「目的語」

es エス pron 状況は

「主語」

gar nicht gut ガール・ニヒト・グート adj. 全く良くない

「補語」

für mich フュア・ミッヒ adv. 僕にとって

「副詞句」

stand. シュタント 3 単過・時制の一致(stehen)v.i ～である

「動詞」

ZWEITER TEIL 第2部

審理は休延となった。

Die Verhandlung wurde vertagt.

「主語」「動詞句」

Die Verhandlung デー・イー・フェアハント・ルンク n.f 審理は

「主語」

wurde vertagt. ウェルテ・フェアタークト 3 単過・受動(werden+過去分詞 vertagen)

v.t 閉廷された

「動詞句」

裁判所を出て護送車に乗る時、僕はほんの一瞬、夏の夕暮れの香りと色に気付いた。

Als ich das Gerichtsgebäude verließ und in den Wagen stieg, wurde ich einen kurzen Augenblick den Duft und die Farbe des Sommerabends gewahr.

「副詞節」, 「動詞」「主語」「副詞句」「補語」

Als アルス conj. ～した時

「副詞節」

ich イヒ pron 僕が

「主語」

das Gerichtsgebäude ダス・ゲリヒツゲ・ボイテ n.n.4 格 裁判所を

「目的語」

verließ フェアリース 1 単過(verlassen)v.t(et-4 ～から) 出た

「動詞」

und ウント conj. そして

in den Wagen イン・デン・ワーゲン adv. 車に

「副詞句」

stieg, シュテイク 1 単過(steigen)v.i (乗り物に) 乗った

「動詞」

wurde ウェルテ 1 単過(werden)v.i (状態に) なった

「動詞」

ich イヒ pron 僕は

「主語」

einen kurzen Augenblick アイン・クルツェン・アウゲンブリック n.m.4 格 ほんの一瞬

「副詞句」

den Duft デン・ドゥフト n.m.4 格 芳香を

「副詞句」

und ウント conj. そして

die Farbe デー・ファーベ n.f.4 格 色を

「副詞句」

des Sommerabends デス・ゾマーアーヘンツ n.m.2 格 夏の夕暮れの「形容詞句」

gewahr. ケウアー adj. 気付く

「補語」

et-4 gewahr werden 何-4 に気付く

ZWEITER TEIL 第2部

僕の移動する牢獄の暗闇の中で、いわば疲労の底から、僕が愛した街の、そして僕が気分が良かったと感じたその時の、聞き覚えのある物音を全て次々に聞き取った。

In der Dunkelheit meines fahrenden Gefängnisses fand ich, gleichsam auf dem Grund meiner Erschöpfung, nacheinander alle mir vertrauten Geräusche einer Stadt wieder, die ich liebte, und einer bestimmten Stunde, in der ich mich wohl fühlte.

「副詞句」「動詞」「主語」, 「副詞句」「間接目的語」「直接目的語」

In der Dunkelheit イン・デア・ドゥンケルハイト adv. 暗闇の中で 「副詞句」

meines fahrenden マイネス・ファレンデンス adj.n.2 格 僕の移動する 「形容詞句」

Gefängnisses ゲ・フェンクニセス n.n.2 格 牢獄の 「形容詞」

fand ファント 1 単過(finden)v.t 見つけた 「動詞」

ich, イヒ pron 僕は 「主語」

gleichsam グライヒザーム adv. いわば 「副詞」

auf dem Grund アウフ・デアム・グルト adv. 底から 「副詞句」

meiner Erschöpfung, マイナー・エアシェプ・フンク n.f.2 格 僕の疲労の 「形容詞句」

nacheinander ナーハアインダー adv. 次々に 「副詞句」

alle アレ pron すべての 「形容詞」

mir ミーア pron 僕にとって 「間接目的語」

vertrauten Geräusche フェアトラウテン・ゲ・ロイシェ

pl(Geräusch).n.n.4 格 良く知っている物音を 「直接目的語」

einer Stadt アイナー・シュタット n.f.2 格 ある街の 「形容詞句」

wieder, ヴァーダー adv. また 「副詞」

die デー pron (目的語) ~する 「形容詞節」

ich イヒ pron 僕が 「主語」

liebte, リーブテ 1 単過(lieben)v.t 愛した 「動詞」

und ウント conj. そして

einer bestimmten Stunde, アイナー・ヘ・スチムテン・シュトゥンデ

n.f.2 格 特定の時間の 「形容詞句」

in der イン・デア adv. そこで~する 「副詞節」

ich イヒ pron 僕は 「主語」

mich ...fühlte. ミヒ...フュールテ 1 単過(sich-4 fühlen)

v.pr ~と感じた 「動詞句」

wohl ヴォール adv. 気分が良い 「補語」

ZWEITER TEIL 第2部

すでにくつろいだ空気の中で聞こえる新聞売りの呼び声、広場に残る最後の鳥たちの鳴き声、パン売りの呼び声、街の曲がりくねった道を走る路面電車の軋む音、そして夜が港を覆いつくす前の空の騒めき、これら全ては僕にとって僕が刑務所に入る前によく知っていた盲人の道だ。

Die Rufe der Zeitungsverkäufer in der schon entspannten Luft, die letzten Vögel auf dem Platz, der Ruf der Brötchenhändler, das Ächzen der Straßenbahnen oben in den gewundenen Straßen der Stadt und der Lärm des Himmels, ehe die Nacht sich über den Hafen stülpt - das alles war für mich der Weg eines Blinden, den ich gut gekannt hatte, ehe ich ins Gefängnis kam.

「主語」 und 「主語」 - 「主語」「動詞」「補語」

Die Rufe デー・イー・ルーフェ pl(Ruf).n.m 呼び声 「主語」

der Zeitungsverkäufer デア・ツァイトウンゲス・フェアコイファー n.m.2 格 新聞売りの 「形容詞句」

in der schon entspannten Luft, イン・デア・ショーン・エントシュパントレン・ルフト

adv. すでにくつろいだ空気の中で 「副詞句」

die letzten Vögel デー・イー・レツテン・ヴェーゲル pl(Vogel).n.m 最後の鳥たち 「主語」

auf dem Platz, アウフ・デア・プラッツ adv. 広場の 「副詞句」

der Ruf デア・ルフ n.m 呼び声 「主語」

der Brötchenhändler, デア・ブレートヒェン・ヘントラー

pl(Brötchenhändler).n.m.2 格 パン売りの 「形容詞句」

das Ächzen ダス・エヒツェン n.n うめき声 「主語」

der Straßenbahnen デア・シュトラセンバーネン

pl(Straßenbahn).n.f.2 格 路面電車の 「形容詞句」

oben in den gewundenen Straßen der Stadt オーベン・イン・テン・ゲブントネン・シュトラセン・デア・シュタット

adv. 街の曲がりくねった道を走る 「副詞句」

und ウント conj. そして

der Lärm デア・レアム n.m 騒めき 「主語」

des Himmels, デス・ヒメルス n.m.2 格 空の 「形容詞句」

ehe エーエ conj. ～する前に 「副詞節」

die Nacht デー・ナハト n.f 夜が 「主語」

sich ...stülpt スィッヒ...シュトルプ 3 単現(sich-4 stülpen)

v.pr 覆いかぶさる 「動詞句」

über den Hafen ユーバー・テン・ハーフェン adv. 港の上に 「副詞句」

- das alles ダス・アレス pron この全ては 「主語」

war ヴァール 3 単過(sein)v.i ～ だった 「動詞」

für mich フェア・ミッヒ adv. 僕にとって 「副詞句」

der Weg デア・ヴェーク n.m.1 格 道 「補語」

ZWEITER TEIL 第2部

eines Blinden, アイネス・ブリンデン	n.m.2 格 盲人の	「形容詞句」
den	デン pron (目的語) ～する	「形容詞節」
ich	イヒ pron 僕は	「主語」
gut	グート adv. よく	「副詞」
gekannt hatte,	ゲカント・ハッテ 1 単現・完了形(kennen)v.t 知っていた	「動詞句」
ehe	エーエ conj. ～する前に	「副詞節」
ich	イヒ pron 僕が	「主語」
ins Gefängnis	インス・ゲフェンゲニス adv. 刑務所に	「間接目的語」
kam.	カム 1 単過(kommen)v.i 来る、入る	「動詞」

そうだ、それはずっと昔に、いつも心地良く感じていた時間だった。

Ja, es war die Stunde, in der ich mich vor langer Zeit immer so wohl gefühlt hatte.

Ja,	ヤー adv. そうだ	「副詞」, 「主語」
es	エス pron それは	「動詞」
war	ヴァール 3 単過(sein)v.i ～ だった	「補語」
die Stunde,	デーイー・シュトゥンデ n.f.1 格 時間	「動詞」
in der	イン・デア adv. その時～する	「補語」
ich	イヒ pron 僕は	「副詞節」
mich ...gefühlt hatte.	ミヒ...ゲフュールト・ハッテ 1 単過・完了形(sich-4 fühlen)	「主語」
v.pr	感じた	「動詞句」
vor langer Zeit	フォア・ランゲー・ツァイト adv. ずっと以前に	「動詞句」
immer so wohl	イマー・ゾー・ヴァール adj. いつも気分が良い	「補語」

その後いつも、夢のない浅い眠りが僕を待っていた。

Danach erwartete mich stets ein leichter, traumloser Schlaf.

Danach	ダナーハ adv. その後で	「副詞」
erwartete	エアヴァルテ 3 単過(erwarten)v.t 待っていた	「動詞」
mich	ミヒ pron.4 格 僕を	「目的語」
stets	シュテツ adv. いつも	「副詞」
ein leichter, traumloser	アイン・ライヒト・トラウムローサー adj. 夢のない浅い	「形容詞句」
Schlaf.	シュラーフ n.m 眠りが	「主語」

ZWEITER TEIL 第2部

しかし、何かが変わった。というのは、僕は明日を待っている間にまた自分の独房に戻って来たのだから。

Und doch hatte sich etwas geändert, denn mit dem Warten auf den nächsten Tag fand ich meine Zelle wieder.

Und doch 「動詞句」「主語」「動詞句」, 「副詞節」

Und doch ウント・トッホ conj. しかし

hatte sich ...geändert, ハッテ・スィヒ...ゲェンダー 3 単過・完了形(sich-4 ändern)

v.pr 変わった

「動詞句」

etwas エトワース pron 何か

「主語」

denn デン conj. というのは～だから

「副詞節」

mit dem Warten ミット・デーム・ヴァルテン adv. 待っている間に

「副詞句」

warten ヴァルテン v.i(auf et-4 何-4 を) 待つ

auf den nächsten Tag アウフ・デン・ネヒステン・ターク adv. 次の日を「間接目的語」

fand ファント 1 単過(finden)v.i (ある所に) 行きついた、至った

「動詞」

ich イヒ pron 僕は

「主語」

meine Zelle マイネ・ツェレ n.f 自分の独房に

「間接目的語」

wieder. ヴァーダー adv. 再び

「副詞」

夏空に描かれた馴染みのある道が、刑務所に通じる様に、罪の無い眠りにも通じるように。

Als könnten die vertrauten, auf den Sommerhimmel gezeichneten Wege genausogut in ein Gefängnis wie in unschuldigen Schlaf führen.

「副詞節」

Als +接続法 アルス conj. あたかも～であるかのように

「副詞節」

könnten ...führen. ケンテン...フューレン 接 II・3 複現・可能性(können+不定詞 führen)

v.i ～に通じる

「動詞句」

die vertrauten, デーイー・フェアトラウテン

adj(vertraut).pl 熟知した

「形容詞句」

auf den Sommerhimmel gezeichneten アウフ・デン・サマーヒメル・ゲツァイヘネン

adj. 夏空に描かれた

「形容詞句」

Wege ヴェーゲ pl(Weg).n.m 道が

「主語」

genausogut ゲナウゾーグー ート adv. 同様に

「副詞」

genau まさに so gut とても良い → genausogut 「同じくらい良い、同様に

in ein Gefängnis イン・アイン・ゲフェンクニス adv. 刑務所に

「間接目的語」

wie ヴァー conj. ～にも

「間接目的語」

in unschuldigen Schlaf イン・ウンシュルディゲン・シュラーフ

adv. 罪の無い眠り

「副詞句」

ZWEITER TEIL 第2部

IV

被告席であっても、自分について語られるのを聞くことはいつも興味深い。

Selbst auf einer Anklagebank ist es immer interessant, von sich sprechen zu hören.

「副詞句」、「動詞」「補語」「主語」

Selbst ゼルプst adv. ～さえ

「副詞」

auf einer Anklagebank アウフ・アイナー・アンクラゲ^{bank} adv. 被告人席で

「副詞句」

ist イスト 3 単現(sein)v.i. ～である

「動詞」

es エス pron 仮の主語（真の主語は von sich 以降）

immer interessant, イマー・インテレスント adj. いつも興味深い

「補語」

von sich sprechen フォン・ズィヒ・シュプ^{rechen}

adv. 自分について語られるのを

「間接目的語」

zu hören. ツー・ヘレン zu 不定詞(von j-3 hören 人-3 について)n. 聞くことは

「主語」

検事と僕の弁護士が彼らの論告と弁論において、僕自身について大いに語った、ひょっとすると僕の犯罪についてよりも僕自身についてより多く語ったと言える。

Ich kann wohl sagen, daß der Staatsanwalt und mein Anwalt in ihren Plädoyers viel von mir sprachen, vielleicht sogar mehr von mir als von meinem Verbrechen.

「主語」「動詞句」「副詞」「動詞句」「目的語」

Ich イヒ pron 僕は

「主語」

kann ...sagen, カン...ザーゲン 1 単現・可能(können+不定詞 sagen)

v.t. いう事が出来る

「動詞句」

wohl ヴォール adv. おそらく

「副詞」

daß ダス conj. ～ということを

「目的語」

der Staatsanwalt デア・シュターツァンワ^{alt} n.m. 検事が

「主語」

und ウント conj. そして

mein Anwalt マイン・アンワ^{alt} n.m. 僕の弁護士が

「主語」

in ihren Plädoyers イン・イーレン・プレト^{aiere} adv. 論告と弁論で

「副詞句」

viel フィール adv. 大いに

「副詞」

von mir フォン・ミーア adv. 僕について

「間接目的語」

sprachen, シュプ^{rahen} 3 複過(sprechen)v.i. 語った

「動詞」

vielleicht フライヒト adv. ひょっとしたら

「副詞」

sogar mehr ザーガー・メア adv. 更に多く

「副詞句」

von mir フォン・ミーア adv. 僕について

「間接目的語」

als von meinem Verbrechen. アルス・フォン・マイネム・フェアブレヘン

adv. (比較) 僕の犯罪についてよりも

「副詞句」

ZWEITER TEIL 第2部

ところで、彼らの演説はそれほど根本的に異なるものだったろうか？

Waren diese Plädoyers übrigens so grundverschieden?

「動詞」「主語」「副詞」「補語」

Waren ヲアレ 3 複過・疑問文(sein)v.i ~ だったのか？

「動詞」

diese Plädoyers ディーゼ・プレトアイェー pl(Plädoyer).n.n これらの演説は

「主語」

übrigens ユーブリゲンス adv. ところで

「副詞」

so grundverschieden? ソーグルトフェアシーデ ン adj. それほど根本的に異なった

「補語」

弁護士は両手を上げて、情状酌量を条件として、有罪を支持した。

Der Anwalt hob die Arme und plädierte auf schuldig, aber unter mildernden Umständen.

「主語」「動詞」「目的語」 und 「動詞」「間接目的語」, aber 「副詞句」

Der Anwalt デア・アンワルト n.m 弁護士は

「主語」

hob ホブ 3 単過(heben)v.t 上げた

「動詞」

die Arme ディーアルメ pl(Arm).n.m.4 格 腕を

「目的語」

und ウント conj. そして

plädierte プレディエルテ 3 単過(plädieren)v.i ~を支持した

「動詞」

auf schuldig, アウフ・シュルディヒ adv. 有罪を

「間接目的語」

aber アーバー conj. しかし

unter ウンター prep (3 格と) (条件) ~のもとで

「副詞句」

mildernden Umständen. ミルダーンテン・ウムシュタンデン

pl(Umständ).n.m.3 格 情状酌量

「目的語」

検事は両手を伸ばして有罪を強調し、情状酌量を認めなかった。

Der Staatsanwalt streckte die Hände aus, unterstrich die Schuld und ließ keine mildern Umstände gelten.

「主語」「動詞句」「目的語」「動詞句」, 「動詞句」「目的語」

und 「動詞句」「目的語」「動詞句」

Der Staatsanwalt デア・シュタツアンワルト n.m 検事は

「主語」

streckte ...aus, シュトレクテ...アウス 3 単過(aus|strecken)v.t 伸ばした

「動詞句」

die Hände ディーヘンデ pl(Hand).n.f.4 格 両手を

「目的語」

unterstrich ウンターシュトリヒ 3 単過(unterstreichen)v.t 強調した

「動詞」

die Schuld ディー・シュルト n.f.4 格 有罪を、責任を

「目的語」

und ウント conj. そして

ließ ...gelten. リース...ゲルテン 3 単過(lassen+不定詞 gelten)v.t 認めた

「動詞句」

et-4 gelten lassen 何-4 を認める

ZWEITER TEIL 第2部

keine mildern Umstände カイネ・ミルダ・ネン・ウムシュテンデ

pl(Umstand).n.m.4 格 和らげる事情～ない

「目的語」

ただ僕は何かがつくりこなかった。

Nur etwas war mir irgendwie peinlich.

「主語」「動詞」「間接目的語」「補語」

Nur etwas ヌア・エトワ^ス pron ただ何か

「主語」

war ワ^{アル} 3 単過(sein)v.i ～ だった

「動詞」

mir ミア pron.3 格 僕にとって

「間接目的語」

irgendwie peinlich. イルゲンツワイ^ペ・インリ^ヒ adj, なんとなく心苦しい

「補語」

僕は集中出来なかったが、時々会話を口をはさみたくなった。すると、その度に僕の弁護士が言った：「黙っていてください。それがあなたのためです」

Trotz meiner Zerstreutheit war ich manchmal versucht einzugreifen, und mein Anwalt sagte dann: «Schweigen Sie, das ist besser für Sie.»

「副詞句」「動詞句」「主語」「副詞句」「動詞句」und「主語」「動詞」「副詞」:

《「呼びかけ」,「主語」「動詞」「補語」》

Trotz トロツ prep (2 格と) ～にもかかわらず

「副詞句」

meiner Zerstreutheit マイネ^{ツェアシュトロイトハイト} n.f.2 格 自分の注意散漫

「目的語」

war ...versucht einzugreifen, ヲ^{アル} ...フェアズフト・アイン・ツウ^{グライフェン}

1 単過・完了形・試みる(versuchen+zu 不定詞 ein | greifen)

v.i 介入しようとした

「動詞句」

ich イヒ pron 僕は

「主語」

manchmal マンヒマル adv. 時には、時々

「副詞」

und ウント conj. そして

mein Anwalt マイン・アンワ^{アルト} n.m 僕の弁護士が

「主語」

sagte サークテ 3 単過(sagen)v.t 言った

「動詞」

dann: ダン adv. その時

「副詞」

«Schweigen Sie, シュウ^{アイゲン}・ジー 命・2 複現(schweigen)v.i 黙って下さい

「呼びかけ」

das ダス pron それ

「主語」

ist イスト 3 単現(sein)v.i ～である

「動詞」

besser ベッサー adj. より良い

「補語」

für Sie. フュア^{ジー} adv. あなたにとって

「副詞句」

ZWEITER TEIL 第2部

ある意味、この事件全体が僕とはまるで関係がないように思われた。

In gewisser Weise sah es so aus, als hätte die ganze Angelegenheit nichts mit mir zu tun.

「副詞句」「動詞句」「主語」「副詞」「動詞句」, 「副詞節」

In gewisser Weise イン・ゲウ・ィッサ・ウァイセ⁶ adv. ある意味で 「副詞句」

sah ...aus, サー...アウス 3 単過(aus | sehen)v.i 〜のように見えた 「動詞句」

es エス pron それは 「主語」

so ザー adv. そのように 「副詞」

als +接続法アルス conj. まるで〜のように 「副詞節」

hätte ハッテ 接 II・3 単現(haben)v.t 〜がある 「動詞」

die ganze Angelegenheit ディー・ガンツェ・アンゲレーゲンハイト n.f この事件全体は 「主語」

nichts ニヒツ pron 何も〜ない 「目的語」

mit mir zu tun. ミット・ミーア・ツウ・トゥン adj. 僕とすべき 「形容詞句」

僕に発言を求めることなく、全てが進行した。

Alles geschah ohne mein Eingreifen.

「主語」「動詞」「副詞句」「目的語」

Alles アレス pron すべてが 「主語」

geschah ゲシャ 3 単過(geschehen)v.i 起こった 「動詞」

ohne オーネ prep (4 格と) (欠如) 〜無しに 「副詞句」

mein Eingreifen. マイン・アイングライフェン n.n.4 格 僕の発言、介入 「目的語」

僕の運命は、僕の意見を無視して決められていった。

Mein Schicksal vollzog sich, ohne daß man sich um meine Meinung kümmerte.

「主語」「動詞句」, 「副詞節」

Mein Schicksal マイン・シックザール n.n 僕の運命は 「主語」

vollzog sich, フォルツォーク・ズィヒ 3 単過・再帰受動(sich-4 vollziehen)

v.pr 作られていった 「動詞句」

ohne daß オーネ・ダス conj. 〜という事なしに 「副詞節」

man マン pron 人は 「主語」

sich ...kümmerte. スィヒ...キューマテ 3 単過・時制の一致(sich-4 kümmern um et-4 何-4 を)

v.pr 気にかける 「動詞句」

um meine Meinung ウム・マイネ・マイヌング⁶ adv. 僕の意見を 「間接目的語」

ZWEITER TEIL 第2部

時々、僕は発言者の話を遮って言いたい気持ちになった：「実際にはここでは誰が被告なのか？被告であることは重大なことだ。それに、僕にも言いたいことはある」

Ab und zu hatte ich Lust, jeden Redner zu unterbrechen und zu sagen: «Wer ist denn hier eigentlich der Angeklagte? Angeklagter zu sein, ist wichtig. Und ich habe allerhand zu sagen.»

「副詞句」「動詞」「主語」「目的語」「副詞句」:

《「主語」「動詞」「副詞句」「補語」 | 「主語」「動詞」「補語」

Und 「主語」「動詞」「目的語」》

Ab und zu	アップ・ウント・ツァー adv. 時々	「副詞句」
hatte	ハッテ 1 単過(haben)v.t. ～があった	「動詞」
ich	イッヒ pron 僕は	「主語」
Lust,	ルスト n.f 気持ち	「目的語」
zu	不定句・同格 adj. ～という	「副詞句」
jeden Redner	イエーデーン・レートナー n.m.4 格 発言者を	「目的語」
zu unterbrechen	ツァー・ウンターブレイヒェン zu 不定詞 v.t 遮る	「動詞句」
und	ウント conj. そして	
zu sagen:	ツァー・ザーゲン zu 不定詞 v.t 言う	「動詞句」
«Wer	ヴェア pron 誰が	「主語」
ist	イスト 3 単現・疑問文(sein)v.i. ～なのか？	「動詞」
denn hier	デーン・ヒア adv. ここでは	「副詞句」
eigentlich	アイゲンツリッヒ adv. 実際には	「副詞」
der Angeklagte?	デア・アンゲクラークテ n.m.1 格 被告	「補語」
Angeklagter zu sein,	アンゲクラクター・ツァー・ザイン zu 不定句 n. 被告であることは	「主語」
ist	イスト 3 単現(sein)v.i. ～である	「動詞」
wichtig.	ヴァヒチヒ adj. 重大な	「補語」
Und	ウント conj. そして	
ich	イッヒ pron 僕は	「主語」
habe	ハーベ 1 単現(haben)v.t. ～がある	「動詞」
allerhand	アラーハント pron いろいろな事	「目的語」
zu sagen.»	ツァー・ザーゲン zu 不定詞・目的 adj. 言うべき	「形容詞句」

しかし、よく考えると、僕には何も話すことが無かった。

Aber bei genauer Überlegung hatte ich nichts zu sagen.

Aber 「副詞句」「動詞」「主語」「目的語」

Aber アーバー cinj. しかし

bei バイ prep (3 格と) (条件) ～ならば 「副詞句」

ZWEITER TEIL 第2部

genauer Überlegung ゲナウアー・ユーバーレーグング n.f.3 格 より厳密な熟慮 「目的語」
 hatte ハッテ 1 単過(haben)v.t 〜があった 「動詞」
 ich イッヒ pron 僕は 「主語」
 nichts ニヒツ pron 何も〜ない 「目的語」
 zu sagen. ツー・ザーゲン 不定詞・目的 adj. 話すべき 「形容詞句」

ところで、他人の注目を自分に集める興味というものは長くは続かないということを認めなければならない。

Übrigens muß ich zugeben, daß das Interesse, andere für mich in Anspruch zu nehmen, nicht lange vorhält.

「副詞」「動詞句」「主語」「目的語」
 Übrigens ユーブリゲンス adv. ところで 「副詞」
 muß ...zugeben, ムス...ツェーゲーベン 1 単現・必要(müssen+不定詞 zugeben)
 v.t 認めなければならない 「動詞句」
 ich イッヒ pron 僕は 「主語」
 daß ダス conj. 〜ということ 「目的語」
 das Interesse, ダス・インテレスェ n.n 興味は 「主語」
 andere ...in Anspruch zu nehmen, アンデレ...イン・アンシュプ ルッフ・ツェー・ネーメン zu 不定句・同格
 (j-4 in Anspruch nehmen) adj. 他人の注意を奪うという 「形容詞句」
 für mich フューア・ミッヒ adv. 自分のために 「副詞句」
 nicht lange vorhält. ニヒト・ランゲ・フォーア・ヘルト 3 単現・否定(vor | halten)
 v.i 長く持続しない 「動詞句」

例えば、検察側の弁論にはすぐに飽きた。

Das Plädoyer des Staatsanwalts zum Beispiel hat mich sehr bald gelangweilt.

「主語」「副詞句」「動詞句」「目的語」「副詞句」「動詞句」
 Das Plädoyer ダス・プレトアイェー n.n 弁論は 「主語」
 des Staatsanwalts デス・シュターツァンワルト n.m.2 格 検察の 「形容詞句」
 zum Beispiel ツム・ハイシュビール adv. 例えば 「副詞句」
 hat ...gelangweilt. ハット...ゲラングェワイルト 3 単現・完了形(langweilen)v.t 退屈させた 「動詞句」
 mich ミッヒ pron.4 格 僕を 「目的語」
 sehr bald セーア・バルト adv. すぐに 「副詞句」

ZWEITER TEIL 第2部

長々とした話の中で、言葉の断片や身振りあるいは文脈から外れた言葉だけが僕を驚かし、僕の興味をそそった。

Nur Bruchstücke, Gesten oder ganze, aus dem Zusammenhang gelöste Tiraden haben mich frappiert und mein Interesse geweckt.

「主語」「副詞句」「主語」「動詞句」「目的語」「動詞句」 und 「目的語」「動詞句」	
Nur ヌア adv. ～だけ	「副詞句」
Bruchstücke, ブルーフシュトケ pl(Bruchstück).n.f 言葉の断片	「主語」
Gesten ゲステン pl(Geste).n.f 身振り	「主語」
oder オーダー conj. または	
ganze, ガンツェ n.n 全体	「主語」
aus アウス prep (3格と) ～の中から	「副詞句」
dem Zusammenhang デーム・ツサメンハンク	
n.n.3格 繋がり	「目的語」
gelöste ゲレステ adj. ほぐれた	「形容詞」
Tiraden チラデテン pl(Tirade).n.f 長い話	「主語」
haben ...frappiert ハーベン...フラピエルト 3 複現・完了形(frappieren)v.t 驚かした	「動詞句」
mich ミット pron.4格 僕を	「目的語」
und ウント conj. そして	
mein Interesse マインインテレスェ n.n.4格 僕の興味を	「目的語」
geweckt. ゲウァェクトイ 3 複現・完了形(wecken)v.t 呼び起こした	「動詞句」

僕の理解が正しければ、彼は僕が故意に殺したと想定していたのだろう。

Wenn ich ihn recht verstanden habe, ging er davon aus daß ich vorsätzlich getötet hätte.

「副詞節」, 「動詞句」「主語」「目的語」	
Wenn ウェン conj. (条件) もし～ならば	「副詞節」
ich イット pron 僕が	「主語」
ihn イン pron.4 彼を、彼の言う事を	「目的語」
recht レット adv. 正しく	「副詞」
verstanden habe, フェアシュタンテン・ハーベ 1 単現・完了形(verstehen)	
v.t 理解した	「動詞句」
ging ...davon aus ギンク...ダフォン・アウス 3 単過(gehen ...davon aus ～を)	
v.t ～を仮定していた	「動詞句」
er エア pron 彼は	「主語」
daß ダス conj. ～ということを	「目的語」
ich イット pron 僕が	「主語」
vorsätzlich フォアゼッツリッヒ adv. 故意に	「副詞」

ZWEITER TEIL 第2部

getötet hätte. ゲテテット・ヘッテ 接 II・1 単現・完了形・推測(töten)v.t 殺した 「動詞句」

少なくとも、彼はそれを証明しようとした。

Jedenfalls versuchte er das zu beweisen.

「副詞」「主語」「動詞句」「目的語」「動詞句」

Jedenfalls イェーデンファルス adv. 少なくとも

「副詞」

versuchte ...zu beweisen. フェアズフテ...ツー・ベウァイゼン 3 単過・試す(versuchen...zu 不定詞)

v.t 証明しようとした

「動詞句」

er エア pron 彼は

「主語」

das ダス pron.4 格 それを

「目的語」

彼は次のように言った：「それでは、皆さん、私は証拠をお見せします。しかも 2 通りの証拠を。まず、事実の眩い光の中で、次にこの犯罪者が私にもたらす陰鬱な光の中で」

Er sprach das selber aus: «Ich werde den Beweis dafür erbringen, meine Herren, und zwar einen doppelten Beweis. Einmal im blendenden Licht der Tatsachen und dann im trüben Schein, den mir das Wesen dieses verbrecherischen Menschen liefert.»

「主語」「動詞句」「目的語」「副詞」「動詞句」:

《「主語」「動詞句」「目的語」「副詞」「動詞句」, 「呼びかけ」,

und 「副詞」「目的語」「副詞句」 und 「副詞句」》

Er エア pron 彼は

「主語」

sprach ...aus: シュプラーハ...アウス 3 単過(aus | sorechen)v.t 述べた、言った

「動詞句」

das ダス pron それを、そういうことを

「目的語」

selber ゼルバー pron 自ら、自分自身で

「副詞」

«Ich イット pron 私は

「主語」

werde ...erbringen, ヴェアデ...エアブリンゲン 1 単未・意思(werden+不定詞 erbringen)

v.t もたらす

「動詞句」

den Beweis デン・ウヴェアイス n.m.4 格 証拠を

「目的語」

dafür ダフュア adv. そのために

「副詞」

meine Herren, マイネ・ヘレン pl(Herr).n.m 皆さん

「呼びかけ」

und ウント conj. そして

zwar ツヴァール adv. (強調) しかも、それも

「副詞」

einen doppelten Beweis. アイネントッペルテン・ベウァイス

pl(Beweis).n.m.4 格 2 とおりの証拠を

「目的語」

Einmal アインマル adv. 一度は、最初は

「副詞」

im blendenden Licht イム・ブレンデンテン・リヒト adv. 眩い光の中で

「副詞句」

der Tatsachen デア・タートザッヘン pl(Tatsache).n.f.2 格 事実の

「形容詞句」

ZWEITER TEIL 第2部

und ウント conj. そして	
dann ダン adv. その次に	「副詞」
im trüben Schein, イム・トリュェベン・シャイン adv. 陰鬱な光の中で	「副詞句」
den デン pron (目的語) ～する	「形容詞節」
mir ミーア pron.3 格 私に	「間接目的語」
das Wesen ダス・ウェゼン n.n.4 格 本質を	「直接目的語」
dieses verbrecherischen Menschen デーイーゼス・フェアブレイヒリシェン・メンシェン	
n.m.1 格 この犯罪者が	「主語」
liefert. リーフェルト 3 単現(liefern)v.t 配達する	「動詞」

彼は母さんが亡くなってからのすべての事柄をまとめて話した。

Er faßte alle Tatsachen seit Mamas Tod zusammen.

	「主語」「動詞」「目的語」「副詞」
Er エア pron 彼は	「主語」
faßte ファステ 3 単過(fassen)v.t 言い表した	「動詞」
alle Tatsachen アレ・タートザッヘン pl(Tatsache).n.f 全ての事実を	「目的語」
seit サイト prep (3 格と)(時間) ～からの、～以来の	「副詞句」
Mamas Tod ママス・トット n.m 母親の死	「目的語」
zusammen. ツァメン adv. まとめて	「副詞」

彼は僕の冷酷さを、次に、僕が母さんの年齢を知らなかったこと、翌日に女性と海水浴に行ったこと、映画、フェルナンデル、それからマリーと夜を過ごしたことを話した。

Er erinnerte an meine Gefühllosigkeit, daran, daß ich Mamas Alter nicht gewußt hatte, an mein Bad am nächsten Tag mit einer Frau, an das Kino, an Fernandel und dann an die Nacht mit Maria.

	「主語」「動詞」「間接目的語」「副詞」, daran, 「目的語」,
	「間接目的語」, 「間接目的語」, 「間接目的語」 und 「副詞」「間接目的語」
Er エア pron 彼は	「主語」
erinnerte エアィネアテ 3 単過(erinnern)v.t(j-4 an et-4 人-4 に何-4 を) 思い出させた	「動詞」
an meine Gefühllosigkeit, アン・マイネ・ゲフューロズィヒカイト adv. 僕の無神経さを	「間接目的語」
daran, ダラン adv. それに続いて	「副詞」
daß ダス conj. ～ということ	「目的語」
ich イヒ pron 僕は	「主語」
Mamas Alter ママス・アルター n.n.4 格 母さんの年齢を	「目的語」
nicht gewußt hatte, ニヒト・ゲヴースト・ハッテ 1 単過・完了形・否定(wissen)	
v.t 知らなかった	「動詞句」

ZWEITER TEIL 第2部

an mein Bad アン・マイン・バート adv. 海水浴のこと	「間接目的語」
am nächsten Tag アム・ネヒステン・ターク adv. 翌日に	「副詞句」
mit einer Frau, ミット・アイナー・フラウ adv. 女性と一緒に	「副詞句」
an das Kino, アン・ダス・キノ adv. 映画のこと	「間接目的語」
an Fernandel アン・フェルナンデル adv. フェルナンデルのこと	「間接目的語」
und ウント conj. そして	
dann ダン adv. それから	「副詞」
an die Nacht アン・デー・ナハト adv. 夜のこと	「間接目的語」
mit Maria, ミット・マリア adv. マリーとの	「副詞句」

僕はしばらくしてやっとそれが理解できた。検事は「彼の愛人」と言ったが、僕にとって彼女はそれでもマリーなのだから。

Ich begriff das erst nach einiger Zeit, denn er sagte «seine Geliebte», und für mich war sie doch Maria.

	「主語」「動詞」「目的語」「副詞句」,
	denn 「主語」「動詞」「目的語」 und 「副詞句」「動詞」「主語」「補語」
Ich イッヒ pron 僕は	「主語」
begriff ベグリーフ 1 単過(begreifen)v.t 理解した	「動詞」
das ダス pron.4 格 それを	「目的語」
erst エーアスト adv. やっと、はじめて	「副詞」
nach einiger Zeit, ナーハ・アイニガー・ツァイト adv. しばらく後に	「副詞句」
denn デン conj. 〜だから	
er エア pron 彼は	「主語」
sagte サークテ 3 単過(sagen)v.t 言った	「動詞」
«seine Geliebte», サアイン・ゲリープテ n.f 彼の愛人	「目的語」
und ウント conj. そして	
für mich フェア・ミッヒ adv. 僕にとっては	「副詞句」
war ヴァール 3 単過・時制の一致(sein)v.i 〜である	「動詞」
sie シー pron.f 彼女は	「主語」
doch ドッホ adv. それでも	「副詞」
Maria, マリア n.f マリー	「補語」

ZWEITER TEIL 第2部

それから、彼はレーモンの話題に移った。

Dann kam er auf die Geschichte mit Raymond zu sprechen.

「副詞」「動詞句」「主語」「間接目的語」「動詞句」

Dann ダン adv. それから

「副詞」

kam ...zu sprechen. カム...ツ-シュプ レヒェン 3 単過(kommen...zu+不定詞 sprechen)

v.i 話すようになった

「動詞句」

er エア pron 彼は

「主語」

auf die Geschichte mit Raymond アウフ・デー・イ-ゲシヒテ・ミット・ライモン

adv. レーモンの話を

「間接目的語」

彼がこの事件を非常にはっきり捉えていたことは認めざるを得ない。

Ich muß zugeben, daß er die Ereignisse ganz klar sah.

「主語」「動詞句」「目的語」

Ich イッヒ pron 僕は

「主語」

muß zugeben, ムス・ツ-ゲーベン 1 単現・必要(müssen+不定詞 zu | geben)

v.t 認めなければならない

「動詞句」

daß ダス conj. ～ということを

「目的語」

er エア pron 彼は

「主語」

die Ereignisse デー・イ-エアイクニッセ pl(Ereignis).n.n.4 格 この事件を

「目的語」

ganz klar ガンツ・クラー adv. 非常にはっきりと

「副詞句」

sah. サー 3 単過(sehen)v.t 認識していた

「動詞」

僕は、レーモンの愛人を家におびき出し、道徳心が疑わしい人物による虐待に引き渡すために、レーモンと一緒に手紙を書いたというのだ。

Ich hatte mit Raymond den Brief geschrieben, um dessen Geliebte ins Haus zu locken und sie der Mißhandlung durch einen Menschen «zweifelhafter Moral» auszuliefern.

「主語」「動詞句」「副詞句」「目的語」「動詞句」, 「副詞句」

Ich イッヒ pron 僕は

「主語」

hatte ...geschrieben, ハッテ...ゲ・シュリーベン 1 単過・完了形(schreiben)v.t 書いた

「動詞句」

mit Raymond ミット・ライモン adv. レーモンと一緒に

「副詞句」

den Brief デン・ブリーフ n.m.4 格 手紙を

「目的語」

um ...zu locken ウム...ツ-ロッケン um zu 不定句・目的 adv. おびき寄せるために

「副詞句」

dessen Geliebte デッセン・ゲリープテ n.f.4 格 彼の愛人を

「目的語」

ins Haus インス・ハウス adv. 家に

「副詞句」

und ウント conj. そして

...auszuliefern. アウス・ツ-リーフェルン um zu 不定句・目的 adv. 引き渡すために

「副詞句」

ZWEITER TEIL 第2部

sie シー pron.f 彼女を	「直接目的語」
der Mißhandlung テア・ミスハントルグ n.f.3 格 虐待に	「間接目的語」
durch ドゥルヒ prep (4 格と) (手段) へによる	「副詞句」
einen Menschen アイン・メンシェン (Mensch).n.m.4 格 ある人物	「目的語」
«zweifelhafter Moral» ウェアイフェルハフター・モラル	
adj. 道德心が疑わしい	「形容詞句」

僕は浜辺でレーモンの敵対者たちを挑発した。

Ich hatte am Strand Raymonds Feinde provoziert.

「主語」「動詞句」「副詞句」「目的語」

Ich イヒ pron 僕は	「主語」
hatte ...provoziert. ハッテ...プ ログォツイーアト 1 単過・完了形	
(provozieren)v.t(j-4 を) 挑発した	「動詞句」
am Strand アム・シュトラント adv. 浜辺で	「副詞句」
Raymonds Feinde ライモンズ・ファインデ pl(Feind).n.m レーモンの敵を	「目的語」

レーモンは負傷した。

Raymond war verwundet worden.

「主語」「動詞句」

Raymond ライメント n.m レーモンは	「主語」
war verwundet worden. ウェアル・フェアウンデット・ウ ォアテン 3 単過・完了形・受動	
(werden+過去分詞 verwunden)v.t 負傷した	「動詞句」
werden の過去分詞	

geworden と worden の 2 つがあり、文脈によって使い分けられます。

本動詞として「～になる」という意味で使われる場合は geworden を使い、
受動態の助動詞として使われる場合は worden を使います。

僕は彼の拳銃を渡してもらった。

Ich hatte mir seinen Revolver geben lassen.

「主語」「動詞句」「間接目的語」「直接目的語」「動詞句」

Ich イヒ pron 僕は	「主語」
hatte ...geben lassen. ハッテ...ゲーベン・ラッセン 1 単過・完了形・使役	
(lassen+不定詞 geben)v.t 渡してもらった	「動詞句」
mir ミーア pron.3 格 僕に	「間接目的語」
seinen Revolver サイネン・レウオルグェール n.m.4 格 彼の拳銃を	「直接目的語」

ZWEITER TEIL 第2部

僕は拳銃を使うために一人で戻った。

Ich war allein zurückgegangen, um mich des Revolvers zu bedienen.

「主語」「動詞句」「副詞」「動詞句」, 「副詞句」

Ich イッヒ pron 僕は

「主語」

war ...zurückgegangen, ヲァール...ツリェックゲガングェン 1 単過・完了形(zurügehen)

v.i 戻った

「動詞句」

allein アライン adv. 一人で

「副詞」

um mich ... zu bedienen. ム・ミヒ...ツー・ベデーネン um zu 不定句・目的

(sich-4 bedienen)adv.(et-2 を) 使うために

「副詞句」

des Revolvers デス・レヴオルヴェス n.m.2 格 拳銃を

「目的語」

僕は計画通りにアラブ人を射殺した。

Ich hatte den Araber niedergeschossen, wie ich es mir vorgenommen hatte.

「主語」「動詞句」「目的語」「動詞句」, 「副詞節」

Ich イッヒ pron 僕は

「主語」

hatte ...niedergeschossen, ハッテ...ニエダー・ゲ・ショッセン 1 単過・完了形(nieder | schießen)

v.t 射殺した、撃ち倒した

「動詞句」

den Araber デン・アーラーバー n.m.4 格 アラブ人を

「目的語」

wie ヲィー conj. どのように

「副詞節」

ich イッヒ pron 僕は

「主語」

es エス pron それを

「目的語」

mir vorgenommen hatte. ミー・ア・フォーア・ゲ・ノメン・ハッテ 1 単過・完了形(sich-3 et-4 vor | nehmen)

v.pr 計画していた、もくろんでいた

「動詞句」

僕は待った。そして、「全ての仕事が成し遂げられた」と確信するために、僕はさらに4発の弾丸を十分に考えたうえで冷酷に後から撃ち込んだ。

Ich hatte gewartet. Und um sicher zu sein, «ganze Arbeit geleistet zu haben», hatte ich noch vier Kugeln hinterhergejagt, kaltblütig und mit Überlegung.

「主語」「動詞句」

Und 「副詞句」「動詞句」「主語」「副詞」「目的語」「動詞句」, 「副詞句」

Ich イッヒ pron 僕は

「主語」

hatte gewartet. ハッテ・ゲワァルテット 1 単現・完了形(warten)v.i 待った

「動詞句」

Und ウント conj. そして

um sicher zu sein, ム・スィヒヤー・ツー・ザイン um zu 不定句・目的

adv. 確信されるために

「副詞句」

«ganze Arbeit geleistet zu haben», ガンツェアルバイト・ゲライステット・ツ・ハベン zu 不定句

ZWEITER TEIL 第2部

n. 全ての仕事が成し遂げられたということが	「主語」
hatte ...hinterhergejagt, ハッテ...ヒンターヘア・ゲ・ヤクト 1 単過・完了形(hinterher jagen)	
v.t 後から撃ち込んだ	「動詞句」
ich イヒ pron 僕は	「主語」
noch ノッホ adv. さらに	「副詞」
vier Kugeln フィア・クーゲルン pl(Kugel).n.f.4 格 4 発の弾丸を	「目的語」
kaltblütig カルトブルーティヒ adv. 冷酷に	「副詞」
und ウント conj. そして	
mit Überlegung. ミット・ユーバーレーゲンク adv. 熟考の上で	「副詞句」

「皆さん、ご覧の通りです」と、検事は言った。「私はこの被告が意図的な殺人を行うに至った出来事を順に並べ上げました」

«Sehen Sie, meine Herren», sagte der Staatsanwalt, «ich habe der Reihe nach die Ereignisse aufgezählt, die diesen Menschen zu einem vorsätzlichen Mord veranlaßten.

《「呼びかけ」》, 「動詞」「主語」, 《「主語」「動詞句」「副詞句」「目的語」「動詞句」》	
«Sehen Sie, meine Herren», セーエン・ジュー・マイネ・ヘレン adv. 皆さん、ご覧ください「呼びかけ」	
sagte サークテ 3 単過(sagen)v.t 言った	「動詞」
der Staatsanwalt, デア・シュターツァンワルト n.m 検事が	「主語」
«ich イヒ pron わたしは	「主語」
habe ...aufgezählt, ハーベ...アウフ・ゲ・ツェールト 1 単現・完了形(auf zählen)	
v.t 列挙した	「動詞句」
der Reihe nach デア・ライハ・ナーハ adv. (順序) 順に	「副詞句」
die Ereignisse デーイー・エアイク・ニッセ pl(Ereignis).n.n.4 格 出来事を	「目的語」
die デーイー pron (主語) ～する	「形容詞節」
diesen Menschen デーイーゼン・メンシェン n.m.4 格 この人に	「直接目的語」
zu einem vorsätzlichen Mord ツー・アイネム・フォーアゼツツリヒェン・モート	
adv. 意図的な殺人を	「間接目的語」
veranlaßten. フェアアンラステン 3 複過(veranlassen)v.t(j-4 zu et-3 人-4 に何-3 を)	
v.t させた	「動詞」

ZWEITER TEIL 第2部

私は特にこの点を重視します。というのは、これは情状酌量の余地のある普通の殺人とか、軽はずみな殺人ではないからです。

Das betone ich besonders. Denn es handelt sich nicht um einen gewöhnlichen Totschlag, nicht um eine unüberlegte Tat, für die man mildernde Umstände finden könnte.

「目的語」「動詞」「主語」「副詞」 | 「副詞節」

Das ^{ダス}pron それを 「目的語」
 betone ^{ベトネ}1 単現(betonen)v.t 重視する 「動詞」
 ich ^{イチ}pron 私は 「主語」
 besonders. ^{ベゾンダース}adv. 特に、とりわけ 「副詞」
 Denn ^{デソ}conj. というのは～だから 「副詞節」
 es handelt sich nicht ^{エス・ハントェルト・ズィッヒ・ニヒト}3 単現・否定(es handelt sich)
 v.pr(um et-4 何-4 の) 事ではない 「動詞句」
 um einen gewöhnlichen Totschlag, ^{ウム・アイネン・ゲ・ウァー・エンリヒェン・トートシュラー・ク}
 adv. 普通の殺人 「補語」
 nicht um eine unüberlegte Tat, ^{ニヒト・ウム・アイネ・ウンイベレクテ・タート}
 adv. 軽はずみな行為ではない 「補語」
 für die man ^{フューア・デー・マン}adv. 被告のために 「副詞句」
 mildernde Umstände ^{ミルデ・アンデ・ウムシュタンデ}
 n.m.4 格 情状酌量を 「目的語」
 finden könnte. ^{フィンデソ・ケンテ}接 II・3 単現・可能(können+不定詞 finden)
 v.t 見つけられる 「動詞句」

この男は、皆さん、この男は聡明です。皆さんは自分の耳でこの男の話を聞いたはずです。

Dieser Mann, meine Herren, dieser Mann ist intelligent. Sie haben ihn doch selbst gehört.

「主語」, 「呼びかけ」, 「主語」「動詞」「補語」

「主語」「動詞句」「目的語」「副詞」「動詞句」

Dieser Mann, ^{デー・ザー・マン}n.m この男は 「主語」
 meine Herren, ^{マイネ・ヘアレン}pl(Herr).n.m 皆さん 「呼びかけ」
 dieser Mann ^{デー・ザー・マン}n.m この男は 「主語」
 ist ^{イスト}3 単現(sein)v.i ～である 「動詞」
 intelligent. ^{インテリゲント}adj. 聡明な、知的な 「補語」
 Sie ^{ジー}pron.pl 皆さんは 「主語」
 haben ...gehört. ^{ハーベン...ゲ・ヘアト}3 複現・完了形(hören)v.t 聞いた 「動詞句」
 ihn ^{イン}pron.4 格 彼の話を 「目的語」
 doch ^{ドッホ}conj. しかし

ZWEITER TEIL 第2部

selbst セルフ st adv. 自分自身で

「副詞」

彼は答え方を知っている。彼は言葉の選び方を知っている。彼が自分の行動を理解しない
で行動したとは言えない。

Er versteht, Antworten zu geben. Er weiß die Worte zu wägen. Man kann nicht sagen,
er handelte, ohne sich über sein Tun im klaren zu sein.»

「主語」「動詞」「目的語」 | 「主語」「動詞」「目的語」

「主語」「動詞句」, 「主語」「動詞」「副詞句」

Er エ pron 彼は

「主語」

versteht, フェアシュテート 3 単現(verstehen)v.t 知っている、理解している

「動詞」

Antworten アントヴェアテン pl(Antwort).n.f.4 格 答えを

「目的語」

zu geben. ツー・ゲーベン zu 不定詞・目的 adj. 与えるべき

「形容詞句」

Er エ pron 彼は

「主語」

weiß ヴァイス 3 単現(wissen)v.t 知っている

「動詞」

die Worte デー・ワーテ pl(Wort).n.n.4 格 言葉を

「目的語」

zu wägen. ツー・ヴェーゲン zu 不定詞・目的 adj. 吟味すべき

「形容詞句」

Man マン pron 人は

「主語」

kann nicht sagen, カン・ニヒト・ザーゲン 3 単現・可能・否定(können+不定詞 saagen)

v.t 言えない

「動詞句」

er エ pron 彼は

「主語」

handelte, ハンデルテ 3 単過(handeln)v.i 行動した

「動詞」

ohne sich ...zu sein. オーネ・ズィヒ...ツー・ザイン ohne zu 不定句・条件 adv. 〜でなく 「副詞句」

über sein Tun ユーバー・ザイン・トゥン adv. 自分の行為に対して

「副詞句」

im klaren イム・クラレン adv. 明確な、はっきりした

「副詞句」

僕は耳を傾けて、自分が聡明だと思われていることを知った。

Ich hörte zu und vernahm, daß man mich für intelligent hielt.

「主語」「動詞句」 und 「動詞」「目的語」

Ich イヒ pron 僕は

「主語」

hörte zu ヘアテ...ツー 1 単過(zu|hören)v.i 耳を傾けた

「動詞句」

und ウント conj. そして

vernahm, フェアナム 1 単過(ver|nehmen)v.t 知った

「動詞」

daß ダス conj. 〜ということ

「目的語」

man マン pron 人は

「主語」

受動態に翻訳する

mich ミヒ pron.4 格 僕を

「目的語」

ZWEITER TEIL 第2部

für intelligent フューア・インテリゲンツ adj. 聡明な

「補語」

hielt. ヒールツ 3 単過・時制の一致(halten)v.t 思っている

「動詞」

しかし、普通の人なら当たり前の能力が、どうして犯罪者の証拠になってしまうのか、よく理解できなかった。

Aber ich begriff nicht recht, wie aus den Eigenschaften eines gewöhnlichen Menschen Belastungsmomente eines Schuldigen werden konnten.

Aber 「主語」「動詞」「副詞句」「目的語」

Aber アーバー conj. しかし

ich イヒ pron 僕は

「主語」

begriff ベグリフ 1 単過(begreifen)v.t 理解した

「動詞」

nicht recht, ニヒト・レヒト adv. よく～ない

「副詞句」

wie ヴァー conj. どうやって～するかを

「目的語」

aus アウス prep (3 格と) ～から

「副詞句」

den Eigenschaften デン・アウゲンשאフテン n.f.3 格 性質、特性

「目的語」

eines gewöhnlichen Menschen アイネス・ゲ・ヴァー・オーンリヒエン・メンシェン

n.m.2 格 普通の人

「形容詞句」

Belastungsmomente ベラストウングス・モメンテ n.n.1 格 証拠

「補語」

eines Schuldigen アイネス・シュルディゲン n.m.2 格 罪人の

「形容詞句」

werden konnten. ヴァーアデテン・コンテン 3 複過・可能・変化・時制の一致(können+不定詞 werden)

v.i ～になることが出来る

「動詞句」

「それが特に僕の注意を引いた。そして僕は、彼が次のように言うまで検事の話聞いていなかった。《被告はたとえ少しでも後悔の念を見せたのでしょうか？みなさん、一度もありません！予審の間中、この男は自分のひどい行為を後悔したことは一度もないのです》」

Das fiel mir besonders auf, und ich hörte dem Staatsanwalt erst wieder zu, als er sagte:
«Hat er auch nur einen Schimmer von Reue gezeigt? Nie, meine Herren! Während der Voruntersuchung hat dieser Mensch kein einziges Mal seine furchtbare Tat bereut.»

《「動詞句」「主語」「目的語」「副詞句」「動詞句」

「呼びかけ」 | 「副詞句」「動詞句」「主語」「副詞句」「目的語」「動詞句」》

Das ダス pron それが

「主語」

fiel ...auf, フィール...アウフ 3 単過(auf|fallen)v.i(j-3 の) 注意を引いた

「動詞句」

mir ミーア pron.3 格 僕の

「間接目的語」

besonders ベゾントァース adv. 特に

「副詞」

und ウント conj. そして

ich イヒ pron 僕は

「主語」

ZWEITER TEIL 第2部

hörte ...zu, ヘア...ツ 1 単過(zu hören)v.i(j-3 人-3 の話を) 聞いた	「動詞句」
dem Staatsanwalt テーム・シュターツァンワルト n.m.3 格 検事的话を	「間接目的語」
erst wieder エアスト・ウィーター adv. 初めてまた	「副詞句」
als er sagte: アルス・エア・ザーゲテ adv. 彼が次のように言った時	「副詞節」
«Hat... gezeigt? ハット...ゲツァイクト 3 単現・完了形・疑問文(zeigen)v.t 見せたか?	「動詞句」
er エア pron 彼は	「主語」
auch nur einen Schimmer アウフ・ヌア・エイネン・シマー n.m.4 格 たとえかすかでも	「目的語」
von Reue フォン・ロエ adv. 後悔から	「副詞句」
Nie, ニー adv. 一度もない	「呼びかけ」
meine Herren! マイネ・ヘレン pl(Herr).n.m みなさん	「呼びかけ」
Während der Voruntersuchung ウェーレント・デア・フォアウンターズーフング adv. 予審の間	「副詞句」
hat ...bereut.» ハット...ヘロイト 3 単現・完了形(bereuen)v.t 後悔した	「動詞句」
dieser Mensch デーザー・メンシュ n.m この男は	「主語」
kein einziges Mal カイン・アインツィゲス・マル adv. ただの一度も〜ない	「副詞句」
seine furchtbare Tat サイネ・フルヒトバーレ・タート n.f.4 格 自分のひどい行為を	「目的語」

この時、彼は僕の方を向いて、僕を指差して、僕を侮辱し続けた；なぜかは分からない。

間違いなく、彼が正しいと認めざるを得なかった。

In diesem Augenblick wandte er sich mir zu, zeigte mit dem Finger auf mich und fuhr fort, mich zu beschimpfen; ich weiß eigentlich nicht, warum. Zweifellos mußte ich zugeben, daß er recht hatte.

「副詞句」「動詞句」「主語」「動詞句」, 「動詞」「副詞句」「間接目的語」und
「動詞句」「主語」「目的語」; 「主語」「動詞句」「副詞」「動詞句」「副詞」
「副詞」「動詞句」「主語」「目的語」「動詞句」

In diesem Augenblick イン・デューゼム・アウゲンブリック adv. この時	「副詞句」
wandte ...sich mir zu, ウァンテ...ズィヒ・ミーア・ツ 3 単過(sich-4 zu wenden j-3)	
v.pr 僕の方を向いた	「動詞句」
er エア pron 彼は	「主語」
zeigte ツァイクテ 3 単過(zeigen)v.i(auf j-4) 指し示した	「動詞」
mit dem Finger ミット・デーム・フィンガー adv. (手段) 指で	「副詞句」
auf mich アウフ・ミヒ adv. 僕を	「間接目的語」
und ウント conj. そして	
fuhr fort, ...zu beschimpfen; フー・フォート...ツー・ベシムプフェン 3 単過・継続	
(fort fahren zu+不定詞 beschimpfen)v.t 侮辱し続けた	「動詞句」
mich ミヒ pron.4 格 僕を	「目的語」

ZWEITER TEIL 第2部

ich イヒ pron 僕は	「主語」
weiß ...nicht, ヲアイス...ニヒ 1 単現・否定(wissen)v.t 分からない	「動詞句」
eigentlich アイゲントリヒ adv. 実際は、いったい	「副詞」
warum. ヲアルム adv. どうして、なぜ	「副詞」
Zweifellos ツヴァイフェロース adv. 間違いなく、明らかに	「副詞」
mußte ... zugeben, ムステ...ツァーゲーベン 1 単過・必要(müssen+不定詞 zugeben) v.t 認めなければならなかった	「動詞句」
ich イヒ pron 僕は	「主語」
daß ダス conj. ～ということを	「目的語」
er エア pron 彼は	「主語」
recht レヒト pron 正当性	「目的語」
hatte. ハッテ 3 単過(haben)v.t ～があった	「動詞」

僕は自分がやったことをほとんど後悔したことが無い。しかし、その怒りに僕は驚いた。出来れば、彼に心を込めて、愛情を込めて、僕が何かに対して本当に後悔したことがないと説明したかった。

Was ich getan hatte, bereute ich kaum. Aber soviel Wut verwunderte mich. Am liebsten hätte ich versucht, ihm herzlich, ja liebevoll zu erklären, daß ich nie etwas richtig hätte bereuen können.

「目的語」, 「動詞」「主語」「副詞」 | Aber 「主語」「動詞」「目的語」

「副詞句」「動詞句」「主語」「動詞句」「間接目的語」「副詞句」「直接目的語」

Was ヲアス pron ～することを	「目的語」
ich イヒ pron 僕が	「主語」
getan hatte, ゲタン・ハッテ 1 単過・完了形(tun)v.t やった	「動詞句」
bereute ベロイテ 1 単過(bereuen)v.t 後悔した	「動詞」
ich イヒ pron 僕は	「主語」
kaum. カム adv. ほとんど～ない	「副詞」
Aber アーバー conj. しかし	
soviel Wut ソフィール・ワート n.f (判断の根拠) 怒りについては	「主語」
verwunderte フェアウンテアテ 3 単過(verwundern)v.t 驚かせた	「動詞」
mich. ミヒ pron.4 格 僕を	「目的語」
Am liebsten アム・リープ ステン adv. 出来れば	「副詞句」
hätte ...versucht, ヘッテ...フェアズーフト 接 II・1 単現・完了形(versuchen) v.t 試したかった	「動詞句」
ich イヒ pron 僕は	「主語」
ihm イム pron.3 格 彼に	「間接目的語」

ZWEITER TEIL 第2部

herzlich, ヘアツリヒ adv. 心から	「副詞」
ja ヤー adv. そう	「副詞」
liebevoll リーベフォル adv. 愛情を込めて	「副詞」
zu erklären, ツー・エクレーレン zu 不定詞 n. 説明することを	「直接目的語」
daß ダス conj. ～ということ	「目的語」
ich イヒ pron 僕は	「主語」
nie etwas ニー・エトワース pron 何かを～ない	「目的語」
richtig リヒヒ adv. 本当に	「副詞」
hätte bereuen können. ヘッテ・ベロイエン・ケネ 接 II・1 単現・完了形・推量(können+不定詞 bereuen)	
v.t 後悔しただろう	「動詞句」

僕はいつも、今日や明日に起こる事を気にかけていた。

Mich beschäftigte immer nur, was kam, heute oder morgen.

	「目的語」「動詞」「副詞句」「主語」
Mich ミヒ pron.4 格 僕を	「目的語」
beschäftigte ベシェフティクテ 3 単過(beschäftigen)v.t 時間を消耗させた	「動詞」
immer nur, イマー・ヌア adv. いつも	「副詞句」
was ワース pron ～するものが	「主語」
kam, カム 3 単過・時制の一致(kommen)v.i 起こる	「動詞」
heute oder morgen. ホイテ・オアダー・モアゲン adv. 今日や明日に	「副詞句」

しかし、僕が置かれた状況では、当然、誰にもそのように話すことは出来なかった。

Aber in der Lage, in die man mich versetzt hatte, konnte ich natürlich mit keinem so reden.

Aber 「副詞句」, 「動詞句」「主語」「副詞」「間接目的語」「副詞」「動詞句」	
Aber アーバー conj. しかし	
in der Lage, イン・デア・ラーゲ adv. この状況では	「副詞句」
in die イン・デア adv. ～する	「副詞節」
man マン pron 人が	「主語」
受動態に翻訳する	
mich ミヒ pron.4 格 僕を	「目的語」
versetzt hatte, フェアゼッツテ・ハッテ 3 単過・完了形(versetzen)	
v.t 配置した、移した	「動詞句」
konnte ...reden. コンテ...レーデン 1 単過・可能(können+不定詞 reden)v.i 話せた	「動詞句」
ich イヒ pron 僕は	「主語」
natürlich ナチュアリヒ adv. 当然	「副詞」

ZWEITER TEIL 第2部

mit keinem ミット・カイン adv. 誰とも～ない

「間接目的語」

soゾー adv. そのように

「副詞」

僕には自分が愛情深く親切だと示す権利が無かった。

Ich hatte nicht das Recht, mich liebevoll und gutwillig zu zeigen.

「主語」「動詞句」「目的語」

Ich イッヒ pron 僕は

「主語」

hatte nicht ハッテ・ニヒト 1 単過・否定(haben)v.t ～が無かった

「動詞句」

das Recht, ダス・レヒト n.n.4 格 権利が

「目的語」

mich ミヒ pron.4 格 自分を

「目的語」

liebevoll und gutwillig リーベ・フォル・ウント・グートウィルヒ

adj. 愛情深く親切な

「補語」

zu zeigen. ツー・ツァイゲン zu 不定詞・目的示すための

「形容詞句」

今度は検事が僕の魂について話し始めたので、もっと聞き続けようとした。

Ich versuchte, weiter zu zuhören, weil der Staatsanwalt nun von meiner Seele zu reden begann.

「主語」「動詞句」「副詞」「動詞句」, 「副詞節」

Ich イッヒ pron 僕は

「主語」

versuchte, ...zu zuhören, フェアスツテ...ツー・ツアーヘレン 1 単過・試行(versuchen zu+不定詞 zuhören)
v.t 聞こうとした

「動詞句」

weiter ヴァイター adv. さらに、もっと

「副詞」

weil ヴァイル conj. (理由) ～なので

「副詞節」

der Staatsanwalt テア・シュターツァンワルト n.m 検事が

「主語」

nun ヌン adv. 今度は

「副詞」

von meiner Seele フォン・マイナー・ゼーレ adv. 僕の魂について

「間接目的語」

zu reden begann. ツー・レーテンベガッ 3 単過・開始(beginnen zu+不定詞 reden)

v.i(von について) 話し始めた

「動詞句」

彼はそれに屈みこんでみたが、何も見つからなかったと言いました。陪審員の皆さん。

Er sagte, er habe sich über sie gebeugt und nichts gefunden, meine Herren Geschworenen.

「主語」「動詞」, 「主語」「動詞句」「副詞句」 und 「目的語」「動詞句」, 「呼びかけ」

Er エア pron 彼は

「主語」

sagte, サークテ 3 単過(sagen)v.t 言った

「動詞」

er エア pron 彼は

「主語」

ZWEITER TEIL 第2部

habe sich ...gebeugt ハーベ・スィット...ゲボイト 3 単現・完了形(sich-4 beugen)

v.pr 屈みこんだ

「動詞句」

über sie ユーバー・ジー adv. 彼の上に

「副詞句」

und ウント conj. そして

nichts ニッツ pron 何も～ない

「目的語」

gefunden, ゲフンデン 3 単現・完了形(finden)v.t 見つかった

「動詞句」

meine Herren Geschworenen. マイネ・ヘレン・ゲシュワォーレネン n.m 陪審員の皆さん

「呼びかけ」

彼は、僕には魂が無く、人間らしさも全くない：つまり人間の心を守る通常の原則も僕は全く理解していないと言った。

Er sagte, ich besäße gar keine Seele, auch nichts Menschliches; keines der normalen Prinzipien, die das Herz des Menschen behüten, sei mir geläufig.

「主語」「動詞」, 「主語」「動詞」「目的語」; 「目的語」, 「目的語」

Er エア pron 彼は

「主語」

sagte, サークテ 3 単過(sagen)v.t 言った

「動詞」

ich イット pron 僕は

「主語」

besäße ベゼツェ 接 II・1 単現(besitzen)v.t 持っていない

「動詞」

gar keine Seele, ガール・カイネ・ゼーレ n.m.4 格 全く魂を～ない

「目的語」

auch nichts Menschliches; アウフ・ニッツ・メンシュリヒェス pron 人間的な物も～ない

「目的語」

keines der normalen Prinzipien, カイネス・デア・ノルマルエン・プリンツィピエン

pl(Prinzip)n.n.4 格 標準的な原則の何も～ない

「目的語」

die デー prn.pl (主語) ～する

「形容詞節」

das Herz des Menschen ダス・ヘアツ・デス・メンシェン

n.n.4 格 人間の心を

「目的語」

behüten, ベフテン 3 複現 v.t 守る

「動詞」

sei サイ 接・3 単現(sein)v.i ～である

「動詞」

mir ミア pron.3 格 僕には

「間接目的語」

geläufig. ゲロイフヒ adj. 良く知られた

「補語」

「もちろん、そのことで私たちは彼を非難することは出来ません」

«Zweifellos können wir ihm keinen Vorwurf daraus machen.

«「副詞」「動詞句」「主語」「間接目的語」「直接目的語」「副詞」「動詞句」»

«Zweifellos ツァイフェロース adv. 明らかに、間違いなく

「副詞」

können ...machen. ケネ...マヘン 1 複現・可能(können+不定詞 machen)

v.t (動作を) 出来る

「動詞句」

wir ウィア pron 私たちは

「主語」

ZWEITER TEIL 第2部

ihm イム pron.3 格 彼に 「間接目的語」
 keinen Vorwurf カイン・フォーアウルフ n.m.4 格 非難を～ない 「直接目的語」
 daraus ダラウス adv. そのことで 「副詞」

「彼が決して獲得できない物を持っていないと、我々が文句を言う事は出来ない。」

Wir können uns nicht darüber beklagen, daß er das nicht hat, was er gar nicht erwerben kann.

《「主語」「動詞句」「間接目的語」「動詞句」「直接目的語」》

Wir ヴィーア pron 私たちは 「主語」
 können uns nicht ...beklagen, ケン・ウス・ニヒト...ベクレーゲン 1 複現・可能・否定
 (können+不定詞 sich-4 beklagen)v.pr 不平を言えない 「動詞句」
 darüber ダリュエバー adv. それに対して 「間接目的語」
 daß ダス conj. ～ということ 「直接目的語」
 er エア pron 彼は 「主語」
 das ダス pron それを 「目的語」
 nicht hat, ニヒト・ハット 3 単現・否定(haben)v.t 持っていない 「動詞句」
 was ヴァス pron (目的語) ～する 「形容詞節」
 er エア pron 彼は 「主語」
 gar nicht erwerben kann. ガール・ニヒト・エアウ エアベン・カン 3 単現・可能・否定
 (können+不定詞 erwerben)
 v.t 決して獲得できない 「動詞句」

「しかしこの法廷においては、寛容という負の美德はより困難ではあるがより高度な正義の美德に変わらなければならない。」

Aber bei diesem Gericht muß sich die negative Tugend der Duldsamkeit in die weniger leichte, aber höhere Tugend der Gerechtigkeit verwandeln.

《Aber 「副詞句」「動詞句」「主語」「補語」「動詞句」》

Aber アーバー conj. しかし
 bei バイ prep (3 格) (場所) ～では 「副詞句」
 diesem Gericht デーイーゼム・ゲリヒト n.n.3 格 この法廷 「目的語」
 muß sich ...verwandeln. ムス・スイヒ...フェアヴァンデルン 3 単現・必要
 (müssen+不定詞 sich-4 verwandeln)v.pr (in ～に) 変わらなければならない 「動詞句」
 die negative Tugend デーイー・ネガティヴ・トゥーゲント n.f 負の美德は 「主語」
 der Duldsamkeit デア・トゥルトザームカイト n.f.2 格(同格) 寛容の 「形容詞句」
 in イン prep (3 格または 4 格と) (状態) ～に 「補語」
 die weniger leichte, デーイー・ウェーニガー・ライヒテ

ZWEITER TEIL 第2部

pron.f.4 格(Tugend の代用) より困難な美德 「目的語」
 aber höhere Tugend アーバー・ヘーレ・トゥーゲント n.f.4 格 しかしより高度な美德 「目的語」
 der Gerechtigkeit デア・ゲレヒティカイト n.f.2 格(同格) 正義の 「形容詞句」

「特に、この人物に見られるような心の空虚さが、社会が転落するかもしれない深淵となる時には」

Vor allem, wenn die Leere des Herzens, wie sie bei diesem Menschen anzutreffen ist, ein Abgrund wird, in den die Gesellschaft stürzen kann.»

《「副詞句」, 「副詞節」》

Vor allem, フォア・アルム adv. 何よりも、特に 「副詞句」
 wenn ウェン conj. (条件) もしも～ならば 「副詞節」
 die Leere デー・レーレ n.f 空虚が 「主語」
 des Herzens, デス・ヘアツェンス n.n.2 格 心の 「形容詞句」
 wie ヴァー conj. (比較) ～のような 「副詞句」
 sie シー pron それ 「目的語」
 bei diesem Menschen バイ・デューゼム・メンシェン
 adv. この人物に 「副詞句」
 anzutreffen ist, アン・ツァー・トレフェン・イスト zu 不定詞・受動
 v.t 見られる 「動詞句」
 ein Abgrund イン・アップ・グルント n.m.1 格 深淵 「補語」
 wird, ヴィルト 3 単現・変化(werden)v.i ～になる 「動詞」
 in den イン・デッ adv. そこに～する時に 「副詞節」
 die Gesellschaft デー・ゲゼルシャフト n.f 社会が 「主語」
 stürzen kann.» シュトルツェン・カン 3 単現・可能性(können+不定詞 stürzen)
 v.i 転落するかもしれない 「動詞句」

それから彼は母親に対する僕の態度について語った。

Dann sprach er von meinem Verhalten Mama gegenüber.

「副詞」「動詞」「主語」「間接目的語」

Dann ダン adv. それから 「副詞」
 sprach シュプラーハ 3 単過(sprechen)v.i(von et-3 ～について) 話した 「動詞」
 er エア pron 彼は 「主語」
 von meinem Verhalten フォン・マイネム・フェアハルテン adv. 僕の態度について 「間接目的語」
 Mama gegenüber. ママ・ゲーゲン・ユーバー adv. 母親に対する 「副詞句」
 gegenüber ゲーゲン・ユーバー prep (3 格と ; しばしば後置) ～に対して

ZWEITER TEIL 第2部

彼はすでに審理で述べたことを繰り返した。

Er wiederholte, was er schon während der Verhandlung gesagt hatte.

「主語」「動詞」「目的語」

Er エア pron 彼は

「主語」

wiederholte, ヴィーダーホルテ 3 単過(wiederholen)v.t 繰り返した

「動詞」

was ヴァス pron (目的語) ~することを

「目的語」

er エア pron 彼が

「主語」

schon ショーン adv. 既に

「副詞」

während ヴェーレント prep (2 格まれに 3 格と) ~の間に

「副詞句」

der Verhandlung デア・フェアハント・ルング n.f.2 格 審理

「目的語」

gesagt hatte. ゲザークト・ハッテ 3 単過・完了形(sagen)v.t 言った

「動詞句」

ただ、ここで彼は僕の犯罪についてよりもっと詳細に語った。余りに詳細なので、結局僕はあの朝の熱気しか感じなかった。

Nur war er hier viel ausführlicher als bei seinen Auslassungen zu meinem Verbrechen, so ausführlich, daß ich schließlich nur noch die Hitze dieses Vormittags spürte.

「副詞」「動詞」「主語」「副詞」「補語」, 「副詞句」「主語」「副詞」「目的語」「動詞」

Nur ノア adv. ただ~だけ

「副詞」

war ヴァール 3 単過(sein)v.i ~ だった

「動詞」

er エア pron 彼は

「主語」

hier ヒア adv. ここで

「副詞」

viel ausführlicher フィール・アウスフューアリヒャー adj. (比較銃) ずっと詳細な

「補語」

als バイ conj. (比較) ~よりも

「副詞句」

bei seinen Auslassungen バイ・ザイネン・アウスラッセン

adv. (時) 彼の発言の時

「副詞句」

zu meinem Verbrechen, ツー・マイネム・フェアブレイヘン

adv. 僕の犯罪に対する

「副詞句」

so ausführlich, daß ソー・アウスフューリッヒ・ダス adv. (原因) 余りに詳細なので

「副詞句」

ich イッヒ pron 僕は

「主語」

schließlich シュリースリヒ adv. 結局

「副詞」

nur noch die Hitze ノア・ノッホ・デ・イー・ヒッツェ n.f.4 格 熱気しか

「目的語」

dieses Vormittags デー・イー・ゼ・ス・フォーミタクス n.m.2 格 あの朝の

「形容詞句」

spürte. シュピ・ユアテ 1 単過・否定文で(spüren)v.t 感じなかった

「動詞」

ZWEITER TEIL 第2部

少なくとも、検事が話を中断して、それから低く力強い声で話を続けるまでは：「この同じ法廷は、皆さん、明日最悪の犯罪を裁く予定です：父親殺しです！」

Wenigstens bis zu dem Augenblick, als der Staatsanwalt eine Pause machte, um dann mit leiser, eindringlicher Stimme fortzufahren: «Dieses selbe Gericht, meine Herren, wird morgen das schlimmste Verbrechen aburteilen: einen Vtermord!»

「副詞句」：《「主語」，「呼びかけ」，「動詞句」「副詞」「目的語」：「目的語」》

Wenigstens ヲ ーニヒステンズ adv. 少なくとも

「副詞」

bis zu dem Augenblick, ビス・ツァー・デーム・アウゲンブリック adv. (時間的) その時まで 「副詞句」

als アルス conj. ～した時

「副詞節」

der Staatsanwalt テア・シュターツァンワルト n.m 検事が

「主語」

eine Pause アイン・パウゼ n.f.4 格 中断を

「目的語」

machte, マハテ 3 単過(machen)v.t した

「動詞」

um ...fortzufahren: ウム...フォート・ツァー・ファールン um zu 不定句(fort | fahren)

v.i(mit et-3 ～を) 続行する

「副詞句」

dann ダン adv. そして

「副詞」

mit ミット prep (手段) ～を

「間接目的語」

leiser, eindringlicher Stimme ライザー・アインツリンドリグリーヒャー・シュティメ

n.f.3 格 低く強い声

「目的語」

«Dieses selbe Gericht, デーイーゼ・セルベ・ゲリヒト n.n この同じ法廷が

「主語」

meine Herren, マイネ・ヘレン pl(Herr).n.m 皆さん

「呼びかけ」

wird ...aburteilen: ヲイルト...アップ・ウルタイレン 3 単未・予定(werden+不定詞 ab | urteilen)

v.t 裁くことになっている

「動詞句」

morgen モアゲン adv. 明日

「副詞」

das schlimmste Verbrechen ダス・シュリムステ・フェアブレヒェン n.n.4 格 最悪の犯罪を

「目的語」

einen Vtermord! アイン・ファーターモルト n.f.4 格(同格) 父親殺しを

「目的語」

彼によれば、この恐ろしい犯罪の前では、想像力も後ずさりすると言う。

Seiner Meinung nach schreckte schon die Phantasie vor diesem grauenhaften Verbrechen zurück.

「副詞句」「動詞句」「副詞」「主語」「副詞句」

Seiner Meinung ザー・イヤー・マイヌング n.f 彼の意見では

「副詞句」

nach ナハ adv. 後ろに

「副詞」

schreckte ...zurück. シュレックテ...ツリュック 3 単過(zurück | schrecken)v.i 後ずさりした 「動詞句」

schon ショーン adv. 早くも、すでに

「副詞」

die Phantasie デー・ファンタズィー n.f.1 格 想像力は

「主語」

vor フォア prep (3 格と) ～の前で

「副詞句」

ZWEITER TEIL 第2部

diesem grauenhaften Verbrechen ディーセム・グェラウエンハフテン・フェアブレッヘン

n.n.3 格 この恐ろしい犯罪

「目的語」

彼は、人間の正義が誤った配慮をせずに罰を与えるであろうと敢えて期待した。

Er wagte zu hoffen, daß die menschliche Gerechtigkeit ohne falsche Rücksichtnahme strafen werde.

「主語」「動詞句」「目的語」

Er エア pron 彼は

「主語」

wagte zu hoffen, ヲークテ・ツォ・ホフエン 3 単過・敢えて(wagen zu+不定詞 hoffen)

v.t 敢えて期待した

「動詞句」

daß ダス conj. ～ということを

「目的語」

die menschliche Gerechtigkeit ディー・メンシュリヒェ・ゲレヒティカイト

n.f.1 格 人間の正義が

「主語」

ohne falsche Rücksichtnahme オーネ・ファルシェ・リュックスィヒトナーメ

adv. 間違えた配慮無しに

「副詞句」

strafen werde. シュトラフエン・ヴェルテ 3 単末(werden+不定詞 strafen)

v.t 罰するだろう

「動詞句」

しかし、彼はためらわずに言った：この父親殺しという犯罪が彼に与えた恐怖は、彼が私の無神経さの前で感じる恐怖に比べれば大したことではない。

Aber er scheute sich nicht zu sagen: das Entsetzen, das dieses Verbrechen ihm verursachte, sei fast geringer als das, welches er vor meiner Gefühllosigkeit empfinde.

Aber 「主語」「動詞句」：「主語」「動詞」「補語」

Aber アーバー conj. しかし

er エア pron 彼は

「主語」

scheute sich nicht zu sagen: ショイト・ズィヒト・ツォ・ザーゲン 3 単過・否定・恐れる

(sich-4 scheuen zu+不定詞 sagen)v.pr ためらわずに言った

「動詞句」

das Entsetzen, ダス・アントゼッツェン n.n 恐怖は、驚愕は

「主語」

das ダス pron(目的語) ～する

「形容詞節」

dieses Verbrechen ディーセス・フェアブレッヘン

pl(Verbrechen).n.n この犯罪が

「主語」

ihm イム pron.3 格 彼に

「間接目的語」

verursachte, フェアウザハテ 3 単過(verursachen)v.t 引き起こした

「動詞」

sei サイ 接・3 単現・程度の評価(sein)v.i ～である

「動詞」

fast geringer ファスト・ゲリンガー adj. (比較級) ほとんど少ない

「補語」

als das, アルス・ダス adv.(比較) それよりも

「副詞句」

ZWEITER TEIL 第2部

welches ウェルヒェス pron(目的語) ～する	「形容詞節」
er エア pron 彼が	「主語」
vor meiner Gefühllosigkeit フォア・マイナー・ゲフューロズヒヒカイト	
adv. 私の冷淡さを前にして	「副詞句」
empfinde. エンプフィンテ 接・3 単現・推量(empfinden)	
v.t 感じるだろう	「動詞」

彼の意見によると、自分の母親を心の中で殺した者は、自分の産みの親に向かって殺意の手を振り上げる者と同様に、人間社会から排除される。

Seiner Meinung nach stellte sich ein Mann, der seine Mutter moralisch tötete, genauso außerhalb der menschlichen Gesellschaft wie derjenige, welcher die mörderische Hand gegen seinen Erzeuger erhebe.

	「副詞句」「動詞句」「主語」, 「副詞句」「副詞句」
Seiner Meinung nach サイ・メイヌング・ナーハ adv. 彼の意見によると	「副詞句」
stellte sich シュテルテ・スィット 接 II・3 単過・時制の一致(sich-4 stellen)	
v.pr 身を置くべきである	「動詞句」
ein Mann, アイン・マン n.m 男は	「主語」
der seine Mutter デア・ザイネ・ムター n.f 自分の母親を～する	「形容詞節」
moralisch モーラリシュ adv. 精神的に	「副詞」
tötete, テーテテ 3 単過(töten)v.t 殺した	「動詞」
genauso ゲナウザー adv. ちょうど同じように	「副詞」
außerhalb アウサーハルプ prep (空間的) ～の外で	「副詞句」
der menschlichen Gesellschaft デア・マンシュリッヒェン・ゲゼルシャフト	
n.f.3 格 人間社会	「目的語」
wie ヴァイ conj. ～のように	「副詞句」
derjenige, デアイエニゲ pron ～するその人	「目的語」
welcher ウェルヒャー pron (同格) ～する	「形容詞節」
die mörderische Hand デイ・メルダーリッヒェ・ハント	
n.f.4 格 殺意の手を	「目的語」
gegen seinen Erzeuger ケーゲン・ザイネン・エアツォイカー	
adv. 自分の産みの親に向かって	「副詞句」
erhebe. エアヘー 接・3 単現(erheben)v.t 上げる	「動詞」
moralisch	
フランス語現文の moralement (道徳的に、精神的に) を moralisch (道徳的に) に翻訳したものだが、geistig (精神的に) が適当と思われる。	

ZWEITER TEIL 第2部

また彼の言葉によると、頭の中で母親を殺す者は、生みの親を手にかける者と同じ理由で、人間社会から隔てられる。

Toujours selon lui, un homme qui tuait moralement sa mère se retranchait de la société des hommes au même titre que celui qui portait une main meurtrière sur l'auteur de ses jours.

いずれにせよ、前者は後者への準備である。いわば後者を予告し、正当化する。

Jedenfalls sei das eine die Vorbereitung auf das andere, es künde sie gewissermaßen an und legitimiere sie.

「副詞」「動詞」「主語」「補語」,

「主語」「動詞句」「目的語」「副詞」 und 「動詞」「目的語」

Jedenfalls イェーデンファルス adv. いずれにせよ 「副詞」

sei サイ接・3 単現(sein)v.i 〜である 「動詞」

das eine ダス・アイネ pron 前者は 「主語」

die Vorbereitung デーイー・フォーアベライトゥング n.f.1 格 準備 「補語」

auf das andere, アウフ・ダス・アンデレ adv. (方向) 後者への 「副詞句」

es エス pron それは 「主語」

künde ...an キュンテ ...アン 接・3 単現・推測(an | künden / an | kündigen)

v.t 予告する 「動詞句」

sie ジー pron(英語の it) それを 「目的語」

gewissermaßen ゲウイッサーマーセン adv. いわば、ある意味では 「副詞」

und ウント conj. そして

legitimiere レジチミレ 接・3 単現・推測(legitimieren)v.t 正当を認める 「動詞」

sie. ジー pron(英語の it) それを 「目的語」

「私は確認しています。皆さん」彼は声を高めて付け加えた。「もし私が、今ここで被告人席に座っている男は、この法廷で裁かなければならない殺人の件でも有罪であると言ったとしてもあまり大胆だと思わないだろうと。彼は相応に裁かれなければなりません」

«Ich bin davon überzeugt, meine Herren» fügte er mit erhobener Stimme hinzu, «daß Sie mich nicht zu kühn finden, wenn ich sage: der Mann, der hier auf der Anklagebank sitzt, ist auch des Mordes schuldig, über den dieses Gericht zu befinden hat. Er muß dementsprechend bestraft werden.»

《「主語」「動詞」「間接目的語」「補語」,「呼びかけ」》

「動詞句」「主語」「副詞句」「動詞句」,

《「目的語」:「主語」「動詞」「補語」 | 「主語」「動詞句」「副詞句」「動詞句」》

«Ich イット pron 私は 「主語」

ZWEITER TEIL 第2部

bin ビン 1 単現(sein)v.i ~である	「動詞」
davon ダフォン adv. それについて	「間接目的語」
überzeugt, ユーバーツォイクト adj. 確信した	「補語」
meine Herren» マイネ・ヘレン pl(Herr)n.m.1 格 皆さん	「呼びかけ」
fügte ...hinzu, フュクテ...ヒンツァ 3 単過(hinzu fügen)v.t 付け加えた	「動詞句」
er エア pron 彼は	「主語」
mit erhobener Stimme ミット・エアホーベナー・シュティメ adv. (手段) 声を高めて	「副詞句」
«daß ダス conj. ~ということ	「目的語」
Sie シー pron.pl あなた方は	「主語」
mich ミヒ pron 私を	「目的語」
nicht ...finden, ニヒト...フィンデン 3 複現・否定(finden)v.t 思わないでしょう	「動詞句」
zu kühn ニヒト・ツァー・キューン adj. (否定文で) あまり大胆だと	「補語」
wenn ウェン conj. (条件) ~すると	「副詞節」
ich イヒ pron 私が	「主語」
sage: サーゲ 接・1 単現(sagen)v.t 言う	「動詞」
der Mann, デア・マン n.m その男は	「主語」
der デア pron (主語) ~する	「形容詞節」
hier ヒア adv. ここで	「副詞」
auf der Anklagebank アウフ・デア・アンクラーゲ・バンク adv. 被告席に	「副詞句」
sitzt, シット 3 単現(sitzen)v.i 座っている	「動詞」
ist イスト 3 単現(sein)v.i ~である	「動詞」
auch des Mordes schuldig, アウフ・デス・モルデス・シュルディヒ adj. 殺人の件でも有罪の	「補語」
über den dieses Gericht zu befinden hat. ユーバー・デーン・デーゼス・ゲリヒト・ツァー・ヘ・フィンデン・ハット adj. この法廷で裁かなければならない	「形容詞句」
Er エア pron 彼は	「主語」
muß ...bestraft werden.» ムス...ヘ・シュトラフト・ウエアテン 3 単現・必要・受動 (müssen+不定詞・受動 werden+過去分詞 bestrafen) v.t 罰せられなければならない	「動詞句」
dementsprechend デーメントシュプレシント adv. それに応じて	「副詞句」

この時、検事は汗の滴る顔を拭った。

In diesem Augenblick wischte sich der Staatsanwalt das schweißtriefende Gesicht ab.

「副詞句」「動詞句」「主語」「目的語」「動詞句」

In diesem Augenblick イン・デーゼム・アウゲンブリック adv. その瞬間に	「副詞句」
wischte sich ...ab. ウィシュテ...アップ 3 単過(sich-3 ab wischen)v.pr 拭った	「動詞句」
der Staatsanwalt デアシュターツァンヴァルト n.m 検事は	「主語」

ZWEITER TEIL 第2部

das schweißtriefende ダス・シュヴァイトリーフェンデ adj.n.4 格 汗の滴る 「形容詞句」
 Gesicht ゲジヒト n.n.4 格 顔を 「目的語」

最後に、彼はさらに言った。自分の義務は非常に辛い、無条件で実行するつもりである。

Schließlich sagte er noch, seine Pflicht sei sehr schmerzlich, aber er werde sie vorbehaltlos tun.

「副詞」「動詞」「主語」「副詞」, 「主語」「動詞」「補語」, aber
 「主語」「動詞句」「目的語」「副詞」「動詞句」

Schließlich シュリースリヒ adv. 最後に 「副詞」
 sagte サークテ 3 単過(sagen)v.t 言った 「動詞」
 er エア pron 彼は 「主語」
 noch, ノッホ adv. さらに 「副詞」
 seine Pflicht サイネ・プフリヒト n.f 彼の義務は 「主語」
 sei サイ接・3 単現(sein)v.i 〜である 「動詞」
 sehr schmerzlich, セーア・シュメルツリヒ adj. 非常に辛い 「補語」
 aber アーバー conj. しかし
 er エア pron 彼は 「主語」
 werde ...tun. ヴェアデ ...トゥン 接・3 単現・意思(werden+不定詞 tun)
 v.t 実行するつもりである 「動詞句」
 sie ジー pron それを 「目的語」
 vorbehaltlos フォーアベハルトロース adv. 無条件に 「副詞」

彼は、僕がその基本的な原則を無視している社会とは何も共有していない、そしてその基本的な反応が僕にとって馴染みのない人間の心には訴えられない、と言った。

Er sagte, ich habe nichts mit einer Gesellschaft gemein, deren wesentlichste Grundsätze ich mißachte, und ich könne nicht an das menschliche Herz appellieren, dessen elementare Reaktionen mir fremd seien.

「主語」「動詞」, 「主語」「動詞」「目的語」, und 「主語」「動詞句」「間接目的語」

Er エア pron 彼は 「主語」
 sagte, サークテ 3 単過(sagen)v.t 言った 「動詞」
 ich イヒ pron 僕は 「主語」
 habe ハーベ 1 単現(haben)v.t 〜がある 「動詞」
 nichts ニッツ pron 何も〜ない 「目的語」
 mit einer Gesellschaft gemein, ミット・アイナー・ゲゼルシャフト・ゲマイン
 adv. 社会と共有した 「副詞句」
 et-4 mit j-3 gemein haben 何-4 を人人-3 と共有している

ZWEITER TEIL 第2部

deren wesentlichste Grundsätze デーレン・ウァーゼントリヒステ・グルトゼッツェ

pl(Grundsatz)n.m その基本的な原則を～する 「形容詞節」

ich イヒ pron 僕は 「主語」

mißachte, ミアハテ 1 単現(missachten)v.t 無視している 「動詞」

und ウント conj. そして

ich イヒ pron 僕は 「主語」

könne nicht ...appellieren, ケンネ・ニヒト...アペリレン 1 単過・可能・否定

(können+不定詞 appellieren)v.i(an et-4 何・4 に) 訴えられない 「動詞句」

an das menschliche Herz アン・ダス・メンシュイヒェ・ハーツ adv. 人間の心に 「間接目的語」

dessen elementare Reaktionen デッセン・エレメンターレ・リアクチオーネン

pl(Reaktion)n.f その基本的な反応が～する 「形容詞節」

mir ミーア pron 僕にとって 「間接目的語」

fremd フレムト adj. 馴染みがない 「補語」

seien. サイエン 接・3 複現(sein)v.i ～である 「動詞」

「私は皆さんにこの男の首を要求します」と、彼は言った。「しかも、晴れ晴れとした気持ちでそれを要求します」

«Ich fordere von Ihnen den Kopf dieses Mannes», sagte er, «und ich fordere ihn leichten Herzens.

《「主語」「動詞」「間接目的語」「直接目的語」》, 「動詞」「主語」,
《und 「主語」「動詞」「目的語」「副詞句」》

«Ich イヒ pron 私は 「主語」

fordere フォールデレ 1 単現(fordern)v.t(von j-3 人・3 に) 要求する 「動詞」

von Ihnen フォン・イーネン adv. あなた方に 「間接目的語」

den Kopf デン・コプフ n.m.4 格 首を、頭を 「直接目的語」

dieses Mannes», ディーゼス・マネス (Mann) n.m.2 格 この男の 「形容詞句」

sagte サークテ 3 単過(sagen)v.t 言った 「動詞」

er, エア pron 彼は 「主語」

«und ウント conj. そして

ich イヒ pron 私は 「主語」

fordere フォールデレ 1 単現(fordern)v.t(von j-3 人・3 に) 要求する 「動詞」

ihn イン pron.4 格(Kopf の代用) それを 「目的語」

leichten Herzens. ラヒテン・ヘアツェンス n.n.4 格 軽やかな気持ちで 「副詞句」

ZWEITER TEIL 第2部

私の長いキャリアの中で死刑を求刑しなければならなかった時、今日のような感覚を覚えたことは一度もありませんでした。高圧的な意識と神聖な命令により、そして恐怖しか読み取れない人の顔を前にした時の嫌悪感によって、私の辛い職務が調整されバランスが取られ、光で照らされたのです。

Wenn ich während meiner langen Laufbahn die Todesstrafe fordern mußte, habe ich noch nie so wie heute die Empfindung gehabt, daß diese peinliche Pflicht ausgeglichen, ausgewogen und erleuchtet wurde durch das Bewußtsein eines gebieterischen und heiligen Befehls, durch den Abscheu vor einem Menschenantlitz, in dem ich nur Grauenhaftes lese.»

「副詞節」, 「動詞句」 「主語」 「副詞句」 「目的語」 「動詞句」, 「形容詞節」

Wenn ウェン conj. ～する時

「副詞節」

ich イヒ pron 私が

「主語」

während ウェーレント prep(2格と) ～の間に

「副詞句」

meiner langen Laufbahn マイナー・ランゲン・ラフバーン

n.f.2 格 私の長いキャリア

「目的語」

die Todesstrafe デーイー・トーデスシュトラフェ n.f.4 格 死刑を

「目的語」

fordern mußte, フォアダーン・ムステ 1 単過・必要(müssen+不定詞 fordern)

v.t 要求しなければならなかった

「動詞句」

habe ...gehabt, ハーベ ...ゲハプト 1 単現・完了形 1 単現・完了形(haben)

v.t ～を持った

「動詞句」

ich イヒ pron 私は

「主語」

noch nie ノッホ・ニー adv. 今までに一度も～ない

「副詞句」

so wie heute ゾー・ウィー・ホテ adv. 今日のように

「副詞句」

die Empfindung デーイー・エンプフントゥング n.f.4 格 感覚を

「目的語」

daß ダス conj. (同格) ～する

「形容詞節」

diese peinliche Pflicht デーイー・セ・ハインリッヒエ・プフリヒト

n.f この辛い職務が

「主語」

ausgeglichen, アウスゲークリッヒエン 3 単過・受動(werden+過去分詞 ausgleichen)

v.t 調整された

「動詞句」

ausgewogen アウスゲウーゲン 3 単過・受動(werden+過去分詞 auswägen)

v.t バランスがとられた

「動詞句」

und ウント conj. そして

erleuchtet wurde エロイヒテット・ウルテ 3 単過・受動(werden+過去分詞 erleuchten)

v.t 照らされた

「動詞句」

durch ドゥルヒ prep (4格と) (原因) ～によって

「副詞句」

das Bewußtsein eines gebieterischen ダス・ベウストザイン・アイネス・ゲビーテリッシュ

ZWEITER TEIL 第2部

n.n.4 格 高圧的な意識 「目的語」
 und ウント conj. そして
 heiligen Befehls, ハイリゲン・ヘ・フェールス
 n.m.2 格 神聖な命令の 「形容詞句」
 durch ドゥルヒ prep (4格と) (原因) ～によって 「副詞句」
 den Abscheu デン・アプ・ショイ n.m.4 格 嫌悪 「目的語」
 vor einem Menschenantlitz, フォーア・アイネム・メンシェンアントリッツ
 adv. 人の顔の前で 「副詞句」
 in dem イン・デーム adv. そこに 「間接目的語」
 ich イヒ pron 私は 「主語」
 nur Grauenhaftes ヌア・グ・ラウエンハフテス
 n.n.4 格 恐怖しか～ない 「目的語」
 lese.》 レーセ 1 単現(lesen)
 v.t 読む 「動詞」

検事が着席すると、かなり長い静寂に包まれた。

Als der Staatsanwalt sich setzte, herrschte ziemlich lange Stille.

「副詞節」, 「動詞」「主語」

Als アルス conj. ～した時 「副詞節」
 der Staatsanwalt デア・シュターツァンワルト n.m 検事が 「主語」
 sich setzte, スィヒ・セッツテ 3 単過(sich-4 setzen)v.pr 座った、着席した 「動詞句」
 herrschte ヘアーシュテ 3 単過(herrschen)v.i 支配した 「動詞」
 ziemlich lange Stille. ツィームリヒ・ランゲ・シュティレ n.f かなり長い静寂が 「主語」

僕は暑さと驚きで朦朧としていた。

Ich war vor Hitze und Staunen wie benommen.

「主語」「動詞」「副詞句」「補語」

Ich イヒ pron 私は 「主語」
 war ヴァール 1 単過(sein)v.i ～ だった 「動詞」
 vor Hitze und Staunen フォーア・ヒッツェ・ウント・シュタウネン adv. (原因) 暑さと驚きで 「副詞句」
 wie benommen. ヴィー・ベノメン adj. 朦朧としたような 「補語」

ZWEITER TEIL 第2部

裁判長は咳払いをしてから、僕に小声でそれに対して何か言う事がありますかと尋ねた。

Der Vorsitzende hüstelte und fragte mich leise, ob ich dazu etwas zu sagen hätte.

「主語」「動詞」und「動詞」「間接目的語」「副詞」「直接目的語」

Der Vorsitzende デア・フォーアジツェンデ n.m 裁判長は 「主語」

hüstelte フュシュテルテ 3 単過(hüsteln)v.i 咳ばらいをした 「動詞」

und ウント conj. そして

fragte フラケ 3 単過(fragen)v.t(j-4 人-4 に) 尋ねた 「動詞」

mich ミヒ pron.4 格 僕に 「間接目的語」

leise, ライセ adv. 小声で 「副詞」

ob オフ conj. ～かどうかを 「直接目的語」

ich イヒ pron 僕は 「主語」

dazu ダツァー adv. それに対して 「副詞句」

etwas zu sagen エトワス・ツァー・ザーゲン pron 何か言うべき事を 「目的語」

hätte. ハッテ 接 II・1 単現(haben)v.t ～がある 「動詞」

僕は立ち上がり、話しかかったので、その場の思い付きで言った。僕はアラブ人を殺すつもりは無かったと。

Ich stand auf, und da ich Lust zum Sprechen hatte, sagte ich, übrigens ganz unvorbereitet, ich hätte nicht die Absicht gehabt, den Araber zu töten.

「主語」「動詞句」,und「副詞節」,「動詞」「主語」,

「副詞句」,「主語」「動詞句」「目的語」

Ich イヒ pron 僕は 「主語」

stand auf, シュタント...アフ 1 単過(auf|stehen)v.i 立ち上がった 「動詞句」

und ウント conj. そして

da ダー conj. (理由) ～なので 「副詞節」

ich イヒ pron 僕は 「主語」

Lust ルスト n.f.4 格 願望が 「目的語」

zum Sprechen ツム・シュプレヒェン 不定詞・目的 adj. 話すための 「形容詞句」

hatte, ハッテ 1 単過(haben)v.t ～があった 「動詞」

sagte ザーケ 3 単過(sagen)v.t 言った 「動詞」

ich, イヒ pron 僕は 「主語」

übrigens ganz unvorbereitet, ユーブリゲンス・カンツ・ウンフォーアベライテット

adv. 準備無しで、まったくその場の思い付きで 「副詞句」

ich イヒ pron 僕は 「主語」

hätte nicht ...gehabt, ハッテ・ニヒト...ゲハプト 接 II・1 単現・完了形・否定(haben)

v.t ～が無かった 「動詞句」

ZWEITER TEIL 第2部

die Absicht デー・アプ・ズ・イト n.f 意図が 「目的語」

den Araber zu töten. デン・アーラー・ツ・テテン zu 不定句・目的

adj. アラブ人を殺すための 「形容詞句」

裁判長は答えた、それは主張である。今のところ僕の弁護方針が理解できないので、弁護士の弁論の前に僕の行為の動機を説明してくれたら有難いのだが、と言った。

Der Vorsitzende entgegnete, das sei eine Behauptung, bisher habe er meine Verteidigungstaktik nicht verstanden; er würde sich freuen, wenn ich vor der Rede meines Anwalts die Motive meiner Tat erläutern wollte.

「主語」「動詞」, 「主語」「動詞」「補語」,

「副詞」「動詞句」「主語」「目的語」「動詞句」: 「主語」「動詞句」「副詞節」

Der Vorsitzende デア・フォー・ズ・イツェンテ n.m 裁判長は 「主語」

entgegnete, エントゲー・ゲ・ネ 3 単過(entgegen)v.t 答えた 「動詞」

das ダス pron それは 「主語」

sei サイ 接・3 単現(sein)v.i 〜である 「動詞」

eine Behauptung, アイン・ヘ・ハウプトゥング n.f.1 格 主張 「補語」

bisher ビスヘー adv. これまで 「副詞」

habe ...nicht verstanden; ハーヘ ...ニヒト・フェアシュタンテン 3 単現・完了形・否定(verstehen)

v.t 理解していない 「動詞句」

er エア pron(Vorsitzende の代用) 裁判長は 「主語」

meine Verteidigungstaktik マイネ・フェアタイディグUNG・ス・タクティク n.f.4 格 僕の弁護方式を 「目的語」

er エア pron(Vorsitzende の代用) 裁判長は 「主語」

würde sich freuen, ウェルテ・ス・イヒ・フロイエン 接 II・3 単現(werden+不定詞 sich・4 freuen)

v.pr 嬉しいのだが、ありがたいのだが 「動詞句」

wenn ウェン conj. (仮定) もし〜ならば 「副詞節」

ich イヒ pron 僕が 「主語」

vor der Rede meines Anwalts フォー・デア・レーテ・マイネス・アンワルト

adv. (時間) 弁護士の弁論の前に 「副詞句」

die Motive meiner Tat デー・イー・モチウ・エ・マイナー・タート

pl.n.n4 格 自分の行為の動機を 「目的語」

erläutern wollte. エロイターン・ウ・オルテ 1 単過・意思(wollen+不定詞 erläutern)

v.t 説明してくれる 「動詞句」

ZWEITER TEIL 第2部

僕は急いで答えたが、その際少し混乱して、全ては太陽のせいだと言ったのは、自分でも馬鹿馬鹿しいと思った。

Ich antwortete hastig, wobei ich die Worte etwas durcheinander brachte und mir lächerlich vorkam, die Schuld an allem hätte die Sonne.

「主語」「動詞」「副詞」, 「副詞」「主語」「目的語」「動詞」 und
「間接目的語」「補語」「動詞句」「主語」

Ich イッヒ pron 僕は 「主語」
antwortete アントワェアテ 1 単過(antworten)v.i 答えた 「動詞」
hastig, ハステヒ adv. 急いで 「副詞」
wobei ウェハイ adv. その際に 「副詞」
ich イッヒ pron 僕は 「主語」
die Worte デーイー・ウァテ pl(Wort)n.n.4 格 言葉を 「目的語」
etwas durcheinander エトワァス・ドゥルヒアインダー adj. 少し混乱した 「形容詞句」
brachte ブラハテ 1 単過(bringen)v.t 言った、届けた 「動詞」
und ウント conj. そして
mir ミーア pron 僕にとって 「間接目的語」
lächerlich レハヤーリヒ adj. ばかばかしい 「補語」
vorkam, フォーア・カム 3 単過(vor | kommen)v.i 〜と思われた 「動詞句」
die Schuld an allem デーイー・シュルト・アン・アレム
n.f.4 格 (目的語) すべての責任を〜することは 「主語」
hätte ハッテ 接 II・3 単現(haben)v.t 〜がある 「動詞」
die Sonne. デーイー・ゾネ n.f 太陽が 「主語」

法廷内に、笑いが起こった。僕の弁護士は肩をすくめたが、その後すぐに弁論を許された。

Im Saal fing man an zu lachen. Mein Anwalt zuckte mit den Schultern, und gleich darauf wurde ihm das Wort erteilt.

「副詞句」「動詞句」「主語」「動詞句」 | 「主語」「動詞句」「間接目的語」, und
「副詞句」「動詞句」「間接目的語」「直接目的語」「動詞句」

Im Saal イム・ザール adv. 法廷内では 「副詞句」
fing ...an zu lachen. フィンぐ...アン・ツァー・ラッヘン 3 単過・開始(an | fangen zu+不定詞 lachen)
v.t 笑い始めた 「動詞句」
man マン pron 人々は 「主語」
Mein Anwalt マイン・アンワルト n.m 僕の弁護士は 「主語」
zuckte ツッケ 3 単過(zucken)v.i(mit) ひきつった 「動詞句」
mit den Schultern, ミット・デーンシュルターン adv. 肩が 「間接目的語」
und ウント conj.

ZWEITER TEIL 第2部

gleich darauf <small>グライヒ・ダラウフ</small> adv. すぐ後に	「副詞句」
wurde ...erteilt. <small>ワルデ...エァイルト</small> 3 単過・受動(werden+過去分詞 erteilen)	
v.t 与えられた	「動詞句」
ihm <small>イム</small> pron.3 格 彼に	「間接目的語」
das Wort <small>ダス・ヴァルト</small> n.n.4 格(単数で) 発言権	「直接目的語」

しかし、彼はもう時間が遅いと言った。つまり、弁論には数時間かかるので。

Aber er erklärte, es sei schon zu spät, er habe nämlich mehrere Stunden zu sprechen.

Aber 「主語」「動詞」, 「主語」「動詞」「補語」,
「主語」「動詞」「副詞」「目的語」「副詞句」

Aber アーバー conj. しかし

er <small>エア</small> pron 彼は	「主語」
erklärte, <small>エアクレアテ</small> 3 単過(erkennen)v.t 宣言した	「動詞」
es <small>エス</small> pron 時間は	「主語」
sei <small>ザイ</small> 接・(sein)v.i ~である	「動詞」
schon zu spät, <small>ショーン・ツァー・シュペー</small> adj. もう遅い	「補語」
er <small>エア</small> pron 彼は	「主語」
habe <small>ハーベ</small> 3 単現(haben)v.t ~がある	「動詞」
nämlich <small>ネームリヒ</small> adv. つまり	「副詞」
mehrere Stunden <small>メルレ・シュトゥンデ</small> pl(Stunde).n.f 数時間	「目的語」
zu sprechen. <small>ツァー・シュプレヒエン</small> 不定詞・目的 adv. 話すために	「副詞句」

弁護士は午後に延期することを提案し、法廷はそれに同意した。

Er beantragte Vertagung auf den Nachmittag. Das Gericht stimmte dem Antrag zu.

「主語」「動詞」「目的語」「副詞句」 | 「主語」「動詞句」「間接目的語」

Er <small>エア</small> pron 彼は	「主語」
beantragte <small>ベァントラーケ</small> 3 単過(beantragen)v.t 提案した	「動詞」
Vertagung <small>フェアターグUNG</small> n.f.4 格 延期を	「目的語」
auf den Nachmittag. <small>アフ・デーン・ナーハミタク</small> adv. 午後に	「副詞句」
Das Gericht <small>ダス・ゲリヒト</small> n.n 法廷は	「主語」
stimmte ...zu. <small>シュティムテ...ツァー</small> 3 単過(zu stimmen)v.i(et-3 に) 同意した	「動詞句」
dem Antrag <small>デーム・アントラーケ</small> n.m.3 格 提案に	「間接目的語」

ZWEITER TEIL 第2部

午後になると、大きな扇風機が混乱した法廷内の濃密な空気を攪拌していた。陪審員の小さくて色とりどりのうちわは皆おなじリズムで動いていた。

Am Nachmittag wirbelten die großen Ventilatoren die dicke Luft im Saal durcheinander, und die kleinen, bunten Fächer der Geschworenen bewegten sich alle im gleichen Takt.

「副詞句」「動詞」「主語」「目的語」,und「主語」「動詞句」「副詞」「副詞句」

Am Nachmittag アム・ナーハミターク adv. 午後

「副詞句」

wirbelten ヴィーアベルテン 3 複過(wirbeln)v.t 巻き上げていた

「動詞」

die großen Ventilatoren デーイー・グロゼン・ヴェンチラトレン

pl(Ventilator).n.m 大きな扇風機が

「主語」

die dicke Luft デーイー・ディッケルフト n.f.4 格 濃密な空気を

「目的語」

im Saal durcheinander, イム・ザール・ドゥルヒアイナダー adv. 混乱した法廷内の

und ウント conj. そっして

die kleinen, bunten Fächer デーイー・クライネン・ブンテン・フェーシェ

pl(Fächer).n.m 小さくて色とりどりのうちわは

「主語」

der Geschworenen デア・ゲシュウオーレネン adj. 陪審員の

「形容詞句」

bewegten sich ベウエクテン・ズイヒ 3 複過(sich-4 bewegen)v.pr 動いていた

「動詞句」

alle アル pron 皆

「主語」

im gleichen Takt. イム・グライヒエン・タクト adv. 同じリズムで

「副詞句」

僕の弁護士の弁論は決して終わらないように感じた。

Ich hatte das Gefühl, das Plädoyer meines Anwalts werde nie ein Ende nehmen.

「主語」「動詞」「目的語」

Ich イヒ pron 僕は

「主語」

hatte ハッテ 1 単過(haben)v.t ~を持った、あった

「動詞」

das Gefühl, ダス・ゲフュール n.n.4 格 感覚

「目的語」

das Plädoyer ダス・プレトアイアー n.n 演説は~する

「形容詞節」

meines Anwalts マイネス・アンヴァルツ adj. 僕の弁護士の

「形容詞句」

werde ...nehmen. ヴェアデ...ネメン 接・3 単現・推量(werden+不定詞 nehmen)

v.t 掴まないだろう

「動詞句」

nie ein Ende ニー・アイン・エンデ n.n.4 格 決して終わりを~ない

「目的語」

一度、僕は聞いた。つまり、「そうだ、私が殺した」と、彼が言ったときに。

Einmal hörte ich zu - nämlich, als er sagte: «Das stimmt, ich habe getötet.»

「副詞」「動詞」「主語」「動詞」 | 「副詞節」

Einmal アインマル adv. 一度

「副詞」

hörte ...zu ヘアテ...ツ 1 単過(zu | hören)v.i 聞いた

「動詞句」

ZWEITER TEIL 第2部

ich イヒ pron 私は	「主語」
- nämlich, ネムリヒ adv. つまり	「副詞」
als アルス conj. ～する時	「副詞節」
er エア pron 彼が	「主語」
sagte: サークテ 3 単過(sagen)v.t 言った	「動詞」
«Das stimmt, ダス・シュティムト adv. そのとおり	「応答」
ich イヒ pron 私が	「主語」
habe getötet.» ハーベ・ゲテテット 1 単現・完了形(töten)v.t 殺した	「動詞句」

それから彼は同じ口調を続け、僕の話を話すときにはいつも「私」と言った。

Dann fuhr er in derselben Tonart fort und sagte jedesmal, wenn er von mir sprach - «ich».

「副詞」「動詞句」「主語」「間接目的語」「動詞句」und「動詞句」「副詞句」「目的語」	
Dann ダン adv. それから	「副詞」
fuhr ...fort フーア...フォアト 3 単過(fort fahren)v.i(in et-3 何-3 を) 続けた	「動詞句」
er エア pron 彼は	「主語」
in derselben Tonart イン・デアゼルベン・トナート adv. 同じ口調を	「間接目的語」
und ウント conj. そして	
sagte サークテ 3 単過(sagen)v.t 言った	「動詞」
jedesmal, イエデスマル adv. いつも	「副詞」
wenn ウェン conj. ～するときに	「副詞節」
er エア pron 彼が	「主語」
von mir フォン・ミーア adv. 僕について	「副詞句」
sprach シュプラハ 3 単過・時制の一致(sprechen)v.i 話す	「動詞」
- «ich». イヒ pron 私	「目的語」

僕はそのことに非常に驚いた。僕は警官の一人の方へ屈みこんで理由について尋ねた。

Darüber war ich sehr erstaunt. Ich neigte mich zu einem der Gendarmen und fragte ihn nach dem Grund.

「副詞」「動詞」「主語」「補語」	
「主語」「動詞句」「副詞句」und「動詞」「間接目的語」	
Darüber ダリュエバー adv. そのことに関して	「副詞」
war ウァール 1 単過・変化(sein)v.i ～になった	「動詞」
ich イヒ pron 僕は	「主語」
sehr erstaunt. セーア・エシュタウント adj. 非常に驚いた	「補語」
Ich イヒ pron 僕は	「主語」
neigte mich ナイクテ・ミヒ 1 単過(sich-4 neigen)v.pr 屈みこんだ	「動詞句」

ZWEITER TEIL 第2部

zu einem der Gendarmen ツー・アイネム・デア・ジヤンダールメン adv. 警官の一人の方へ 「副詞句」
 und ウント conj. そして
 fragte フラクテ 1 単過(fragen)v.t(j-4 に) 尋ねた 「動詞」
 ihn イン pron.3 格 彼に 「間接目的語」
 nach dem Grund. ナーハ・デーム・グルト adv. 理由について 「間接目的語」

彼は僕に黙っていると云ったが、すぐ後に付け加えた：「弁護士は皆、そう言うんだ」

Er sagte, ich solle den Mund halten, aber einen Augenblick später fügte er hinzu: «Das tun alle Anwälte.»

「主語」「動詞」, 「主語」「動詞句」「目的語」「動詞句」, aber
 「副詞句」「動詞句」「主語」「動詞句」: 《「目的語」「動詞」「主語」》

Er エア pron 彼は 「主語」
 sagte, サークテ 3 単過(sagen)v.t 言った 「動詞」
 ich イヒ pron 僕は 「主語」
 solle ...halten, ソレ...ハルテン 1 単現・義務(sollen+不定詞 halten)
 v.t 維持するべきである 「動詞句」
 den Mund デン・ムント n.m.4 格 口を 「目的語」
 aber アーバー conj. しかし
 einen Augenblick später アイネン・アウゲンブリック・シュペーター n.m.4 格 すぐ後で 「副詞句」
 fügte ...hinzu: フュクテ...ヒンツ 3 単過(hinzu | fügen)v.t 付け加えた 「動詞句」
 er エア pron 彼は 「主語」
 «Das ダス pron それを 「目的語」
 tun トゥン 3 複現(tun)v.t (動作を) している 「動詞」
 alle Anwälte.» アレ・アンワルテ pl(Anwalt)n.m すべての弁護士は 「主語」

僕はこのやり方で事件のさらに外側に追いやられ、そしてゼロになった。まるで、誰かが僕の場所に別人を座らせたと、思いました。

Ich dachte, daß ich auf diese Weise noch mehr aus der Geschichte herausgenommen und eine Null wurde, ja - daß man gleichsam einen anderen an meine Stelle setzte.

「主語」「動詞」「目的語」, 「副詞」「目的語」

Ich イヒ pron 僕は 「主語」
 dachte, ダハテ 1 単過(denken)v.t 思った 「動詞」
 daß ダス conj. ～ということを 「目的語」
 ich イヒ pron 僕は 「主語」
 auf diese Weise アウフ・デーゼ・ウァイセ adv. (方法) このやり方で 「副詞句」
 noch mehr aus ノッホ・メア・アウス adv. ～のさらに外側に 「副詞句」

ZWEITER TEIL 第2部

der Geschichte デア・ゲシヒテ n.f.3 格 この事件	「目的語」
herausgenommen ...wurde, ヘラウス・ゲ・ノメン...ウルテ 1 単過・受動	
(werden+過去分詞 herausnehmen)v.t 取り出された	「動詞句」
und ウント conj. そして	
eine Null アイン・ヌル 数 ゼロ	「補語」
eine Null wurde ゼロになった	
ja ヤー adv. そうです	「副詞」
- daß ダス conj. ～ということを	「目的語」
man マン pron 誰かが	「主語」
gleichsam グライヒザーム adv. まるで、いわば	「副詞」
einen anderen アイン・アンデレン adj. 別の人を	「目的語」
an meine Stelle アン・マイネ・シュテレ adv. 僕の場所に	「副詞句」
setzte. セッツテ 3 単過(setzen)v.t 座らせた、置いた	「動詞」

しかし、僕はすでにこの法廷から遠くに引き離されていたと思う。

Aber ich glaube, ich war schon weit von diesem Gerichtssaal entfernt.

Aber 「主語」「動詞」, 「主語」「動詞句」「副詞句」

Aber アーバー conj. しかし	
ich イヒ pron 僕は	「主語」
glaube, グラウベ 1 単現(glauben)v.t 思う	「動詞」
ich イヒ pron 僕は	「主語」
war ...entfernt. ヴァール ...ェントフェアント 1 単過・状態受動(sein+過去分詞 entfernen)	
v.i 遠ざけられていた	「動詞句」
schon ショーン adv. すでに	「副詞」
weit ヴァイト adv. 遠くに	「副詞」
von diesem Gerichtssaal フォン・デァーゼム・ゲリヒツザーム adv. この法廷から	「副詞句」

さらに、僕は弁護士が馬鹿げていると思った。

Außerdem fand ich meinen Anwalt lächerlich.

「副詞」「動詞」「主語」「目的語」「補語」

Außerdem アウサーデーム adv. さらに、その上	「副詞」
fand ファント 1 単過(finden)v.t 思った	「動詞」
ich イヒ pron 僕は	「主語」
meinen Anwalt マイン・アンヴァルト n.m.4 格 僕の弁護士を	「目的語」
lächerlich. レィヤーリヒ adj. おかしな、馬鹿げた	「補語」

ZWEITER TEIL 第2部

彼は大きくて挑発を処理し、それから僕の魂について話した。

Die Provokation tat er sehr schnell ab, und dann sprach er von meiner Seele.

「目的語」「動詞句」「主語」「副詞句」「動詞句」, und

「副詞」「動詞」「主語」「間接目的語」

Die Provokation テー・プ・ロウ・オカチン n.f.4 格 挑発を

「目的語」

tat ...ab, タート...アップ 3 単過(ab|tun)v.t (軽く) 処理した

「動詞句」

er エア pron 彼は

「主語」

sehr schnell セー・アシュネル adv. 大急ぎで

「副詞句」

und ウント conj. そして

dann ダン adv. それから

「副詞」

sprach シュプ・ラーハ 3 単過(sprechen)v.i 話した

「動詞」

er エア pron 彼は

「主語」

von meiner Seele. フォン・マイナー・セーレ adv. 僕の魂について

「間接目的語」

しかし、僕の弁護士は検事ほどの才能が無いように見えた。

Aber er schien mir bei weitem nicht das Talent des Staatsanwaltes zu haben.

Aber 「主語」「動詞」「間接目的語」「補語」

Aber アーバー conj. しかし

er エア pron 彼は

「主語」

schien シン 3 単過(scheinen)v.i ~のように見えた

「動詞」

mir ミーア pron.3 格 僕には

「間接目的語」

bei weitem nicht ...zu haben. バイ・ウエアテム・ニヒト...ツー・ハーベン zu 不定句

n. 決して持っていない事

「補語」

das Talent des Staatsanwaltes ダス・タレント・デス・シュターツアンワールテス

n.n.4 格 検事の才能を

「目的語」

「私も」と、弁護士は言った、「この魂を覗き込みました。しかし、検察の優秀な代表者と異なり、私は何かを見つけました。そして魂の中を開かれた本のように読み取りました」

«Auch ich», sagte er, «habe mich über diese Seele gebeugt, aber im Gegensatz zu dem hervorragenden Vertreter der Anklage habe ich etwas gefunden: ich kann sagen, daß ich in ihr wie in einem aufgeschlagenen Buch gelesen habe.»

《「主語」》, 「動詞」「主語」, 《「動詞句」「副詞句」「動詞句」, aber

「副詞句」「動詞句」「主語」「目的語」「動詞句」: 「主語」「動詞句」「目的語」》

«Auch ich», アウフ・イヒ pron 私も

「主語」

sagte サーケ 3 単過(sagen)v.t 言った

「動詞」

er, エア pron 弁護士は

「主語」

ZWEITER TEIL 第2部

«habe mich ...gebeugt, ハーベ・ミヒ...ゲボイト 1 単現・完了形(sich-4 beugen)

v.pr 身を屈めた

「動詞句」

über diese Seele ユーバー・デーゼ・セーレ adv. この魂の上に

「副詞句」

aber アーバー conj. しかし

im Gegensatz イム・ゲーゲンザッツ adv.(zu et-3 何-3 と) 違って

「副詞句」

zu dem hervorragenden Vertreter ツー・デーム・ヘアフォーアラゲンテン・フェアトレーター

adv. 卓越した代表者

「間接目的語」

der Anklage デア・アンクラゲ adj. 検察側の

「形容詞句」

habe ...gefunden: ハーベ...ゲフンテン 1 単現・完了形(finden)v.t 見つけた

「動詞句」

ich イヒ pron 私は

「主語」

etwas エトワース pron 何かを

「目的語」

ich イヒ pron 私は

「主語」

kann sagen, カン・サーゲン 1 単現・可能(können)v.t 言える

「動詞句」

daß ダス conj. ～ということを

「目的語」

ich イヒ pron 私は

「主語」

in ihr イン・イーア adv. 魂の中に

「副詞句」

wie in einem aufgeschlagenen Buch ウィー・イン・アイネム・アウフゲシュラーゲネン・ブーフ

adv. (比喻) 開かれた本のように

「副詞句」

gelesen habe. ケーレーゼン・ハーベ 1 単現・完了形(lesen)v.t 読んだ

「動詞句」

彼は、僕の魂の中に読み取った。僕は勤勉で、疲れを知らず、会社に誠実に奉仕して、皆から愛され、困窮者に対する思いやりに満ちた、礼儀正しい人間であると。

Er hatte in ihr gelesen, daß ich ein anständiger Mensch war, der fleißig, unermüdlich und treu seiner Firma diente, geliebt von allen und voller Mitleid für die Notleidenden.

「主語」「動詞句」「副詞句」「目的語」

Er エ pron 彼は

「主語」

hatte ...gelesen, ハッテ...ケーレーゼン 3 単過・完了形(lesen)v.t 読んだ

「動詞句」

in ihr イン・イーア adv. 魂の中に

「副詞句」

daß ダス conj. ～ということを

「目的語」

ich イヒ pron 私は

「主語」

ein anständiger Mensch アイン・アンシュテンデ・イガー・メンシュ

n.m.1 格 礼儀正しい人間

「補語」

war, ヴァール 1 単過・時制の一致(sein)v.i ～である

「動詞」

der fleißig, デア・フライシ adj. 勤勉な

「補語」

unermüdlich ウェアミュートリ adj. 疲れを知らない

「補語」

und ウント conj. そして

ZWEITER TEIL 第2部

treu トロイ adj. 誠実な	「補語」
seiner Firma サイアー・フィルマ n.f 彼の会社に	「副詞句」
diente, ディエンテ 3 単過・時制の一致(dienen)v.i 奉仕する	「動詞」
geliebt ゲリープト 過去分詞・受動(lieben)adj 愛される	「補語」
von allen フォン・アレノ adv. (動作主) みなから	「副詞句」
und ウント conj. そして	
voller Mitleid フォラー・ミットライト adj. 思いやりに満ちた	「補語」
für die Notleidenden. フュア・ディアー・ノトライデンデン	
adv. 困窮者のために	「副詞句」

彼から見ると、僕は出来る限り母親を支えてきた模範的な息子だった。

Für ihn war ich ein Mustersohn, der seine Mutter unterstützt hatte, solange er dazu in der Lage war.

	「副詞句」「動詞」「主語」「補語」
Für ihn フュア・イン adv. (関連) 彼にとっては、彼から見ると	「副詞句」
war ヴァール 1 単過(sein)v.i ~ だった	「動詞」
ich イヒ pron 僕は	「主語」
ein Mustersohn, イン・ムスター・ゾーン n.m.1 格 模範的な息子	「補語」
der デア pron(主語) ~する	「形容詞節」
seine Mutter サイネ・ムター n.f 母親を	「目的語」
unterstützt hatte, ウンターシュテツト・ハッテ 3 単過・完了形(unterstützen)	
v.t 支えてきた	「動詞句」
solange ソランゲ conj. 出来る限りの間は~する	「副詞節」
er エア pron 彼が	「主語」
dazu ダツァー adv. そのために	「副詞」
in der Lage イン・デア・ラーゲ adv. その場所に	「副詞句」
war. ヴァール 3 単過・存在(sein)v.i ~にいた	「動詞」

その時僕は、僕の経済力では母さんに与えられない快適な暮らしを養老院が提供してくれ
ると考えていた。

Dann hatte ich geglaubt, ein Heim werde der alten Frau die Behaglichkeit bieten, die ich ihr mit meinen Mitteln nicht verschaffen konnte.

	「副詞」「動詞句」「主語」「動詞句」,
	「主語」「動詞句」「間接目的語」「直接目的語」「動詞句」, 「形容詞節」
Dann ダン adv. それから、その時	「副詞」
hatte ...geglaubt, ハッテ...ゲグラウプト 1 単過・完了形(glauben)v.t 考えていた	「動詞句」

ZWEITER TEIL 第2部

ich イヒ pron 僕は	「主語」
ein Heim アイン・ハイム n.n 養老院が	「主語」
werde ...bieten, ヲェアテ...ヒェテン 接・3 単現・推量(werden+不定詞 bieten) v.t 提供するだろう	「動詞句」
der alten Frau テア・アルテンフラウ n.f.3 格 老婆に	「間接目的語」
die Behaglichkeit ティー・ベハグリヒカイト n.f.4 格 快適さ	「直接目的語」
behagen(v.i 好ましい) + -lich + -keit → Behaglichkeit	
die ティー pron (目的語) ～する	「形容詞節」
ich イヒ pron 僕が	「主語」
ihr イア pron.3 格 母さんに	「間接目的語」
mit meinen Mitteln ミット・マイネン・ミッテルン	
adv. (手段) 僕の経済力で	「副詞句」
nicht verschaffen konnte. ニヒト・フェアシャフエン・コンテ 1 単過・可能・否定 (können+不定詞 verschaffen)v.t 得させられなかった	「動詞句」

「皆さん、私は驚いています」と、彼は付け加えた。「この施設についてこれほど語られたことを。もしこの施設の有用性と重要性の証拠が必要なのであれば、国家自身がそれを支援していると指摘すれば十分です」

«Ich wundere mich, meine Herren», fügte er hinzu, «daß hier so viel von diesem Heim geredet wurde. Wenn es eines Beweises für die Nützlichkeit und Größe dieser Institutionen bedürfte, brauchte man nur darauf hinzuweisen, daß der Staat selber sie unterstützt.»

《「主語」「動詞句」, 「呼びかけ」, 「動詞句」「主語」「動詞句」,
《「目的語」 | 「副詞節」, 「動詞句」「主語」「目的語」》

«Ich イヒ pron (弁護士は) 私は	「主語」
wundere mich, ヲンデレ・ミヒ 1 単現(sich-4 wundern)v.pr 驚いている	「動詞句」
meine Herren», マイネ・ヘレン pl(Herr).n.m 皆さん	「呼びかけ」
fügte ...hinzu, フュクテ...ヒンツァ 3 単過(hinzu fügen)v.t 付け加えた	「動詞句」
er エア pron 彼は	「主語」
«daß ダス conj. ～ということを	「目的語」
hier ヒア adv. ここで	「副詞」
so viel von diesem Heim ソ・フィール・フォン・ティエゼム・ハイム	
adv. それほどたくさん養老院について	「間接目的語」
geredet wurde. ゲレテット・ウルテ 3 単過・受動(werden+過去分詞 reden) v.t 話された	「動詞句」
Wenn ウェン conj. (条件) もし～ならば	「副詞節」

ZWEITER TEIL 第2部

es エス pron	それが	「主語」
eines Beweises	アイネス・ベウ・アイス n.m.2 格 証拠	「間接目的語」
für フュア prep	(4 格と) ~のための	「形容詞句」
die Nützlichkeit	フュア・デー・ニーツリヒカイト	
n.f.4 格	有益性	「目的語」
und ウント conj.	そして	
Größe dieser Institutionen	グロセ・デー・サー・インシュツォネ	
n.f.4 格	この施設の重要性	「目的語」
bedürfte, ベト・ウルフェ	3 単過・時制の一致(bedürfen)v.i 必要としている	「動詞」
brauchte	ブラウフェ 3 単過・時制の一致(brauchen)v.t(nur+zu 不定詞)	
v.t	~すれば十分である	「動詞句」
man マン pron	人は	「主語」
nur darauf hinzuweisen,	ヌー・ア・ダラウフ・ヒン・ツー・ウ・アイゼン nur・zu 不定詞(hin weisen)	
v.t	それについて指摘する	「動詞句」
daß ダス conj.	~ということ	「目的語」
der Staat selber	デア・シュタート・ゼルバー n.m 国家自身が	「主語」
sie ジー pron	(Institutionen の代用) それを	「目的語」
unterstützt. »	ウンターシュトゥット 3 単現(unterstützen)v.t 支援している	「動詞」

彼は葬儀について一言も述べなかったが、僕はそれが彼の弁論における欠落だと感じた。

Von der Beerdigung sagte er kein Wort, und ich empfand das als eine Lücke seines Plädoyers.

		「副詞句」「動詞」「主語」「目的語」,und「主語」「動詞」「目的語」
Von フォン prep	(3 格と) (対象) ~について	「副詞句」
der Beerdigung	デア・ベアデイクング n.f.3 格 葬儀	「目的語」
sagte	サーケ 3 単過(sagen)v.t 言った	「動詞」
er エア pron	彼は	「主語」
kein Wort,	カイン・ウ・ォート n.n.4 格 一言も~ない	「目的語」
und ウント conj.	そして	
ich イヒ pron	僕は	「主語」
empfand	エンプ・ファント 1 単過(empfinden)v.t 感じた	「動詞」
das ダス conj.	~ということ	「目的語」
als アルス conj.	(資格) ~として	「副詞句」
eine Lücke	アイネ・リュッケ n.f 欠陥	「目的語」
seines Plädoyers.	ザ・イネス・プレト・アイエー	
n.n.2 格	彼の弁論の	「形容詞句」

ZWEITER TEIL 第2部

しかし、僕の魂について語られた、これら全ての長い文章と果てしない日々と時間は、全てが無色の水になり僕に眩暈を起こさせるという印象を僕の心に残した。

Aber alle diesen langen Sätze, diese endlosen Tage und Stunden, die man von meiner Seele gesprochen hatte, hinterließen bei mir den Eindruck, daß alles farbloses Wasser wurde, in dem mir schwindelte.

Aber 「主語」「動詞」「副詞句」「目的語」

Aber アーバー conj. しかし

alle diesen langen Sätze, アレ・デー・イーゼン・ランゲン・スツツェ

pl(Satz).n.m これら全ての長い文章は

「主語」

diese endlosen Tage und Stunden, デー・イーゼ・エントローゼン・ターゲ・ウント・シュトゥンデン

pl.n. これらの果てしない日々と時間は

「主語」

dieデー pron (目的語) ～する

「形容詞節」

man マン pron 人々が

「主語」

von meiner Seele フォン・マイナー・ゼーレ adv. (関連) 僕の魂について 「副詞句」

gesprochen hatte, ゲシュプ・ロッペン・ハッテ 3 単現・完了形(sprechen)

v.t 話した

「動詞句」

hinterließen ヒンターリーゼン 3 複過(hinterlassen)v.t 残した

「動詞」

bei mir バイ・ミーア adv. 僕の心に

「副詞句」

den Eindruck, デン・アインツルック n.m.4 格 印象を

「目的語」

daß ダス conj. (同格) ～という

「形容詞節」

alles アレス pron すべてが

「主語」

farbloses Wasser ファーフ・ローゼス・ヴァッサー n.n.1 格 無色の水に

「補語」

wurde, ヴァルテ 3 単過・変化(werden)v.i ～になった

「動詞」

in dem イン・デーム adv. その中で何する

「副詞節」

mir schwindelte. ミー・シュヴァインテルテ 非人称・1 単過(schwindeln)

v.h(j-3)めまいがする

「動詞句」

ZWEITER TEIL 第2部

僕の弁護士の長い弁論の間、通りから全ての部屋と法廷を通り抜けてアイスクリーム売りのラッパの音が僕の所まで聞こえてきたことだけを覚えている。

Ich erinnere mich nur noch, daß während der langen Rede meines Anwalts von der Straße her durch alle Säle und Hallen die Trompete eines Eishändlers zu mir drang.

「主語」「動詞句」「副詞句」「目的語」

Ich	イッヒ	pron	僕は		「主語」
erinnere mich	エアイレ・ミッヒ	1 単現(sich-4 erinnern)	v.pr	覚えている	「動詞句」
nur noch,	ヌーア・ノッホ	adv.	だけ		「副詞句」
daß	ダス	conj.	～ということを		「目的語」
während	ヴェーレント	prep	(2 格と) ～の間に		「副詞句」
der langen Rede	デア・ランゲン・レーデ	n.f.2 格	長い弁論		「目的語」
meines Anwalts	マイネス・アンヴァルト	adj.	僕の弁護士の		「形容詞句」
von der Straße	フォン・デア・シュトラセ	adv.	通りから		「副詞句」
her	ヘア	adv.	こちらへ		「副詞句」
durch	ドゥルヒ	prep(4 格と)	～を通り抜けて		「副詞句」
alle Säle	アレ・ゼーレ	pl(Saal).n.m.4 格	全ての部屋		「目的語」
und	ウント	conj.	そして		
Hallen	ハレン	pl(Halle).n.f.4 格	法廷		「目的語」
die Trompete	ディー・トロンペーテ	n.f	ラッパが		「主語」
eines Eishändlers	アイネス・アイス・ヘントラー	n.m.2 格	アイスクリーム売りの		「形容詞句」
zu mir	ツー・ミーア	adv.	僕の所へ		「副詞句」
drang.	ドラング	3 単過(dringen)	v.i	とどいた	「動詞」

今は既に僕のものではない人生の記憶が僕を悩ませた、その人生の中で僕は最も貧しく確固とした喜びを見つけた：夏の香り、僕が愛した地域、ある特定の夕焼け空、マリーの笑顔とドレス。

Mich bedrängten Erinnerungen an ein Leben, das schon nicht mehr mir gehörte, in dem ich aber die armseligsten und hartnäckigsten Freuden gefunden hatte: Sommerdüfte, das Viertel, das ich liebte, einen bestimmten Abendhimmel, Marias Lachen und ihre Kleider.

「目的語」「動詞」「主語」, 「副詞節」: 「目的語」, 「目的語」, 「目的語」, 「目的語」

Mich	ミッヒ	pron	僕を		「目的語」
bedrängten	ベトランゲン	3 複過(bedrängen)	v.t	悩ませた	「動詞」
Erinnerungen	エアネルンゲン	pl(Erinnerung)	n.f	記憶が	「主語」
an ein Leben,	アン・アイン・レーベン	adv.	人生の		「副詞句」

ZWEITER TEIL 第2部

das ダス pron(主語) ～する	「形容詞節」
schon nicht mehr ショーン・ニヒト・メア adv. もうすでに～でない	「副詞句」
mir ミア pron 僕に	「間接目的語」
gehörte, ゲハアテ 3 単過・否定文で(gehören)	
v.i (j-3 人-3 の) 物でない	「動詞」
in dem イン・デーム adv. その中で～する	「副詞節」
ich イヒ pron 僕は	「主語」
aber アーバー conj. しかし	
die armseligsten und hartnäckigsten デーイー・アルムゼーリーヒステン・ウント・ハルトネッキヒステン	
adj.n.pl.4 格 最も貧しく確固とした	「形容詞句」
Freuden フロイデン pl(Freude).n.f 喜びを	「目的語」
gefunden hatte: ゲフンテン・ハッテ 1 単過・完了形(finden)	
v.t 見つけた	「動詞句」
Sommerdüfte, ソムマー・ドュフテ n.m 夏の香り	「目的語」
das Viertel, ダス・フィルテル n.m その地区	「目的語」
das ダス pron (目的語) ～する	「形容詞節」
ich イヒ pron 僕が	「主語」
liebte, リーブテ 1 単過(lieben)v.t 愛した	「動詞」
einen bestimmten Abendhimmel, アイネン・ベシュティムテン・アーベント・ヒメル	
n.m ある特定の夕焼け空	「目的語」
Marias Lachen und ihre Kleider. マリアス・ラヘン・ウント・イーレ・クライダー	
pl.n マリーの笑顔とドレス	「目的語」

僕はここで起こった全ての無意味な事に圧倒され、切実に一つの事だけを望んだ：ここで決着をつけて、僕はまた自分の独房に戻り寝ることだけを。

Mich überkam die ganze Nutzlosigkeit dessen, was hier geschah, und ich wünschte sehnlichst nur eins: daß man hier Schluß machte und ich wieder in meiner Zelle wäre und schliefte.

「目的語」「動詞」「主語」,und「主語」「動詞」「副詞」「目的語」

Mich ミヒ pron.4 格 僕を	「目的語」
überkam ユーバーカム 3 単過(überkommen)v.t 圧倒した	「動詞」
die ganze Nutzlosigkeit dessen, デーイー・ガンツ・ヌッツロースィヒカイト・デッセン	
n.f その全ての無意味が	「主語」
was ヴァス pron(主語) ～する	「形容詞節」
hier ヒア adv. ここで	「副詞」
geschah, ゲシャ 3 単過(geschehen)v.i 起こった	「動詞」

ZWEITER TEIL 第2部

und ウント conj. そして	
ich イヒ pron 僕は	「主語」
wünschte ウンシュテ 1 単過(wünschen)v.t 望んだ	「動詞」
sehnlichst ゼーンリヒスト adv. 切実に	「副詞」
nur eins: ヌーア・アインス pron 1つだけを	「目的語」
daß ダス conj. ～ということを	「目的語」
man マン pron 人は	「主語」
hier ヒア adv. ここで	「副詞」
Schluß シュルース n.m.4 格 終わりを	「目的語」
machte マハテ 3 単過・時制の一致(machen)v.t ～を作る	「動詞」
und ウント conj. そして	
ich イヒ pron 僕は	「主語」
wieder ウィーダー adv. また	「副詞」
in meiner Zelle イン・マイナー・ツェレ adv. 僕の独房に	「副詞句」
wäre ウェーレ 接 II・1 単現・移動(sein)v.i ～に行く	「動詞」
und ウント conj. そして	
schliefe. シュリーフェ 接 II・1 単現・推量(schlafen)v.i 眠るだろう	「動詞」

終わりに近づいた時に弁護士が、陪審員はほんの一瞬の間コントロールを失った良心的な労働者を死刑にはしないだろう、そしてそれは僕にとって確実な罪となっており、永遠に後悔するだろうと言って情状酌量を求めて叫んだが、ほとんど聞こえなかった。

Ich hörte kaum, als der Anwalt gegen Ende rief, die Geschworenen könnten einen anständigen Arbeiter, der eine Minute lang die Herrschaft über sich verlor, nicht in den Tod schicken, und für ein Verbrechen, das ich - und das wäre die sicherste Strafe für mich - ewig bereuen würde, mildernde Umstände verlangte.

「主語」「動詞」「副詞」, 「副詞節」,

「主語」「動詞句」「目的語」「動詞句」「間接目的語」, und 「副詞句」

Ich イヒ pron 僕は	「主語」
hörte ヘアテ 1 単過(hören)v.t 聞こえた	「動詞」
kaum, カム adv. ほとんど～ない	「副詞」
als アルス conj. ～した時	「副詞節」
der Anwalt デア・アンワルト n.m 弁護士が	「主語」
gegen ゲーゲン prep (方向) ～の方へ	「副詞句」
Ende エンデ n.n.4 格 終わり	「目的語」
rief, リーフ 3 単過(rufen)v.i 叫んだ	「動詞」
die Geschworenen デー・ゲシュワレネ pl(Geschworen).n.m 陪審員は	「主語」

ZWEITER TEIL 第2部

könnten	ケンテン 接 II・3 複現(können)+不定詞 v. ～出来るだろう	「動詞句」
einen anständigen Arbeiter,	アイネン・アンシュテンデ イゲン・アルハ イター	
n.m	きちんとした労働者を	「目的語」
der eine Minute lang	デア・アイネ・ミヌーテ・ラング adv. 1 分の間	「副詞句」
die Herrschaft über sich	デー・イー・ヘアシャフト・ユーバー・ズィッヒ	
n.f.4 格	自分自身のコントロールを	「目的語」
verlor,	フェアロア 3 単過(verlieren)v.t 失った	「動詞」
nicht ...schicken,	ニヒト...シッケン 3 複現・否定(schicken)v.t 送らない	「動詞句」
in den Tod	イン・デーン・トート adv. 死刑に	「間接目的語」
und	ウント conj. そして	
für ein Verbrechen,	フューア・アイン・フェアブレヒェン adv. 犯罪に対して	「副詞句」
das	ダス pron(目的語) ～する	「形容詞節」
ich	イッヒ pron 僕は	「主語」
- und	ウント conj. そして	
das	ダス pron それは	「主語」
wäre	ヴェーレ 接 II・3 単現・変化(sein)v.i ～になる	「動詞」
die sicherste Strafe	デー・イー・ズィッヒヤーステ・シュトラフェ n.f.1 格 最も確実な罪に	「補語」
für mich	フューア・ミッヒ adv. 自分にとって	「副詞句」
- ewig	エーウイッヒ adv. 永遠に	「副詞」
bereuen würde,	ベロイエン・ウエルテ 接 II・1 単現・推量(werden+不定詞 bereuen)	
v.t	後悔するだろう	「動詞句」
mildernde Umstände	ミルタンデ・ウムシュテンデ	
pl(Umstand).	n.m.4 格 情状酌量を	「目的語」
verlangte.	フェアランクテ 3 単過(verlangen)v.t 求めた	「動詞」

法廷は休廷となり、弁護士は疲れ果てて椅子に腰を下ろした。

Die Sitzung wurde unterbrochen, und der Anwalt sank erschöpft auf seinen Sessel.

「主語」「動詞句」,und「主語」「動詞」「副詞句」

Die Sitzung テー・イー・ズィツツク n.f 法廷は 「主語」

wurde unterbrochen, ウェルテ・ウンターブーヒェン 3 単過・受動(werden+過去分詞 unterbrechen)

v.t 中断された 「動詞句」

und ウント conj. そして

der Anwalt テア・アンヴァルト n.m 弁護士は 「主語」

sank サンク 3 単過(sinken)v.i 沈んだ 「動詞」

erschöpft エアシェプフト adv. 疲れ果てて 「副詞」

auf seinen Sessel. アウフ・ザイネン・ゼッセル adv. 椅子に 「副詞句」

ZWEITER TEIL 第2部

彼の同僚たちが彼の所までやって来て、彼と握手した。「全く素晴らしかったよ」という声が聞こえた。

Seine Kollegen kamen zu ihm und schüttelten ihm die Hand. Ich hörte: «Ganz hervorragend.»

「主語」「動詞」「副詞句」und「動詞」「間接目的語」「直接目的語」

「主語」「動詞」：《「呼びかけ」》

Seine Kollegen	ザイ・コレゲン pl(Kollege).n.m	彼の同僚たちは	「主語」
kamen	カメン 3 複過(kommen)v.i	やって来た	「動詞」
zu ihm	ツ-イム adv.	彼の方へ	「副詞句」
und	ウント conj.	そして	
schüttelten	シュッテルテン 3 複過(schütteln)v.t(j-3 die Hand 人-3 と)	握手した	「動詞」
ihm	イム pron.3 格	彼の	「間接目的語」
die Hand.	デー・ハント n.f.4 格	手を	「直接目的語」
Ich	イッヒ pron	僕は	「主語」
hörte:	ヘ-アッテ 1 単過(hören)v.t	聞こえた	「動詞」
«Ganz hervorragend.»	ガンツ・ハアフォーアラーゲント adv.	全く素晴らしい	「呼びかけ」

一人は証人として僕に声をかけた：「ねえ、これについてどう思う？」

Einer rief mich sogar als Zeugen an: «Na, was sagen Sie dazu?»

「主語」「動詞句」「目的語」「副詞句」「動詞句」：

《「呼びかけ」,「目的語」「動詞」「主語」「副詞」》

Einer	アイナー pron	あるものは	「主語」
rief ...an:	リーフ...アン 3 単過(an rufen)v.t	声をかけた	「動詞句」
mich	ミッヒ pron.4 格	僕を	「目的語」
sogar als Zeugen	ゾーガー・アルス・ツォイゲン adv.	証人としてさえ	「副詞句」
«Na, 𐀀 int.	ねえ		「呼びかけ」
was	ヴァス pron	何を、どう	「目的語」
sagen	ザーゲン 3 複現・疑問文(sagen)v.t	言う?、思う?	「動詞」
Sie	ジ- pron	あなたは	「主語」
dazu?»	ダツ- adv.	それについて	「副詞」

ZWEITER TEIL 第2部

僕は同意したが、疲れすぎていたので、僕の誉め言葉は正直な感想ではなかった。

Ich stimmte zu, aber mein Kompliment war nicht aufrichtig, weil ich zu müde war.

「主語」「動詞句」, aber 「主語」「動詞句」「補語」

Ich イッヒ pron 僕は

「主語」

stimmte zu, シュティムテ・ツウ 1 単過(zu | stimmen)v.i 同意した

「動詞句」

aber アーバー conj. しかし

mein Kompliment マイン・コンプ リメント n.n 僕の誉め言葉は

「主語」

war nicht ヲアール・ニヒト 3 単過・否定(sein)v.i 〜でなかった

「動詞句」

aufrichtig, アウフリヒティヒ adj. 正直な

「補語」

weil ヲアイル conj. (理由) 何なので

「副詞節」

ich イッヒ pron 僕は

「主語」

zu müde ツー・ミュデ adj. 余りにも疲れた

「補語」

war. ヲアール 1 単過(sein)v.i 〜だった

「動詞」

外は日が沈み、暑さもそれほど厳しくなくなっていた。

Draußen sank der Tag, und die Hitze war nicht mehr so arg.

「副詞」「動詞」「主語」, und 「主語」「動詞句」「補語」

Draußen ドラウセン adv. 外では

「副詞」

sank サンク 3 単過(sinken)v.i 沈んだ

「動詞」

der Tag, デア・ターク n.m 日が

「主語」

und ウント conj. そして

die Hitze デー・ヒッツェ n.f 暑さは

「主語」

war nicht ヲアール・ニヒト 3 単過・否定(sein)v.i 〜ではなかった

「動詞句」

mehr so arg. メア・ゾー・アルク adj. それほど激しく〜ない

「補語」

通りから聞こえてくるいくつかの物音から、僕は夕暮れの穏やかな気配を感じ取った。

Die wenigen Geräusche der Straße, die ich hörte, ließen mich ahnen, wie mild der Abend war.

「主語」「動詞」「目的語」「補語」

Die wenigen Geräusche デー・ゲロヒシェ pl(Geräusch).n.n いくつかの物音は

「主語」

der Straße, デア・シュトラッセ n.f.2 格 通りの

「形容詞句」

die デー pron (目的語) 〜する

「形容詞節」

ich イッヒ pron 僕は

「主語」

hörte, ヘアテ 1 単過・時制の一致(hören)v.t 聞こえる

「動詞」

ließen リーセン 3 複過・使役(lassen)v.t 〜させた

「動詞」

mich ミット pron 私に

「目的語」

ZWEITER TEIL 第2部

ahnen, アーネン 不定詞・mich の動作 v.i 予感する	「補語」
wie mild ヴィー・ミルト adj. どれほど穏やかである	「補語」
der Abend デア・アーベント n.m 夕暮れが	「主語」
war. ヴァール 3 単過・時制の一致(sein)v.i ~である	「動詞」

僕たちは皆待った。

Wir warteten alle.

	「主語」「動詞」「主語」
Wir ヴィー pron.pl 私たちは	「主語」
warteten ヴァルテテン 1 複過(warten)v.i 待った	「動詞」
alle. アレ pron 皆	「主語」

そして、僕たち全員が待っていたものは、僕だけに関係することだった。

Und was wir alle erwarteten, ging nur mich an.

Und 「主語」, 「動詞句」「目的語」「動詞句」

Und ウント conj. そして	
was ヴァス pron(目的語) ~する物は	「主語」
wir alle ヴィー・アレ pron 私たち皆が	「主語」
erwarteten, エアヴァルテテン 1 複過(erwarten)v.t 待っていた	「動詞」
ging ...an. キング ...アン 3 単過(an gehen)v.t(j-4 人に) 関係する	「動詞句」
nur mich ヌア・ミット pron.4 格 僕だけに	「目的語」

僕は再び法廷全体を見渡した。

Ich ließ noch einmal meine Blicke durch den Saal schweifen.

「主語」「動詞」「副詞句」「目的語」「補語」

Ich イット pron 僕は	「主語」
ließ リース 1 単過・使役(lassen)v.t ~させた	「動詞」
noch einmal ノッホ・アインマル adv. もう一度、再び	「副詞句」
meine Blicke マイネ・ブリッケ pl(Blick).n.m 視線を	「目的語」
durch den Saal トゥールヒ・デーン・ザール adv. 法廷全体を	「間接目的語」
schweifen. シュヴァイフェン 不定詞・Blicke の動作 v.i さまよう	「補語」

ZWEITER TEIL 第2部

全ては最初の日と同じだった。

Alles war wie am ersten Tag.

「主語」「動詞」「補語」

Alles アレス pron すべては

「主語」

war ヲアール 3 単過(sein)v.i ~ だった

「動詞」

wie ヲー conj. (比喩) ~のような

「補語」

am ersten Tag. アム・エアステン・タク adv. 最初の日

「副詞句」

僕は、灰色の上着を着た記者とあの老婦人と目が合った。

Ich begegnete dem Blick des Journalisten in dem grauen Jackett und dem der alten Frau.

「主語」「動詞」「間接目的語」und「間接目的語」

Ich イヒ pron 僕は

「主語」

begegnete ベゲグネ 1 単過(begegnen)v.i(et-3 に) 出会った

「動詞」

dem Blick デーム・ブリック n.m.3 格 視線に

「間接目的語」

des Journalisten デス・ジュルナリステン n.m.2 格 記者の

「形容詞句」

in dem grauen Jackett イン・デーム・グラウエン・ジャケット

adv. 灰色の上着を着た

「副詞句」

und ウント conj. そして

dem der alten Frau. デーム・デア・アルテン・フラウ pron.3 格 老婦人の視線に

「間接目的語」

その時、僕は裁判の間中一度もマリーを探さなかったことに気が付いた。

Dabei fiel mir ein, daß ich während des ganzen Prozesses Maria kein einziges Mal mit den Augen gesucht hatte.

「副詞」「動詞句」「間接目的語」「動詞句」「直接目的語」

Dabei ダバイ adv. (時間的) その時

「副詞」

fiel ...ein, フィール...アイン 1 単過(ein | fallen)v.i(j-3 人-3 の) 心に浮かんだ

「動詞句」

mir ミーア pron 僕の

「間接目的語」

daß ダス conj. ~ということ

「直接目的語」

ich イヒ pron 僕は

「主語」

während ヲェレント prep (2 格と) (期間) ~の間中

「副詞句」

des ganzen Prozesses デス・ガントゥエン・プロツェス

n.m.2 格 裁判すべて

「目的語」

Maria マリア n.f マリーを

「目的語」

kein einziges Mal カイン・アインツィゲス・マル adv. 一度も~ない

「副詞句」

mit den Augen ミット・デーン・アウゲン adv. (手段) 目で

「副詞句」

gesucht hatte. ゲスフット・ハッテ 1 単過・完了形・否定文で(suchen)

ZWEITER TEIL 第2部

v.t 探さなかった

「動詞句」

彼女のことを忘れたのではなく、忙し過ぎたのだ。

Ich hatte sie nicht vergessen, aber ich hatte zuviel zu tun.

「主語」「動詞句」「目的語」「動詞句」, aber 「主語」「動詞」「目的語」

Ich イッヒ pron 僕は

「主語」

hatte ...nicht vergessen, ハッテ...ニヒト・フェアゲッセン 1 単過・完了形・否定(vergessen)

v.t 忘れていなかった

「動詞句」

sie ジー pron.f 彼女を

「目的語」

aber アーバー conj. そうではなくて

ich イッヒ pron 僕は

「主語」

hatte ハッテ 1 単過(haben)v.t 〜があった

「動詞」

zuviel ツヴァール n.n 過剰

「目的語」

zu tun. ツー・トゥン 不定詞・目的 adj. やるべき

「形容詞句」

セレステとレーモンの中に彼女が見えた。彼女は「やっと」と言いたそうに小さく合図をした。そして僕は彼女の少し不安げな顔に微笑が浮かぶのが見えた。

Ich sah sie zwischen Celeste und Raymond. Sie gab mir ein kleines Zeichen, als wollte sie sagen: «Endlich», und ich sah ein Lächeln auf ihrem etwas ängstlichen Gesicht.

「主語」「動詞」「目的語」「副詞句」

「主語」「動詞」「間接目的語」「直接目的語」「副詞節」:und

「主語」「動詞」「目的語」「副詞句」

Ich イッヒ pron 僕は

「主語」

sah ザー 1 単過(sehen)v.t 見えた

「動詞」

sie ジー pron.f 彼女を

「目的語」

zwischen ツウィッシェン prep (空間的) 〜の間に

「副詞句」

Celeste und Raymond. セレステ・ウント・ライモン pl.n セレステとレーモン

「目的語」

Sie ジー pron 彼女は

「主語」

gab ガーフ 3 単過(geben)v.t 与えた

「動詞」

mir ミーア pron.3 格 僕に

「間接目的語」

ein kleines Zeichen, アイン・クライネス・ツァイヘン n.n.4 格 小さな合図を

「直接目的語」

als アルス conj. まるで〜のように

「副詞節」

wollte ...sagen: «Endlich»,

ヴォルテ...ザーゲン: エントリッヒ 3 単過・願望(wollen+不定詞 sagen)

v.t 「やっと」と言いたい

「動詞句」

sie ジー pron 彼女は

「主語」

ZWEITER TEIL 第2部

und ウント conj. そして

ich イヒ pron 僕は

「主語」

sah サー 1 単過(sehen)v.t 見えた

「動詞」

ein Lächeln アイン・レヒェルン n.n.4 格 微笑が

「目的語」

auf ihrem etwas ängstlichen Gesicht. アウフ・イーレム・エトワッス・エンゲストリヒェン・ゲジヒト

adv. 少し不安げな顔に

「副詞句」

しかし、僕は心が閉ざされている気がして、彼女の微笑に応えられなかった。

Aber ich fühlte, daß mein Herz verschlossen war, ich konnte ihr Lächeln nicht erwidern.

Aber 「主語」「動詞」「目的語」, 「主語」「動詞句」「目的語」「動詞句」

Aber アーバー conj. しかし

ich イヒ pron 僕は

「主語」

fühlte, フールテ 1 単過(fühlen)v.t 感じた

「動詞」

daß ダス conj. ～ということを

「目的語」

mein Herz マイン・ハーツ n.n 僕の心が

「主語」

verschlossen フェアシュロッセン adj. 閉ざされた

「補語」

war, ヴァール 3 単過・時制の一致(sein)v.i ～である

「動詞」

ich イヒ pron 僕は

「主語」

konnte ...nicht erwidern. コンテ...ニヒト・エアウーダーン 1 単過・可能・否定

(können+不定詞 erwidern)v.t 応えられなかった

「動詞句」

ihr Lächeln イアー・レヒェルン n.n.4 格 彼女の笑顔に

「目的語」

裁判官が戻って来て、陪審員に一連の質問が大急ぎで読み上げられた。

Der Gerichtshof kehrt zurück. Hastig las man den Geschworenen eine Reihe von Fragen vor.

「主語」「動詞句」 | 「副詞」「動詞句」「間接目的語」「直接目的語」「動詞句」

Der Gerichtshof デア・ゲリヒツホーフ n.m 裁判官が

「主語」

kehrt zurück. ケアト・ツリュック 3 単過(zurück|kehren)v.i 戻って来た

「動詞句」

Hastig ハステヒ adv. 忙しく、大急ぎで

「副詞」

las ...vor. ラース... 3 単過(lesen)v.t 読み聞かせた

「動詞句」

man den Geschworenen マン・デン・ゲシュウオレネン pron.3 格 陪審員に

「間接目的語」

eine Reihe von Fragen アイン・ライエ・フォン・フラーゲン n.f.4 格 一連の質問を

「直接目的語」

ZWEITER TEIL 第2部

「殺人で有罪」とか「異議申し立て」とか「情状酌量」という言葉が聞こえた。

Ich hörte: «des Mordes schuldig» - «Herausforderung» - «mildernde Umstände».

「主語」「動詞」:「補語」-「補語」-「補語」

Ich イッヒ pron 僕は

「主語」

hörte: ヘアテ 1 単過(hören)v.t 聞こえた

「動詞」

«des Mordes schuldig» デス・モアデス・シュルディヒ n.m.2 格 殺人で有罪の

「補語」

- «Herausforderung» ヘラウスフォアデルンク n.f 挑発、異議申し立て

「補語」

- «mildernde Umstände». ミルダンテ・ウムシュテンテ n.m 情状酌量

「補語」

陪審員たちは法廷から退席し、僕は以前に待っていた小さな部屋に連れて行かれた。

Die Geschworenen verließen den Saal, und ich wurde in das kleine Zimmer geführt, in dem ich schon einmal gewartet hatte.

「主語」「動詞」「目的語」,und「主語」「動詞句」「副詞句」「動詞句」,「副詞句」

Die Geschworenen ディー・ゲシュワレネン pl(Geschworen).n.m 陪審員たちは

「主語」

verließen フェアリーセン 3 複過(verlassen)v.t(et-4 から) 出た

「動詞」

den Saal, デン・ザール n.m.4 格 法廷から

「目的語」

und ウント conj. そして

ich イッヒ pron 僕は

「主語」

wurde ...geführt, ヴァルテ ...ゲファート 1 単過・受動(werden+過去分詞 führen)

v.t 連れて行かれた

「動詞句」

in das kleine Zimmer イン・ダス・クライン・ツィマー adv. 小さな部屋に

「副詞句」

in dem イン・デーム adv. そこで〜する

「形容詞節」

ich イッヒ pron 僕は

「主語」

schon einmal ショーン・アイマル adv. 前に一度

「副詞句」

gewartet hatte. ケウアルテット・ハッテ 1 単過・完了形(warten)

v.i 待っていた

「動詞句」

弁護士は僕の後ろについてきた：彼は口数が多く、いつもより自信を持って温かく話した。

Mein Anwalt folgte mir: er war sehr gesprächig und redete viel zuversichtlicher und herzlicher als sonst.

「主語」「動詞」「間接目的語」:

「主語」「動詞」「補語」und「動詞」「副詞句」und「副詞句」

Mein Anwalt マイン・アンヴァルト n.m 僕の弁護士は

「主語」

folgte フォルケ 3 単過(folgen)v.i(j-3 の) 後についてきた

「動詞」

mir: ミー adv. 僕の

「間接目的語」

er エア pron 彼は

「主語」

ZWEITER TEIL 第2部

war ヲール 3 単過(sein)v.i ~ だった	「動詞」
sehr gesprächig セーア・ゲシュプ レーヒ adj. とても話好きの	「補語」
und ウント conj. そして	
redete レーデテ 3 単過(reden)v.i 話した	「動詞」
viel フィール adv. 大いに、よく	「副詞」
zuversichtlicher ツーフェアズィヒトリヒ adv. 自信を持って	「副詞」
und ウント conj. そして	
herzlicher ヘアツリヒャー adj. (比較級) より温かく	「副詞」
als sonst. アルス・ゾンスト conj.(比較) いつもより	「副詞句」

彼は、すべて順調に進み、僕は数年の禁固か懲役で済むだろうと言った。

Er meinte, es würde alles gutgehen und ich käme mit ein paar Jahren Gefängnis oder Zwangsarbeit davon.

「主語」「動詞」, 「主語」「動詞句」「主語」「動詞句」 und 「主語」「動詞」「副詞句」	
Er エア pron 彼は	「主語」
meinte, マインテ 3 単過(meinen)v.t 言った	「動詞」
es エス pron それは	「主語」
würde ...gutgehen ヲェルテ...グート・ゲーエン 接 II・3 単現・推量(werden+不定詞 gutgehen)	
v.i (gut+gehen)うまく進むだろう	「動詞句」
alles アルス pron 全てが	「主語」
und ウント conj. そして	
ich イヒ pron 僕は	「主語」
käme ケーメ 接 II・1 単現・推量(kommen)v.i ~になるだろう	「動詞」
mit ミット prep (3 格と) (条件) ~で	「副詞句」
ein paar Jahren Gefängnis アイン・パール・ヤーレン・ゲフェンゲニス	
n.m.3 格 数年の禁固刑	「目的語」
oder オーダー conj. または	
Zwangsarbeit davon. ツァンクサルバイト・ダフォン n.f.3 格 強制労働	「目的語」
davon ダフォン adv. そこから、禁固にプラスして	
禁固刑と懲役刑	

禁固刑は、強制労働が義務付けられていない自由を奪う刑罰。

懲役刑は、強制労働が義務付けられている刑罰。

ZWEITER TEIL 第2部

不利な判決が出た場合には、上告できる可能性はあるのかと彼に尋ねた。

Ich fragte ihn, ob bei einem ungünstigen Urteil die Möglichkeit einer Kassation bestehe.

「主語」「動詞」「間接目的語」「直接目的語」

Ich イッヒ pron 僕は

「主語」

fragte フラクテ 1 単過(fragen)v.t(j-4 に) 尋ねた

「動詞」

ihn, イーン pron.4 格 彼に

「間接目的語」

ob オッパ conj. ～かどうかを

「直接目的語」

bei バイ prep. (3 格と) (条件) ～の場合には

「副詞句」

einem ungünstigen Urteil アイネム・ウンギェンスチゲン・ウァタイル

n.n.3 格 不利な判決

「目的語」

die Möglichkeit デーイー・メークリヒイト n.f 可能性は

「主語」

einer Revision アイナー・レヴィジオン n.f.2 格 上告の

「形容詞句」

bestehe. ベシュテーエ 3 単現(bestehen)v.i 存在する

「動詞」

彼はそれを否定した。彼の作戦は、最初から陪審員を怒らせないために、どんな結論も出さない事だった。

Das verneinte er. Seine Taktik sei es gewesen, keine Schlüsse zu ziehen, um die Geschworenen nicht von vornherein zu verärgern.

「目的語」「動詞」「主語」 | 「主語」「動詞句」「主語」「動詞句」「補語」

Das ダス pron それを

「目的語」

verneinte フェアナイテ 3 単過(verneinen)v.t 否定した

「動詞」

er. エア pron 彼は

「主語」

Seine Taktik サイネ・タクティク n.f 彼の作戦は

「主語」

sei ...gewesen, サイ... 接・3 単現・完了形(sein)v.i ～だった

「動詞句」

es エス pron それは

「主語」

keine Schlüsse カイネ・シュリュッセ n.m.4 格 どんな結論も～ないという事

「補語」

zu ziehen, ツー・ツイエン zu 不定詞 v.t 引き出す

「動詞句」

um ...nicht ...zu verärgern. ウム...ツー・フェアエアゲン um zu 不定句・否定

adv. (目的) 怒らせないために

「副詞句」

die Geschworenen デーイー・ゲシュウヴェ・レネン

pl(Geschworen).n.n.4 格 陪審員たちを

「目的語」

von vornherein フォン・フォアンハライン adv. 最初から

「副詞句」

ZWEITER TEIL 第2部

判決と言うものは、そう簡単に覆るものではないと説明した。

Er erklärte, daß man ein Urteil nicht so ohne weiteres kassiere.

「主語」「動詞」「目的語」

Er エア pron(Anwalt の代用) 彼は 「主語」
 erklärte, エアクレアテ 3 単過(erklären)v.t 説明した 「動詞」
 daß ダス conj. ～ということを 「目的語」
 man マン pron 人は 「主語」
 ein Urteil アイン・ウルタイル n.n.4 格 判決を 「目的語」
 nicht ...kassiere. ニヒト...カッシエレ 3 単現・否定(kassieren)v.t 撤回しない 「動詞句」
 kassieren よりも zurücknehmen の方が分かりやすい
 so ohne weiteres ザー・オーネ・ヴァイレス adv. そんなに簡単に 「副詞句」

僕はそれに納得したので、受け入れた。

Das leuchtete mir ein, und ich fand mich damit ab.

「主語」「動詞句」「間接目的語」「動詞句」,und「主語」「動詞句」「間接目的語」「動詞句」

Das ダス pron それは 「主語」
 leuchtete ...ein, ロイヒテテ...アイン 3 単過(ein|leuchten)v.i(j-3 に) 納得がいった 「動詞句」
 mir ミア pron.3 格 僕には 「間接目的語」
 und ウント conj. そして
 ich イヒ pron 僕は 「主語」
 fand mich ...ab. ファント・ミヒ...アッブ 1 単過(sich-4 abfinden)
 v.pr 受け入れた、妥協した 「動詞句」
 damit ダミット adv. それに関して 「間接目的語」

問題を冷静に考えれば、それはごく当然だった。

Wenn man die Sache nüchtern betrachtete, war das ganz natürlich.

「副詞節」,「動詞」「主語」「補語」

Wenn ウェン conj. (条件) ～すると 「副詞節」
 man マン pron 人が 「主語」
 die Sache ディー・ザッハ n.f 問題を 「目的語」
 nüchtern ニュヒターン adv. 冷静に 「副詞」
 betrachtete, ベトラハテテ 3 単過(betrachten)v.t 考察した 「動詞」
 war ヴァール 3 単過(sein)v.i ～ だった 「動詞」
 das ダス pron それは 「主語」
 ganz natürlich. ガンツ・ナチュアリヒ adj. 当然の 「補語」

ZWEITER TEIL 第2部

さもないければ、無駄な書類が大量に発生しただろう。

Sonst hätte es zuviel nutzlose Schreiberei gegeben.

「副詞」「動詞句」「目的語」「動詞句」

Sonst ゾンスト adv. さもないと

「副詞」

hätte es ...gegeben. ヘッテ・エス...ゲゲーベン 非人称・接 II・3 単現・完了形・存在・推量(es geben)

v.h(et-4) 〜があっただろう

「動詞句」

zuviel nutzlose ツーフィール・ヌッツローゼ adj.f.4 格 多すぎる無駄な

「形容詞句」

Schreiberei シュライベライ n.f.4 格 書き込み

「目的語」

「いずれにしても、まだ上訴があります」と、弁護士は言った。「しかし、私は好ましい結果を当てにしています」

«Auf alle Fälle haben wir noch das Gnadengesuch», sagte mein Anwalt. «Aber ich rechne mit einem günstigen Ausgang.»

《「副詞句」「動詞」「主語」「副詞」「目的語」》, 「動詞」「主語」,

《Aber 「主語」「動詞」「間接目的語」》

«Auf alle Fälle アウフ・アレ・フェーレ adv. いずれにしても、念のために

「副詞句」

haben ハーベン 1 複現(haben)v.t 〜があります

「動詞」

wir ウィア pron 私たちは

「主語」

noch ノッホ adv. まだ

「副詞」

das Gnadengesuch», ダス・グナーテン・ゲズーフ n.n.4 格 恩赦の申請、上訴

「目的語」

Gnadengesuch よりも Appellation (上訴) の方が適切だと思われる

sagte サークテ 3 単過(sagen)v.t 言った

「動詞」

mein Anwalt. マイン・アンヴァルト n.m 弁護士が

「主語」

«Aber アーバー conj. しかし

ich イヒ pron 私は

「主語」

rechne レヒネ 1 単現(rechnen)v.i(mit et-3 何-3 を) 当てにしている

「動詞」

mit einem günstigen Ausgang.» ミット・アイネム・ギュンストゲン・アウスガング

adv. 好ましい結果を

「間接目的語」

恩赦と上訴

恩赦は、行政権によって、国家の刑罰権の全部または一部を消滅・軽減させる制度です。刑事政策的な見地から、罪を犯した人の更生を促し、社会復帰を支援する役割があります。

上訴は、裁判を受けて不利益を被った当事者が、裁判の確定前に、その裁判内容が不当または違法であるとして、上級の裁判所に対して取り消しや変更を求める不服申し立ての手続きです。裁判の誤りを是正し、当事者の権利を救済することを目的とします。

ZWEITER TEIL 第2部

僕たちは非常に長い時間、恐らく少なくとも 45 分は待った。

Wir haben sehr lange gewartet, wohl mindestens drei Viertelstunden.

「主語」「動詞句」「副詞句」「動詞句」, 「副詞句」

Wir ヴィーア pron.pl 僕たちは

「主語」

haben ...gewartet, ハーベン...ゲワールテット 1 複現・完了形(warten)v.i 待った

「動詞句」

sehr lange セーア・ランゲ adv. 非常に長い時間

「副詞句」

wohl mindestens ヴォール・ミンデステンズ adv. 恐らく少なくとも

「副詞句」

drei Viertelstunden. ドライ・フィアテルシュトゥンデン pl(Viertelstunde).n.f 45 分

「副詞句」

その時ベルが鳴った。

Dann rasselte eine Klingel.

「副詞」「動詞」「主語」

Dann ダン adv. その時

「副詞」

raselte ラッセルテ 3 単過(rasseln)v.i 音を立てた、鳴った

「動詞」

eine Klingel. アイン・クリンゲル n.f ベルが

「主語」

弁護士が僕に声をかけて立ち去った：「今から陪審長が回答を読み上げます。あなたは、判決の申し渡しになった時に呼ばれます」

Mein Anwalt verließ mich mit den Worten: «Der Obmann der Geschworenen verliert jetzt die Antworten. Sie werden erst zur Urteilsverkündung geholt.»

「主語」「動詞」「目的語」「副詞句」:

《「主語」「動詞」「副詞」「目的語」 | 「主語」「動詞句」「副詞句」「動詞句」》

Mein Anwalt マイン・アンワルト n.m 弁護士は

「主語」

verließ フェアリース 3 単過(verlassen)v.t(j-4 人のもとを) 離れた

「動詞」

mich ミット pron.4 格 僕ももとを

「目的語」

mit den Worten: ミット・デーン・ウォアテン adv. 言葉を言って

「副詞句」

«Der Obmann デア・オブマン n.m 長が

「主語」

der Geschworenen デア・ゲシュウオレネン adj. 陪審員の

「形容詞句」

verliert フェアリースト 3 単現(verlassen)v.t 読み上げる

「動詞」

jetzt イェツト adv. 今、今から

「副詞」

die Antworten. デーイー・アントウァアテン pl(Antwort).n.f 回答を

「目的語」

Sie ジー pron あなたは

「主語」

werden ...geholt. ヴェアテン...ゲホルト 3 複現・受動(werden+過去分詞 holen)

v.t 呼ばれる

「動詞句」

erst zur Urteilsverkündung エアスト・ツァー・ウアタイルス・フェアキェント・ウング

adv. 判決の宣告の時に初めて

「副詞句」

ZWEITER TEIL 第2部

全てのドアがボタンと閉まった。

Türen wurden zugeschlagen.

「主語」「動詞句」

Türen チューレン pl(Tür).n.f 全てのドアが

「主語」

wurden zugeschlagen. ウルテン・ツェ・ゲ・シュラーゲン 3 複過・受動(werden+過去分詞 zuschlagen)

v.t 勢いよく閉められた

「動詞句」

人々が階段を走っていたが、それが近いのか遠いのか分からなかった。

Leute liefen über Treppen, von denen ich nicht wußte, ob sie nahe oder weit weg lagen.

「主語」「動詞」「副詞句」, 「副詞句」「主語」「動詞句」「目的語」

Leute ロイテ pl.n. 人々が

「主語」

liefen リーフェン 3 複過(laufen)v.i 走っていた

「動詞」

über Treppen, ユーバー・トレッペン adv. 階段を

「副詞句」

von denen フォン・デネン adv. その事から

「副詞句」

ich イヒ pron 僕は

「主語」

nicht wußte, ニヒト・ヴステ 1 単過(wissen)v.t 分からなかった

「動詞句」

ob オフ conj. ~かどうかを

「目的語」

sie ジー pron(Türen の代用) それらが

「主語」

nahe oder weit weg ナーエ・オードー・ヴァイト・ヴェーク

adv. 近いのかそれとも遠く離れたに

「副詞句」

lagen. ラーゲン 3 複過・時制の一致(liegen)v.i(場所を示す語句と)にある

「動詞」

その時、法廷内で何かを朗読するこもった声が聞こえた。

Dann hörte ich eine dumpfe Stimme im Saal etwas vorlesen.

「副詞」「動詞」「主語」「目的語」

Dann ダン adv. その時

「副詞」

hörte ハーテ 1 単過(hören)v.t 聞こえた

「動詞」

ich イヒ pron 僕は

「主語」

eine dumpfe Stimme アイン・トンプ・フェ・シュティメ n.f.4 格 こもった声を

「目的語」

im Saal イム・ザール adv. 法廷内で

「副詞句」

etwas エトヴァス pron 何かを

「目的語」

vorlesen. フォーアレゼン 不定詞・Stimme の動作 v.t 声を出して読む

「補語」

ZWEITER TEIL 第2部

再びベルが鳴り、被告人席への扉が開いた時、法廷の静寂が僕の前に迫って来た。あの若い記者が目をそらしていることに気が付いた時、僕を襲う静寂と奇妙な感覚。

Als die Klingel wieder rasselte und die Tür zur Anklagebank aufging, türmte sich die Stille des Saales vor mir auf, Stille und dazu das seltsame Gefühl, das mich überkam, als ich feststellte, daß der junge Journalist die Augen abgewandt hatte.

「副詞節」, 「動詞句」「主語」「副詞句」 | 「主語」

Als アルス conj. ～した時

「副詞節」

die Klingel デー・イー・クリンゲル n.f ベルが

「主語」

wieder ウェーダー adv. 再び、また

「副詞」

raselte ラッセルテ 3 単過(rasseln)v.i 鳴った

「動詞」

und ウント conj. そして

die Tür デー・チャー n.f 扉が

「主語」

zur Anklagebank ツー・アンクラゲ・バンク adv. 被告人席への

「副詞句」

aufging, アウフ・ギンク 3 単過(auf|gehen)v.i(ドアが)開いた

「動詞句」

türmte sich ...auf, チュルム・ス・イヒ...アウフ 3 単過(sich-4 auftürmen)

v.pr 覆いかぶさった、積み重なった

「動詞句」

die Stille デー・イー・シュティレ n.f 静寂が

「主語」

des Saales デス・ザールス n.m.2 格 法廷の

「形容詞句」

vor mir フォア・ミーア adv. 僕の前に

「副詞句」

Stille シュティレ n.f 静寂が

「主語」

und ウント conj. そして

dazu ダツァー adv. それによる

「副詞」

das seltsame Gefühl, ダス・セルツァー・メ・ゲフール n.n 奇妙な感覚が

「主語」

das ダス pron(主語) ～する

「形容詞節」

mich ミヒ pron.4 格 僕を

「目的語」

überkam, ユーバー・カーム 3 単過・時制の一致(über|kommen)v.t 襲う

「動詞句」

als アルス conj. ～した時

「副詞節」

ich イヒ pron 僕が

「主語」

feststellte, フェストシュテルテ 1 単過(fest|stellen)v.t 気付いた

「動詞句」

daß ダス conj. ～ということを

「目的語」

der junge Journalist デア・ユンゲ・ジューナリスト

n.m あの若い記者が

「主語」

die Augen デー・アウゲン pl(Auge).n.n 目を

「目的語」

abgewandt hatte. アプ・ゲウァント・ハッテ 3 単過・完了形・時制の一致(ab|wenden)

v.t そらしている

「動詞句」

ZWEITER TEIL 第2部

僕はマリーの方へ目を向けなかった。そのための時間がなかった。というのは、裁判長が奇妙な口調で、僕は公共の広場でフランス国民の名において首を切り落とされることになると言ったからだ。

Ich sah nicht zu Maria hin. Dazu hatte ich keine Zeit, denn der Vorsitzende sagte zu mir in seltsamer Form, daß man mir im Namen des französischen Volkes auf öffentlichem Platz den Kopf abschlagen werde.

「主語」「動詞句」「副詞句」「動詞句」 | 「副詞」「動詞」「主語」「目的語」「副詞節」
 Ich イヒ pron 僕は 「主語」
 sah nicht ...hin. ザー・ニヒト...ヒン 1 単過・否定(hin | sehen) 「動詞句」
 v.i(zu の方に) 目を向けなかった 「動詞句」
 zu Maria ツー・マリア adv. マリーの方へ 「副詞句」
 Dazu ダツァー adv. そのために 「副詞」
 hatte ハッテ 1 単過(haben)v.t. ～があった 「動詞」
 ich イヒ pron 僕は 「主語」
 keine Zeit, カイネ・ツァイト n.f 時間が～ない 「目的語」
 denn デン conj. なぜならば 「副詞節」
 der Vorsitzende デア・フォーアジツェンデ n.m 裁判長が 「主語」
 sagte ザーケ 3 単過(sagen)v.t 言った 「動詞」
 zu mir ツー・ミーア adv. 僕に 「間接目的語」
 in seltsamer Form, イン・ゼルトザーマー・フォルム adv. 奇妙な口調で 「副詞句」
 daß ダス conj. ～ということを 「直接目的語」
 man マン pron 人が 「主語」
 受動態に翻訳する
 mir ミーア pron.3 格 僕の 「間接目的語」
 im Namen des französischen Volkes イム・ナメン・デス・フランツォージシェン・フォルケス
 adv. フランス国民の名において 「副詞句」
 auf öffentlichem Platz アウフ・オフェントリヒェム・プラッツ
 adv. 公共の広場で 「副詞句」
 den Kopf デン・コフ n.m.4 格 首を 「直接目的語」
 abschlagen werde. アッパ・シュラーゲン・ウァアデ 3 単未(werden+不定詞 abschlagen)
 v.t 切り落とすだろう 「動詞句」

ZWEITER TEIL 第2部

その時、僕は全ての顔から読み通った感情を認識したと思った。

Dann glaubte ich das Gefühl zu erkennen, das ich auf allen Gesichtern las.

「副詞」「動詞句」「主語」「目的語」「動詞句」「目的語」

Dann ダン adv. その時

「副詞」

glaubte ...zu erkennen, ゲラウプテ...ツ-エアケネン 1 単過(glauben)

v.t 認識したと思った

「動詞句」

ich イヒ pron 僕は

「主語」

das Gefühl ダス・ゲフュール n.n.4 格 その感情を

「目的語」

das ダス pron(目的語) ~する

「形容詞節」

ich イヒ pron 僕が

「主語」

auf allen Gesichtern アウフ・アレン・ゲジヒターン adv. 全ての顔から

「副詞句」

las. ラース 1 単過(lesen)v.t 読み取った

「動詞」

それは恐らく敬意だったと思う。警官たちは僕に対してとても親切だった。

Es war wohl Hochachtung. Die Gendarmen waren sehr nett zu mir.

「主語」「動詞」「補語」 | 「主語」「動詞」「補語」

Es エス pron それは

「主語」

war ウァール 3 単過(sein)v.i ~ だった

「動詞」

wohl ウォール adv. おそらく

「副詞」

Hochachtung. ホーホアハツクンク n.f 敬意

「補語」

Die Gendarmen デー・イ-ジヤンダルメン pl(Gendarm).n.m 警官たちは

「主語」

waren ウァレン 3 複過(sein)v.i ~ だった

「動詞」

sehr nett セー・ア・ネット adj. とても親切な

「補語」

zu mir. ツ-ミーア adv. 僕に対して

「副詞句」

弁護士は僕の手首を掴んだ。僕はもう何も考えられなかった。

Der Anwalt faßte mein Handgelenk. Ich dachte an nichts mehr.

「主語」「動詞」「目的語」 | 「主語」「動詞」「間接目的語」「副詞」

Der Anwalt デア・アンヴァルト n.m 弁護士は

「主語」

faßte ファステ 3 単過(fassen)v.t 掴んだ

「動詞」

mein Handgelenk. マイン・ハントゲレンク n.n.4 格 僕の手首を

「目的語」

Ich イヒ pron 僕は

「主語」

dachte ダハテ 1 単過(denken)v.i(an のことを) 考えた

「動詞」

an nichts アン・ニヒツ adv. 何についても~ない

「間接目的語」

mehr. メア adv. もはや~ない

「副詞」

ZWEITER TEIL 第2部

しかし、裁判長が僕にまだ何か話すことがあるかと尋ねた。僕は良く考えた。

Aber der Vorsitzende fragte mich, ob ich noch etwas zu sagen hätte. Ich überlegte.

Aber 「主語」「動詞」「間接目的語」「直接目的語」

Aber アーバー conj. しかし

der Vorsitzende デア・フォー r シ ッ ツ エン テ n.m 裁判長が 「主語」

fragte フラクテ 3 単過(fragen)v.t(j-4 に) 尋ねた 「動詞」

mich, ミッヒ pron.4 格 僕に 「間接目的語」

ob オフ conj. ～かどうかを 「直接目的語」

ich イッヒ pron 僕は 「主語」

noch ノッホ adv. まだ 「副詞」

etwas エトワース pron.4 格 何か 「目的語」

zu sagen ツー・ザーゲン 不定詞・目的 adj. 話すべき 「形容詞句」

hätte. ヘッテ 接 II・1 単現(haben)v.t ～がある 「動詞」

Ich イッヒ pron 僕は 「主語」

überlegte. ユーバー・レークテ 1 単過(überlegen)v.t 良く考えた 「動詞」

僕は答えた：「ありません」そこで、僕は法廷から連れ出された。

Ich sagte: «Nein.» Dann wurde ich abgeführt.

「主語」「動詞」：《「応答」》「副詞」「動詞句」「主語」「動詞句」

Ich イッヒ pron 僕は 「主語」

sagte: ザーケ 3 単過(sagen)v.t 言った 「動詞」

«Nein.» ナイン adv. いいえありません 「応答」

Dann ダン adv. そこで 「副詞」

wurde ...abgeführt. ヴァルテ ...アッ プ ケ ヒュー アテ 1 単過・受動(werden+過去分詞 ab | führen)

v.t 連れ出された 「動詞句」

ich イッヒ pron 僕は 「主語」

ZWEITER TEIL 第2部

V

3 度目、僕は司祭の面会を断った。

Zum drittenmal habe ich mich geweigert, den Geistlichen zu empfangen.

「副詞句」「動詞句」「主語」「動詞句」, 「目的語」「動詞句」

Zum drittenmal ツム・トリッテンマル adv. 3 回目

「副詞句」

habe ...mich geweigert, ...zu empfangen. ハーベ ...ミッヒ・ゲウァイゲアト...ツァー・エンプ ファンゲン

1 単現・完了形(sich+4 weigern...zu+不定詞 empfangen)

v.pr 迎えるのを断った

「動詞句」

ich イッヒ pron 僕は

「主語」

den Geistlichen デン・ガイストリヒェン n.m.4 格 司祭を

「目的語」

weigen 用法

Er **weigerte sich** hartnäckig, das Geld **anzunehmen**.

彼はその金を受け取ることのかたくなに断った。

僕は彼に言う事はないし、話す気にもならない。すぐ、会う事になるだろう。

Ich habe ihm nichts zu sagen, ich habe keine Lust zu sprechen, ich werde ihn noch früh genug sehen.

「主語」「動詞」「間接目的語」「直接目的語」, 「主語」「動詞句」「目的語」,
「主語」「動詞句」「目的語」「副詞句」

Ich イッヒ pron 僕は

「主語」

habe ハーベ 1 単現(haben)v.t 〜がある

「動詞」

ihm イム pron.3 格 彼に

「間接目的語」

nichts zu sagen, ニヒツ・ツァー・ザーゲン pron 言うことが何も〜ない

「直接目的語」

ich イッヒ pron 僕は

「主語」

habe ハーベ 1 単現(haben)v.t 〜がある

「動詞」

keine Lust カイネ・ルスト n.f.4 格 気持ちが何も〜ない

「目的語」

zu sprechen, ツァー・シュプ レヒェン 不定詞・目的 adj. 話すための

「形容詞句」

ich イッヒ pron 僕は

「主語」

werde ...sehen. ウェアデ ...ゼーエン 1 単未(werden+不定詞 sehen)

v.t 会う事になるだろう

「動詞句」

ihn イン pron.4 格 彼に

「目的語」

noch früh genug ノッホ・フリュ・ゲヌグ adv. すぐに

「副詞句」

ZWEITER TEIL 第2部

今僕はただ一つの事に関心がある：どうしたらギロチンから逃げられるのか？変更不能のものから逃げ出す道はあるのだろうか？

In diesem Augenblick interessiert mich nur eins: wie entgehe ich dem Fallbeil, gibt es einen Ausweg aus dem Unabänderlichen?

「副詞句」「動詞」「目的語」「主語」:

「副詞」「動詞」「主語」「副詞句」, 「動詞句」「主語」「副詞句」

In diesem Augenblick イン・デ・アイゼン・アウゲンブリック adv. この瞬間、現時点で 「副詞句」
 interessiert インテレスィエルト 3 単現(interessieren)v.t(j-4 人の) 興味をひいている 「動詞」
 mich ミット pron.4 格 僕の 「目的語」
 nur eins: ヌア・アインス pron ただ一つの事が 「主語」
 wie ヴァー adv. どうやって 「副詞」
 entgehe エントゲーエ 1 単現(entgehen)v.i(et-3) 免れる、逃れる 「動詞」
 ich イット pron 僕は 「主語」
 dem Fallbeil, デム・ファルハイル adv. ギロチンから 「副詞句」
 gibt es キーブト・エス 非人称・3 単現・存在・疑問文(es geben et-4)v.h あるのか? 「動詞句」
 einen Ausweg アイネン・アイネン・アウスグェーク n.m 逃げ道は 「主語」
 aus dem Unabänderlichen? アウス・デム・ウンアプ・エンテリヒエン adv. 変更不能のものから 「副詞句」

今僕は別の独房にいる。ここで横になると、空が見える。そして空だけが見える。

Ich habe jetzt eine andere Zelle. Hier sehe ich, wenn ich liege, den Himmel, und ich sehe nur ihn.

「主語」「動詞」「副詞」「目的語」

「副詞」「動詞」「主語」「副詞節」「目的語」, und 「主語」「動詞」「目的語」

Ich イット pron 僕は 「主語」
 habe ハーベ 1 単現(haben)v.t (状況) いる、ある 「動詞」
 jetzt イェット adv. 今 「副詞」
 eine andere Zelle. アイネ・アンデレ・ツェレ n.f 別の独房を 「目的語」
 Hier ヒア adv. ここで 「副詞」
 sehe セーエ 1 単現(sehen)v.t 見える 「動詞」
 ich, イット pron 僕は 「主語」
 wenn ヴェン conj. ~する時、~して 「副詞節」
 ich イット pron 僕は 「主語」
 liege, リーゲ 1 単現(liegen)v.i 横になる 「動詞」
 den Himmel, デン・ヒメル n.m 空を 「目的語」
 und ウント conj. そして
 ich イット pron 僕は 「主語」

ZWEITER TEIL 第2部

sehe ゼーエ 1 単現(sehen)v.t 見える 「動詞」
 nur ihn. ヌア・イン pron(Himmel の代用).4 格 空だけが 「目的語」

僕は一日中、昼から夜へ変わる間に、空の色の衰えを観察して時を過ごす。

Alle meine Tage verbringe ich damit, in seinem Gesicht das Schwinden der Farben beim Übergang vom Tag zur Nacht zu beobachten.

「副詞句」「動詞」「主語」「間接目的語」

Alle meine Tage アレ・マイネ・ターゲ adv. 一日中 「副詞句」
 verbringe フェアブリンゲ 1 単現(verbringen)v.t(時を) 過ごす 「動詞」
 ich イヒ pron 僕は 「主語」
 damit, ダミット adv. そのことで 「間接目的語」
 in seinem Gesicht イン・ザ・イェム・ゲジヒット adv. 空の顔の中の 「副詞句」
 das Schwinden ダス・シュヴィンデン n.n.4 格 陰りを、衰えを 「目的語」
 der Farben デア・ファルベン n.f.2 格 色の 「形容詞句」
 beim Übergang vom Tag zur Nacht バイム・ユーバー・ガンク・フォム・ターク・ツァ・ナハト
 adv. 昼から夜への過渡期に 「副詞句」
 zu beobachten. ツー・ベ・オバー・ハテン zu 不定詞・手段 adv. 観察して 「副詞句」

僕は横になると、両手を頭の下に差し入れて、待つ。

Wenn ich liege, lege ich die Hände unter den Kopf und warte.

「副詞節」, 「動詞」「主語」「目的語」「副詞句」 und 「動詞」

Wenn ウェン conj. ～する時 「副詞節」
 ich イヒ pron 僕が 「主語」
 liege, リーゲ 1 単現(liegen)v.i 横になる 「動詞」
 lege レーゲ 1 単現(legen)v.t あてがう 「動詞」
 ich イヒ pron 僕は 「主語」
 die Hände デー・イー・ヘンデ pl(Hand)n.f 両手を 「目的語」
 unter den Kopf ウンター・デン・コプフ adv. 頭の下に 「副詞句」
 und ウント conj. そして
 warte. ウァルテ 1 単現(warten)v.i 待つ 「動詞」

ZWEITER TEIL 第2部

処刑前に姿を消し、警察の非常線を突破して、容赦のない機械から逃げた死刑囚がこれまでにいたかどうかを、僕は何度自問したか分からない。

Ich weiß nicht, wie oft ich mich gefragt habe, ob es schon zum Tode Verurteilte gegeben hat, die der unversöhnlichen Maschine entkamen, vor der Hinrichtung verschwanden und die Polizeikette durchbrachen.

「主語」「動詞句」「目的語」

Ich イッヒ pron 僕は

「主語」

weiß nicht, ヱァイス・ニヒト 1 単現・否定(wissen)v.t 分からない

「動詞句」

wie oft ヱィー・オフト n. 何度～したかを

「目的語」

ich イッヒ pron 僕は

「主語」

mich gefragt habe, ミヒ・ゲ・フラークト・ハーベ 1 単現・完了形(sich-4 fragen)

v.pr 自問した

「動詞句」

ob オッフ conj. ～かどうかということ

「目的語」

es ...gegeben hat, エス... ゲ・ゲー・ヘン・ハット 3 単現・完了形(es geben j-4 人-4 が)

v.t いた

「動詞句」

schon ショーン adv. すでに、これまでに

「副詞」

zum Tode ツム・トデー adv. 死へ

「副詞句」

Verurteilte フェアウアタイルテ n.m.4 格 判決を受けた者が

「主語」

zum Tode Verurteilte 死刑囚

die ディー pron それか～する

「形容詞節」

der unversöhnlichen Maschine デア・ウンフェアゾー・ンルヒェン・マシーネ

n.f.3 格 容赦のない機械から

「副詞」

entkamen, エントカーメン 3 複過(entkommen)

v.i(et-3 何-3 から) 逃げた

「動詞」

vor der Hinrichtung フォア・デア・ヒンリヒトウング

adv. 処刑前に

「副詞句」

verschwanden フェアシュヴァンデ 3 複過(verschwinden)

v.i 消えた、姿を消した

「動詞」

und ウント conj. そして

die Polizeikette ディー・ポリツァイケッテ

n.f 警察の非常線を

「目的語」

durchbrachen. ドゥアルヒ・ブーラヒェン 3 複過(durch | brechen)

v.t 打ち抜いた、突破した

「動詞句」

ZWEITER TEIL 第2部

それから僕は、処刑の報道に十分な注意を払わなかったことを責めた。

Dann warf ich mir vor, den Hinrichtungsberichten nicht genügend Aufmerksamkeit geschenkt zu haben.

「副詞」「動詞句」「主語」「間接目的語」「動詞句」, 「直接目的語」

Dann ダン adv. それから

「副詞」

warf ...vor, ヲアルフ...フォア 1 単過(vor | werfen)v.t(j-3 et-4) (人-3 の何-4 を) 責めた「動詞句」

ich イヒ pron 僕は

「主語」

mir ミーア pron 僕の

「間接目的語」

zu 不定句 n. ~することを

「直接目的語」

den Hinrichtungsberichten デン・ヒンリヒトウングス・ベリヒテン

pl.n.3 格 処刑の報道に

「間接目的語」

nicht ...geschenkt zu haben. ニヒト...ゲシェンクト・ツー・ハーベン zu 不定詞・完了形・否定

v.t (注意を) 払わなかった

「動詞句」

genügend Aufmerksamkeit ゲニューゲント・アフメアクサームカイト

n.f.4 格 十分な注意を

「直接目的語」

そう言う事にはいつでも関心を持つべきである。何が起こるか分からないのだから。

Für dergleichen sollte man sich immer interessieren. Man weiß nie, was passieren kann.

「間接目的語」「動詞句」「主語」「動詞句」 | 「主語」「動詞句」「目的語」

Für フェア prep (4 格と) (目的) ~には

「間接目的語」

dergleichen デアゲライヒェン pron.4 格 そのようなこと

「目的語」

sollte ...sich immer interessieren. ソルテ...スィヒ・イマー・インテレエレン 接 II・3 単現・義務

(sollen+不定詞 sich-4 interessieren)v.pr(für et-4 何-4 に)

v.pr いつでも関心を持つべきである

「動詞句」

man マン pron 人は

「主語」

Man マン pron 人は

「主語」

weiß nie, ヲアイス・ニー 3 単現・否定(wissen)v.t 決して分からない

「動詞句」

was ヲアス pron 何が~するかを

「目的語」

passieren kann. パシーレン・カン 3 単現・推量(können+不定詞 passieren)

v.i 起こるかもしれない

「動詞句」

僕も他の人と同じように、そのことを新聞で読んだことがある。

Wie jeder andere hatte ich darüber in den Zeitungen gelesen.

「副詞句」「動詞句」「主語」「間接目的語」「副詞句」「動詞句」

Wie ヲイー conj. (比較) ~のように

「副詞句」

jeder andere ジェーダー・アンデレ n.m 他の人

「目的語」

ZWEITER TEIL 第2部

hatte ...gelesen. ハッテ...ゲレーゼン 1 単過・完了形(lesen)v.i 読んだことがある 「動詞句」
 ich イッヒ pron 僕は 「主語」
 darüber タリューバー adv. それについて 「間接目的語」
 in den Zeitungen イン・デーン・ツァイトゥンゲン adv. 新聞で 「副詞句」

しかし、確かに一度も関心を持たなかった専門書もいくつかあった。

Aber es gab doch sicher Spezialwerke, auf die ich niemals neugierig gewesen war.

Aber 「動詞句」「副詞句」「主語」

Aber アーバー conj. しかし
 es gab エス・ガブ 非人称・3 単過・存在(es geben et-4)v.h 〜があった 「動詞句」
 doch ドツホ adv. それでも 「副詞」
 sicher シェィヒャー adv. 確かに 「副詞」
 Spezialwerke, シュペチアル・ウァエケ pl(Spezialwerk).n.n.1 格 専門書が 「主語」
 auf die アウフ・デー adj. それについて〜する 「形容詞節」
 ich イッヒ pron 僕は 「主語」
 niemals ニーマルス adv. 一度も〜ない 「副詞」
 neugierig ノイギューリヒ adj. 興味がある 「補語」
 gewesen war. ゲウエーゼン・ワール 1 単過・完了形(sein)v.i 〜 だった 「動詞」

それらの専門書の中に、もしかしたら脱獄に関する何かを見つけていたかもしれない。

In ihnen hätte ich vielleicht etwas über Ausbrüche aus Gefängnissen gefunden.

「副詞句」「動詞句」「主語」「副詞」「目的語」「動詞句」

In ihnen イン・イーネン adv. それらの専門書の中に 「副詞句」
 hätte ...gefunden. ハッテ...ゲフンデテン 接 II・1 単現・完了形・推量(finden)
 v.t 見つけたかもしれない 「動詞句」
 ich イッヒ pron 僕は 「主語」
 vielleicht フライヒト adv. もしかしたら 「副詞」
 etwas エツヴァス pron 何かを 「目的語」
 über Ausbrüche ユーバー・アウスブールフェ adv. (対象) 脱出に関する 「副詞句」
 aus Gefängnissen アウス・ゲフェンクニッセン adv. 刑務所からの 「副詞句」

ZWEITER TEIL 第2部

もしかしたら、少なくとも一回は車輪は停止させられたことを、そしてこの抗えない衝動によって偶然と幸運が一度だけ何かを変えたことを知ることができただろう。

Vielleicht hätte ich erfahren, daß wenigstens in einem Fall das Rad zum Stehen gebracht worden war, daß bei dieser unwiderstehlichen Überstürzung Zufall und Glück ein einziges Mal etwas geändert hatten.

「副詞」「動詞句」「主語」「目的語」, 「目的語」

Vielleicht フライヒト adv. もしかしたら

「副詞」

hätte ...erfahren, ヘッテ...エアファレン 接 II・1 単現・完了形・推量(erfahren)

v.t 知っただろう

「動詞句」

ich イヒ pron 僕は

「主語」

daß ダス conj. ～ということを

「目的語」

wenigstens ヴェニヒテンス adv. 少なくとも

「副詞」

in einem Fall イン・アイネム・ファル adv. ある場合には

「副詞句」

das Rad ダス・ラート n.n 車輪は

「主語」

zum Stehen ツーム・シュテーエン adv. 停止に

「補語」

gebracht worden war, ケブラハト・ウァアテン・ヴァール 3 単過・受動(werden+過去分詞 bringen)

v.t 持ち込まれた

「動詞句」

daß ダス conj. ～ということを

「目的語」

bei バイ prep (3 格と) (近接) ～のそばで

「副詞句」

dieser unwiderstehlichen Überstürzung デーイーサー・ウンウーイーター・シュテーリッヒエン・ユーハー・シュトゥルトゥング

n.f この抗えない衝動

「目的語」

Zufall und Glück ツーファル・ウント・クェリュック pl.n 偶然と幸運が

「主語」

ein einziges Mal アイン・アインツイゲス・マル adv. 一度だけ

「副詞句」

etwas エトワース pron 何かを

「目的語」

geändert hatten. ケエンダー・ハッテン 3 複現・完了形(ändern)

v.t 変えた

「動詞句」

恐らく、それは僕にとって十分だっただろう。後は、僕の勇気が他の事を処理しただろう。

Irgendwie hätte mir das wohl genügt. Mein Mut hätte dann das andere erledigt.

「副詞」「動詞句」「間接目的語」「主語」「副詞」「動詞句」

「主語」「動詞句」「副詞」「目的語」「動詞句」

Irgendwie イルゲントワイアー adv. どうも

「副詞」

hätte ...genügt. ヘッテ...ゲニユクト 接 II・3 単現・完了形・推量(genügen)

v.i 十分だっただろう

「動詞句」

mir ミア pron.3 格 僕にとって

「間接目的語」

das ダス pron それは

「主語」

ZWEITER TEIL 第2部

wohl ヲール adv. おそらく	「副詞」
Mein Mut マイン・ムート n.m 僕の勇気が	「主語」
hätte ... erledigt. ハッテ...エーレディクト 接 II・2 単現・完了形・推量(erledigen)	
v.t 処理したろう	「動詞句」
dann ダン adv. その後は	「副詞」
das andere ダス・アンデレ pron. その他の事を	「目的語」

新聞はよく社会に対する借金について報じていた。

Die Zeitungen sprachen oft von einer Schuld der Gesellschaft gegenüber.

「主語」「動詞句」「副詞」「間接目的語」

Die Zeitungen デー・ツァイトゥンゲン pl(Zeitung).n.f 新聞は	「主語」
sprachen シュプラーヘン 3 複過(sprechen)v.i(von について) 報じた、記事を書いた	「動詞」
oft オフト adv. しばしば	「副詞」
von einer Schuld フォン・アイナー・シュルト adv. 負債について、借金	「間接目的語」
der Gesellschaft gegenüber. デア・ゲゼルシャフト・ゲーゲンユーバー	
adv. 社会に対する	「副詞句」

返済すべき負債について。しかし。それは想像力を掻き立てない。

Von einer Schuld, die beglichen werden müsse. Aber das spricht die Phantasie nicht an.

「副詞句」 | Aber 「主語」「動詞句」「目的語」「動詞句」

Von einer Schuld, フォン・アイナー・シュルト adv. 借金について	「副詞句」
die デー pron (主語) ～する	「形容詞節」
beglichen werden müsse. ベークリヒェン・ウエアデレン・ミュッセ 接・3 単現・受動・必要	
(müssen werden+過去分詞 beglichen)	
v.t 支払われなければならない	「動詞句」
Aber アーバー conj. しかし	
das ダス pron それは	「主語」
spricht ...nicht an. シュプリヒト...ニヒト・アン 3 単現・否定(aqn sprechen)	
v.t(et-4 を) 呼び起こさない	「動詞句」
die Phantasie デー・ファンタジー n.f.4 格 想像力を	「目的語」
j-4 an sprechen 人に呼び掛ける、人に訴える	

ZWEITER TEIL 第2部

脱出の可能性や、容赦ない儀式からの飛躍や、あらゆるチャンスを提供してくれるかもしれない必死の逃亡、それだけが重要だった。

Wichtig war nur eine Möglichkeit des Entkommens, ein Sprung aus dem unversöhnlichen Ritus hinaus, ein rasendes Davonlaufen, das alle Chancen böte.

「補語」「動詞」「主語」

Wichtig ^{ヴイティヒ} adj. 重要な

「補語」

war ^{ヴァール} 3 単過(sein)v.i ~ だった

「動詞」

nur ^{ヌーア} adv. ~ だけ

「副詞」

eine Möglichkeit ^{アイネ・メクリヒカイト} n.f 可能性が

「主語」

des Entkommens, ^{デス・エントコメンス} n.n.2 格 脱出の、逃避の

「形容詞句」

ein Sprung ^{シュプ・ルング} n.m 飛躍が

「主語」

aus ^{アウス} prep (3 格と) ~ からの

「副詞句」

dem unversöhnlichen Ritus ^{デーム・ウンフェアゼー・ンリッヒェン・リトゥス}

n.m.3 格 容赦ない儀式

「目的語」

hinaus, ^{ヒナウス} adv. ここから出て

「副詞」

ein rasendes Davonlaufen, ^{アイン・ラーセンデス・ダ・フォンラウフェン} n.n 必死の逃走

「主語」

das ^{ダス} pron(主語) ~ する

「形容詞節」

alle Chancen ^{アレ・シャンセン} n.f.4 格 あらゆるチャンスを

「目的語」

böte. ^{ベーテ} 接 II・3 単現・推量(bieten)v.t 提供するだろう

「動詞」

もちろん、街角で疾走中に銃弾で射殺される可能性もあるだろう。

Natürlich auch die Chance, an einer Straßenecke mitten im Lauf von einer Kugel niedergestreckt zu werden.

「副詞」「副詞句」「動詞句」

Natürlich ^{ナチュアリヒ} adv. もちろん

「副詞」

auch die Chance, ^{アウフ・デー・イー・シャンス} adv. 可能性も、チャンスも

「副詞句」

an ^{アン} prep (3 格と) ~ において

「副詞句」

einer Straßenecke ^{アイナー・シュトラセンエック} n.f.3 格 街角

「目的語」

mitten im Lauf ^{ミッテン・イム・ラウフ} adv. 疾走の最中に

「副詞句」

von einer Kugel ^{フォン・アイナー・クーゲル} adv. (原因) 銃弾によって

「副詞句」

niedergestreckt zu werden. ^{ニーダー・ゲ・シュトレクト・ツウ・ヴァ} エアテン 3 単現・受動・推量

(werden+過去分詞 niederstrecken)v.t 射殺されるだろう

「動詞句」

ZWEITER TEIL 第2部

しかしよく考えると、何物も僕にそんな贅沢を許さないし、全てがそれを拒絶して、ギロチンがまた僕を捕らえる。

Aber wenn ich alles genau überlegte, erlaubte nichts mir diesen Luxus, alles versagte ihn mir, und das Fallbeil hatte mich wieder.

Aber 「副詞節」, 「動詞」「主語」「間接目的語」「直接目的語」,

「主語」「動詞」「直接目的語」「間接目的語」, und 「主語」「動詞」「目的語」「副詞句」

Aber アーバー conj. しかし

wenn ウェン conj. (条件) もし～ならば 「副詞節」

ich イッヒ pron 僕が 「主語」

alles アレス pron 全てを 「目的語」

genau ゲナウ adv. 厳密に 「副詞」

überlegte, ウーバーレークテ 1 単過(überlegen)v.t よく考えた 「動詞」

erlaubte エアラウプテ 3 単過(erlauben)v.t 許した 「動詞」

nichts ニヒツ pron 何も～ない 「主語」

mir ミーア pron.3 格 僕に 「間接目的語」

diesen Luxus, デーイーゼン・ルクス n.m.4 格 この贅沢を 「直接目的語」

alles アレス pron 全てが 「主語」

versagte フェアザークテ 3 単過(versagen)v.t(j-3 et-4 人-3 に何-4 を) 拒絶した 「動詞」

ihn イーン pron(Luxus の代用) それを 「直接目的語」

mir, ミーア pron.3 格 僕に 「間接目的語」

und ウント conj. そして

das Fallbeil ダス・ファルバイル n.n ギロチンが 「主語」

hatte ハッテ 3 単過(haben)v.t 捕らえた、持った 「動詞」

mich ミッヒ pron.4 格 僕を 「目的語」

wieder. ヴァイダー adv. また、再び 「副詞」

好意的に考えたとしても、僕はこの恥知らずな確実性を受け入れることは出来なかった。

Trotz meines guten Willens konnte ich mich mit dieser unverschämten Gewißheit nicht abfinden.

「副詞句」「動詞句」「主語」「動詞句」「間接目的語」「動詞句」

Trotz トロツツ prep (2 格と) ～にもかかわらず、～しても 「副詞句」

meines guten Willens マイネス・グーテン・ヴェイルス n.m.2 格 僕の善意 「目的語」

konnte ...mich...nicht abfinden. コンテ...ミッヒ...ニヒト・アッパ・フィンデン 1 単過・可能・否定

(können+不定詞 sich-4 abfinden)v.pr(mit et-3 に) 満足できなかった 「動詞句」

ich イッヒ pron 僕は 「主語」

mit dieser unverschämten Gewißheit ミット・デーイーサー・ウンフエアシェームテン・ゲヴェイスハイト

ZWEITER TEIL 第2部

adv. この恥知らずな確実性に

「間接目的語」

なぜなら、それをもたらした判決と判決宣言後の揺るぎない歩みの間には、馬鹿馬鹿しい不釣り合いがあったからだ。

Denn es bestand ein lächerliches Mißverhältnis zwischen dem Urteil, das sie herbeigeführt hatte, und ihrem unerschütterlichen Lauf seit der Urteils verkündung.

Denn 「動詞」「主語」

Denn デン conj. なぜならば、というのは～だから

es エス pron 非人称

bestand ベシュタント 3 単過・存在(bestehen)v.i ～があった

「動詞」

ein lächerliches Mißverhältnis アイン・レヒャーリハス・ミسفェアヘルトニス

n.n 馬鹿馬鹿しい不均衡が

「主語」

zwischen ツウィッシェン prep (3 格と) ～の間に

「副詞句」

dem Urteil, デーム・ウァタイル n.n.3 格 判決

「目的語」

das ダス pron(主語) ～する

「形容詞節」

sie シー pron(MiBverhältnis の代用) それを 「目的語」

herbeigeführt hatte, ヘアバ イゲ フェアト・ハッテ 3 単過・完了形(herbei | führen)

v.t もたらした

「動詞句」

und ウント conj. そして

ihrem unerschütterlichen Lauf イーレム・ウンエアシュテアリッヒェン・ラウフ

n.m.3 格 揺るぎない歩み

「目的語」

seit サイト prep (3 格と) ～以来の、～以後

「副詞句」

der Urteils verkündung. デア・ウァタイルス・フェアクント ャンク

n.f.3 格 判決の宣言

「目的語」

ZWEITER TEIL 第2部

判決が 17 時ではなく 20 時に読み上げられたと言う事実、判決は全く異なる結果になっていたかもしれないということ、判決は下着を取り換えるような人々によって下されたということ、判決はフランス国民(またはドイツ国民、あるいは中国国民)の名前においてという漠然とした概念に基づいて公布されたこと。僕にはこれら全てが真剣さに欠けていると思われた。

Die Tatsache, daß das Urteil um zwanzig statt um siebzehn Uhr verlesen worden war, die Tatsache, daß es ganz anders hätte ausfallen können, daß es von Menschen gefällt worden war, die das Hemd wechseln, daß es im Namen eines vagen Begriffs, des französischen (deutschen oder chinesischen) Volkes erlassen worden war - das alles schien mir einer solchen Entscheidung viel von ihrem Ernst zu nehmen.

「主語」, 「主語」、daß「主語」「副詞句」「動詞句」, daß「主語」「副詞句」「動詞句」
- 「主語」「動詞」「間接目的語」「補語」

Die Tatsache, デー・イー・タートザッハ n.f 事実は 「主語」
daß ダス conj. (先行する名詞を説明して) (同格) ～という 「形容詞節」
das Urteil ダス・ウルタイル n.n 判決が 「主語」
um zwanzig ウム・ツヴァンツィヒ adv. 20 時に 「副詞句」
statt シュタット prep (2 格と) ～ではなく 「副詞句」
um siebzehn Uhr ウム・ジーブ・ツェーン・ウアー
adv. 17 時 「目的語」

verlesen worden war, フェアレゼン・ウー・ォアデーン・ウァール 3 単過・完了形・受動

(werden+過去分詞 verlesen)v.t 読み上げられた 「動詞句」

die Tatsache, デー・イー・タートザッハ n.f 事実は 「主語」
daß ダス conj. (先行する名詞を説明して) (同格) ～という 「形容詞節」
es エス pron それは 「主語」
ganz anders ガンツ・アンダース adv. まったく違うふうに 「補語」
hätte ausfallen können, ハッテ・アウスファレン・ケnnen 接 II・3 単現・完了形・可能性
(können+不定詞 ausfallen)

v.i ～の結果になっていたかもしれない 「動詞句」

daß ダス conj. (事実の提示) ～ということ

es エス pron それは 「主語」
von Menschen フォン・メンシェン adv. (動作主) 人々によって 「副詞句」
gefällt worden war, ゲフェルト・ウー・ォアデーン・ウァール 3 単過・完了形・受動(werden+過去分詞 fällen)
v.t(判決を) 下された 「動詞句」
die デー・イー pron (主語) ～する 「形容詞節」
das Hemd ダス・ヘムト n.n.4 格 下着を 「目的語」
wechseln, ヴェクセルン 3 複現 v.t 取り替える 「動詞」

ZWEITER TEIL 第2部

daß ^{ダス} conj. (事実の提示) ～ということ	
es ^{エス} pron それは	「主語」
im Namen ^{イム・ナメン} adv. 名前において	「副詞句」
eines vagen Begriffs, ^{アイネス・ヴァーゲス・ベグリス}	
n.m.2 格 漠然とした概念の	「形容詞句」
des französischen ...Volkes ^{デス・フランツェーズ・イツェン...フォルクス}	
adj. フランス国民の	「形容詞句」
(deutschen oder chinesischen) ^{ト・イチェン・オーダー・チネーシエン}	
adj. (またはドイツ国民、あるいは中国国民)	「形容詞句」
erlassen worden war ^{エラッセン・ウォルデン・ワール} 3 単過・完了形・受動	
(werden+過去分詞 erlassen)v.t 公布された	「動詞句」
- das alles ^{ダス・アレス} pron これら全てが	「主語」
schien ^{シーン} 3 単過(scheinen)v.i ～のように思われた	「動詞」
mir ^{ミーア} pron.3 格 僕には	「間接目的語」
einer solchen Entscheidung ^{アイナー・ゾルヒェン・エントシャイトゥング} n.f.1 格 このような判決	「補語」
viel von ihrem Ernst zu nehmen. ^{フィール・フォン・イーレム・エアンスト・ツウ・ネーメン}	
adj. それらに対して取るべき真剣さに満ちた	「形容詞句」

判決が下された瞬間から認めなければならなかったが、その効果は僕が頭をぶつけたこの壁と同じ位確実に重大になった。

Trotzdem mußte ich anerkennen, daß seit der Sekunde, in der sie gefällt worden war, ihre Auswirkungen ebenso gewiß, ebenso ernst wurden wie das Vorhandensein dieser Mauer, an der ich mir den Schädel einrannte.

	「副詞節」, 「主語」「補語」「動詞」「副詞句」
Trotzdem ^{トロッツデーム} conj. ～にもかかわらず	「副詞節」
mußte ...anerkennen, ^{ムステ...アンエケネン} 1 単過・必要(müssen+不定詞 anerkennen)	
v.t 認めなければならなかった	「動詞句」
ich ^{イッ} pron 僕は	「主語」
daß ^{ダス} conj. ～ということ	「目的語」
seit der Sekunde, ^{ザイト・デア・ゼクンデ} adv. その瞬間から	「副詞句」
in der ^{イン・デア} adv. その時	「副詞節」
sie ^{ジー} pron それが	「主語」
gefällt worden war, ^{ゲフェルト・ヴァーアテン・ワール} 3 単過・完了形・受動(werden+過去分詞 fällen)	
v.t 下された	「動詞句」
ihre Auswirkungen ^{イーレ・アウスウィルクungen} n.f その効果は	「主語」
ebenso gewiß, ^{エベンゾ・ゲウイイス} adj. 同じように確実な	「補語」

ZWEITER TEIL 第2部

ebenso ernst エベンソ・エアンスト adv. 同じ位重大な	「補語」
wurden ウルデン 3 複過・変化・推量(werden)v.i 〜になった	「動詞」
wie ヴィー conj.(比較) 〜のように	「副詞句」
das Vorhandensein dieser Mauer, ダス・フォアアンデーンザイン・ディーザー・マウアー	
n.n. この壁の存在	「目的語」
an der アン・デア adv. それに〜する	「形容詞節」
ich イヒ pron 僕は	「主語」
mir ...einrannte. ミー...アインランテ 1 単過(sich-3 et-4 an et-3 何-4 を何-3 に)	
v.pr ぶつけた	「動詞句」
den Schädel デン・シェーデル	
n.m.4 格 頭を	「目的語」

この時、母さんが父さんについて語ってくれた話が頭に浮かんた。

In diesem Augenblick fiel mir eine Geschichte ein, die Mama mir über meinen Vater erzählte.

	「副詞句」「動詞句」「主語」「動詞句」, 「主語」
In diesem Augenblick イン・ディーゼム・アウゲンブリック adv. この時	「副詞句」
fiel mir ...ein, フィール・ミー...アイン 3 単過(ein fallen)v.i(j-3 人-3 の) 心に浮かんた	「動詞句」
eine Geschichte アィネ・ゲシヒテ n.f ある話が	「主語」
die ディー pron (目的語) 〜する	「形容詞節」
Mama ママ n.f 母さんが	「主語」
mir ミー pron.3 格 僕に	「間接目的語」
über meinen Vater ユーバー・マイネン・ファーター adv. 父さんについて	「副詞句」
erzählte. エアツェールテ 3 単過(erzählen)v.t 語った	「動詞」

僕は父を知らなかった。

Ich hatte ihn nicht gekannt.

	「主語」「動詞句」「目的語」「動詞句」
Ich イヒ pron 僕は	「主語」
hatte ...nicht gekannt. ハッテ...ニヒト・ゲカント 1 単過・完了形・否定(kennen)	
v.t 知らなかった	「動詞句」
ihn イン pron.4 格 父親を	「目的語」

ZWEITER TEIL 第2部

僕が父さんについて知っている唯一確実な事は、恐らくその時に母さんが僕に話してくれた事だ：父さんはある殺人犯の処刑を見物に行ったのだ。

Das einzig Zuverlässige, das ich über den Mann wußte, war vielleicht das, was Mama mir damals erzählte: er hatte der Hinrichtung eines Mörders beigewohnt.

「主語」「動詞」「補語」：「主語」「動詞句」「間接目的語」「動詞句」

Das einzig Zuverlässige, ダス・アインツィヒ・ツーフェアレスィゲ n.n 唯一確実な事は 「主語」

das ダス pron(目的語) ～する 「形容詞節」

ich イヒ pron 僕が 「主語」

über den Mann ユーバー・デーン・マン adv. その男について 「間接目的語」

wußte, ヴステ 1 単過(wissen)v.t 知っていた 「動詞」

war ヴァール 3 単過(sein)v.i ～ だった 「動詞」

vielleicht フライヒト adv. おそらく 「副詞」

das, ダス pron それ 「補語」

was ヴァス pron(目的語) ～する 「形容詞節」

Mama ママ n.f 母さんが 「主語」

mir ミーア pron.3 格 僕に 「間接目的語」

damals ダーマルス adv. 当時、そのころ 「副詞」

erzählte: エアツェールテ 3 単過(erzählen)v.t 話した 「動詞」

er エア pron 彼が 「主語」

hatte ...beigewohnt. ハッテ...ハイ・ゲ・ヴァント 3 単過・完了形(bei | wohnen)
v.i(et-3 に) 立ち会った 「動詞句」

der Hinrichtung デア・ヒンリヒトゥング n.f.3 格 処刑に 「間接目的語」

eines Mörders アイネス・マダース n.m.2 格 ある殺人犯の 「形容詞句」

処刑を見届けなければならないと考えると、父はひどく気分が悪くなった。

Der Gedanke, daß er das mit ansehen mußte, machte ihn ganz krank.

「主語」「動詞」「目的語」「補語」

Der Gedanke, デア・ゲダング n.m 考えは 「主語」

daß ダス conj. (同格) ～という 「形容詞節」

er エア pron 彼は 「主語」

das ダス pron それを 「目的語」

mit ansehen mußte, ミット・アンゼーエン・ムステ 3 単過・必要・時制の一致

(müssen+不定詞 ansehen+mit)v.t 見守らなければならない 「動詞句」

machte マハテ 3 単過・変化(machen)v.t ～にした 「動詞」

ihn イン pron.4 格 彼を 「目的語」

ganz krank. ガンツ・クランク adj. ひどく気分が悪い 「補語」

ZWEITER TEIL 第2部

それでも彼は見物をした。それから、家に戻って午前中はしばらく吐いていた。

Er tat es trotzdem und mußte sich dann zu Hause den halben Vormittag lang übergeben.

「主語」「動詞」「目的語」「副詞」 und 「動詞句」「副詞句」「動詞句」

Er エア pron 彼は

「主語」

tat タート 3 単過(tun)v.t ~した

「動詞」

es エス pron それを

「目的語」

trotzdem トロツデーム adv. それでも

「副詞」

und ウント conj. そして

mußte sich ...übergeben. ムステ・スィツヒ...ユーバーゲーヘン 3 単過・必要

(müssen+不定詞 sich-4 übergeben)v.pr 嘔吐しなければならなかった

「動詞句」

dann ダン adv. それから

「副詞」

zu Hause ツー・ハウゼ adv. 家で

「副詞句」

den halben Vormittag lang デン・ハルベン・フォアミターク・ラング n.m.4 格 午前の半分

「副詞句」

当時、僕は父親に多少の嫌悪感を抱いていた。

Damals ekelte mich etwas vor meinem Vater.

「主語」「動詞句」「直接目的語」「間接目的語」

Damals ダーマルス adv. 当時

「副詞」

ekelte mich エーケルテ・ミツヒ 1 単過(sich-4 ekeln vor j-3)

v.pr (人-3 に) 嫌悪感を抱いていた

「動詞句」

etwas エトワース pron いくらか

「直接目的語」

vor meinem Vater. フォア・マイネム・ファーター adv. 父親に

「間接目的語」

今では、父のことを理解できる：それはまったく当たり前のことだった。

Jetzt verstand ich ihn: das war ja so natürlich.

「副詞」「動詞句」「主語」「目的語」: 「主語」「動詞」「補語」

Jetzt イェツト adv. 今では

「副詞」

verstand フェアシュタント 1 単過・時制の一致(verstehen)v.t 理解できる

「動詞」

ich イツヒ pron 僕は

「主語」

ihn: イーン pron.4 格 父のことを

「目的語」

das ダス pron それは

「主語」

war ウァール 3 単過(sein)v.i ~ だった

「動詞」

ja so natürlich. ヤー・ゾー・ナチュアリヒ adj. まったく当たり前の

「補語」

ZWEITER TEIL 第2部

どうして僕は、処刑よりも重要なことは何もないこと、ある意味では、人間にとって唯一興味深い事だという事が理解できなかったのだろう。

Wie konnte ich nur nicht einsehen, daß nichts so wichtig ist wie eine Hinrichtung, ja - daß sie in gewisser Hinsicht das einzig Interessante für einen Menschen ist!

「副詞」「動詞句」「主語」「動詞句」, 「目的語」 - 「目的語」

Wie ヲイ adv. どうして

「副詞」

konnte ...nur nicht einsehen, コンテ...ヌーア・ニヒト・アイゼーエン 1 単過・可能・否定

(können+不定詞 einsehen)v.t 理解できなかった

「動詞句」

ich イヒ pron 僕は

「主語」

daß ダス conj. ～ということを

「目的語」

nichts ニヒツ pron 何も～ない

「主語」

so wichtig ヴー・ウヰヒチ adj. そんなに重要な

「補語」

ist イスト 3 単現(sein)v.i ～である

「動詞」

wie ヲイ conj. (比較) ～ほど

「副詞句」

eine Hinrichtung, アイン・ヒンリヒツング n.f 処刑

「目的語」

ja ヤー adv. そうだ

「副詞」

- daß ダス conj. ～ということを

「目的語」

sie in gewisser Hinsicht シー・イン・ゲウヰッサー・ヒンシスト

adv. ある意味では

「副詞句」

das einzig Interessante ダス・アインツィヒ・インテレスンテ n.n 唯一興味深い事

「補語」

für einen Menschen フェア・アイネン・メンシェン adv. 人間にとって

「副詞句」

ist! イスト 3 単現(sein)v.i ～である

「動詞」

いつかこの牢獄から出られたなら、僕は全ての処刑を見に行くつもりだ。

Sollte ich jemals aus diesem Gefängnis herauskommen, würde ich zu jeder Hinrichtung gehen.

「動詞句」「主語」「副詞句」「動詞句」, 「動詞句」「主語」「間接目的語」「動詞句」

Sollte ...herauskommen, ソルテ...ヘラウス・コメン 接 II・1 単現・假定

(sollen+不定詞 herauskommen)v.i 出られたとしたら

「動詞句」

ich イヒ pron 僕が

「主語」

jemals イェーマルス adv. いつか

「副詞」

aus diesem Gefängnis アウス・デァー・エーゼム・ゲフェンギニス adv. この牢獄から

「副詞句」

würde ...gehen. ヲエルテ...ゲーエン 接 II・1 単現・意思(werden+不定詞 gehen)

v.i 行くだろう

「動詞句」

ich イヒ pron 僕は

「主語」

zu jeder Hinrichtung ツー・エーダー・ヒンリヒツング adv. すべての処刑に

「間接目的語」

ZWEITER TEIL 第2部

確かに、このような可能性を考えたのは間違いだった。

Es war gewiß nicht recht, an diese Möglichkeit zu denken.

「動詞」「補語」「主語」

Es エス pron 仮の主語（真の主語は an diese 以降）

war ヴァール 3 単過(sein)v.i ~ だった

「動詞」

gewiß ゲウイス adv. 確かに

「副詞」

nicht recht, ニヒト・レヒト adj. 正しくない

「補語」

an diese Möglichkeit アン・デーゼ・メークリヒカイト adv. この可能性を~することは

「主語」

zu denken. ツー・デンケン zu 不定詞 v.i(an et-4 何-4 のことを) 考える

「動詞句」

なぜなら、自分はある朝警察の非常線の後ろで自由の身になって、どういう訳か、反対側に立っていることを想像し、自分は見物人であり、後で吐く者だと想像すると、僕の心は毒された喜びで満たされた。

Denn bei der Vorstellung, daß ich eines frühen Morgens frei hinter der Polizeikette, irgendwie auf der anderen Seite stehe, bei der Vorstellung, ein Zuschauer zu sein, der sich hinterher übergibt, füllte sich mein Herz mit vergifteter Freude.

Denn 「副詞句」, 「動詞句」「主語」「副詞句」

Denn デン conj. なぜならば

bei バイ prep (3 格と) (状況) ~の場合には

「副詞句」

der Vorstellung, デア・フォアシュテルンク n.f.3 格 想像

「目的語」

bei schönem Wetter 天気良ければ

daß ダス conj. ~ということ

「目的語」

ich イヒ pron 自分は

「主語」

eines frühen Morgens アイネス・フリューエン・モアゲンス

adv. ある早朝に

「副詞句」

frei フライ adj. 自由の身で

「補語」

hinter der Polizeikette, ヒンター・デア・ホ リツアイ・ケッテ

adv. 警察の非常線の後ろで

「副詞句」

irgendwie イルゲントワイー adv. どういう訳か

「副詞」

auf der anderen Seite アウフ・デア・アンデレン・ザイテ

adv. 反対側に

「副詞句」

stehe, シュテーエ 1 単現(stehen)v.i 立っている

「動詞」

bei der Vorstellung, バイ・デア・フォアシュテルンク

adv. 想像すると

「副詞句」

ein Zuschauer zu sein, アイン・ツァーシャウアー・ツァー・ザイン zu 不定句

ZWEITER TEIL 第2部

n.見物人であることを 「目的語」
 der sich hinterher übergibt, デア・ズ・イッヒ・ヒンターヘア・ユーバーギプト
 pron 後で吐く人 「目的語」
 füllte sich フュルテ・ズ・イッヒ 3 単過(sich-4 füllen)v.pr 満たされた 「動詞句」
 mein Herz マイン・ヘアツ n.n 僕の心は 「主語」
 mit vergifteter Freude. ミット・フェアギテター・フロイデ adv. 毒された喜びで 「副詞句」

しかし、それは全く理にかなっていなかった。

Aber das war gegen alle Vernunft.

Aber 「主語」「動詞」「補語」

Aber アーバー conj. しかし
 das ダス pron それは 「主語」
 war ヴァール 3 単過(sein)v.i ~ だった 「動詞」
 gegen ゲーゲン prep (4 格と) ~に反して 「補語」
 alle Vernunft. アレ・フェアヌフト n.f.4 格 全ての理性 「目的語」

そんな推測に耽っていたのは間違いだった。というのは、次の瞬間、僕は氷のような寒さに襲われて、毛布にくるまっていたのだから。

Es war falsch von mir, mich solchen Vermutungen hinzugeben, denn im nächsten Augenblick packte mich eine so fürchterliche Eiseskälte, daß ich mich unter meiner Decke zusammenrollte.

「動詞」「補語」「主語」, 「副詞節」

Es エス pron 仮の主語 (真の主語は mich solchen 以降)
 war ヴァール 3 単過(sein)v.i ~ だった 「動詞」
 falsch ファルシュ adj. 間違った 「補語」
 von mir, フォン・ミーア adv. 僕にとって 「間接目的語」
 mich ...hinzugeben, ミヒ...ヒン・ツァー・ゲーベン zu 不定句(sich-4 et-3 hin|geben)
 n. (何・3 に) 没頭することは 「主語」
 solchen Vermutungen ソルヒェン・フェアムトウングェン
 pl(Vermutung).n.f.3 格 そんな推測に 「間接目的語」
 denn デン conj. なぜなら 「副詞節」
 im nächsten Augenblick イム・ネーヒステン・アウゲンブリック adv. 次の瞬間 「副詞句」
 packte パクテ 3 単過(packen)v.t 掴んだ、襲った 「動詞」
 mich ミヒ pron.4 格 僕を 「目的語」
 eine so fürchterliche Eiseskälte, アイネ・ゾー・ファフターリヒエ・アイゼ スケルテ
 n.f 恐ろしい氷の冷たさが 「主語」

ZWEITER TEIL 第2部

daß ^{ダス} conj. (so...daß) conj. ～なので 「副詞節」
 ich ^{イヒ} pron 僕は 「主語」
 mich ...zusammenrollte. ^{ミヒ...ツァメン・ロルテ} 1 単過(sich-4 zusammen | rollen)
 v.pr 体を丸めた、くるまった 「動詞句」
 unter meiner Decke ^{ウンター・マイナー・デッケ} adv. 毛布の下に 「副詞句」

思わず、僕の歯がガチガチ音を立てた。

Ich klapperte unwillkürlich mit den Zähnen.

「主語」「動詞」「副詞句」
 Ich ^{イヒ} pron 僕は 「主語」
 klapperte ^{クラペ} アテ 1 単過(klappern)v.i かたかた音を立てていた 「動詞」
 unwillkürlich ^{ウンガイルキューアリヒ} adv. 思わず、無意識に 「副詞」
 mit den Zähnen. ^{ミット・デン・ツェーネン} adv. (手段) 歯によって 「副詞句」

しかしもちろん、いつも理性的でいられるものではない。

Aber man kann natürlich nicht immer vernünftig sein.

Aber 「主語」「動詞句」「副詞」「動詞句」「補語」「動詞句」

Aber ^{アーバー} conj. しかし
 man ^{マン} pron 人は 「主語」
 kann ...nicht ...sein. ^{カン...ニヒト...ザイン} 3 単現・可能・否定・状態(sein)
 v.i ～ではいけない 「動詞句」
 natürlich ^{ナチュアーリヒ} adv. もちろん 「副詞」
 immer vernünftig ^{イマー・フェアニユンフティヒ} adj. いつも理性的な 「補語」

その一方で、僕は法案を提案した。刑罰制度を改革した。

Dann wieder machte ich Gesetzesvorschläge. Ich reformierte den Strafvollzug.

「副詞句」「動詞」「主語」「目的語」 | 「主語」「動詞」「目的語」

Dann ^{ダン} adv. それから 「副詞」
 wieder ^{ワイター} adv. 他方で 「副詞」
 machte ^{マハテ} 1 単過(machen)v.t (動作を) した 「動詞」
 ich ^{イヒ} pron 僕は 「主語」
 Gesetzesvorschläge. ^{ケゼツツェス・フォアシュレーケ} n.m.4 格 法案を 「目的語」
 Ich ^{イヒ} pron 僕は 「主語」
 reformierte ^{レフォルミエルテ} 1 単過(reformieren)v.t 改革した 「動詞」
 den Strafvollzug. ^{デン・シュトラフフォルツーク} n.m.4 格 刑罰制度を 「目的語」

ZWEITER TEIL 第2部

僕は、死刑囚にチャンスを与えることが何よりも重要だと気付いた。

Ich hatte erkannt, daß es vor allem darauf ankam, dem Verurteilten eine Chance zu geben.

「主語」「動詞句」「目的語」

Ich イッヒ pron 僕は

「主語」

hatte erkannt, ハッテ・エアカント 1 単過・完了形(erkennen)v.t 気付いた、悟った

「動詞句」

daß ダス conj. ～ということを

「目的語」

es エス pron 仮の主語 (真の主語は dem Verurteilten 以降)

vor allem フォア・アレム adv. 何よりも

「副詞句」

darauf ankam, ダラウフ・アンカム 3 単過・時制の一致(es kommt auf et-4 an)

v.i 重要である

「動詞句」

dem Verurteilten デーム・フェアウルタイルテン

zu 不定句.n.n3 格 死刑囚に～することが

「主語」

verurteilen フェアウルタイルン v.t 死刑を言い渡す → 過去分詞・受動・名詞化 n.n 死刑囚

eine Chance アイン・シャント n.f チャンスを

「直接目的語」

zu geben. ツーゲーベン zy 不定詞 v.t 与える

「動詞句」

千人に1人 - 全てを解決するにはそれで十分だ。

Eine unter tausend - das genügte, um alles ins Lot zu bringen.

「主語」 - 「主語」「動詞」「副詞句」

Eine アイン pron 一人

「主語」

unter ウンター prep (3 格と) ～の中で

「副詞句」

tausend タウゼント pron 千人

「目的語」

- das ダス pron それは

「主語」

genügte, ゲニュークテ 3 単過・時制の一致(genügen)v.i 十分である

「動詞」

um ...zu bringen. ウム...ツェ・ブリンゲン um zu 不定句・目的

adv. ～へ至らすためには

「副詞句」

alles アレス pron 全てを

「目的語」

ins Lot インス・ロート adv. 正しい状態に

「補語」

ZWEITER TEIL 第2部

だから僕は、10 回中 9 回は患者を（本当に患者と考えた）死なせるような化学物質を発明するべきだと考えた。

So war ich der Meinung, man sollte ein chemisches Präparat erfinden, das den Patienten (ich dachte wirklich: Patienten) in neun von zehn Fällen tötete.

「副詞」「動詞」「主語」「補語」, 「主語」「動詞句」「目的語」「動詞句」

So ザー conj. だから 「副詞」

war ヲール 1 単過(sein)v.i ~ だった 「動詞」

ich イヒ pron 僕は 「主語」

der Meinung, デア・マイヌグ n.f.2 格 意見の 「補語」

man マン pron 人は 「主語」

sollte ...erfinden, ザルテ...エアフィンデン 3 単過・義務(sollen+不定詞 erfinden)
v.t 発明するべきである 「動詞句」

ein chemisches Präparat アイン・ヒェーシエス・プ レパ ラート n.n.4 格 化学物質を 「目的語」

das ダス pron(主語) ~する 「形容詞節」

den Patienten デン・ハ ツィエンテン pl(Patient).n.m 患者を 「目的語」

(ich イヒ pron 僕は 「主語」

dachte ダハテ 1 単過(denken)v.t 考えていた 「動詞」

wirklich: ヲイルクリヒ adv. 本当に 「副詞」

Patienten) ハ ツィエンテン pl(Patient).n.m 患者を 「目的語」

in neun von zehn Fällen イン・ノイン・フォン・ツェーン

adv. 10 回中 9 回で 「副詞句」

Fälle フェレ pl(Fall).n.m 場合、事例

tötete. テーテテ 3 単過・時制の一致(töten)v.t 殺す 「動詞」

死刑囚にあらかじめそれを知らせることが条件だ。

Unter der Bedingung, daß er es wußte.

「副詞句」

Unter ウンター prep (3 格と) (条件) ~のもとで 「副詞句」

der Bedingung, デア・ベディンゲン n.f.3 格 条件 「目的語」

daß ダス conj. (同格) ~という 「形容詞節」

er エア pron 死刑囚が、患者が 「主語」

es エス pron それを 「目的語」

wußte. ヲステ 3 単過(wissen)v.t 知っていた 「動詞」

ZWEITER TEIL 第2部

全てを詳細に考え冷静に熟考して、自分に言い聞かせた：ギロチンの欠陥は死刑囚には何も、全く何のチャンスも許さないことだ。

Wenn ich alles genau überlegte und in Ruhe bedachte, sagte ich mir: das Mangelhafte am Fallbeil war, daß es dem Verurteilten keine, aber auch gar keine Chance ließ.

「副詞節」, 「動詞」「主語」「間接目的語」: 「主語」「動詞」「補語」

Wenn	ヴェン conj.	～する時	「副詞節」
ich	イチ pron	僕が	「主語」
alles	アレス pron	全てを	「目的語」
genau	ゲナウ adv.	詳細に	「副詞」
überlegte	ユーバーレーケ 1 単過(überlegen)v.t	よく考えた	「動詞」
und	ウント conj.	そして	
in Ruhe	イン・ルーエ adv.	落ち着いて、冷静に	「副詞句」
bedachte,	ベダハテ 1 単過(bedenken)v.t	熟考した	「動詞」
sagte	サーケ 1 単過(sagen)v.t	言った	「動詞」
ich	イチ pron	僕は	「主語」
mir:	ミーア pron	自分に	「間接目的語」
das Mangelhafte am Fallbeil	ダス・マンケルハフテ・アム・ファルバイル n.n	ギロチンの欠陥は	「主語」
war,	ヴァール 3 単過(sein)v.i	～だった	「動詞」
daß	ダス conj.	～ということ	「補語」
es	エス pron	それは	「主語」
dem Verurteilten	デーム・フェアウルタイトン adv.	死刑囚には	「間接目的語」
keine,	カネ pron	何も～ない	「直接目的語」
aber	アーバー conj.	しかし	
auch gar keine Chance	アウフ・ガール・カネ・シャッセ n.f	全く何のチャンスも	「直接目的語」
ließ.	リース 3 単過・時制の一致(lassen)v.t	渡す、許す	「動詞」

死刑囚の死は確定したものだった。

Der Tod des Patienten war ein für allemal beschlossen.

「主語」「動詞」「補語」

Der Tod	デア・トート n.m	死は	「主語」
des Patienten	デス・パチエンテン adj.	死刑囚の	「形容詞句」
war	ヴァール 3 単過(sein)v.i	～だった	「動詞」
ein für allemal	アイン・フューア・アレマル adv.	確実に、全てに対して一つ	「副詞句」
beschlossen.	ベシュロッセン 過去分詞(beschließen)・受動 adj.	決定された	「補語」

ZWEITER TEIL 第2部

それは、もはや何も文句が言えない、処理済みの一件であり正確に調整された計算だった。

Er war eine erledigte Angelegenheit, eine genau abgestimmte Berechnung, an der es nichts mehr zu deuten gab.

「主語」「動詞」「補語」

Er エア pron それは

「主語」

war ヲァール 3 単過(sein)v.i 〜 だった

「動詞」

eine erledigte Angelegenheit, アイネ・エアレテ・イクテ・アンゲレーゲンハイト

n.f.1 格 処理済みの一件

「補語」

eine genau abgestimmte Berechnung, アイネ・ゲナウ・アッポ・ゲシュティムテ・ベレフヌング

n.f.1 格 正確に調整された計算

「補語」

an der アン・デア adv. それについて〜する

「形容詞節」

es ...gab. エス...ガブ 非人称・3 単過(es geben et-4 何-4 が)

v.h 存在する

「動詞句」

nichts ニヒツ pron 何も〜ない

「主語」

mehr メア adv. もう〜ない

「副詞」

zu deuten ツー・トイェルン 不定詞・目的

adj. 理由をつけるべき

「形容詞句」

そして、たまたま上手くいかなかったら、それは繰り返されるだけだ。

Und wenn der Schlag zufällig nicht klappte, dann wurde er eben wiederholt.

Und 「副詞節」, 「副詞」「動詞句」「主語」「副詞」「動詞句」

Und ウント conj. そして

wenn ヲェン conj. 〜する時

「副詞節」

der Schlag テア・シュラク n.m 一撃が

「主語」

zufällig ツーフェリヒ adv. 偶然、たまたま

「副詞」

nicht klappte, ニヒト・クラプテ 3 単過・否定(klappen)v.i 上手くいかなかった 「動詞句」

dann ダン adv. その時は

「副詞」

wurde ...wiederholt. ヲールテ...ヲィターホルト 3 単過・受動・時制の一致

(werden+過去分詞 wiederholen)v.t 繰り返される

「動詞句」

er エア pron それは

「主語」

eben エーベン adv. ただ、単に、要するに

「副詞」

ZWEITER TEIL 第2部

そしてその時腹立たしいのは、死刑囚は装置が順調に作動することを願うしかないという事です。そして、そこにこそ欠陥があるのです。

Das Ärgerliche dabei war also, daß der Verurteilte das gute Funktionieren der Maschine wünschen mußte. Und da eben liegt der Fehler.

「主語」「副詞」「動詞」「副詞」「補語」 | Und 「副詞」「動詞」「主語」

Das Ärgerliche ダス・エーガーリヒェ n.n 腹立たしいことは 「主語」

dabei ダバイ adv. その時に 「副詞」

war ヲアール 3 単過・時制の一致(sein)v.i 〜である 「動詞」

also, アルゾ adv. それで 「副詞」

daß ダス conj. 〜ということ 「補語」

der Verurteilte デア・フェアウアタイルテ n.m 死刑囚は 「主語」

das gute Funktionieren ダス・グーテ・フンクチオーネン n.n 順調な動作を 「目的語」

der Maschine デア・マシーネ adj. 装置の 「形容詞句」

wünschen mußte. ヲンシェン・ムステ 3 単過・必要(müssen+不定詞 wünschen)

v.t 願わなければならない 「動詞句」

Und ウント conj. そして

da ダー adv. そこに 「副詞」

eben エーベン adv. まさしく、まさに 「副詞」

liegt リークト 3 単現(liegen)v.i 〜がある 「動詞」

der Fehler. デア・フェーラー n.m 欠陥が 「主語」

ある意味で、それは正しい。しかし一方で、優れたシステムの秘密の全てがここにあると認めなければならなかった。

In einer Hinsicht ist das richtig. Andererseits aber mußte ich zugeben, daß hierin das ganze Geheimnis einer guten Organisation lag.

「副詞句」「動詞」「主語」「補語」 | 「副詞句」「動詞句」「主語」「動詞句」「目的語」

In einer Hinsicht イン・アイナー・ヒンジスト adv. ある意味では 「副詞句」

ist イスト 3 単現(sein)v.i 〜である 「動詞」

das ダス pron それは 「主語」

richtig. リヒチ adj. 正しい 「補語」

Andererseits aber アンテラーザイツ・アーバー adv. しかし一方では 「副詞句」

mußte ...zugeben, ムステ...ツァーゲーベン 1 単過・必要(müssen+不定詞 zugeben)

v.t 認めなければならなかった 「動詞句」

ich イヒ pron 僕は 「主語」

daß ダス conj. 〜ということ 「目的語」

hierin ヒーアリン adv. ここに 「副詞」

ZWEITER TEIL 第2部

das ganze Geheimnis ダス・ガントゥェ・ゲハイムニス n.n 秘密の全てが 「主語」
 einer guten Organisation アイナ・グーテン・オルガニザツィオン
 n.f.2 格 優れたシステムの 「形容詞句」
 lag ラーク 3 単過・時制の一致(liegen)v.i ある 「動詞」

基本的に、死刑囚は道徳的に協力しなければならない。全てが順調に進むことが、彼の利益になるのだ。

Im Grunde genommen mußte der Verurteilte moralisch mitarbeiten. In seinem Interesse lag es, daß alles reibungslos verlief.

「副詞句」「動詞句」「主語」「副詞」「動詞句」 | 「副詞句」「動詞」「主語」
 Im Grunde genommen イム・グルンデ・ゲノメン adv. 本質的に、基本的に 「副詞句」
 mußte ...mitarbeiten. ムステ...ミットアルバ イテン 3 単過・必要・時制の一致
 (müssen+不定詞 mit|arbeiten)v.i 協力しなければならない 「動詞句」
 der Verurteilte デア・フェアウアタイルテ n.m 死刑囚は 「主語」
 moralisch モーリッシュ adv. 道徳的に 「副詞」
 In seinem Interesse イン・ザ イネム・インテレスェ adv. 彼の利益のために 「副詞句」
 lag ラーク 3 単過・時制の一致(liegen)v.i ある 「動詞」
 es, エス pron 仮の主語 (真の主語は daß 以降)
 daß ダス conj. ～というこは 「主語」
 alles アレス pron 全てが 「主語」
 reibungslos ライブンク スロース adv. 円滑に 「副詞」
 verlief. フェアリーフ 3 単過・時制の一致(verlaufen)v.i 進む、経過する 「動詞」

僕は、これらの問題について間違ったイメージを持っていたことも認めなければならない。

Ich mußte auch feststellen, daß ich bisher über diese Fragen Vorstellungen gehabt hatte, die nicht richtig waren.

「主語」「動詞句」「副詞」「目的語」
 Ich イヒ pron 僕は 「主語」
 mußte ...feststellen, ムステ...フェストシュテルン 1 単過・必要(müssen+不定詞 feststellen)
 v.t 認めなければならない 「動詞句」
 auch アウフ adv. ～もまた 「副詞」
 daß ダス conj. ～ということ 「目的語」
 ich イヒ pron 僕は 「主語」
 bisher ビスヘア adv. これまで 「副詞」
 über diese Fragen ユーバー・デァー・ゼ・フラーゲン adv. これらの問題について 「副詞句」
 Vorstellungen フォアシュテルンゲン pl(Vorstellung).n.f.4 格 イメージを 「目的語」

ZWEITER TEIL 第2部

gehabt hatte, ゲハプト・ハッテ 1 単過・完了形(haben)v.t 持っていた 「動詞句」
 die デー pron.f.pl それは 「主語」
 nicht richtig ニヒト・リヒヒ adv. 正しくない 「補語」
 waren. ヲアルン 3 複過(sein)v.i ~ だった 「動詞」

僕は長い間、なぜか分からないが、死刑囚がギロチンに向かう時は、処刑台に続く階段を登らなければならない、と思っていた。

Ich hatte lange geglaubt - warum, das weiß ich nicht -, man müßte, wenn man zur Guillotine will, die Stufen zu einem Podest hochgehen.

「主語」「動詞句」「副詞」「動詞句」 - 「副詞節」 ;
 「主語」「動詞句」 - 「副詞節」 ; 「目的語」「動詞句」

Ich イヒ pron 僕は 「主語」
 hatte... geglaubt ハッテ...ゲグラウト 1 単過・完了形(glauben)v.t 考えていた 「動詞句」
 lange ランゲ adv. 長い間 「副詞」
 - warum, ヲアルム adv. なぜ、どうして 「副詞節」
 das ダス pron それを 「目的語」
 weiß ...nicht -, ヲアイス...ニヒト 1 単現・否定(wissen)v.t 分からない 「動詞句」
 ich イヒ pron 僕は 「主語」
 man マン pron 人は 「主語」
 müßte, ...hochgehen. ムステ...ホーヘーエン 3 単過・必要・時制の一致(müssen+不定詞 hochgehen)
 v.t 登らなければならない 「動詞句」
 wenn ウェン conj. ~する時は 「副詞節」
 man マン pron 人が 「主語」
 zur Guillotine ツーア・ギロチン adv. ギロチンへ 「間接目的語」
 will, ヲイル 3 単現[助] ~したい 「動詞」
 die Stufen zu einem Podest デー・シュトゥーフェン・ツァイネム^{ポデ}ステ
 pl(Stufe).n.f.4 格 処刑台に続く階段を 「目的語」

これは恐らく 1789 年の革命、つまり、これらの問題について僕が学んだり読んだりした全ての事と関係がある。

Das hing wohl mit der Revolution von 1789 zusammen, ich meine, mit allem, was ich über diese Fragen gelernt oder gelesen hatte.

「主語」「動詞句」「副詞」「間接目的語」, 「副詞句」, 「間接目的語」

Das ダス pron これは 「主語」
 hing ...zusammen, ヒンゲ...ツァメン 3 単過(zusammen | hangen)
 v.i(mit と) 関係があった 「動詞句」

ZWEITER TEIL 第2部

wohl ウォール adv. おそらく	「副詞」
mit der Revolution ミット・デア・レヴォルチオン adv. 革命と	「間接目的語」
von 1789 フォン・ジーフ ツェンフンダートノインウントアハツィヒ adv. (時点) 1789 年の	「副詞句」
ich meine, イヒ・マイネ adv. つまり	「副詞句」
ich meine 私は思う	
mit allem, ミット・アレム adv. 全ての事と	「間接目的語」
was ヴァス pron (目的語) ～する	「形容詞節」
ich イヒ pron 僕が	「主語」
über diese Fragen ユーバー・デー・ゼー・フラー・ゲン	
adv. これらの問題について	「副詞句」
gelernt oder gelesen hatte. ゲレント・オーダー・ゲレーゼン・ハッテ 1 単過・完了形	
(lernen oder lesen)v.t 学んだり読んだりした	「動詞句」

しかしある朝、世間で話題になった処刑の時に幾つかの新聞が公表した写真を思い出した。

Aber eines Morgens erinnerte ich mich einer Fotografie, welche die Zeitungen anlässlich einer aufsehenerregenden Hinrichtung veröffentlicht hatten.

Aber 「副詞句」「動詞句」「主語」「動詞句」「目的語」

Aber アーバー conj. しかし

eines Morgens アイネス・モア・ゲンス n.m.2 格 ある朝に 「副詞句」

erinnerte ...mich エアイネアテ...ミヒ 1 単過(sich-4 erinnern)v.pr(et-2 を) 思い出した 「動詞句」

ich イヒ pron 僕は 「主語」

einer Fotografie, アイナー・フォトグラフイー n.f.2 格 写真を 「目的語」

welche ヴェルヒ pron(目的語) ～する 「形容詞節」

die Zeitungen デー・イー・ツァイトゥン・ゲン pl(Zeitung).n.f 新聞が 「主語」

anlässlich アンレスリヒ prep (2 格と) ～に際して 「副詞句」

einer aufsehenerregenden Hinrichtung アイナー・アウフゼー・エンエアレー・ゲン・テン・ヒンリヒトウング

n.f.2 格 世間で話題になった処刑 「目的語」

veröffentlicht hatten. フェアオフェントリヒト・ハッテン 3 複過・完了形(veröffentlichenh)

v.t 公表した 「動詞句」

ドイツ語 名詞 2 格の用法

2 格の基本的な用法 名詞の修飾、所有、所属を表す (英語の's または of に相当)。

das Buch des Kindes その子供の本

die Farbe des Autos その車の色

特徴的な用法

前置詞の 2 格支配: wegen (～のゆえに)、trotz (～にもかかわらず)、während (～の間に)、statt/anstelle (～の代わりに) などの前置詞は、直後の名詞を 2 格にする。

ZWEITER TEIL 第2部

trotz des Regens 雨なのに

副詞的 2 格： 名詞単独で時間を表す場合などに使われる

eines Tages ある日

実際には、その装置は平らな地面の上に、じかに地べたに置かれていた。

In Wirklichkeit stand die Maschine auf ebener Erde, ganz einfach auf ebener Erde.

「副詞句」「動詞」「主語」「副詞句」

In Wirklichkeit イン・ウィルクリヒカイト adv. 実際には 「副詞句」

stand スタント 3 単過・存在(stehen)v.i (場所に) あった 「動詞」

die Maschine ディー・マシーネ n.f その装置は、機械は 「主語」

auf ebener Erde, アウフ・エベナー・エアデ adv. 平らな地面の上に 「副詞句」

ganz einfach auf ebener Erde. ガンツ・アインファッハ・アウフ・エベナー・エアデ

adv. 単純に地面に直に 「副詞句」

その装置は、僕が思っていたよりずっと幅が狭かった。もっと早くそれに気が付かなかったのは奇妙だ。

Sie war viel schmäler, als ich angenommen hatte. Komisch, daß ich nicht früher daran gedacht habe.

「主語」「動詞」「補語」 | 「補語」「主語」

Sie シー pron.f(Maschine の代用) その装置は 「主語」

war ヴァール 3 単過(sein)v.i ~ だった 「動詞」

viel schmäler, フィール・シュマラー adj(schmal).(比較級) ずっと幅が狭い 「補語」

als アルス conj. (比較) ~するよりも 「副詞節」

ich イヒ pron 僕が 「主語」

angenommen hatte. アン・ゲ・ノメン・ハッテ 1 単過・完了形(an | nehmen)

v.t 思っていた 「動詞句」

Komisch, コーミッシュ adj. 奇妙な 「補語」

daß ダス conj. ~というこは 「主語」

ich イヒ pron 僕が 「主語」

nicht ...gedacht habe. ニヒト...ゲダハト・ハーベ 1 単現・完了形・否定(denken)

v.i 思いつかなかった 「動詞句」

früher フリュアー adv. もっと早く 「副詞」

daran ダラン adv. それについて 「間接目的語」

ZWEITER TEIL 第2部

写真のその装置を見て、磨き上げられた精密さが印象に残った。

Die Maschine auf der Abbildung hatte mir mit ihrer blitzgescheiten Präzision imponiert.

「主語」「動詞句」「間接目的語」「副詞句」「動詞句」

Die Maschine デー・イー・マシーネ n.f その装置は

「主語」

auf der Abbildung アウフ・デア・アッビルトウング adv. 写真の

「副詞句」

hatte ...imponiert. ハッテ...インポニエルト 3 単過・完了形(imponieren)v.i 印象を与えた 「動詞句」

mir ミー pron.3 格 僕に

「間接目的語」

mit ミット prep (手段・方法) ~によって

「副詞句」

ihrer blitzgescheiten Präzision イーラー・フ・レツィジオン

n.f 磨き上げられた精密さ

「目的語」

人はいつでも、知らない事については、大袈裟に考えるものだ。

Man macht sich immer übertriebene Vorstellungen von dem, was man nicht kennt.

「主語」「動詞句」「副詞」「直接目的語」「間接目的語」

Man マン pron 人間は

「主語」

macht sich マハト・ズ・イヒ 3 単現(sich-4 machen)v.pr ~に向かう

「動詞句」

immer イマー adv. いつも

「副詞」

übertriebene Vorstellungen ユーバー・トリューベネ・フォーアシュテルンゲン

n.f.4 格 大げさな想像

「直接目的語」

von dem, フォン・デーム adv. (対象) ~について

「間接目的語」

was ヴァス pron(目的語) ~する

「形容詞節」

man マン pron 人が

「主語」

nicht kennt. ニヒト・ケント 3 単現・否定(kennen)v.t 知らない 「動詞句」

それどころか、僕はすべてが非常に単純だと気づかざるを得なかった：装置はそれに向かって近づいてゆくと同じ高さにあるのだ。

Ich mußte im Gegenteil feststellen, daß alles sehr einfach war: die Maschine steht auf gleicher Ebene wie der Mensch, der auf sie zugeht.

「主語」「動詞句」「副詞句」「目的語」：「主語」「動詞」「副詞句」

Ich イヒ pron 僕は

「主語」

mußte ...feststellen, ムステ...フェストシュテルン 1 単過・必然(müssen+不定詞 feststellen)

v.t 気付くしかなかった、気づかざるを得なかった

「動詞句」

im Gegenteil イム・ゲーゲンタイル adv. それどころか、逆に

「副詞句」

daß ダス conj. ~ということ

「目的語」

alles アレス pron すべてが

「主語」

sehr einfach ゼー・ア・インファッハ adj. 非常に単純な

「補語」

ZWEITER TEIL 第2部

war: ヲール 3 単過・時制の一致(sein)v.i ~である	「動詞」
die Maschine ディー・マシーネ n.f 装置は	「主語」
steht シュテート 3 単現(stehen)v.i ある	「動詞」
auf gleicher Ebene アウフ・グライ化ヤー・エーベネ adv. 同じ高さに	「副詞句」
wie der Mensch, ヲィー・デア・メンシュ conj. (比較) 人と	「副詞句」
der デア pron (主語) ~する	「形容詞節」
auf sie アウフ・ジー adv. 装置に	「間接目的語」
zugeht. ツー・ゲート 3 単現(zu gehen)v.i 近づいて行く	「動詞句」

彼は誰かに向かつて歩くように近づいて行った。それはもはや退屈だった。

Er erreicht sie, als ginge er jemandem entgegen. Das war nun wieder langweilig.

「主語」「動詞」「目的語」「副詞節」 | 「主語」「動詞」「補語」

Er エア pron 彼は	「主語」
erreicht エアライト 3 単現(erreichen)v.t(et-4 に) 近づいた	「動詞」
sie, ジー pron(Maschine の代用) それに	「目的語」
als アルス conj. ~のように	「副詞節」
ginge キング 接 II・3 単現(gtehen)v.i 歩いている	「動詞」
er エア pron 彼は	「主語」
jemandem entgegen. イェマンデー・ム・エントゲーゲン adv. 誰かに向かつて	「間接目的語」
Das ダス pron それは	「主語」
war ヲール 3 単過(sein)v.i ~ だった	「動詞」
nun wieder langweilig. ヌン・ウィーダー・ラングヴァイリヒ adj. もはや退屈な	「補語」

断頭台に登るとか、昇天するとかならば、そこから、何らかの想像力が働いただろう。

Das Besteigen des Schafotts, der Aufstieg in den Himmel - damit konnte die Phantasie etwas anfangen.

「副詞句」 — 「副詞」「動詞句」「主語」「動詞句」

Das Besteigen ダス・ベシュタイゲン n.n 登場	「副詞句」
des Schafotts, デス・シャフォット adj. 断頭台の 仮定の条件	「形容詞句」
der Aufstieg デア・アウフシュティーク n.m 上昇	「副詞句」
in den Himmel イン・デンヒメル adv. 天に	「副詞句」
- damit ダミット adv. それによって	「副詞」
konnte ...anfangen. コンテ...アンファンゲン 3 単過・可能・推量(können+不定詞 an fangen) v.i 働いただろう	「動詞句」
die Phantasie etwas ディー・ファンタジー・エトワース n.f 何かの想像力が	「主語」

ZWEITER TEIL 第2部

そしてギロチンは全てを破壊した：死刑囚は少しの恥辱と十分な精密さで、慎重にあの世へ送られた。

Und das Fallbeil machte alles zunichte: man wurde diskret mit ein wenig Schande und viel Präzision ins Jenseits befördert.

Und 「主語」「動詞」「目的語」「補語」：「主語」「動詞句」「副詞句」「間接目的語」

Und ウント conj. そして

das Fallbeil ダス・ファルバイル n.n ギロチンは 「主語」

machte マハテ 3 単過(machen)v.t 〜に変えた 「動詞」

alles アレス pron 全てを 「目的語」

zunichte ツニヒテ adv. 打ち砕かれている 「補語」

man マン pron 死刑囚は、人は 「主語」

wurde ...befördert. ウルテ ... ヘフォルダート 3 単過・受動(werden+過去分詞 beförder n)

v.t 送られた 「動詞句」

diskret ディスクレイト adv. 慎重に 「副詞」

mit ミット prep (3 格と)(付属・手段) 〜によって 「副詞句」

ein wenig Schande アイン・ウァーニヒ・シャンテ n.f.3 格 わずかな恥辱 「目的語」

und ウント conj. そして

viel Präzision フィール・プレジジオン n.f.3 格 沢山の精密さ 「目的語」

ins Jenseits インス・ジエンザイツ adv. あの世へ 「間接目的語」

そして、僕はまだ 2 つのことを考えていた：夜明けと上訴についてだ。

Und dann dachte ich noch an zweierlei: an das Morgenrot und an mein Gnadengesuch.

Und 「副詞」「動詞」「主語」「副詞」「間接目的語」：「間接目的語」

Und ウント conj. そして

dann ダン adv. それから 「副詞」

dachte ダハテ 1 単過(denken)v.i(an et-4 のことを) 考えた 「動詞」

ich イヒ pron 僕は 「主語」

noch ノッホ adv. まだ、さらに 「副詞」

an zweierlei アン・ツヴァイアイライ adv. 2 種類のことを 「間接目的語」

an das Morgenrot アン・ダス・モルゲンロート adv. 夜明けのことを 「間接目的語」

und ウント conj. そして

an mein Gnadengesuch アン・マイン・グナデンス・ゲスーフ adv. 上訴のこと 「間接目的語」

ZWEITER TEIL 第2部

しかし、その事で僕は自分を責めて、もうそれについて考えないように努めた。

Aber ich machte mir deswegen Vorhaltungen und versuchte, nicht mehr daran zu denken.

Aber 「主語」「動詞」「間接目的語」「副詞」「直接目的語」 und 「動詞」「目的語」

Aber アーバー conj. しかし

ich イッヒ pron 僕は 「主語」

machte マハテ 1 単過(machen)v.t 与えた 「動詞」

mir ミーア pron.3 格 自分に 「間接目的語」

deswegen デスワェーゲン adv. それで、その事で 「副詞」

Vorhaltungen フォーハルトウンゲン n.f.4 格 非難を 「直接目的語」

und ウント conj. そして

versuchte, フェアズフテ 1 単過・試行(versuchen)v.t 試みた、努力した 「動詞」

nicht mehr daran zu denken. ニヒト・ネアー・ダラン・ツァー・デッケン zu 不定句

n. もうそれについて考えない事を 「目的語」

僕は横になり、空を眺めて、空の事だけを考えるように努力した。

Ich streckte mich aus, betrachtete den Himmel und bemühte mich, nur an ihn zu denken.

「主語」「動詞句」, 「動詞」「目的語」 und 「動詞句」「目的語」

Ich イッヒ pron 僕は 「主語」

streckte mich aus, ストレクテ・ミッヒ・アウス 1 単過(sich-4 aus | strecken)

v.pr 横たわった 「動詞句」

betrachtete ベトラハテテ 1 単過(betrachten)v.t 眺めた 「動詞」

den Himmel デン・ヒメル n.m.4 格 空を 「目的語」

und ウント conj. そして

bemühte mich, ベミューテ・ミッヒ 1 単過(sich-4 bemühen)v.pr 努力した 「動詞句」

nur an ihn zu denken. ノーア・アン・イン・ツァー・デッケン zu 不定句

n. そのことだけを考える事 「目的語」

ihn は den Himmel の代用

ZWEITER TEIL 第2部

空が緑色に変わり、夕暮れになっていた。僕は自分の思考を別の方向へ向けようとした。

Er wurde grün, es war Abend. Ich machte noch eine Anstrengung, meinen Gedanken eine andere Richtung zu geben.

「主語」「動詞」「補語」, 「主語」「動詞」「補語」 | 「主語」「動詞」「目的語」

Er エア pron(Himmel の代用) 空は 「主語」
 wurde ウェルデ 3 単過・変化(werden)v.i ~ になった 「動詞」
 grün, グリュン adj. 緑色の 「補語」
 es エス pron 天候や時間など 「主語」
 war ウァール 3 単過(sein)v.i ~ だった 「動詞」
 Abend. アーベント n.m.1 格 夕方 「補語」
 Ich イット pron 僕は 「主語」
 machte マハテ 1 単過(machen)v.t (動作を) した 「動詞」
 noch eine Anstrengung, ノホ・アイネ・アンシュレングング n.f.4 格 さらに努力を 「目的語」
 meinen Gedanken eine andere Richtung zu geben.
 マイネ・ゲタンケン・アイネ・アンデレ・リヒトング・ツウ・ゲーヘン zu 不定句・同格
 adj. 自分の思考を別の方向へ向けるという 「形容詞句」

僕は心臓の鼓動に耳を澄ました。長い間、連れ添って来たこの音がいつか止まるかもしれないとは、全く想像できなかった。

Ich lauschte auf mein Herz. Ich konnte mir gar nicht vorstellen, daß dieses Geräusch, das mich schon so lange begleitete, jemals aufhören könnte.

「主語」「動詞」「間接目的語」

「主語」「動詞句」「間接目的語」「動詞句」「直接目的語」

Ich イット pron 僕は 「主語」
 lauschte ラウシュテ 1 単過(lauschen)v.i(et-3 に) 耳を傾けた 「動詞」
 auf mein Herz. アウフ・マイン・ハーツ adv. (体の一部に) 心臓に 「間接目的語」
 Ich イット pron 僕は 「主語」
 konnte ...gar nicht vorstellen, コンテ...ガール・ニヒト・フォアシュテレン 1 単過・可能・否定
 (können+不定詞 vorstellen)v.t まったく想像出来なかった 「動詞句」
 mir ミーア pron.3 格 自分にとって 「間接目的語」
 daß ダス conj. ~ということ を 「直接目的語」
 dieses Geräusch, ディーゼス・ゲロイシュ n.n この音が 「主語」
 das ダス pron(主語) ~する 「形容詞節」
 mich ミット pron.4 格 僕に 「間接目的語」
 schon so lange ショーン・ゾー・ランゲ adv. 長い間 「副詞句」
 begleitete, ベグライテテ 3 単過(begleiten)

ZWEITER TEIL 第2部

v.t 付き添って来た 「動詞」
 jemals イェーマルス adv. いつか 「副詞」
 aufhören könnte. アウフヘレン・ケンテ 接 II・3 単過・可能性(können+不定詞 aufhören)
 v.i 止まるかもしれない 「動詞句」

僕は本当にあまり想像力が無い。

Ich habe nie wirklich viel Phantasie gehabt.

「主語」「動詞句」「副詞」「目的語」「動詞句」
 Ich イッヒ pron 僕は 「主語」
 habe nie ...gehabt. ハーベ・ニエ...ゲハプト 1 単現・完了形・否定(haben)
 v.t 一度も持った事が無い 「動詞句」
 wirklich ヲィルクリヒ adv. 本当に 「副詞」
 viel Phantasie フィール・ファンタジー n.f(否定文で) あまり想像力を 「目的語」

それでも、僕は自分の頭の中で、この心臓の鼓動が止まるその瞬間を想像しようとした。

Trotzdem versuchte ich, mir eine bestimmte Sekunde vorzustellen, in der das Schlagen dieses Herzens in meinem Schädel nicht mehr weiterging.

「副詞」「動詞句」「主語」「動詞句」「目的語」「動詞句」, 「目的語」
 Trotzdem トロツツデーム adv. それにもかかわらず、それでも 「副詞」
 versuchte フェアスフテ 1 単過・試行(versuchen)v.t(+zu 不定詞) ~しようとした 「動詞句」
 ich, イッヒ pron 僕は 「主語」
 mir ...vorzustellen, ミーア...フォア・ツァー・シュテルン zu 不定詞(sich-3 vor | stellen +et-4)
 v.pr 想像する 「動詞句」
 eine bestimmte Sekunde アイネ・ベシュティムテ・セクンテ n.f.4 格 特定の瞬間を 「目的語」
 in der イン・デア adv. その時に~する 「副詞節」
 das Schlagen dieses Herzens ダス・シュラーゲン・デーイーゼス・ヘアツェンス
 n.n この心臓の鼓動が 「主語」
 in meinem Schädel イン・マイネム・シェーデル adv. 僕の頭の中で 「副詞句」
 nicht mehr weiterging. ニヒト・メア・ヴァイター・ギング 3 単過・否定・時制の一致(weiter | gehen)
 v.i もう先に進まない 「動詞句」

ZWEITER TEIL 第2部

無駄だった。夜明けも上訴もまだそこにあった。結局、最も合理的な事は自分に何も強制しないことだと、自分に言い聞かせた。

Umsonst. Das Morgenrot und mein Gnadengesuch waren noch da. Schließlich sagte ich mir, das Vernünftigste wäre, mich zu nichts zu zwingen.

「副詞」 | 「主語」「動詞」「副詞句」

「副詞」「動詞句」「主語」, 「主語」「動詞」「補語」

Umsonst. ウミゾンスト adv. 無駄に

「副詞」

Das Morgenrot ダス・モルゲンロート n.n 夜明けは

「主語」

und ウント conj. そして

mein Gnadengesuch マイン・ゲナーデングェスーフ n.n 上訴は

「主語」

waren ヴァレン 3 複過・存在(sein)v.i (存在) 〜があった

「動詞」

noch ノッホ adv. まだ

「副詞」

da. ダー adv. そこに

「副詞」

Schließlich シュリースリヒ adv. 結局

「副詞」

sagte ... mir, サークテ...ミア 3 単過(sich-3 et-4 sagen 何-4 を自分に)

v.pr 言って聞かせた

「動詞句」

ich イヒ pron 僕は

「主語」

das Vernünftigste ダス・フェアニユンフティヒステ n.n 最も合理的な事は

「主語」

wäre, ヴェーレ 接 II・3 単現・推量(sein)v.i 〜だろう

「動詞」

mich zu nichts zu zwingen. ミヒ・ツァー・ニヒト・ツァー・ツヴァングェン zu 不定句

n. 自分に何も強制しないこと

「補語」

僕は、彼らが夜明けと共にやって来ることを知っていた。結局、僕はその夜明けを待ちながら夜を過ごした。

Ich wußte, daß sie mit der Morgenröte kamen. Alles in allem habe ich meine Nächte mit dem Warten auf dieses Morgenrot zugebracht.

「主語」「動詞」「目的語」

「副詞句」「動詞句」「主語」「動詞句」「目的語」「副詞句」

Ich イヒ pron 僕は

「主語」

wußte, ヴステ 1 単過(wissen)v.t 知っていた

「動詞」

daß ダス conj. 〜ということ

「目的語」

sie ジー pron.pl 彼らは

「主語」

mit der Morgenröte ミット・デア・マアゲンロート

adv. (同時を示して) 夜明けとともに

「副詞句」

kamen. カメン 3 複過・時制の一致(kommen)v.i やって来る

「動詞」

Alles in allem アレス・イン・アルム adv. 結局

「副詞句」

ZWEITER TEIL 第2部

habe ...zugebracht. ハーベ ...ツゲブラハト 1 単現・完了形(zu | bringen)

v.t 時を過ごした 「動詞句」

ich イッヒ pron 僕は 「主語」

meine Nächte マイネ・ネヒテ pl(Nacht).n.f 夜を 「目的語」

mit ミット prep (3 格と) (手段) 〜によって 「副詞句」

dem Warten デーム・ヴァルテン n.n.3 格 待つこと 「目的語」

auf dieses Morgenrot アウフ・ディーセス・モアゲンロート adv. 夜明けを 「間接目的語」

僕は驚かされるのは嫌いだった。何かが起きる時には、よく準備しておきたい。

Ich habe mich nie gern überraschen lassen. Wenn etwas kommt, bin ich gern vorbereitet.

「主語」「動詞句」「副詞句」「動詞句」 | 「副詞節」, 「補語」「動詞」「主語」

Ich イッヒ pron 僕は 「主語」

habe mich ...überraschen lassen. ハーベ・ミッヒ...ユーバーラッセン・ラッセン 1 単現・完了形・使役

(lassen+不定詞 sich-4 überraschen)v.pr 驚かされる 「動詞句」

nie gern ニー・ゲアン adv. 一度も好きで〜ない 「副詞句」

Wenn ウェン conj. 〜する時 「副詞節」

etwas エトヴァス pron 何かが 「主語」

kommt, コムト 3 単現(kommen)v.i 起こる 「動詞」

bin ビン 1 単現・倒置・意思(sein)v.i 〜でありたい 「動詞」

ich イッヒ pron 僕は 「主語」

gern vorbereitet. ゲアン・フォーアベライテット adj. よく準備された 「補語」

そのため、僕は昼間はほとんど寝ないで、夜は天窗に光が差すまで辛抱強く待った。

Deshalb habe ich tagsüber nur noch wenig geschlafen und während meiner Nächte geduldig gewartet, bis sich das Licht am Himmelsfenster zeigte.

「副詞」「動詞句」「主語」「副詞句」「動詞句」 und 「副詞句」「動詞句」「副詞節」

Deshalb デスハルブ adv. そのため 「副詞」

habe ... geschlafen ハーベ ...ゲシュラーフェン 1 単現・完了形(schlafen)v.i 眠った 「動詞句」

ich イッヒ pron 僕は 「主語」

tagsüber タークスユーバー aadv. 昼の間中ずっと 「副詞」

nur noch wenig ヌーア・ノッホ・ヴェニツヒ adv. ほとんどわずかし〜ない 「副詞句」

und ウント conj. そして

während meiner Nächte ヲーレント・マイナー・ネヒテ adv. 夜の間中 「副詞句」

geduldig ゲトウルディヒ adv. 辛抱強く 「副詞」

gewartet, ゲヴァルテット 1 単現・完了形(warten)v.i 待った 「動詞句」

ZWEITER TEIL 第2部

bis ビス conj. (時間) ～するまで	「副詞節」
sich ...zeigte. スィット...ツァイクテ 3 単過・時制の一致(sich-4 zeigen)	
v.pr 姿を現す	「動詞句」
das Licht ダス・リヒト n.n 光が	「主語」
am Himmelsfenster アム・ヒメルスフェンスター adv. 天窓に	「副詞句」

最も厄介だったのは、彼らが大概その頃に仕事をするとな僕が知っていた夜明け頃だった。

Am schwierigsten war die Dämmerstunde, in der sie, wie ich wußte, meist ihre Arbeit verrichteten.

	「副詞句」「動詞」「補語」
Am schwierigsten アム・シュヴァーリヒステン adv.(最高級) 一番厄介なのは	「副詞句」
war ヲアル 3 単過(sein)v.i ～ だった	「動詞」
die Dämmerstunde, デーイー・ダマーシュトゥンデ n.f.1 格 夜明け頃	「補語」
in der イン・デア adv. その頃に	「副詞句」
sie, シー pron.pl 彼らは	「主語」
wie ヲイー conj. ～するように	「副詞節」
ich イット pron 僕は	「主語」
wußte, ヲステ 1 単過(wissen)v.t 知っていた	「動詞」
meist マイスト adv. たいてい	「副詞」
ihre Arbeit イレ・アルバイト n.f 仕事を	「目的語」
verrichteten. フェアリヒテテン 3 複過(verrichten)	
v.t(仕事を) 行なっていた	「動詞」

夜中の12時が過ぎると、僕は待ち、耳を澄ませた。僕の耳が、いままでにこれ程多くの音を聞き取ったことは無かったし、これほど繊細な音を聞き分けたことも無かった。

Wenn Mitternacht vorbei war, wartete und lauschte ich. Noch nie hatte mein Ohr so viele Geräusche vernommen, so zarte Laute unterschieden.

	「副詞節」, 「動詞」 und 「動詞」「主語」
	「副詞句」「動詞句」「主語」「動詞句」「目的語」, 「目的語」「動詞句」
Wenn ヲエン conj. ～する時	「副詞節」
Mitternacht ミッターナハト n.f 夜中の12時が	「主語」
vorbei フォアバイ adv. 過ぎ去って	「補語」
war, ヲアル 3 単過(sein)v.i ～ だった	「動詞」
wartete ヲアルテ 1 単過(warten)v.i 待った	「動詞」
und ウント conj. そして	
lauschte ラウシュテ 1 単過(lauschen)v.i 耳を澄ました	「動詞」

ZWEITER TEIL 第2部

ich. イヒ pron 僕は	「主語」
Noch nie ノホ・ニー adv. いまだに～ない	「副詞句」
hatte ...vernommen, ハッテ...フェアノメン 1 単過・完了形・否定文(vernehmen)	
v.t 聴き取ったことが無かった	「動詞句」
mein Ohr マイン・オー n.n 私の耳が	「主語」
so viele Geräusche ザー・フィーレ・ゲロイシェ pl(Geräusch).n.n これほど多くの音を	「目的語」
so zarte Laute ザー・ゾーツァーテ・ラウテ pl(Laut).n.m これ程繊細な音を	「目的語」
unterschieden. ウンターシーデシ 1 単過・完了形(unterscheiden)	
v.t 聞き分けたことが無かった	「動詞句」

ところで、僕はある意味ずっと幸運だったと言えるだろう。というのは、一度も足音を聞かなかったからだ。母さんはいつも言っていた、完全に不幸な人間なんて居ないと。

Ich kann übrigens sagen, daß ich in gewisser Hinsicht diese ganze Zeit über Glück hatte, denn ich hörte niemals Schritte. Mama sagte immer, man sei nie ganz unglücklich.

「主語」「動詞句」「副詞」「動詞句」, 「目的語」, 「副詞節」

「主語」「動詞」「副詞」, 「主語」「動詞」「補語」

Ich イヒ pron 僕は	「主語」
kann ...sagen, カン...ザーゲン 1 単現・可能(können+不定詞 sagen)v.t 言える	「動詞句」
übrigens ユーブリゲンス adv. とこで	「副詞」
daß ダス conj. ～ということを	「目的語」
ich イヒ pron 僕は	「主語」
in gewisser Hinsicht イン・ゲウイッシャー・ヒンズイヒト	
adv. ある点では、ある意味では	「副詞句」
diese ganze Zeit デーゼ・ガンツ・ツァイト adv. この間ずっと	「副詞句」
über Glück ユーバー・グリュック adv. (状態) 幸福な	「補語」
hatte, ハッテ 1 単過(haben)v.t (心身の状態) ～であった	「動詞」
denn デン conj. ～だから	「副詞節」
ich イヒ pron 僕は	「主語」
hörte niemals ホアテ・ニーマルス 1 単過・否定(hören)v.t 一度も聞かなかった	「動詞句」
Schritte. シュリッテ pl(Schritt).n.m 足音を	「目的語」
Mama ママ n.f 母さんは	「主語」
sagte サークテ 3 単過(sagen)v.t 言った	「動詞」
immer, イマー adv. いつも	「副詞」
man マン pron 人は	「主語」
sei サイ 接・3 単現(sein)v.i ～である	「動詞」
nie ganz unglücklich. ニー・ガンツ・ウンクリュックリヒ adj. 全く不幸ではない	「補語」

ZWEITER TEIL 第2部

漆黒の空が色付き独房に新しい日の光が差し込むと、僕は牢獄の中でその言葉に同意した。

Dem stimmte ich in meinem Gefängnis zu, wenn der Himmel sich färbte und ein neuer Tag in meine Zelle glitt.

「間接目的語」「動詞句」「主語」「副詞句」, 「副詞節」

Dem デーム pron.3 格 その言葉に 「間接目的語」
 stimmte ...zu, シュティムテ...ツー 1 単過(zu | stimmen)v.i(et-3 に) 同意した 「動詞句」
 ich イヒ pron 僕は 「主語」
 in meinem Gefängnis イン・マイネム・ゲ・フェンクニス adv. 牢獄の中で 「副詞句」
 wenn ウェン conj. ～する時に 「副詞節」
 der Himmel デア・ヒメル n.m 空が 「主語」
 sich färbte スィヒヒ・フェールプテ 3 単過・時制の一致(sich-4 färben)
 v.pr 色付く 「動詞句」
 und ウント conj. そして
 ein neuer Tag アイン・ノイアー・ターク n.m 新しい一日が 「主語」
 in meine Zelle イン・マイネ・ツェレ adv. 独房に 「副詞句」
 glitt. グリット 3 単過・時制の一致(gleiten)v.i 滑り込む 「動詞」

なぜなら足音を聞いていた可能性もあり、その時は、僕の心臓は破裂していただろう。

Denn ebensogut hätte ich Schritte hören, hätte das Herz mir brechen können.

「副詞節」, 「動詞句」「直接目的語」「間接目的語」「動詞句」

Denn デン conj. なぜならば 「副詞節」
 ebensogut エーベンゾーグーアト adv. 同様に 「副詞」
 hätte ...hören, ヘッテ...ヘーレン 接 II・1 単現・完了形・推量(hören)
 v.t 聞いていたかも知れない 「動詞句」
 ich イヒ pron 僕は 「主語」
 Schritte シュリッテ pl(Schritt).n.m 足音を 「目的語」
 hätte ... brechen können. ヘッテ...ブレイヒェン・ケネン 接 II・3 単現・完了形・可能性
 (können+不定詞 brechen)v.t 打ち砕く可能性があった 「動詞句」
 das Herz ダス・ヘアツ n.n4 格 心臓を 「直接目的語」
 mir ミーア pron3 格 僕の 「間接目的語」

ZWEITER TEIL 第2部

ほんのわずかな擦れ音を聞いてドアに向かったとしても、怯えながら、ドアの板に耳を押し付けて、自分自身の息の音がひどくざらついて聞こえ、犬の喘ぎ声に似ていると驚くまで待ったとしても、僕の心臓は張り裂けない。また 24 時間もうけたのだ。

Selbst wenn das geringste Gleitgeräusch mich an die Tür trieb, wenn ich, das Ohr gegen das Holz gepreßt, angespannt wartete, bis ich meinen eigenen Atem hörte, entsetzt darüber, daß er so rauh klang und dem Röcheln eines Hundes glich, zersprang mein Herz nicht, und wieder hatte ich vierundzwanzig Stunden gewonnen.

「副詞節」, 「副詞節」,

「動詞句」「主語」「動詞句」, und 「副詞」「動詞句」「主語」「目的語」「動詞句」

Selbst ゼル^プスト adv. ～さえ

「副詞」

wenn ウェ conj. ～する時

「副詞節」

das geringste Gleitgeräusch ダス・ゲリ^ング^ステ・グライ^トゲ^ロイ^シユ

n.n ほんのわずかな擦れ音が

「主語」

mich ミヒ pron.4 格 僕を

「目的語」

an die Tür アン・デー・イー・チュア adv. ドアに

「副詞句」

trieb, トリー^プ 3 単過(reiben)v.t 向かわせた

「動詞」

wenn ウェ conj. ～する時

「副詞節」

ich, イヒ pron 僕が

「主語」

das Ohr ダス・オー n.n.4 格(様態) 耳を

「副詞句」

gegen ゲー^ゲン prep (4 格と) (方向) ～の方へ

「副詞句」

das Holz ダス・ホルツ n.n.4 格 木、板

「目的語」

gepreßt, ゲ^プレ^スト 過去分詞・受動 adj. 押し付けられた

「形容詞」

angespannt アンゲ^シハ^ント adv. 緊張して

「副詞」

wartete, ウ^アル^テ 1 単過(warten)v.i 待った

「動詞」

bis ビス conj. ～するまで

「副詞節」

ich イヒ pron 僕が

「主語」

meinen eigenen Atem マイネン・アイゲ^ネン・アーテム

n.m.4 格 自分自身の呼吸音を

「目的語」

hörte, ヘア^テ 1 単過(hören)v.t 聞いた

「動詞」

entsetzt エントセ^ツト adj. 驚いた

「補語」

darüber, ダ^リュ^ーバー adv. (原因) そのために

「副詞」

daß ダス conj. ～ということ

「目的語」

er エア pron(Atem の代用) それが

「主語」

so rauh ソー・ラウ

adv.(rau) ひどくざらついて

「副詞句」

klang クラン^グ 3 単過(klingen)v.i 聞こえた

「動詞」

ZWEITER TEIL 第2部

und ウント conj. そして

dem Röcheln テーム・ロシェルン

n.n.3 格 喘ぎ声に 「間接目的語」

eines Hundes アイネス・フンデス

adj. 犬の 「形容詞句」

gleich, グリヒ 3 単過(gleichen)

v.i(et-3 に) よく似ていた 「動詞」

zersprang ...nicht, ツェアシュプ ランク ...ニヒト 3 単過・否定(zerspringen)

v.i 張り裂けない 「動詞句」

mein Herz マイン・ヘアツ n.n 僕の心臓は

「主語」

und ウント conj. そして

wieder ウィーダー adv. またもや

「副詞」

hatte ...gewonnen. ハッテ...ゲウォネン 1 単過・完了形(gewinnen)v.t もうけた

「動詞句」

ich イヒ pron 僕は

「主語」

Den ganzen Tag über dann das Gnadengesuch.

vierundzwanzig Stunden フィーアウントツヴァンツィヒ・シュトゥンデン pl(Stunde).n.f 24 時間 「目的語」

そして一日中、上訴。この考えは僕にとって特に慰めになったと思う。

Den ganzen Tag über dann das Gnadengesuch. Ich glaube, dieser Gedanke war mir besonders tröstlich.

「副詞句」「主語」 | 「主語」「動詞」, 「主語」「動詞」「間接目的語」「補語」

Den ganzen Tag über dann テン・ガンツェン・ターク・ユーバー・ダン adv. そして一日中 「副詞句」

das Gnadengesuch. ダス・グナーデングェスーフ n.n 上訴、恩赦

「主語」

Ich イヒ pron 僕は

「主語」

glaube, グラウベ 1 単現(glauben)v.t 思う

「動詞」

dieser Gedanke ディーザー・ゲダンク n.m この考えは

「主語」

war ヴァール 3 単過(sein)v.i ~ だった

「動詞」

mir ミア pron.3 格 僕にとって

「間接目的語」

besonders tröstlich. ベゾンターース・トレストリヒ adj. 特に慰めの

「補語」

僕は自分のチャンスを計算した。そして、熟考の末、考えうる最良の結論に至った。

Ich berechnete meine Aussichten, und ich kam mit meinen Überlegungen zu dem denkbar besten Ergebnis.

「主語」「動詞」「目的語」 und 「主語」「動詞」「副詞句」「間接目的語」

Ich イヒ pron 僕は

「主語」

berechnete ベレヒネ 1 単過(berechnen)v.t 計算した

「動詞」

ZWEITER TEIL 第2部

meine Aussichten, マイネ・アウスジヒテン pl(Aussicht).n.f チャンスを、見込みを 「目的語」
 und ウント conj. そして
 ich イヒ pron 僕は 「主語」
 kam カム 1 単過(kommen)v.i 〜に至った 「動詞」
 mit meinen Überlegungen ミット・メイネン・ユーバーレーゲンゲン adv. (手段) 熟慮して 「副詞句」
 zu dem denkbar besten Ergebnis. ツー・デー・ム・テンクハール・ベシュテン・エアゲービニス
 adv. 考えうる最良の結論に 「間接目的語」

僕はいつも最悪の仮定から考え始めた：つまり、僕の上訴は却下されるのだ。

Ich ging immer vom Schlimmsten aus: mein Gesuch wurde abgelehnt.

「主語」「動詞句」「副詞句」「動詞句」：「主語」「動詞句」

Ich イヒ pron 僕は 「主語」
 ging ...aus: キング ...アウス 1 単過(aus | gehen)v.i(von et-3 から) 出発した 「動詞句」
 immer vom Schlimmsten イマー・フォン・シュリムステン
 adj. (最高級) いつも最悪な場合から 「副詞句」
 mein Gesuch マイン・ゲスーフ n.n 僕の上訴は 「主語」
 wurde abgelehnt. ウルデ・アップ・ゲレント 3 単過・受動・時制の一致
 (werden+過去分詞 ab | lehnen)v.t 却下される 「動詞句」

「わかった、それじゃあ僕は死ぬことになるんだ」確かに、他人より早く。

«Gut, dann muß ich eben sterben.» Früher als andere, gewiß.

《「副詞句」「動詞句」「主語」「副詞」「動詞句」》, 「副詞句」

«Gut, グート adv. よし 「副詞」
 dann ダン adv. それなら 「副詞」
 muß ...sterben.» ムス...シュテアベン 1 単現・必要(müssen+不定詞 sterben)
 v.i 死ななければならない 「動詞句」
 ich イヒ pron 僕は 「主語」
 eben エベン adv. まさしく 「副詞」
 Früher フリュアー adv.(früh) (比較級) よりはやく 「副詞句」
 als アルス conj. (比較) 〜より 「副詞句」
 andere, アンデレ pron 他人 「目的語」
 gewiß. ゲウイス adv. きつと、確かに 「副詞」

ZWEITER TEIL 第2部

しかし、人生は生きる価値がないということは、誰でも知っている。

Aber jeder weiß, daß das Leben nicht lebenswert ist.

Aber 「主語」「動詞」「目的語」

Aber アーバー conj. しかし

jeder イェダー pron 誰でも、誰もが

「主語」

weiß, ヴァイス 3 単現(wissen)v.t 知っている

「動詞」

daß ダス conj. ～ということを

「目的語」

das Leben ダス・レーベン n.n 人生は

「主語」

nicht ...ist. ニヒト...イスト 3 単現・否定(sein)v.i ～でない

「動詞句」

lebenswert レーベンスヴェルト adj. 生きる価値のある

「補語」

実の所、人が 30 歳で死のうが 70 歳で死のうがどうしてもよいという事を、僕はよく分かっていた。どちらにしても他の男や女は生き続けるのだし、何千年もそうだったのだから。

Im Grunde wußte ich genau, daß es einerlei ist, ob man mit dreißig oder siebzig Jahren stirbt, denn in beiden Fällen werden andere Männer und andere Frauen leben, und zwar Tausende von Jahren hindurch.

「副詞句」「動詞」「主語」「副詞」「目的語」, 「副詞節」

Im Grunde 仏・グレンデ adv. 要するに、実のところ

「副詞句」

wußte ヴステ 1 単過(wissen)v.t 知っていた

「動詞」

ich イヒ pron 僕は

「主語」

genau, ゲナウ adv. 正確に、よく

「副詞」

daß ダス conj. ～ということを

「目的語」

es エス pron 仮の主語 (真の主語は ob 以降)

einerlei アイーライ adj. どうでもよい、同一の

「補語」

ist, イスト 3 単現(sein)v.i ～である

「動詞」

ob オッフ conj. ～かどうかということは

「主語」

man マン pron 人が

「主語」

mit ミット prep (条件) ～で

「副詞句」

dreißig oder siebzig Jahren ドライスイヒ・オーダー・ジープ ツヒ・ヤーレン

n. 30 歳または 70 歳

「目的語」

stirbt, シュティアフト 3 単現(sterben)v.i 死ぬ

「動詞」

denn デン conj. なぜならば

「副詞節」

in beiden Fällen イン・バイデン・ファレン adv. どちらの場合も

「副詞句」

werden ...leben, ヴェアデレン...レーベン 3 複未・推量(werden+不定詞 leben)

v.i 生きるだろう

「動詞句」

andere Männer und andere Frauen アンデレ・メー・ウント・アンデレ・フラウエン

ZWEITER TEIL 第2部

pl.n 他の男や女は 「主語」
 und ウント conj. そして
 zwar ツァー adv. 実際に、確かに 「副詞」
 Tausende von Jahren タウゼンデ・フォン・ジャレン adv. 数千年の間 「副詞句」
 hindurch. ヒントゥル adv. ずっと 「副詞」

基本的に、これ以上明白なことは何もなかった。今だろうと 20 年後だろうと、死ななければならぬのはいつでも僕だった。

Nichts war im Grunde klarer als das. Sterben mußte immer ich - jetzt oder in zwanzig Jahren.

「主語」「動詞」「補語」 | 「動詞句」「主語」 — 「副詞句」
 Nichts ニツ pron 何も～ない 「主語」
 war ヲール 3 単過・否定文(sein)v.i ～ でなかった 「動詞」
 im Grunde イム・グルンデ adv. 根本においては、基本的には 「副詞句」
 klarer als das. クラーレ・アルス・ダス adj. (比較級) それよりも明白な 「補語」
 Sterben mußte シュテアベン・ムステ 3 単過・必要(müssen+不定詞 sterben)
 v.i 死ななければならなかった 「動詞句」
 immer ich イマー・イツ pron いつも僕が 「主語」
 - jetzt イェツト adv. 今 「副詞」
 oder オダー conj. または
 in zwanzig Jahren. イン・ツヴァンツィヒ・ヤレン adv. 20 年後に 「副詞句」

僕はまだ 20 年生きられるかもしれないと考えた瞬間、自分の中に激しい抵抗が起こって僕は混乱した。

Etwas verwirrend war für mich in diesem Augenblick das fürchterliche Aufbäumen in mir, wenn ich daran dachte, daß ich noch zwanzig Jahre leben könnte.

「主語」「動詞」「補語」, 「副詞節」
 Etwas verwirrend エトワ・アス・フェアヴァイレント pron 少しの混乱は 「主語」
 war ヲール 3 単過(sein)v.i ～ だった 「動詞」
 für mich フューア・ミツ adv. 僕にとって 「副詞句」
 in diesem Augenblick イン・デ・イーゼム・アウゲンブリック adv. その瞬間 「副詞句」
 das fürchterliche Aufbäumen in mir, ダス・フルヒターリシェ・アウフホイメン・イン・ミーア
 n.n.1 格 自分の中にある恐ろしい抵抗 「補語」
 wenn ウェン conj. ～する時 「副詞節」
 ich イツ pron 僕が 「主語」
 daran ダラン adv. それについて 「間接目的語」

ZWEITER TEIL 第2部

dachte, ダハテ 1 単過(denken)v.t 考えた 「動詞」
 daß ダス conj. ～ということ 「直接目的語」
 ich イヒ pron 僕は 「主語」
 noch zwanzig Jahre ノホ・ツワ・アンツヒ・ヤーレ adv. まだ 20 年 「副詞句」
 leben könnte. レーベン・ケンテ 1 単過・推量(können+不定詞 leben)
 v.i 生きられるかもしれない 「動詞句」

しかし、20 年後にまたその時になったら僕は何を考えているのかを想像して、これらの考えを押し殺した。

Aber ich brauchte diesen Gedanken nur mit der Vorstellung zu ersticken, was ich in zwanzig Jahren denken würde, wenn es dann wieder so weit wäre.

Aber 「主語」「動詞」「目的語」「副詞句」

Aber アーバー conj. しかし
 ich イヒ pron 僕は 「主語」
 brauchte ブラウフテ 1 単過(brauchen)v.t 必要とした 「動詞」
 diesen Gedanken デーゼン・ゲダッケン pl(Gedanke).n.m これらの考えを 「目的語」
 nur mit der Vorstellung zu ersticken, ノー・ア・ミット・テン・フォーアシュテルンク・ツウ・エアシュティッケン
 adv. 押し殺すという想像だけで 「副詞句」
 was ヴァス pron 何を 「目的語」
 ich イヒ pron 僕は 「主語」
 in zwanzig Jahren イン・ツワ・アンツヒ・ヤーレン adv. 20 年後に 「副詞句」
 denken würde, デンケン・ウエルデ 接 II・1 単末(werden+不定詞 denken)
 v.t 考えているだろう 「動詞句」
 wenn ウェン conj. ～する時に 「副詞節」
 es エス pron それが 「主語」
 dann ダン adv. その時に 「副詞」
 wieder so weit ヴィーダー・ゾー・ヴァイト adv. また 「副詞句」
 wäre. ヴェーレ 接 II・3 単現・変化(sein)v.i ～になった 「動詞」

人は必ず死ぬのだから、何時とかどのようにという事は全く重要でない – それは明らかだ。

Da man sterben muß, ist es ganz unwesentlich, wann und wie - das ist klar.

「副詞節」, 「動詞」「補語」「主語」 - 「主語」「動詞」「補語」

Da ダー conj. ～だから 「副詞節」
 man マン pron 人は 「主語」
 sterben muß, シュテアベン・ムス 3 単現・必要・運命(müssen+不定詞 sterben)
 v.i 死ぬことになっている、必ず死ぬ 「動詞句」

ZWEITER TEIL 第2部

ist イスト 3 単現・強調(sein)v.i 〜である	「動詞」
es エス pron 仮の主語 (真の主語は wann 以降)	
ganz unwesentlich, ガンツ・ウンヴェゼントリヒ adj. 全く重要でない	「補語」
wann und wie ヲァン・ウント・ヴィー pron いつとかどのようにということは	「主語」
- das ダス pron それは	「主語」
ist イスト 3 単現(sein)v.i 〜である	「動詞」
klar. クラール adj. 明白な	「補語」

だから (そして、この「だから」が何を意味するかを見失わないことが難しかった)、だから、僕は上訴が却下されたことを受け入れざるを得なかった。

Also (und das Schwierige war, nicht aus dem Auge zu verlieren, was dieses «also» an Überlegungen darstellte), also mußte ich mich mit der Ablehnung meines Gesuchs abfinden.

「副詞」(und「主語」「動詞」「補語」),

「副詞」「動詞句」「主語」「動詞句」「間接目的語」「動詞句」

Also アルゾー adv. だから、従って 「副詞」

(und ウント conj. そして

das Schwierige ダス・シュヴィーイーリヒ n.n その困難は 「主語」

war, ヲァール 3 単過(sein)v.i 〜 だった 「動詞」

nicht ...zu verlieren, ニヒト...ツー・フェアリーレン zu 不定句 n. 失わない事 「補語」

aus dem Auge アウス・デーム・アウゲ adv. 視界の外へ 「副詞句」

was ヲァス pron 〜する物を 「目的語」

dieses «also» デイーゼス・アルゾー pron この「また」が 「主語」

an Überlegungen アン・ユーバーレーゲンゲン adv. 考察を 「間接目的語」

darstellte), ダール・シュテルテ 3 単過(dar|stellen)v.t 意味していた 「動詞句」

also アルゾー adv. だから 「副詞」

mußte ...mich ...abfinden. ムステ...ミッヒ...アップ フィンデン 1 単過・必要

(müssen+不定詞 sich-4 abfinden)v.pr(mit et-3 を) 受け入れざるを得なかった 「動詞句」

ich イヒ pron 僕は 「主語」

mit der Ablehnung meines Gesuchs ミット・デア・アプ レヌング・マイネス・ゲズーフス

adv. 僕の上訴の却下を 「間接目的語」

ZWEITER TEIL 第2部

その瞬間に、やっとその瞬間に、僕はいわば権利を手に入れる。僕は自分自身にいわば許可を与える。僕は赦免されたという第二の仮定に取り組むために。

In diesem Augenblick, erst in diesem Augenblick, hatte ich sozusagen das Recht, gab ich mir gleichsam die Erlaubnis, mich mit der zweiten Hypothese zu befassen: ich wäre begnadigt.

「副詞句」, 「副詞句」、「動詞」「主語」「目的語」,

「動詞」「主語」「間接目的語」「直接目的語」, 「副詞句」

In diesem Augenblick, イン・ディーゼム・アウゲンブリック adv. その瞬間に 「副詞句」

erst エーアスト adv. やっと 「副詞」

in diesem Augenblick, イン・ディーゼム・アウゲンブリック adv. その瞬間に 「副詞句」

hatte ハッテ 1 単過・時制の一致(haben)v.t 手に入れる 「動詞」

ich イヒ pron 僕は 「主語」

sozusagen das Recht, ソーツァーゲン・ダス・レヒト n.n.4 格 いわば権利を 「目的語」

gab ガーブ 1 単過・時制の一致(geben)v.t 与える 「動詞」

ich イヒ pron 僕は 「主語」

mir ミーア pron.3 格 自分に 「間接目的語」

gleichsam die Erlaubnis, グライヒザーム・ディー・エアラウニス n.f.4 格 いわば許可を 「直接目的語」

mich ...zu befassen: ミヒ...ツァー・ベ・ファッセン zu 不定句・目的(sich-4 mit et-3 befassen)

v.pr 取り組むために 「副詞句」

mit der zweiten Hypothese ミット・デア・ツヴァイトェン・ヒュポテーゼ

adv. 第二の仮定に 「間接目的語」

ich イヒ pron 僕は 「主語」

wäre ヴェーレ 接 II・1 単現(sein)v.i ~である 「動詞」

begnadigt. ベグナーディヒト adj. 恩赦を与えられた 「補語」

その時腹立たしい事は、僕の血が湧き上がり、僕の体が興奮して僕の目を無意味な喜びで満たすのを押さえなければならないことだ。

Das Ärgerliche dabei war, daß ich das Aufwallen meines Blutes und die Erregung meines Körpers, die mir die Augen mit unsinniger Freude füllten, zurückdrängen mußte.

「主語」「副詞」「動詞」「補語」

Das Ärgerliche ダス・エルガーリーヒエ n.n 腹立たしい事は 「主語」

「形容詞」の名詞化

dabei ダバイ adv. その時 「副詞」

war, ヴァール 3 単過(sein)v.i ~ だった 「動詞」

daß ダス conj. ~という事 「補語」

ich イヒ pron 僕は 「主語」

ZWEITER TEIL 第2部

das Aufwallen ダス・アウファレン n.n 沸騰を	「目的語」
「動詞」の名詞化	
meines Blutes マイネス・ブルーテス adj. 僕の血の	「形容詞句」
und ウント conj. そして	
die Erregung デーイー・エアレーグング n.f 興奮を	「目的語」
meines Körpers, マイネス・ケルパース adj. 僕の体の	「形容詞句」
die デーイー pron.f(Erregung の代用) それが	「主語」
mir ミーア pron.3 格 僕の	「間接目的語」
die Augen デーイー・アウゲン pl(Auge)n.n.4 格 僕の目を	「直接目的語」
mit unsinniger Freude ミット・ウンジニヒ・フロイデ	
adv.(手段) 無意味な喜びで	「副詞句」
füllten, フュルテン 3 複過(füllen)v.t 満たした	「動詞」
zurückdrängen mußte. ツリュック・ドランゲン・ムステ 1 単過・必要(müssen+不定詞 zurück drängen)	
v.t (感情を) 抑えなければならなかった	「動詞句」

僕はこの叫び声を押さえつけ、全てを厳密に考慮することに集中しなければならなかった。

Ich mußte mich befleißigen, diesen Aufschrei zu unterdrücken und alles genau zu überlegen.

	「主語」「動詞句」「目的語」 und 「目的語」
Ich イヒ pron 僕は	「主語」
mußte mich befleißigen, ムステ・ミヒ・ヘ・フライゲン 1 単過・必要	
(müssen+不定詞 sich-4 befleißigen)v.pr 集中しなければならなかった	「動詞句」
diesen Aufschrei デーイーゼン・アウフシュライ zu 不定句 n. この叫び声を～することに	「目的語」
zu unterdrücken ツー・ウンタードリュッケン zu 不定詞 v.t 押さえつける	「動詞句」
und ウント conj. そして	
alles アレス zu 不定句 n. 全てを～することに	「目的語」
genau ゲナウ adv. 厳密に	「副詞」
zu überlegen. ツー・ユーバーレーゲン zu 不定詞 v.t 考慮する	「動詞」

僕の興奮を最も納得できるものにするために、この仮説についても冷静でいなければならなかった。

Ich mußte auch bei dieser Hypothese gelassen bleiben, um meine Erregung in die erste plausibler zu machen.

	「主語」「動詞句」「補語」, 「副詞句」
Ich イヒ pron 僕は	「主語」
mußte ...bleiben, ムステ...ブライベン 1 単過・必要・状態(müssen+不定詞 bleiben)	

ZWEITER TEIL 第2部

v.i ~の状態でいなければならなかった	「動詞句」
gelassen ゲラッセン adj. 冷静な	「補語」
auch アウ adv. ~もまた	「副詞」
bei dieser Hypothese バイ・デァー・サァー・ヒュポテゼ adv. この仮説について	「間接目的語」
um ...zu machen. ウム...ツァー・マヘン um zu 不定句・目的 adv. ~するために	「副詞句」
meine Erregung マイネ・エアレグUNG n.f 僕の興奮を	「目的語」
in die erste plausibler イン・デァー・エASTE・プラウジバレ adj. 最も納得できる	「補語」

それがうまくいくと、僕は当然 1 時間の休息を手に入れた。しかし、これらすべては熟慮されなければならなかった。

Als mir das gelungen war, hatte ich eine Stunde Ruhe verdient. Aber das alles wollte genau überdacht sein. 「主語」「動詞句」

「副詞節」, 「動詞」「主語」「目的語」「副詞」 | Aber 「主語」「動詞句」

Als アルス conj. ~スタ時	「副詞節」
mir ミア pron.3 格 僕にとって	「間接目的語」
das ダス pron それが	「主語」
gelungen ゲルゲン adj. 上手くいった	「補語」
war, ヲアール 3 単半(sein)v.i ~ だった	「動詞」
hatte ハッテ 1 単過(haben)v.t ~があった	「動詞」
ich イヒ pron 僕は	「主語」
eine Stunde Ruhe アィネ・シュトゥンデ・ルー n.f 1 時間の休息	「目的語」
verdient. フェアデァント adv. 当然	「副詞」
Aber アーバー conj. しかし	
das alles ダス・アルス pron これら全ては	「主語」
wollte genau überdacht sein. ヲォルテ・ゲナウ・ユーバーダハト・ザイン 3 単過・必要・受動 (wollen+不定詞・受動 überdenken)v.t 熟慮されなければならなかった	「動詞句」

そんな時に、僕はまた司祭の面会を断った。

In einem solchen Augenblick lehnte ich es wieder einmal ab, den Geistlichen zu empfangen.

「副詞句」「動詞句」「主語」「副詞句」「動詞句」, 「目的語」

In einem solchen Augenblick イン・アイネム・ゾルヒェン・アウゲンブリック adv. そんな時に	「副詞句」
lehnte ...ab, レンテ...アッ 1 単過(ab lehnen)v.t 断った	「動詞句」
ich イヒ pron 僕は	「主語」

ZWEITER TEIL 第2部

es エス pron 仮の目的語（真の目的語は den Geistlichen 以降）

wieder einmal ウィーター・アインマル adv. もう一度、また 「副詞句」

den Geistlichen デン・ガイストリヒェン n.m.4 格（zu 不定句で）司祭を～することを 「目的語」

zu empfangen. ツー・エンフ・ファンゲン zu 不定詞 v.t 受け入れる、迎える 「動詞句」

僕は横になり、空の色の変化を見て、夏の夕暮れが近づいていることを感じた。

Ich hatte mich hingelegt und ahnte das Heraufkommen des Sommerabends an einer gewissen Verfärbung des Himmels.

「主語」「動詞句」 und 「動詞」「目的語」「副詞句」

Ich イッヒ pron 僕は 「主語」

hatte mich hingelegt ハッテ・ミッヒ・ヒン・ゲレクト 1 単過・完了形(sich-4 hin | legen)

v.pr 横になった 「動詞句」

und ウント conj. そして

ahnte アーンテ 1 単過(ahnen)v.t 感じた 「動詞」

das Heraufkommen ダス・ヘラウフコメン n.n.4 格 接近を 「目的語」

des Sommerabends デス・ゾマー・アーベント n.m.2 格 夏の夕暮れの 「形容詞句」

an アン prep(3 格と) (根拠) ～によって 「副詞句」

einer gewissen Verfärbung アイナー・ゲワッセン・フェアフェアブング

n.f.3 格 確かな変色 「目的語」

des Himmels. デス・ヒメルス n.m.2 格 空の 「形容詞句」

僕はたった今上訴を断った。そして僕の血の波が体内を規則的に流れているのを感じる。

Ich hatte mein Gnadengesuch gerade abgelehnt und fühlte, wie mich die Wellen meines Blutes regelmäßig durchfluteten.

「主語」「動詞句」「目的語」「動詞句」 und 「動詞」「目的語」

Ich イッヒ pron 僕は 「主語」

hatte... abgelehnt ハッテ...アッブ・ゲレント 1 単過・完了形(ab | lehnen)

v.t 断った 「動詞句」

mein Gnadengesuch マイン・グナーテンゲスーフ n.n.4 格 上訴を 「目的語」

gerade ゲラーテ adv. たった今 「副詞」

und ウント conj. そして

fühlte, フュールテ 1 単過(fühlen)v.t 感じた 「動詞」

wie ウィー conj. ～するように 「目的語」

mich ミッヒ pron 僕を 「目的語」

die Wellen デー・ヴェレン pl(Welle).n.f 波が 「主語」

meines Blutes メイネス・ブルーテス n.n.2 格 僕の血の 「形容詞句」

ZWEITER TEIL 第2部

regelmäßig レーゲルメーシヒ adv. 規則的に 「副詞」
 durchfluteten. ドゥルヒ・フルテテン 3 複過・時制の一致(durchfluten)v.i 流れる 「動詞」

司祭は必要なかった。久しぶりに、僕はマリーのことを考えた。

Ich brauchte den Geistlichen nicht. Zum erstenmal sei langer Zeit dachte ich an Maria.

「主語」「動詞句」「目的語」「動詞句」 | 「副詞句」「動詞」「主語」「間接目的語」

Ich イッヒ pron 僕は 「主語」
 brauchte ...nicht. ブラウテ...ニヒト 1 単過・否定(brauchen)v.t 必要なかった 「動詞句」
 den Geistlichen デン・カイトリヒェン n.m.4 格 司祭を 「目的語」
 Zum erstenmal sei langer Zeit ツーム・エアシュテンマル・ザイ・ランガー・ツァイト adv. 久しぶりに 「副詞句」
 dachte ダハテ 1 単過(denken)v.i(an j-4 人・4 のことを) 考えた 「動詞」
 ich イッヒ pron 僕は 「主語」
 an Maria. アン・マリア adv. マリーのことを 「間接目的語」

彼女は長い間もう僕に手紙をよこさない。その夕方、ぼくはよく考えて、もしかしたら彼女は死刑囚の愛人でいることに疲れたのではないかと想像した。

Sie schrieb mir schon lange nicht mehr. An diesem Abend dachte ich nach und sagte mir vielleicht sei sie es leid geworden, die Geliebte eines zum Tode Verurteilten zu sein.

「主語」「動詞句」「間接目的語」「副詞句」「動詞句」

「副詞句」「動詞句」「主語」「動詞句」 und 「動詞句」「副詞」「主語」「補語」「間接目的語」

Sie シー pron.f 彼女は 「主語」
 schrieb ...nicht mehr. シュリーブ° ...ニヒト・メア 3 単過・否定(schreiben)
 v.i(手紙を) もうよこさない 「動詞句」
 mir ミア pron.3 格 僕に 「間接目的語」
 schon lange ショーン・ランゲ° adv. 長い間 「副詞句」
 An diesem Abend アン・デー・エー・セム・アーベント adv. その夕方 「副詞句」
 dachte ...nach ダハテ...ナハ 1 単過(nach|denken)v.i じっくり考えた 「動詞句」
 ich イッヒ pron 僕は 「主語」
 und ウント conj. そして
 sagte mir サークテ・ミア 1 単過(sich・3 sagen)v.pr 心に思い描いた、想像した 「動詞句」
 vielleicht フライヒト adv. ひょっとすると 「副詞」
 sei ...geworden, サイ...ゲヴァオルデテン 接・3 単現・完了形・変化(werden)
 v.i ~になったのかもしれない 「動詞句」
 sie シー pron.f 彼女は 「主語」
 es エス pron 仮の目的語 (真の目的語は die Geliebte 以降)
 leid ライト adj. 飽きた、疲れた 「補語」

ZWEITER TEIL 第2部

die Geliebte デー・イー・ゲリープ・テ zu 不定句 n.f 愛人ということ 「間接目的語」

eines zum Tode Verurteilten アイネス・ツーム・トード・フェアウアタイレルテン

adj. 死刑囚の

「形容詞句」

zu sein. ツー・ザイン zn 不定詞 v.i 〜でいる

「動詞句」

それから、彼女はもしかすると病気なのか、まさか死んでしまったかもしれないという考えが僕の頭に浮かんた。それでも、これはあり得ない事ではなかった。

Mir kam dann auch der Gedanke, daß sie vielleicht krank oder gar tot sei. Das war doch nicht ausgeschlossen.

「間接目的語」「動詞」「副詞」「主語」 | 「主語」「動詞」「補語」

Mir ミア pron.3 格 僕に

「間接目的語」

kam カム 3 単過(kommen)v.i(考えが) 浮かんた

「動詞」

dann ダン adv. それから

「副詞」

auch der Gedanke, アウフ・デア・ゲダンク n.m 考えも

「主語」

daß ダス conj. (同格) 〜という

「形容詞節」

sie シー pron.f 彼女は

「主語」

vielleicht フライヒト adv. ひょっとして、もしかすると

「副詞」

krank クランク adj. 病気の

「補語」

oder オーダー conj. または

gar tot ガール・トット adj. まさか死んだ

「補語」

sei. サイ 接・3 単現・推量(sein)v.i 〜である

「動詞」

Das ダス pron これは

「主語」

war ヴァール 3 単過(sein)v.i 〜 だった

「動詞」

doch ドツッ adv. それでも

「副詞」

nicht ausgeschlossen. ニヒト・アウスゲシュロッセン adj. あり得ない事ではない

「補語」

どうやって僕がそれを知ることが出来ただろうか、別れ別れになった僕たちの体の他には、僕たちを結びつけるものは何もなかったし、互いを思い出させるものも無かったのだから。

Wie hätte ich das erfahren sollen, da außerhalb unserer getrennten Körper uns nichts miteinander verband und nichts den einen an den anderen erinnerte.

「副詞」「動詞句」「主語」「目的語」「動詞句」, 「副詞節」

Wie ヴァー adv. どのように、どうやって

「副詞」

hätte ...erfahren sollen, ハッテ...エアファーレン・ゾレン 接 II・1 単現・完了形(sollen+不定詞 erfahren)

v.t 知ることが出来た

「動詞句」

ich イヒ pron 僕は

「主語」

das ダス pron それを

「目的語」

ZWEITER TEIL 第2部

da ダー conj.(理由) ～だから	「副詞節」
außerhalb アウサーハルプ prep (2格と) ～の他は	「副詞句」
unserer getrennten Körper ウンゼラー・ゲトレンテン・ケルパー pl(Körper).n.m.2格 別々の僕たちの体	「目的語」
uns ウンス pron.4 僕たちを	「目的語」
nichts ニヒツ pron 何も	「主語」
miteinander ミットアインダー adv. 互いに	「副詞」
verband フェアバント 3 単過・否定文(verbinden)v.t 結びつけなかった	「動詞」
und ウント conj. そして	
nichts ニヒツ pron 何も	「主語」
den einen an den anderen デン・アイネン・アン・デン・アンデレン adv. お互いを	「目的語」
erinnerte. エイネアテ 3 単過・否定文(erinnern)v.t 思い出させなかった	「動詞」

いずれにしてもこの瞬間から、マリーの思い出は僕にはどうしても良かったのかもしれない。

Von diesem Augenblick an wäre mir übrigens die Erinnerung an Maria gleichgültig gewesen.

	「副詞句」「動詞句」「間接目的語」「副詞」「主語」「補語」
Von diesem Augenblick an フォン・デーゼム・アウゲンブリック・アン adv. この瞬間から	「副詞句」
wäre ...gewesen. ヲーレ...ゲウエゼン 接 II・3 単現・完了形・推量(sein)	
v.i ～ だったかもしれない	「動詞句」
mir ミーア pron.3 格 僕にとって	「間接目的語」
übrigens ユーブリゲンス adv. ところで、それはそうと	「副詞」
die Erinnerung デー・エイネルング n.f 思い出は	「主語」
an Maria アン・マリア adv. (対象) マリーの	「副詞句」
gleichgültig グライヒギュルティヒ adj. 無関心な、どうでも良い	「補語」

もし彼女が死んだのならば、もう興味を引かない。

Wenn sie tot war, interessierte sie mich nicht mehr.

	「副詞節」, 「動詞」「主語」「間接目的語」「副詞句」
Wenn ウェン conj. (仮定) もしも～ならば	「副詞節」
sie シー pron.f 彼女が	「主語」
tot トット adj. 死んだ	「補語」
war, ヲアル 3 単過(sein)v.i ～ だった	「動詞」
interessierte インテレスエルテ 3 単過・時制の一致(interessieren)v.t(j・4 人・4 の) 興味を引く	「動詞」
sie シー pron.f 彼女は	「主語」
mich ミヒ pron.4 格 僕の	「間接目的語」

ZWEITER TEIL 第2部

nicht mehr. ニヒト・メア adv. もう～ない

「副詞句」

僕が死んだ後に人々が僕のことを忘れるだろうと僕が理解しているのと同様に、それは全く普通のことだと思う。

Ich fand das ganz normal, wie ich es auch durchaus verstand, daß die Leute mich nach meinem Tod vergaßen.

「主語」「動詞」「目的語」「補語」

Ich イヒ pron 僕は

「主語」

fand ファント 1 単過(finden)v.t 思う

「動詞」

das ダス pron それは

「目的語」

ganz normal, ガンツ・ノルマル adj. 全く普通の

「補語」

wie ヴァー conj. (比較) ～のように

「副詞節」

ich イヒ pron 僕は

「主語」

es エス pron 仮の目的語 (真の目的語は daß 以降)

auch アウ adv. ～も

「副詞」

durchaus ドゥルシアウス adv. 十分に

「副詞」

verstand, フェアシュタント 1 単過(verstehen)v.t 理解していた

「動詞」

daß ダス conj. ～という事を

「目的語」

die Leute ディーロイテ pl.n 人々は

「主語」

mich ミヒ pron.4 格 僕を

「目的語」

nach meinem Tod ナハ・マイネム・トート adv. 僕の死後

「副詞句」

vergaßen. フェアガ・ゼン 3 複過・時制の一致(vergessen)

v.t 忘れる

「動詞」

彼らが僕と一緒にすることはもう何もない。それは辛い考えだと言う事さえ出来なかった。

Sie hatten nichts mehr mit mir zu tun. Ich konnte nicht einmal sagen, daß das ein bitterer Gedanke war.

「主語」「動詞」「目的語」「副詞句」「目的語」 | 「主語」「動詞句」「目的語」

Sie ジー pron.pl 彼らは

「主語」

hatten ハッテン 3 複過(haben)v.t ～があった

「動詞」

nichts ...zu tun. ニヒツ...ツァー・トゥン pron すべきことが何も～ない

「目的語」

mehr メア adv. もはや～ない

「副詞」

mit mir ミット・ミーア adv. 僕と

「副詞句」

Ich イヒ pron 僕は

「主語」

konnte nicht einmal sagen, コンテ。ニヒト・アインマル・サーゲン 1 単過・可能・否定

(können+不定詞 sagen)v.t 言う事さえできなかった

「動詞句」

ZWEITER TEIL 第2部

nicht einmal ～ですら～ない	
daß ^{ダス} conj. ～ということを	「目的語」
das ^{ダス} pron それは	「主語」
ein bitterer Gedanke ^{アイン・ビテラー・ゲダンク} n.m.1 格 辛い考え	「補語」
war. ^{ヴァール} 3 単過・時制の一致(sein)v.i ～である	「動詞」

まさにその時、司祭が僕の独房に入って来た。

Genau in diesem Augenblick betrat der Geistliche meine Zelle.

「副詞句」「動詞」「主語」「目的語」

Genau in diesem Augenblick ^{ゲナウ・イン・デューゼム・アウゲンブリック} adv. まさにその時	「副詞句」
betrat ^{ベトラート} 3 単過(betreten)v.t 入って来た	「動詞」
der Geistliche ^{デア・ガイストリヒェ} n.m 司祭が	「主語」
meine Zelle. ^{マイネ・ツェレ} n.f 僕の独房に	「目的語」

彼を見た時、僕はわずかな震えに襲われた。彼はそれに気づき、何も恐れる必要はありませんと言った。

Als ich ihn sah, befiel mich ein leichtes Zittern. Er bemerkte es und sagte, ich brauchte keine Angst zu haben.

「副詞節」, 「動詞」「目的語」「主語」

「主語」「動詞」「目的語」 und 「動詞」, 「主語」「動詞」「目的語」

Als ^{アルス} conj. ～した時	「副詞節」
ich ^{イヒ} pron 僕が	「主語」
ihn ^{イン} pron.4 格 彼を	「目的語」
sah, ^{サー} 1 単過(sehen)v.t 見た	「動詞」
befiel ^{ベフィール} 1 単過 (befallen)v.pr 襲った	「動詞」
mich ^{ミヒ} pron.4 格 僕を	「目的語」
ein leichtes Zittern. ^{アイン・ライヒテス・ツィターン} n.n わずかな震えが	「主語」
Er ^{エア} pron 彼は	「主語」
bemerkte ^{ベマクテ} 3 単過(bemerken)v.t 気付いた	「動詞」
es ^{エス} pron それを	「目的語」
und ^{ウント} conj. そして	
sagte, ^{サークテ} 3 単過(sagen)v.t 言った	「動詞」
ich ^{イヒ} pron 僕は	「主語」
brauchte ^{ブラウフテ} 1 単過・時制の一致(brauchen)v.t 必要とする	「動詞」
keine Angst ^{カイン・アングスト} n.f どんな恐れも～ない	「目的語」
zu haben. ^{ツァー・ハーベン} 不定詞・目的 adj. 持つべき	「形容詞句」

ZWEITER TEIL 第2部

僕は、いつもは別の時間に来るのに、と彼に言った。

Ich sagte, er komme doch üblicherweise zu einer anderen Zeit.

「主語」「動詞」, 「主語」「動詞」「副詞句」

Ich イッ pron 僕は

「主語」

sagte, サークテ 3 単過(sagen)v.t 言った

「動詞」

er エア pron 彼は

「主語」

komme コメ 接・3 単現(kommen)v.i 来る

「動詞」

doch üblicherweise トッホ・ユーフ リヒャーグァーゼ adv. いつもは

「副詞句」

zu einer anderen Zeit. スアイナー・アンデレン・ツォイト adv.(時間) 別の時間に

「副詞句」

彼は、それは全く友好的な訪問で、僕の上訴とは関係が無い、それについては何も知らない
と答えた。

Er antwortete, es handle sich um einen ganz freundschaftlichen Besuch, der nichts
mit meinem Gesuch, über das er nichts wisse, zu tun habe.

「主語」「動詞」, 「動詞句」「間接目的語」, 「主語」「補語」,

「間接目的語」「主語」「直接目的語」「動詞」「副詞句」

Er エア pron 彼は

「主語」

antwortete, アントウゲォアテテ 3 単過(antworten)v.i 答えた

「動詞」

es handle sich エス・ハンデレ・ズィツ 3 単現(es handeln sich um et-4)

v.pr それは何-4 のことである

「動詞句」

um einen ganz freundschaftlichen Besuch, ウム・アイネン・ガーンツフロイントシャフトリッヒェン・ベズーフ

adv. 全く友好的な訪問

「間接目的語」

der デア pron それは

「主語」

nichts ニッツ pron もの〜ない

「補語」

mit meinem Gesuch, ミット・マイネム・ゲズーフ adv. 僕の上訴と関係のある

「副詞句」

über das ユーバー・ダス adv. それについて

「間接目的語」

er エア pron 彼は

「主語」

nichts ニッツ pron 何も〜ない

「直接目的語」

weise, ヴァイツェ 接・3 単現・否定文(wissen)v.t 知らない

「動詞」

zu tun habe. ツー・トゥン・ハーベ zu 不定詞・目的 adv. やるべき

「副詞句」

ZWEITER TEIL 第2部

彼は僕のベッドに座り、僕に、彼の隣に座るように言った。僕は断った。それでも、彼がとても優しいと思った。

Er setzte sich auf meine Pritsche und forderte mich auf, neben ihm Platz zu nehmen. Ich lehnte ab. Dabei fand ich ihn ganz nett.

「主語」「動詞句」「副詞句」 und 「動詞句」「間接目的語」「動詞句」「直接目的語」

「主語」「動詞句」 | 「副詞」「動詞」「主語」「目的語」「補語」

Er	エア	pron	彼は	「主語」
setzte sich	ゼッツテ・スィヒ	3 単過(sich-4 setzen)	v.pr 座った、腰を下ろした	「動詞句」
auf meine Pritsche	アウフ・マイネ・プリツェ	adv.	僕のベッドに	「副詞句」
und	ウント	conj.	そして	
forderte ...auf,	フォアデアテ...アウフ	3 単過(auf fordern)	v.t 要請した	「動詞句」
mich	ミヒ	pron.4 格	僕に	「間接目的語」
neben ihm	ネーベン・イム	zu 不定句 n.	彼の隣に～することを	「直接目的語」
Platz	プラッツ	n.m.4 格	席を	「目的語」
zu nehmen.	ツー・ネーメン	zu 不定詞 v.t	取る	「動詞句」
Ich	イヒ	pron	僕は	「主語」
lehnte ab.	レーンテ・アッ	1 単過(ab lehnen)	v.t 断った	「動詞句」
Dabei	ダバイ	adv.	それでも、それなのに	「副詞」
fand	ファント	1 単過(finden)	v.t 思った	「動詞」
ich	イヒ	pron	僕は	「主語」
ihn	イン	pron.4 格	彼を	「目的語」
ganz nett.	ガンツ・ネット	adj.	とてもいい、優しい	「補語」

彼は腕を膝の上に置き、頭を垂れて、しばらくの間座っていた。それから、自分の手を見つめた。

Er blieb eine Weile sitzen, die Unterarme auf den Knien, den Kopf gesenkt, und betrachtete seine Hände.

「主語」「動詞句」「副詞句」,und 「動詞」「目的語」

Er	エア	pron	彼は	「主語」
blieb ...sitzen,	ブリープ ...ジッツェン	3 単過・継続(bleiben+不定詞 sitzen)		
	v.i		座り続けていた	「動詞句」
eine Weile	アイネ・ヴァイレ	adv.	しばらくの間	「副詞句」
die Unterarme	デー・ウンターアルメ			
	pl(Unterarm).	n.m	(様態) 前腕を～して	「副詞句」
auf den Knien,	アウフ・デーン・クニー	adv.	膝の上に	「副詞句」
den Kopf	デーン・コフ	n.m.4 格	(様態) 頭を～して	「副詞句」

ZWEITER TEIL 第2部

gesenkt, ゲゼンクト 過去分詞・受動 adj. 下げられた 「形容詞」
 und ウント conj. そして
 betrachtete ベトラハテ 3 単過(betrachten)v.t 見つめていた 「動詞」
 seine Hände. サ イネ・ヘンデ pl(Hand).n.f 自分の手を 「目的語」

それらは繊細で筋肉質で、二匹の敏捷な動物を思わせた。

Sie waren zart und muskulös und erinnerten mich an zwei flinke Tiere.

「主語」「動詞」「補語」 und 「動詞」「直接目的語」「間接目的語」

Sie ジー pron.pl(Hände の代用) それらは 「主語」
 waren ヴァーレン 3 複過(sein)v.i ~ だった 「動詞」
 zart ツァート adj. 繊細な 「補語」
 und ウント conj. そして
 muskulös ムスクロース adj. 筋肉質の 「補語」
 und ウント conj. そして
 erinnerten エイネアテン 3 複過(erinnern)v.t(j-4 an et-4 人-4 に何-4 を) 思わせた 「動詞」
 mich ミヒ pron.4 格 僕に 「直接目的語」
 an zwei flinke Tiere. アンツヴァイ・フリンケ・チェル adv. 二匹の敏捷な動物を 「間接目的語」

彼はゆっくり両手をこすり合わせた。それから、頭を下げたままだった。あまり長かった
 ので、一瞬、彼が僕の事を忘れてしまったのではないかと思った。

Er rieb sie langsam gegeneinander. Dann blieb er, den Kopf immer noch gesenkt, so lange sitzen, daß ich vorübergehend den Eindruck hatte, er hätte mich vergessen.

「主語」「動詞」「目的語」「副詞句」 | 「副詞」「動詞」「主語」, 「副詞句」

daß 「主語」「副詞」「動詞」「目的語」, 「主語」「動詞句」「目的語」

Er エア pron 彼は 「主語」
 rieb リーフ 3 単過(reiben)v.t こすった 「動詞」
 sie ジー pron.pl(Hände の代用) それらを 「目的語」
 langsam ランゲザーム adv. ゆっくりと 「副詞」
 gegeneinander. ゲーゲーニアントー adv. お互いに 「副詞」
 Dann ダン adv. それから 「副詞」
 blieb ブリーフ 3 単過(bleiben)v.i そのままだった 「動詞」
 er, エア pron 彼は 「主語」
 den Kopf テン・コフ n.m (様態) 頭を 「副詞句」
 immer noch gesenkt, イマー・ノッホ・ゲゼンクト 過去分詞・受動(senken)
 adj. 下げたままの 「形容詞句」
 so lange sitzen, ソー・ランゲ・ジッツェン adv. (理由) 余りに長く座っていたので 「副詞句」

ZWEITER TEIL 第2部

daß ^{ダス} conj.(so...daß) それで～する	
ich ^{イチ} pron 僕は	「主語」
vorübergehend ^{フォリュバーゲーエント} adv. 一時的に	「副詞」
den Eindruck ^{デン・アインツルック} n.m 印象を	「目的語」
hatte, ^{ハッテ} 1 単過(haben)v.t 持った	「動詞」
er ^{エア} pron 彼は	「主語」
hätte ...vergessen. ^{ヘッテ...フェアゲッセン} 接 II・3 単現・完了形(vergessen)	
v.t 忘れてしまった	「動詞句」
mich ^{ミッヒ} pron.4 格 僕を	「目的語」

しかし突然彼は頭を上げて、僕を見つめた。「どうして」と、彼は言った。「あなたは私の訪問を望まないのですか？」

Aber plötzlich hob er den Kopf und sah mich an. «Warum», sagte er, «wollen Sie meine Besuche nicht?»

Aber

Aber ^{アーバー} conj. しかし	
plötzlich ^{プ レツリヒ} adv. 突然、急に	「副詞」
hob ^{ホフ} 3 単過(heben)v.t 上げた	「動詞」
er ^{エア} pron 彼は	「主語」
den Kopf ^{デン・コフ} n.m.4 格 頭を	「目的語」
und ^{ウント} conj. そして	
sah ...an. ^{サー...アン} 3 単過(an sehen)v.t 見つめた	「動詞句」
mich ^{ミッヒ} pron.4 格 僕を「目的語」	
«Warum», ^{ヴァールム} adv. どうして、なぜ	「副詞」
sagte ^{サーケ} 3 単過(sagen)v.t 言った	「動詞」
er, ^{エア} pron 彼は	「主語」
«wollen ...nicht?» ^{ヴォレン...ニヒト} 3 単現・疑問文(wollen)v.t 望まないのですか?	「動詞句」
Sie ^{ジー} pron あなたは	「主語」
meine Besuche ^{マイネ・ベズーヘ} pl(Besuch).n.m 私の訪問を	「目的語」

僕は神を信じていないと答えた。

Ich antwortete, ich glaubte nicht an Gott.

「主語」「動詞」, 「主語」「動詞句」「間接目的語」

Ich ^{イチ} pron 僕は	「主語」
antwortete, ^{アントウグォアテ} 1 単過(antworten)v.t 答えた	「動詞」
ich ^{イチ} pron 僕は	「主語」

ZWEITER TEIL 第2部

glaubte nicht グラウプテ・ニヒト 1 単過・否定・時制の一致(glauben)v.i(an j-4 人-4 の存在を) 信じていない 「動詞句」

an Gott. アン・ゴット adv. 神を 「間接目的語」

彼は僕がそれについて確信しているのかを知りたがったので、答えた。そんなことを自問する必要はない。それは全く重要ではないと思う。

Er wollte wissen, ob ich dessen ganz sicher sei, und ich antwortete, ich brauchte mich das nicht zu fragen: ich fände das ganz unwichtig.

「主語」「動詞句」「目的語」,und「主語」「動詞」,

「主語」「動詞句」「目的語」「動詞句」:「主語」「動詞」「目的語」「補語」

Er エア pron 彼は 「主語」

wollte wissen, ヲォルテ・ヴァッセン 3 単過・願望(wollen+不定詞 wissen)v.t 知りたがった 「動詞句」

ob オップ conj. へかどうかを 「目的語」

ich イヒ pron 僕は 「主語」

dessen デッセン pron.2 格 それについて 「副詞」

ganz sicher ガンツ・ズィシャー adj. 確信した 「補語」

et-2 sicher sein 何-2 について確信している

sei, ザイ 接・1 単現(sein)v.i へである 「動詞」

und ウント conj. そして

ich イヒ pron 僕は 「主語」

antwortete, アントヴェアテ 1 単過(antworten)v.t 答えた 「動詞」

ich イヒ pron 僕は 「主語」

brauchte mich...nicht zu fragen: ブラウフテ...ニヒト・ツァー・フラーゲン 1 単過・否定・必要

(brauchen...zu 不定詞 sich-4 fragen)v.t 自問する必要はない 「動詞句」

das ダス pron そんなことを 「目的語」

ich イヒ pron 僕は 「主語」

fände フェンデ 接 II・1 単現(finden)v.t 思う 「動詞」

das ダス pron それを 「目的語」

ganz unwichtig. ガンツ・ウンヴィヒチ adj. 全く重要でない 「補語」

すると彼は壁にもたれかかり、両手を太腿の上に広げて置いた。

Da lehnte er sich gegen die Wand, die Hände flach auf die Schenkel gelegt.

「副詞」「動詞句」「主語」「動詞句」「副詞句」,「副詞句」

Da ダー adv. そこで、すると 「副詞」

lehnte ...sich レンテ...ズィヒ 3 単過(sich-4 lehnen)v.pr もたれかかった 「動詞句」

er エア pron 彼は 「主語」

ZWEITER TEIL 第2部

gegen die Wand, ゲーゲン・デー・ヴァント adv. (方向) 壁の方へ 「副詞句」
 die Hände テー・ヘンデ pl(Hand).n.f.4 格 (様態) 両手を～して 「副詞句」
 flach フラハ adv. 平らに 「副詞」
 auf die Schenkel アウフ・デー・シェンケル adv. 太腿の上に 「副詞句」
 gelegt. ゲレークト 過去分詞(legen)・受動 adv. 置かれた 「副詞」

彼は、彼の言葉がまるで僕に対してではないように、話し始めた。彼は気付いた。人は時には自分が確信していると思うが、しかし実際にはそうではないと気付いた。

Er begann zu sprechen, als gälten seine Worte gar nicht mir, und bemerkte, er habe die Beobachtung gemacht, daß man manchmal sicher zu sein glaube, es aber in Wirklichkeit nicht sei.

「主語」「動詞句」「副詞節」, und 「動詞」,

「主語」「動詞」「目的語」, 「主語」 aber 「副詞句」「動詞句」

Er エア pron 彼は 「主語」
 begann zu sprechen, ベカント・ツー・シュプレヒェン 3 単過・開始(beginnen+zu 不定詞 sprechen)
 v.i 話し始めた 「動詞句」
 als アルス conj. まるで～のように 「副詞節」
 gälten ゲルテン 接 II・3 複現(gelten)v.i(j・3 に) 向けられている 「動詞」
 seine Worte サイネ・ヴァォアテ pl(Wort).n.n 彼の言葉が 「主語」
 gar nicht mir, ガール・ニヒト・ミーア adv. 私に～ない 「副詞句」
 und ウント conj. そして
 bemerkte, ベマクテ 3 単過(bemerken)v.t 気付いた 「動詞」
 er エア pron 彼は 「主語」
 habe ... gemacht, ハーベ...ゲマハト 3 単現・完了形(machen)v.t (行為を) 行った 「動詞句」
 die Beobachtung テー・ベオバハトウング n.f.4 格 気付いたこと 「目的語」
 daß ダス pron(同格) ～という 「形容詞節」
 man マン pron 人は 「主語」
 manchmal マンヒマル adv. 時には 「副詞」
 sicher zu sein スィッヒヤー・ツー・ザイン zu 不定句
 n. 確信していると 「目的語」
 glaube, グラウヘ 3 単現(glauben)v.t 思う 「動詞」
 es エス pron それは 「主語」
 aber アーバー conj. しかし
 in Wirklichkeit イン・ヴァイルクリヒカイト adv. 実際には 「副詞句」
 nicht sei. ニヒト・ザイ 接・3 単現・否定(sein)v.i ～でない 「動詞句」

ZWEITER TEIL 第2部

僕は何も言わなかった。彼は僕を見つめて、僕に言った：「それについてあなたは どう 思いますか？」

Ich sagte nichts. Er sah mich an und fragte mich: «Was halten Sie davon?»

「主語」「動詞」「目的語」 | 「主語」「動詞句」「目的語」 und

「動詞」「間接目的語」：《「直接目的語」「動詞」「主語」「間接目的語」》

Ich イッ pron 僕は 「主語」
 sagte サーケ 3 単過(sagen)v.t 言った 「動詞」
 nichts. ニヒツ pron 何も～ない 「目的語」
 Er エア pron 彼は 「主語」
 sah ...an サー...アン 3 単過(an|sehen)v.t 見つめた 「動詞句」
 mich ミッ pron.4 格 僕を 「目的語」
 und ウント conj. そして
 fragte フラケ 3 単過(fragen)v.t(j-4 人-4 に) 尋ねた 「動詞」
 mich: ミッ pron.4 格 僕に 「間接目的語」
 «Was ウァス pron 何を 「直接目的語」
 halten ハルテン 3 複現・疑問文 v.t 思いますか 「動詞」
 Sie ジー pron あなたは 「主語」
 davon? ダフォン adv. それについて 「間接目的語」

僕は答えた：それは有りうるだろう。いずれにしても、僕が本当に何に興味があるのかはひょっとしたら分からないかも知れないが、何に興味が無いかははっきり分かる。

Ich antwortete: das sei schon möglich. Jedenfalls wisse ich vielleicht nicht, was mich wirklich interessiere, ich wisse aber ganz genau, was mich nicht interessiere.

「主語」「動詞」：「主語」「動詞」「補語」

「副詞」「動詞句」「主語」「副詞」「動詞句」「目的語」,

「主語」「動詞」 aber 「副詞句」「目的語」

Ich イッ pron 僕は 「主語」
 antwortete: アントウゝアテテ 1 単過(antworten)v.i 答えた 「動詞」
 das ダス pron それは 「主語」
 sei サイ 接・3 単現・推量(sein)v.i ～だろう 「動詞」
 schon möglich. ショーン・メークリヒ adv. ありうる 「補語」
 Jedenfalls イェーデンファルス adv. いずれにせよ 「副詞」
 wisse ...nicht, ウィッセ...ニヒト 接・1 単現・否定・推量(wissen)
 v.t 分からないかもしれない 「動詞句」
 ich イッ pron 僕は 「主語」
 vielleicht フライヒト adv. ひょっとしたら 「副詞」

ZWEITER TEIL 第2部

was ヲアス pron へするものを	「目的語」
mich ...interessiere, ミヒ...インテレスィエ 1 単現(sich-4 interessieren)	
v.pr 興味がある	「動詞句」
wirklich ヲイルクリヒ adv. 本当に	「副詞」
ich イヒ pron 僕は	「主語」
wisse ヲィッセ 接・1 単現・推量(wissen)v.t 分かるだろう	「動詞」
aber アーバー conj. しかし	
ganz genau, ガンツ・ゲナウ adv. まったくはつきりと	「副詞句」
was ヲアス pron へするものを	「目的語」
mich nicht interessiere. ミヒ・ニヒト・インテレスィエ 1 単現(sich-4 interessieren)	
v.pr 興味が無い	「動詞句」

そして彼が言った事、それはまさに僕にとって興味が無い事だ。

Und was er sagte, das gerade interessiere mich nicht.

Und 「主語」, 「目的語」 「副詞」 「動詞句」

Und ウント conj. そして	
was ヲアス pron へする物は	「主語」
er エア pron 彼が	「主語」
sagte, サークテ 3 単過(sagen)v.t 言った	「動詞」
das ダス pron それに	「目的語」
gerade ゲラーデ adv. まさに	「副詞」
interessiere mich nicht. ヲヒ・ニヒト・インテレスィエ 1 単現・否定(sich-4 interessieren)	
v.pr 興味が無い	「動詞句」

彼は視線をそらし、姿勢を変えずに、僕は絶望のあまりそのように言っているのではないかと尋ねた。

Er wandte die Augen ab, und ohne seine Stellung zu verändern, fragte er mich, ob ich nicht aus übergroßer Verzweiflung so spreche.

「主語」「動詞句」「目的語」「動詞句」, und

「副詞句」「動詞」「主語」「間接目的語」「直接目的語」

Er エア pron 彼は	「主語」
wandte ...ab, ヲァンテ...アッパ 3 単過(ab wenden)v.t そらした	「動詞句」
die Augen デーイー・アウゲン pl(Auge).n.n.4 格 視線を	「目的語」
und ウント conj. そして	
ohne seine Stellung zu verändern, オーネ・サィネ・シュテルング・ツー・フェアエンダーン	
zu 不定句 adv. 姿勢を変えずに	「副詞句」

ZWEITER TEIL 第2部

fragte フラクテ 3 単過(fragen)v.t(sich-4 に) 尋ねた	「動詞」
er エア pron 彼は	「主語」
mich, ミッヒ pron.4 格 僕に	「間接目的語」
ob オップ conj. ～かどうかを	「直接目的語」
ich イッヒ pron 僕は	「主語」
nicht ...spreche. ニヒト...シュプ レヒェ 1 単現・否定(sprechen)	
v.i 話していない	「動詞句」
aus übergroßer Verzweiflung アウ s・ユーバー・グー ローサー・フェアツウァ アイフルング	
adv. 深い絶望のために	「副詞句」
so ザー adv. そのように	「副詞」

僕は絶望していないと彼に言った。僕は怖いだけだ、そしてそれはごく当然のことだ。

Ich erklärte ihm, ich sei nicht verzweifelt. Ich habe nur Angst, und das sei ganz natürlich.

「主語」「動詞」「間接目的語」, 「主語」「動詞句」「補語」

「主語」「動詞」「目的語」、und 「主語」「動詞句」「補語」

Ich イッヒ pron 僕は	「主語」
erklärte エアクレアテ 1 単過(erkennen)v.t 説明した	「動詞」
ihm, イム pron.3 格 彼に	「間接目的語」
ich イッヒ pron 僕は	「主語」
sei nicht ザイ・ニヒト 接・1 単現・否定(sein)v.i ～でないだろう	「動詞句」
verzweifelt. フェアツウァ アイフェルト adj. 絶望した	「補語」
Ich イッヒ pron 僕は	「主語」
habe ハーベ 1 単現(haben)v.t ～がある	「動詞」
nur Angst, ヌア・アングスト n.f 恐れだけが	「目的語」
und ウント conj. そして	
das ダス pron それは	「主語」
sei ザイ 接・3 単現(sein)v.i ～だろう	「動詞」
ganz natürlich. ガンツ・ナチュアリヒ adj. まったく当たり前の	「補語」

「神があなたを助けるでしょう」と、彼は言った。「私が知っているあなたと同じ立場の人たちは皆、また神のほうに向き直りました」

«Gott würde Ihnen helfen», bemerkte er. «Alle, die ich in Ihrer Lage gekannt habe, wandten sich ihm wieder zu.»

《「主語」「動詞句」「間接目的語」「動詞句」》, 「動詞」「主語」,

《「主語」「動詞句」「間接目的語」「副詞」「動詞句」》

«Gott ゴット n.m 神が

「主語」

ZWEITER TEIL 第2部

würde ...helfen», ウェルテ ...ヘルフェン 接 II・3 単現・推量(werden+不定詞 helfen)

v.i(j-3 を) 助けるだろう 「動詞」

Ihnen イーネン pron.3 格 あなたを 「間接目的語」

bemerkte ベマクテ 3 単過(bemerken)v.t 言った 「動詞」

er. エア pron 彼は 「主語」

«Alle, アル pron 皆が 「主語」

die デー pron (目的語) ~する 「形容詞節」

ich イヒ pron 私が 「主語」

in Ihrer Lage イン・イーラー・ラーゲ adv. あなたと同じ立場の 「副詞句」

gekannt habe, ゲカント・ハーベ 1 単現・完了形(kennen)

v.t 知っていた 「動詞句」

wandten sich ...zu. ウェンデン・ズ・イヒ...ツ 3 複過(sich-4 zu | wenden)

v.pr(j-3 に) 向いた 「動詞句」

ihm イム pron.3 格 彼に 「間接目的語」

wieder ウィーダー adv. 再び、また 「副詞」

僕は、それは彼らの当然の権利であると認めざるを得ない。

Ich mußte zugeben, das sei ihr gutes Recht.

「主語」「動詞句」, 「主語」「動詞」「補語」

Ich イヒ pron 僕は 「主語」

mußte zugeben, ムステ・ツ・ゲーベ 1 単過・必要・時制の一致(müssen+不定詞 zugeben)

v.t 認めざるを得ない 「動詞句」

das ダス pron それは 「主語」

sei サイ 接・3 単現・推量(sein)v.i ~だろう 「動詞」

ihr gutes Recht. イア・ゲーテス・レヒト n.n.1 格 当然の権利 「補語」

それは、彼らにはそのための時間があった事も示している。

Das beweise auch, daß sie Zeit dazu hatten.

「主語」「動詞」「副詞」「目的語」

Das ダス pron それは 「主語」

beweise ベウアイゼ 3 単現(beweisen)v.t 証明している 「動詞」

auch, アウフ adv. ~も 「副詞」

daß ダス conj. ~ということ 「目的語」

sie ジー pron.pl 彼らは 「主語」

Zeit dazu ツァイト・ダツ n.f.4 格 そのための時間を 「目的語」

hatten. ハッテン 3 複過(haben)v.t 持っていた、あった 「動詞」

ZWEITER TEIL 第2部

だが僕は助けてもらいたくない；僕は単純に、興味の無いものに興味を持つための時間がないだけだ。

Ich aber wolle mir nicht helfen lassen; mir fehle einfach die Zeit, mich für das zu interessieren, was mich nicht interessiere.

「主語」 aber 「動詞句」 「間接目的語」 「動詞句」；

「間接目的語」 「動詞」 「副詞」 「主語」

Ich イッヒ pron 僕は

「主語」

aber アーバー conj. しかし

wolle ...nicht helfen lassen; ヲレ...ニヒト・ヘルフェン・ラッセン 1 単現・願望・使役・否定

(wollen+不定詞 lassen+不定詞 helfen)v.t(j-3 を) 助けてもらいたくない 「動詞句」

mir ミーア pron.3 格 僕を

「間接目的語」

mir ミーア pron.3 格 僕にとって

「間接目的語」

fehle フェーレ 1 単現(ehlen)v.i 欠けている、不足している

「動詞」

fehlt の間違い？

einfach インファッハ adv. 単純に

「副詞」

die Zeit, デー・ツァイト n.f 時間が

「主語」

mich für das zu interessieren, ミッヒ・フューア・ダス・ツァー・インテレスィレン zu 不定句・目的

adv.(sich-4 für et-4) 興味を持つための 「副詞句」

was ヲアス pron ものに

「目的語」

mich nicht interessiere. ミッヒ・ニヒト・インテレスィレ 1 単現・否定(sich-4 interessieren)

v.pr 興味が無い

「動詞句」

そこで、彼は苛立たし気に両手を動かし、立ち上がって、法服の襷を整えた。

Da machten seine Hände eine ärgerliche Bewegung, er richtete sich auf und ordnete die Falten seiner Robe.

「副詞」 「動詞」 「主語」 「目的語」, 「主語」 「動詞句」 「目的語」 und 「動詞」 「目的語」

Da ダー adv. そこで、すると

「副詞」

machten マハテン 3 複過(machen)v.t(動作を) した

「動詞」

seine Hände サイネ・ヘンデ pl(Hand).n.f 両手は

「主語」

eine ärgerliche Bewegung, アイン・エアガールリッヒエ・ベウエーゲンク

n.f.4 格 怒りの動きを

「目的語」

er エア pron 彼は

「主語」

richtete sich auf リヒテ・スィッヒ・アフ 3 単過(sich-4 auf|richten)v.pr 立ち上がった 「動詞句」

und ウント conj. そして

ordnete オルトゥネ 3 単過(ordnen)v.t 整理した、整えた

「動詞」

ZWEITER TEIL 第2部

die Falten デーイー・ファルテン pl(Falte).n.f 襷を
seiner Robe. ザイー・ローヘ n.f.2 格 法服の

「目的語」

「形容詞句」

話終わると、彼はまた僕の方へ振り返り、僕を「友よ」と呼んだ。僕が死刑を言い渡されたからそう言うのではないと言った。彼の考えでは、我々は皆死刑を宣告されている。

Als er damit fertig war, wandte er sich wieder mir zu und nannte mich «mein Freund»:
wenn er in dieser Weise mit mir spreche, so tue er das nicht, weil ich zum Tode verurteilt
sei; seiner Ansicht nach seien wir alle zum Tode verurteilt.

「副詞節」, 「動詞句」 「主語」 「動詞句」 「間接目的語」 「動詞句」 und
「動詞」 「目的語」 「補語」:

「副詞節」, 「副詞」 「動詞句」 「主語」 「目的語」 「動詞句」, 「副詞節」;
「副詞句」 「動詞句」 「主語」 「補語」 「動詞句」

Als アルス conj. ～した時、～すると

「副詞節」

er エア pron 彼は

「主語」

damit fertig ダミット・フェアチヒ adv. それについて話が終わった

「補語」

war, ヴァール 3 単過(sein)v.i ～ だった

「動詞」

wandte ...sich ...zu ヴァンテ...スィヒ...ツァー 3 単過(sich-4 zu | wenden)

v.pr 振り向いた

「動詞句」

er エア pron 彼は

「主語」

wieder mir ワイター・ミーア adv. また僕の方へ

「間接目的語」

und ウント conj. そして

nannte ナンテ 3 単過(nennen)v.t 呼んだ

「動詞」

mich ミヒ pron.4 格 僕を

「目的語」

«mein Freund»: マイン・フロイント n.m.4 格 「友よ」

「補語」

wenn ヴェン conj. (事実の対比を示して) ～であるが

「副詞節」

er エア pron 彼が

「主語」

in dieser Weise イン・デアイーザー・ヴァイゼ adv. このように

「副詞句」

mit mir ミット・ミーア adv. 僕に

「間接目的語」

spreche, シュプレヒエ 接・3 単現(sprechen)v.i 話す

「動詞」

so ゾー adv. そんな風に

「副詞」

tue ...nicht, トゥエ...ニヒト 接・3 単現・否定(tun)v.t しない

「動詞句」

er エア pron 彼は

「主語」

das ダス pron それを

「目的語」

weil ヴァイル conj. (理由) ～なので

「副詞節」

ich イヒ pron 僕は

「主語」

zum Tode ツム・トデー adv. 死刑に

「補語」

ZWEITER TEIL 第2部

verurteilt sei; フェウルタイルト・ザイ 接・1 単現・状態受動(sein+過去分詞 verurteilen)

v.t 言い渡された

「動詞句」

seiner Ansicht nach seien ザイナー・アンズィヒト・ナーハ adv. 彼の意見では

「副詞句」

seien ...verurteilt. ザイエン...フェウルタイルト 接・3 複現・状態受動(sein)

v.i 言い渡されている

「動詞句」

wir alle ウィーア・アレ pron 我々は皆

「主語」

zum Tode ツム・トデー adv. 死刑に

「補語」

しかし僕は彼の話の遮って言った。それは同じ事ではないし、決して慰めにはなり得ない。

Aber ich unterbrach ihn: das sei nicht dasselbe und könne auf keinen Fall ein Trost sein.

Aber 「主語」「動詞」「目的語」: 「主語」「動詞」「補語」 und 「動詞句」「補語」

Aber アーバー conj. しかし

ich イヒ pron 僕は

「主語」

unterbrach ウンターブラフ 1 単過(unterbrechen)v.t(j-4 を) 遮った

「動詞」

ihn: イン pron.4 格 彼を

「目的語」

das ダス pron それは

「主語」

sei ザイ 接・3 単現(sein)v.i ~である

「動詞」

nicht dasselbe ニヒト・ダスセルベ pron 同じ事~でない

「補語」

und ウント conj. そして

könne ...sein. ケネ...ザイン 接・3 単現・可能性(können+不定詞 sein)v.i あり得る 「動詞句」

auf keinen Fall アウフ・カイン・ファル adv. 決して~でない

「副詞句」

ein Trost アイン・トロスト n.m.1 格 慰め

「補語」

「確かにそうです」と、彼は認めた。「しかし、今日は死なないとしても、いずれ死ぬことになります。」

«Gewiß», gab er zu. «Aber Sie werden später sterben, wenn Sie nicht heute sterben.

《「応答」》, 「動詞句」「主語」「動詞句」,

《Aber 「主語」「動詞句」「副詞句」「動詞句」, 「副詞節」》

«Gewiß», ゲウイß adv. 確かに

「応答」

gab ...zu. ガーブ° ...ツ- 3 単過(zu | geben)v.t 認めた

「動詞句」

er エア pron 彼は

「主語」

«Aber アーバー conj. しかし

Sie ジー pron あなたは

「主語」

werden ...sterben, ヴァエアテン°...シュエアベン 3 複未(werden+不定詞 sterben)

v.i 死ぬだろう

「動詞句」

später シュペター adv. 後で、いずれは

「副詞」

ZWEITER TEIL 第2部

wenn ウェン conj. (対比の示して) ～ではあるが 「副詞節」
 Sie ジー pron あなたは 「主語」
 nicht heute sterben. ニヒト・ホイテ・シュテアベン 3 複現・否定(sterben)
 v.i 今日は死なない 「動詞句」

その時、あなたは同じ問題に直面するでしょう。

Dann stehen Sie vor derselben Frage.

「副詞」「動詞」「主語」「間接目的語」

Dann ダン adv. その時 「副詞」
 stehen シュテ-エン 3 複現・推量 v.i 立つでしょう 「動詞」
 Sie ジー pron あなたは 「主語」
 vor derselben Frage. フォア・デアゼー ルベン・フラーゲ adv. 同じ問題に 「間接目的語」

あなたはこの恐ろしい試練にどのように対処するつもりですか？

Wie werden Sie mit der furchtbaren Prüfung fertig werden?»

「副詞」「動詞句」「主語」「間接目的語」「補語」「動詞句」

Wie ヱー adv. どのように 「副詞」
 werden ...werden?» ウェアデッ...ウェアデッ 3 単未・意思(werden+不定詞 werden)
 v.i ～でいようと思う 「動詞句」
 Sie ジー pron あなたは 「主語」
 mit der furchtbaren Prüfung ミット・デア・フルヒトバレン・プリューフング
 adv. この恐ろしい試練に 「間接目的語」
 fertig フェアティヒ adj. 用意が出来た 「補語」

この瞬間に対処しているのと同様に、その時それに対処するつもりだと僕は答えた。

Ich antwortete, ich würde dann mit ihr genauso gut fertig, wie ich in diesem Augenblick mit ihr fertig werde.

「主語」「動詞」, 「主語」「動詞」「副詞」「間接目的語」「補語」, 「副詞節」

Ich イヒ pron 僕は 「主語」
 antwortete, アントウー アデテ 1 単過(antworten)v.i 答えた 「動詞」
 ich イヒ pron 僕は 「主語」
 würde ウルデ 接 II・1 単現・意思(werden)v.i ～でいるだろう 「動詞」
 dann ダン adv. その時 「副詞」
 mit ihr ミット・イーア adv.(Prüfung の代用) それに 「間接目的語」
 genauso gut fertig, ゲナウゾーグート・フェアティヒ adj. 同じように用意できた 「補語」
 wie ヱー conj. ～のように 「副詞節」

ZWEITER TEIL 第2部

ich イヒ pron 僕が 「主語」
 in diesem Augenblick イン・ディーゼム・アウゲンブリック adv. この瞬間に 「副詞句」
 mit ihr ミット・イーア adv. それに 「間接目的語」
 fertig フェアチ adj. 用意できた 「補語」
 werde. ヲェアテ 1 単現(werden)v.i 〜でいる 「動詞」

この言葉を聞いて、彼は立ち上がり、僕の目をじっと見つめた。

Bei diesen Worten stand er auf und sah mir in die Augen.
 「副詞句」「動詞句」「動詞句」「主語」und「動詞」「間接目的語」「副詞句」
 Bei バイ prep (3 格と) (ことが生じた時点を示して) 〜の時に 「副詞句」
 diesen Worten ディーゼン・ワォアテン pl(Wort).n.n.3 格 この言葉 「目的語」
 stand ... auf シュタント...アウフ 3 単過(auf|stehen)v.i 立ち上がった 「動詞句」
 er エア conj. 彼は 「主語」
 und ウント conj. そして
 sah サー 3 単過(sehen)
 v.i(j-3 in die Augen) (人-3 の目を) 直視した、じっと見つめた 「動詞」
 mir ミーア pron.3 格 僕の 「間接目的語」
 in die Augen. イン・ディー・アウゲン adv. 目の奥を 「副詞句」

僕はこのゲームのことをよく知っていた。

Dieses Spiel kannte ich nur zu gut.
 「目的語」「動詞」「主語」「副詞句」
 Dieses Spiel ディーゼス・シュピール n.n.4 格 この遊びを 「目的語」
 kannte カンテ 1 単過(kennen)v.t 知っていた 「動詞」
 ich イヒ pron 僕は 「主語」
 nur zu gut. ノーア・ツァー・グート adv. 余りにも良く 「副詞句」

僕はエマヌエルやセレステとこのゲームを何度もやってみたが、大抵は彼らは僕の視線に耐えられなかった。

Ich hatte es oft mit Emmanuel und Celeste probiert, und meistens hatten sie meinen Blick nicht ausgehalten.
 「主語」「動詞句」「目的語」「副詞句」「動詞句」,und
 「副詞」「動詞句」「主語」「目的語」「動詞句」
 Ich イヒ pron 僕は 「主語」
 hatte ... probiert, ハッテ...プロビエルト 1 単過・完了形(probieren)v.t やってみた 「動詞句」
 es エス pron このゲームを 「目的語」

ZWEITER TEIL 第2部

oft オフト adv. 何度も	「副詞」
mit Emmanuel und Celeste ミット・エマヌエル・ウント・セステ adv. エマヌエルやセステと	「副詞句」
und ウント conj. そして	
meistens マイstens adv. 大抵	「副詞」
hatten ...nicht ausgehalten. ハッテン...ニヒト・アウスゲハルテン 3 複過・完了形・否定(aushalten)	
v.t 耐えられなかった	「動詞句」
sie ジー pron.pl 彼らは	「主語」
meinen Blick マイネン・ブリック n.m.4 格 僕の視線に	「目的語」

この司祭もこのゲームを知っていた。—その事に、僕はすぐに気が付いた。

Auch der Geistliche kannte dieses Spiel - das merkte ich sofort.

「主語」「動詞」「目的語」-「目的語」「動詞」「主語」「副詞句」

Auch アウフ adv. ～も	「副詞」
der Geistliche デア・ガイストリヒェ n.m この司祭は	「主語」
kannte カンテ 3 単過(kennen)v.t 知っていた	「動詞」
dieses Spiel ディーゼス・シュピール n.n.4 格 この遊びを	「目的語」
- das ダス pron そのことを	「目的語」
merkte マークテ 1 単過(merken)v.t 気付いた	「動詞」
ich イヒ pron 僕は	「主語」
somit. ソミット adv. すぐに	「副詞」

彼の視線は揺るがなかった。

Sein Blick flackerte nicht.

「主語」「動詞句」

Sein Blick サイン・ブリック n.m 彼の視線は	「主語」
flackerte nicht. フラケアテ・ニヒト 3 単過・否定(flackern)v.i 揺るがなかった	「動詞句」

彼が僕に、「それではあなたは希望も無く、完全に死ぬと考えて生きているのか」と、尋ねた時、彼の声も震えていなかった。

Auch seine Stimme zitterte nicht, als er zu mir sagte: «Haben Sie denn keine Hoffnung, und leben Sie mit dem Gedanken, daß Sie ganz und gar sterben?»

「主語」「動詞句」「副詞節」:

《「動詞」「主語」「副詞」「目的語」und「動詞」「主語」「副詞句」》

Auch seine Stimme アウフ・ザイネ・シュティメ n.f 彼の声も	「主語」
zitterte nicht, ツィテアテ・ニヒト 3 単過・否定(zittern)v.i 震えていなかった	「動詞句」
als アルス conj. ～した時	「副詞節」

ZWEITER TEIL 第2部

er エア pron 彼が	「主語」
zu mir ツー・ミーア adv. 僕に	「間接目的語」
sagte: サークテ 3 単過(sagen)v.t 言った	「動詞」
«Haben ハーベン 3 複現・疑問文 v.t 〜があるのか?	「動詞」
Sie ジー pron あなたは	「主語」
denn デン adv. それでは	「副詞」
keine Hoffnung, カイネ・ホフヌング n.f.4 格 希望が〜ない	「目的語」
und ウント conj. そして	
leben レーベン 3 複現・疑問文 v.i 生きているのか?	「動詞」
Sie ジー pron あなたは	「主語」
mit dem Gedanken, ミット・デーム・ゲダנקェン adv. (付随) 考えを持って	「副詞句」
daß ダス conj. (同格) 〜という	「形容詞節」
Sie ジー pron あなたは	「主語」
ganz und gar ガンツ・ウント・ガール	
adv. 完全に、まったく	「副詞句」
sterben? シュテアベン 3 複現 v.i 死ぬ	「動詞」

僕は答えた:「そうだ」

Ich antwortete: «Ja».

「主語」「動詞」:《「応答」》

Ich イッヒ pron 僕は	「主語」
antwortete: アントヴェ・アデテ 1 単過(antworten)v.i 答えた	「動詞」
«Ja». ヤー adv. そうだ	「応答」

すると彼はうつむいて、また座った。彼は僕を気の毒に思うと言った。

Da senkte er den Kopf und setzte sich wieder. Er sagte, er bedauere mich.

「副詞」「動詞」「主語」「目的語」 und 「動詞句」「副詞」

「主語」「動詞」, 「主語」「動詞」「目的語」

Da ダー adv. すると	「副詞」
senkte センクテ 3 単過(senken)v.t 下げた	「動詞」
er エア pron 彼は	「主語」
den Kopf デン・コプフ n.m.4 格 頭を	「目的語」
und ウント conj. そして	
setzte sich セッツテ・スィット 3 単過(sich-4 setzen)v.pr 座った	「動詞句」
wieder. ヴァーダー adv. また	「副詞」
Er エア pron 彼は	「主語」

ZWEITER TEIL 第2部

sagte, ザーケ 3 単過(sagen)v.t 言った 「動詞」
 er エア pron 彼は 「主語」
 bedauere ベトイレ 3 単現(bedauern)v.t 気の毒に思う 「動詞」
 mich. ミッヒ pron.4 格 僕を 「目的語」

彼の考えでは、人間は絶対にそれに耐えられない。

Seiner Meinung nach könne das ein Mensch unmöglich ertragen.

「副詞句」「動詞句」「目的語」「主語」「動詞句」

Seiner Meinung nach ザイアー・マイヌグ・ナーハ adv. 彼の考えでは 「副詞句」
 könne ...unmöglich ertragen. ケネ...ウンメルヒ・エトラーゲン 接・3 単現・否定・可能性
 (können+不定詞 ertragen+ unmöglich)v.t 絶対に耐えられないだろう 「動詞句」
 das ダス pron それを 「目的語」
 ein Mensch アイン・メンシュ n.m 人間が 「主語」

彼の話が退屈になって来たので、僕は天窓の下に向かって行った。

Ich fühlte nur, daß er mich zu langweilen begann. Nun wandte ich mich unter die Luke.

「主語」「動詞」「副詞」「目的語」 | 「副詞」「動詞句」「主語」「間接目的語」

Ich イッヒ pron 僕は 「主語」
 fühlte フュールテ 1 単過(fühlen)v.t 感じた 「動詞」
 nur, ノー adv. ただ 「副詞」
 daß ダス conj. ～ということを 「目的語」
 er エア pron 彼は 「主語」
 mich ミッヒ pron.4 格 僕を 「目的語」
 zu langweilen begann. ツー・ラングヴァイレン・ベガシ 3 単過・開始(beginnen zu 不定詞 langweilen)
 v.t 退屈させ始めた 「動詞句」
 Nun ヌン adv. それで 「副詞」
 wandte ...mich ヲァンテ...ミッヒ 1 単過(sich-4 wenden)v.pr 向きを変えた 「動詞句」
 ich イッヒ pron 僕は 「主語」
 unter die Luke. ウンター・デー・ルーケ adv. 天窓の下に 「間接目的語」

ZWEITER TEIL 第2部

僕は肩を壁にもたれかけた。彼がまた僕に質問するのが、何気なく聞こえた。

Mit der Schulter lehnte ich mich an die Wand. Ohne weiter darauf zu achten, hörte ich, daß er mir wieder Fragen stellte.

「間接目的語」「動詞句」「主語」「副詞句」 | 「副詞句」「動詞」「主語」「目的語」

Mit der Schulter ミット・デア・シュルター adv. 肩を

「間接目的語」

lehnte ...mich レンテ...ミッヒ 1 単過(sich-4 lehnen)v.pr もたれかけた

「動詞句」

ich イッヒ pron 僕は

「主語」

an die Wand. アン・デア・ヴァント adv. 壁に

「副詞句」

Ohne weiter darauf zu achten, オーネ・ヴァイター・ダラウフ・ツ・アハテン ohne zu 不定句

adv. それ以上注意を払わずに

「副詞句」

hörte ホアテ 1 単過(hören)v.t 聞こえた

「動詞」

ich, イッヒ pron 僕は

「主語」

daß ダス conj. ～ということを

「目的語」

er エア pron 彼が

「主語」

mir ミア pron.3 格 僕に

「間接目的語」

wieder ヴァイダー adv. また

「副詞」

Fragen フラーゲン pl(Frage).n.f 質問を

「直接目的語」

stellte. シュテルテ 3 単過(stellen)v.t 置いた

「動詞」

彼は不安げで切迫した声で話した。僕は彼が動揺していることに気付き、彼の話により注意深く耳を傾けた。

Er sprach mit unruhiger, eindringlicher Stimme. Ich merkte, daß er erregt war, und hörte ihm aufmerksamer zu.

「主語」「動詞」「副詞句」

「主語」「動詞」「目的語」,und「主語」「動詞句」「間接目的語」「副詞」「動詞句」

Er エア pron 彼は

「主語」

sprach シュプラーハ 3 単過(sprechen)v.i 話した

「動詞」

mit unruhiger, eindringlicher Stimme. ミット・ウンルーイカー・アイントリンクァリヒャー・シュティメ

adv. (手段) 不安げで切迫した声で

「副詞句」

Ich イッヒ pron 僕は

「主語」

merkte, マクテ 1 単過(merken)v.t 気付いた

「動詞」

daß ダス conj. ～ということを

「目的語」

er エア pron 彼は

「主語」

erregt エアレクト adj. 興奮した、動揺した

「補語」

war, ヴァール 3 単過・時制の一致(sein)v.i ～である

「動詞」

und ウント conj. そして

ZWEITER TEIL 第2部

hörte ...zu. ヘアテ...ツ 1 単過(zu | hören)v.i 耳を傾けた 「動詞句」
 ihm イム pron.3 格 彼に 「間接目的語」
 aufmerksamer アウフメアクザーマー adv. (比較級) より注意深く 「副詞」

彼は僕の上訴は受理されると確信していると話したが、僕は自分の罪の重荷を背負っていて、そこから解放されなければならなかった。

Er sprach von seiner Gewißheit, daß meinem Gesuch stattgegeben werde, aber ich trüge die Last meiner Sünde, von der ich mich befreien müßte.

「主語」「動詞」「間接目的語」, aber
 「主語」「動詞」「目的語」「副詞句」, 「主語」「動詞句」
 Er エア pron 彼は 「主語」
 sprach シュプ ラーハ 3 単過(sprechen)v.i(von et-3 何-3 について) 話した 「動詞」
 von seiner Gewißheit, フォン・ザ イー・ゲウ イスハイト adv. 彼の確信について 「間接目的語」
 daß ダス conj. (同格) ～という 「形容詞節」
 meinem Gesuch マイネム・ゲズーフ n.n 僕の上訴は 「主語」
 stattgegeben werde, スタットゲ・ゲーベン・ザ エアテ 3 単現・受動(werden+過去分詞 stattgeben)
 v.t 受理される、聞き届けられる 「動詞句」
 aber アーバー conj. しかし
 ich イヒ pron 僕は 「主語」
 trüge トリュゲ 接 II・1 単現(tragen)v.t 背負っている 「動詞」
 die Last meiner Sünde, デー・イー・ラスト・マイナー・ズ ユンデ n.f.4 格 自分の罪の重荷を 「目的語」
 von der フォン・デア adv. そこから 「副詞句」
 ich イヒ pron 僕は 「主語」
 mich befreien müßte. ミヒ・ベフライェン・ミュステ 接 II・1 単現・必要(müssen+不定詞 sich-4 befreien)
 v.pr 解放されなければならない 「動詞句」

彼の考えでは、人間の正義は何も意味を持たず、神の正義が全てである。

Seiner Ansicht nach sei die Gerechtigkeit der Menschen nichts, aber die Gottes alles.

「副詞句」「動詞」「主語」「補語」, aber 「主語」「補語」
 Seiner Ansicht nach サ イー・アンズ イヒト・ナーハ adv. 彼の考えでは 「副詞句」
 sei サイ 接・3 単現(sein)v.i ～である 「動詞」
 die Gerechtigkeit der Menschen デー・イー・ゲレフティヒカイト・デア・メンシェン n.f 人間の正義は 「主語」
 nichts, ニヒツ pron 何も～ない 「補語」
 aber アーバー conj. しかし
 die Gottes デー・イー・ゴッテス pron 神の正義は 「主語」
 alles. アレス pron すべて 「補語」

ZWEITER TEIL 第2部

僕は、人間の正義が判決を下したのだと言った。人間の正義は判決によって、僕の罪を洗い清める事は出来なかった、と彼は僕に答えた。

Ich bemerkte, erstere habe mich verurteilt. Er gab mir zur Antwort, damit habe sie mich noch nicht von meiner Sünde reingewaschen.

「主語」「動詞」, 「主語」「動詞句」「目的語」「動詞句」

「主語」「動詞句」,

「副詞」「動詞句」「主語」「目的語」「副詞」「動詞句」「副詞句」「動詞句」

Ich イッヒ pron 僕は 「主語」
 bemerkte, ベマクテ 1 単過(bemerken)v.t 述べた 「動詞」
 erstere エアステレ pron 前者が、人間の正義が 「主語」
 habe ...verurteilt. ハーベ ...フェアウルタイルト 3 単現・完了形(verurteilen)v.t 判決を下した 「動詞句」
 mich ミット pron.4 格 僕に 「目的語」
 Er エア pron 彼は 「主語」
 gab mir zur Antwort, ガーブ・ミーア・ツア・アントゥェアト 3 単過(j-3 et-4 zur Antwort geben)
 v.t (何-4 と) 僕に答えた 「動詞句」
 damit ダミット adv. そのことで 「副詞」
 habe ...nicht ...reingewaschen. ハーベ ...ニヒト...ライン・ゲ・ヴァシェン 3 単現・完了形・否定
 v.t 洗わなかった 「動詞句」
 sie シー pron 人間の正義は 「主語」
 mich ミット pron.4 格 僕を 「目的語」
 noch ノッホ adv. まだ 「副詞」
 von meiner Sünde フォン・マイナー・ズンデ adv. 僕の罪から 「副詞句」

僕は何が罪なのか分からないと彼に言った。僕は有罪であるとただ教えられた。

Ich sagte ihm, ich wisse nicht, was Sünde sei. Man habe mich nur gelehrt, daß ich schuldig sei.

「主語」「動詞」「間接目的語」, 「主語」「動詞句」「目的語」

「主語」「動詞句」「間接目的語」「動詞句」, 「直接目的語」

Ich イッヒ pron 僕は 「主語」
 sagte サーケ 3 単過(sagen)v.t 言った 「動詞」
 ihm, イム pron.3 格 彼に 「間接目的語」
 ich イッヒ pron 僕は 「主語」
 wisse nicht, ヴァッッセ・ニヒト 接・1 単現・否定(wissen)v.t 知らない 「動詞句」
 was ヴァス pron 何が～するかを 「目的語」
 Sünde シュンデ n.f.1 格 罪 「補語」

ZWEITER TEIL 第2部

sei. ザイ 接・3 単現(sein)v.i ~である	「動詞」
Man マン pron 人は	「主語」
受動態に翻訳する	
habe ...nur gelehrt, ハーベ ...ヌーア・ゲレーアト 3 単現・完了形(lehren)v.t ただ教えた	「動詞句」
mich ミッヒ pron.4 格 僕に	「間接目的語」
daß ダス conj. ~ということ	「直接目的語」
ich イッヒ pron 僕は	「主語」
schuldig シュルディヒ adj. 有罪の	「補語」
sei. ザイ 接・(sein)v.i ~である	「動詞」

僕は有罪だろう、それに対して償いはする；それ以上、求められることは無い。

Ich sei schuldig, ich zahle dafür; mehr könne man nicht von mir verlangen.

「主語」「動詞」「補語」, 「主語」「動詞」「間接目的語」;
「副詞」「動詞句」「主語」「副詞句」「動詞句」

Ich イッヒ pron 僕は	「主語」
sei ザイ 接・1 単現・推量(sein)v.i ~だろう	「動詞」
schuldig, シュルディヒ adj. 有罪の	「補語」
ich イッヒ pron 僕は	「主語」
zahle ツアーレ 1 単現・意思(zahlen)v.i 償う、支払う	「動詞」
dafür; ダフュア adv. それに対して	「間接目的語」
mehr メア adv. それ以上	「副詞」
können ...nicht ...verlangen. ケネ...ニヒト...フェアランゲン 接・3 単現・可能・否定 (können+不定詞 verlangen)v.t 求めることは出来ない	「動詞句」
man マン pron 人は	「主語」
von mir フォン・ミーア adv. 僕から	「副詞句」

この時、彼は再び立ち上がった。僕は思った：この狭い独房の中で動きたいと言っても、座るか立つか以外は彼に残されていない。

In diesem Augenblick stand er wieder auf, und ich dachte: wenn er sich in dieser engen Zelle bewegen wollte, blieb ihm nichts anderes übrig, als sich zu setzen oder aufzustehen.

「副詞句」「動詞句」「主語」「副詞」「動詞句」, und

「主語」「動詞」: 「副詞節」, 「動詞」「間接目的語」「主語」

In diesem Augenblick イン・ディエーゼム・アウゲンブリック adv. この時	「副詞」
stand ...auf, sty タント...アウフ 3 単過(auf stehen)v.i 立ち上がった	「動詞句」
er エア pron 彼は	「主語」
wieder ウィーダー adv. また、再び	「副詞」

ZWEITER TEIL 第2部

und ウント conj. そして	
ich イヒ pron 僕は	「主語」
dachte: ダハテ 1 単過(denken)v.i 思った	「動詞」
wenn ウェン conj. (条件・対比) ～であるが、ならば	「副詞節」
er エア pron 彼が	「主語」
sich ...bewegen wollte, スイヒ...ヘウエーゲン・ウオルテ 3 単過・願望・時制の一致 (wollen+不定詞 sich-4bewegen)v.pr 動きたい	「動詞句」
in dieser engen Zelle イン・デーイーザー・エンゲン・ツェレ adv. この狭い独房の中で	「副詞句」
blieb ブリープ 3 単過(bleiben)v.i 残っていた	「動詞」
ihm イム pron.3 格 彼に	「間接目的語」
nichts anderes übrig, ニヒツ・アンデレス・ユーブ リヒ pron 他には何も～ない	「主語」
als アルス conj.(比較) ～よりも	「副詞句」
sich zu setzen スイヒ・ツ-・ゼッツェン zu 不定句(sich-4 setzen) n. 座る事	「目的語」
oder オーダー conj. または	
aufzustehen. アウフ・ツ-・シュテーエン zu 不定句(auf stehen) n. 立ち上がる事	「目的語」

僕はじっと床を見つめた。彼は僕に向かって1歩進んだが、思い切って近付けないかのよう
に立ち止まった。

Ich hatte die Augen starr auf den Boden gerichtet. Er machte einen Schritt auf mich zu und blieb stehen, als wagte er mir nicht näher zu kommen.

	「主語」「動詞句」「目的語」「補語」「動詞句」
	「主語」「動詞」「目的語」「副詞句」 und 「動詞句」「副詞節」
Ich イヒ pron 僕は	「主語」
hatte ...gerichtet. ハッテ...ゲリヒテット 1 単過・完了形(richten)v.t に向けた	「動詞句」
die Augen デイー・アウゲン pl(Auge).n.n.4 格 視線を	「目的語」
starr シュタル adj. 動かない	「補語」
auf den Boden アウフ・テン・ボーテン adv. 床の上に	「副詞句」
Er エア pron 彼は	「主語」
machte マハテ 3 単過(machen)v.t(動作を) した	「動詞」
einen Schritt アイネン・シュリット n.m.4 格 1 歩を	「目的語」
auf mich zu アウフ・ミヒ・ツ- adv. 僕に向かって	「副詞句」
und ウント conj. そして	
blieb stehen, ブリープ・シュテーエン 3 単過・持続(bleiben+不定詞 stehen) v.i 立ち止まった	「動詞句」

ZWEITER TEIL 第2部

als アル conj. ～するように	「副詞節」
wagte ...nicht näher zu kommen. ヲアークテ...ニヒト・ネヤー・ツ・コメン 3 単過・敢えて・否定	
v.i 思い切って近付けない	「動詞句」
er エア pron 彼は	「主語」
mir ミア pron.3 格 僕に	「間接目的語」

彼は鉄格子越しに空を見つめた。

Er betrachtete den Himmel durch die Gitterstäbe.

	「主語」「動詞」「目的語」「副詞句」
Er エア pron 彼は	「主語」
betrachtete ベトラハテ 3 単過(betrachten)v.t 見つめた	「動詞」
den Himmel デン・ヒメル n.m.4 格 空を	「目的語」
durch ドゥルヒ prep (空間) ～を通して	「副詞句」
die Gitterstäbe. ディー・ギターシュテヘ pl(Gitterstab).n.m 鉄格子	「目的語」

「あなたは間違えている、息子よ」と、彼は言った。「あなたはもっと求められるだろう。

もしかしたら求められるだろう」「何をですか?」「あなたが見ることを求めるだろう」

「何を見れと言うのですか?」

«Sie irren sich, mein Sohn», sagte er. «Man könnte mehr von Ihnen verlangen. Vielleicht tut man das auch.» - «Und das wäre?» - «Man könnte von Ihnen verlangen, daß Sie erkennen.» - «Was erkennen?»

《「主語」「動詞句」, 「呼びかけ」》, 「動詞」「主語」

《「主語」「動詞句」「副詞」「間接目的語」「動詞句」

「副詞」「動詞」「主語」「目的語」「副詞」》 - 《Und 「補語」「動詞」》 -

《「主語」「動詞句」「間接目的語」「動詞句」「直接目的語」》 -

《「目的語」「動詞」》

«Sie ジー pron あなたは	「主語」
irren sich, イレン・スィッヒ 3 複現(sich-4 irren)v.r 間違えている	「動詞句」
mein Sohn», マイン・ゾーン n.m 息子よ	「呼びかけ」
sagte サークテ 3 単過(sagen)v.t 言った	「動詞」
er. エア pron 彼は	「主語」
«Man マン pron 人は	「主語」
könnte ...verlangen. ケンテ...フェアランゲン 接 II・3 単現・推量(können+不定詞 verlangen)	
v.t(von j-3 人-3 に) 求めるかもしれない	「動詞句」
受動態に翻訳する	
mehr メア adv. もっと	「副詞」

ZWEITER TEIL 第2部

von Ihnen フォン・イーネン adv. あなたに	「間接目的語」
Vielleicht フライヒト adv. もしかしたら	「副詞」
tut トウト 3 単現(tun)v.t するだろう	「動詞」
man マン pron 人は	「主語」
das ダス pron 求めることを	「目的語」
auch.》アウフ adv. ーも	「副詞」
- «Und ウント conj. そして	
das ダス pron 何	「補語」
wäre?》ウァーレ 接 II・3 単現・疑問文(sein)v.i ーである?	「動詞」
- «Man マン pron 人は	「主語」
könnte ...verlangen, ケンテ...ウァランゲン 接 II・3 単現・推量(können+不定詞 verlangen)	
v.t(von j-3 人-3 に) 求めるかもしれない	「動詞句」
von Ihnen フォン・イーネン adv. あなたに	「間接目的語」
daß ダス conj. ーということ	「直接目的語」
Sie ジー pron あなたが	「主語」
erkennen.》エケネン 3 複現 v.t 見る	「動詞」
- «Was ウァス pron 何を	「目的語」
erkennen?》エケネン 3 複現・疑問文 v.t 見る?	「動詞」

司祭は辺りを見回して、急にととても疲れたような声で答えた：

Der Priester sah sich um und antwortete mit einer Stimme, die plötzlich sehr müde wirkte:

	「主語」「動詞句」 und 「動詞」「副詞句」
Der Priester デア・フリースター n.m 司祭は	「主語」
sah sich um サー・スィヒ・ウム 3 単過(sich-4 um sehen)v.pr 見回した	「動詞句」
und ウント conj. そして	
antwortete アントヴァアテ 3 単過(antworten)v.t 答えた	「動詞」
mit einer Stimme, ミット・アイー・シュティメ adv. (手段) ある声の様子で	「副詞句」
die デー pron(Stimme : 主語) ーする	「形容詞節」
plötzlich プレツリヒ adv. 突然、急に	「副詞」
sehr müde セー・ア・ミュデ adj. ととても疲れた	「補語」
wirkte: ウィルケ 3 単過・時制の一致(wirken)v.i ーに見える	「動詞」

ZWEITER TEIL 第2部

「この壁の石から苦痛が滴り落ちています。そのことを私は知っています。恐れずにそれらを見たことは一度もありません。しかし、心の底では、あなた達の中の最も不幸な者たちはその暗闇から神の顔が輝くのを見たことを私は知っています。そしてあなたはその顔に気付かなければなりません」

«Aus all diesen Steinen tropft der Schmerz, das weiß ich. Ich habe sie nie ohne Angst betrachtet. Aber in der Tiefe des Herzens weiß ich, daß die Elendsten von euch aus ihrem Dunkel ein göttliches Gesicht haben aufleuchten sehen. Und dieses Gesicht sollen Sie erkennen.»

《「副詞句」「動詞」「主語」, 「目的語」「動詞」「主語」

「主語」「動詞句」「目的語」「動詞句」「副詞句」「動詞句」

Aber 「副詞句」「動詞」「主語」, 「目的語」

Und 「目的語」「動詞句」「主語」「動詞句」》

«Aus all diesen Steinen アウス・アル・デーゼン・シュタイン adv. これらの石から 「副詞句」
tropft トロプフト 3 単現(tropfen)v.i 滴り落ちている 「動詞」
der Schmerz, デア・シュメルツ n.m 苦痛が 「主語」
das ダス pron それを 「目的語」
weiß ヴァイス 1 単現(wissen)v.t 知っている 「動詞」
ich. イヒ pron 私は 「主語」
Ich イヒ pron 私は 「主語」
habe ...nie... betrachtet. ハーベ ...ニー...ベトラハテット 1 単現・完了形・否定(betrachten)
v.t 見たことは一度もない 「動詞句」
sie ジー pron(Steinen の代用) それを 「目的語」
ohne Angst オーネ・アングスト adv. 恐れなしに 「副詞句」
Aber アーバー conj. しかし
in der Tiefe des Herzens イン・デア・ティーフェ・デス・ヘアツェンス adv. 心の底では 「副詞句」
weiß ヴァイス 1 単現(wissen)v.t 知っている 「動詞」
ich, イヒ pron 私は 「主語」
daß ダス conj. ～ということ 「目的語」
die Elendsten デーイー・エーレントシュテン pl(Elendsten).n 最も不幸な者たちは 「主語」
elend エーレント adj. 不幸な、惨めな → 最高級 elendsten を名詞化した
von euch フォン・オイェ adv. あなた方の中で 「副詞句」
aus ihrem Dunkel アウス・イーレム・ドゥンケル adv. その暗闇から 「副詞句」
ein göttliches Gesicht アイン・ゲットリヒェス・ゲズィヒト n.n 神の顔を 「目的語」
haben ...sehen. ハーベン...ゼーエン 3 複現・完了形・知覚動詞(sehen+不定詞 ～するのを)
v.t 見た 「動詞句」
aufleuchten アウフロイトェン 不定詞・Gesicht の動作 v.i 光る 「補語」

ZWEITER TEIL 第2部

Und ウント conj. そして

dieses Gesicht ディーゼス・ゲジヒト n.n.4 格 この顔を

「目的語」

sollen ...erkennen. » ゾレン...エッケン 3 複現・義務(sollen+不定詞 erkennen)

v.t 気付かなければならない

「動詞句」

Sie ジー pron あなたは

「主語」

僕は少し興奮してきた。僕はもう何週間もこの壁を見てきたと言った。

Ich wurde etwas lebhafter. Ich sagte, ich hätte diese Mauern schon wochenlang angestarrt.

「主語」「動詞」「補語」

「主語」「動詞」, 「主語」「動詞句」「目的語」「副詞句」「動詞句」

Ich イヒ pron 僕は

「主語」

wurde ウルデ 1 単過・変化(werden)v.i 〜になった

「動詞」

etwas lebhafter. エトワァス・レープハフト adj. 少し興奮した

「補語」

Ich イヒ pron 僕は

「主語」

sagte, サークテ 3 単過(sagen)v.t 言った

「動詞」

ich イヒ pron 僕は

「主語」

hätte ...angestarrt. ヘッテ...アソ・ゲ・シュタルト 接 II・1 単現・完了形(an|starren)

v.t 見つめた

「動詞句」

diese Mauern ディーゼ・マウアーン pl(Mauer).n.f この壁を

「目的語」

schon wochenlang ショーン・ウーヘンラング adv. もう何週間も

「副詞句」

この壁よりよく知っている物もなければ人もない。

Nichts und niemanden auf der Welt kenne ich besser als sie.

「目的語」「副詞句」「動詞」「主語」「副詞句」

Nichts ニヒツ pron.4 格 何も〜ない

「目的語」

und ウント conj. そして

niemanden ニーマンデン pron.4 格 誰も〜ない

「目的語」

auf der Welt アウフ・デア・ヴェルト adv. この世で

「副詞句」

kenne ケネ 1 単現・否定文で(kennen)v.t 知らない

「動詞」

ich イヒ pron 僕は

「主語」

besser als sie. ベッサー・アルス・ツジアー adv. この壁よりよく

「副詞句」

ZWEITER TEIL 第2部

もしかしたら、といってもそれはずいぶん前のことだが、僕はここで一つの顔を探していたかも知れない。

Vielleicht hätte ich - aber das sei schon lange her - hier ein Gesicht gesucht.

「副詞」「動詞句」「主語」 - aber 「主語」「動詞」「補語」 - 「副詞」「目的語」「動詞句」
 Vielleicht フライヒト adv. もしかすると 「副詞」
 hätte ...gesucht. ハッテ...ゲズーフト 接 II・1 単現・完了形・推量(suchen)
 v.t 探したかもしれない 「動詞句」
 ich イヒ pron 僕は 「主語」
 - aber アーバー conj. しかし
 das ダス pron それは 「主語」
 sei サイ 接・3 単現(sein)v.i 〜である 「動詞」
 schon lange her ショーン・ランゲ・ヘア adv. もうずいぶん前の 「補語」
 hier ヒア adv. ここで 「副詞」
 ein Gesicht アイン・ゲジヒト n.n.4 格 一つの顔を 「目的語」

しかし、その顔は太陽の色と欲望の炎をまとったマリーの顔だ。

Aber dieses Gesicht habe die Farbe der Sonne und die Flamme des Begehrens: es sei das Gesicht Marias.

Aber 「主語」「動詞」「目的語」 und 「目的語」: 「主語」「動詞」「補語」
 Aber アーバー conj. しかし
 dieses Gesicht デーイーゼス・ゲジヒト n.n その顔は 「主語」
 habe ハーベ 3 単現(haben)v.t (特徴) 〜をしている 「動詞」
 die Farbe der Sonne デーイーファハーベ・デア・ゾネ n.f.4 格 太陽の色 「目的語」
 und ウント conj. そして
 die Flamme des Begehrens デーイー・フラメ・デス・ベ・ゲーレンス n.f.4 格 欲望の炎 「目的語」
 es エス pron それは 「主語」
 sei サイ 接・3 単現(sein)v.i 〜である 「動詞」
 das Gesicht Marias. ダス・ゲジヒト・マリアス n.n.1 格 マリーの顔 「補語」

ZWEITER TEIL 第2部

それを探しても無駄だった。今では、もう終わった。いずれにせよ、僕はこの石の汗から何かが見れるのを見なかった。

Ich hätte es vergeblich gesucht. Nun sei es vorbei. Jedenfalls hatte ich aus diesem steinernen Schweiß nichts aufleuchten sehen.

「主語」「動詞句」「目的語」「副詞」「動詞句」 | 「副詞」「動詞」「主語」「補語」

「副詞」「動詞句」「主語」「動詞句」「目的語」「補語」「動詞句」

Ich イッヒ pron 僕は 「主語」
 hätte ...gesucht. ハッテ...ゲスーフト接 II・1 単現・完了形・推量(suchen)
 v.t 探しただろう 「動詞句」
 es エス pron それを 「目的語」
 vergeblich フェアゲーブ リヒ adv. 無駄に 「副詞」
 Nun ヌン adv. いまや、今では 「副詞」
 sei セイ 接・3 単現(sein)v.i ~である 「動詞」
 es エス pron それは 「主語」
 vorbei. フォアバイ adv. 通り過ぎた、終わった 「補語」
 Jedenfalls イェーデンファルス adv. いずれにせよ 「副詞」
 hatte ...sehen. ハッテ...ゼーエン 1 単現・完了形(sehen)v.t 見た 「動詞句」
 ich イッヒ pron 僕は 「主語」
 aus diesem steinernen Schweiß アウス・デーイーセム・シュタイナーネン・シュヴァイス
 adv. この石の汗から 「副詞句」
 nichts ニヒツ pron 何も～ない 「目的語」
 aufleuchten アウフロイトエン 不定詞・nichts の動作 v.i 輝く 「補語」

司祭は悲し気な様子で僕を見つめた。僕は今は完全に壁にもたれかかっていた。光が僕の額に差し込んで来た。

Der Geistliche betrachtete mich mit einer Art Traurigkeit. Ich lehnte jetzt völlig an der Wand, und das Licht floß mir über die Stirn.

「主語」「動詞」「目的語」「副詞句」

「主語」「動詞」「副詞句」「間接目的語」und「主語」「動詞」「間接目的語」「副詞句」

Der Geistliche デア・ガイストリヒエ n.m 司祭は 「主語」
 betrachtete ベトラハテ 3 単過(betrachten)v.t 見つめた 「動詞」
 mich ミット pron.4 格 僕を 「目的語」
 mit einer Art Traurigkeit. ミット・アイナー・アールト・トラウリヒカイト
 adv. (手段) 悲し気な様子で 「副詞句」
 Ich イッヒ pron 僕は 「主語」
 lehnte レンテ 1 単過(lehnen)v.i(an et-3 何-3 に)v.i もたれかかっていた 「動詞」

ZWEITER TEIL 第2部

jetzt völlig	イェツト・フェリヒ	adv. 今や完全に	「副詞句」
an der Wand,	アン・デア・ヴァント	adv. 壁に	「間接目的語」
und	ウント	conj. そして	
das Licht	ダス・リヒト	n.n 光が	「主語」
floß	フロス	3 単過(fließen)v.i 流れた	「動詞」
mir	ミーア	pron 僕に	「間接目的語」
über die Stirn.	ユーバー・デー・イー・シュティルン	adv. 額の上に	「副詞句」

彼は二言三言なにかを言ったが、僕は聞き取れなかった。それから彼は早口で、僕を抱きしめてもいいだろうかと尋ねた。「断ります」と、僕は答えた。

Er sagte ein paar Worte, die ich nicht hörte, und fragte mich hastig, ob er mich umarmen dürfe. «Nein», antwortete ich.

「主語」「動詞」「目的語」, 「目的語」「主語」「動詞句」, und			
「動詞」「間接目的語」「副詞」「直接目的語」 《「応答」》, 「動詞」「主語」			
Er	エア	pron 彼は	「主語」
sagte	ザー・クテ	3 単過(sagen)v.t 言った	「動詞」
ein paar Worte,	アイン・パー・ワール・ヴァアテ	pl(Wort).n.n.4 格 二言三言	「目的語」
die	デー・イー	pron.pl それを	「目的語」
ich	イヒ	pron 僕は	「主語」
nicht hörte,	ニヒト・ヘアテ	1 単過・否定(hören)v.t 聞こえなかった	「動詞句」
und	ウント	conj. そして	
fragte	フラクテ	3 単過(fragen)v.t(j-4 に) 尋ねた	「動詞」
mich	ミヒ	pron.4 格 僕に	「間接目的語」
hastig,	ハステイヒ	adv. 早口で	「副詞」
ob	オッパ	conj. かどうかを	「直接目的語」
er	エア	pron 彼は	「主語」
mich	ミヒ	pron.4 格 僕を	「目的語」
umarmen dürfe.	ウムアルメン・テ・ユルフェ	接・許可(dürfen+不定詞 umarmen)	
v.t		抱きしめてもいいだろうかと	「動詞句」
«Nein»,	ナイン	adv. いや、断る	「応答」
antwortete	アントヴァ・アアテ	1 単過(antworten)v.i 答えた	「動詞」
ich.	イヒ	pron 僕は	「主語」

ZWEITER TEIL 第2部

彼は振り向き、壁に向かって進み、ゆっくりと手で壁を撫でた：「それでは、あなたはそれほどまでにこの世を愛しているのですか？」と、彼は小声で尋ねた。僕は彼に何も返事をしなかった。

Er drehte sich um und ging auf die Wand zu, über die er langsam mit der Hand strich:
 «Lieben Sie diese Welt denn so sehr?» fragte er leise. Ich gab ihm keine Antwort.

「主語」「動詞句」 und 「動詞句」「副詞句」「動詞句」,

「間接目的語」「主語」「副詞句」「動詞」:

《「動詞」「主語」「目的語」「副詞句」》, 「動詞」「主語」「副詞」

「主語」「動詞」「間接目的語」「直接目的語」

Er	エア pron 彼は	「主語」
drehte sich um	ドレ-テ・スィヒ・ウム 3 単過(sich-4 um drehen)v.pr 振り向いた	「動詞句」
und	ウント conj. そして	
ging ...zu,	ギング ...ツ- 3 単過(zu gehen)v.i(auf et-4 の方向に) 向かって行った	「動詞句」
auf die Wand	アウフ・デー・ヴァント adv. 壁の方に	「副詞句」
über die	ユーバー・デー adv. 壁を	「間接目的語」
er	エア pron 彼は	「主語」
langsam	ラングザム adv. ゆっくりと	「副詞」
mit der Hand	ミット・デア・ハント adv. (手段) 手で	「副詞句」
strich:	シュトリ 3 単過(streichen)v.i(über et-4 何-4 を) 撫でた	「動詞」
«Lieben	リーベン 3 複現・疑問文 v.t 愛しているのか?	「動詞」
Sie	ジー pron あなたは	「主語」
diese Welt	デーゼ・ヴェルト n.f.4 格 この世を	「目的語」
denn	デン adv. それでは	「副詞」
so sehr?»	ゾーセーア adv.それほどまでに	「副詞句」
fragte	フラクテ 3 単過(fragen)v.t(j-3 に) 尋ねた	「動詞」
er	エア pron 彼は	「主語」
leise.	ライゼ adv. 小声で	「副詞」
Ich	イチ pron 僕は	「主語」
gab	ガーフ 1 単現(geben)v.t 与えた	「動詞」
ihm	イム pron.3 格 彼に	「間接目的語」
keine Antwort.	カイン・アントワート n.f 何も返事をしない	「直接目的語」

ZWEITER TEIL 第2部

彼はかなり長い間そっぽを向いていた。彼の存在は僕を憂鬱にさせ、苛立たせた。

Er blieb ziemlich lange abgewandt. Seine Gegenwart bedrückte und reizte mich.

「主語」「動詞」「補語」 | 「主語」「動詞句」「目的語」

Er エア pron 彼は

「主語」

blieb ブリープ 3 単過・状態維持(bleiben)v.i ~のままでいた

「動詞」

ziemlich lange ツィーミヒ・ランゲ adv. かなり長い間

「副詞句」

abgewandt. アップゲワント 過去分詞(ab|wenden)adj. そっぽを向いた

「補語」

Seine Gegenwart サイネ・ゲーゲンヴァルト n.f 彼の存在は

「主語」

bedrückte ベドリュックテ 3 単過(bedrücken)v.t 憂鬱にさせた

「動詞」

und ウント conj. そして

reizte ライツテ 3 単過(reizen)v.t 苛立たせた

「動詞」

mich. ミヒ pron.4 格

「目的語」

さっさと帰って僕を放っておいてくれと言おうと思っていると、彼は突然僕のほうに向きなおり、文字通り叫んだ：

Ich wollte ihm gerade sagen, er möge doch gehen und mich in Ruhe lassen, da wandte er sich mir plötzlich zu und schrie förmlich:

「主語」「動詞句」「目的語」「副詞」「動詞句」,

「主語」「動詞句」「副詞」「動詞句」 und 「目的語」「補語」「動詞句」,

「副詞」「動詞句」「主語」「動詞句」「間接目的語」「副詞」「動詞句」

und 「動詞」「副詞」

Ich イヒ pron 僕は

「主語」

wollte ...sagen, ヲルテ...サーゲン 1 単過・意思(wollen+不定詞 sagen)

v.t 言おうとした

「動詞句」

ihm イム pron.3 格 彼に

「間接目的語」

gerade ゲラーテ adv.(時間) ちょうど

「副詞」

er エア pron 彼は

「主語」

möge ...gehen メーゲ...ゲーエン 接・3 単現・譲歩(mögen+不定詞 gehen)

v.i 出て行ってほしい

「動詞句」

doch ドツホ adv. ともかく、さっさと

「副詞」

und ウント conj. そして

mich ミヒ pron.4 格 僕を

「目的語」

in Ruhe イン・ルーエ adv. 平穩に

「補語」

lassen, ラッセン 1 単過・意思(wollen+不定詞 lassen)v.t させておいてほしい

「動詞句」

da ダー adv. その時、そこで

「副詞」

wandte ...sich ...zu ヲアンテ...ズィヒ...ツ 3 単過(sich-4 zu|wenden)

ZWEITER TEIL 第2部

v.p(j-3 のほうを) 向いた	「動詞句」
er エア pron 彼は	「主語」
mir ミーア adv. 僕のほうを	「間接目的語」
plötzlich プレツリヒ adv. 急に、突然	「副詞」
und ウント conj. そして	
schrie シュリー 3 単過(schreien)v.i 叫んだ	「動詞」
förmlich: フェルムリヒ adv. 文字通り	「副詞」

「いや、あなたの言う事は信じられない。私は確信している、あなたも別の人生を望んでいるはずだ」

«Nein, das glaube ich Ihnen nicht. Ich bin sicher, daß auch Sie sich ein anderes Leben wünschen.»

《「応答」, 「間接目的語」「動詞句」「主語」「直接目的語」「動詞句」
「主語」「動詞」「補語」、daß「主語」「動詞句」「目的語」「動詞句」》

«Nein, ナイン adv. いや	「応答」
das ダス pron.4 格 言葉を	「直接目的語」
glaube ...nicht. グラウベ ...ニヒト 1 単現・否定(glauben)v.t 信じない	「動詞句」
ich イヒ pron 私は	「主語」
Ihnen イーネン pron.3 格 あなたの	「間接目的語」
Ich イヒ pron 私は	「主語」
bin ビン 1 単現(sein)v.i 〜である	「動詞」
sicher, スィヒヤー adj. 確信した	「補語」
daß ダス conj. 事実の提示	
auch Sie アウフ・ジー pron あなたも	「主語」
sich ...wünschen.» スィヒト...グェンシェン 3 複現(sich-3 wünschen)	
v.pr(et-4 何-4 を) 望んでいる	「動詞句」
ein anderes Leben アイン・アンデレス・レーベン n.n.4 格 別の人生を	「目的語」

ZWEITER TEIL 第2部

「もちろん」と、僕は答えた。だが、それは金持ちになりたいとか、もっと早く泳ぎたいとか、きれいな口になりたいという願望と同じくらい、どうでもいい事だ。それは似たようなものです。

Natürlich, antwortete ich, aber das sei genauso unwichtig wie der Wunsch nach Reichtum, wie der Wunsch, sehr schnell schwimmen zu können oder einen schöneren Mund zu haben. Das liege auf der gleichen Linie.

《「応答」》, 「動詞」「主語」, aber 「主語」「動詞」「補語」

Natürlich, ナチュアリチ adv. もちろん 「応答」
 antwortete アントヴァーテ 1 単過(antworten)v.t 答えた 「動詞」
 ich, イヒ pron 僕は 「主語」
 aber アーバー conj. しかし
 das ダス pron それは 「主語」
 sei サイ 接・3 単現(sein)v.i 〜である 「動詞」
 genauso unwichtig ゲナウザー・ウンヴィヒチ adj. 同じくらい重要ではない 「補語」
 wie ヴァー conj. 〜と同じように 「副詞句」
 der Wunsch nach Reichtum, デア・ウンシュ・ナー・ライヒトゥム
 n.m 富への欲望 「目的語」
 wie der Wunsch, ヴァー・デア・ウンシュ adv. 願望のように 「副詞句」
 sehr schnell schwimmen zu können ゼーア・シュネル・シュヴィメン・ツウ・ケネン zu 不定詞・目的
 adv. とても早く泳げるようにという 「副詞句」
 oder オーダー conj. または
 einen schöneren Mund zu haben. アイネンシェーネン・ムント・ツウ・ハーベン zu 不定詞・目的
 adv.きれいな口になりたいという 「副詞句」
 Das ダス pron それは 「主語」
 liege リーゲ 接・3 単現(liegen)v.i にある 「動詞」
 auf アウフ prep (3 格と) (上面に) 〜の上に 「副詞句」
 der gleichen Linie. デア・グライヒェン・リーニエ n.f.3 格 同じ線 「目的語」

だが、彼は僕を遮って、僕がその別の人生をどのように思っているのかを知りたがった。

Aber er unterbrach mich und wollte wissen, wie ich dieses andere Leben sähe.

「主語」「動詞」「副詞句」 | Aber 「主語」「動詞」「目的語」 und 「動詞句」「目的語」

Aber アーバー conj. しかし
 er エア pron 彼は 「主語」
 unterbrach ウンターブラーフ 3 単過(unterbrechen)v.t 遮った 「動詞」
 mich ミヒ pron.4 格 僕を 「目的語」
 und ウント conj. そして

ZWEITER TEIL 第2部

wollte wissen, ヲォルテ・ヴィッセン 3 単過・願望(wollen+不定詞 wissen)

v.t 知りたがった

「動詞句」

wie ヲィー adv. どのように～するかを

「目的語」

ich イッヒ pron 僕は

「主語」

dieses andere Leben ディーゼス・アンデレ・レーベン n.n.4 格 その別の人生を

「目的語」

sähe. セーヘ 接 II・1 単現(sehen)v.t 見ている

「動詞」

そこで僕は彼に怒鳴った。「この人生を思い出せる人生だ」

Da brüllte ich ihn an: «Ein Leben, in dem ich mich an dieses erinnern kann.»

「副詞」「動詞句」「主語」「間接目的語」:《「目的語」》

Da ダー adv. それで

「副詞」

brüllte ...an: ブリュルテ...アン 1 単過(an | brüllen)v.t(j-4 に) 怒鳴りつけた

「動詞句」

ich イッヒ pron 僕は

「主語」

ihn イン pron.4 格 彼に

「間接目的語」

«Ein Leben, イン・レーベン n.n.4 格 人生を

「目的語」

in dem イン・デーム adv. そこで

「副詞句」

ich イッヒ pron 僕が

「主語」

mich ...erinnern kann.» ミッヒ...エインアン・カン 1 単現・可能(können+不定詞 sich-4 erinnern)

v.pr(an et-4 を) 思い出せる

「動詞句」

an dieses アン・ディーゼス adv. この人生を

「間接目的語」

そしてすぐに付け加えた。もう十分だ。

Und ich fügte gleich hinzu, nun hätte ich genug.

Und 「主語」「動詞句」「副詞」「動詞句」, 「動詞」「副詞」「主語」「補語」

Und ウント conj. そして

ich イッヒ pron 僕は

「主語」

fügte ...hinzu, フュクテ...ヒンツ 1 単過(hinzu | fügen)v.t 付け加えた

「動詞句」

gleich グライヒ adv. すぐに

「副詞」

nun ヌン adv. いまや、もう

「副詞」

hätte ハッテ 接 II・1 単現(haben)v.t (心身の状態) ～である

「動詞」

ich イッヒ pron 僕は

「主語」

genug. ゲヌク adv. 十分に

「補語」

ZWEITER TEIL 第2部

彼はむしろ神について話したがったが、僕は彼の方へ向かって行き、最後に、僕にはもう僅かな時間しか残っていないことを理解させようとした。

Er wollte lieber von Gott sprechen, aber ich ging auf ihn zu und versuchte, ihm ein letztes Mal klarzumachen, daß ich nur noch wenig Zeit hätte.

「主語」「動詞句」「間接目的語」「動詞句」, aber 「主語」「動詞句」「副詞句」「動詞句」
und 「動詞句」「間接目的語」「副詞句」「動詞句」, 「直接目的語」

Er エア pron 彼は

「主語」

wollte ...sprechen, ヲ^ルォルテ...シュプ^レヒエン 3 単過・願望(wollen+不定詞 sprechen)

v.i 話したがった

「動詞句」

lieber von Gott リーバー・フォン・ゴット adv. (対象) むしろ神について

「間接目的語」

aber アーバー conj. しかし

ich イヒ pron 僕は

「主語」

ging ...zu キング^グ...ツ- 1 単過(zu | gehen)v.i 近づいて行った

「動詞句」

auf ihn アウフ・イン adv. (方向) 彼の方へ

「副詞句」

und ウント conj. そして

versuchte,... klarzumachen, フェアズ^フテ...クラール・ツ-・マヘン 1 単過・試行

(versuchen+zu 不定詞 klar | machen)v.t 理解させようとした

「動詞句」

ihm イム pron.3 格 彼に

「間接目的語」

ein letztes Mal アイン・レツツテス・マル adv. 最後に

「副詞句」

daß ダス conj. ～ということ

「直接目的語」

ich イヒ pron 僕は

「主語」

nur noch wenig Zeit ヌア・ノッホ・グ^エニヒ・ツァイト

n.f わずかな時間～しか

「目的語」

hätte. ヘッテ 接 II・1 単現(haben)v.t ～がある、持っている

「動詞」

僕は神のことでその時間を無駄にしたくない。

Die wollte ich nicht mit Gott verträdeln.

「直接目的語」「動詞句」「主語」「動詞句」「間接目的語」「動詞句」

Die デー pron(Zeit の代用) その時間を

「直接目的語」

wollte ...nicht ...verträdeln. ヲ^ルォルテ...ニヒト...フェア^レテ^ルン 1 単過・願望・否定・時制の一致

(wollen+不定詞 verträdeln)v.i 無駄に過ごしたくない

「動詞句」

ich イヒ pron 僕は

「主語」

mit Gott ミット・ゴット adv. (関連) 神のことで

「間接目的語」

ZWEITER TEIL 第2部

彼は話題を変えようとして、どうして僕は神のことを「父」ではなく「彼」と呼ぶのかと尋ねた。

Er versuchte, von etwas anderem zu sprechen, und fragte mich, warum ich ihn mit «Herr» und nicht mit «Vater» anredete.

「主語」「動詞句」「間接目的語」,und「動詞」「間接目的語」,
「副詞」「主語」「目的語」「副詞句」「動詞句」

Er エア pron 彼は 「主語」
versuchte, ...zu sprechen, フェアズ`フテ...ツ-`シュプ`レヒェン 3 単過・試行(vefsuchen+zu 不定詞)
v.t 話そうとした 「動詞句」
von etwas anderem フォン・エトワ`アス・アンデレム adv. 何か違う事を 「間接目的語」
und ウント conj. そして
fragte フラケ 3 単過(fragen)v.t(j-4 に) 尋ねた 「動詞」
mich, ミッヒ pron4 格 僕に 「間接目的語」
warum ヲアルム adv. どうして 「副詞」
ich イッヒ pron 僕は 「主語」
ihn イ-ン pron(Gott の代用).4 格 神を 「目的語」
mit «Herr» ミット・ヘア adv. 「彼」と 「副詞句」
und ウント conj. そして
nicht mit «Vater» ニヒト・ミット・ファーター adv. 「父」とではなく 「副詞句」
anredete. アンレーデテ 1 単過・時制の一致(an|reden)v.t 呼びかける 「動詞句」

それで、僕は腹が立って答えた：彼は僕の父親ではないし、僕とは反対側に居る。

Da wurde ich wütend und antwortete ihm: er sei nicht mein Vater, er stehe auf der Seite der anderen.

「副詞」「動詞」「主語」「補語」und「動詞」「間接目的語」：
「主語」「動詞」「補語」 | 「主語」「動詞」「副詞句」

Da ダー adv. それで 「副詞」
wurde ヲルテ` 1 単過・変化(werden)v.i ~になった 「動詞」
ich イッヒ pron 僕は 「主語」
wütend ヲエーテント adj. 怒り狂った 「補語」
und ウント conj. そして
antwortete アントワ`ォアテテ 1 単過(antworten)v.i 答えた 「動詞」
ihm: イ-ム pron.3 格 彼に 「間接目的語」
er エア pron 彼は 「主語」
sei サイ 接・3 単現(sein)v.i ~である 「動詞」
nicht mein Vater, ニヒト・マイン・ファーター n.m.1 格 僕の父親 「補語」

ZWEITER TEIL 第2部

er エア pron 彼は 「主語」
 stehe シュテーエ 接・3 単現(stehen)v.i いる 「動詞」
 auf der Seite der anderen. アウフ・デア・ザ イー・デア・アンデレン adv. 違う側に 「副詞句」

「違います、息子よ」と、彼は返事をして僕の肩に手を置いた。「私はあなたのそばにいます。しかし、あなたの目が盲いているのでそれがわかりません。あなたのために祈ります」

«Nein, mein Sohn», erwiderte er und legte mir die Hand auf die Schulter. «Ich stehe auf Ihrer Seite. Aber das können Sie nicht wissen, denn Ihr Herz ist blind. Ich werde für Sie beten.»

《「応答」》, 「動詞」「主語」 und 「動詞」「間接目的語」「直接目的語」「副詞句」
 《「主語」「動詞」「副詞句」

Aber 「目的語」「動詞句」「主語」「副詞節」 | 「主語」「動詞」「副詞句」》

«Nein, mein Sohn», ナイン・マイン・ゾーン adv. 違います、息子よ 「応答」
 erwiderte エアウゝイーデアテ 3 単過(erwidern)v.t 返事した 「動詞」
 er エア pron 彼は 「主語」
 und ウント conj. そして
 legte レークテ 3 単過(legen)v.t 置いた 「動詞」
 mir ミーア pron 僕に 「間接目的語」
 die Hand デーイー・ハント n.f.4 格 手を 「直接目的語」
 auf die Schulter. アウフ・デーイー・シュルター adv. 肩の上に 「副詞句」
 «Ich イット pron 私は 「主語」
 stehe シュテーエ 1 単現(stehen)v.i いる 「動詞」
 auf Ihrer Seite. アウフ・イーラー・ザ イー adv. あなたのそばに 「副詞句」
 Aber アーバー conj. しかし
 das ダス pron.4 格 それを 「目的語」
 können ...nicht wissen, ケネ...ニヒト・ヴァッセン 接・3 複現・可能・否定(können+不定詞 wissen)
 v.t 分からないでしょう 「動詞句」
 Sie ジー pron あなたは 「主語」
 denn conj. (理由) ~なので 「副詞節」
 Ihr Herz イーア・ヘアツ n.n あなたの心は 「主語」
 ist イスト 3 単現(sein)v.i ~である 「動詞」
 blind. フリント adj. 目の見えない 「補語」
 Ich イット pron 私は 「主語」
 werde ...beten.» ガェアテ...ペーテン 1 単現・意思(werden+不定詞 beten)v.i 祈ります 「動詞」
 für Sie フューア・ジー adv. あなたのために 「副詞句」

ZWEITER TEIL 第2部

その時僕の中で何かが破裂した。なぜかは分からない。

Da platzte etwas in mir - ich weiß nicht, warum.

「副詞」「動詞」「主語」「副詞句」 - 「主語」「動詞句」「副詞」

Da ダー adv. その時

「副詞」

platzte プラツテ 3 単過(platzen)v.i 破裂した

「動詞」

etwas エトワース pron 何かが

「主語」

in mir イン・ミー adv. 僕の中で

「副詞句」

- ich イット pron 僕は

「主語」

weiß nicht, ヴァイス・ニヒト 1 単現・否定(wissen)v.t 分からない

「動詞句」

warum. ヴァウム adv. なぜか

「副詞」

僕は腹が立って彼を罵り、祈るなど彼に言った。

Ich fing an zu toben und beschimpfte ihn und sagte, er solle nicht beten.

「主語」「動詞句」 und 「動詞」「目的語」 und 「動詞」, 「主語」「動詞句」

Ich イット pron 僕は

「主語」

fing an zu toben フィンク・アン・ツウ・トーベン 1 単過・開始(an | fangen zu+不定詞 toben)

v.t 激怒し始めた

「動詞句」

fing zu toben an も可能

und ウント conj. そして

beschimpfte ベシンプフテ 1 単過(beschimpfen)v.t 罵った

「動詞」

ihn イン pron.4 格 彼を

「目的語」

und ウント conj. そして

sagte, サークテ 3 単過(sagen)v.t 言った

「動詞」

er エア pron 彼は

「主語」

solle nicht beten. ソレ・ニヒトベーテン 接・3 単現・話者の意思・否定(sollen+不定詞 beten)

v.i 祈らないで欲しい

「動詞句」

僕は彼の僧服の襟を掴んだ。

Ich hatte ihn beim Kragen seiner Soutane gepackt.

「主語」「動詞句」「直接目的語」「間接目的語」「動詞句」

Ich イット pron 僕は

「主語」

hatte ...gepackt. ハッテ。。。ゲパクト 1 単過・完了形・完了形(packen)

v.t(j-4 beim et-3 人-4 の何-3 を) (荒々しく) 掴んだ

「動詞句」

ihn イン pron.4 格 彼を

「直接目的語」

beim Kragen バイム・クラーゲン adv. 襟を

「間接目的語」

ZWEITER TEIL 第2部

seiner Soutane ザイ・ス・ターネ n.f.2 格 僧服の

「形容詞句」

僕は胸の内に溜っていたものを全て彼にぶちまけた。

Was ich auf dem Herzen hatte, goß ich freudig und zornig über ihn aus.

「直接目的語」「動詞句」「主語」「副詞句」「間接目的語」「動詞句」

Was ヲ・ス pron ～するものを

「直接目的語」

ich イヒ pron 僕は

「主語」

auf dem Herzen アウ・デー・ム・ヘツェン adv. 心の中に

「副詞句」

hatte, ハッテ 1 単過(haben)v.t 持っていた、あった

「動詞」

goß ...aus. ゴス...アウス 1 単過(aus|gießen)v.t (感情を) ぶちまけた

「動詞句」

ich イヒ pron 僕は

「主語」

freudig und zornig フロイディ・ウント・ツォルニヒ adv. 喜びと怒りを込めて

「副詞句」

über ihn ユーバー・イン adv. 彼に

「間接目的語」

彼は自信に満ちているように見えるな。だが、彼の確信のどれ一つとして女の髪の毛 1 本の価値もない。

Er sehe so sicher aus, nicht wahr? Und doch sei keine seiner Gewißheiten ein Frauenhaar wert.

「主語」「動詞句」「補語」「動詞句」、「確認」 | Und doch 「動詞」「主語」「補語」

Er エア pron 彼は

「主語」

sehe ...aus, セー・エ...アウス 接・3 単現(aus|sehen)v.i ～のように見える

「動詞句」

so sicher ザー・スィヒャー adj. 自信に満ちた

「補語」

nicht wahr? ニヒト・ヴァール adv. そうじゃないか?

「確認」

Und ウント conj. そして

doch ドツッ conj. しかし

sei ザイ 接・3 単現(sein)v.i ～である

「動詞」

keine seiner Gewißheiten カイネ・ザイ・ゲウイスハイテン n.f 彼の確信の何一つも～ない

「主語」

ein Frauenhaar wert. アイン・フラウエンハール・ヴァーエルト adj. 女の髪の毛 1 本に値する

「補語」

彼は死人のように生きているから、自分が生きている事さえも確信していない。

Er sei nicht einmal seines Lebens gewiß, denn er lebe wie ein Toter.

「主語」「動詞」「補語」

Er エア pron 彼は

「主語」

sei ザイ 接・3 単現(sein)v.i ～である

「動詞」

nicht einmal seines Lebens gewiß, ニヒト・アインマル・ザイネス・レーベンス・ゲウイス

adj. 自分の生命さえも確信していない

「補語」

ZWEITER TEIL 第2部

denn デン conj. ～なので 「副詞節」
 er エア pron 彼は 「主語」
 lebe レーベ 接・3 単現(leben)v.i 生きている 「動詞」
 wie ein Toter. ヴァー・アイン・トター adv. 死人のように 「副詞句」

僕は手ぶらで立っているように見えるかもしれない。

Es sehe so aus, als stünde ich mit leeren Händen da.

「動詞句」「補語」「主語」

Es エス pron 仮の主語（真の主語は als 以降）
 sehe ...aus, ゼーエ...アウス 接・3 単現(aus|sehen)v.i 見えるだろう 「動詞句」
 so ザー adv. そのように 「補語」
 als アルス conj. まるで～することが 「主語」
 stünde シュトゥンデ 接 II・1 単現(stehen)v.i 立っている 「動詞」
 ich イヒ pron 僕は 「主語」
 mit leeren Händen ミット・レーレン・ヘンデン adv. 手ぶらで 「副詞句」
 da. ダー adv. そこに 「副詞」

しかし、僕は自分自身を確信している。全てを確信している。彼よりも確信している。自分の生と僕を待ち受ける死を確信している。

Aber ich sei meiner sicher, sei aller Dinge sicher, sicherer als er, sicher meines Lebens und meines Todes, der mich erwarte.

Aber 「主語」「動詞」「補語」, 「動詞」「補語」, 「補語」 und 「補語」

Aber アーバー conj. しかし
 ich イヒ pron 僕は 「主語」
 sei ザイ 接・(sein)v.i ～である 「動詞」
 meiner sicher, マイナー・ズィッヒャー adj. 自分自身に確信のある 「補語」
 sei ザイ 接・(sein)v.i ～である 「動詞」
 aller Dinge sicher, アラー・デイング・ズィッヒャー adj. 全てに対して確信のある 「補語」
 sicherer als er, スィッヒャー・アルス・エア adj. 彼よりも確信のある 「補語」
 sicher スィッヒャー adj. 確信のある 「補語」
 meines Lebens マイネス・レーベンス adv. 自分の生に 「副詞句」
 und ウント conj. そして
 meines Todes, マイネス・トデス adv. 自分の死に 「副詞句」
 der デア pron(主語) ～する 「形容詞節」
 mich ミヒ pron.4 格 僕を 「目的語」
 erwarte. エアヴァルテ 接・3 単現(erwarten)v.t 待ち受ける 「動詞」

ZWEITER TEIL 第2部

そうだ、僕にはそれしかない。しかし、少なくとも僕はこの真実を持っている。真実が僕を掴んでいるように。

Ja, nur das hätte ich. Aber ich besäße wenigstens diese Wahrheit, wie sie mich besäße.

「応答」, 「目的語」「主語」「動詞」 | Aber 「主語」「動詞」「副詞」「目的語」「副詞節」

Ja, やー adv. そうだ 「応答」

nur das ヌーア・ダス pron.4 格 それしか〜ない 「目的語」

hätte ハッテ 接 II・1 単現(haben)v.t 持っている 「動詞」

ich. イッヒ pron 僕は 「主語」

Aber アーバー conj. しかし

ich イッヒ pron 僕は 「主語」

besäße ベゼーセ 接 II・1 単現(besitzen)v.t 持っている 「動詞」

wenigstens ヴェーニヒステンズ adv. 少なくとも 「副詞」

diese Wahrheit, ディーゼ・ヴァールハイト n.f.4 格 この真実を 「目的語」

wie ヴァー conj. 〜のように 「副詞節」

sie シー pron.f(Wahrheit の代用) 真実が 「主語」

mich ミッヒ pron.4 格 僕を 「目的語」

besäße. ベゼーセ 接 II・1 単現(besitzen)v.t 持っている 「動詞」

僕は正しかった、今も正しいだろう。そしていつでも正しいだろう。

Ich hätte recht gehabt, hätte noch recht und immer wieder recht.

「主語」「動詞句」「目的語」「動詞句」, 「動詞」「副詞」「目的語」 und
「副詞句」「目的語」

Ich イッヒ pron 僕は 「主語」

hätte ...gehabt, ハッテ...ゲハプト 接 II・1 単現・完了形(haben)v.t(状態) 〜だった 「動詞句」

recht レヒト n.n.4 格 正当性 「目的語」

hätte ハッテ 接 II・1 単現(haben)v.t あるだろう 「動詞」

noch ノッホ adv. 今も、いまだに 「副詞」

recht レヒト n.m. 4 格 正当性 「目的語」

und ウント conj. そして

immer wieder イマー・ヴァーダー adv. いつでも 「副詞句」

recht. レヒト n.m. 4 格 正当性 「目的語」

ZWEITER TEIL 第2部

僕はこんな風に生きてきたかも知れないが、違う生き方も出来ただろう。

Ich hätte so gelebt und hätte auch anders leben können.

「主語」「動詞句」「副詞」「動詞句」und「動詞句」「副詞句」「動詞句」

Ich イッヒ pron 僕は

「主語」

hätte ...gelebt ヘッテ...ゲレプト 接 II・1 単現・完了形(leben)v.i 生きてきただろう 「動詞句」

so ソー adv. こんな風に 「副詞」

und ウント conj. そして

hätte ...leben können. ヘッテ...レーベン・ケン 接 II・1 単現・完了形・可能(können+不定詞 leben)

v.i 生きることが出来ただろう 「動詞句」

auch anders アウフ・アンダース adv. 違う風に 「副詞句」

僕はこれはやったが、それはやらなかった。だから、どうしたというのか？

Ich hätte das eine getan und das andere nicht. Und weiter?

「主語」「動詞句」「目的語」「動詞句」und「目的語」「動詞句」 | 「問いかけ」

Ich イッヒ pron 僕は

「主語」

hätte ...getan ヘッテ...ゲタン 接 II・1 単現・完了形(tun)v.t やった 「動詞句」

das eine ダス・アイネ pron 何か一つを 「目的語」

und ウント conj. そして

das andere ダス・アンデレ pron その他を 「目的語」

nicht. ニヒト 接 II・1 単現・完了形・否定(tun)v.t しなかった 「動詞句」

Und weiter? ウント・ヴァイター adv. そしてそれから？ 「問いかけ」

それはまるで、僕はその瞬間をつまり僕が正当化されるあの夜明け際をずっと待ち続けていたようなものだ。

Es war, als hätte ich die ganze Zeit über auf diese Minute und auf dieses kleine Morgenrot gewartet, in dem ich gerechtfertigt würde.

「主語」「動詞」「補語」

Es エス pron それは

「主語」

war, ヴァール 3 単過(sein)v.i ~ だった

「動詞」

als アルス conj. まるで～のような 「補語」

hätte ...gewartet, ヘッテ...ゲヴァルテット 接 II・1 単現・完了形(warten)

v.i(auf et-4 を) 待っていた

「動詞句」

ich イッヒ pron 僕は

「主語」

die ganze Zeit デー・イー・ガンツェ・ツァイト adv. ずっと

「副詞句」

über auf diese Minute ユーバー・アウフ・デューゼ・ミヌーテ

adv. (時間) その瞬間を

「間接目的語」

ZWEITER TEIL 第2部

und ウント conj. そして

auf dieses kleine Morgenrot アウフ・デァー・セス・クラィネ・モルゲンロート

adv. (等価) あの夜明け際を

「間接目的語」

in dem イン・デー・ム adv. そこで～する

「副詞節」

ich イヒ pron 僕は

「主語」

gerechtfertigt würde. ゲレヒトフェアティクト・ウルデ 接 II・1 単現・受動(rechtfertigen)

v.t 正当化されるだろう

「動詞句」

何も、本当に何も重要なことは無い。そして僕はその理由も知っている。彼もその理由を知っているだろう。

Nichts, gar nichts sei wichtig, und ich wisse auch warum. Und er wisse ebenfalls warum.

「主語」「動詞」「補語」,und「主語」「動詞」「間接目的語」

Und「主語」「動詞」「副詞」「間接目的語」

Nichts, ニヒツ pron 何も～ない

「主語」

gar nichts ガール・ニヒツ pron 本当に何も～ない

「主語」

sei ザイ 接・3 単現(sein)v.i ～である

「動詞」

wichtig, ヲヒヒ adj. 重要な

「補語」

und ウント conj. そして

ich イヒ pron 僕は

「主語」

wisse ヲィッセ 接・1 単現(wissen)v.i 知っているだろう

「動詞」

auch warum. アウフ・ウァルム adv. その理由も

「間接目的語」

Und ウント conj. そして

er エア pron 彼は

「主語」

wisse ヲィッセ 接・3 単現(wissen)v.i 知っているだろう

「動詞」

ebenfalls エベンファルス adv. 同様に

「副詞」

warum. ウァルム adv. その理由を

「間接目的語」

ZWEITER TEIL 第2部

僕が送って来た全く不条理なこの人生において、僕の未来の奥からまだ来ていない年月を越えて暗い息吹が僕に吹き付けた。そしてこの息吹はその途中で僕が生きてきた現実味のない年月で提案されたもの全てを同じものに変えた。

Während dieses ganzen absurden Lebens, das ich geführt habe, wehe mich aus der Tiefe meiner Zukunft ein dunkler Atem an, durch die Jahre hindurch, die noch nicht gekommen seien, und dieser Atem mache auf seinem Weg alles gleich, was man mir in den auch nicht wirklicheren Jahren, die ich lebte, vorgeschlagen habe.

「副詞句」,

Während ウェーレント prep(2格と) (期間) ~の間に

「副詞句」

dieses ganzen absurden Lebens, ディーゼス・ガンツェン・アプシュルデス・レーベンス

n.n.2格 この全く不条理な人生

「目的語」

das ダス pron(目的語) ~する

「形容詞節」

ich イッヒ pron 僕は

「主語」

geführt habe, ゲフューアト・ハーベ 1 単現・完了形(führen)

v.t (人生を) 送って来た

「動詞句」

wehe...an, ウェーエ...アン 接・3 単現(wehen)v.i 吹きつける

「動詞」

mich ミッヒ pron.4 格 僕に

「目的語」

aus der Tiefe meiner Zukunft アウス・デア・ティーフェ・マイナー・ツクンフト

adv. 僕の未来の奥から

「副詞句」

ein dunkler Atem アイン・ドゥンクラー・アーテム n.m 暗い息吹が

「主語」

durch ドゥルヒ prep (4 格と) ~を通して

「副詞句」

die Jahre hindurch, ディー・ヤーレン・ヒントゥルヒ adv. 何年にもわたって

「副詞句」

die ディー pron (主語) ~する

「形容詞節」

noch ノッホ adv. まだ

「副詞」

nicht gekommen seien, ニヒト・ゲコメン・ザイン 3 単現・完了形・否定・移動(sein)

v.i 来ていない

「動詞句」

und ウント conj. そして

dieser Atem ディーザー・アーテム n.m この息吹は

「主語」

make マヘ 接・3 単現(machen)v.t ~する

「動詞」

auf seinem Weg アウフ・ザイネム・ヴェーク adv. 通り道で、その途中に

「副詞」

alles アレス pron 全てを

「目的語」

gleich, グラヒ adj. 同じ

「補語」

was ヴァス pron ものを

「目的語」

man マン pron 人が

「主語」

mir ミーア pron.3 格 僕に

「間接目的語」

in den auch nicht wirklicheren Jahren, イン・デーン・アウフ・ニヒト・ヴァイルクリヒェレン・ヤーレン

ZWEITER TEIL 第2部

adv. 現実味のない年月の中で 「副詞句」
 die デー pron (目的語) ～する 「形容詞節」
 ich イヒ pron 僕は 「主語」
 lebte, レプテ 1 単過(leben)v.t 生きた 「動詞」
 vorgeschlagen habe. フォア・ゲ・シュラゲン・ハーベ 接・3 単現・完了形(vorschlagen)
 v.t 提案した 「動詞句」

他人の死などどうでもいい、母親の愛などどうでもいい。

Was schere mich der Tod der anderen, was die Liebe einer Mutter.

「目的語」「動詞句」「目的語」, 「目的語」

Was ...der Tod der anderen, ウァス...デア・トト・デア・アンデレン pron 他人の死の何を 「目的語」
 schere mich シェレ・ミヒ 接・1 単現・疑惑(sich-4 scheren)v.pr 気に掛けるだろうか 「動詞句」
 was die Liebe einer Mutter. ウァス・デー・リーベ。アイナー・ムター pron 母親の愛の何を 「目的語」

神などどうでもいい、自分で選んだ人生などどうでもいい、自分で選んだ運命などどうでもいい。たった一つの運命が僕と一緒に、彼と同様に僕の兄弟を自称する何十億もの特権階級者を選ばなければならなかったのだから。

Was schere mich Gott, was das Leben, das man sich wählt, das Geschick, das man sich aussucht, da ein einziges Geschick mich aussuchen mußte und mit mir Milliarden von Bevorzugten, die sich wie er meine Brüder nannten!

「目的語」「動詞句」「目的語」, 「目的語」, 「目的語」, 「副詞節」

Was ...Gott, ウァス...ゴット pron 神の何を 「目的語」
 schere mich シェレ・ミヒ 接・1 単現・疑惑(sich-4 scheren)v.pr 気に掛けるだろうか 「動詞句」
 was das Leben, ウァス・ダス・レーベン pron 人生の何を 「目的語」
 das ダス pron (目的語) ～する 「形容詞節」
 man マン pron 人が 「主語」
 sich wählt, スィヒ・ウエルト 3 単現(sich-4 wählen)
 v.pr 自分で選ぶ 「動詞句」
 das Geschick, ダス・ゲシク n.n.4 格 運命を 「目的語」
 das ダス pron (目的語) ～する 「形容詞節」
 man マン pron 人が 「主語」
 sich aussucht, スィヒ・アウス・スフト 3 単現(sich-4 aus | suchen)
 v.pr 自分で選ぶ 「動詞句」
 da ダー conj. ～だから 「副詞節」
 ein einziges Geschick アイン・アインツィゲス・ゲシク n.n たった一つの運命が 「主語」
 mich ミヒ pron.4 格 僕を 「目的語」

ZWEITER TEIL 第2部

aussuchen mußte アウス・ズーヘン・ムステ 3 単過・必要'(müssen+不定詞 aus | suchen)

v.t 選ばなければならなかった 「動詞句」

und ウント conj. そして

mit mir ミット・ミーア adv. 僕と一緒に 「副詞句」

Milliarden von Bevorzugten, ミリアルデン・フォン・ベフォーアツクテン

pl(Bevorzugt).pron 何十億もの特権階級者を 「目的語」

die ディー pron(主語) ～する 「形容詞節」

sich ...nannten! スィヒ...ナンテン 3 複現(sich-4 nennen)

v.pr 自称する 「動詞句」

wie er ヴィー・エア adv. 彼のように 「副詞」

meine Brüder マイン・ブリューダー n.m.4 格 兄弟 「目的語」

彼はそれを理解していたのだろうか？誰もが特権者だろう。特権者しかいないのだろう。

Verstand er das? Jeder sei bevorzugt. Es gebe nur Bevorzugte.

「動詞」「主語」「目的語」 | 「主語」「動詞」「補語」 | 「動詞句」「主語」

Verstand フェアシュタント 3 単過・疑問文(verstehen)v.t 理解していたのだろうか？ 「動詞」

er エア pron 彼は 「主語」

das? ダス pron.4 格 それを 「目的語」

Jeder イェダー pron 誰もが 「主語」

sei サイ 接・3 単現・推量(sein)v.i ～だろう 「動詞」

bevorzugt. ベフォーアツクト 過去分詞・受動(bevorzugen)adj. 優遇された、特権階級の 「補語」

Es gebe エス・ゲーベ 非人称・存在(es geben)v.h ～がいる 「動詞句」

nur ノー adv. ～だけ 「副詞」

Bevorzugte. ベフォーアツクテ n.m(bevorzugt の名詞化) 特権階級者 「主語」

他の者たちもいつか死刑を宣告されるだろう。彼だって、死刑を宣告されるだろう。

Auch die anderen werde man eines Tages verurteilen. Auch ihn werde man verurteilen.

「目的語」「動詞句」「主語」「副詞句」「動詞句」

「目的語」「動詞句」「主語」「動詞句」

Auch die anderen アウフ・ディー・アンデレン pron.pl 他の者たちも 「目的語」

werde ...verurteilen. ヴェアデ...フェアウアタイレン 3 単未・推量(werden+不定詞 verurteilen)

v.t(j-4 に) 判決を下すだろう 「動詞句」

man マン pron 人は 「主語」

eines Tages アイネス・ターゲス adv. いつか 「副詞句」

Auch ihn アウフ・イン n.m.4 格 彼も 「目的語」

werde ...verurteilen. ヴェアデ...フェアウアタイレン 3 単未・推量(werden+不定詞 verurteilen)

ZWEITER TEIL 第2部

v.t(j-4 に) 判決を下すだろう 「動詞句」
 man マン pron 人は 「主語」

彼が殺人の罪で起訴され、母親の葬儀で泣かなかったという理由で処刑されたとしても、
 何が問題なのだ？

Was läge daran, wenn er des Mordes angeklagt, hingerichtet würde, weil er beim Begräbnis seiner Mutter nicht geweint habe?

「主語」「動詞」「副詞」, 「副詞節」
 Was ヲアス pron 何が 「主語」
 läge レーゲ 接 II・3 単現・疑問文・存在(liegen)v.i あるだろうか 「動詞」
 daran, ダラン adv. それについて 「副詞」
 wenn ウェン conj. (仮定) ~するならば 「副詞節」
 er, エア pron 彼が 「主語」
 des Mordes テス・モアデス n.m.2 格 殺人により 「副詞句」
 angeklagt, アンゲクラクト 過去分詞(an | klagen)
 adv. (条件) 起訴されたら 「副詞句」
 hingerichtet würde, ヒン・ゲ・リヒテット・ウルデ 接 II・3 単現・受動(werden+過去分詞 hin | richten)
 v.t 処刑された 「動詞句」
 weil ウェイル conj. (理由) ~なので 「副詞節」
 er エア pron 彼は 「主語」
 beim Begräbnis バイム・ベグレープニス adv. 葬儀で 「副詞句」
 seiner Mutter サイアー・ムター n.f.2 格 母親の 「形容詞句」
 nicht geweint habe? ニヒト・ゲウァイント・ハーベ 3 単現・完了形・否定(weinen)
 v.i 泣かなかった 「動詞句」

サラマノの犬は彼の妻と同じくらいの価値がある。

Salamanos Hund sei genauso viel wert wie seine Frau.

「主語」「動詞」「補語」
 Salamanos Hund サラマノス・フント n.m サラマノの犬は 「主語」
 sei サイ 接・(sein)v.i ~である 「動詞」
 genauso viel wert ゲナウゾー・フィール・ウェアト adj. 同じ価値がある 「補語」
 wie seine Frau. ウィー・ザイネ・フラウ adv. (比較) 彼の妻と 「副詞句」

ZWEITER TEIL 第2部

あの小柄な老女は、マソンが結婚したパリジャンや僕と結婚したがつっていたマリーと同じくらい罪深い。

Die kleine alte Frau sei ebenso schuldig wie die Pariserin, die Masson geheiratet hatte, oder wie Maria, die von mir geheiratet werden wollte.

「主語」「動詞」「補語」

Die kleine alte Frau ティー・クライネ・アルテ・フラウ n.f あの小柄な老女は 「主語」

sei サイ接・3 単現(sein)v.i ~である 「動詞」

ebenso schuldig エーベンゾー・シュルディヒ adj. 同じくらい罪深い 「補語」

wie die Pariserin, ヴィー・デー・パリゼリン

adv. (比較) パリジャンと同じくらい 「副詞句」

die ティー pron (目的語) ~する 「形容詞節」

Masson マソン n.m マソンが 「主語」

geheiratet hatte, ゲハイレーテット・ハッテ 3 単過・完了形(heiraten)

v.t(j-4 と) 結婚した 「動詞句」

oder オーダー conj. または

wie Maria, ヴィー・マリア adv. (比較) マリーと同じくらい 「副詞句」

die ティー pron (目的語) ~する 「形容詞節」

von mir フォン・ミーア adv. 僕によって 「副詞句」

geheiratet werden wollte, ゲハイレーテット・ヴィエアテン・ヴィオルテ 3 単過・願望・受動

(wollen+不定詞・受動)v.t 結婚したがつっていた 「動詞句」

レーモンが彼より有能なセレストに僕の友人だからといって、何の意味があるというのだ？

Was bedeutete es, daß Raymond, genau wie Celeste, der wertvoller war als er, mein Freund war?

「目的語」「動詞」「主語」

Was ヴァス pron 何を 「目的語」

bedeutete ベトイテ接 II・3 単現・疑問(bedeutend)v.t 意味するのだろう 「動詞」

es, エス pron 仮の主語 (真の主語は daß 以降)

daß ダス conj. ~というこは 「主語」

Raymond, レーモン n.m レーモンが 「主語」

genau wie Celeste, ゲナウ・ヴィー・セステ adv. まさにセレスト同様に 「副詞句」

der デア pron (主語) ~する 「形容詞節」

wertvoller ヴェアトフォル adj.(比較級) より有能な 「補語」

war ヴァール 3 単過・時制の一致(sein)v.i ~である 「動詞」

als er, アルス・エア conj. 彼よりも 「副詞句」

ZWEITER TEIL 第2部

mein Freund マイン・フロント n.m.1 格 僕の友人

「補語」

war? ヲアール 3 単過・時制の一致(sein)v.i 〜である

「動詞」

マリーが今日、別のムルソーに唇を差し出したとしたら、何の意味があるというのか？

Was bedeutete es, daß Maria heute ihren Mund einem anderen Meursault bot?

「目的語」「動詞」「主語」

Was ヲアス pron 何を

「目的語」

bedeutete ベトイテ 接 II・3 単現・疑問(bedeutend)v.t 意味するのだろう

「動詞」

es, エス pron 仮の主語 (真の主語は daß 以降)

daß ダス conj. 〜というこは

「主語」

Maria マリア n.f マリーが

「主語」

heute ホテ adv. 今日

「副詞」

ihren Mund イレン・ムント n.m 彼女の唇を

「直接目的語」

einem anderen Meursault アイネム・アンデレン・ムルソー n.m.3 格 別のムルソーに「間接目的語」

bot? ボート 3 単過・時制の一致(bieten)v.t 差し出す「動詞」

このことを分かっているのかこの死刑囚は、そして僕の未来の奥底から... ここまで叫ぶ
と僕は息が詰まった。Verstand das dieser Verurteilte - und daß aus der Tiefe meiner Zukunft ... Ich erstickte, als ich das alles hinausschrie.

「動詞」「目的語」「主語」 - und 「目的語」 | 「主語」「動詞」, 「副詞節」

Verstand フェアシュタント 3 単過・疑問文・時制の一致(verstehen)v.t 分かっているのか? 「動詞」

das ダス pron このことを

「目的語」

dieser Verurteilte デーイーザー・フェアウルタイルテ n.m この死刑囚は

「主語」

- und ウント conj. そして

daß ダス pron 〜ということ

「目的語」

aus der Tiefe meiner Zukunft ... アウス・デア・ティーフェ・マイナー・ツークunft

adv. 僕の未来の奥底から

「副詞句」

Ich イヒ pron 僕は

「主語」

erstickte, エアシュティックテ 1 単過(ersticken)v.i 息が詰まった

「動詞」

als アルス conj. 〜した時

「副詞節」

ich イヒ pron 僕が

「主語」

das alles ダス・アレス pron 全てを

「目的語」

hinausschrie. ヒアウス・シュリー 1 単過(hinaus | schreien)v.i 叫んだ

「動詞句」

ZWEITER TEIL 第2部

しかし、司祭はその時すでに僕の手から引きはがされ、看守たちは僕を威嚇していた。

Aber da riß man mir schon den Geistlichen aus den Händen, und die Wärter bedrohten mich.

Aber 「副詞」「動詞」「主語」「間接目的語」「副詞」「直接目的語」「副詞句」,und
「主語」「動詞」「目的語」

Aber アーバー conj. しかし

da ダー adv. その時 「副詞」

riß リス 3 単過(reißen)v.t 引き剥がしていた 「動詞」

man マン pron 人は 「主語」

mir ミーア pron.3 格 僕の 「間接目的語」

schon ショーン adv. すでに 「副詞」

den Geistlichen デン・ガイストリヒェン n.m 司祭を 「直接目的語」

aus den Händen, アウス・デン・ヘンデン adv. 手から 「副詞句」

und ウント conj. そして

die Wärter デー・ヴェルター pl(Wärter).n.m 看守たちは 「主語」

bedrohten ベトロテン 3 複過(bedrohen)v.t 威嚇していた 「動詞」

mich. ミット pron.4 格 僕を 「目的語」

司祭は看守たちをなだめてから、しばらく無言で僕を見つめた。彼の目に涙が浮かんでいた。彼は振り向き、立ち去った。

Er beruhigte sie und sah mich eine Weile schweigend an. Er hatte Tränen in den Augen. Er drehte sich um und verschwand.

「主語」「動詞」「目的語」 und 「動詞句」「目的語」「副詞句」

「主語」「動詞句」「目的語」「副詞句」

Er エア pron 司祭は 「主語」

beruhigte ベルイクテ 3 単過(beruhigen)v.t なだめた 「動詞」

sie ジー pron.pl 看守らを 「目的語」

und ウント conj. そして

sah ...an. サー...アン 3 単過(an|sehen)v.t 見つめた 「動詞句」

mich ミット pron.4 格 僕を 「目的語」

eine Weile schweigend アイン・ヴァイレ・シュヴァイゲント adv. しばらく黙って 「副詞句」

Er エア pron 彼は 「主語」

hatte ハッテ 3 単過(haben)v.t 〜があった 「動詞」

Tränen トレーネ pl(Träne).n.f.4 格 涙 「目的語」

in den Augen. イン・デン・アウゲン adv. 目に 「副詞句」

Er エア pron 彼は 「主語」

ZWEITER TEIL 第2部

drehte sich um ドレ・テ・スィヒ・ウム 3 単過(sich-4 um | drehen)v.pr 振り返った 「動詞句」
 und ウント conj. そして
 verschwand. フェアシュヴァント 3 単過(verschwinden)v.i 立ち去った 「動詞」

彼が出て行くと、僕は再び落ち着きを取り戻した。

Als er gegangen war, fand ich meine Ruhe wieder.

「副詞節」, 「動詞」 「主語」 「目的語」 「副詞」

Als アルス conj. ～した時 「副詞節」
 er エア pron 彼が 「主語」
 gegangen war, ゲカンゲン・ヴァール 3 単過・完了形・移動(gehen)
 v.i 立ち去った 「動詞句」
 fand ファント 1 単過(finden)v.t 手に入れた 「動詞」
 ich イヒ pron 僕は 「主語」
 meine Ruhe マイネ・ルーエ n.f.4 格 心の平安を 「目的語」
 wieder. ヴァーダー adv. 再び 「副詞」

僕は疲れ果て、ベッドに倒れ込んだ。

Ich war erschöpft und warf mich auf meine Pritsche.

「主語」 「動詞」 「補語」 und 「動詞句」 「副詞句」

Ich イヒ pron 僕は 「主語」
 war ヴァール 1 単過(sein)v.i ～ だった 「動詞」
 erschöpft エアシェプフト adj. 疲れ果てた 「補語」
 und ウント conj. そして
 warf mich ヴァーフ・ミヒ 1 単過(sich-4 werfen)v.pr 倒れ込んだ 「動詞句」
 auf meine Pritsche. アウフ・マイネ・プリチェ adv. ベッドに 「副詞句」

僕は眠っていたと思う、というのは、僕が目を覚ました時、僕の顔に星明りが差し込んでいたから。

Ich glaube, ich habe geschlafen, denn als ich wach wurde, schienen mir die Sterne ins Gesicht.

「主語」 「動詞」, 「主語」 「動詞句」, 「副詞節」

Ich イヒ pron 僕は 「主語」
 glaube, グラウベ 1 単現(glauben)v.t 思う 「動詞」
 ich イヒ pron 僕は 「主語」
 habe geschlafen, ハーベ・ゲシュラーフェン 1 単現・完了形(schlafen)v.i 眠っていた 「動詞句」
 denn デン conj (理由) なぜならば 「副詞節」

ZWEITER TEIL 第2部

als アルス conj. ～した時	「副詞節」
ich イヒ pron 僕が	「主語」
wach ヲアッハ adj. 目覚めた	「補語」
wurde, ヲルテ 1 単過・変化(werden)v.i ～になった	「動詞」
schienen シーネン 3 複過(scheinen)v.i 差し込んでいた	「動詞」
mir ミーア pron 僕の	「間接目的語」
die Sterne デーイー・シュテアーネ pl(Stern).n.m 星が	「主語」
ins Gesicht. インス・ゲジヒト adv. 顔に	「副詞句」

あたりの騒めきが僕に向かって立ち昇って来た。

Die Geräusche der Landschaft stiegen zu mir auf.

「主語」「動詞句」「副詞句」「動詞句」

Die Geräusche デーイー・ゲロイシェ pl(Geräusch).n.n 騒めきが	「主語」
der Landschaft デア・ラントシャフト n.f.2 格 地域の	「形容詞句」
stiegen... auf. シュテイーゲン...アウフ 3 複過(auf steigen)v.i 立ち昇った	「動詞句」
zu mir ツー・ミーア adv. 僕に向かって	「副詞句」

夜と大地と潮の香りが僕のこめかみを冷やした。

Düfte aus Nacht, Erde und Salz kühlten meine Schläfen.

「主語」「動詞」「目的語」

Düfte デュフテ pl(Duft).n.m 香りが	「主語」
aus アウス prep (3 格と) ～の中から	「副詞句」
Nacht, ナハト n.f.3 格 夜	「目的語」
Erde エアデ n.f.3 格 土	「目的語」
und ウント conj. そして	
Salz ザルツ n.n.3 格 潮	「目的語」
kühlten キュールテン 3 複過(kühlen)v.t 冷やした	「動詞」
meine Schläfen. マイネ・シュレーフェン n.f.4 格 僕のこめかみを	「目的語」

眠りについたこの夏の素晴らしい安らぎが、洪水のように、僕の中に流れ込んで来た。

Wie eine Flut drang der wunderbare Friede dieses schlafenden Sommers in mich ein.

「副詞句」「動詞句」「主語」「副詞句」「動詞句」

Wie ヲイー conj. ～のように	「副詞句」
eine Flut アイネ・フルト n.f 洪水	「目的語」
drang ...ein. ドラング...アイン 3 単過(ein dringen)v.i 入り込んで来た	「動詞句」
der wunderbare Friede デア・ウンター・ヴァーレ・フリーデ n.m 素晴らしい安らぎが	「主語」

ZWEITER TEIL 第2部

dieses schlafenden Sommers ディーゼス・シュラーフェンデン・ゾマース

n.m.2 格 この眠りについた夏の

「形容詞句」

in mich イン・ミヒ adv. 僕の中に

「副詞句」

この時、夜明け間際に、サイレンが唸り声を上げた。

In diesem Augenblick und an der Grenze der Nacht heulten Sirenen.

「副詞句」「動詞」「主語」

In diesem Augenblick イン・ディーゼム・アウゲンブリック adv. この瞬間に

「副詞句」

und ウント conj. そして

an der Grenze der Nacht アン・デア・デア・ナハト adv. 夜明け間際に

「副詞句」

夜の果て → 夜の境界 → 漆黒の夜から夜明けに変わる境界

heulten ホイルテン 3 複過(heulen)v.i うなった

「動詞」

Sirenen. シレーネ pl(Sirene).n.f サイレンが

「主語」

それは、今となつては僕にはどうでもよい世界への旅立ちを知らせていた。

Sie kündeten den Aufbruch in eine Welt an, die mir nun für immer gleichgültig war.

「主語」「動詞句」「目的語」「動詞句」, 「目的語」

Sie シー pron.pl(Sirenen の代用) それらは

「主語」

kündeten ...an, キュンデテン...アン(an | künden)v.t 知らせた、告げた

「動詞句」

→ an | kündigen

den Aufbruch デン・アウフブル n.m.4 格 旅立ちを

「目的語」

in eine Welt イン・アイネ・ヴェルト adv. ある世界への

「副詞句」

die ディー pron (主語) ～する

「形容詞節」

mir ミー pron.3 格 僕にとって

「間接目的語」

nun für immer ヌン・フュアー・イマー

adv. 今では永遠に～ない

「副詞句」

gleichgültig グライヒギュルティヒ

adj. (事柄が) どうでも良い

「補語」

war. ヴァール 3 単過・時制の一致(sein)v.i ～である

「動詞」

本当に久しぶりに、僕は母さんのことを考えた。

Zum erstenmal seit langer Zeit dachte ich an Mama.

「副詞句」「動詞」「主語」「目的語」

Zum erstenmal ツーム・エーアシュテン・マール adv. 初めて

「副詞句」

seit サイト prep (時間) ～以来

「副詞句」

langer Zeit ランガー・ツァイト n.m 長い時間

「目的語」

ZWEITER TEIL 第2部

dachte ダハテ 1 単過(denken)v.i 考えた 「動詞」
 ich イッヒ pron 僕は 「主語」
 an Mama. アン・マ adv. 母さんのこと を 「間接目的語」

僕は今になって、どうして母さんが人生の終わりに婚約者を作り、どうして人生の始まりを演じたのか理解することができた。

Jetzt begriff ich auch, warum sie am Ende eines Lebens einen «Bräutigam» genommen, warum sie wieder «Anfang» gespielt hatte.

「副詞」「動詞」「主語」「副詞」, 「副詞」「主語」「副詞句」「動詞句」「目的語」,
 「副詞」「動詞句」「目的語」

Jetzt イェツト adv. 今では、今になって 「副詞」
 begriff ベグリフ 1 単過(begreifen)v.t 理解できた 「動詞」
 ich イッヒ pron 僕は 「主語」
 auch, アウフ adv. ～も 「副詞」
 warum ウァールム adv. なぜ 「副詞」
 sie シー pron 母さんは 「主語」
 am Ende eines Lebens アム・エンデ・アイネス・レーベンス adv. 人生の終わりに 「副詞句」
 einen «Bräutigam» アイネン・ブライチガム n.m.4 格 婚約者を 「目的語」
 genommen, ゲノメン 3 単過・完了形(nehmen)v.t 選んだ、作った 「動詞句」
 warum ウァールム adv. なぜ 「副詞」
 sie シー pron 母さんは 「主語」
 wieder ウィーダー adv. 再び 「副詞」
 «Anfang» アンファング n.m.4 格 始まりを 「目的語」
 gespielt hatte. ゲシュピールト・ハッテ 3 単過・完了形(spielen)v.t 演じた 「動詞句」

あそこでもまた、いくつもの命が消えていく老人ホームでも、夕暮れは悲しい休戦のようであった。

Auch dort drüben, dort im Altersheim, in dem die Leben erloschen, war der Abend wie ein melancholischer Waffenstillstand.

「副詞句」, 「動詞」「主語」「補語」

Auch dort drüben, アウフ・ドート・ドルーベン adv. あそこでもまた 「副詞句」
 dort im Altersheim, ドート・イム・アルターズハイム adv. 老人ホームで 「副詞句」
 in dem イン・デーム adv. そこで～する 「副詞節」
 die Leben デー・レーベン pl(Leben).n. いくつもの命が 「主語」
 erloschen, エロシェン 3 複過(erlöschen)v.i 消えた 「動詞」
 war ウァール 3 単過(sein)v.i ～だった 「動詞」

ZWEITER TEIL 第2部

der Abend デア・アーベント n.m 夕暮れは 「主語」
 wie ヴァー conj. (比喩) ーのような 「補語」
 ein melancholischer Waffenstillstand. アイン・メラコリヒャー・ヴァフェンシュティルシュタント
 n.m 悲しい休戦 「目的語」

死の間際になり、母さんはきつと解放されたと感じ、もう一度生き直す準備が出来たと感じたに違いない。

Dem Tod so nahe, hatte Mama sich gewiß wie befreit gefühlt und bereit, alles noch einmal zu erleben.

「間接目的語」「副詞」「動詞」,
 「動詞句」「主語」「動詞句」「補語」「動詞句」 und 「補語」
 Dem Tod デーム・トート adv. 死に 「間接目的語」
 so ソー adv. それほど、そんなにも 「副詞」
 nahe, ナー 接・3 単現(nahen)v.i 近づいている 「動詞」
 hatte ...sich... gefühlt ハッテ...ズィヒ...ゲフュールト 3 単過・完了形(sich-4 fühlen)
 v.pr (自分をーのように) 感じた 「動詞句」
 Mama ママ n.f 母さんは 「主語」
 gewiß wie befreit ゲヴァイス・ヴァー・ベフライト adj. きつと解放された 「補語」
 und ウント conj. そして
 bereit, ベライト adj. 準備の出来た 「補語」
 alles アレス pron 全てを 「目的語」
 noch einmal ノッホ・アインマル adv. もう一度 「副詞句」
 zu erleben. ツー・エアーベーン zu 不定詞・目的
 adv. 体験するために、生きるために 「副詞句」

誰にも、誰にも、母さんのために嘆き悲しむ権利はない。

Niemand, niemand hatte das Recht, sie zu beweinen.

「主語」「動詞」「目的語」
 Niemand, niemand ニーマント・ニーマント pron 誰も、誰もーない 「主語」
 hatte ハッテ 3 単過・時制の一致(haben)v.t ーがある 「動詞」
 das Recht, ダス・レヒト n.n.4 格 権利 「目的語」
 sie zu beweinen. シー・ツー・ベウアイネン zu 不定句・目的
 adj. 母さんを悼むための 「形容詞句」

ZWEITER TEIL 第2部

そして僕自身も、全てをもう一度生き直すために準備が出来たと感じた。

Und auch ich fühlte mich bereit, alles noch einmal zu erleben.

Und 「主語」「動詞句」「補語」

Und ウント conj. そして

auch ich アウフ・イヒ pron 僕自身も

「主語」

fühlte mich フュールテ・ミヒ 1 単過(sich-4 fühlen)v.pr 感じた

「動詞句」

bereit, ベライト adj 準備のできた

「補語」

alles noch einmal zu erleben. アレス・ノホ・アインマル・ツァー・エアレーベン zu 不定詞・目的

adv. 全てをもう一度生き直すために

「副詞句」

まるでこの激しい怒りが全ての悪から僕を洗い清め、僕の全ての希望を奪い取ったように、
兆しと星に満ちたこの夜を前にして、僕は初めて世界の優しい無関心を受け入れた。

Als hätte dieser große Zorn mich von allem Übel gereinigt und mir alle Hoffnung genommen, wurde ich angesichts dieser Nacht voller Zeichen und Sterne zum erstenmal empfänglich für die zärtliche Gleichgültigkeit der Welt.

「副詞節」,

Als +接続法 アルス conj. まるで～かのように

「副詞節」

hätte ...gereinigt ハッテ...ゲライニクト 接 II・3 単現・完了形(reinigen)

v.t 浄化した

「動詞句」

dieser große Zorn デーイーザー・グロセ・ツォーン n.m この激しい怒りが

「主語」

mich ミヒ pron.4 格 僕を

「目的語」

von allem Übel フォン・アレム・ユーベル adv. 全ての悪から

「副詞句」

und ウント conj. そして

mir ミア pron.3 格 僕の

「間接目的語」

alle Hoffnung アレ・ホフヌング n.f.4 格 全ての希望を

「直接目的語」

genommen, ゲノメン 接 II・3 単現・完了形(nehmen)

v.t 取り上げた、奪い取った

「動詞句」

wurde ヴルデ 1 単過・変化(werden)v.i ～になった

「動詞」

ich イヒ pron 僕は

「主語」

angesichts アンゲジヒツ prep (2 格と) ～を眼前にして

「副詞句」

dieser Nacht デーイーザー・ナハト n.f.2 格 この夜

「目的語」

voller Zeichen und Sterne フォラー・ツァイエン・ウント・シュテルネ

adv. 兆しと星に満ちた

「副詞句」

zum erstenmal ツーム・エアシュテンマル adv. 初めて

「副詞句」

empfänglich エンプ・フェングリヒ adj. 感じやすい

「補語」

empfangen v.t 受け取る

ZWEITER TEIL 第2部

für フュア prep (4格と) 〜に対して

「副詞句」

die zärtliche Gleichgültigkeit デー・イー・ツェアトリツヒェ・グライヒギュルティヒカイト

n.f.4格 優しい無関心

「目的語」

der Welt. デア・ヴェルト adj. 世界の

「形容詞句」

世界がどれほど僕に似ていて、まるで兄弟のようだと気付いた時、僕は幸せだったし、今も幸せだと感じた。

Als ich empfand, wie ähnlich sie mir war, wie brüderlich, da fühlte ich, daß ich glücklich gewesen war und immer noch glücklich bin.

「副詞節」, 「副詞」「動詞」「主語」「目的語」

Als アルス conj. 〜した時

「副詞節」

ich イヒ pron 僕が

「主語」

empfand, エンプファント 1 単過(empfinden)v.t 気付いた、感じた

「動詞」

wie ヴァー adv. どれほど〜するかを

「目的語」

ähnlich エーニヒ adj. 似ている

「補語」

sie シー pron.f(Welt の代用) 世界が

「主語」

mir ミア pron.3 格 僕に

「間接目的語」

war, ヴァール 3 単過・時制の一致(sein)v.i 〜である

「動詞」

wie brüderlich, ヴァー・ブリューダーリヒ adj. まるで兄弟のような

「補語」

da ダー adv. その時

「副詞」

fühlte フュールテ 1 単過(fühlen)v.t 感じた

「動詞」

ich, イヒ pron 僕は

「主語」

daß ダス conj. 〜ということを

「目的語」

ich イヒ pron 僕は

「主語」

glücklich グリュックリヒ adj. 幸福な

「補語」

gewesen war ケウエゼン・ヴァール 1 単過・完了形(sein)v.i 〜 だった

「動詞句」

und ウント conj. そして

immer noch イマー・ノッホ adv. 今でも

「副詞句」

glücklich グリュックリヒ adj. 幸福な

「補語」

bin. ビン 1 単現(sein)v.i 〜である

「動詞」

Ende

全てが実現するために、僕があまり寂しくないために、僕の処刑の日には、大勢の見物人が憎悪の叫び声で僕を迎えてくれることを願うだけだ。

Damit sich alles erfüllt, damit ich mich weniger allein fühle, brauche ich nur noch eines zu wünschen: am Tag meiner Hinrichtung viele Zuschauer, die mich mit Schreien des Hasses empfangen.

「副詞節」, 「動詞句」 「主語」 「目的語」: 「副詞句」 「目的語」

Damit ダミット conj. (目的) ~するために	「副詞節」
sich ...erfüllt, スィッヒ...エアフルト 3 単現(sich-4 erfüllen)v.pr 実現する	「動詞句」
alles アレス pron 全てが	「主語」
damit ダミット conj. (目的) ~するために	「副詞節」
ich イッヒ pron 僕が	「主語」
mich ...fühle, ミッヒ...フューレ 接・1 単現(sich-4 fühlen)	
v.pr (自分を〜と) 感じる	「動詞句」
weniger allein ベーニガー・アライン adj. あまり孤独〜でない	「補語」
brauche ブラウシェ 1 単現(brauchen)v.t(+zu 不定詞) ~しさえすればよい	「動詞句」
ich イッヒ pron 僕は	「主語」
nur noch eines ヌーア・ノッホ・アイネス pron 1 つだけ	「目的語」
zu wünschen: ツー。ヴェンシェン zu 不定詞 v.t 望む	「動詞句」
am Tag アム・ターク adv. 日に	「副詞句」
meiner Hinrichtung マイナー・ヒンリヒトゥング n.f.2 格 僕の処刑の	「形容詞句」
viele Zuschauer, フィーレ・ツァーシャウアー n.m.4 格 大勢の見物人を	「目的語」
die デーイー pron(主語) ~する	「形容詞節」
mich ミッヒ pron.4 格 僕を	「目的語」
mit Schreien ミット・シュライエン adv. (手段) 叫び声で	「副詞句」
des Hasses デス・ハセス n.m.2 格 憎悪の	「形容詞句」
empfangen. エンプ・ファンゲン 3 複現(empfangen).v.t 迎える	「動詞」

Ende